

茨城県教育財団文化財調査報告第264集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

中 卷

平成 18 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第264集

しま な くま やま い せき
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

中 卷

平成 18 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

目 次

- 中 卷 -

3 奈良時代の遺構と遺物	359
(1) 竪穴住居跡	359
(2) 掘立柱建物跡	469
(3) 溝跡	518
(4) 井戸跡	519
(5) 柵跡	521
(6) 土坑	521
4 平安時代の遺構と遺物	527
(1) 竪穴住居跡	527
(2) 掘立柱建物跡	712
(3) 溝跡	779
(4) 井戸跡	781
(5) 土坑	783

3 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の住居跡53軒，掘立柱建物跡39棟，溝跡2条，井戸跡1基，柵跡1条，土坑5基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2008号住居跡（第327・328図）

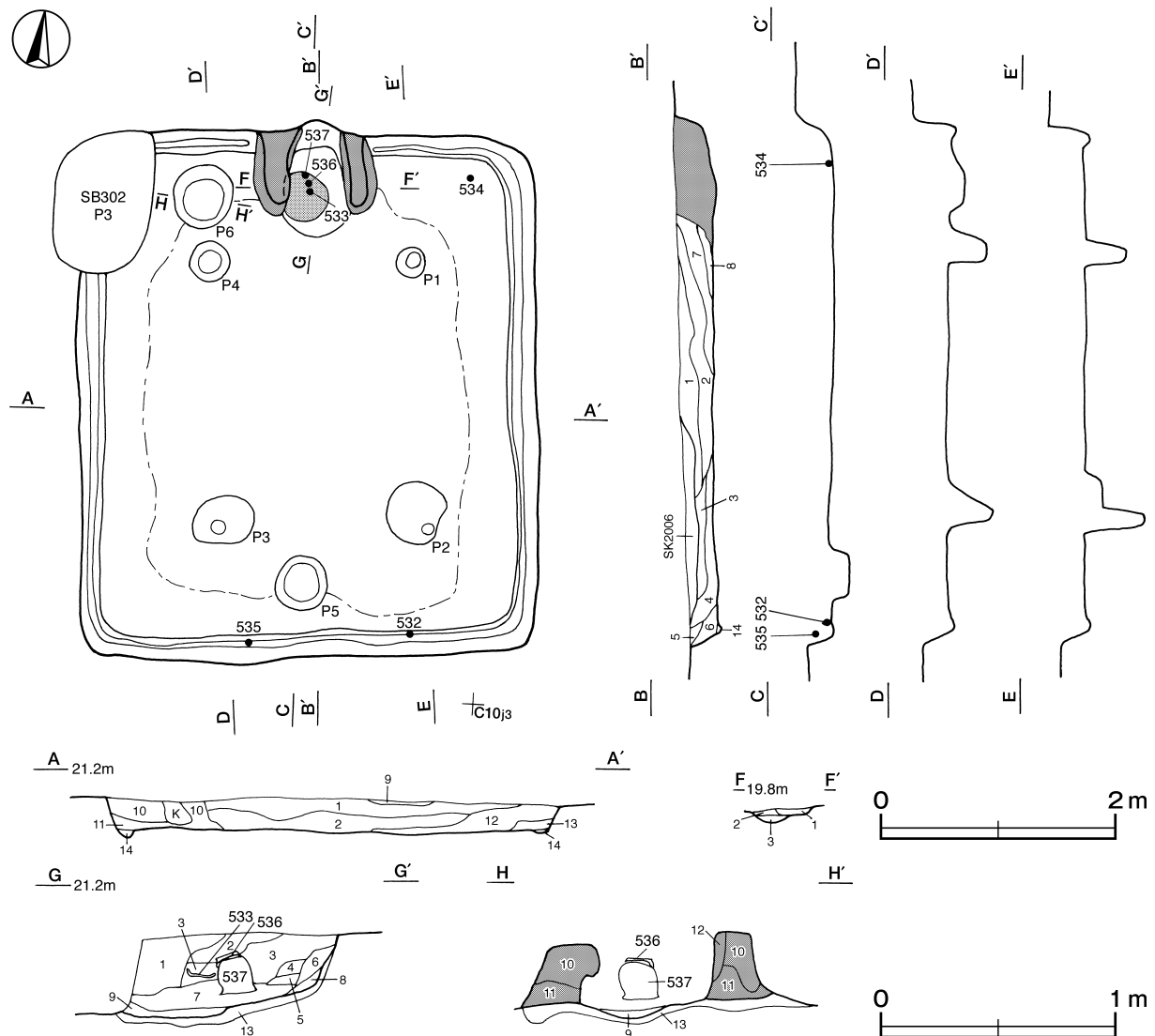
位置 調査区西部のC10i2区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第302号掘立柱建物，第2006号土坑に掘り込まれている。

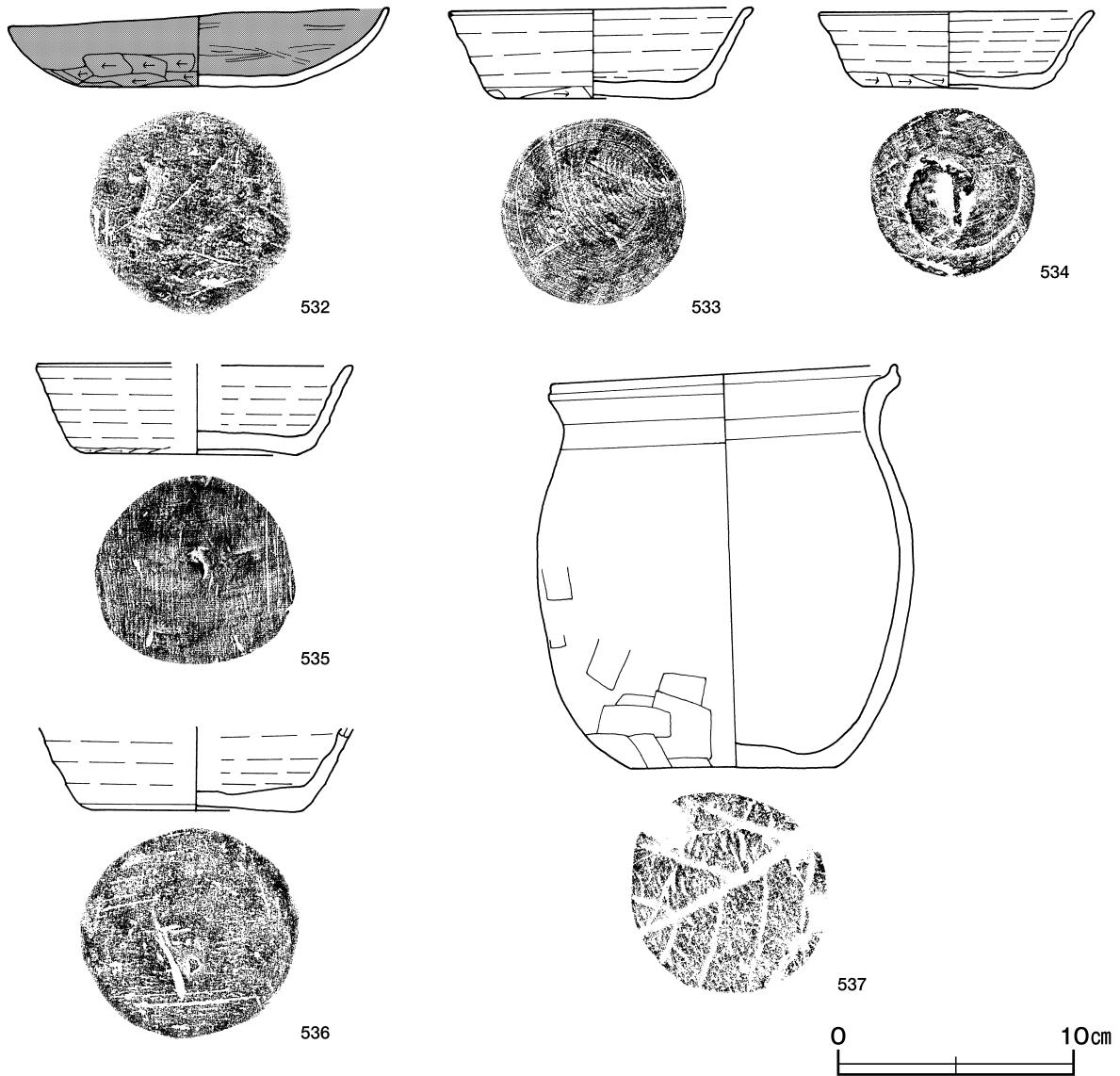
規模と形状 長軸4.36m，短軸3.85mの長方形で，主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は24~34cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10~14cm，深さ4~8cmで，U字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで98cm，袖部幅107cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を3cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。



第327図 第2008号住居跡実測図



第328図 第2008号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 7 褐 灰 色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 褐 灰 色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量 | 8 灰 褐 色 | 粘土ブロック中量,ロームブロック少量,焼土粒子微量 |
| 3 灰 褐 色 | 粘土ブロック中量,焼土ブロック・ローム粒子少量 | 9 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量,ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量,ローム粒子微量 | 10 褐 灰 色 | 粘土ブロック多量,ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化物微量 |
| 5 黒 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土ブロック・炭化物微量 | 11 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量,粘土ブロック微量 | 12 灰 赤 色 | 粘土ブロック中量,焼土ブロック少量,ローム粒子微量 |
| | | 13 にぶい褐色 | ロームブロック中量,焼土ブロック微量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは32～51cmである。P5は深さ17cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 14層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|----------|----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量,焼土ブロック微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量,炭化物微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量,炭化物微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 10 褐 色 | ロームブロック中量,炭化物微量 |
| 4 暗 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 11 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 褐 色 | ロームブロック少量 | 12 褐 色 | ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子少量 |
| 6 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量 | 13 褐 色 | ロームブロック中量,焼土ブロック微量 |
| 7 灰 褐 色 | ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量 | 14 暗 褐 色 | ロームブロック少量,焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片258点(坏50, 甕類208), 須恵器片87点(坏36, 甕類51)のほか, 混入した縄文土器片1点, 灰釉陶器片4点, 鉄製品1点(手鎌)も出土している。533・536・537は竈の火床面から出土し, 536は537の上に逆位で重ねられた状態, また533は正位で出土しているが, 出土状況から536の上に重ねられていたものと想定され, いずれも, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。532・535は南壁際の覆土中層から下層にかけて出土しているが, 遺棄された可能性も考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第2008号住居跡出土遺物観察表(第328図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
532	土師器	坏	16.0	3.4	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	覆土下層	95%
533	須恵器	坏	12.9	3.8	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転系切り後へら削り	竈中層	85% PL160
534	須恵器	坏	11.6	3.3	7.1	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り	竈火床面	85% PL160
535	須恵器	坏	[13.2]	3.8	8.4	長石・石英・雲母・礫	褐色	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後一方向のへら削り	覆土中層	70%
536	須恵器	坏	-	(3.5)	8.8	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	底部回転へら切り後 一方向のへら削り	竈中層	60%
537	土師器	甕	14.5	17.0	8.7	長石・石英・礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ 底部木葉痕	竈火床面	85%

第2017号住居跡(第329図)

位置 調査区西部のB 9 g 0 区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2049号土坑に掘り込まれ, 耕作による攪乱を多く受けている。

規模と形状 長軸4.97m, 短軸4.85mの方形で, 主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は10~12cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。ローム土を主体とする褐色土・黒褐色土の貼床である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで128cm, 左袖部は攪乱を受けているが, 砂質粘土混じりのローム土で構築されている。火床部は床面を18cm掘りくぼめており, 火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ, 緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子中量, 炭化物少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 灰褐色 ロームブロック・炭化物・砂少量 焼土ブロック微量 |
| 2 にぶい褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量 | 10 にぶい褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |

ピット 3か所。P1~P3は主柱穴で, 深さは62~74cmである。

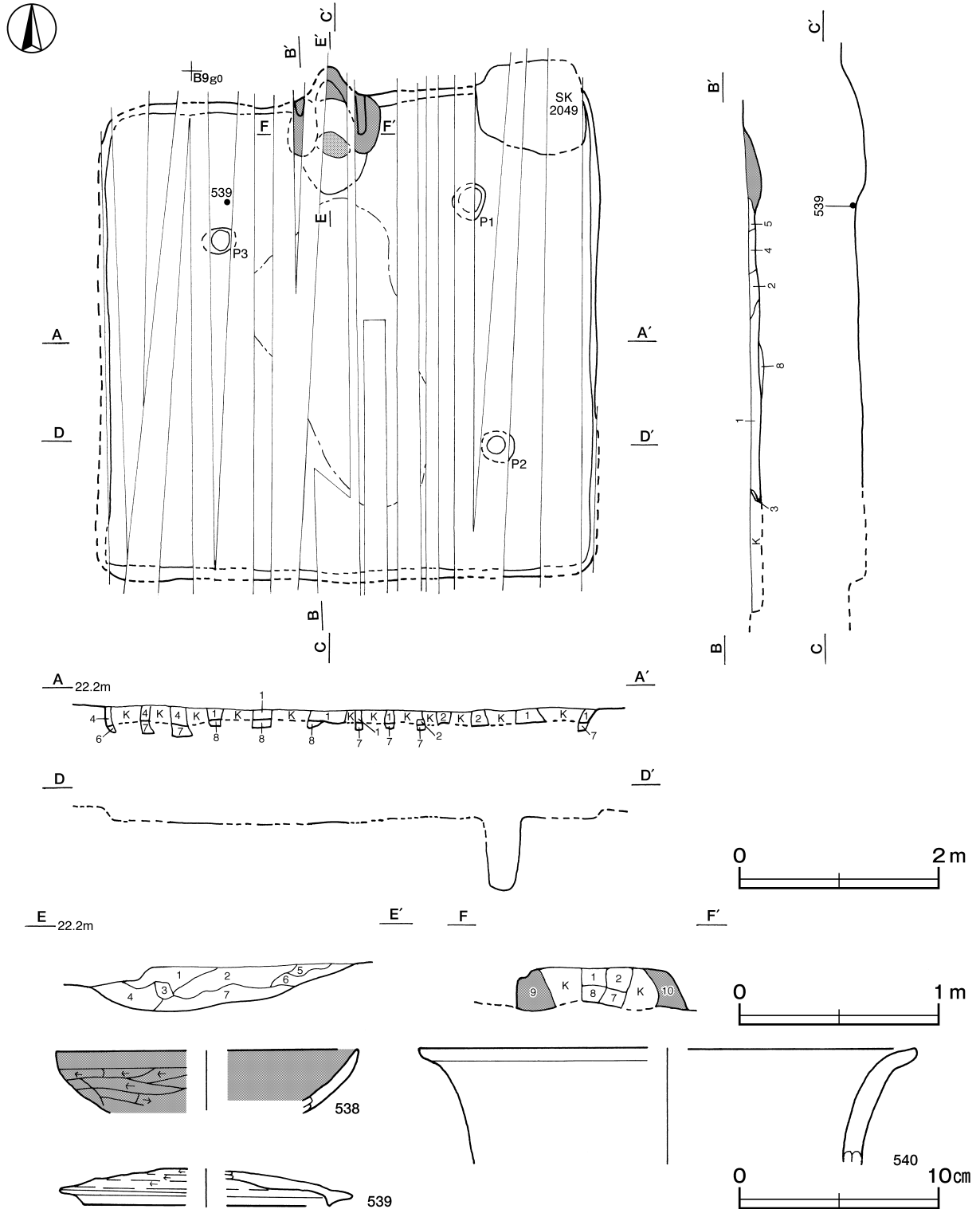
覆土 8層に分けられる。覆土が薄く攪乱が多いため堆積状況は不明である。第6~8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 5 暗褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 黄褐色 ロームブロック中量 | 6 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 3 灰黄褐色 ロームブロック少量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 4 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子少量 | 8 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片222点(坏33, 甕類189), 須恵器片41点(坏4, 蓋3, 壺2, 甕32)のほか, 混入した陶器片3点も出土している。539は北西コーナー寄りの床面, 538は覆土下層, 540は覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第329図 第2017号住居跡・出土遺物実測図

第2017号住居跡出土遺物観察表（第329図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
538	土師器	坏	[15.0]	(3.1)	-	石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ナデ	覆土下層	10%
539	須恵器	蓋	[12.2]	(1.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	床面	20%
540	土師器	甕	[24.8]	(5.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土	5%

第2031号住居跡（第330・331図）

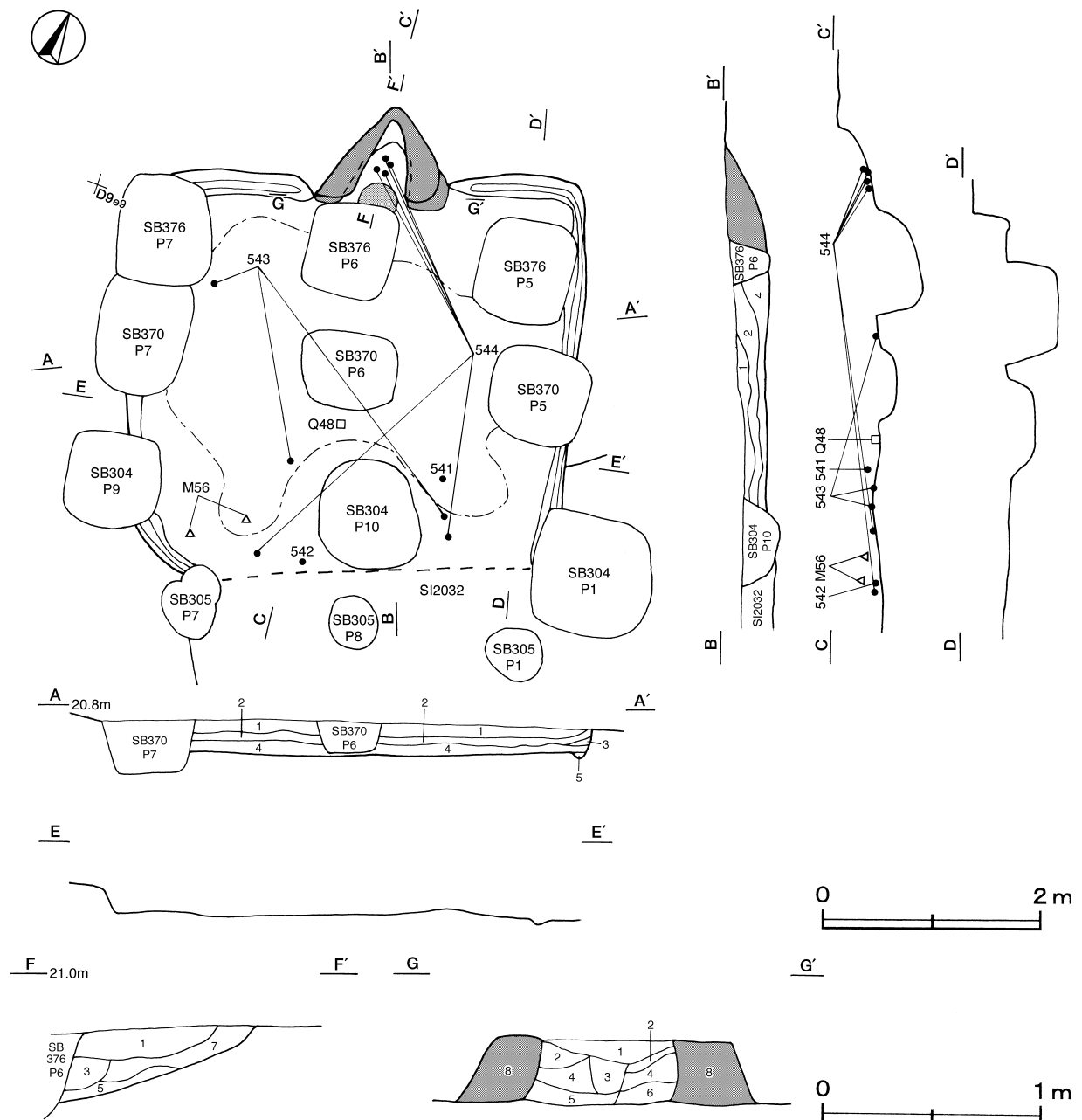
位置 調査区南西部のD 9 e9 区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2032号住居跡を掘り込み，第304・305・370・376号掘立柱建物に掘り込まれている。

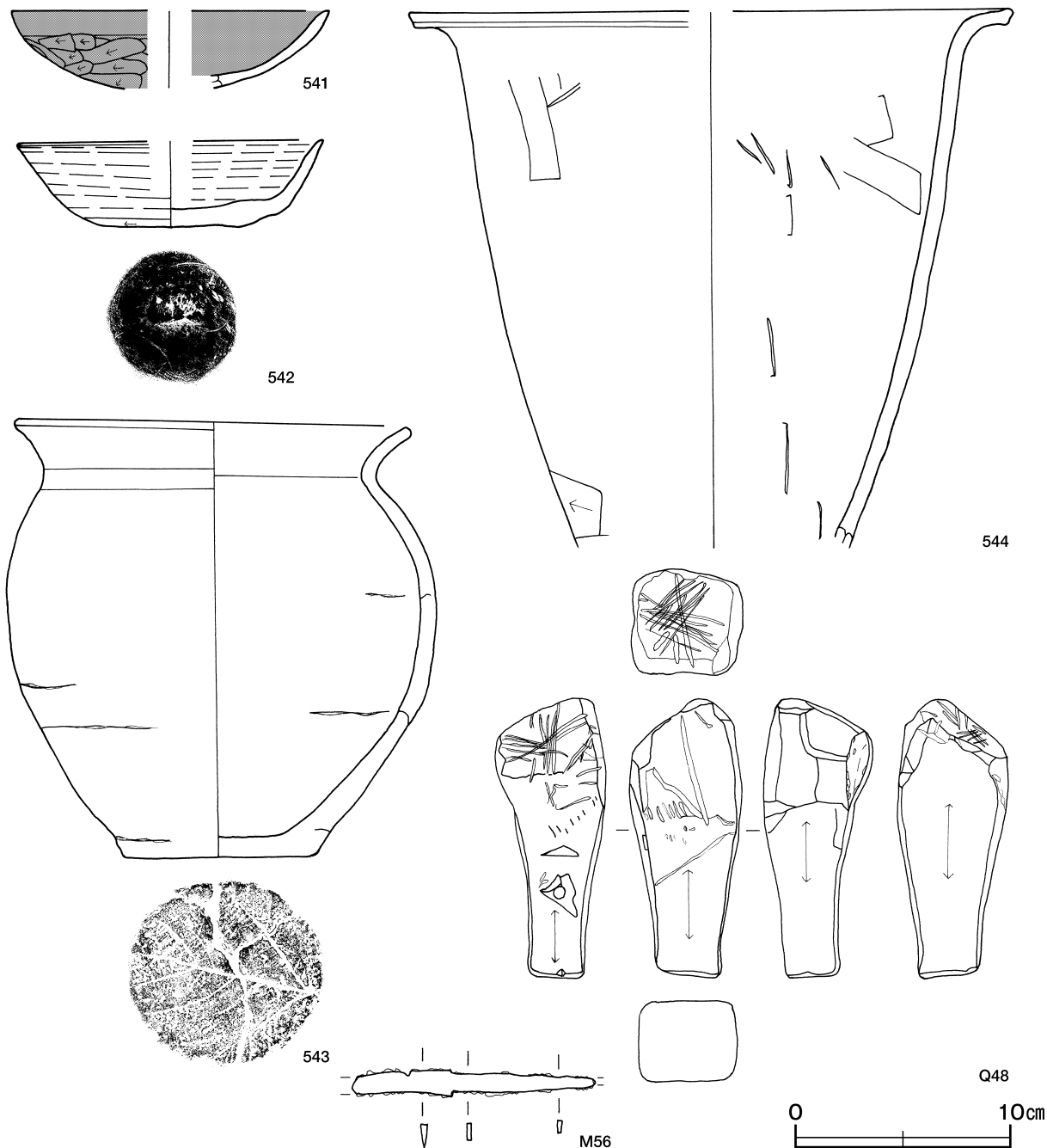
規模と形状 長軸4.22m，短軸は3.60mの長方形で，主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は20～34cmで，ほぼ直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～12cm，深さ2～9cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部は第376号掘立柱建物に掘り込まれているが，袖部幅124cmが確認された。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に66cm掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっている。第2層は砂質粘土粒子を多量に含む天井部の崩落層である。



第330図 第2031号住居跡実測図



第331図 第2031号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 灰褐色 | ローム粒子・灰中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子・灰中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片251点(坏34, 甕類217), 須恵器片11点(坏4, 甕類7), 石器1点(砥石), 鉄器1点(刀子)のほか, 混入した石鏃1点も出土している。541は南壁寄りの覆土下層, 542は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土し, 時期判定の指標となる遺物である。543は中央部の床面に破片で散在し, 住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。544は竈下層と南壁寄りの覆土下層から出土した破片が接合した資料である。

Q48は中央部の床面，M56は南西コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第2031号住居跡出土遺物観察表（第331図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
541	土師器	坏	[14.8]	(3.5)	-	石英	灰褐	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	40%
542	須恵器	坏	[14.2]	3.9	6.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土下層	80%
543	土師器	甕	17.9	20.2	8.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面輪積痕を残すナデ 底部木葉痕	床面	75% PL176
544	土師器	甕	[28.0]	(24.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 下位ヘラ磨き内面ヘラナデ	竈下層・覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q48	砥石	12.8	5.3	5.1	(370.6)	砂岩	砥面は6面 表面及び端部に条線状の研痕	床面	PL195

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M56	刀子	(11.2)	1.2	0.3	(8.3)	鉄	平造 両区 切先・茎一部欠損	覆土中層	

第2036号住居跡（第332図）

位置 調査区南西部のD10d1区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2035号住居跡を掘り込み，第8号柵に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.51m，短軸3.49mの方形で，主軸方向はN-12°-Wである。壁高は27～42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。南側を除く壁下には，幅6～10cm，深さ4～8cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで105cm，袖部幅150cmである。袖部は砂質粘土混じりのローム土で構築されている。袖部の構築土の一部に焼土ブロックが多く含まれることから，竈の作り替えが想定される。火床部は床面を2cm掘りくぼめており，火床面に赤変硬化が認められないことから，作り替え後の使用は短期間であったと想定される。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック・炭化物少量	8 褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量
2 褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量	9 褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	10 灰褐色	砂質粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 にぶい赤褐色	ロームブロック中量 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	11 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・炭化粒子少量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
6 暗褐色	炭化物中量，ローム粒子・焼土粒子少量	13 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
7 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量	14 暗赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは28～50cmである。P5は配置からP3の補助柱穴とも想定されるが，明確でない。

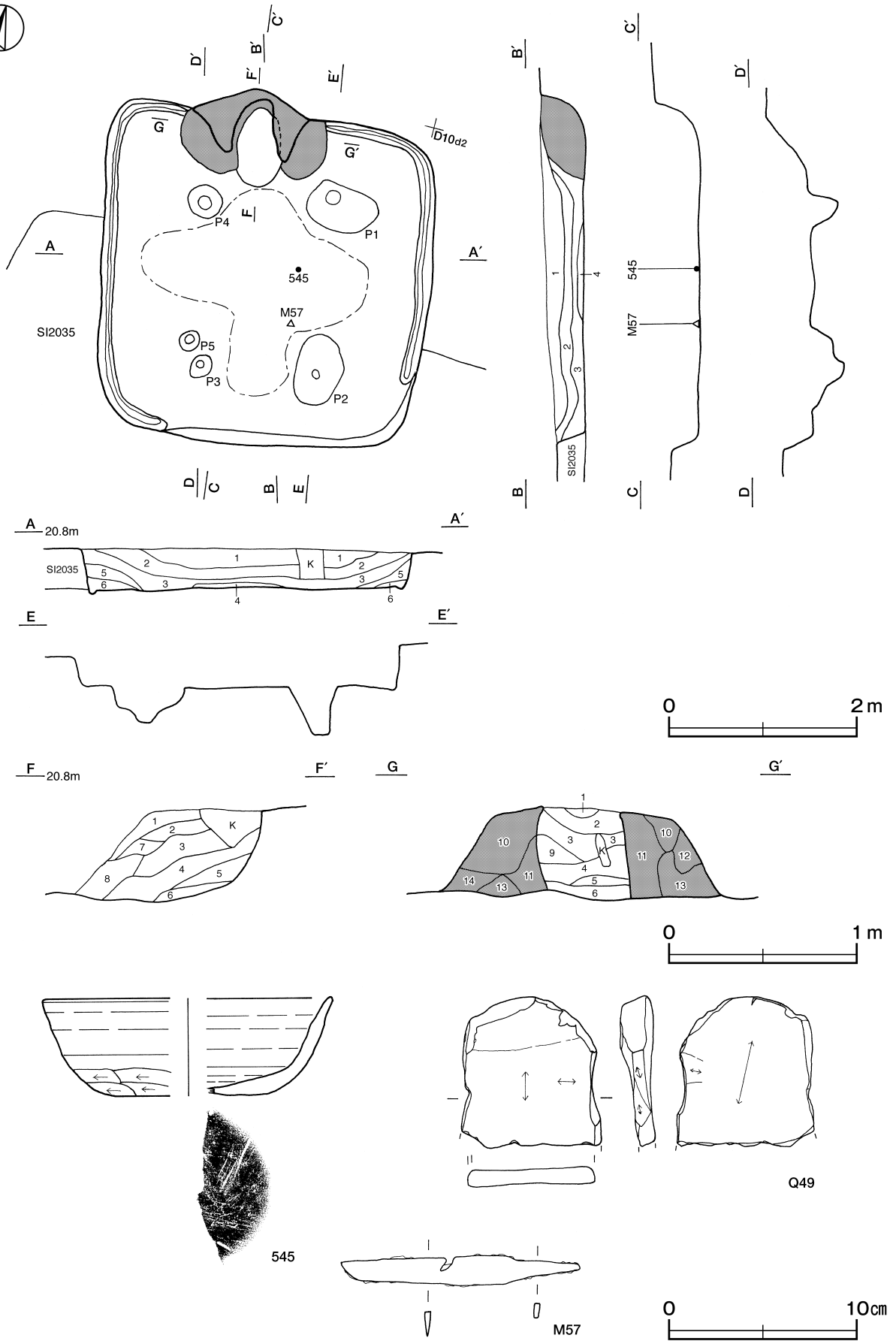
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を呈した自然堆積である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	4 褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	5 暗褐色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器590点（坏94，甕類496），須恵器10点（坏6，蓋1，甕類3），石器1点（砥石），鉄器1点（刀子）のほか，混入した灰釉陶器片1点（壺）も出土している。545・M57は中央部の床面から出土しており，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。Q49は覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第332图 第2036号住居跡・出土遺物実測図

第2036号住居跡出土遺物観察表（第332図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
545	須恵器	坏	[15.2]	5.1	[8.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後 手持ちへら削り	床面	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q49	砥石	(7.9)	7.3	1.9	(112.7)	砂岩	砥面は4面	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M57	刀子	12.7	1.5	0.3	(16.3)	鉄	平造 両区 棟部一部欠損	床面	PL198

第2047号住居跡（第333図）

位置 調査中央部区部のC11c8区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2149号住居跡を掘り込み，第2067号住居に掘り込まれている。

規模と形状 中央部から南東部を第2067号住居に掘り込まれており，北部および西部が遺存する。東西軸4.20m，南北軸は4.06mだけが確認された。主軸方向をN - 5° - Eとする方形であると推定される。壁高は7～16cmで，外傾して立ち上がっている。

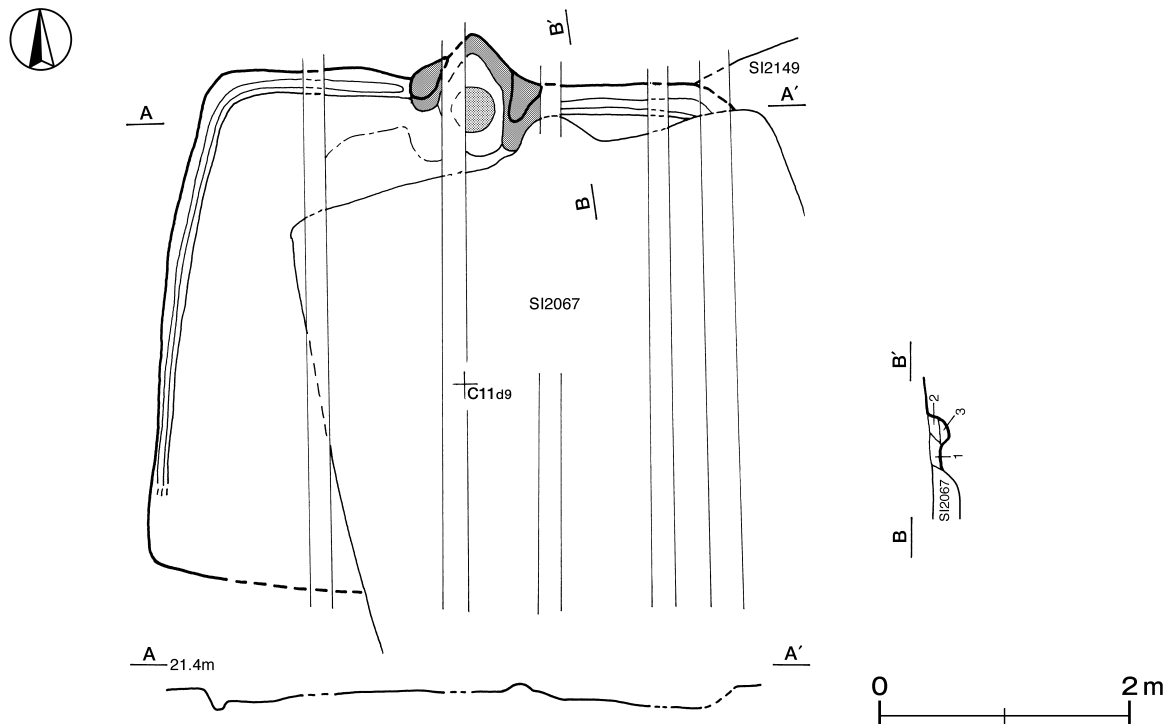
床 ほぼ平坦で，竈周辺が踏み固められている。確認された壁下には，幅13～17cm，深さ6～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで95cm，袖部幅102cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に37cm掘り込まれている。

覆土 3層に分けられる。確認できた部分が少ないため，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量



第333図 第2047号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片16点（坏2，甕類14），須恵器片1点（甕）が散在した状態で出土しており，いずれも細片である。

所見 出土土器が細片のため土器による時期判断は困難であるが，時期は，8世紀後葉と考えられる第2067号住居に掘り込まれていることや，覆土から出土した土師器坏の形態から8世紀前半と考えられる。

第2063号住居跡（第334図）

位置 調査区南東部のD13c6区，標高18.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2078号住居，第361・397号掘立柱建物，第2469号土坑に掘り込まれている。

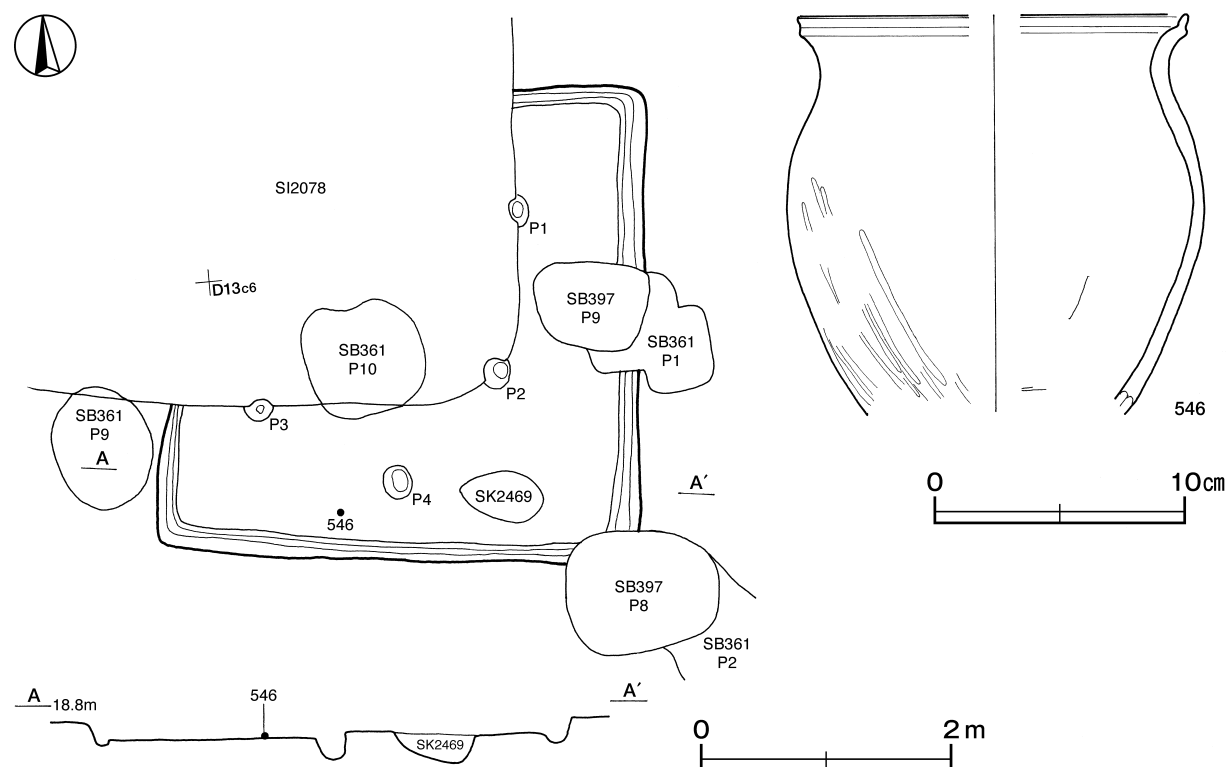
規模と形状 北西部を第2078号住居に掘り込まれているが，長軸3.82m，短軸3.74mが確認された。主軸方向はN-8°-Eの方形である。壁高は9～13cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦である。床面は重複のため，特に硬化した部分は認められない。

ピット 4か所。P1～P3は位置から主柱穴と考えられる。P4は深さ19cmで，南壁際の中央部に位置していることや主柱穴との位置関係から，出入口施設に伴うピットと考えられる。また，P1に対応する柱穴は，第2078号住居に掘り込まれている。

遺物出土状況 土師器片105点（坏14，甕類91），須恵器片16点（坏10，高盤1，甕類5）が散在した状態で出土しており，ほとんどが細片である。546は南壁際の床面から出土しているが，細片を接合したものであり住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器および重複関係から8世紀中葉以前と考えられる。



第334図 第2063号住居跡・出土遺物実測図

第2063号住居跡出土遺物観察表（第334図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
546	土師器	甕	[15.6](15.7)	-	-	長石・石英・赤色粒子・礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	40%

第2067号住居跡 (第335・336図)

位置 調査区中央部のC11d9区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2047・2149号住居跡を掘り込んでいる。

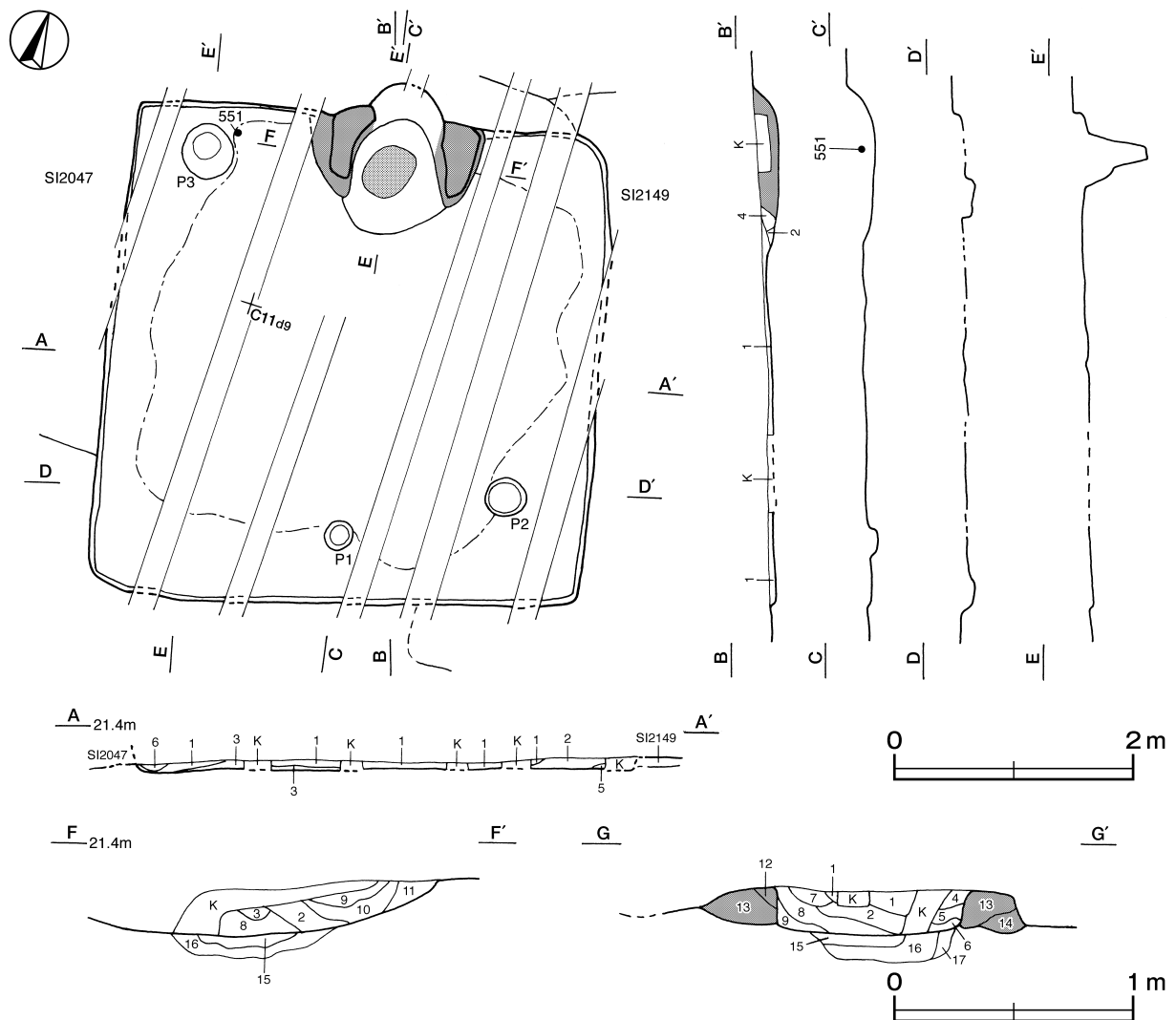
規模と形状 一辺4.10mの方形で, 主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は6 ~ 8 cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

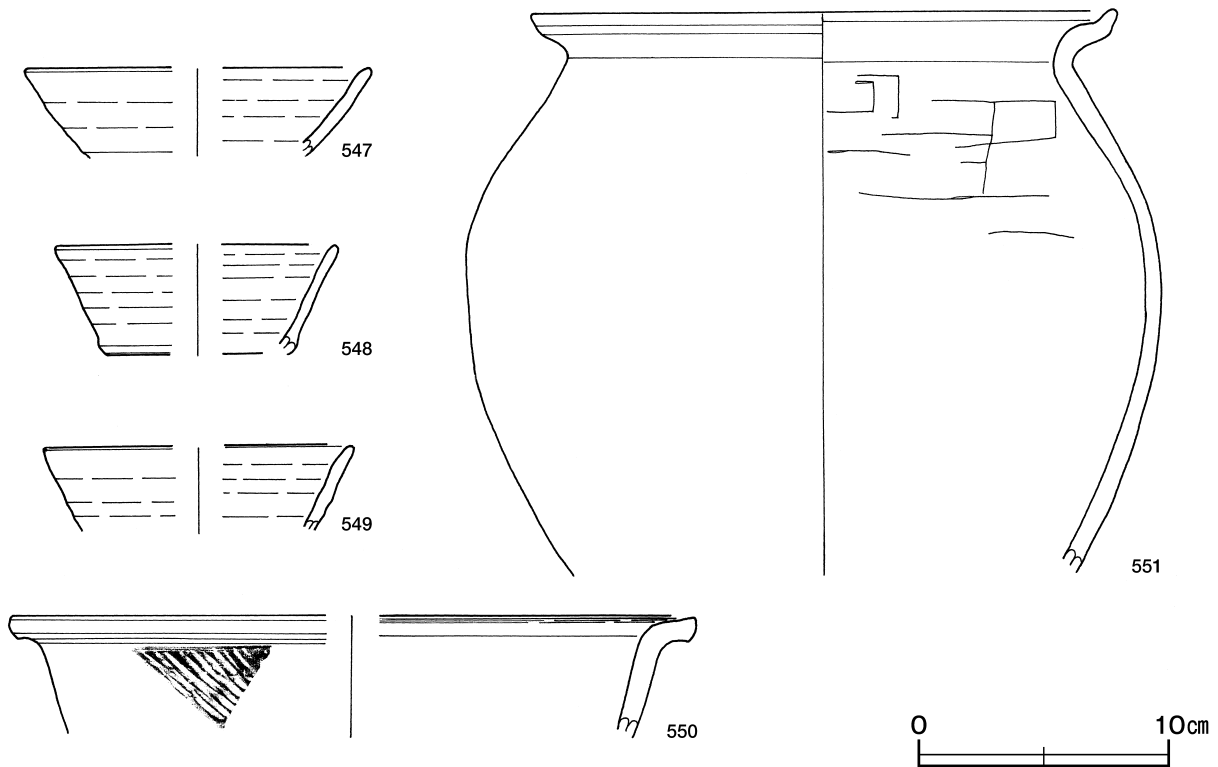
竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで128cm, 袖部幅144cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を4 cm掘りくぼめており, 火を受けて赤変硬化している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 10 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・灰少量, ロームブロック微量 | 11 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 赤黒色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 12 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 |
| 4 灰赤色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量 | 13 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 14 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック微量 | 15 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 7 極暗赤褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 16 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 8 赤灰色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 17 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | |



第335図 第2067号住居跡実測図



第336図 第2067号住居跡出土遺物実測図

ピット 3か所。P1は南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3の性格は不明である。

覆土 6層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片140点(坏17, 高坏4, 甕類119), 須恵器片16点(坏5, 高台付坏1, 鉢1, 甕類9)が出土している。551は北壁際の覆土下層, 549は竈の覆土, 547・548・550は覆土から出土し, いずれも住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2067号住居跡出土遺物観察表(第336図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
547	須恵器	坏	[13.5]	(3.5)	-	長石・雲母	灰白	普通	体部下端へラ削り	覆土	5%
548	須恵器	坏	[11.0]	(4.4)	[7.4]	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端へラ削り	覆土	5%
549	須恵器	坏	[12.2]	(3.3)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	不良	体部内外面口クロナデ	竈覆土	5%
550	須恵器	鉢	[27.2]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	不良	口辺部内外面横ナデ 体部外面斜位の平行叩き内面ナデ	覆土	5%
551	土師器	甕	23.1	(22.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面へラナデ	覆土下層	65%

第2077号住居跡(第337~340図)

位置 調査区中央部のC11b8区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2158号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.32m, 短軸6.15mの方形で, 主軸方向はN-7°-Wである。壁高は20~33cmで, 外傾し

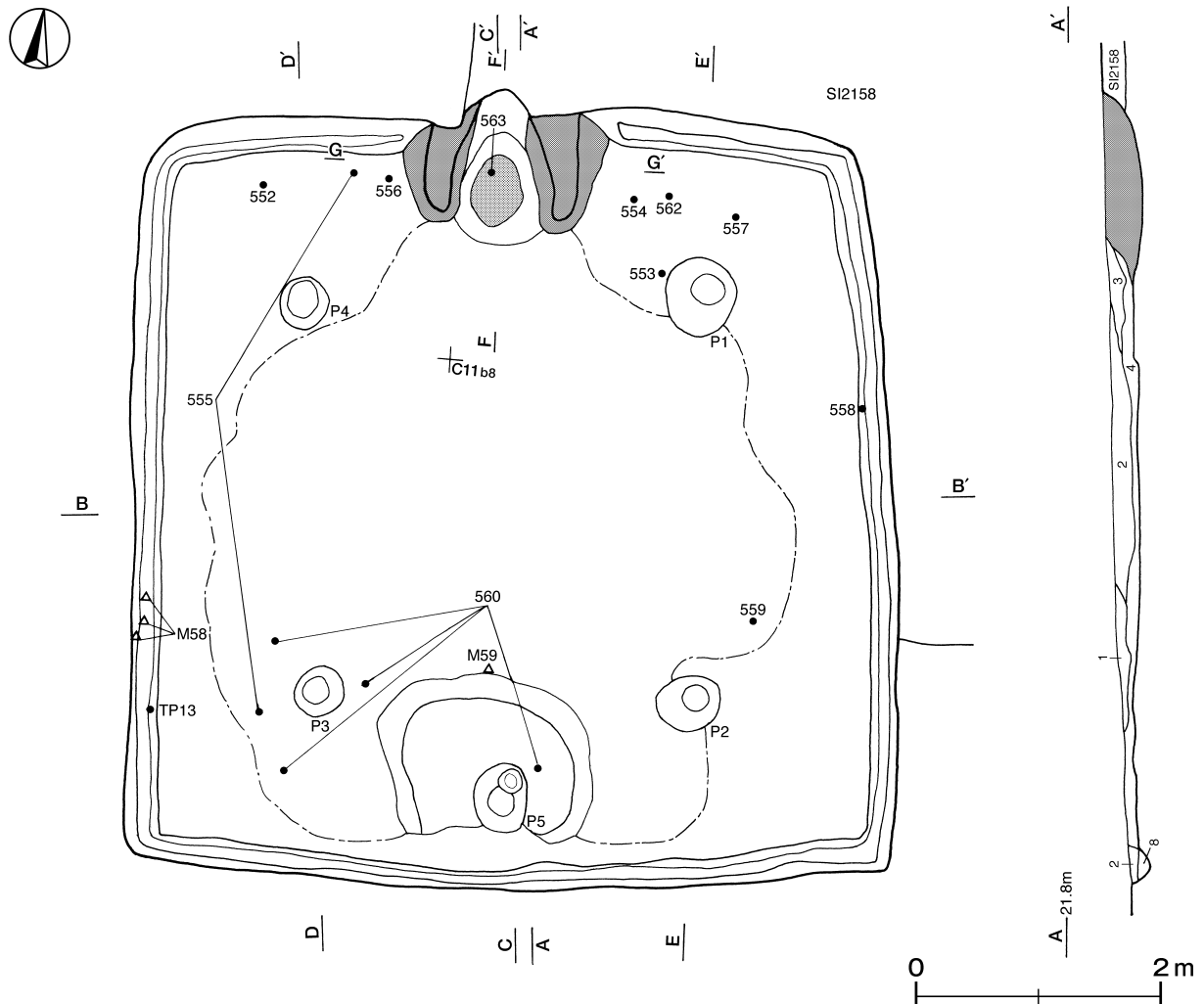
て立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。南壁際の中央部からは土手状の高まりが確認され、P5を囲むように配置されていることから、出入口施設に伴うものと考えられる。

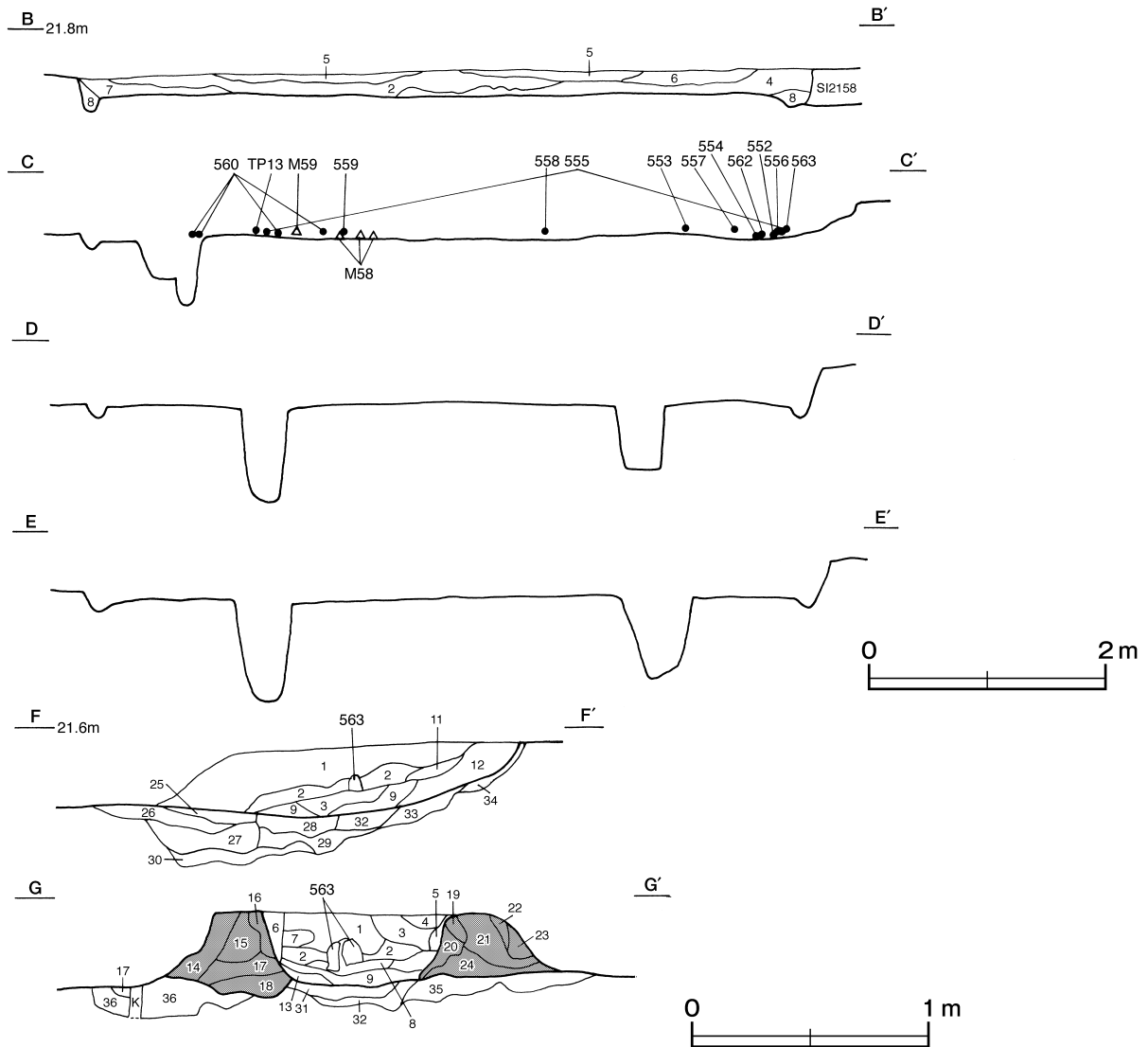
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで126cm、袖部幅166cmである。袖部はローム土と砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめてあり、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 19 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック微量 | 20 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 3 灰赤色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 21 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 4 灰赤色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 22 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 23 褐灰色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 6 赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 | 24 褐灰色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 25 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 8 赤灰色 | 灰中量, 焼土ブロック少量 | 26 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 | 27 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 10 極暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 | 28 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 11 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 29 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 12 灰赤色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 30 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 13 赤灰色 | 灰中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 31 極暗褐色 | 炭化材・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 14 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック少量 | 32 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 15 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック少量 | 33 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 16 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 34 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 17 褐灰色 | 砂質粘土ブロック多量 | 35 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 18 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 36 褐灰色 | 砂質粘土ブロック多量 |



第337図 第2077号住居跡実測図(1)



第338図 第2077号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは58～85cmである。P5は深さ55cmで、南壁際の中央部に位置していることや、周囲に土手状の高まりが認められることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

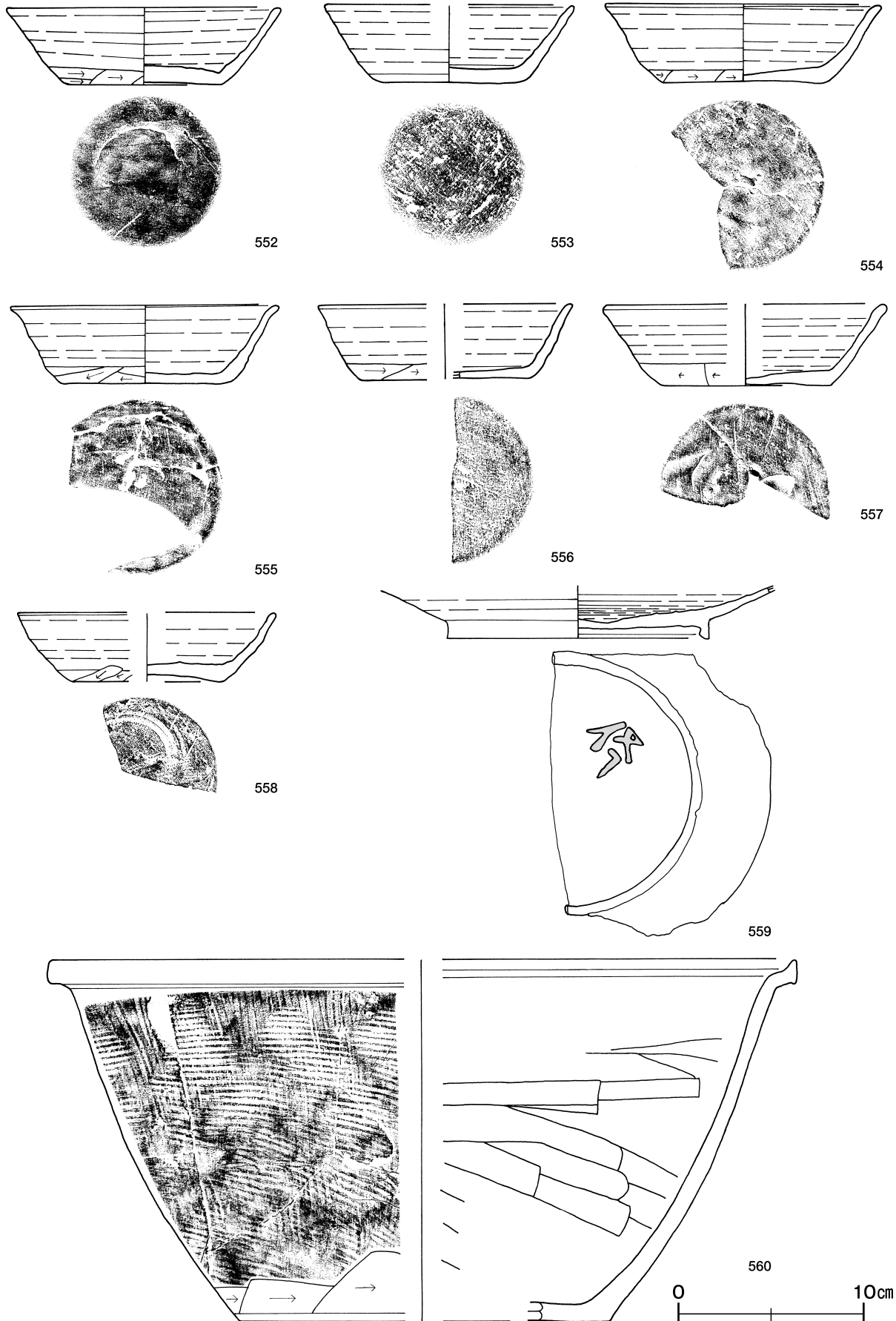
覆土 8層に分けられる。締まりがなく、各層にロームブロックを含む人為堆積と考えられる。

土層解説

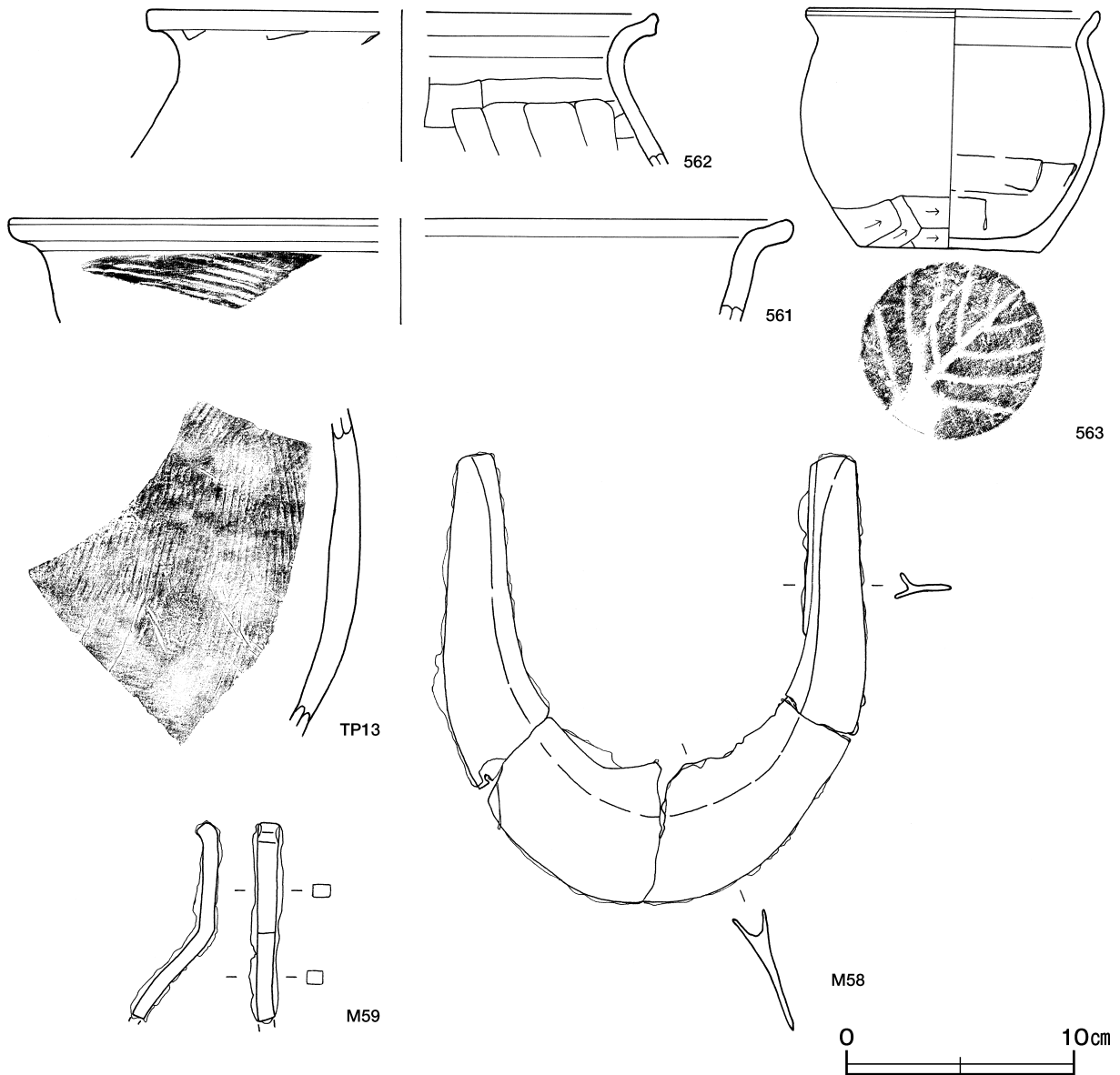
- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 褐灰色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量 焼土ブロック微量 | 7 灰褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 にぶい褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片706点(坏92, 高坏2, 盤1, 鉢11, 甕類600), 須恵器片186点(坏120, 蓋7, 甕類59), 鉄器3点(刀子, 鋤, 不明)のほか, 混入した陶器片1点も出土している。遺物はほぼ全面の覆土上層から下層にかけて出土している。563は竈の火床に逆位で出土しており, 支脚として転用されたものと考えられる。552・554・556・557・562は北壁際の床面, 558は東壁際の覆土下層, TP13・M58は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土し, 時期判定の指標となる遺物である。553はP1脇の覆土下層, 559は東壁寄りの床面, 560は南壁寄りの覆土下層, 561はP1の覆土, M59は中央部の覆土下層から出土している。555は北壁際と西壁寄りの覆土下層から出土した破片が接合した資料である。いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第339図 第2077号住居跡出土遺物実測図(1)



第340図 第2077号住居跡出土遺物実測図(2)

第2077号住居跡出土遺物観察表 (第339・340図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
552	須恵器	坏	14.6	4.2	8.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向のヘラナデ	床面	90% PL160
553	須恵器	坏	[13.2]	4.2	7.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	70% PL160
554	須恵器	坏	14.8	4.2	8.8	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二方向の手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後	床面	60%
555	須恵器	坏	14.2	4.2	8.8	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二方向の手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後	覆土下層	55%
556	須恵器	坏	[13.6]	4.0	[9.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二方向のヘラナデ 底部回転ヘラ切り後	床面	40%
557	須恵器	坏	[15.0]	4.4	9.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二方向の手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後	床面	30%
558	須恵器	坏	[13.6]	3.7	[8.0]	長石・雲母	灰	普通	大部下端手持ちヘラ削り 二方向の手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後	覆土下層	25%
559	須恵器	盤	-	(2.8)	14.0	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	45% 底部朱書「r」, PL188
560	須恵器	鉢	[40.0]	19.4	[19.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面縦位・横位・斜位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	30%
561	須恵器	鉢	[34.0]	(4.5)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面斜位の平行叩き 内面ナデ	P1 覆土	5%
562	土師器	甕	[22.2]	(6.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	床面	10%
563	土師器	小甕	12.6	10.5	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈火床面	95% PL176
TP13	須恵器	甕	-	(14.4)	-	長石	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面当て具痕	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M58	鋤先	19.5	18.3	0.3~1.4	(272.3)	鉄	U字状 内側袋状 一部欠損	覆土下層	PL197
M59	不明鉄製品	(8.6)	0.9	0.6	(31.7)	鉄	断面長方形 中央部で「く」の字状に屈曲する	覆土下層	

第2104号住居跡 (第341・342図)

位置 調査区南東部のD14b3区、標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2228号土坑を掘り込み、第2101号住居、第2226・2227・2233号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.66m、短軸3.94mの長方形で、主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は35~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 第2227号土坑に掘り込まれ、竈に伴う焼土のみが確認された。

ピット 5か所。P1・P2は支柱穴で、深さ10~14cmである。P3は深さ14cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。またP4・P5の性格は不明である。

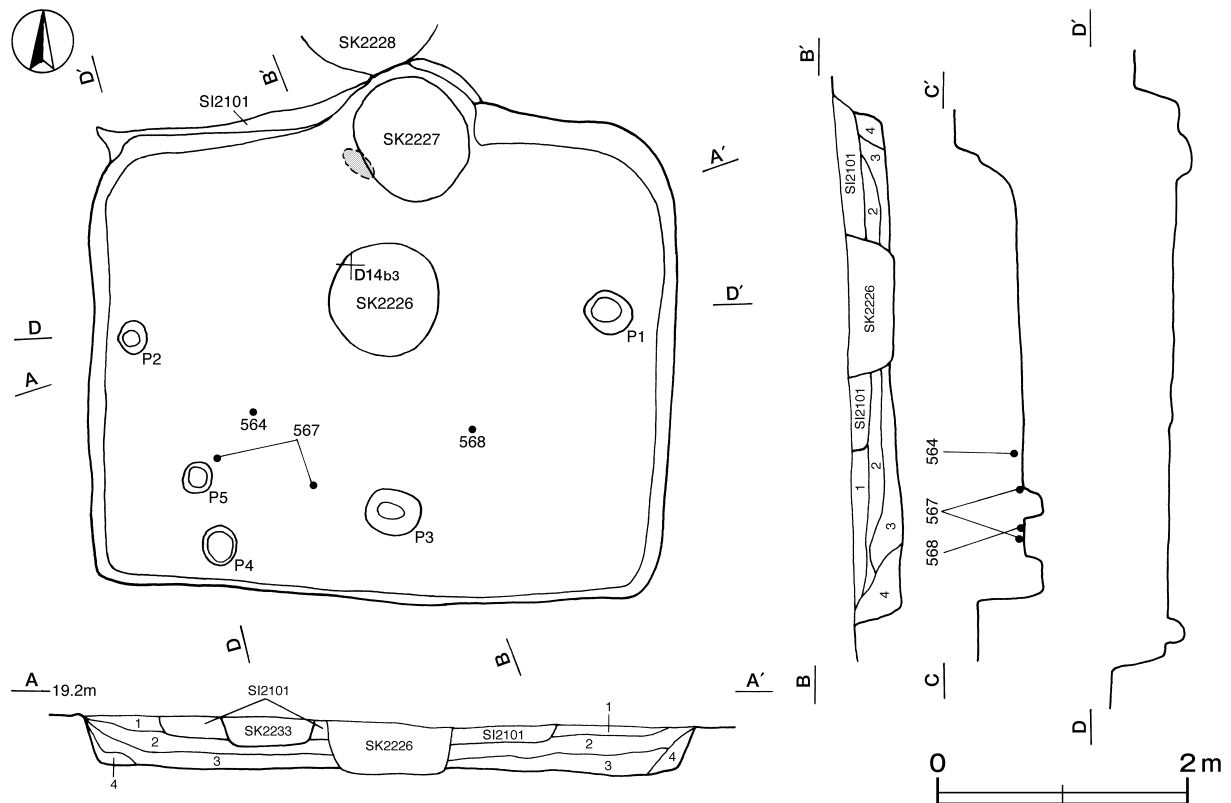
覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

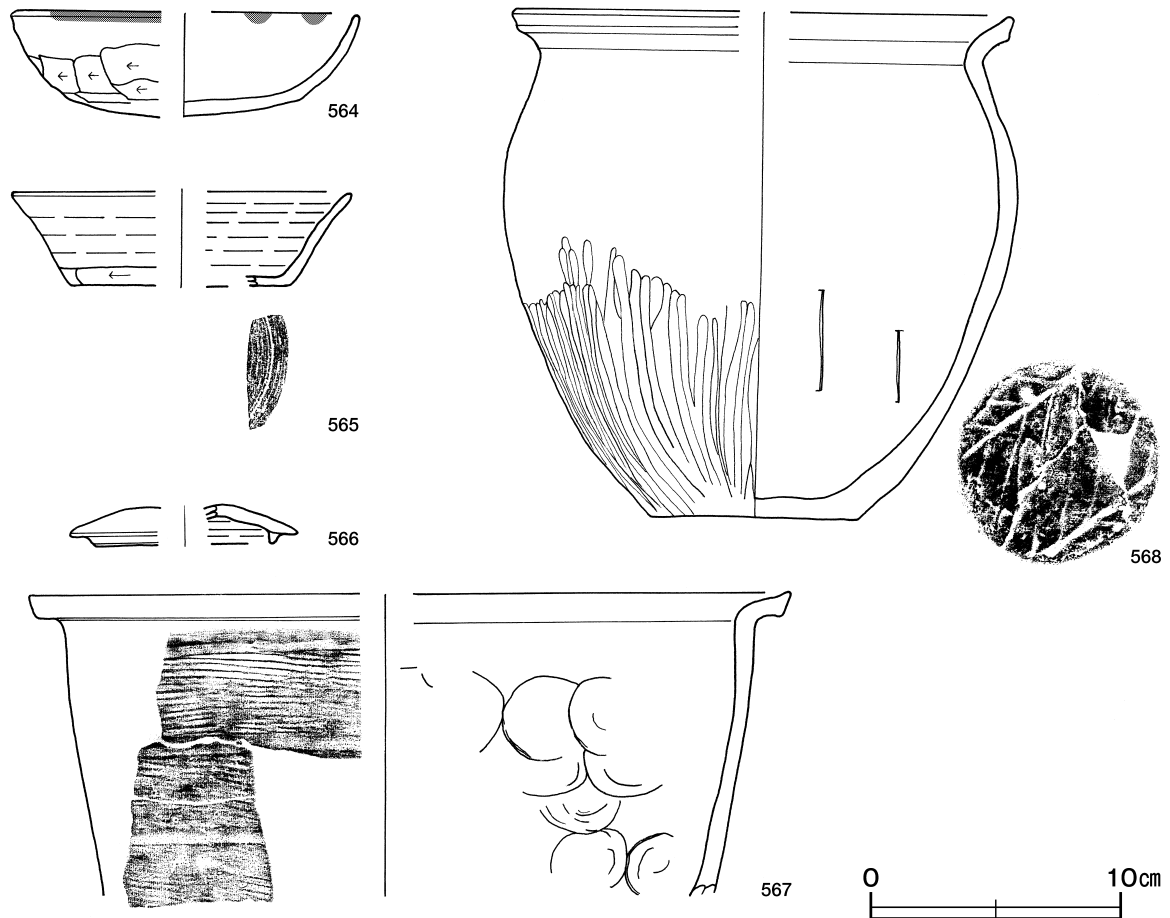
- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 炭化材・ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化材微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片181点(坏3, 甕類178), 須恵器片109点(坏21, 蓋1, 鉢3, 甕類84)のほか、混入した土師器片1点(ミニチュア土器), 鉄滓1点も出土している。遺物は主に南部に集中している。564は中央部の覆土下層, 567・568は南壁寄りの床面から破片で出土し、いずれも住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また, 565・566は掘り方から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉以降と考えられる。



第341図 第2104号住居跡実測図



第342図 第2104号住居跡出土遺物実測図

第2104号住居跡出土遺物観察表（第342図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
564	土師器	坏	[13.6]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	45% 口唇部に煤付着
565	須恵器	坏	[13.4]	3.7	[8.8]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	掘り方	10%
566	灰釉陶器	蓋	[9.0]	(1.5)	-	黒色粒子	暗オリーブ灰白	良好	口ク口整形	掘り方	5% 天井部に自然釉
567	須恵器	鉢	[30.2]	(12.0)	-	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ナデ・当て具痕	床面	10%
568	土師器	甕	[19.6]	20.0	8.2	長石・石英・雲母・微礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面	60%

第2105号住居跡（第343・344図）

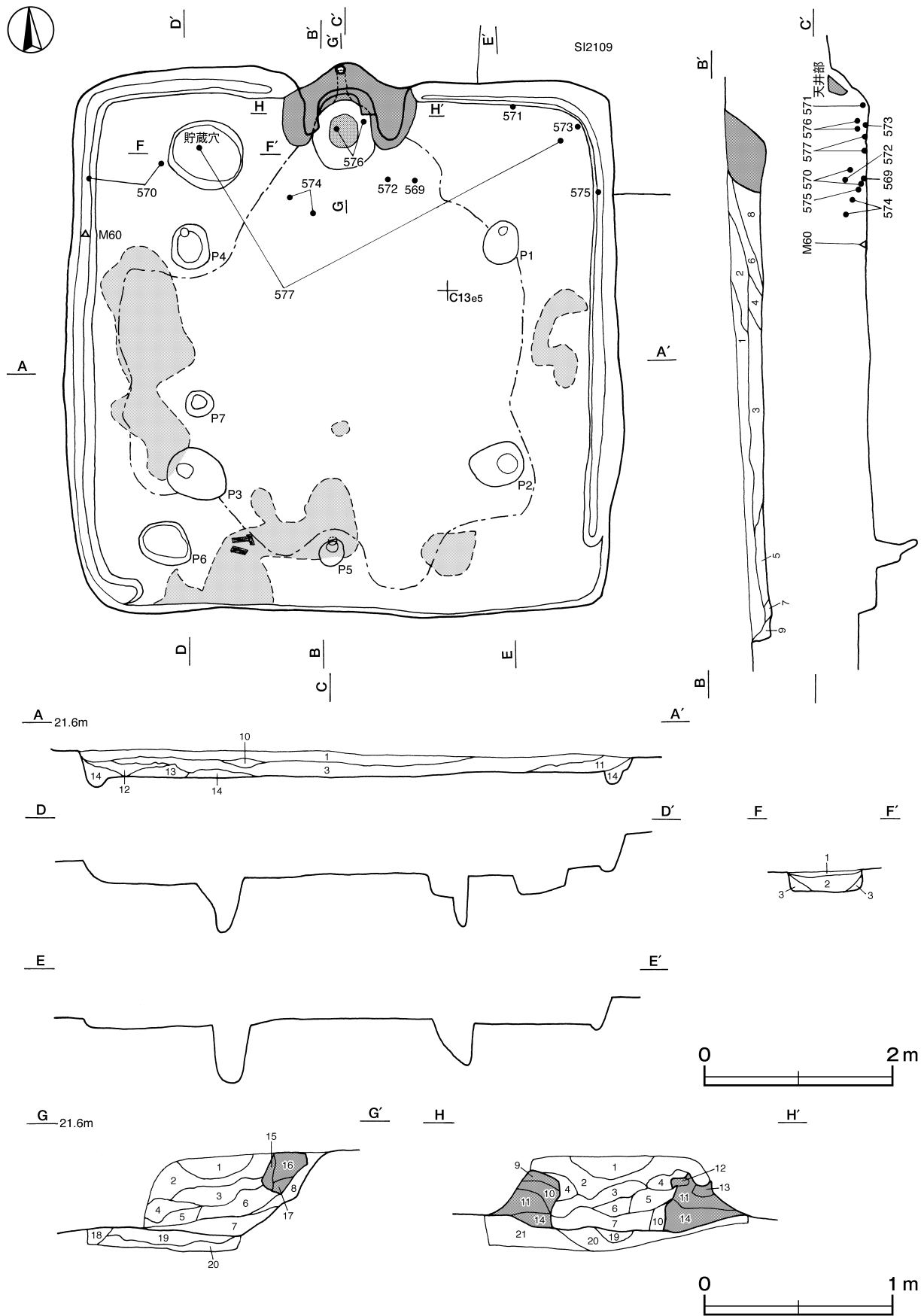
位置 調査区東部のC13e4区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2109号住居跡を掘り込んでいる。

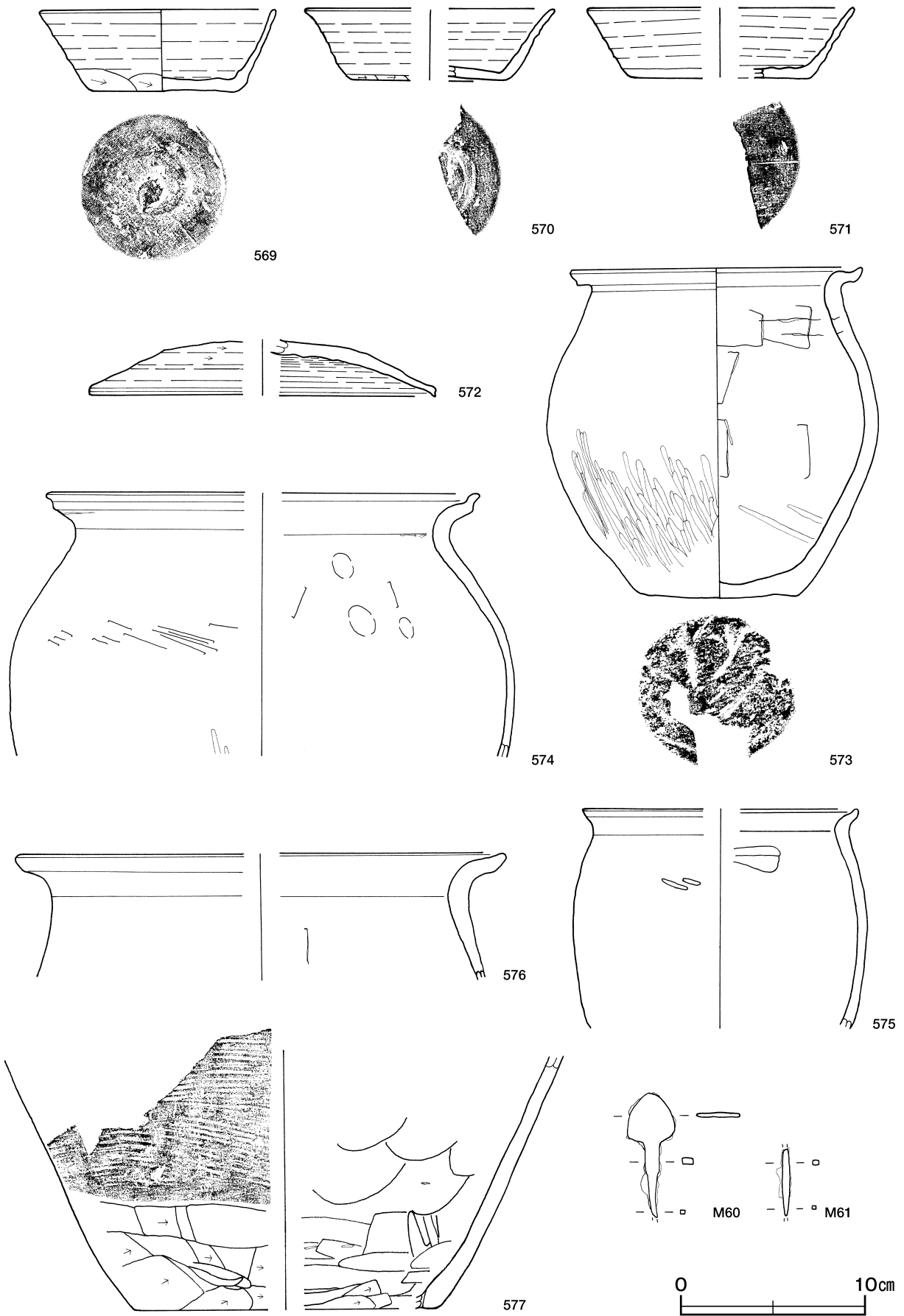
規模と形状 長軸5.80m，短軸5.68mの方形で，主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は10～34cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。南側を除いた壁下には，幅10～27cm，深さ4～12cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面から多量の焼土と炭化材が確認されていることから，焼失住居と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，袖部幅140cmで，ローム土で構築されている。火床部は床面を5cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。



第343图 第2105号住居跡实测图



第344图 第2105号住居跡出土遺物実測図

甕土層解説

1	灰 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量,ロームブロック・炭化物微量	12	にぶい赤褐色	焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量
2	灰 褐 色	焼土粒子・炭化粒子中量,ローム粒子少量,砂質粘土ブロック微量	13	にぶい褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量,ローム粒子微量	14	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量,焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量
4	灰 赤 色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ロームブロック微量	15	灰 褐 色	砂質粘土ブロック多量,焼土ブロック・ローム粒子少量
5	にぶい褐色	焼土ブロック中量,砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量	16	褐 灰 色	砂質粘土ブロック多量,焼土ブロック少量,ロームブロック微量
6	暗 赤 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗 赤 褐色	砂質粘土ブロック中量,焼土ブロック少量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量,砂質粘土ブロック・ローム粒子微量	18	赤 黒 色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量,ロームブロック微量
8	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量,ロームブロック・砂質粘土粒子微量	19	赤 褐 色	焼土ブロック多量
9	灰 褐 色	砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	20	灰 赤 色	ロームブロック少量,焼土ブロック微量
10	にぶい褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量	21	灰 褐 色	焼土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒子微量
11	灰 褐 色	砂質粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量			

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さ46～60cmである。P5は深さ25cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから見て出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置し、長径80cm、短径72cmの楕円形で、深さは26cmである。底面は皿状で、ほぼ直に立ち上がっている。覆土に焼失した際に混入した多量の焼土が含まれる。

貯蔵穴土層解説

1	灰 褐 色	焼土粒子少量,ロームブロック・炭化粒子微量	3	灰 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量,砂質粘土粒子少量,炭化物・ローム粒子微量			

覆土 14層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8	灰 褐 色	砂質粘土ブロック中量,焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗 褐 色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	9	褐 色	ローム粒子多量
3	暗 褐 色	焼土粒子少量,ロームブロック・炭化粒子微量	10	褐 色	ロームブロック少量
4	暗 褐 色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	11	暗 赤 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
5	暗 赤 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	12	黒 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子少量
6	灰 褐 色	砂質粘土ブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量	13	暗 赤 褐色	焼土ブロック・炭化物少量
7	暗 褐 色	ロームブロック少量	14	褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片660点(坏15,甕類645),須恵器片149点(坏88,高台付坏2,蓋9,盤2,壺1,甕類44,甌3),鉄器2点(鉄鏝)が出土している。遺物は竈と北側の覆土上層から中層を中心に出土し、多くは廃絶後に廃棄されたものと考えられる。573・571・575は北東コーナー際の覆土下層から床面,569は竈前の床面,M60は西側の壁溝,576は竈の覆土下層から出土し、時期判断の指標となる遺物である。570は北西コーナー部の覆土中層から下層,577は北壁寄りの床面,572・574は竈前の覆土中層,M61はP1の覆土からそれぞれ出土し、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 本跡は、多量の焼土と炭化物が出土しており、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2105号住居跡出土遺物観察表(第344図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
569	須恵器	坏	12.8	4.4	8.0	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	床面	80% PL160
570	須恵器	坏	[13.4]	3.8	[8.2]	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土中層～下層	50%
571	須恵器	坏	[14.2]	3.8	[9.4]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土下層・床面	15%
572	須恵器	蓋	[18.6]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	覆土中層	40%
573	土師器	甕	15.6	17.7	8.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部ヘラ痕	覆土下層・床面	70%
574	土師器	甕	[23.0]	(14.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ 指頭痕	覆土中層	30%
575	土師器	甕	[14.8]	(11.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層～床面	10%
576	土師器	甕	[26.0]	(6.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈覆土下層	5%
577	須恵器	甌	-	(13.6)	[16.2]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面横位の平行叩き下位ヘラ削り 内面輪積痕を残すヘラナデ・当て具痕	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M60	鏝	(6.6)	2.5	0.4	(9.9)	鉄	短頸三角型式カ 茎一部欠損	壁溝覆土	PL196
M61	鏝	(3.6)	(0.35)	0.3	(2.4)	鉄	断面長方形 茎一部欠損	P 1 覆土	

第2109号住居跡 (第345・346図)

位置 調査区東部のC13c5区、標高21.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2105号住居に掘り込まれている。

規模と形状 耕作により南側が削平されているが、長軸6.00m、短軸5.40mの長方形と推定され、主軸方向はN-7°-Eである。確認された壁高は4~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北東と南東コーナー部を除く壁下には、幅6~14cm、深さ4~8cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで126cm、袖部幅155cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cm掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	12 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	13 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	14 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・灰少量	15 褐灰色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子中量, 焼土ブロック少量	16 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化材・焼土粒子微量
6 極暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	17 にぶい褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
7 暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	18 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
8 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	19 にぶい赤褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
9 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量		
10 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量		
11 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

ピット 7か所。P1~P4は主柱穴で、深さ32~56cmである。P5は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

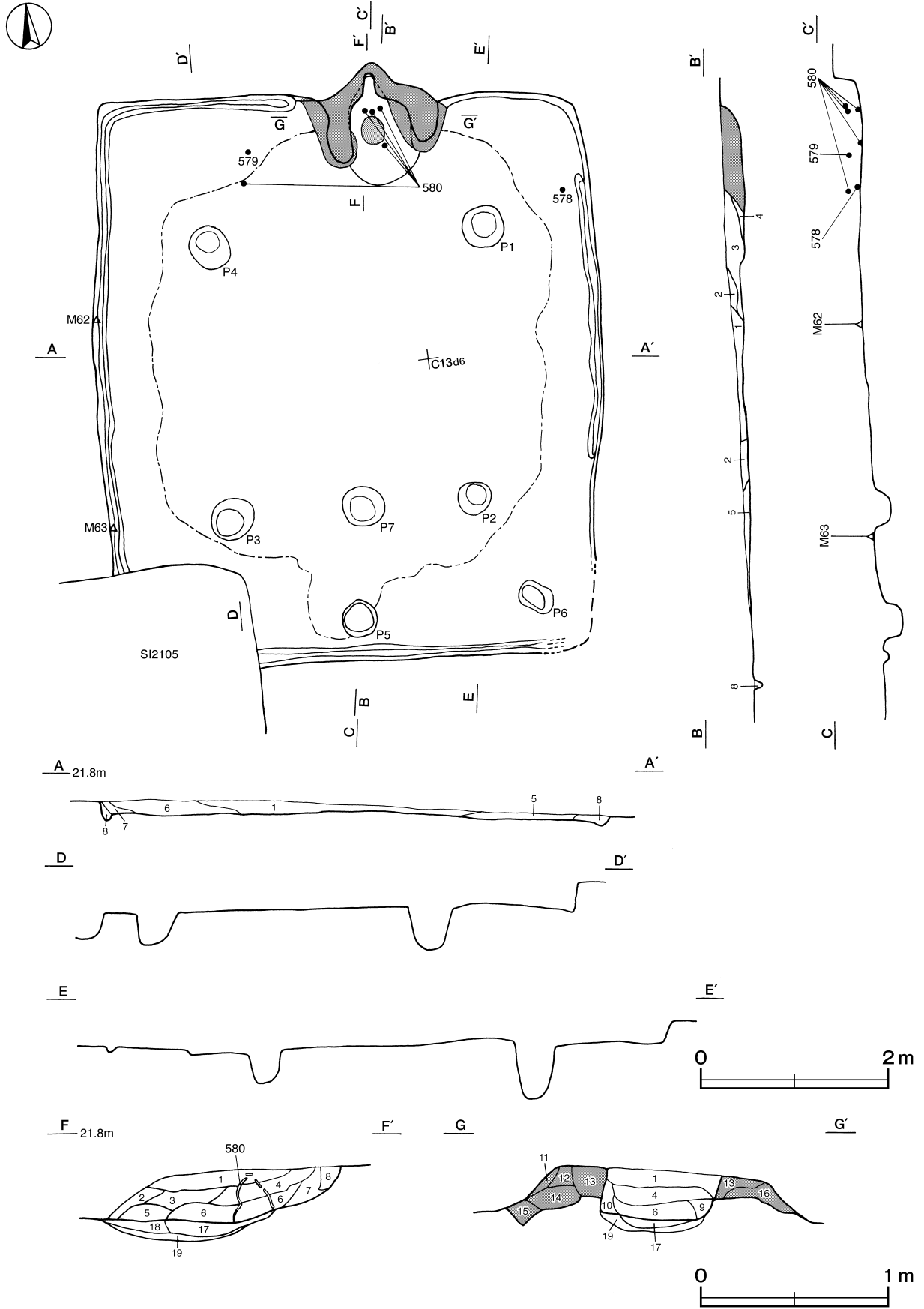
覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

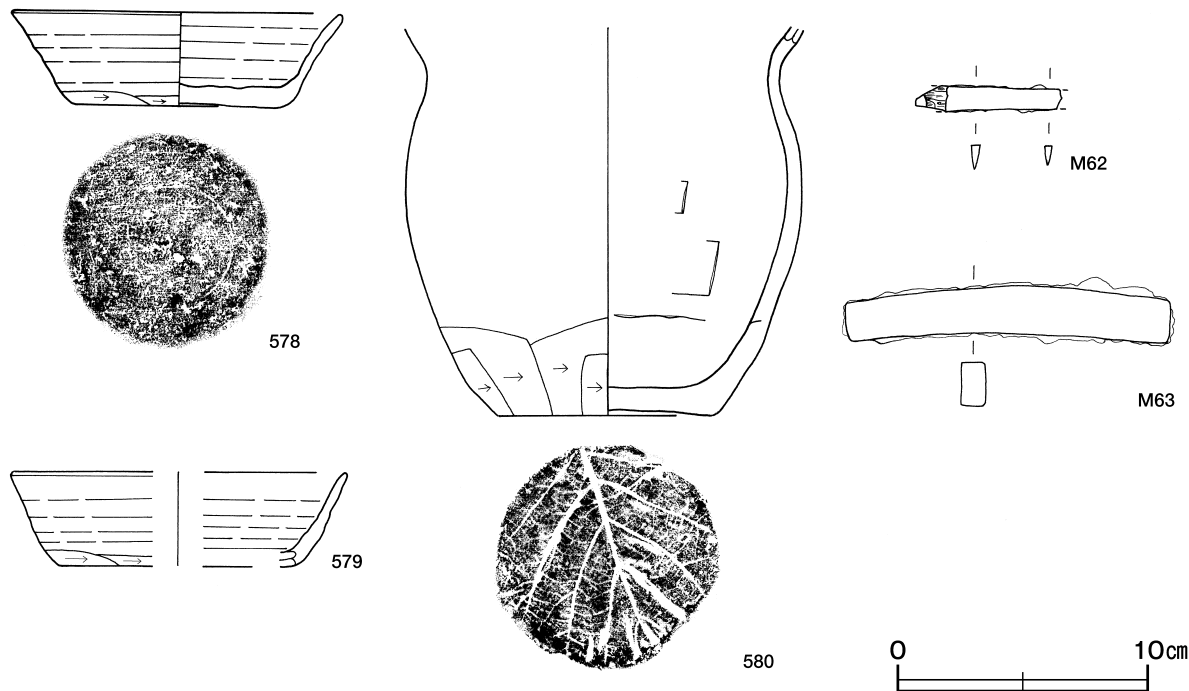
1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
3 褐灰色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	7 灰褐色	ロームブロック少量
4 にぶい赤褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	8 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片251点(坏21, 甕類230), 須恵器片43点(坏20, 壺1, 甕類22), 鉄器・鉄製品2点(刀子, 鉄挺)のほか、混入した陶器片4点も出土している。遺物の多くは細片で、北部の覆土上層に集中しており、廃絶後に廃棄されたものと考えられる。578は東壁寄りの床面、M62・M63は西側の壁溝から出土し、時期判断の指標となる資料である。579は北壁寄りの覆土中層、580は竈と北壁寄りの覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合した資料で、住居の廃絶後まもなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第345图 第2109号住居跡実測図



第346図 第2109号住居跡出土遺物実測図

第2109号住居跡出土遺物観察表（第346図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
578	須恵器	坏	12.9	3.2	8.0	長石・石英	橙	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	60% PL160
579	須恵器	坏	[13.2]	3.7	[9.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り	覆土中層	10%
580	土師器	小型甕	-	(15.3)	8.7	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ下位ヘラ削り内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層・下層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M62	刀子	(5.8)	1.1	0.4	(5.8)	鉄	茎に柄木が付着 切先・茎部欠損	壁溝覆土	
M63	不明鉄製品	13.0	1.2	1.0	(144.1)	鉄	棒状 断面長方形 一部欠損	壁溝覆土	

第2113号住居跡（第347図）

位置 調査区西部のC14b2区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2119号住居跡を掘り込み，第410号掘立柱建物，第14号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東側および南東部は床面が露出した状態で検出されている。竈の位置および硬化面の範囲から，主軸方向N - 9° - Wで，長軸3.37m，短軸2.75mの長方形と推定される。壁高は，西壁際で7cmであるが，覆土が薄いため立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。削平のため右袖部は遺存しない。規模は，焚口部から煙道部まで57cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けてわずかに赤変している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | |

ピット 深さは16cmであるが，性格は不明である。

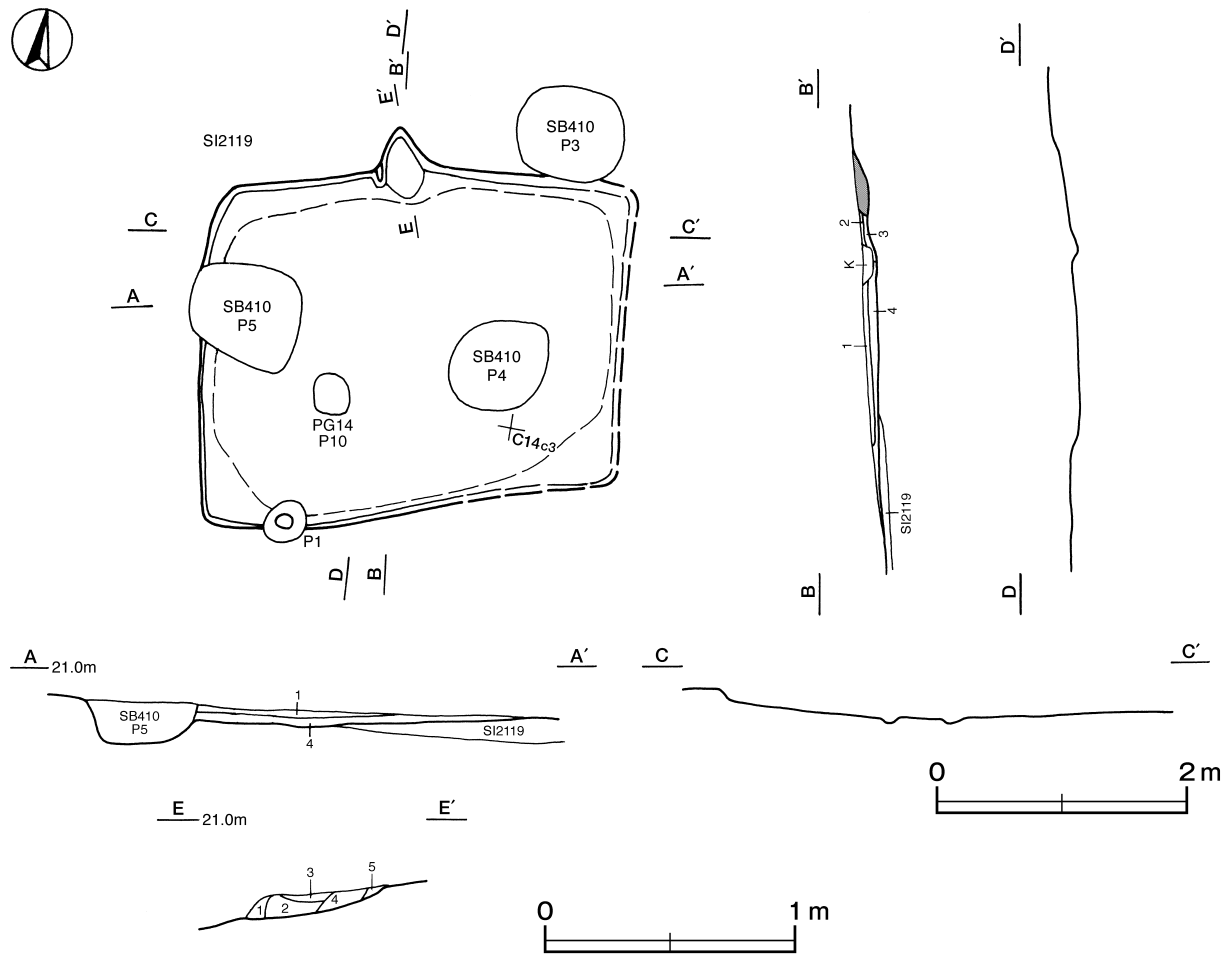
覆土 4層に分けられる。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 土師器片10点(坏4, 甕類6), 須恵器片3点(坏1, 甕2)が北西部を中心に出土しているが、いずれも細片である。また、混入した瓦片1点, 陶器片1点も出土している。

所見 出土土器は細片であるが、時期は、7世紀前葉と考えられる第2119号住居跡を掘り込んでいることや出土した須恵器坏の形態から8世紀代と考えられる。



第347図 第2113号住居跡実測図

第2116号住居跡 (第348～353図)

位置 調査区北西部のC13c1区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第118号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.07m, 短軸6.45cmの方形で, 主軸方向はN - 7° - Eである。壁高は9～40cmで, 外傾して立ち上がっている。

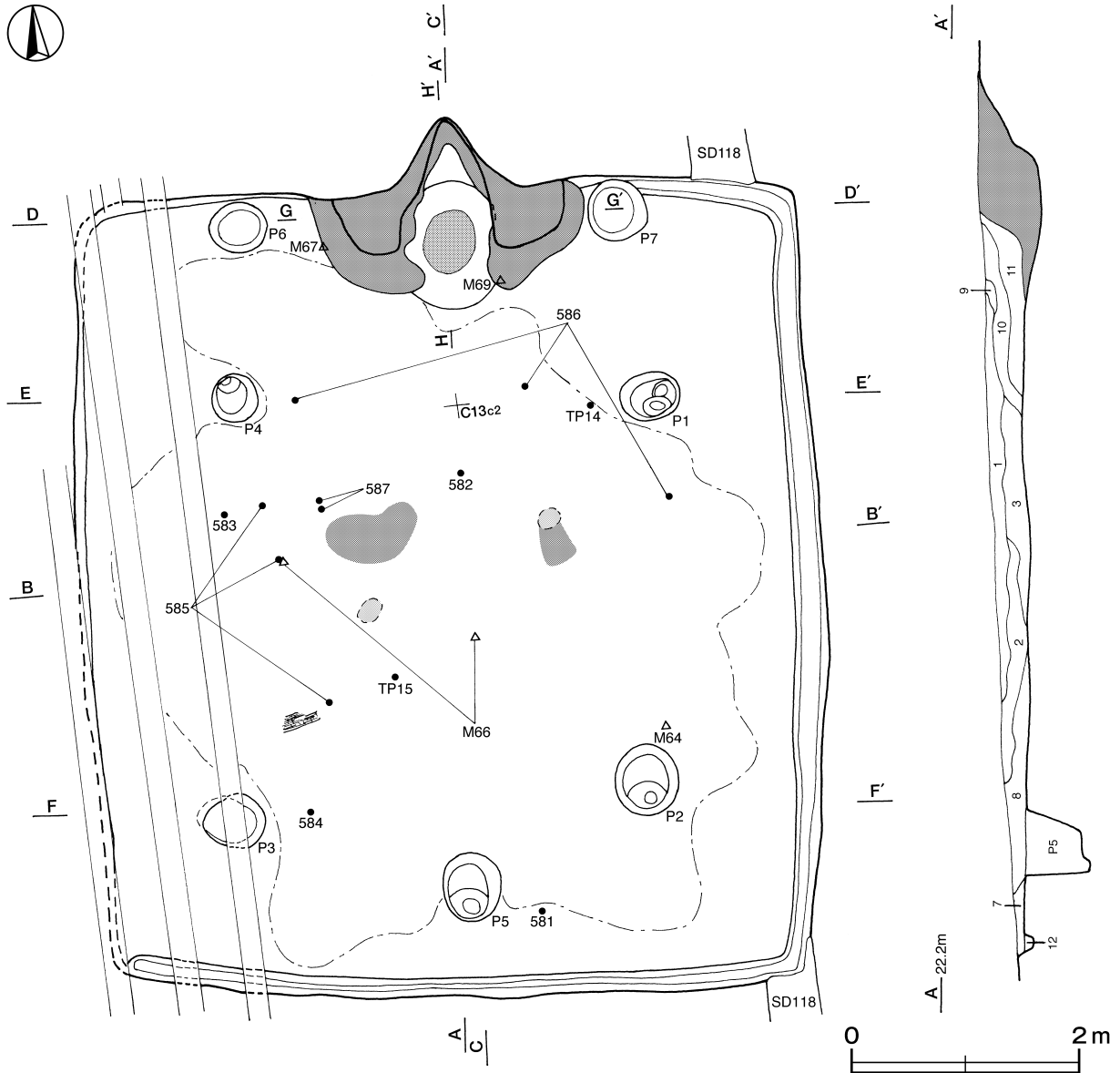
床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。西部と北西コーナー部を除いた壁下には, 幅16～30cm, 深さ8～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。中央部の床面から焼土と粘土が検出されているが, 廃絶後に崩落した竈材の一部が流れ込んだものと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで168cm, 袖部幅230cmである。袖部は床面よ

り若干高く掘り残した地山上に、砂質粘土とローム土を用いて作られている。第21層が火床部に相当し、床面を20cm掘りくぼめ、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ58cm掘り込まれ、火床面から直立ぎみに外傾した後、緩やかに立ち上がっている。第5層は、天井部の崩落土層である。

電土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量,炭化物・ローム粒子微量 | 16 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量,炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | 17 灰赤色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量,ロームブロック少量,炭化粒子微量 | 18 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量,砂質粘土粒子少量 | 19 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量,炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 20 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 炭化粒子中量,焼土粒子少量,砂質粘土粒子微量 | 21 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量,砂質粘土粒子微量 | 22 褐色 | ローム粒子中量,砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 赤褐色 | 焼土ブロック多量,砂質粘土粒子中量 | 23 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量,炭化粒子中量,砂質粘土粒子少量 | 24 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 11 黒褐色 | 炭化物中量,焼土粒子少量,砂質粘土粒子微量 | 25 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量,炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | 26 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量,炭化物少量 |
| 13 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土ブロック・ローム粒子少量・炭化粒子微量 | | |
| 14 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |



第348図 第2116号住居跡実測図(1)

ピット 20か所。P1～P4は主柱穴で、深さは41～74cmである。P5は深さ53cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は33cmと37cmの深さで、竈の袖部を挟むように位置しており、竈上の棚などの施設に伴うピットと考えられる。P8～P20の性格は不明である。

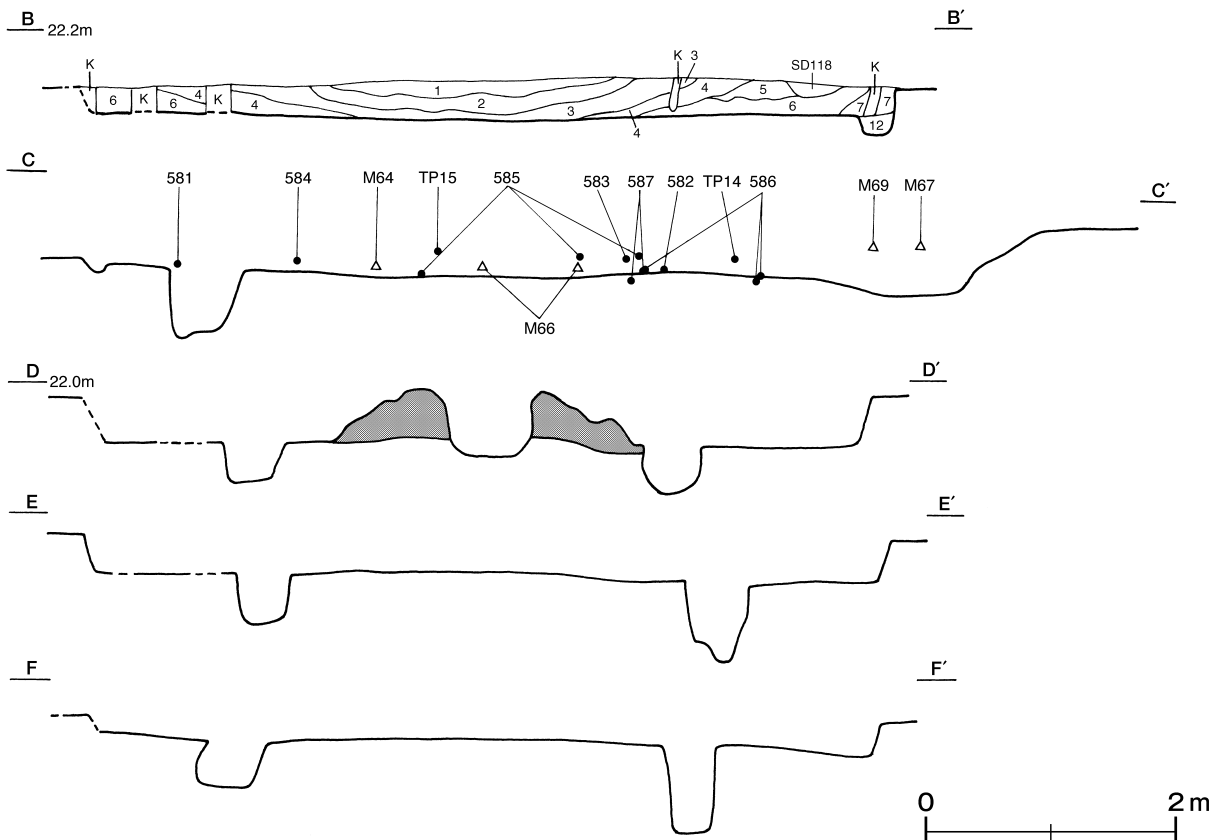
覆土 13層に分けられる。第4～12層がレンズ状に自然堆積した後、ローム土や炭化物を含む第1～3層が人為堆積している。第13層は、締まった貼床の構築土である。

土層解説

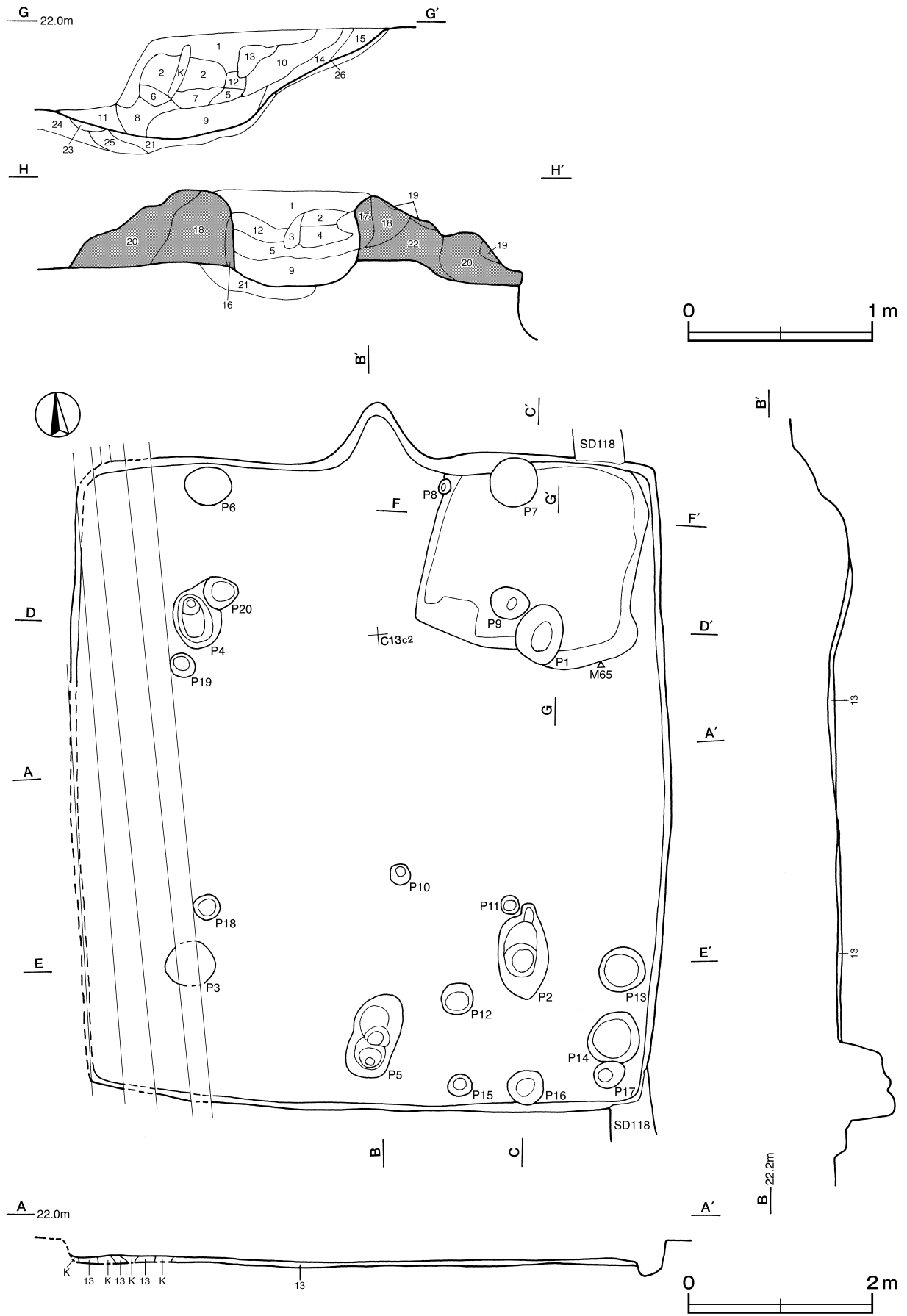
1 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量	9 にぶい褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
3 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	11 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量		
7 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量		
8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片3601点（坏43，高台付坏1，皿12，甕類3545），須恵器片1210点（坏816，高台付坏16，蓋40，高盤1，鉢55，瓶類5，甕類277），灰釉陶器片1点（蓋），土製品1点（紡錘車），鉄製品10点（釘6，不明4），粘土塊18点が出土している。また、混入した縄文土器片1点，古墳時代の土師器片24点，中世以降の陶器片3点，磁器片1点も出土している。581はP5付近の覆土下層，584はP3付近の覆土下層，585・586・587は中央部の床面や覆土下層から出土している。また，586は底部外面に脚部が剥離した痕跡がある。M64～M69はすべて釘で，木質が残存しているM64・M67や掘り方から検出されたM65があるが，出土位置にまともにはみられない。

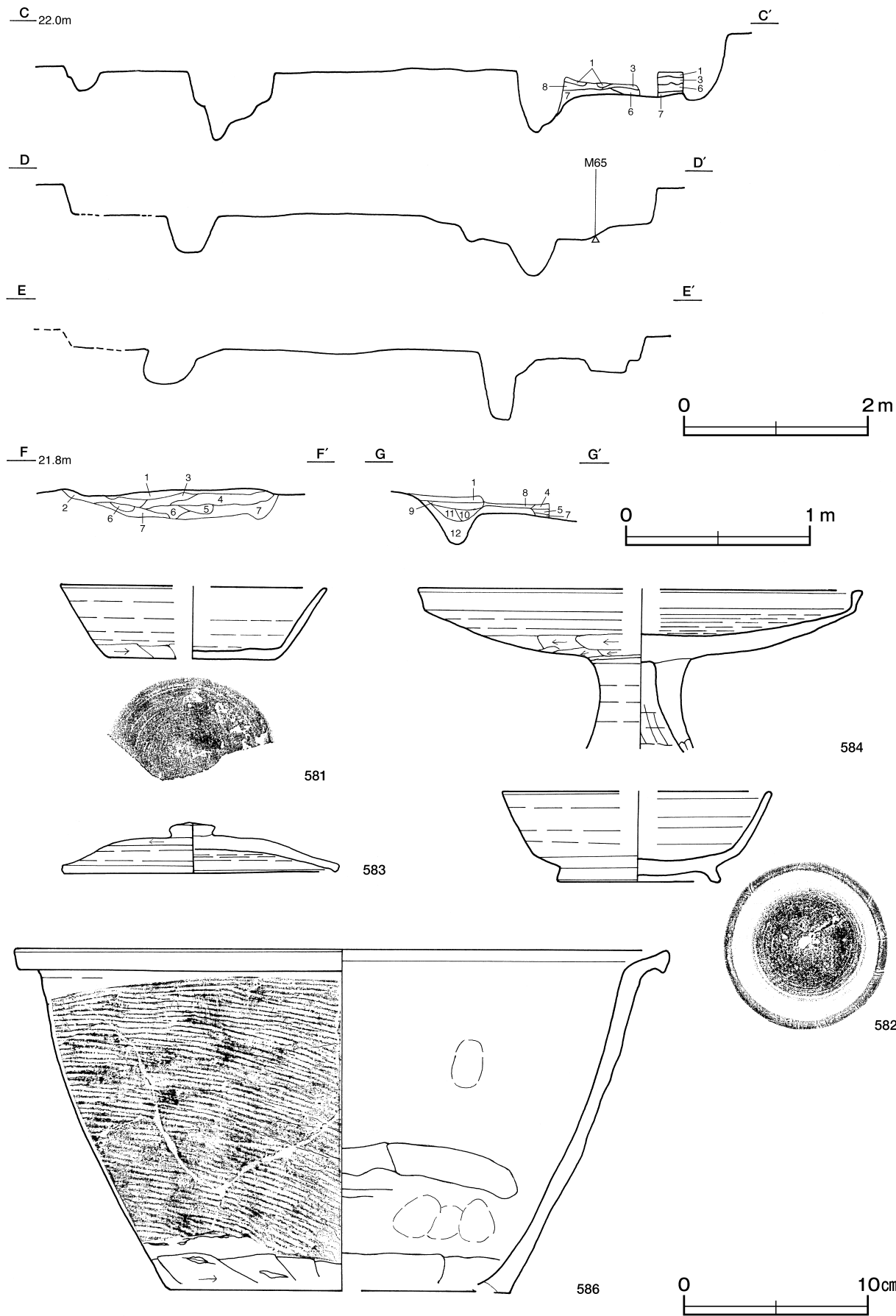
所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



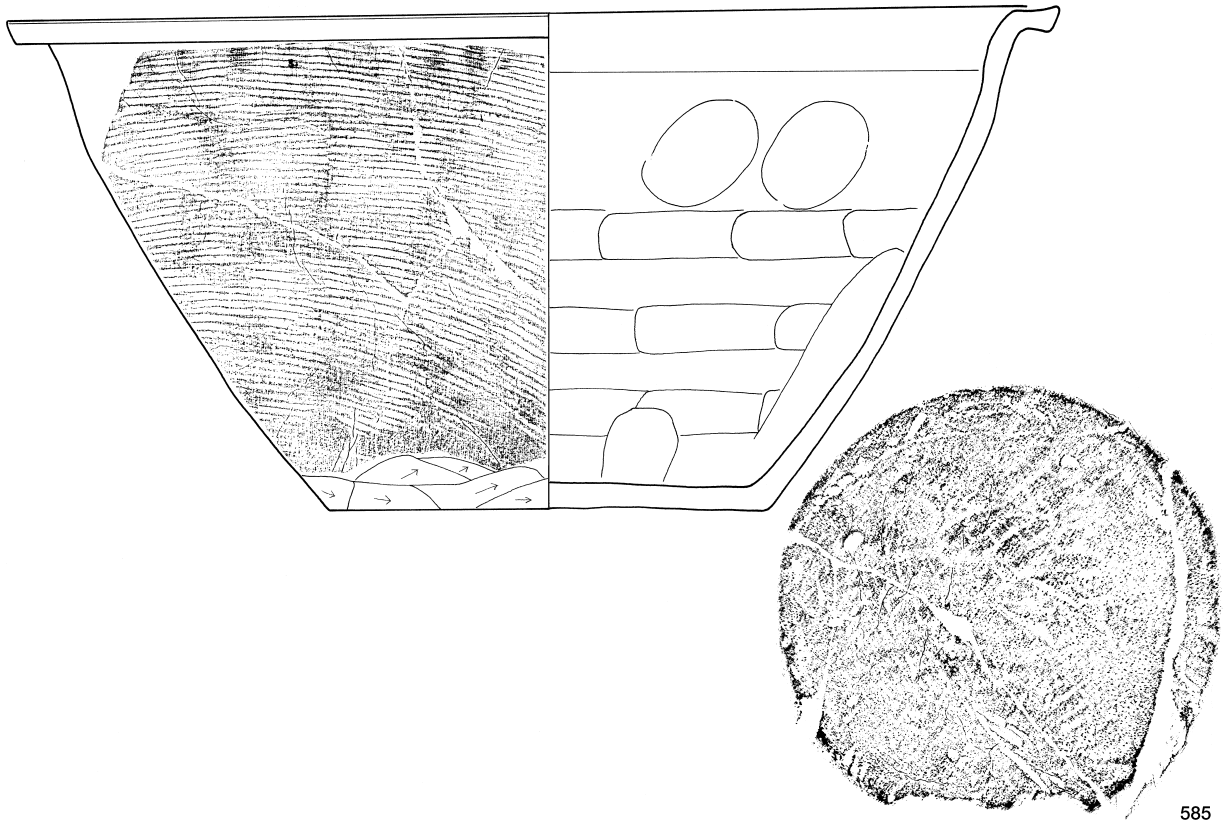
第349図 第2116号住居跡実測図(2)



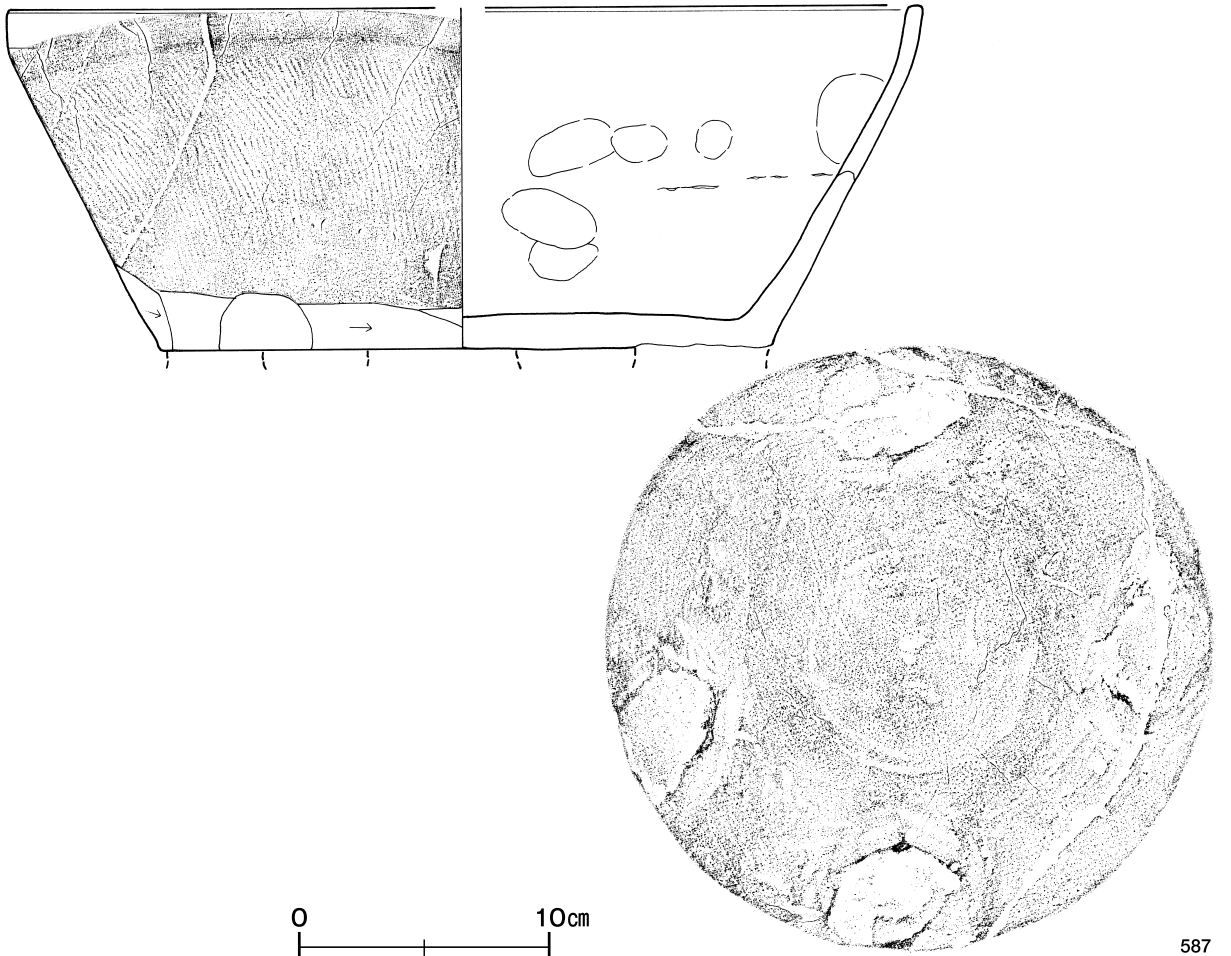
第350图 第2116号住居跡実測图(3)



第351图 第2116号住居跡・出土遺物実測図

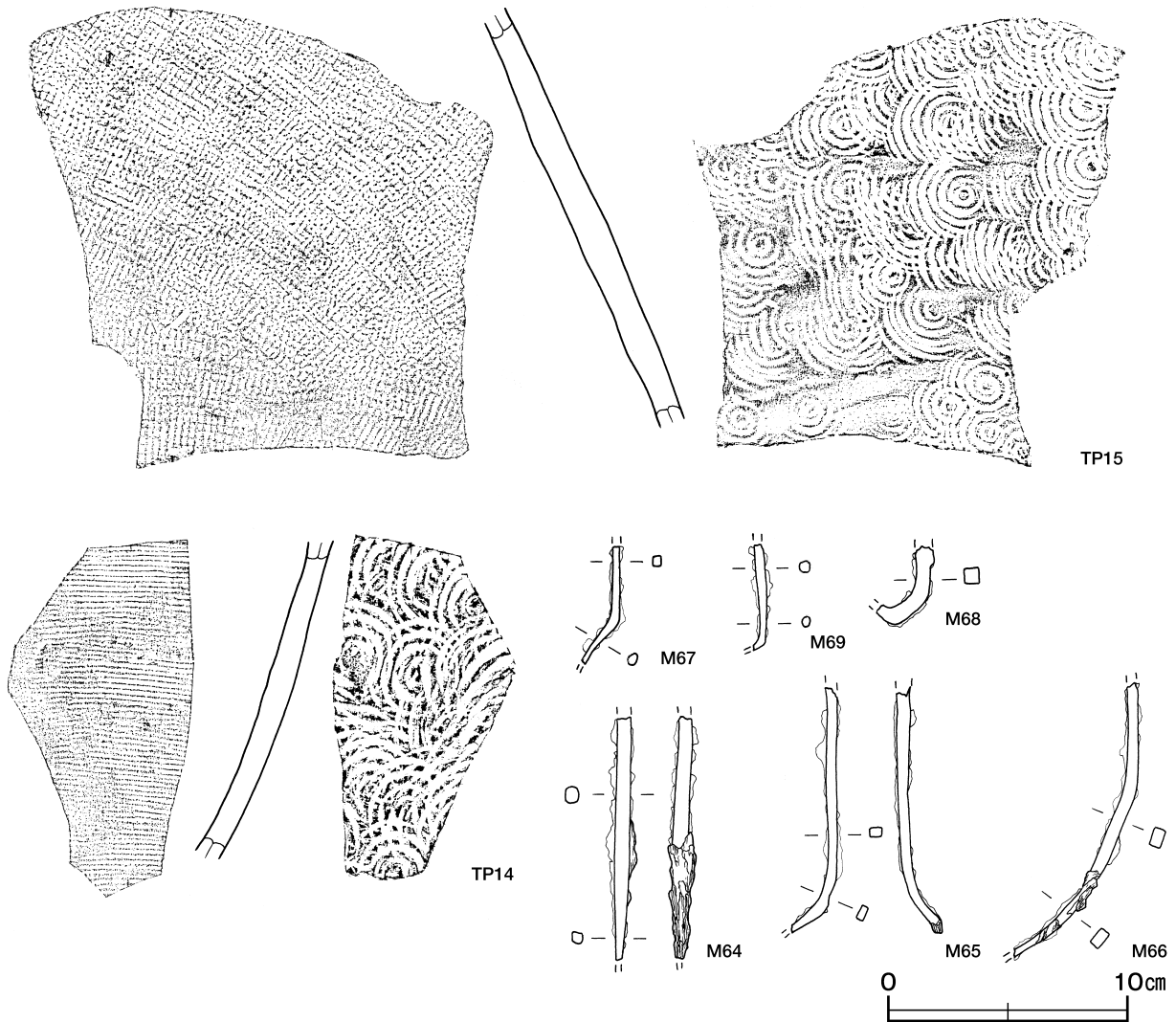


585



587

第352图 第2116号住居跡出土遺物実測図(1)



第353図 第2116号住居跡出土遺物実測図(2)

第2116号住居跡出土遺物観察表 (第351~353図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
581	須恵器	坏	[14.4]	3.9	[9.0]	石英・雲母	黄灰	良好	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	40%
582	須恵器	高台付坏	[14.4]	4.9	8.8	長石・石英・小礫	褐灰	良好	体部内外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け よく磨かれており調整は丁寧	床面	60%
583	須恵器	蓋	14.6	2.8	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	つまみ径2.4cm つまみ高0.7cm 天井部二方向の手持ちヘラ削り後つまみ貼り付け 口辺部に沿って内面に沈線が1本巡っている	覆土下層	80%
584	須恵器	高盤	[24.0]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	坏部下端ヘラ削り 坏部・脚部口クロナデ	覆土下層	40%
585	須恵器	鉢	41.8	20.1	17.7	石英・雲母	灰黄	普通	体部外面横位平行叩き 体部下端ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層・床面	60%
586	須恵器	鉢	35.2	18.6	18.5	長石・石英・雲母・礫	灰白	普通	体部外面横位平行叩き 体部下端ヘラ削り 内面ナデ ヘラナデ 指頭痕	床面	80% PL178
587	須恵器	脚付鉢	[36.0]	13.7	24.4	石英・雲母	灰白	良好	体部外面斜位平行叩き 体部下端ヘラ削り 内面ナデ 指頭痕 輪種痕 底部4つ足の痕跡有り	床面	70% PL178
TP14	須恵器	甕	-	(13.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面横位平行叩き 体部内面同心円状の当て具痕	覆土下層	
TP15	須恵器	大甕	-	(17.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面格子状叩き 体部内面同心円状の当て具痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M64	釘	(10.1)	0.7	0.8	(19.9)	鉄	頭部及び下部先端欠損 断面長方形 下部木質部付着	覆土下層	
M65	釘	(10.2)	0.5	0.6	(12.3)	鉄	頭部及び下部欠損 下部ねじれている 断面長方形	掘り方部	
M66	釘	(11.5)	0.4	0.8	(19.8)	鉄	頭部及び下部欠損 下部曲っている 断面長方形	覆土下層	
M67	釘	(4.8)	0.4	0.5	(3.8)	鉄	頭部欠損 断面長方形 木質部付着	覆土中層	
M68	釘	(3.3)	0.6	0.7	(6.9)	鉄	頭部及び下部先端欠損 下部曲っている 断面方形	覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M69	釘	(4.5)	(0.5)	(0.5)	(3.4)	鉄	頭部及び下端部欠損 下端部曲っている 断面方形	右袖部上	

第2123号住居跡（第354図）

位置 調査区中央部のB12f6区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2122号住居跡を掘り込んでいる。

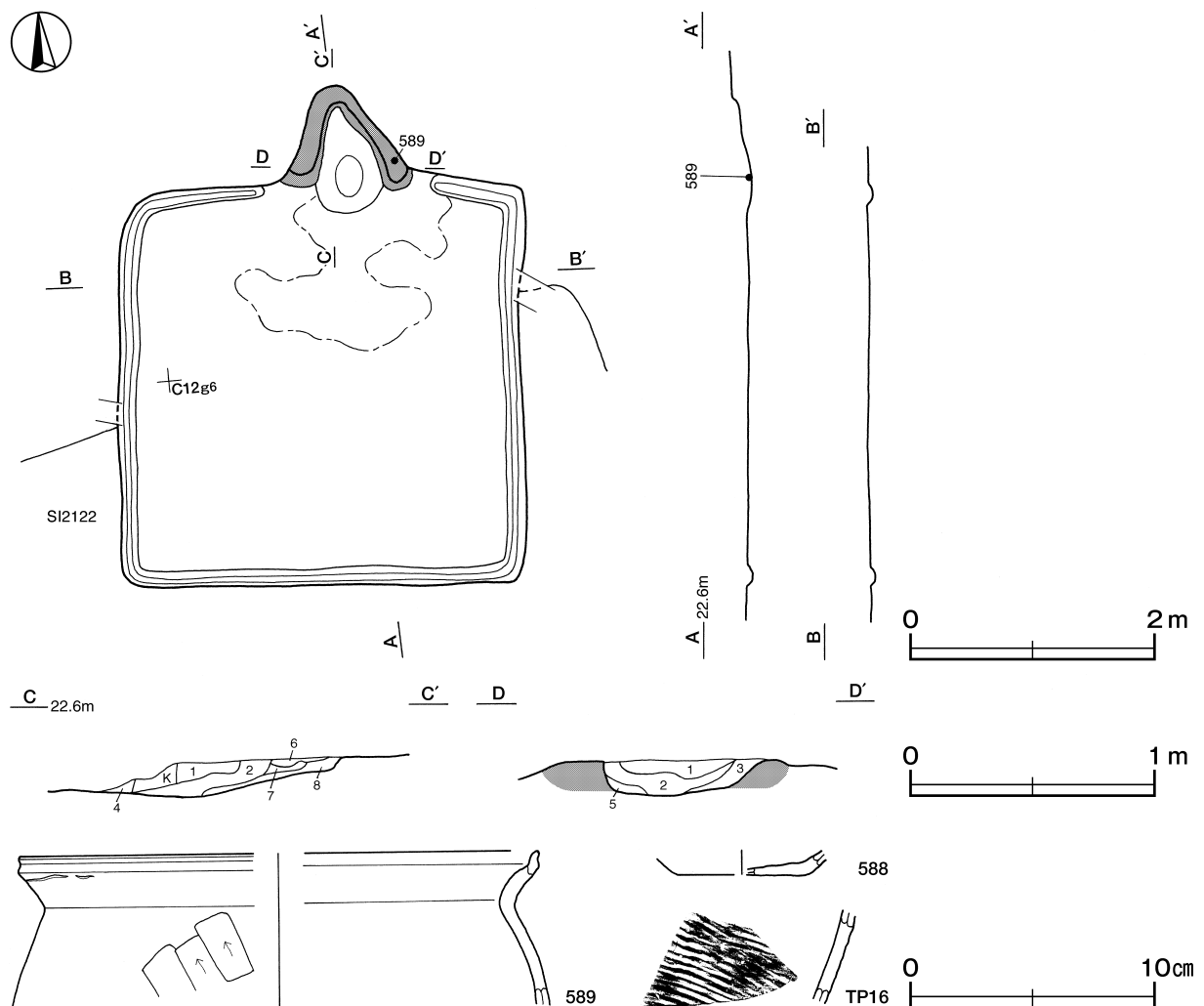
規模と形状 長軸3.31m，短軸3.24mの方形で，主軸方向はN - 4° - Eである。

床 ほぼ平坦で，竈前面の北部中央が踏み固められている。壁下には，幅14～18cm，深さ6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されているが，上部が削平されている。規模は，焚口部から煙道部まで104cm，袖部幅94cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし，砂質粘土で構築されていたと推定される。煙道部は壁外に72cm掘り込まれ，外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |



第354図 第2123号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片67点(坏7, 甕類60), 須恵器片4点(坏2, 甕類2)が出土している。その他, 混入した陶器片2点, 磁器片1点も出土している。589は右袖部内から出土しており, 遺棄されたものと考えられ, 588は覆土, TP16は竈覆土からそれぞれ出土している。出土した土器のほとんどが細片であり, 出土状況から住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 覆土が薄いため堆積状況は不明である。時期は, 出土土器と住居の形状から8世紀代と考えられる。

第2123号住居跡出土遺物観察表(第354図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
588	須恵器	坏	-	(1.0)	[5.2]	石英・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土	5%
589	土師器	甕	[20.8]	(6.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 輪積痕 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈袖部下層	5%
TP16	須恵器	鉢	-	(3.9)	-	石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面輪積痕	竈覆土	

第2125号住居跡(第355・356図)

位置 調査区中央部のC12a0区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2124号・2127号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.70m, 短軸4.54mの方形で, 主軸方向はN-3°-Wである。壁高は20~39cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北東部及び南西コーナー部の一部を除いた壁下には, 幅6~20cm, 深さ3~6cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで134cm, 袖部幅138cmである。袖部は地山を掘り込んだくぼみにローム土で床面の高さまで埋め戻した後, 砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を20cm掘りくぼめており, 火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ65cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。第4層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量	12 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
2 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	13 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量	14 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
5 赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土粒子微量	16 黒褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量	17 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
7 暗赤褐色	炭化粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	18 にぶい赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量	19 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 炭化粒子微量
9 暗褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	20 灰褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	21 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	22 暗褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
		23 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
		24 暗赤褐色	炭化粒子中量, 焼土ブロック微量
		25 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

棚状施設 竈左脇に付設されている。奥行42cm, 幅121cmの長方形で, 床面から5cmの高さである。竈土層断面図でみると構築方法は, 床面の高さを基部として, ロームや炭化粒子物を含む土を充填し(第17・24層), さらに砂質粘土を貼り付けて形を整えている(第20層)が, 棚構築土と竈構築土との含有物が類似していることから, 竈を改築する際に作られたと考えられる。

ピット 6か所。P1~P4は支柱穴で, 深さは20~48cmである。P5は深さ39cmで, 竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は竈土層断面図の第25層に相当し, 性格は不明である。

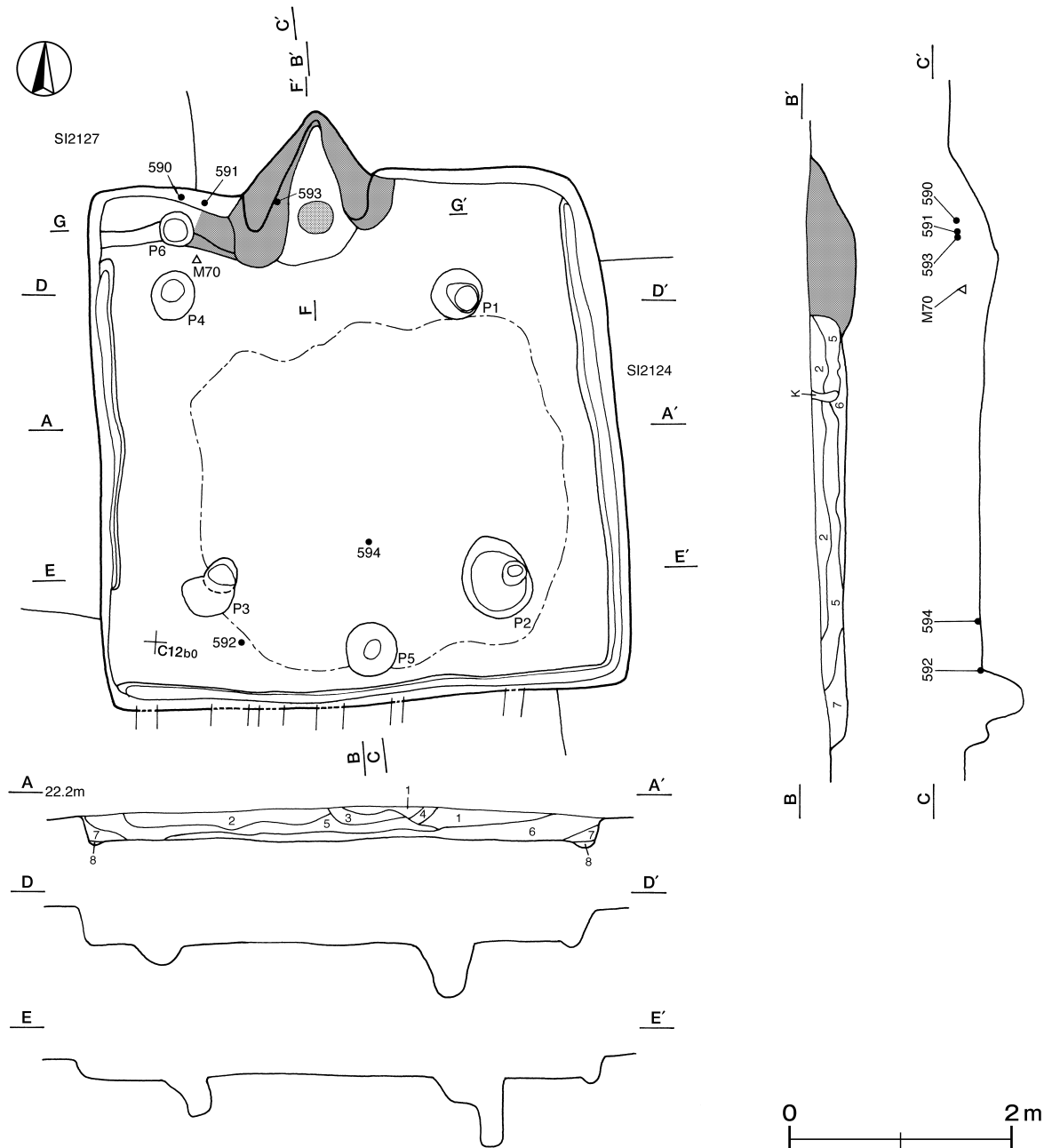
覆土 8層に分けられる。焼土粒子を中量含んでいるが(第3・4層), レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

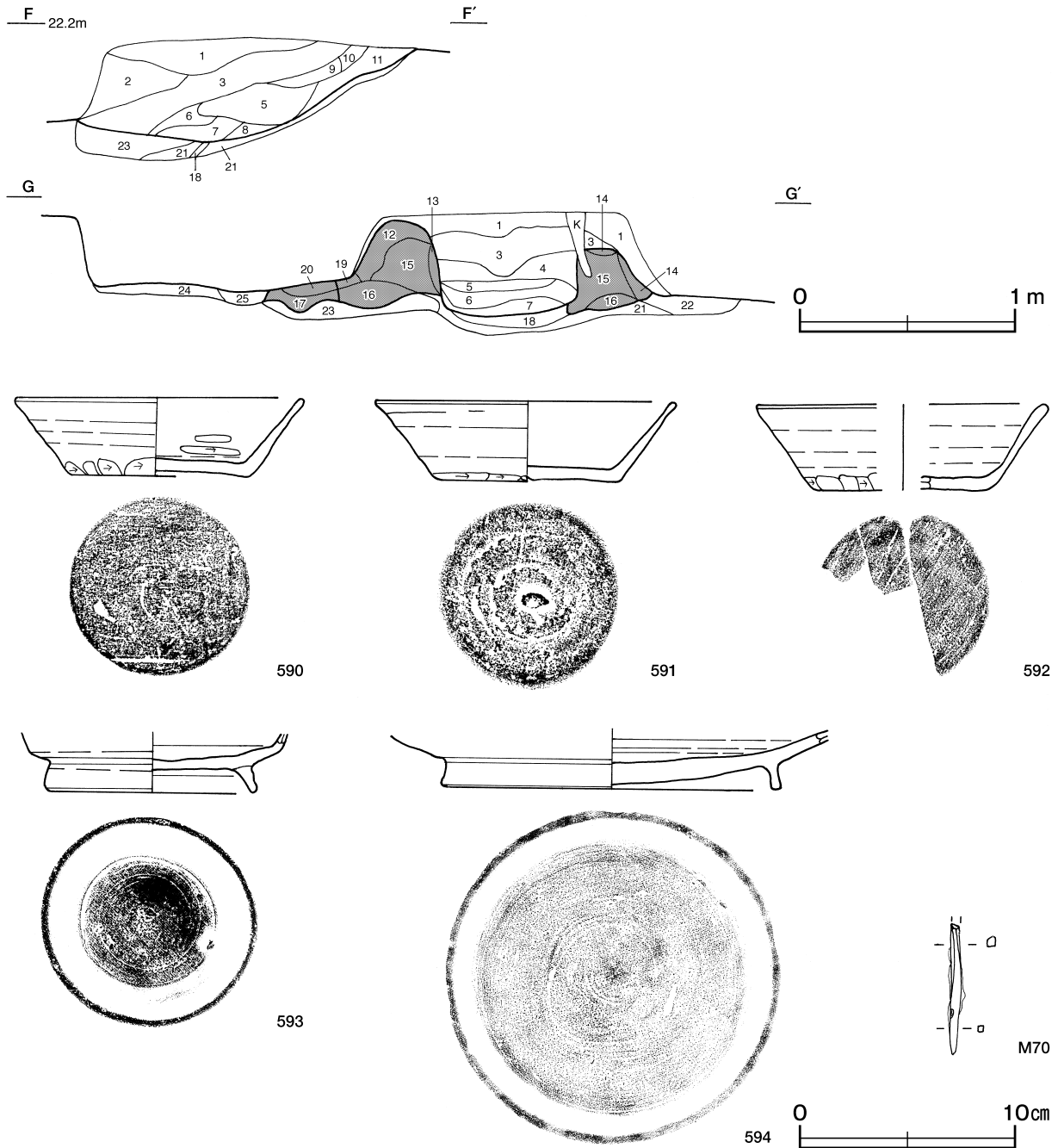
- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片644点(坏36, 甕類607, 甑1), 須恵器片214点(坏107, 高台付坏4, 盤6, 蓋9, 高盤7, 鉢26, 壺類1, 瓶類2, 甕類52), 鉄器・鉄製品2点(鏃, 不明鉄製品), 粘土塊4点のほか, 混入した古墳時代の土師器片13点, 中世以降の陶器片1点, 磁器片2点も出土している。590・591は棚状施設上の覆土から側立して出土している。南壁付近の床面からは592が出土し, 覆土中層及び覆土下層から検出された土器片が接合していることから, 廃棄されたものと考えられる。M70は棚状施設前の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第355図 第2125号住居跡実測図



第356図 第2125号住居跡・出土遺物実測図

第2125号住居跡出土遺物観察表（第356図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
590	須恵器	坏	13.1	3.6	8.1	石英・雲母	褐灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	95% PL160
591	須恵器	坏	13.6	3.7	8.3	石英・雲母	灰白	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	70%
592	須恵器	坏	[13.4]	4.0	8.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 後一部ナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層・床面	40%
593	須恵器	高台付坏	-	(2.7)	9.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈覆土上層	50%
594	須恵器	盤	-	(2.7)	15.3	石英・雲母	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	45%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M70	鏃	(6.0)	0.5	0.4	(4.5)	鉄	断面方形 熱を受けている	覆土中層	

第2132号住居跡 (第357・358図)

位置 調査区北東部のB13d3区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 住居全体が東西方向の耕作による攪乱を受けている。長軸3.32m, 短軸2.78mの長方形で, 主軸方向はN-13°-Eである。壁高は22~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には, 幅8~10cm, 深さ5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。竈の大部分が攪乱を受けているため全体の形状は不明であるが, 袖部幅102cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし, 砂質粘土で構築されていたと推定される。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ, 外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量,焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量,焼土粒子微量 |
| | | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量,炭化物少量 |

覆土 4層に分けられるが, 攪乱が激しいため, 堆積状況は明確でない。

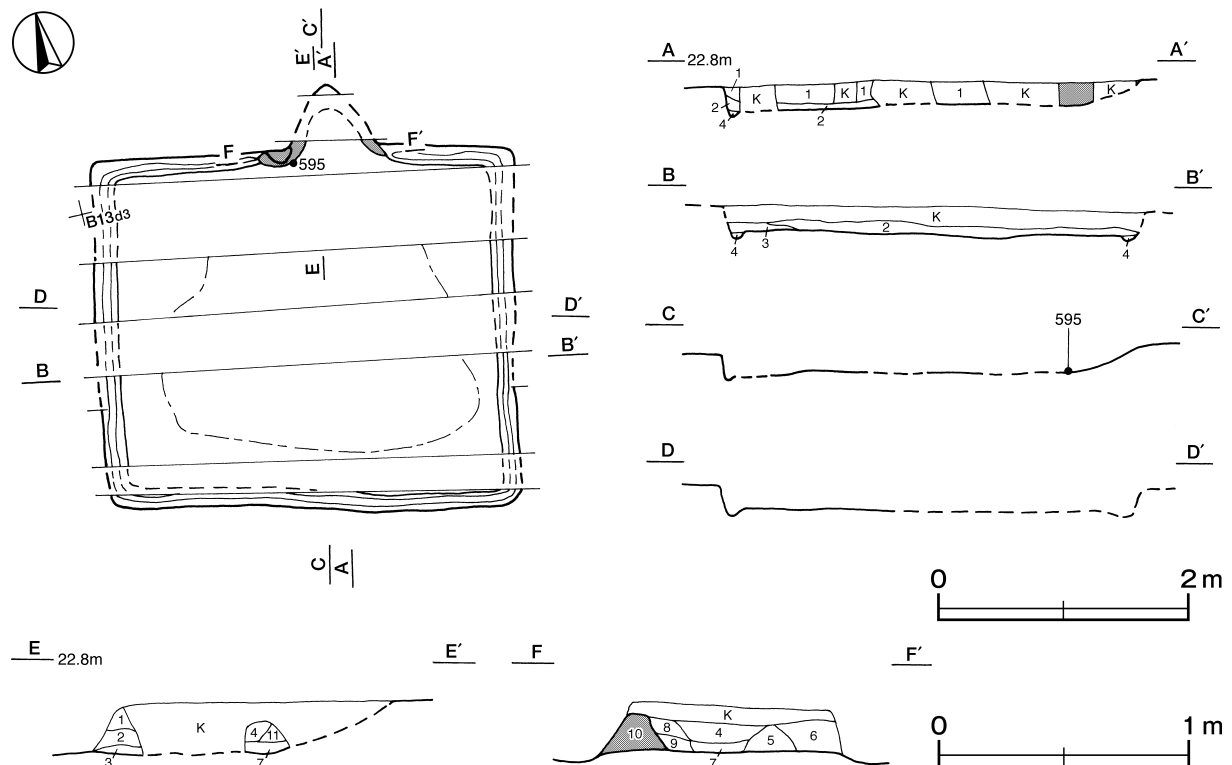
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|---------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量,焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |

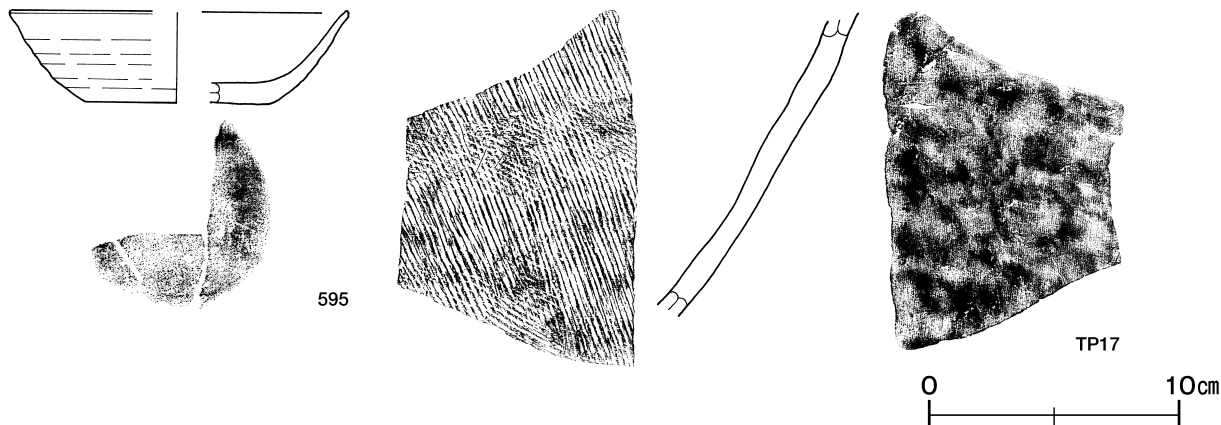
遺物出土状況 土師器片59点(坏10,高坏1,甕類48),須恵器片5点(坏3,甕類2)が出土している。その他,混入した陶器片3点も出土している。595は覆土下層から出土しており,遺棄されたものと考えられる。

TP17は南東部の覆土上層から出土している。土器のほとんどが細片であり,廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は,出土土器や住居の形状から8世紀前半と考えられる。



第357図 第2132号住居跡実測図



第358図 第2132号住居跡出土遺物実測図

第2132号住居跡出土遺物観察表（第358図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
595	須恵器	坏	[13.4]	3.6	7.4	石英・雲母	浅黄	普通	体部外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	竈覆土下層	40%
TP17	須恵器	甕	-	(12.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面格子状に斜位の平行叩き 内面当て具痕 輪積痕	覆土上層	

第2134号住居跡（第359・360図）

位置 調査区北東部のA13h4区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

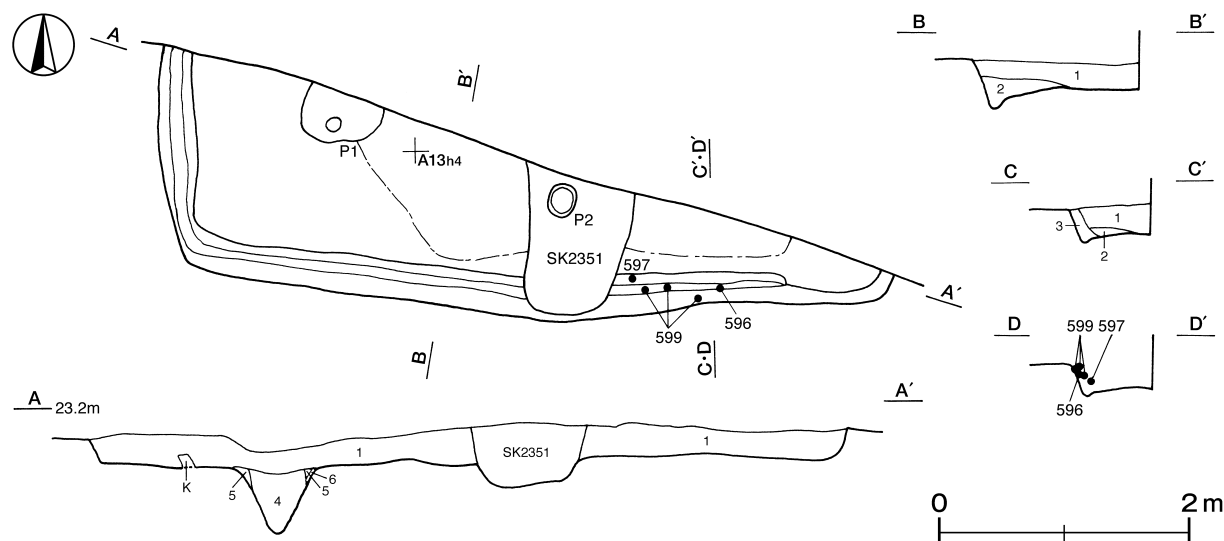
重複関係 第2351号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側の大部分が調査区域外に伸びており、東西軸5.75m、南北軸は1.50mだけが確認された。確認された壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がっている。

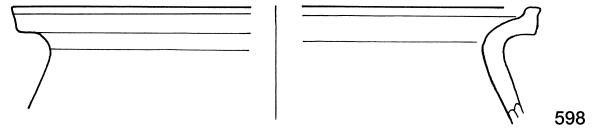
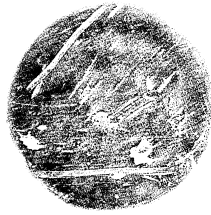
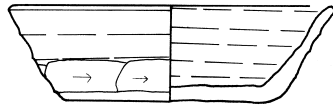
床 確認された範囲では、ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が西壁から南東コーナー付近にかけて確認され、幅12~20cm、深さ4~10cmほどで、断面形はU字状である。

ピット 2か所。P1は支柱穴で、深さは52cmである。P2は第2351号土坑に掘り込まれているため、深さ12cmほどが確認された。南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

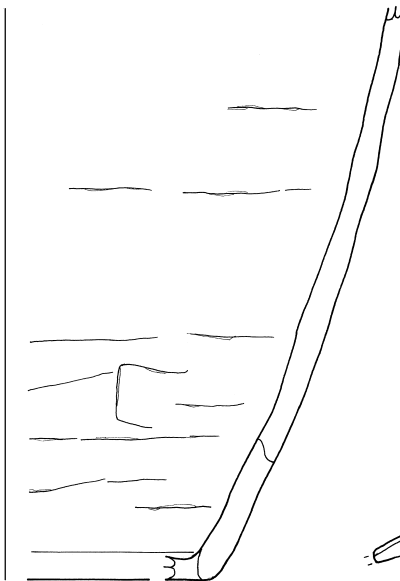
覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを含み、締まりの弱い人為堆積である。第4~6層はP1の覆土である。



第359図 第2134号住居跡実測図



596



599 0 10cm

第360図 第2134号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片79点(坏4, 甕類75), 須恵器片55点(坏34, 蓋6, 甕類12, 甌3)がほぼ全面から出土しているが, ほとんどが細片である。596・597・599は南壁際の覆土上層から中層, 598は覆土からそれぞれ出土し, 住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2134号住居跡出土遺物観察表(第360図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
596	須恵器	坏	12.8	3.8	8.3	長石・雲母・黒色粒子	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面回転ヘラ切り後 二方向の手持ちヘラ削り	覆土上層・中層	90% PL160
597	須恵器	蓋	-	(2.0)	[11.0]	長石	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層・中層	10%
598	土師器	甕	[21.0]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土	5%
599	須恵器	甌	-	(22.7)	[16.2]	長石・石英・雲母・微礫	灰白	普通	体部外面横位の平行叩き・輪積痕 を残すヘラナデ 5孔式カ	覆土上層・中層	40%

第2137号住居跡(第361・362図)

位置 調査区北東部のB14c8区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2136号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.46m，短軸3.25mの長方形で，主軸方向はN - 22° - Eである。壁高は30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8～12cm，深さ4～8cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで104cm，袖部幅112cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火を受けて赤変している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 9 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| | | 13 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |

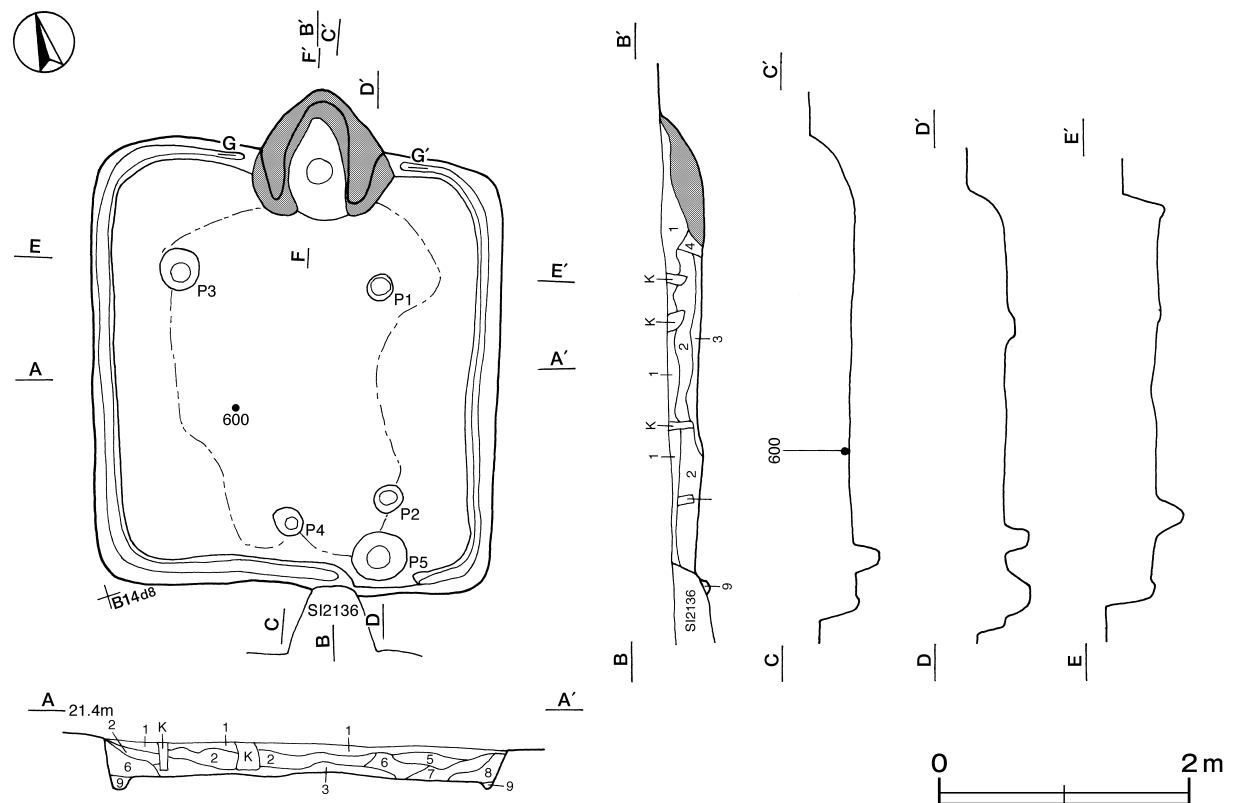
ピット 5か所。P1～P3は支柱穴で，深さは8～22cmである。P4は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置していることや，硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P5の性格は不明である。

覆土 9層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

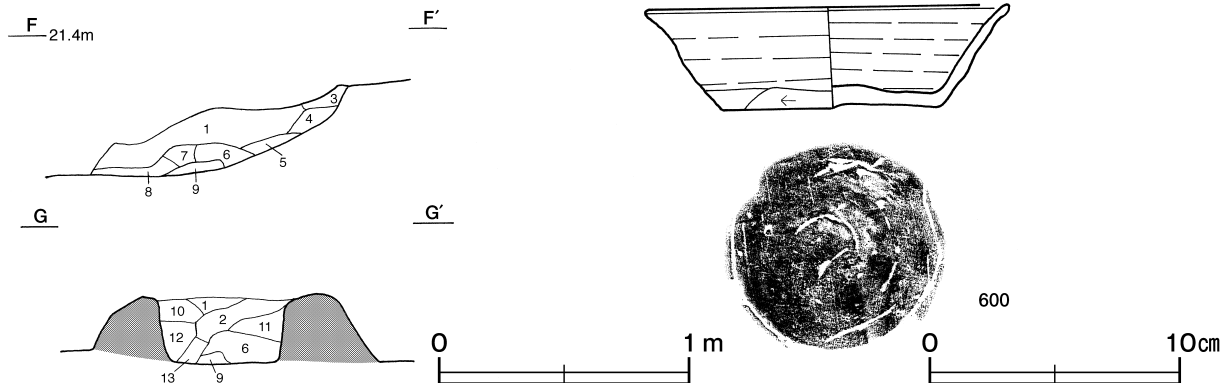
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐灰色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片34点（坏11，甕類23），須恵器片16点（坏）が出土し，ほとんどが細片である。600は中央部の床面から正位で出土しており，時期判断の指標となる遺物である。



第361図 第2137号住居跡実測図



第362図 第2137号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2137号住居跡出土遺物観察表（第362図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
600	須恵器	坏	14.3	3.9	8.8	長石・雲母	灰黄褐	不良	体部下端手持ちへら削り 二方向の手持ちへら削り	底部回転へら切り後	床面	85% PL161

第2138号住居跡（第363図）

位置 調査区北東部のB14c4区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.62m、短軸2.48mが確認され、方形を呈していたと考えられる。南部は調査区域外へのび、主軸方向はN - 20° - Eである。壁高は32~58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅8~20cm、深さ6~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅118cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量	17	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	18	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
4	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	19	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	20	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
6	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	21	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
7	黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	22	灰褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量
8	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量	23	黒褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
9	赤褐色	焼土粒子多量	24	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
10	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量	25	褐色	ローム粒子多量
11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	26	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
12	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	27	黒褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
13	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量			
14	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量			
15	暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

ピット 2か所。主柱穴で、深さは6cm~17cmである。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径43cm、短径40cmの円形で、深さは33cmである。底面は皿状で、壁は直立ぎみに立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

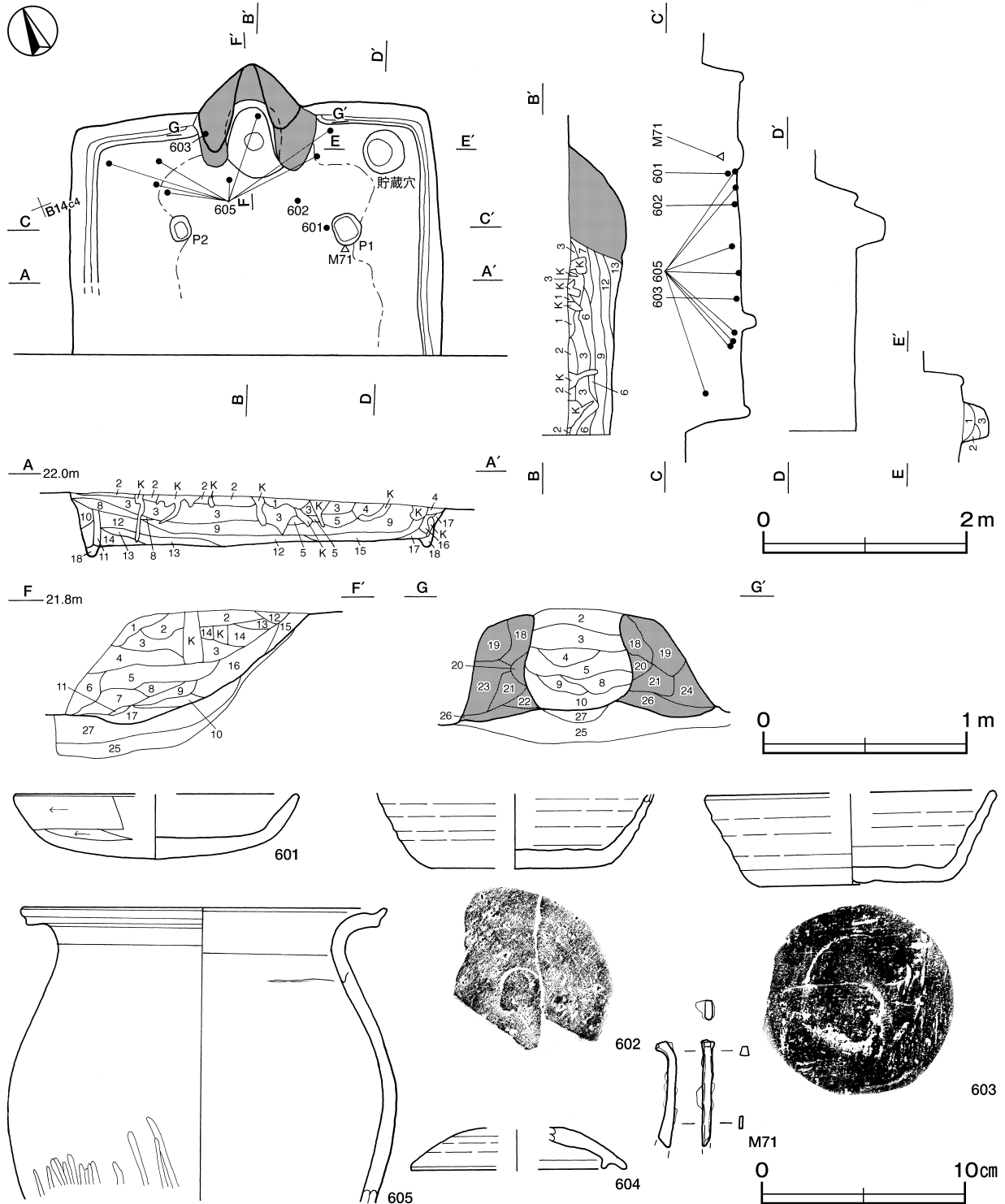
貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	3	暗褐色	ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子中量			

覆土 18層に分けられる。各層に焼土やロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック少量 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 15 灰褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック中量 |



第363図 第2138号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片160点（坏7，高坏1，甕類151，甌1），須恵器片8点（坏4，蓋1，甕類3），鉄製品1点（釘カ）が出土している。603は竈の左袖部下層から出土しており，遺棄されたものと考えられる。602は竈前面の床面，605は竈付近と北壁寄りの覆土中層から床面にかけてそれぞれ出土した破片が接合したものである。北西部から竈付近にかけて多く出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M71は中央部覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第2138号住居跡出土遺物観察表（第363図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
601	土師器	坏	[13.6]	3.1	-	長石・石英・赤色粒子・白地	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	60%
602	須恵器	坏	-	(3.7)	[9.2]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	30%
603	須恵器	坏	[14.0]	4.5	9.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	竈袖部下層	50%
604	須恵器	蓋	[10.4]	(2.1)	-	石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	5%
605	土師器	甕	17.5	(14.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土中層・床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M71	釘カ	(6.2)	1.1	0.6	(4.0)	鉄	頭部屈曲 先端部欠損 断面方形	覆土下層	

第2156号住居跡（第364・365図）

位置 調査区中央部のC11a0区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2157号住居跡を掘り込み，第2150号住居に掘り込まれている。

規模と形状 耕作によって東壁の大部分が攪乱をうけているが，長軸5.65m，短軸5.27mの方形で，主軸方向はN-9°-Wである。壁高は15~25cmで，確認された各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認された壁下には，幅7~20cm，深さ4~10cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，床面から多量の焼土が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，袖部幅158cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。

煙道部は壁外に46cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子・礫少量 焼土粒子微量	11 灰 褐 色	砂質粘土粒子・礫少量，ロームブロック微量
2 黒 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子・礫少量 焼土粒子微量	12 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・礫少量，ロームブロック微量
3 褐 灰 色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・礫少量，ロームブロック微量	13 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・礫少量
4 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子・礫少量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	14 赤 褐 色	焼土粒子中量，ロームブロック少量
5 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	15 灰 褐 色	ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量
6 褐 色	ロームブロック少量	16 灰 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
7 灰 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	17 褐 灰 色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量
8 褐 灰 色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	18 暗 褐 色	ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
9 明 褐 灰 色	砂質粘土粒子中量，礫少量，ロームブロック・焼土粒子微量	19 褐 色	ロームブロック中量
10 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量 焼土ブロック少量，ロームブロック微量		

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で，深さ47~68cmである。P5は深さ55cmでP4の補助柱穴とも想定されるが，詳細は不明である。

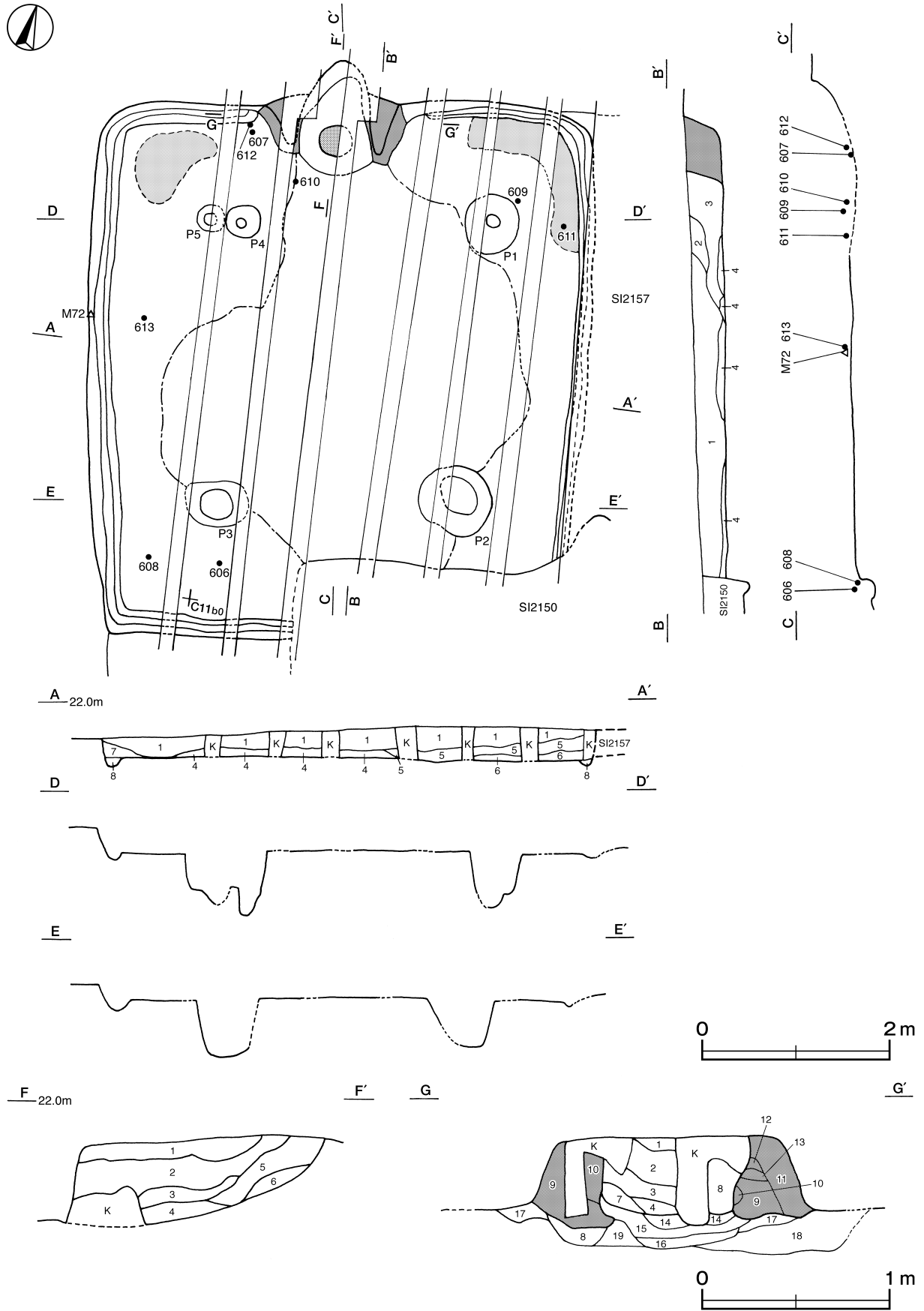
覆土 8層に分けられる。第1~6層は不自然な堆積状況を示した人為堆積，第7~8層は自然堆積である。

土層解説

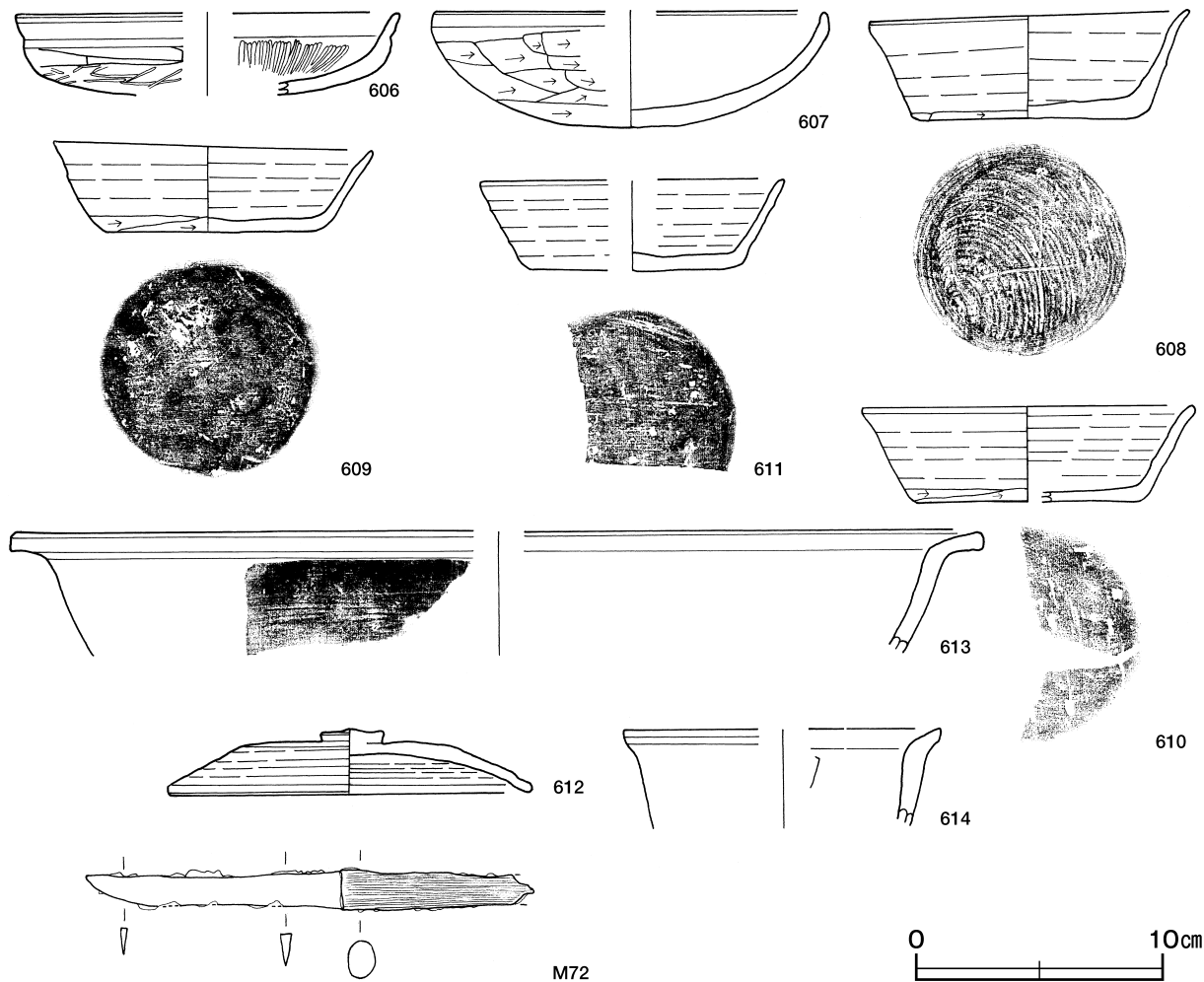
1 極 暗 褐 色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	3 灰 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量
2 灰 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	4 黒 褐 色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量

5 極暗褐色 ロームブロック中量,炭化物少量
 6 黒褐色 ロームブロック中量,焼土ブロック少量

7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
 8 暗褐色 ロームブロック少量



第364図 第2156号住居跡実測図



第365図 第2156号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片775点(坏101, 甕類674), 須恵器片145点(坏103, 蓋3, 鉢1, 甕1, 甕類37), 土製品3点(支脚), 鉄器1点(刀子)のほか, 混入した土師器片2点(器台, 高坏), 土製品1点(勾玉), 陶器片3点, 磁器片3点, 不明鉄製品1点も出土している。遺物の多くは細片で, ほぼ全面の覆土上層から下層にわたって出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。607・612は北壁際の床面と覆土下層, M72は西壁際の覆土下層から出土し, 時期判断の指標となる資料である。610は竈前の覆土下層, 609・611は北東コーナー寄りの覆土下層, 613は西壁寄りの覆土下層, 606・608は南西コーナー寄りの床面からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また, 614は竈の覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第2156号住居跡出土遺物観察表(第365図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
606	土師器	坏	[15.2]	(3.3)	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内外面横ナデ 放射状のヘラ磨き 体部外面ヘラ磨き 内面	床面	40%
607	土師器	坏	[15.7]	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内外面横ナデ 放射状のヘラ磨き 体部外面手持ちヘラ削り 内面ナデ	床面	25%
608	須恵器	坏	12.9	4.3	8.7	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転糸切り	床面	90% 底部ヘラ記号「X」 PL161
609	須恵器	坏	12.6	3.2	8.4	長石	明褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	80% PL161
610	須恵器	坏	[13.4]	3.7	[8.9]	長石・石英・雲母	にぶい褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	40%
611	須恵器	坏	[12.0]	3.6	[8.6]	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	40%
612	須恵器	蓋	14.4	2.6	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部左方向の回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土下層	50% PL168

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
613	須恵器	鉢	[38.6]	(5.0)	-	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き	覆土下層	5%
614	土師器	小形甕	[12.6]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M72	刀子	(17.9)	1.7	1.1	(29.2)	鉄	刃部一部欠損 茎部全体に柄木残存	覆土下層	

第2160号住居跡（第366・367図）

位置 調査区中央部のC12c1区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2152・2159・2161号住居跡を掘り込み，第2150号住居，第2096号土坑に掘り込まれている。

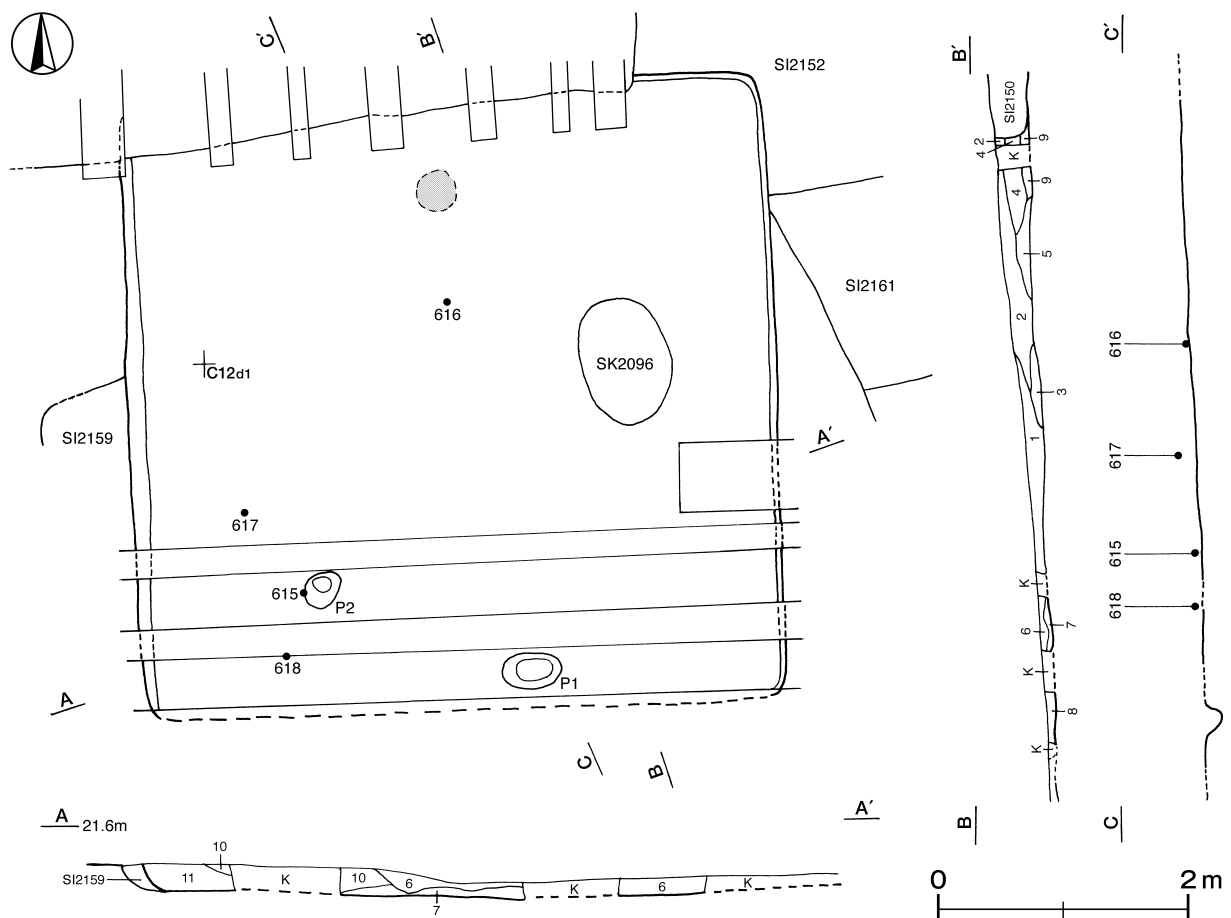
規模と形状 耕作によって南壁が攪乱を受けているが，東西軸5.10m，南北軸4.90mの方形と推定される。主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は4～22cmで，外傾して立ち上がっている。

床 中央部から南側に向かって緩やかに傾斜している。

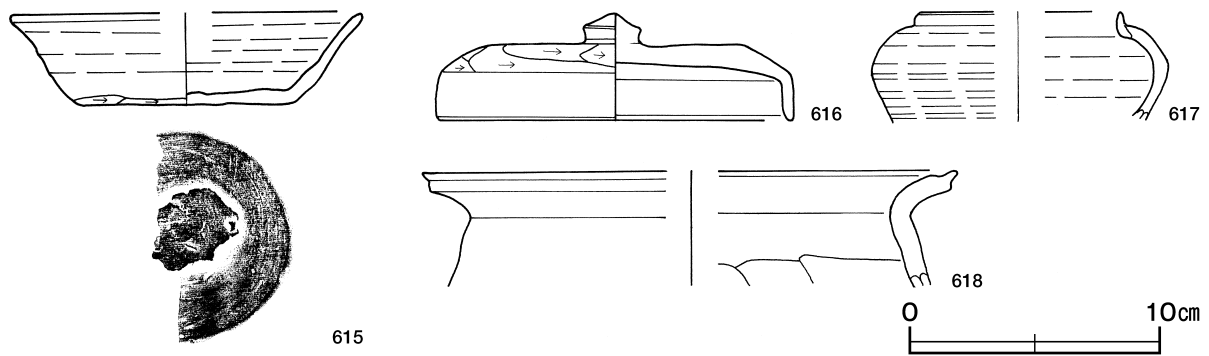
竈 北壁寄りの床面から焼土が確認されており，北壁の中央部に付設されていたと想定される。

ピット 2か所。P1は深さ16cmで，南壁際の中央部付近に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P2の性格は不明である。

覆土 11層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。



第366図 第2160号住居跡実測図



第367図 第2160号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片340点(坏52, 甕類288), 須恵器片94点(坏51, 高台付坏2, 蓋3, 盤1, 壺1, 甕類36)のほか, 混入した石核1点, 灰釉陶器片1点, 陶器片7点, 磁器片1点, 瓦片1点, 不明鉄製品2点も出土している。615・618は南西コーナー寄りの覆土下層, 616は中央部の床面から出土し, 住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また, 617が西壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第2160号住居跡出土遺物観察表(第367図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
615	須恵器	坏	(13.8)	3.6	(8.4)	長石・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土下層	50%
616	須恵器	蓋	14.0	4.2	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	床面	95% PL168
617	須恵器	短頸壺	[8.0]	(4.3)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	覆土上層	10%
618	土師器	甕	[20.6]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	5%

第2166号住居跡(第368・369図)

位置 調査区南部のD12d2区, 標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2081号住居, 第350・394号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.27m, 短軸5.06mの方形で, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は6~25cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が踏み固められている。北東コーナーから東・西壁の壁下には, 幅12~16cm, 深さ5~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が一部に巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部が第350号掘立柱建物のP9・P10に掘り込まれており, 焚口部から煙道部まで138cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面を浅く皿状に掘りくぼめており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |

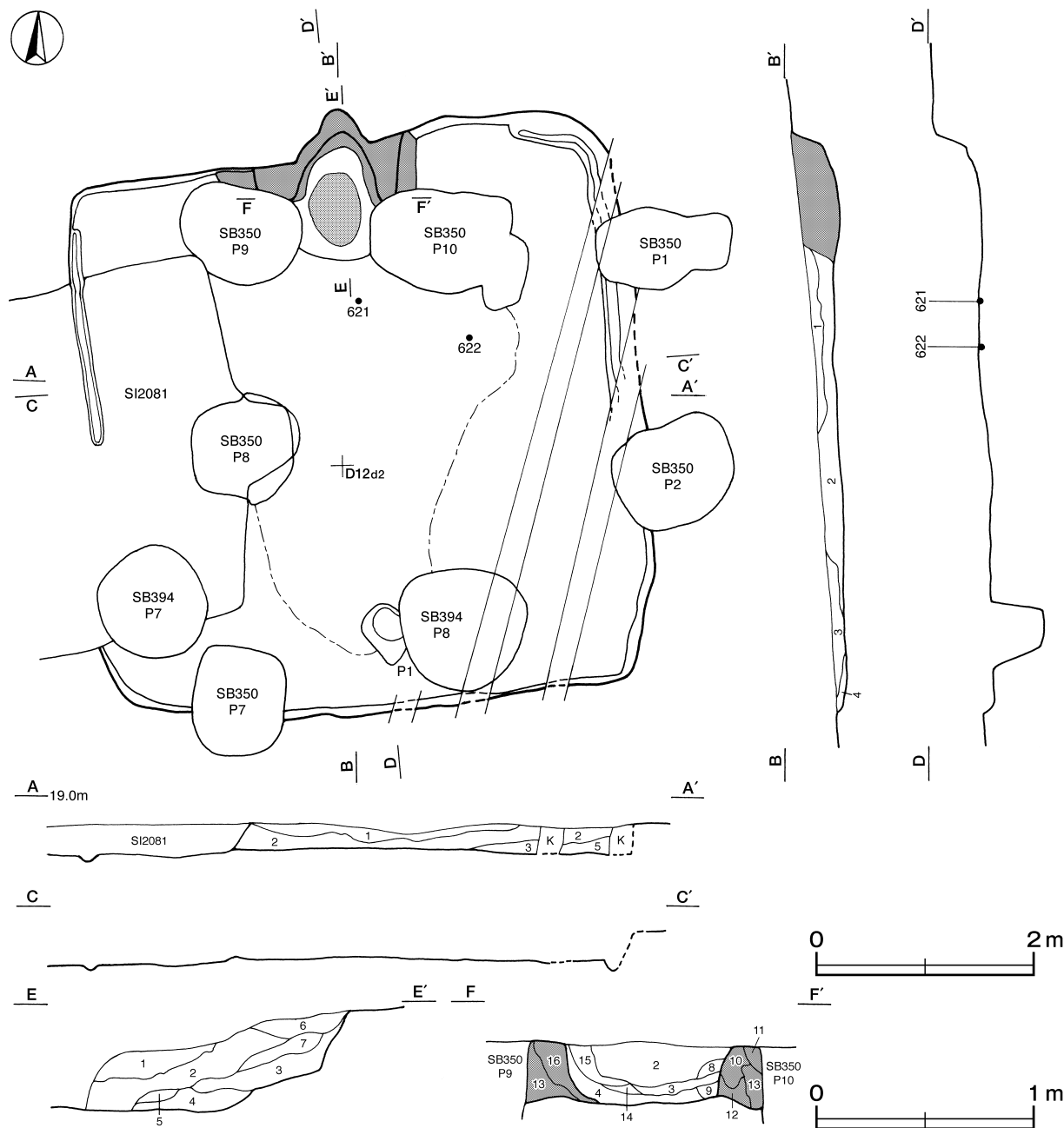
- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 7 極暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 12 赤褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子中量 |
| 8 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 13 灰褐色 砂質粘土粒子多量 |
| 9 赤黒色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 14 赤黒色 砂質粘土粒子少量 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 10 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 褐灰色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 11 にぶい褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量 | 16 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |

ピット 深さ34cmで、竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

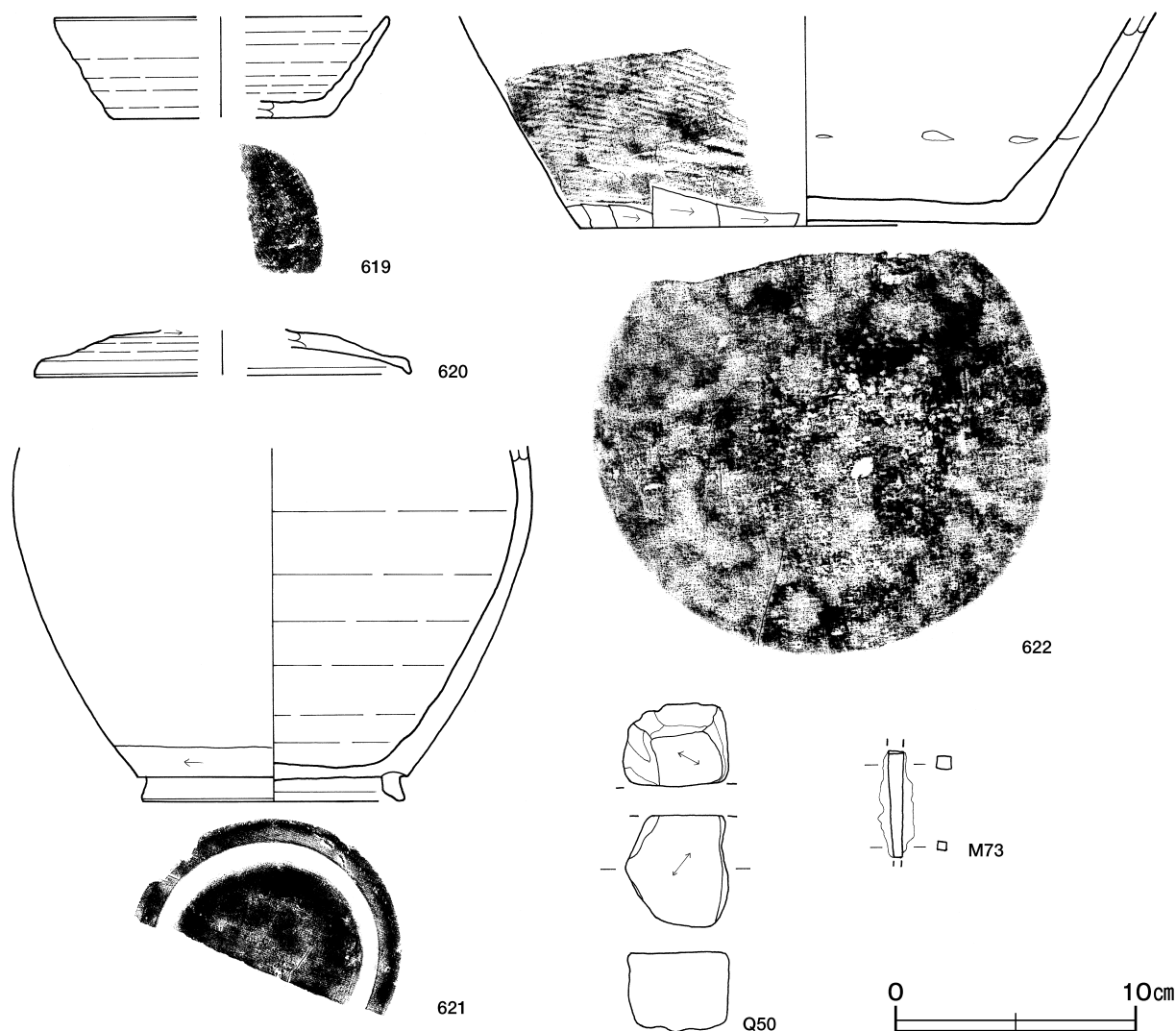
覆土 5層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化材微量 | 4 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| | 5 褐灰色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |



第368図 第2166号住居跡実測図



第369図 第2166号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片130点(坏5 , 甕類125) , 須恵器片39点(坏21 , 蓋9 , 提瓶1 , 甕類8) , 石器1点(砥石) , 鉄製品1点(鎌カ) が出土している。その他 , 混入した陶器片1点も出土している。622は北東部床面 , 621は竈前面の床面からそれぞれ出土しており , 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。619・620は南西部の覆土からそれぞれ出土しており , 細片であることから住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。Q50は南東部の覆土 , M73は覆土からそれぞれ出土している。

所見 時期は , 出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2166号住居跡出土遺物観察表 (第369図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
619	須恵器	坏	[13.6]	4.2	[8.8]	長石・石英・雲母	浅黄	不良	体部内外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土	25%
620	須恵器	蓋	[15.4]	(1.9)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土	60%
621	須恵器	壺	-	(14.5)	10.8	黒色粒子	浅黄橙	良好	体部内外面口クロナデ 体部下端ヘラ削り 底部切り離し後高台貼り付け	床面	30%
622	須恵器	甕	-	(8.7)	19.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位平行叩き 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪槽痕	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	砥石	(4.6)	(4.3)	3.4	93.6	凝灰岩	砥面2面 断面長方形 他は破断面	覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M73	鎌カ	(4.5)	0.6	0.3~0.5	(10.3)	鉄	頭部欠損 断面方形	覆土	

第2167号住居跡 (第370・371図)

位置 調査区中央部のB12h1区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2176号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.55m、短軸3.03mの長方形で、主軸方向はN - 1° - Eである。壁高は28~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から北東コーナー際にかけて踏み固められている。壁下には幅7~12cm、深さ6~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで96cm、袖部幅122cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。煙道部は耕作による攪乱を一部受けており、壁外に36cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっているのが確認された。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子・灰少量、ロームブロック微量 |
| 2 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |

ピット 深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

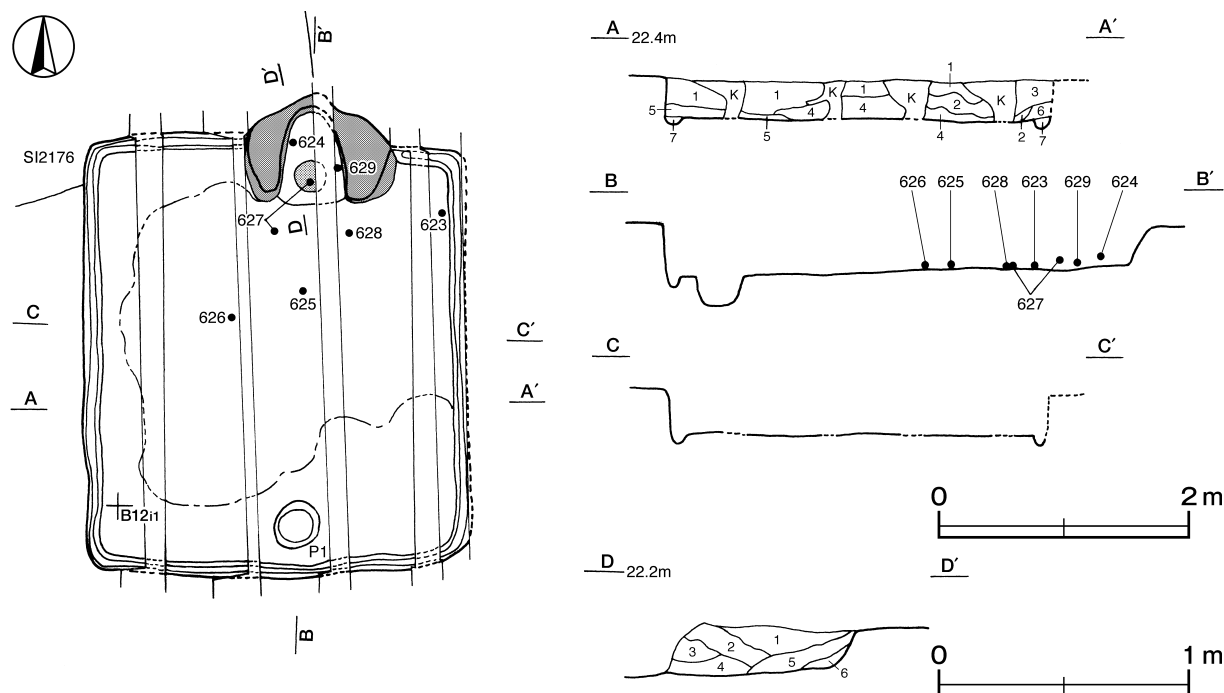
覆土 7層に分けられる。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

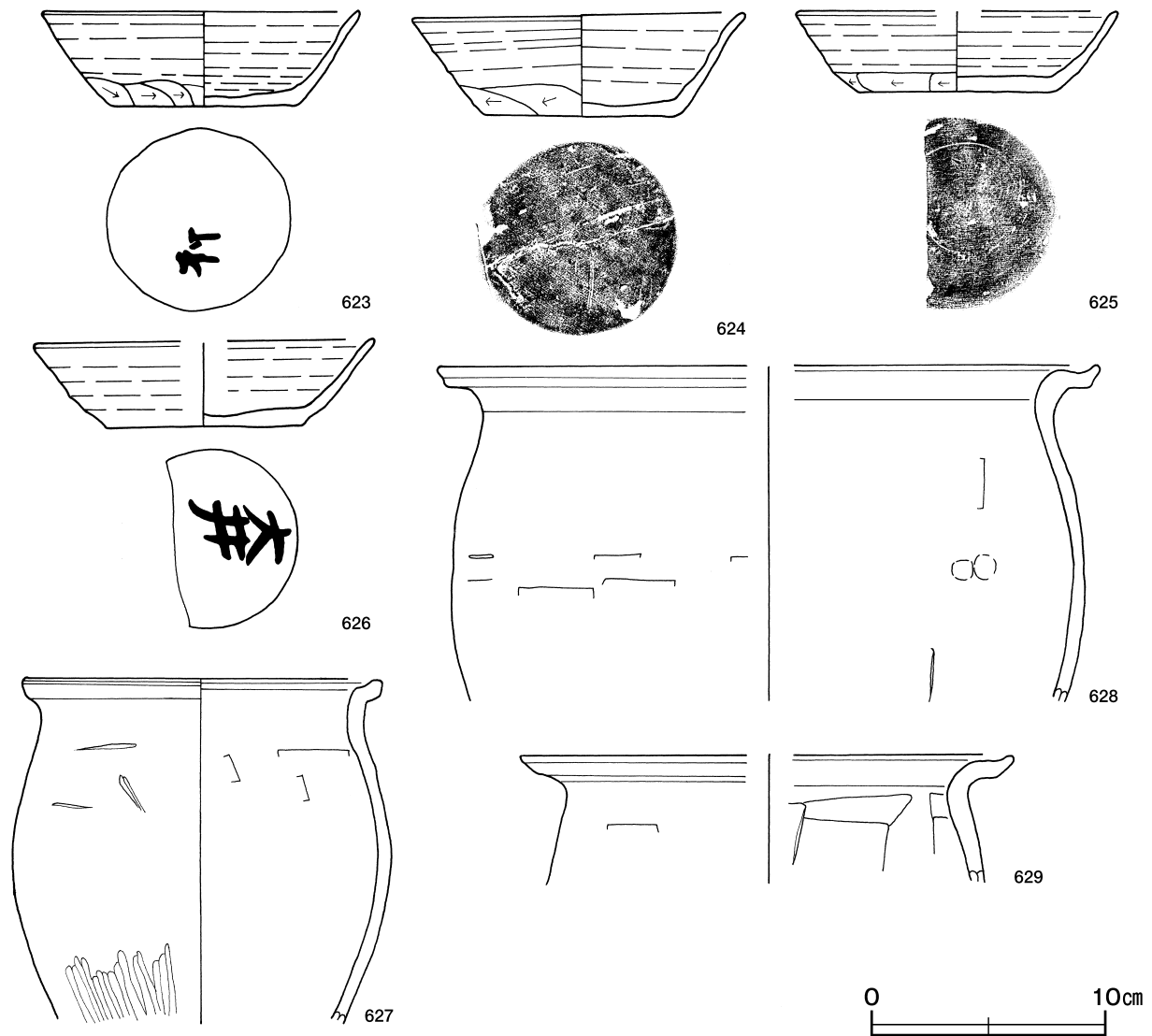
- | | | | |
|-------|----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片402点(坏28, 甕類374), 須恵器片132点(坏89, 蓋3, 甕類40), 土製品1点(支脚)のほか、混入した埴輪片1点, 土師器片3点(高坏), 鉄製品2点(釘, 不明), 銅製品1点(不明), 陶器片7点, 磁器片2点も出土し、主に竈とその周辺を中心に出土している。624・629は竈の覆土下層, 627は竈の覆土中層と竈前の床面, 623は東壁際の床面から出土し、時期判定の指標となる遺物である。625・626・628はいずれも中央部の床面から出土し、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第370図 第2167号住居跡実測図



第371図 第2167号住居跡出土遺物実測図

第2167号住居跡出土遺物観察表（第371図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
623	須恵器	坏	13.3	4.1	7.8	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 二方向の手持ちヘラ削り	床面	100% 墨書「カ」 PL161 PL188
624	須恵器	坏	14.0	4.4	8.2	長石・雲母	灰黄褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 二方向の手持ちヘラ削り	竈覆土下層	85% PL161
625	須恵器	坏	[13.6]	3.4	8.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	45%
626	須恵器	坏	[14.2]	3.5	[8.2]	長石・雲母・黒色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後多方向の手持ちヘラ削り	床面	20% 底部墨書「大井」カ
627	土師器	甕	15.0 (14.6)	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ下位ヘラ磨き内面ヘラナデ	竈覆土中層・床面	30%
628	須恵器	甕	[28.0](14.2)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ・指頭痕	床面	10%
629	土師器	甕	[21.0](5.4)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ	竈覆土下層	5%

第2179号住居跡（第372・373図）

位置 調査区西部のC10h7区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2532・2555・2563号土坑に掘り込まれている。

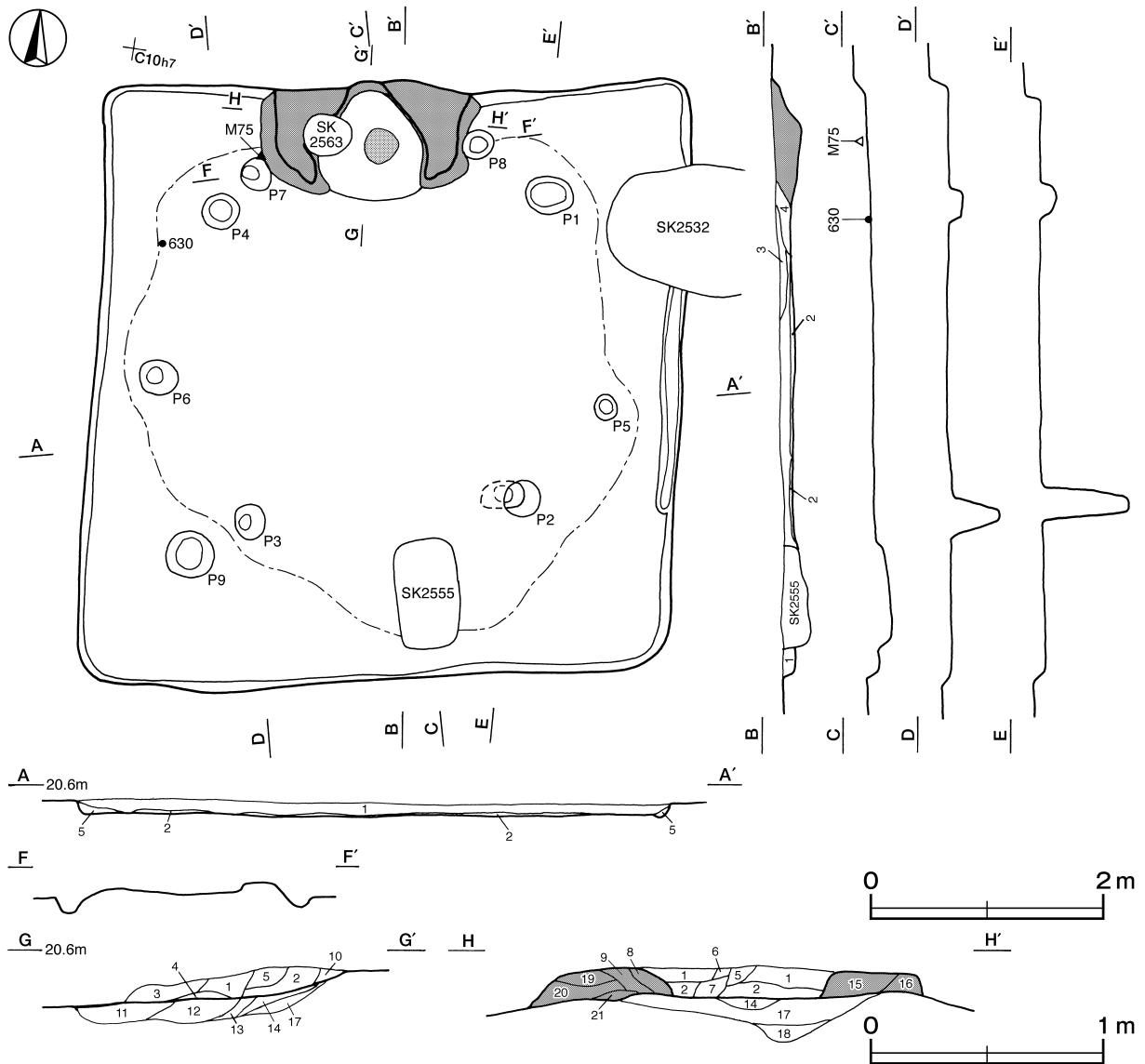
規模と形状 長軸5.04m，短軸5.01mの方形で，主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は10～15cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、各コーナー部を除いて踏み固められている。東壁下には、幅20cm、深さ3cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

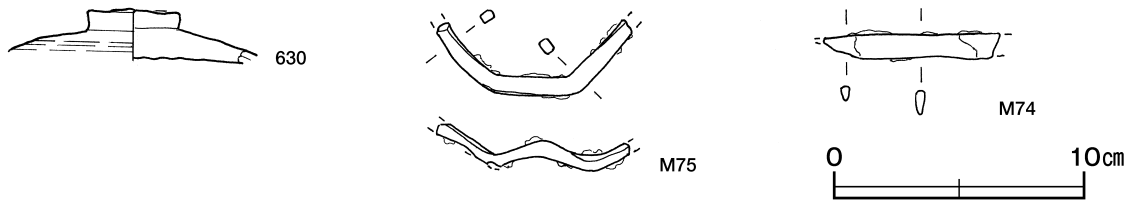
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで102cm、袖部幅184cmであり、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は、床面を18cm掘りくぼめた後に床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 13 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 16 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 18 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 19 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 20 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 21 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 11 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |



第372図 第2179号住居跡実測図



第373図 第2179号住居跡出土遺物実測図

ピット 9か所。P1～P4は主柱穴で、深さは12～78cmである。P5は東の壁際の中央部、P6は西壁際の中央部に位置していることから、ともに棟持柱的な柱穴と考えられる。P7は深さ15cm、P8は深さ10cmで、両袖部外側に位置していることから、竈に関連する施設に伴うピットの可能性が考えられる。P9の性格は不明である。

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | | 5 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化材・ロームブロック微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片379点（坏46，甕類333），須恵器片70点（坏33，蓋15，甕類22）が散在した状態で出土しているが、いずれも細片である。630は北西部の床面，M75は竈袖部左側の覆土中層から出土しており、いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，M74は竈の覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器および重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。

第2179号住居跡出土遺物観察表（第373図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
630	須恵器	蓋	(9.7)	(2.0)	-	長石・石英・雲母	浅黄	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M74	刀子	(7.0)	1.3	0.4	(8.2)	鉄	茎部欠損 断面三角形	覆土中層	
M75	不明	(7.8)	(3.5)	0.4	(16.6)	鉄	断面長方形 胴部はM字状に屈曲する	竈覆土	

第2180号住居跡（第374・375図）

位置 調査区北西部のA9i8区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.60m，短軸3.57mの方形で，主軸方向はN-55°-Eである。壁高は23～37cmで，外傾して立ち上がっており，東へ住居が拡張されている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北東部の一部を除いた壁下には，幅8～15cm，深さ3～13cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 竈1は北東コーナー部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで104cm，燃烧部幅53cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として砂質粘土で構築されている。火床部は床面を掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ54cm掘り込まれ，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。竈2は北壁中央部に付設されている。煙道部は壁外へ64cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。両袖部や焚口部は確認されていない

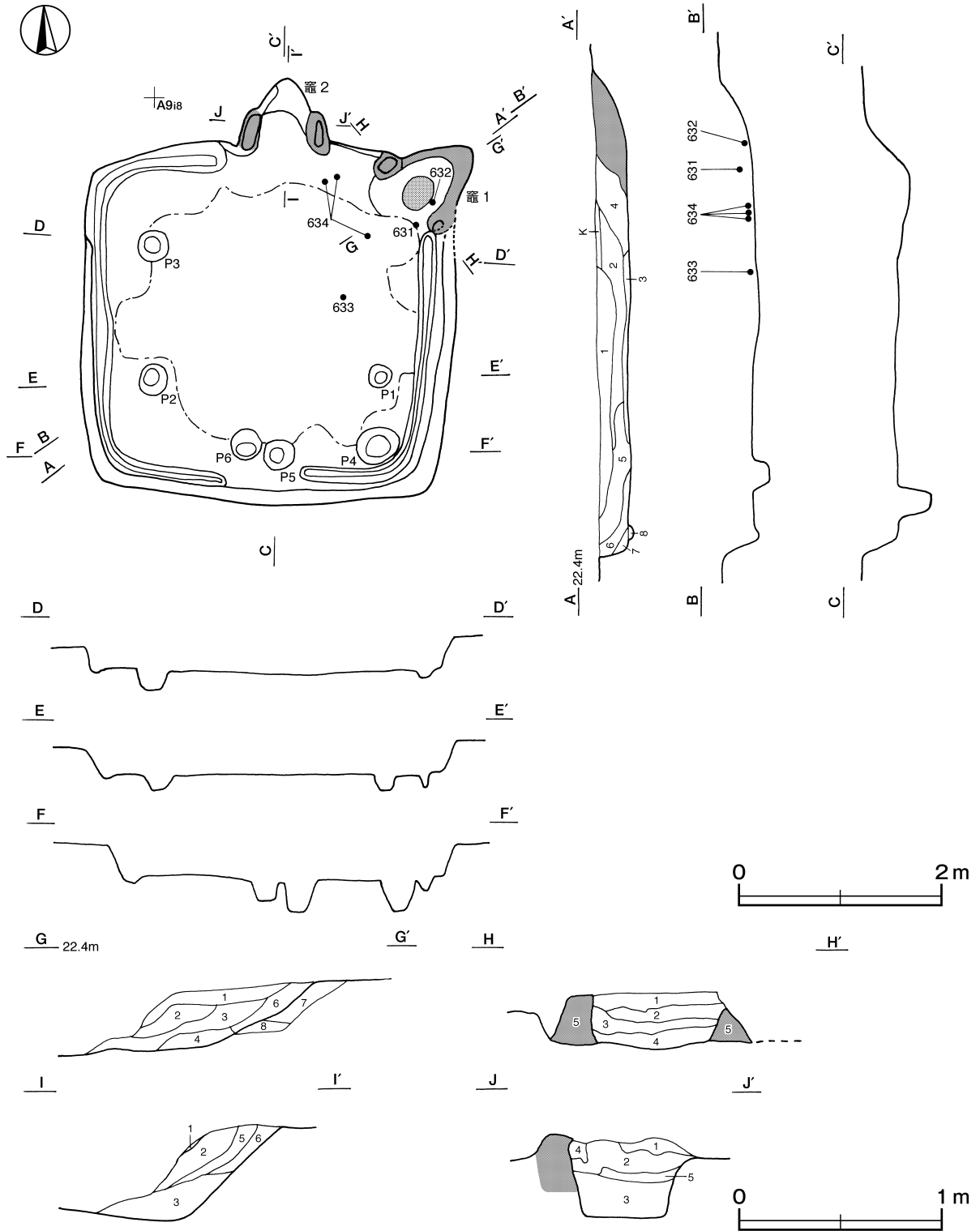
竈1土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |

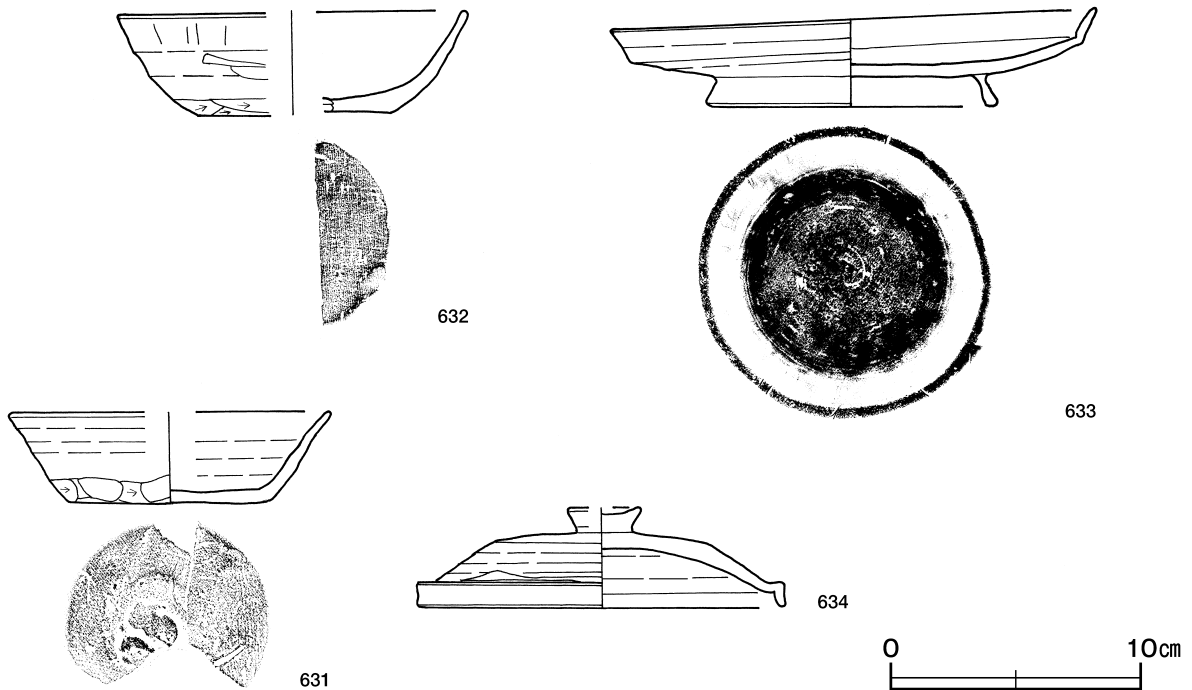
竈2土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量

- 4 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量



第374図 第2180号住居跡実測図



第375図 第2180号住居跡出土遺物実測図

ピット 6か所。各柱穴の堆積状況から2時期に分けることが可能で、レンズ状に堆積したP1・P6と、柱痕のあたりがみられるP2・P3・P5の2群である。竈の作り替えに伴って柱穴の位置も変化したと想定すると、P2・P3は竈1が機能していた時期の主柱穴、P5は出入口施設に伴うピットであり、深さは18cm, 20cm, 34cmである。P1・P2は竈2が機能していた時期の主柱穴、P6は出入口施設に伴うピットであり、深さは18cm, 18cm, 22cmである。P4の性格は不明である。

覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片391点(坏3, 甗類386, 甑2), 須恵器片100点(坏84, 高台付坏3, 蓋6, 高盤1, 甗類6), 粘土塊2点のほか, 混入した古墳時代の土師器片29点も出土している。P5・P6と竈とを結ぶ線上に集中しており, 壁際からの出土は希薄である。633はつぶれた状態で床面からやや浮いて出土している。632は火床部上から破損した状態で出土していることから, 住居廃絶時に破棄されたものと考えられる。また, 631・634は覆土中層や離れて出土した破片が接合していることから, 住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。壁面に片寄った柱穴の配置状況から2主柱穴形式であり, 竈2が機能していた時期の屋根構造は西側に寄った片屋根, 竈1が機能していた時期の屋根構造は南側に寄った片屋根であった可能性が高い。

第2180号住居跡出土遺物観察表(第375図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
631	須恵器	坏	[12.6]	3.7	8.1	石英・雲母	褐灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	覆土中層	50%
632	須恵器	坏	[13.6]	4.0	[7.7]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	火床部上	30%
633	須恵器	盤	19.2	4.0	11.3	石英・雲母	褐灰	普通	坏部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	90% PL167
634	須恵器	蓋	14.5	4.0	-	石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け 内外面ロクロナデ 後手持ちヘラ削り つまみ径[3.0]cm つまみ高1.0cm	覆土中層	90% PL168

第2181号住居跡（第376・377図）

位置 調査区西部のC10h0区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第38号地下式竈，第124号溝，第15号不明遺構に掘り込まれている。

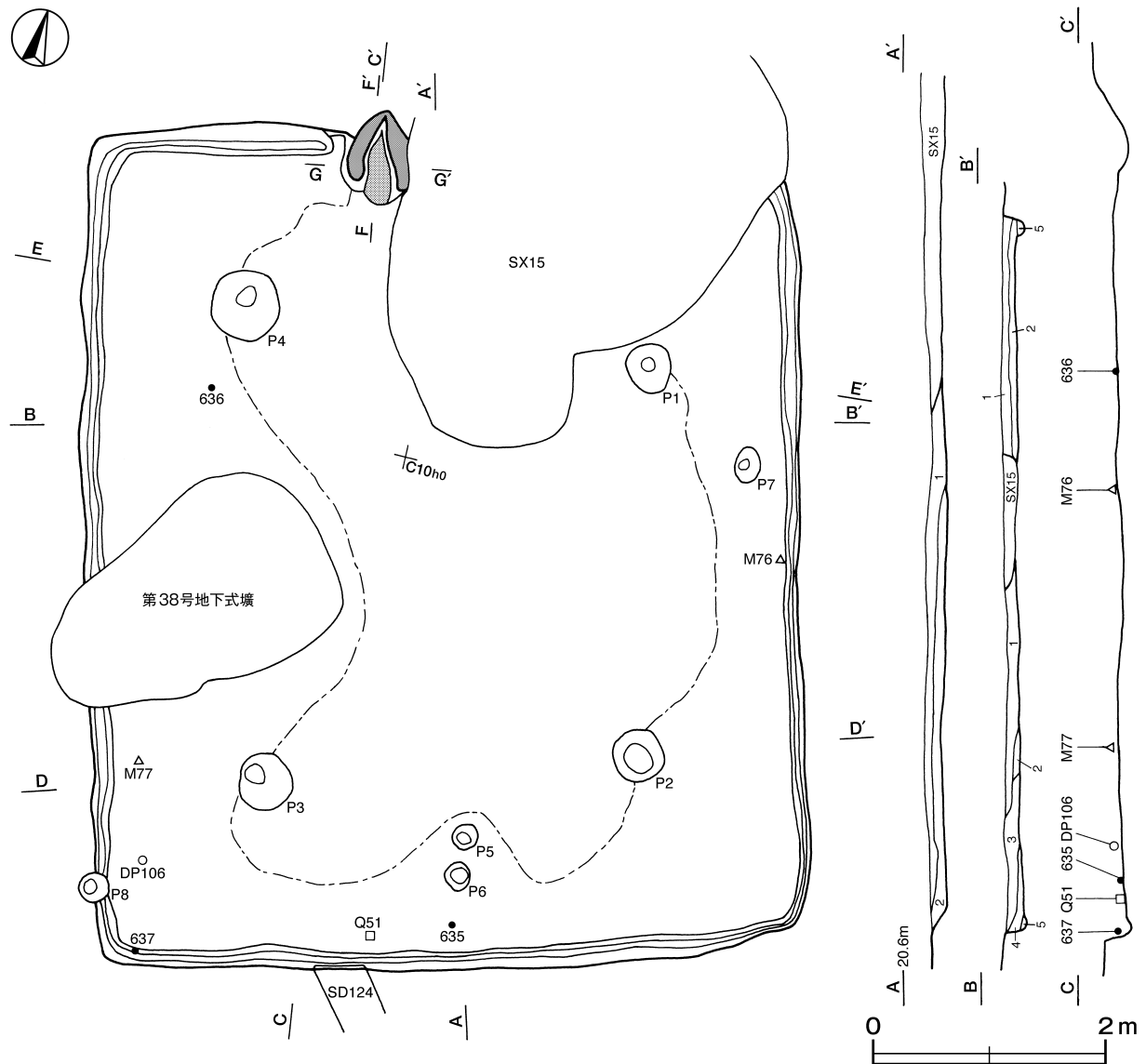
規模と形状 長軸7.21m，短軸6.07mの長方形で，主軸方向はN - 12° - Wである。壁高は7～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～15cm，深さ4～8cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

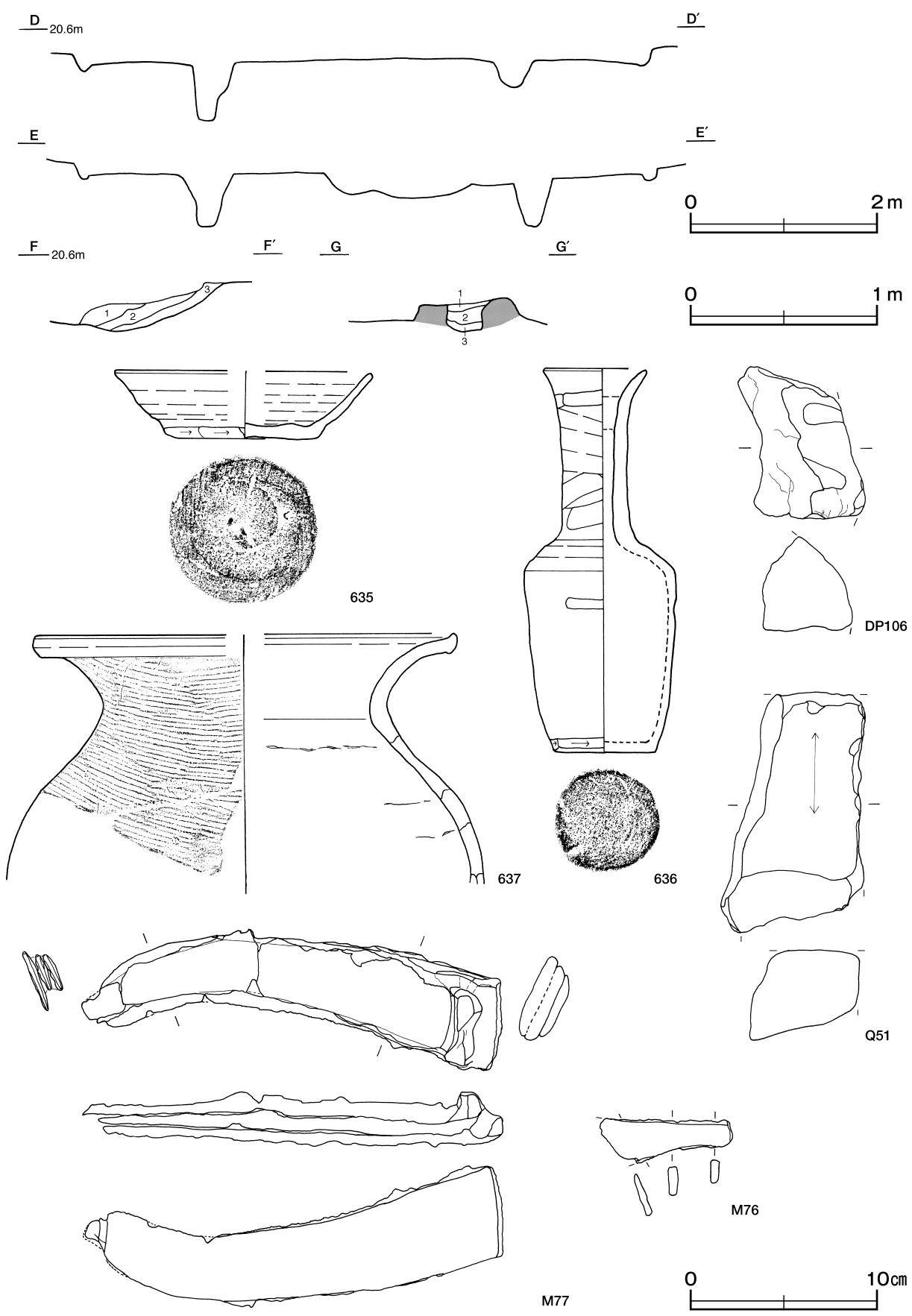
竈 北壁やや西寄りに付設されており，右袖部が第15号不明遺構に掘り込まれている。規模は，焚口部から煙道部まで81cm，袖部推定幅56cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床面は床面を若干掘りくぼめられ，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ，火床面から緩やかに外傾した後，急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量



第376図 第2181号住居跡実測図



第377图 第2181号住居跡・出土遺物実測図

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さは30～57cmである。P5・P6はそれぞれ深さ14cmと47cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8の性格は不明である。

覆土 5層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示しているが、薄いため詳細は不明である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量	4	褐色	ローム粒子中量
2	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量，粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片1083点(坏33，蓋1，甕類1045，甑4)，須恵器片440点(坏231，高台付坏5，蓋27，高盤1，高台付甕1，壺1，瓶類1，甕類167，甑6)，灰釉陶器片4点(壺類2，瓶類2)，土製品1点(支脚)，石器1点(砥石)，鉄器5点(刀子1，鎌1，鎌3)，粘土塊14点のほか、混入した古墳時代の土師器片95点も出土している。635は南壁際の床面，637は南西コーナー部の覆土下層から出土しており、住居廃絶後まもなく廃棄されたものと考えられる。636はP4付近の床面から完形の状態で出土していることから、遺棄されたものと考えられる。DP106は南西コーナー部の覆土下層，Q51は南壁際の床面，M76は東壁際の床面から出土している。M77は西壁際の床面から、柄から離された3挺の曲刃鎌が向きを合わせ重ねられた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。636は平城宮跡土器分類の中の壺Gと呼ばれているもので、都城を中心とした出土例が多い。県内出土例は、石岡市鹿の子遺跡第7号住居跡、石岡市鹿の子C遺跡第142号住居跡、水戸市梶内遺跡第29号住居跡などが知られている。M77は『茨城県教育財団文化財調査報告』第174集に従って分類すると、「雑草木除伐鎌」である大形鎌二挺と「根刈り鎌」である中形鎌一挺になる。同様な状況の出土例は、神奈川県秦野市草山遺跡第48号住居跡、東京都八王子市多摩ニュータウンNo.769遺跡第22号住居跡などがある。これらの遺物から、有力単位集団の中心的な人物が居住していたと考えられる。

第2181号住居跡出土遺物観察表(第377図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
635	須恵器	坏	[13.7]	3.6	7.9	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	50%
636	須恵器	壺	5.4	20.5	5.3	石英	灰白	良好	頸部・体部外面口クロナデ後一部ナデ 体部下 端手持ちヘラ削り 底部糸切り後ヘラ削り	床面	100% PL179
637	須恵器	甕	[22.4]	(13.3)	-	石英・雲母	灰白	普通	体部外面横位平行叩き 内面体部ナデ 輪積痕	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP106	支脚	(8.0)	(6.7)	(4.9)	(173.5)	立長石・石英・炭化粒子・雲母	ナデ 底面以外は破断面 断面から円柱型と考えられる	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q51	砥石	(12.8)	(7.7)	(4.7)	(573.8)	雲母片岩	砥面1面 他は破断面	床面	PL195

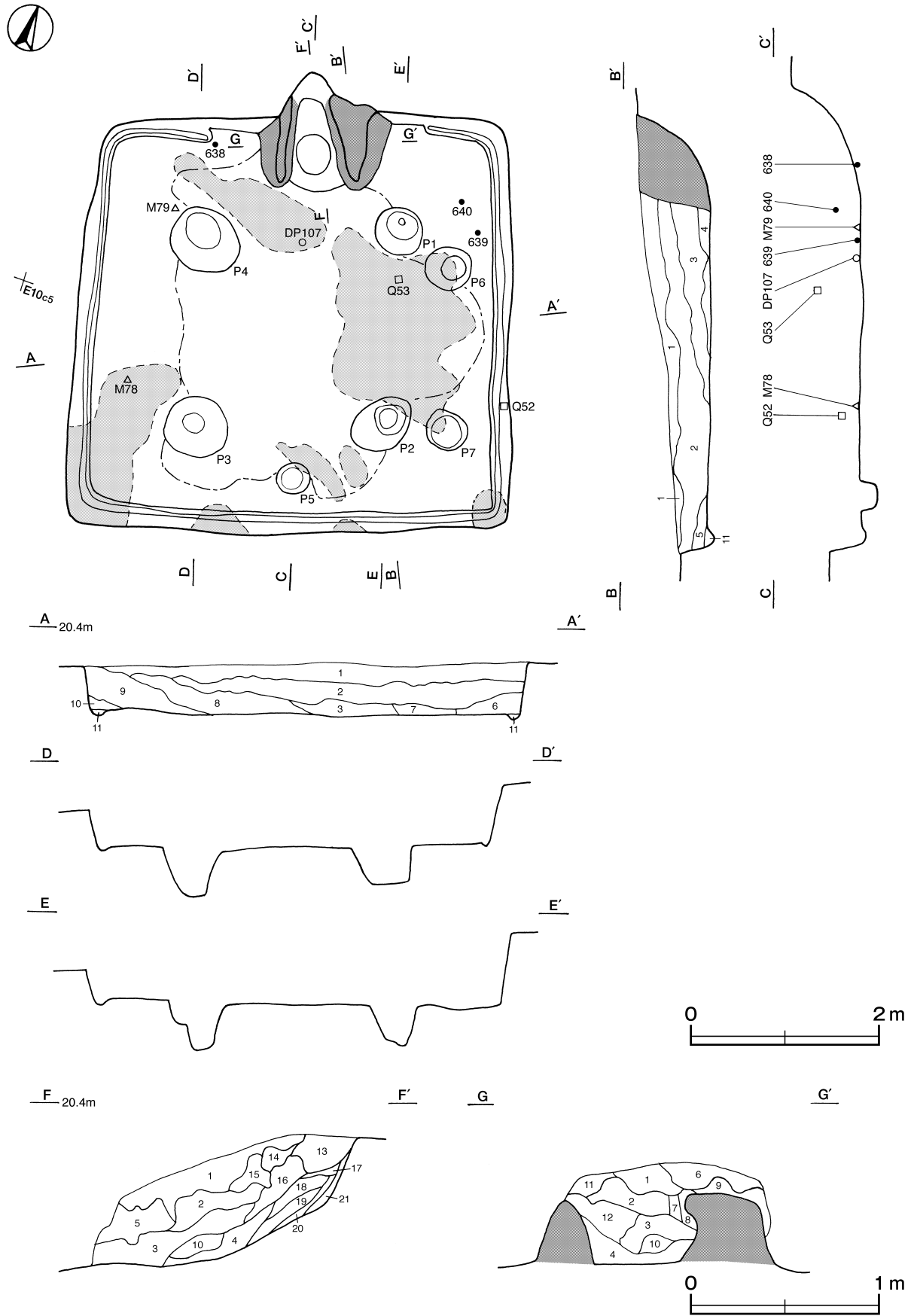
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M76	刀子	(7.1)	2.3	0.4	16.9	鉄	刃先・茎部欠損	床面	
M77	鎌A	(19.4)	1.5~3.1	0.4	総重量 (308.7)	鉄	3挺が錆によって付着している 先端部欠損	床面	上面 PL196
	鎌B	(20.1)	1.6~3.5	0.4			3挺が錆によって付着している 先端部欠損	床面	中面 PL196
	鎌C	(21.0)	2.6~4.7	0.6			3挺が錆によって付着している 先端部欠損	床面	下面 PL196

第2190号住居跡(第378・379図)

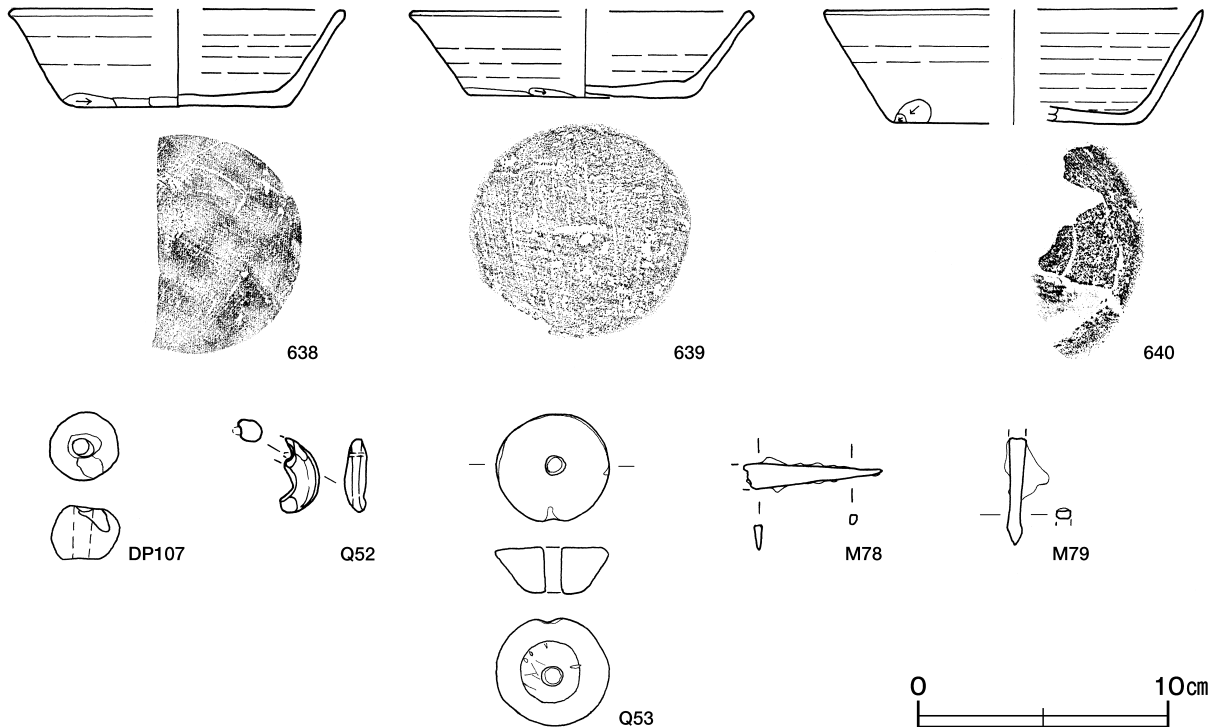
位置 調査区南西部のE10b5区，標高18.5mほどの南への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸4.57m，短軸4.41mの方形で，主軸方向はN-15°-Wである。壁高は38～75cmで，外傾し

て立ち上がっている。



第378図 第2190号住居跡実測図



第379図 第2190号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、中央部及びP1・P2の間が踏み固められている。壁下には、幅10～14cm、深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。中央部の西側を除いた範囲に、壁際の中層から中央部の床面へと傾斜して堆積した焼土層が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで128cm、袖部幅137cmで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ46cm掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。第2層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 13 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 15 黒褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 16 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 17 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック微量 | 18 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 8 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 19 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 焼土粒子少量 | 20 暗褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 10 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 21 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 11 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | |

ピット 7か所。P1～P4は支柱穴で、深さは42～53cmである。P5は深さ21cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の深さは、23cmと24cmで、P1とP2にそれぞれ平行に位置しており、床の硬化面などから施設の存在が想定されるが明確ではない。

覆土 11層に分けられる。第2層まで埋められ、その後くぼ地へ表土が流入して、住居が埋没した堆積状況と考えられる。また、壁際から床面に傾斜して広がる焼土は第2・7・9層に含まれる。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物・粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 8 黒色 ローム粒子少量, 炭化物・粘土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量 | |
| 5 黒色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | |

- 9 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 10 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 11 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片657点(甕類655, 甌2), 須恵器片155点(坏109, 高台付坏1, 蓋5, 高盤3, 瓶類5, 甕類32), 土製品2点(球状土錘, 羽口), 石製品2点(勾玉, 紡錘車), 鉄器・鉄製品2点(刀子, 釘), 鉄滓1点のほか, 混入した古墳時代の土師器片157点も出土している。638は竈左脇の床面, 639は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており, 廃絶時に廃棄されたと考えられる。640は東壁際の覆土中層から下層にかけて破損した状態で出土しており, 廃絶後に投棄されたと考えられる。また, Q52は東壁際の覆土下層, DP107は中央部北寄り, M78は西部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。住居内の覆土下層から床面にかけて堆積している焼土は, くぼ地となった住居内に堆積した状況を示しており, 廃絶後時間が経てからの焼失と考えられる。

第2190号住居跡出土遺物観察表(第379図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
638	須恵器	坏	[13.0]	3.9	8.5	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	床面	45%
639	須恵器	坏	[13.2]	3.5	8.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	覆土下層	60%
640	須恵器	坏	[15.0]	4.5	[9.8]	長石・雲母	黄橙	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層~下層	35%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP107	球状土錘	2.2	2.7	0.6	15.3	土(長石・雲母・小礫)	一方向からの穿孔 ナデ	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q52	勾玉	(2.9)	1.1	0.9	(5.1)	花崗岩	頭部欠損 外面研磨 大きく円形に掘り窪めた後に孔を開けている	覆土下層	PL192

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q53	紡錘車	4.5	1.8	0.8	37.3	粘板岩	円錐台形	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M78	刀子	(5.5)	1.0	0.4	(5.0)	鉄	刃部欠損	床面	
M79	釘	(4.2)	0.7	0.4	(5.4)	鉄	下端部は三角錐状を呈する 断面長方形 頭部欠損	床面	

第2208号住居跡(第380・381図)

位置 調査区南西部のD10i3区, 標高19mほどの南東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2044・2209号住居跡を掘り込んでいる。

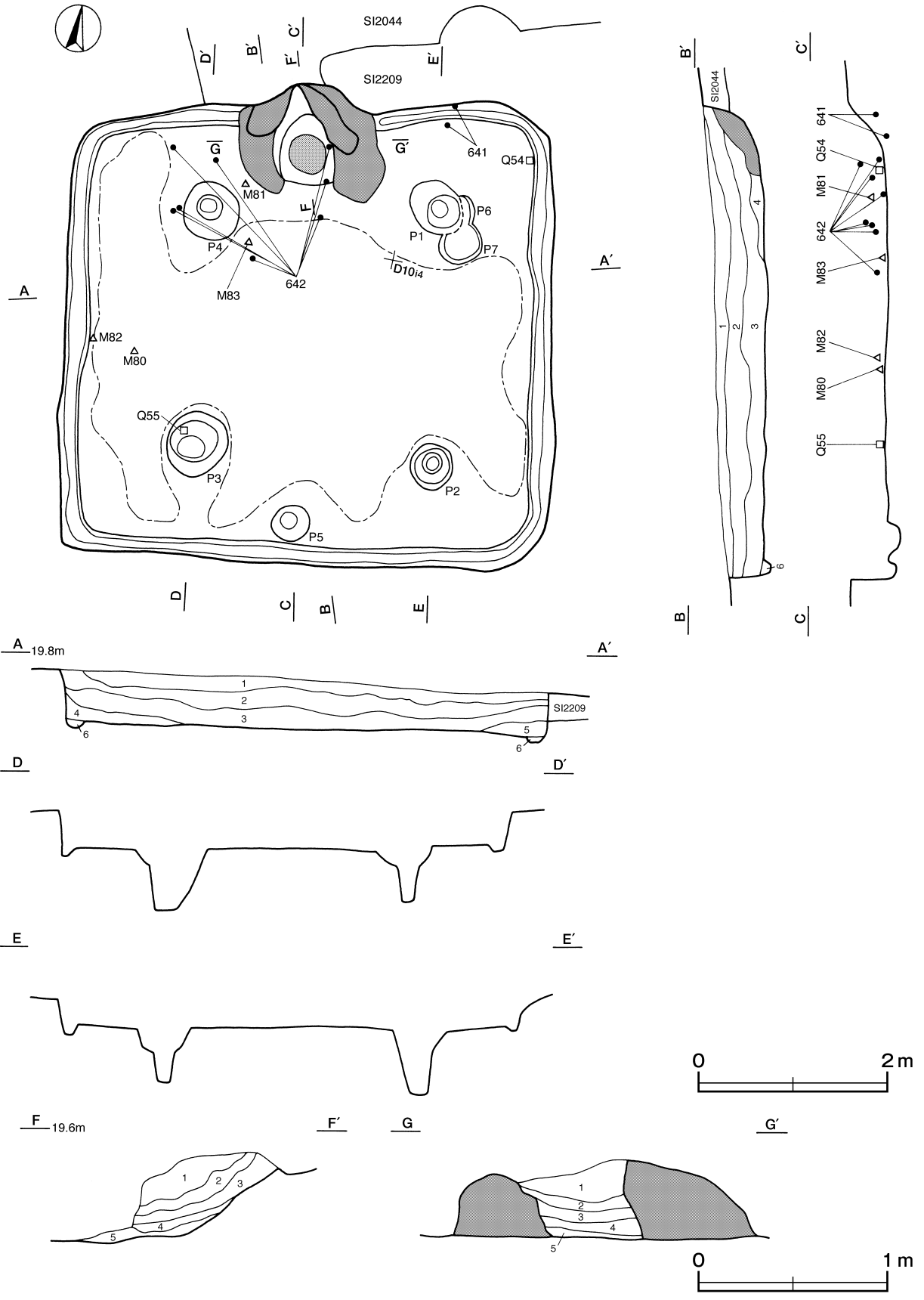
規模と形状 長軸5.11m, 短軸4.78mの方形で, 主軸方向はN-11°-Wである。壁高は25~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には, 幅7~18cm, 深さ4~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

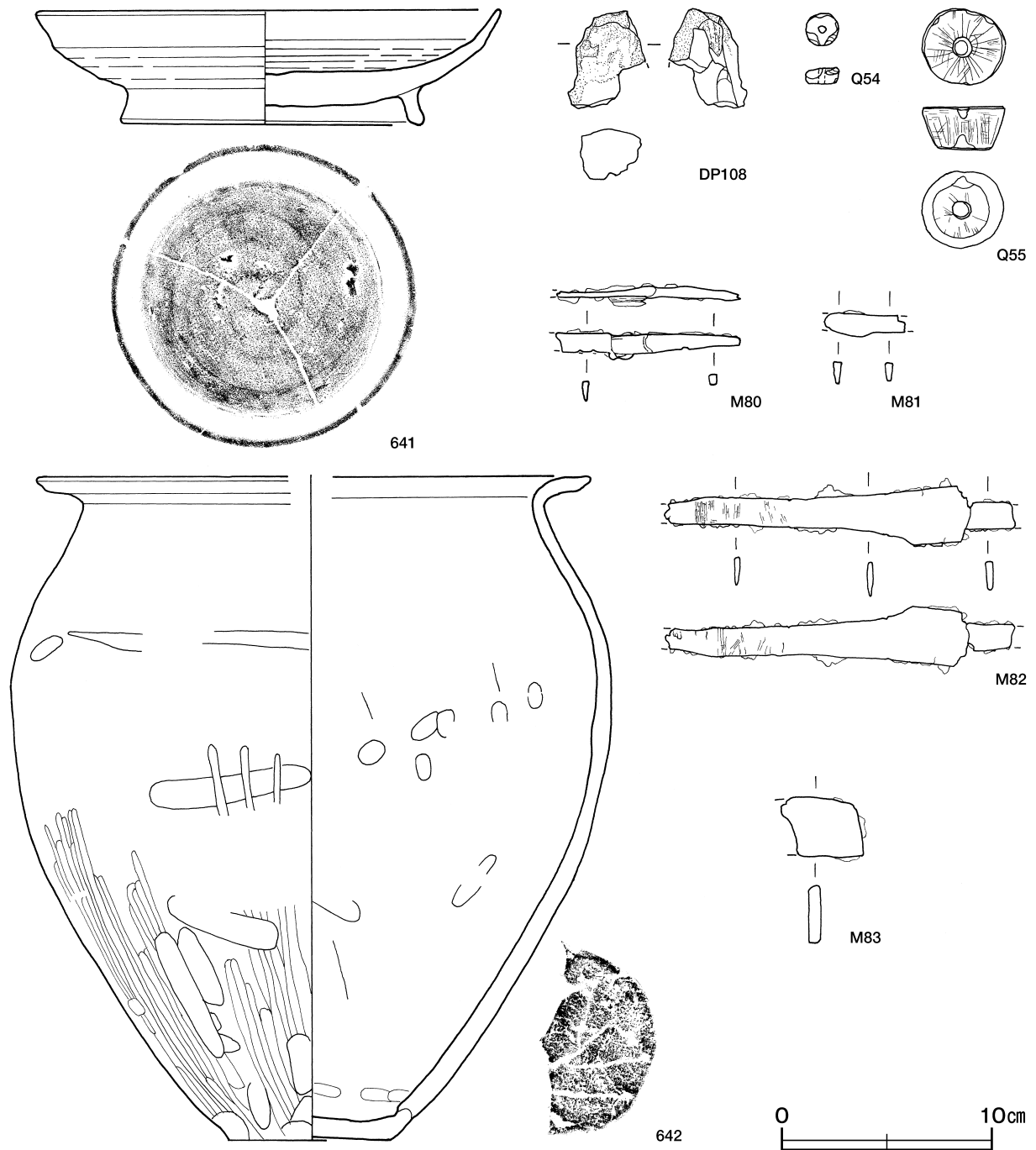
竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで108cm, 袖部幅149cmで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。第1・2層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- 1 灰褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量
- 2 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量
- 5 赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック少量



第380图 第2208号住居跡実測图



第381図 第2208号住居跡出土遺物実測図

ピット 7か所。P1～P4は支柱穴で、深さは55～65cmである。P5は深さ13cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片1224点(高台付坏1, 甕類1220, 甌3), 須恵器片556点(坏210, 高台付坏13, 盤2, 高盤4, 瓶類5, 甕類307, 甌15), 灰釉陶器片2点(壺類), 土製品2点(支脚, 羽口), 石製品2点(臼玉, 紡錘車), 鉄器4点(刀子3, 鎌1)のほか、混入した中世以降の陶器片1点も出土している。642は竈の覆土とP4周辺の覆土下層から出土しており、廃絶後に投棄されたと考えられる。641は北東部壁際の床面から出

土しており、廃絶に伴う廃棄と考えられる。M82は刃部に木質部が付着しており、西壁際の覆土下層から破損した状態で出土していることから、廃絶後に廃棄されたと考えられる。また、DP108が覆土上層、Q54は東壁際の覆土下層、Q55はP3の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2208号住居跡出土遺物観察表（第381図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
641	須恵器	盤	21.7	5.4	13.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	100% PL167
642	土師器	甕	[26.0]	31.4	7.6	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き・ヘラナデ 内面ナデ 底部木葉痕	覆土下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP108	羽口	(4.6)	(3.7)	(2.4)	(22.6)	土(長石)	先端部に鉄付着 一方向からの穿孔 ナデ	覆土上層	10%~20%

番号	器種	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q54	白玉	1.4	0.9	0.8	3.5	滑石	孔径0.3cm 全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q55	紡錘車	3.9	2.0	0.8	43.6	粘板岩	円錐台形 一方向からの穿孔 上面・側面に均等の間隔で線刻が施されている	P3覆土上層	PL194

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M80	刀子	(8.7)	0.9	0.4	(11.4)	鉄	刃部・茎部欠損	床面	
M81	刀子	(3.9)	1.2	0.4	(4.0)	鉄	刃部・茎部欠損	覆土中層	
M82	刀子	(16.6)	2.8	0.3	(2.3)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部に木質部残存	覆土下層	PL198
M83	鎌	(3.8)	2.8	0.6	(23.1)	鉄	茎部残存	覆土下層	

第2209号住居跡（第382図）

位置 調査区南西部のD10h4区、標高19mほどの南東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2044号住居跡を掘り込み、第2208号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.55m、短軸3.75mの長方形で、主軸方向はN-14°-Wである。東部に遺存している壁高は25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 遺存している部分は平坦で、踏み固められている。北壁東部の一部と確認された東壁の壁下には、幅14~20cm、深さ4~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設され、焚口部は第2208号住居に掘り込まれているため遺存していない。規模は、煙道部まで約100cm、袖部幅110cmで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ14cm掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。第1・2層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量 | 4 明赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 5 明赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量 | |

ピット 2か所。P1・P2は主柱穴で、深さはそれぞれ28cm、21cmである。

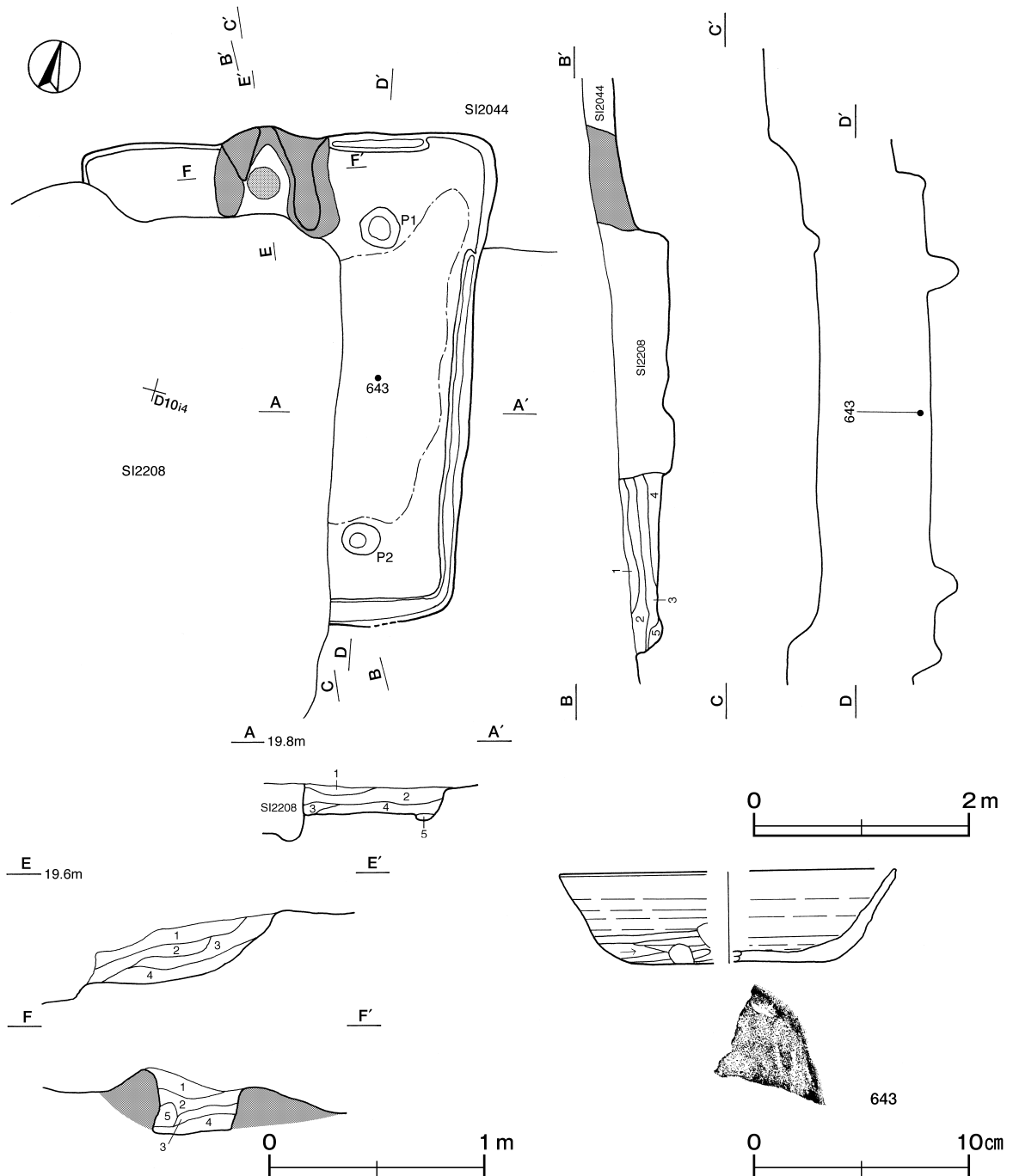
覆土 5層に分けられる。すべての層にロームブロックが多く含まれていることや締めりが強いことなどから、第2208号住居の壁として構築された層と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片149点（甕類），須恵器片20点（坏8，高台付坏2，甕類8，瓶類2）のほか，混入した古墳時代の土師器片8点も出土している。中央部の覆土下層から643が出土しており，廃絶後まもなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器や第2208号住居との重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第382図 第2209号住居跡・出土遺物実測図

第2209号住居跡出土遺物観察表（第382図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
643	須恵器	坏	[15.5]	4.2	[9.5]	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部切り離し後多方向ヘラ削り	覆土下層	25%

第2210号住居跡 (第383～385図)

位置 調査区南西部のD10j5区、標高19mほどの南東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2192号住居跡を掘り込んでいる。

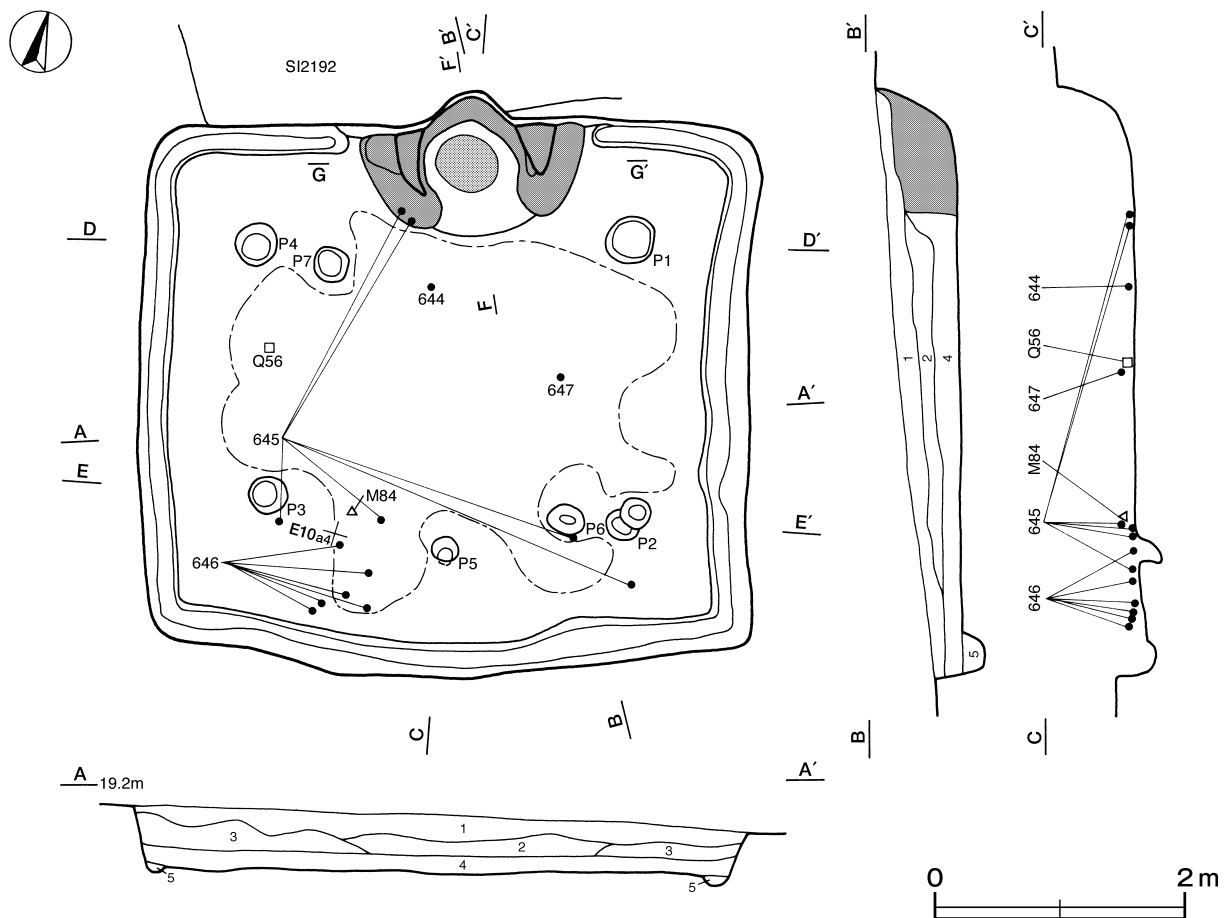
規模と形状 長軸4.83m、短軸4.42mの方形で、主軸方向はN - 17° - Wである。壁高は20～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅9～24cm、深さ6～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

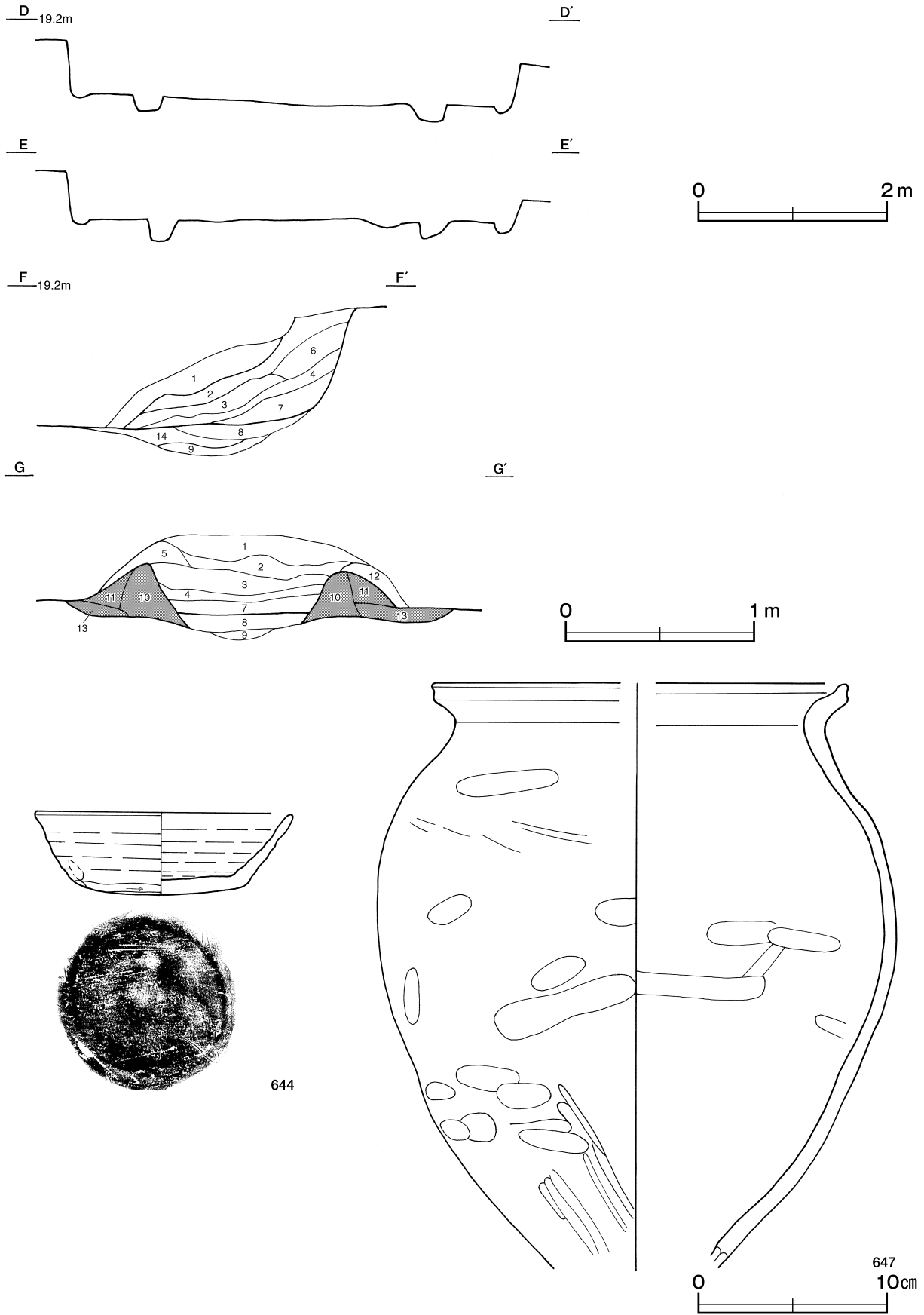
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで113cm、袖部幅170cmである。袖部は地山を掘り込み、砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を19cm掘りくぼめており、焼土に厚みがあることから、長期間使用されていたと考えられる。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ24cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。第4層は天井部の崩落土層である。

竈土層解説

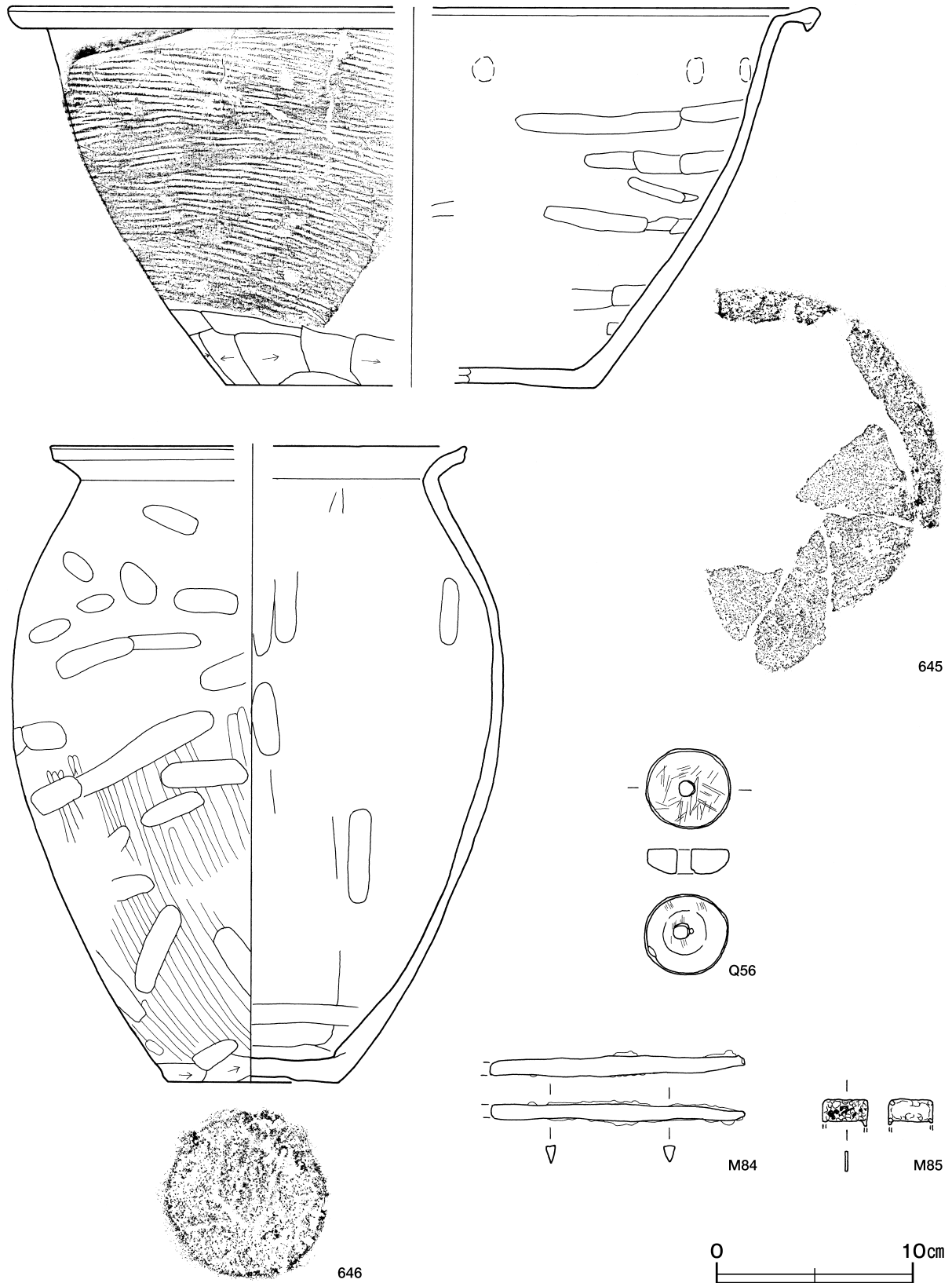
- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, 粘土ブロック少量 |
| 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 9 明赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 10 灰褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 12 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 7 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |



第383図 第2210号住居跡実測図



第384图 第2210号住居跡・出土遺物実測図



第385図 第2210号住居跡出土遺物実測図

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは15～24cmである。P5は深さ20cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は、位置関係から補助柱穴とも考えられるが、明確ではない。

覆土 5層に分けられる。第2～5層まで埋め戻された後、北から表土が流入したことにより自然堆積して埋没している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量 | 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| | | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片648点(甗類645,甗3),須恵器片272点(坏107,高台付坏7,蓋4,盤2,高盤4,鉢18,はそう1,壺類2,瓶類20,甗類92,甗15),灰釉陶器片2点(壺類),石製品1点(紡錘車),鉄器1点(刀子),銅製品1点(巡方)のほか,混入した古墳時代の土師器片122点も出土している。644は中央部の覆土下層から出土し,廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。645・646は散在しながら覆土第4層から出土していることから,廃絶してくぼ地となった本住居を埋める際に廃棄されたと考えられる。Q56, M84・M85も,同一層から出土している。

所見 時期は,出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第2210号住居跡出土遺物観察表(第384・385図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
644	須恵器	坏	13.5	4.3	8.6	長石・雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちへら削り 体部ナデ 底部回転へら切り後へら削り	覆土下層	95% PL161
645	須恵器	鉢	[40.6]	19.3	[18.5]	長石・石英・雲母	灰白	普通	内面ナデ 指頭痕	覆土下層	40%
646	土師器	甗	[20.8]	32.1	8.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へら磨き・へらナデ 内面ナデ 体部下端へら削り 底部木葉痕	覆土下層	35%
647	土師器	甗	[21.6]	[30.8]	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外面へらナデ・へら削り 内面ナデ	覆土下層	60% PL183

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q56	紡錘車	4.0	4.2	0.8	38.6	粘板岩	ドーム型 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M84	刀子	(12.7)	0.9	0.6	(14.4)	鉄	刃部切先・茎部端欠損	覆土下層	
M85	巡方	2.3	(1.2)	0.1	(1.9)	銅	裏面四隅に釘留め痕有り	覆土下層	漆塗付

第2233号住居跡(第386・387図)

位置 調査区北西部のB10h6区,標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2059号住居,第2925号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.82m,短軸3.45mの方形で,主軸方向はN-2°-Eである。壁高は14~41cmで,外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で,中央部が踏み固められている。確認された部分の壁下には,幅12~17cm,深さ3~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。右袖部は攪乱で壊されており,遺存する部分の規模は,焚口部から煙道部まで103cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり,火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ,火床部から外傾して立ち上がっている。第2・3・4・9層は,天井部の崩落層である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | 7 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量,ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 炭化物・焼土粒子少量,砂質粘土粒子微量 | 9 赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・灰少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 赤褐色 | 焼土粒子中量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは45～75cmである。P5は深さ29cm、P6は深さ30cmで、ともに竈と対峙する南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7の性格は不明である。

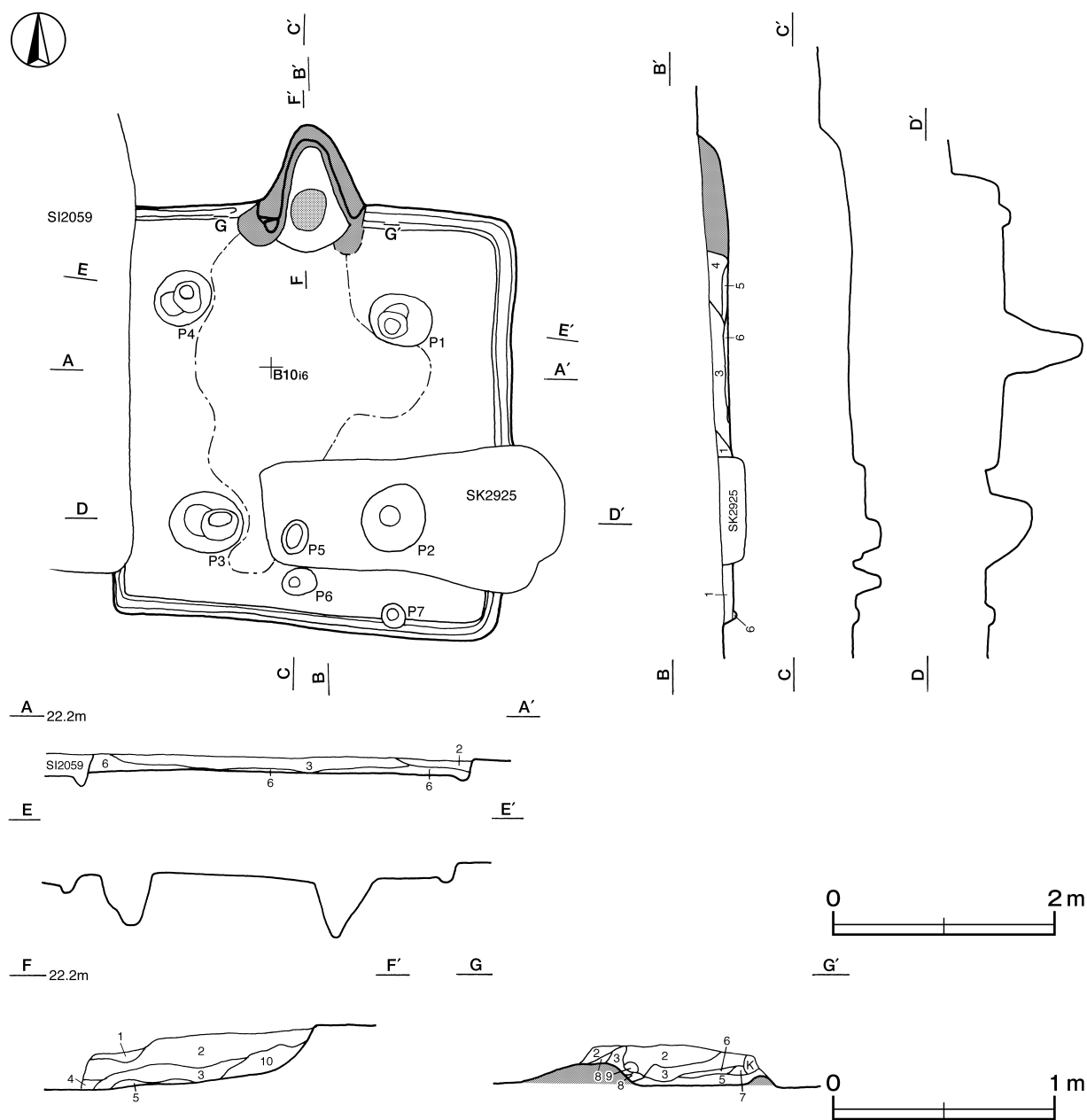
覆土 6層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 4 灰褐色 | ローム粒子中量 粘土粒子少量 焼土ブロック微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 | 5 灰褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片74点(坏10, 甗類64), 須恵器片12点(坏6, 蓋6)が散在した状態で出土している。また、混入した陶器片1点も出土している。648はP3と南西部の覆土から出土した破片が接合したものであり、柱が抜き取られた後に流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器および重複関係から8世紀前葉と考えられる。



第386図 第2233号住居跡実測図



第387図 第2233号住居跡出土遺物実測図

第2233号住居跡出土遺物観察表 (第387図)

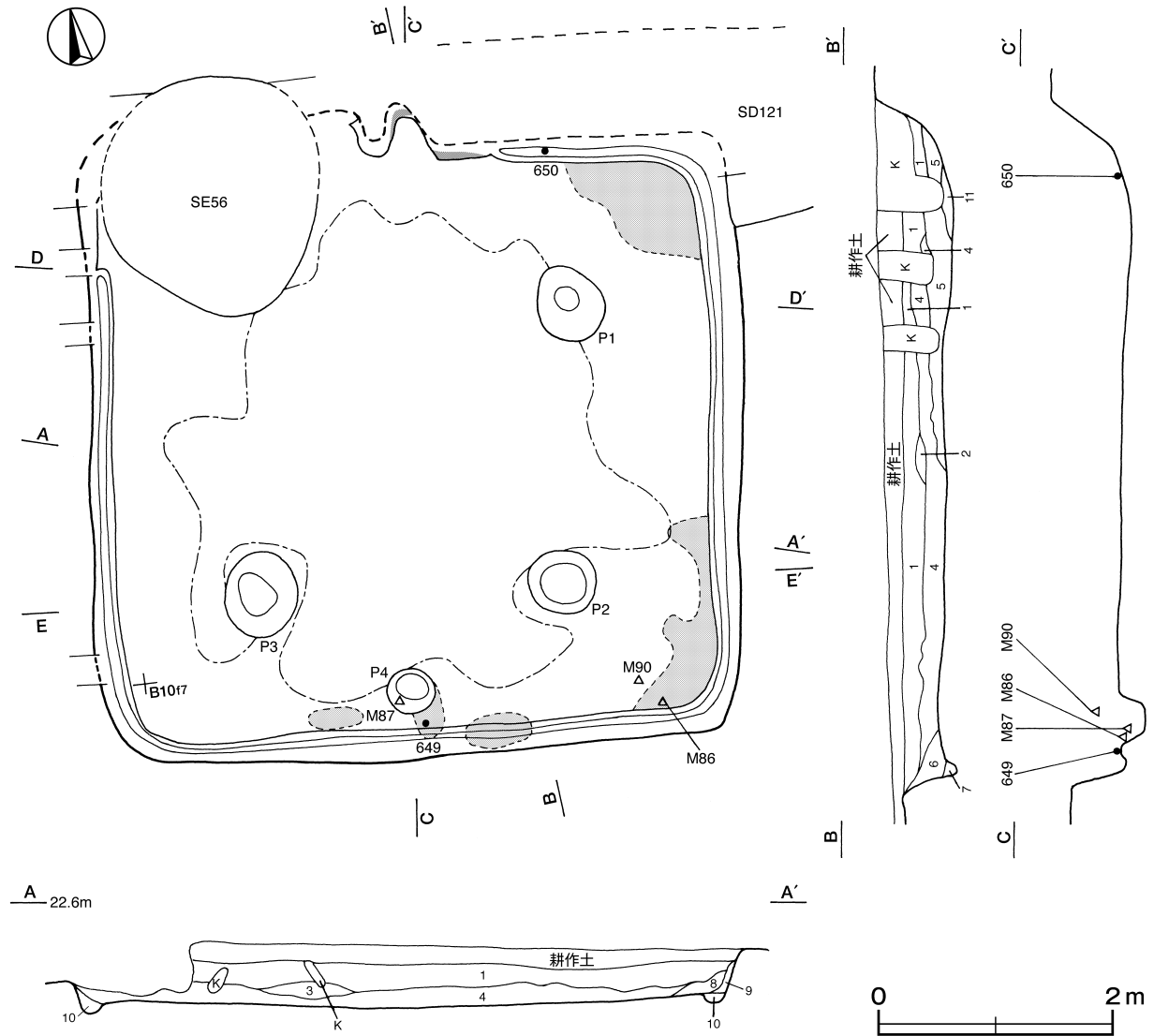
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
648	須恵器	坏	[14.4]	4.0	[5.6]	石英・雲母	灰白	普通	底部多方向の手持ちヘラ削り	P 3 覆土	20%

第2234号住居跡 (第388・389図)

位置 調査区北西部のB10e7区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第56号井戸, 第121号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.50m, 短軸5.25mの方形で, 主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は17~54cmで, 外傾して立ち上がっている。



第388号 第2234号住居跡実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西部を除いた壁下には、幅8～20cm、深さ3～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北東部・南東部・南部の壁際床面に薄く堆積した焼土が検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。第121号溝に掘り込まれているため、構築方法は不明である。

ピット 4か所。P1～P3は支柱穴で、深さは46～52cmである。P4は深さ22cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

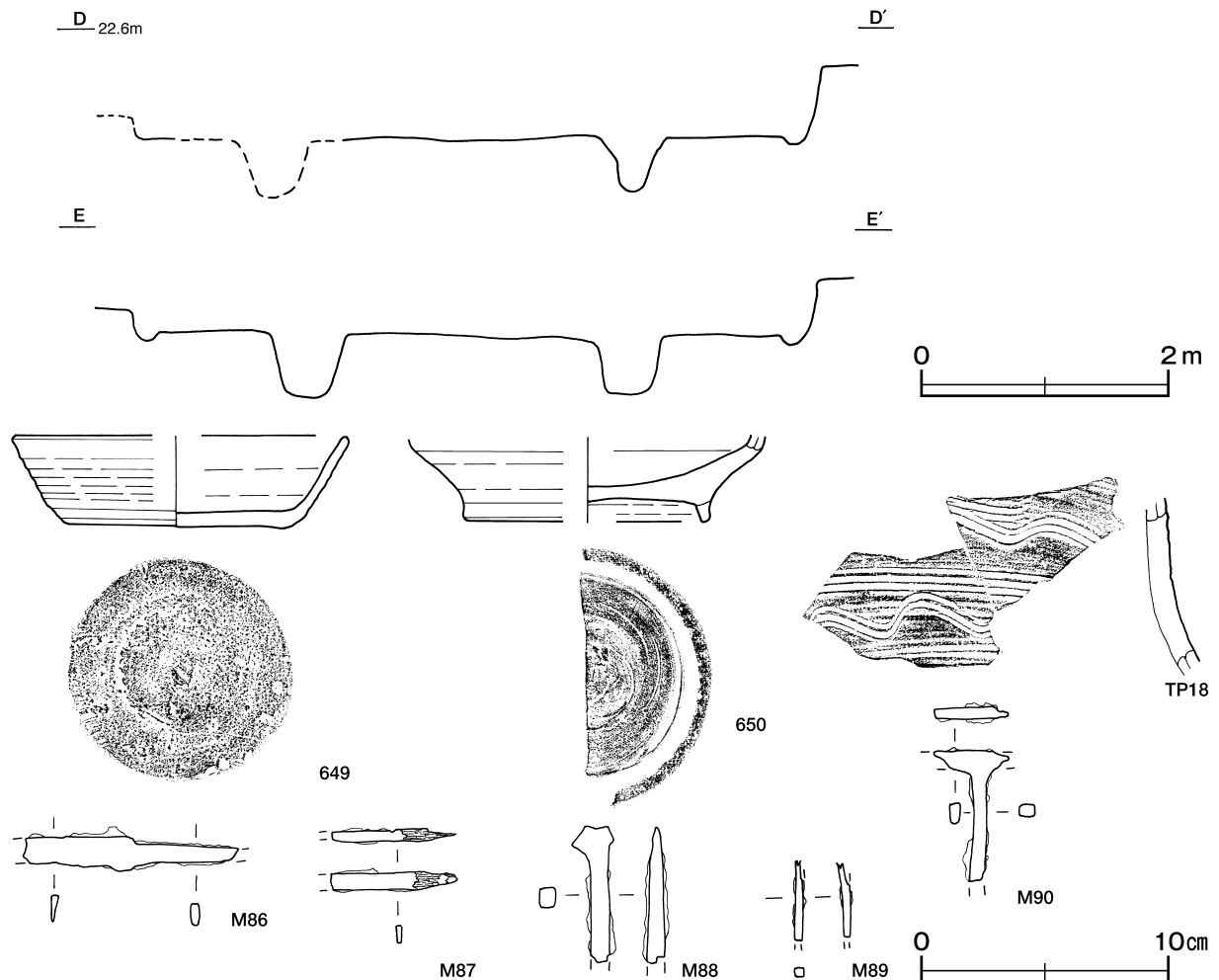
覆土 11層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	7 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 明褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量
5 灰褐色	焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土粒子微量	11 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片690点（甕類688，甑2），須恵器片131点（坏61，高台付坏2，蓋4，盤1，高盤1，鉢12，瓶類4，甕類42，甑4），鉄器・鉄製品5点（刀子2，鏃2，不明1）のほか、混入した古墳時代の土師器片61点，中世以降の陶器片3点も出土している。649・TP18は南壁際の床面からやや浮いた状態で出土し、650は北部壁溝の覆土から出土している。いずれも廃絶時に廃棄されたと考えられる。また、M87はP5の覆土，南東部よりM90は覆土中層，M86は床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。覆土中に炭化材は検出されていないが、床面に焼土の広がりが見られ、焼失によって廃絶されたと考えられる。



第389図 第2234号住居跡・出土遺物実測図

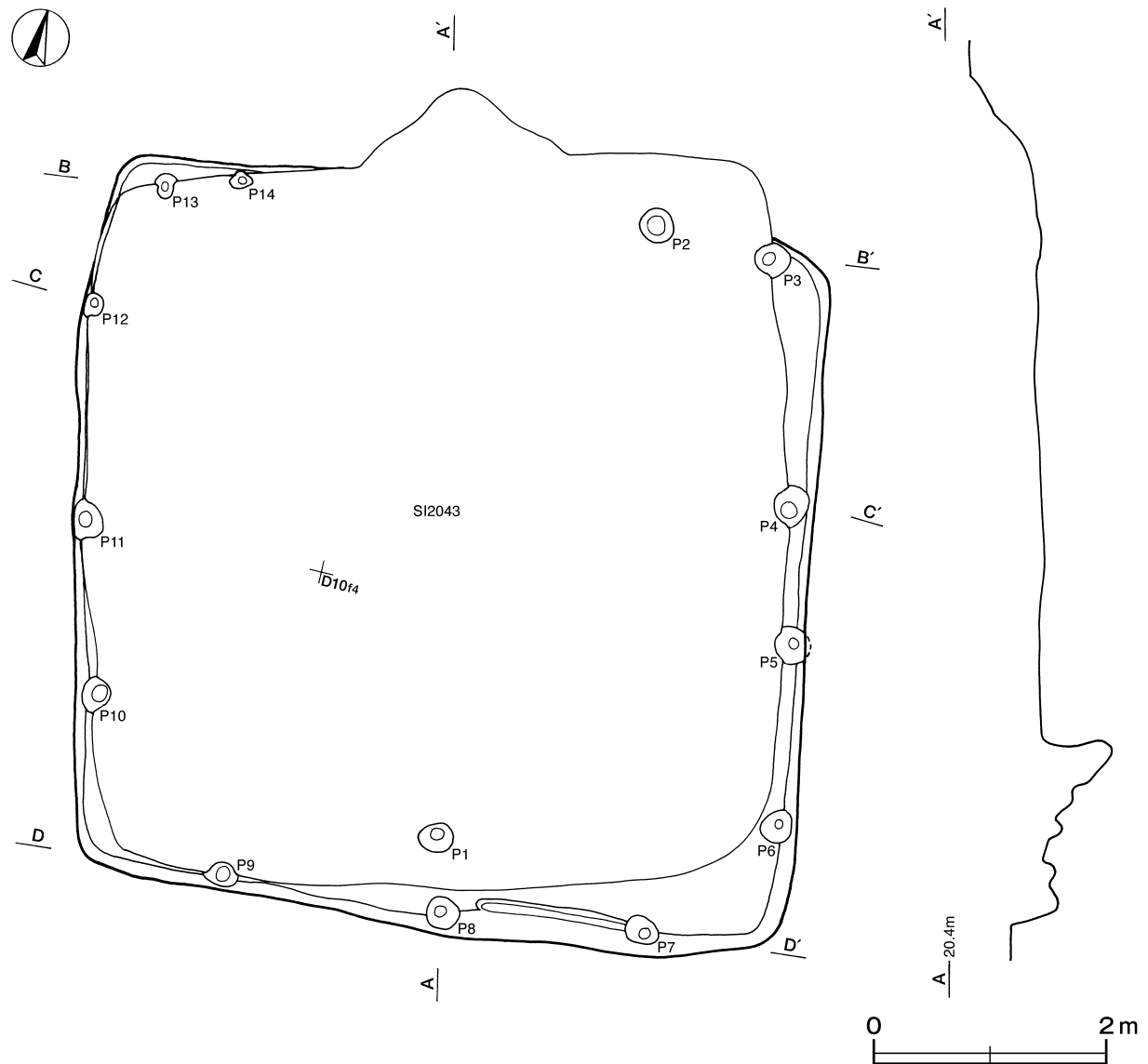
第2234号住居跡出土遺物観察表（第389図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
649	須恵器	坏	[13.2]	3.7	8.7	長石	にぶい橙	普通	体部下端へら削り 底部回転へら切り後へら削り	覆土下層	70%
650	須恵器	高台付坏	-	(3.5)	[9.3]	長石・雲母	灰白	普通	底部回転へら切り後へら削り	壁溝覆土	40%
TP18	須恵器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母	浅黄	普通	櫛歯状工具(3本櫛歯)による波状文施文及び区画	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M86	刀子	(8.6)	1.1	0.4	(10.2)	鉄	刃部・茎部欠損 熱を受けている	床面	
M87	刀子	(5.0)	0.7	0.3	(4.0)	鉄	刃部欠損 茎部木質部残存	P5覆土	
M88	鏃	(5.5)	(1.7)	0.8	(9.6)	鉄	鏃身端部欠損 茎部下端欠損 茎部断面方形	覆土下層	
M89	鏃	(3.1)	(0.4)	(0.4)	(1.6)	鉄	茎部のみ残存 断面方形	覆土下層	
M90	不明鉄製品	(5.3)	(0.5)	0.5	(12.4)	鉄	端部全て欠損 欠損部から十字になると推定できる断面方形	覆土中層	

第2246号住居跡（第390・391図）

位置 調査区南西部のD10e4区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。



第390図 第2246号住居跡実測図(1)

重複関係 第2043号住居に掘り込まれている。

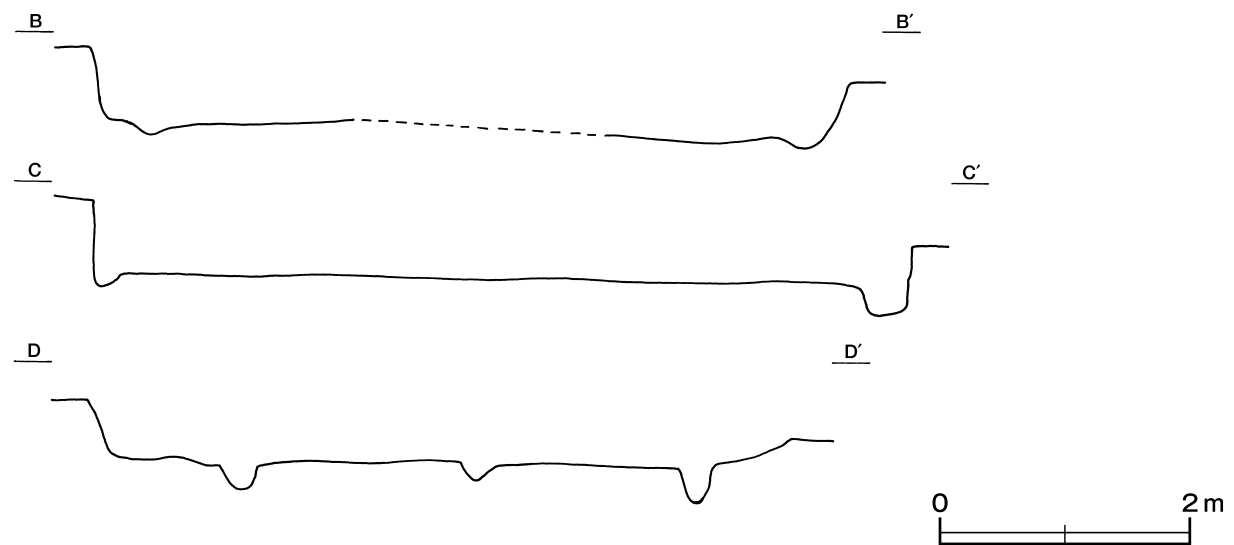
規模と形状 大部分を第2043号住居に掘り込まれており、東部・西部・南部の壁際および、北西コーナー部だけが確認されている。長軸6.20m，短軸6.17mの方形で，主軸方向はN - 13° - Wと推定される。壁高は45～52cmで，ほぼ直立している。

床 ほとんど遺存していないため，床の状況は不明であるが，南壁下の一部に，幅10～15cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 14か所。P1は深さ9cmで南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2～P14は，各壁際から検出されており，壁柱穴と考えられる。

遺物出土状況 大部分を第2043号住居に掘り込まれており，遺物は出土していない。

所見 時期は，9世紀前葉と考えられる第2043号住居に掘り込まれていることから8世紀代と考えられる。



第391図 第2246号住居跡実測図(2)

第2250号住居跡 (第392図)

位置 調査区北西部のB 9 d7区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2055号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.75m，短軸2.52mの方形で，主軸方向はN - 1° - Eである。壁高は27～41cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8～16cm，深さ7～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで96cm，袖部幅98cmである。袖部は床面よりも若干高く掘り残した地山を中心とし，その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を11cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ53cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	5	灰褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
3	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	赤褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
			7	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量

- 8 暗赤褐色 焼土粒子少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 9 灰褐色 砂質粘土粒子中量,ロームブロック少量

- 10 褐灰色 砂質粘土粒子多量,ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 11 赤褐色 焼土粒子中量

ピット 深さ17cmで,竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから,出入口施設に伴うピットと考えられる。

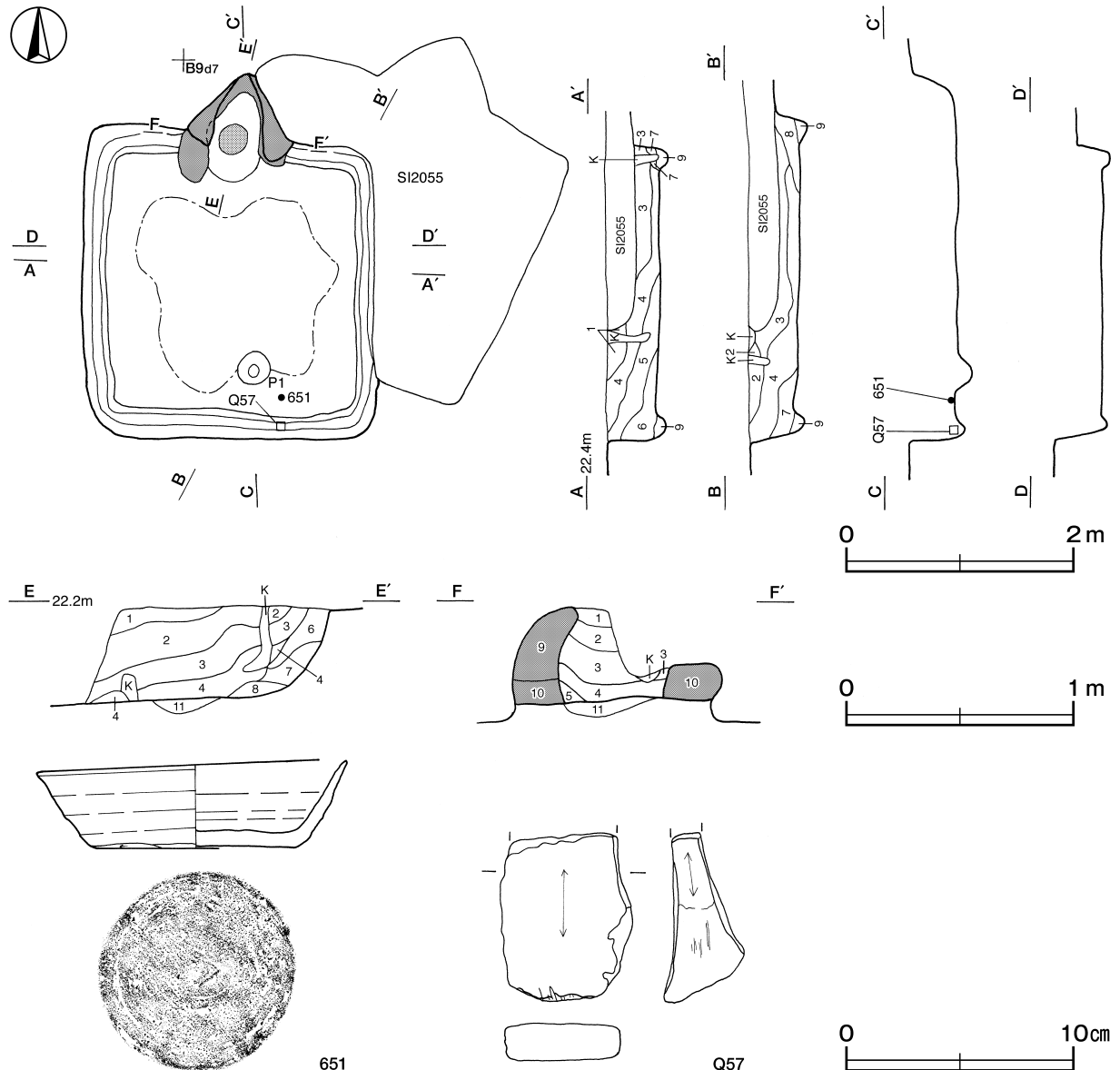
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片95点(甕類),須恵器片28点(坏10,蓋2,瓶類1,甕類14,甑1),石器1点(砥石)のほか,混入した古墳時代の土師器片39点も出土している。651は南壁際の床面から出土しており,廃絶に伴い廃棄されたと考えられる。また,Q57は壁溝の覆土上層から出土している。

所見 時期は,出土土器や重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第392図 第2250号住居跡・出土遺物実測図

第2250号住居跡出土遺物観察表（第392図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
651	須恵器	坏	13.3	3.8	8.6	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り ヘラ削り 外面油煙付着	底部回転ヘラ切り後	床面	80%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q57	砥石	(7.3)	5.7	3.5	(158.8)	玄武岩	砥面3面 他は破断面	壁溝覆土	

第2253号住居跡（第393図）

位置 調査区北西部のA10i1区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.40m，短軸3.20mの方形で，主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は32～48cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅9～12cm，深さ4～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，壁際の床面からは，炭化材を伴わない厚さ約5cmの焼土が弧状に堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで90cm，袖部幅105cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。第4・5層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

1 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，ローム粒子，炭化粒子微量	8 赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子中量，ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	9 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	10 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量	11 暗褐色	砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
5 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック微量	12 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗赤褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	13 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
		15 暗褐色	ローム粒子少量

ピット 5か所。P1～4は主柱穴で，深さは18～29cmである。P5は深さ33cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。また，柱穴の覆土は，柱穴が抜き取られた後，ローム土で埋められている堆積状況であるが，P5の覆土上層にのみ，少量の焼土が含まれている。

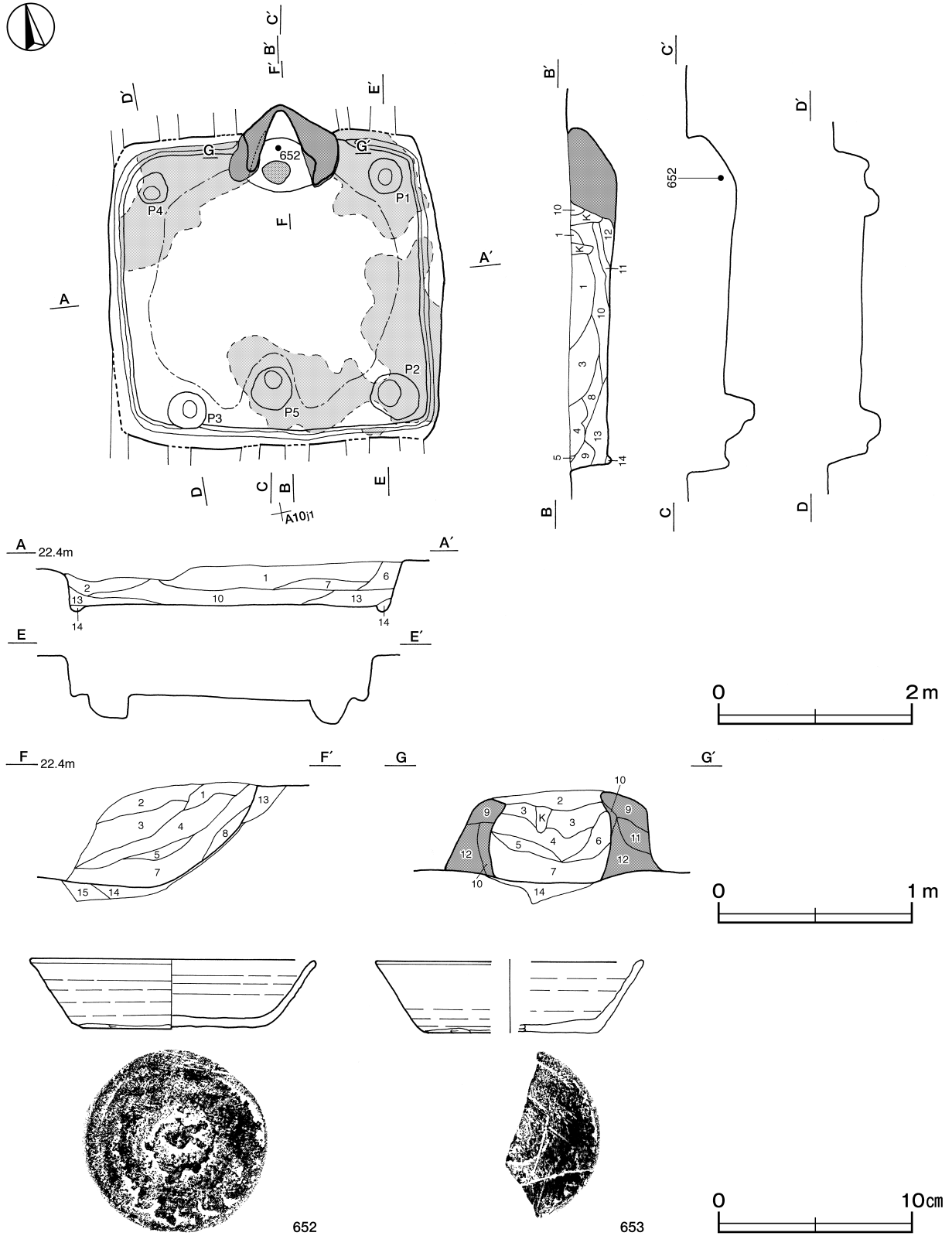
覆土 14層に分けられる。壁・竈の崩落後（第11～13層），ロームブロックや焼土ブロックが含まれる土が埋められくぼ地が形成される。そこへ，自然堆積と人為堆積が交互に繰り返されながら堆積している。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子少量	9 黒褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量	10 暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量
4 褐色	ロームブロック少量	11 灰褐色	ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量	12 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
6 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	13 暗褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック少量	14 褐色	ローム粒子中量・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片118点（坏1，甕類117），須恵器片38点（坏12，甕類26）のほか，混入した古墳時代の土師器片18点，中世以降の陶器片1点も出土している。竈の覆土第4層から，652が出土しており，正位の状態で火を受けていないことや，天井部の崩落土層より下層から出土していることから，廃絶時に遺棄された

と考えられる。また、653も竈の覆土から破損した状態で出土していることから、廃絶時の遺棄と考えられる。
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。覆土中に炭化材は検出されていないが、床面に焼土の広がりが見られ、焼失によって廃絶され、その後柱穴をすべて抜いた後に、ロームや焼土を含んだ土で埋められたと考えられる。



第393図 第2253号住居跡・出土遺物実測図

第2253号住居跡出土遺物観察表（第393図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
652	須恵器	坏	14.5	3.7	9.1	長石・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 ヘラ削り 火だすき痕有り	竈覆土	80%
653	須恵器	坏	[13.6]	3.8	[8.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 ヘラ削り	竈覆土	20%

第2254号住居跡（第394・395図）

位置 調査区北西部のA10g1区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.56m、短軸3.34mの方形で、主軸方向はN - 8° - Eである。壁高は37~47cmで、外傾して立ち上がっている。

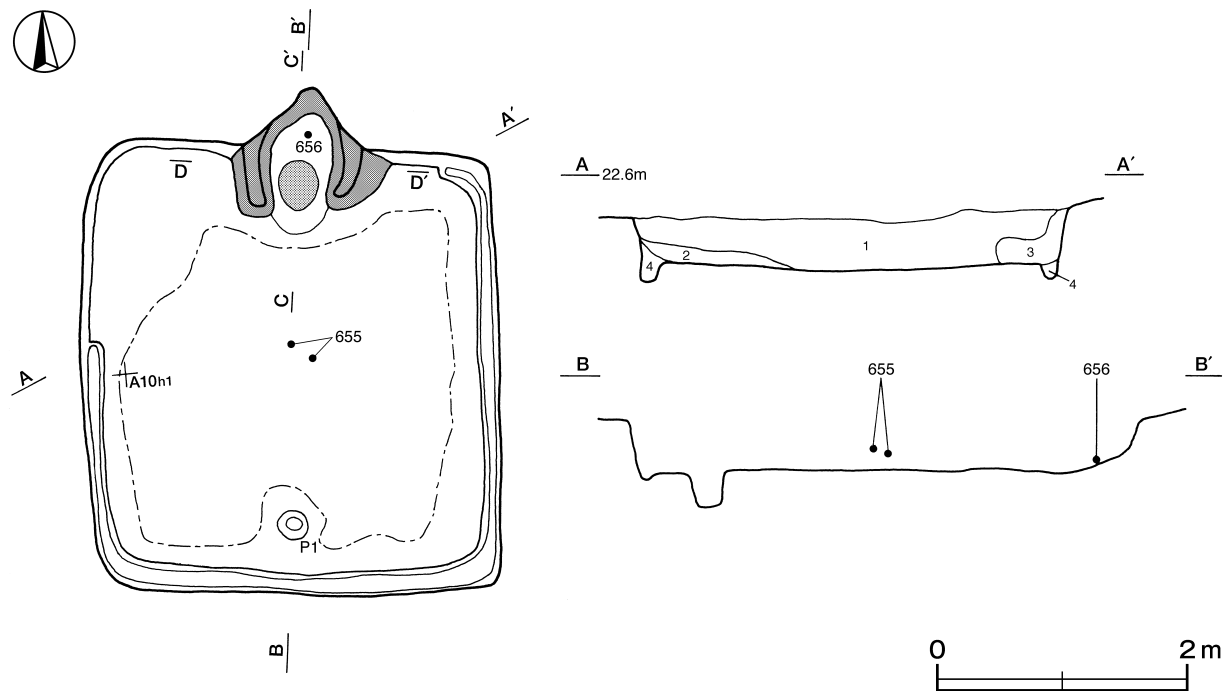
床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、北西部の一部を除いて幅9~14cm、深さ6~9cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、袖部幅130cmである。袖部は床面の高さまで埋め戻したローム土の上に砂質粘土を用いて構築している。火床部は床面を21cm掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ49cm掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾した後、急な傾斜で立ち上がっている。

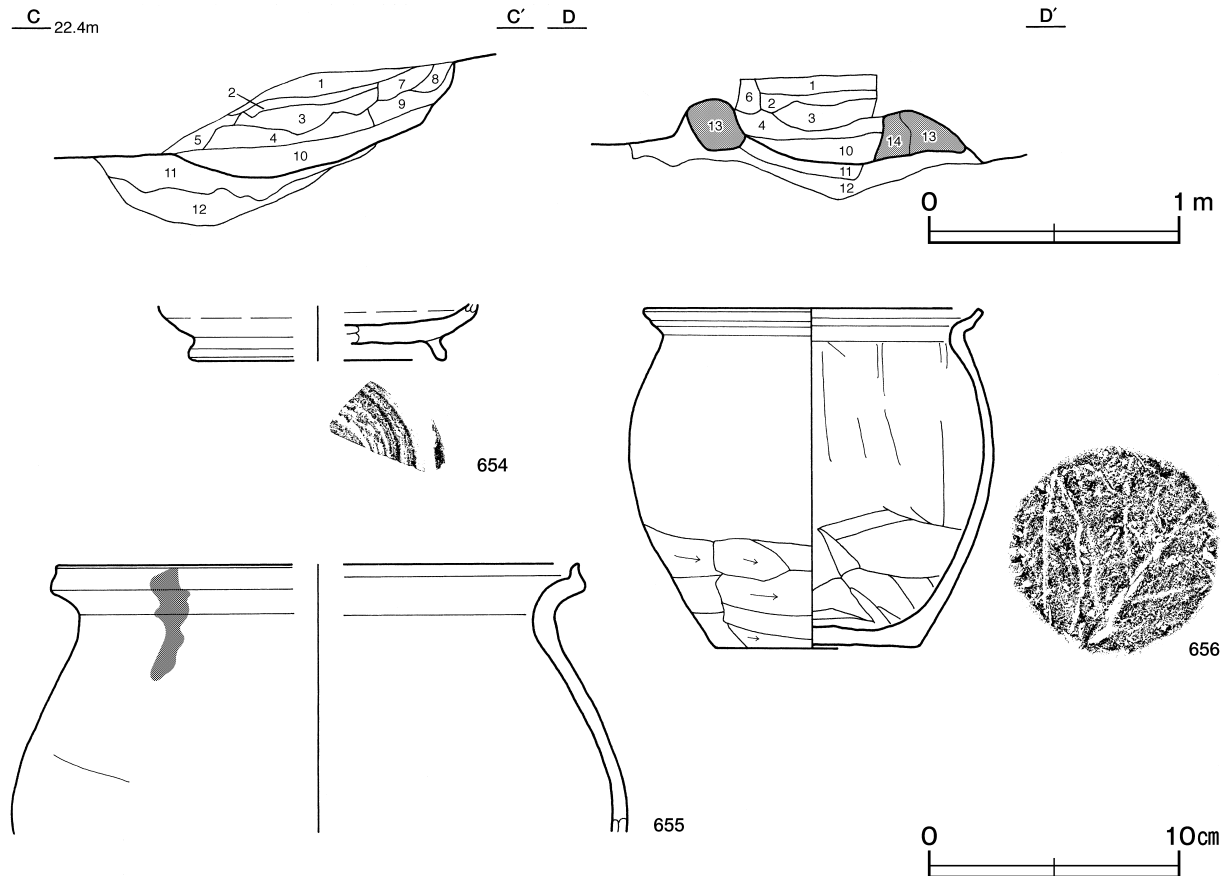
竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 13 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 14 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 |

ピット 深さ32cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第394図 第2254号住居跡実測図



第395図 第2254号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分けられる。東西の壁が崩落した後に、黒褐色土層が埋没した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片309点(坏26, 甕類283), 須恵器片18点(坏2, 高台付坏1, 甕類13, 甑2), 鉄滓1点のほか, 混入した古墳時代の土師器片1点が出土している。654は南東部の覆土下層, 655は中央部の覆土下層から出土しており, いずれも床面から浮いた状態で出土していることから廃棄されたものと考えられる。656はほぼ完形で竈内から出土しており, 遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2254号住居跡出土遺物観察表(第395図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
654	須恵器	高台付坏	-	(2.2)	10.0	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	10%
655	土師器	甕	[20.6]	(10.6)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	口辺部内面横ナデ	覆土下層	10% 煤付着
656	土師器	小形甕	13.2	13.5	8.1	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	火床部	95% PL177

第2258号住居跡(第396・397図)

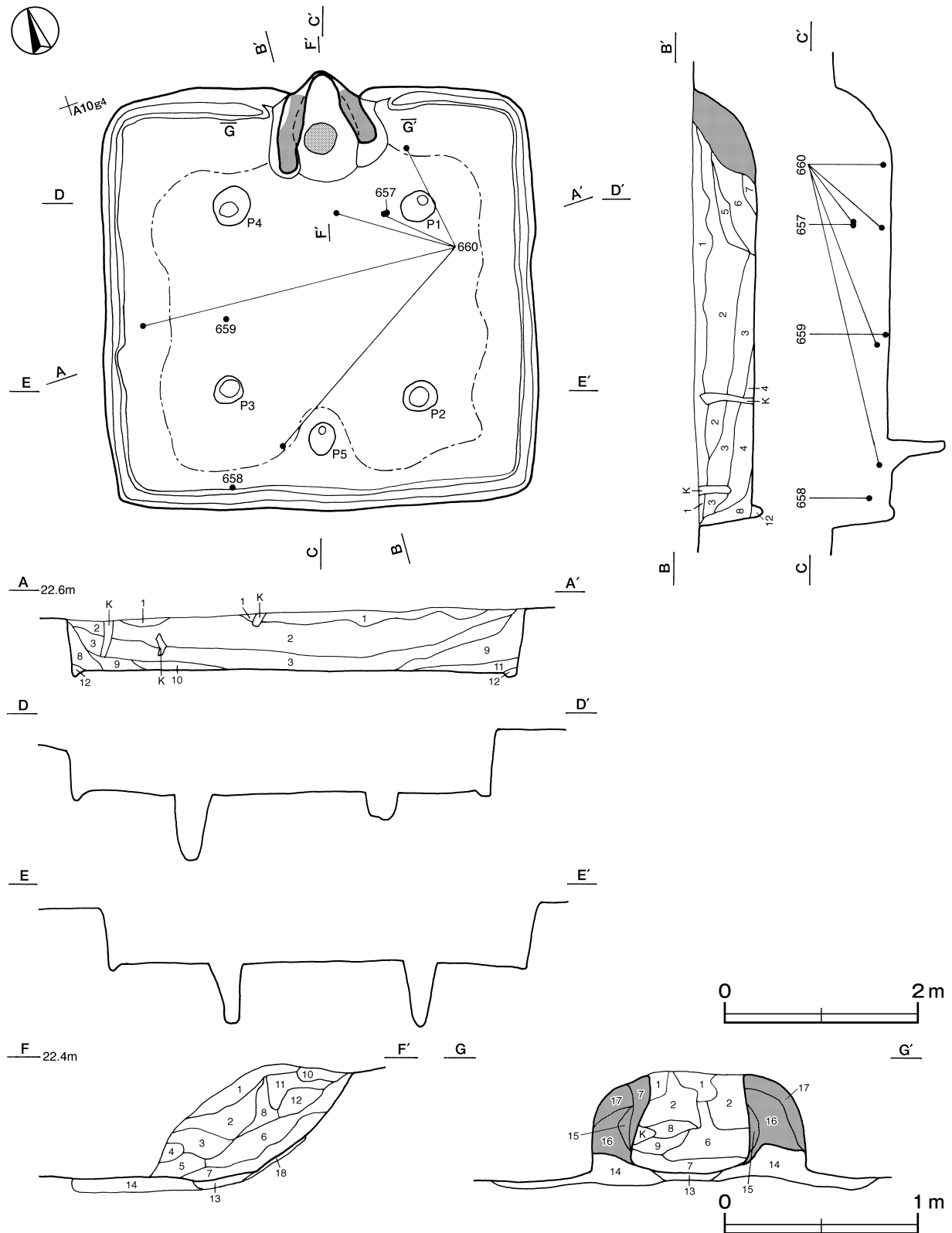
位置 調査区北西部のA10g4区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.40m, 短軸4.35mの方形で, 主軸方向はN-20°-Eである。壁高は50~68cmで, 外傾して立ち上がっている。

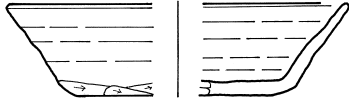
床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には, 幅10~15cm, 深さ3~9cmで, U字状の断面を呈

する壁溝が巡っている。

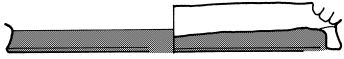
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、袖部幅120cmである。袖部はローム土で構築された基部上に、砂質粘土を用いて作られている。火床部は床面を4cm掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ21cm掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。第2層は、天井部の崩落土層である。



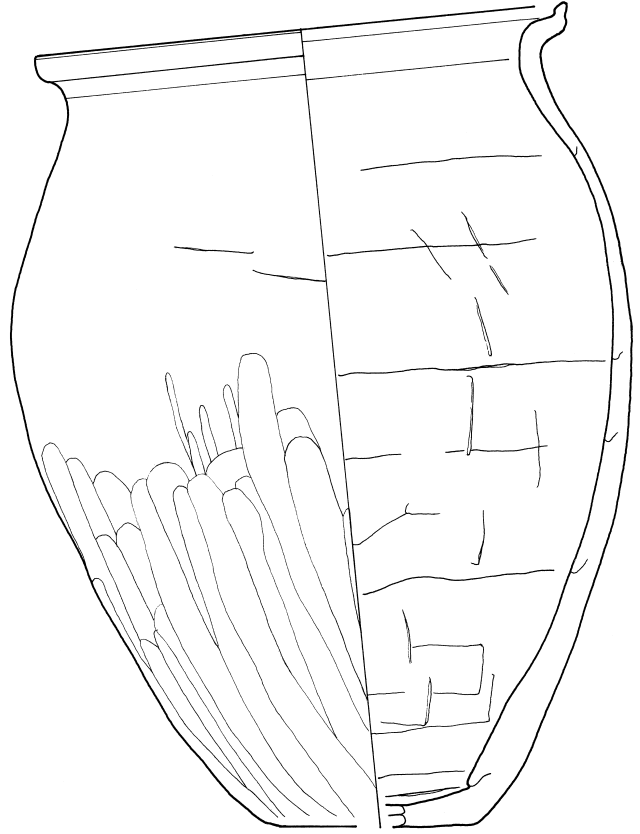
第396図 第2258号住居跡実測図



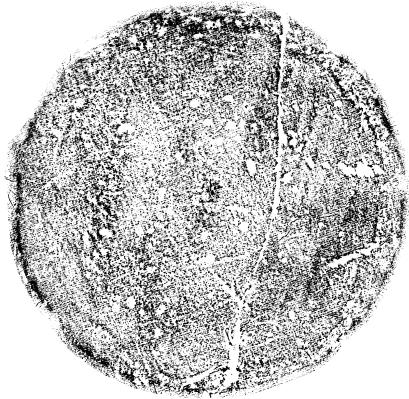
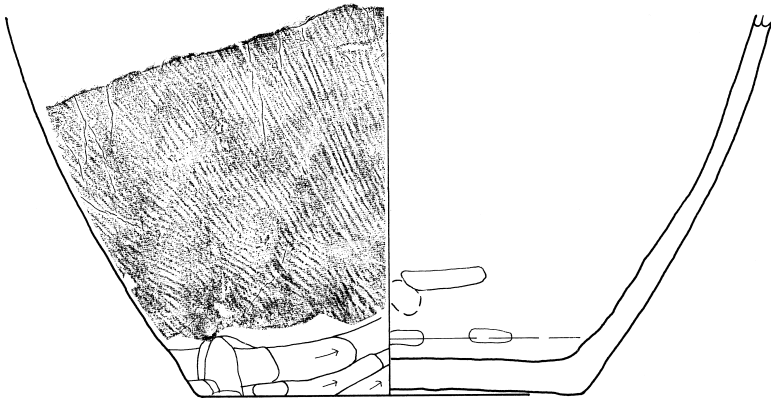
657



658



660



659



第397图 第2258号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒 褐色	砂質粘土粒子少量, 炭化物・焼土ブロック微量
2 灰 黄褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック, 炭化物微量	10 暗 赤褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量	11 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量	12 灰 黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化物微量
5 暗 赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化物微量	13 暗 赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子微量
6 暗 赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	15 暗 赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量
8 灰 黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16 灰 黄褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
		17 灰 褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量
		18 黒 褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは30～67cmである。P5は深さ58cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子中量
3 暗 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	9 暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒 褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5 灰 褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	12 明 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片706点(坏44, 甕類661, 甑1), 須恵器片73点(坏34, 高台付坏1, 盤1, 甕類37)のほか、混入した古墳時代の土師器片1点, 中世以降の陶器片1点も出土している。657はP1付近の覆土中層, 659は中央部西側の床面からそれぞれ出土している。658は南壁際の覆土下層から出土しており、摩耗の状態が著しいことや内・外面に墨が付着していることから盤を転用した硯と考えられる。660は南西から北西にかけての床面から覆土下層に散在した状態で出土していることから、廃絶後まもなく投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2258号住居跡出土遺物観察表(第397図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
657	須恵器	坏	[13.4]	3.7	[7.7]	石英・雲母	灰黄	普通	体部内外面口ロナデ 体部下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	覆土中層	45%
658	須恵器	盤	-	(1.9)	13.0	石英・雲母	黒	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け 高台部内外面墨付着	覆土下層	40% 転用硯
659	須恵器	鉢	-	(15.2)	15.0	石英・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 体部下端ヘラ削り後 一部ナデ 内面ヘラナデ 指頭痕	床面	25%
660	土師器	甕	21.4	32.1	8.7	長石・石英・雲母	にぶい褐色	良好	体部外面ヘラ磨き 内面下端ヘラナデ 輪積痕 底部木葉痕	覆土下層・床面	90% PL183

第2261号住居跡(第398・399図)

位置 調査区北西部のA10g7区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2975号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.05m, 短軸3.90mの方形で、主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は65～75cmで、外傾して立ち上がっている。

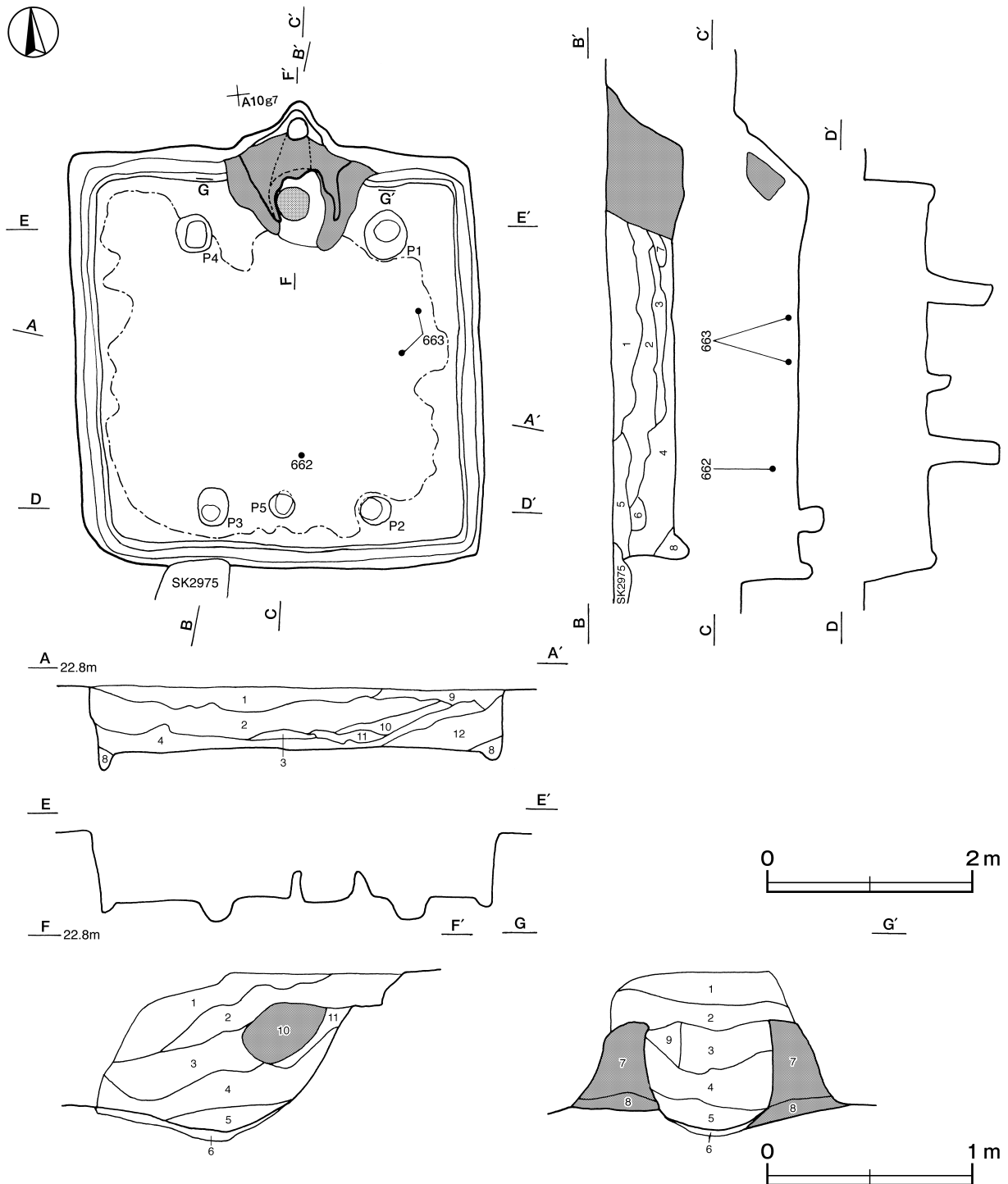
床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅14～25cm, 深さ5～10cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで140cm, 袖部幅145cmである。左袖部は床面

より若干高く掘り残した地山を基部として構築され、右袖部は地山をわずかに掘り込んで構築されている。火床部は床面を13cm掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。第10層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 | 7 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 10 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子少量 | | |



第398図 第2261号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは19～68cmである。P5は深さ24cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

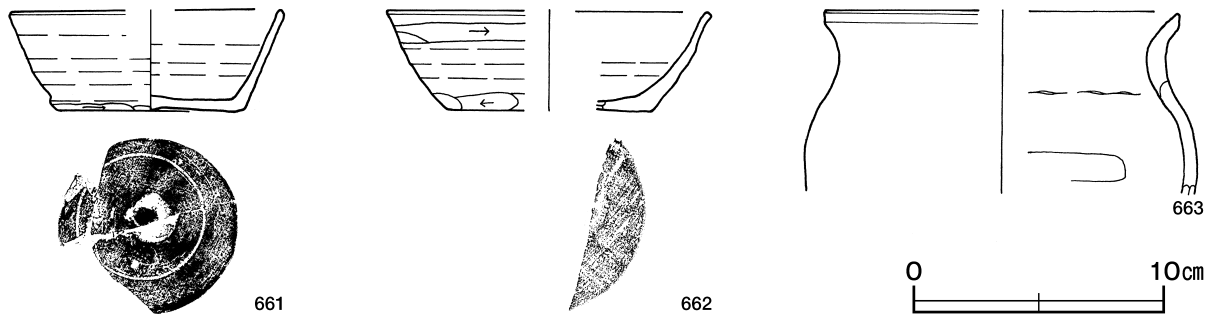
覆土 12層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。しかし、第12層のみは炭化粒子が多量に含まれていることから、人為に埋め戻された層と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子少量,ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子少量,ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量,炭化物微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量,焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量,焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 極暗褐色 | 炭化粒子多量,ロームブロック少量,焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片806点(坏14,甕類791,甌1),須恵器片39点(坏32,甕類7)のほか、混入した古墳時代の土師器片61点も出土している。検出された遺物の約50%は覆土中層(第2層)より上の層から出土していることから、住居跡に堆積して形成されたくぼ地へ一括廃棄されたと考えられる。それらの廃棄土器の中から、663が出土している。また、床面から出土している遺物はなく、第3・4層から661・662が検出されている。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉以前と考えられる。



第399図 第2261号住居跡出土遺物実測図

第2261号住居跡出土遺物観察表(第399図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
661	須恵器	坏	[10.7]	4.0	7.0	石英・長石	灰黄	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端へラ削り 底部回転へラ切り後二方向へラ削り 内面ナデ	覆土中層	40%
662	須恵器	坏	[12.7]	4.0	[8.1]	石英・雲母	黄灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端へラ削り 底部回転へラ切り後へラ削り	覆土下層	20%
663	土師器	甕	[14.0]	(7.2)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ナデ 輪積痕	覆土下層	5%

第2263号住居跡(第400図)

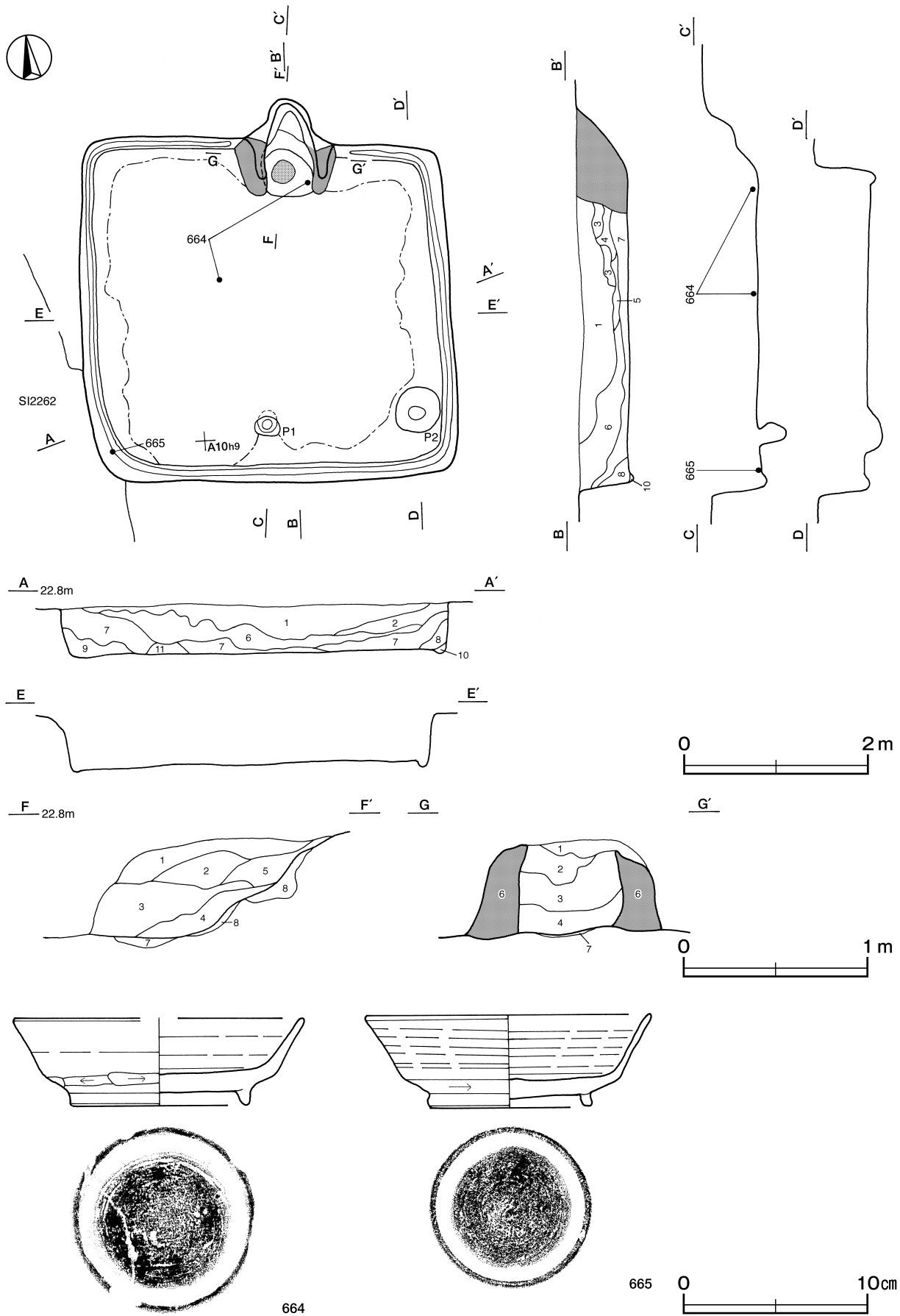
位置 調査区北西部のA10g9区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2262号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.98m、短軸3.70mの方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は42～60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅8～14cm、深さ4～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで104cm、袖部幅100cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ45cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。



第400图 第2263号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 6 灰 黄 褐 色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | | |
| 5 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ32cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2の性格は不明である。

覆土 11層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームを多く含んでいることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-----------|--------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 にぶい赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗 赤 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 黒 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 5 灰 褐 色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量 | 11 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 褐 色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片331点(坏2, 甕類328, 甑1), 須恵器片42点(坏17, 高台付坏21, 甕類4)のほか、混入した古墳時代の土師器片33点も出土している。664は中央部の床面と竈の覆土から出土し、665は南壁コーナー部壁際と覆土下層から出土している。それぞれ離れた位置の破片が接合していることから、廃絶時に投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2263号住居跡出土遺物観察表(第400図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
664	須恵器	高台付坏	[15.6]	4.7	9.5	石英・雲母・小礫	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ヘラ削り	竈覆土・床面	70%
665	須恵器	高台付坏	15.4	5.0	8.7	石英・雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ヘラ削り	覆土下層・床面	70% PL166

第2272号住居跡(第401・402図)

位置 調査区北部のB11a8区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 中央部から南部の壁や床に耕作による攪乱を受けており、南壁はほぼ遺存していない。長軸3.95m, 短軸3.82mの方形で、主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は42~44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前から中央部にかけて踏み固められている。中央より北の壁下には、幅10~11cm, 深さ4~5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで120cm, 袖部幅110cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として砂質粘土で構築されている。火床部は床面を15cm掘りくぼめてローム土を埋め戻し、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ35cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

第3層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | ローム粒子・灰中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 灰 黄 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 8 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 9 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

- | | | | |
|-----------|-----------------------------|-----------|-----------------------------|
| 10 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, 灰少量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 14 灰黄色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 12 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 15 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量 |
| | | 16 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット P1は主柱穴で、深さは21cmである。

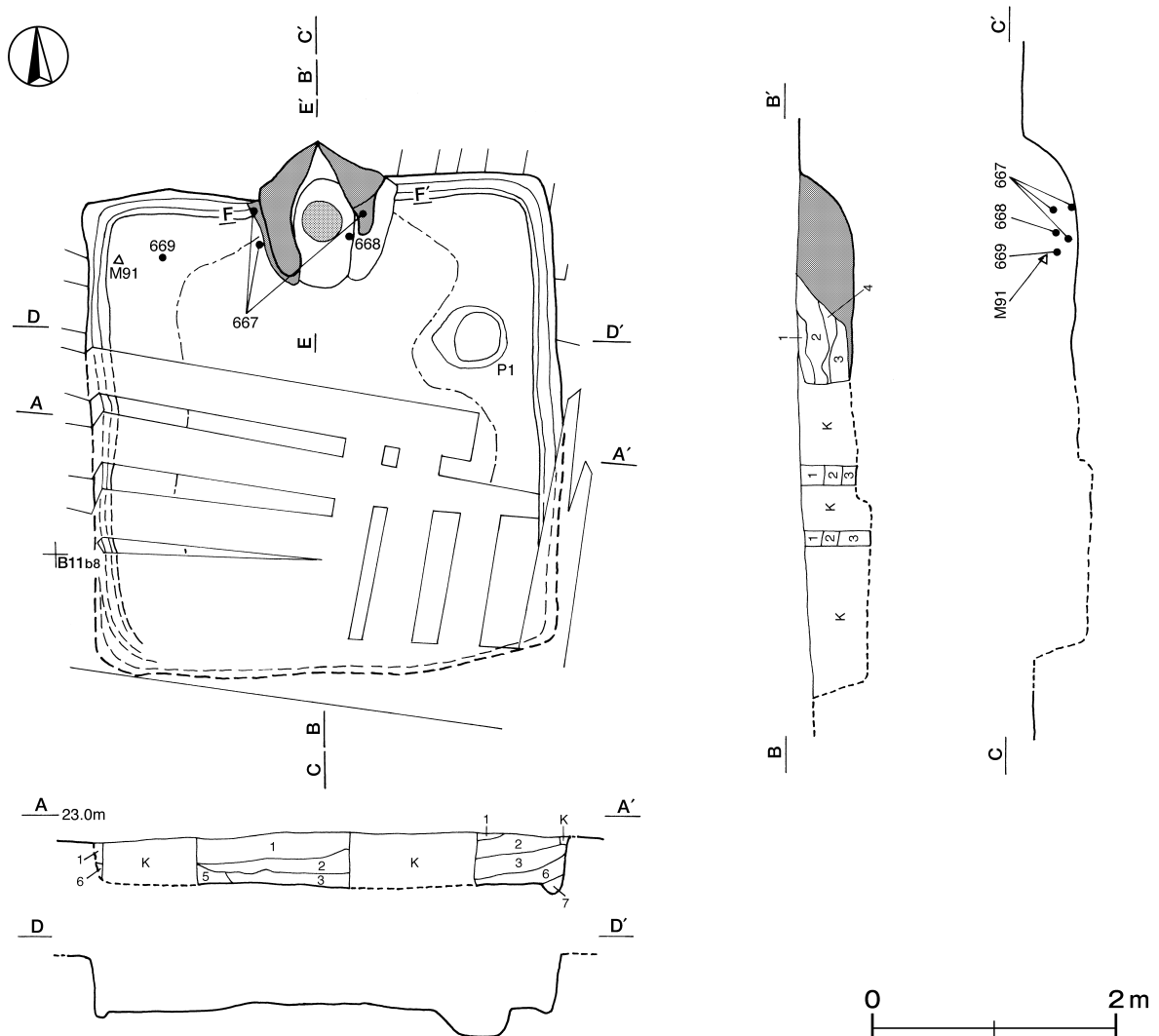
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

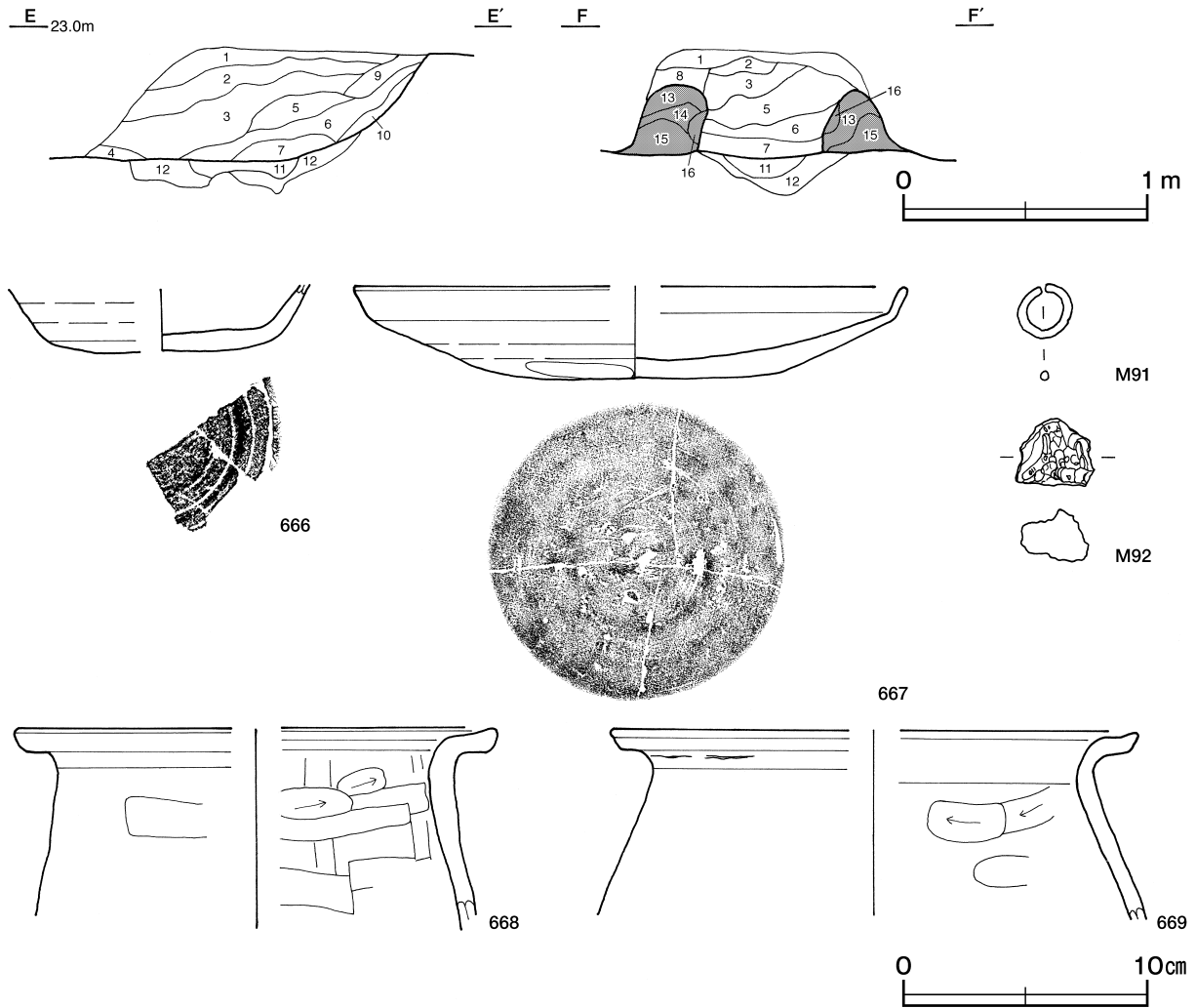
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片446点(甕類444, 甌2), 須恵器片108点(坏76, 高台付坏2, 盤7, 瓶類1, 甕類22), 銅製品1点(耳環), 鉄滓1点のほか, 混入した古墳時代の土師器片25点, 中世以降の陶器片5点, 磁器片7点も出土している。667は竈右袖部上と竈左袖部付近の覆土中層から出土した破片が接合し, 668は竈の崩落土層, 669は北西部の覆土中層から出土し, いずれも廃絶後に廃棄されたと考えられる。また, M91は西壁際の覆土上層から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第401図 第2272号住居跡実測図



第402図 第2272号住居跡・出土遺物実測図

第2272号住居跡出土遺物観察表（第402図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
666	須恵器	坏	-	(2.6)	[9.3]	長石・雲母	橙	普通	体部外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土上～下層	10%
667	須恵器	盤	[22.3]	3.8	11.8	長石・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	80% PL179
668	土師器	甕	[19.2]	(8.1)	-	長石・雲母・礫	黄灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラ削り・ヘラナデ	竈覆土	5%
669	土師器	甕	[21.3]	(7.6)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ヘラ削り・ナデ	覆土中層	5%

番号	器種	長径	短径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M91	耳環	2.3	2.2	0.3	3.0	銅	メッキは剥がれている	覆土上層	PL196

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M92	鉄滓	2.8	3.2	1.1	21.2	鉄	焼土外面付着	床面	

第2273号住居跡（第403・404図）

位置 調査区北部のA11i0区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.82m，短軸3.78mの方形で，主軸方向はN - 5° - Eである。壁高は18～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅14～18cm，深さ4～13cmでU字状の断面を呈す

る壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで93cm，袖部幅101cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を中心とし，その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめたところへローム土を埋め戻し，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ18cm掘り込まれ，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。第2層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量，炭化粒子微量 | |

ピット 5か所。P1～4は主柱穴で，深さは22～37cmである。P5は深さ22cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

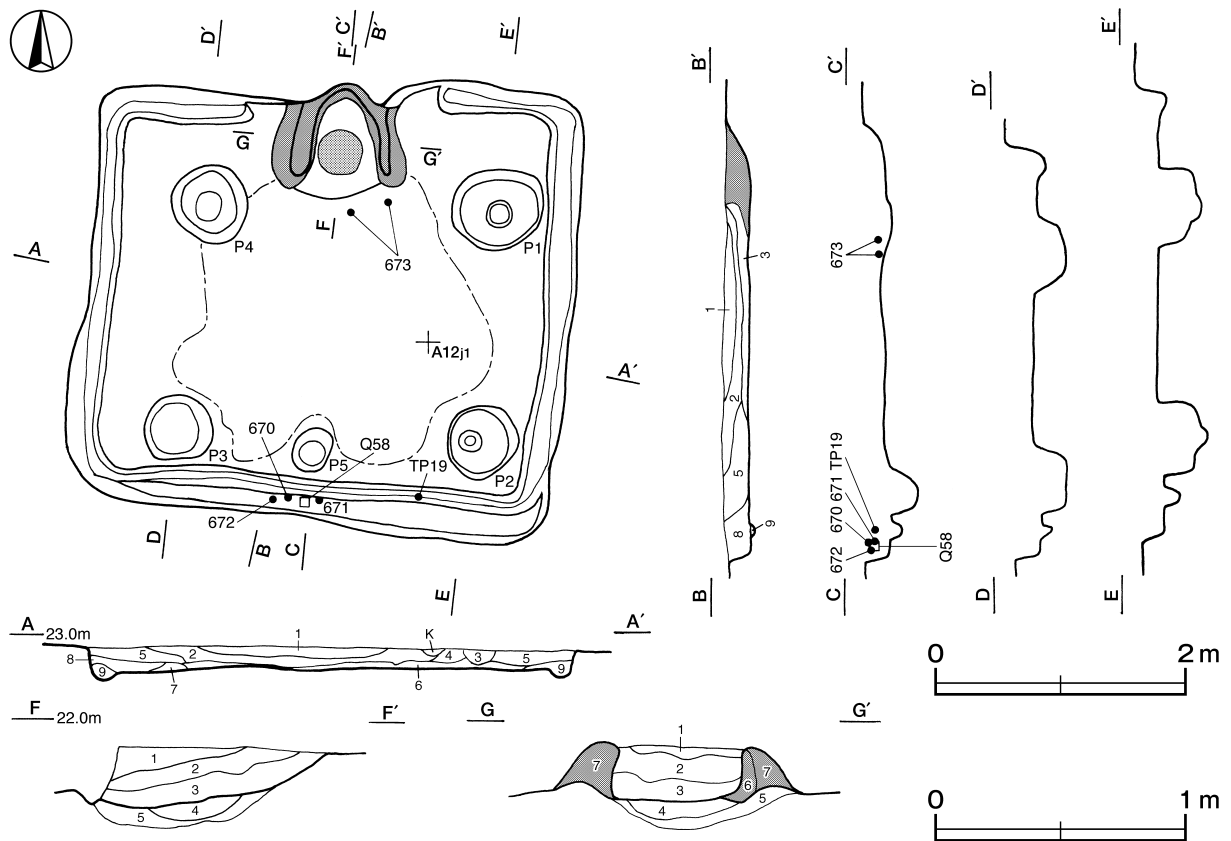
覆土 9層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

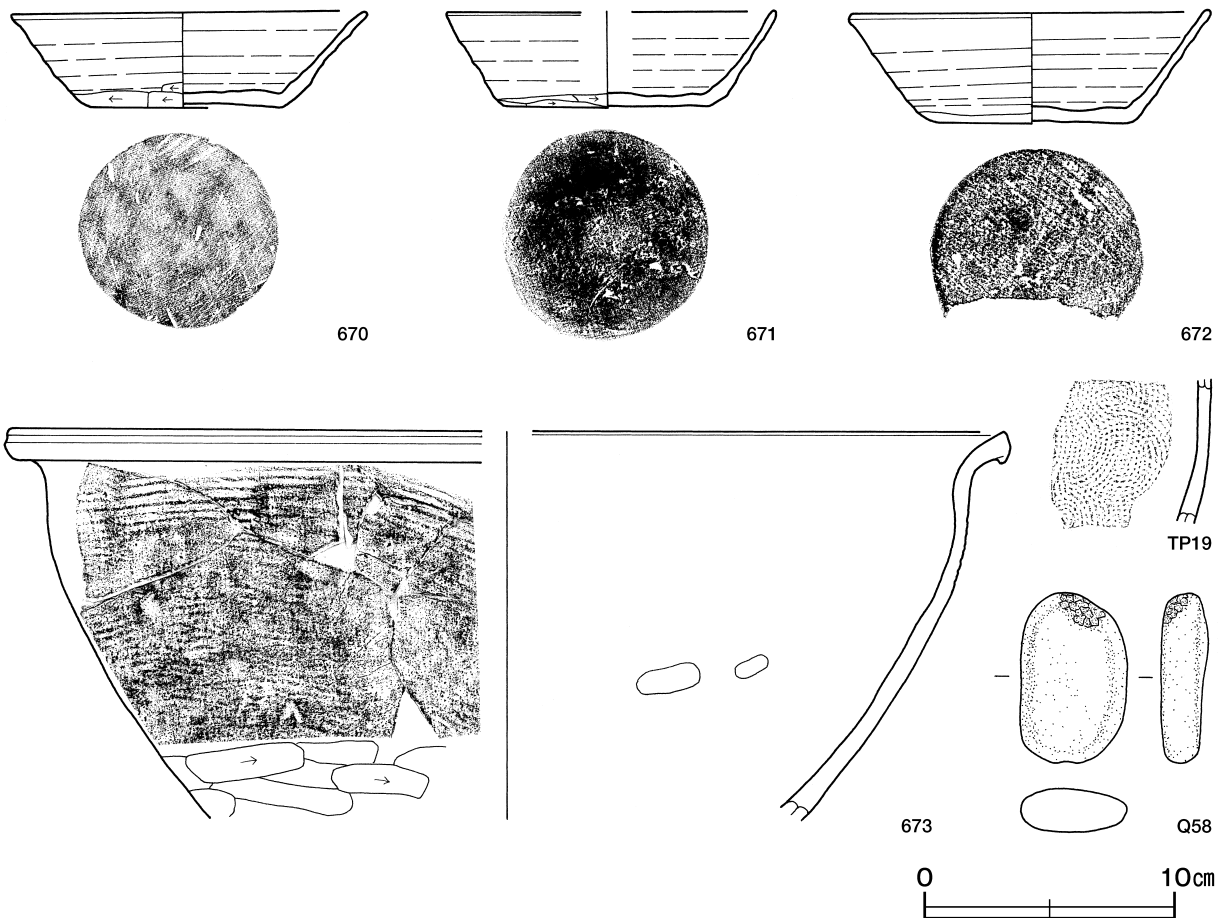
- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片206点（甕類204，甌2），須恵器片95点（坏76，高台付坏2，蓋1，盤1，鉢8，瓶類1，甕類5，甌1），土製品1点（支脚），石器1点（敲石）のほか，混入した古墳時代の土師器片22点も出土している。670～672，TP19，Q58は南壁際の覆土下層から集中して出土しており，廃絶後まもなくに廃棄されたと考えられる。673は竈前の床面から破損した状態で出土しており，廃絶時に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第403図 第2273号住居跡実測図



第404図 第2273号住居跡出土遺物実測図

第2273号住居跡出土遺物観察表（第404図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
670	須恵器	坏	14.0	3.8	7.7	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土下層	90% PL161
671	須恵器	坏	[13.0]	3.8	8.3	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後一部ヘラ削り 底部切り離し後二方向ヘラ削り	覆土下層	60%
672	須恵器	坏	14.2	4.5	8.0	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	覆土下層	55%
673	須恵器	鉢	[39.2]	(15.5)	-	長石・雲母	灰黄	不良	体部外面横位平行叩き 体部下端ヘラ削り 内面指ナデ・ヘラナデ 当て具痕	床面	20%
TP19	須恵器	甕	-	(5.6)	-	長石・雲母	褐灰	普通	体部外面同心円状叩き 内面ナデ	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q58	敲石	6.8	4.3	1.9	83.6	流紋岩	端部に敲打痕	覆土下層	

第2274号住居跡（第405～407図）

位置 調査区北部のB11b3区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2278号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 ほぼ全面において東西に横切る耕作による攪乱を受けており、竈や南壁の遺存状態は著しく悪い。そのため、長軸は推定で4.64m、短軸4.46mの方形で、主軸方向はN - 1° - Eである。壁高は36～55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。東西の壁下には、幅8～18cm、深さ2～13cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。住居の掘り方は、四隅を掘り込んでいる状況が確認され、床面から深いとこ

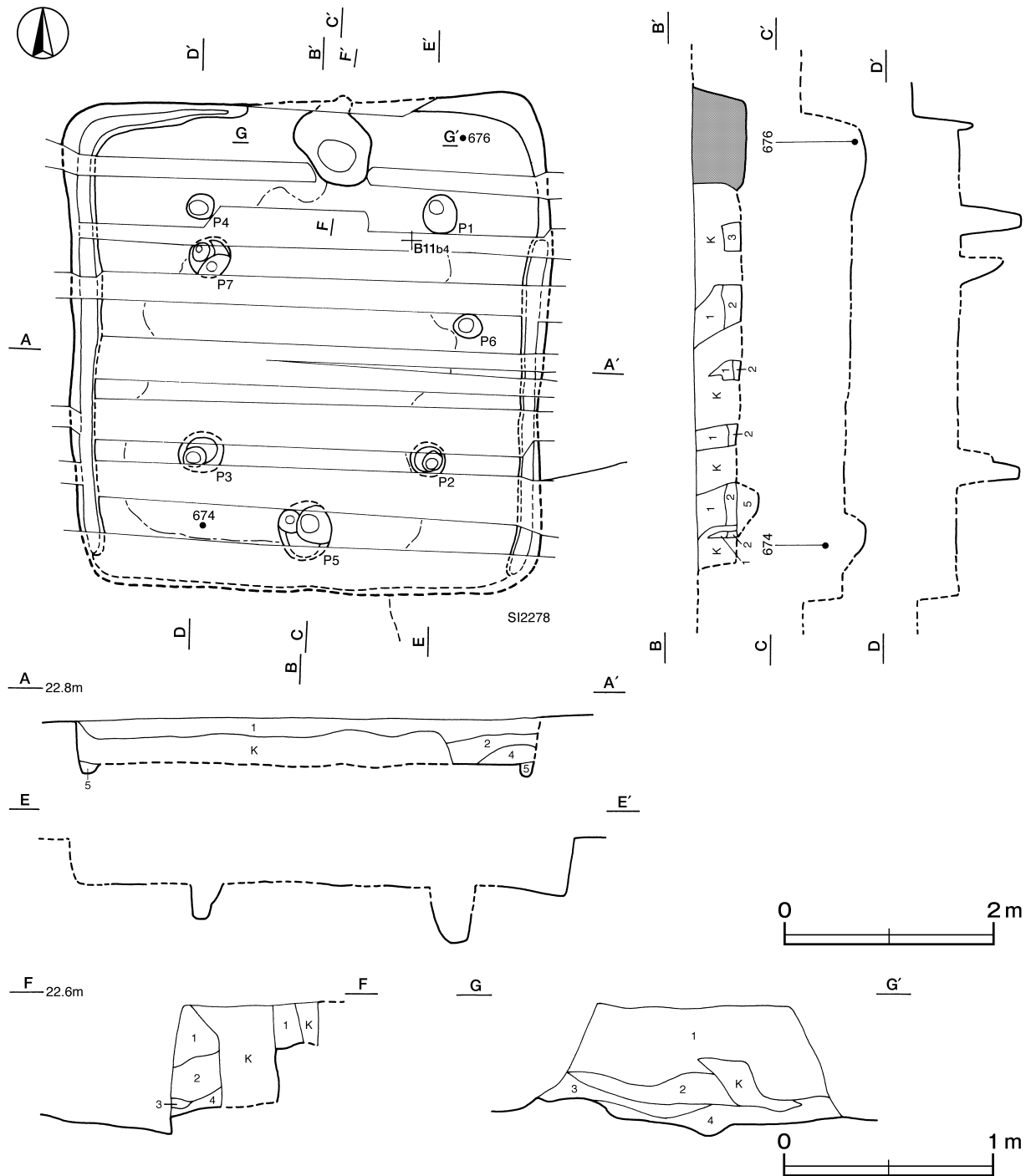
ろで36cmある。また、P8・P9が掘り方から確認されている。

竈 北壁中央部に付設されているが、攪乱を受けているため遺存状態は悪い。火床部は長軸35cm、短軸29cmの楕円形で、火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ8cm掘り込んでいる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・砂質粘土粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・焼土粒子中量、ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 9か所。P1～4は主柱穴で、深さは33～60cmである。P5は深さ18cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。床下からP8・P9が検出され、



第405図 第2274号住居跡実測図(1)

P3・P7 とほぼ等間隔の方形に結べる位置にあることから、建て替え前の主柱穴と考えられる。P6 の性格は不明である。

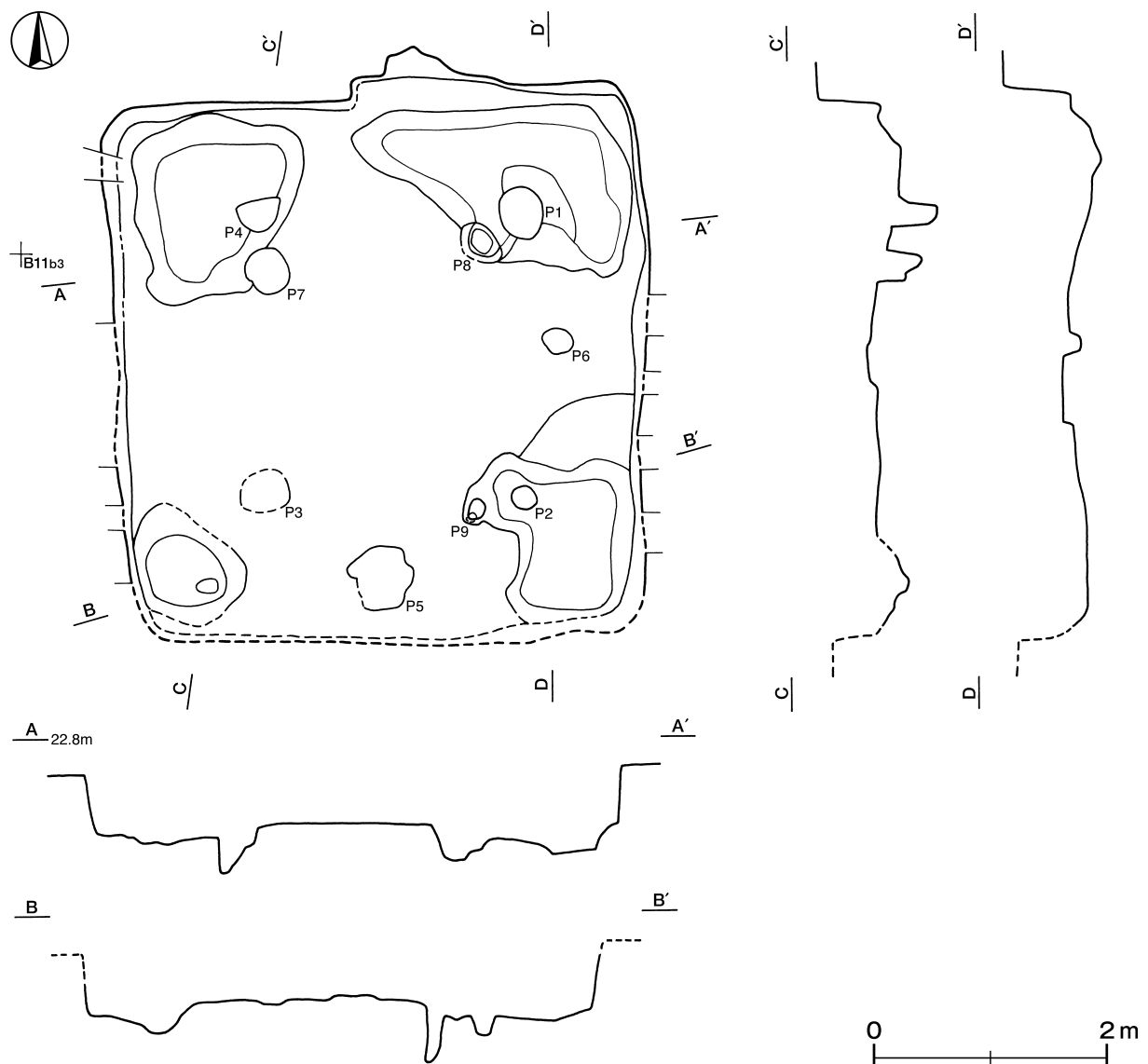
覆土 5層に分けられる。攪乱を著しく受けているため堆積状況は不明である。

土層解説

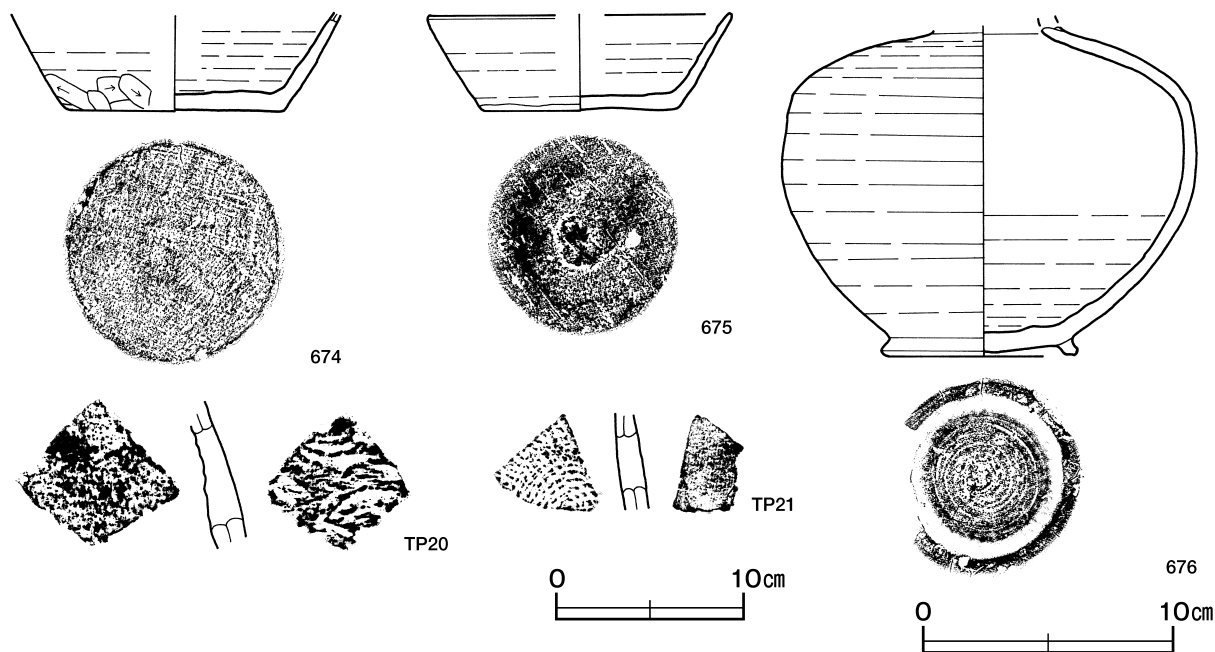
- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化物微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子多量 |
| 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量,焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片806点(甕類),須恵器片198点(坏126,高台付坏6,蓋2,瓶類3,甕類60,甑1)のほか,混入した古墳時代の土師器片67点,中世以降の陶器片8点,磁器片1点も出土している。674は南西部の覆土下層,675は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており,廃絶後に廃棄されたと考えられる。676は北東部の床面から正位の状態出土していることから,遺棄されたものと考えられる。また,TP20は北東部の掘り方内から出土している。

所見 掘り方から主柱穴は,P3・P7~P9からP1~P4への立て替えが行われたと考えられる。時期は,出土土器から8世紀後葉で,改築前はそれ以前と考えられる。



第406図 第2274号住居跡実測図(2)



第407図 第2274号住居跡出土遺物実測図

第2274号住居跡出土遺物観察表（第407図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
674	須恵器	坏	-	(4.0)	8.5	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土下層	60%
675	須恵器	坏	[12.1]	3.9	7.8	長石・雲母	褐灰	普通	体部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	60%
676	須恵器	長頸壺	-	(13.0)	7.6	石英	灰白	普通	体部内外面ロクロナデ 外面自然釉付着 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	80% PL171
TP20	須恵器	甕	-	(3.9)	-	長石	褐灰	普通	体部外面自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	掘り方	
TP21	須恵器	甕	-	(2.6)	-	長石	灰	普通	体部外面同心円状叩き目 内面ナデ	覆土上層	

第2275号住居跡（第408・409図）

位置 調査区北部のB11b6区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2276号住居に掘り込まれており，東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸4.75m，短軸4.61mの方形と推定され，主軸方向はN - 1° - Eである。壁高は44~56cmで，外傾して直立ぎみに立ち上がっている。

床 現存する床はほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁際の床面に焼土及び砂質粘土の広がりが確認されている。

ピット 7か所。P1~P4は主柱穴で，深さは44~62cmである。P5は深さ24cmで，竈に対峙する位置にあることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ20・28cmで，性格は不明である。

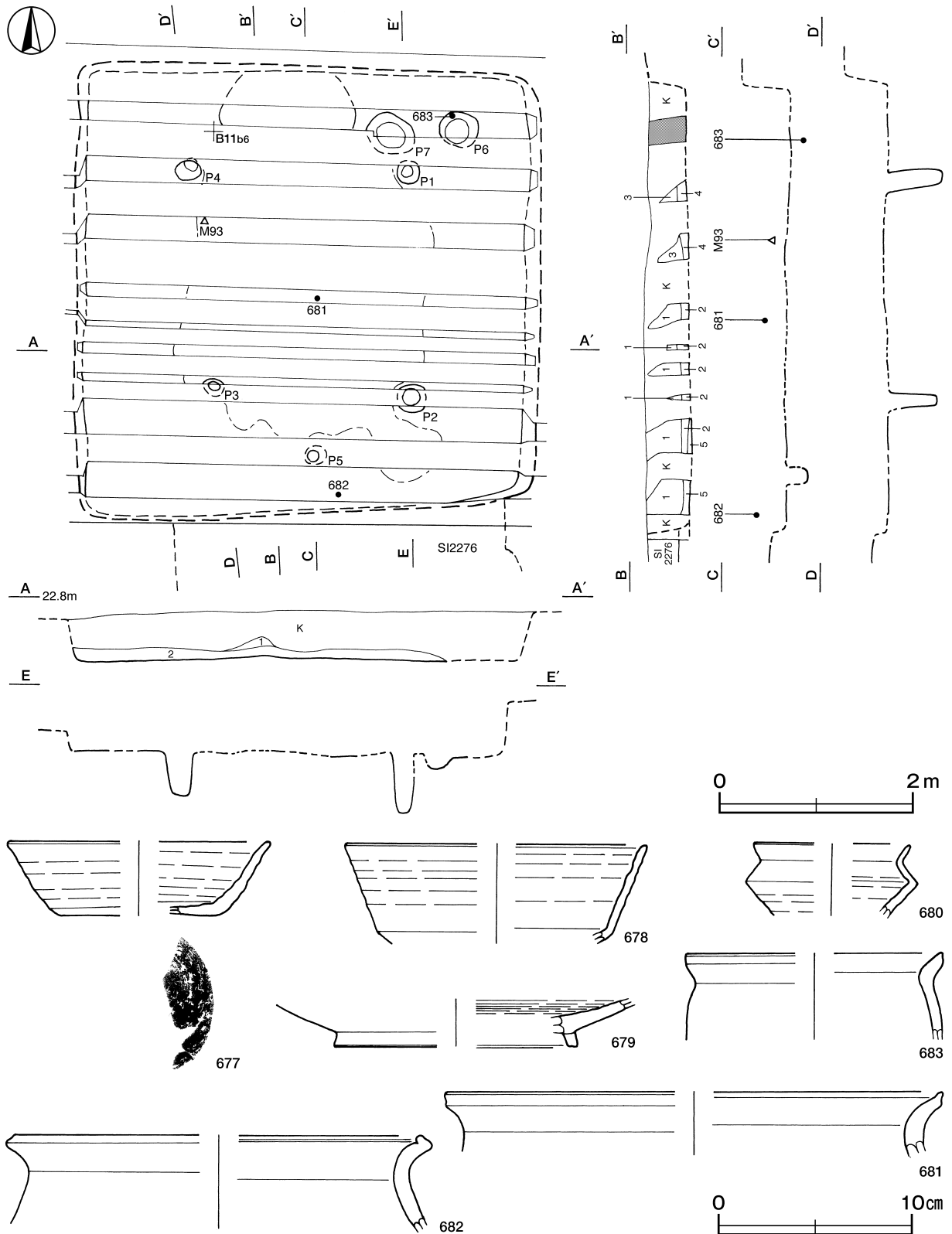
覆土 5層に分けられる。攪乱が激しいため，堆積状況は不明である。

土層解説

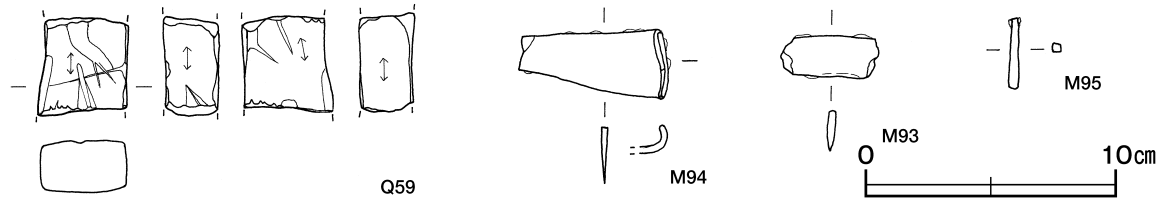
- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 極暗褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 | 焼土粒子中量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片460点(坏40,甕類420),須恵器片122点(坏66,高台付坏1,盤1,蓋1,短頸壺1,甕類52),石器1点(砥石),鉄製品4点(刀子1,鎌1,釘1,不明1)が出土している。その他,混入した陶器

片2点，磁器片6点なども出土している。681は中央部の覆土中層，679は北西部の覆土上層，678は北東部の覆土中層からそれぞれ出土しており，細片であることから住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。Q59はP3の覆土，M93は中央部の覆土下層，M94は北西部の覆土上層，M95は竈の覆土からそれぞれ出土している。
所見 北壁中央部に竈が存在していたが，耕作による攪乱によって壊されている。覆土の堆積状況は不明であるが，時期は，出土土器と重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第408図 第2275号住居跡・出土遺物実測図



第409図 第2275号住居跡出土遺物実測図

第2275号住居跡出土遺物観察表（第408・409図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
677	須恵器	坏	[13.4]	3.8	[8.0]	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部内外面口クロナデ 体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土上層	30%
678	須恵器	坏	[15.4]	(5.1)	-	長石・石英	灰	普通	体部内外面口クロナデ	覆土中層	5%
679	須恵器	盤	-	(2.5)	[12.4]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	5%
680	須恵器	短頸壺	[8.0]	(3.8)	-	長石・石英	灰	普通	口頸部内外面口クロナデ	覆土上層	5%
681	土師器	甕	[25.4]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土中層	5%
682	土師器	甕	[20.6]	(4.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土上層	5%
683	土師器	小形甕	[13.2]	(4.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	P 6 覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q59	砥石	(3.9)	(3.6)	2.0	(48.2)	凝灰岩	砥面4面 断面長方形	P 3 覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M93	刀子	(3.9)	(1.7)	0.3	(5.5)	鉄	刃先部欠損 茎部欠損	覆土下層	
M94	鎌	(5.9)	(2.8)	0.3	(18.2)	鉄	基部破片	覆土上層	
M95	釘	(2.8)	0.3	0.3	(1.2)	鉄	頭部欠損 先端部欠損 断面正方形	竈覆土	

第2276号住居跡（第410図）

位置 調査区北部のB11c6区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2275・2277号住居跡を掘り込んでいる。また，東西に横切る耕作による攪乱を受けており，本跡の遺存状態は非常に悪い。

規模と形状 攪乱のため，南・北壁は検出されていない。東西軸は3.98m，南北軸は推定2.98mの長方形で，主軸方向はN-90°-Eである。一部遺存している壁高は14cmで，外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で，中央部の一部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。攪乱を受けており，袖部，焚口部，火床部の一部が遺存している。規模は，遺存している袖部幅は84cmであり，火床面は火を受けて赤変している。

竈土層解説

- 1 にぶい褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量

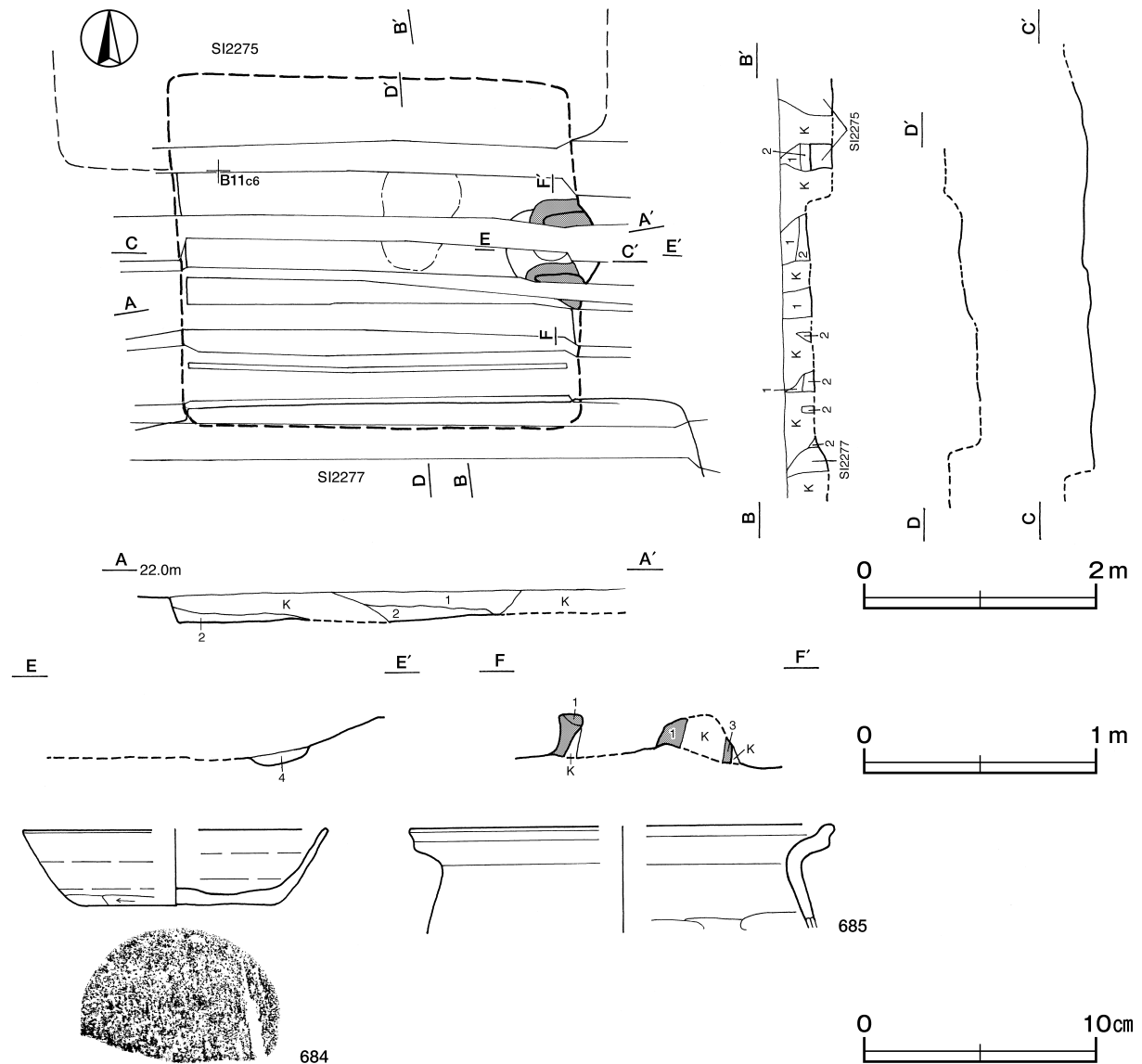
覆土 2層に分けられる。攪乱を受けているため，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片249点（甕類），須恵器片108点（坏16，高台付坏1，蓋2，瓶類1，甕類88），土製品2点（不明），鉄器4点（鎌），鉄滓3点のほか，混入した古墳時代の土師器片79点，中世以降の陶器片3点，磁器片4点も出土している。684は竈の左袖部内から出土しており，構築時に埋め込まれたと考えられる。685は覆土中から出土しており，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀後葉と考えられる。



第410図 第2276号住居跡・出土遺物実測図

第2276号住居跡出土遺物観察表（第410図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
684	須恵器	坏	[12.8]	3.3	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端へら削り 底部二方向へら削り	竈袖部	40%
685	土師器	甕	[18.0](4.5)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内外面ナデ	覆土	5%

第2284号住居跡（第411図）

位置 調査区北部のA11d6区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 東西に横切る耕作による攪乱を受けているため，住居の一部が壊されている。

規模と形状 長軸2.95m，短軸2.33mの長方形で，主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は5～9cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。北部と攪乱を受けた一部を除いた壁下には，幅10～14cm，深さ5～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁東寄りに付設されている。攪乱によって袖部と煙道部が壊されており、遺存状態は悪い。火床面は長径33cm, 短径30cmの円形で、中央部に攪乱を受けており、火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 9 赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量 | | |

ピット 深さ21cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

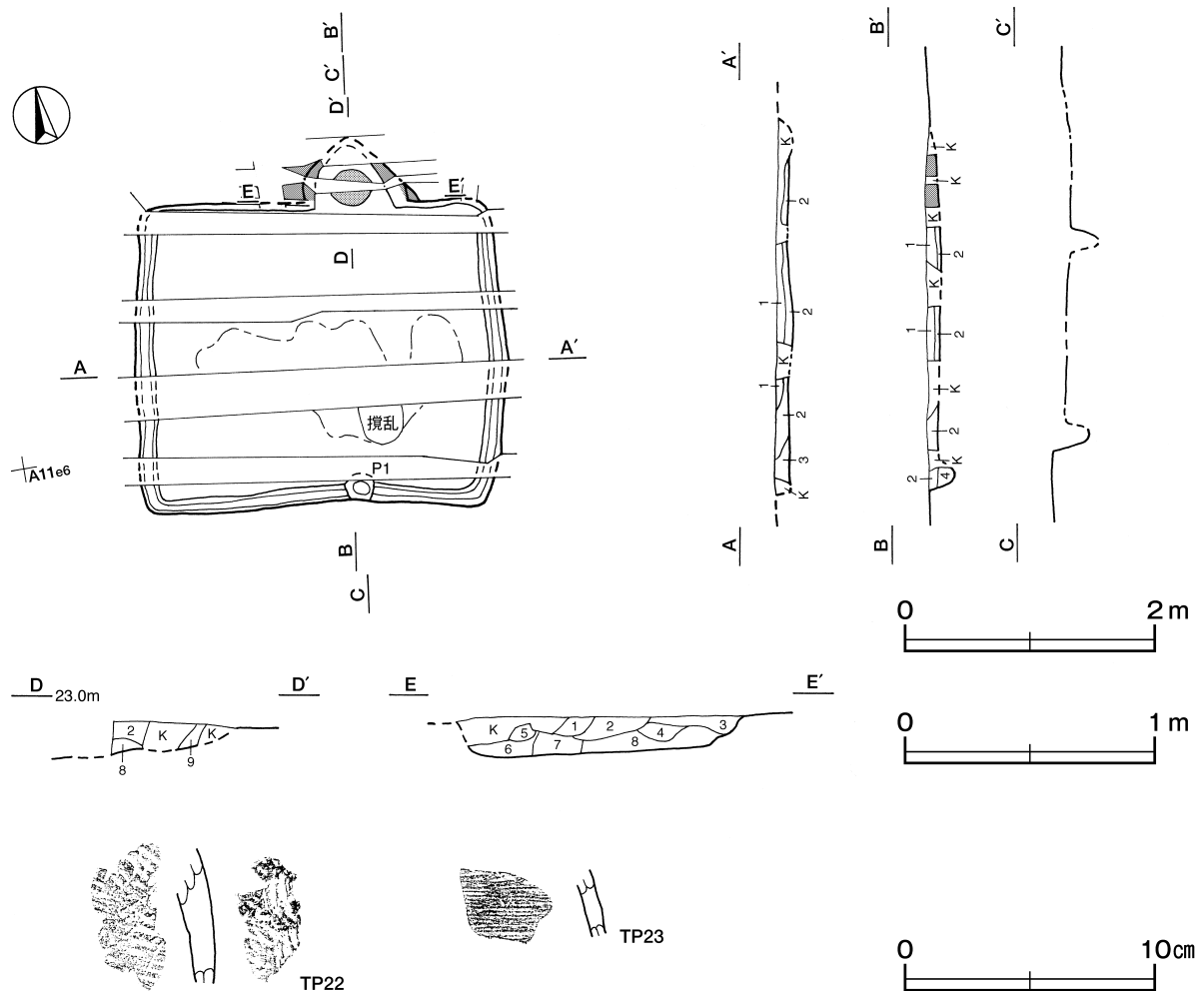
覆土 4層に分けられる。堆積が薄いことと攪乱を受けていることから、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片47点(甕類43, 甑4), 須恵器片6点(坏3, 甕類3), 石器1点(砥石)のほか、混入した古墳時代の土師器片6点, 中世以降の陶器片1点, 磁器片1点も出土している。TP22とTP23は北西部の覆土から出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。



第411図 第2284号住居跡・出土遺物実測図

第2284号住居跡出土遺物観察表（第411図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP22	須恵器	甕	-	(5.4)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面同心円状叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土	
TP23	須恵器	甕	-	(2.6)	-	長石・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	体部外面横位平行叩き 内面ナデ	覆土	

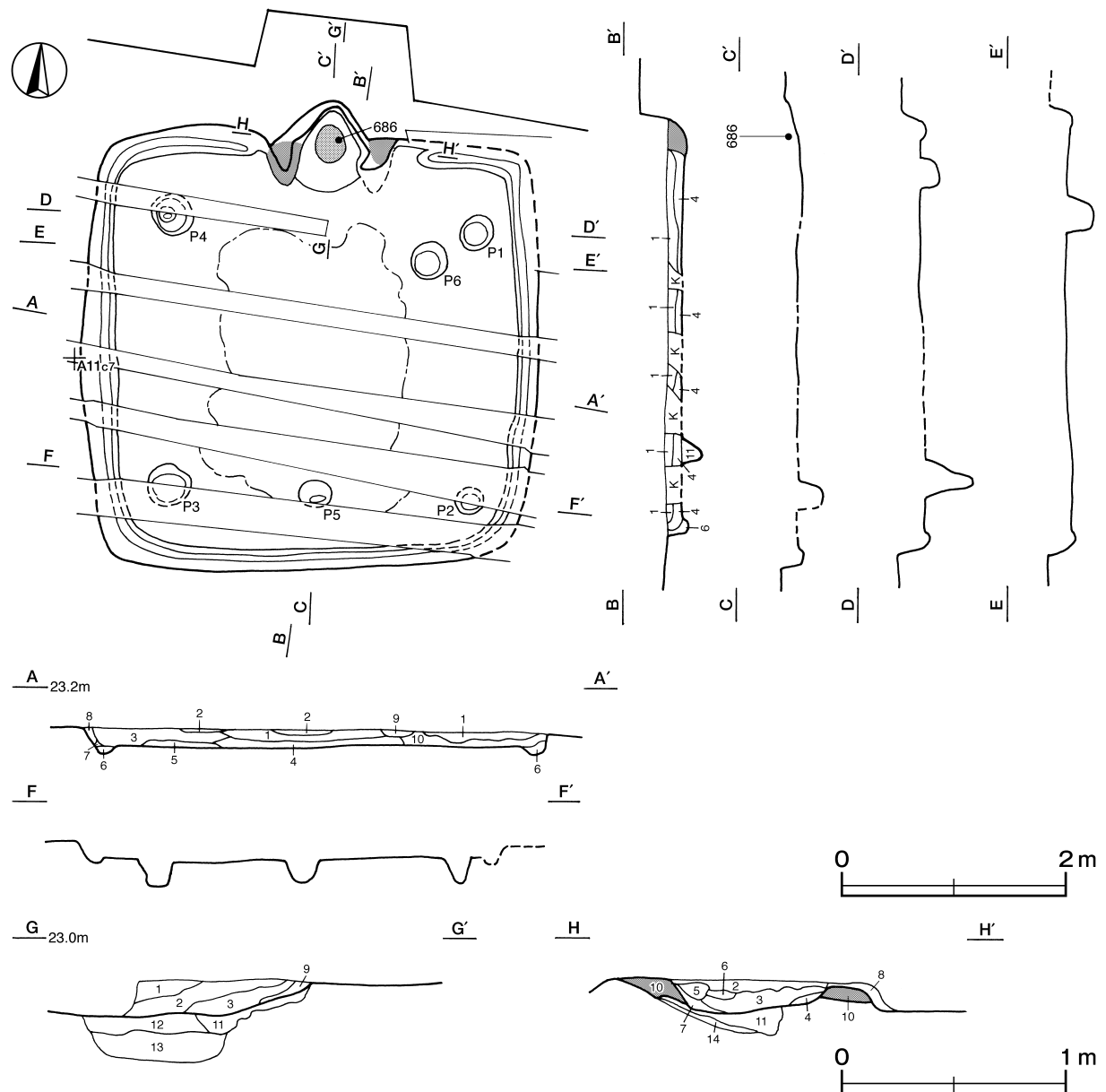
第2285号住居跡（第412・413図）

位置 調査区北部のA11b7区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

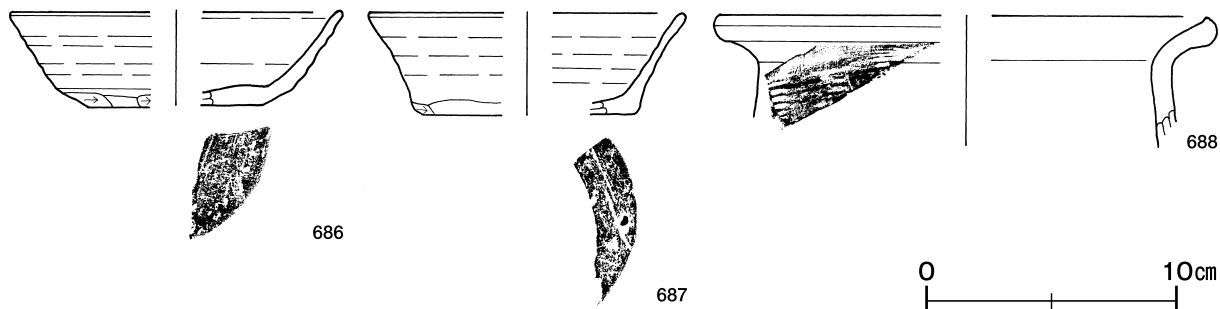
確認状況 東西に横切る耕作による攪乱を受けているため，一部が壊されている。

規模と形状 長軸4.03m，短軸3.81mの方形で，主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は15~19cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。攪乱を受けていない壁下には，幅8~16cm，深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第412図 第2285号住居跡実測図



第413図 第2285号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで81cm，袖部幅112cmである。袖部は床面より高く掘り残した地山を中心とし，その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を8～22cmの不整形に掘りくぼめてローム土を埋め戻しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ35cm掘り込まれ，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 粘土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量 | 10 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック少量，炭化物・砂質粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子少量 |

ピット 6か所。P1～P4は支柱穴で，深さは19～43cmである。P5は深さ23cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 11層に分けられる。各層に多くのロームブロックを含んでいることや，ブロック状に堆積した状況を示していることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 7 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 8 にぶい褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子中量，ロームブロック少量 | 10 褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物出土状況 土師器片32点（甕類），須恵器片38点（坏33，蓋1，甕類4），鉄器1点（刀子）のほか，混入した古墳時代の土師器片11点も出土している。686は竈の火床面上から破損した状態で出土しており，廃絶時に廃棄されたと考えられる。687と688は北西部の覆土から出土しており，廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2285号住居跡出土遺物観察表（第413図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
686	須恵器	坏	[13.0]	3.8	[7.0]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端へら削り 底部二方向のへら削り	竈覆土	20%
687	須恵器	坏	[12.3]	4.1	[8.5]	長石・雲母	灰白	普通	体部下端へら削り 底部二方向のへら削り	覆土	20%
688	須恵器	甕	[19.6]	(5.2)	-	長石・雲母	灰	普通	体部外面横位平行叩き	覆土	5%

第2289号住居跡（第414図）

位置 調査区北部のB11c8区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2291号住居跡を掘り込んでいる。また，耕作による攪乱を著しく受けているため，遺存状態は悪い。

規模と形状 壁面に攪乱を受けて不明瞭であるため，長軸は推定3.28m，短軸は推定3.00mの方形で，主軸方

向はN - 4 ° - Wである。一部遺存している壁高は26 ~ 30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ全面に攪乱を受けており、踏み固められた部分は確認されていない。

竈 北壁東寄りに付設されている。攪乱を受けているが、袖部、火床部、煙道部の一部が遺存している。遺存している袖部幅は95cmであり、床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面と同じ高さに構築され、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ38cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 焼土粒子中量,炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 黒褐色 炭化粒子中量,砂質粘土粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 砂質粘土粒子少量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

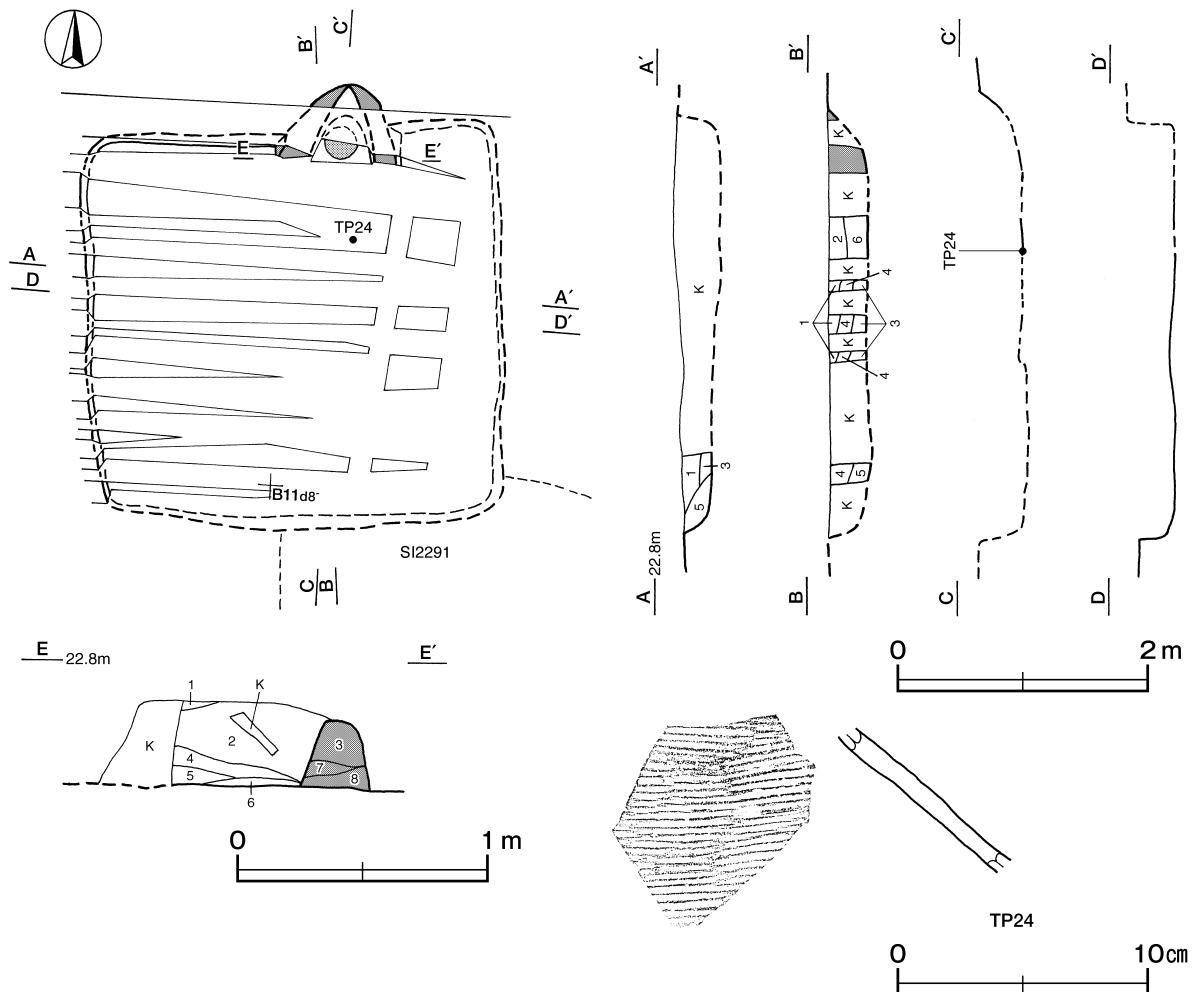
覆土 6層に分けられる。攪乱を受けているため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量,焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片289点(甕類),須恵器92点(坏29,高台付坏1,蓋4,盤2,壺類3,甕48,甌5),土製品4点(支脚),鉄滓1点のほか、混入した古墳時代の土師器片26点,中世以降の陶器片7点も出土している。TP24は北東部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀代後半と考えられる。



第414図 第2289号住居跡・出土遺物実測図

第2289号住居跡出土遺物観察表（第414図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP24	須恵器	甕	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	体部外面横位平行叩き 火を受けている 内面ナデ	床面	

第2290号住居跡（第415・416図）

位置 調査区北部のB11e8区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2291号住居跡を掘り込んでいる。また、住居北西部から南東にわたって耕作による攪乱を受けており、竈と北壁の遺存状態は悪い。

規模と形状 長軸3.53m、短軸2.95mの長方形で、主軸方向はN - 27° - Wである。壁高は31~40cmで、外傾して立ち上がっている。

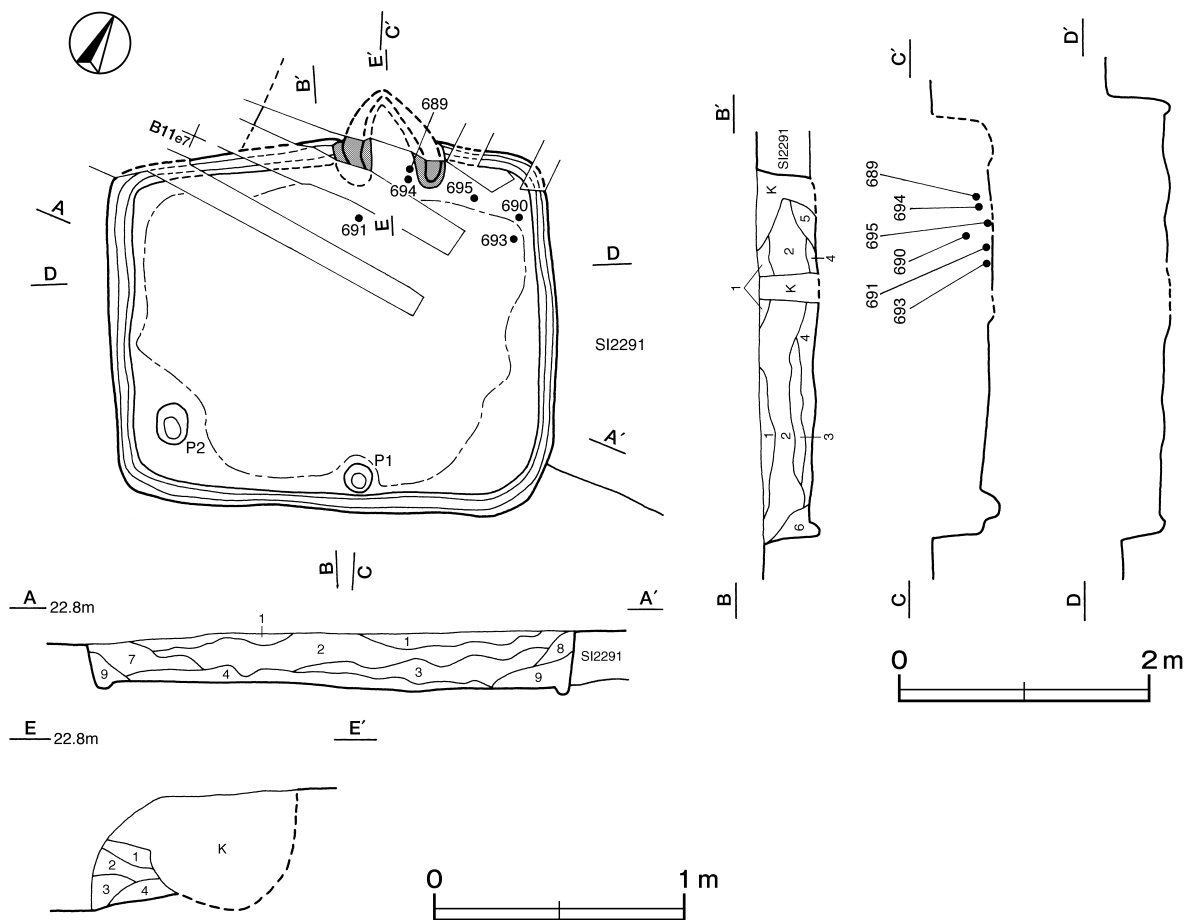
床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北部の一部を除いた壁下には、幅9~12cm、深さ2~4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁東寄りに付設されている。攪乱を受けているため、煙道部、焚口部と袖部の一部が壊されている。遺存している袖部幅は86cmである。

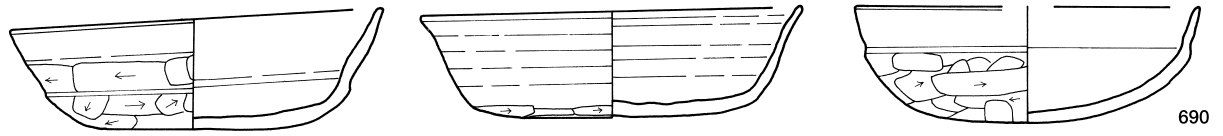
竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

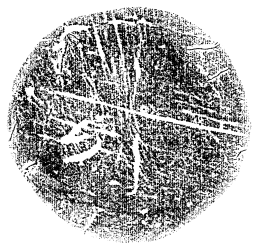
ピット 2か所。P1は深さ40cmで、性格は不明である。P2は深さ16cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



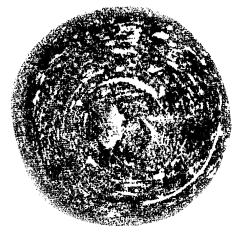
第415図 第2290号住居跡実測図



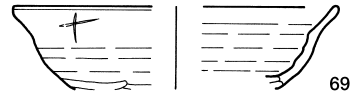
690



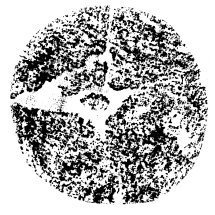
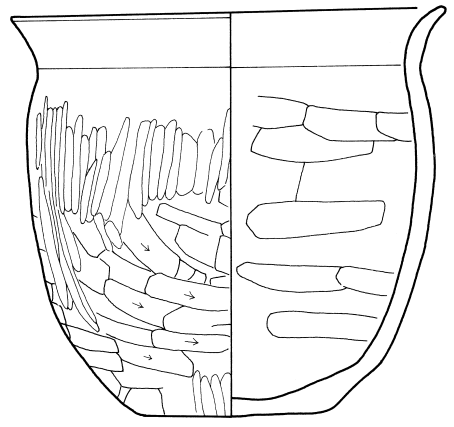
689



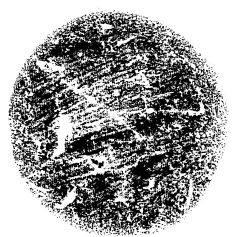
691



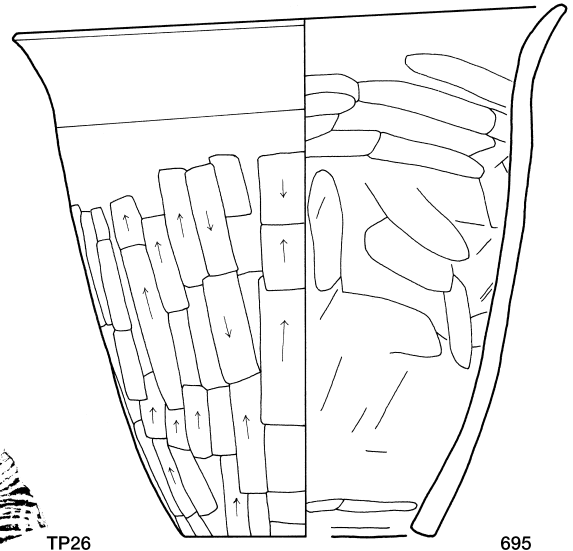
692



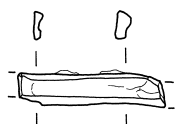
694



693



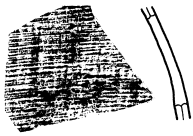
695



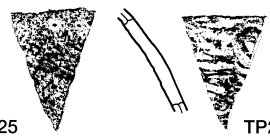
M96



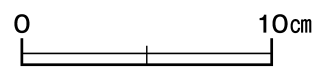
TP26



TP25



TP27



第416图 第2290号住居跡出土遺物実測図

覆土 9層に分けられる。壁が自然崩落した後に、ロームブロックを含んでいる土で埋められたと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片503点(坏88, 高台付坏1, 鉢12, 甕類397, 甌5), 須恵器片19点(坏6, 甕類13), 土製品1点(小玉), 鉄製品1点(不明)のほか, 混入した古墳時代の土師器片4点, 中世以降の瓦質土器片5点, 陶器片1点, 磁器片1点も出土している。689は竈の覆土, 694は竈右袖部に寄りかかる状態で出土し, 691は逆位の状態で竈前の床面, 693・695はつぶれた状態で北東部壁際の床面からそれぞれ出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第2290号住居跡出土遺物観察表(第416図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
689	土師器	坏	14.6	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面横ナデ	竈覆土	60% ヘラ記号「x」
690	土師器	坏	[13.8]	4.7	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	70%
691	須恵器	坏	15.1	4.4	9.1	長石・雲母・赤色粒子	浅黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	100% PL161
692	須恵器	坏	[13.0]	(3.3)	[8.2]	石英・雲母	灰黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土上層	5% ヘラ記号「+」 PL183
693	土師器	甕	22.2	33.1	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面ヘラナデ・ヘラ磨き 内面ナデ 輪積痕 底部ヘラ磨き	床面	95% PL183
694	土師器	小形甕	17.3	16.4	7.6	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り・ヘラ磨き 内面ナデ 底部ヘラ削り	覆土下層	80% PL178
695	土師器	甌	21.8	21.1	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	95% PL187
TP25	須恵器	甕	-	(4.5)	-	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	体部外面力キ目調整 自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土上層	TP1026と同一個体
TP26	須恵器	甕	-	(3.5)	-	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	体部外面力キ目調整 自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	TP1025と同一個体
TP27	須恵器	甕	-	(4.2)	-	長石・雲母	灰	普通	体部外面格子状叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M96	不明	(5.8)	1.2	0.6	[12.9]	鉄	表面中央部に薄い溝状の凹み有り 裏面ボタン状の脹らみ有り	覆土上層	

第2295号住居跡(第417図)

位置 調査区北部のA12g1区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 削平により, 北西部の壁と竈の大部分が壊されている。

規模と形状 長軸2.94m, 短軸2.35mの長方形で, 主軸方向はN-16°-Eである。壁高は2~9cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁溝を除いて踏み固められている。壁下には, 幅8~17cm, 深さ5~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 削平により遺存状態が悪く, 北壁中央部に掘り方のみ確認された。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で, 深さはそれぞれ16cm, 18cmである。P3は深さ13cmで, 竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

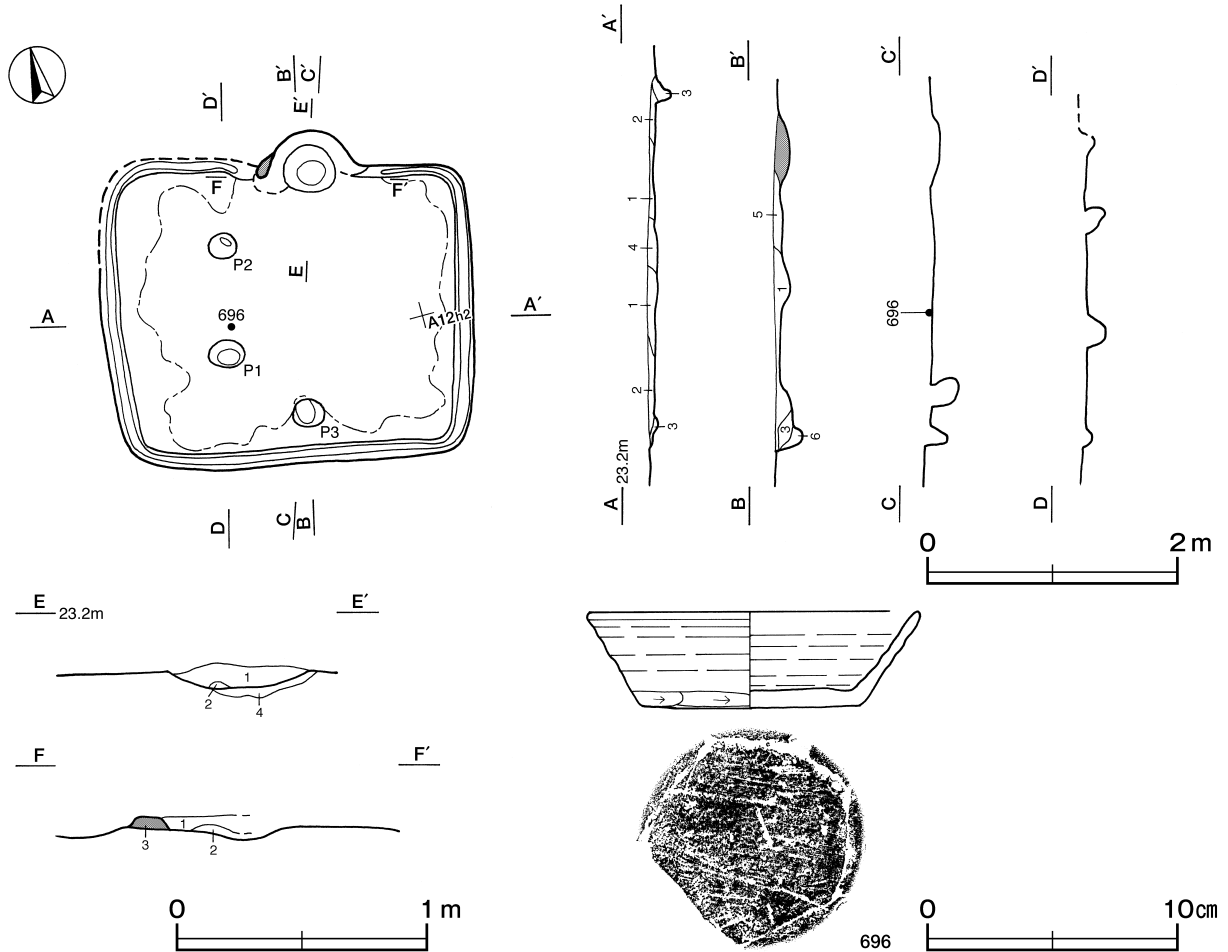
覆土 6層に分けられる。堆積が薄いため詳細は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子多量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片 7 点 (坏 2 , 甕類 5) , 須恵器片 8 点 (坏) , 土製品 1 点 (支脚) のほか, 混入した古墳時代の土師器片 2 点も出土している。696はP1 周辺の床面から, 正位の状態 で 体部が底部に沿ってつぶれて出土しており, 廃絶時に遺棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第417図 第2295号住居跡・出土遺物実測図

第2295号住居跡出土遺物観察表 (第417図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
696	須恵器	坏	13.0	3.9	8.7	長石・雲母・礫	褐灰	普通	体部下端へら削り 底部二方向のへら削り	床面	60%

第2297号住居跡 (第418図)

位置 調査区北部の A12g2 区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2296号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.30m, 短軸2.98mの長方形で, 主軸方向は N - 11° - E である。壁高は11~14cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。第2296号住居に煙道部から西部にかけて掘り込まれているため、遺存状態は悪い。右袖部は遺存しており、床面より若干高く掘り残した地山を中心とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を3cm掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変している。

竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量
- 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 深さ27cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

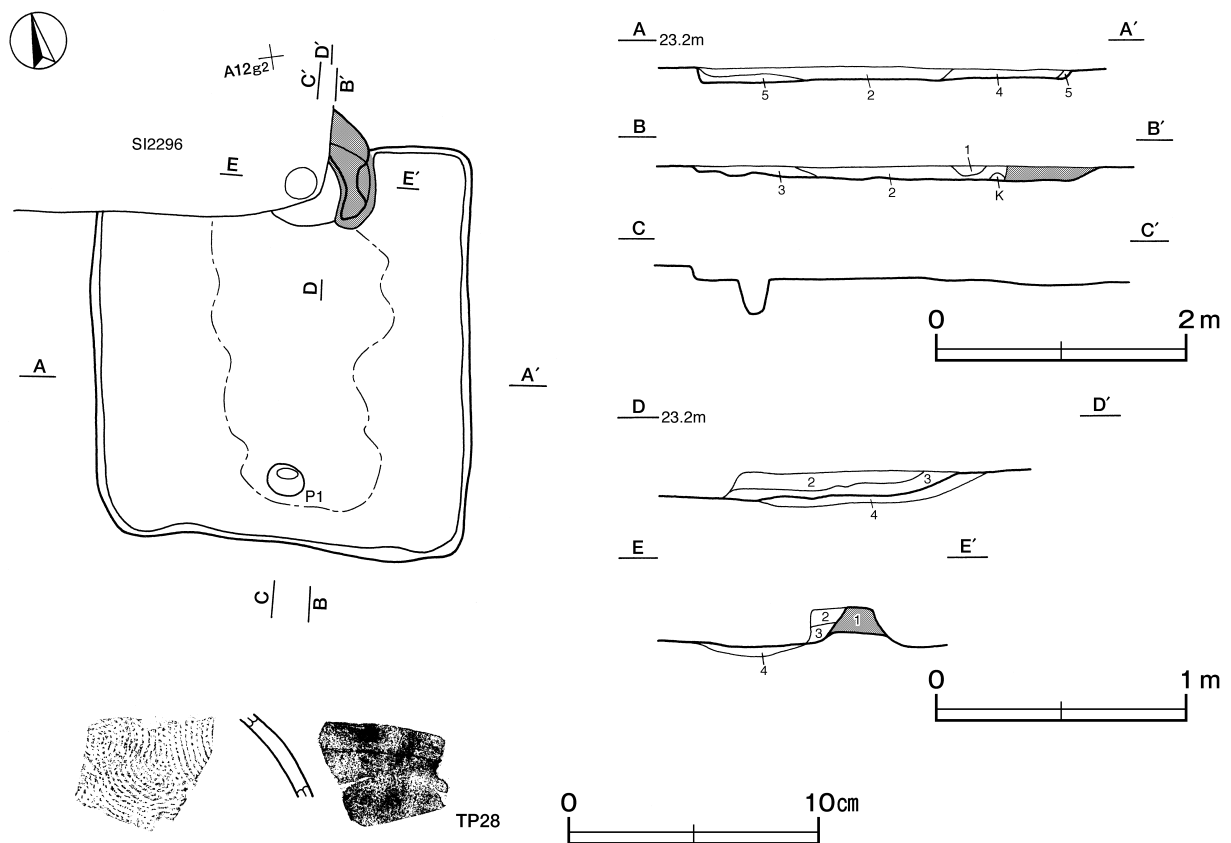
覆土 5層に分けられる。堆積が薄いため詳細は不明である。

土層解説

- 1 褐灰色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片16点(坏1, 甕類15), 須恵器片8点(坏6, 甕類2)のほか、混入した古墳時代の土師器片1点, 中世以降の陶器片2点も出土している。TP28は北西部の覆土から出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀後半と考えられる。



第418図 第2297号住居跡・出土遺物実測図

第2297号住居跡出土遺物観察表(第418図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP28	須恵器	甕	-	(3.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面同心円状叩き 内面ナデ	覆土上層	

第2298号住居跡 (第419～421図)

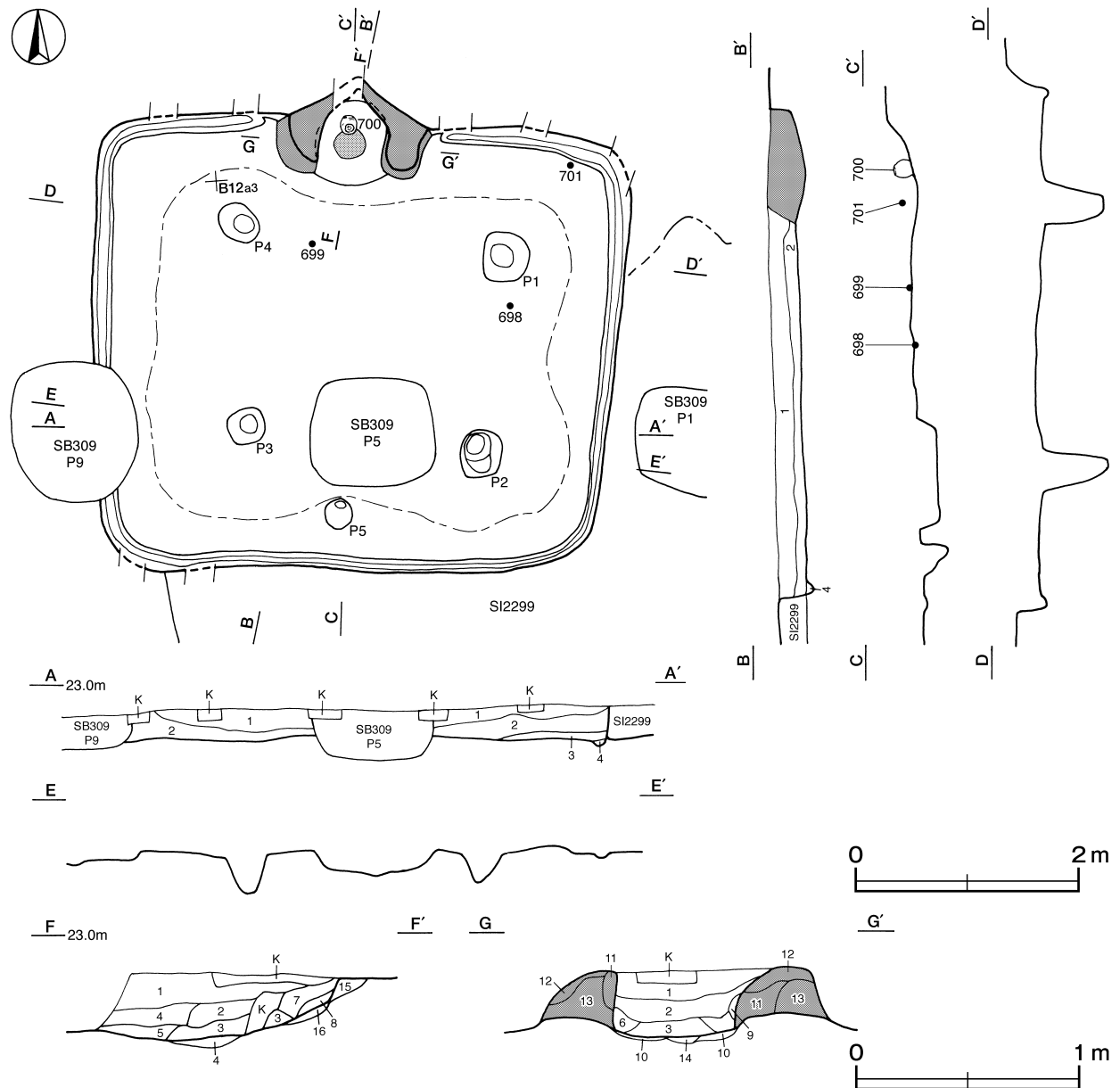
位置 調査区北部のB12a3区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2299号住居跡を掘り込み、第309号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.63m、短軸4.00mの長方形で、主軸方向はN - 7° - Eである。壁高は4～7cmで、外傾して立ち上がっている。

床 やや凹凸があり、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅4～20cm、深さ2～7cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅135cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を中心として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を4cm掘りくぼめている。煙道の立ち上がり部に土師器小形甕が支脚として据えられ、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ44cm掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。第2層は、天井部の崩落土層である。



第419図 第2298号住居跡実測図

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	9 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 にぶい赤褐色	焼土粒子・灰中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	11 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子少量
4 極暗褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量
5 黒褐色	炭化物・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	13 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量
7 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	15 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは51～63cmである。P5は深さ20cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

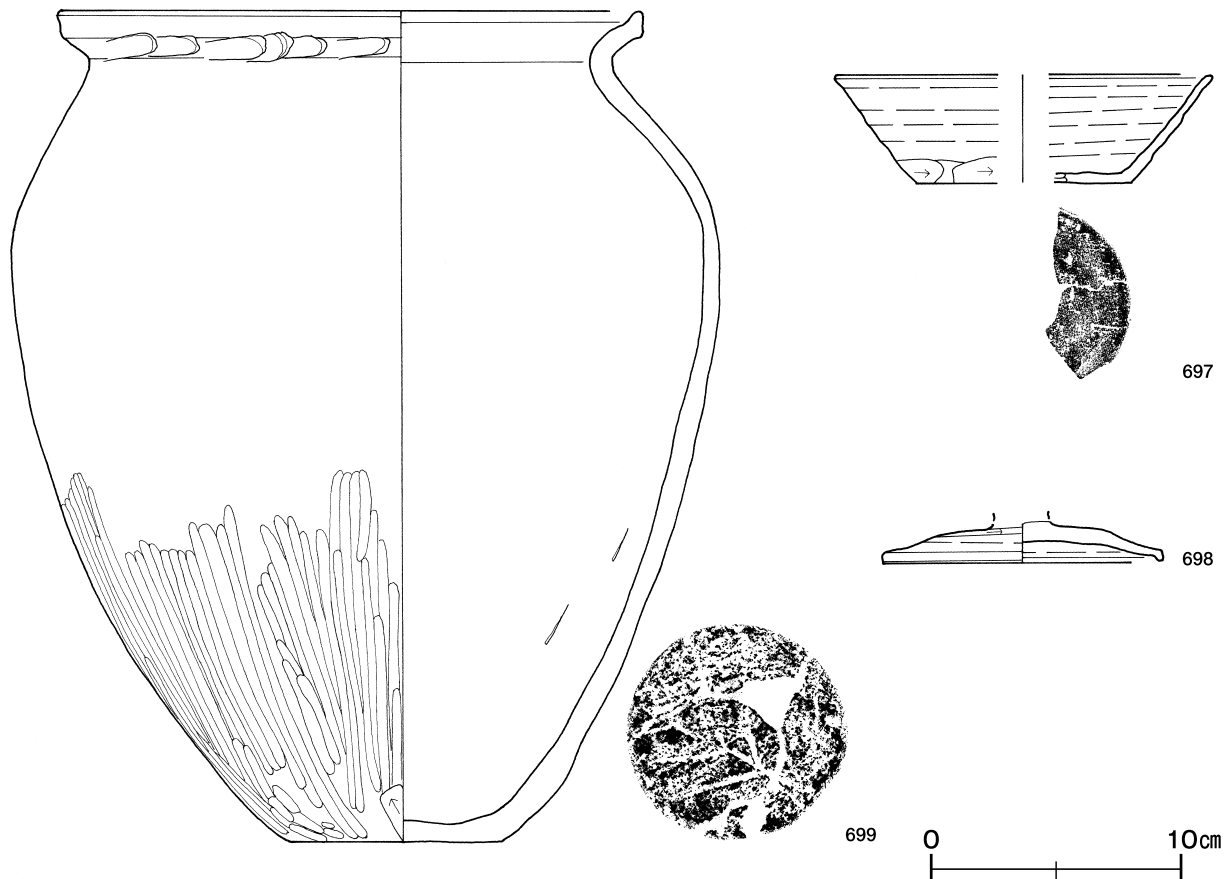
覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

土層解説

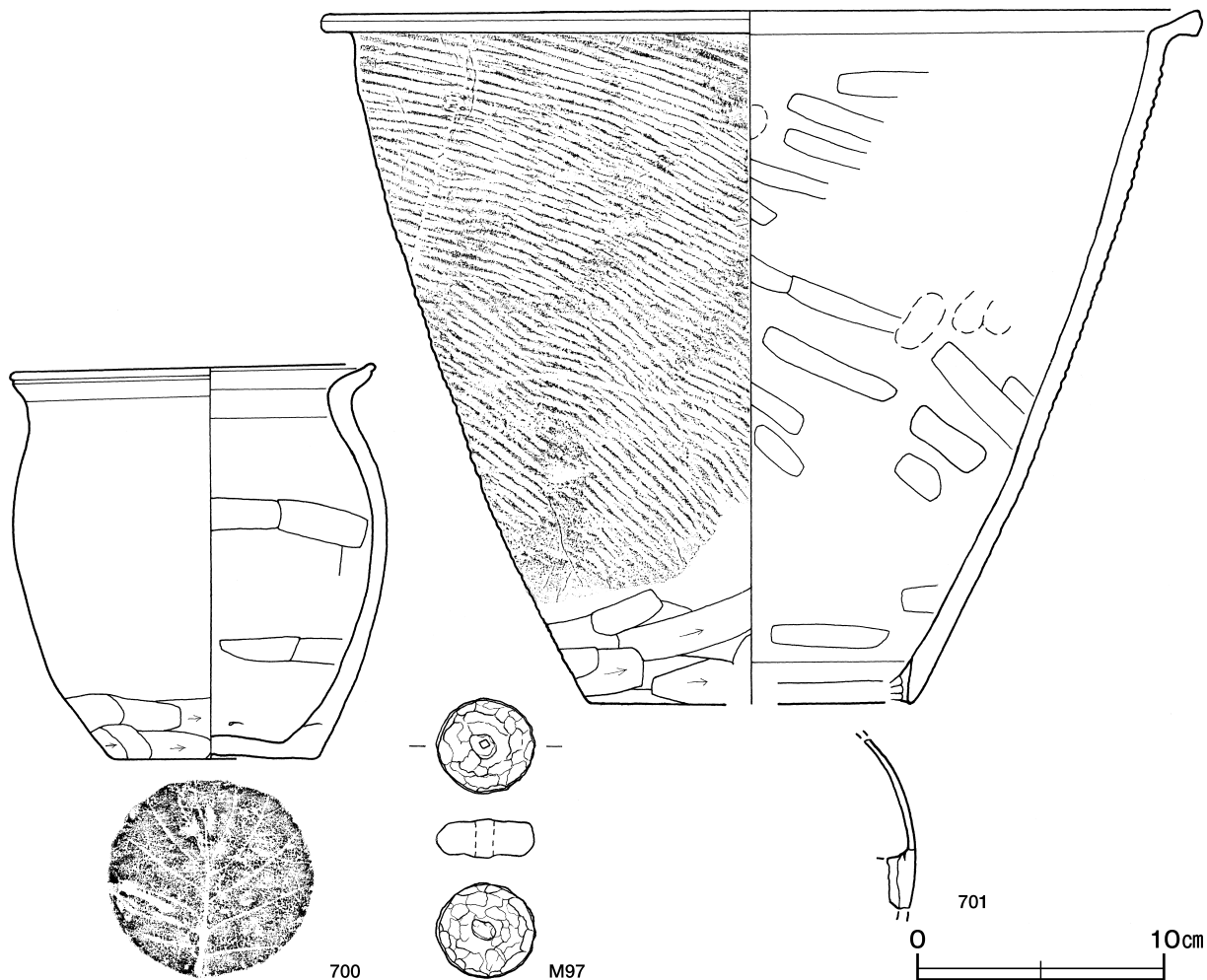
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量	3 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック微量	4 暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片326点(坏4, 甕類317, 甌5), 須恵器片94点(坏57, 蓋16, 高盤1, 壺類2, 甕類4, 甌14), 灰釉陶器片1点(蓋), 鉄製品1点(紡錘車), 粘土塊2点, 鉄滓1点のほか、混入した古墳時代の土師器片109点, 中世以降の陶器片1点も出土している。699は中央部北西側の床面からつぶれた状態で出土している。竈の煙道部から出土した700は火を受けていることから、支脚として使用されていたと考えられる。これらは出土状況から遺棄されたものと考えられる。698は東部の床面, 701は北東コーナー部際の床面よりやや浮いた状態で、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第420図 第2298号住居跡出土遺物実測図(1)



第421図 第2298号住居跡出土遺物実測図(2)

第2298号住居跡出土遺物観察表(第420・421図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
697	須恵器	坏	[14.3]	4.3	8.4	長石・石英・礫	にぶい横褐色	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	70%
698	須恵器	蓋	11.1 (1.6)	-	-	長石・石英	灰	普通	天井部左回転ヘラ削り後つまみ接合	覆土下層	75%
699	土師器	甕	23.2	33.0	8.0	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 体部下端ヘラ削り 内外面ヘラナデ	床面	90% PL183
700	土師器	小形甕	14.4	15.9	8.2	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ 輪積痕 体部下端ヘラ削り 底部木葉痕	煙道部上	95% PL178
701	須恵器	甌	35.3	28.0	[12.9]	石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横位・斜位平行叩き 体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ・ナデ 指頭痕	床面	70% PL187

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M97	紡錘車	3.8	3.9	1.6	76.3	鉄	円盤状で孔は鉄軸の1部によって塞がれている 孔の周りが一段低く廻っている	覆土	

第2305号住居跡(第422・423図)

位置 調査区北部のB12b8区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第312号掘立柱建物に掘り込まれている。また, 南北方向に耕作による攪乱を受けており, 一部が壊されている。

規模と形状 長軸3.64m, 短軸2.77mの長方形で, 主軸方向はN-12°-Eである。壁高は8~15cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, ほぼ全面が踏み固められている。壁下には, 幅7~14cm, 深さ1~4cmでU字状の断面を呈する

壁溝が巡っている。

竈 北壁東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで91cm、袖部幅118cmである。袖部は床面より高く掘り残した地山を中心とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山を5cm不整形に掘りくぼめてローム土を埋め戻しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ47cm掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

ピット 2か所。P1は深さ25cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2の性格は不明である。

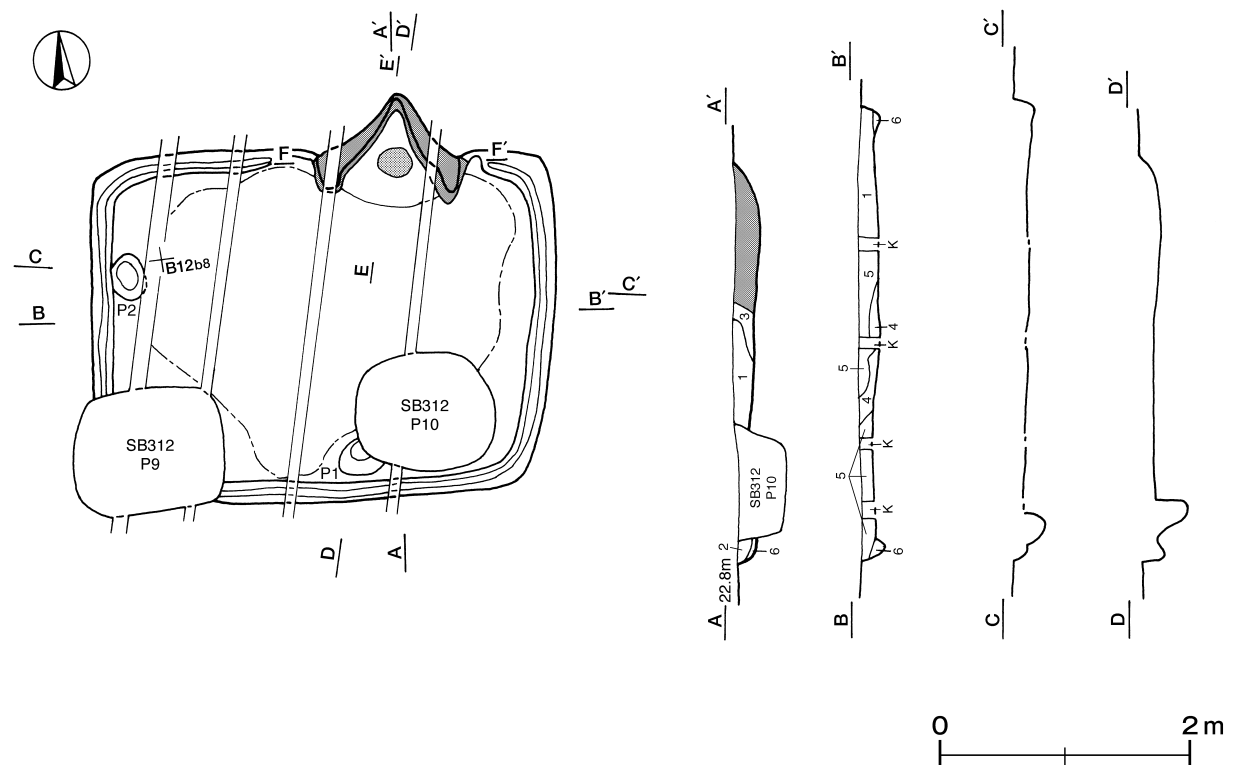
覆土 6層に分けられる。西側からロームブロックを含んでいる土を投げ入れた堆積状況を示していることから、人為堆積である。

土層解説

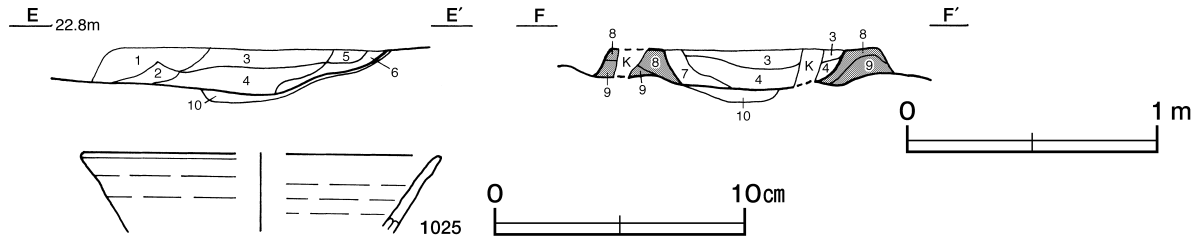
- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片23点(甕類), 須恵器片8点(坏2, 甕類6)のほか、混入した古墳時代の土師器片4点, 中世以降の磁器片1点も出土している。1025は竈の覆土から出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀後半と考えられる。



第422図 第2305号住居跡実測図



第423図 第2305号住居跡・出土遺物実測図

第2305号住居跡出土遺物観察表（第423図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1025	須恵器	坏	[14.0]	(3.2)	-	長石・雲母	橙	普通	体部内外面ロクロナデ	竈覆土	5%

第2306号住居跡（第424図）

位置 調査区北部のB11e9区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2293号住居跡を掘り込み，第2292号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m，短軸3.38mの方形で，主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は3～4cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅18～19cm，深さ6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで92cm，袖部幅123cmである。袖部は地山を掘り込み，砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を18cm椀状に掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ33cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，砂質粘土粒子微量
3	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
4	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	12	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
5	にぶい赤褐色	灰中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量	13	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	14	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量	15	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量
8	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子少量
			17	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

ピット 深さ8cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。レンズ状に堆積した後に，第2292号住居に掘り込まれた堆積状況を示している。

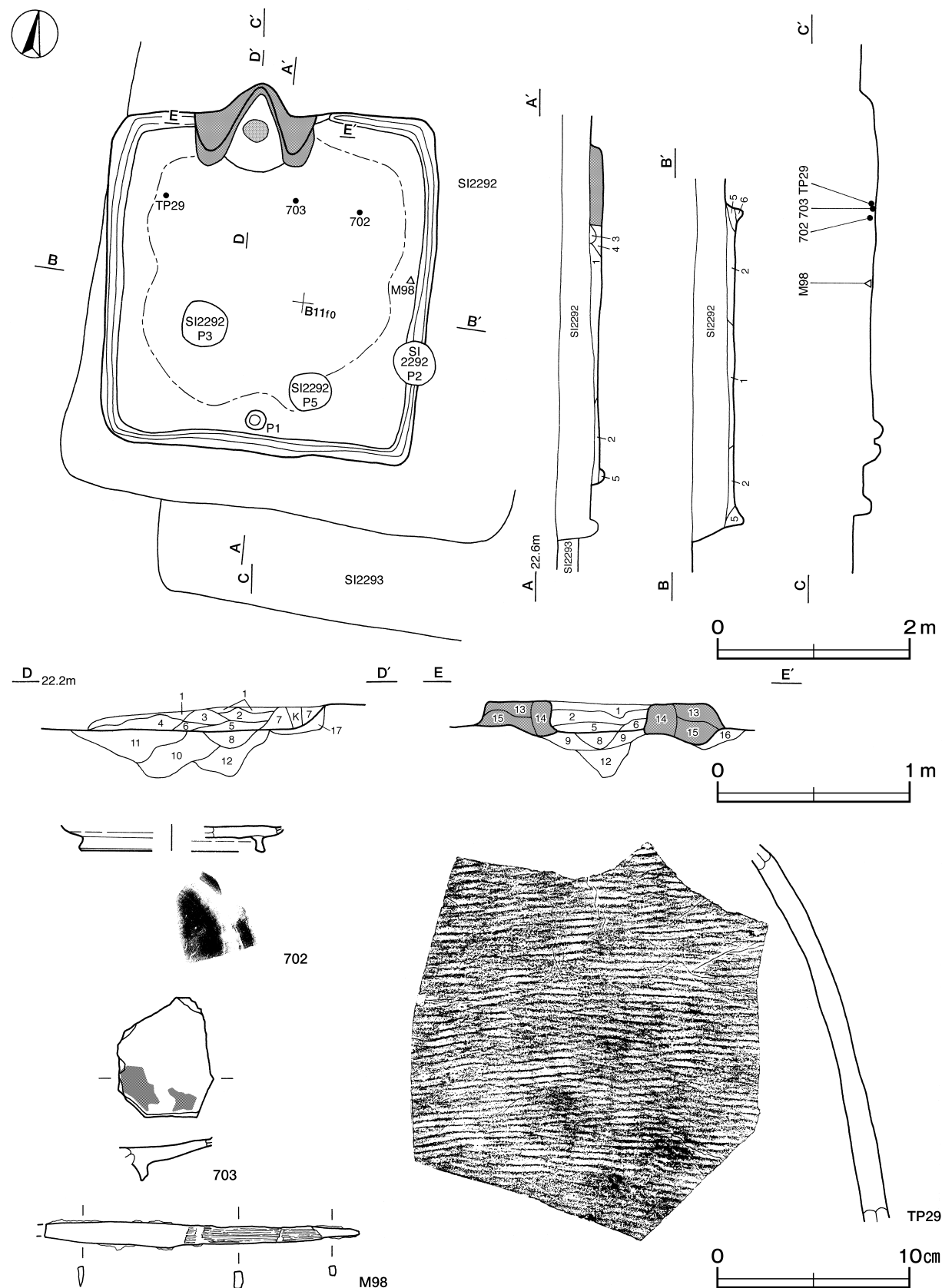
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
3	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片161点（坏3，甕類158），須恵器片43点（坏2，高台付坏1，盤1，甕類32，甗7），土製品1点（支脚），鉄器1点（刀子）のほか，混入した古墳時代の土師器片39点も出土している。702は北東

部の床面，703は竈手前の床面，TP29は北西部の床面からそれぞれ出土しており，廃絶後まもなくに廃棄されたと考えられる。また，M98は東壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀後葉と考えられる。



第424図 第2306号住居跡・出土遺物実測図

第2306号住居跡出土遺物観察表（第424図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
702	須恵器	高台付杯	-	(1.4)	[9.6]	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 高台貼り付け	覆土下層	5 %
703	須恵器	盤	-	(6.2)	-	長石・雲母	褐灰	普通	体部外面・内底に墨付着 内底あまり研磨されておらず使用頻度は低かったと考えられる	床面	5 % 転用碗
TP29	須恵器	甕	-	(19.6)	-	長石・石英・小礫	灰褐	良好	体部外面横位平行叩き 自然釉付着 内面当て具痕	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M98	刀子	(16.2)	0.8	0.5	24.3	鉄	刃部切先欠損 茎部木質残存	覆土下層	PL198

(2) 掘立柱建物跡

第301号掘立柱建物跡（第425図）

位置 調査区西部のC 9 h9 区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

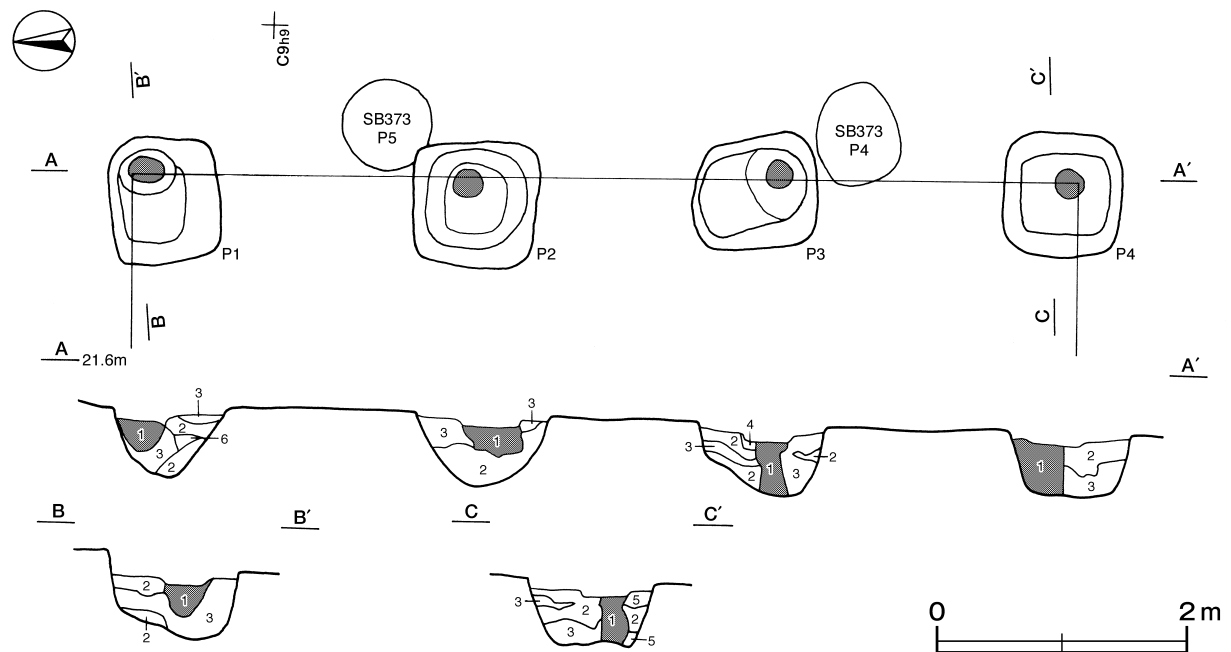
重複関係 第373号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 西側が調査区域外のため南北方向は3間，東西方向は1間だけが確認された側柱式建物跡で，桁行方向N - 0 °の南北棟と推定される。規模は確認された範囲では，桁行7.2m，梁行1.0mである。柱間寸法は，梁行が不明であるが，桁行は2.4m（8尺）を基調とし，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 4か所。平面形は隅丸方形で，規模は長軸96～100cm，短軸88～99cmである。深さは30～55cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し，締まりのない極暗褐色である。すべての底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした炭化物混じりの褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化材少量 | 4 暗褐色 炭化材中量，ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 6 極暗褐色 ロームブロック微量 |



第425図 第301号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片56点（坏7，甕類49），須恵器片5点（坏4，甕1），縄文土器片1点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 推定される規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。東側には第2008号住居跡があり、本跡と軸線を揃えて並列していることから、同時期に機能していたものと推測される。機能していた時期は、柱穴の規模や形態，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

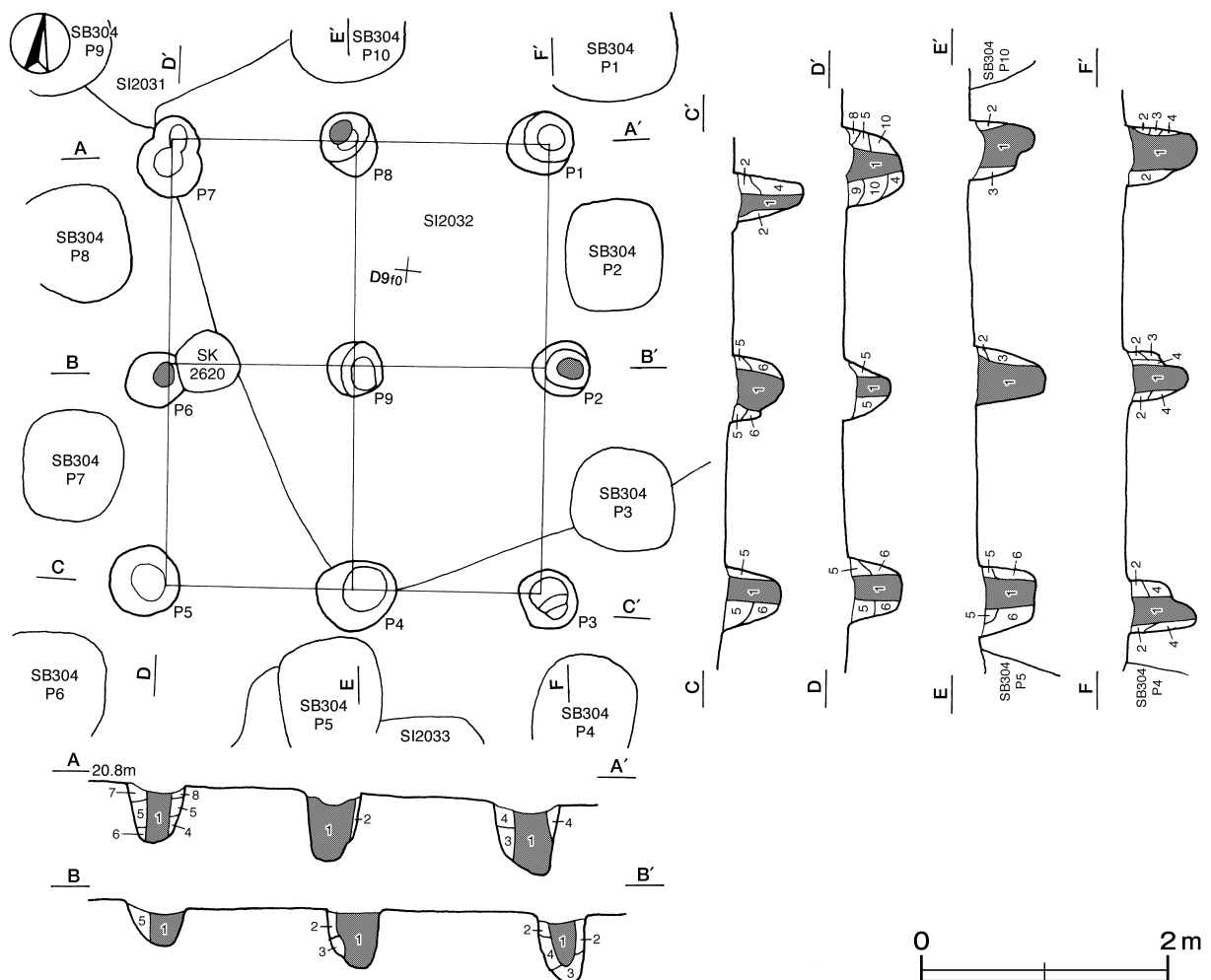
第305号掘立柱建物跡（第426図）

位置 調査区南西部のD9f9区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2031～2033号住居跡を掘り込み，第304号掘立柱建物，第2620号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行，梁行ともに2間の総柱式建物跡で，桁行方向N-5°-Wの南北棟である。規模は，桁行3.6m，梁行3.0mで，面積は10.8m²である。柱間寸法は，桁行が1.8m（6尺），梁行が1.5m（5尺）を基調とし，均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径43～64cm，短径42～54cmである。深さは36～55cmで，断面形はU字形や，二段掘り込みである。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し，やや締まった暗褐色土である。すべての土層断面から柱痕跡が明瞭に確認され，推定される柱の太さは20cm前後である。また，P2・P6・P8の掘方の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・



第426図 第305号掘立柱建物跡実測図

暗褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|---------------------|---------|----------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 褐色土 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色土 | 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色土 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒子少量 | 9 暗褐色土 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 10 暗褐色土 | ロームブロック・粘土粒子微量 |

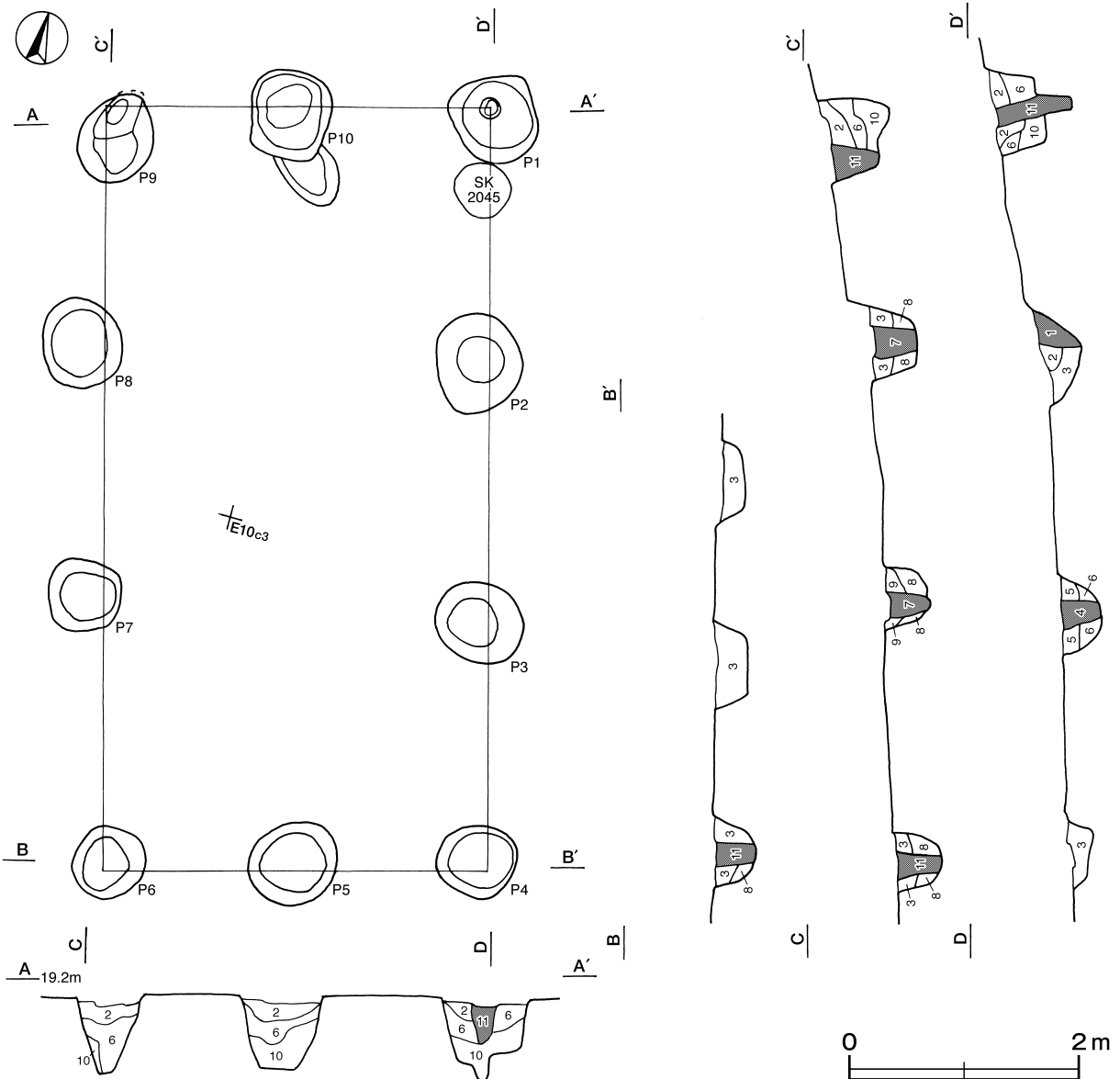
遺物出土状況 土師器片52点（坏10，甕類42），須恵器片2点（坏，甕）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北には第370号掘立柱建物跡があり、軸線を揃えて直列している。また、東には第375号掘立柱建物跡があり、軸線をほぼ揃えて並列していることから、これらの建物群は同時期に機能していたものと推測される。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第307号掘立柱建物跡（第427図）

位置 調査区南西部のE10b2区，標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2045号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。



第427図 第307号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 15° - Wの南北棟である。規模は，桁行6.3m，梁行3.0mで，面積は18.9m²である。柱間寸法は，桁行が2.1m（7尺），梁行が1.5m（5尺）を基調とし，均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形である。規模は長径64～86cm，短径62～74cm，深さは24～72cmであり，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・4・7・11層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い黒褐色土である。その他の層は埋土で，ローム土を主体とする焼土・炭化物混じりの黒色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	7 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	8 黒色	ロームブロック・粘土ブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック少量，粘土ブロック微量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック少量	11 黒褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	12 黒褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片201点（坏29，甕類172），須恵器片3点（坏1，甕2），不明鉄製品2点のほか，混入した縄文土器片1点，土製品1点（支脚）が各柱穴から出土している。いずれも細片であり，図示できるものはない。

所見 規模や形状から穀物などを納めた倉庫と考えられる。廃絶時期は，柱穴の規模や形態，出土土器などから8世紀代と考えられる。

第313号掘立柱建物跡（第428図）

位置 調査区北部のB12e1区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2293号住居跡を掘り込んでいる。また，第2988・2989・3037・3038号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行，梁行ともに2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 2° - Eの南北棟である。規模は，桁行4.5m，梁行4.2mで，面積は18.9m²である。柱間寸法は，桁行が2.1～2.4m（7～8尺），梁行が1.8～2.4m（6～8尺）を基調とし，桁行は北から2.4m（8尺），2.1m（7尺）である。北妻梁行は東から1.8m（6尺），2.4m（8尺）であるのに対して，南妻梁行では2.1m（7尺）ずつ均等に配されてばらつきがある。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は楕円形で，規模は長径75～98cm，短径58～79cmである。深さは43～74cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・6層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。また，P1～P4・P6・P8の底面からは柱のあたりが確認されている。第2～5層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

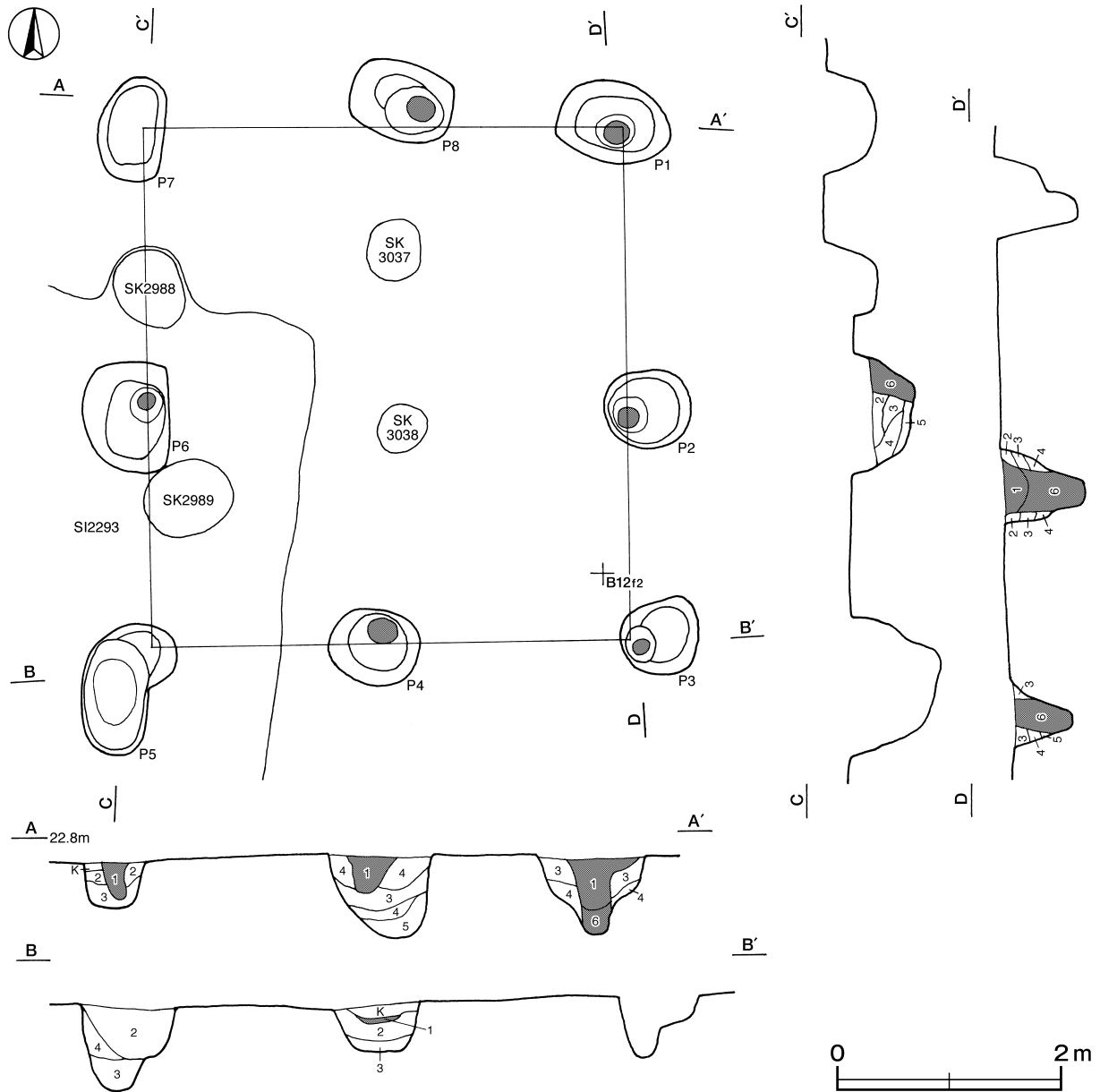
土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	4 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	5 黒褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片48点（坏6，甕類42），須恵器片9点（坏1，甕類8）が各柱穴から出土している。

いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の南東には第364号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えて並列していることから，同時期に機能していたものと推測される。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第428図 第313号掘立柱建物跡実測図

第331号掘立柱建物跡（第429図）

位置 調査区南部のD11j3区、標高18mほどの南への傾斜面に位置している。

規模と構造 南側が調査区域外に伸びているため、全体の構造は不明である。掘り方2か所のみが確認されたが、柱痕跡と柱のあたりが確認されており、周辺の掘立柱建物跡と主軸方向がほぼ一致することから見て、掘立柱建物跡と考えられる。確認された範囲では、桁行1間、梁行2間で、主軸方向N - 82° - Eの東西棟と推測される。確認された範囲の柱間寸法は、梁行1.8m（6尺）である。

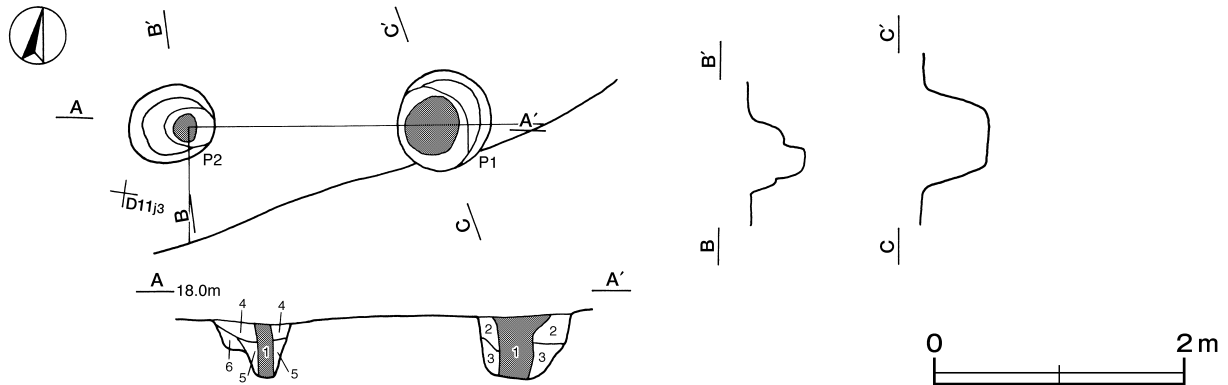
柱穴 2か所。平面形は、楕円形で、規模は長径67~80cm、短径57~72cmである。深さは44~50cmで、断面形は逆台形、二段掘り込みである。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い黒い黒色土である。その他の層は埋土で、ローム土と粘土を主体とした褐色土・黒色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|------------------|----------|--------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 5 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| 3 黒色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片6点（甕）がP1から出土している。細片のため図示できるものはない。

所見 周辺の掘立柱建物跡と軸線が一致することから，穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第429図 第331号掘立柱建物跡実測図

第332号掘立柱建物跡（第430図）

位置 調査区南東部のC13i4区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2065・2080・2084号住居に掘り込まれている。また，第15号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 南側の大部分を住居に掘り込まれているため，掘り方3か所だけが確認されている。桁行2間，梁行1間以上で，桁行方向N-8°-Eの南北棟と推定される。確認された範囲では，規模は，梁行4.2mで，柱間寸法2.1m（7尺）を基調とし，均等に配されている。

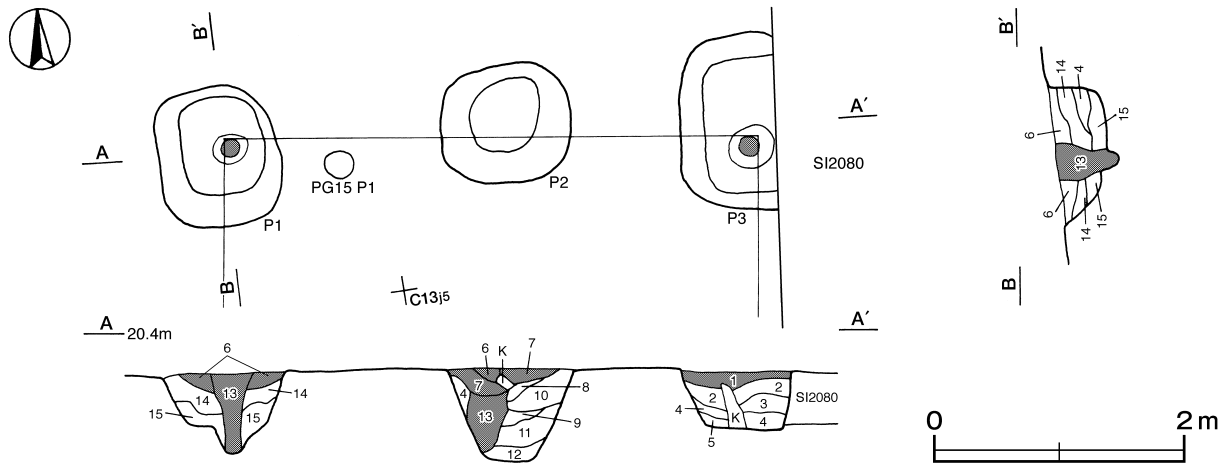
柱穴 3か所。平面形は隅丸方形で，規模は長軸111～141cm，短軸94～98cmである。深さは45～73cmで，断面形は逆台形である。土層は第1・6・7・13層が柱抜き取り後の覆土に相当し，やや締まった暗褐色土である。また，P1・P3の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量 | 11 褐色 | ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 12 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片20点（坏6，甕類13，甑1），須恵器片2点（坏）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 大部分が第2065・2084号住居に掘り込まれ，遺構の全容はつかめない。柱穴の規模や形態から，穀物などを納めた倉庫と推測される。時期は，9世紀前葉に比定される第2065号住居に掘り込まれていることや，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第430図 第332号掘立柱建物跡実測図

第334号掘立柱建物跡 (第431・432図)

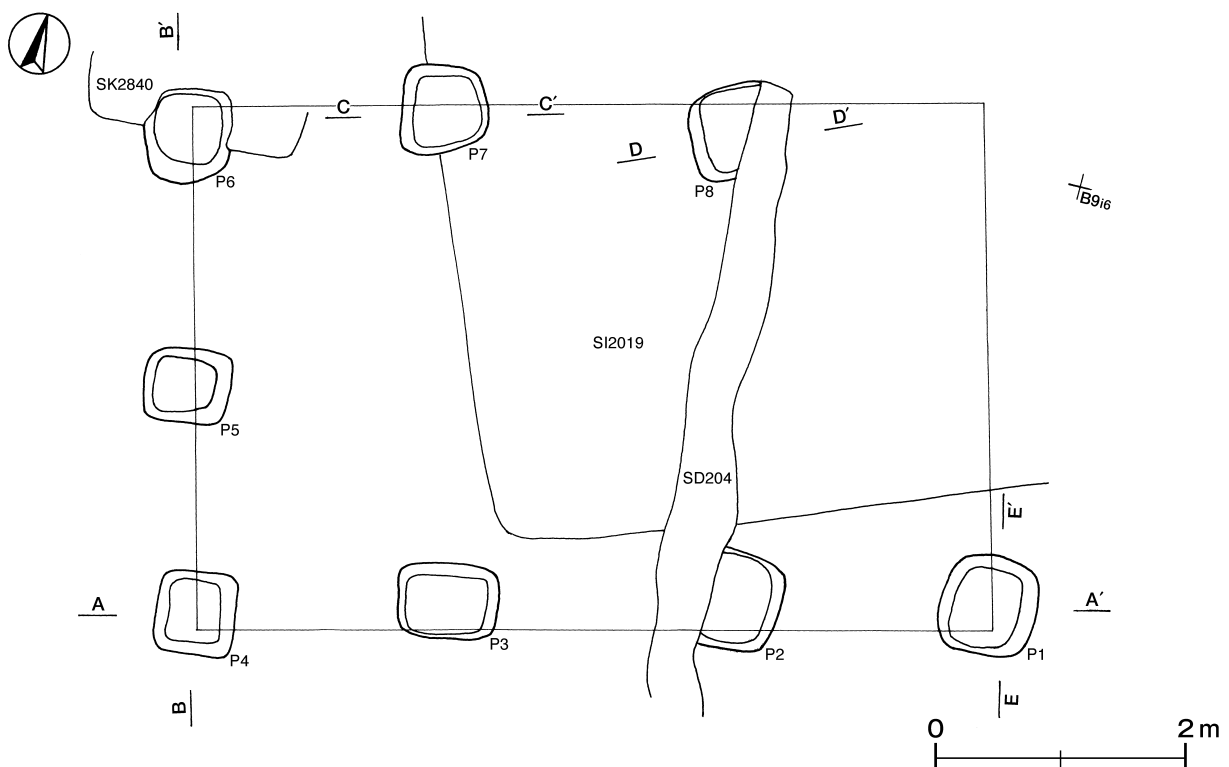
位置 調査区西部のB 9 i 4区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2019号住居跡を掘り込み, 第204号溝, 第2840号土坑に掘り込まれている。

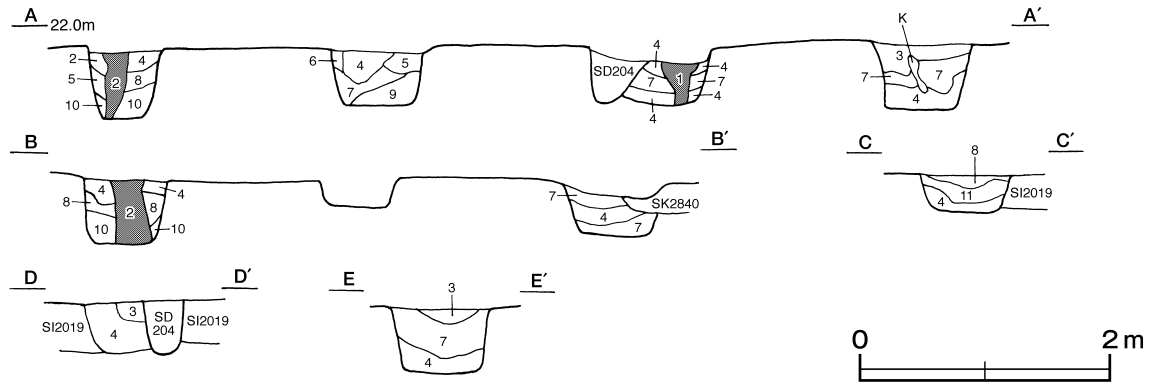
規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱式建物跡で, 桁行方向N - 76° - Eの東西棟である。規模は, 桁行6.3m, 梁行4.2mで, 面積は26.46m²である。柱間寸法は, 桁行, 梁行ともに2.1m (7尺)を基調とし, 均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は, 隅丸方形である。規模は長軸66~81cm, 短軸58~76cm, 深さは12~39cmであり, 断面形は逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕に相当し, やや締まった暗褐色土と黒褐色土である。

P2・P4の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され, 推定される柱の太さは20cm以上である。その他の層は埋土で, ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし, 強く突き固められている。



第431図 第334号掘立柱建物跡実測図(1)



第432図 第334号掘立柱建物跡実測図(2)

土層解説(各柱穴共通)

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 8 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 10 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック中量 | 11 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 ローム粒子多量 | |

遺物出土状況 土師器片3点(甕)がP1・P3から出土している。細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、軸線方向と柱穴の規模や形態から8世紀代と考えられる。

第335号掘立柱建物跡(第433図)

位置 調査区中央部のB11h6区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2218号住居跡, 第213号溝跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行, 梁行ともに2間の総柱式建物跡で, 桁行方向N-90°-Eの東西棟である。規模は, 桁行, 梁行ともに4.8mで, 面積は23.04m²である。柱間寸法はともに2.4m(8尺)を基調とし, 柱筋はほぼ揃っている。

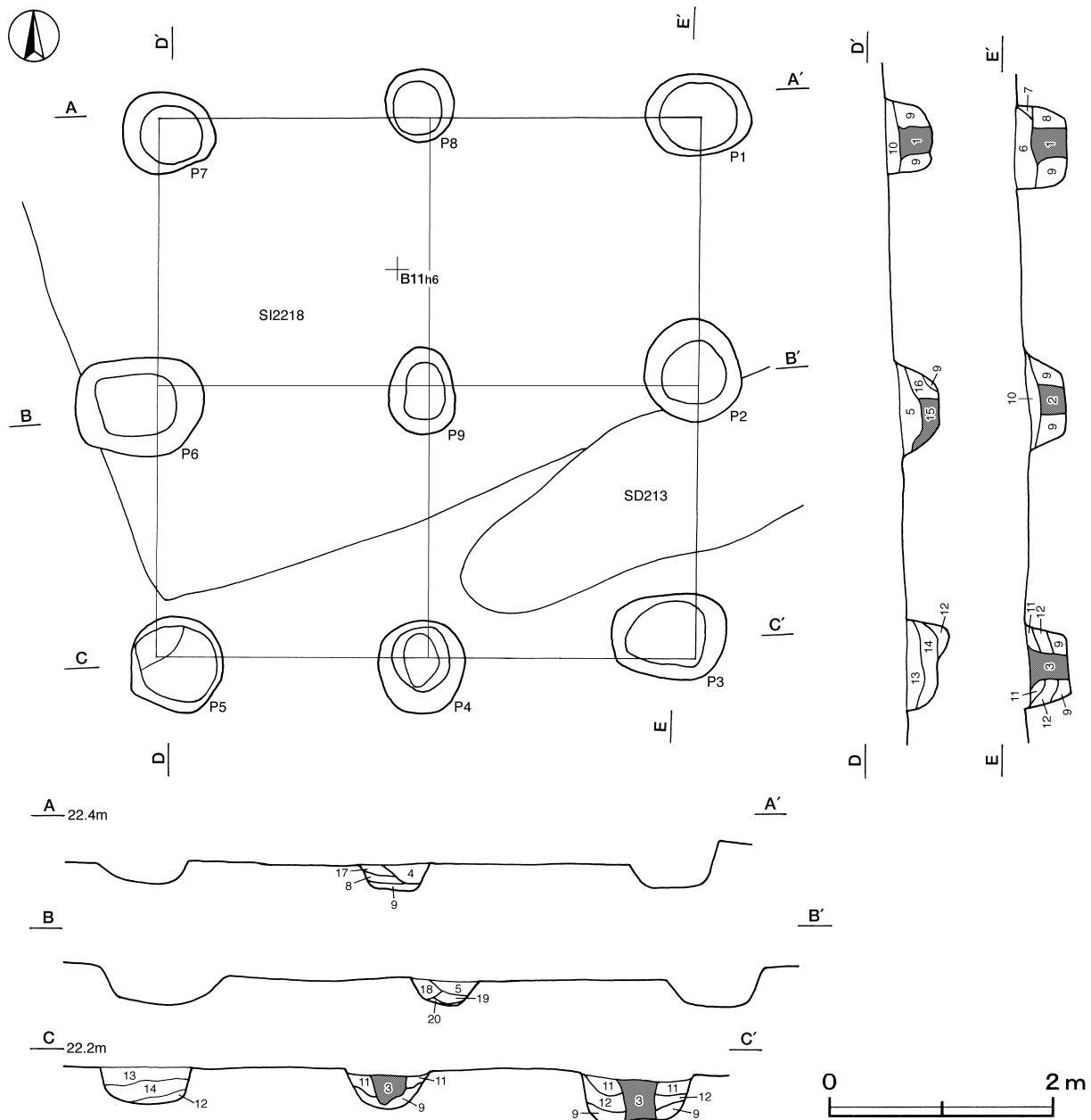
柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で, 規模は長径65~112cm, 短径61~88cmである。深さは16~70cmで, 断面形は, U字形や逆台形である。土層は第1~3・15層が柱抜き取り痕に相当し, 締まりの弱い暗褐色土である。第7~9・11~14・17~20層は埋土で, ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土が互層をなし, 強く突き固められている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説(各柱穴共通)

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 灰褐色 ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック中量 | 12 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 13 暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 14 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 15 極暗褐色 ロームブロック微量 |
| 6 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 16 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 7 灰褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量 | 17 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック中量 | 18 褐色 ロームブロック中量 |
| 9 黒褐色 ロームブロック少量 | 19 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 10 極暗褐色 ロームブロック少量 | 20 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片132点(坏26, 甕106), 須恵器片9点(坏4, 蓋1, 甕4), 鉄滓1点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は, 出土土器から8世紀代と考えられる。



第433図 第335号掘立柱建物跡実測図

第336号掘立柱建物跡 (第434・435図)

位置 調査区南部のD12a1区、標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

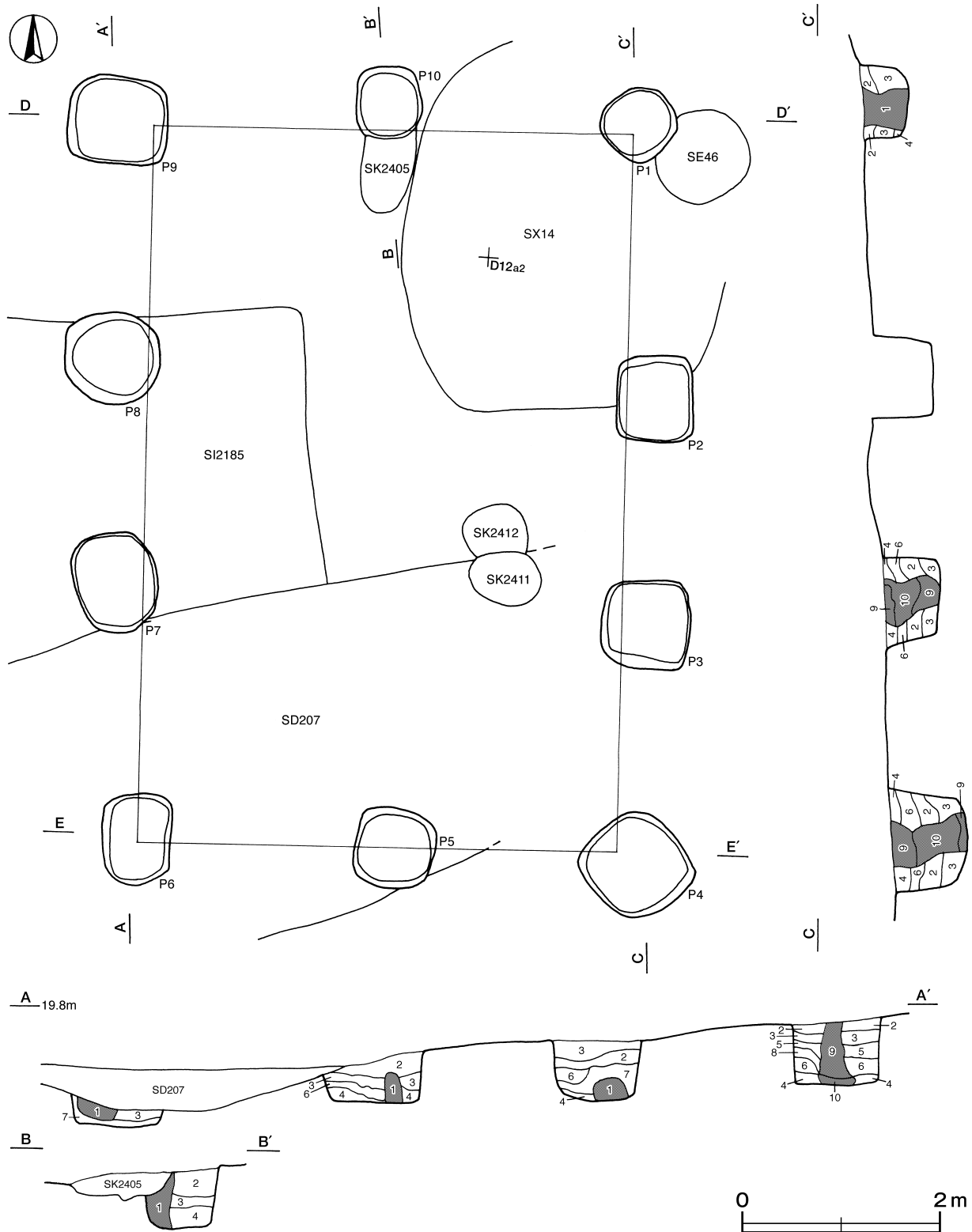
重複関係 第2185号住居跡、第46号井戸跡、第33号不明遺構を掘り込み、第2405号土坑、第207号溝に掘り込まれている。また、第2411・2412号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 2° - Wの南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行4.8mで、面積は34.56m²である。柱間寸法は2.4m(8尺)を基調としている。

柱穴 10か所。平面形は、隅丸方形で、規模は長軸69~102cm、短軸64~98cmである。深さは20~80cmで、断面形は逆台形である。土層は第1・9・10層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱いにびい褐色土・黒褐色土である。P2・P5・P10を除いた土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認されており、推定される柱の太さは25cmほどである。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

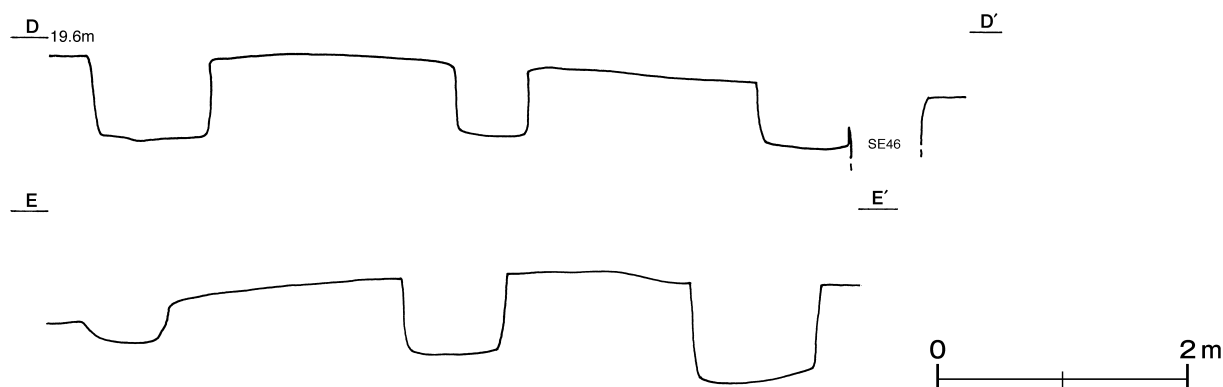
- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化材中量,ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 にぶい褐色 粘土ブロック中量,ロームブロック微量 |
| 2 明褐色 粘土ブロック中量,ロームブロック微量 | 7 褐灰色 粘土ブロック中量,ロームブロック少量 |
| 3 灰白色 粘土ブロック多量,ロームブロック少量 | 8 黒褐色 炭化材・ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 9 にぶい褐色 粘土ブロック中量,ロームブロック少量,炭化材微量 |
| 5 灰白色 粘土ブロック多量,ロームブロック微量 | 10 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量,粘土ブロック少量 |



第434図 第336号掘立柱建物跡実測図(1)

遺物出土状況 土師器片110点(坏10, 甕類100), 須恵器片15点(坏10, 甕類5)が各柱穴から出土しているが, いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から, 穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の南から西には軸線を揃えて第339・355・357号掘立柱建物跡などがあり, 同時期に機能していたものと推測される。時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第435図 第336号掘立柱建物跡実測図(2)

第338号掘立柱建物跡 (第436図)

位置 調査区南西部のD10b7区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第337号掘立柱建物, 第2948・2949号土坑に掘り込まれている。また, 第2824・2946・2947号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱式建物跡で, 桁行方向N-11°-Wの東西棟である。規模は, 桁行4.8m, 梁行4.2mで, 面積は20.16m²である。柱間寸法は, 桁行が1.5~1.8m(5~6尺), 梁行が1.8~2.4m(6~7尺)を基調とし, 桁行は東から1.8m(6尺), 1.5m(5尺), 1.5m(5尺)である。また, 梁行は北から1.8m(6尺), 2.1m(7尺)である。

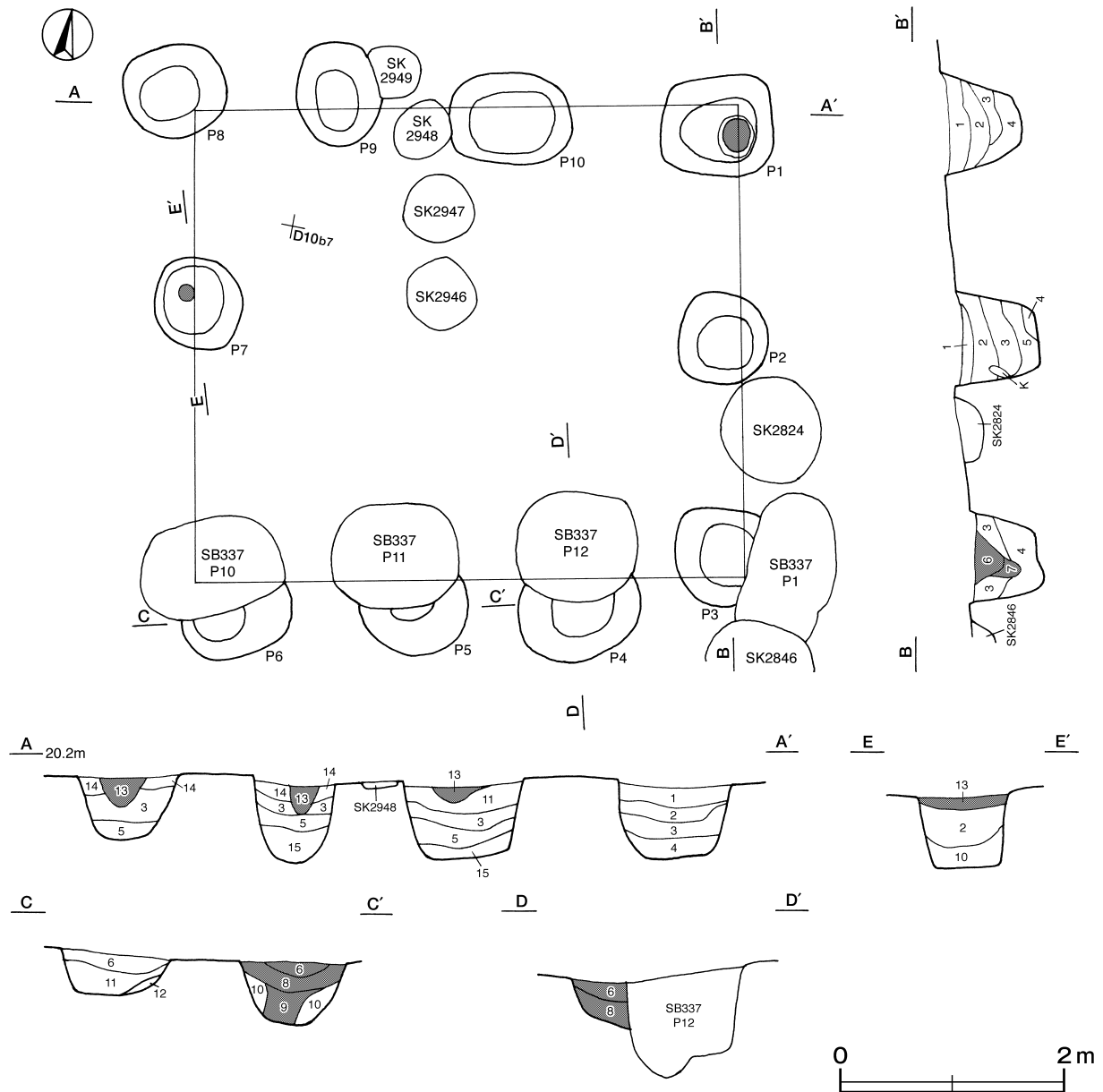
柱穴 10か所。平面形は楕円形で, 規模は長径85~110cm, 短径72~90cmである。深さは38~70cmで, 断面形はU字形や逆台形である。土層は第6~9・13層が柱抜き取り痕に相当し, 締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。また, P1・P7の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で, ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし, 強く突き固められている。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	9 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量	11 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 灰褐色	ロームブロック少量	12 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック微量	13 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子少量	15 黒色	ローム粒子微量
8 黒褐色	炭化物少量, ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片37点(坏3, 甕類34), 須恵器片3点(蓋1, 甕類2)が各柱穴から出土しているが, いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から, 穀物などを納めた倉庫と考えられる。西には第374号掘立柱建物跡がある。時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第436図 第338号掘立柱建物跡実測図

第339号掘立柱建物跡 (第437図)

位置 調査区南部のD12e4区，標高18mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2060土坑に掘り込まれている。また，第2992・2993号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 南側が調査区域外に延びているため全体の規模は不明であるが，桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 82° - Eの東西棟と推定される。確認された範囲では，規模は，桁行5.4m，梁行1.8m以上で，柱間はともに1.8m（6尺）を基調としている。

柱穴 5か所。平面形は楕円形で，規模は長径86～124cm，短径70～88cmである。深さは16～48cmで，断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。また，P4・P5の底面からは柱のあたりが確認されている。

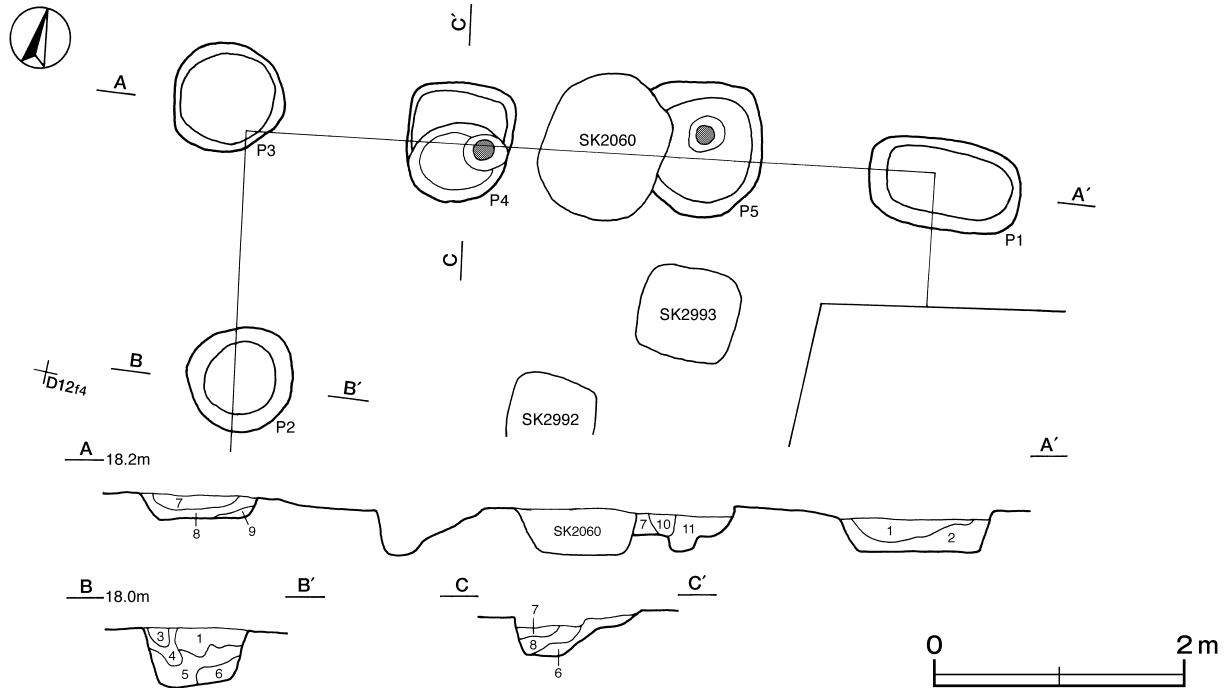
土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 褐色 粘土ブロック多量，ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 極暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 褐色 ロームブロック多量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|---------------------|
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 9 褐灰色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 須恵器片2点(盤, 鉢)が出土している。いずれも混入したものである。

所見 本跡の西には第357号掘立柱建物跡があり, 軸線を揃えて並列していることから, 同時期に機能していた穀物などを納めた倉庫と推測される。出土遺物がなく時期の特定は困難であるが, 規模や形状, 配置から8世紀後葉と考えられる。



第437図 第339号掘立柱建物跡実測図

第340号掘立柱建物跡 (第438図)

位置 調査区南西部のD10d5区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第379号掘立柱建物に掘り込まれている。また, 第2733・2734号土坑と重複するが新旧は不明である。

規模と構造 桁行, 梁行ともに3間の側柱式建物跡で, 桁行方向N-7°-Wの南北棟である。規模は, 桁行, 梁行ともに5.4mで, 面積は29.16m²である。柱間寸法は1.8m(6尺)を基調とし, 柱筋はほぼ揃っている。

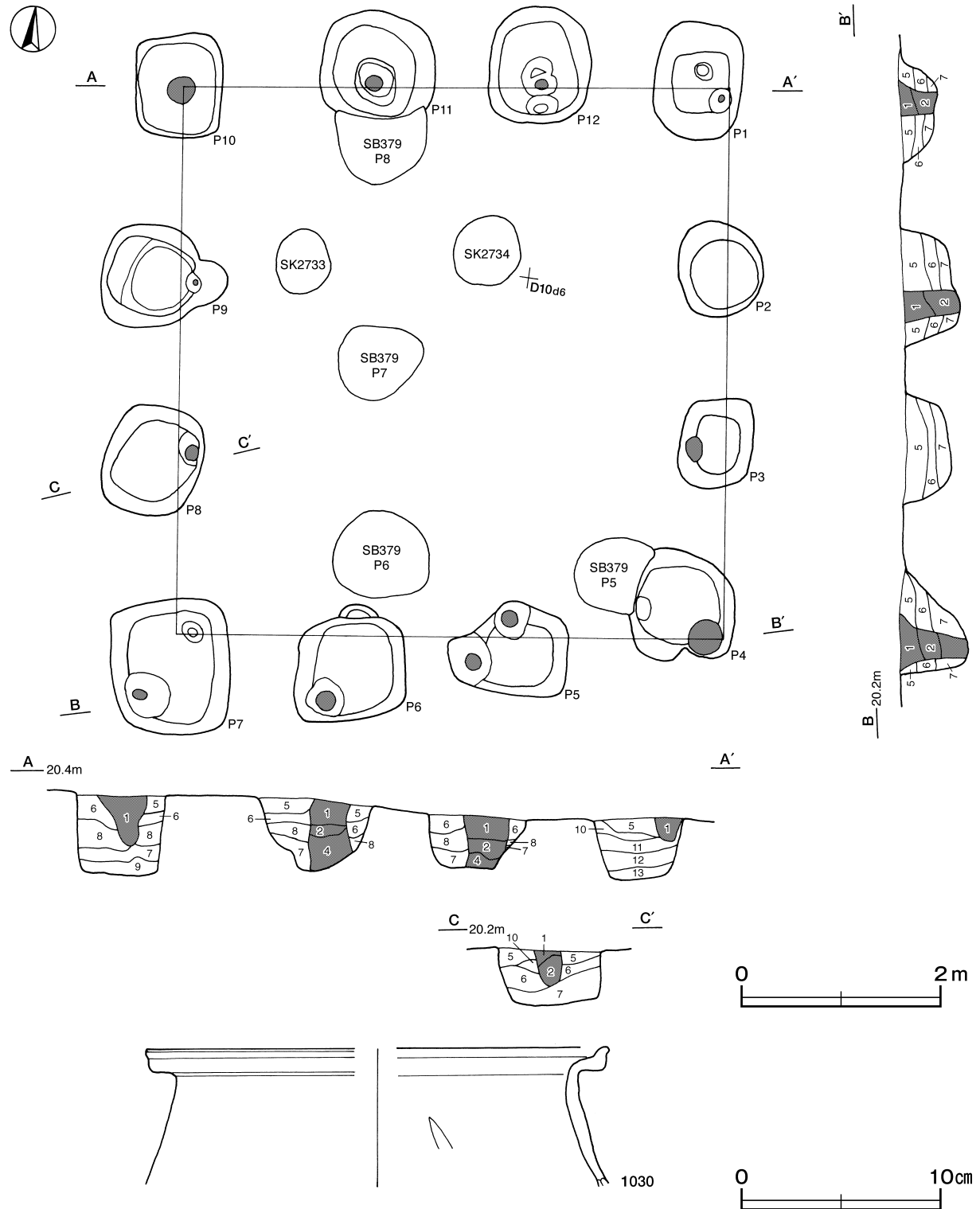
柱穴 12か所。平面形は隅丸方形で, 規模は長軸89~134cm, 短軸72~114cmである。深さは38~81cmで, 断面形はU字形や逆台形である。土層は第1~4層が柱抜き取り痕に相当し, 締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。また, P2以外の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で, ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし, 強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 9 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | 13 褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片118点(坏10, 甕類108), 須恵器片13点(坏6, 甕類7), 土製品1点(支脚)が各柱穴から出土している。1030はP5の覆土から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。掘方の底面に乱れがあることから、時期は、8世紀中葉に比定される第379号掘立柱建物に掘り込まれていることや、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第438図 第340号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第340号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第438図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1030	土師器	甕	[23.0]	(6.9)	-	辰石・石英・雲母・赤色粘土	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ナデ	P5覆土	5%

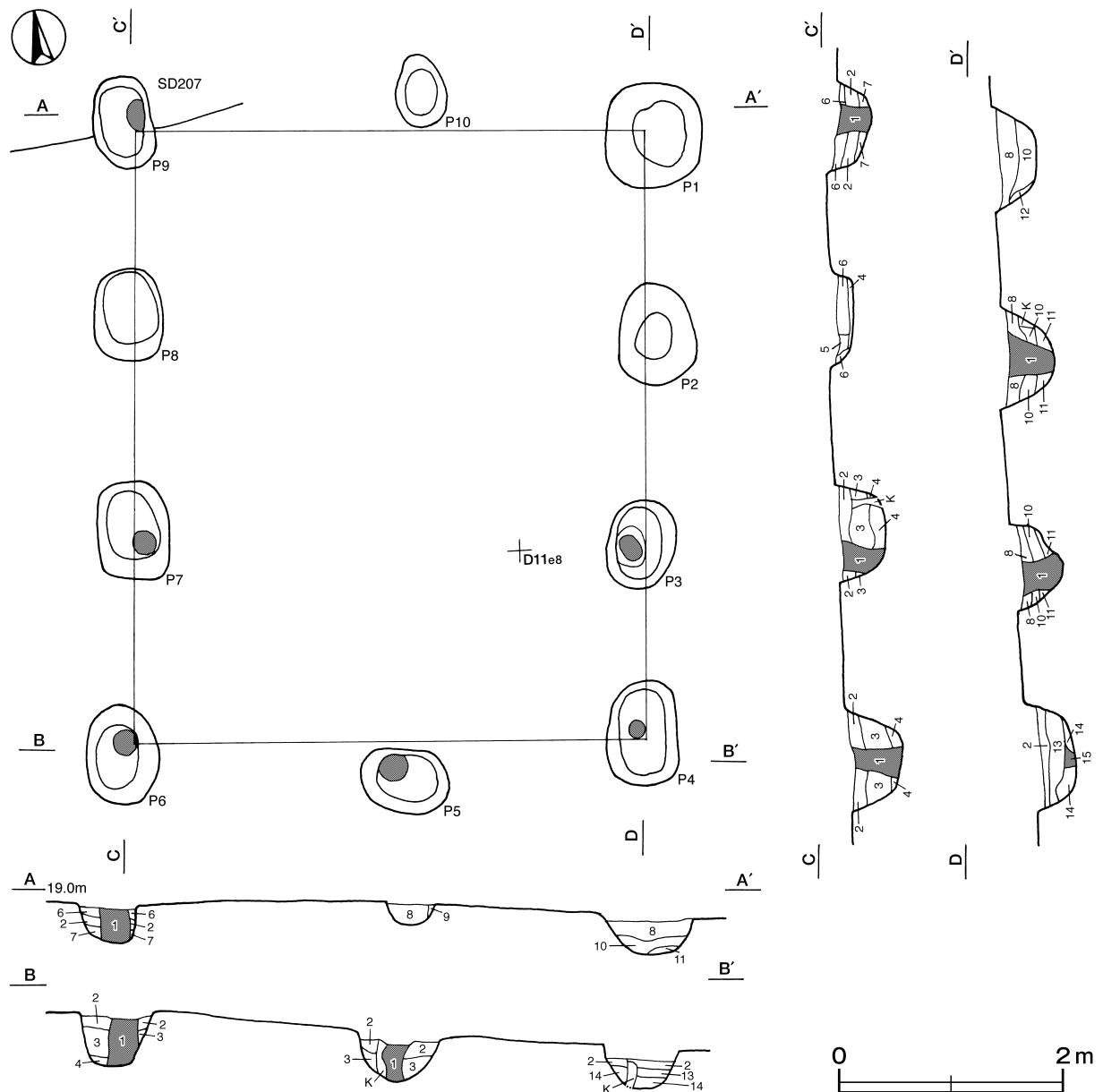
第351号掘立柱建物跡（第439図）

位置 調査区南部のD11d7区，標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第207号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 2° - Eの南北棟である。規模は，桁行5.4m，梁行4.5mで，面積は24.3m²である。柱間寸法は，桁行が1.8m（6尺），梁行は北妻が東から1.8m（6尺），2.7m（9尺），南妻が2.1m（7尺），2.4m（8尺）とばらつきがあり，妻部で中央柱がやや軸線よりはみ出している。

柱穴 10か所。平面形は楕円形で，規模は長径64～92cm，短径44～87cmである。深さは20～50cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・15層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土である。P3～P7・P9の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土と粘土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土が互層をなし，強く突き固められている。P4の第14層は，粘土粒子を多量に含んでいる。



第439図 第351号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量，粘土粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量，粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量 | 14 灰褐色 | 粘土粒子中量 |
| 7 黒褐色 | 粘土ブロック少量 | 15 暗褐色 | 粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片47点（坏5，甕類42），須恵器片7点（坏3，甕類4），陶器片1点（常滑甕）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

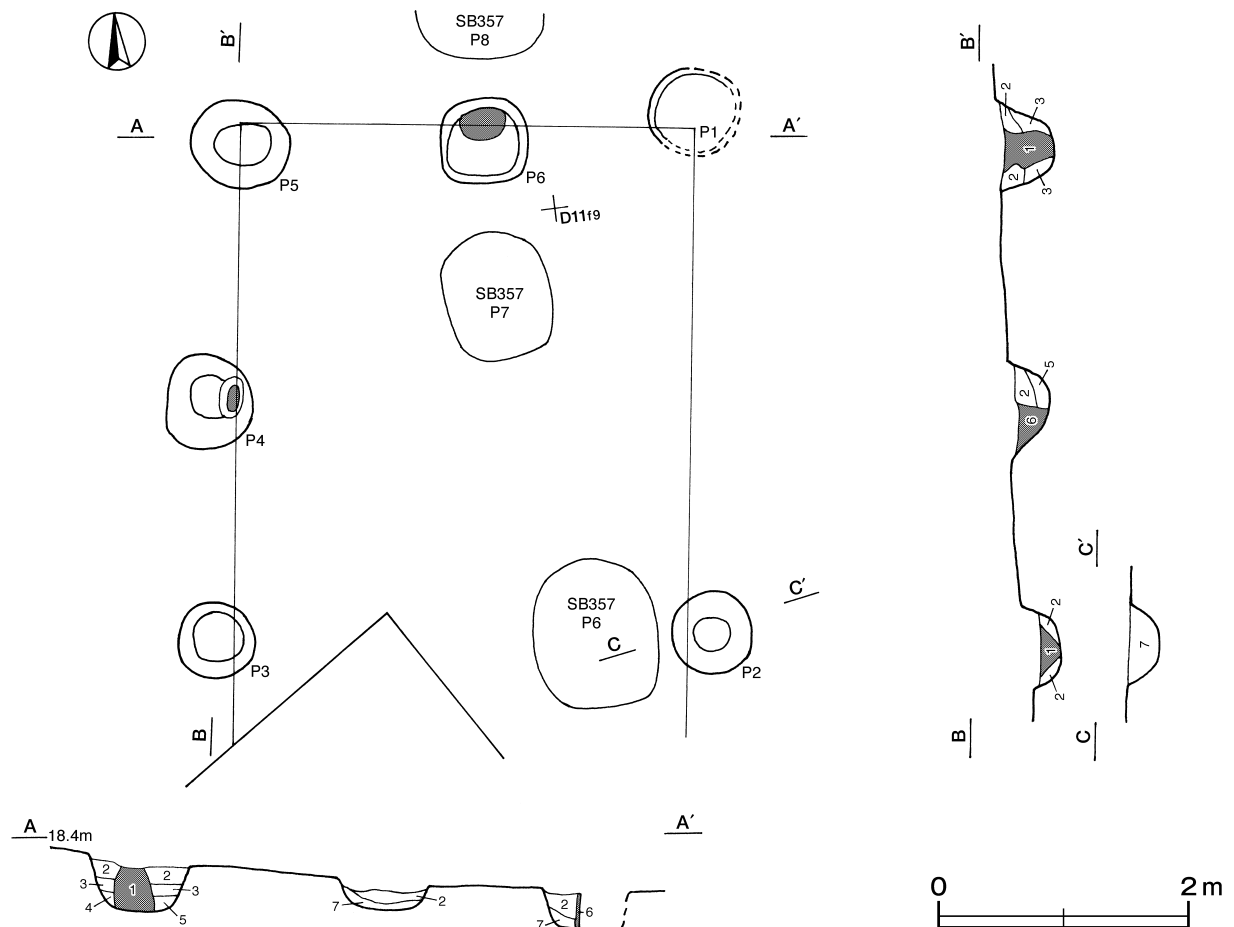
所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の南東には第357号掘立柱建物跡が隣接し，軸線がほぼ直交している。また，北西には第355・358号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えて並列または直列していることから，これらの建物群は同時期に機能していたものと推測される。時期は，配置や出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第352号掘立柱建物跡（第440図）

位置 調査区南部のD11e8区，標高18mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第357号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 南側が調査区域外のため全体の規模は不明であるが，桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 9° - Eの南北棟と推定される。確認された範囲から，規模は桁行4.9m以上，梁行3.6mである。柱間寸法は桁行が2.1m（7尺），梁行が1.8m（6尺）を基調としている。



第440図 第352号掘立柱建物跡実測図

柱穴 6か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径61～82cm、短径60～70cmである。深さは25～50cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・6層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった暗褐色土である。P3～P5の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20cm以上である。また、P4・P6の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土と粘土を主体とした暗褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 焼土粒子多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土粒子少量，炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片3点（甕類）がP2・P3・P4から出土している。細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、8世紀後葉に比定される第357号掘立柱建物に掘り込まれていることや、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第355号掘立柱建物跡（第441図）

位置 調査区南部のD11a3区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2074号住居跡を掘り込み、第2147号土坑（墓墳）に掘り込まれている。また、第2157号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行、梁行ともに3間の側柱式建物跡で、桁行方向はN-5°-Wの南北棟である。規模は、桁行、梁行ともに4.5mで、面積は20.25m²である。柱間寸法は1.5m（5尺）を基調とし、均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

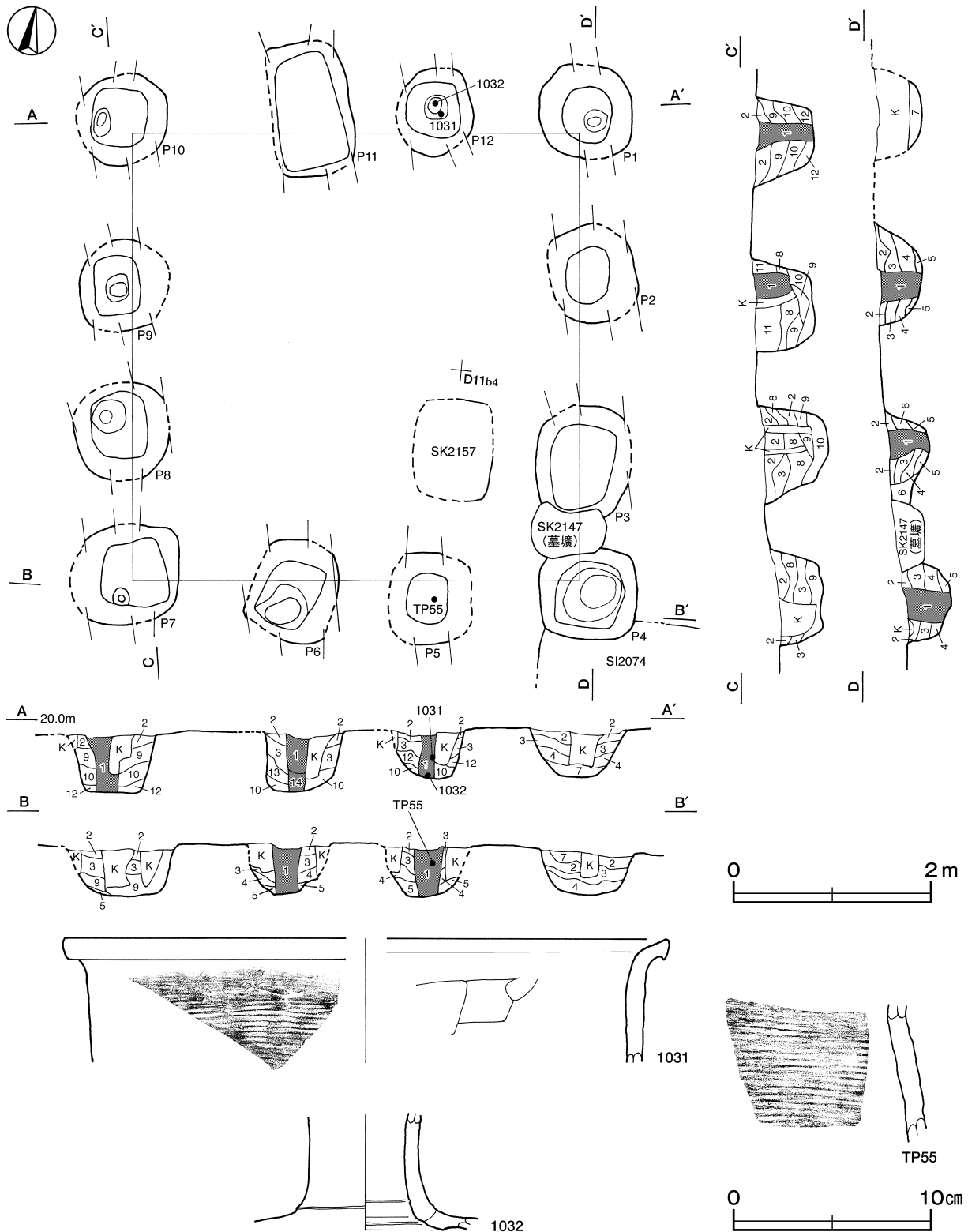
柱穴 12か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、規模は長軸88～136cm、短軸75～98cmである。深さは44～65cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・14層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土・灰褐色土である。また、その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・灰褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 灰褐色 粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子少量 | 13 暗褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 ローム粒子中量 | 14 灰褐色 粘土ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 8 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片185点（坏24，甕類161），須恵器片49点（坏15，瓶類3，甕類29，甑2），不明銅製品1点，炭化材のほか、混入した石器2点（細石刃，石核），磁器片1点も出土している。1031・1032はP12の柱抜き取り痕，TP55はP5の柱抜き取り痕から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられ、焼失した可能性が考えられる。本跡の南東には第358号掘立柱建物跡があり、本跡の南妻と第358号掘立柱建物跡の北桁行が直交していることから、同時期に機能していたものと推測される。廃絶時期は、柱抜き取り痕から出土した土器から8世紀後葉と考えられる。



第441図 第355号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第355号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第441図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1031	須恵器	鉢	[30.4]	(6.2)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ	P12柱抜き 取り痕	5%
1032	須恵器	長径瓶	-	(5.9)	-	長石	灰	普通	体部口口整形後頸部接合	P12柱抜き 取り痕	5%
TP55	須恵器	甕	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ナデ	P5柱抜き 取り痕	

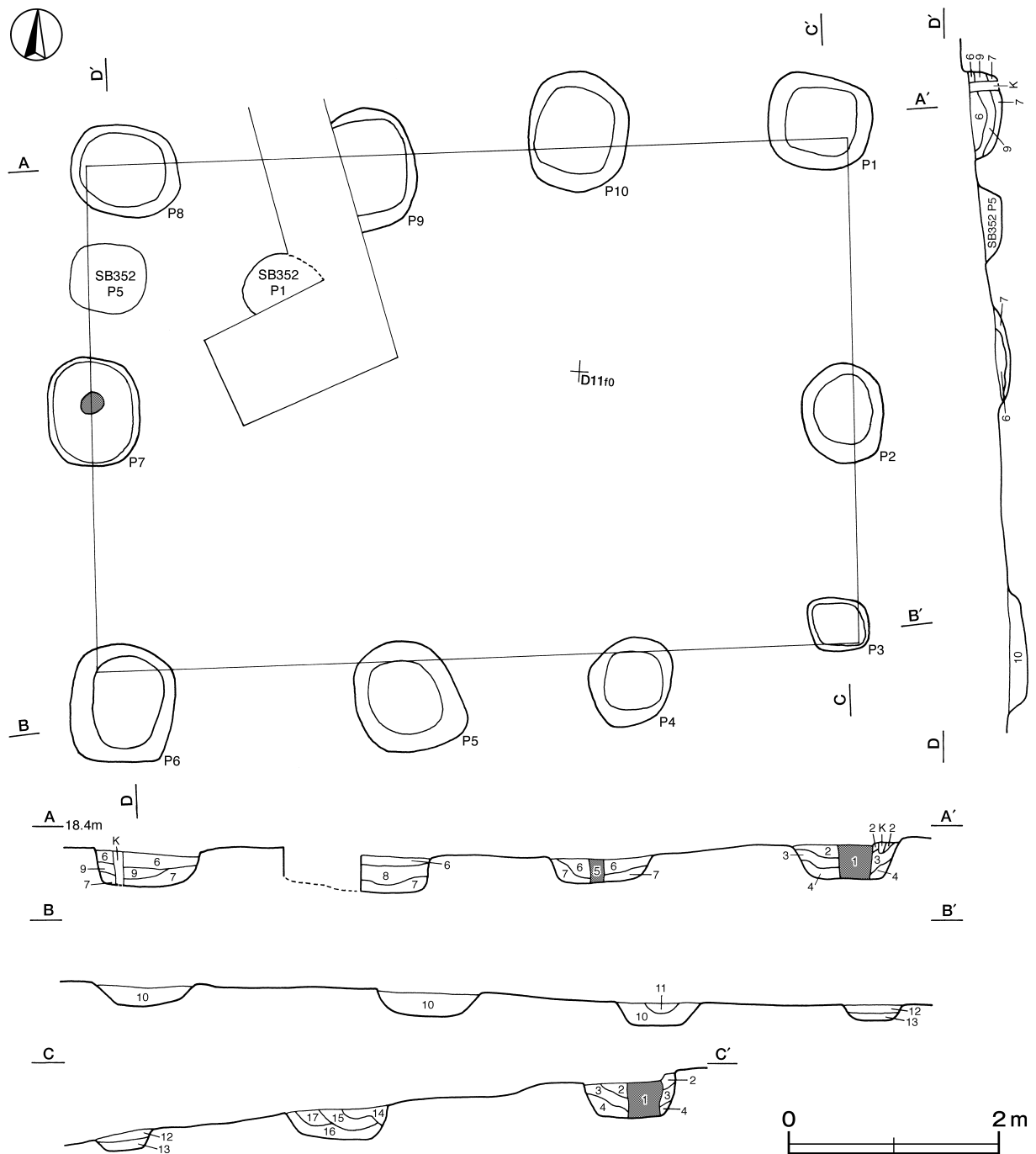
第357号掘立柱建物跡（第442図）

位置 調査区南部のD11f9区，標高18mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第352号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 84° - Eの東西棟である。規模は，桁行7.2m，梁行4.8mで，面積は34.56m²である。柱間寸法は2.4m（8尺）を基調とし，均等に配されている。柱筋はP4・P5以外ほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸56～117cm，短軸52～97cmである。深さは12～43cmで，断面形は逆台形である。土層は第1・5層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土である。P1・P5・P10の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され，推定される柱の太さは20～25cm前後である。



第442図 第357号掘立柱建物跡実測図

また、P7の底面からは柱のあたりが確認されている。第2～4・6～9層は埋土で、粘土混じりの暗褐色土が互層をなし、強く突き固められている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色 炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量	10 黒褐色 ローム粒子多量，粘土ブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色 粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色 ローム粒子多量，焼土粒子少量
3 暗褐色 粘土粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量	12 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子中量
4 暗褐色 粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	13 にぶい橙色 粘土ブロック中量
5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
6 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子微量	15 暗褐色 粘土ブロック多量，焼土粒子少量
7 暗褐色 粘土ブロック少量，焼土粒子微量	16 橙色 粘土ブロック多量，炭化物少量
8 暗褐色 粘土粒子微量	17 褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量
9 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	

遺物出土状況 土師器片40点（坏11，甕類29），須恵器片11点（坏7，高台付坏2，蓋1，甕1）が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の東には第339号掘立柱建物跡があり、北桁を揃えて並列していることから、同時期に機能していたものと推測される。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第358号掘立柱建物跡（第443図）

位置 調査区南部のD11b5区，標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第207号溝，第2153・2154・2155号土坑に掘り込まれている。また，第2074号住居，第2128・2129・2130・2162・2163・2164号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行，梁行ともに2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-85°-Eの東西棟である。規模は，桁行6.0m，梁行4.8mで，面積は28.8m²である。柱間寸法は，桁行が3.0m（10尺），梁行が2.4m（8尺）を基調としている。

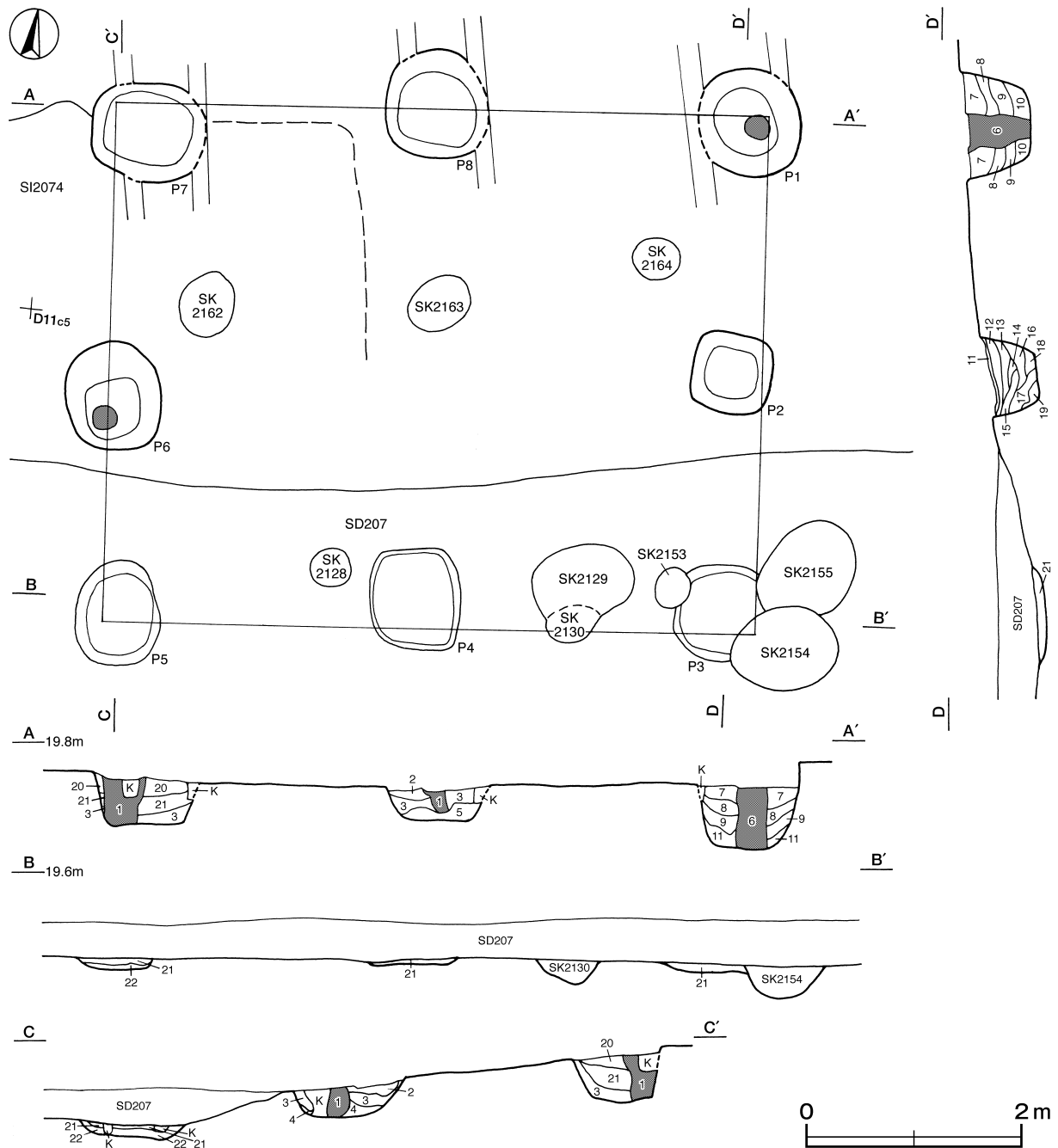
柱穴 8か所。平面形は楕円形を基調とし，規模は長径74～101cm，短径72～100cmである。深さは3～62cmで，断面形は逆台形である。土層は第1・6層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土である。また，P1・P6の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	12 褐色 ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量	13 褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子微量
3 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量	14 灰褐色 粘土ブロック微量
4 褐色 粘土ブロック少量，焼土粒子微量	15 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5 暗褐色 ローム粒子少量，粘土粒子微量	16 褐色 ローム粒子少量，粘土ブロック微量
6 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	17 暗褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
7 灰褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量	18 黒褐色 粘土粒子少量，ローム粒子微量
8 灰褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子微量	19 暗褐色 粘土粒子少量，ローム粒子微量
9 灰褐色 粘土ブロック少量，ロームブロック微量	20 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
10 灰褐色 粘土ブロック少量	21 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
11 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量	22 褐色 ローム粒子少量，粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片56点（坏17，甕類39），須恵器片11点（坏6，甕類5）が各柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の南東には第351号掘立柱建物跡，北西には第355号掘立柱建物跡が隣接し，本跡の北桁行と第355号掘立柱建物跡の南妻が直交していることから，同時期に機能していたものと推測される。時期は，配置や出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第443図 第358号掘立柱建物跡実測図

第363号掘立柱建物跡 (第444図)

位置 調査区南部のD11g5区、標高18.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第356号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行、梁行とともに2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 85° - Eの東西棟である。規模は、桁行、梁行ともに3.0mで、面積は9.0m²である。柱間寸法は1.5m (5尺)を基調とし、柱筋はほぼ揃っている。

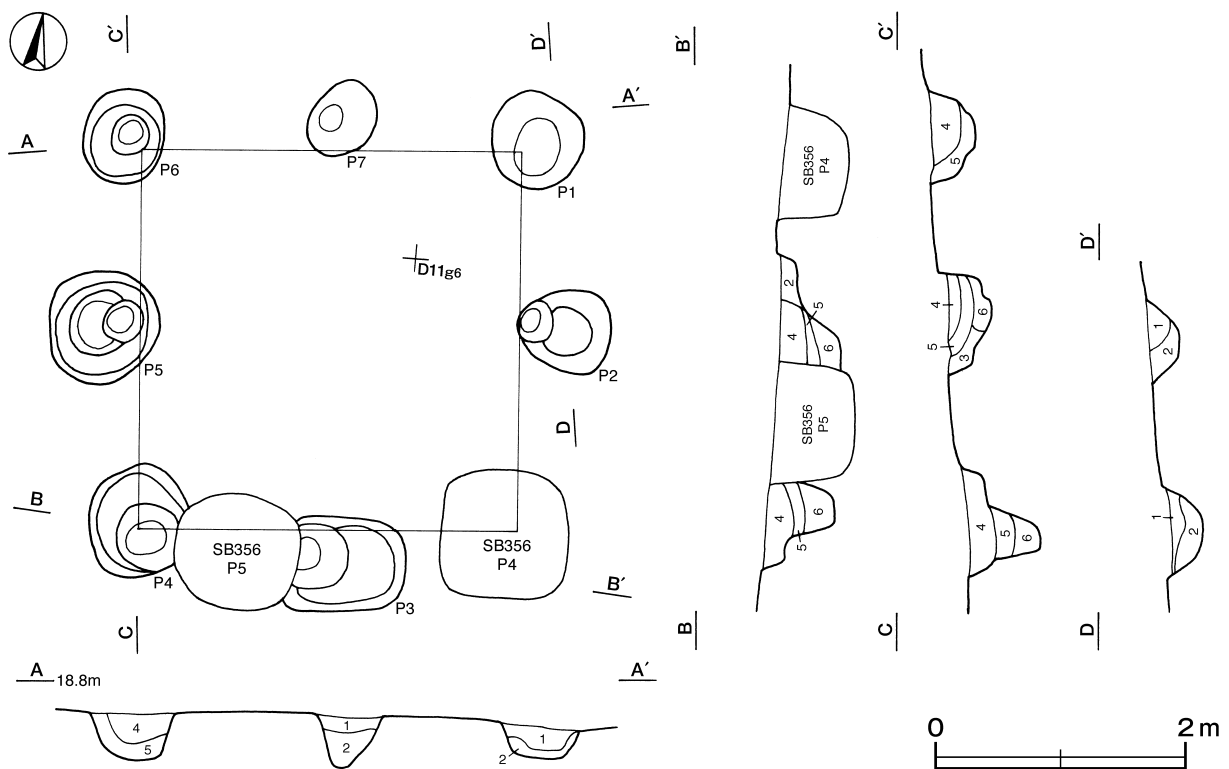
柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形である。柱穴の規模は小さく、長径62~90cm、短径54~90cmである。深さは16~58cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、ローム土を主体とした黒褐色土や極暗褐色土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 | 5 黒褐色 粘土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 | |
| 4 極暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片38点（坏3，高坏1，甕類34），須恵器片17点（坏11，蓋2，甕類4）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡周辺には軸線を揃えた第355・357・358号掘立柱建物跡などがあり，これらの建物群の第357号掘立柱建物跡は同時期に機能していたものと推測される。時期は，9世紀前葉に比定される第356号掘立柱建物跡に掘り込まれていることや，出土土器から，8世紀後葉と考えられる。



第444図 第363号掘立柱建物跡実測図

第364号掘立柱建物跡（第445図）

位置 調査区中央部のB12f3区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2215・2217号住居跡を掘り込み，第2531号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-3°-Wの南北棟である。規模は，桁行4.5m，梁行3.6mで，面積は16.2m²である。柱間寸法は，桁行が1.5m（5尺），梁行が1.8m（6尺）を基調とし，均等に配されている。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径50～90cm，短径46～86cmである。深さは30～55cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第4・5・9・10・11・13・15層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土である。P2・P4・P6の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され，推定される柱の太さは15cm以上である。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色

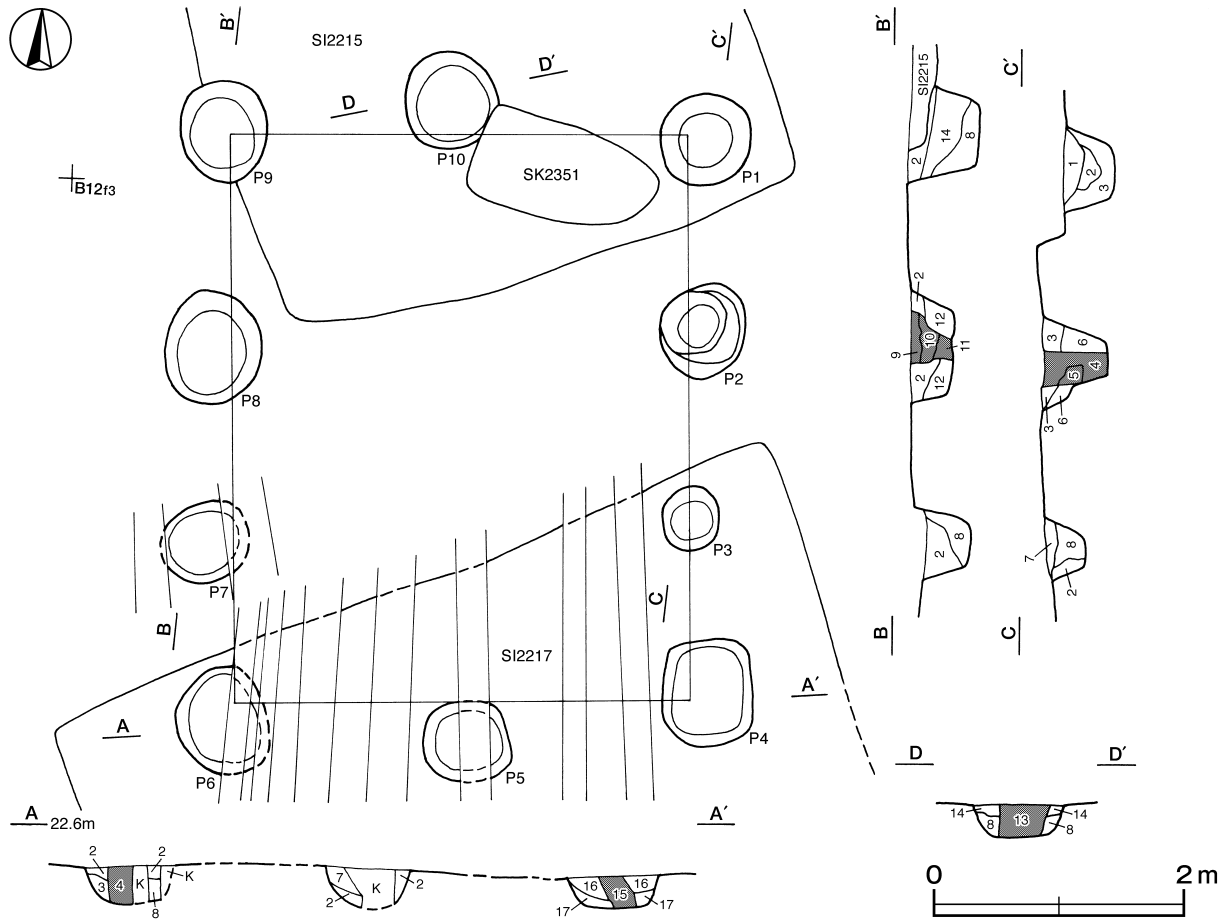
土などが互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 11 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐灰色 ロームブロック少量 | 12 にぶい褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 5 褐灰色 ロームブロック中量 | 14 褐色 ロームブロック少量 |
| 6 灰褐色 ロームブロック中量 | 15 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック中量 | 16 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 8 褐色 ロームブロック中量 | 17 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片40点（坏7，甕類33），須恵器片2点（坏，甕），陶器片2点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北西には第313号掘立柱建物跡があり、軸線を揃えて並列している。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第445図 第364号掘立柱建物跡実測図

第368号掘立柱建物跡（第446・447図）

位置 調査区東部のC13i6区，標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第395号掘立柱建物跡を掘り込み，第2080号住居，第366号掘立柱建物，第2450号土坑に掘り込まれている。また，第2431・2434・2444号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-1°-Eの南北棟である。規模は，桁行6.3m，梁行4.2mで，面積は26.46m²である。柱間寸法は，2.1m（7尺）を基調とし，均等に配されている。

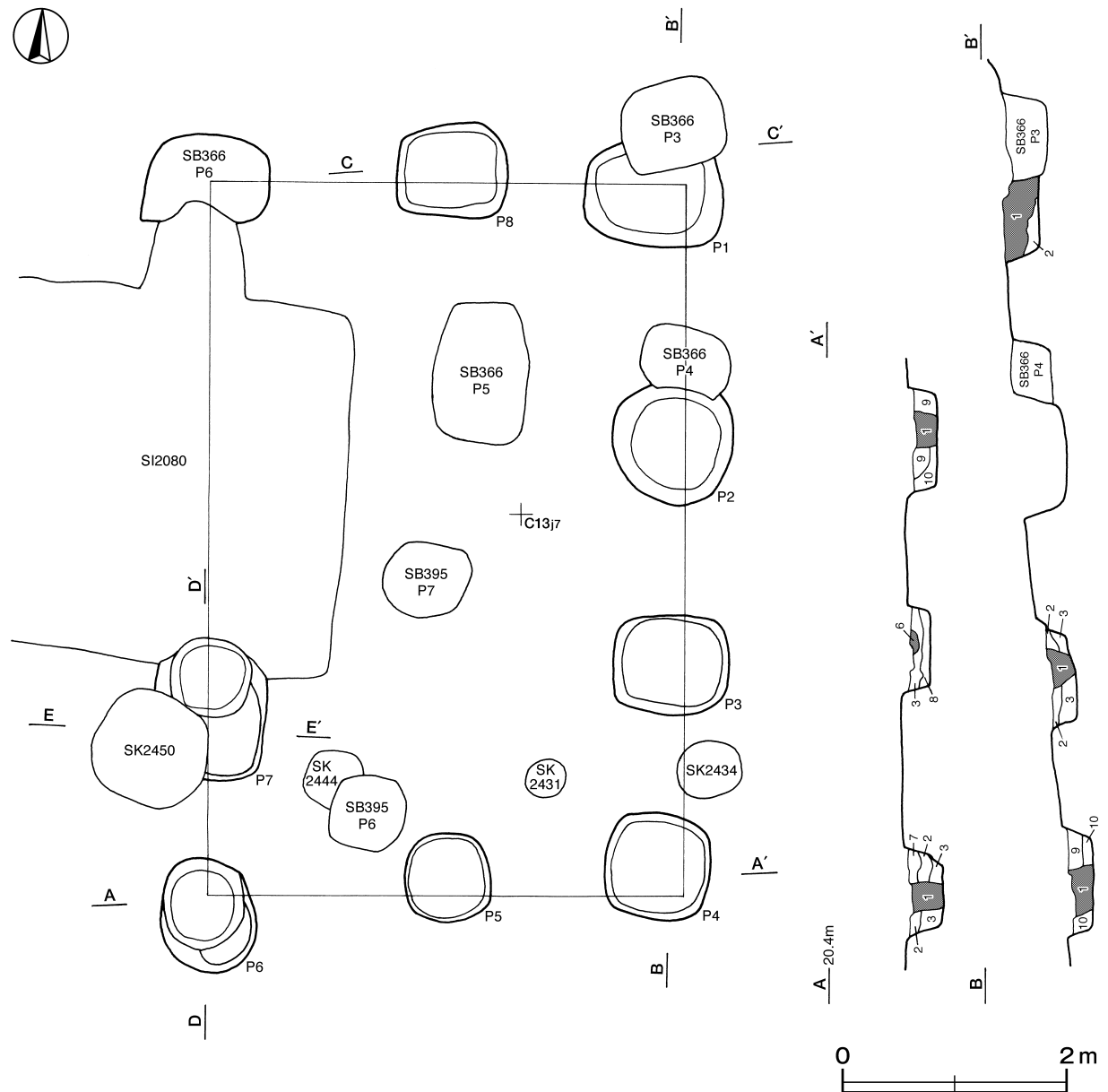
柱穴 8か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、規模は長軸80～123cm，短軸76～107cmである。深さは20～42cmで，断面形は逆台形である。土層は第1・6層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

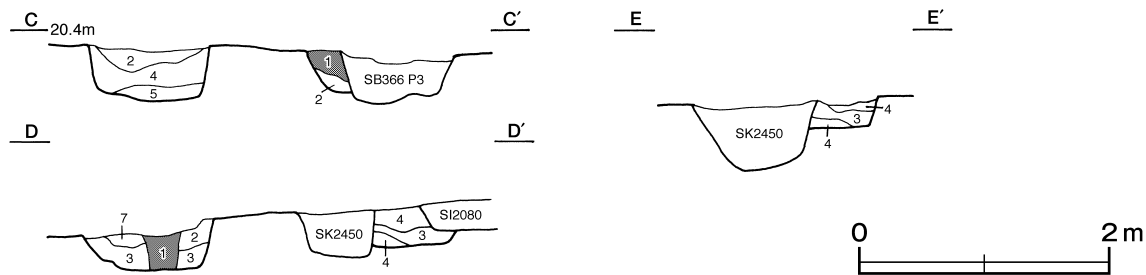
- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量 | 8 にぶい褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 9 にぶい褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック微量 | 10 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片39点（坏1，甕類37，甑1），須恵器片8点（坏5，甕類3）が各柱穴より出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は，8世紀後葉に比定される第366号掘立柱建物に掘り込まれていることや，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第446図 第368号掘立柱建物跡実測図(1)

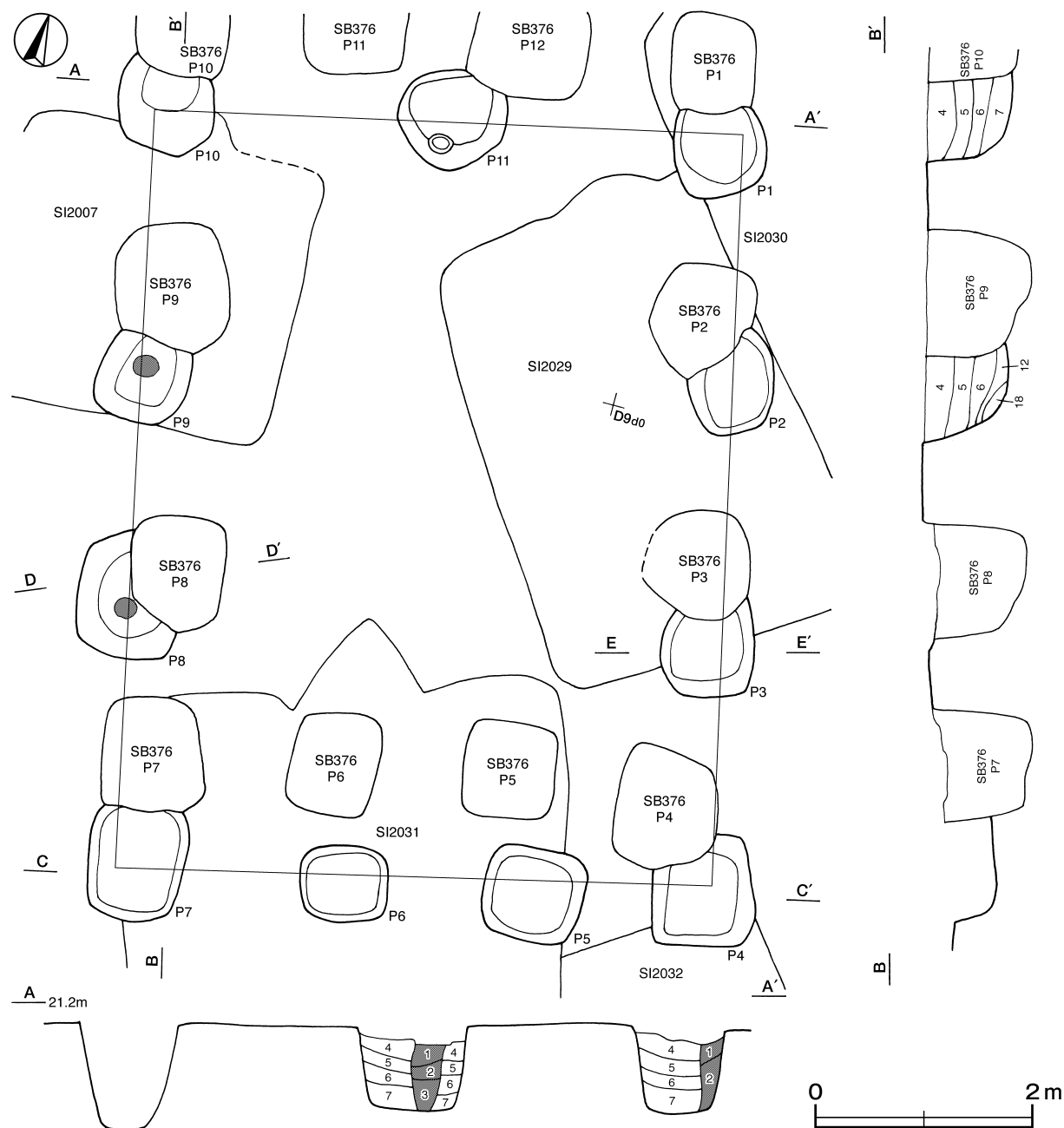


第447図 第368号掘立柱建物跡実測図(2)

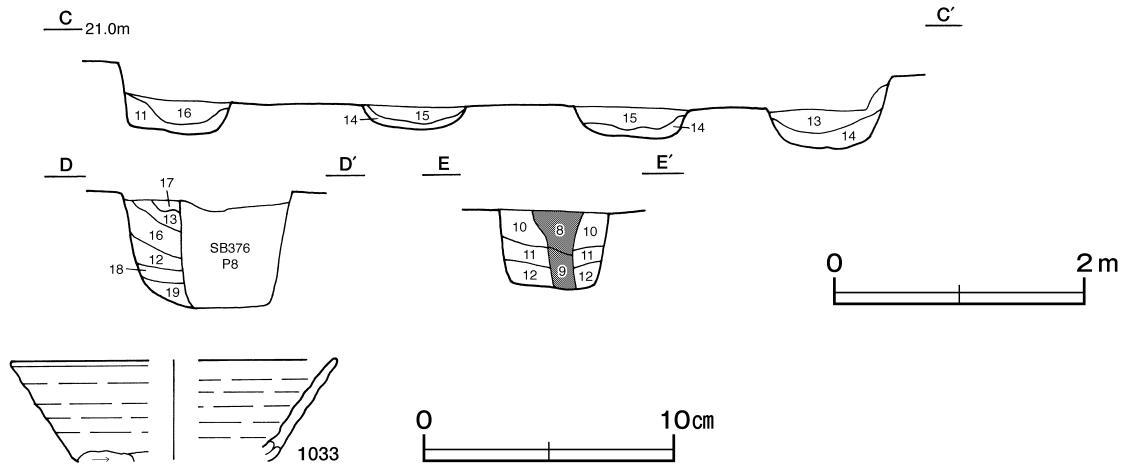
第370号掘立柱建物跡 (第448・449図)

位置 調査区南西部のD9c9区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2007・2029・2030・2031・2032号住居跡を掘り込み, 第376号掘立柱建物に掘り込まれている。



第448図 第370号掘立柱建物跡実測図(1)



第449図 第370号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行3間，北妻梁行2間，南妻梁行3間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 12° - Wの南北棟である。規模は，桁行6.9m，梁行5.4mで，面積は37.26m²である。柱間寸法は，桁行が2.1~2.4m（7~8尺），北妻梁行が2.7m（9尺），南妻梁行が1.8m（6尺）を基調とし，東側桁行は北から2.4m（8尺），2.4m（8尺），2.1m（7尺）である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 11か所。平面形は，隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸86~106cm，短軸70~94cmである。深さは18~100cmで，断面形は逆台形である。土層は第1~3・8・9層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い褐色土・暗褐色土である。また，P8・P9の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 11 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 13 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 7 褐色 | ロームブロック多量 | 17 褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 18 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 9 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片102点（坏14，甕類88），須恵器片19点（坏7，高台付坏2，盤1，甕類9），土製品1点（支脚）が各柱穴から出土している。1033はP3の埋土から出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北には第303号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えて直列している。また，南東には第375号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えて並列していることから，これらの建物群は同時期に機能していたものと推測される。時期は，出土土器から8世紀中葉に構築されたものと考えられる。

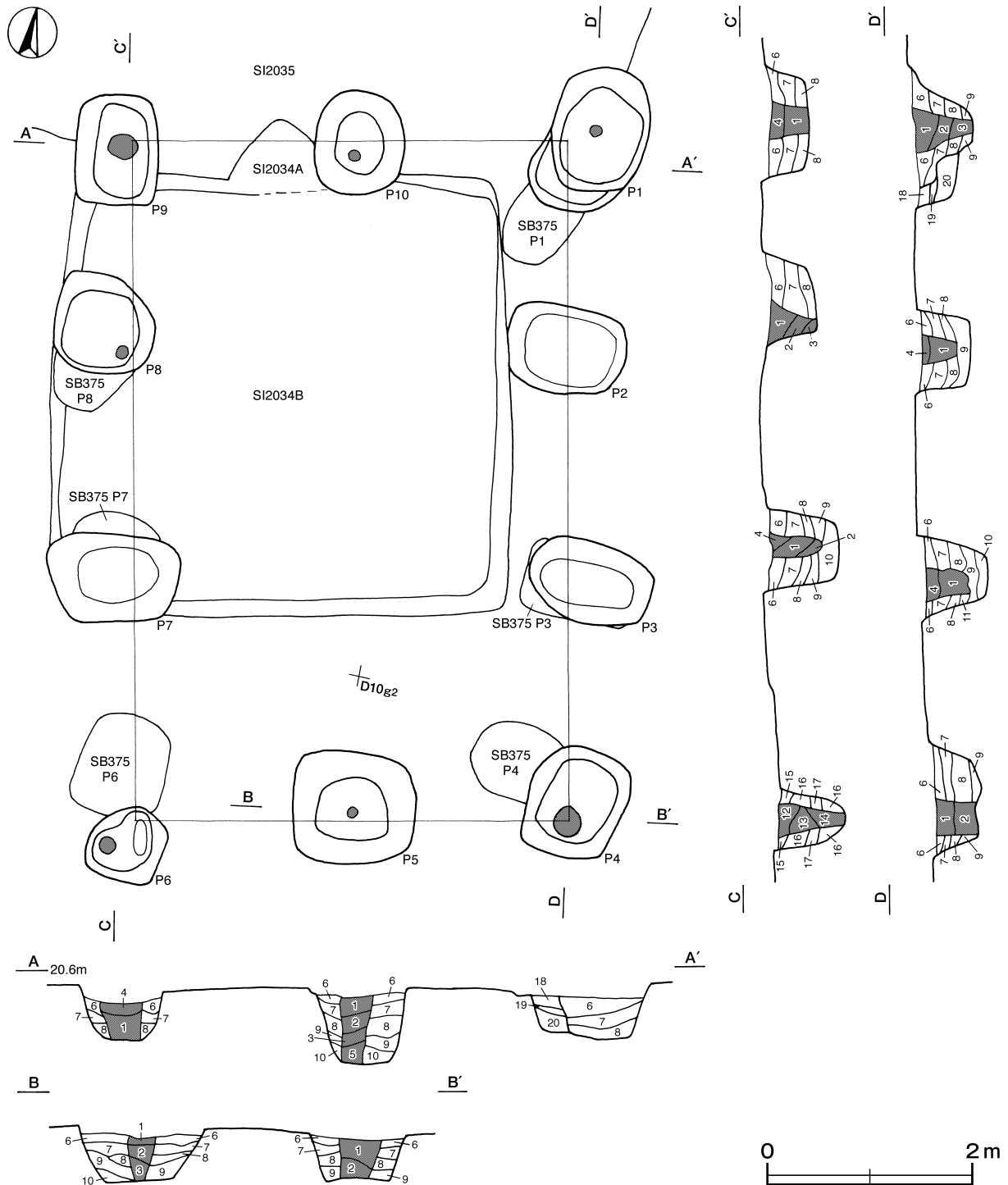
第370号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第448・449図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1033	須恵器	坏	[12.8]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	P3埋土	15%

第372号掘立柱建物跡（第450図）

位置 調査区南西部のD10f1区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2034A・2034B・2035号住居跡，第375号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。



第450図 第372号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 10° - Wの南北棟である。規模は，桁行6.6m，梁行4.2mで，面積は27.72m²である。柱間寸法は，桁行が2.1~2.4m（7~8尺），梁行が2.1m（7尺）を基調とし，桁行は北から2.1m（7尺），2.1m（7尺），2.4m（8尺）である。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸74~124cm，短軸71~109cmである。深さは40~70cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1~5・12~14層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。また，P1・P4~6・P8~10の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き

固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	11 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	12 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量	13 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	14 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	15 褐色	ローム粒子多量
6 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	16 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
7 褐色	ロームブロック中量	17 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
8 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量	18 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
9 褐色	ロームブロック多量	19 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
10 褐色	ロームブロック少量	20 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片262点（坏42，甕類219，甑1），須恵器片26点（坏8，蓋1，甕類17）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、8世紀中葉に比定される第375号掘立柱建物跡を掘り込んでいることや、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

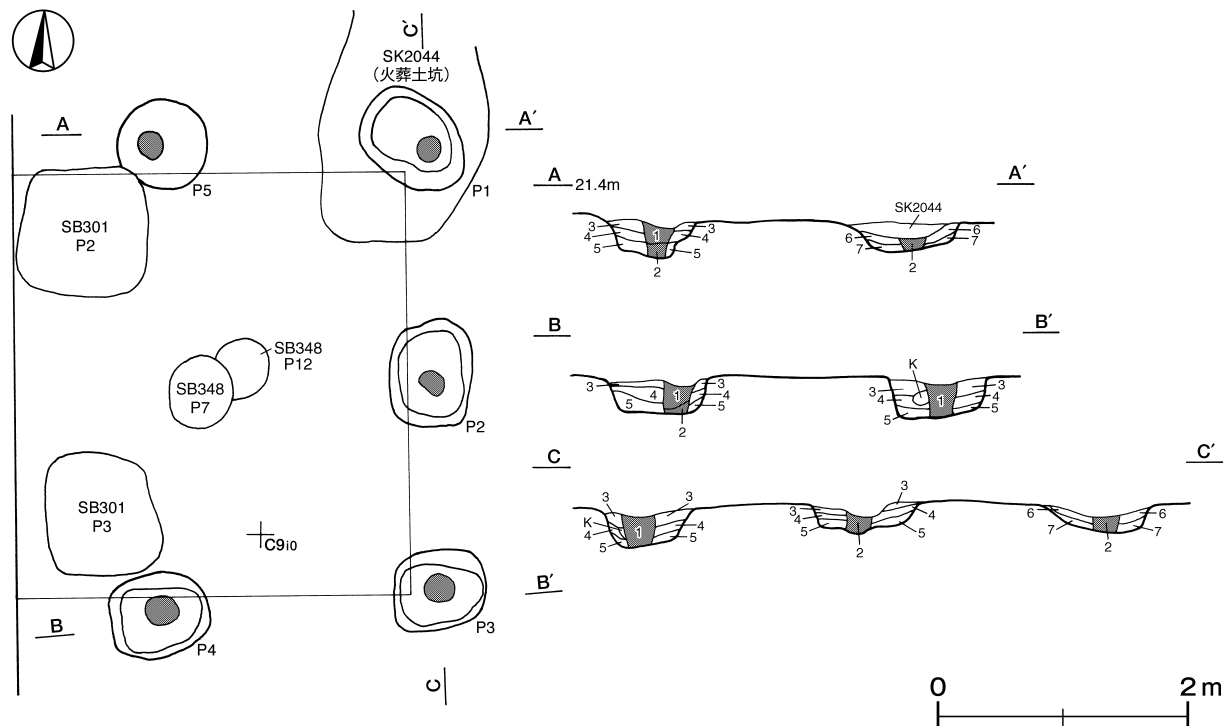
第373号掘立柱建物跡（第451図）

位置 調査区西部のC9h0区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第301・348号掘立柱建物，第2044号土坑（火葬土坑）に掘り込まれている。

規模と構造 西側が調査区域外に延びているため全体の規模は不明であるが、桁行2間以上、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-1°-Wの東西棟と推定される。確認されている範囲では、規模は、桁行3.1m，梁行3.6mである。柱間寸法は、桁行，梁行ともに1.8m（6尺）を基調としている。

柱穴 5か所。平面形は楕円形で、規模は長径72～90cm，短径63～71cmである。深さは13～31cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。すべての土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20cm以上である。また、すべての底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし、強く突き固められている。



第451図 第373号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物中量，ローム粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 | |

遺物出土状況 土師器片4点（甕類）がP3・P5から出土しているが，細片のため図示できるものはない。

所見 推定される規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は，8世紀中葉に比定される第301号掘立柱建物に掘り込まれていることや，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

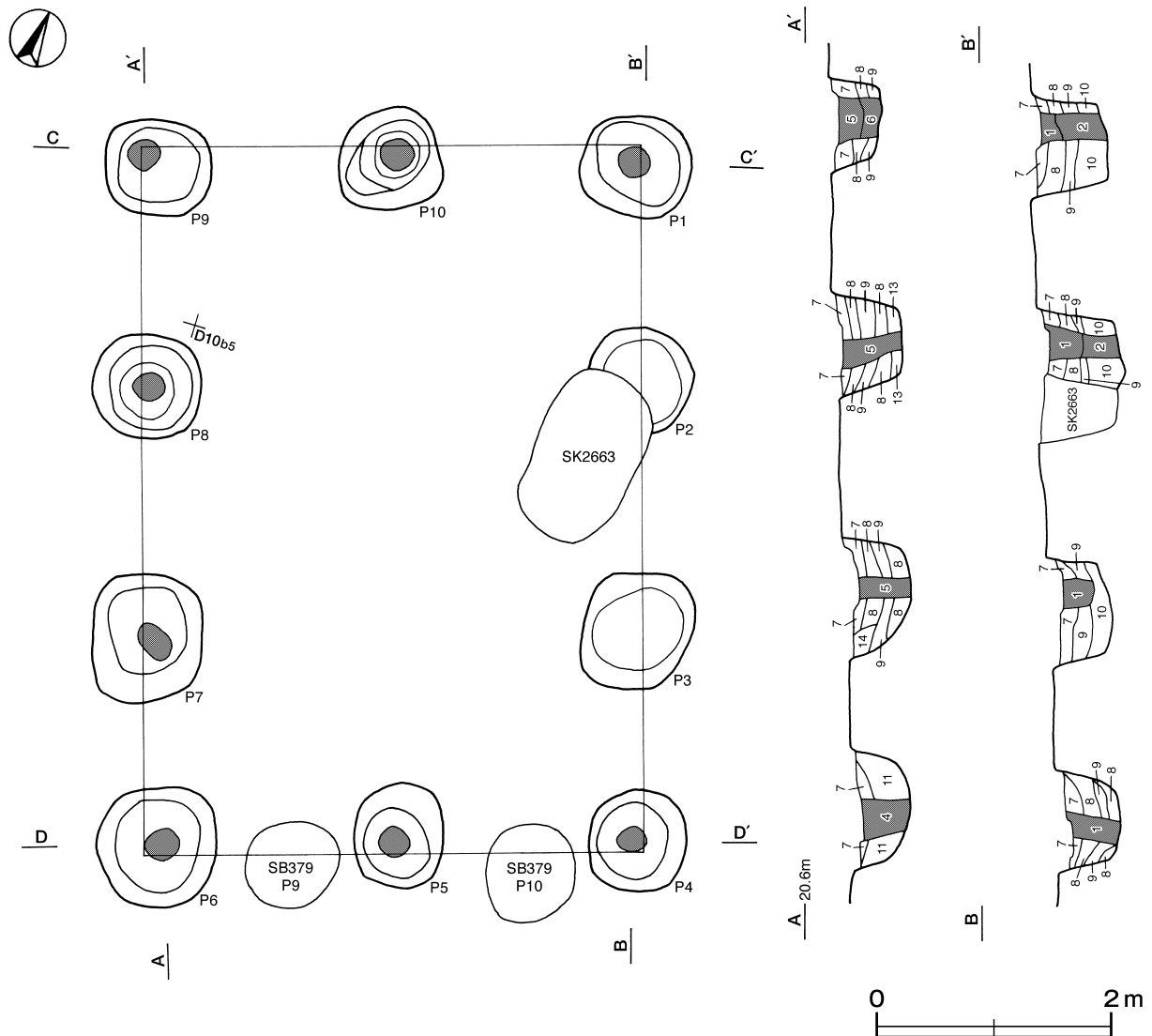
第374号掘立柱建物跡（第452・453図）

位置 調査区南西部のD10a5区，標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

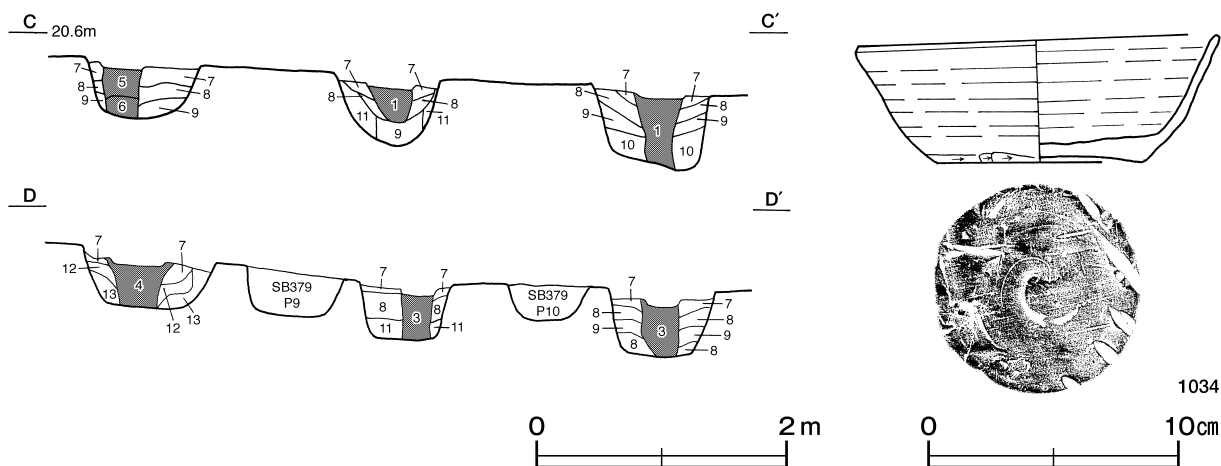
重複関係 第379号掘立柱建物跡を掘り込み，第2663号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-17°-Wの南北棟である。規模は，桁行6.0m，梁行4.2mで，面積は25.2m²である。柱間寸法は，桁行は南間より1.8m（6尺），2.1m（7尺），2.1m（7尺）で，梁行は2.1m（7尺）であり，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は，円形または楕円形で，規模は長径82～110cm，短径76～100cmである。深さは35～75cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1～6層が柱抜き取り痕に相当し，第1・4・5層は締まり



第452図 第374号掘立柱建物跡実測図



第453図 第374号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

の弱い黒褐色土と暗褐色土，第2・3・6層はよく締まった褐色土などからなる。すべての柱穴から柱痕跡が明瞭に確認され，推定される柱の太さは25cmである。また，P2・P3を除くすべての底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土などが互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 | 11 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片53点（坏6，甕類47），須恵器片7点（坏2，甕類5）が各柱穴から出土している。1034はP9の埋土から出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の西には第377号掘立柱建物跡があり，軸線が直交していることから，同時期に機能していたものと推測される。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第374号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第452・453図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1034	須恵器	坏	14.3	5.0	8.2	長石・雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部下端手持ちへら削り 底面回転へら削り後 一方向の手持ちへら削り	P9埋土	60%

第375号掘立柱建物跡（第454・455図）

位置 調査区南西部のD10f1区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2034A・2034B・2035号住居跡を掘り込み，第372号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 第372号掘立柱建物に掘り込まれているが，桁行3間，梁行2間の側柱式建物で，桁行方向N-10°-Wの南北棟と推定される。規模は桁行5.7m，梁行4.2mで，面積は23.94m²と推定される。柱間寸法は，桁行1.8~2.1m（6~7尺），梁行2.1m（7尺）を基調とし，桁行は北から1.8m（6尺），1.8m（6尺），2.1m（7尺）である。確認された範囲では，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 7か所。第372号掘立柱建物に掘り込まれており，7か所だけが確認された。推定される平面形は，隅丸方形または隅丸長方形で，規模は，長軸100~118cm，短軸81~109cmである。深さは34~70cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。

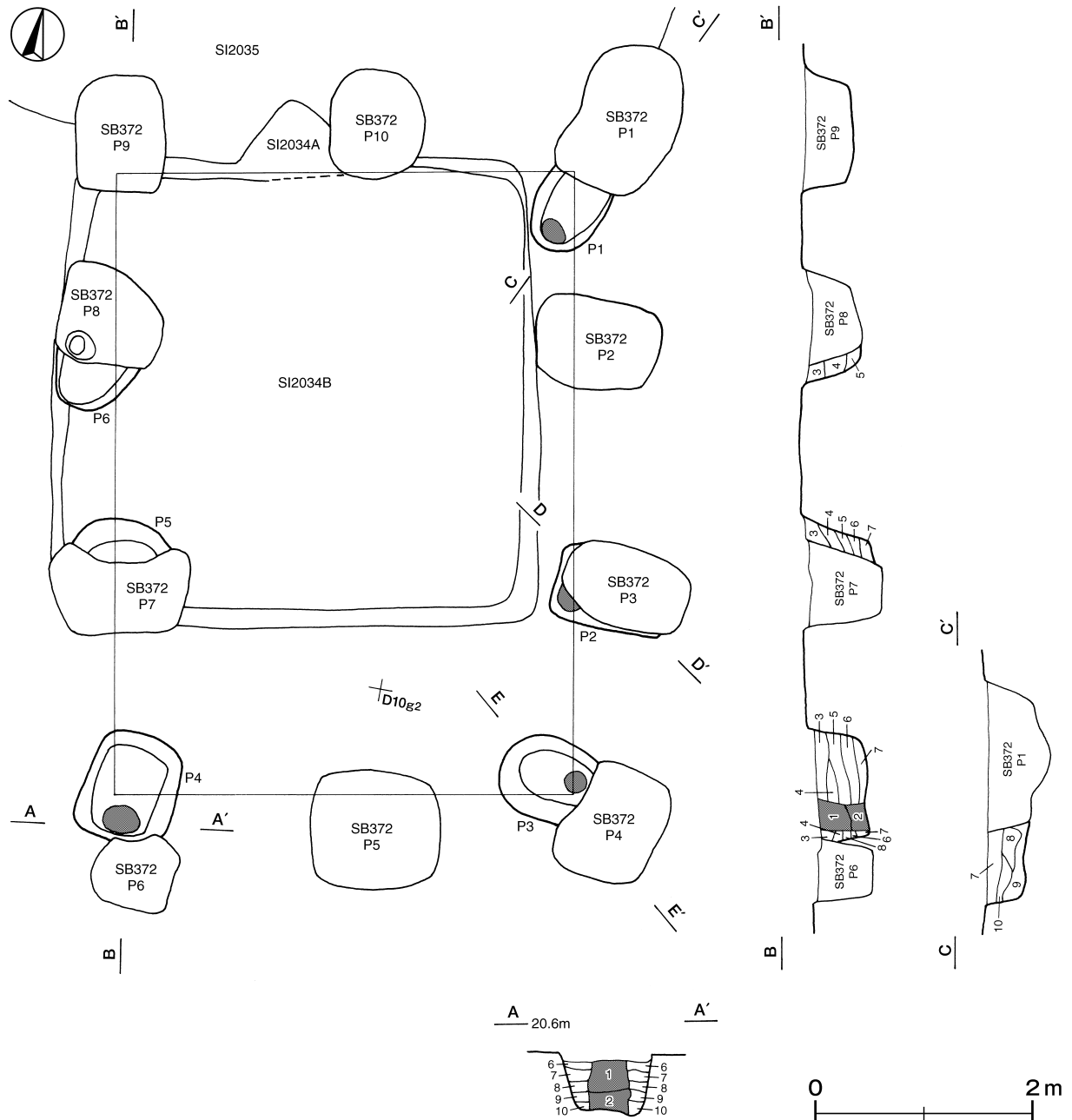
また、P2・P5・P7を除く底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

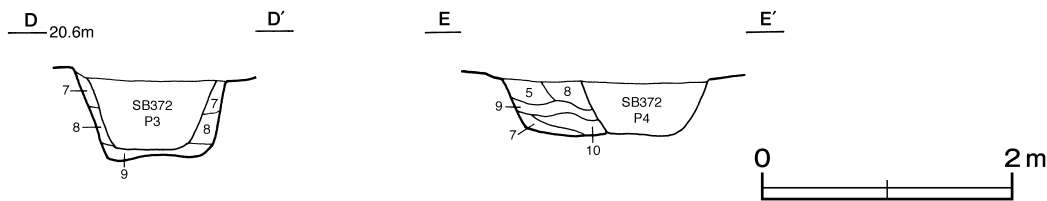
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量,炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量,炭化粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量,炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量,炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片4点(甕類),須恵器片1点(坏)がP4の覆土から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北西には第370号掘立柱建物跡があり、軸線を揃えて並列している。また、西には第304号掘立柱建物跡があり、軸線を揃えて並列していることから、これらの建物群は同時期に機能していたものと推測される。時期は、重複関係と出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第454図 第375号掘立柱建物跡実測図(1)



第455図 第375号掘立柱建物跡実測図(2)

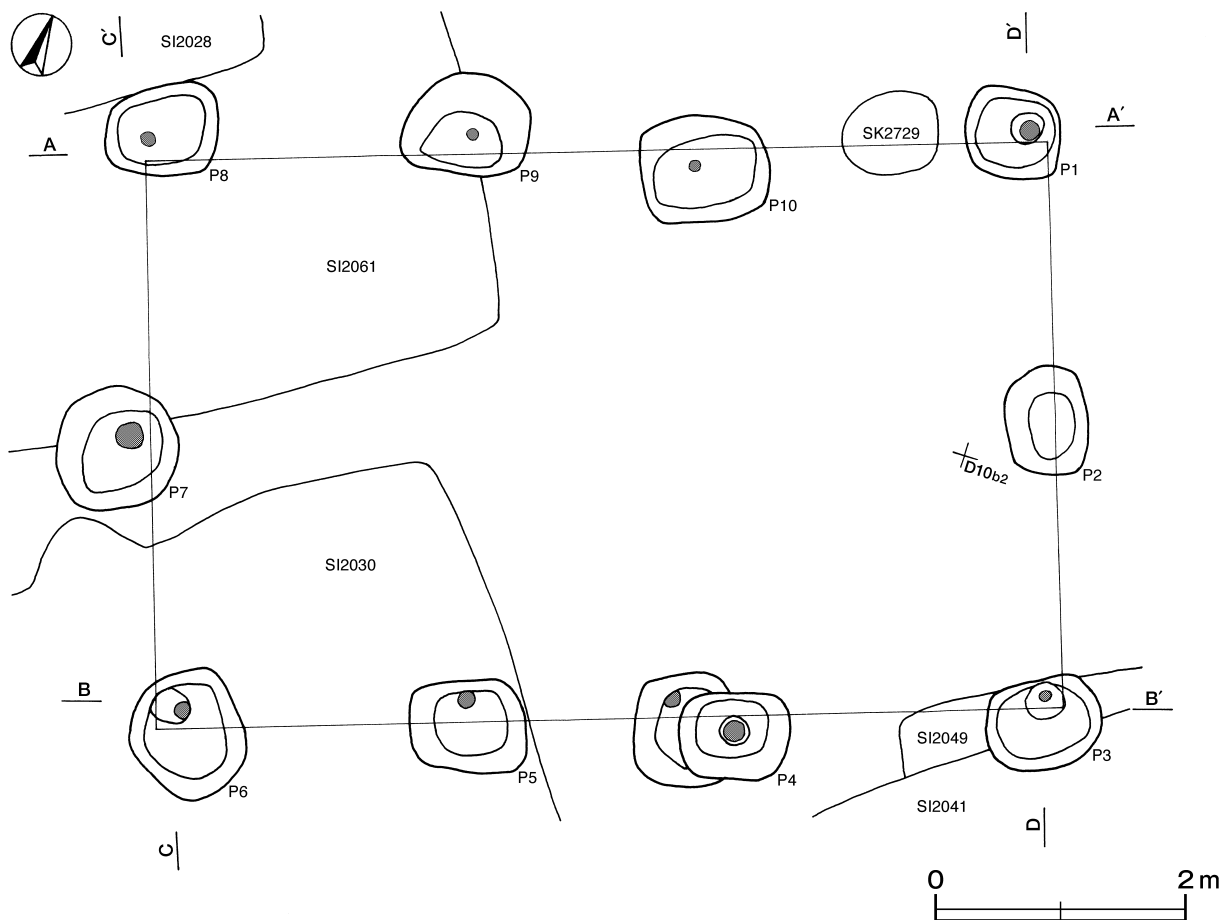
第377号掘立柱建物跡 (第456・457図)

位置 調査区南西部のD10b1区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

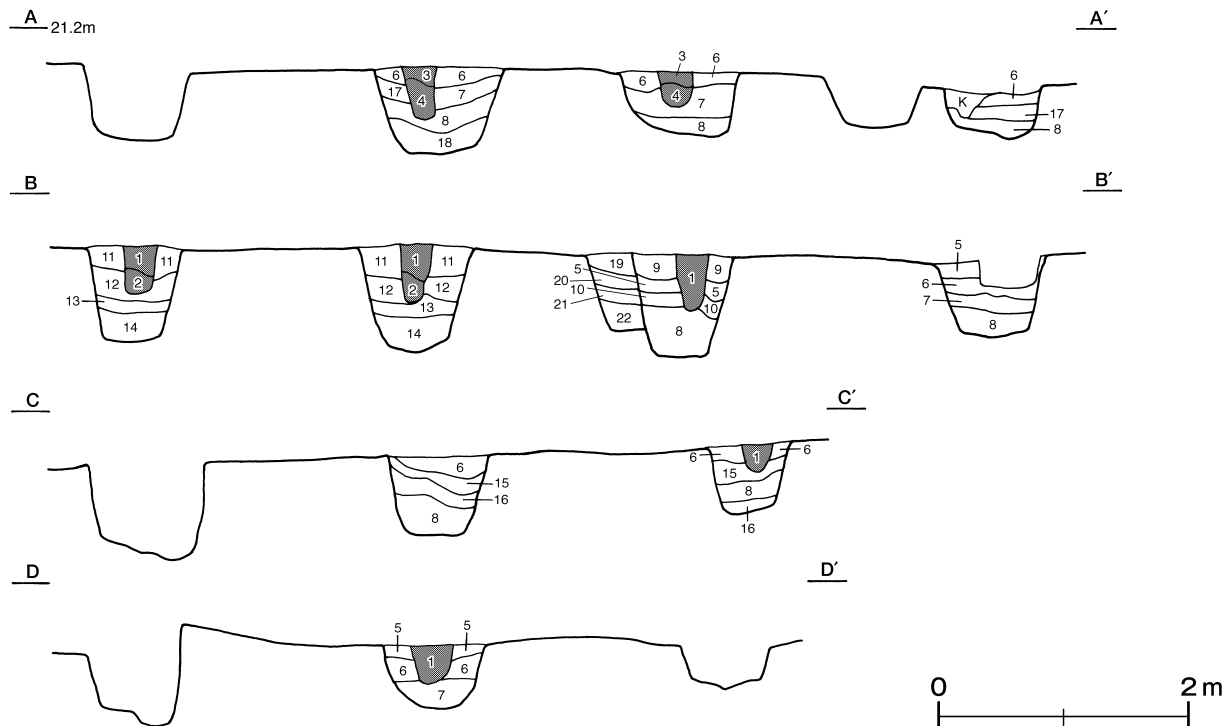
重複関係 第2028・2030・2041・2049・2061号住居跡を掘り込んでいる。また、第2729号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 72° - Eの東西棟である。規模は、桁行7.2m、梁行4.5mで、面積は32.4m²である。柱間寸法は、桁行2.4m (8尺)、梁行2.1~2.4m (7~8尺)を基調とし、桁行は東から2.1m (7尺)、2.4m (8尺)、2.4m (8尺)である。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、規模は長軸77~102cm、短軸64~95cmである。深さは42~84cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1~4層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。また、P4の土層断面からは柱の立て替えの痕跡が認められる。P2を除いた底面からは柱のあたりが確認されている。第19~22層は柱建て替え前の埋土、その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。



第456図 第377号掘立柱建物跡実測図(1)



第457図 第377号掘立柱建物跡実測図(2)

土層解説(各柱穴共通)

1 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	12 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量	13 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
3 黒褐色	炭化粒子中量, ロームブロック少量	14 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	16 暗褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	17 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量	18 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
8 褐色	ロームブロック中量	19 褐色	ロームブロック・炭化物中量
9 褐色	ロームブロック少量	20 黒褐色	炭化物・ローム粒子少量
10 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	21 褐色	ローム粒子中量
11 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	22 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片210点(坏27, 甕類183), 須恵器片16点(坏7, 甕類9), 不明土製品1点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 柱の立て替えの痕跡が認められる。規模や形状から, 穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の東には第374号掘立柱建物跡があり, 本跡の南桁行と第374号掘立柱建物跡の北妻が直交していることから, 同時期に機能していたものと推測される。時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第379号掘立柱建物跡(第458・459図)

位置 調査区南西部のD10c6区, 標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第340号掘立柱建物跡を掘り込み, 第374号掘立柱建物に掘り込まれている。また, 第2734号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱式建物跡で, 桁行方向N-7°-Wの南北棟である。規模は, 桁行6.9m, 梁行4.5mで, 面積は31.05m²である。柱間寸法は, 桁行が2.1~2.4m(7~8尺), 梁行が2.1~2.4m(7~8尺)を基調とし, 東側桁行は北から2.4m(8尺), 2.4m(8尺), 2.1m(7尺)である。また, 梁行は東から2.4m(8尺), 2.1m(7尺)である。

柱穴 10か所。平面形は楕円形で, 規模は長径80~107cm, 短径67~88cmである。深さは30~50cmで, 断面形は逆台形である。土層は第1~11層が埋土で, ローム土を主体とした暗褐色土・黒褐色土が互層をなし, 強く

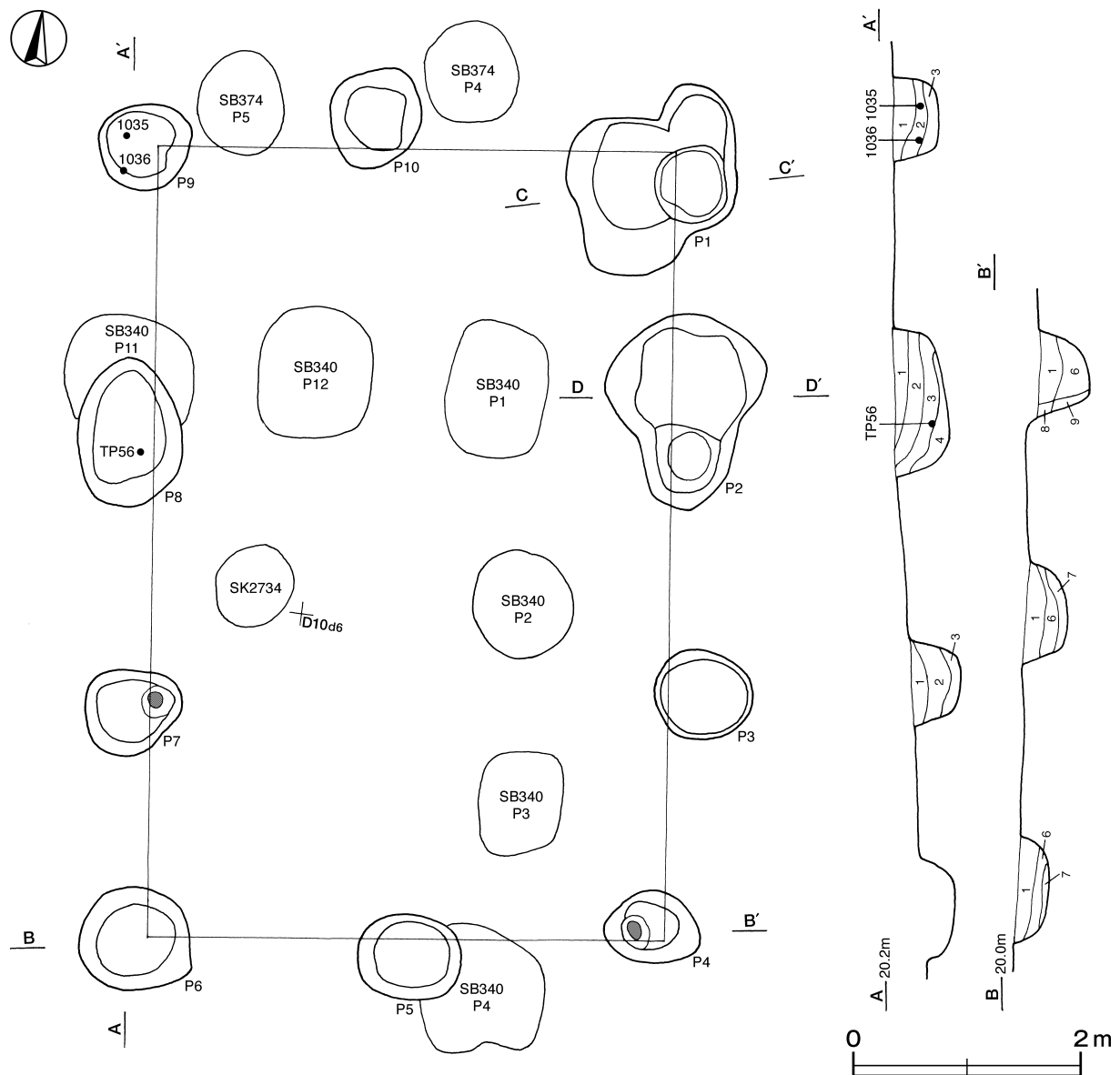
突き固められている。また、P4・P7の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

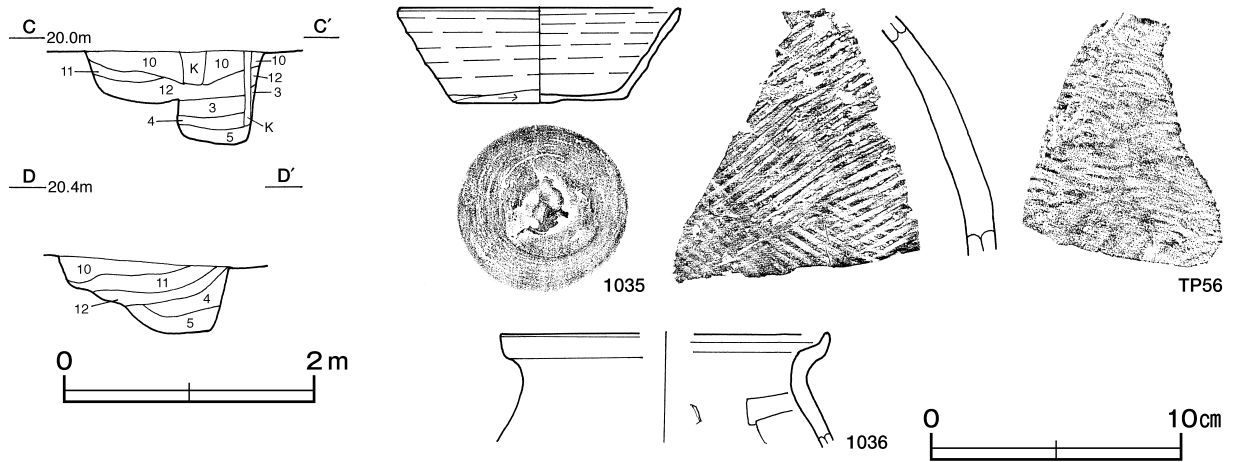
- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 11 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 12 暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片48点(坏3, 甕類45), 須恵器片7点(坏6, 甕1)が各柱穴から出土している。1035・1036はP9の埋土, TP56はP8の埋土からそれぞれ出土している。

所見 規模や形状から, 穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の西には第304号掘立柱建物跡があり, 軸線を揃えて並列していることから, 同時期に機能していたものと考えられる。時期は, 埋土から出土した土器から8世紀中葉と考えられる。



第458図 第379号掘立柱建物跡実測図



第459図 第379号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

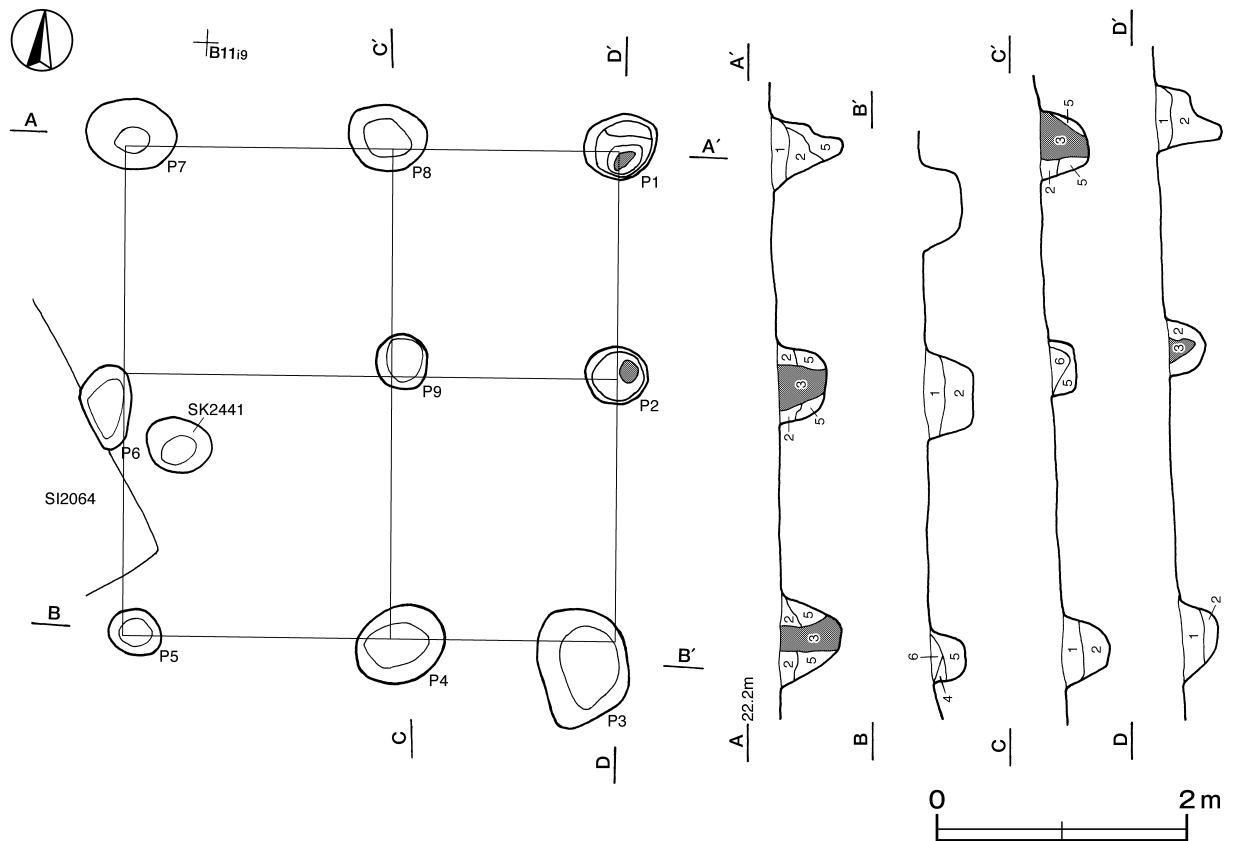
第379号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第458・459図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1035	須恵器	坏	11.0	4.0	6.8	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	P 12覆土	60%
1036	土師器	甕	[13.0]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	P 12覆土	5%
TP56	須恵器	甕	-	(9.2)	-	長石・石英・赤色粒子・微塵	にぶい赤褐	普通	体部外面格子状の叩き 内面同心円状の当て具痕	P 8埋土	

第382号掘立柱建物跡（第460図）

位置 調査区中央部のB11i9区，標高22mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2064号住居跡を掘り込んでいる。また第2441号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。



第460図 第382号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行，梁行ともに2間の総柱式建物跡で，桁行方向N - 1° - Eの南北棟である。規模は，桁行，梁行ともに3.9mで，面積は15.21m²である。柱間寸法は1.8~2.1m（6~7尺）を基調とし，桁行は北から1.8m（6尺），2.1m（7尺），梁行は東から1.8m（6尺），2.1m（7尺）である。

柱穴 9か所。平面形は楕円形で，規模は長径61~92cm，短径37~68cmである。深さは20~56cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第3層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い極暗褐色土である。また，P1・P2の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土などが強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 極暗褐色	ロームブロック少量	4 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量	5 褐色	ロームブロック中量
3 極暗褐色	ロームブロック中量	6 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片23点（坏3，甕類20），須恵器片6点（坏2，甕4）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられ，第313号掘立柱建物跡とほぼ軸線は同じである。時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第383号掘立柱建物跡（第461図）

位置 調査区南西部のD10f6区，標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第384号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 7° - Wの南北棟である。規模は，桁行4.5m，梁行3.6mで，面積は16.2m²である。柱間寸法は，桁行が1.5m（5尺），梁行が1.8m（6尺）を基調とし，均等に配されている。

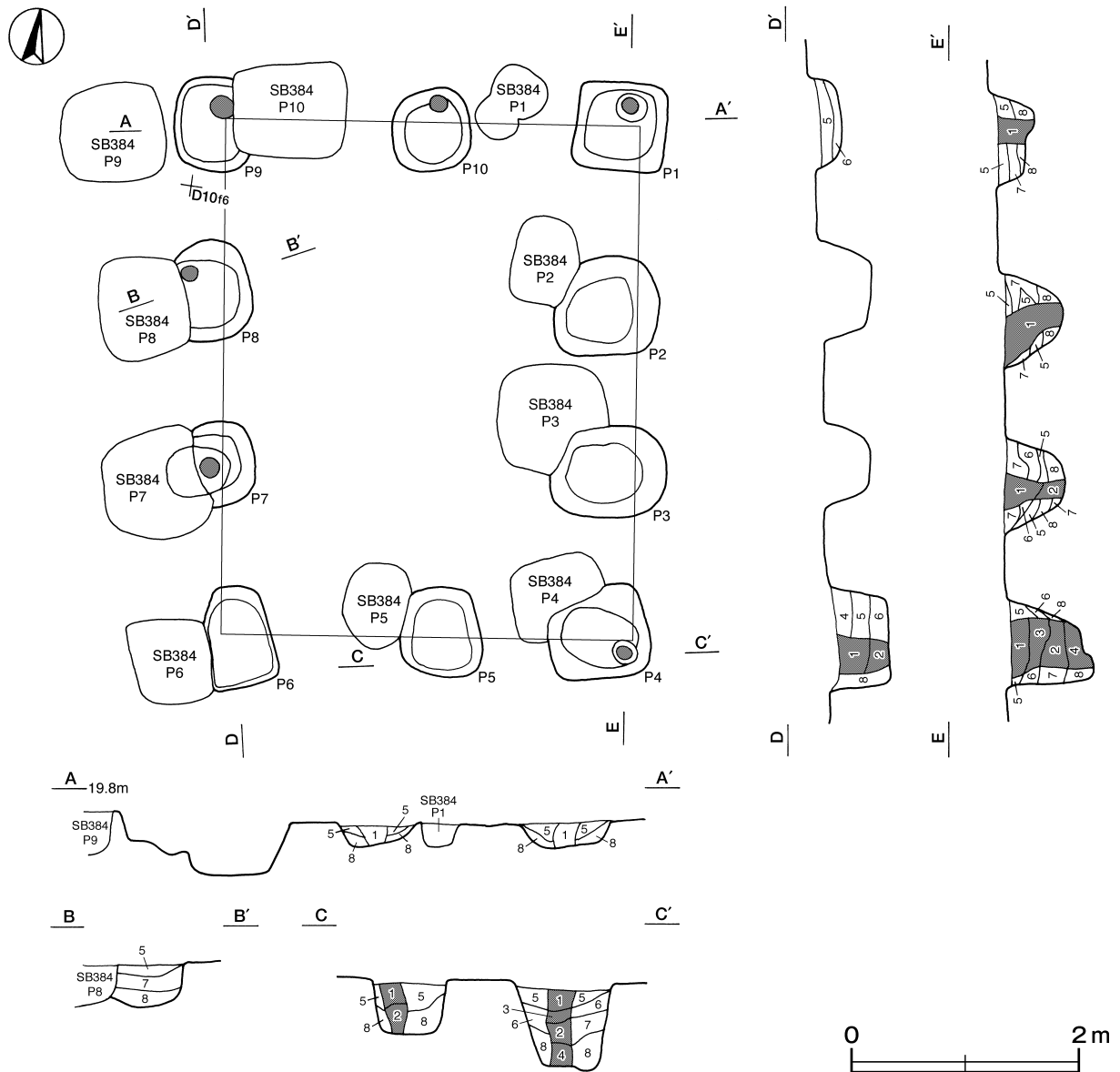
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸72~101cm，短軸67~88cmである。深さは20~80cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は，第1~4層が柱抜き取り痕に相当し，やや締まった暗褐色土・黒褐色土である。また，P1・P4・P7~P10の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ロームブロック微量	5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量	6 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	粘土粒子少量，ロームブロック微量	8 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片151点（坏18，甕類133），須恵器片34点（坏10，蓋1，高盤1，甕類20，甌2），灰釉陶器片1点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北には第379号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えて直列していることから，同時期に機能していたと推測される。時期は，8世紀後葉に比定される第384号掘立柱建物に掘り込まれていることや，出土土器から8世紀中葉で，第384号掘立柱建物に建て替えられたものと推測される。



第461図 第383号掘立柱建物跡実測図

第384号掘立柱建物跡（第462図）

位置 調査区南西部のD10f6区、標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第383号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-12°-Wの南北棟である。規模は、桁行4.5m、梁行3.6mで、面積は16.2m²である。柱間寸法は、桁行が1.5m（5尺）、梁行が1.5m～2.1m（5～7尺）を基調とし、北妻梁行は東から2.1m（7尺）、1.5m（5尺）であるのに対して、南妻梁行では1.8m（6尺）である。

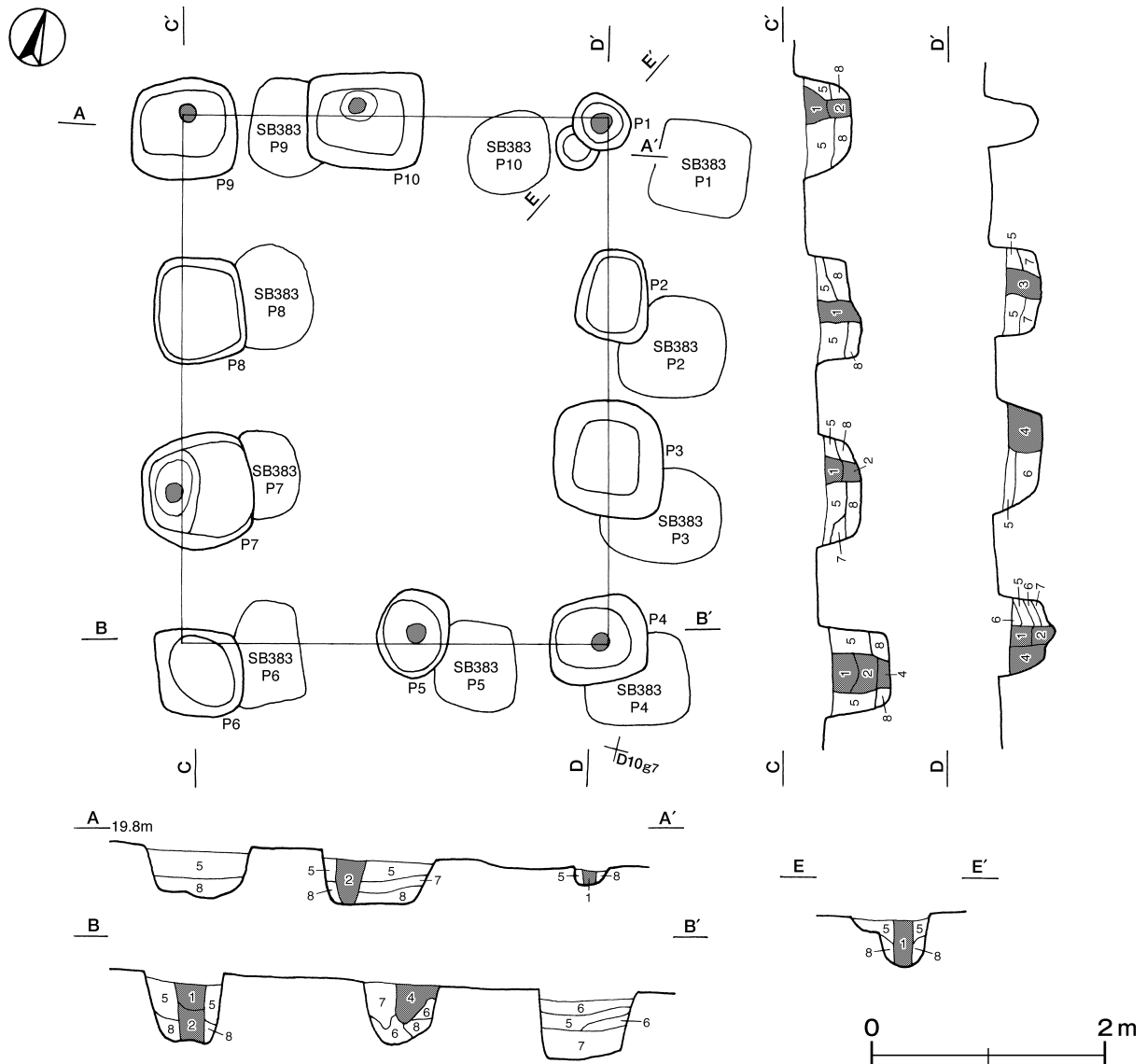
柱穴 10か所。平面形は、隅丸方形または隅丸長方形で、規模は長軸48～99cm、短軸42～94cmである。深さは15～62cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1～4層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。また、P1・P4・P5・P7・P9・P10の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片56点（坏6，手捏土器1，甕類49），須恵器片9点（坏4，蓋1，甕類4）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北には第340号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えて直列していることから，同時期に機能していたと推測される。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第462図 第384号掘立柱建物跡実測図

第390号掘立柱建物跡（第463・464図）

位置 調査区中央部のC12i5区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2082・2086号住居跡を掘り込み，第398・408号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の建物跡で，桁行方向N-91°-Wの東西棟である。規模は，桁行6.3m，梁

行は4.2mで、面積は26.46m²である。柱間寸法は、桁行1.8~2.4m(6~8尺)、梁行は2.1m(7尺)を基調としている。桁行では東から2.1m(7尺)、2.4m(8尺)で、1.8m(6尺)であるのに対して、梁行では2.1m(7尺)が均等に配されている。

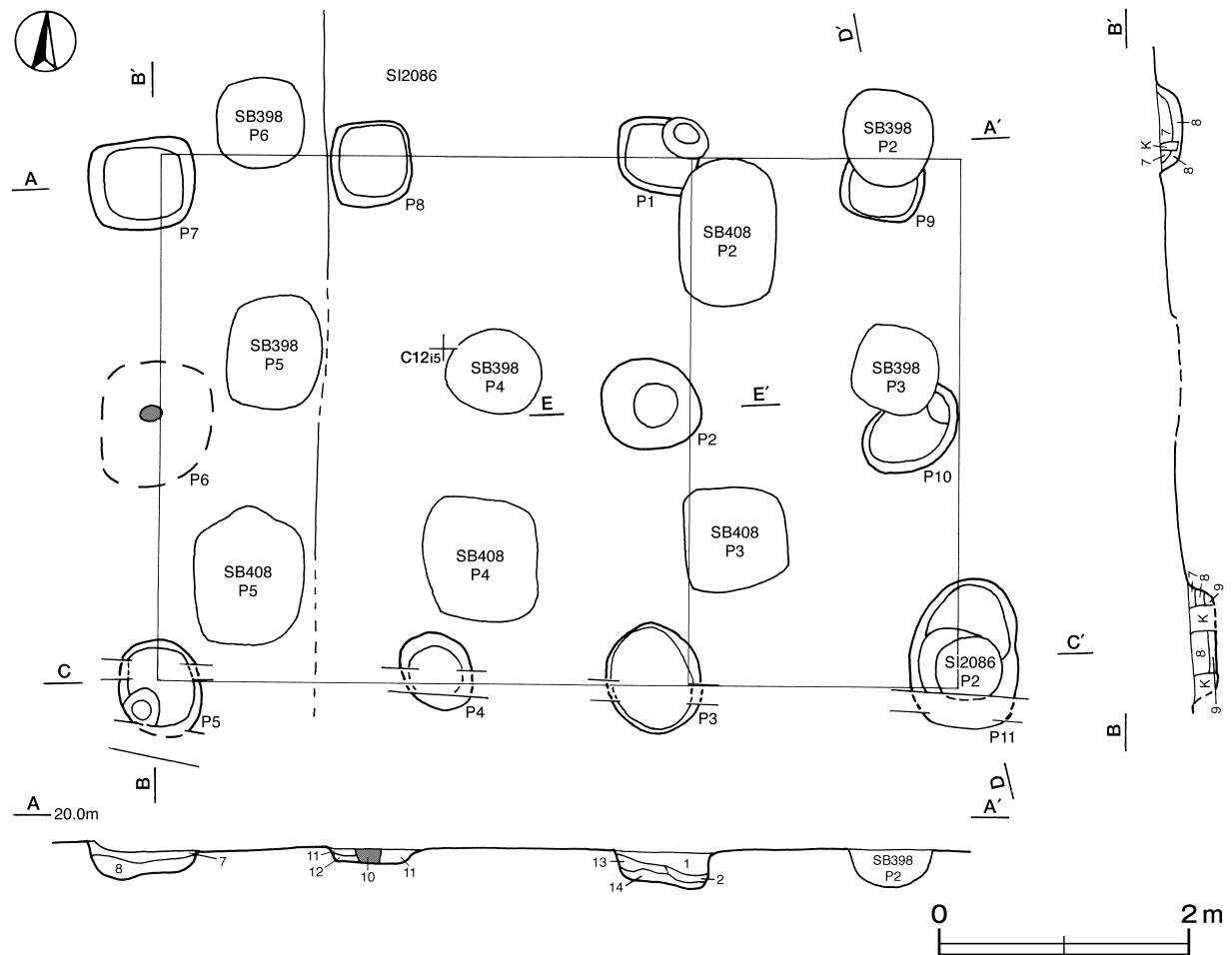
柱穴 11か所。平面形はおおむね楕円形で、規模は長径70~120cm、短径36~79cmである。深さは15~30cmで、断面形は逆台形である。土層は第10層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。また、P6の底面からは柱のあたりが確認されている。第4~6・9・11~14層は埋土で、ローム土を主体とした粘土混じりの灰褐色土などが互層をなし、強く突き固められている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説(各柱穴共通)

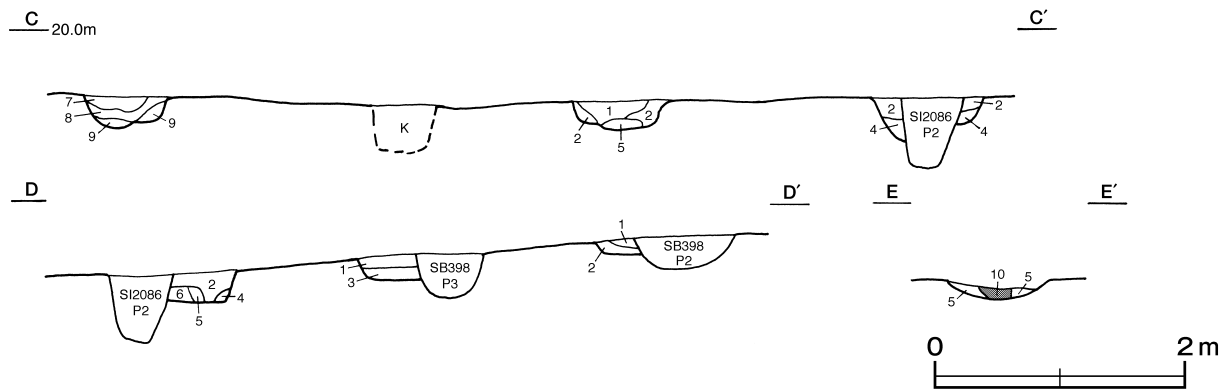
- | | | | |
|---------|--------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐灰色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 にぶい橙色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック微量 | 10 黒色 | ロームブロック微量 |
| 4 灰褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 | 11 黒褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 5 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 6 褐灰色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 13 にぶい橙色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 14 にぶい橙色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片15点(坏1, 甕類14)須恵器片1点(甕)が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 東から1間にP2が位置する構造から、屋として機能していた建物と考えられる。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第463図 第390号掘立柱建物跡実測図(1)



第464図 第390号掘立柱建物跡実測図(2)

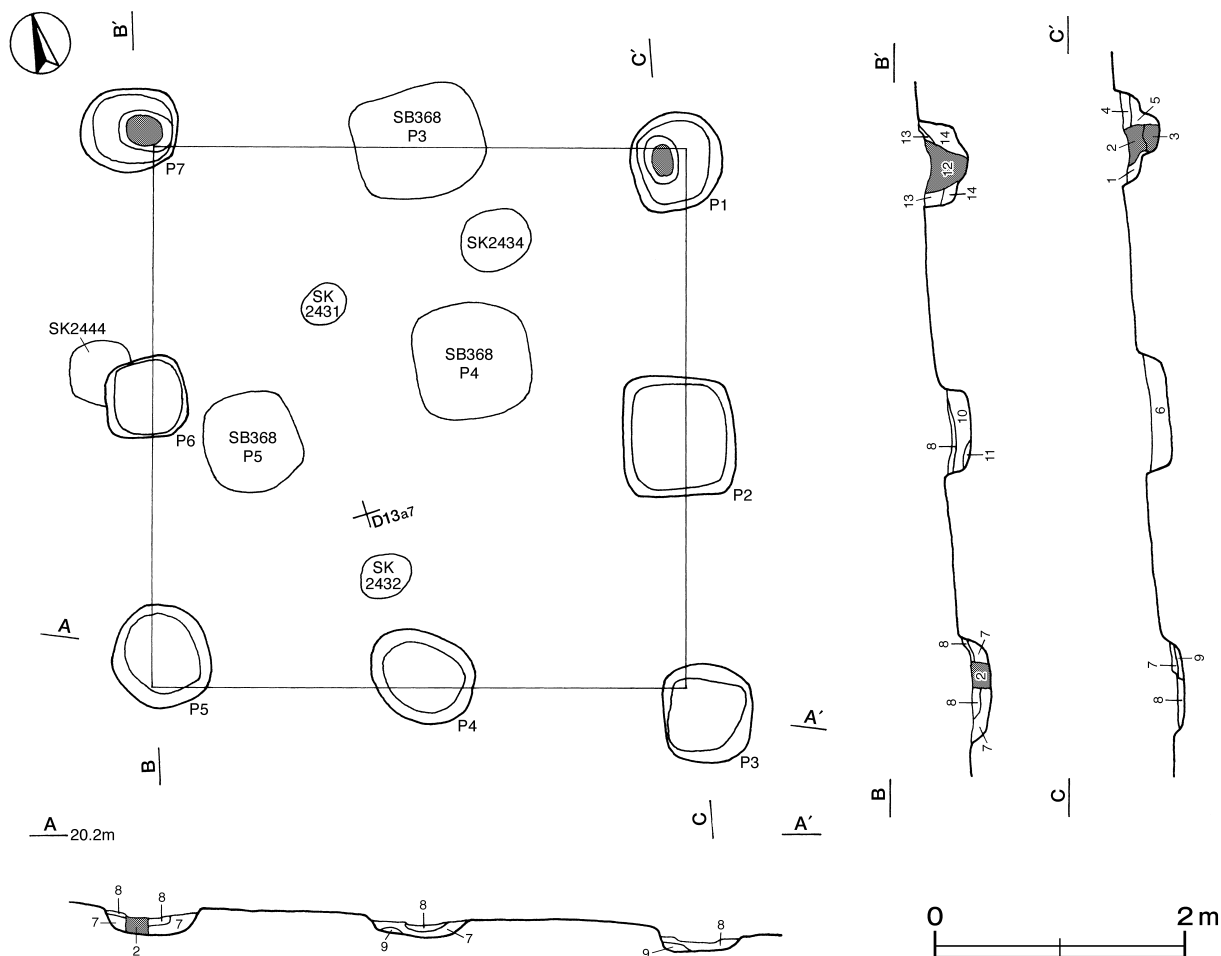
第395号掘立柱建物跡 (第465図)

位置 調査区東部のC13j7区, 標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2444号土坑を掘り込み, 第368号掘立柱建物に掘り込まれている。また, 第2431・2432・2434号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行, 梁行ともに2間の側柱式建物跡で, 桁行方向N - 18° - Eの南北棟である。規模は, 桁行, 梁行ともに4.2mで, 面積は17.64m²である。柱間寸法はともに2.1m (7尺)を基調としている。

柱穴 7か所。平面形は隅丸方形で, 規模は長軸55~88cm, 短軸51~76cmである。深さは10~40cmで, 断面形は逆台形である。土層は第2・3・12層が柱抜き取り痕に相当し, やや締まった暗褐色土・黒褐色土である。



第465図 第395号掘立柱建物跡実測図

また、P1・P7の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・灰褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 9 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ロームブロック中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 6 灰褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片28点（坏1，甕27），須恵器片11点（坏7，甕4）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

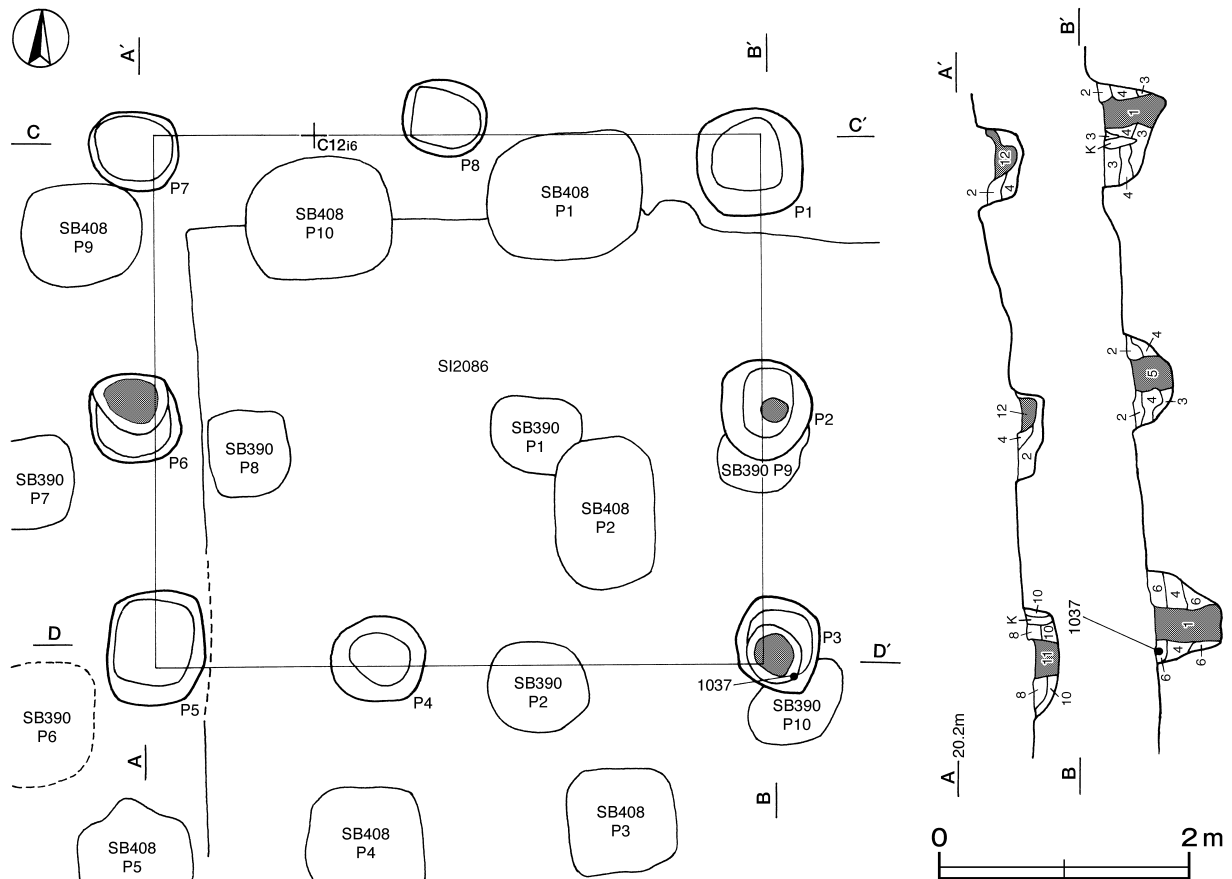
所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、8世紀中葉に比定される第368号掘立柱建物跡を掘り込まれていることや、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第398号掘立柱建物跡（第466・467図）

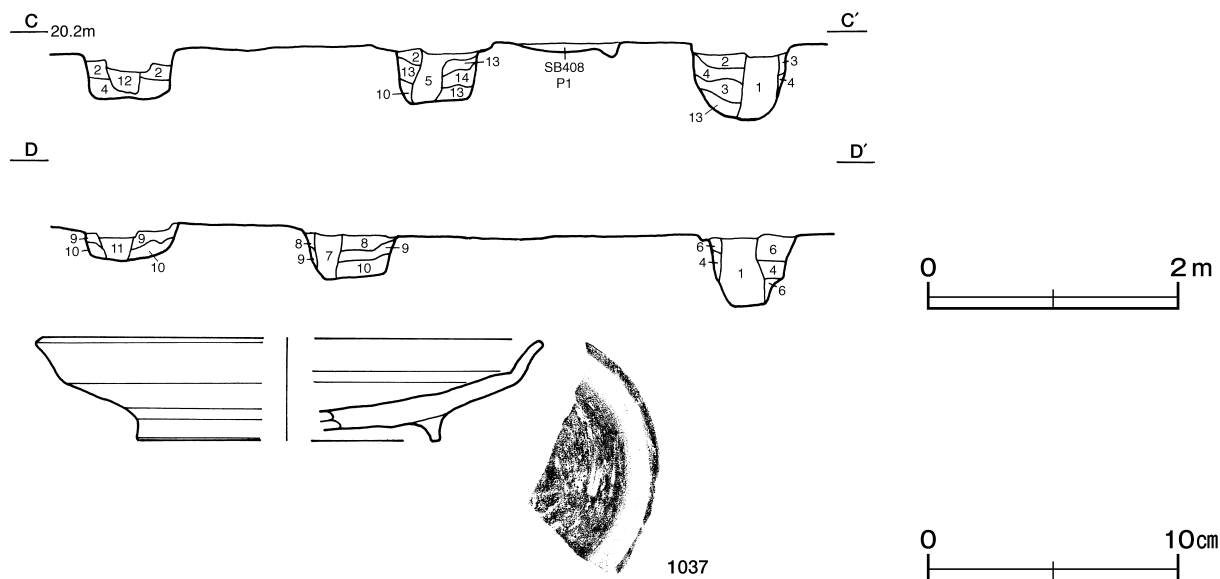
位置 調査区中央部のC12i6区、標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2086号住居跡、第390号掘立柱建物跡を掘り込み、第408号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-89°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.8m、梁行4.2mで、面積は20.16m²である。柱間寸法は、桁行が1.2~2.4m（3~8尺）、梁行が2.1m（7尺）を基調としており、北側桁行は2.4m（8尺）、南側桁行では東から1.8m（6尺）、1.2m（4尺）、1.8m（6尺）とばらつきがある。



第466図 第398号掘立柱建物跡実測図



第467図 第398号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 8か所。平面形は隅丸方形で、規模は長軸67～90cm、短軸60～82cmである。深さは10～55cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・5・7・11・12層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。P4以外の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20cm前後と考えられる。また、P2・P3・P6からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土と粘土を主体とした褐色土などが互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|---------|-------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 | 7 黒褐色 | 炭化材・焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 11 黒褐色 | 炭化材・ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 6 褐灰色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| | | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| | | 14 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片54点（坏2，甕類52），須恵器片18点（坏12，高台付坏2，甕類3，甑1）が各柱穴から出土している。1037はP3の柱抜き取り痕から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた建物と考えられる。時期は、柱抜き取り痕から出土した土器から8世紀後葉と考えられる。

第398号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第467図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1037	須恵器	盤	[19.7]	4.0	[11.9]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	P3柱抜き取り痕	20%

第402号掘立柱建物跡（第468図）

位置 調査区東部のC13j0区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2213号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行、梁行ともに2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-7°-Eの南北棟である。規模は、桁行、梁行ともに3.0mで、面積は9.0m²である。柱間寸法は1.5m（5尺）を基調とし、柱筋はほぼ揃っている。

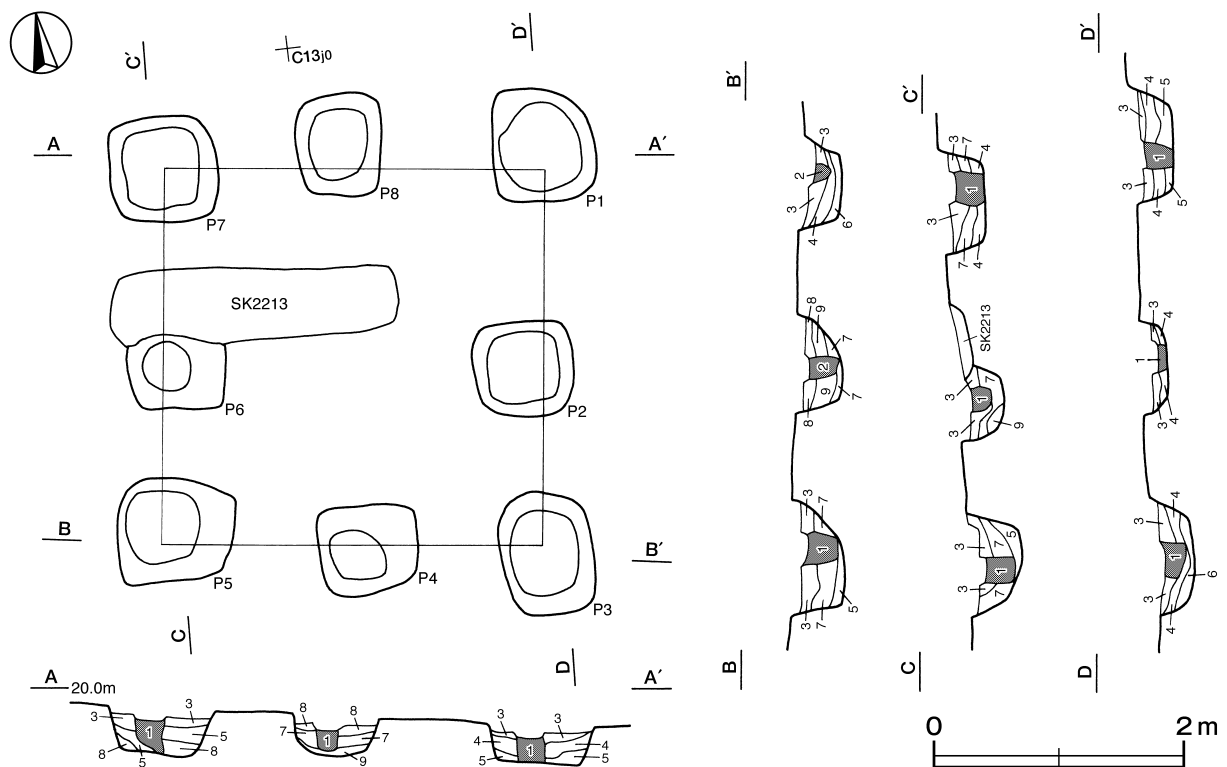
柱穴 8か所。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は長軸80～100cm、短軸68～84cmである。深さは24～42cmで、断面形はU字形や逆台形を呈している。土層は第1・2層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い褐色

土・黒褐色土である。P1～P5の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20cm前後である。その他の層は埋土で、ローム土と粘土を主体とした褐色土などが互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量 粘土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片33点(坏2,甕31)が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。
所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、北西に隣接する第403号掘立柱建物跡と軸線を揃えて並列していることから、同時期に機能していたものと推測される。時期は、8世紀後葉と考えられる。



第468図 第402号掘立柱建物跡実測図

第403号掘立柱建物跡（第469・470図）

位置 調査区東部のC14i1区、標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第39号方形竪穴遺構、第2241・2246号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行、梁行ともに2間の身舎の東側に庇が付属する建物跡で、桁行方向N-90°-Wの東西棟である。規模は、桁行6.0m、梁行4.2mである。面積は22.23m²である。柱間寸法は、桁行が1.8~2.1m(6~7尺)、梁行が2.1m(7尺)を基調とし、桁行は東から2.1m(7尺)、1.8m(6尺)である。柱筋は、P1・8を除いてほぼ揃っている。

柱穴 11か所。平面形はおおむね隅丸方形を呈しており、規模は長軸66~102cm、短軸64~87cmである。深さは10~32cmで、断面形は逆台形を呈している。土層は第1・2・9層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった褐色土・黒褐色土である。また、P9・P11を除く底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は

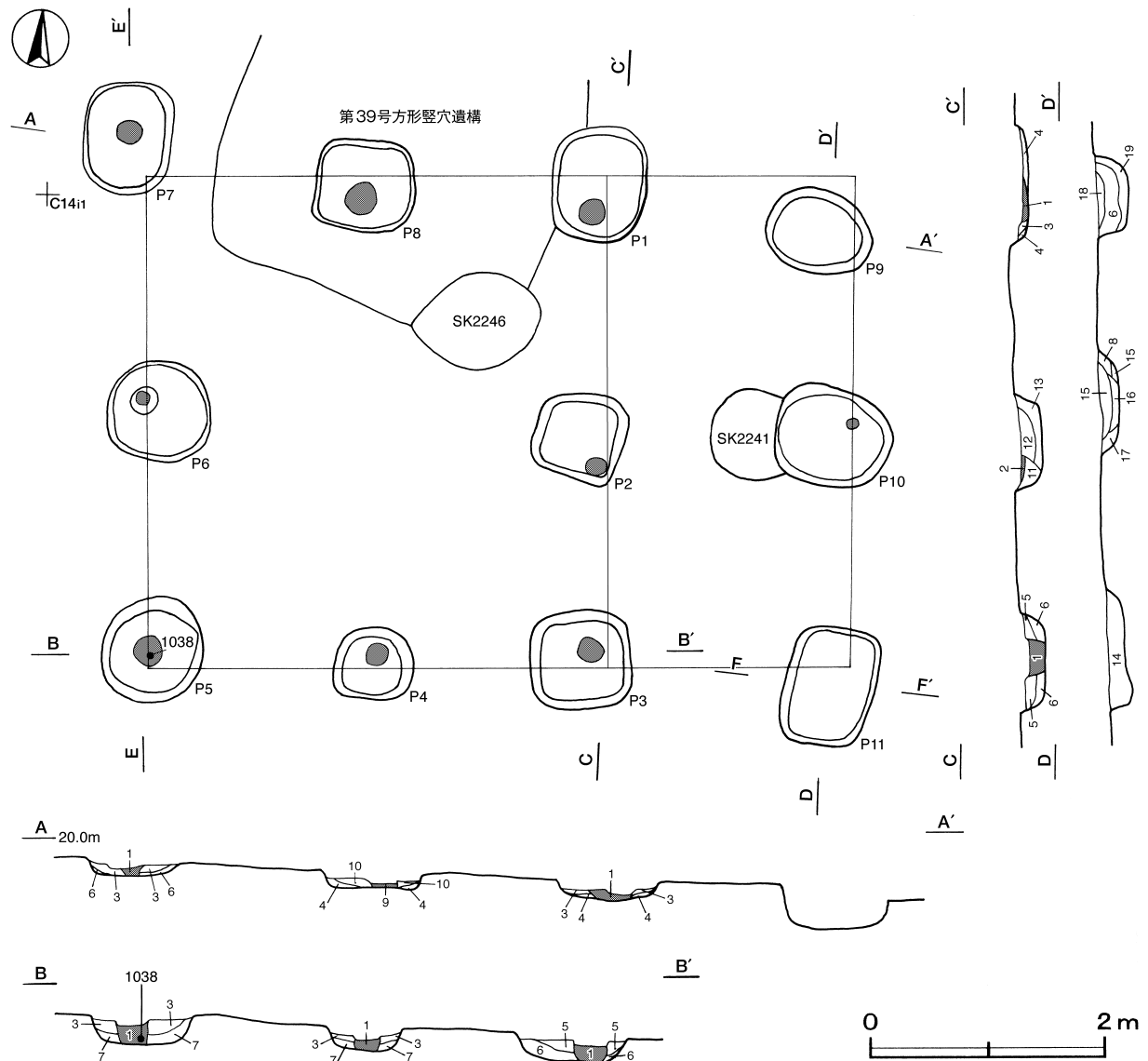
埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・灰褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

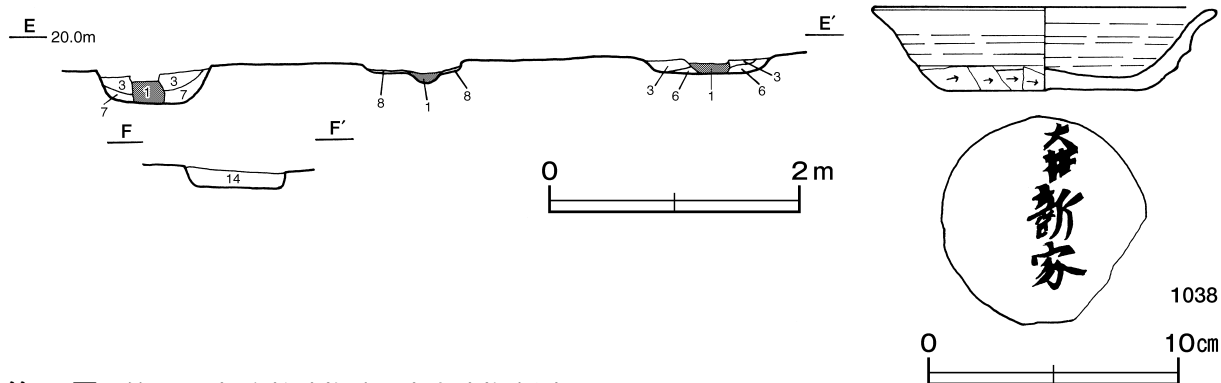
- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 粘土ブロック微量 | 12 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 17 褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 8 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量 | 18 灰褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 9 黒褐色 | 炭化材中量, ローム粒子少量 | 19 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化材少量 | | |

遺物出土状況 土師器片28点(坏14, 甕類14), 須恵器片2点(坏, 甕)が各柱穴から出土している。1038は墨書土器で、P5の柱抜き取り痕から出土している。

所見 P5の柱抜き取り痕から「大井新家」の墨書銘のある須恵器坏が出土している。本跡の南西には第402号掘立柱建物跡があるが、軸線がやや異なる。東桁にP2があり、屋の可能性が考えられる。時期は、柱抜き取り痕から出土した土器から8世紀後葉には廃絶したものと考えられる。



第469図 第403号掘立柱建物跡実測図



第470図 第403号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第403号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第470図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1038	須恵器	坏	13.6	3.3	8.2	長石・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面回転ヘラ削り後 一方の手持ちヘラ削り	P5柱抜き取り痕	75% 墨書 「大井新家」

第407号掘立柱建物跡（第471図）

位置 調査区東部のC14h7区，標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2201・2203号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間，梁行1間の側柱式建物跡で，桁行方向N-74°-Wの東西棟である。規模は，桁行9.6m，梁行4.2mで，面積は40.32m²である。柱間寸法は，桁行が2.4m（8尺），梁行が4.2m（14尺）を基調としているが，桁行東から3間は2.1m（7尺）と間尺が短くなっている。

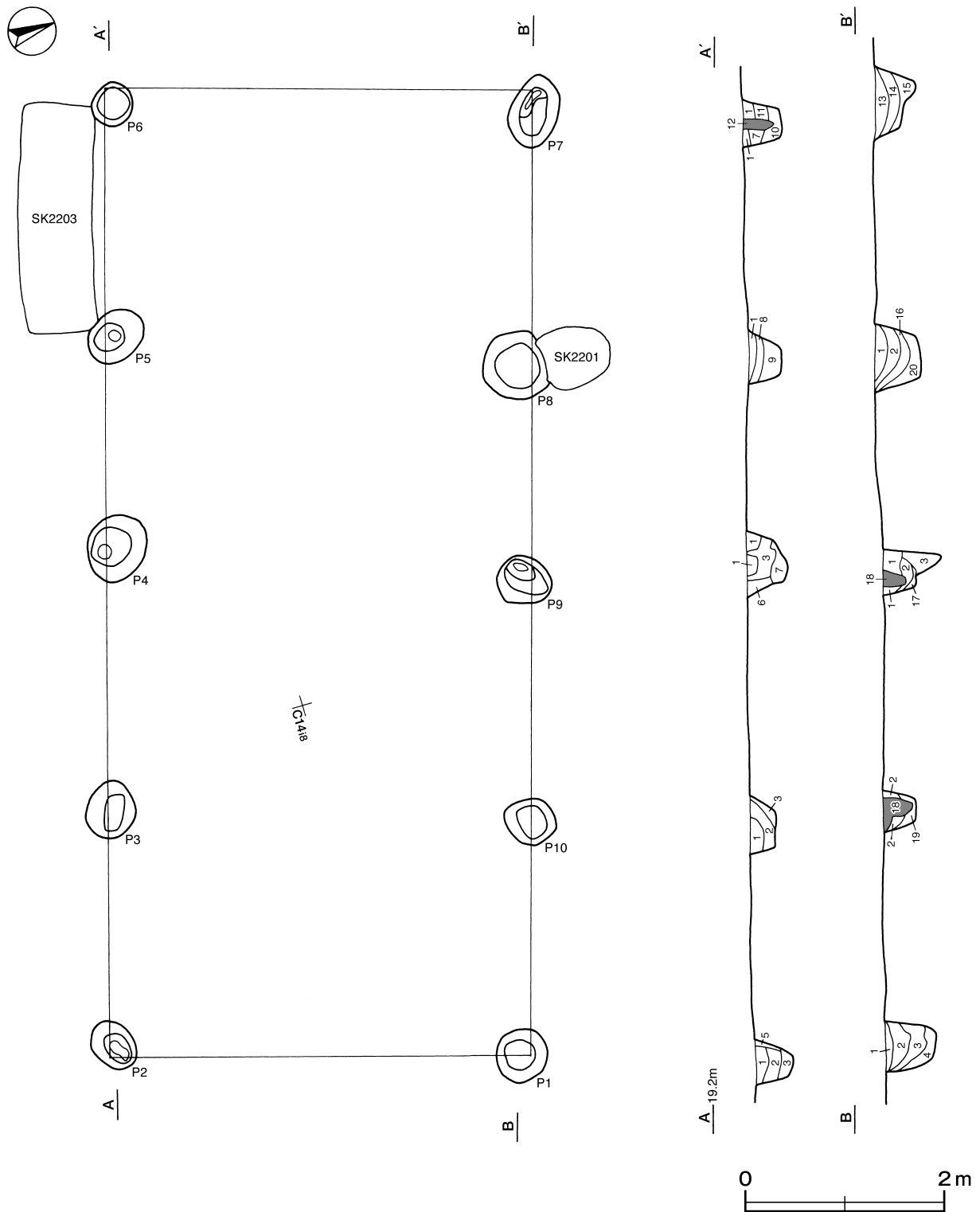
柱穴 10か所。平面形は楕円形を呈している。規模は長径43～74cm，短径40～65cmである。深さは30～63cmで，断面形はU字形や逆台形を呈している。土層は第12・18層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い極暗褐色土・灰褐色土である。P6・P9・P10の土層断面からは明瞭な柱痕跡が確認され，推定される柱の太さは10cm以上である。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・灰褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	12 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6 褐灰色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	17 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18 灰褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 褐灰色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	19 褐灰色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量	20 暗褐色	ローム粒子中量
10 黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		
11 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片17点（坏7，甕類10），須恵器片2点（甕）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は，出土土器から8世紀前半と考えられる。



第471図 第407号掘立柱建物跡実測図

第415号掘立柱建物跡 (第472図)

位置 調査区東部のB 14h4区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2114号住居跡, 第117号溝跡を掘り込んでいる。

規模と構造 北側が調査区域外に伸びており, 全体の規模は不明であるが, 桁行3間, 梁行2間の側柱式建物跡で, 桁行方向N - 73° - Wの東西棟と推定される。確認された範囲では, 規模は, 桁行6.3m, 梁行4.2mで,

面積は26.46m²と推定される。柱間寸法はともに2.1m（7尺）を基調としている。

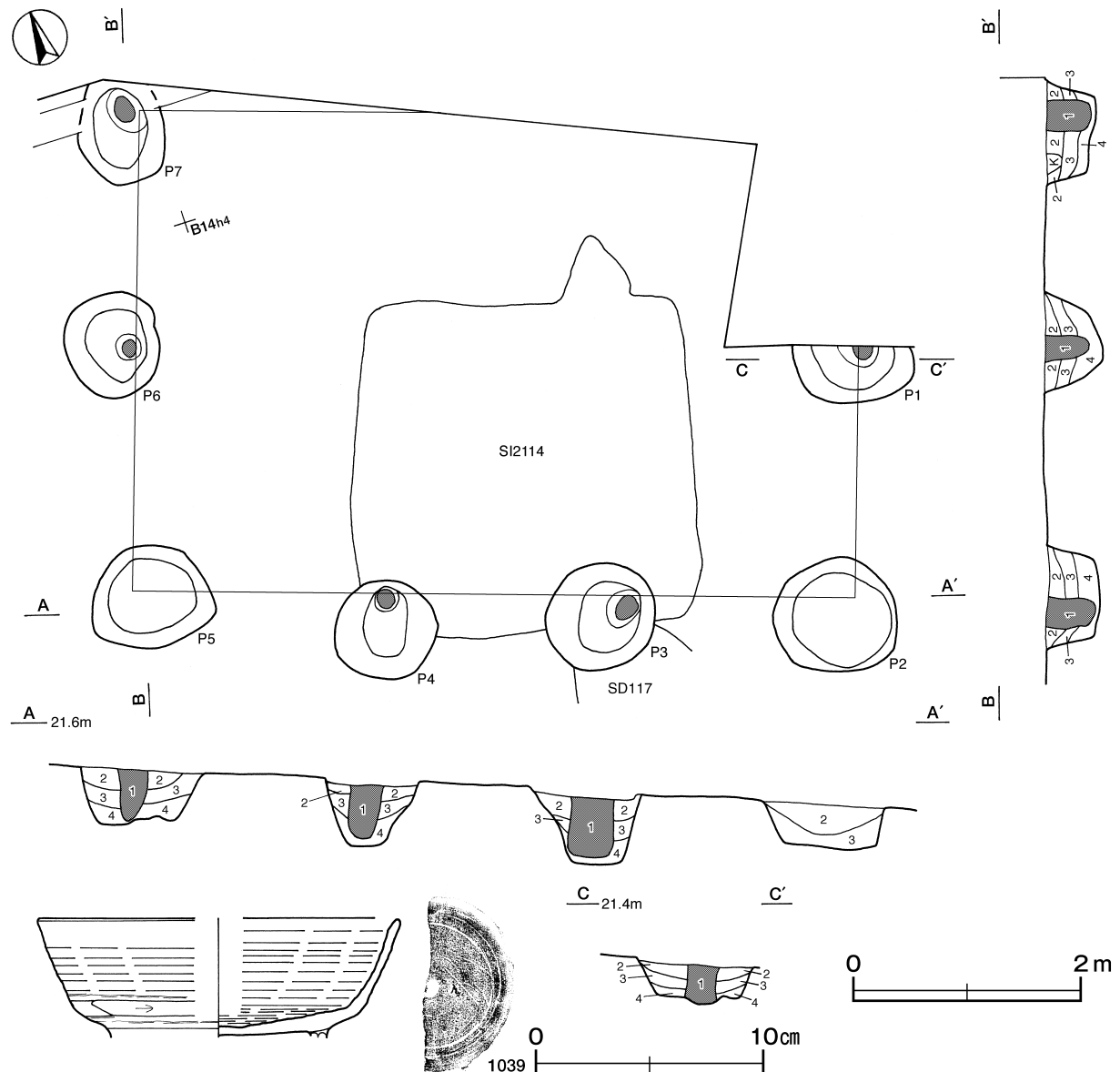
柱穴 7か所。平面形は、楕円形である。規模は長径93～108cm，短径76～96cmである。深さは36～65cmで，断面形はU字形，逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い黒褐色土である。P2を除く土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され，推定される柱の太さは20cm以上である。また，P1・P3・P4・P6・P7の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片25点（坏3，甕類22），須恵器片25点（坏16，壺1，甕類8）が各柱穴から出土している。1039はP6の柱抜き取り痕から出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる，第405号掘立柱建物跡と軸線は同じであり，同時期の可能性がある。時期は，柱抜き取り痕から出土した土器から，8世紀後葉に廃絶されたものと考えられる。



第472図 第415号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第415号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第472図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1039	須臾器	高台付坏	[15.7]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	P6柱抜き取り痕	30%

第418号掘立柱建物跡（第473図）

位置 調査区東部のC13f2区、標高21mほどの南への緩斜面に位置している。

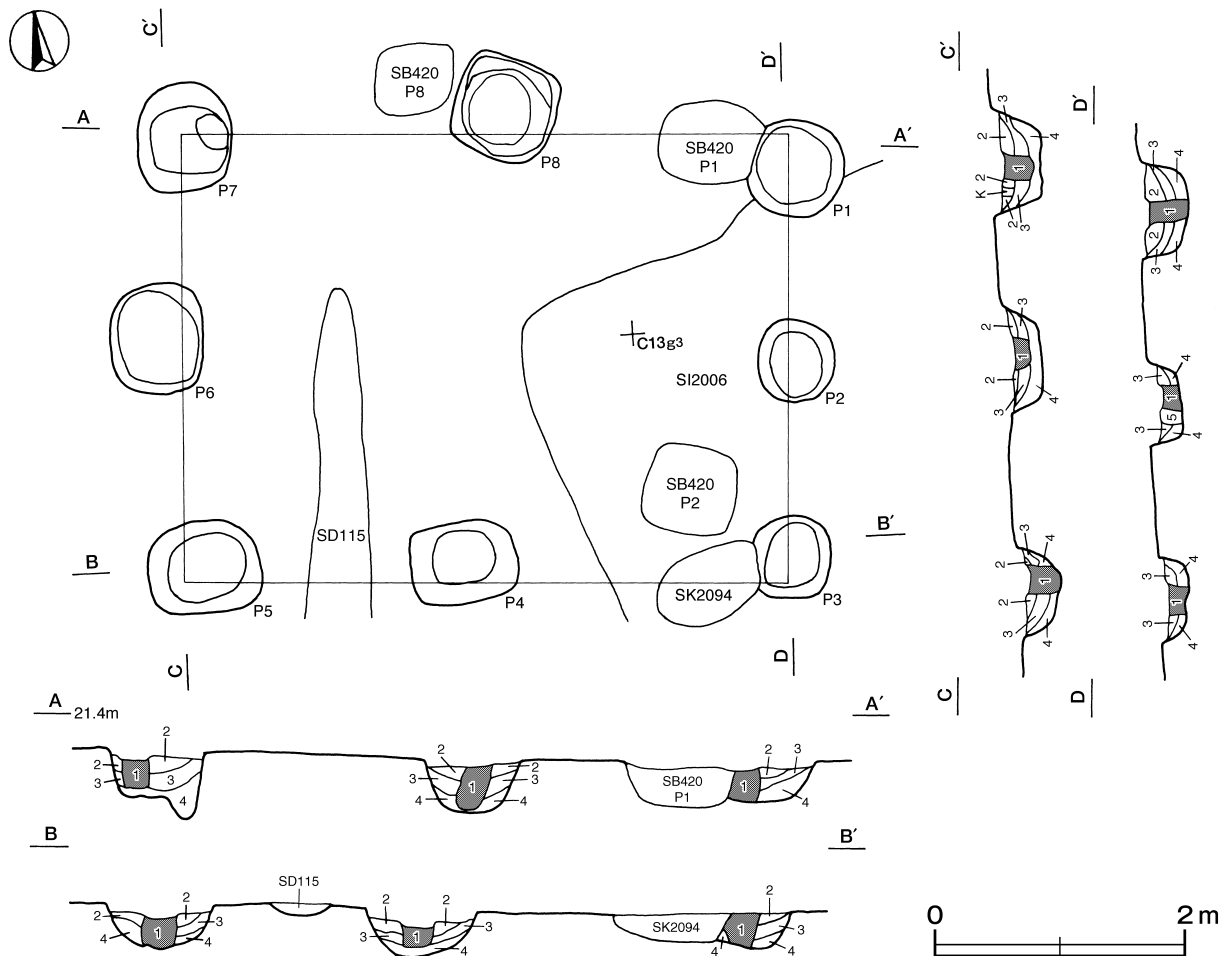
重複関係 第2006号住居跡、第2094号土坑を掘り込み、第420号掘立柱建物、第115号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行、梁行ともに2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 86° - Wの東西棟である。規模は、桁行4.8m、梁行3.6mで、面積は17.28m²である。柱間寸法は、桁行が2.4m（8尺）、梁行が1.8m（6尺）を基調とし、均等に配されている。

柱穴 8か所。平面形は楕円形で、規模は長径66～90cm、短径62～74cmである。深さは18～42cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった黒褐色土である。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土が互層をなし、強く突き固められている。P1の埋土に乱れが認められることから、柱の立て替えが行われたものと考えられる。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 5 灰褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | |



第473図 第418号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片47点（坏1，甕類46），須恵器片8点（坏4，盤1，甕3）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

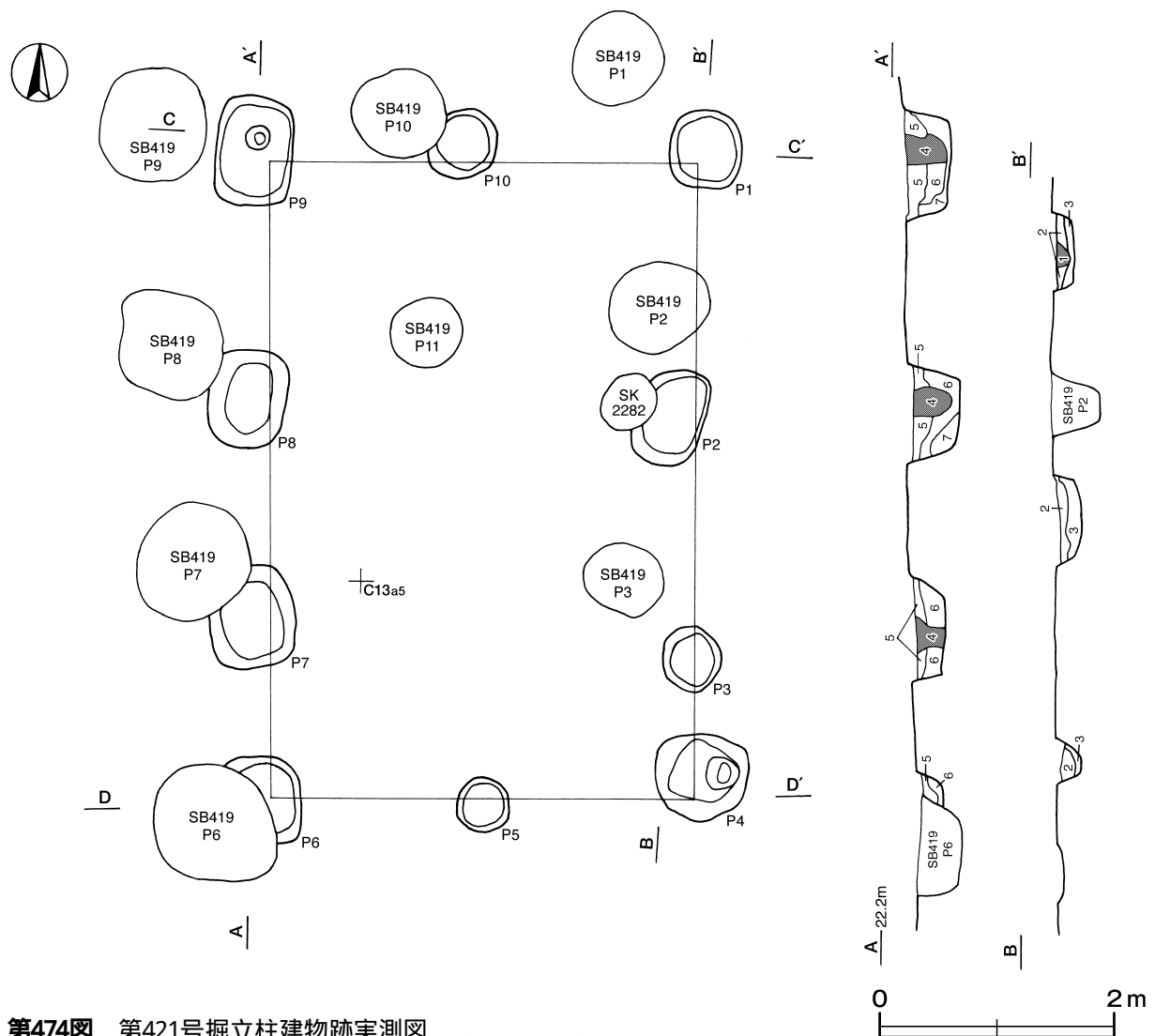
第421号掘立柱建物跡（第474・475図）

位置 調査区東部のB13j5区、標高22mほどの南への緩斜面に位置している。

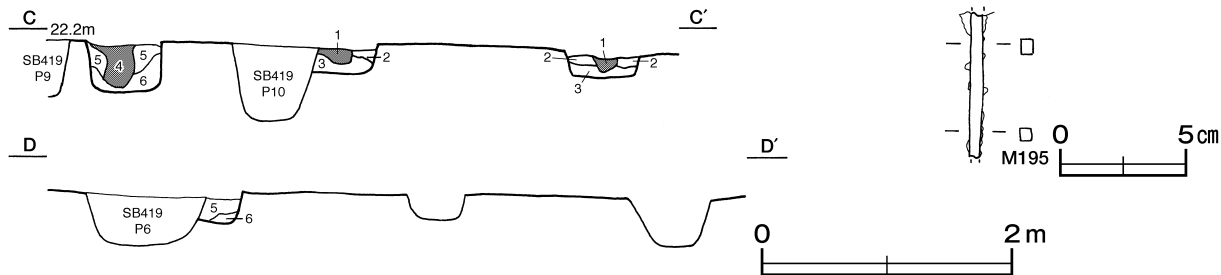
重複関係 第419号掘立柱建物，第2282号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 0°の南北棟である。規模は，桁行5.4m，梁行3.6mで，面積は19.44m²である。柱間寸法は，桁行が1.2~2.1m（4~7尺），梁行が1.8m（6尺）を基調とし，東側桁行は北から2.1m（7尺），2.1m（7尺），1.2m（4尺）であるのに対して，西側桁行では2.1m（7尺），1.8m（6尺），1.5m（5尺）とばらつきがある。

柱穴 10か所。平面形は，おおむね楕円形で，規模は長径47~90cm，短径43~72cmである。深さは18~42cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・4層が柱抜き取り痕に相当し，やや締まった明褐色土・黒褐色土である。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。



第474図 第421号掘立柱建物跡実測図



第475図 第421号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|---------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 明褐色 | ローム粒子多量 | 5 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片26点（坏2，甕類24），須恵器片5点（坏3，甕2），鉄製品1点（釘）が各柱穴から出土している。M195はP6の埋土から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、埋土から出土した土器から8世紀代と考えられる。

第421号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第475図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M195	釘	(5.6)	0.5	0.6	(7.1)	鉄	角釘 一部欠損	P6埋土	

(3) 溝跡

第123号溝跡（第476・477図）

位置 調査区北西部から西部のB9f9～B10a6区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2056・2163号住居跡を掘り込み，第2307号住居に掘り込まれている。

規模と形状 B9f9区からN-2°-W方向に延び，B9a9区でN-90°-E方向に曲がる。43.21mが調査され，上幅40～147cm，下幅21～100cm，深さ20～40cmである。断面は逆台形で，壁は外傾して立ち上がっている。

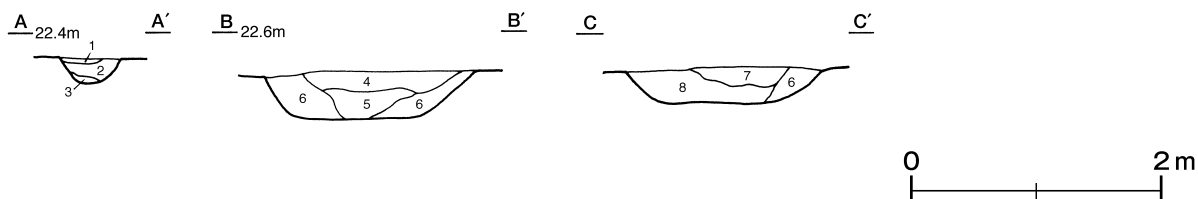
覆土 8層に分かれる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

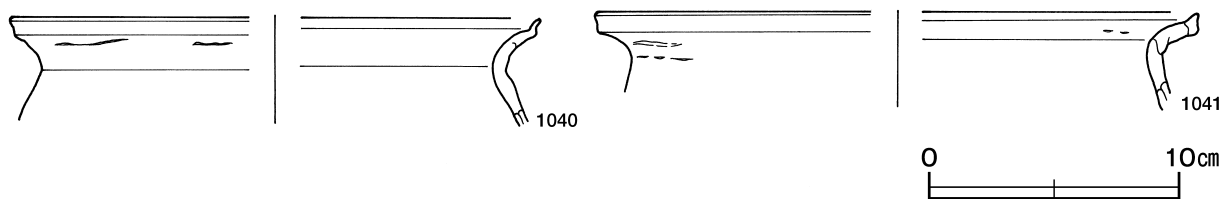
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片91点（坏14，甕類77），須恵器片34点（坏12，蓋1，短頸壺1，甕類20），不明鉄製品1点が出土している。また，混入した灰釉陶器片1点も出土している。1040・1041は覆土からそれぞれ出土している。

所見 時期は，重複関係と出土土器から8世紀前葉から8世紀中葉と考えられる。



第476図 第123号溝跡実測図



第477図 第123号溝跡出土遺物実測図

第123号溝跡出土遺物観察表（第477図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1040	土師器	甕	[20.8]	(4.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 輪積痕	覆土	5%
1041	土師器	甕	[23.7]	(3.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 輪積痕	覆土	5%

第127号溝跡（第478図）

位置 調査区中央部のB11g4～B11h3区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2223号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 N-52°-Eの方向にS字状に延び，6.59mが調査され，上幅34～48cm，下幅18～27cm，深さ9～12cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分かれる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

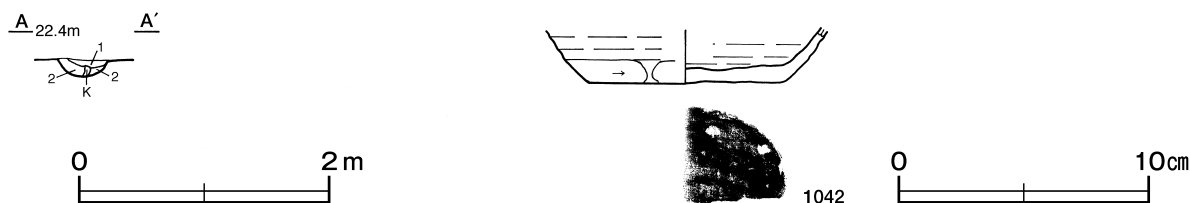
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片7点（坏2，甕類5）が出土している。1042は覆土から出土している。

所見 時期は，重複関係と出土土器から8世紀代と考えられる。



第478図 第127号溝跡・出土遺物実測図

第127号溝跡出土遺物観察表（第478図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1042	須恵器	坏	-	(2.2)	7.8	石英・雲母	黄灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土	5%

(4) 井戸跡

第56号井戸跡（第479図）

位置 調査区北西部のB10e7区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2234号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.08m，短径1.90mの楕円形である。確認面から円筒状に掘り下げている。深さ1.53mほど掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

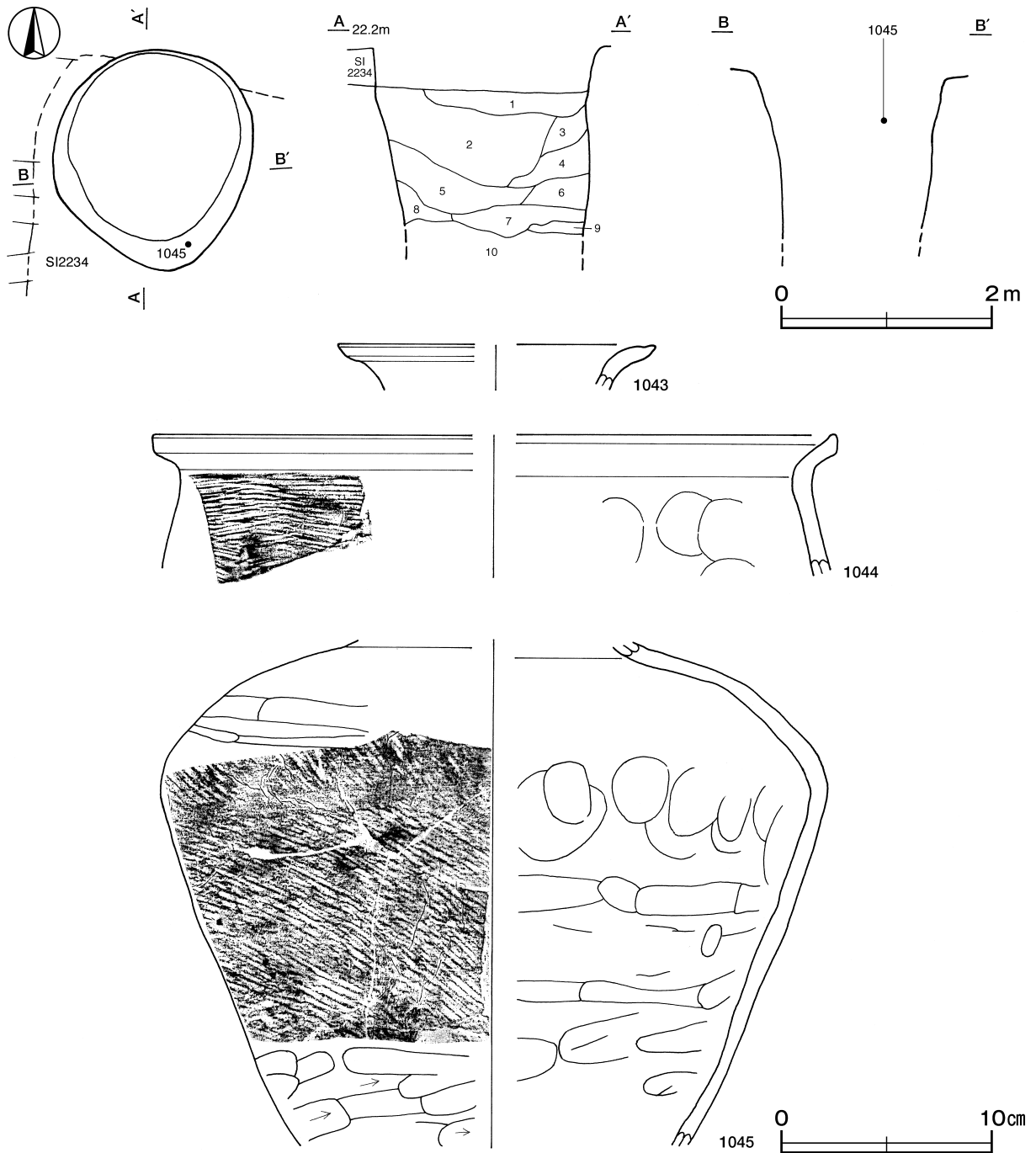
覆土 10層に分けられる。各層にロームブロックが含まれ，ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 9 灰褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片42点(坏7, 甕類35), 須恵器片34点(坏3, 高台付坏1, 甕類30), 土師質土器1点(内耳鍋), が出土している。1045は覆土上層, 1043・1044は覆土から出土しており, いずれも廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 素掘りの構造で, 廃絶時期は重複関係や出土土器から, 8世紀後半と考えられる。



第479図 第56号井戸跡・出土遺物実測図

第56号井戸跡出土遺物観察表 (第479図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1043	土師器	甕	[15.0]	(2.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部横ナデ 体部内面ナデ	覆土	5%
1044	須恵器	甕	[32.0]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面横位平行叩き 内面当て具痕 ナデ	覆土	30%
1045	須恵器	甕	-	(24.0)	-	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	肩部外面横ナデ 体部外面横位平行叩き 体部 下端ヘラ削り 内面横ナデ 当て具痕	覆土上層	30%

(5) 柵跡

第13号柵跡 (第480図)

位置 調査区中央部のB11h8区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

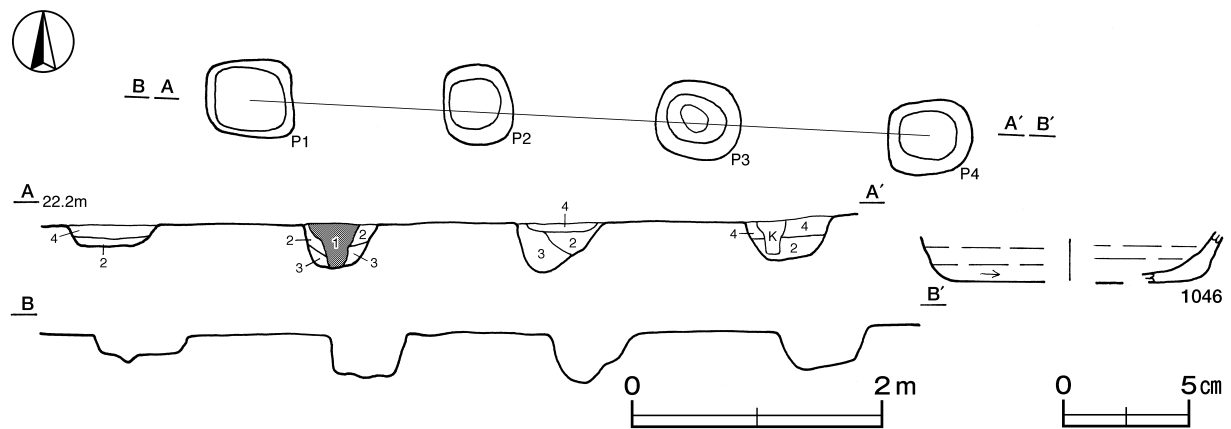
規模と形状 東西方向に柱穴4か所が並び, 主軸方向はN - 88° - Wである。柱間寸法は1.8m (6尺)を基調とし, 均等に配されている。各柱穴は垂直に掘り込まれ, 深さは21~36cmである。第1層は柱抜き取り痕で, やや締まった黒色土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片9点 (坏2, 甕類7), 須恵器片1点 (坏)が出土している。1046はP3の覆土から出土している。

所見 柱穴の規模や形状, 覆土が類似しており, 柵と考えられる。南には第382号掘立柱建物跡が位置し, 同時期に機能していたことが想定される。時期は, 出土土器から8世紀後半と考えられる。



第480図 第13号柵跡・出土遺物実測図

第13号柵跡出土遺物観察表 (第480図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1046	須恵器	坏	-	(2.0)	[9.9]	長石	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後丁寧なヘラ削り	P3覆土	15%

(6) 土坑

第2184号土坑 (第481図)

位置 調査区中央部のC11e7区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.62m, 短径0.51mの楕円形で, 長径方向はN - 0°である。深さは25cmで, 底面は緩やかに中央部へ傾斜し, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

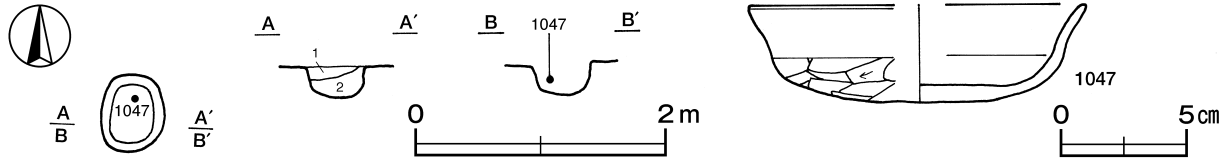
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 1 点 (坏) が出土している。1047は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第481図 第2184号土坑実測図

第2184号土坑遺物観察表 (第481図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1047	土師器	坏	[13.3]	3.8	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	55%

第2221号土坑 (第482図)

位置 調査区東部の C 14d6 区, 標高19.5mほどの南東への緩斜面に位置している。

重複関係 第404号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.55m, 短軸1.42mの方形で, 長軸方向は N - 64° - W である。深さは 6 cm で, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4 層に分けられる。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

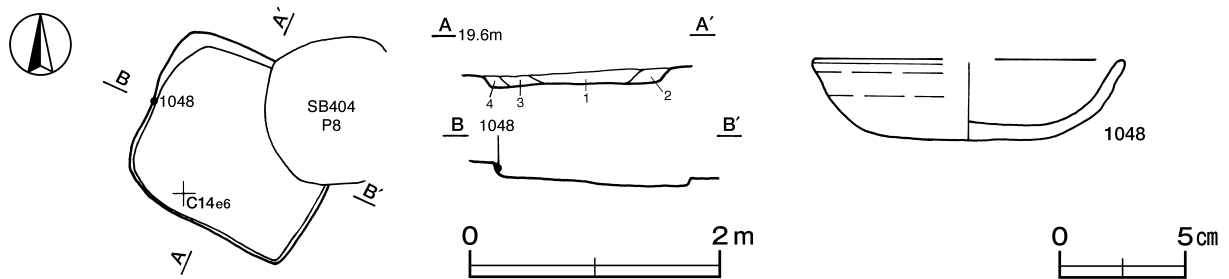
3 暗褐色 炭化材, ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子中量

4 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 3 点 (坏 1 , 甕 2), 須恵器片 3 点 (坏 1 , 甕 2) が出土している。1048は北西壁際の覆土上層から出土している。また, 細片のため図化し得なかったが, 北西壁際の底面から体部下端が丸みを帯びている須恵器の坏が出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から 8 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第482図 第2221号土坑・出土遺物実測図

第2221号土坑遺物観察表 (第482図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1048	土師器	坏	[12.4]	3.2	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 内面ヘラナデ	覆土上層	50%

第2237号土坑 (第483図)

位置 調査区東部の B 14 i 2 区, 標高21.5mほどの南東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長径1.32m, 短径1.20mの楕円形で, 長径方向はN - 38° - Wである。深さは40cmで, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

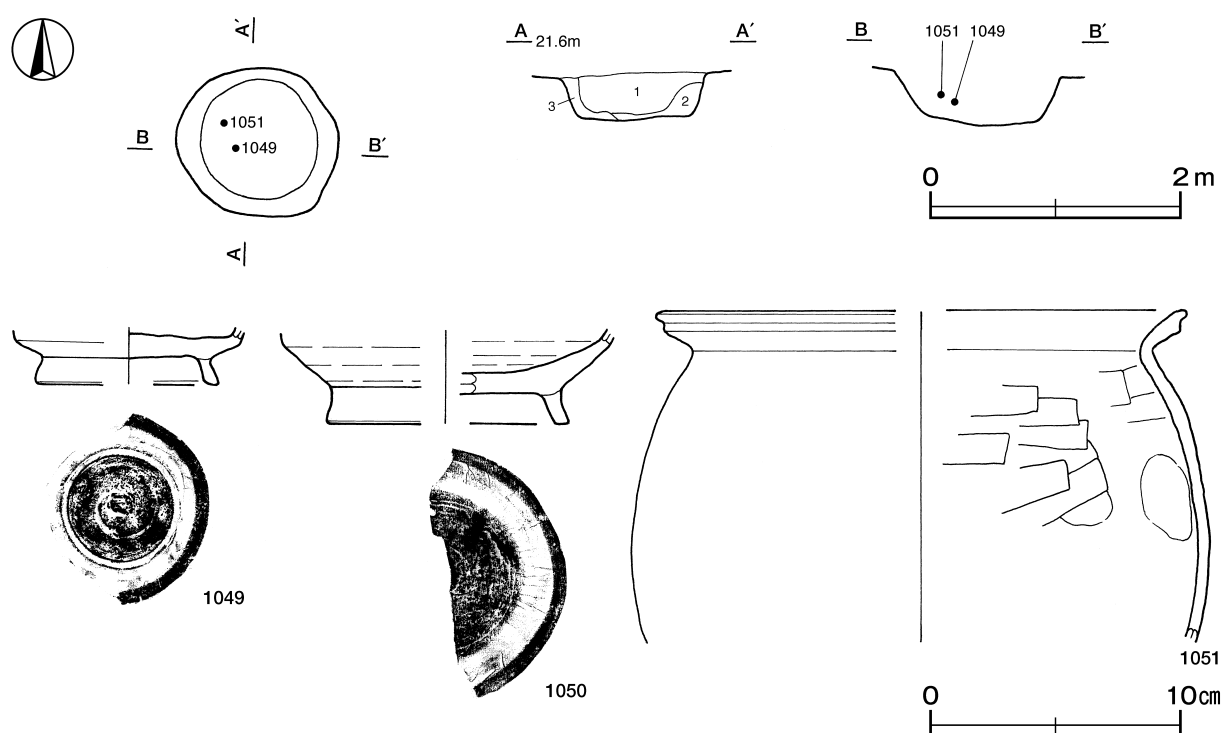
覆土 3層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片19点(甕類), 須恵器片17点(坏5, 高台付坏2, 蓋1, 甕類9)が出土している。1049は中央部の覆土下層, 1050は覆土上層, 1051は北西部の覆土上層からそれぞれ出土している。いずれも覆土第1層から出土していることから, 土と共に埋められたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉で, 性格は廃棄土坑と考えられる。また, 北東へ1mほど離れた位置に同様の形態を呈した第2238号土坑が確認されている。本跡と同様に遺物が廃棄されてることから, 同時期に機能していたと考えられる。



第483図 第2237号土坑・出土遺物実測図

第2237号土坑遺物観察表(第483図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1049	須恵器	高台付坏	-	(2.2)	[7.1]	長石	灰	普通	体部下端ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	50%
1050	須恵器	高台付坏	-	(3.8)	[9.6]	長石・雲母	灰	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	30%
1051	土師器	甕	[21.2]	[13.2]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ 体部内面ヘラナデ 当て具痕	覆土上層	90%

第2238号土坑(第484図)

位置 調査区東部のB14h2区, 標高21.5mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長径1.24m, 短径1.08mの楕円形で, 長径方向はN - 45° - Eである。深さ34cmで, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

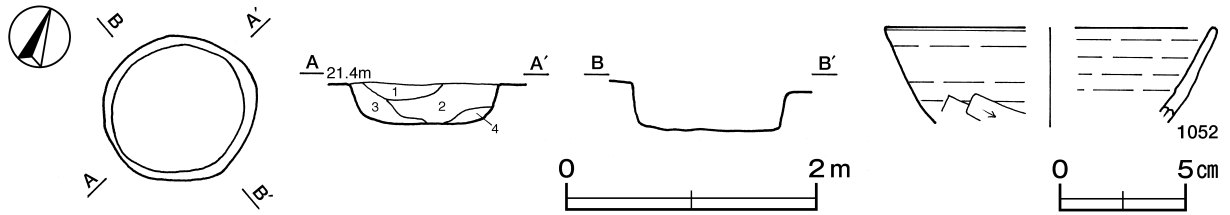
覆土 4層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 灰褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 明褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片18点(甕類), 須恵器片5点(坏3, 高台付坏1, 甕1), 灰釉陶器片1点(蓋)が出土している。1052は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉であり, 性格は廃棄土坑と考えられる。また, 南西へ1mほど離れた位置に同様の形態を呈した第2237号土坑が確認されている。本跡と同様に遺物が廃棄されてることから, 同時期に機能していたと考えられる。



第484図 第2238号土坑・出土遺物実測図

第2238号土坑遺物観察表(第484図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1052	須恵器	坏	[13.0]	(3.8)	-	長石	灰	普通	体部内外面口ロナデ 体部下端ヘラ削り	覆土下層	5%

第2241号土坑(第485図)

位置 調査区東南部のD14a2区, 標高19mほどの南東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長径1.18m, 短径0.77mの楕円形で, 長径方向はN-35°-Wである。深さは30cmで, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

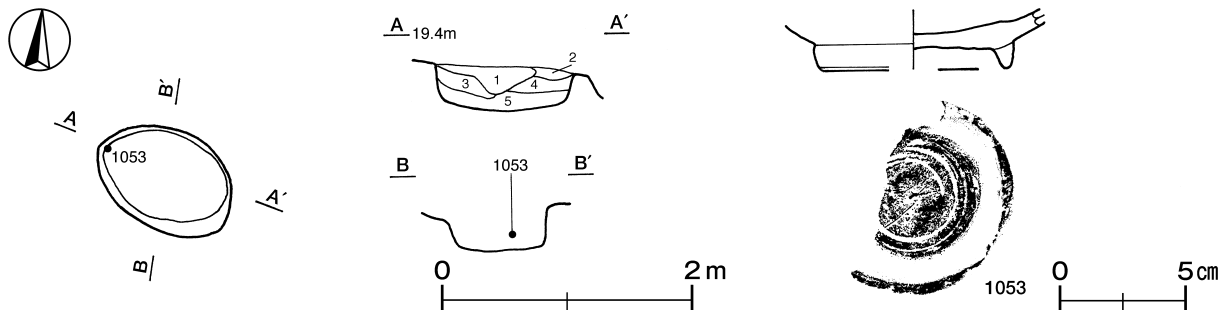
覆土 5層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 5 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類), 須恵器片1点(高台付坏)が出土している。1053は西壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉であり, 性格は不明である。



第485図 第2241号土坑・出土遺物実測図

第2241号土坑遺物観察表(第485図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1053	須恵器	高台付坏	-	(2.4)	[7.4]	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け 底部内面指ナデ	覆土中層	20%

表4 奈良時代竪穴住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2008	C10i2	N - 3 ° - W	長方形	4.36×3.85	24~34	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉	
2017	B9g0	N - 3 ° - W	方形	4.97×4.85	10~12	平坦	-	3	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	8世紀前葉	
2031	D9e9	N - 13 ° - W	[長方形]	4.22×(3.60)	20~34	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石器, 鉄器	8世紀前葉	
2036	D10d1	N - 12 ° - W	方形	3.51×3.49	27~42	平坦	ほぼ全周	4	-	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石器, 鉄器	8世紀前葉	
2047	C11c8	N - 5 ° - E	[方形]	4.40×(4.06)	7~16	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片	8世紀前半	
2063	D13c6	N - 8 ° - E	[方形]	3.84×3.82	9~13	平坦	-	3	1	-	-	-	不明	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉以前	
2067	C11e9	N - 13 ° - W	方形	4.10×4.10	6~8	平坦	-	-	1	2	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	8世紀前葉	
2077	C11b8	N - 7 ° - W	方形	6.32×6.15	20~33	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄器, 鉄製品	8世紀中葉	
2104	D14b3	N - 2 ° - W	長方形	4.66×3.94	35~40	平坦	-	2	1	2	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉以降	
2105	C13e4	N - 2 ° - E	方形	5.80×5.68	10~34	平坦	ほぼ全周	4	1	2	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄器	8世紀後葉	
2109	C13c5	N - 7 ° - E	長方形	6.00×5.40	4~28	平坦	ほぼ全周	4	1	2	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄器, 鉄製品	8世紀中葉	
2113	C14a2	N - 9 ° - W	[長方形]	3.37]×2.75	0~7	平坦	-	-	-	1	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	8世紀代	
2116	C13c1	N - 7 ° - E	方形	7.07×6.45	9~40	平坦	一部	4	1	15	竈1	-	自然・人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品	8世紀中葉	
2123	B12f6	N - 4 ° - E	方形	3.31×3.24	-	平坦	全周	-	-	-	-	-	不明	土師器片, 須惠器片	8世紀代	
2125	C12a0	N - 3 ° - W	方形	4.70×4.54	20~39	平坦	ほぼ全周	4	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄器, 鉄製品	8世紀後葉	
2132	B13d3	N - 13 ° - E	長方形	3.32×2.78	22~24	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	8世紀前半	
2134	A13h4	-	-	5.75×(1.50)	18~20	平坦	[ほぼ全周]	1	1	-	-	-	人為	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉	
2137	B14c8	N - 22 ° - E	長方形	3.46×3.25	30	平坦	全周	3	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉	
2138	B14c4	N - 20 ° - E	[方形]	3.62×(2.48)	32~58	平坦	[全周]	2	-	-	竈1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	8世紀中葉	
2156	C11a0	N - 9 ° - W	方形	5.65×5.27	15~25	平坦	[全周]	4	-	1	竈1	-	人為・自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄器	8世紀中葉	
2160	C12c1	N - 2 ° - W	[方形]	5.10×[4.90]	4~22	傾斜	-	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉	
2166	D12d2	N - 4 ° - W	方形	5.27×5.06	6~25	平坦	一部	1	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 石器, 鉄製品	8世紀後葉	
2167	B12h1	N - 1 ° - E	[長方形]	3.55×[3.03]	22~25	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品	8世紀後葉	
2179	C10h7	N - 9 ° - W	方形	5.04×5.01	10~15	平坦	一部	4	-	5	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	8世紀前葉以前	
2180	A9i8	N - 55 ° - E	方形	3.60×3.57	23~37	平坦	ほぼ全周	3	2	1	竈2	-	自然	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉	
2181	C10h0	N - 12 ° - W	長方形	7.21×6.07	7~20	平坦	ほぼ全周	4	2	2	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 土製品, 石器, 鉄器	8世紀後葉	
2190	E10b5	N - 15 ° - W	方形	4.57×4.41	38~75	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	自然・人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器, 鉄製品	8世紀後葉	
2208	D10i3	N - 11 ° - W	方形	5.11×4.78	25~40	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 土製品, 石器, 鉄器	8世紀後葉	
2209	D11h4	N - 14 ° - W	[長方形]	4.55×3.75	25	平坦	一部	2	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉	
2210	D10j5	N - 17 ° - W	方形	4.83×4.42	20~50	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	人為・自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 石器, 鉄器, 銅製品	8世紀中葉	
2233	B10h6	N - 2 ° - E	方形	3.82×3.45	14~41	平坦	[全周]	4	2	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	8世紀前葉	
2234	B10e7	N - 6 ° - E	[方形]	5.50]×5.25	17~54	平坦	[ほぼ全周]	3	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄器, 鉄製品	8世紀中葉	
2246	D10e4	N - 13 ° - W	方形	6.20×6.17	45~52	不明	一部	1	-	13	-	-	不明		8世紀代	
2250	B9d7	N - 1 ° - E	方形	2.75×2.52	27~41	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石器	8世紀中葉	
2253	A10i1	N - 10 ° - E	方形	3.40×3.20	32~48	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然・人為	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉	
2254	A10g1	N - 8 ° - E	方形	3.56×3.34	37~47	平坦	一部	-	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	8世紀後葉	
2258	A10g4	N - 20 ° - E	方形	4.40×4.35	50~68	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉	
2261	A10g7	N - 6 ° - E	方形	4.05×3.90	65~75	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然・人為	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉以前	
2263	A10g9	N - 6 ° - E	方形	3.98×3.70	42~60	平坦	全周	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉	
2272	B11a8	N - 1 ° - W	[方形]	3.95]×3.82	42~44	平坦	(半周)	1	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 銅製品, 鉄滓	8世紀中葉	
2273	A11i0	N - 5 ° - E	方形	3.82×3.78	18~25	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 石器	8世紀後葉	
2274	B11b3	N - 1 ° - E	[方形]	4.64]×4.46	36~55	平坦	一部	4	1	4	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉	
2275	B11b6	N - 1 ° - E	[方形]	4.75×4.61]	44~56	平坦	-	4	1	2	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 石器, 鉄製品	8世紀中葉	
2276	B11c6	N - 90 ° - E	[長方形]	3.98×2.98]	14	凸凹	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄器, 鉄滓	8世紀後葉	
2284	A11d6	N - 10 ° - E	長方形	2.95×2.33	5~9	平坦	ほぼ全周	-	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 石器	8世紀後半	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2285	A11b7	N - 2 ° - E	方形	4.03×3.81	15 ~ 19	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄器	8世紀後葉	
2289	B11c8	N - 4 ° - W	[方形]	[3.28×3.00]	26 ~ 30	不明	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄滓	8世紀後半	
2290	B11e8	N - 27 ° - W	長方形	3.53×2.95	31 ~ 40	平坦	ほぼ全周	-	1	1	竈1	-	自然・人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品	8世紀前葉	
2295	A12g1	N - 16 ° - E	長方形	2.94×2.35	2 ~ 9	平坦	全周	2	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 土製品	8世紀後葉	
2297	A12g2	N - 11 ° - E	長方形	3.30×2.98	11 ~ 14	平坦	-	-	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	8世紀後半	
2298	B12a3	N - 7 ° - E	長方形	4.63×4.00	4 ~ 7	凸凹	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 鉄製品, 鉄滓	8世紀後葉	
2305	B12b8	N - 12 ° - E	長方形	3.64×2.77	8 ~ 15	平坦	全周	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	8世紀後半	
2306	B11e9	N - 3 ° - W	方形	3.50×3.38	3 ~ 4	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄器	8世紀後葉	

表5 奈良時代掘立柱建物跡一覽表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (m ²)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱 穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
301	C9h9	N - 0 °	3×(1)	7.2×(1.0)	-	2.4	-	[側柱]	(4)	隅丸方形	30 ~ 55	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉
305	D9f9	N - 5 ° - W	2×2	3.6×3.0	10.8	1.8	1.5	総柱	9	円形 橢円形	36 ~ 55	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉
307	E10b2	N - 15 ° - W	3×2	6.3×3.0	18.9	2.1	1.5	側柱	10	円形 橢円形	24 ~ 72	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	8世紀代
313	B12e1	N - 2 ° - E	2×2	4.5×4.2	18.9	2.1~2.4	1.8~2.4	側柱	8	橢円形	43 ~ 74	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
331	D11j3	N - 82 ° - E	[1×2]	-	-	-	1.8	-	2	橢円形	44 ~ 50	土師器片	8世紀後葉
332	C13i4	N - 8 ° - E	2×(1)	- ×4.2	-	-	2.1	-	3	隅丸方形	45 ~ 73	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
334	B9i4	N - 76 ° - E	3×2	6.3×4.2	26.46	2.1	2.1	側柱	8	隅丸方形	12 ~ 39	土師器片	8世紀代
335	B11h6	N - 90 ° - E	2×2	4.8×4.8	23.04	2.4	2.4	総柱	9	円形 橢円形	16 ~ 70	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	8世紀代
336	D12a1	N - 2 ° - W	3×2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.4	側柱	10	隅丸方形	20 ~ 80	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
338	D10b7	N - 11 ° - W	3×2	4.8×4.2	20.16	1.5~1.8	1.8~2.4	側柱	10	橢円形	38 ~ 70	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
339	D12e4	N - 82 ° - E	[3×2]	5.4×(1.8)	-	1.8	1.8	[側柱]	5	橢円形	16 ~ 48	須惠器片	8世紀後葉
340	D10d5	N - 7 ° - W	3×3	5.4×5.4	29.16	1.8	1.8	側柱	12	隅丸方形	38 ~ 81	土師器片, 須惠器片, 土製品	8世紀前葉
351	D11d7	N - 2 ° - E	3×2	5.4×4.5	24.3	1.8	1.8~2.7	側柱	10	橢円形	20 ~ 50	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
352	D11e8	N - 9 ° - E	3×2	(4.9)×3.6	-	2.1	1.8	[側柱]	6	円形 橢円形	25 ~ 50	土師器片	8世紀中葉
355	D11a3	N - 5 ° - W	3×3	4.5×4.5	20.25	1.5	1.5	側柱	12	隅丸方形 隅丸長方形	45 ~ 65	土師器片, 須惠器片, 不明銅製品	8世紀後葉
357	D11f9	N - 84 ° - E	3×2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.4	側柱	10	隅丸方形 隅丸長方形	12 ~ 43	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
358	D11b5	N - 85 ° - E	2×2	6.0×4.8	28.8	3.0	2.4	側柱	8	橢円形	3 ~ 62	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
363	D11g5	N - 85 ° - E	2×2	3.0×3.0	9.0	1.5	1.5	側柱	7	円形 橢円形	16 ~ 58	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
364	B12f3	N - 3 ° - W	3×2	4.5×3.6	16.2	1.5	1.8	側柱	10	円形 橢円形	30 ~ 55	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
368	C13i6	N - 1 ° - E	3×2	6.3×4.2	26.46	2.1	2.1	側柱	8	隅丸方形 隅丸長方形	20 ~ 42	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉
370	D9c9	N - 12 ° - W	3×2 3×3	6.9×5.4	37.26	2.1~2.4	1.8~2.7	側柱	11	隅丸方形 隅丸長方形	18 ~ 100	土師器片, 須惠器片, 土製品	8世紀中葉
372	D10f1	N - 10 ° - W	3×2	6.6×4.2	27.72	2.1~2.4	2.1	側柱	10	隅丸方形 隅丸長方形	40 ~ 70	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
373	C9h0	N - 1 ° - W	(2)×2	(3.1)×3.6	-	1.8	1.8	[側柱]	5	橢円形	13 ~ 31	土師器片	8世紀前葉
374	D10a5	N - 17 ° - W	3×2	6.0×4.2	25.2	1.8~2.1	2.1	側柱	10	円形 橢円形	35 ~ 75	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
375	D10f1	N - 10 ° - W	[3×2]	[5.7×4.2]	[23.94]	1.8~2.1	2.1	[側柱]	10	隅丸方形 隅丸長方形	34 ~ 70	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉
377	D10b1	N - 72 ° - E	3×2	7.2×4.5	32.4	2.4	2.1~2.4	側柱	10	隅丸方形 隅丸長方形	42 ~ 84	土師器片, 須惠器片, 土製品	8世紀後葉
379	D10c6	N - 7 ° - W	3×2	6.9×4.5	31.05	2.1~2.4	2.1~2.4	側柱	10	橢円形	30 ~ 50	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉
382	B11i9	N - 1 ° - E	2×2	3.9×3.9	15.21	1.8~2.1	1.8~2.1	総柱	9	橢円形	20 ~ 56	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉
383	D10f6	N - 7 ° - W	3×2	4.5×3.6	16.2	1.5	1.8	側柱	10	隅丸方形 隅丸長方形	20 ~ 80	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片	8世紀中葉
384	D10f6	N - 12 ° - W	3×2	4.5×3.6	16.2	1.5	1.5~2.1	側柱	10	隅丸方形 隅丸長方形	15 ~ 62	土師器片, 須惠器片	8世紀後葉
390	C12i5	N - 91 ° - W	3×2	6.3×4.2	26.46	1.8~2.4	2.1	-	11	橢円形	15 ~ 30	土師器片, 須惠器片	8世紀中葉
395	C13j7	N - 18 ° - E	2×2	4.2×4.2	17.64	2.1	2.1	側柱	7	隅丸方形	10 ~ 40	土師器片, 須惠器片	8世紀前葉

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規 模 桁×梁 (m)	面積 (m ²)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱 穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
398	C12i6	N - 89° - W	2×2	4.8×4.2	20.16	1.2~2.4	2.1	側柱	8	隅丸方形	10~55	土師器片, 須恵器片	8世紀後葉
402	C13j0	N - 7° - E	2×2	3.0×3.0	9.0	1.5	1.5	側柱	8	隅丸方形	24~42	土師器片	8世紀後葉
403	C14i1	N - 90° - W	2×2	6.0×4.2	22.23	1.8~2.1	2.1	片庇	11	隅丸方形	10~32	土師器片, 須恵器片	8世紀後葉
407	C14h7	N - 74° - W	4×1	9.6×4.2	40.32	2.4	4.2	側柱	10	楕円形	30~63	土師器片, 須恵器片	8世紀前半
415	B14h4	N - 73° - W	[3×2]	6.3×4.2	[26.46]	2.1	2.1	側柱	7	楕円形	36~65	土師器片, 須恵器片	8世紀後葉
418	C13f2	N - 86° - W	2×2	4.8×3.6	17.28	2.4	1.8	側柱	8	楕円形	18~42	土師器片, 須恵器片	8世紀後葉
421	B13j5	N - 0°	3×2	5.4×3.6	19.44	1.2~2.1	1.8	側柱	10	楕円形	18~42	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	8世紀代

表6 奈良時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規 模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
123	B9f9~ B10a6	N - 2° - W N - 90° - E	L字状	43.21	40~147	21~100	20~40	逆台形	自然	外傾	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 鉄製品	8世紀前葉~中葉
127	B11g4~ B11h3	N - 52° - E	S字状	(6.59)	34~48	18~27	9~12	U字状	自然	緩斜	土師器片	8世紀代

表7 奈良時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期・性格)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
2184	C11e7	N - 0°	楕円形	0.62×0.51	25	外傾	傾斜	人為	土師器片	8世紀前葉
2221	C14d6	N - 64° - W	方形	1.55×1.42	6	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	8世紀前葉
2237	B14i2	N - 38° - W	円形	1.32×1.20	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	8世紀後葉 廃棄土坑
2238	B14h2	N - 45° - E	楕円形	1.24×1.08	34	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片	8世紀後葉 廃棄土坑
2241	D14a2	N - 35° - E	楕円形	1.18×0.77	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	8世紀後葉

4 平安時代の遺構と遺物

平安時代の住居跡77軒, 掘立柱建物跡42棟, 溝2条, 井戸跡1基, 土坑6基を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

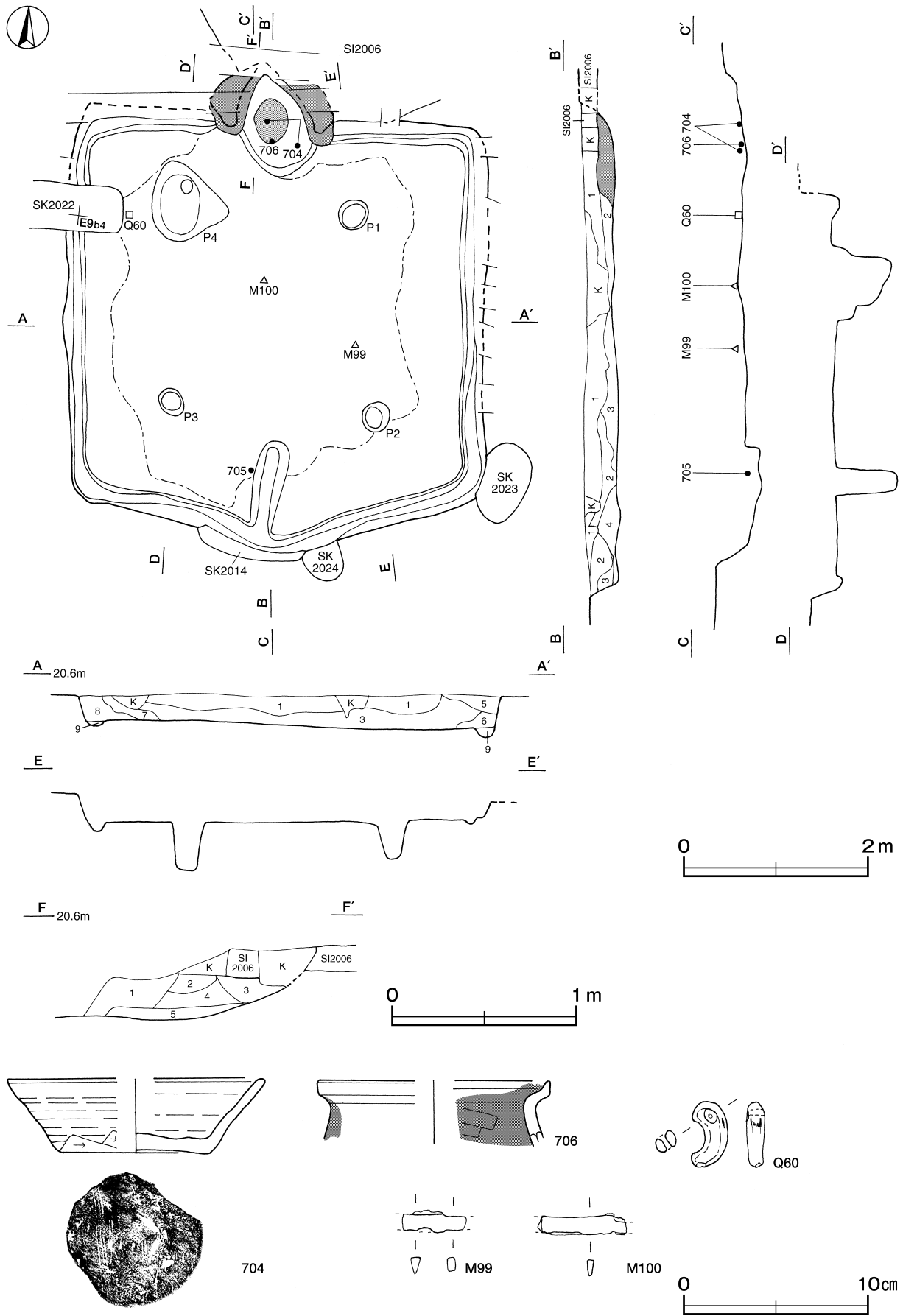
第2005号住居跡(第486・487図)

位置 調査区南西部のE9b4区, 標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

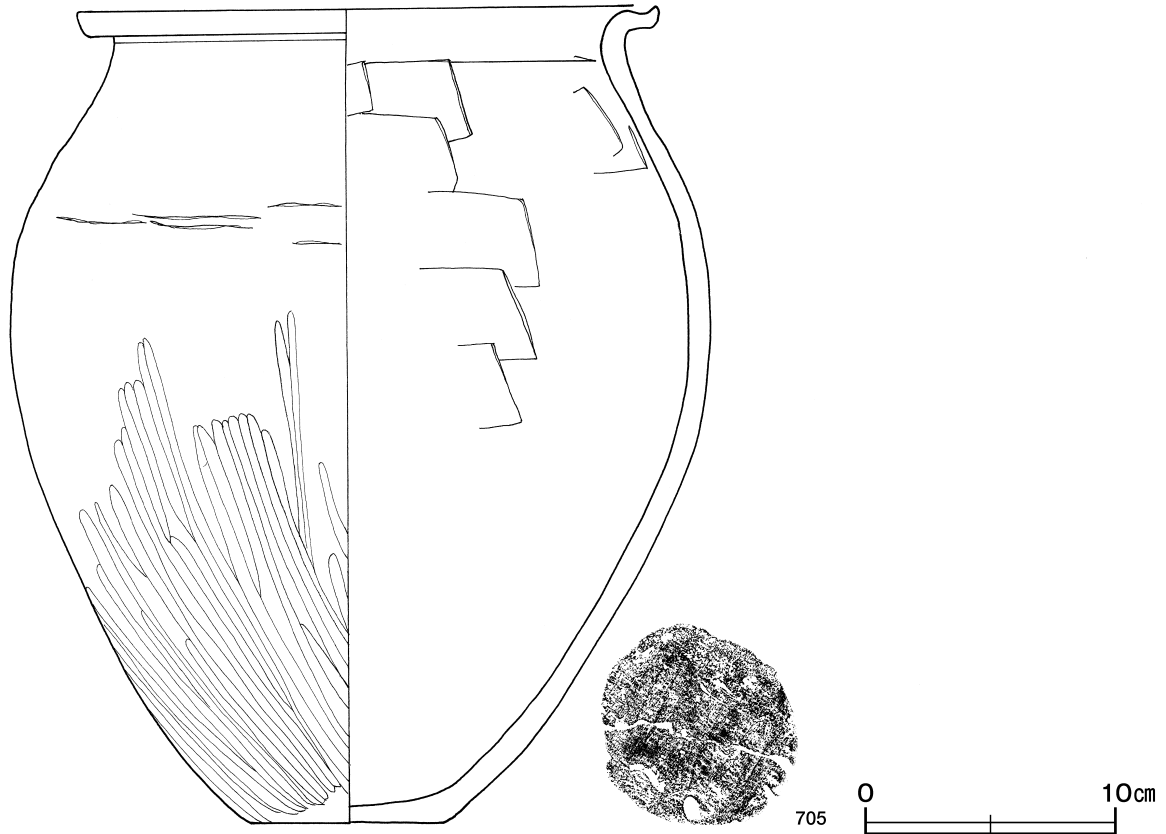
重複関係 第2006号住居, 第2014・2022~2024号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.54m, 短軸4.35mの方形で, 南壁部がやや張り出している。主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は25~35cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅12~22cm, 深さ8~10cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第486图 第2005号住居跡・出土遺物実測図



第487図 第2005号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部は攪乱を受けているが焚口部から煙道部まで104cmほどが確認され、袖部幅は128cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に68cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 | 4 灰褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 2 褐灰色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量, ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P4は支柱穴で、深さは40～66cmである。南壁際の中央部に幅20cmほどで、深さも20cmほどの溝があり、位置的には出入口施設に伴う溝と考えられる。

覆土 9層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片353点(坏62, 甕類291), 須恵器片35点(坏27, 甕類7, 長頸壺1), 石製品1点(勾玉), 鉄器・鉄製品2点(刀子, 不明)のほか, 混入した石鏃2点, 陶器片4点も出土している。704・706は竈の覆土下層, 705は南壁際の覆土下層から出土し, 時期判断の指標となる遺物である。また, M99・M100は中央部の床面から出土しており, 廃絶後間もなく遺棄されたものと考えられる。Q60は西部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2005号住居跡出土遺物観察表 (第486・487図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
704	須恵器	坏	[13.6]	4.0	7.8	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	竈下層	30%
705	土師器	甕	23.0	32.4	7.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	95% PL184
706	土師器	甕	[12.5]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	竈下層	5% 体部内外面煤付着

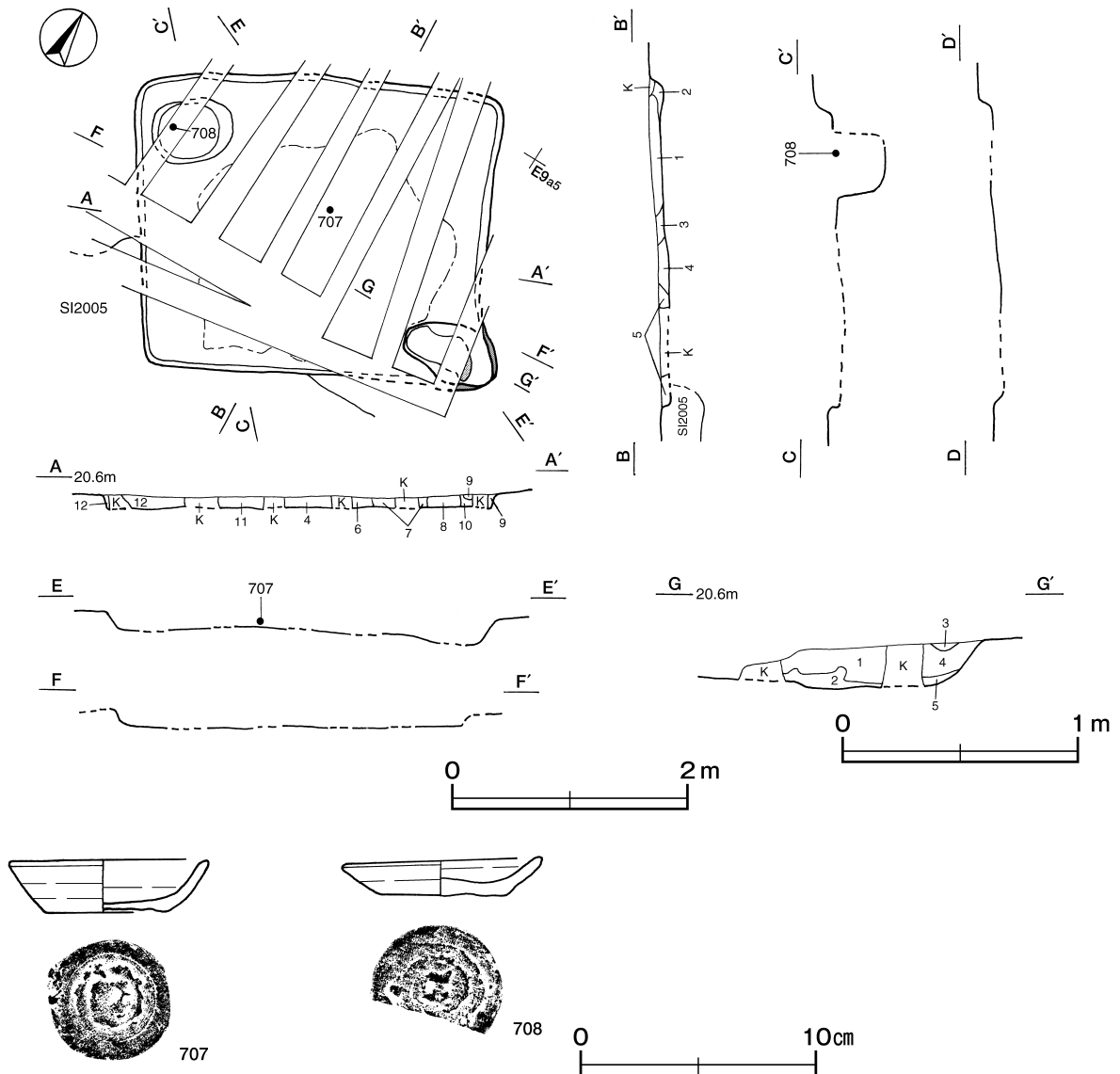
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q60	勾玉	3.5	2	1.0	8.1	滑石	孔径3mm 全面丁寧な研磨 コの字状	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M99	刀子	(3.4)	1.1	0.4	(3.0)	鉄	切先・刃部・茎一部欠損 両区	床面	
M100	刀子	(4.8)	1.1	0.4	(5.2)	鉄	切先・刃部・茎一部欠損 両区	床面	

第2006号住居跡 (第488図)

位置 調査区南西部のE9a4区, 標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2005号住居跡を掘り込んでいる。



第488図 第2006号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 全体的に耕作による攪乱を受けているが、長軸3.12m、短軸2.48mが確認された。長方形と推定され、主軸方向はN - 61° - Eである。壁高は12~14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 南東コーナー部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで84cmで、袖部は確認されていない。火床部は床面を8cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	4	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
2	黒	褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量			
3	灰	褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量

ピット 深さ42cmで、配置から貯蔵穴の可能性も想定されるが明確でない。

覆土 12層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	
2	褐	色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	8	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	
4	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量
5	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量	11	褐	色	ロームブロック少量
6	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	12	褐	色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片57点（坏16、小皿4、甕類37）が出土している。707は中央部の覆土下層、708はピットの覆土上層から出土し、いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

第2006号住居跡出土遺物観察表（第488図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
707	土師器	小皿	8.4	2.1	5.3	長石・石英	暗灰黄	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土下層	100% PL179
708	土師器	小皿	8.2	1.7	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	P覆土上層	60% PL179

第2014号住居跡（第489図）

位置 調査区南西部のE 9 c5区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2025・2193号住居跡を掘り込み、第2032号土坑に掘り込まれている。

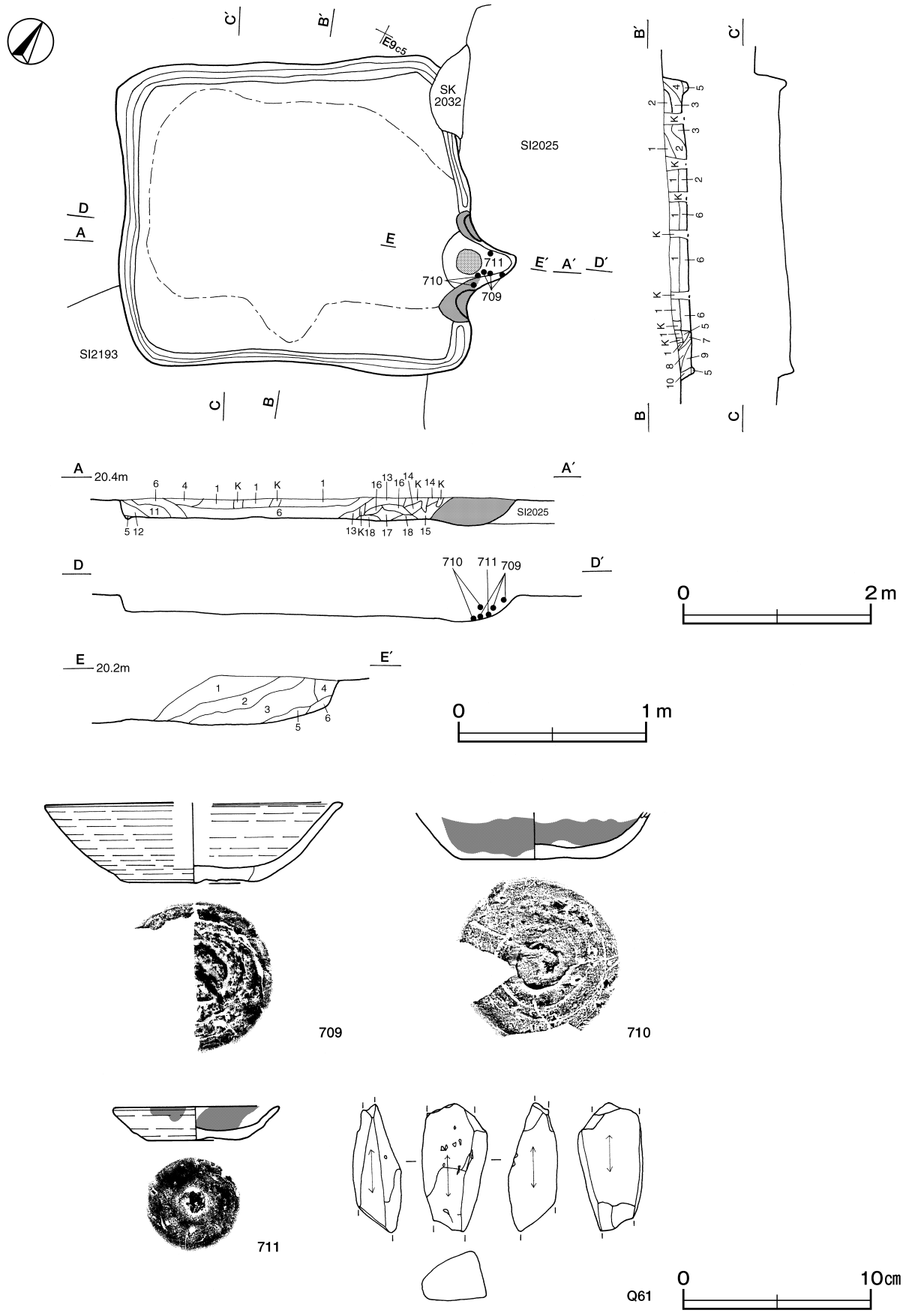
規模と形状 長軸3.66m、短軸3.16mの長方形で、主軸方向はN - 63° - Eである。壁高は15~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10~18cm、深さ4~6cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 東壁中央部の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで78cm、袖部は大部分が壊されているが、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を4cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒	褐色	色	ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量	4	黒	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐色	色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ロームブロック微量	5	黒	色	炭化物中量、砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	
3	暗	赤褐色	色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量	6	黒	褐色	色	ロームブロック、焼土粒子微量



第489图 第2014号住居跡・出土遺物実測図

覆土 18層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子微量	13	暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	14	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
7	黒褐色	炭化粒子少量, 焼土粒子微量	16	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子微量
8	暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17	赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子微量
9	暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片219点(坏69, 高台付椀2, 小皿1, 甕類147), 須恵器片9点(坏5, 蓋1, 高盤1, 甕2), 石器1点(砥石)のほか, 混入した縄文土器片1点, 陶器片1点も出土している。709~711は竈内から出土しており, いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。Q61は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から11世紀後半と考えられる。

第2014号住居跡出土遺物観察表(第489図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
709	土師器	坏	[15.6]	4.3	7.7	長石・石英	橙	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	竈覆土上層-火床	65%
710	土師器	坏	-	(2.5)	8.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	竈覆土中層-火床	40% 体部内外面煤付着
711	土師器	小皿	8.6	1.8	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	竈火床	80% 煤付着 PL179

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q61	砥石	(6.7)	2.6	2.6	(54.9)	凝灰岩	砥面は4面	覆土下層	

第2033号住居跡(第490・491図)

位置 調査区南西部のD9g0区, 標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第304号掘立柱建物, 第2758・2759・2761号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.13m, 短軸3.33mの長方形で, 主軸方向はN-27°-Wである。壁高は10~15cmで, 外傾して立ち上がっている。

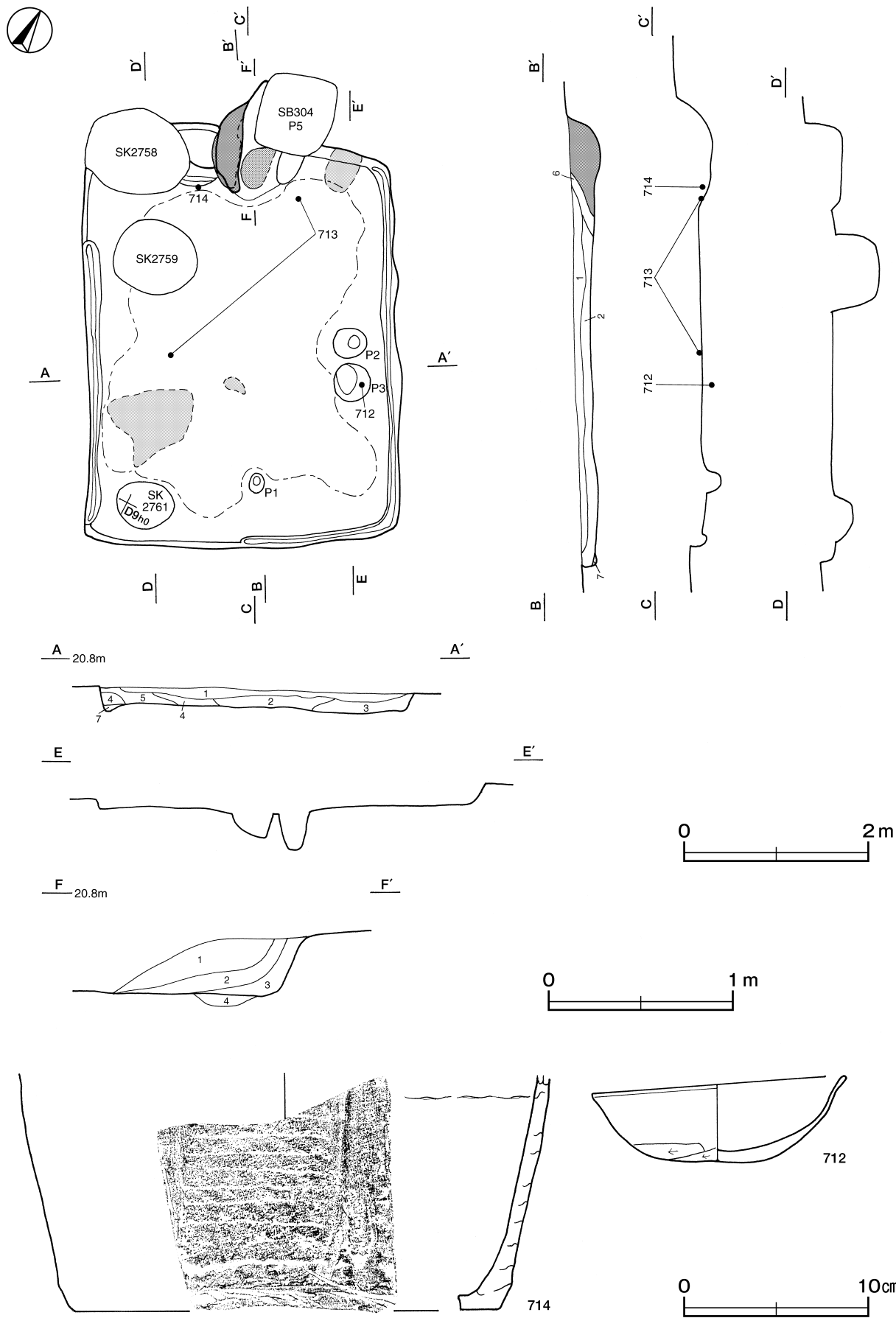
床 ほぼ平坦であり, 中央部がよく踏み固められている。北西コーナー部を除いて, 幅9~15cm, 深さ3~5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また, 北東部壁際および南西部に, 壁際から落ち込むような状態で焼土, 炭化材が堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。第304号掘立柱建物によって掘り込まれており, 煙道部東側および右袖部は遺存しない。確認された部分の規模は, 焚口部から煙道部まで130cmである。火床部は床面と同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ55cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

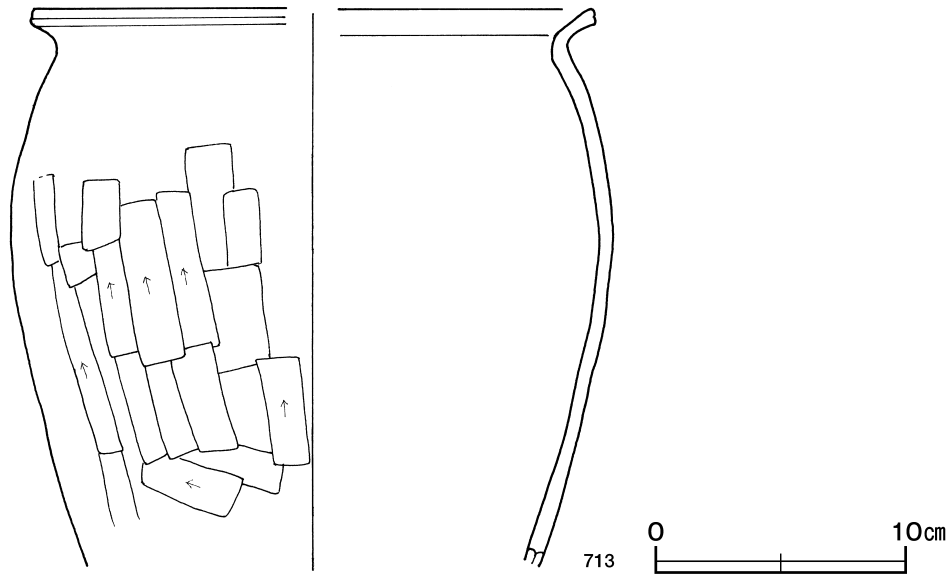
竈土層解説

1	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化ブロック少量	3	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量	4	暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子少量

ピット 3か所。P1は深さは16cmで, 竈と対峙する南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3の性格は不明である。



第490图 第2033号住居跡・出土遺物実測図



第491図 第2033号住居跡出土遺物実測図

覆土 7層に分けられる。覆土中に焼土ブロック・炭化物が含まれ、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 5 明赤褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量，炭化物少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化物少量 | | |

遺物出土状況 土師器片170点（坏9，甕類160，置竈カ1），須恵器片34点（坏10，鉢2，甕類22）が散在した状態で出土している。出土土器の多くは細片であり，出土層位は床面に堆積した焼土，炭化材よりも上層であることから，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。712はP3の覆土上層から出土しており，柱抜き取り後に流れ込んだものと考えられる。713は中央部の覆土下層から出土した破片を接合したものであり，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，714は竈前部の床面から出土している。

所見 北壁際および中央部の床面に炭化材が認められ，焼土が堆積していることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から10世紀前半以前と考えられる。

第2033号住居跡出土遺物観察表（第490・491図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
712	土師器	坏	13.4	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端一方向の手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向のヘラ削り	P3覆土上層	70% PL161
713	土師器	甕	[22.2]	[22.1]	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	20%
714	土師器	置カマドカ	-	12.8	[23.0]	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ 輪積痕	床面	20% PL179

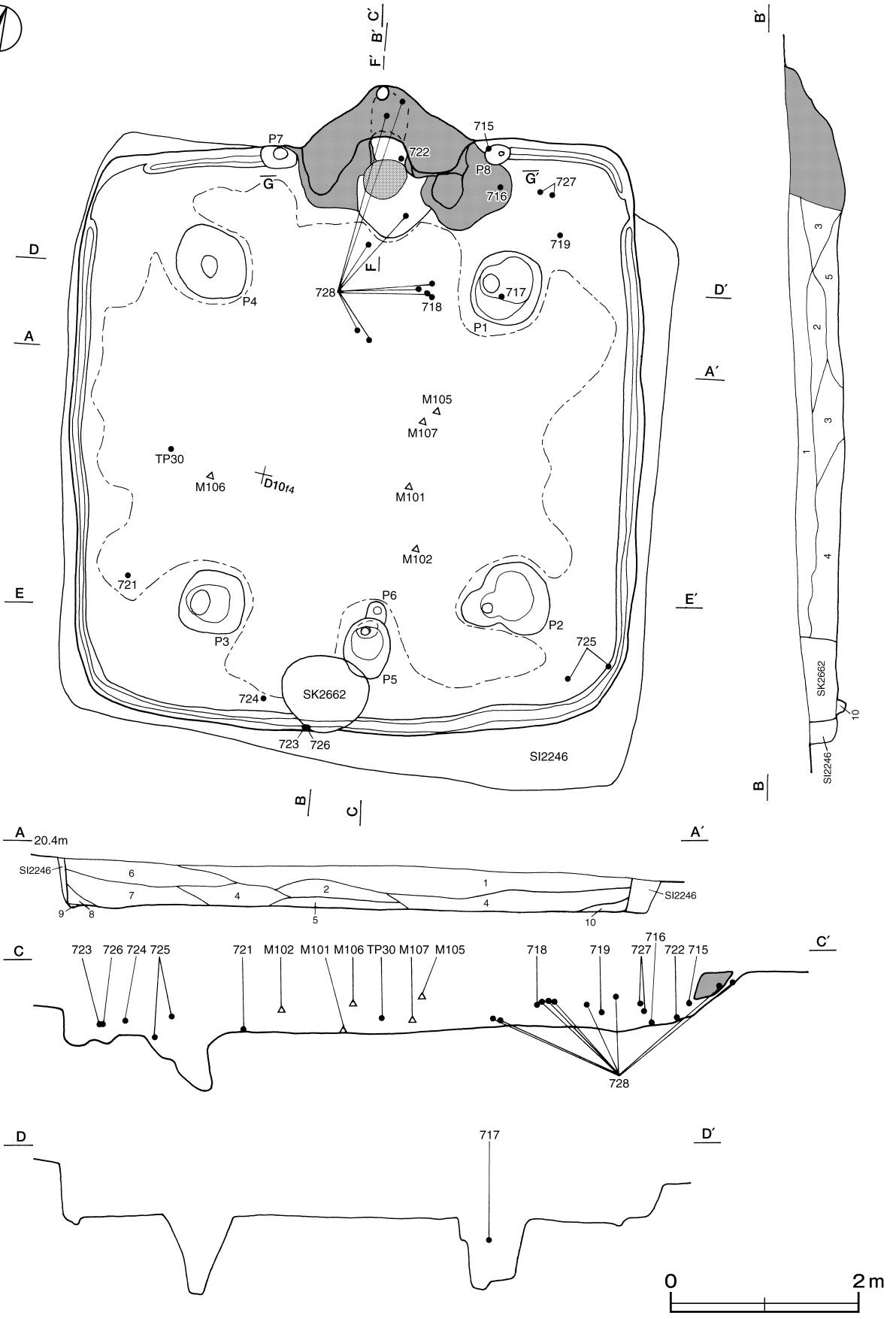
第2043号住居跡（第492～495図）

位置 調査区南西部のD10e4区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

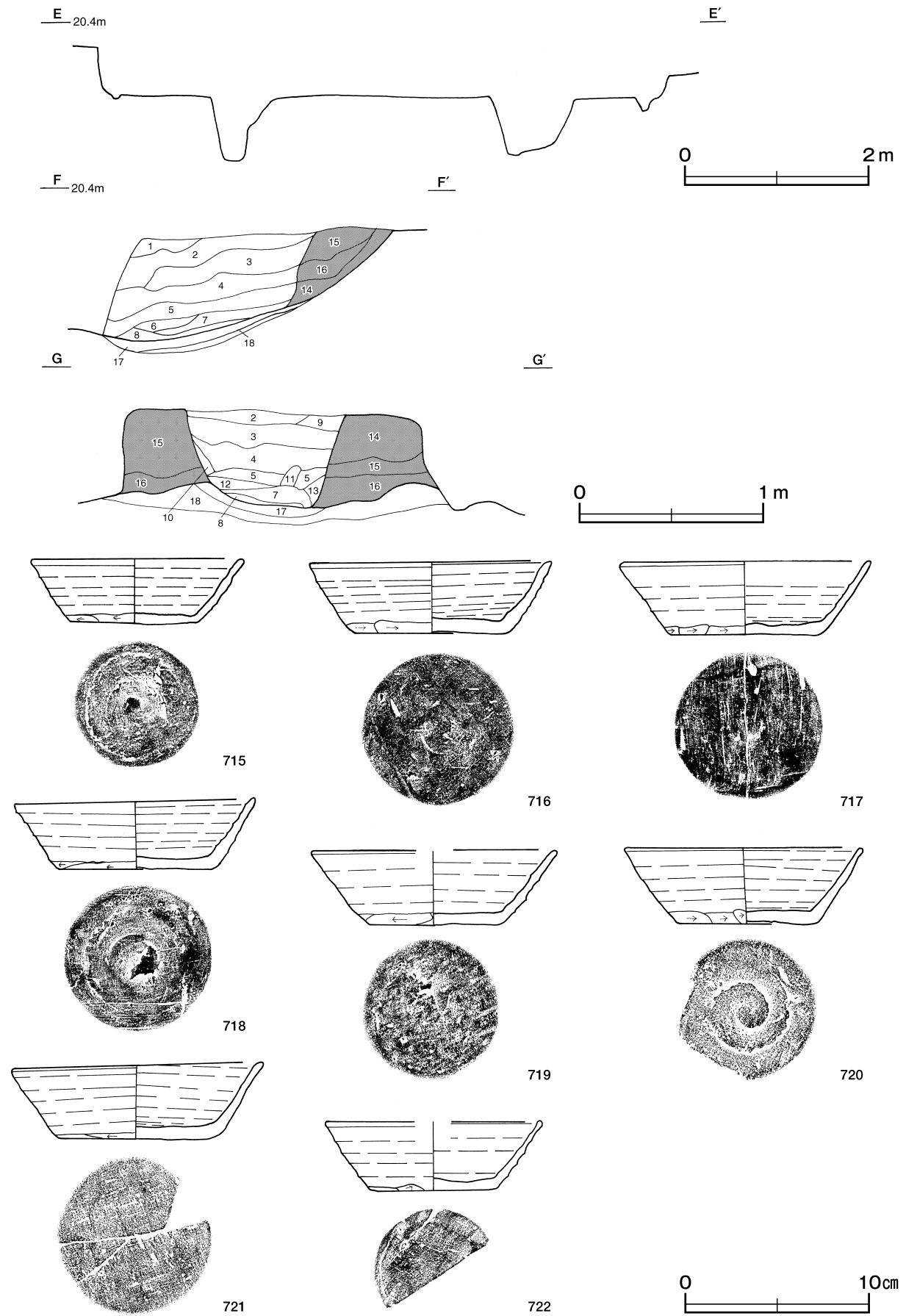
重複関係 第2246号住居跡を掘り込み，第2662号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.27m，短軸6.10mの方形で，主軸方向はN-10°-Wである。壁高は20～55cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

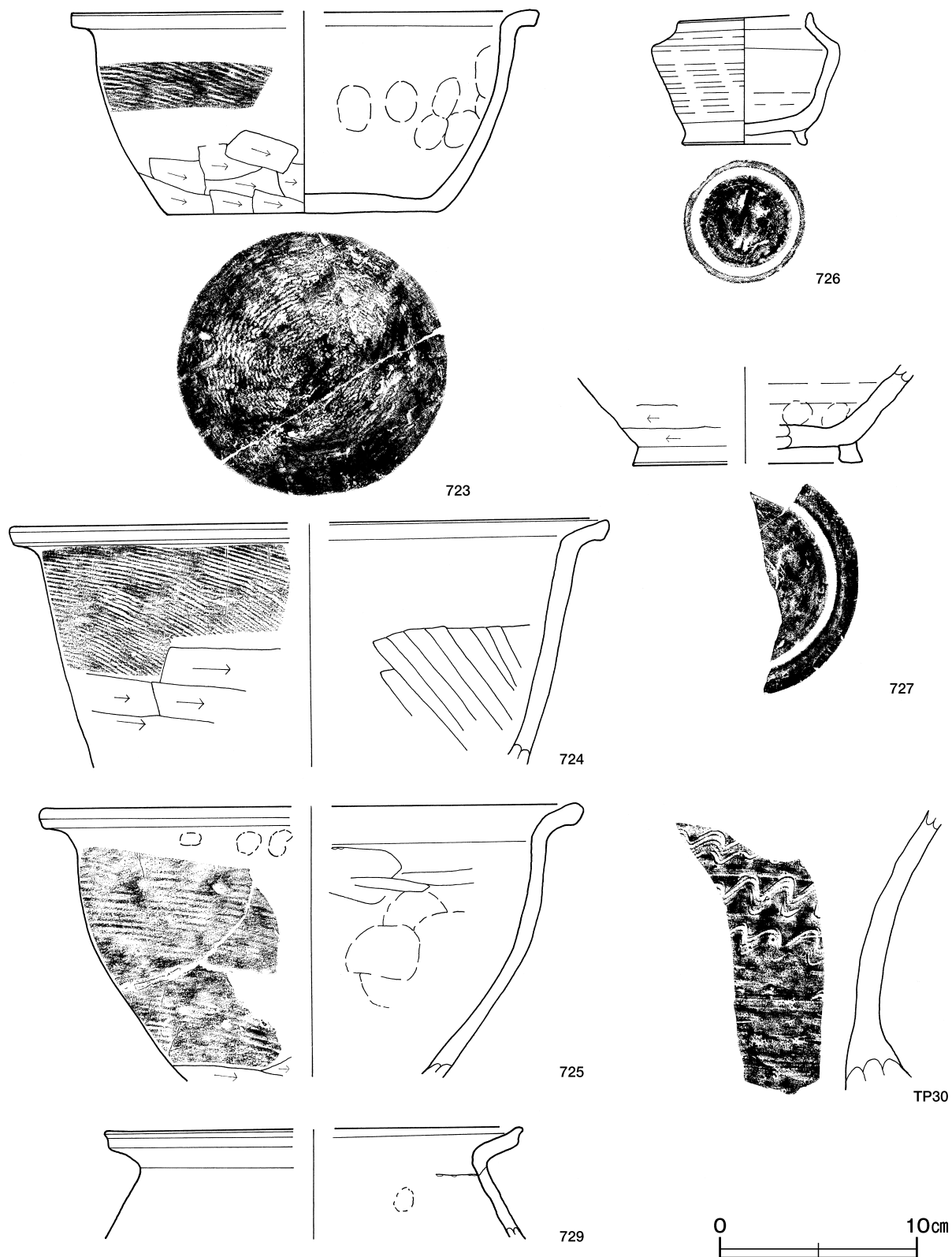
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅6～18cm，深さ3～14cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



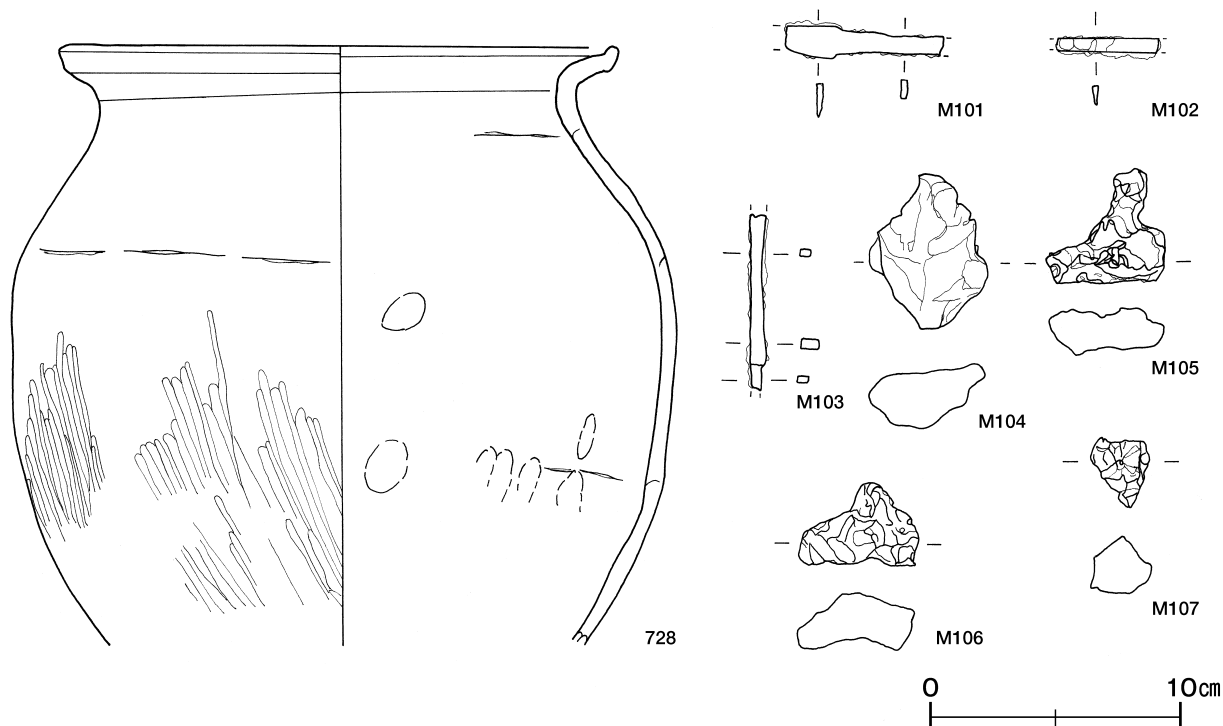
第492图 第2043号住居跡実測图



第493图 第2043号住居跡・出土遺物実測図



第494图 第2043号住居跡出土遺物実測図(1)



第495図 第2043号住居跡出土遺物実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで164cm、袖部幅184cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、火床部から急に外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 14 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 15 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 灰赤色 | 砂質粘土粒子・灰多量, 焼土ブロック少量 | 16 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 17 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 9 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 18 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 |

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さ60～84cmであり、抜き取り痕が確認できる。P5は深さ60cm、P6は深さ16cmでいずれも南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから見て、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8は、配置から竈に伴う施設の柱穴とも想定される。

覆土 10層に分けられる。各層にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| | | 10 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片3071点（坏125，高盤2，甕類2944），須恵器片1125点（坏678，高台付坏11，皿2，盤4，蓋34，高盤5，鉢16，壺7，甕類366，甌2），鉄器3点（刀子2，鏝1），鉄滓4点が出土している。715は北壁際の覆土中層，717はP1の覆土中層，721は西壁寄りの床面，722は竈の覆土下層，725は東南コーナー部の覆土中層と床面，723・724・726は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土し，いずれも廃棄されたものと考えられる。728は竈上層から竈前の覆土下層にかけて破片で散在して出土している。M101は中央部の床面，TP30・M102・M103・M105～M107は中央部の覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2043号住居跡出土遺物観察表（第493～495図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
715	須恵器	坏	11.3	3.5	6.7	長石・礫	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土中層	100% PL161
716	須恵器	坏	13.1	3.9	8.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	床面	80% PL162
717	須恵器	坏	13.4	4.0	8.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	P1覆土中層	80% PL162
718	須恵器	坏	13.0	3.8	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土中層	85% PL162
719	須恵器	坏	[13.2]	4.0	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	覆土中層	70% PL162
720	須恵器	坏	12.8	4.2	7.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	竈覆土	65%
721	須恵器	坏	13.2	4.2	8.4	長石・石英・雲母	オリブ黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	70%
722	須恵器	坏	[11.6]	3.7	6.6	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	竈覆土下層	50%
723	須恵器	鉢	[23.4]	10.1	13.8	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面平行叩き下位手持ちヘラ削り 当て具痕	覆土中層	60%
724	須恵器	鉢	[30.0]	(12.2)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面上位斜位の平行叩き下位ヘラ削り 内面上位横ナデ下位斜位のヘラナデ	覆土中層	10%
725	須恵器	鉢	[27.0]	(13.7)	-	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	体部外面横位の平行叩き下位ヘラ削り 内面ナデ 当て具痕	覆土中層・床面	10%
726	須恵器	短頸壺	6.6	6.5	6.2	長石・石英	灰黄	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	95% PL171
727	須恵器	長頸壺	-	(4.8)	[11.6]	長石・石英・礫	灰黄	普通	体部外面下位ヘラ削り 内面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け 内面指頭痕	覆土中層	10%
728	土師器	甕	21.8	(23.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ下位ヘラ磨き 内面輪轆痕を残すナデ 指頭痕	竈上層・覆土下層	60%
729	土師器	甕	[20.8]	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ナデ 内面指頭痕	竈覆土	5%
TP30	須恵器	甕	-	(14.1)	-	長石	褐灰	普通	頸部櫛描波状文	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M101	刀子	(6.3)	1.2	0.3	(8.9)	鉄	切先・刃部・茎一部欠損 両区	床面	
M102	刀子	(4.1)	0.7	0.3	(2.7)	鉄	平造 刃部のみ残存	覆土中層	
M103	鏝	(6.9)	0.6	0.4	(7.3)	鉄	長頸鑿筋式カ 刃先・茎一部欠損	覆土上層	PL196
M104	鉄滓	6.2	4.8	2.6	59.9	鉄	表面錆付着	覆土下層	
M105	鉄滓	4.5	4.8	2.9	48.9	鉄	表面錆付着	覆土上層	
M106	鉄滓	3.4	4.8	2.2	51.4	鉄	表面錆付着	覆土上層	
M107	鉄滓	2.9	2.4	2.2	9.9	鉄	表面錆付着	覆土中層	

第2046号住居跡（第496・497図）

位置 調査区北西部のB10h2区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが，長軸3.81m，短軸3.50mの方形で，主軸方向はN - 5° - Wである。壁高は5～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部と南東コーナー部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているが，焚口部から煙道部まで102cm，袖部幅84cmが確認され，袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を4cm掘りくぼめている。煙道部は壁外に64cm掘り込ま

れ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|----------|---------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | 6 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 7 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 褐灰色 | 砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |

ピット 6か所。P1とP2は主柱穴で、深さは20~30cmである。P3は南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4~P6の性格は不明である。

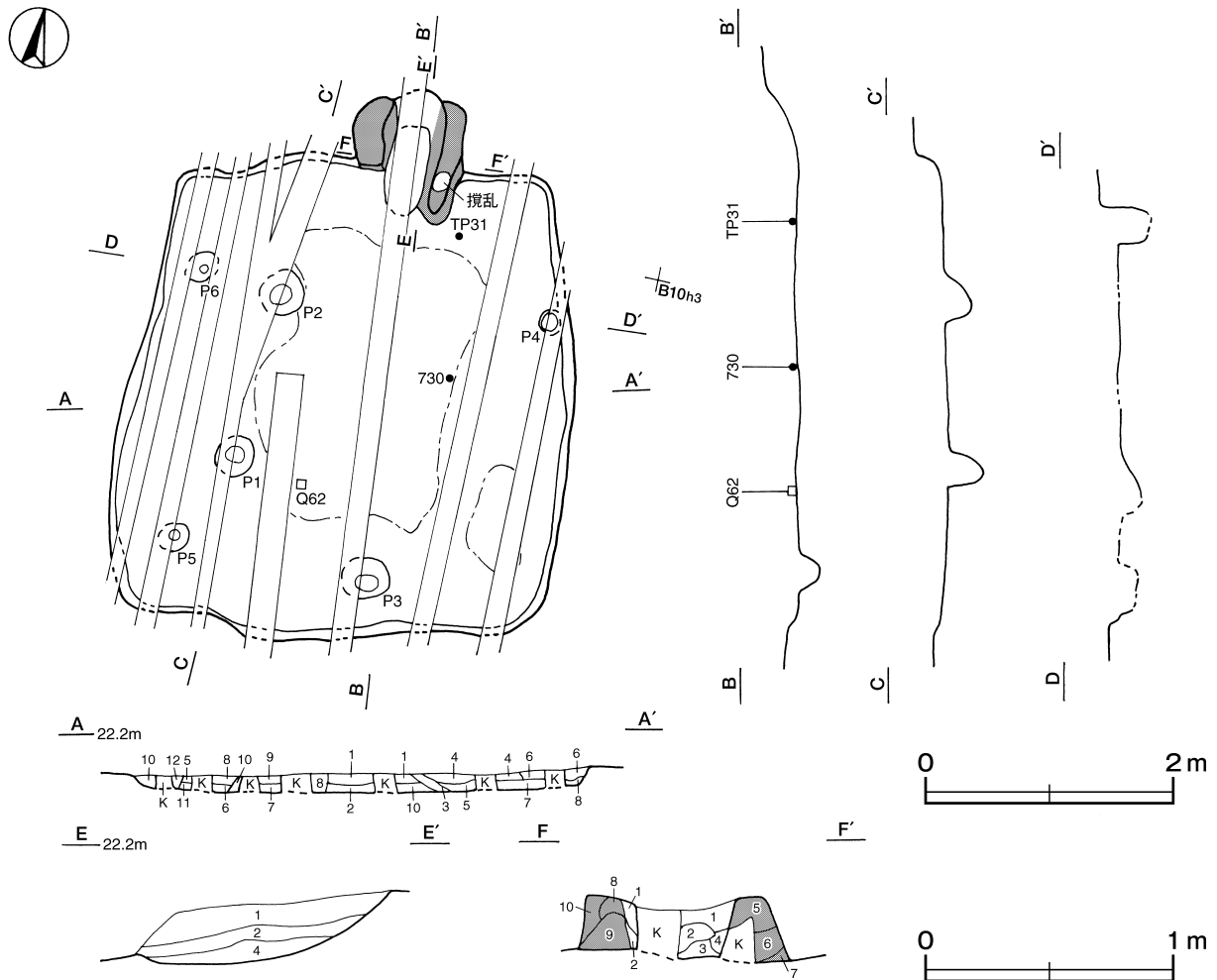
覆土 12層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

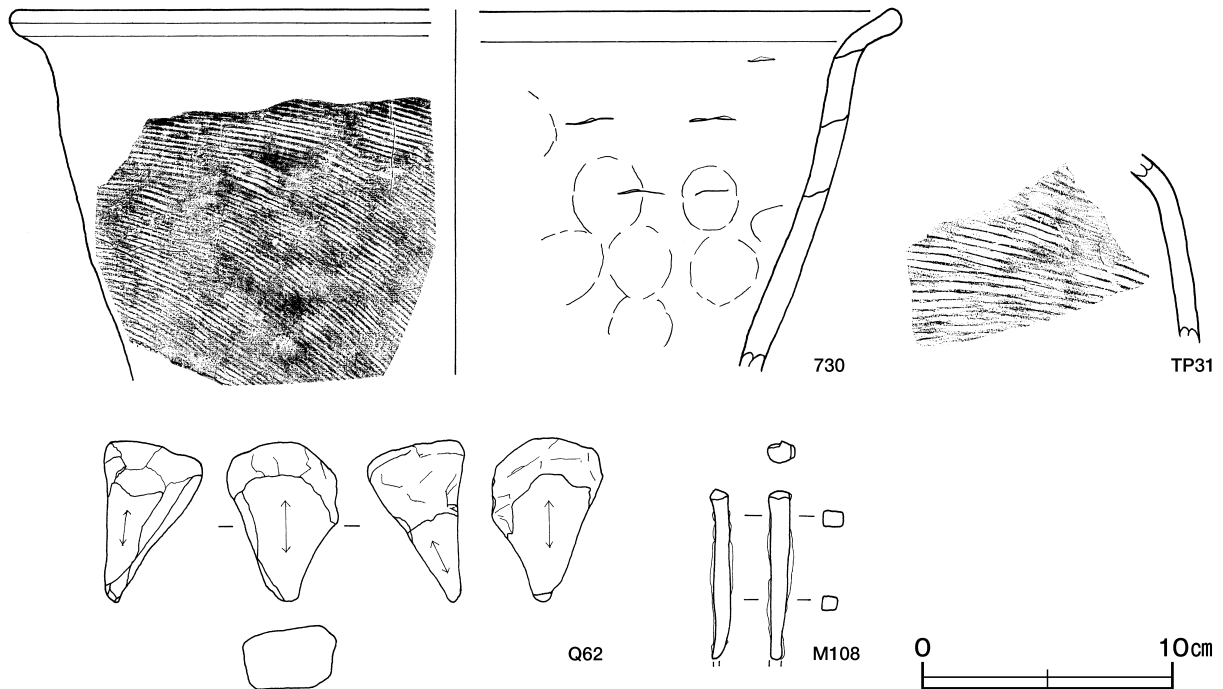
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片106点(坏12, 甕類94), 須恵器片25点(坏6, 高台付坏1, 甕類18), 石器1点(砥石), 鉄製品1点(釘)のほか、混入した陶器片5点も出土している。730・Q62は中央部の床面, TP31は竈前の床面, M108は覆土から出土し、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第496図 第2046号住居跡実測図



第497図 第2046号住居跡出土遺物実測図

第2046号住居跡出土遺物観察表（第497図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
730	須恵器	鉢	[35.0]	(14.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面輪積痕を残すナデ 当て具痕	床面	10%
TP31	須恵器	甕	-	(7.3)	-	長石・雲母	褐灰	普通	体部外面横位の平行叩き	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q62	砥石	6.4	4.4	4.0	(92.6)	凝灰岩	砥面4面	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M108	釘	(6.6)	0.8	0.6	(12.4)	鉄	角釘 先端部欠損	覆土	PL199

第2054号住居跡（第498・499図）

位置 調査区北西部のB9c7区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2055号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.45m，短軸3.28mの方形で，主軸方向はN - 8° - Eである。壁高は37~42cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで152cm，袖部幅132cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に84cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

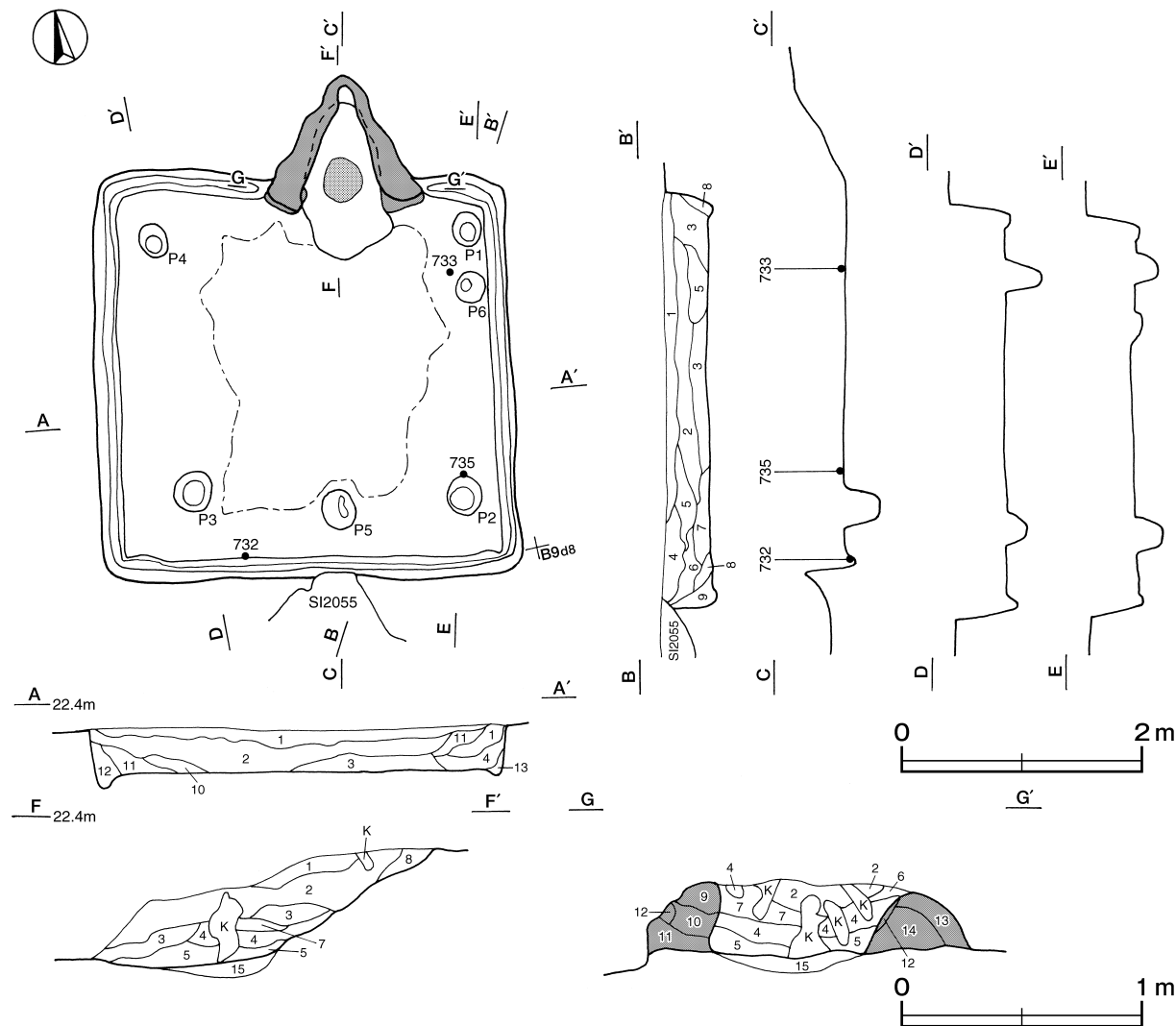
- | | | | |
|----------|-----------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 11 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック少量, 粘土粒子微量 | 12 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 6 灰褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 |
| 7 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土粒子微量 | | |

ピット 6か所。P1 ~ P4は主柱穴で、深さは20~32cmである。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ10cmで、性格は不明である。

覆土 13層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

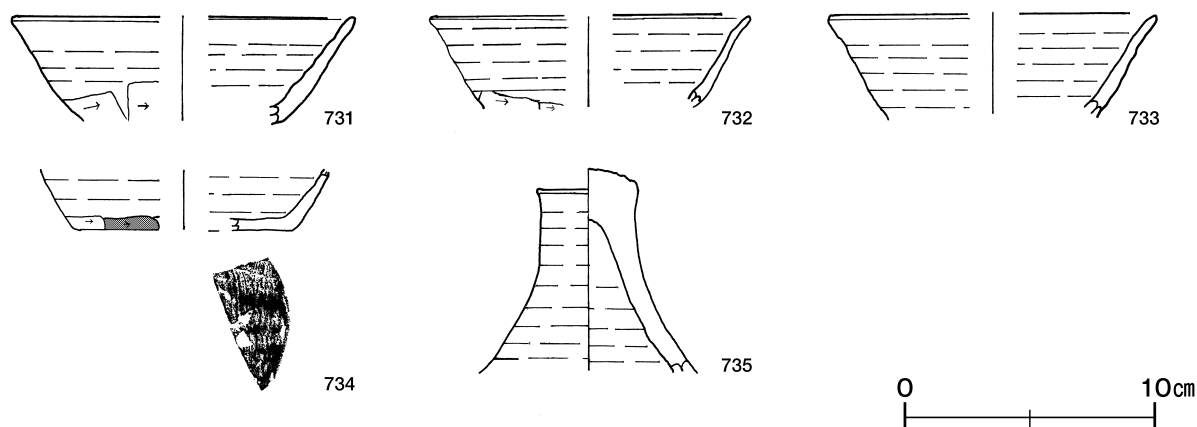
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第498図 第2054号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片108点(坏23, 甕類85), 須恵器片39点(坏25, 高盤1, 甕類13)のほか, 混入した縄文土器片6点も出土している。732は南壁溝の底面, 733・735は東壁寄りの床面から出土し, いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。731・734は覆土より出土し, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第499図 第2054号住居跡出土遺物実測図

第2054号住居跡出土遺物観察表(第499図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
731	土師器	坏	[13.4]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り	覆土	5%
732	須恵器	坏	[12.6]	(3.6)	-	石英・雲母	褐色	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り	壁溝底面	5%
733	須恵器	坏	[13.0]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内外面口クロナデ	床面	5%
734	須恵器	坏	-	(2.5)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土	5% 外面煤付着
735	須恵器	高盤	-	(8.0)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	脚部内外面口クロナデ	床面	10%

第2055号住居跡(第500・501図)

位置 調査区北西部のB9d7区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2054・2250号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.79m, 短軸2.55mの方形で, 主軸方向はN-19°-Eである。壁高は18~25cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 北側と東側が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで104cm, 袖部幅106cmが確認され, 砂質粘土とローム土で構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に56cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土粒子微量
2 灰黄褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 灰褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
5 灰褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量
6 褐色	ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	15 褐色	ロームブロック少量
7 灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量
8 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		
9 にぶい赤褐色	焼土粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量		

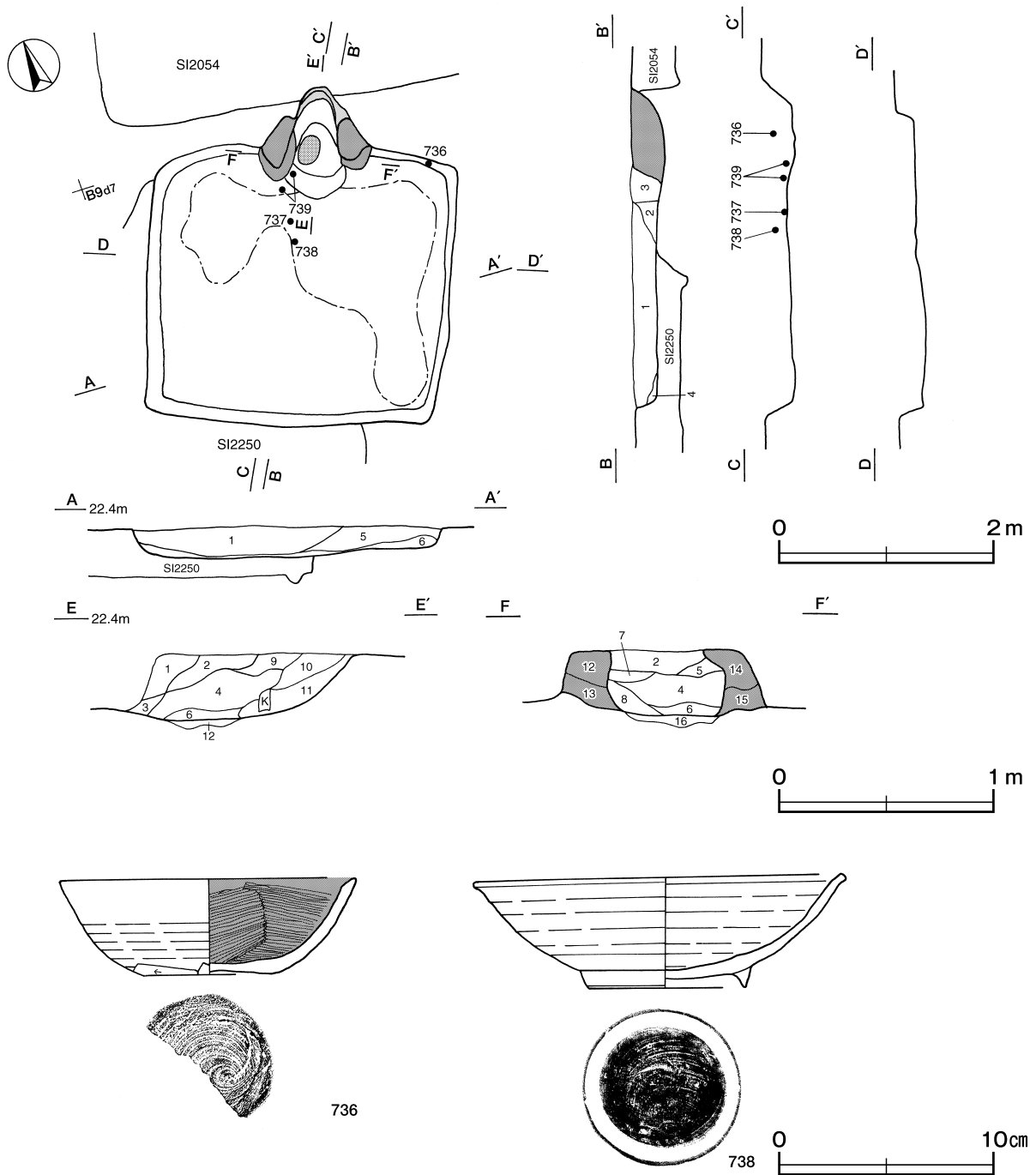
覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

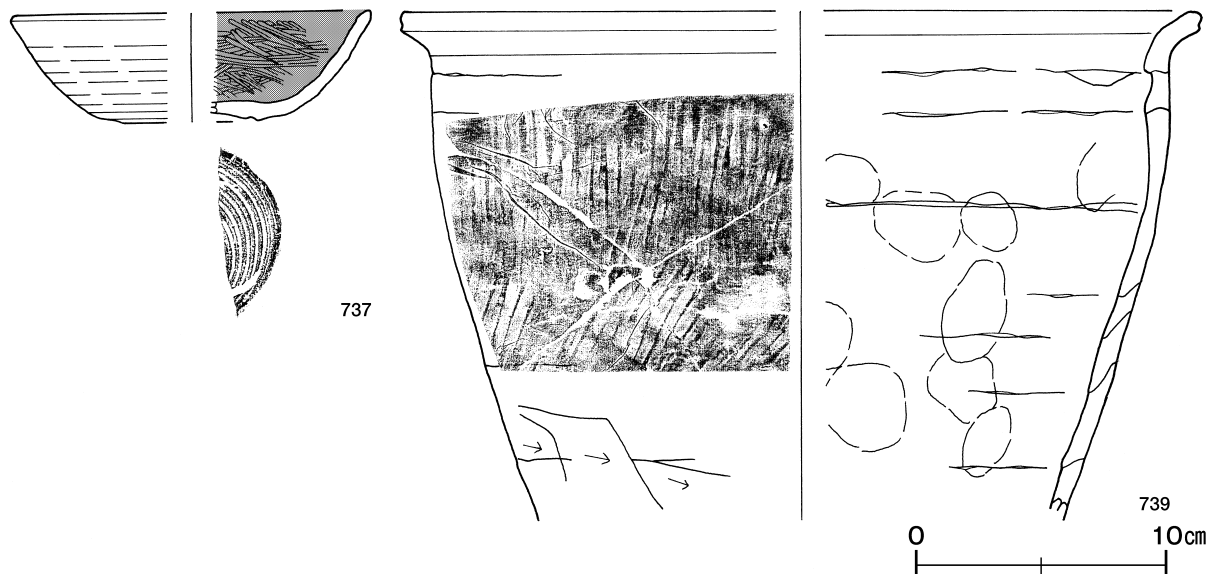
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片63点(坏16, 甕類47), 須恵器片24点(坏10, 甕類5, 甑9), 灰釉陶器片3点(椀)のほか, 混入した石器1点が出土している。736・Q514は北東コーナー際の覆土中層から下層, 737・738は竈前の床面と中層, 739は竈前の覆土下層, Q513は北壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前半と考えられる。



第500図 第2055号住居跡・出土遺物実測図



第501図 第2055号住居跡出土遺物実測図

第2055号住居跡出土遺物観察表 (第500・501図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
736	土師器	坏	13.8	4.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土中層	45%
737	土師器	坏	[14.2]	4.4	[5.3]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端ナデ 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	床面	45%
738	灰釉陶器	高台付碗	17.0	5.2	7.2	長石・石英	灰白	良好	口辺部内面に沈線1条 底部回転糸切り後高台貼り付け	覆土中層	70%
739	須恵器	甌	[31.6]	[22.0]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口辺部内外面輪積痕を残すナデ 体部外面縦位の平行叩き 下端ヘラ削り 内面輪積痕を残すナデ 当て具痕	覆土下層	30%

第2058号住居跡 (第502・503図)

位置 調査区北西部のB10g3区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.66m、短軸4.12mの長方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は28~35cmで、外傾して立ち上がっている。西側は耕作による攪乱を受けている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅12~18cm、深さ4~8cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているが、袖部幅98cmが確認され、砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈覆土解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量	10 灰褐色	砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	11 褐灰色	砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量	12 褐色	ロームブロック少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量	13 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
6 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量		
7 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量		
8 黒褐色	ロームブロック少量		

ピット 8か所。P1~P4は支柱穴で、深さは15~28cmである。P5は南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6~P8の性格は不明である。

覆土 11層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

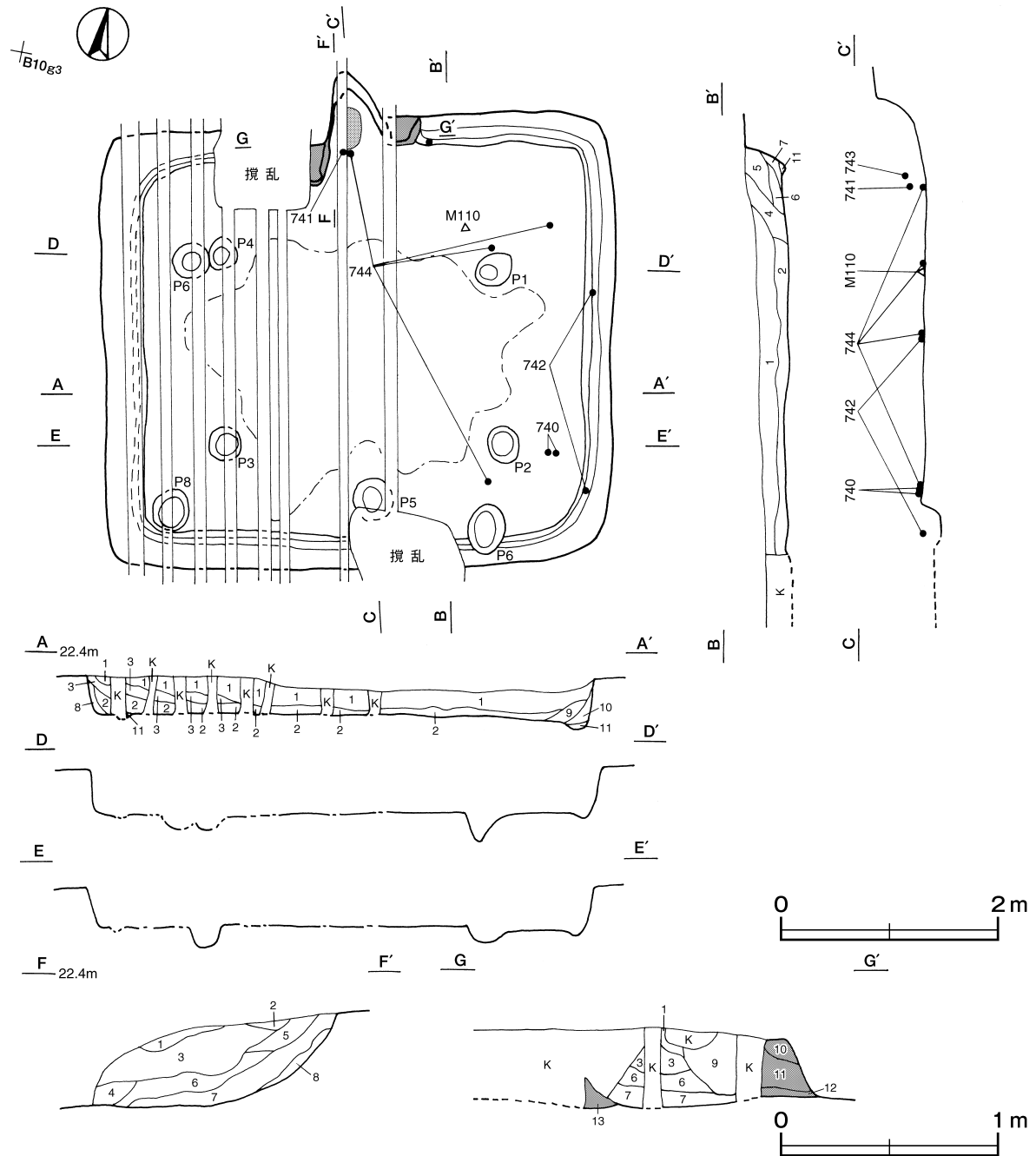
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	3 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

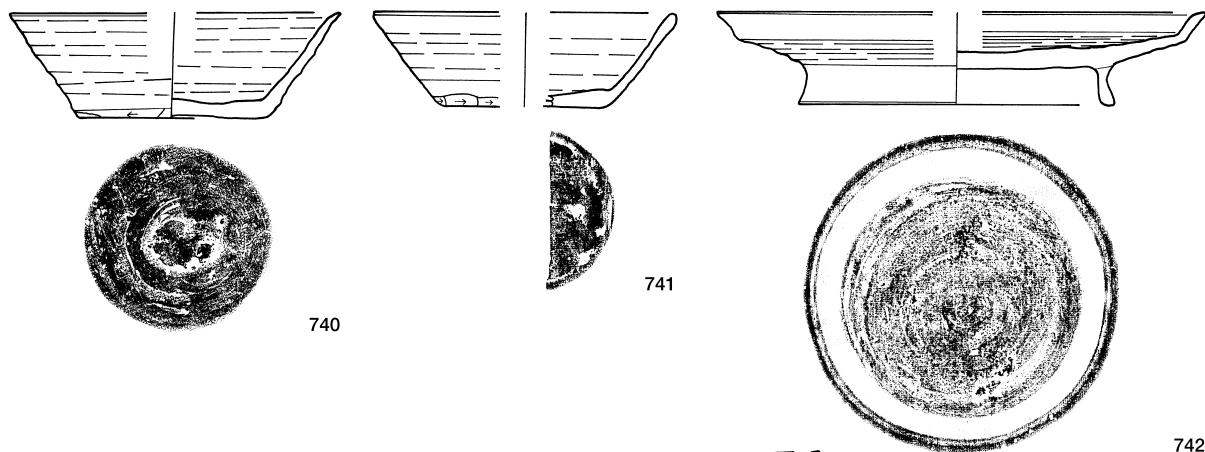
- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|-------------------|
| 5 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| | | 11 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片324点(坏43, 甕類281), 須恵器片224点(坏123, 蓋3, 盤8, 甕類57, 甑33), 鉄器2点(鉄鏝)のほか, 混入した陶器片7点, 瓦2点も出土している。740・742は東壁際の覆土下層, 741は竈の覆土下層, 743は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土し, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。744は竈の火床面と中央部の床面から出土した破片が接合した資料である。M109は中央部の床面, M110は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



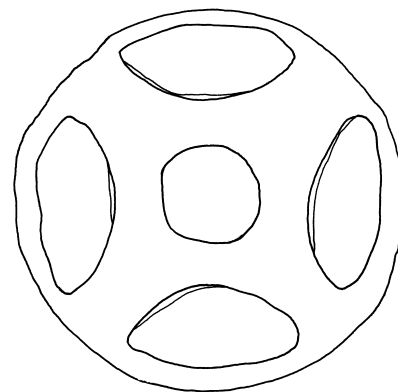
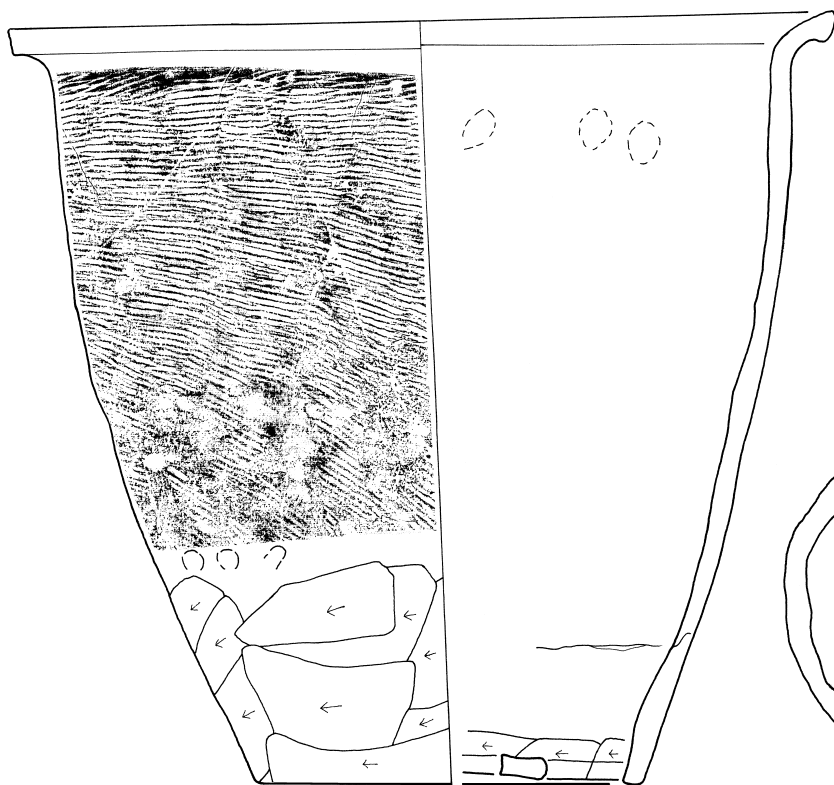
第502図 第2058号住居跡実測図



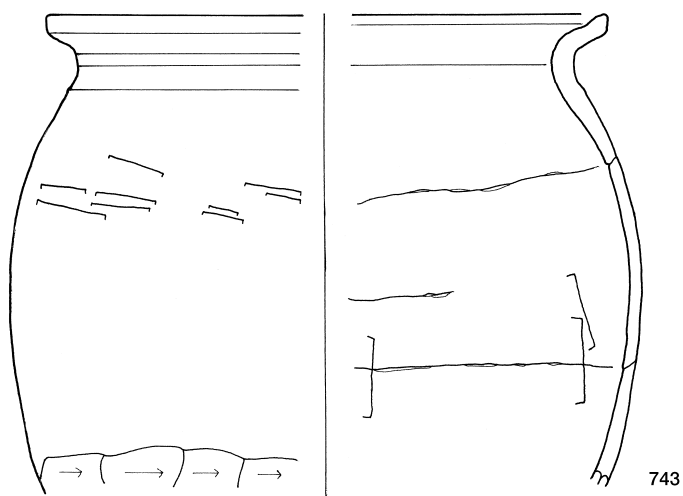
740

741

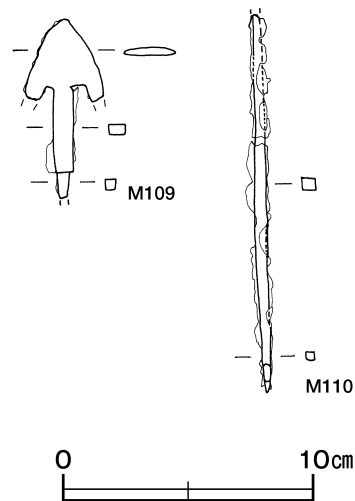
742



744



743



M109

M110

0 10cm

第503图 第2058号住居跡出土遺物実測図

第2058号住居跡出土遺物観察表（第503図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
740	須恵器	坏	[13.1]	4.2	7.4	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端へら削り 底部回転へら切り	覆土下層	65%
741	須恵器	坏	[11.8]	3.8	[6.5]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後 一方のへら削り	竈覆土下層	20%
742	須恵器	盤	[19.5]	3.7	12.6	長石・石英・雲母・礫	灰白	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転へら切り後高 台貼り付け	覆土下層	80%
743	土師器	甕	[22.2]	(18.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へらナデ 下位 へら削り 内面輪積痕を残すへらナデ	覆土下層	35%
744	須恵器	甌	32.8	30.7	15.2	長石・石英	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き 下端へら削り 内面 輪積痕を残すナデ 指頭痕	竈火床面・床面	85% PL187

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M109	鏝	(7.1)	3.0	0.4	(11.8)	鉄	短頸腸扶鏝 鏝身断面両丸 籠被部断面長方形 腸扶両先端欠損 茎一部欠損	床面	PL196
M110	鏝カ	(14.8)	0.5	0.5	(12.5)	鉄	茎部のみ残存 断面長方形	覆土下層	

第2059号住居跡（第504図）

位置 調査区西部のB10h5区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2233号住居跡を掘り込み、第2234号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.64m、短軸4.55mの方形で、主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は4～14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10～16cm、深さ6～10cm、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅118cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に8cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物・砂質粘土粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗赤褐色	炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	
3	灰褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量	7	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物微量	8	赤褐色	焼土ブロック少量	
			9	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量	

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは56～64cmである。P5は深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

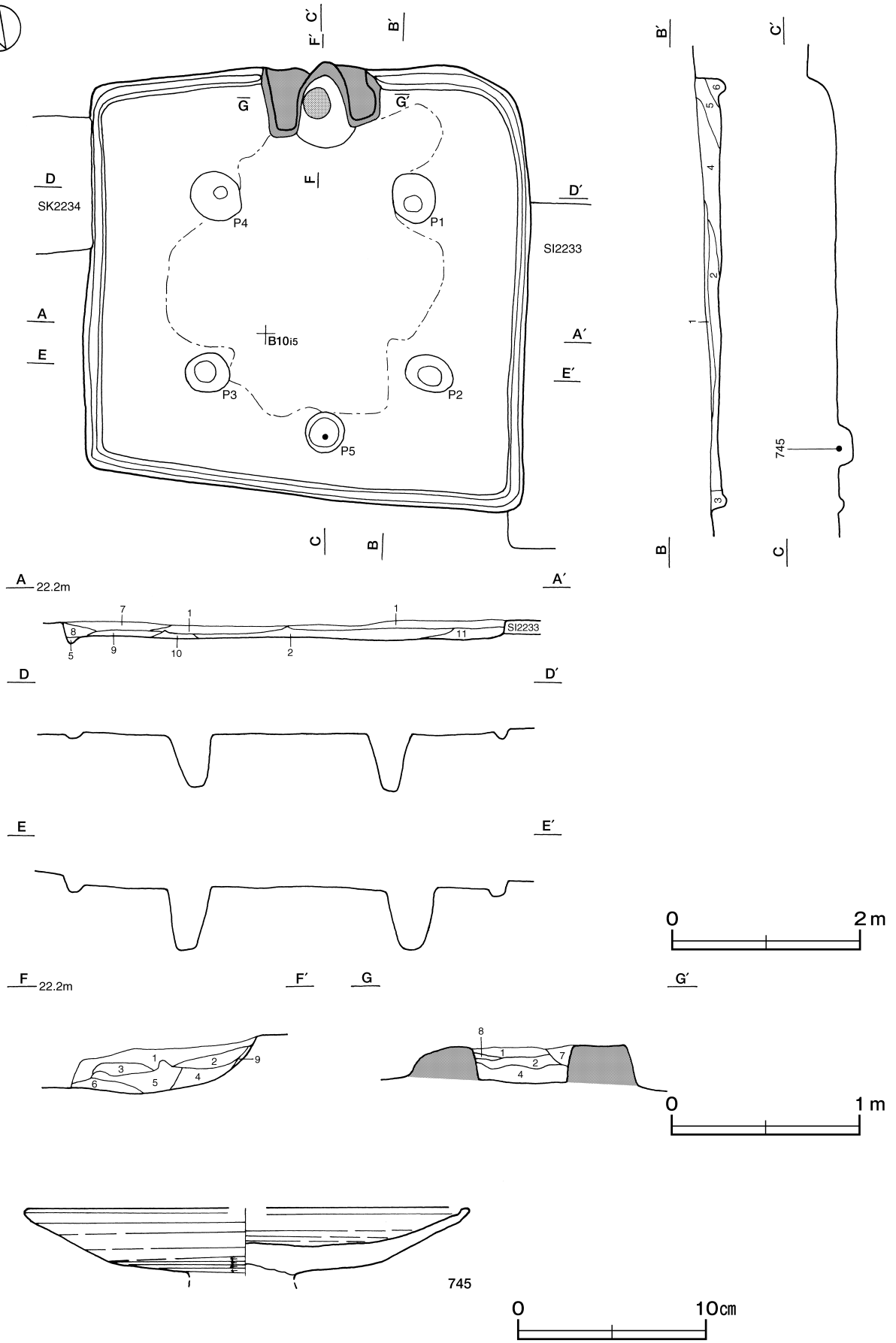
覆土 11層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7	極暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	8	褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂微量	9	褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック・砂少量、焼土ブロック微量	10	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、砂微量	11	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
6	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片228点（坏17、甕類211）、須恵器片50点（坏10、蓋14、高盤2、甕類24）、土製品1点（支脚）が出土している。745はP5の覆土上層から出土し、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第504图 第2059号住居跡・出土遺物実測図

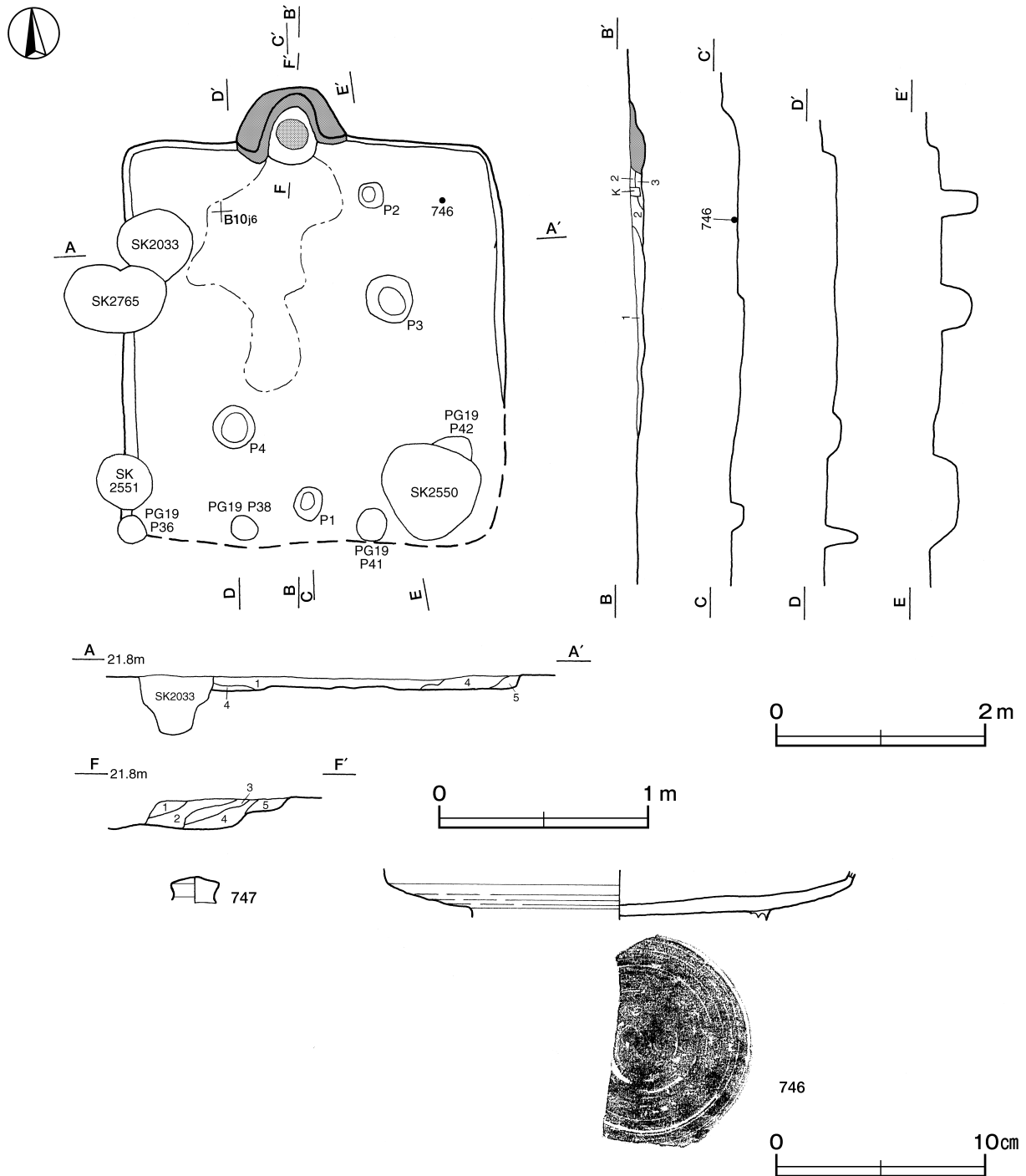
第2059号住居跡出土遺物観察表（第504図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
745	須恵器	高盤	[23.2]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	黄灰褐	普通	坏部外面下位左回りのヘラ削り後脚部貼付け	P 5 覆土上層	40%

第2060号住居跡（第505図）

位置 調査区西部のB10j6区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第19ピット群，第2033・2550・2551・2765号土坑に掘り込まれている。



第505図 第2060号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 南東部は床面が露出した状態で検出されている。長軸3.78m，短軸3.64mの方形で，主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は9～14cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，竈前部から中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで75cm，袖部幅106cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用し，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に49cm掘り込まれ，火床部から階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
3	灰褐色	砂質粘土粒子少量 焼土ブロック・炭化粒子微量			

ピット 4か所。P1は深さ12cmで南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2～P4の性格は不明である。

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量			

遺物出土状況 土師器片57点（坏9，甕類48），須恵器片10点（坏7，蓋1，盤1，甕類1）が散在した状態で出土しており，ほとんどが細片である。また，混入した黒曜石1点も出土している。747は竈覆土，746は北東コーナー部の覆土下層から出土しており，ともに住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉以前と考えられる。

第2060号住居跡出土遺物観察表（第505図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
746	須恵器	盤	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	40%
747	須恵器	蓋	(1.2)	(1.2)	-	石英	灰黄	普通	ナデ	竈覆土	5%

第2065号住居跡（第506～513図）

位置 調査区南東部のC13j5区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2078・2084号住居，第2565号土坑に掘り込まれている。

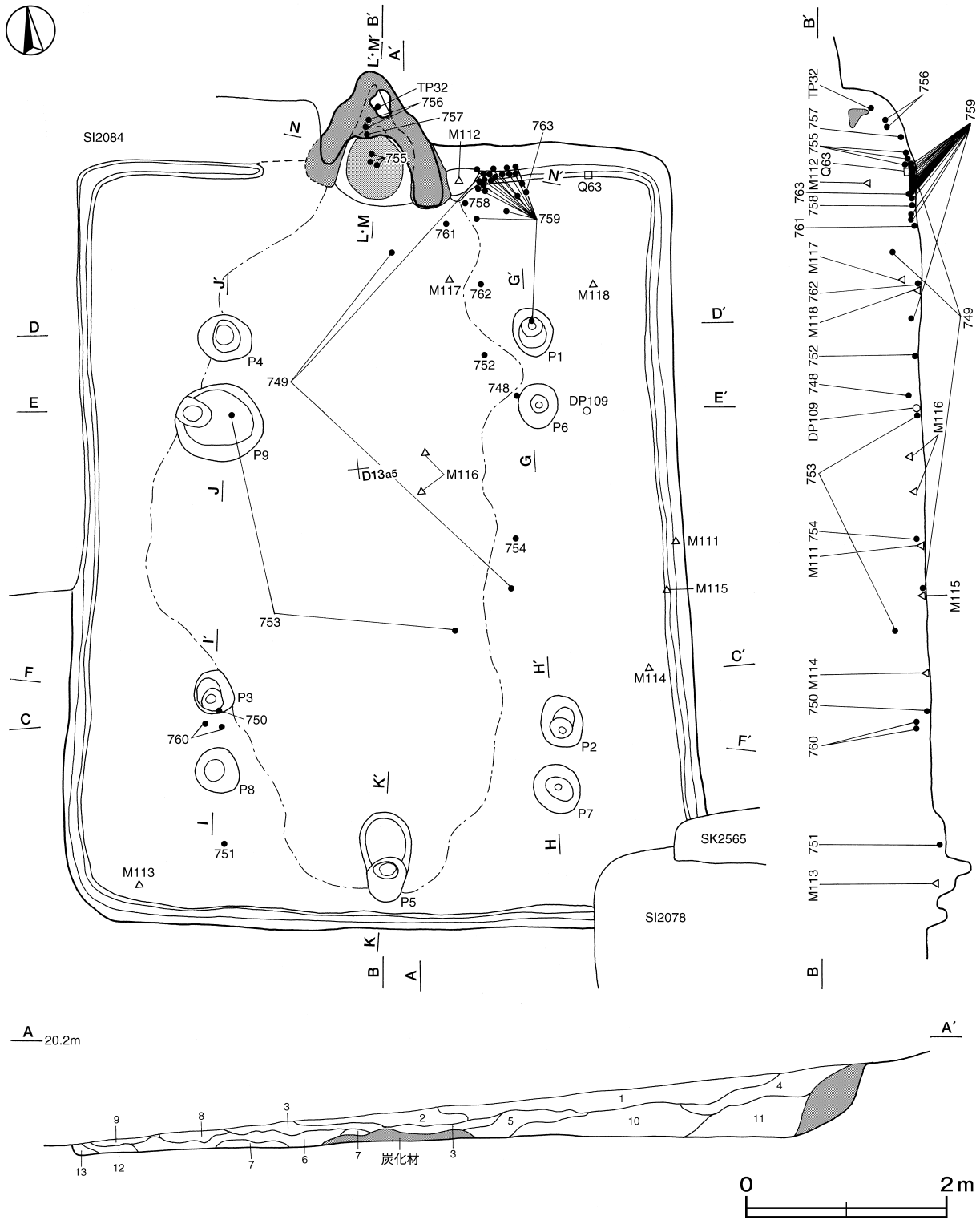
規模と形状 長軸7.80m，短軸6.36mの長方形で，主軸方向はN - 9° - Eである。壁高は8～68cmで，外傾して立ち上がっている。

床 中央部が踏み固められている。壁下には，幅8～22cm，深さ6～10cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面からは多量の焼土と炭化材が確認され，特に北東コーナーの壁が火を受けて赤変している。また，東壁寄りの床面からは屋根材に想定される炭化したカヤも出土している。

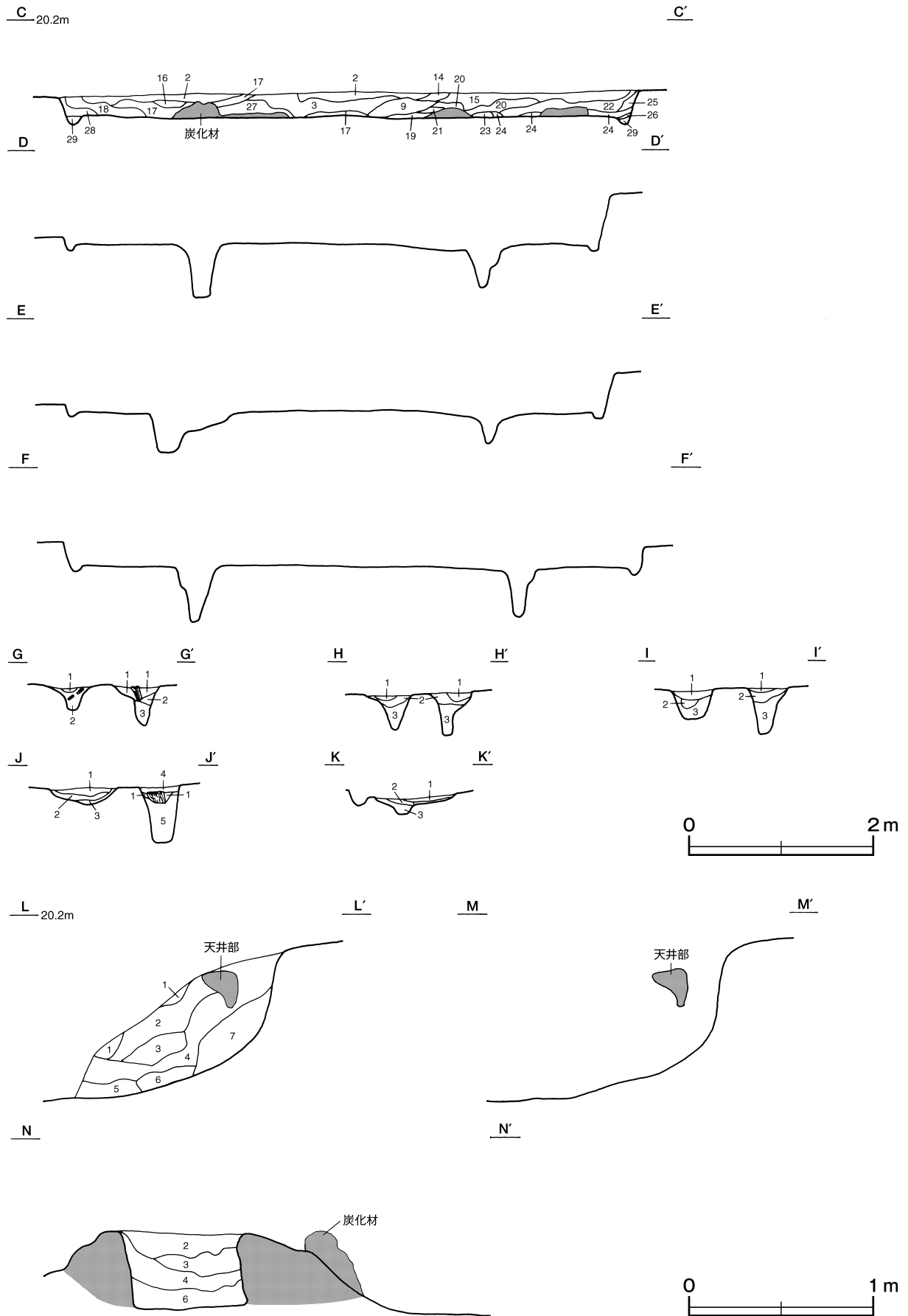
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで134cm，両袖部幅140cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面より3cm高く，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に80cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。天井部の一部が残存している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・砂質粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物微量 |
| | | 7 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量 |



第506図 第2065号住居跡実測図(1)



第507图 第2065号住居跡実測图(2)

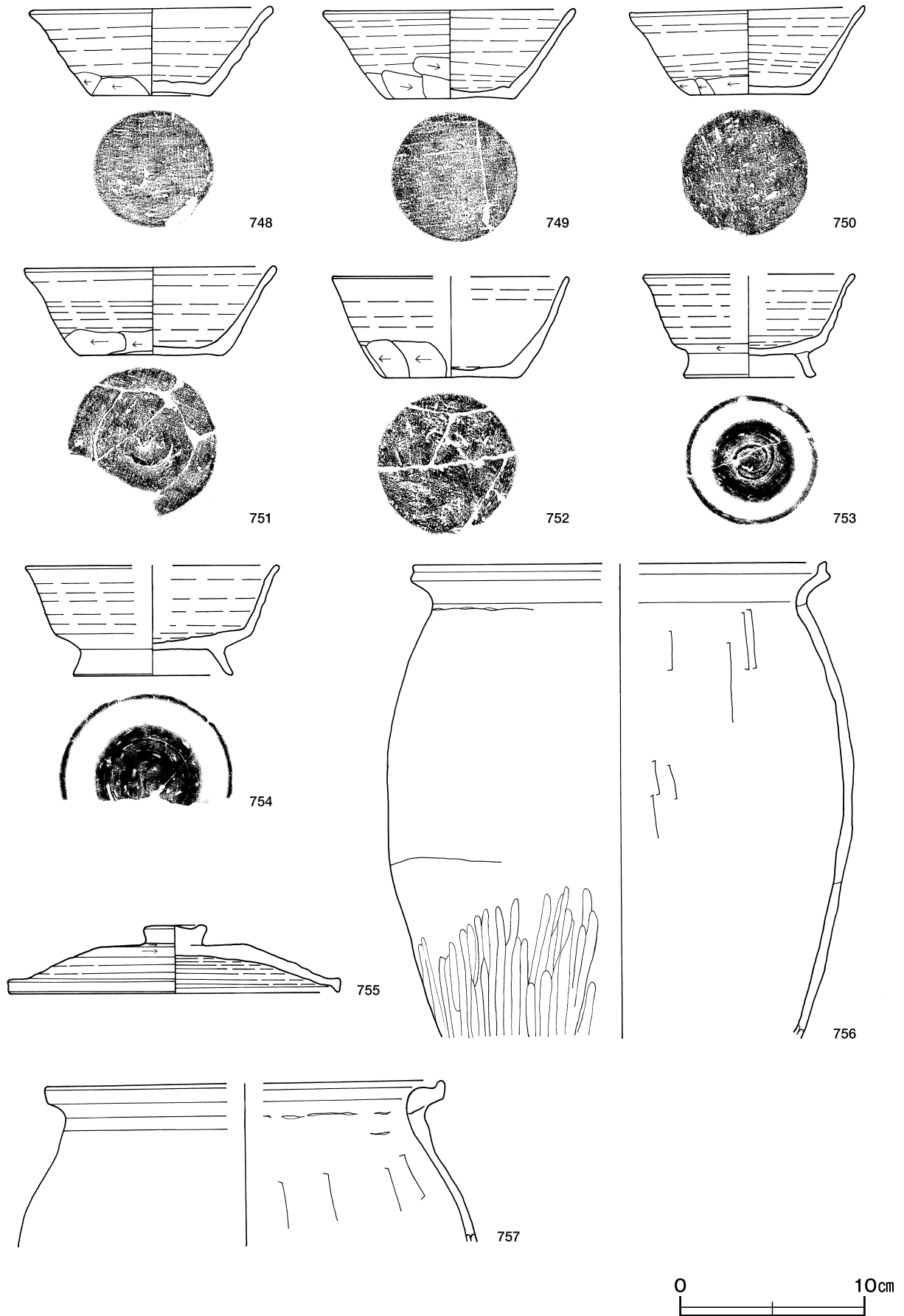


第508図 第2065号住居跡実測図(3)

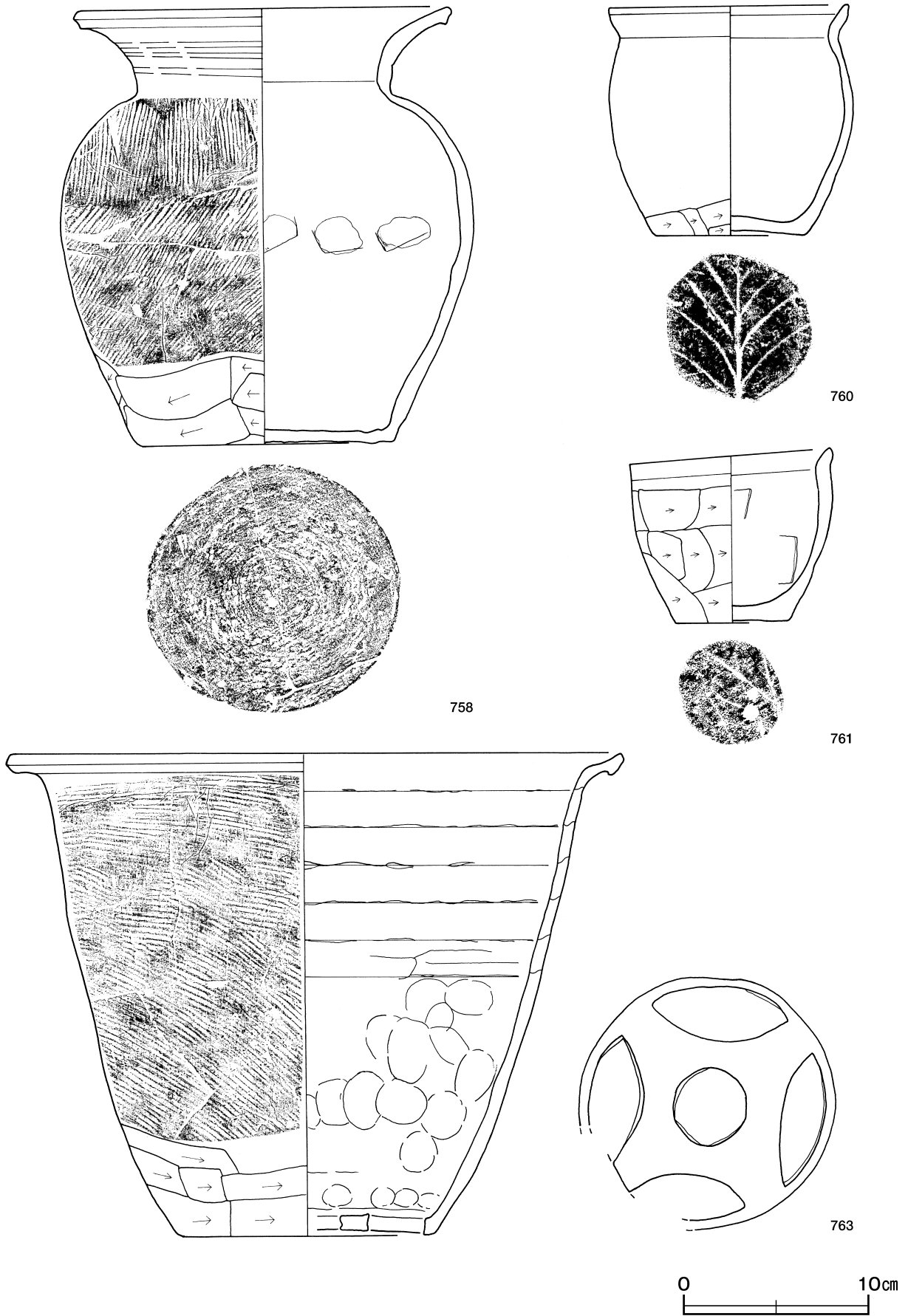
ピット 9か所。P1～P4は主柱穴で、深さ46～63cmである。P1・P4からは柱材が炭化した状態で検出されている。P6～P9は主柱穴の南に位置しており、深さは23～45cmである。いずれも隣接する主柱穴よりも浅いことから見て補助柱穴と想定されるが、明確でない。P5は深さ38cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

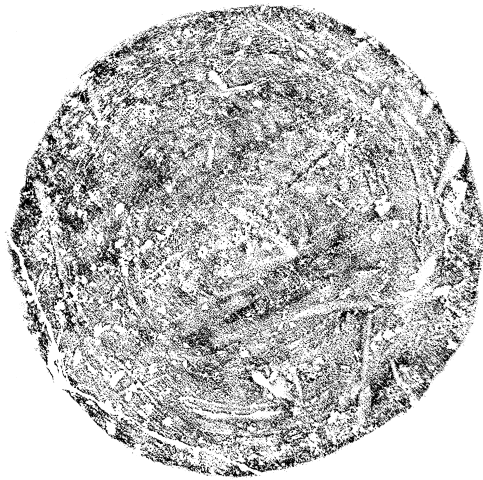
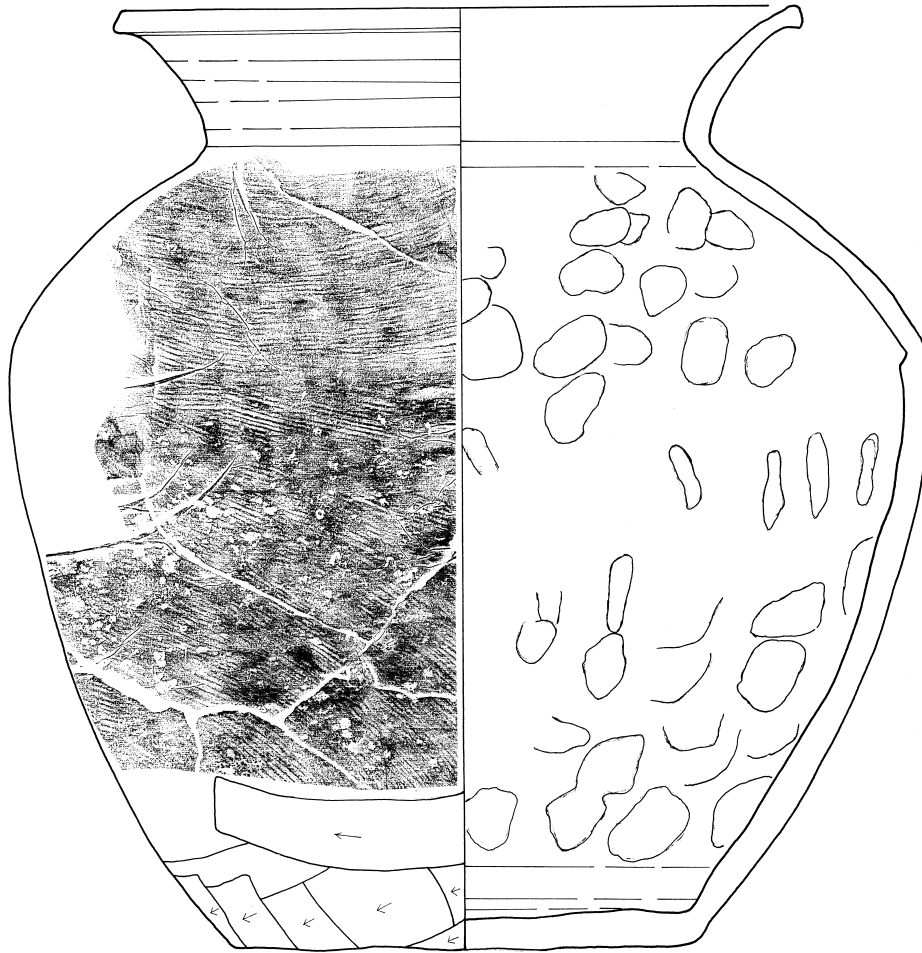
- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 褐灰色 粘土粒子多量 | |



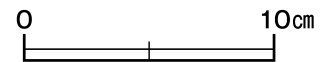
第509图 第2065号住居跡出土遺物実測図(1)



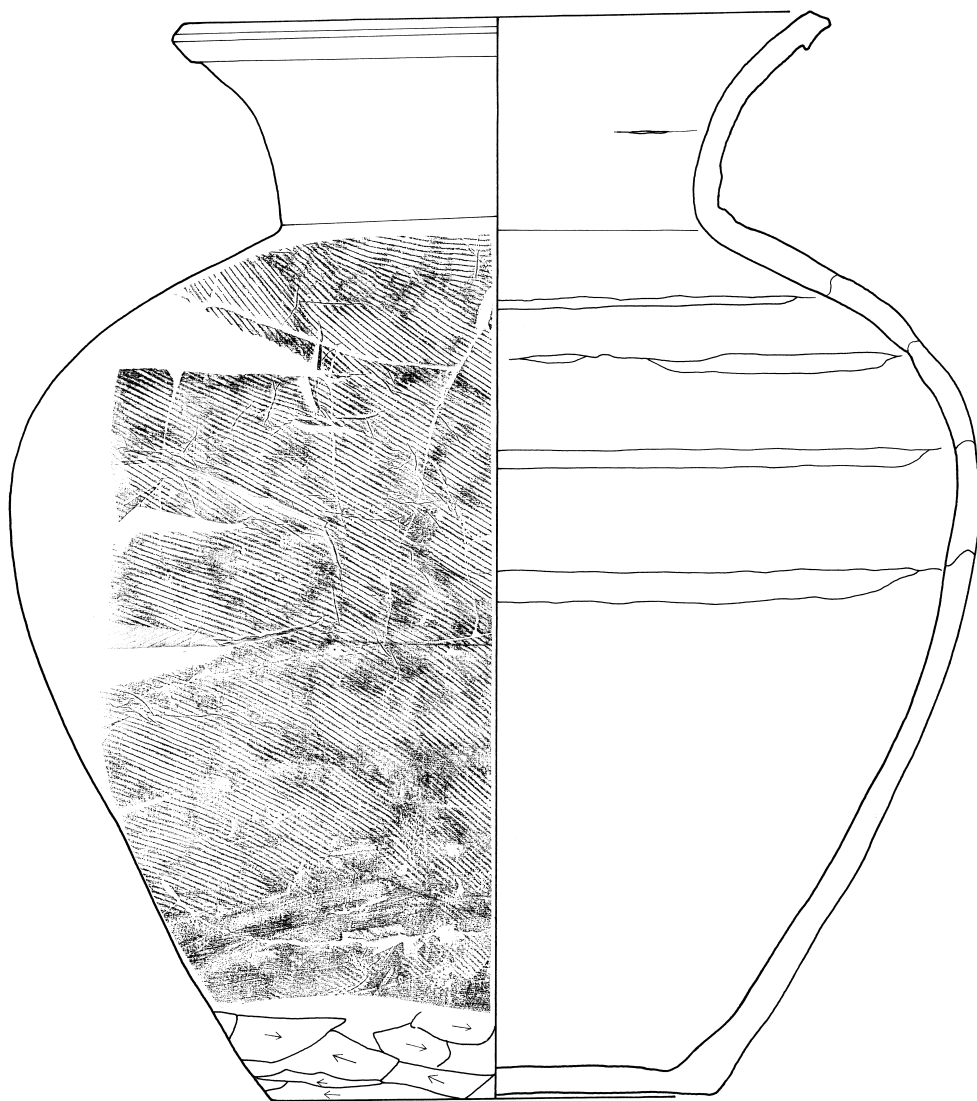
第510图 第2065号住居跡出土遺物実測図(2)



759



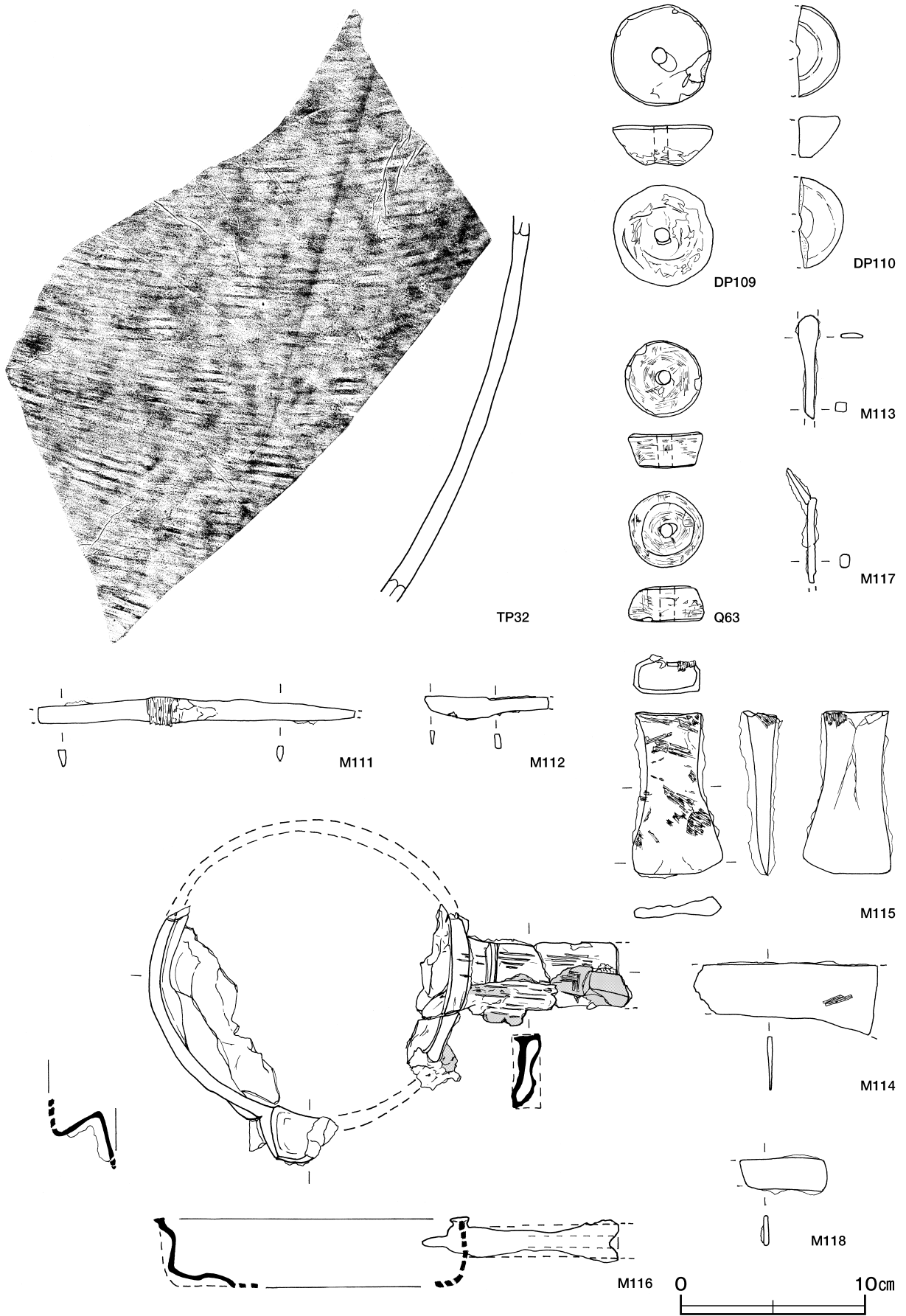
第511图 第2065号住居跡出土遺物実測図(3)



762



第512图 第2065号住居跡出土遺物実測図(4)



第513图 第2065号住居跡出土遺物実測図(5)

覆土 31層に分けられる。炭化材と焼土からなる第30～32層は自然堆積であり、その他はブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗褐色	炭化材少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	18	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
3	暗褐色	炭化材中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	19	黒褐色	炭化材・焼土粒子少量
4	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	20	暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
5	暗褐色	炭化物・焼土粒子少量、砂質粘土ブロック・ローム粒子微量	21	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量
6	暗褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化物少量	22	暗褐色	焼土粒子少量、炭化物微量
7	暗褐色	砂質粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量	23	暗褐色	炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
8	暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土ブロック・ローム粒子微量	24	黒褐色	炭化材中量
9	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化物・砂質粘土粒子微量	25	暗褐色	炭化物・焼土粒子微量
10	褐色	炭化材・砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	26	黒色	炭化物中量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
11	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	27	暗褐色	炭化物・焼土粒子少量、ロームブロック・砂質粘土ブロック微量
12	暗褐色	炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	28	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化材・ローム粒子微量
13	暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	29	極暗褐色	砂質粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量、ロームブロック微量
14	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	30	赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
15	褐色	砂質粘土ブロック少量、炭化材・ローム粒子・焼土粒子微量	31	黒色	炭化材少量
16	暗褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	32	褐色	炭化材少量、ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片946点(坏76, 甕類870), 須恵器片796点(坏207, 高台付坏5, 蓋26, 甕類523, 甌35), 灰釉陶器片1点, 土製品2点(紡錘車), 石製品1点(紡錘車), 鉄器・鉄製品8点(刀子2, 鋏2, 鎌1, 手斧1, 不明2), 青銅製品1点(柄杓)が出土している。遺物はほぼ全面に散在した状態で出土している。また、覆土上層から中層に集中して出土しており、多くが廃絶後に廃棄されたものと考えられる。761・762は竈右袖前の床面, 758は覆土下層, 759・763は竈東側の覆土下層から壁際の炭化材に押しつぶされた状況で出土している。また, 755・756・757は竈の覆土中層から下層にかけて出土し, 時期判断の指標となる資料である。Q63は北壁際の覆土下層, M111・M114・M115は東壁際の覆土下層, M113は南壁際の床面からいずれもほぼ完形で出土し, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また, M116(青銅製柄杓)は中央部の覆土下層から出土し, 火を受けて一部溶解していることや, 炭化材と焼土を多量に含む覆土下層から破片で出土している状況などから見て, 廃棄されて間もなく火を受けたものと考えられる。

所見 床面から多量の焼土と炭化材が検出され, さらにP1・P4からは柱材が炭化した状態で出土していることから焼失住居と考えられる。出土した土器や青銅製品は, 廃棄された後に火を受けている。また, 同時期の住居跡の中でもとりわけ規模が大きい住居跡であり, 全国的にも稀少な遺物である青銅製柄杓が出土したことから見て, 周辺に有力者の住居が存在していた可能性がある。青銅製柄杓は全国的にも稀少なもので, 山口県萩市見島ジーコンボ古墳群, 千葉県柏市花前I遺跡, 新治郡新治村武者塚1号墳, 鹿嶋市御園生遺跡第49号住居跡に次ぐ5例目である。また, 青銅製の袋状の柄に木製の柄を装着するものとしては全国初である。時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2065号住居跡出土遺物観察表(第509～513図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
748	須恵器	坏	12.9	4.3	6.3	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二方向の手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り後	覆土下層	95% PL162
749	須恵器	坏	13.6	4.8	7.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 一方向の手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り後	覆土中層・床面	90% PL162
750	須恵器	坏	12.6	4.7	6.5	長石・石英	赤灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二方向の手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り後	床面	85% PL162
751	須恵器	坏	[13.3]	4.8	7.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 一方向の手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り後	床面	60% PL162
752	須恵器	坏	[12.6]	5.4	7.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 多方向の手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り後	覆土下層	55%
753	須恵器	高台付坏	[11.2]	5.6	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後	高台貼り付け	覆土中層・床面	45%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
754	須恵器	高台付坏	[13.4]	5.9	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	40%
755	須恵器	蓋	17.6	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	竈覆土下層	70% PL167
756	土師器	甕	[22.2]	(25.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面下位ヘラ磨き内面ヘラナデ	竈覆土中層	35%
757	土師器	甕	[21.2]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面輪積痕を残すナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	竈覆土下層	10%
758	須恵器	甕	19.8	23.4	13.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面下端ヘラ削り後斜位の平行叩き 内面当て具痕	覆土下層	90% PL184
759	須恵器	甕	26.5	37.6	18.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面上位横位 中～下位斜位の平行叩き下端手持ちヘラ削り 内面ナデ 当て具痕	覆土下層	40% PL184
760	土師器	小甕	12.8	12.4	8.2	長石・石英・雲母・微礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ナデ 底部木葉痕	覆土中層	95% PL176
761	土師器	小甕	10.9	9.3	6.0	長石・石英・雲母・微礫	赤橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面	95% PL178
762	須恵器	甕	24.8	43.1	17.5	長石・石英	暗灰	普通	口辺部外面横位の平行叩き 体部外面凝格子状の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残すナデ	床面	95% PL184
763	須恵器	甕	32.5	26.1	13.6	長石	灰	普通	体部外面上位・横位・斜位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残すナデ 指頭痕 5孔式	覆土下層	95% PL187
TP32	須恵器	大甕	-	(20.8)	-	長石・針状鉱物・礫	灰褐	普通	体部外面横位の平行叩き	竈覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP109	紡錘車	5.4	2.2	0.7	(58.3)	土(長石・石英・雲母)	断面台形 ナデ 一部欠損	床面	
DP110	紡錘車	5.0	2.2	[0.7]	(19.6)	土(長石・雲母・赤色粒子)	断面台形 ナデ 側面に浅い沈線1条 一部欠損	覆土上層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q63	紡錘車	4.1	1.9	0.8	49.7	滑石	断面台形 両面穿孔 上下面に同心円状の擦痕 側面に擦痕・線刻「本」「」	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M111	刀子	(17.0)	1.8	0.7	(23.9)	鉄	切先部・刃部・茎一部欠損 茎に柄木が残存	覆土下層	PL198
M112	刀子	(6.7)	1.3	0.4	(8.5)	鉄	刃部・茎一部欠損 両区	竈右袖部上	
M113	鎌	(5.5)	(1.2)	0.5	(4.6)	鉄	長頸鑿箭式カ 切先・箆被・茎部一部欠損 箆被にカヤ状炭化物付着	床面	PL196
M114	鎌	(10.0)	(4.0)	0.2	(23.4)	鉄	切先・基部欠損 表面にカヤ状炭化物付着	覆土下層	PL196
M115	手斧	8.9	4.8	2.2	(128.4)	鉄	袋部・刃部一部欠損 刃部は幅広 表面カヤ状炭化物付着	覆土下層	PL197
M117	不明鉄製品	(6.2)	0.5	0.7	(6.3)	鉄	断面長方形 「く」の字状に折れ曲がる	覆土下層	
M118	不明鉄製品	(4.8)	1.9	0.3	(10.1)	鉄	断面長方形	覆土下層	

番号	器種	径	長さ	器高	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M116	柄杓	[17.0]	(26.6)	(3.5)	(218.4)	青銅	中空の柄付 片口有り	覆土下層	潰れて一部溶解 PL199

第2071号住居跡(第514図)

位置 調査区中央部のB12i3区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2155号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.45m、短軸4.18mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は7~13cmで、外傾して立ち上がっている。

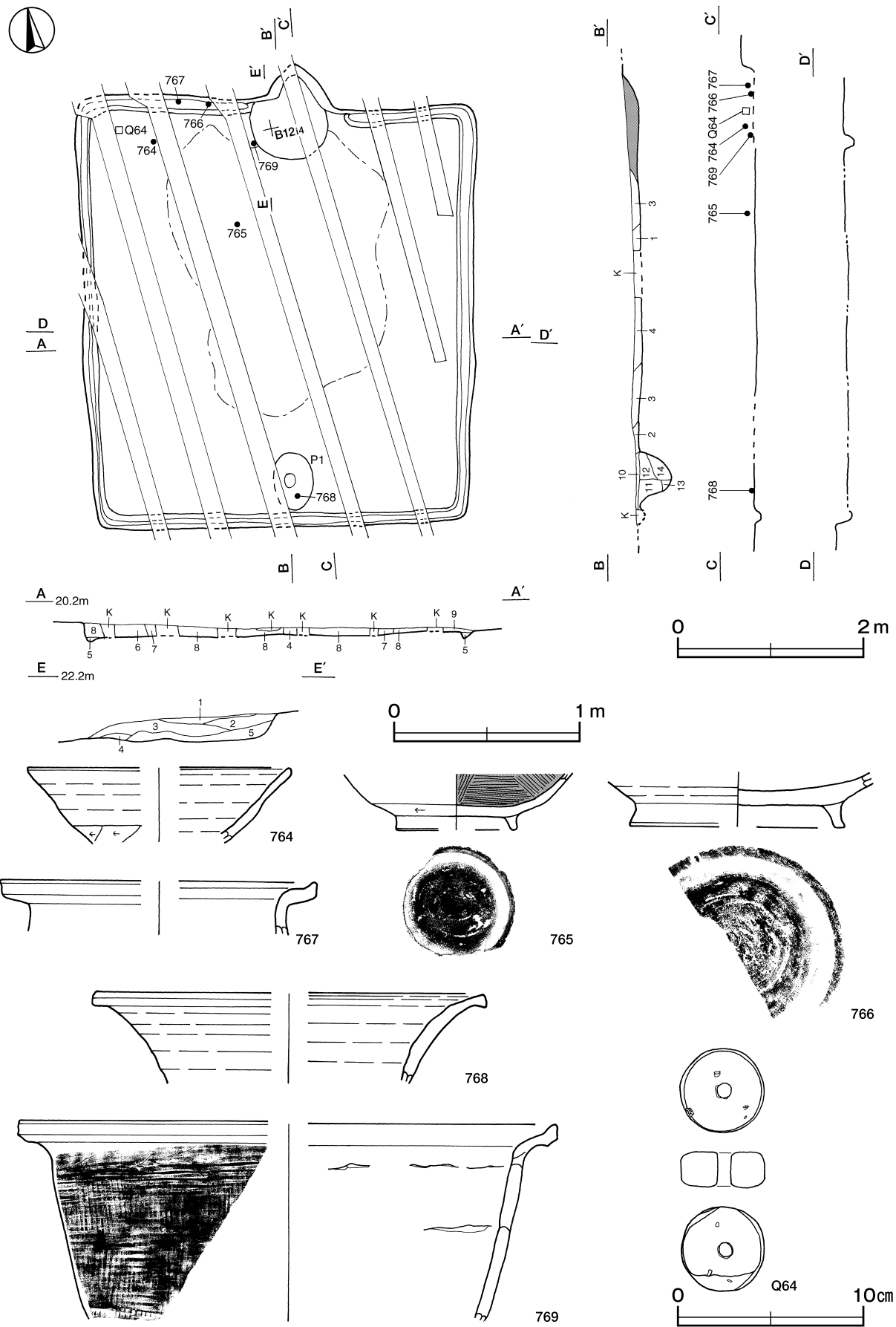
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで102cmで、袖部は確認されなかった。火床部は床面とほぼ同じ高さである。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

甕土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 | 5 褐灰色 | ロームブロック・砂少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、砂微量 | | |

ピット P1は南壁の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第514图 第2071号住居跡・出土遺物実測図

覆土 13層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第10～14層は出入口ピットの覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	10	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
5	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	13	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
7	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片195点(坏16, 高台付椀2, 甕類177), 須恵器片128点(坏21, 高台付坏6, 蓋4, 甕類94, 甌3), 石製品1点(紡錘車)が主に竈内と北西コーナー部を中心に出土している。764・766・767・Q64は北壁際の覆土中層, 769は竈前の床面から出土し, 時期判断の指標となる遺物である。また, 768は南壁際のPの覆土上層, 765は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2071号住居跡出土遺物観察表(第514図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
764	須恵器	坏	[14.0](4.0)	-	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	5%
765	土師器	高台付椀	-	(3.0)	[6.4]	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	70%
766	須恵器	盤	-	(3.0)	[11.4]	長石・石英・雲母・礫	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	70%
767	土師器	甕	[16.8](2.8)	-	-	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面ロクロナデ	覆土中層	5%
768	須恵器	甕	(20.8)(4.8)	-	-	長石・石英・礫	灰	普通	口辺部内外面ロクロナデ	覆土上層	5%
769	須恵器	甌	[28.3](10.5)	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面凝格子状の平行叩き内面輪積痕を残すナデ	床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q64	紡錘車	4.6	1.9	0.8	(54.6)	凝灰岩	断面長方形 両面穿孔	覆土中層	

第2078号住居跡(第515～519図)

位置 調査区南東部のD13b5区, 標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2063・2065号住居跡, 第361号掘立柱建物跡を掘り込み, 第2565号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.90m, 短軸4.50mの方形で, 主軸方向はN-5°-Eである。壁高は20～40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅8～22cm, 深さ4～8cm, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。砂質粘土などを主体とする褐色土・暗褐色土で構築した貼床である。

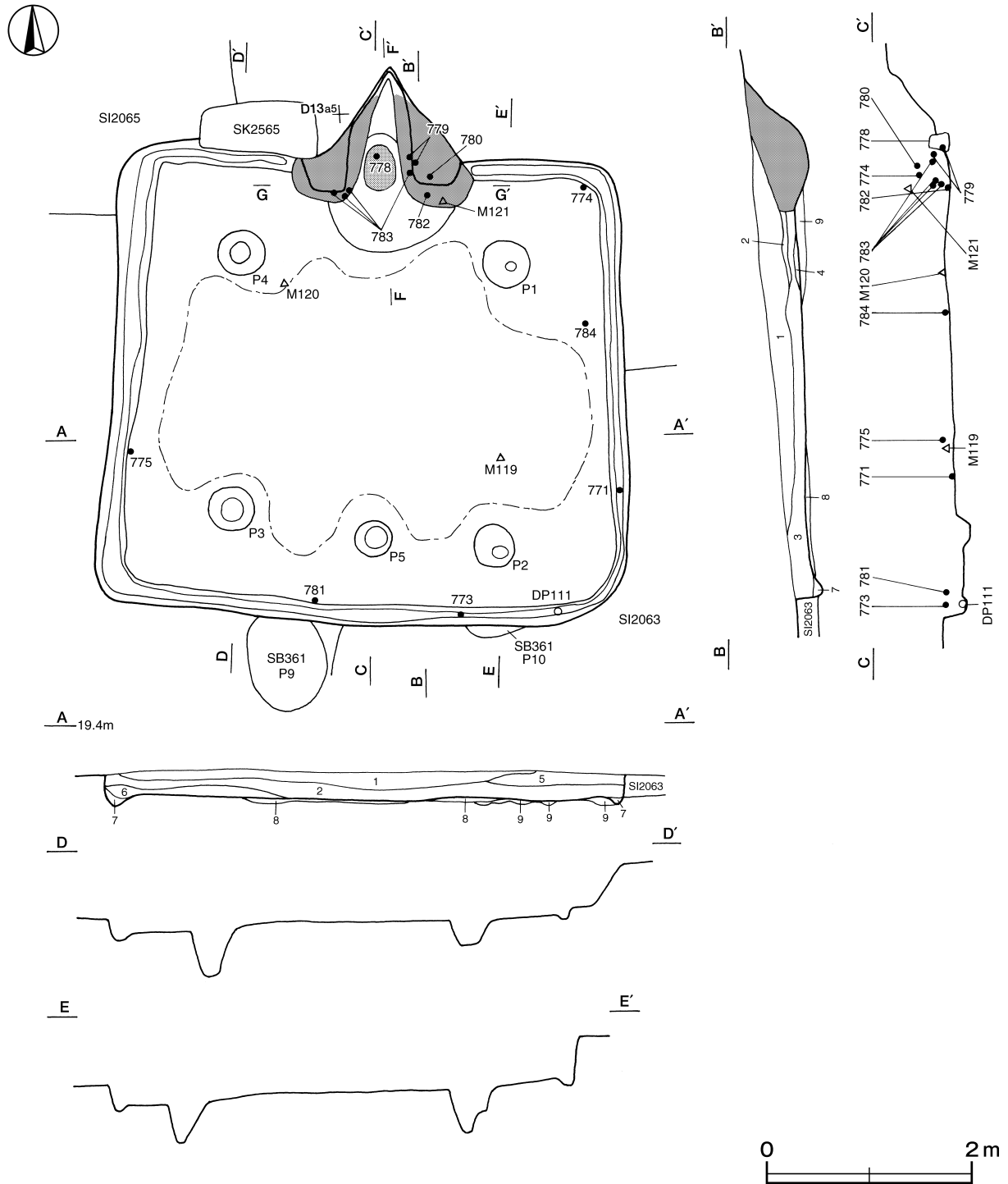
竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで180cm, 袖部幅178cmである。袖部はローム土と砂質粘土で構築され, 土師器甕と須恵器甕で補強されている。火床部は床面を20cm掘りくぼめており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に82cm掘り込まれ, 緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

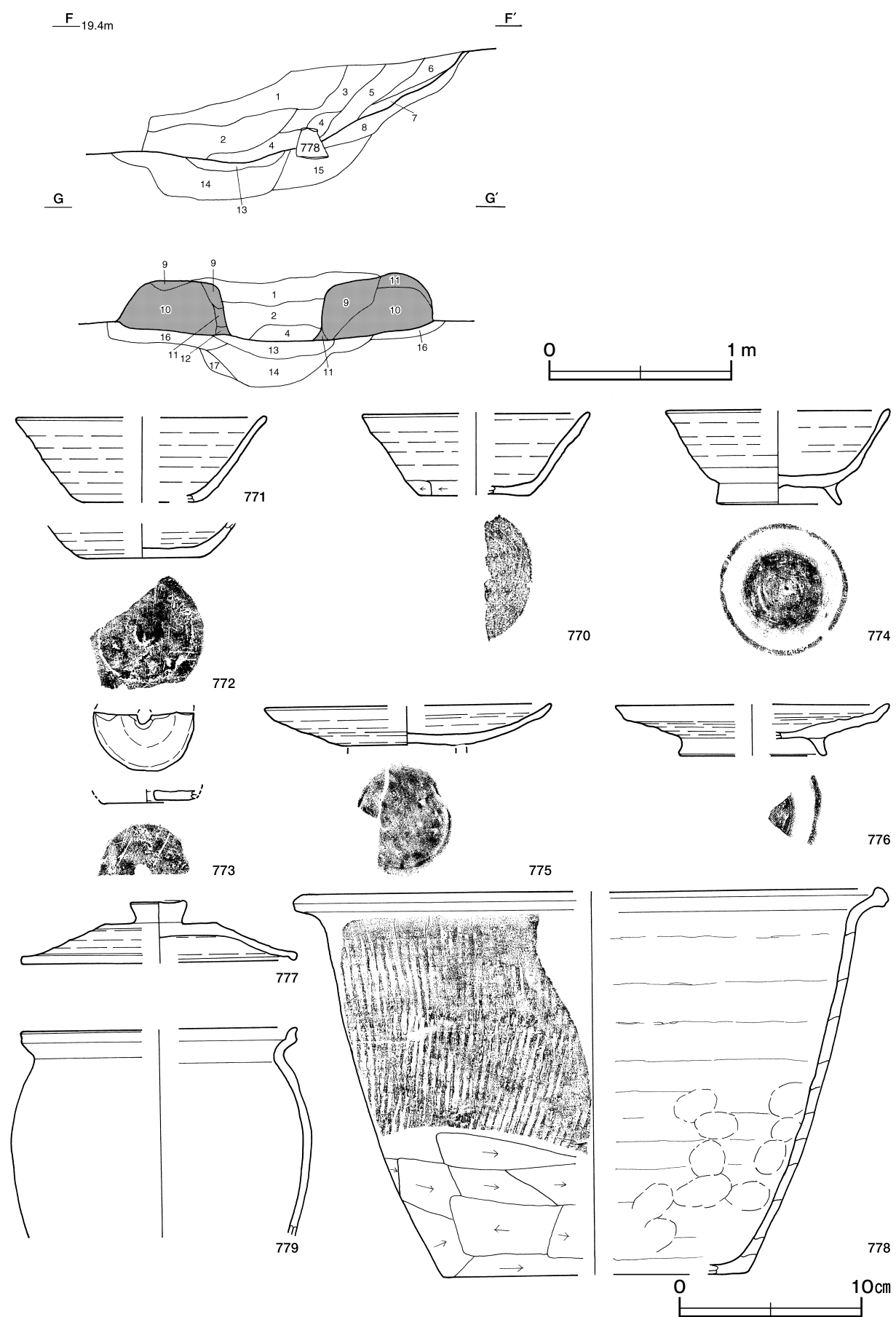
1	灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量	5	赤灰色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
2	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量	6	灰赤色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
3	灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	7	暗赤灰色	砂質粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量
4	暗赤灰色	炭化物中量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量	8	赤黒色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量
			9	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 10 灰褐色 砂質粘土ブロック多量 焼土ブロック・炭化物微量 | 14 灰赤色 砂質粘土ブロック中量 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 15 暗赤褐色 砂質粘土ブロック中量 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 12 明褐色 灰 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック微量 | 16 にぶい褐色 砂質粘土中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 13 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 17 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |

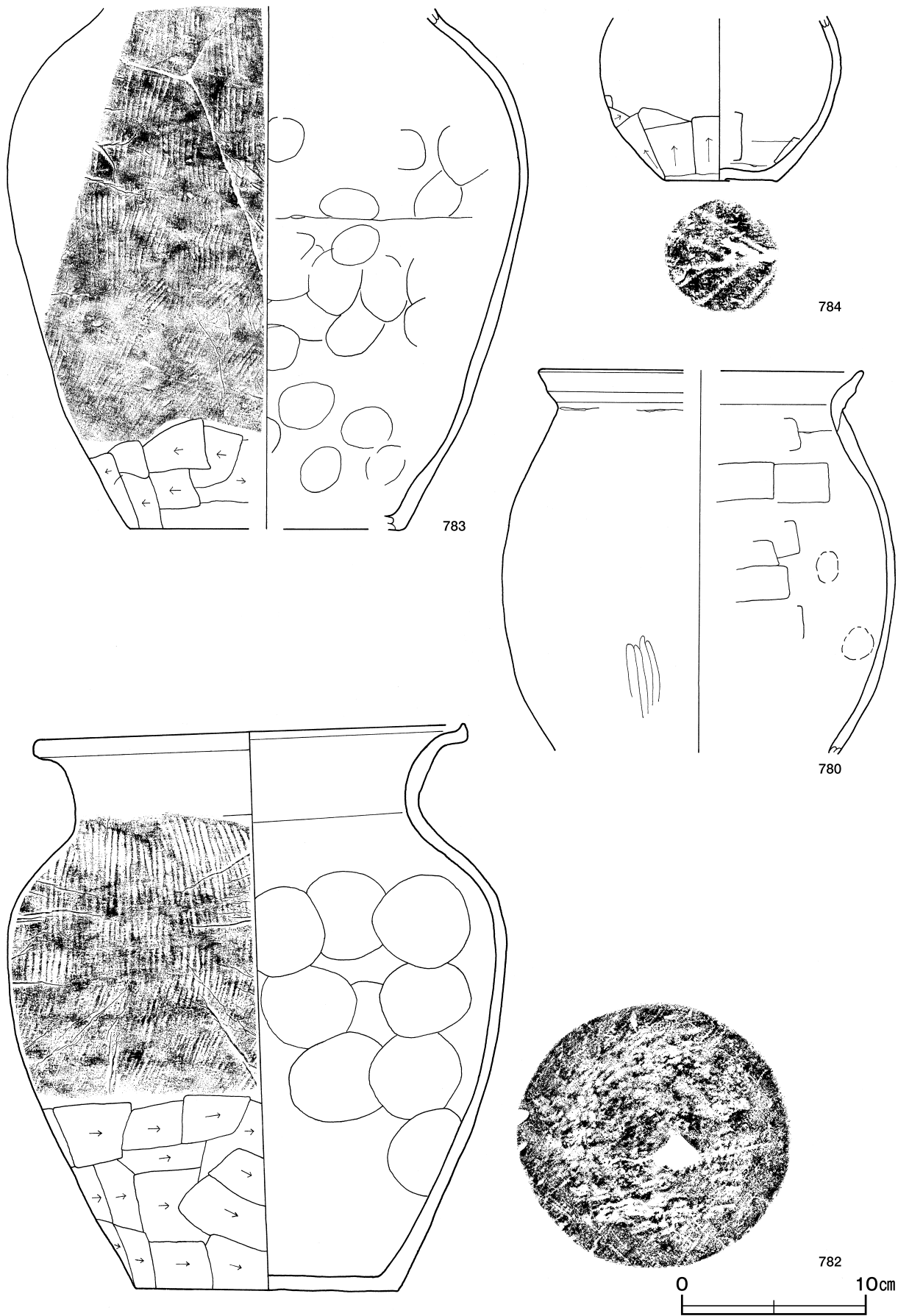
ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは28～48cmである。P5の深さは11cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。



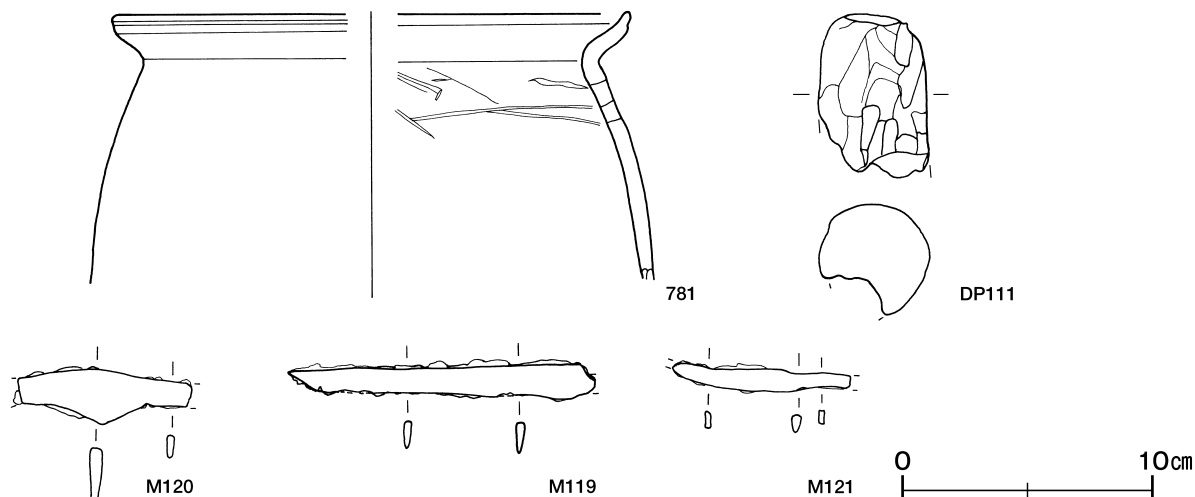
第515図 第2078号住居跡実測図



第516图 第2078号住居跡・出土遺物実測図



第517图 第2078号住居跡出土遺物実測図(1)



第518図 第2078号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 9層に分けられる。各層に砂質粘土ブロックを含む人為堆積と考えられる。第8・9層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量 | 6 灰褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 4 褐灰色 | 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量 | 8 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| | | 9 暗褐色 | 焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1454点（坏48，高台付椀3，皿1，蓋1，高坏1，甕類1398，甑2），須恵器片380点（坏158，高台付坏4，皿4，蓋16，壺2，甕類189，甑7），土製品1点（支脚），椀状滓3点のほか，混入した陶器片1点も出土している。遺物はほぼ全面から各層にわたって出土している。778は竈火床から逆位で出土し，支脚として転用されたものと考えられる。779・780・782・783はいずれも竈の袖部から逆位または破片で出土し，補強材に転用されたものと考えられ，時期判断の指標となる遺物である。774は北東コーナー部の覆土中層，771・784は東壁際の覆土下層，773・781は南壁際の覆土中層，DP111は溝の覆土下層，775は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土し，いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また，770は覆土中層，772はP2の覆土，776・777は覆土下層，M121は竈の右袖上，M119・M120は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

第2078号住居跡出土遺物観察表（第516～518図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
770	須恵器	坏	[12.2]	4.5	[6.1]	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向のヘラ削り	覆土中層	25%
771	須恵器	坏	[13.4]	4.6	[6.4]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り	覆土下層	10%
772	須恵器	坏	-	(1.8)	6.7	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	P2覆土	10%
773	須恵器	坏	-	(0.6)	4.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り 底部中央に穿孔	覆土中層	5% 有孔円盤に転用
774	土師器	高台付坏	[12.0]	5.1	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	55%
775	土師器	高台付皿	[15.5]	(2.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	覆土下層	60%
776	須恵器	盤	[14.8]	2.8	[7.8]	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	5%
777	須恵器	蓋	[14.8]	3.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土下層	30% 二次焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
778	須恵器	鉢	[31.6]	21.0	(16.4)	長石・石英・雲母	暗灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 下位手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残す横ナデ 指頭痕	竈火床面	40%
779	土師器	甕	[14.8]	(11.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ナデ	竈袖部	30%
780	土師器	甕	[17.4]	(20.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面輪積痕を残すナ デ下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ 指頭痕	竈袖部	25%
781	土師器	甕	[20.2]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	覆土中層	10%
782	須恵器	甕	22.9	30.7	14.3	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 下位手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残すナデ 当て具痕	竈袖部	95% PL184
783	須恵器	甕	-	(28.2)	[15.0]	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 下位手持ちヘラ削り 内面当て具痕	竈袖部	40%
784	土師器	小形甕	-	(8.8)	6.0	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面ナデ 下位手持ちヘラ削り 内面ヘラ ナデ 底部木葉痕	覆土下層	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP111	支脚	(6.4)	4.4	4.4	(89.5)	土 (長石)	外面ヘラナデ 一部残存	壁溝覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M119	刀子	(12.2)	1.4	0.4	(15.2)	鉄	茎欠損 棟区	覆土下層	
M120	刀子	(6.9)	2.2	0.4	(12.5)	鉄	切先・茎一部欠損	覆土下層	PL198
M121	刀子	(7.0)	0.9	0.4	(6.9)	鉄	切先・茎一部欠損 両区	竈右袖部	

第2079号住居跡 (第519・520図)

位置 調査区東部のC13h4区, 標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2085号住居跡を掘り込み, 第306号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.66m, 短軸3.55mの方形で, 主軸方向はN - 1 ° - Eである。壁高は25~38cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで94cm, 袖部幅132cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。掘り方の層に多量の焼土が確認できることから, 竈を作り替えたと考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部はほぼ直立している。

竈土層解説

1	黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	6	灰 褐 色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量
2	灰 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	7	明 褐 灰 色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量
3	黒 褐 色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	8	極 暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子少量
4	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量	9	灰 赤 色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量
5	灰 赤 色	ロームブロック・焼土粒子少量	10	に ぶ い 褐 色	ロームブロック中量, 炭化物少量
			11	に ぶ い 褐 色	ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量
			12	赤 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物微量
			13	に ぶ い 赤 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子少量
			14	明 褐 灰 色	砂質粘土粒子多量, 炭化物少量

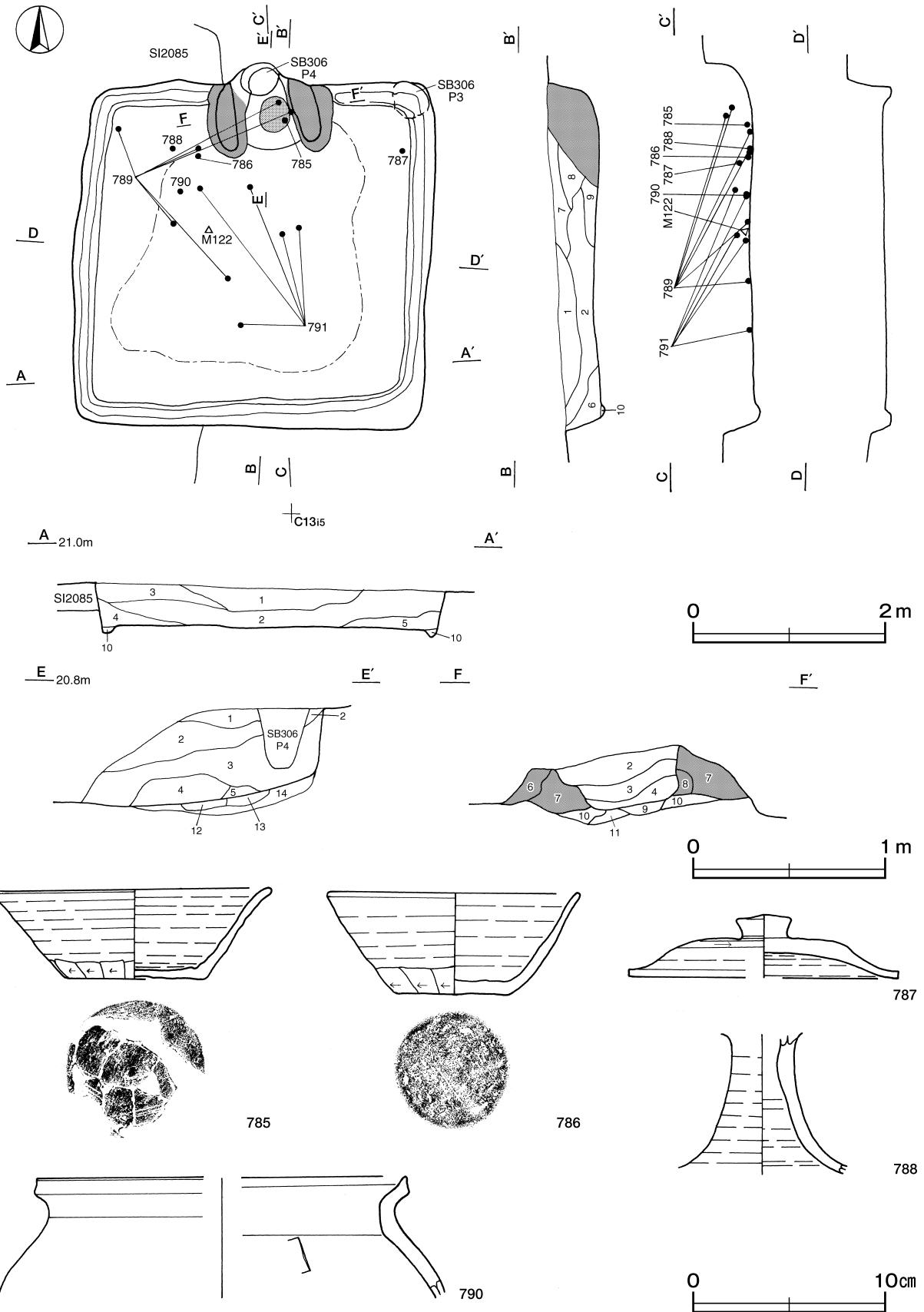
覆土 10層に分けられる。締まりが弱く, 各層にロームブロックを含む人為堆積と考えられる。

土層解説

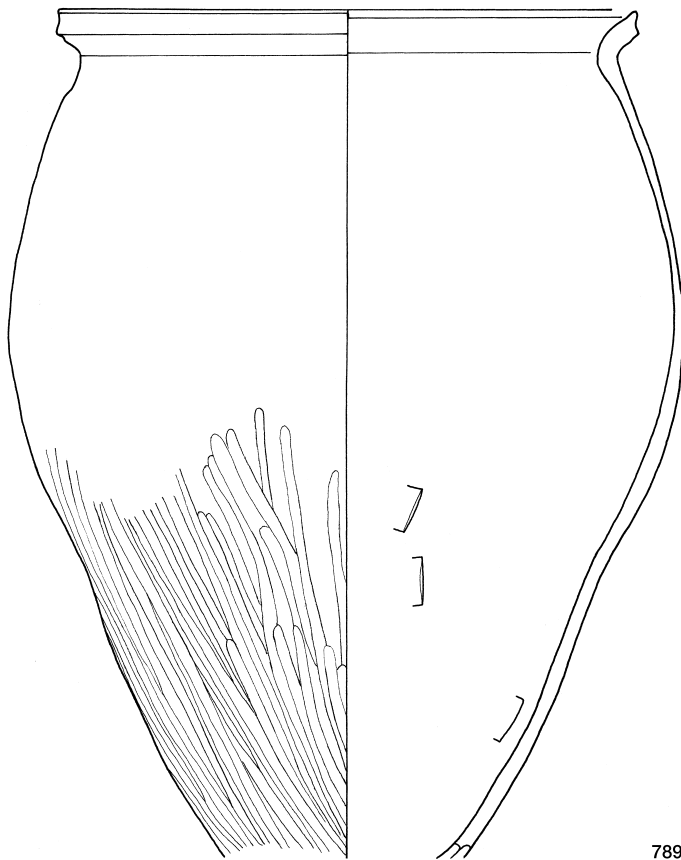
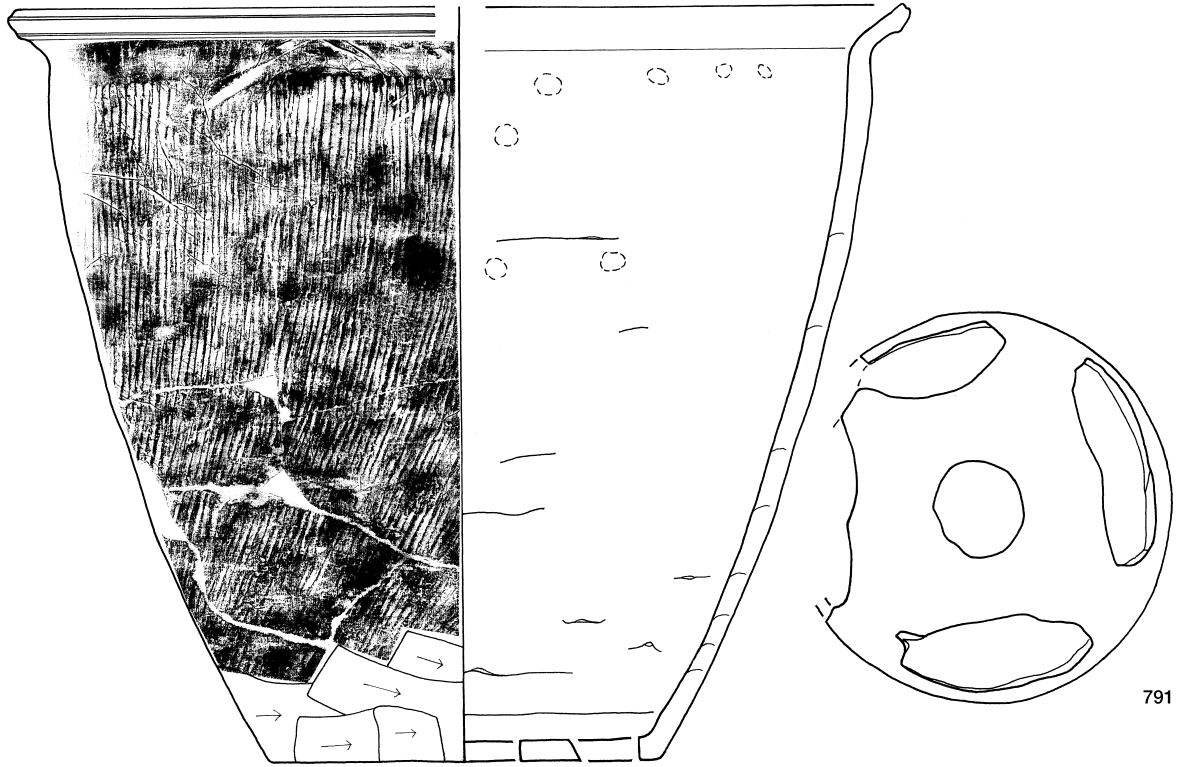
1	暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量	5	灰 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
2	灰 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	6	黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
3	黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量	7	暗 褐 色	ロームブロック中量
4	黒 褐 色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量	8	黒 褐 色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
			9	黒 褐 色	ロームブロック中量
			10	暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片323点(坏10, 甕類313), 須恵器片169点(坏68, 高台付坏1, 蓋17, 高盤1, 甕類72, 甕10), 鉄器1点(刀子) が出土している。遺物は竈内と中央部の覆土上層を中心に出土している。785は竈の火床面, 786・788は竈西側の床面, 787は東壁際の覆土下層から出土し, 時期判断の指標となる遺物である。789は竈の覆土中層と中央部から北東コーナーにかけての床面, 790・M122は中央部の床面, 791は中央部の覆土

中層から床面にかけて出土した破片が接合した資料で、いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。
所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第519図 第2079号住居跡・出土遺物実測図



第520图 第2079号住居跡出土遺物実測図

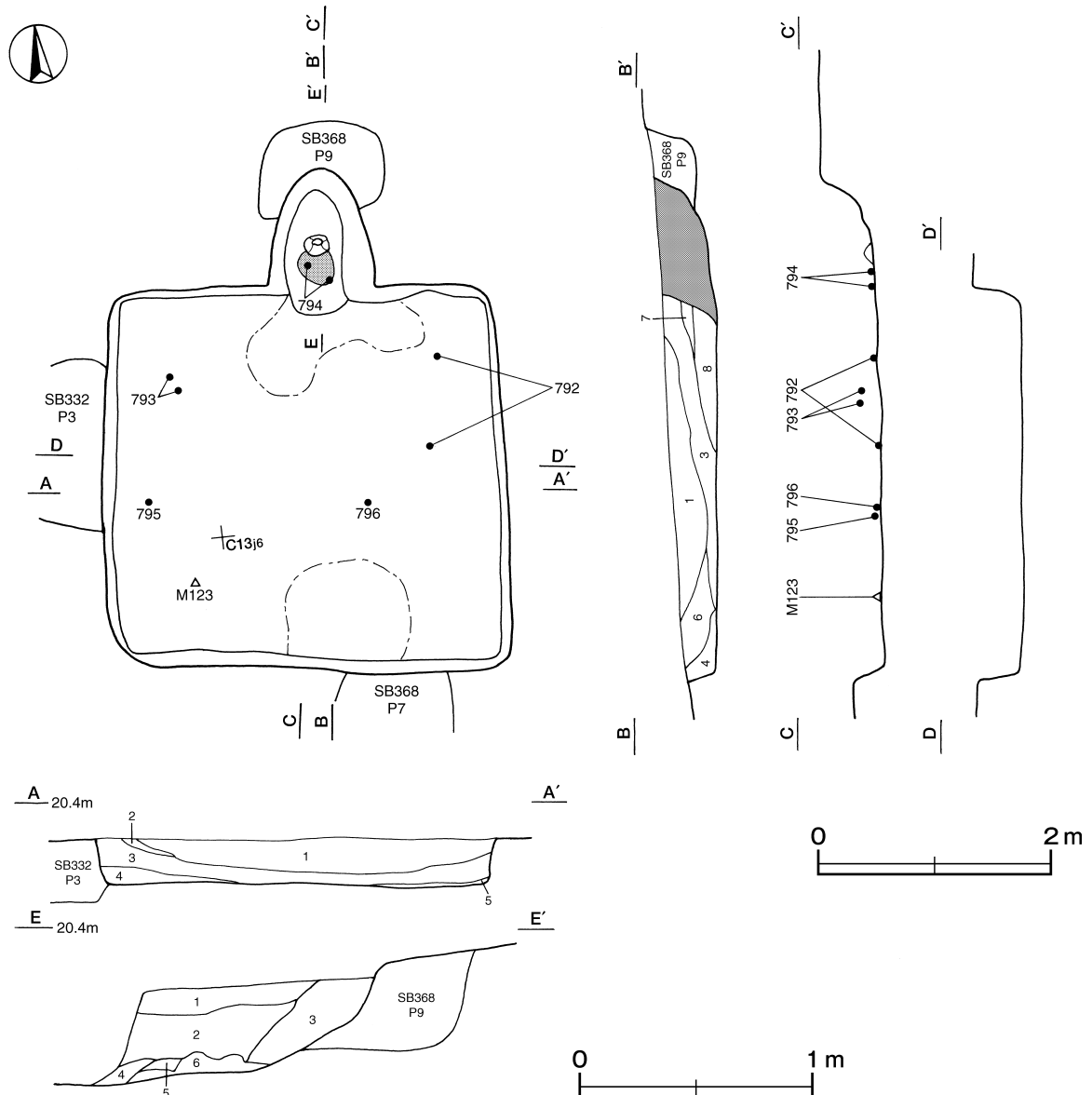
第2079号住居跡出土遺物観察表 (第519・520図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
785	須恵器	坏	14.0	4.6	7.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 二方向の手持ちヘラ削り	竈火床面	70% PL162
786	須恵器	坏	12.8	5.3	5.8	長石・石英・雲母・微礫	にぶい橙	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 二方向の手持ちヘラ削り	床面	90% PL162
787	須恵器	蓋	[14.0]	2.2	-	長石・石英・微礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土下層	70%
788	須恵器	高盤	-	(7.1)	-	長石・石英	灰	普通	脚部内外面ロクロナデ	床面	20%
789	土師器	甕	22.9	(33.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈覆土中層・床面	70%
790	土師器	甕	[18.8]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	5%
791	須恵器	甌	[35.0]	30.0	15.4	長石・石英・雲母・赤色粘土	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残すナデ 指頭痕 5孔式	覆土中層・床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M122	刀子	(12.7)	1.5	0.4	(20.0)	鉄	切先・刃部一部欠損 刃区有り 茎に柄の木材が付着	床面	PL198

第2080号住居跡 (第521~523図)

位置 調査区東部のC13i6区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。



第521図 第2080号住居跡実測図

重複関係 第332・368号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.46m，短軸3.24mの方形で，主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は26～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，竈前と南壁際の中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで126cmで，袖部は確認されてない。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に102cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | | |

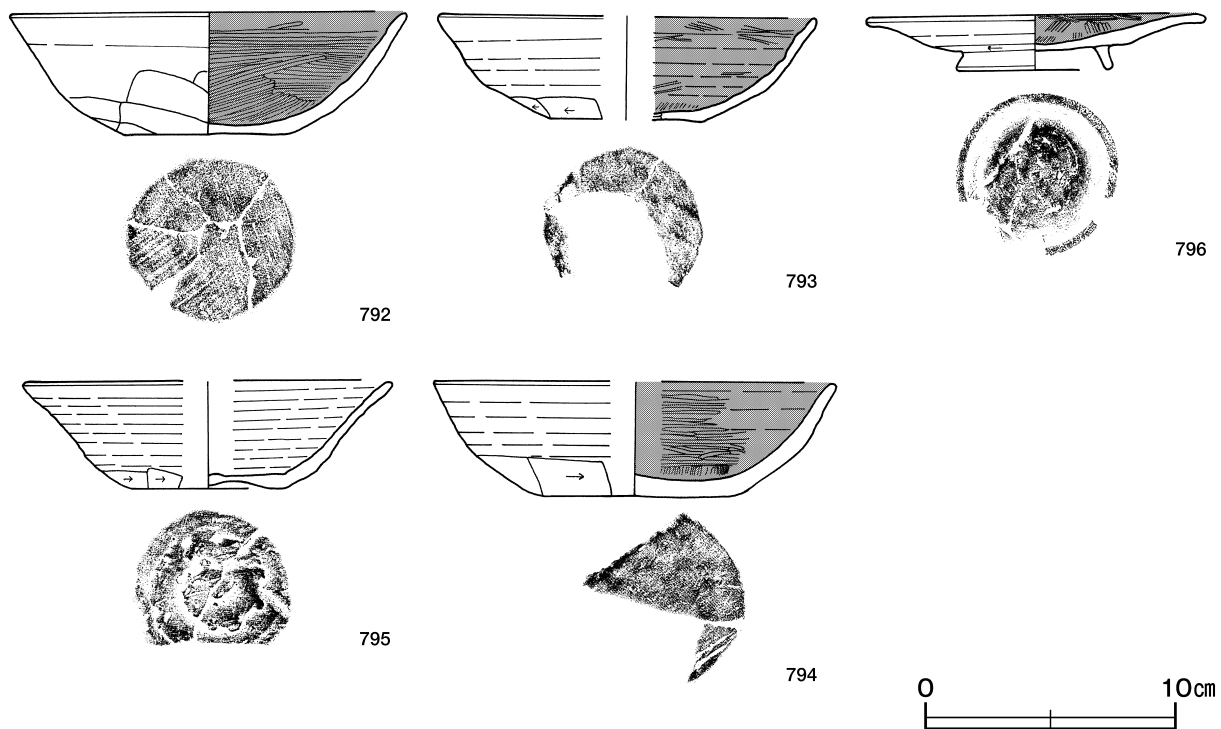
覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

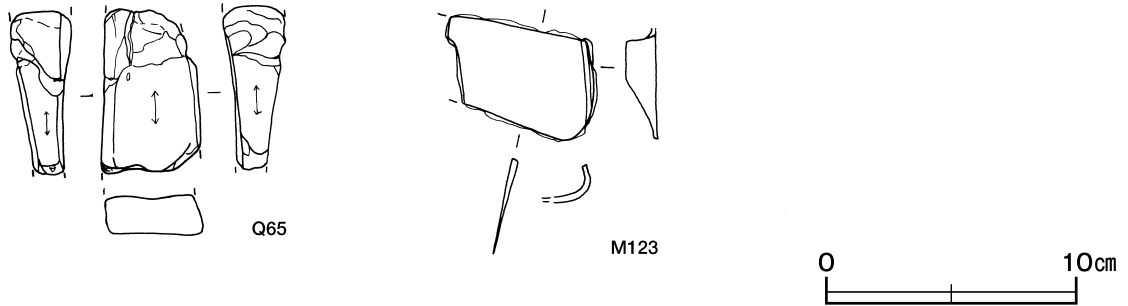
- | | | | |
|-------|----------------------|----------|----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 | 7 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片153点（坏29，高台付皿9，壺1，甕類114），須恵器片85点（坏31，高台付坏2，鉢7，甕類40，甌5），灰釉陶器片1点（長頸瓶），土製品1点（支脚），石器1点（砥石），鉄製品1点（不明）のほか，混入した縄文土器片1点，手捏土器片1点も出土している。遺物は主に竈内と中央部の覆土上層から下層にわたって出土している。794は竈の火床面，792は東壁寄りの床面，795は西壁寄りの床面からそれぞれ出土し，時期判定の指標となる遺物である。また，796は中央部の床面，793は西壁寄りの覆土中層，Q65は覆土，M123は南西コーナー寄りの床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第522図 第2080号住居跡出土遺物実測図(1)



第523図 第2080号住居跡出土遺物実測図(2)

第2080号住居跡出土遺物観察表 (第522・523図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
792	土師器	坏	15.5	4.9	6.6	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部回転へら切り後多方向の手持ちへら削り	床面	95% PL163
793	土師器	坏	[14.8]	4.1	[6.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部回転へら切り後二方向の手持ちへら削り	覆土中層	50%
794	土師器	坏	[15.8]	4.5	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面丁寧なへら磨き 底部回転へら切り後一方向の手持ちへら削り	竈火床面	25%
795	須恵器	坏	[14.4]	4.3	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	不良	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後一方向の手持ちへら削り	床面	55%
796	土師器	高台付皿	13.1	2.2	6.2	長石・石英	石英・長石	普通	体部内面へら磨き 底部回転へら切り後高台貼り付け	床面	95% PL167

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q65	砥石	(6.5)	3.9	2.5	(64.3)	凝灰岩	砥面3面 一部欠損	覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M123	鎌	(5.8)	4.0	0.25	(31.3)	鉄	刃部・基部一部欠損	床面	

第2081号住居跡 (第524・525図)

位置 調査区南部のD12c1区、標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2116号住居跡、第350・394号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.24m、短軸3.22mの方形で、主軸方向はN-78°-Eである。壁高は20~44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅6~12cm、深さ4~9cmで、U字状の断面形を呈する壁溝が巡っている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで112cm、袖部幅114cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を20cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に68cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

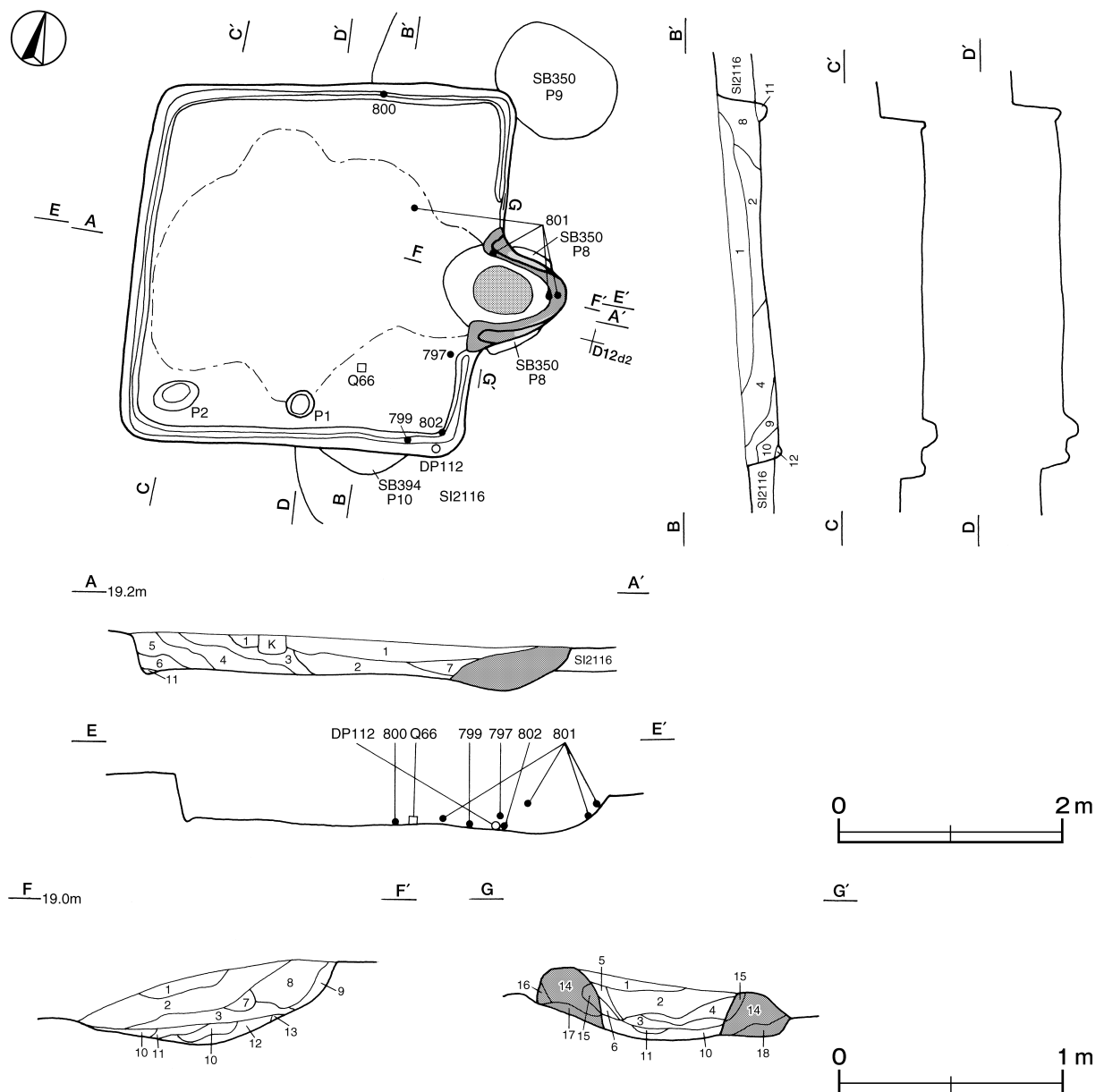
1	灰 褐色	砂質粘土ブロック中量,炭化物少量,ロームブロック・焼土ブロック微量	10	暗 赤 褐色	焼土ブロック中量,ロームブロック少量
2	褐 灰色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量	11	灰 褐色	砂質粘土粒子中量,ロームブロック少量,焼土ブロック微量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物 少量	12	赤 褐色	焼土ブロック少量
4	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量,ロームブロック・焼土ブロック微量	13	褐 灰色	砂質粘土ブロック中量,ロームブロック微量
5	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量,ロームブロック微量	14	明 褐 灰色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
6	暗 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量	15	明 褐 灰色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量,ロームブロック微量
7	灰 褐色	砂質粘土粒子多量,焼土ブロック少量	16	黒 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量
8	暗 赤 褐色	焼土ブロック中量,砂質粘土ブロック少量	17	灰 褐色	砂質粘土ブロック中量,ロームブロック微量
9	灰 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量,焼土ブロック・炭化物微量	18	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量,ロームブロック・焼土ブロック微量

ピット 2か所。P1は深さ11cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから見て出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さは16cmであるが、性格は不明である。

覆土 12層に分けられる。各層に砂質粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

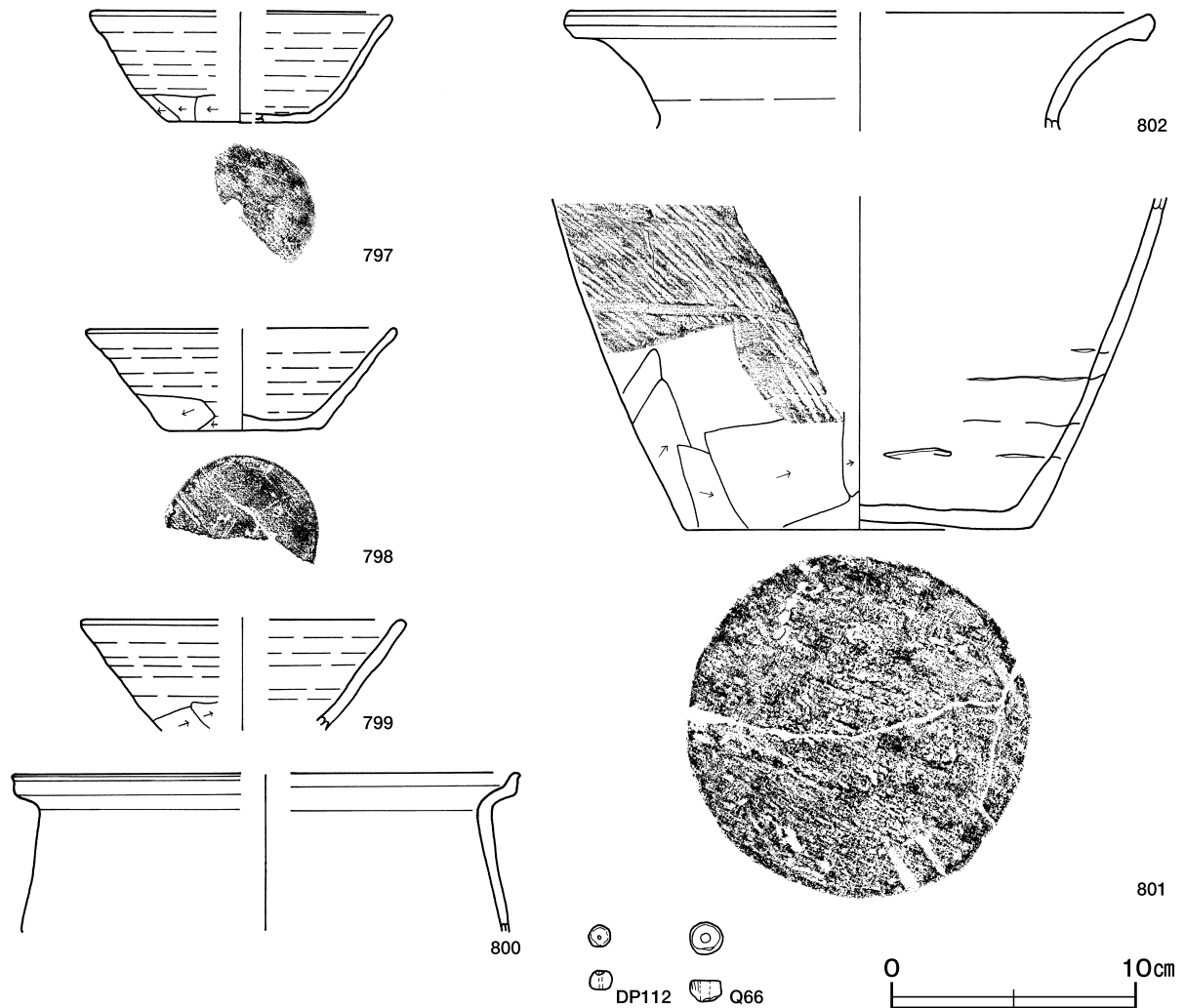
- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量 | 8 黒褐色 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 炭化物中量，砂質粘土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量 | 11 にぶい褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量，炭化物微量 | 12 褐灰色 砂質粘土ブロック中量，炭化物少量，ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 | |
| 7 暗褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量 | |



第524図 第2081号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片213点(坏8, 甕類205), 須恵器片89点(坏41, 蓋2, 甕類46), 土製品2点(小玉, 支脚), 石器1点(砥石), 石製品1点(白玉)のほか, 混入した陶器片1点も出土している。遺物は主に竈と南部の覆土上層から下層にわたって出土している。797は東壁際, 800は北壁際の覆土下層, 799・802・DP112は南東コーナー際の覆土下層からそれぞれ出土し, 時期判断の指標となる遺物である。801は竈の覆土上層から中層にかけてと中央部の床面から出土した破片が接合した資料である。また, 798は竈の覆土, Q66は南壁寄りの床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第525図 第2081号住居跡出土遺物実測図

第2081号住居跡出土遺物観察表(第525図)

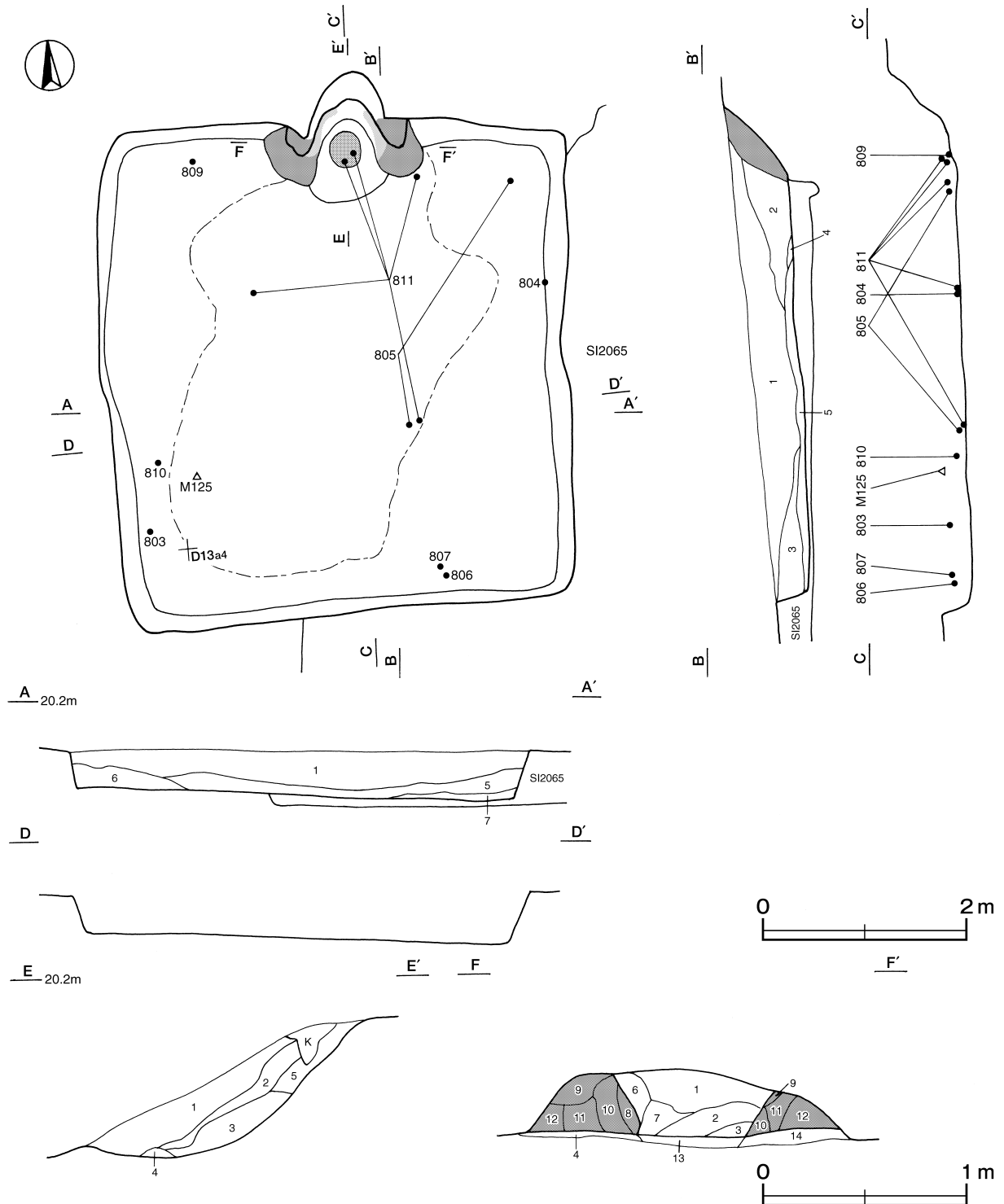
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
797	須恵器	坏	[12.1]	4.5	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後 一方の手持ちへら削り径0.6cmの穿孔有り	覆土下層	20% 二次焼成
798	須恵器	坏	[12.2]	4.2	6.4	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後 一方の手持ちへら削り	竈覆土	20%
799	須恵器	坏	[13.0]	(4.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへら削り	覆土下層	5%
800	土師器	甕	[20.3]	(6.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ナデ	覆土下層	50%
801	須恵器	甕	-	(13.5)	14.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	不良	体部外面斜位の平行叩き 下端手持ちへら削り 内面 輪積痕を残す横ナデ 底部多方向のへら削り後ナデ	竈覆土上層・中層・床面	30%
802	須恵器	甕	[23.6]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	内外面煤付着	覆土下層	5%

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP112	小玉	0.9	0.75	0.15	0.7	土(長石)	ナデ	覆土下層	PL190

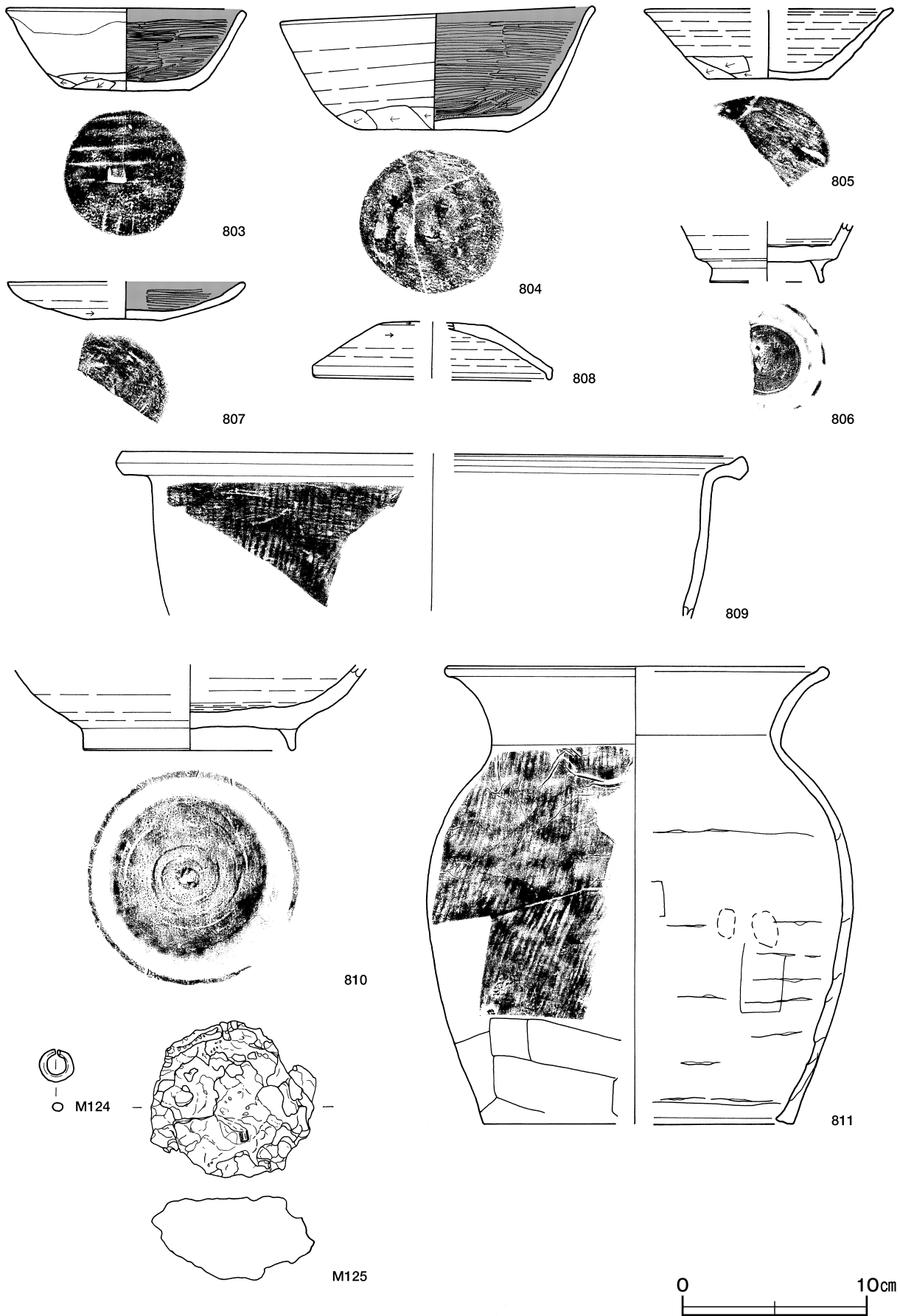
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q66	白玉	1.3	(0.9)	0.3	(1.9)	滑石	側面は円筒状 一部欠損	床面	PL194

第2084号住居跡 (第526・527図)

位置 調査区南東部のC13j4区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。



第526図 第2084号住居跡実測図



第527图 第2084号住居跡出土遺物実測図

重複関係 第2065号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.85m, 短軸4.50mの方形で, 主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は38~48cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで130cm, 袖部幅154cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量	6 赤褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	7 灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量
3 灰赤色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量	8 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量
4 暗赤灰色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック微量	10 灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子微量
		11 灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子微量
		12 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量, 炭化物微量
		13 にぶい褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量
		14 暗褐色	炭化物・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

覆土 7層に分けられる。粘土ブロックを多量に含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量	5 黒褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2 灰褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量	6 灰褐色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	7 灰褐色	炭化材・砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
4 褐灰色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片759点(坏69, 高台付椀7, 皿1, 甕類682), 須恵器片391点(坏124, 高台付坏11, 蓋6, 盤6, 高盤3, 鉢9, 壺1, 甕類214, 甌17), 灰釉陶器片4点(壺), 銅製品1点(耳環), 鉄滓3点のほか, 混入した土師器片1点(器台), 青磁片1点も出土している。遺物はほぼ全面の覆土上層から下層にわたって出土しており, 多くは住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。804は東壁際の床面, 809は北壁寄りの床面から出土し, 時期判断の指標となる遺物である。811は竈の覆土下層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合した資料である。805は北東コーナー部と中央部の床面, 806・807は南壁際の覆土中層, 803・810・M125は西壁寄りの覆土中層から下層, M124は覆土下層, 808は覆土からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2084号住居跡出土遺物観察表(第527図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
803	土師器	坏	12.6	4.5	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面丁寧なヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土中層~下層	95% PL163
804	土師器	坏	16.8	6.9	7.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面丁寧なヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	床面	90%
805	須恵器	坏	[13.4]	3.8	6.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	床面	35%
806	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	[6.1]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	25%
807	土師器	皿	[12.8]	2.0	3.8	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面横ナデ 下端回転ヘラ削り 内面ヘラ 磨き 底部回転ヘラ切り	覆土中層	40%
808	須恵器	蓋	-	(3.1)	[12.6]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	20%
809	須恵器	甌	[33.4]	(8.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ	床面	10%
810	須恵器	壺	-	(4.6)	11.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層~下層	15%
811	須恵器	甌	20.5	24.6	(16.7)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残すヘラナデ 指頭痕	竈土下層~覆土下層	40%

番号	器種	長径	短径	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M124	耳環	1.8	1.8	0.4	3.9	銅	表面に緑青が付着	覆土下層	PL196

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M125	鉄滓	8.8	8.8	4.4	398.9	鉄	凸面の中央部突出 凹面の中央部がくぼむ 皿状	覆土中層	PL198

第2085号住居跡（第528～531図）

位置 調査区東部のC13h3区、標高21mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2066号住居跡を掘り込み、第2079号住居、第306・420号掘立柱建物、第2087号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.80m、短軸6.46mの方形で、主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は8～48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅11～20cm、深さ5～8cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南壁際の中央部からは土手状の高まりが確認され、P5を囲むように配置されていることから、出入口施設に伴うものと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで176cm、袖部幅190cmである。袖部はローム土と砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	11	明褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	明褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量	12	赤褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量
3	灰褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	13	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
4	灰褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	14	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量
5	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック中量
6	灰赤色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土ブロック微量	16	赤灰色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量
7	灰赤色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量	17	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量
8	灰赤色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子少量	18	灰赤色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
9	にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量	19	にぶい赤褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
10	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	20	暗赤灰色	焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土ブロック・灰微量
			21	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量
			22	極暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
			23	灰赤色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
			24	極暗赤褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さ40～60cmである。P5は深さ32cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

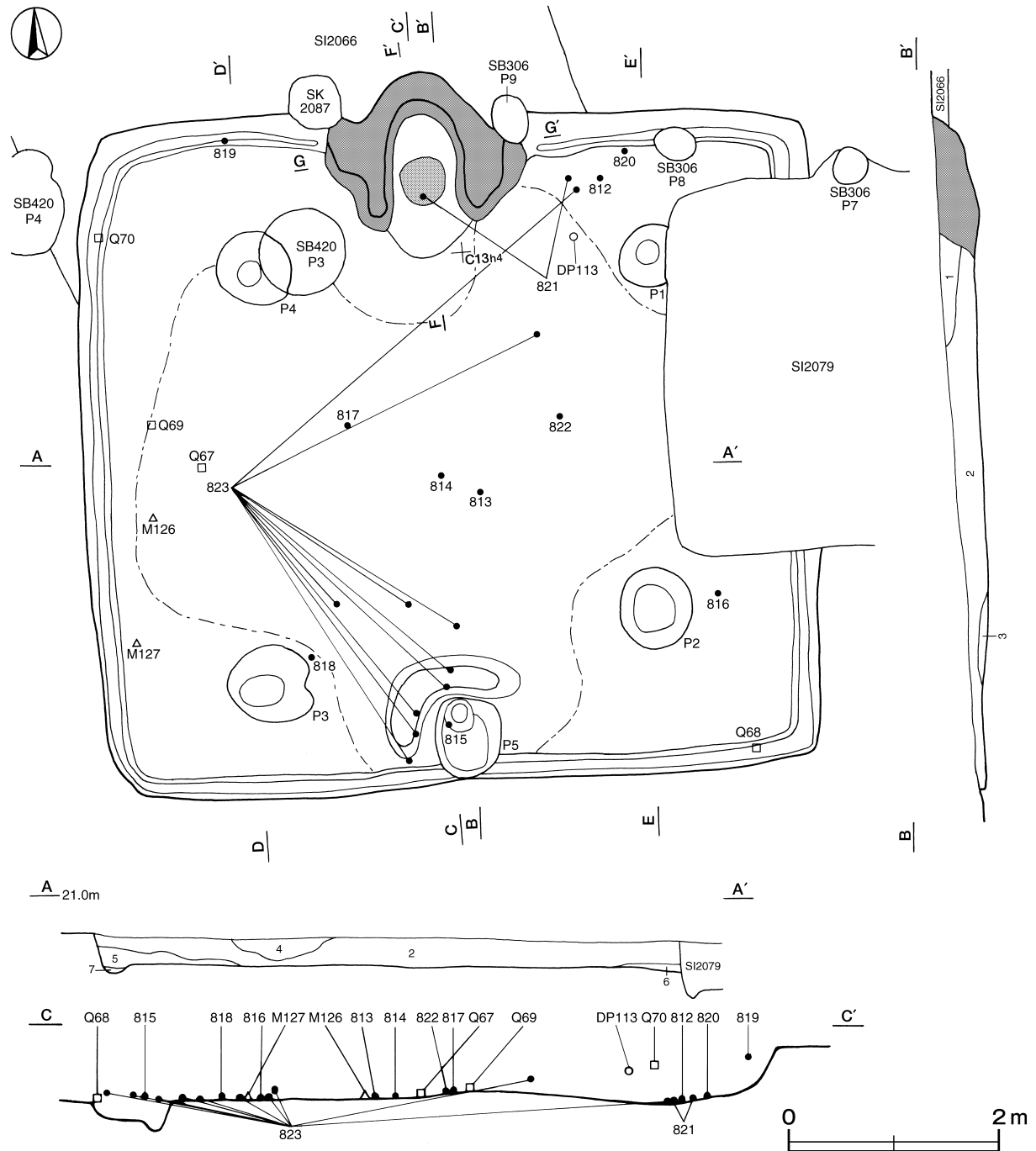
土層解説

1	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量	5	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	6	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック微量
4	褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量			

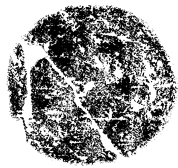
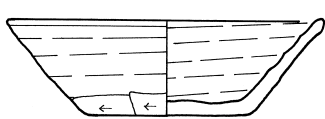
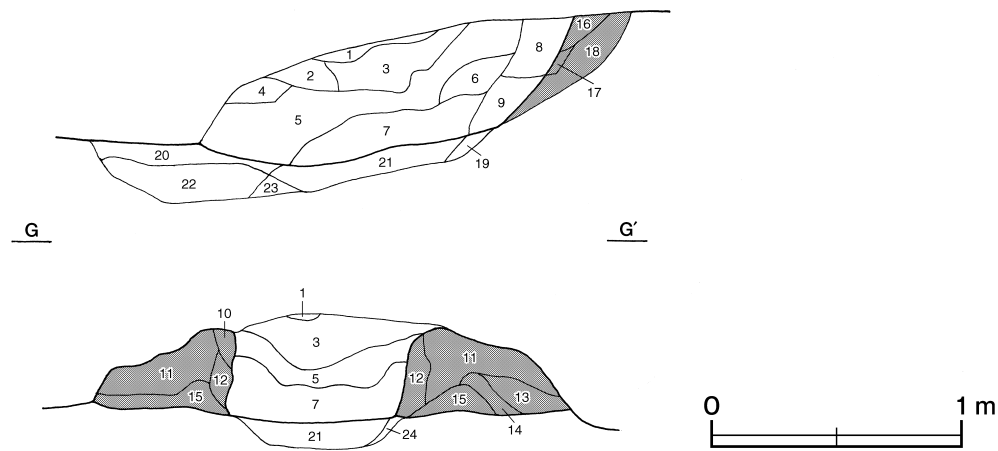
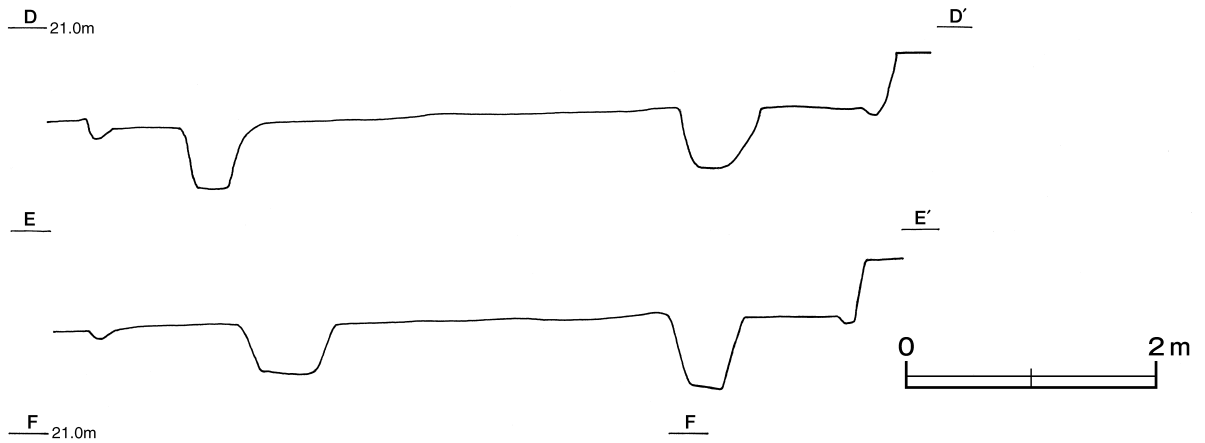
遺物出土状況 土師器片705点（坏類32、甕類673）、須恵器片390点（坏類152、高台付坏5、盤3、蓋15、高盤1、甕類182、甗32）、灰釉陶器1点（長頸壺）、土製品3点（紡錘車1、支脚2）、石器・石製品3点（紡錘車、砥石2）、鉄器・鉄製品3点（刀子、鎌、紡錘車）のほか、混入した陶器片1点も出土している。遺物は

中央部の覆土上層に集中している。812・820は北壁際の床面，821は竈火床と床面，Q68は南壁際の覆土下層，Q70，M126・M127は西壁際の床面からそれぞれ出土し，時期判断の指標となる遺物である。813・814・817・822・Q67は中央部の床面，816は東壁寄り，818は南壁寄りの床面から出土している。また，823は北壁寄りの床面と中央部と南壁寄りの覆土下層から床面，815はP5上の覆土下層から出土し，住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また，819は北壁際の覆土上層，DP113は北壁寄りの覆土上層，Q70は西壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



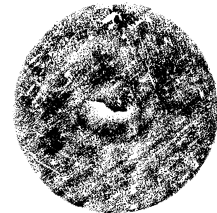
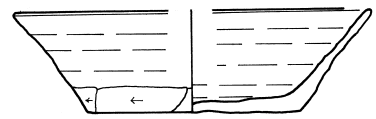
第528図 第2085号住居跡実測図



812



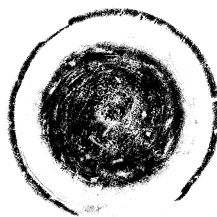
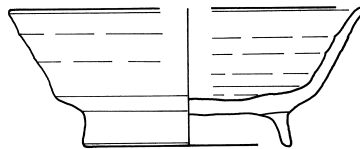
813



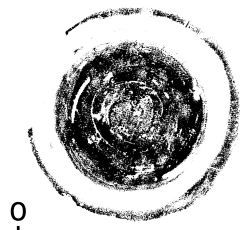
814



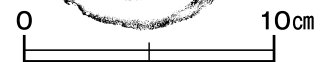
815



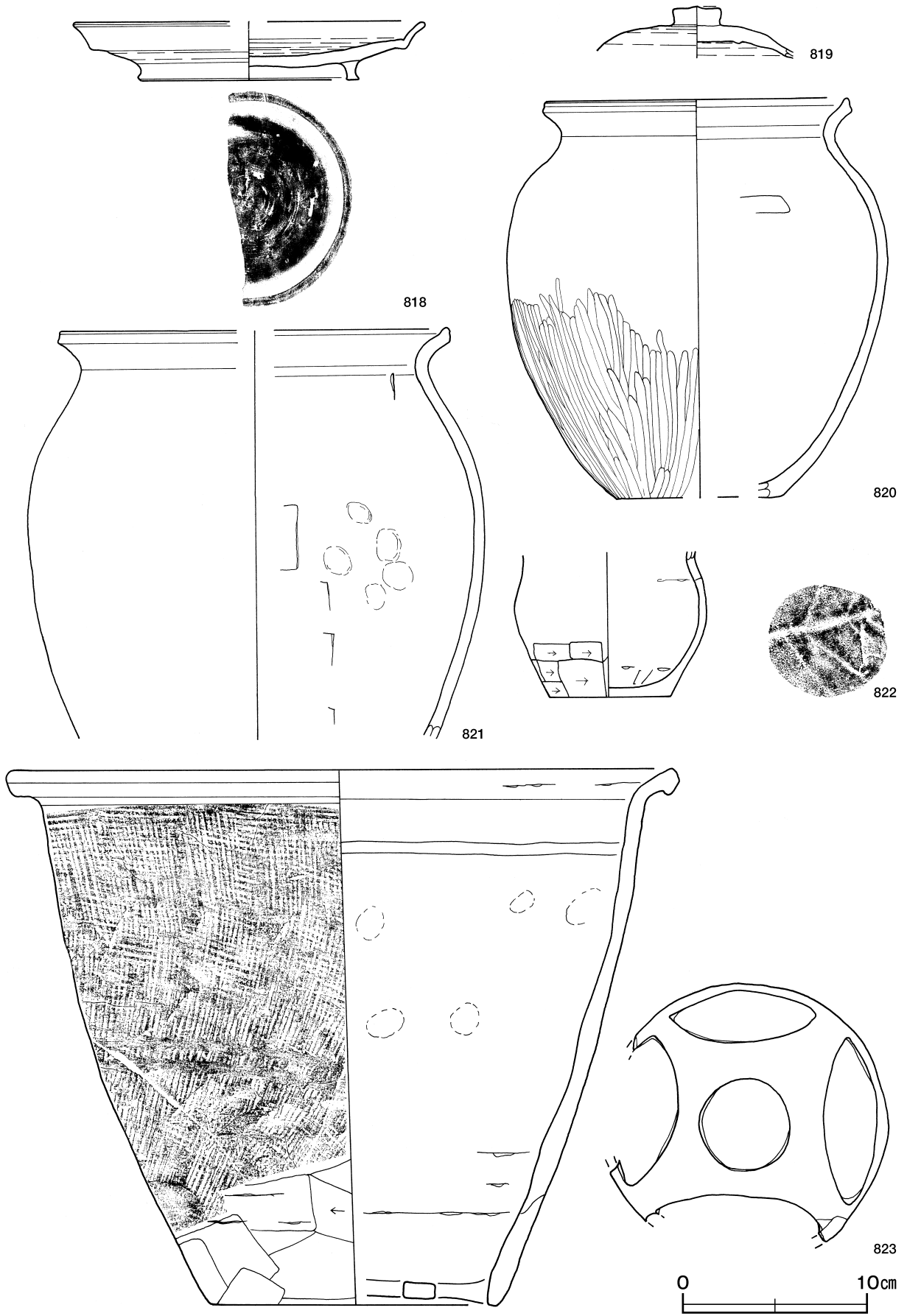
816



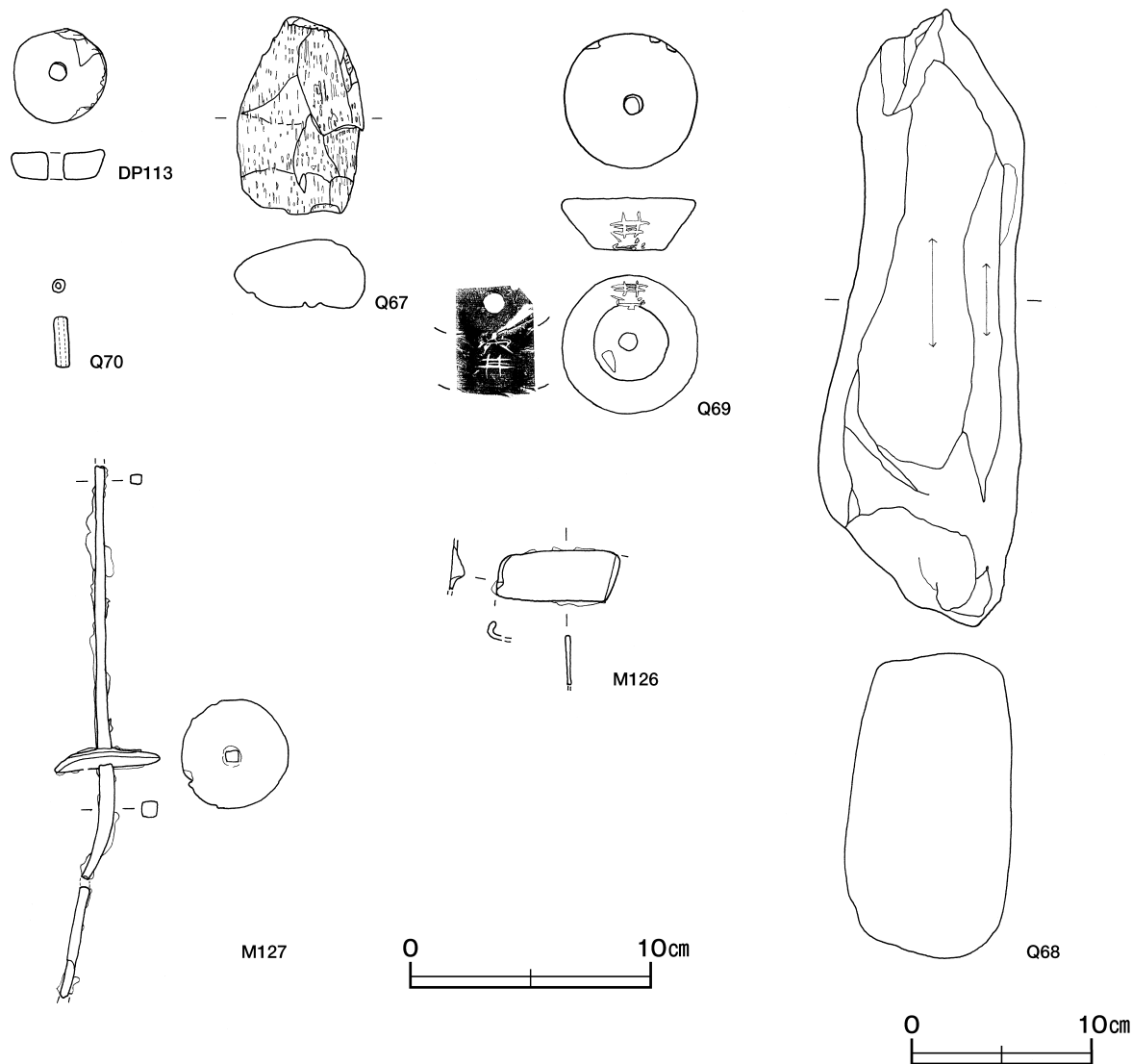
817



第529图 第2085号住居跡・出土遺物実測図



第530图 第2085号住居跡出土遺物実測図(1)



第531図 第2085号住居跡出土遺物実測図(2)

第2085号住居跡出土遺物観察表 (第529 ~ 531図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
812	須恵器	坏	12.6	3.9	6.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	床面	80% PL163
813	須恵器	坏	13.2	4.4	7.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面回転ヘラ切り後 一方向のヘラ削り	床面	70% PL163
814	須恵器	坏	[14.0]	4.1	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面回転ヘラ切り後 多方向の手持ちヘラ削り	床面	60%
815	須恵器	坏	[14.4]	4.2	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	底面回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土下層	30%
816	須恵器	高台付坏	[13.8]	5.4	8.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底面回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	60%
817	須恵器	盤	[13.8]	3.4	8.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底面回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	80%
818	須恵器	盤	[18.6]	3.1	11.6	長石・石英	黄灰	普通	底面回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	50%
819	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土上層	40%
820	土師器	甕	16.2	21.5	[9.0]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面煤付着 下半ヘ ラ磨き 内面ナデ	床面	80%
821	土師器	甕	[20.8]	[22.0]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナ デ 指頭痕	竈火床 - 床面	30%
822	土師器	小形甕	-	(7.8)	6.5	長石・石英・雲母・微礫	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残すヘ ラナデ 底部木葉痕	床面	70%
823	須恵器	甌	35.7	29.1	15.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面縦位横位の平行叩 き 下位ヘラ削り 内面輪積痕を残すヘラナデ	覆土下層 - 床面	80% 5孔式 PL187

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP113	紡錘車	3.9	1.2	0.7	(22.2)	土 (長石)	断面台形 一部欠損	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q67	軽石	8.2	5.3	2.8	35.4	軽石	砥面 2面	床面	砥石転用カ
Q68	砥石	34.0	11.2	16.9	9380	雲母片岩	砥面 1面	覆土下層	PL195

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q69	紡錘車	5.6	2.2	0.8	80.1	粘板岩	断面台形 二方向からの穿孔 一部欠損	床面	刻書「穴井」

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q70	管玉	2.0	0.5	0.2	0.9	滑石	両面穿孔	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M126	鎌	(4.6)	(2.1)	0.25	(14.4)	鉄	刃部・基部一部残存 左利き用	床面	

番号	器種	全長	軸断面径	紡錘車径	紡錘車厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M127	紡錘車	(21.8)	0.4~0.6	4.4	0.2	(40.2)	鉄	軸部断面方形 端部欠損	床面	PL196

第2087号住居跡 (第532・533図)

位置 調査区南東部のD13b3区、標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2083号住居跡を掘り込み、第2066号土坑(火葬土坑)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.40m、短軸4.25mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は27~55cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで142cm、袖部幅144cmである。火床部は床面を5cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に76cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第6・10層は天井部の崩落土、第15層は天井部、第16層は煙道部の構築土である。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ロームブロック微量	9 暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量、ローム粒子微量
2 黒褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量	10 赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土ブロック少量
3 灰白色	炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	11 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量	12 にぶい橙色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
5 赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック微量	13 極暗赤褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
6 赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量	14 灰白色	砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
7 暗赤灰色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	15 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
8 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	16 赤褐色	焼土ブロック多量
		17 明褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック微量
		18 赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量、ロームブロック微量

ピット 深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

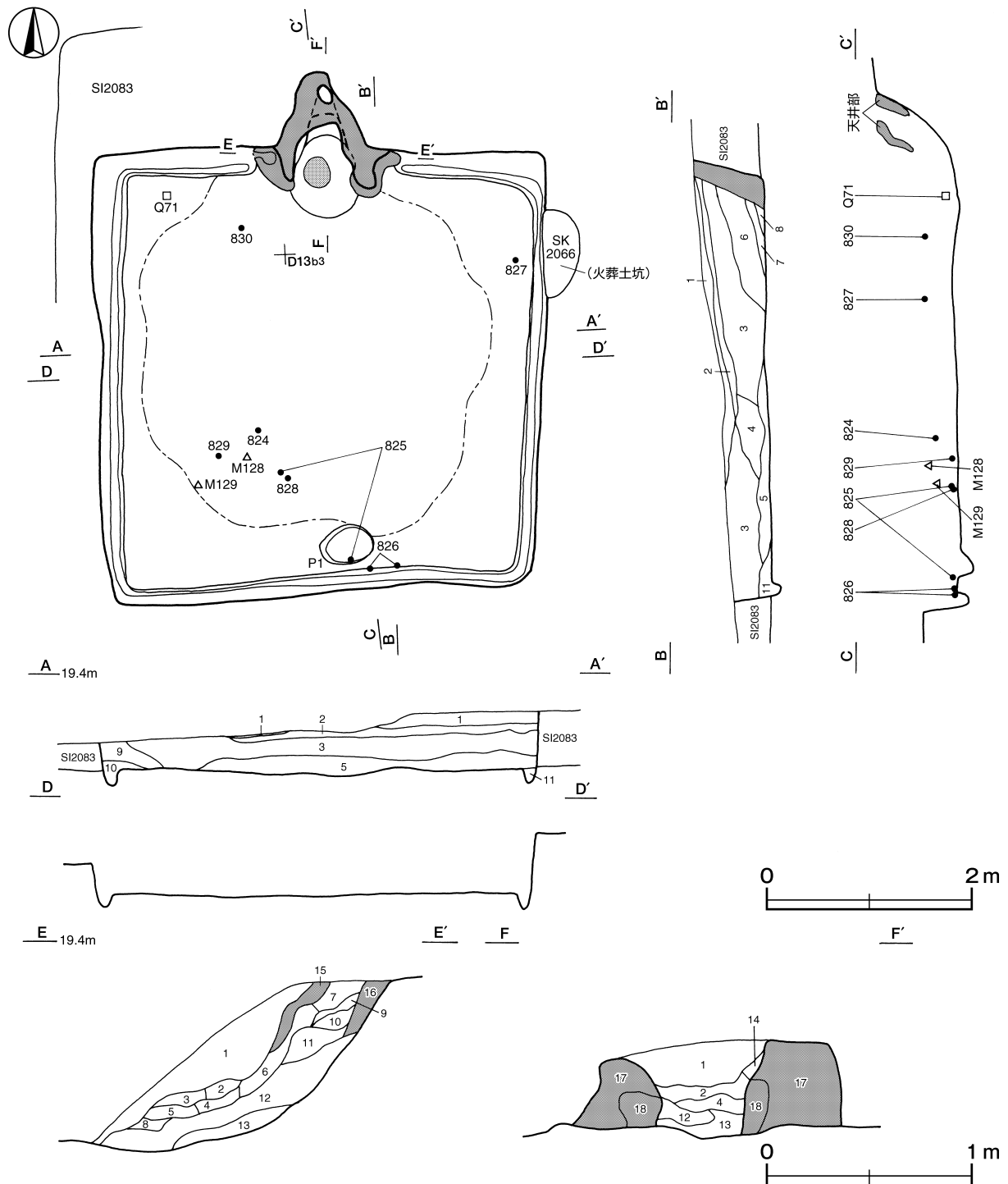
覆土 11層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

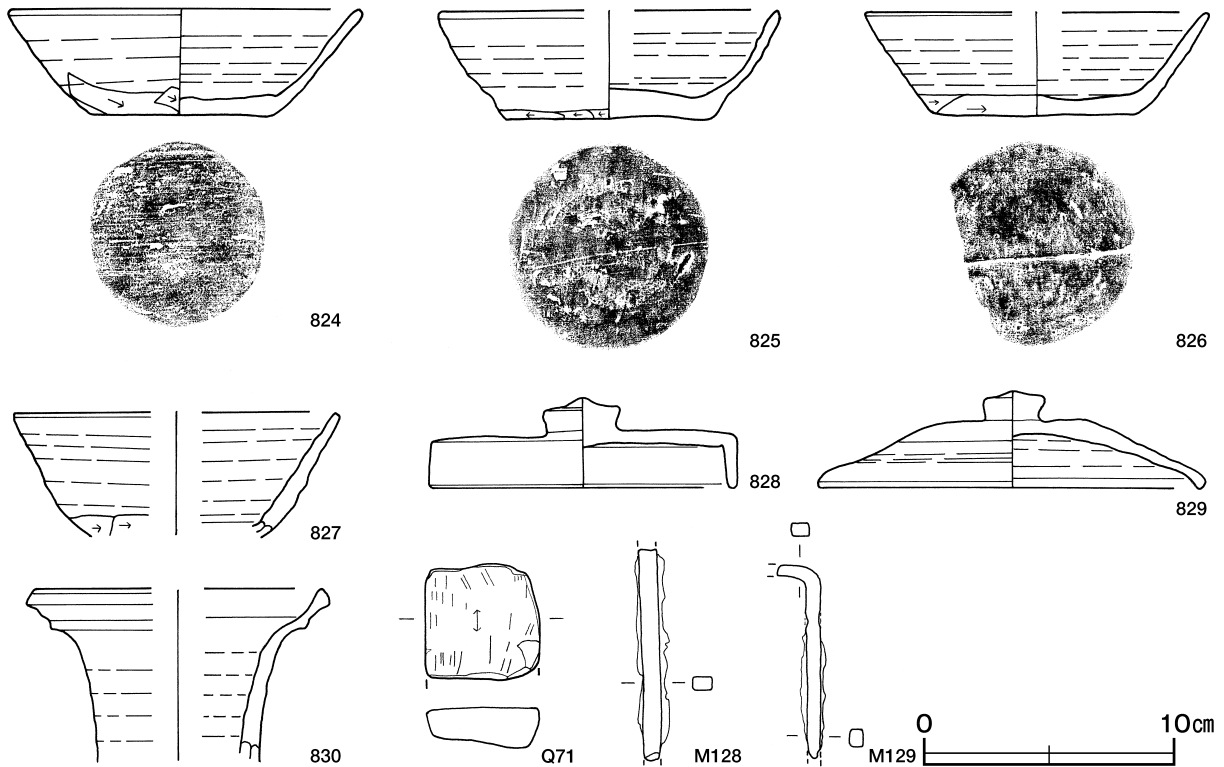
1 極暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	6 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土ブロック微量
2 にぶい褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量	7 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量	8 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4 灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量	9 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
5 黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・砂質粘土ブロック微量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
		11 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片1278点(坏104, 高台付椀 1, 甕類1173), 須恵器片242点(坏143, 高台付坏 4, 蓋14, 壺 1, 甕類80), 灰釉陶器片 5点(蓋 2, 長頸瓶 3), 鉄製品 3点(釘 1, 不明 2)のほか, 混入した敲石 1点, 土師器片 1点(器台)も出土している。遺物のほとんどが細片で, ほぼ全面の覆土上層から中層に集中し, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。826は南壁際の覆土下層, 828・829は中央部の床面, 825は南壁際と中央部の床面, Q71は北東コーナー寄りの床面からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また, 827は東壁寄りの覆土中層, 824・830・M128・M129が中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第532図 第2087号住居跡実測図



第533図 第2087号住居跡出土遺物実測図

第2087号住居跡出土遺物観察表（第533図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
824	須恵器	坏	13.8	4.3	7.2	長石・石英・雲母・微礫	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	70% PL163
825	須恵器	坏	[13.4]	4.3	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	床面	70%
826	須恵器	坏	[13.7]	4.1	8.0	長石・石英・赤色粒子	褐灰	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 多方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	50%
827	須恵器	坏	[12.8]	(4.9)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り	覆土中層	15%
828	須恵器	蓋	12.2	3.6	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	床面	100% PL168
829	須恵器	蓋	15.0	3.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	床面	50%
830	灰釉陶器	長頸瓶	[11.4]	(6.8)	-	黒色粒子	灰オリブ	良好	ロクロナデ 釉薬は刷毛塗り	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q71	砥石	(4.7)	4.5	(2.1)	(42.7)	凝灰岩	砥面2面 一部欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M128	釘	(8.4)	0.9	0.5	(14.5)	鉄	角釘 一部欠損	覆土中層	
M129	鋸	(7.7)	0.5	0.7	(12.8)	鉄	直角に屈曲する 断面長方形 一部欠損	覆土中層	PL199

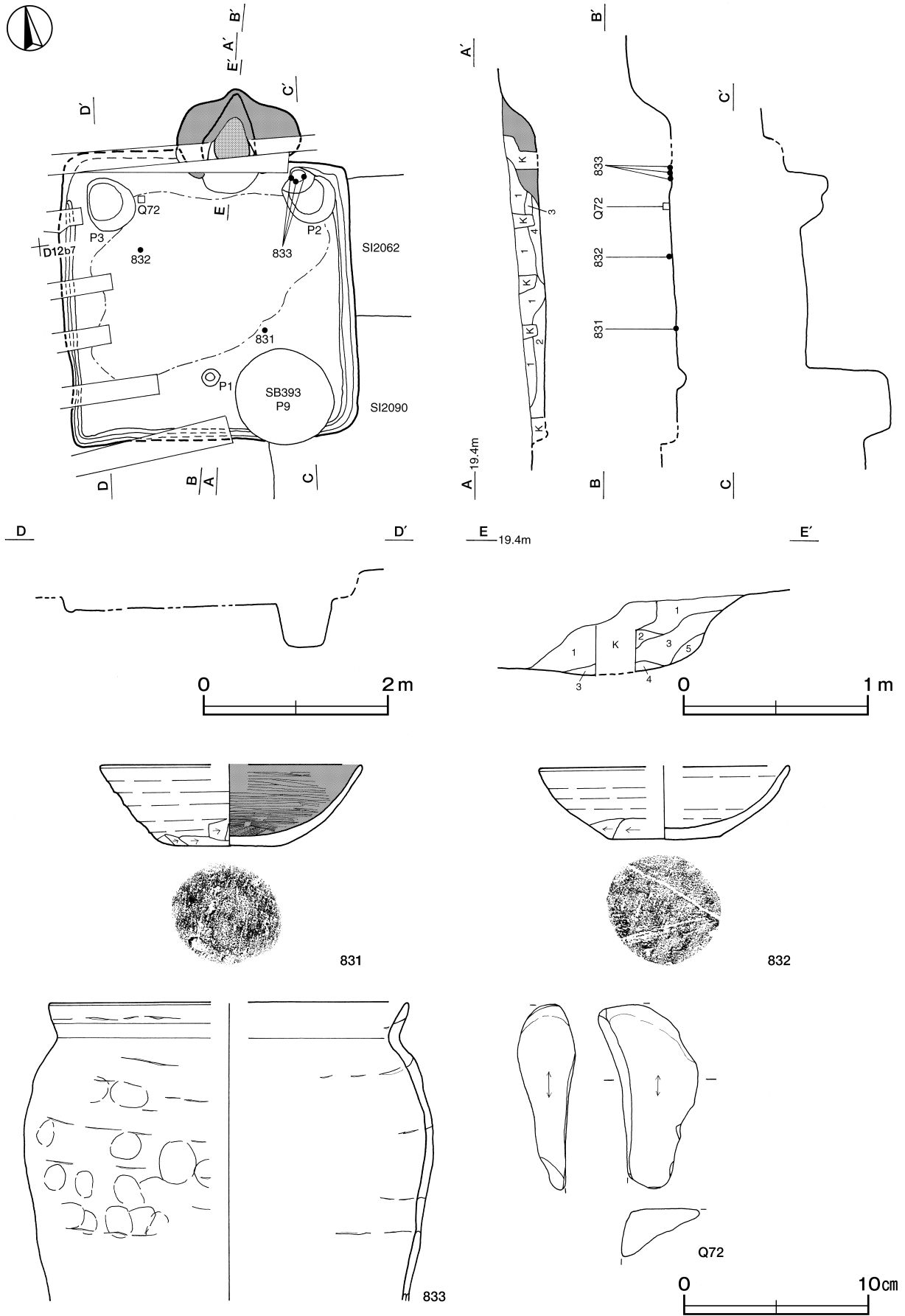
第2089号住居跡（第534図）

位置 調査区南部のD12b7区，標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2062・2090号住居跡を掘り込み，第393号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.27m，短軸3.10mの方形で，主軸方向はN - 13° - Eである。壁高は16～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。



第534图 第2089号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで114cmである。袖部は耕作による攪乱を受けているが、ローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を9cm掘りくぼめており、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に72cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | | |

ピット 3か所。P1は深さ13cmで、南壁寄りの中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ32~52cmであるが性格は不明である。

覆土 4層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 灰黄褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片102点(坏21, 甕類81), 須恵器片31点(坏9, 甕類22), 石器1点(砥石)が出土している。遺物は主に北側を中心に出土している。831・832・Q72は中央部の床面, 833はP1の覆土上層から出土し、いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉以降と考えられる。

第2089号住居跡出土遺物観察表(第534図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
831	土師器	坏	[13.9]	4.4	5.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ磨き	床面	70%
832	土師器	坏	[13.4]	3.9	6.0	長石・石英・微礫	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	床面	60%
833	土師器	甕	[19.2]	(16.0)	-	長石・石英・赤褐色微礫	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面輪積痕を残すナデ	P2覆土上層	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q72	砥石	(10.0)	(5.7)	3.1	(107.5)	凝灰岩	砥面2面 一部欠損	床面	

第2090号住居跡(第535~538図)

位置 調査区南部のD12c8区, 標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2062号住居跡を掘り込み, 第2089号住居, 第393号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.20m, 短軸5.96mの方形で, 主軸方向はN-3°-Eである。壁高は40~85cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅8~22cm, 深さ6~12cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

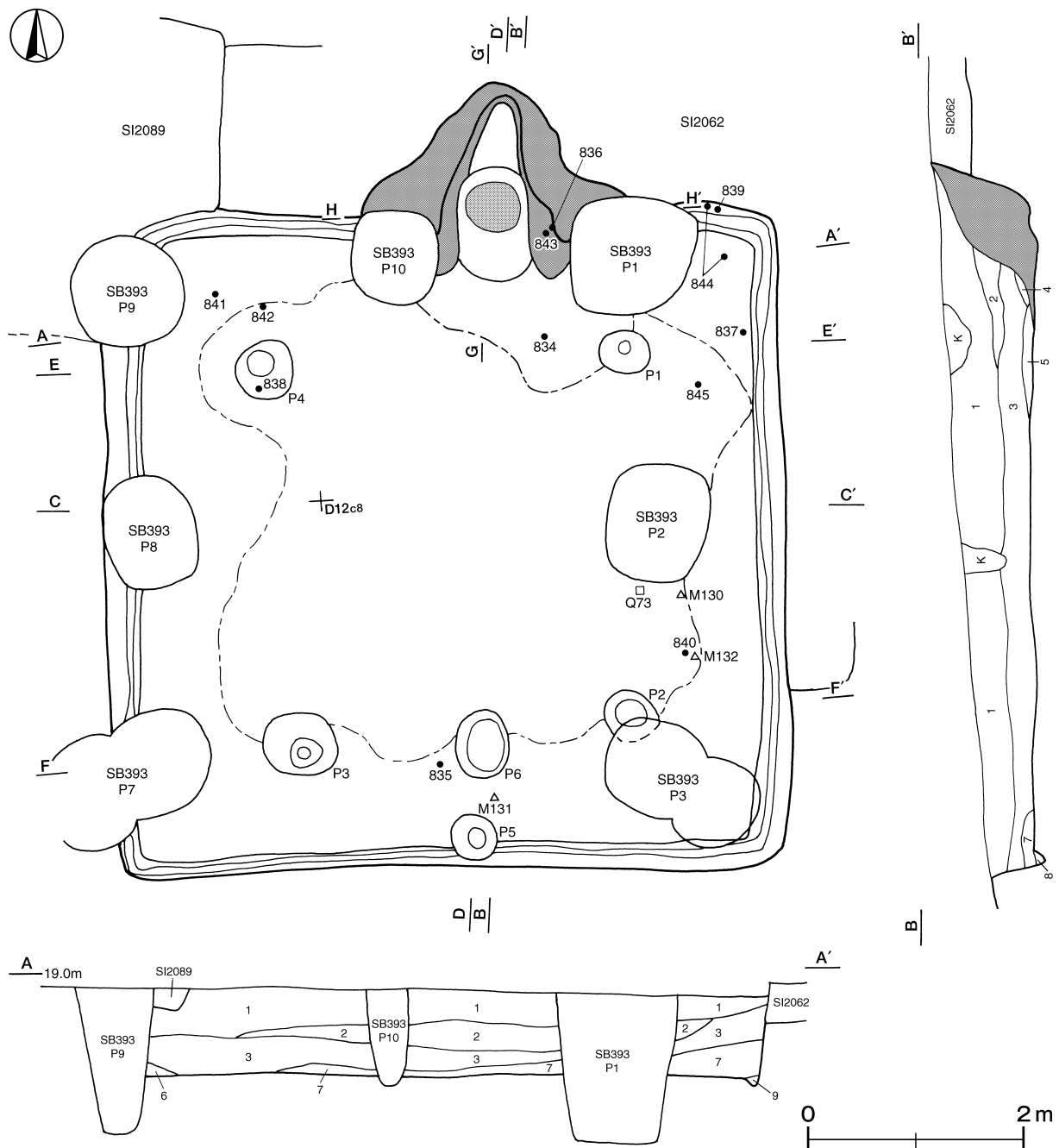
竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで182cm, 袖部は第393号掘立柱建物に掘り込まれているが, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に118cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 6 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| | | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |

- | | | | |
|----------|-----------------------------|-----------|--------------------------------|
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 19 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 20 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 10 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 21 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 22 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量 | 23 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 13 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 24 赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 | 25 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 15 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・灰少量 | 26 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子微量 | 27 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック微量 | 28 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 18 赤褐色 | 焼土粒子多量 | | |

ピット 6 か所。P1 ~ P4 は主柱穴で、深さは55~73cmである。P5 は深さ52cm, P6 は深さ58cmで、いずれも南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第535図 第2090号住居跡実測図(1)

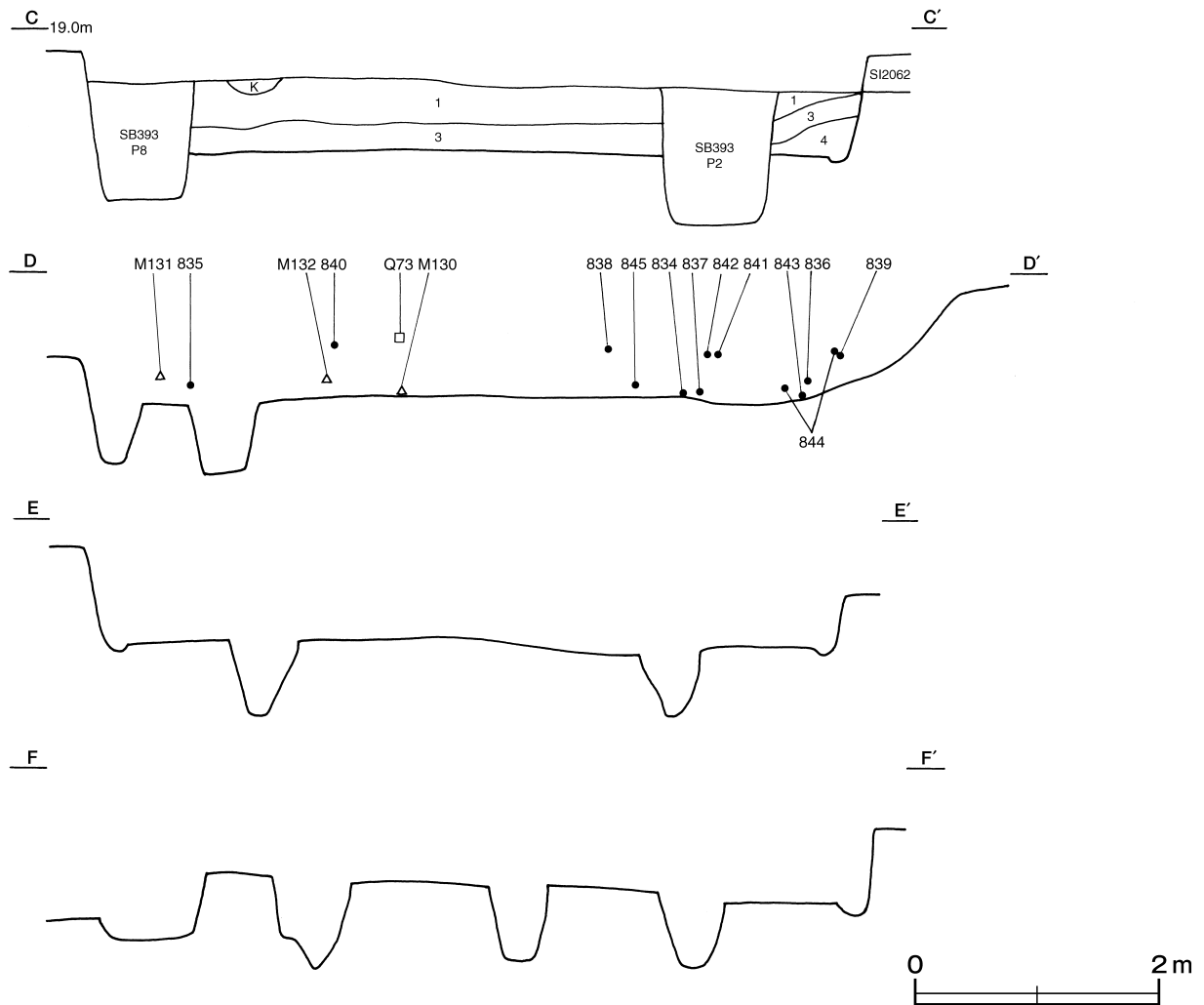
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説

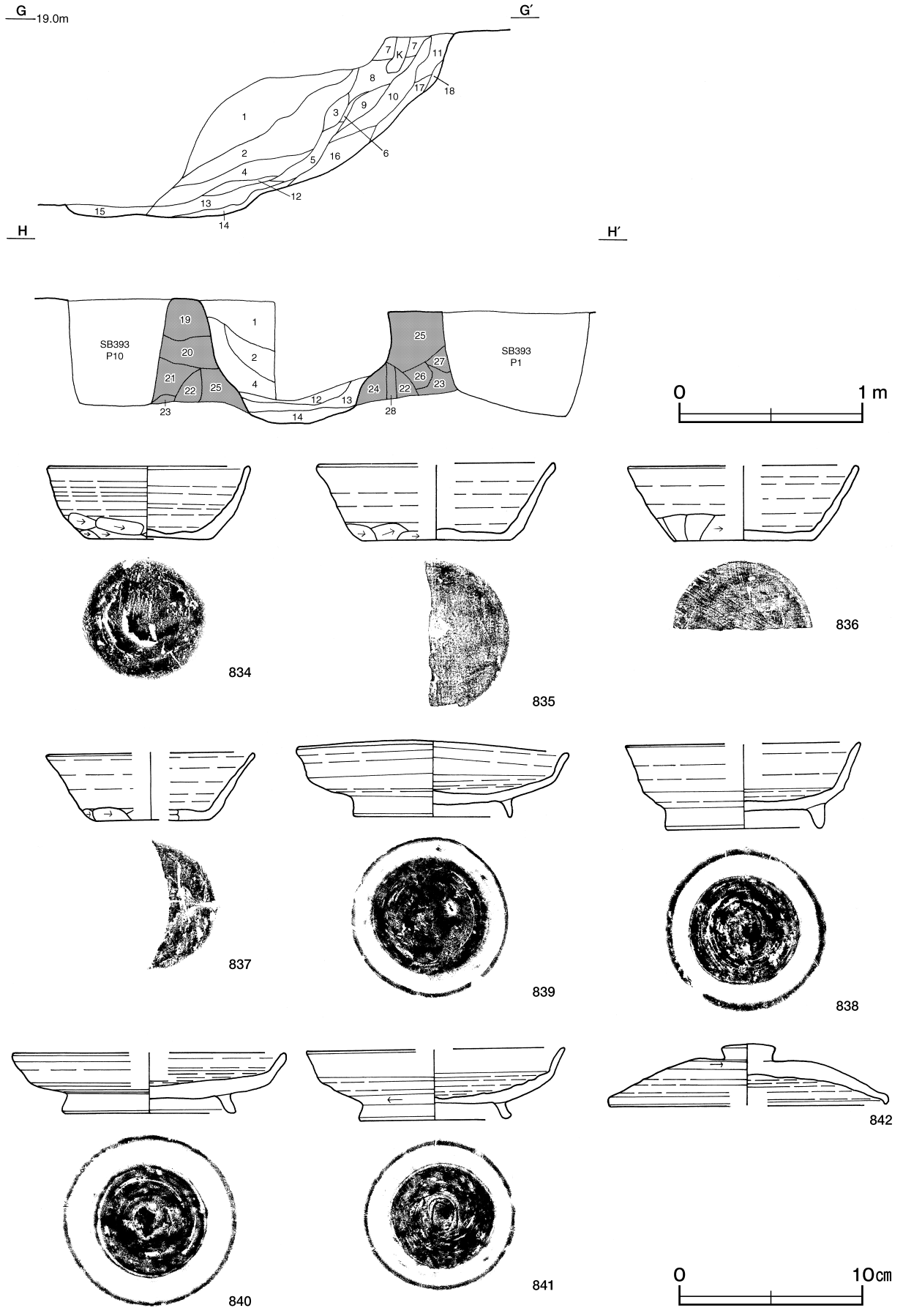
- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量 | 5 褐灰色 | ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1978点（坏26，高台付椀1，甕類1951点），須恵器片690点（坏350，高台付坏12，蓋36，盤12，高盤1，壺4，甕類274，甗1），鉄器・鉄製品6点（鍬5，不明1），石製品1点（紡錘車），鉄滓4点のほか，混入した鉄製品1点（耳環）も出土している。遺物はほぼ全面の覆土上層から下層にわたって出土しており，多くは住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。836・843は竈の覆土下層，837は東壁際の床面から出土し，時期判断の指標となる遺物である。839は北壁際の覆土中層，844は覆土中層と床面から出土した破片が接合した資料である。834・845・M130・M132は中央部の覆土下層から床面，835・M131は南壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また，841・842は北西コーナー寄りの覆土中層，838・840・Q73は中央部の覆土上層，846は覆土から出土している。

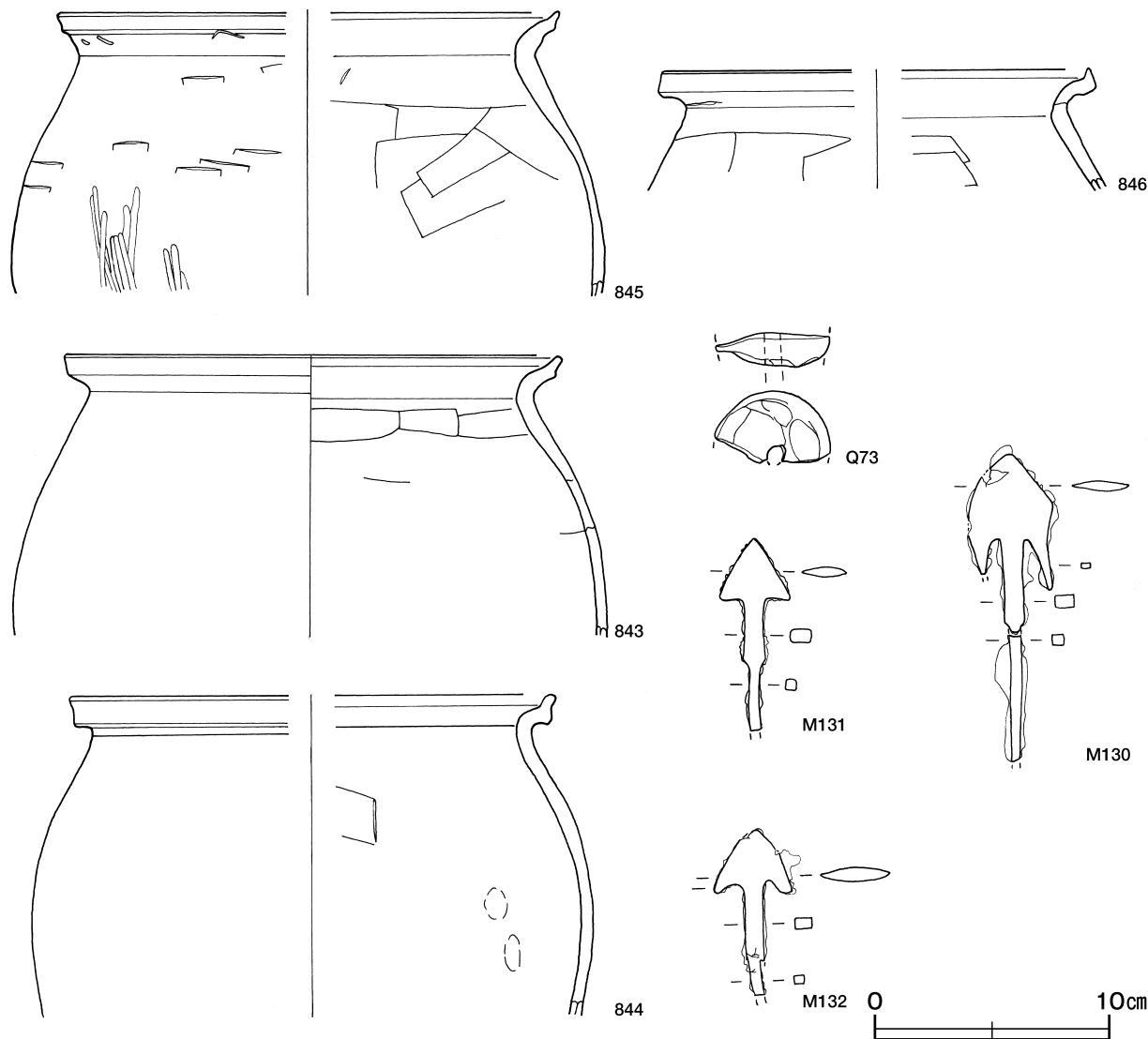
所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第536図 第2090号住居跡実測図(2)



第537图 第2090号住居跡・出土遺物実測図



第538図 第2090号住居跡出土遺物実測図

第2090号住居跡出土遺物観察表 (第537・538図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
834	須恵器	坏	10.8	4.0	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方のヘラ削り	床面	95% PL163
835	須恵器	坏	[12.6]	4.2	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方の手持ちヘラ削り	覆土中層	50%
836	須恵器	坏	[12.4]	4.1	7.6	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	竈覆土下層	45%
837	須恵器	坏	[11.1]	3.7	[6.4]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向の手持ちヘラ削り	床面	40%
838	須恵器	高台付坏	[12.6]	4.6	8.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	60%
839	須恵器	盤	14.6	4.1	8.4	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	85% PL167
840	須恵器	盤	[14.6]	3.3	9.3	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	70%
841	須恵器	盤	[13.8]	3.8	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	60%
842	須恵器	蓋	[15.0]	3.3	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土中層	75%
843	土師器	甕	20.8	(11.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈覆土下層	30%
844	土師器	甕	[20.2]	(13.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ 指頭痕	覆土中層	15%
845	土師器	甕	[21.0]	(12.0)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口辺部内外面ナデ 体部外面ヘラナデ 下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層・床面	5%
846	土師器	甕	[18.0]	(5.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	覆土	5%

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q73	紡錘車	(4.8)	(1.5)	0.7	(20.6)	砂岩	断面台形カ 両面穿孔 一部残存	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M130	鉄鏃	(13.0)	3.6	0.5	(39.1)	鉄	鏃身平面五角形断面両丸 逆刺腸袂籠被部断面長方形 腸袂一部欠損 茎断面方形一部欠損	覆土下層-床面	PL196
M131	鉄鏃	(8.2)	3.0	0.5	(15.9)	鉄	短頸三角鏃 鏃身断面両丸 籠被部断面方形 茎断面方形一部欠損	覆土中層	PL196
M132	鉄鏃	(6.9)	3.4	0.6	(15.5)	鉄	短頸三角腸袂鏃 鏃身断面両丸 籠被部断面長方形 茎断面方形一部欠損	覆土下層-床面	PL196

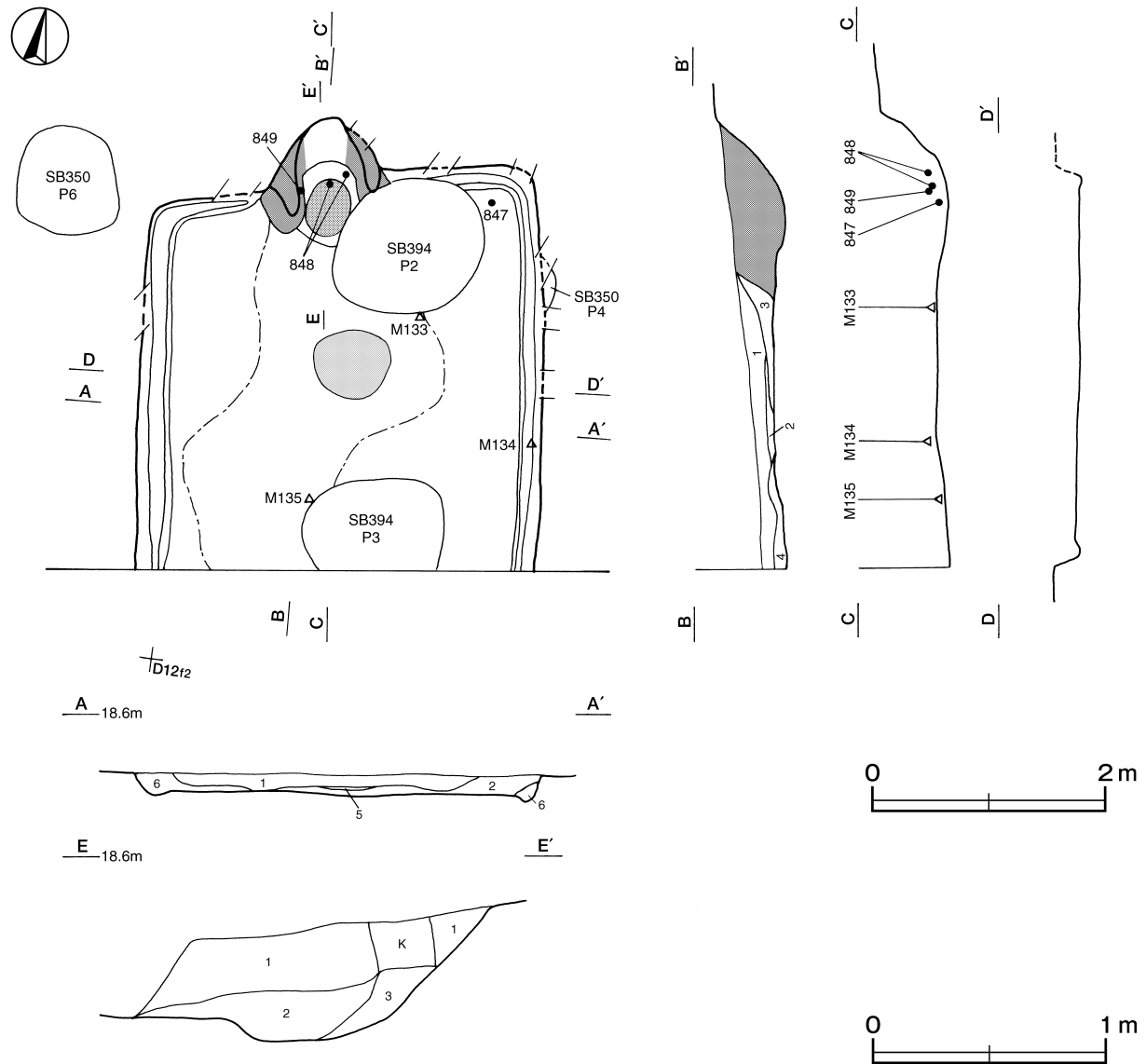
第2091号住居跡 (第539・540図)

位置 調査区南部のD12e2区、標高18.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第350号掘立柱建物跡を掘り込み、第394号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外に伸びているため、東西軸3.42m、南北軸は3.44mだけが確認されている。主軸方向はN - 6° - Wである。壁高は18~22cmで、確認された各壁は外傾して立ち上がっている。

床 中央部から南側に向かって緩やかに傾斜している。



第539図 第2091号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm，右袖は一部攪乱を受けているが，両袖部幅112cmである。火床部は床面を8cm掘りくぼめており，火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | |
|---------------------------------------|------------------------------|-------------------------|
| 1 灰褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量 | 2 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化材少量 | 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
|---------------------------------------|------------------------------|-------------------------|

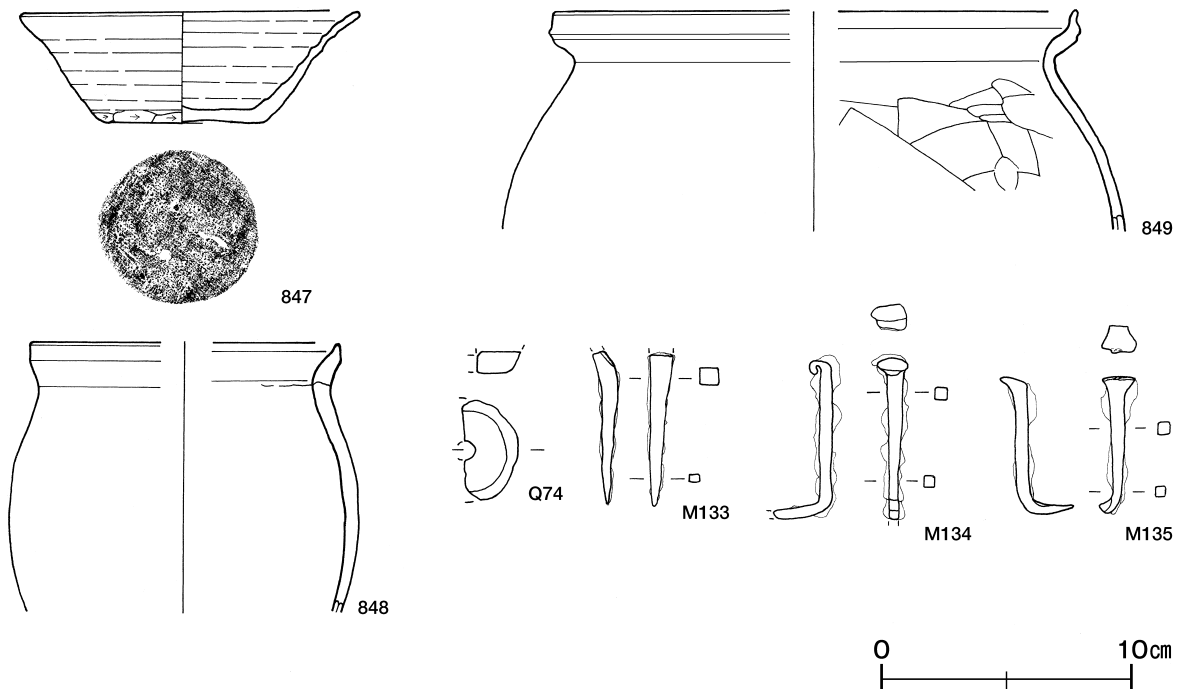
覆土 6層に分けられる。第6層は自然堆積，第1～5層は不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化材少量 | 4 黒褐色 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化材少量 | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 6 極暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片186点（坏4，甕類182），須恵器片96点（坏71，高台付坏1，蓋3，甕類21），石製品1点（紡錘車），鉄製品3点（釘）が出土している。遺物は主に竈内と中央部の覆土上層から下層にわたって出土している。848・849は竈の覆土下層，847は北東コーナー部の床面，M134は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土し，時期判断の指標となる遺物である。M133・M135は中央部の床面と覆土下層，Q74は覆土下層から出土し，住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第540図 第2091号住居跡出土遺物実測図

第2091号住居跡出土遺物観察表（第540図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
847	須恵器	坏	13.3	4.5	6.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	床面	95% PL163
848	土師器	小形甕	[12.2]	(10.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	竈覆土下層	30%
849	土師器	甕	[20.6]	(8.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ 指頭痕 輪積痕	竈覆土下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q74	紡錘車	(4.0)	(0.9)	0.6	(10.9)	粘板岩	断面台形 一部残存	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M133	釘	(6.1)	1.0	0.6	(5.6)	鉄	角釘 一部欠損	床面	PL199
M134	釘	(6.5)	1.2	0.5	(10.0)	鉄	角釘 先端部がL字状に屈曲する	覆土下層	PL199
M135	釘	5.4	1.4	0.5	9.1	鉄	角釘 先端部がL字状に屈曲する	覆土下層	PL199

第2094号住居跡（第541～543図）

位置 調査区東部のC13i2区，標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第392号掘立柱建物跡を掘り込み，第411号掘立柱建物，第115号溝に掘り込まれている。第2078号土坑との新旧は不明である。

規模と形状 長軸5.30m，短軸5.28mの方形で，主軸方向はN-10°-Eである。壁高は40～48cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8～14cm，深さ4～14cm，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，中央部北寄りの床面から厚さ23cmの焼土が確認され，砂質粘土粒子を多く含むことから，廃絶時に壊した竈の構築土であることも想定されるが，明確でない。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで202cm，袖部幅184cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。天井部の一部と煙道が遺存する。煙道部は壁外に106cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

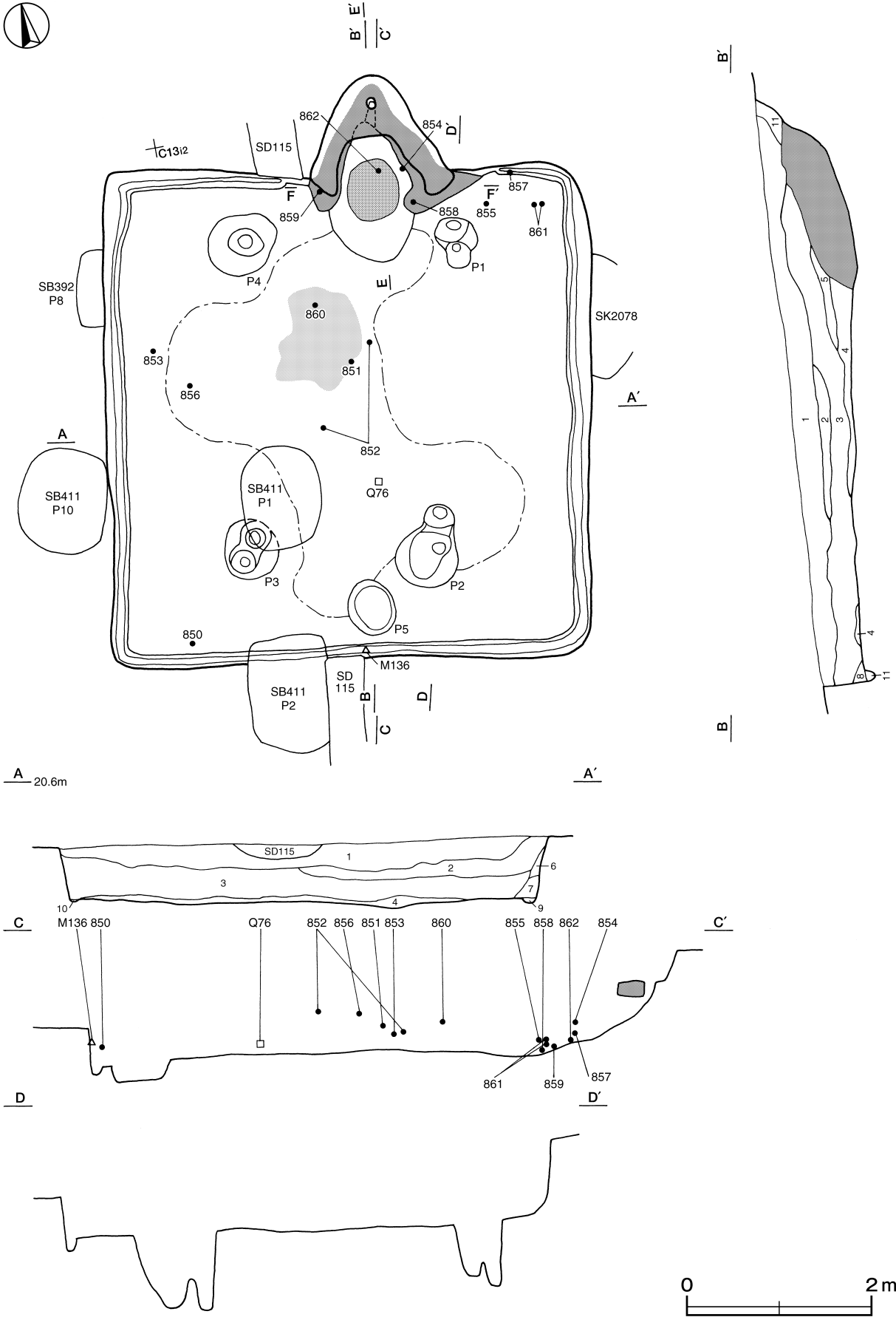
1 灰 褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 焼土ブロック微量	12 灰 赤色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化材少量
2 褐 灰色	砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・ローム粒子少量	13 赤 褐色	焼土ブロック中量・砂質粘土粒子微量
3 灰 褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	14 暗 赤 灰色	焼土ブロック・炭化粒子少量
4 灰 褐色	炭化物・砂質粘土焼土ブロック・ローム粒子少量	15 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
5 褐 灰色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子少量	16 灰 褐色	砂質粘土粒子多量，礫少量，焼土粒子微量
6 黒 色	炭化物中量，ローム粒子少量	17 赤 褐色	焼土ブロック中量
7 灰 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量 焼土ブロック微量	18 黒 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量 炭化物微量
8 暗 赤 褐色	焼土ブロック中量 砂質粘土ブロック・炭化物少量	19 黒 褐色	炭化物・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量
9 褐 灰色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量	20 黒 褐色	炭化物中量，ロームブロック・砂質粘土粒子少量
10 黒 褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量	21 褐 灰色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
11 赤 黒色	炭化材中量，ロームブロック・焼土粒子少量	22 暗 赤 褐色	焼土ブロック少量，炭化物微量
		23 灰 褐色	砂質粘土粒子中量，炭化物微量
		24 灰 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量 焼土ブロック微量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは53～86cmであり，抜き取り痕が確認できる。P5は深さ22cmであり，南壁際の中央部に位置していることや，硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

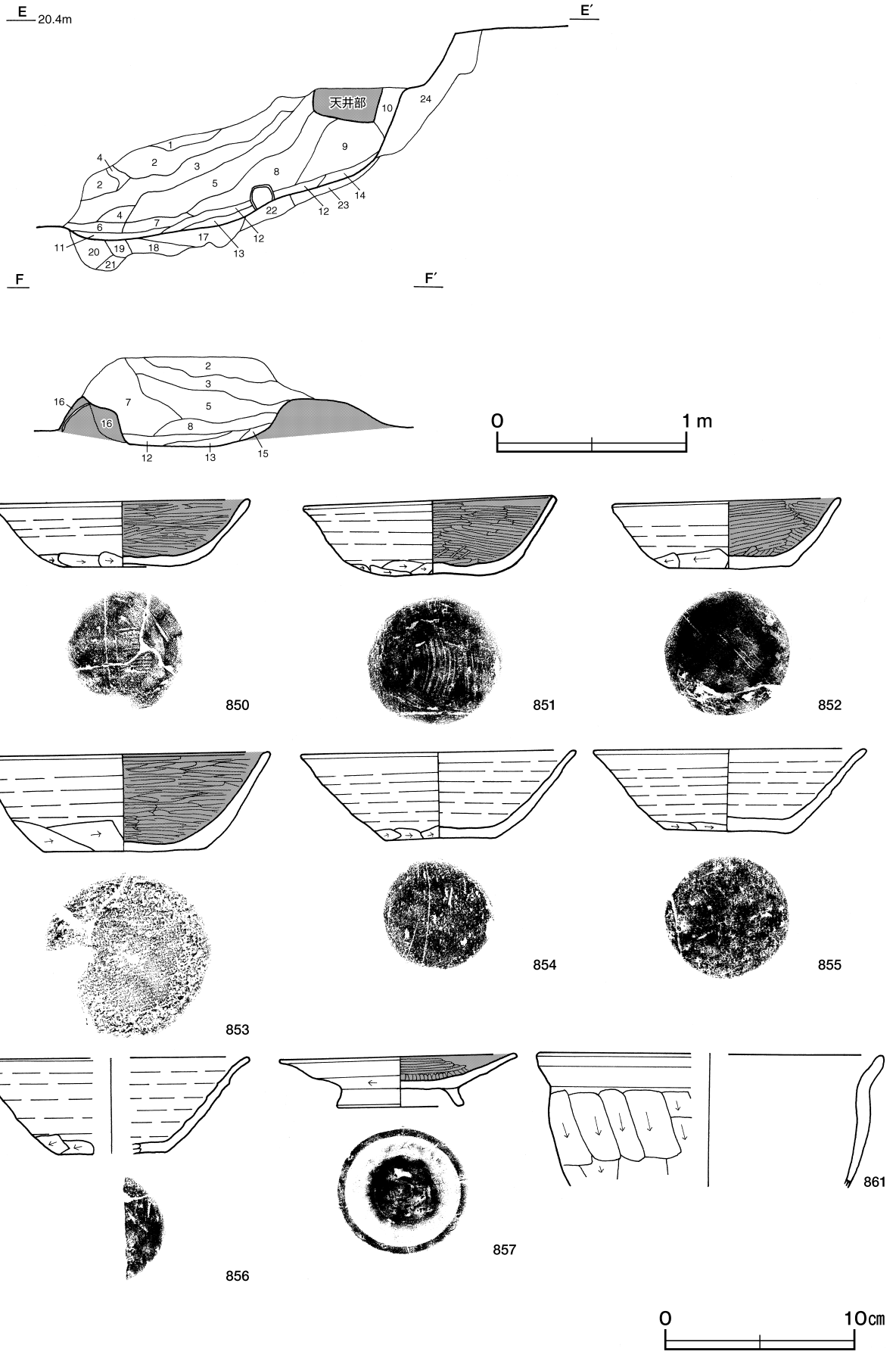
覆土 11層に分けられる。流れ込みの状況を呈した自然堆積である。

土層解説

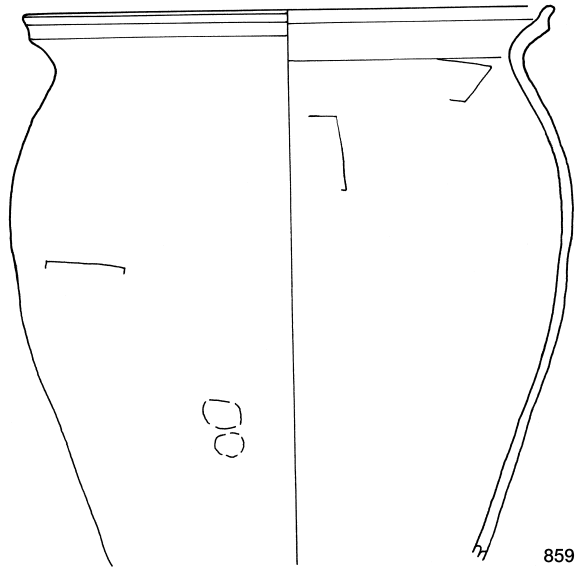
1 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	6 暗 褐色	ロームブロック少量
2 暗 褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量	7 暗 褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3 極 暗 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	8 極 暗 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
4 灰 褐色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	9 褐 灰色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量
5 灰 褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量	10 褐 灰色	砂質粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量
		11 黒 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック微量



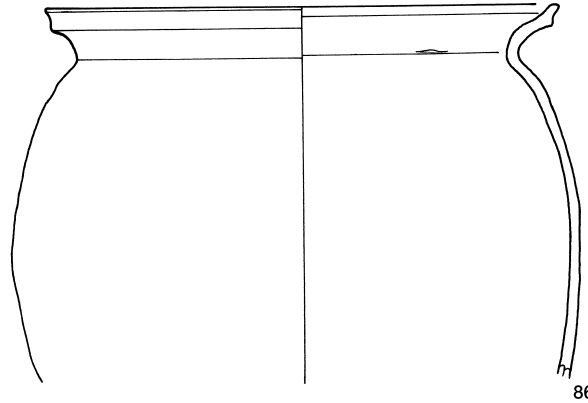
第541图 第2094号住居跡実測図



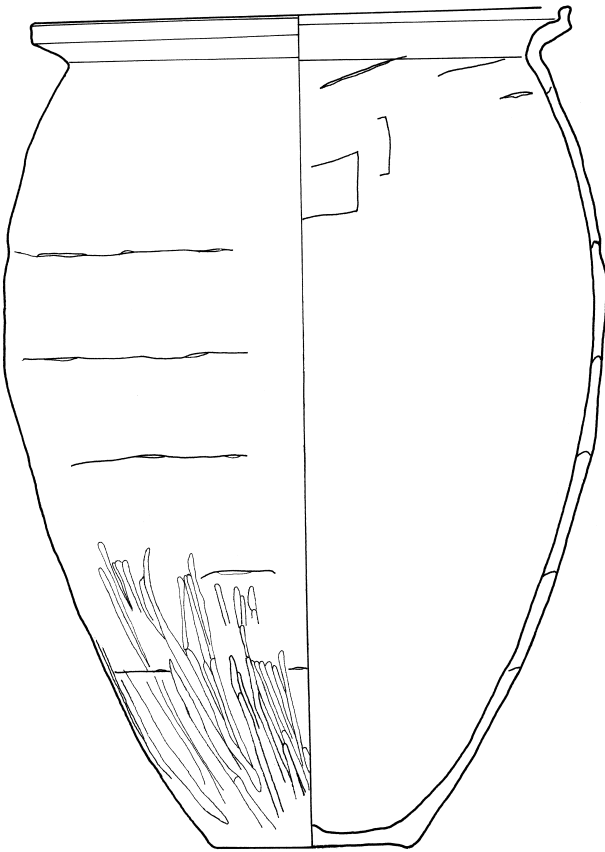
第542图 第2094号住居跡・出土遺物実測図



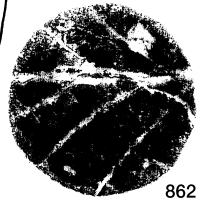
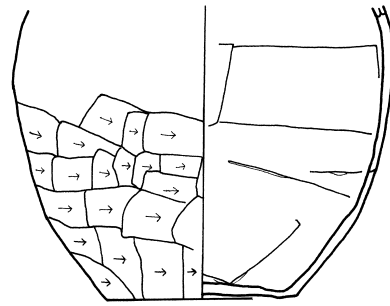
859



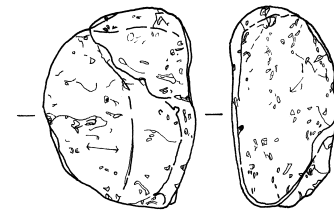
860



858



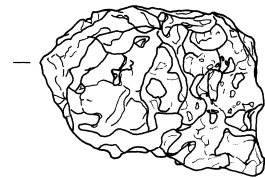
862



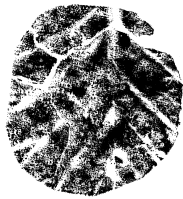
Q75



Q76



M136



第543图 第2094号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1097点(坏109,高台付椀7,高台付皿4,甕類976,甑1),須恵器片562点(坏212,高台付坏4,盤2,蓋3,壺1,甕類331,甑9),灰釉陶器片3点,石製品2点(白玉,砥石),鉄滓7点のほか,混入した土師器1点(三足鍋),陶器片3点,鉄製品4点(釘1,鉄滓3)も出土している。遺物は主に竈と北側に集中し,覆土上層から下層にわたって出土している。862は竈の火床面から逆位で出土し,支脚に転用されたものである。858・859は竈の袖の補強材である。いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものである。854は竈の覆土中層,857は北壁際の覆土下層,855・861は北壁寄りの覆土下層,850・M136は南壁際の覆土中層から出土し,いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また,853・856が西壁寄りの覆土上層と中層,851・852・860は中央部の覆土上層から中層,Q76は中央部の床面から出土している。

所見 時期は,出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2094号住居跡出土遺物観察表(第542・543図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
850	土師器	坏	13.4	3.3	6.2	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面丁寧なヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後多方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	95% PL163
851	土師器	坏	13.2	4.2	6.8	長石・石英・赤色粒子	明褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面丁寧なヘラ磨き 底部回転系切り後多方向の手持ちヘラ削り	覆土上層・中層	90% PL163
852	土師器	坏	12.0	3.5	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部 回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土上層・中層	90% PL164
853	土師器	坏	15.4	5.2	8.5	長石・石英	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部 回転ヘラ切り後多方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	70%
854	須恵器	坏	14.2	4.6	5.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	竈覆土中層	90% PL164
855	須恵器	坏	14.4	4.5	6.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	85% 二次 焼成 PL164
856	須恵器	坏	[14.4]	5.0	[5.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 ヘラ削り	覆土上層	30%
857	土師器	高台付皿	12.4	2.7	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼 り付け	覆土下層	100%
858	土師器	甕	21.2	33.3	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面輪積痕を残すナ デ位ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈袖部	85% PL184
859	土師器	甕	20.8	(22.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 指頭 痕	竈袖部	60%
860	土師器	甕	20.4	(14.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内外面ナデ	覆土上層・中層	40%
861	土師器	甕	[18.0]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%
862	土師器	甕	-	(11.6)	7.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈火床面	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	砥石	7.9	6.1	4.2	60.4	軽石	砥面2面	覆土	磨石転用

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q76	白玉	1.4	(0.4)	0.3	(1.1)	粘板岩	穿孔二か所 一部欠損	床面	PL194

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M136	鉄滓	6.7	8.7	4.4	249.0	鉄	凸面の中央部突出 凹面の中央部がくぼむ 皿状	覆土中層	PL198

第2096号住居跡(第544図)

位置 調査区南部のD12e3区,標高18.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2062~2065号土坑によって掘り込まれている。

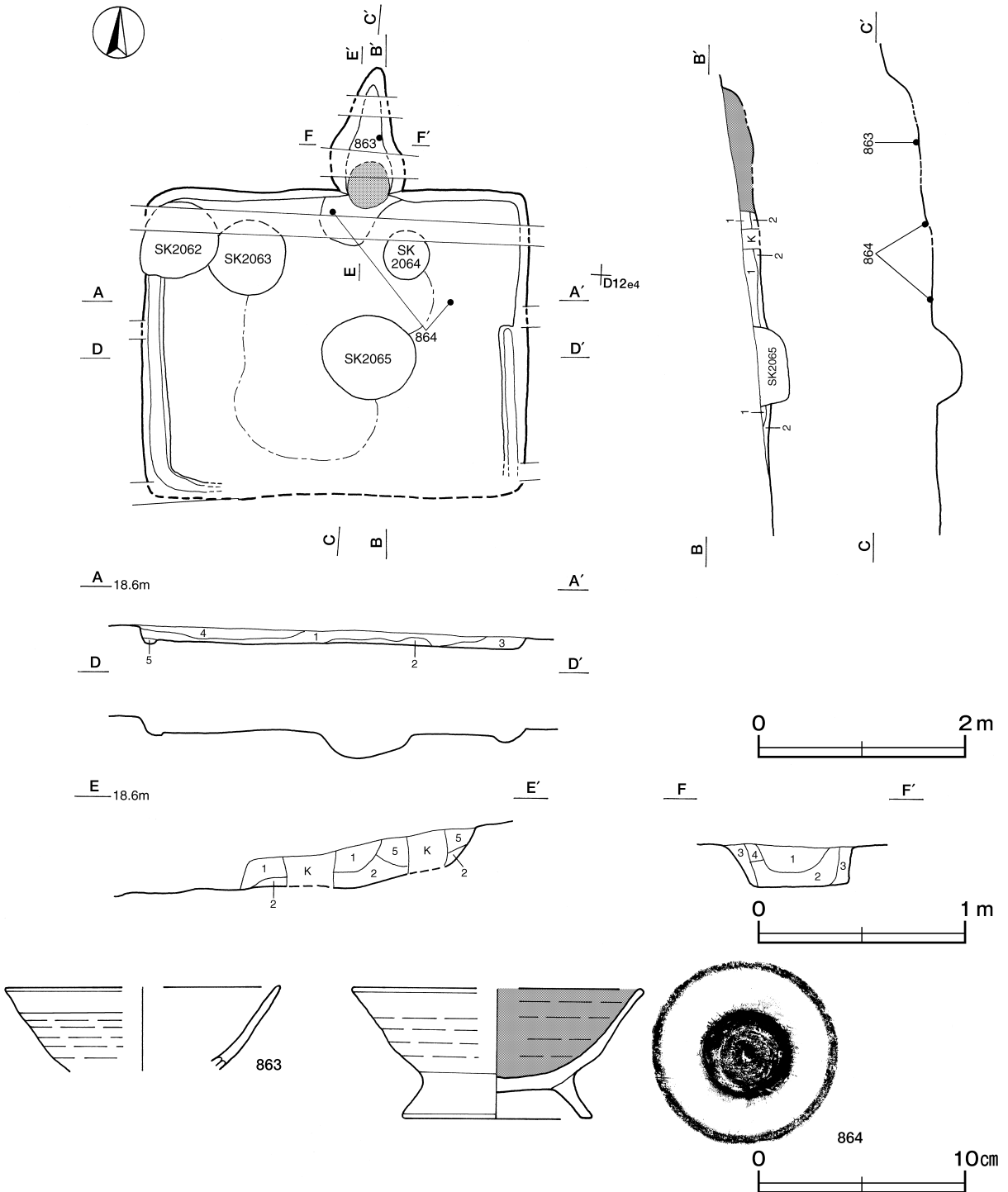
規模と形状 南西部は床面が露出した状態で検出されている。長軸3.71m,短軸は2.92mが確認された。主軸方向N-1°-Wの方形と推定される。壁高は最大で15cmで,外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で中央部が踏み固められている。東壁下および西壁下には,幅14~16cm,深さ3~5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部は耕作による攪乱で壊されており、遺存する部分の規模は、焚口部から煙道部まで171cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に115cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。覆土中に多量の焼土が確認されており、竈の使用頻度の高さがうかがえる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 赤黒色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 5 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子少量 | | |



第544図 第2096号住居跡・出土遺物実測図

覆土 5層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化物微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化物微量 | |
| 3 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量,粘土ブロック微量 | 5 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片199点(坏57,高台付椀3,甕類139),須恵器片10点(坏3,甕類7)が竈覆土および北西部を中心に出土している。また,混入した陶器片1点も出土している。遺物のほとんどは細片であり,出土層位は上層である。863は竈の煙道部から出土している。また,864は,竈の焚口部および北東部の床面から出土した破片が接合したものであり,住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は,出土土器から,時期は10世紀前半と考えられる。

第2096号住居跡出土遺物観察表(第544図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
863	土師器	坏	[13.2]	(4.0)	-	長石・雲母	橙	普通	体部内外面口口整形後ヘラ磨き	竈床面	15%
864	土師器	高台付椀	[13.6]	6.3	9.0	石英・雲母	浅黄橙	普通	体部内外面口口ロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	15%

第2098号住居跡(第545~547図)

位置 調査区南部のD12b5区,標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第16号不明遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.85m,短軸6.38mの方形で,主軸方向はN-91°-Eである。壁高は35~43cmで,外傾して立ち上がっている。

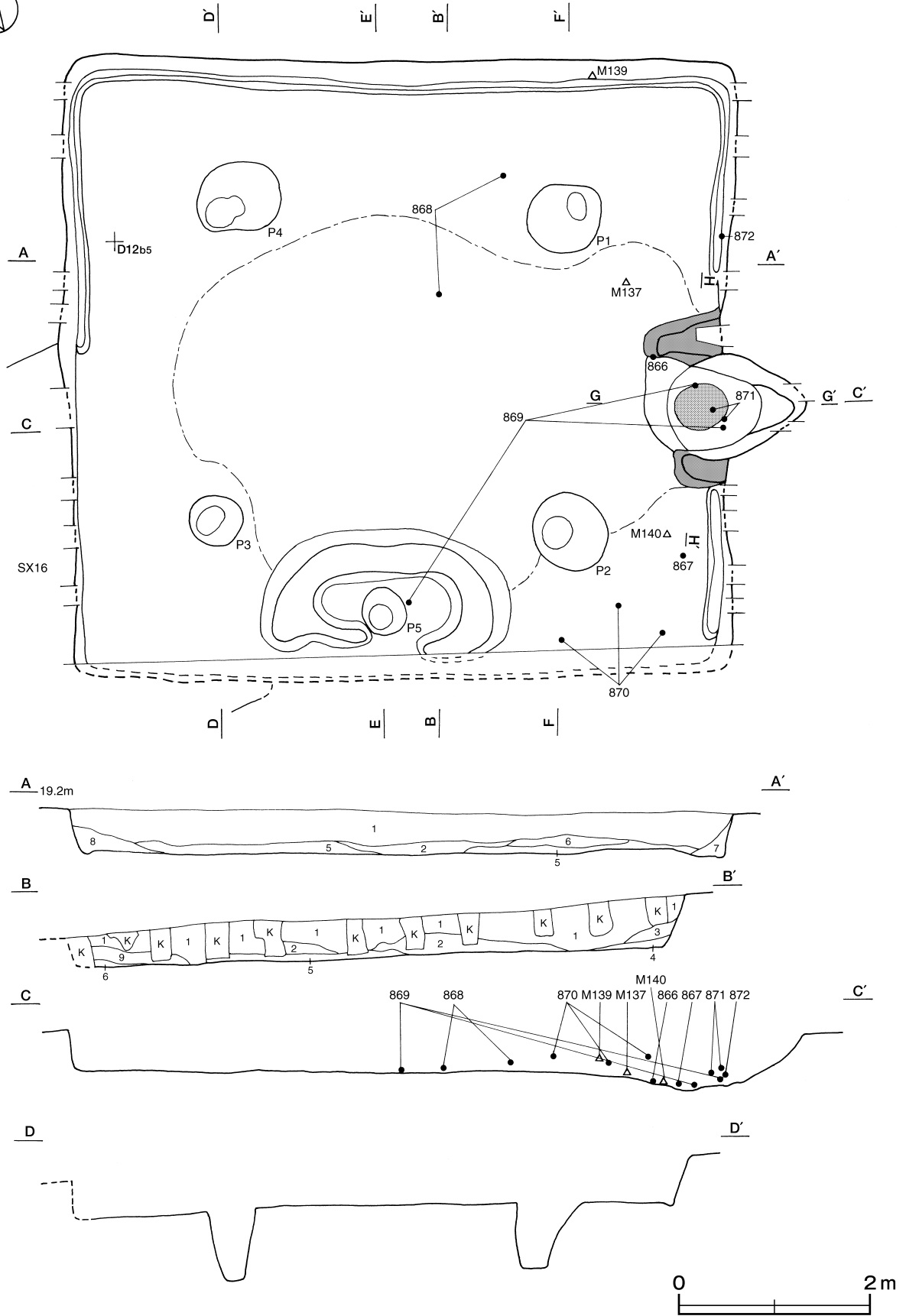
床 ほぼ平坦で,中央部が踏み固められている。西壁から南壁を除く壁下には,幅7~18cm,深さ2~4cm,U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また,南壁際の中央部に位置するP5を囲むように土手状の高まりが確認されている。

竈 東壁中央部のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで170cm,袖部幅188cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を14cm掘りくぼめており,火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に86cm掘り込まれ,火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

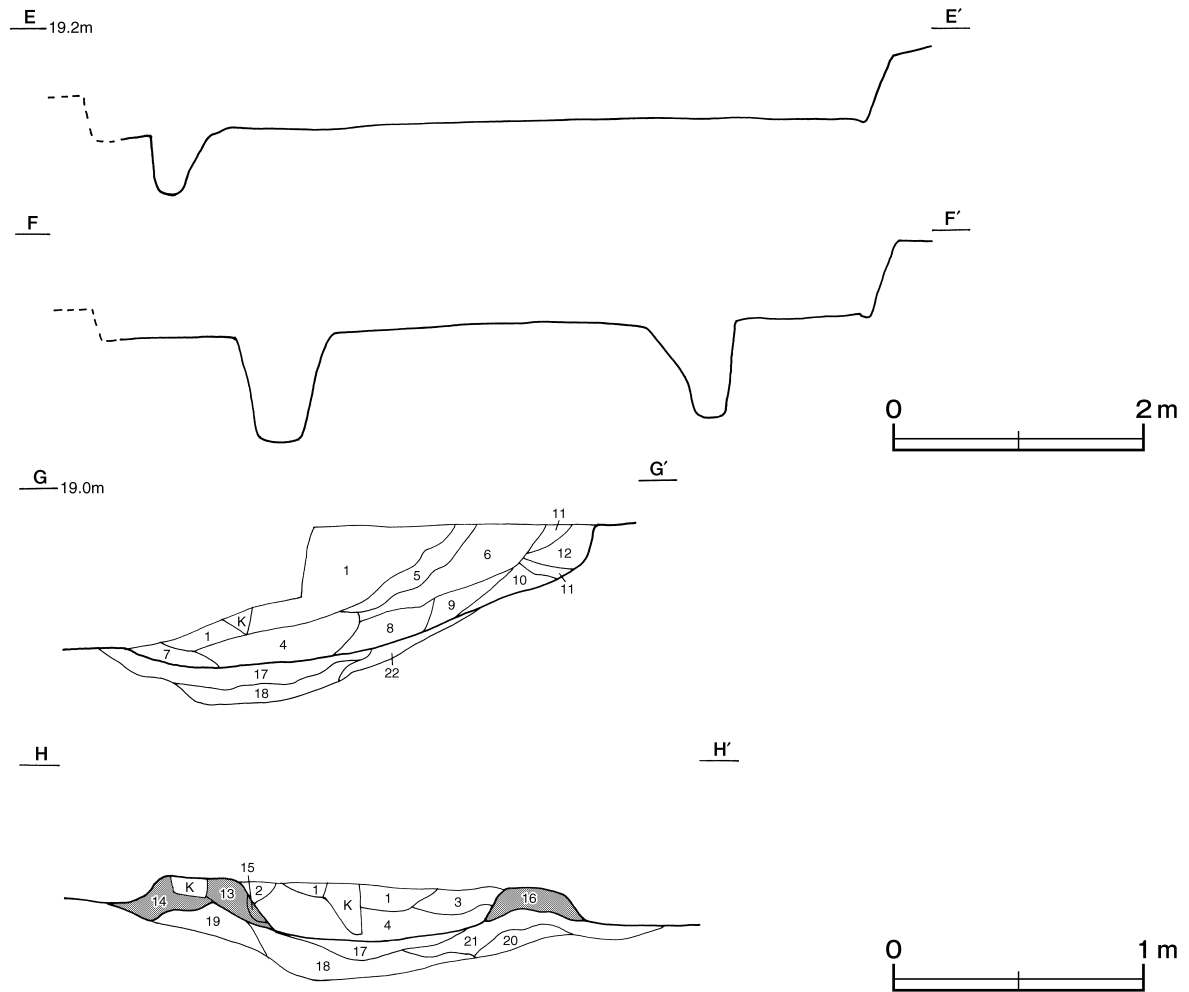
竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 灰黄褐色 砂質粘土ブロック中量,焼土ブロック・ローム粒子少量 | 13 灰褐色 砂質粘土粒子中量,焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 褐灰色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量,炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 16 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量,ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量,焼土粒子微量 | 17 赤褐色 焼土ブロック中量,砂質粘土粒子少量 |
| 6 赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | 18 灰白色 砂質粘土粒子中量,ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 赤黒色 炭化物中量,焼土ブロック少量,ローム粒子微量 | 19 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量,ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 8 赤褐色 焼土ブロック中量,ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 20 暗褐色 砂質粘土粒子多量,ロームブロック微量 |
| 9 にぶい赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 21 暗褐色 ロームブロック中量,焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 10 灰褐色 砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量,焼土粒子微量 | 22 灰褐色 砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量,焼土ブロック微量 |
| 11 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |
| 12 にぶい褐色 ローム粒子中量,焼土ブロック微量 | |

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で,深さ63~86cmである。P5は深さ50cmで,南壁際の中央部に位置していることや,硬化面の広がりから見て出入口施設に伴うピットと考えられる。



第545图 第2098号住居跡実測图(1)



第546図 第2098号住居跡実測図(2)

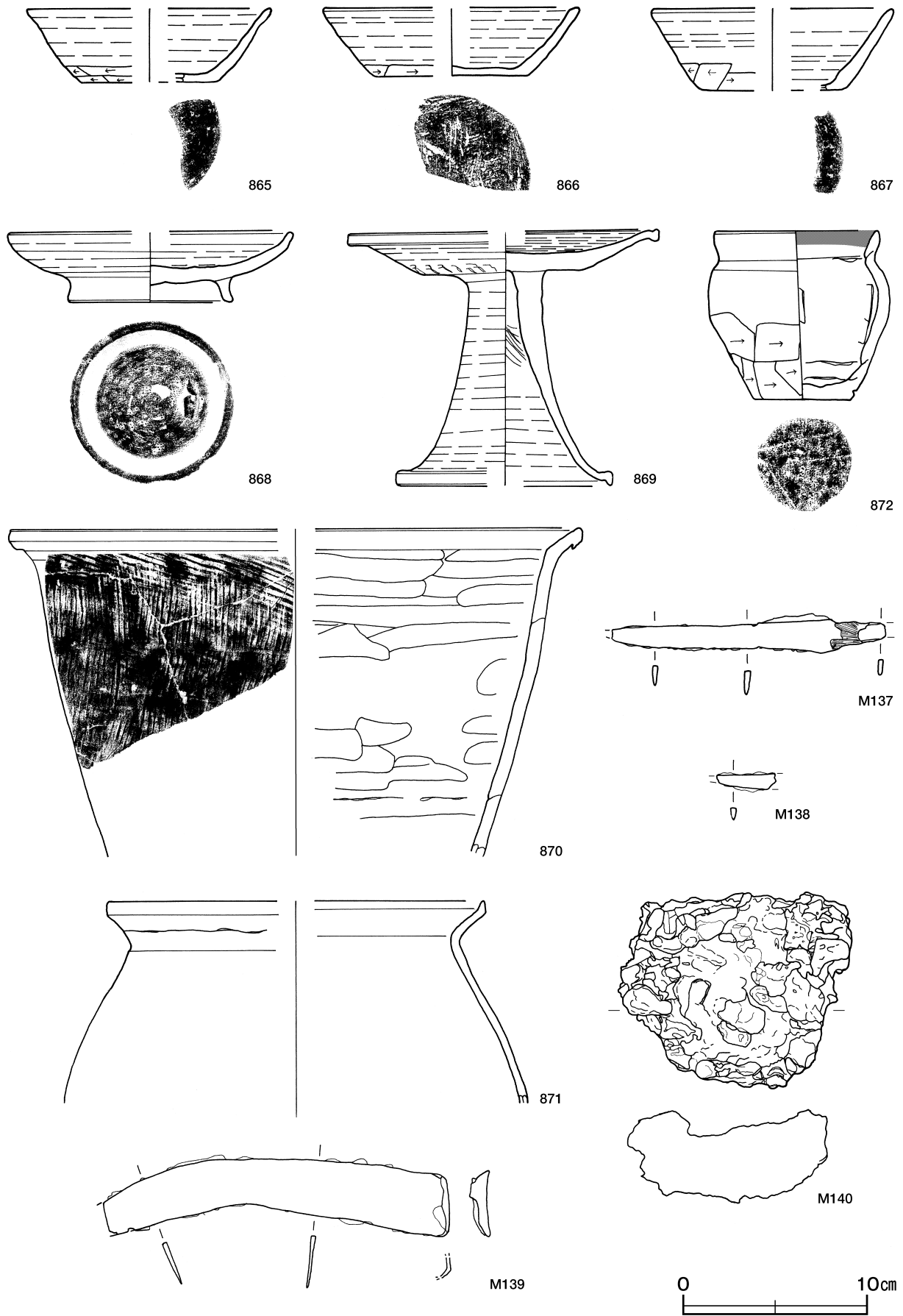
覆土 9層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量，砂質粘土ブロック微量 | 6 極暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 灰褐色 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 灰褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| 4 灰褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 8 黒褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| | 9 暗褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片504点（坏22，高台付椀2，甕類480），須恵器片252点（坏108，高台付坏5，盤2，蓋15，高盤11，鉢5，甕類105，甌1），鉄器・鉄製品6点（刀子2，鎌1，不明3），鉄滓1点のほか，混入した剥片1点が出土している。遺物は主に竈内と東側の覆土上層から下層にわたって出土している。866・871は竈の覆土下層，872は東壁際の覆土下層，867・M140は東壁寄りの床面，M139は北壁際の覆土中層からそれぞれ出土し，時期判断の指標となる遺物である。869は竈の覆土下層と南壁寄りの床面から出土した破片が接合した資料である。868は中央部の覆土下層，870は東壁寄りの覆土中層，M137は中央部の床面，M138は覆土からそれぞれ出土し，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第547图 第2098号住居跡出土遺物実測図

第2098号住居跡出土遺物観察表（第547図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
865	須恵器	坏	[13.2]	3.9	[7.4]	長石・微礫	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後手持ちへら削り	竈覆土	30%
866	須恵器	坏	[13.6]	3.7	[8.2]	長石・石英・雲母・微礫	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後二方向の手持ちへら削り	竈覆土下層	35%
867	須恵器	坏	[12.9]	4.4	[7.2]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部へら削り	床面	10%
868	須恵器	盤	[15.2]	3.8	8.8	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部内外面口クロナデ 底部回転へら切り後高台貼り付け	覆土下層	PL167
869	須恵器	高盤	[16.6]	13.8	[11.5]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口口整形 坏部下端にへら痕 脚部内面へらナデ	竈覆土下層・床面	80% PL171
870	須恵器	鉢	[30.8]	(17.7)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面横位・縦位の平行叩き 内面輪積痕を残すへらナデ	覆土中層	20%
871	土師器	甕	[20.2]	(10.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ	竈覆土下層	10%
872	土師器	小形甕	8.7	9.2	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面下位へら削り 内面輪積痕を残すへらナデ 底部木葉痕	覆土下層	70% 口辺部内面に煤付着 PL178

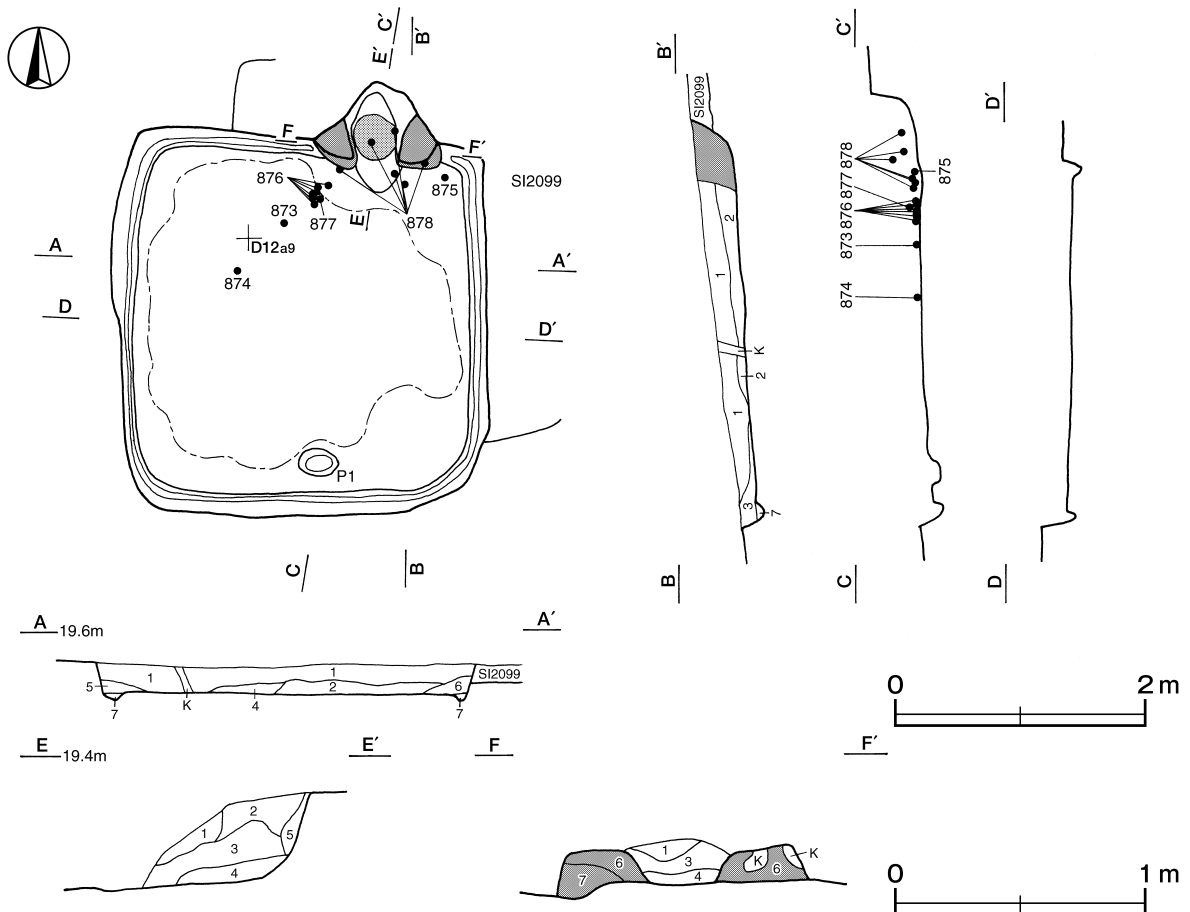
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M137	刀子	(14.9)	1.8	0.4	(24.6)	鉄	切先・茎一部欠損 両区 茎に柄木が残存	床面	PL198
M138	刀子	(3.2)	(0.9)	0.3	(2.6)	鉄	切先・刃部・茎欠損	覆土	
M139	鎌	(18.7)	3.3	0.3	(78.4)	鉄	先端部・基部一部欠損	覆土中層	PL196
M140	鉄滓	10.7	10.8	5.1	659.9	鉄	表面錆付着 中央部がくぼむ	床面	PL198

第2100号住居跡（第548・549図）

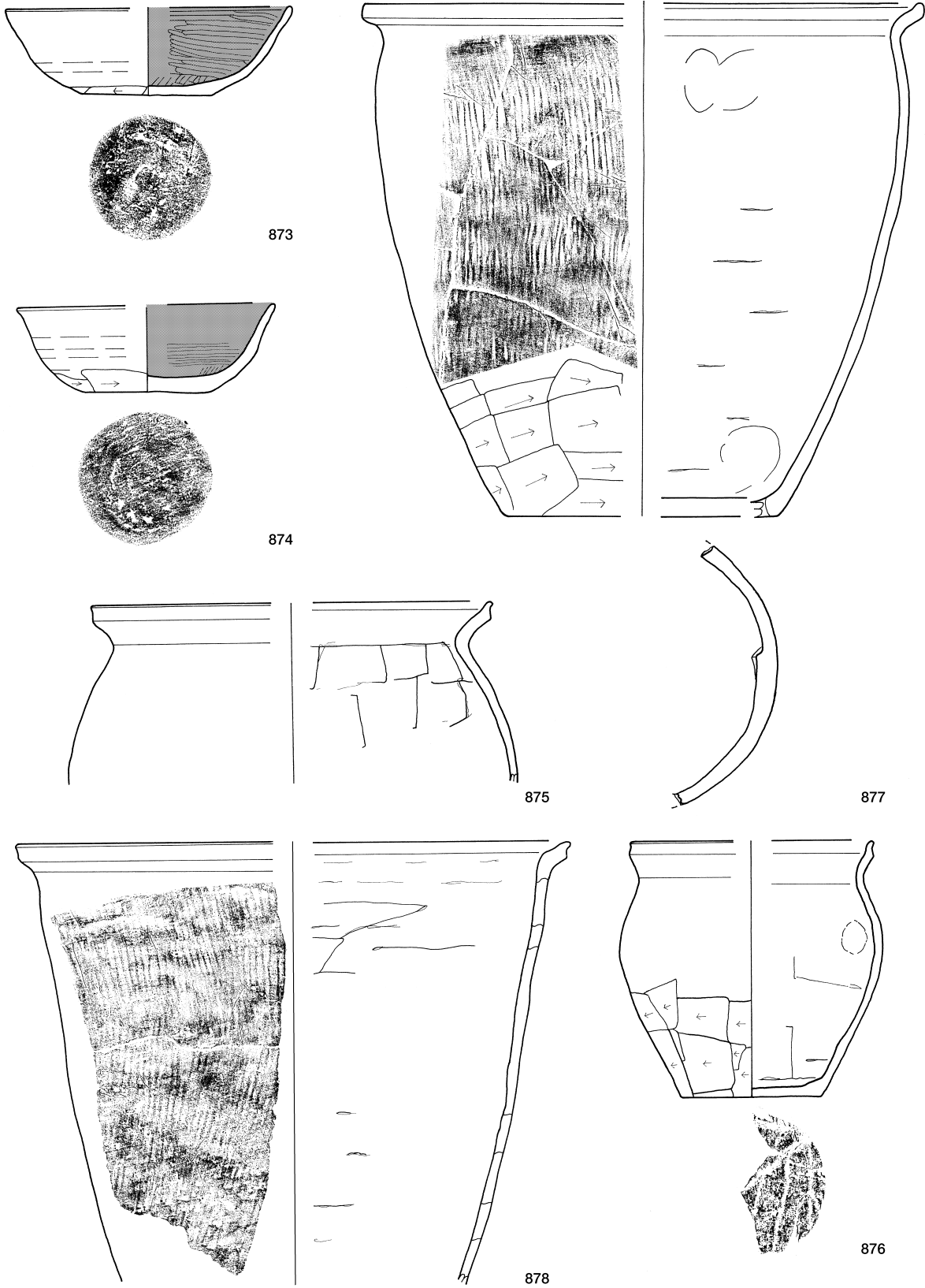
位置 調査区南部のD12a9区，標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2099号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.03m，短軸3.00mの方形で，主軸方向はN - 7° - Eである。壁高は12~18cmで，外傾して立ち上がっている。



第548図 第2100号住居跡実測図



第549图 第2100号住居跡出土遺物実測図

床 中央部から南側に向かって緩やかに傾斜しており、中央部が踏み固められている。壁下には幅5～12cm、深さ5～8cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで86cm、両袖部幅100cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 褐灰色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 7 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | | |

ピット P1は深さ9cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化材・砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片195点（坏55、椀2、高台付椀2、甕類136）、須恵器片110点（坏13、蓋1、甕類66、甌30）が主に竈内と西側の覆土上層から下層にわたって出土している。875は北東コーナー際の床面、878は竈の覆土中層から下層と袖部から出土した破片が接合した資料である。876・877は竈左袖前の床面、873・874は中央部の床面から出土し、いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2100号住居跡出土遺物観察表（第549図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
873	土師器	坏	[14.2]	4.4	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	床面	40%
874	土師器	坏	[12.8]	4.3	6.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	50%
875	土師器	甕	[20.0]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	5%
876	土師器	小形甕	[12.2]	12.9	7.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ下半ヘラ削り 内面輪積痕を残すヘラナデ 底部木葉痕	床面	45%
877	須恵器	甌	[28.2]	25.9	[13.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部外面縦位の平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残すナデ 当て具痕 5孔式カ	床面	35%
878	須恵器	甌	[27.6]	(22.2)	-	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面縦位・斜位の平行叩き 内面輪積痕を残すヘラナデ	竈覆土中層～下層・袖部	30%

第2101号住居跡（第550図）

位置 調査区南東部のD14b2区、標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2104号住居跡を掘り込み、第2226・2227・2233号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.13m、短軸2.85mの長方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は12～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北西コーナーに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cmであり、袖部は確認されなかった。火床部は床面を7cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cmほど掘り

込まれ、火床部から階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂微量 | 4 赤褐色 | 焼土ブロック多量,炭化粒子少量 |
| 2 褐灰色 | 砂質粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | | |

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で、深さは23~27cmである。P3は深さ23cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

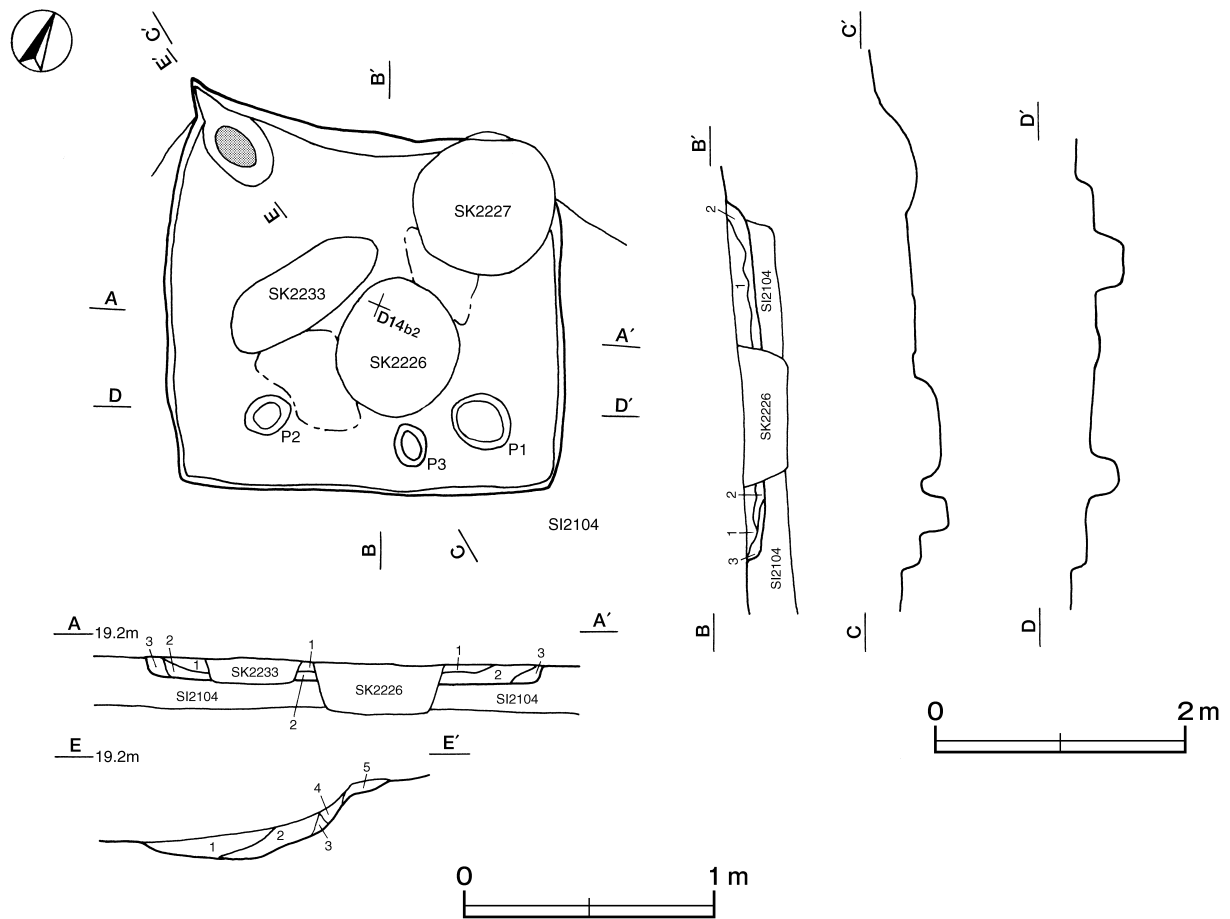
覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量,炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片102点(坏10,甕類92),須恵器片25点(坏9,高台付坏1,蓋2,高盤2,甕類11)のほか、混入した須恵器片2点が出土している。遺物はすべて細片で、中央部に散在している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第550図 第2101号住居跡実測図

第2102号住居跡 (第551・552図)

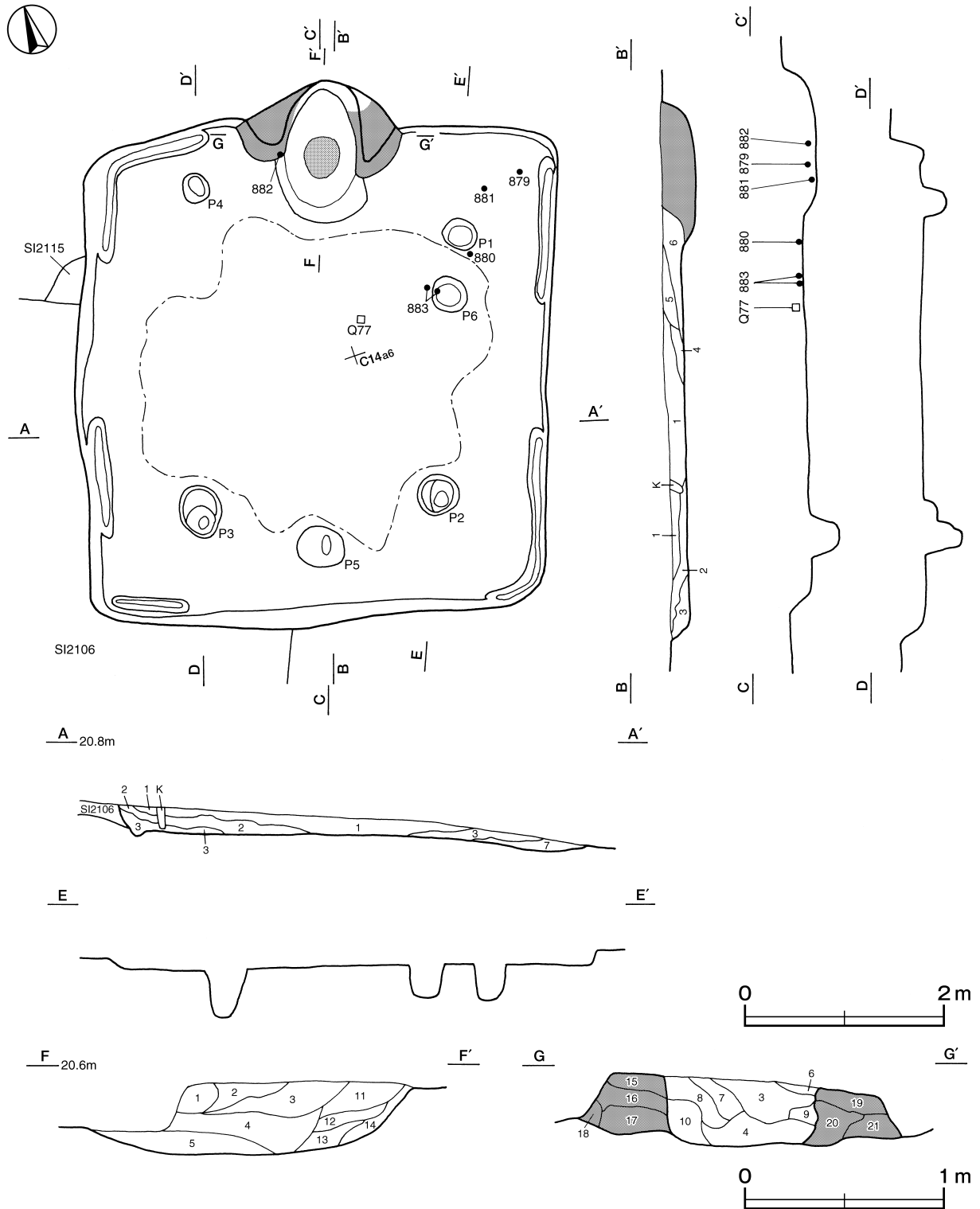
位置 調査区東部のB14j5区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2106・2115号住居跡を掘り込んでいる。

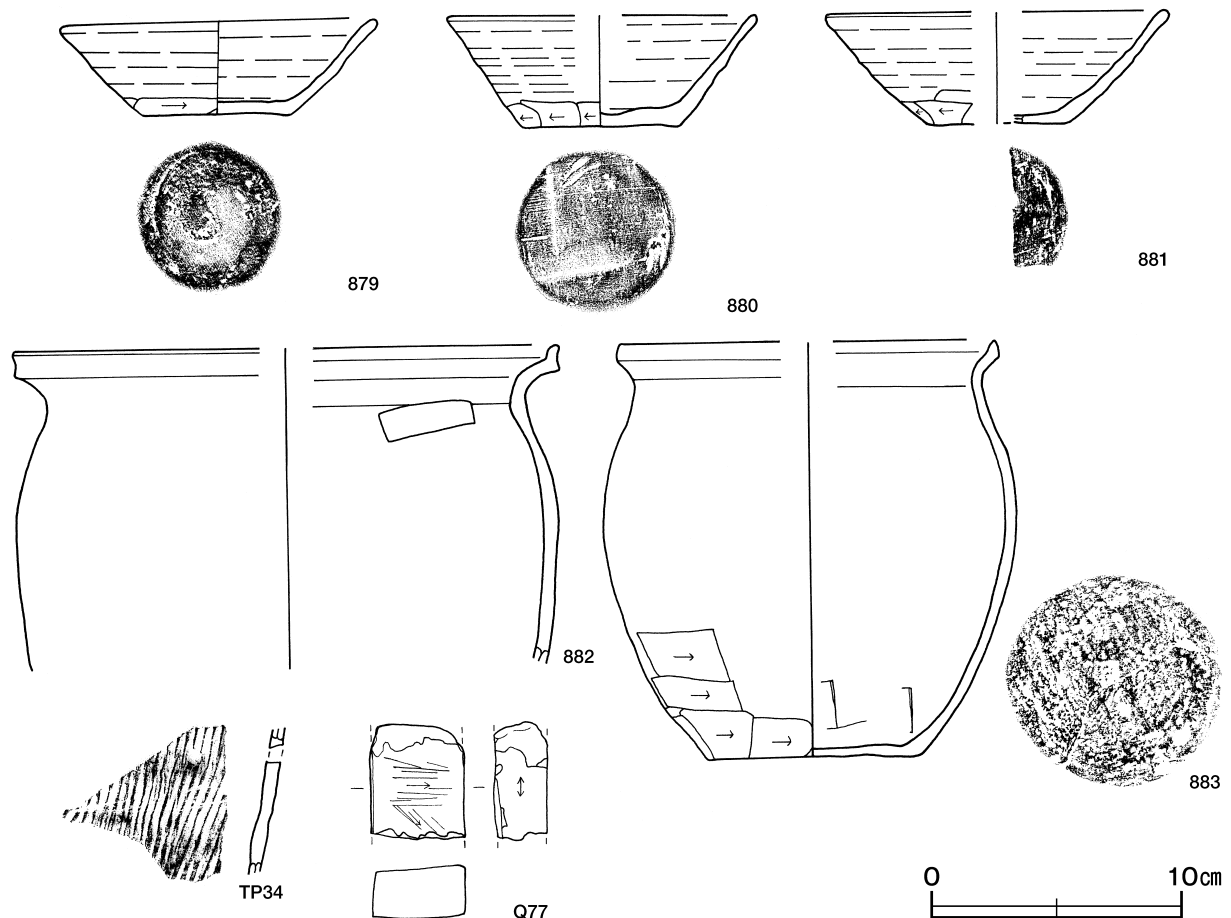
規模と形状 長軸5.11m、短軸4.69mの方形で、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は11~41cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部から東壁に向かって緩やかに傾斜している。壁下には、深さ4～8cmで、幅8～18cm、U字状の断面を呈する壁溝が部分的に確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで144cm、袖部幅160cmである。袖部はローム土と砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。



第551図 第2102号住居跡実測図



第552図 第2102号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 灰褐色 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 13 極暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 焼土ブロック微量 | 14 極暗赤褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 15 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 16 灰褐色 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 17 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 6 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 18 褐色 砂質粘土ブロック中量 |
| 7 極暗赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 19 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量 |
| 8 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 20 灰褐色 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 9 灰褐色 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 21 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量 |
| 10 灰褐色 砂質粘土ブロック中量 焼土ブロック・炭化粒子少量 | |
| 11 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量 | |
| 12 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で深さ23～47cmである。P5は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は配置からP1の補助柱穴とも想定されるが、明確でない。

覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 灰褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 炭化材・ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片383点(坏21, 甕類362), 須恵器片308点(坏161, 高台付坏3, 蓋8, 甕類114, 甌22), 石器1点(砥石)のほか、混入した土師器片1点, 須恵器片1点, 鉄滓1点も出土している。ほとんどが破片で、竈内及び北側の覆土上層に集中している。882は竈の左袖前の覆土下層, 879は北東コーナー際の床面から

正位で、880・881は北東コーナー寄りの床面から出土し、時期判断の指標となる遺物である。883とQ77は中央部の床面と覆土中層から出土し、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また、TP34が覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2102号住居跡出土遺物観察表（第552図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
879	須恵器	坏	12.4	3.8	5.7	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 一方向の手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後	床面	100% PL164
880	須恵器	坏	[12.2]	4.4	6.3	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 二方向の手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後	床面	50%
881	須恵器	坏	[13.4]	4.4	[5.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 二方向の手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後	床面	30%
882	土師器	甕	[21.6]	(12.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	覆土下層	15%
883	土師器	甕	[14.8]	16.4	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面下位ヘラ削り内面ヘラナデ	床面	65%
TP34	須恵器	甕	-	(5.8)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面輪積痕を残すナデ 径0.5cmの外面からの穿孔一か所	覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q77	砥石	(4.6)	3.7	2.2	(63.0)	凝灰岩	砥面4面 一部欠損	覆土中層	

第2103号住居跡（第553図）

位置 調査区東部のC14e4区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2218号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.16m、短軸2.68mの長方形で、主軸方向はN-25°-Eである。壁高は5～11cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部の西寄りが踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで122cm、右袖部は第2218号土坑に掘り込まれ確認できない。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に70cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。また、煙道部には土製の支脚が付設されている。

竈土層解説

1 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	7 褐色	灰褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子少量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	8 明褐色	ローム粒子多量、砂質粘土ブロック中量	
3 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化材少量	9 灰褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	
4 暗赤褐色	焼土ブロック少量	10 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量			
6 極暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量			

ピット 4か所。P1・P2は支柱穴で、深さは20～42cmである。P3は深さ20cmで、南壁際に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4の性格は不明である。

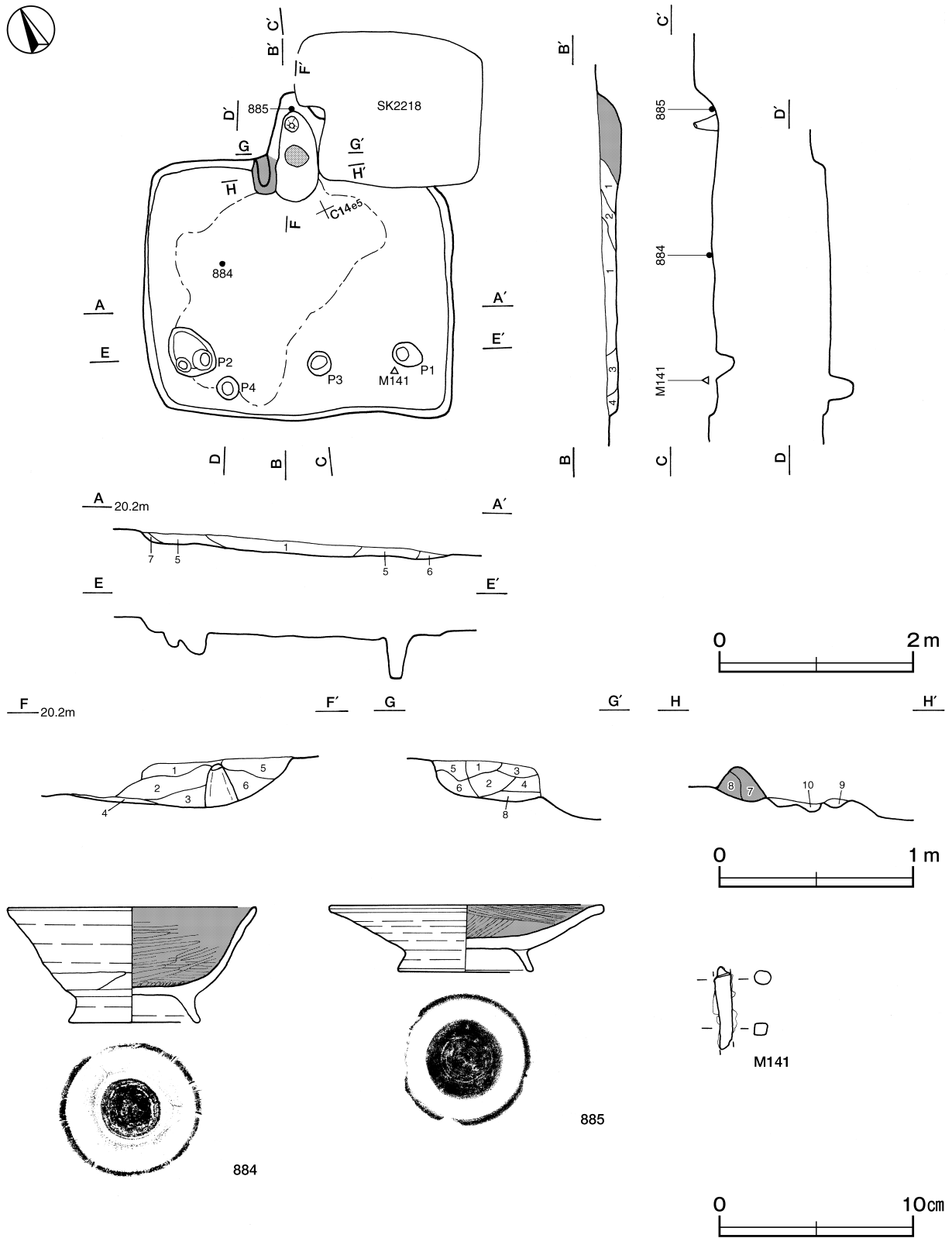
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7 褐色	ローム粒子多量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片72点(坏12, 高台付椀2, 高台付椀1, 高台付皿1, 甕類56), 須恵器片22点(坏5, 盤1, 甕類16), 鉄器1点(鏃)が竈内を中心に出土している。885は竈の覆土下層, 884は西壁寄りの床面から出土し、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M141は南壁寄りの覆土下層から出土し、廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第553図 第2103号住居跡・出土遺物実測図

第2103号住居跡出土遺物観察表（第553図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
884	土師器	高台付碗	12.5	5.9	6.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	80% PL167
885	土師器	高台付皿	13.8	3.5	6.7	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面丁寧なヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈覆土下層	100% PL167

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M141	不明鉄製品	(4.3)	0.9	0.8	(6.5)	鉄	断面長方形・楕円形 一部残存	覆土下層	

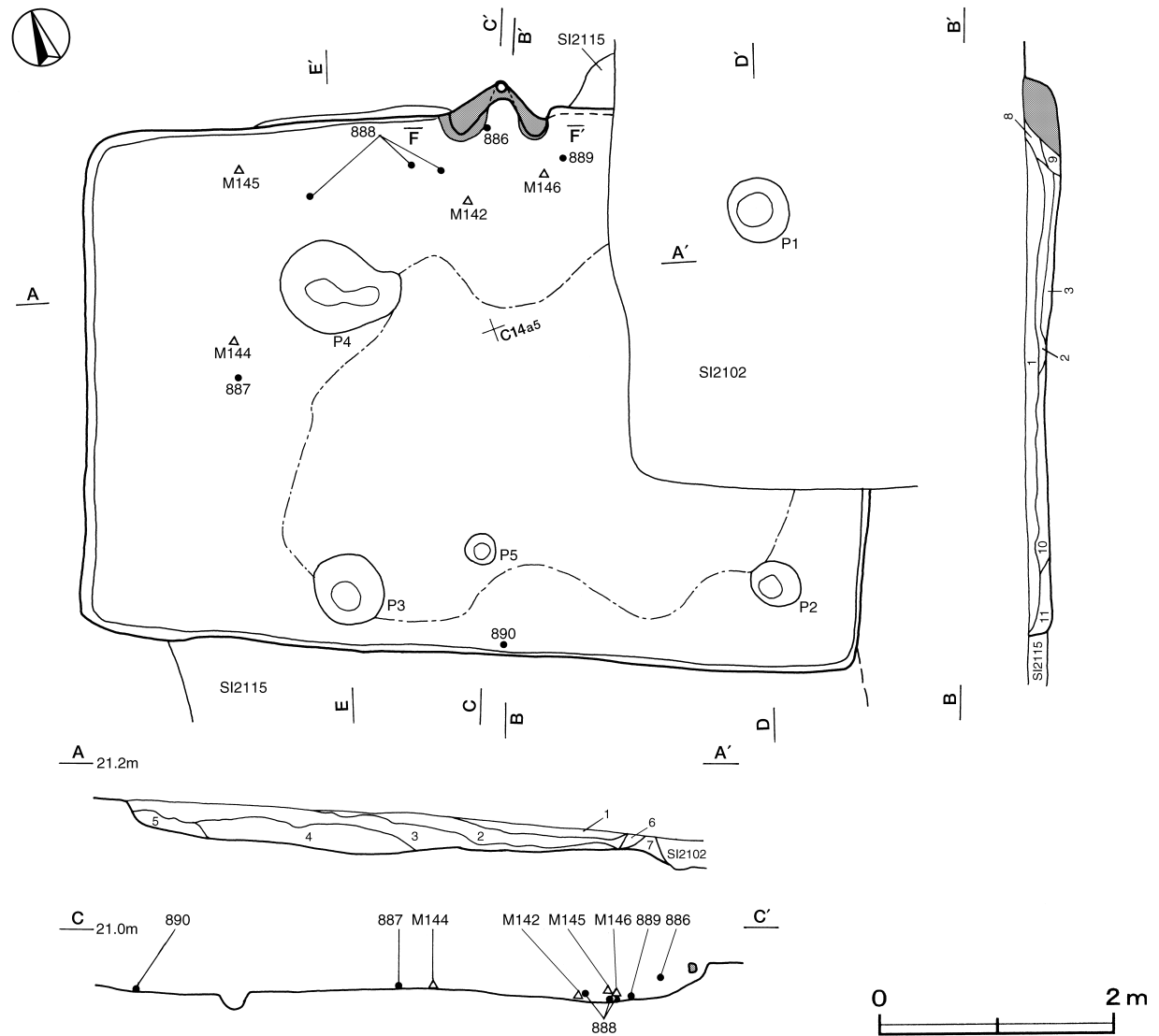
第2106号住居跡（第554・555図）

位置 調査区東部のB14j4区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

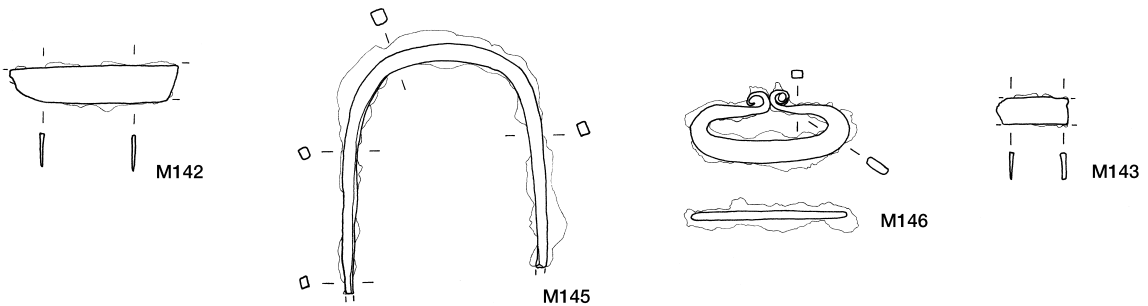
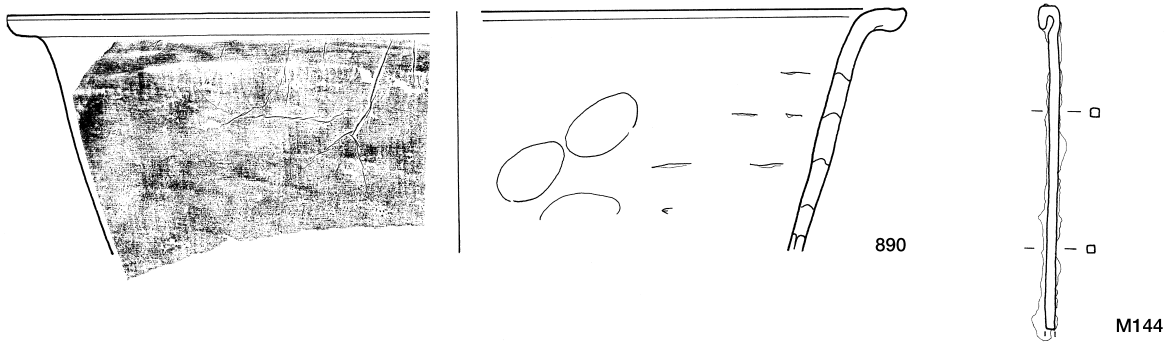
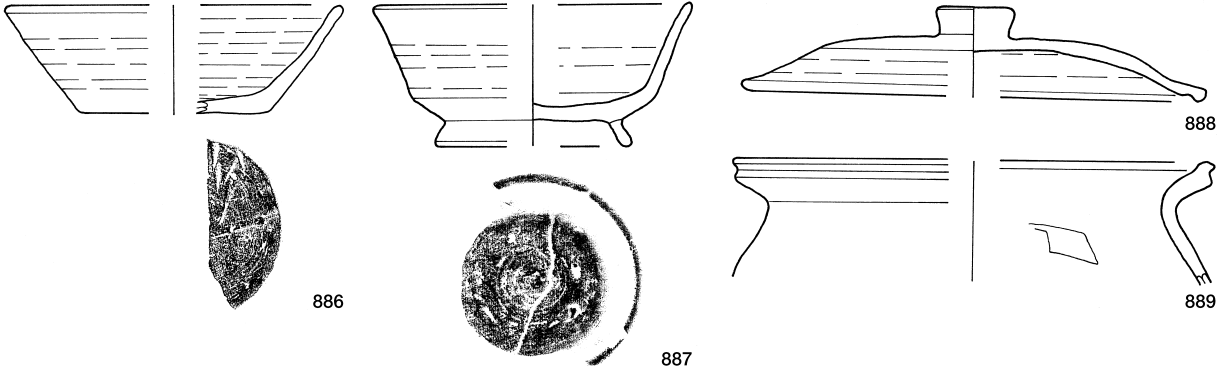
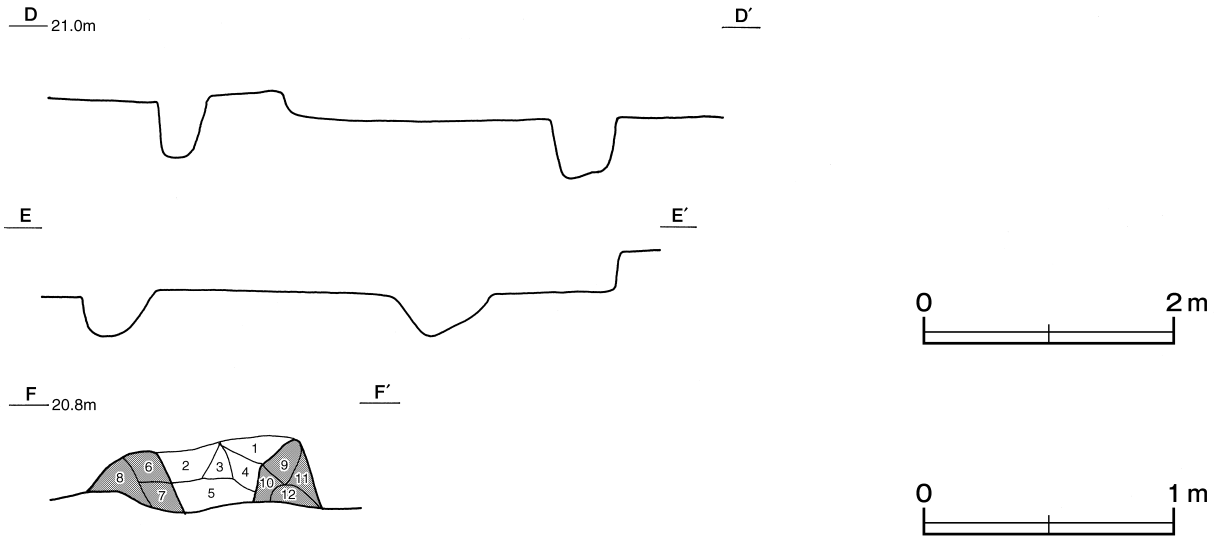
重複関係 第2115号住居跡を掘り込み、第2102号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北東部を第2102号住居に掘り込まれているが、長軸6.60m、短軸4.56mの長方形で、主軸方向はN-20°-Eである。確認された壁高は16~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部から竈の方向へ緩やかに傾斜しており、また、西側がやや高くなっている。中央部が踏み固められている。



第554図 第2106号住居跡実測図



第555图 第2106号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。煙道と天井部の一部が残存している。竈前の床は緩やかに傾斜しており、明確な高低差を生じることなく火床部に至っている。規模は、袖部幅94cmで、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | 8 灰褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 9 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | 10 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量 | 11 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 極暗赤褐色 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | |
| 7 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さ32～48cmである。P5は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 黒褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量 | 10 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | 11 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片293点(甕類), 須恵器片289点(坏165, 高台付坏13, 盤1, 蓋16, 壺2, 甕類87, 甌5), 灰釉陶器片2点のほか、流れ込んだ須恵器片2点(坏), 陶器片3点も出土している。遺物はほぼ全面にわたって出土しているが、多くは細片である。890は南壁際の床面, 889は竈前の床面から出土し、時期判断の指標となる資料である。886は竈の覆土中層, 888・M145は北壁寄りの覆土下層, M146・M142は竈前の床面, 887・M144は西壁寄りの床面から出土し、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。またM143が覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2106号住居跡出土遺物観察表(第555図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
886	須恵器	坏	[13.0]	4.3	[7.4]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	竈覆土中層	40%
887	須恵器	高台付坏	[12.4]	5.6	[7.7]	長石・石英・雲母	胚白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	65%
888	須恵器	蓋	[17.9]	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土下層	55%
889	土師器	甕	[19.0]	(4.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	10%
890	須恵器	甌	[35.2]	(9.5)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面輪積痕を残すナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M142	刀子	(6.7)	(1.6)	0.2	(8.0)	鉄	切先・刃部残存	床面	
M143	刀子	(2.9)	(1.2)	0.3	(3.0)	鉄	棟区 刃部・茎一部残存	覆土	
M144	紡錘車	(12.9)	(0.9)	0.4	(10.7)	鉄	軸部断面方形 紡錘・軸部下部欠損	床面	
M145	門金具	(9.8)	8.1	0.55	(52.0)	鉄	断面長方形	覆土下層	PL197
M146	火打金	6.2	2.9	0.4	(18.2)	鉄	断面長方形の素材を凸字型におり曲げる 棒状の先端部が頂部で接するようにして、反転して蕨手状を呈する	床面	PL200

第2110号住居跡 (第556図)

位置 調査区東部のC14g3区, 標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第401号掘立柱建物, 第18号不明遺構, 第2262号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.85mの方形で, 主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は16~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲では, ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。第2262号土坑に掘り込まれており, 煙道部が壁外に20cm掘り込まれ, 緩やかに外傾して立ち上がっているのが確認された。

竈土層解説

1 褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量

ピット 2か所。P1は深さ30cmで, 配置から支柱穴と考えられる。P2の性格は不明である。

覆土 4層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

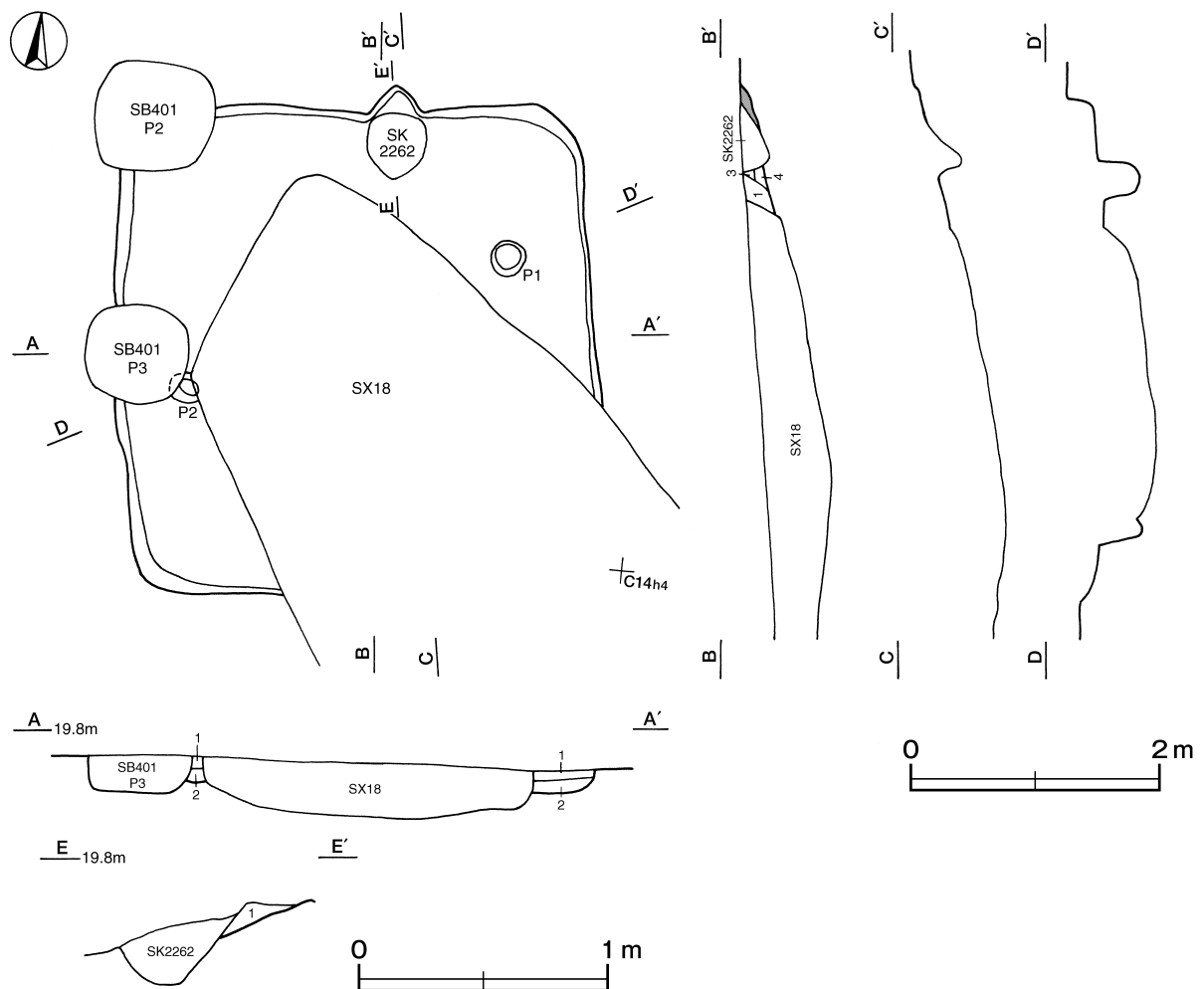
3 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 須恵器片2点(坏 甕)のほか, 混入した鉄製品1点が出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と考えられる。



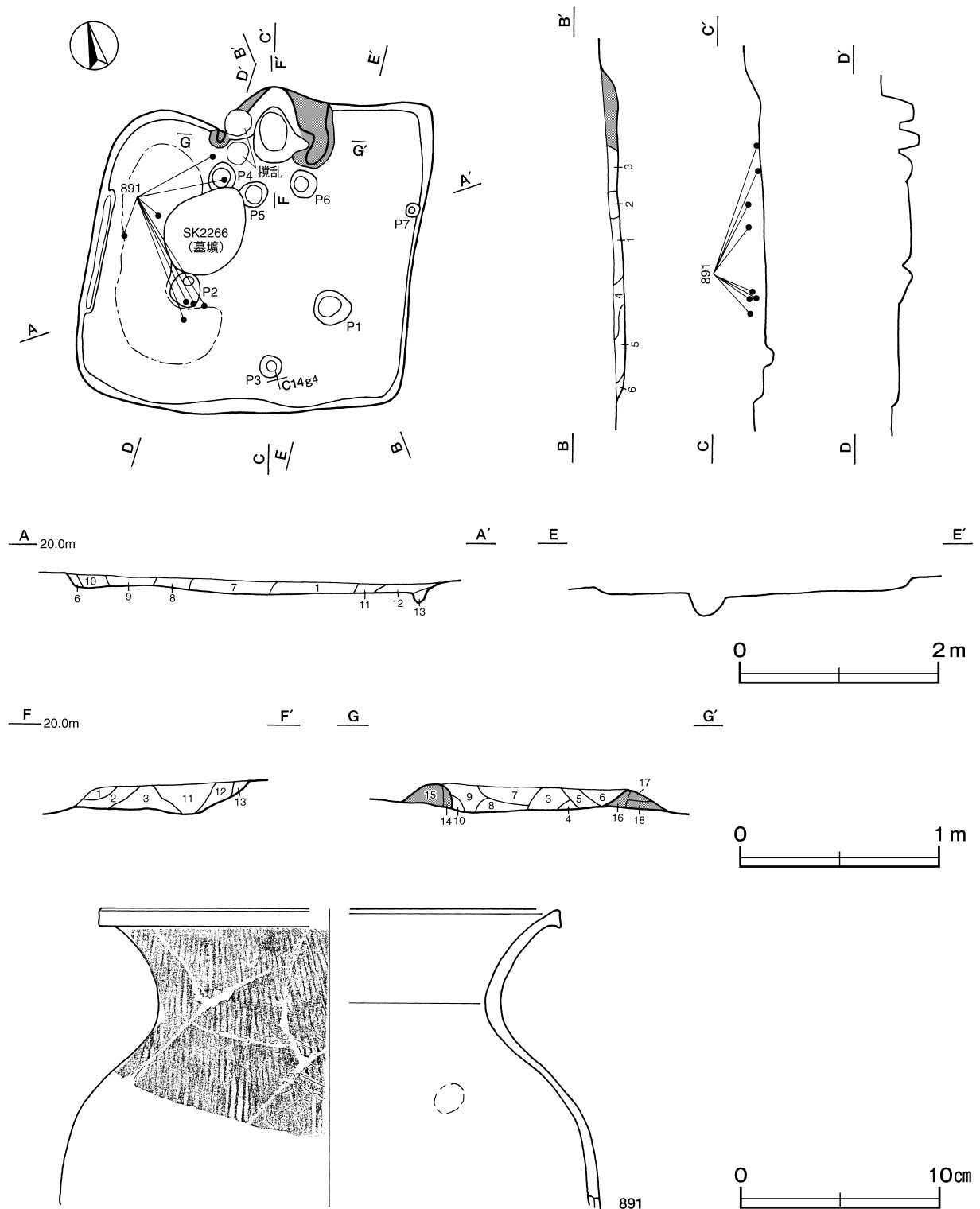
第556図 第2110号住居跡実測図

第2111号住居跡（第557図）

位置 調査区東部のC14f4区、標高19.5mほどの南東への傾斜面に位置している。

重複関係 第2266号土坑（墓墳）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.18m、短軸3.12mの方形で、主軸方向はN - 24° - Eである。壁高は6 ~ 15cmで、外傾して立ち上がっている。



第557図 第2111号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、西壁際が踏み固められている。西壁際の一部に、幅13cm、深さ11cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで79cm、袖部幅は攪乱を受けているため推定で109cmほどと考えられる。袖部は床面とほぼ同じ高さに粘土とローム土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ21cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量,炭化粒子少量 | 10 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子少量 | 11 赤褐色 焼土粒子多量,炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量,炭化粒子少量 | 12 黒褐色 焼土ブロック少量 |
| 4 灰褐色 砂質粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 6 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量 | 15 明褐色 ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 8 褐色 ローム粒子中量,焼土ブロック・炭化粒子少量 | 17 褐色 ローム粒子中量 |
| 9 暗赤褐色 炭化材・焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 18 明褐色 ロームブロック多量 |

ピット 7か所。P1・P2は主柱穴で、深さは21cmと13cmである。P3は深さ10cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4～P7の性格は不明である。

覆土 13層に分けられる。ブロック状に堆積しているが、堆積が薄いため詳細は不明である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量,粘土ブロック少量 | 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量,焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 炭化材・焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 炭化材・ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 11 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量 | 12 赤褐色 焼土ブロック多量,粘土ブロック中量,ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 褐色 ローム粒子多量 | 13 暗褐色 ローム粒子少量,粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片92点(坏4,甕類87,甑1),須恵器片49点(坏7,甕類42),灰釉陶器片1点(瓶類),粘土塊3点,雲母片岩1点が出土しており、西壁付近や中央部を中心に散在している。891は西壁から竈袖部に向かって出土している状況から、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2111号住居跡出土遺物観察表(第557図)

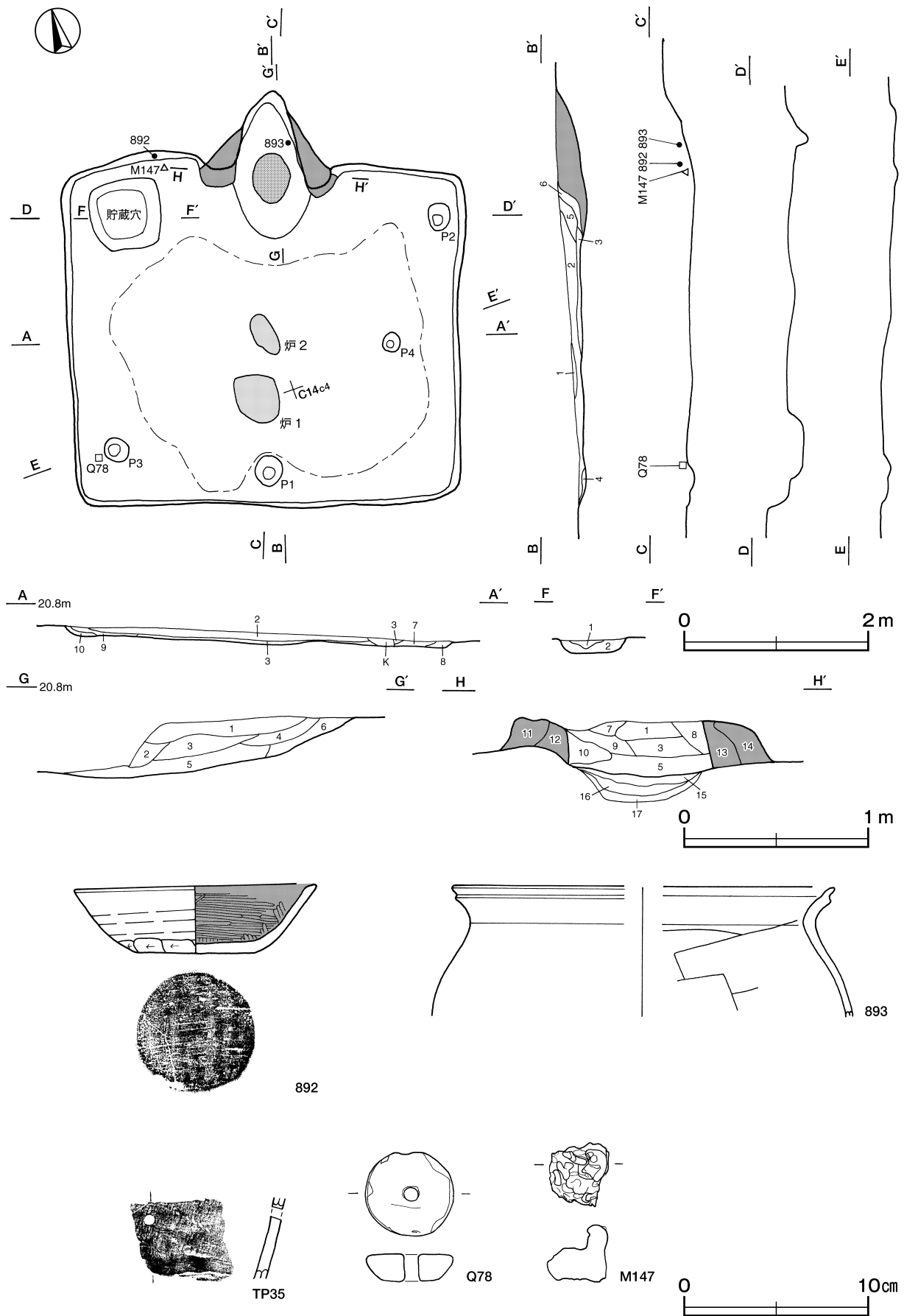
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
891	須恵器	甕	[22.6]	[14.9]	-	石英・雲母	暗褐黄	普通	体部外面縦位平行叩き 内面ナデ 指頭痕	覆土上層-床面	20%

第2112号住居跡(第558図)

位置 調査区東部のC14b4区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.16m、短軸3.72mの長方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は3～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 東側に向かって緩やかに傾斜しており、中央部が踏み固められている。中央部の床面から炉跡が2か所確認されている。



第558图 第2112号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで158cm、袖部幅140cmである。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に74cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰 褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量	10 極暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
2 暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量	11 灰 褐色	砂質粘土ブロック多量, 炭化材・ローム粒子少量
3 暗赤褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	12 灰 褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化材少量	13 褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化材少量
5 極暗赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子少量	14 黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土ブロック少量
6 極暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	15 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化材少量
7 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	16 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化材少量, ローム粒子微量
8 暗赤褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量	17 灰 褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量
9 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量		

炉 2か所。炉1は中央部南寄りに付設されている。長径58cm、短径50cmの楕円形で、掘り込みはほとんど見られない。底面は火を受けて赤変硬化している。炉2は中央部に付設されている。長径46cm、短径22cmの楕円形で、掘り込みはほとんど見られない。底面は火を受けて赤変硬化している。

ピット 4か所。P1は深さ8cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2～P4の性格は不明である。

貯蔵穴 竈の西側に付設されている。一辺76cmの隅丸方形で、深さは17cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土ブロック少量

覆土 10層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	6 灰褐色	ロームブロック・炭化材少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量	8 褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
5 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	10 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片273点(坏30, 高台付椀1, 甕類242), 須恵器片96点(坏41, 甕類52, 甌3), 石製品1点(紡錘車), 鉄滓3点が出土している。遺物は竈内と北側に集中している。893は竈の覆土中層, 892・M147は北壁際の覆土中層, Q78は南壁寄りの床面からそれぞれ出土し、いずれも住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また, TP35が覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2112号住居跡出土遺物観察表(第558図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
892	土師器	坏	12.4	3.6	6.4	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端へラ削り 体部内面丁寧なへラ磨き 底部回転へラ切り後一方向のへラ削り	覆土中層	90%
893	土師器	甕	[20.4]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面へラナデ	竈覆土中層	5%
TP35	須恵器	甕	-	(4.3)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面輪積痕を残すナデ 径0.4cmの外面からの穿孔一か所	覆土	

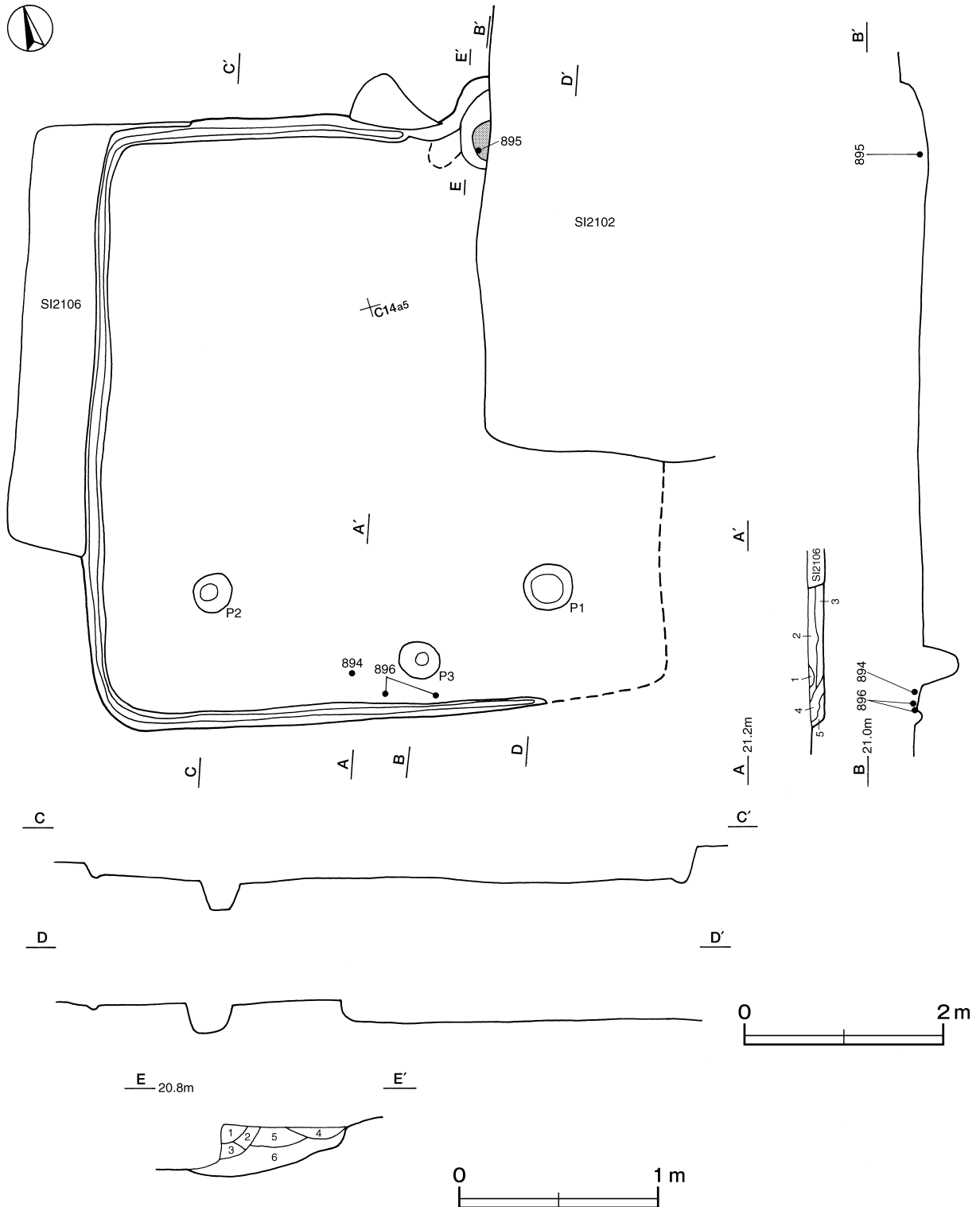
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q78	紡錘車	4.7	1.4	0.9	42.5	粘板岩	断面台形 両面穿孔	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M147	鉄滓	3.4	3.2	3.1	19.6	鉄	表面錆付着	覆土中層	

第2115号住居跡 (第559・560図)

位置 調査区東部のC14a4区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2102・2106号住居に掘り込まれている。



第559図 第2115号住居跡実測図

規模と形状 耕作により南側と南東コーナー部が削平されているが、東西軸5.76m、南北軸6.06mが確認された。主軸方向はN - 16° - Eである。壁高は4 ~ 31cmで、確認された各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。東側と南側の一部を除く壁下には、幅8 ~ 15cm、深さ4 ~ 5cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁の北東コーナー寄りに付設されているが、第2102号住居に東半分を掘り込まれている。規模は、焚口部から煙道部まで92cm、袖部は確認されていない。火床部は床面を4cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 5 にぶい赤褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で、深さは29~32cmである。P3は深さ38cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

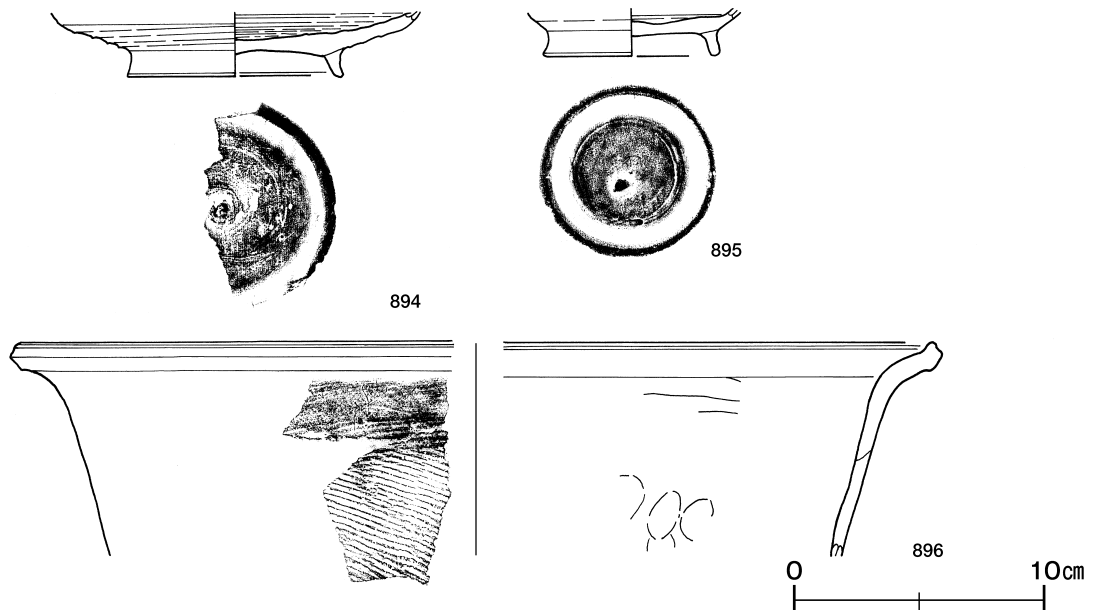
覆土 5層に分けられる。第1層は人為堆積、第2~5層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 灰褐色 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化材少量 | |

遺物出土状況 土師器片27点(甕類), 須恵器片73点(坏42, 高台付坏3, 壺1, 甕類23, 甌4)のほか、混入した陶器片1点も出土している。遺物は竈内と南側に集中している。895は竈の覆土下層, 894・896は南壁際の床面から出土し、時期判断の指標となる資料である。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第560図 第2115号住居跡出土遺物実測図

第2115号住居跡出土遺物観察表(第560図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
894	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	[8.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄橙	不良	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
895	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	6.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈覆土下層	10%
896	須恵器	甌	[36.0]	(8.4)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口辺部内面ヘラナデ 体部外面横位の平行叩き 内面指頭痕	床面	10%

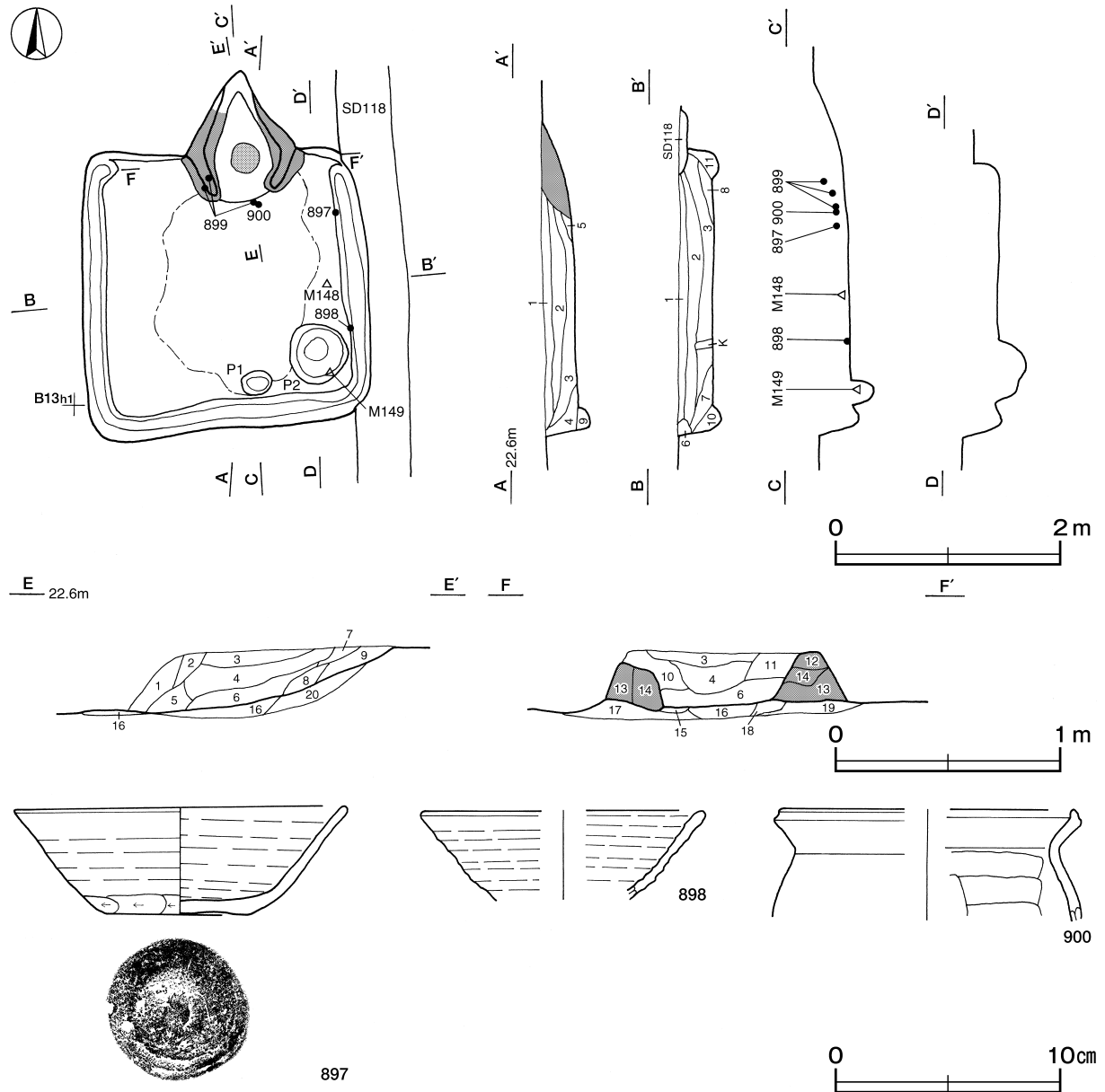
第2117号住居跡 (第561・562図)

位置 調査区中央部のB13h2区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

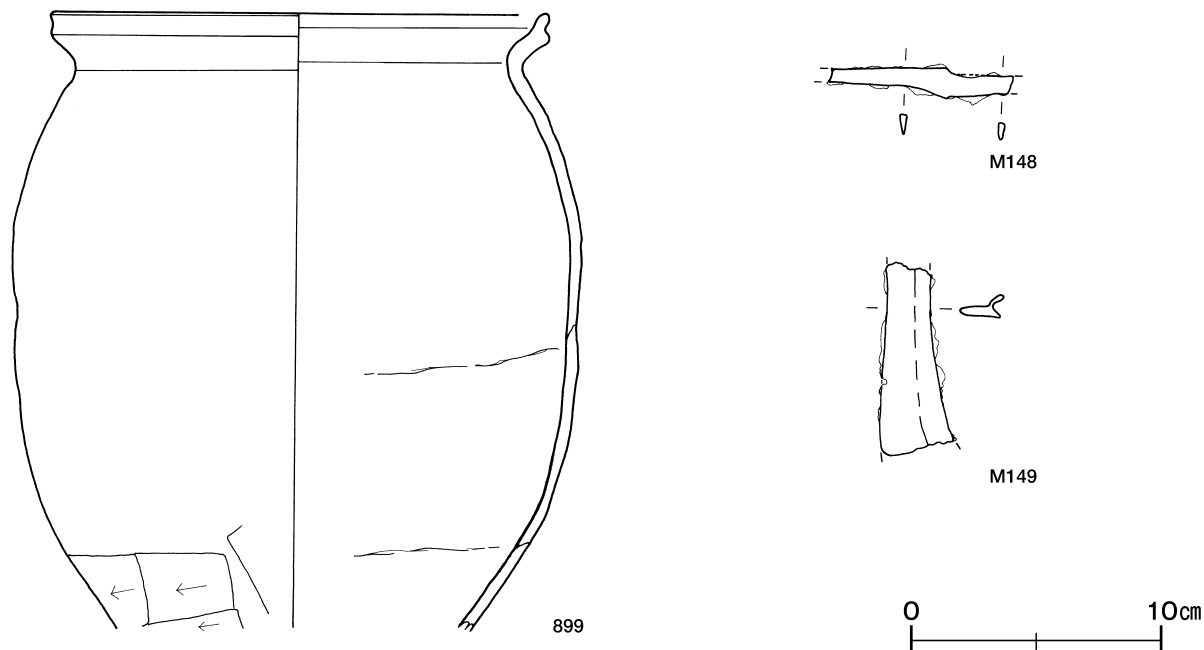
重複関係 第118号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.51m、短軸2.45mの方形で、主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は22~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北壁を除く壁下には、深さ4~10cm、幅10~20cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第561図 第2117号住居跡・出土遺物実測図



第562図 第2117号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅108cmである。袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に72cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13 褐 灰色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 灰 褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量	14 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	15 暗 赤 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量
4 黒 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	16 暗 赤 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量
5 灰 褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量	17 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗 赤 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	18 灰 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
7 黒 暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	19 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 灰 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	20 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9 暗 褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量		
10 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量		
11 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量		
12 暗 褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット 2か所。P1は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ25cmで、配置から貯蔵穴の可能性も想定されるが、明確でない。

覆土 11層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
2 暗 褐色	ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量	8 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量	9 暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	10 褐 色	ロームブロック少量
5 暗 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量
6 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片270点(坏16, 甕類254), 須恵器片48点(坏26, 蓋2, 甕類20), 鉄製品2点(刀子, 鋤先)が出土している。遺物は主に竈内と東側の覆土上層に集中している。899・900は竈の左袖部上から焚口前の覆土下層, 897は東壁際の覆土下層, 898は床面, M148は東壁寄りの覆土下層, M149はP2の覆土上層からそれぞれ出土し、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2117号住居跡出土遺物観察表 (第561・562図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
897	土師器	坏	14.5	4.9	6.2	長石・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後 一方の手持ちへら削り	覆土下層	90% PL164
898	須恵器	坏	[12.4]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	不良	体部口クロナデ	床面	5%
899	土師器	甕	19.4	(24.4)	-	長石・石英・雲母・微礫	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 下端手持ちへら削り 内面輪積痕を残すナデ	竈左袖部～覆土下層	40%
900	土師器	甕	[13.0]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面へらナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M148	刀子	(7.4)	1.2	0.3	(6.3)	鉄	刃部の研ぎ減りが顕著 切先・茎一部欠損	覆土下層	
M149	鋤先	(7.6)	(3.0)	0.9	(30.4)	鉄	U字状 内側袋状 一部残存	P2 覆土上層	

第2118号住居跡 (第563～565図)

位置 調査区東部のB13i3区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2143号住居跡を掘り込み、第118号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.35m、短軸4.25mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は15～28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅16～18cm、深さ6～9cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで134cm、袖部幅196cmである。袖部は地山を掘り込み、砂質粘土を主体に構築されている。また、両袖部から土師器甕が逆位の状態で出土していることから、袖部材の一部として使用されていたと考えられる。火床部は床面を17cm掘りくぼめてローム土と粘土ブロックを埋め戻している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	13	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	14	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	15	にぶい褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	極暗赤褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	16	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	17	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	18	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	褐色	炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	19	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
8	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	20	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
9	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・砂質粘土粒子少量	21	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
10	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量			
11	褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量			
12	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量			

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは18～49cmである。P5は深さ18cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 17層に分けられる。レンズ状に堆積しているが、堆積が薄いため詳細は不明である。第17層は、締まった貼床の構築土である。

土層解説

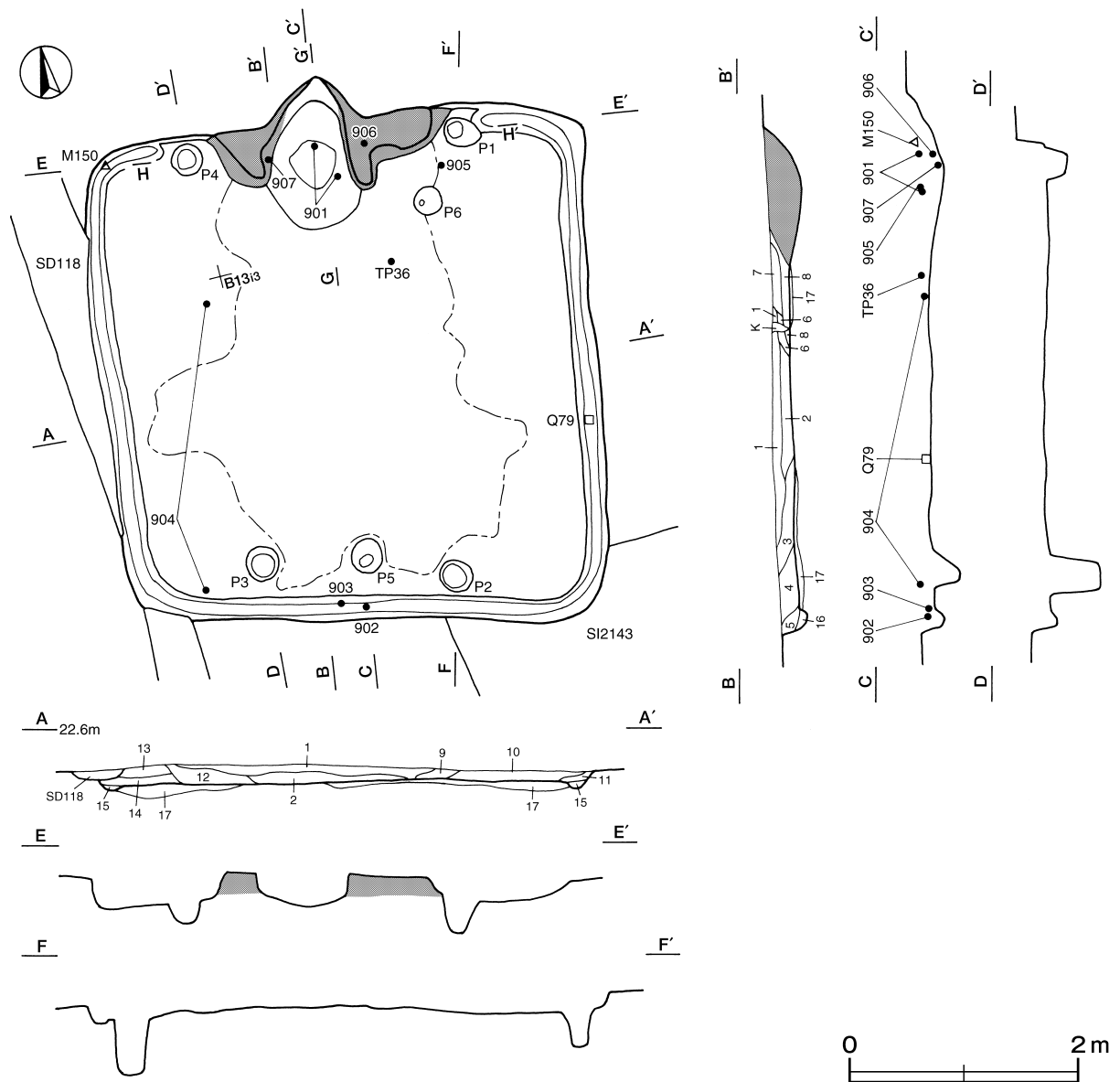
1	暗褐色	炭化材・ロームブロック・焼土ブロック少量	7	黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2	黒褐色	炭化材・ローム粒子・焼土粒子少量	8	黒褐色	炭化材中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	10	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
5	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量			
6	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量			

- 11 明 褐色 ローム粒子多量
- 12 暗 褐色 炭化材・ロームブロック・焼土粒子少量
- 13 暗 褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 14 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

- 15 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 17 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片521点(坏29, 甕類492), 須恵器片395点(坏323, 蓋14, 甗1, 甕類52, 甑5), 灰釉陶器片1点(瓶類), 石器1点(砥石), 鉄器1点(刀子), 粘土塊3点が出土している。南部から中央部にかけての覆土下層を中心に散在しており, 902と903は南壁際の覆土下層, 904は南壁際の覆土中層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したもの, 905は北東部の覆土中層から出土したもので, これらは住居廃絶時に近い時点で廃棄されたものと考えられる。竈の覆土内から甕類などとともに901が出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられ, 支脚として使用されていた可能性もある。906・907はそれぞれ竈袖部から逆位の状態で出土しており, 竈の構築材の一部として使用されていたものである。Q79は東壁際の覆土下層, M150は北西コーナー部の覆土上層から出土している。

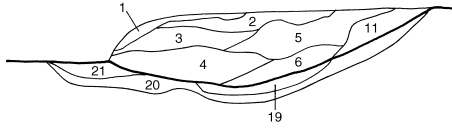
所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第563図 第2118号住居跡実測図

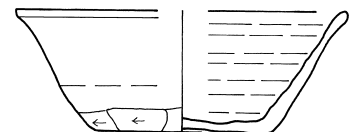
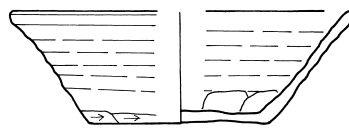
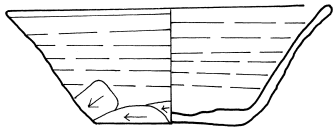
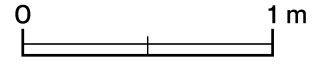
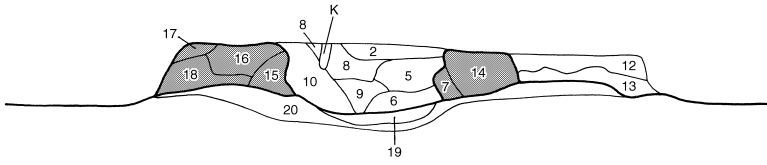
G 22.6m

G'



H

H'



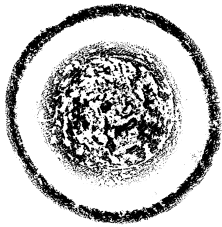
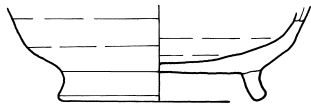
901



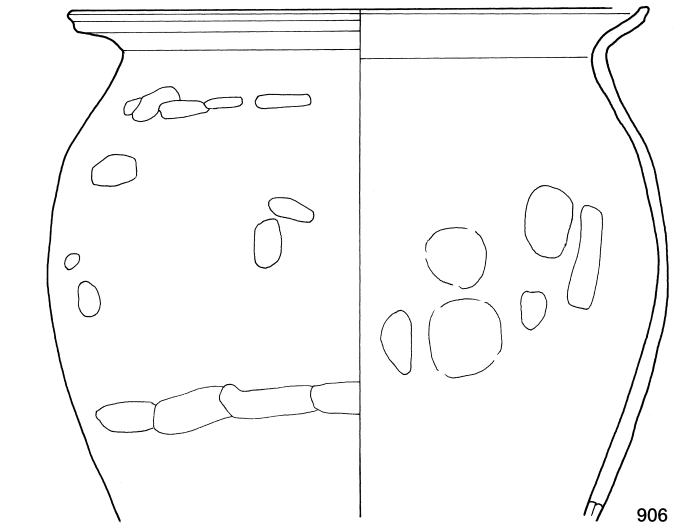
902



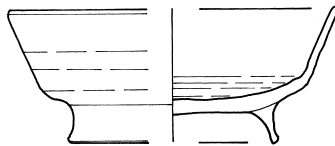
903



905



906



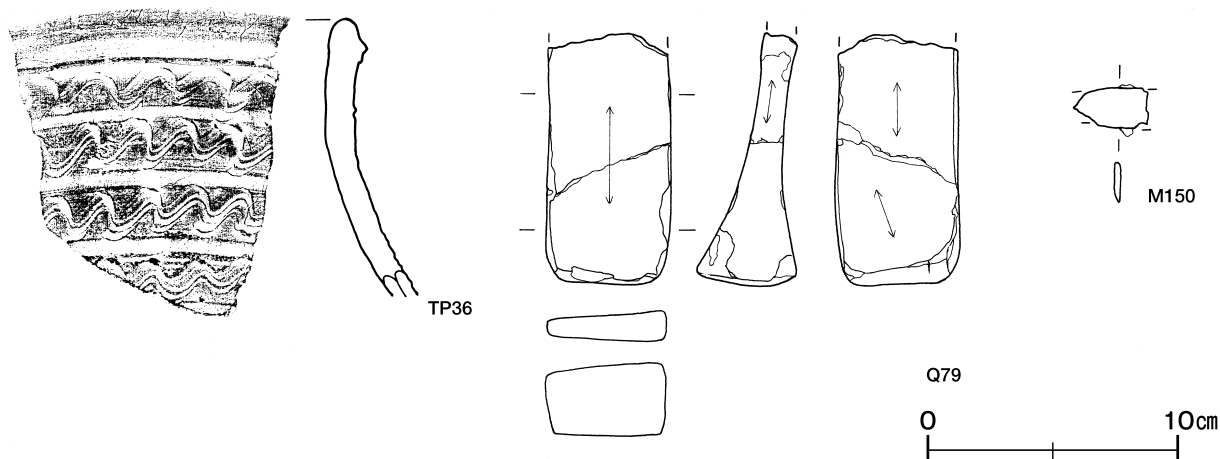
904



907



第564图 第2118号住居跡・出土遺物実測図



第565図 第2118号住居跡出土遺物実測図

第2118号住居跡出土遺物観察表（第564・565図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
901	須恵器	坏	12.6	4.7	5.9	長石・石英・礫	灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後へら削り 底部指頭痕	竈覆土中層	70% PL164
902	須恵器	坏	[13.4]	4.5	7.0	石英・雲母	灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後へらナデ 内面ナデ	覆土下層	40%
903	須恵器	坏	[13.1]	4.9	7.1	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後へら削り	覆土下層	40%
904	須恵器	高台付坏	[12.7]	5.3	[8.2]	石英・礫	灰	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転へら切り後高台貼り付け	覆土中～下層	70% PL166
905	須恵器	高台付坏	-	(3.8)	7.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転へら切り後高台貼り付け	覆土中層	30%
906	土師器	甕	22.5	(20.3)	-	長石・石英・雲母・礫	明赤褐	普通	内外面ナデ 指頭痕	竈右袖部内	60% 電構築材
907	土師器	甕	[22.7]	(15.6)	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	内外面ナデ	竈左袖部内	60% 電構築材
TP36	須恵器	甕	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面横ナデの区画をした後波状文施文 内面ロクロナデ	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q79	砥石	(10.0)	5.0	4.0	(164.8)	凝灰岩	砥面3面 他は破断面	覆土下層	PL195

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M150	刀子	(3.0)	(1.7)	0.3	3.5	鉄	茎部・刃部欠損 茎部に木質部附着	覆土上層	

第2120号住居跡（第566・567図）

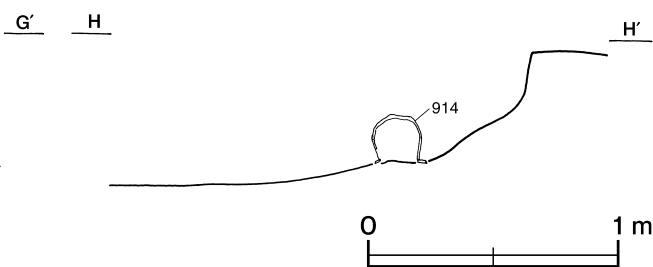
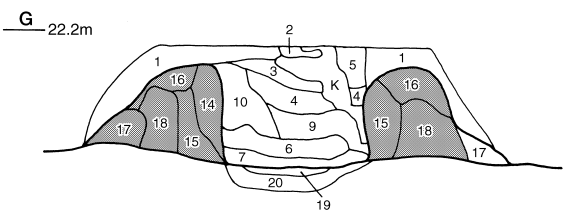
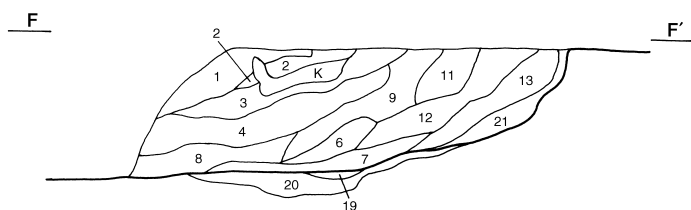
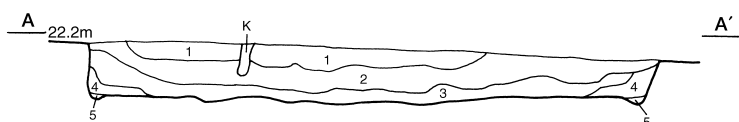
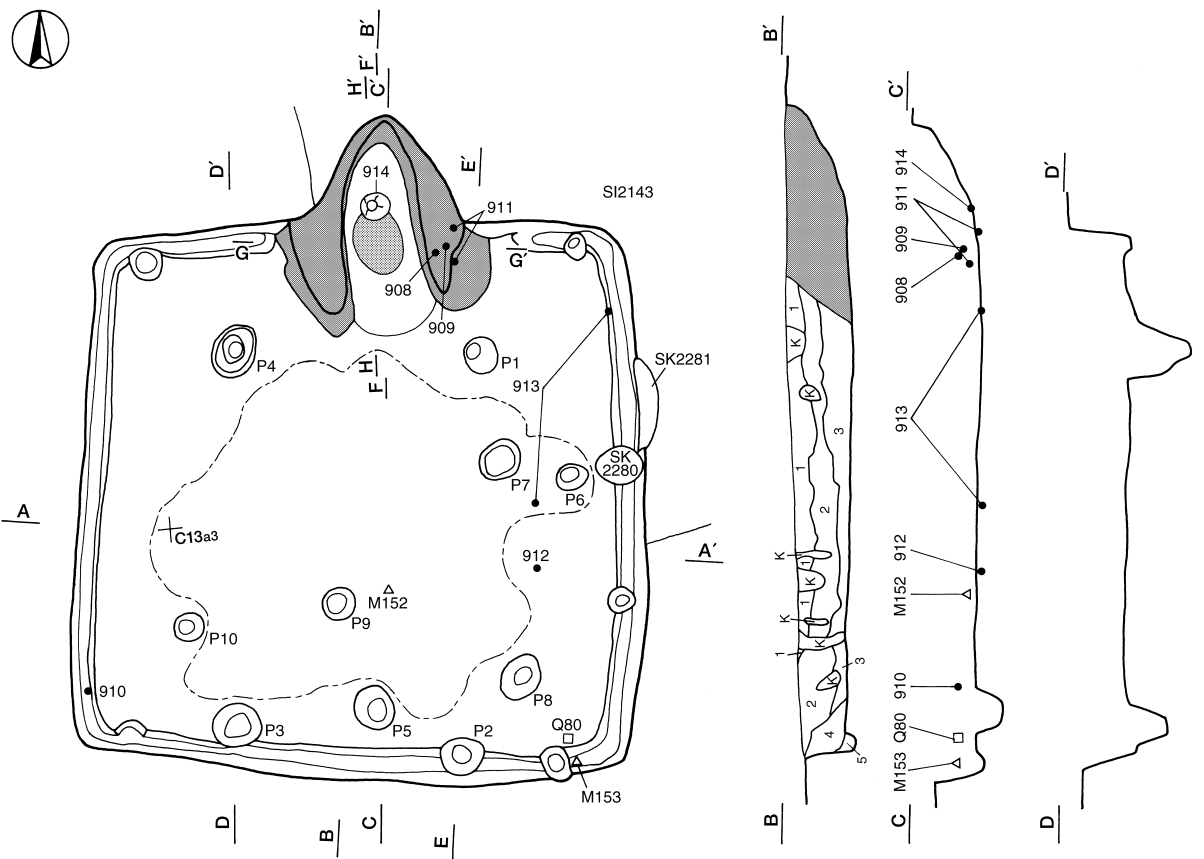
位置 調査区中央部のB13j3区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2143号住居跡を掘り込み、第2280・2281号土坑に掘り込まれている。

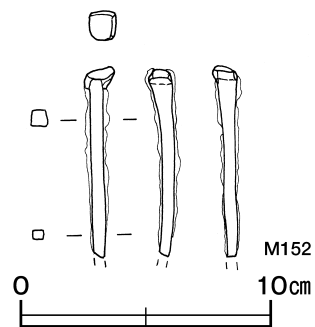
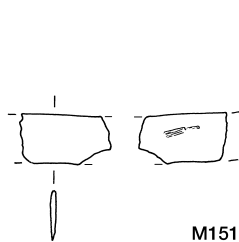
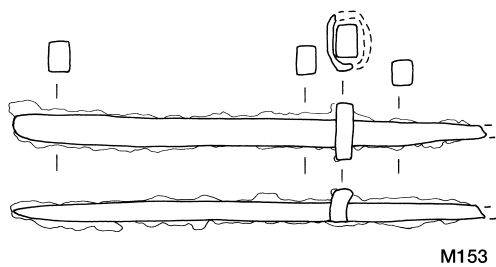
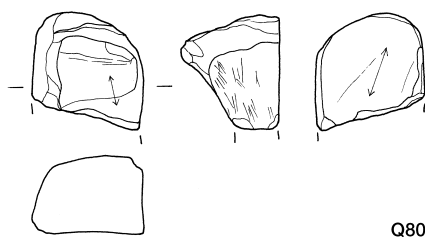
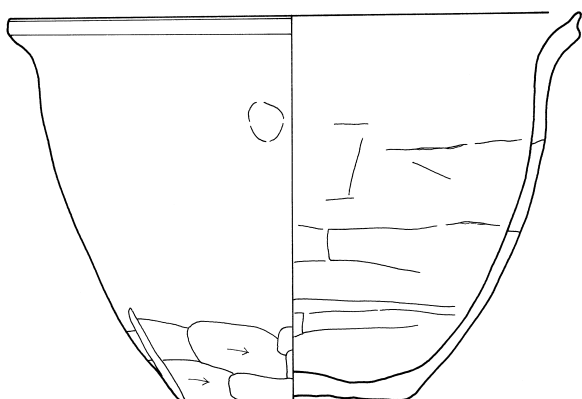
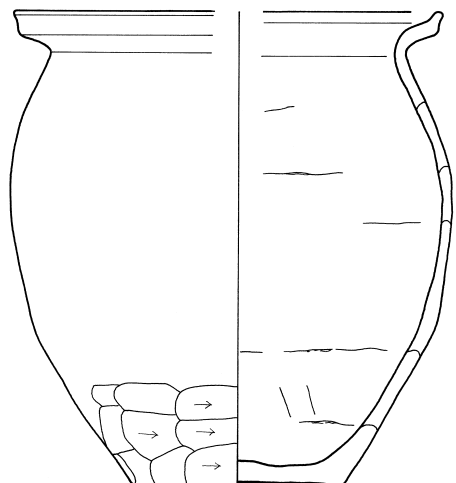
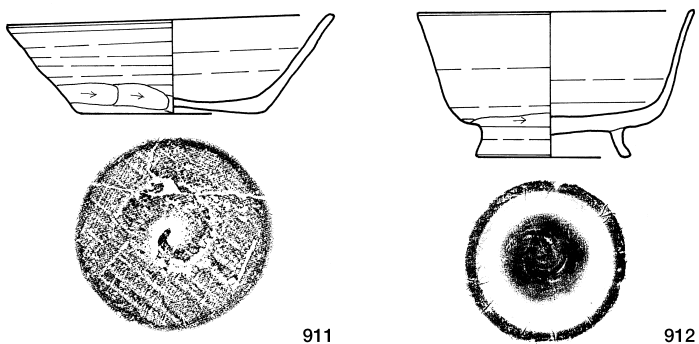
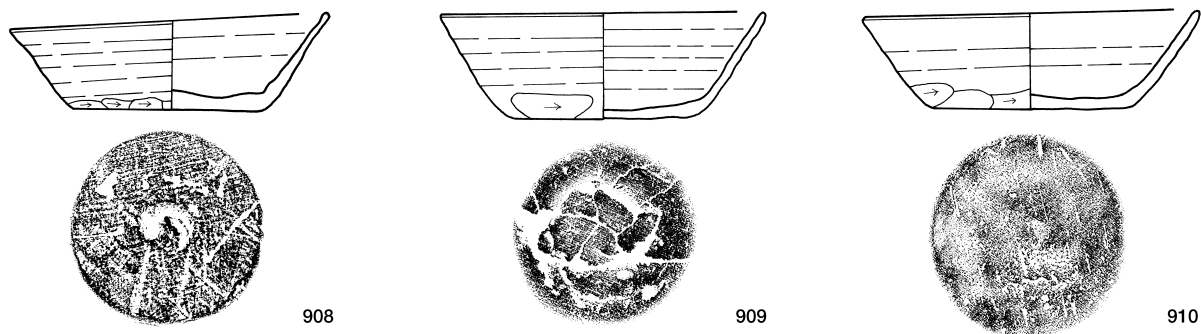
規模と形状 長軸4.46m、短軸4.44mの方形で、主軸方向はN - 5° - Eである。壁高は39～48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅12～18cm、深さ6～7cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで173cm、袖部幅168cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部として、その周囲に砂質粘土を貼り付け、須恵器坏を芯材として用いている。火床部は床面を20cm掘りくぼめ、ローム土で埋め戻して使用している。煙道の立ち上がり部には土師器小形甕が支脚として据えられ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ85cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第9層は、天井部の崩落土層である。



第566图 第2120号住居跡実測図



第567图 第2120号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	にぶい暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	にぶい暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14	褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15	褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	19	赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子微量
9	灰黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	20	褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	21	灰黄褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
11	暗赤褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量			

ピット 10か所。P1～P4は支柱穴で、深さは20～52cmである。P5は深さ23cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P10の性格は不明である。また、壁溝内から深さ7～20cmの小ピット4か所が検出されており、壁柱穴と考えられる。

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	4	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗赤褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片1185点(坏25, 高台付椀1, 蓋1, 鉢20, 甕類1137, 甌1), 須恵器片308点(坏221, 高台付坏6, 高台付皿4, 蓋11, 鉢32, 甕類34), 石器1点(砥石), 鉄器・鉄製品3点(刀子1, 鑿1, 釘1)のほか, 粘土塊3点, 混入した古墳時代の土師器片24点も出土している。覆土上層の遺物は竈左袖部の手前に集中し, 覆土下層の遺物はほぼ全域から出土している。910は南西コーナー部の覆土下層, 912は中央部やや東寄りの床面, 913はP6付近の床面と北東部の壁溝内からそれぞれ出土している。竈内からは914が逆位の状態で出土していることから, 支脚として使用されたと考えられる。竈右袖部内からは909の上に908が逆位に重なり, 911は破損した状態でそれぞれ出土している。これらすべてに火を受けた痕跡が確認できないことから, 竈の補強材として使用されたと推定される。Q80は南東壁際の覆土中層, M151は覆土上層, M152は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。M153は南東部壁際の覆土から刃先を上直立した状態で出土している。

所見 時期は出土遺物から, 9世紀前葉と考えられる。

第2120号住居跡出土遺物観察表(第567図)

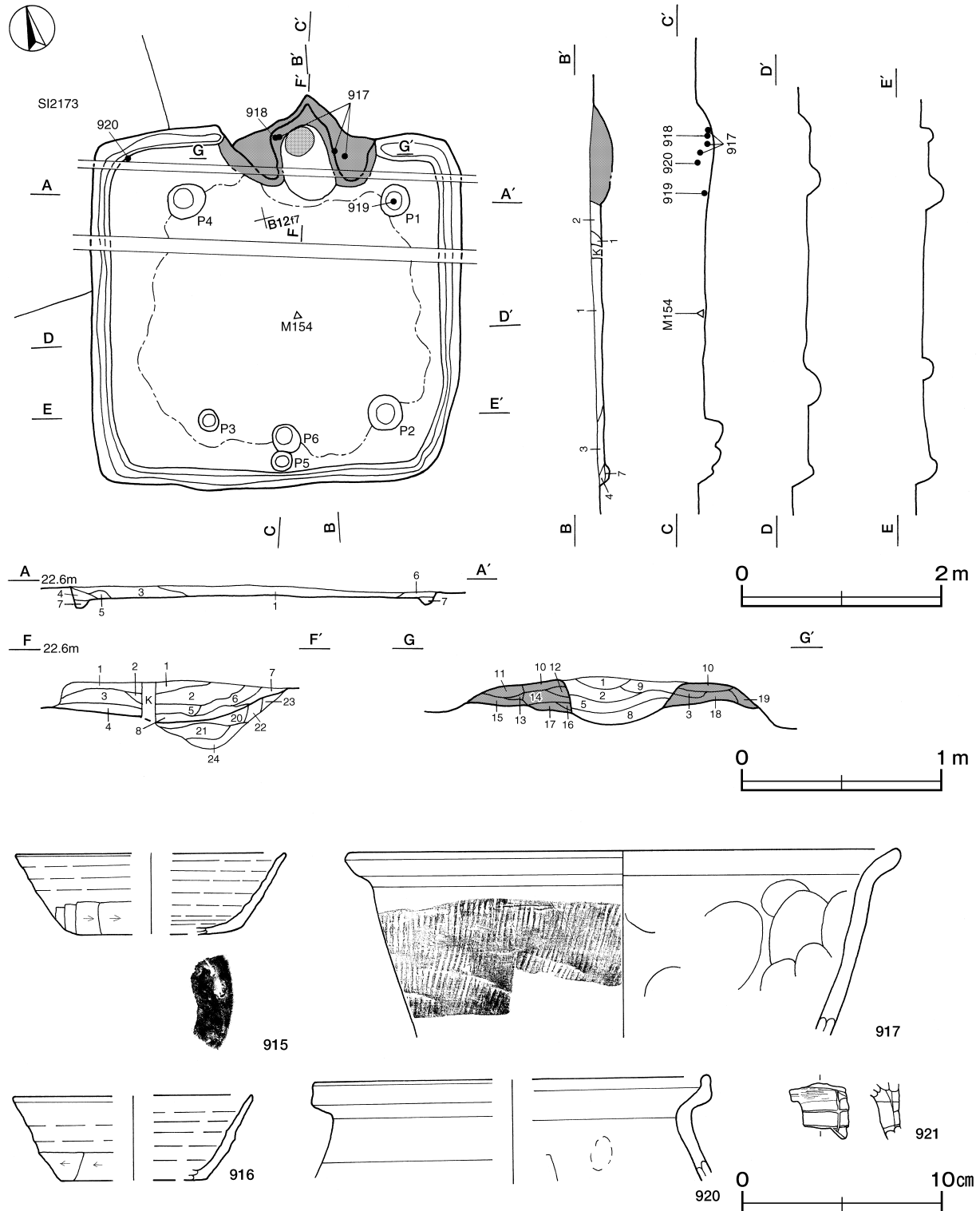
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
908	須恵器	坏	12.3	3.9	7.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	右袖部内	100% 竈袖部材 PL164
909	須恵器	坏	12.8	4.2	7.1	石英・雲母	褐灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り 底部指頭痕	右袖部内	100% 竈袖部材 PL164
910	須恵器	坏	13.2	3.9	7.9	石英・雲母	灰黄	良好	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	95% PL164
911	須恵器	坏	12.7	3.9	7.3	長石・石英・雲母・礫	黄灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	右袖部内	65% 竈袖部材
912	須恵器	高台付坏	10.7	5.9	6.0	石英・雲母	黄灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ち回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	85% PL166
913	土師器	鉢	22.4	15.4	9.1	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り後一部ナデ 底部木葉痕二葉内面ヘラナデ 指頭痕 輪積痕	床面	85%
914	土師器	甕	[16.9]	18.9	8.4	石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端ヘラ削り 底部木葉痕 内面ヘラナデ 輪積痕	煙道部上	90%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q80	砥石	(4.7)	(4.4)	3.2	(84.3)	凝灰岩	砥面2面 他は破断面	覆土中層	

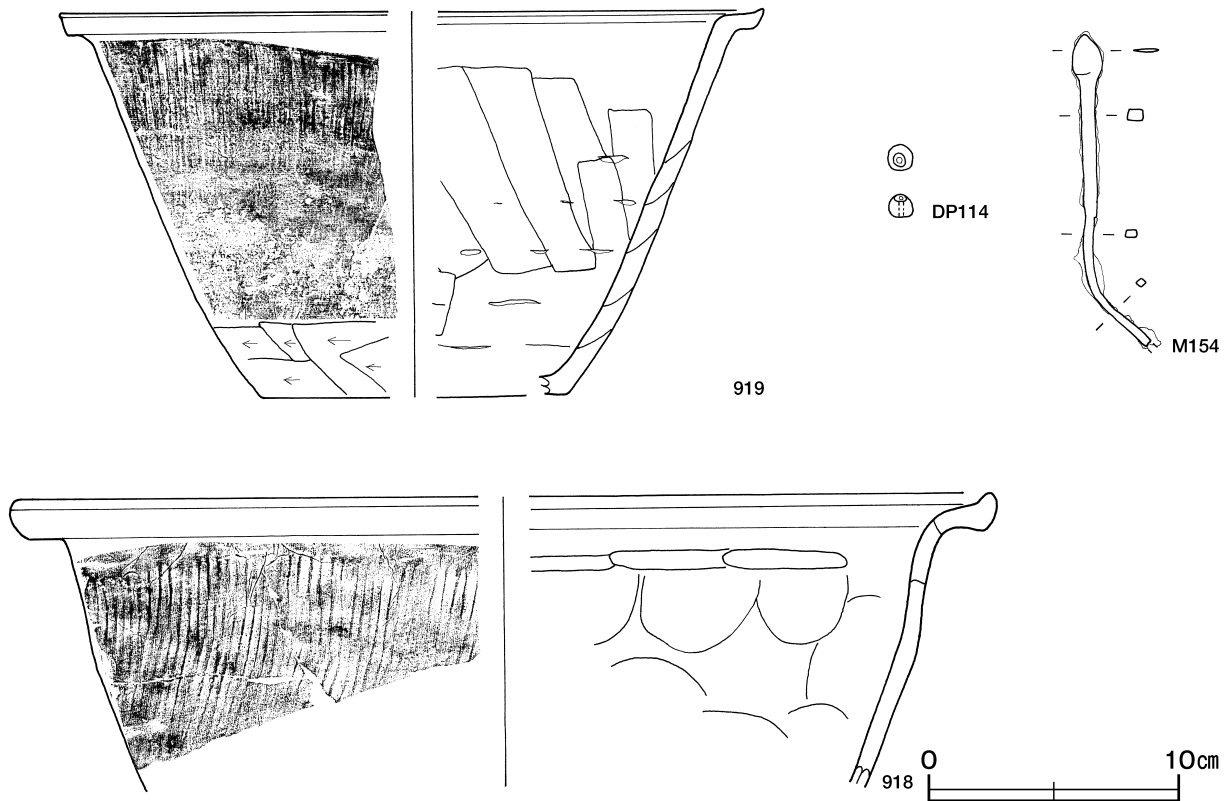
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M151	刀子	(3.6)	(2.0)	0.1	(2.7)	鉄	茎部欠損 木質部附着	覆土上層	
M152	釘	(7.7)	0.6	0.7	(12.1)	鉄	下部先端欠損 頭部先端薄く広く叩きのぼされている 下部断面方形	覆土下層	PL199
M153	鑿カ	(18.7)	(1.1)	(0.8)	(83.4)	鉄	茎部に木質部附着 縁金具部附着	覆土上~下層	PL196

第2121号住居跡 (第568・569図)

位置 調査区中央部のB12f6区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第568図 第2121号住居跡・出土遺物実測図



第569図 第2121号住居跡出土遺物実測図

重複関係 第2173号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺3.63mの方形で、主軸方向はN - 11° - Eである。壁高は5 ~ 10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅8 ~ 16cm、深さ2 ~ 10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで104cm、袖部幅156cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量	13 暗 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
2 暗 赤 褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 黒 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
3 灰 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 灰 褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
5 暗 赤 褐色	炭化粒子中量, 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量	17 黒 褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	18 灰 褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
7 褐色	焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	19 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
8 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	20 灰 褐色	焼土粒子・灰少量, ローム粒子・炭化粒子微量
9 にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量	21 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
10 灰 褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	22 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
11 灰 褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量	23 暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
12 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	24 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰微量

ピット 6か所。P1 ~ P4は主柱穴で、深さは13~22cmである。P5・P6は深さ18~22cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|--------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片188点(坏2, 甕類186), 須恵器片67点(坏26, 蓋2, 鉢21, 甕類17, 円面硯1), 灰釉陶器片1点(長頸壺), 土製品1点(小玉), 石器1点(砥石), 鉄器1点(鎌)のほか, 混入した瓦片も出土している。遺物は主に竈とその周辺に集中している。917・918は竈の覆土下層, 920は北西コーナー際の覆土上層から出土し, 時期判定の指標となる遺物である。919はP1の覆土上層, M154は中央部の床面から出土しており, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また, 915・916・921・DP114が覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2121号住居跡出土遺物観察表(第568・569図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
915	須恵器	坏	[13.2]	4.0	[8.4]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土	5%
916	須恵器	坏	[12.8]	4.2	[7.2]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	覆土	5%
917	須恵器	鉢	27.2	(9.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面当て具痕	竈覆土下層	15%
918	須恵器	鉢	[38.7]	[11.6]	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き内面ナデ 当て具痕	竈覆土下層	10%
919	須恵器	鉢	[27.8]	15.2	[12.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部外面縦位平行叩き 下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕を残すナデ	P1覆土上層	10%
920	土師器	甕	[19.4]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ内面ヘラナデ 指頭痕	覆土上層	5%
921	須恵器	円面硯	-	(2.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部のみ残存 外面棒状工具による縦位・横位の沈線 透かし穴有り	覆土	5%

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP114	小玉	0.95	0.95	0.2	(0.9)	土(長石)	ナデ	覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M154	鎌	(12.4)	1.2	0.45	(15.2)	鉄	長頸柳葉鎌 鎌身部は両丸 箆被・茎断面長方形 茎は「く」の字状に屈曲・一部欠損	床面	PL196

第2126号住居跡(第570図)

位置 調査区中央部のC12a8区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2127号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.65m, 短軸3.08mの長方形で, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は5~8cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで80cm, 袖部幅136cmである。袖部はローム土と砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 褐 色 | 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック少量 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック少量 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量 砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 11 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |

ピット 4か所。P1～P4は支柱穴で、深さは21～27cmである。

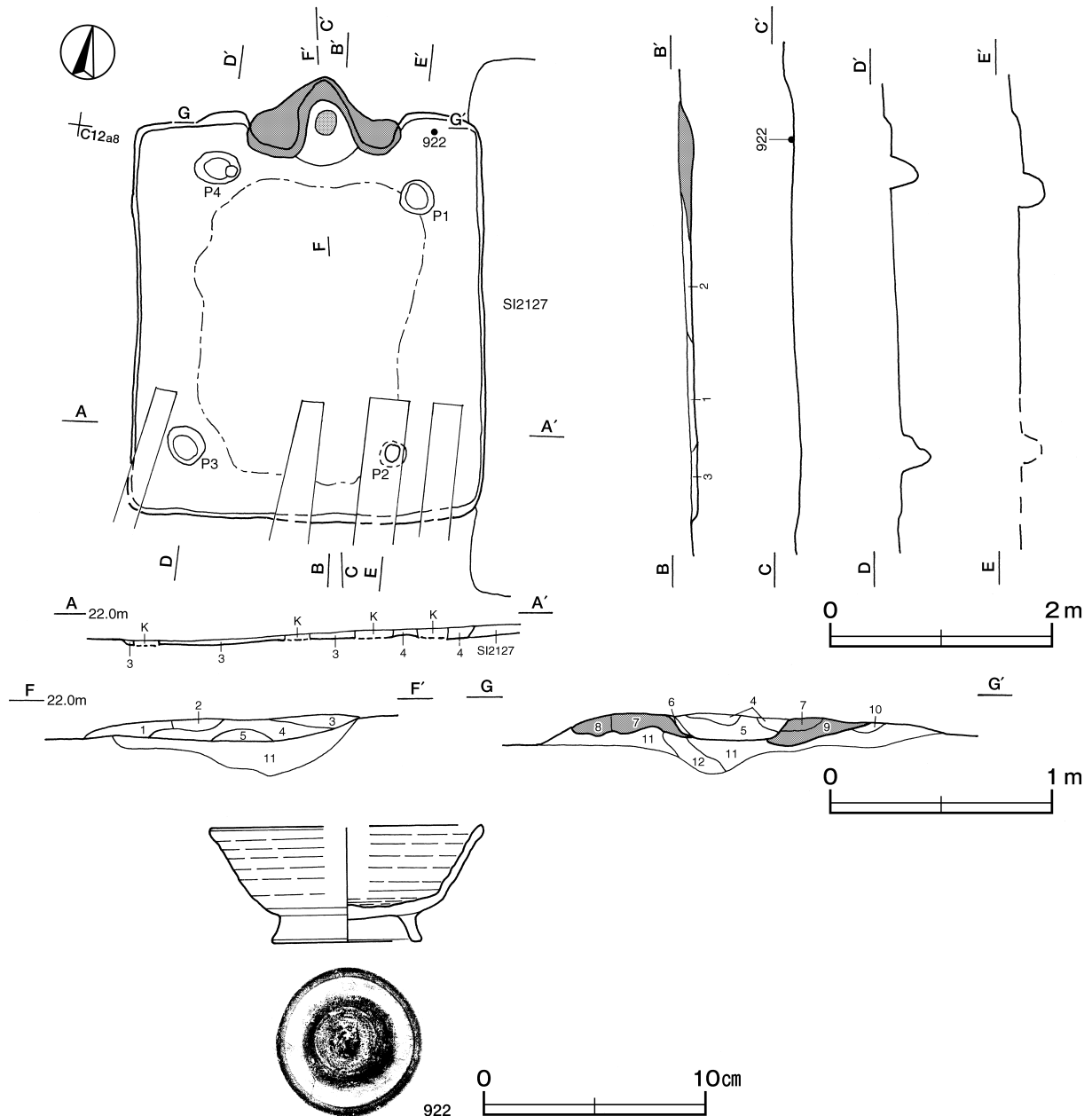
覆土 4層に分けられる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片32点（甕類）、須恵器片7点（坏2，高台付坏4，甕1）が出土しているが、ほとんどが細片である。922は北壁際の床面から出土し、時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第570図 第2126号住居跡・出土遺物実測図

第2126号住居跡出土遺物観察表（第570図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
922	須恵器	高台付坏 [12.0]		5.2	6.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	60% PL166

第2129号住居跡（第571図）

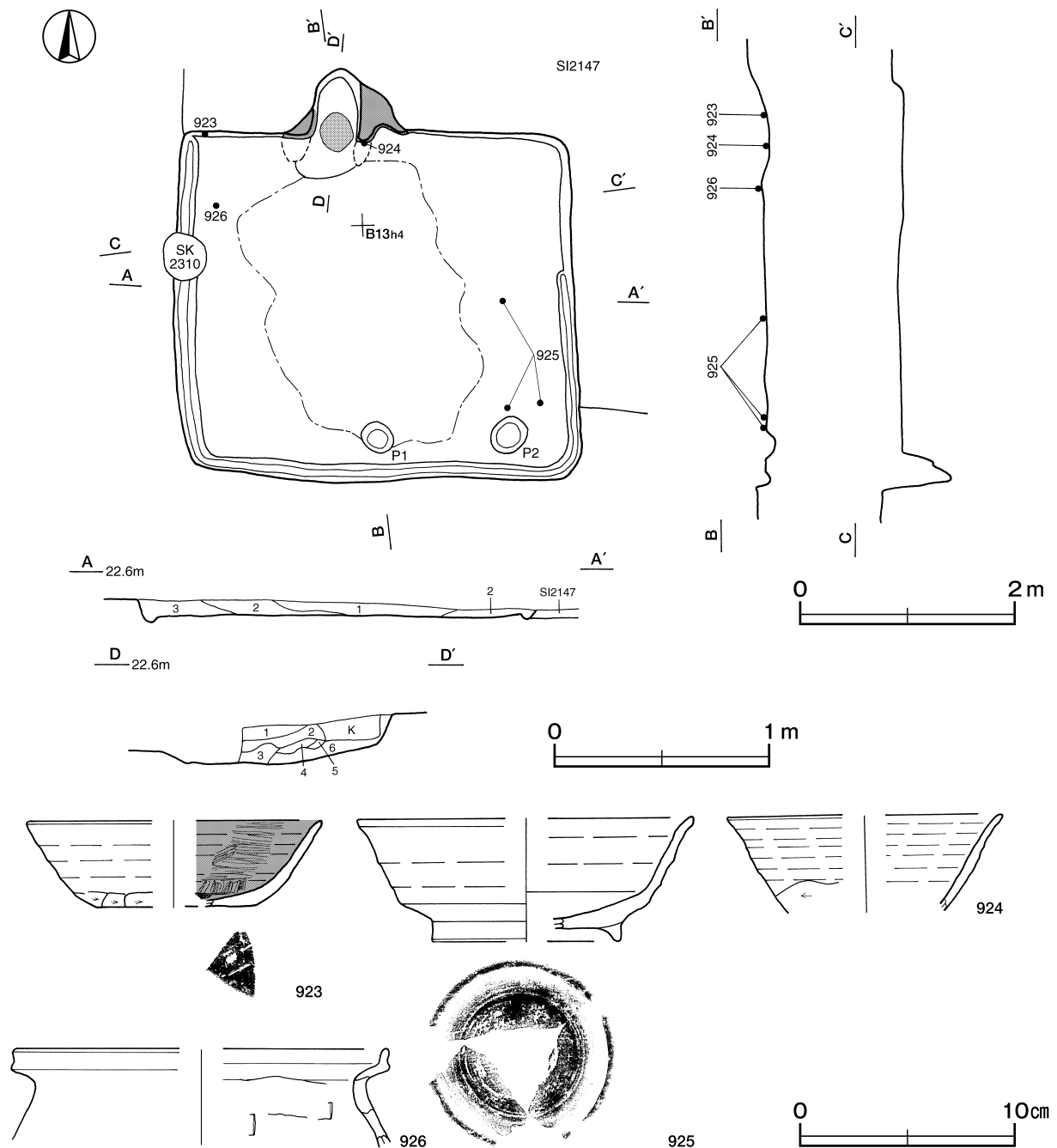
位置 調査区東部のB13h4区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2147号住居跡を掘り込み，第2310号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.66m，短軸3.21mの長方形で，主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cmである。袖部は壊されており，ローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第571図 第2129号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | | |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ10cmで、南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P2の性格は不明である。

覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 灰 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片146点(坏11, 甕類135), 須恵器片55点(坏19, 高台付坏12, 甕類22点, 甑2), 灰釉陶器片1点のほか、混入した鉄滓1点も出土している。遺物は竈内と竈の東側に集中している。923は北西コーナー部の床面, 926は西壁寄りの床面, 925は東壁寄りの床面, 924は竈右袖部から出土し、細片がほとんどで住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2129号住居跡出土遺物観察表(第571図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
923	土師器	坏	[13.5]	4.0	[7.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	床面	5%
924	須恵器	坏	[12.6]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈右袖部	5%
925	須恵器	高台付坏	[15.4]	5.7	[8.7]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	底部回転ヘラ切り後 高台貼り付け	床面	55%
926	土師器	甕	[17.0]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	5%

第2135号住居跡(第572図)

位置 調査区北東部のA13i7区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2144号住居跡を掘り込み、第2290号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側の大部分が調査区域外に伸びているため、全体の規模は不明である。東西軸3.71m、南北軸1.55mが確認された。壁高は15~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲では、ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所。P1~P2は主柱穴で、深さ15~23cmである。P3は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は配置からP1の補助柱穴とも想定されるが、明確でない。

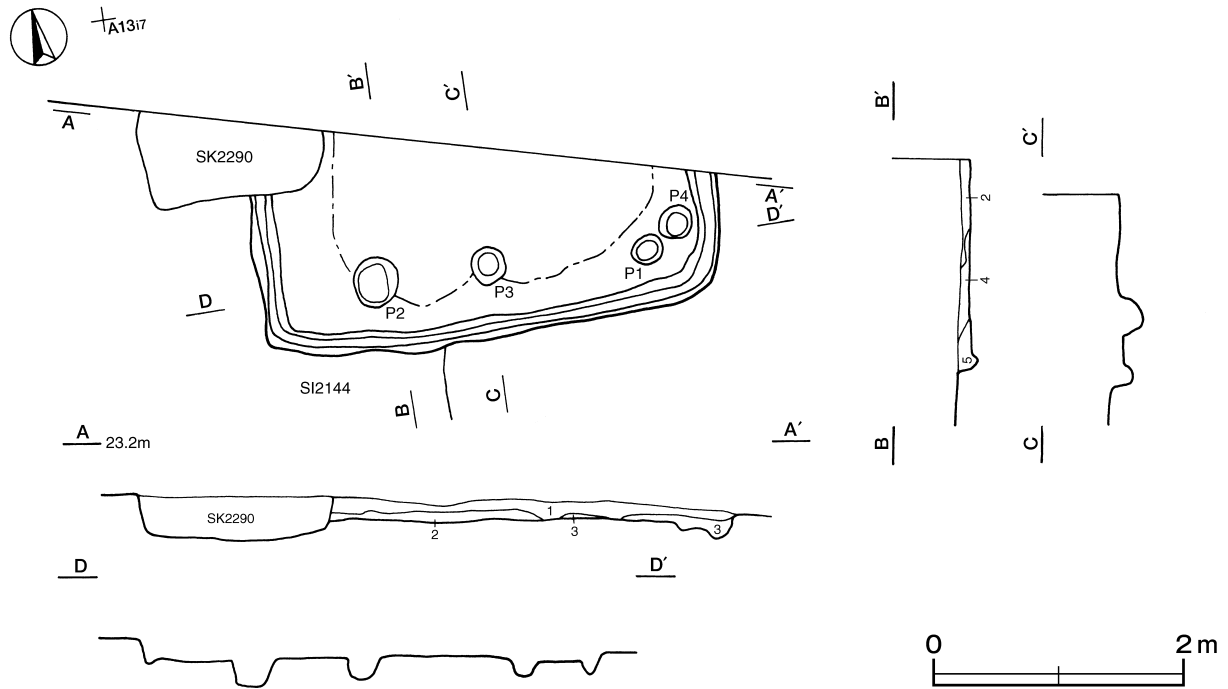
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰 褐 色 | ロームブロック微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片8点(甕類), 須恵器片14点(坏5, 高台付坏1, 蓋1, 高盤1, 甕類5, 甑1)が出土しているが、すべて細片である。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第572図 第2135号住居跡実測図

第2136号住居跡 (第573・574図)

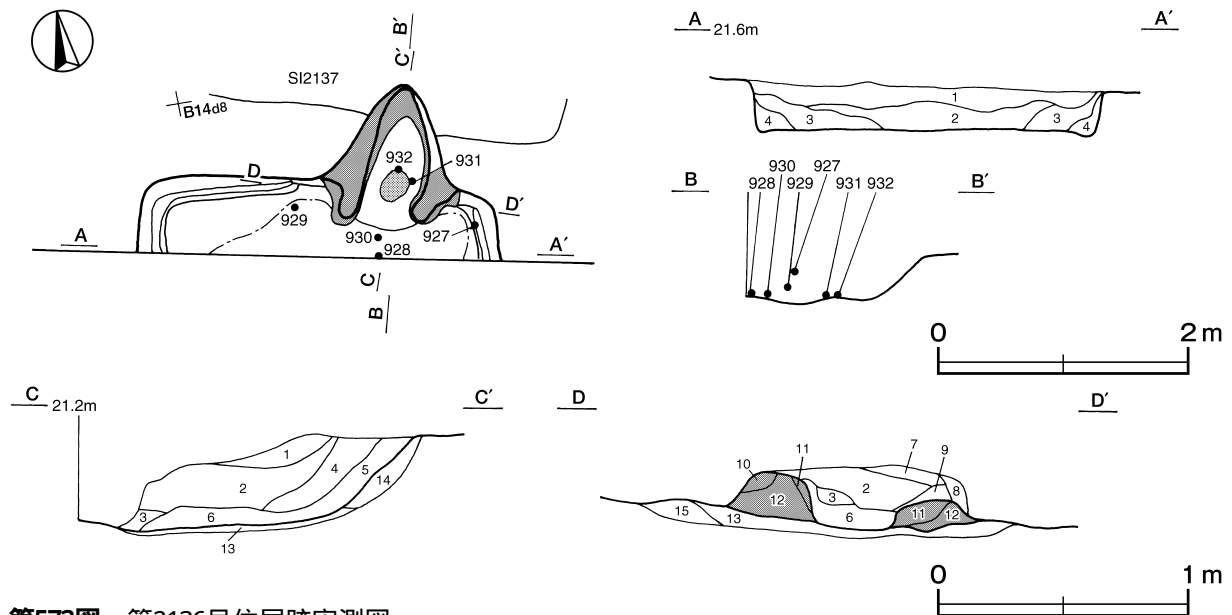
位置 調査区北東部のB14d8区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2137号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南側の大部分が調査区域外に伸びているため、全体の規模は不明である。東西軸2.82m、南北軸は0.64mが確認された。壁高は34~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた部分は平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、袖部幅112cmである。袖部はローム土と砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。



第573図 第2136号住居跡実測図

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐灰色 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | 11 極暗赤褐色 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 | 12 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒色 砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 | 13 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 14 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 15 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 8 灰褐色 砂質粘土粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子微量 | |

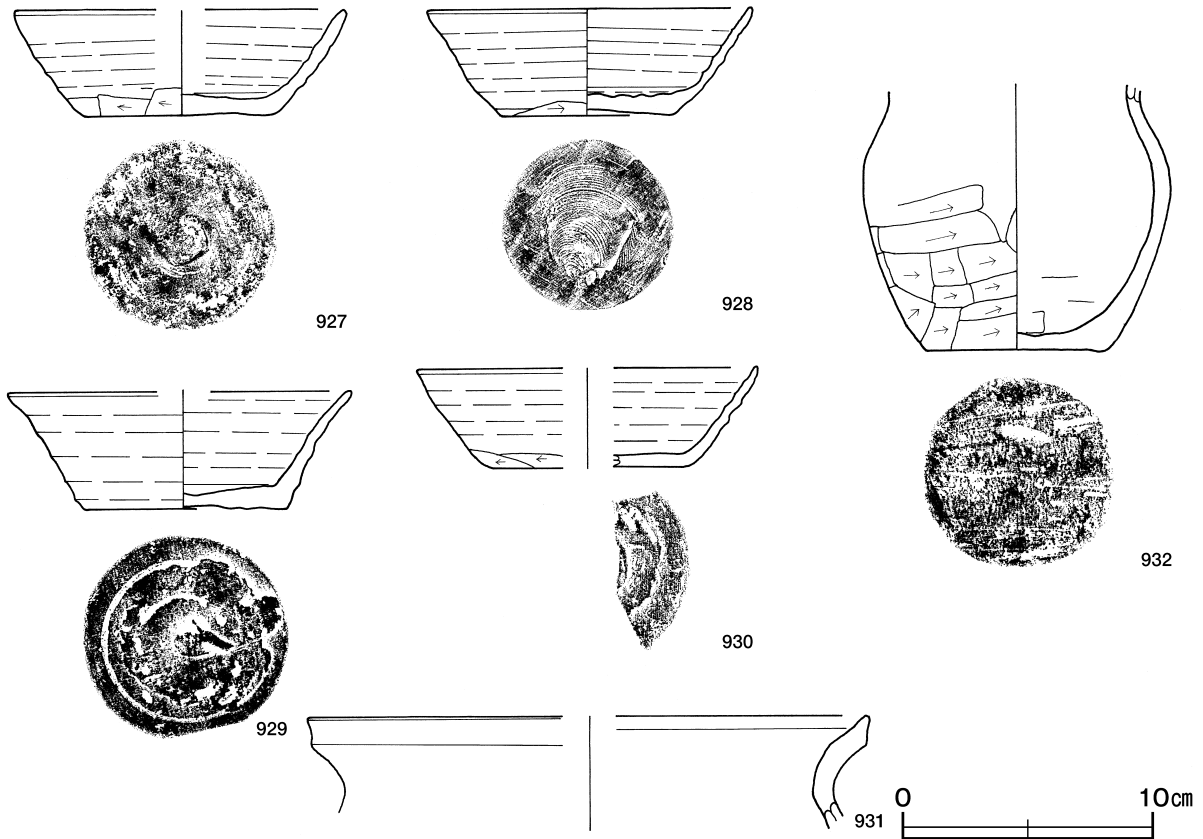
覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片45点(甕類), 須恵器片13点(坏12, 甕1)が出土しているが, ほとんどが細片である。931・932は竈火床部から出土し, 932は逆位で火床部の中央から出土していることから, 支脚に転用されたものと考えられる。また, 928・930は竈前の覆土下層と床面, 929は北壁際の覆土下層から出土し, これらは時期判断の指標となる遺物である。927は北東コーナーの覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第574図 第2136号住居跡出土遺物実測図

第2136号住居跡出土遺物観察表 (第574図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
927	須恵器	坏	[13.0]	4.2	7.7	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中層	60% PL165
928	須恵器	坏	12.6	4.2	6.8	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転系切り後二方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	50% PL165
929	須恵器	坏	[13.4]	4.6	8.0	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土下層	80%
930	須恵器	坏	[13.4]	3.9	(7.8)	長石・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	10%
931	土師器	甕	[22.2]	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ	竈火床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
932	土師器	小形甕	-	(10.5)	7.3	長石・英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下半手持ちへら削り 内面輪穢痕を残すへらナデ 底部一方向の手持ちへら削り	竈火床面	45% 支脚転用

第2139号住居跡（第575図）

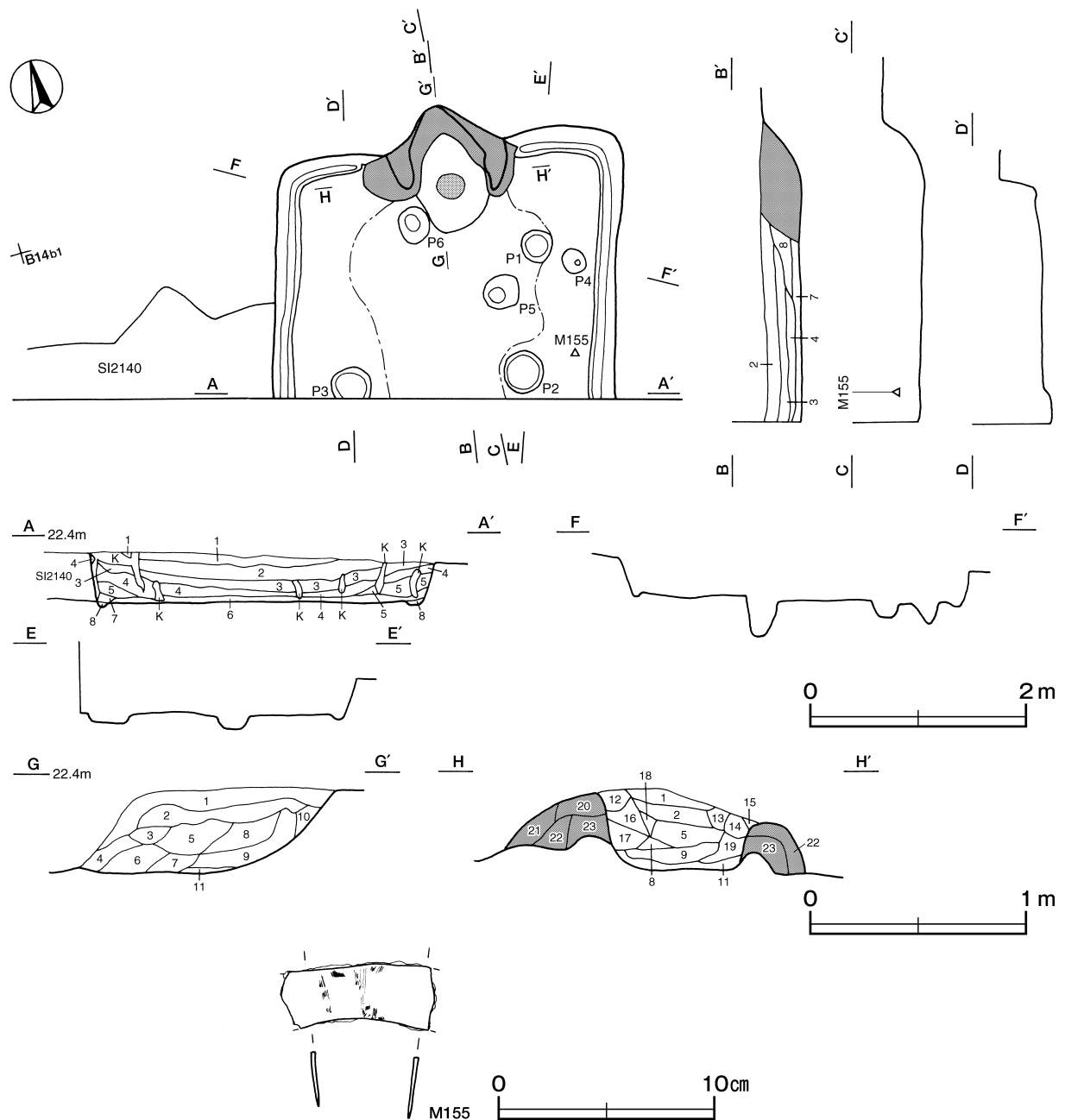
位置 調査区北東部のB14b2区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2140号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外にのびているため東西軸3.16m，南北軸は2.52mだけが確認された。主軸方向はN-18°-Eである。壁高は28~54cmで，確認された各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲はほぼ平坦で，中央部が踏み固められてる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで117cm，袖部幅148cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。



第575図 第2139号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量,ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量,砂質粘土粒子微量 | 16 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 | 18 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土ブロック少量,ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 19 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量,炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量,焼土ブロック微量 | 20 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 21 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 | 22 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量,ロームブロック微量 |
| 10 暗褐色 | 炭化粒子少量,ロームブロック・焼土ブロック微量 | 23 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土ブロック微量 |
| 11 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |
| 12 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 13 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 | | |

ピット 6か所。P1～P3は主柱穴で、深さは9～14cmである。P4～P6の性格は不明である。

覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片122点(坏7, 甕類115), 須恵器片79点(坏24, 高台付坏4, 蓋4, 甕類47), 鉄器1点(鎌)が出土している。遺物は竈内と北側を中心に細片が散在している。M155は東壁際の覆土中層から出土し、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

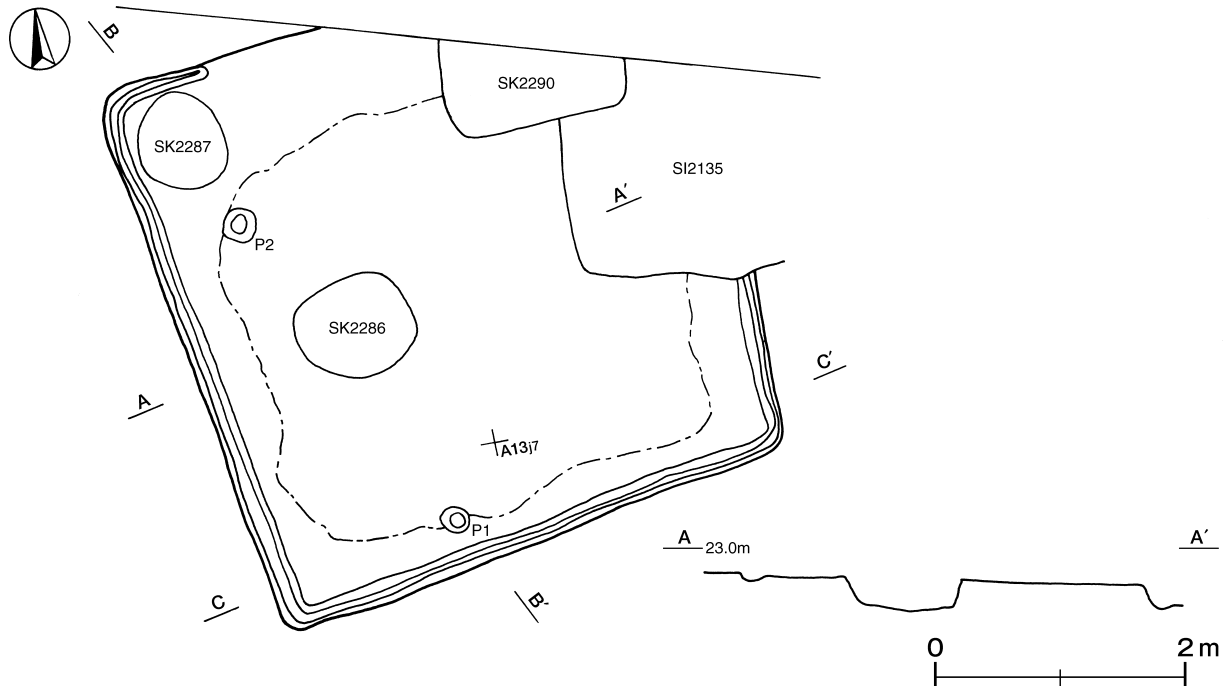
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2139号住居跡出土遺物観察表(第575図)

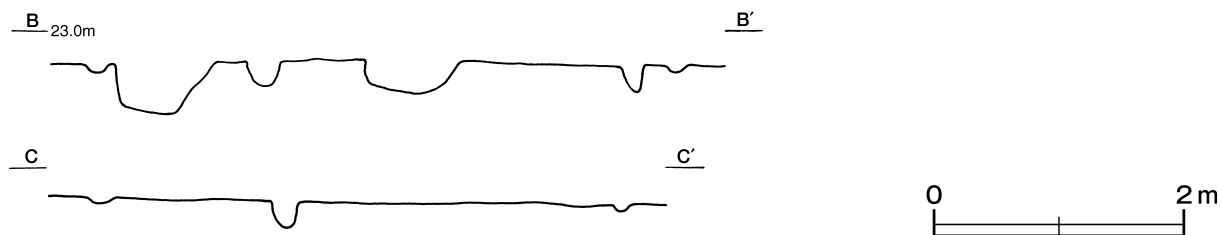
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M155	鎌	(7.1)	(3.0)	0.2	(20.6)	鉄	先端・基部欠損 表面にカヤ状炭化物付着	覆土中層	

第2144号住居跡(第576・577図)

位置 調査区北東部のA13i6区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。



第576図 第2144号住居跡実測図(1)



第577図 第2144号住居跡実測図(2)

重複関係 第2135号住居，第2286・2287・2290号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北壁から東壁にかけて調査区域外に伸びている。壁溝の検出状況から，東西軸4.44m，南北軸4.54mの長方形で，主軸方向はN - 8° - Wであることが確認された。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認された範囲には，幅10～18cm，深さ4～6cm，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

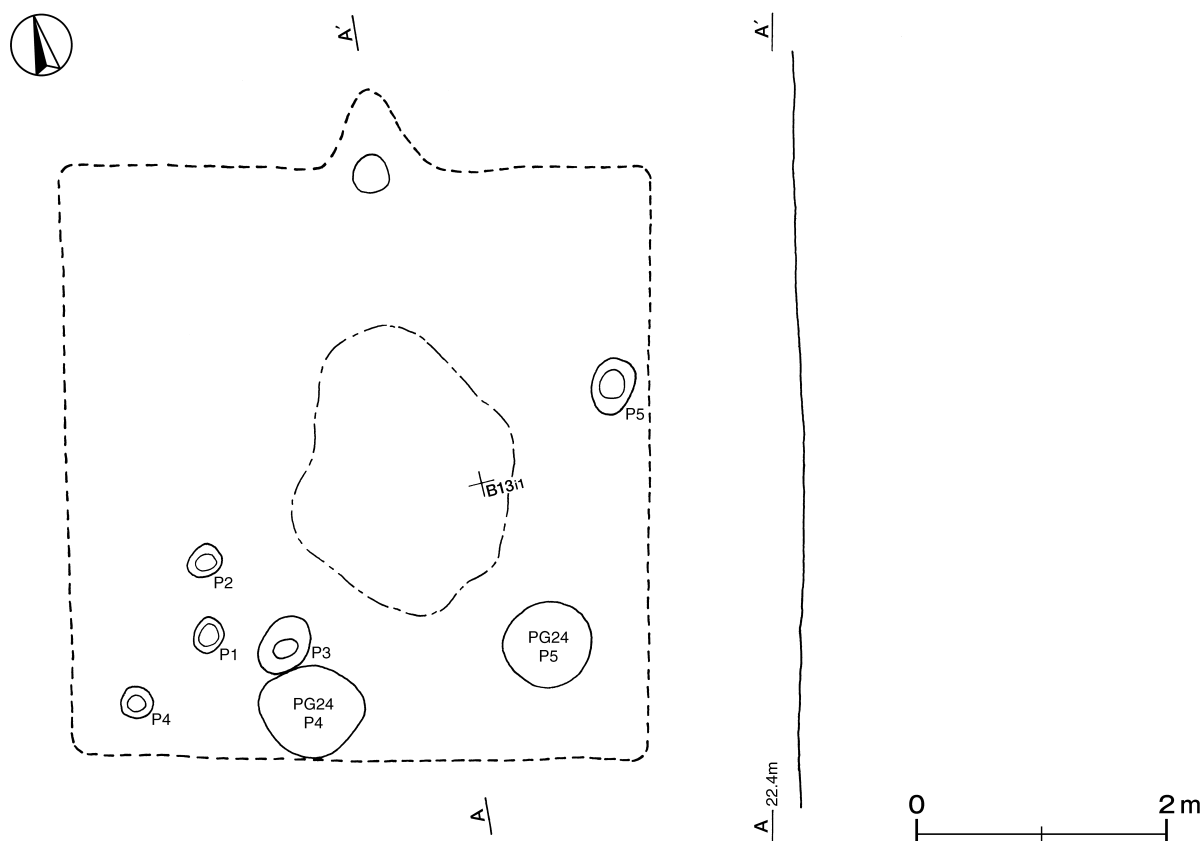
ピット 2か所。P1は，深さ22cmで，南壁際の中央部付近に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2の性格は不明である。

所見 遺物は出土していないが，9世紀後半に比定される第2135号住居に掘り込まれていることから，時期は9世紀後半以前と考えられる。

第2148号住居跡（第578図）

位置 調査区中央部のB12h0区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第24号ピット群に掘り込まれている。



第578図 第2148号住居跡実測図

規模と形状 耕作により削平されているが、竈の痕跡と硬化面、ピットの配置などから、一辺4.68mの方形と推定される。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作により削平され、火床部だけが確認された。火床面は火を受けて赤変している。痕跡から煙道部は壁外に64cm以上掘り込まれていたことが推定される。

ピット 5か所。P1は深さ22cmで、配置から主柱穴と考えられる。P2～P4は深さ17～28cmで、P1の補助柱穴の可能性も想定されるが明確でない。P5の性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片30点（坏1，椀1，甕類28），須恵器片9点（坏5，甕類4）のほか、混入した縄文土器片2点，磁器片1点も出土しており、いずれも細片である。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

第2150号住居跡（第579・580図）

位置 調査区西部のC12b1区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2003・2149・2156・2157・2160・2161号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.12m，短軸6.40mの長方形で，主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は17～55cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北部及び南部の壁下の一部には，幅18～23cm，深さ5～10cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで165cm，袖幅約121cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部として，その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を24cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ83cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾した後，ほぼ直立している。第3層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

1 褐 色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量	11 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土ブロック少量
2 灰 褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	12 暗 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量
3 灰 褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量	13 灰 褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
4 極暗赤褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量，ローム粒子少量	14 暗 赤 褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物微量
5 黒 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
6 赤 黒 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量	16 灰 褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
7 赤 灰 色	灰中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量	17 暗 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
8 灰 赤 色	焼土粒子・灰少量，ロームブロック微量	18 暗 赤 褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子・砂質粘土ブロック少量
9 暗 赤 褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック少量		
10 褐 灰 色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量		

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは65～76cmである。P5は深さ40cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。ブロック状に堆積しており，第7層を除く各層にローム粒子が中量含まれていることから人為堆積である。

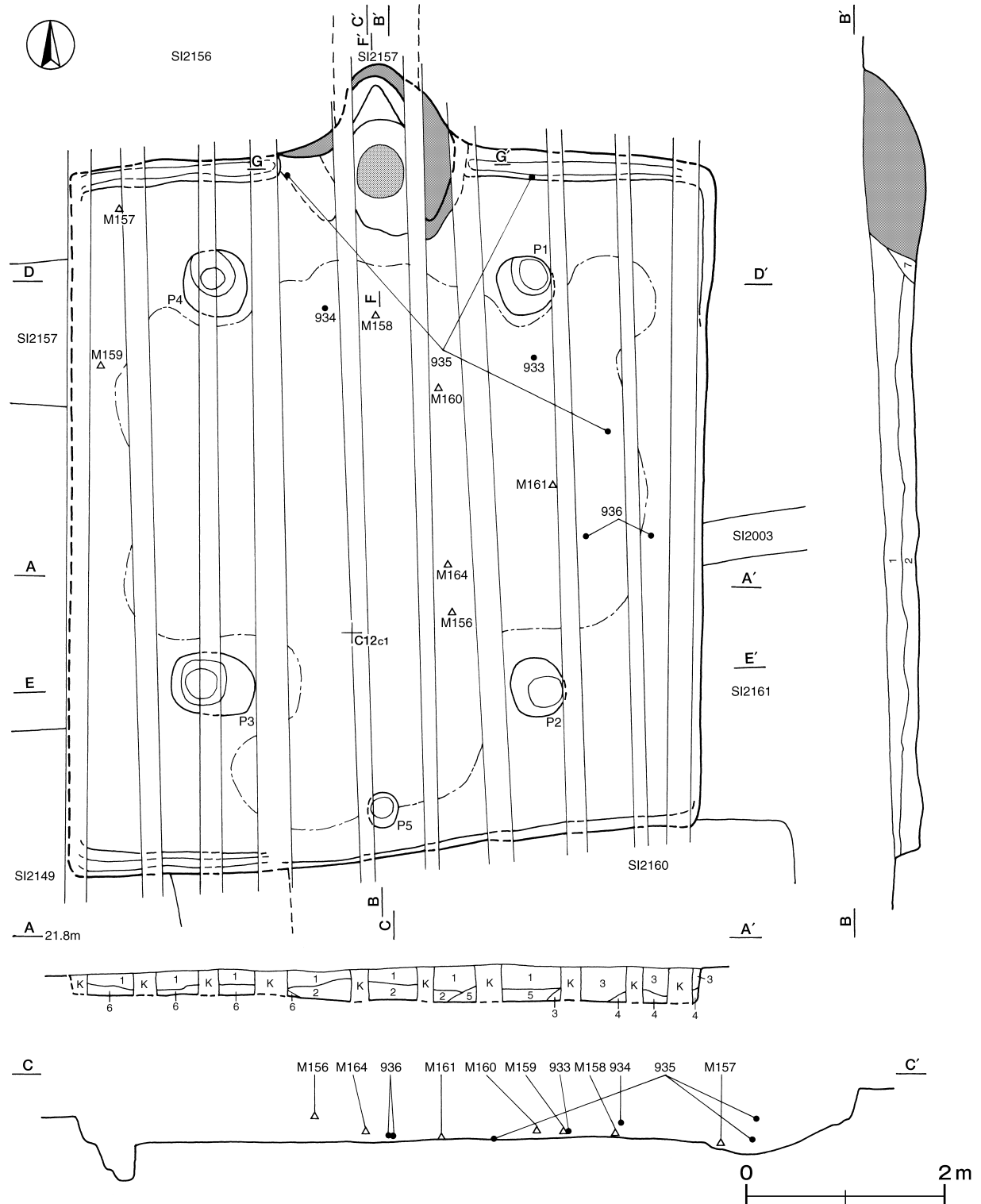
土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量	5 にぶい褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量
2 極暗褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック微量	6 褐色	ローム粒子中量
3 暗 褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化物微量	7 極暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4 にぶい褐色	ローム粒子中量		

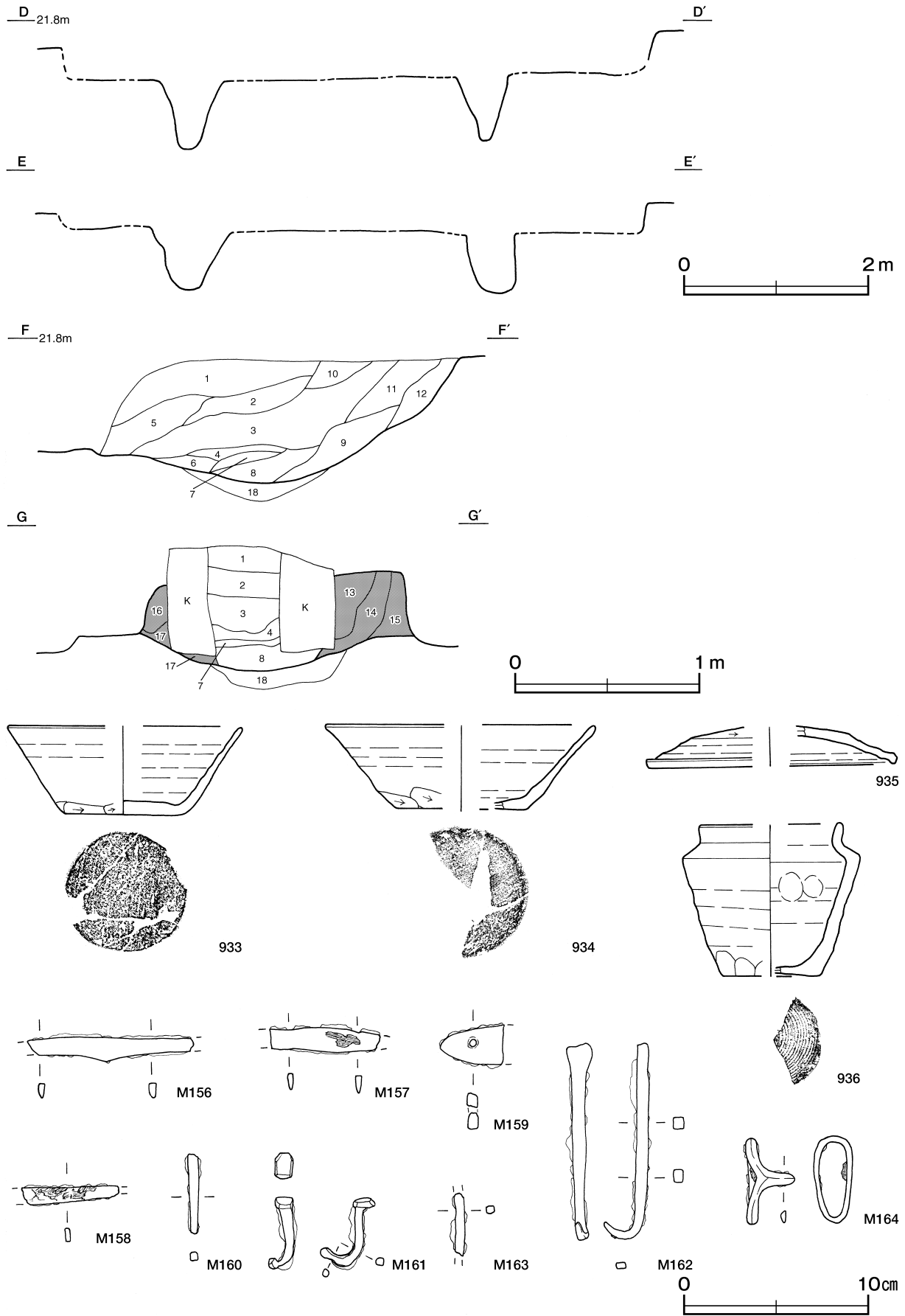
遺物出土状況 土師器片1074点（坏73，皿2，蓋5，壺2，甕類991，甌1），須恵器片1036点（坏449，高台

付坏18, 皿1, 蓋109, 高盤1, 鉢70, 壺類9, 甕類349, 甑28, 瓶類2), 灰釉陶器片1点(瓶類), 鉄器・鉄製品8点(刀子3, 鎌1, 釘3, 貴金具1), 貨幣1点のほか, 混入した縄文土器片1点, 古墳時代の土師器片48点も出土している。933はP1南側の覆土下層, 934は中央部北側の覆土下層, 936は東壁際の覆土下層から出土しており, それぞれ住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。床面から出土している金属製品はM157とM161の2点で, その他は覆土上層から1点, 覆土下層から7点出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第579図 第2150号住居跡実測図



第580图 第2150号住居跡・出土遺物実測図

第2150号住居跡出土遺物観察表（第580図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
933	須恵器	坏	[12.5]	4.8	6.4	石英・雲母	灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	40%
934	須恵器	坏	[14.6]	4.6	[7.0]	石英・雲母	灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土下層	30%
935	須恵器	蓋	[13.2]	(2.1)	-	石英・雲母	黄灰	普通	天井部左回りのヘラ削り	覆土中層-床面	40%
936	須恵器	短頸壺	[7.7]	8.2	[5.2]	長石・石英	灰	良好	体部内外面口クロナデ 肩部自然袖付着 体部下端ナデ 底部糸切り痕 指頭痕	覆土下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M156	刀子	(9.0)	1.4	0.4	(14.6)	鉄	茎部・刃部欠損 刃部に木質部付着	覆土下層	
M157	刀子	(6.0)	(1.4)	0.4	(11.6)	鉄	茎部・刃部欠損 刃部に木質部付着	床面	
M158	刀子	(5.2)	(1.0)	0.5	(4.8)	鉄	茎部大半欠損 刃部先端欠損 刃部に木質部付着	覆土下層	
M159	鎌	(3.5)	(2.5)	(0.6)	(11.9)	鉄	手鎌 片隅残存 径0.36cmの目釘穴有り	覆土下層	
M160	釘	(4.4)	0.5	0.5	(4.0)	鉄	頭部・先端欠損 頭部木質部付着 下端部断面方形	覆土下層	
M161	釘	(3.8)	0.4	5.4	(5.3)	鉄	頭部先端部薄く叩き伸ばされ直角に曲げられている 下端部先端欠損	床面	PL199
M162	釘	10.7	1.4	0.7	29.7	鉄	完形 下端部断面方形 下端部がU字に曲げられている	覆土下層	PL199
M163	釘カ	(3.4)	(0.7)	(0.6)	(2.7)	鉄	方形の棒状なもの	覆土下層	
M164	貴金具	4.7	2.8	2.1	8.7	鉄	完形 環状内側に木質部付着	覆土下層	PL198

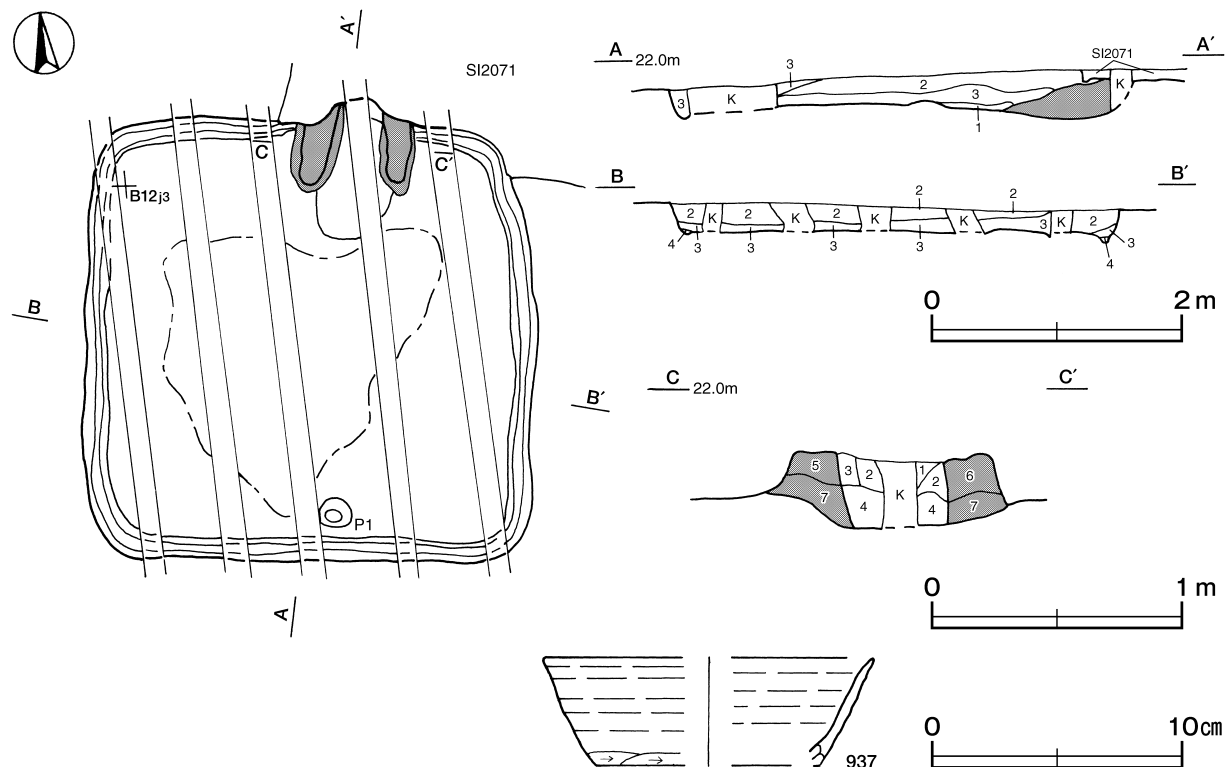
第2155号住居跡（第581図）

位置 調査区中央部のB12j3区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2071号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.49mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は18~21cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅8~14cm、深さ3~4cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第581図 第2155号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。中央部は耕作による攪乱を受けているが、規模は焚口部から煙道部まで124cm、袖部幅95cmが確認された。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を11cm掘りくぼめており、煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット P1は深さ17cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片80点（坏2，高台付椀1，甕類77），須恵器片34点（坏15，甕類19）のほか、混入した陶器片1点，磁器片1点も出土している。937は覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2155号住居跡出土遺物観察表（第581図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
937	須恵器	坏	[13.0]	(4.3)	[8.8]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土	5%

第2169号住居跡（第582図）

位置 調査区部のD10a9区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2182号住居，第2578号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.10m，短軸4.04mの方形で，主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は26～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。上面を第2182住居に掘り込まれ，第2578号土坑により左袖部を掘り込まれている。確認された範囲の規模は焚口部から煙道部まで128cm，袖部幅114cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を3cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|---------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子多量 | | |

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で，深さ11～20cmである。P5は深さ10cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

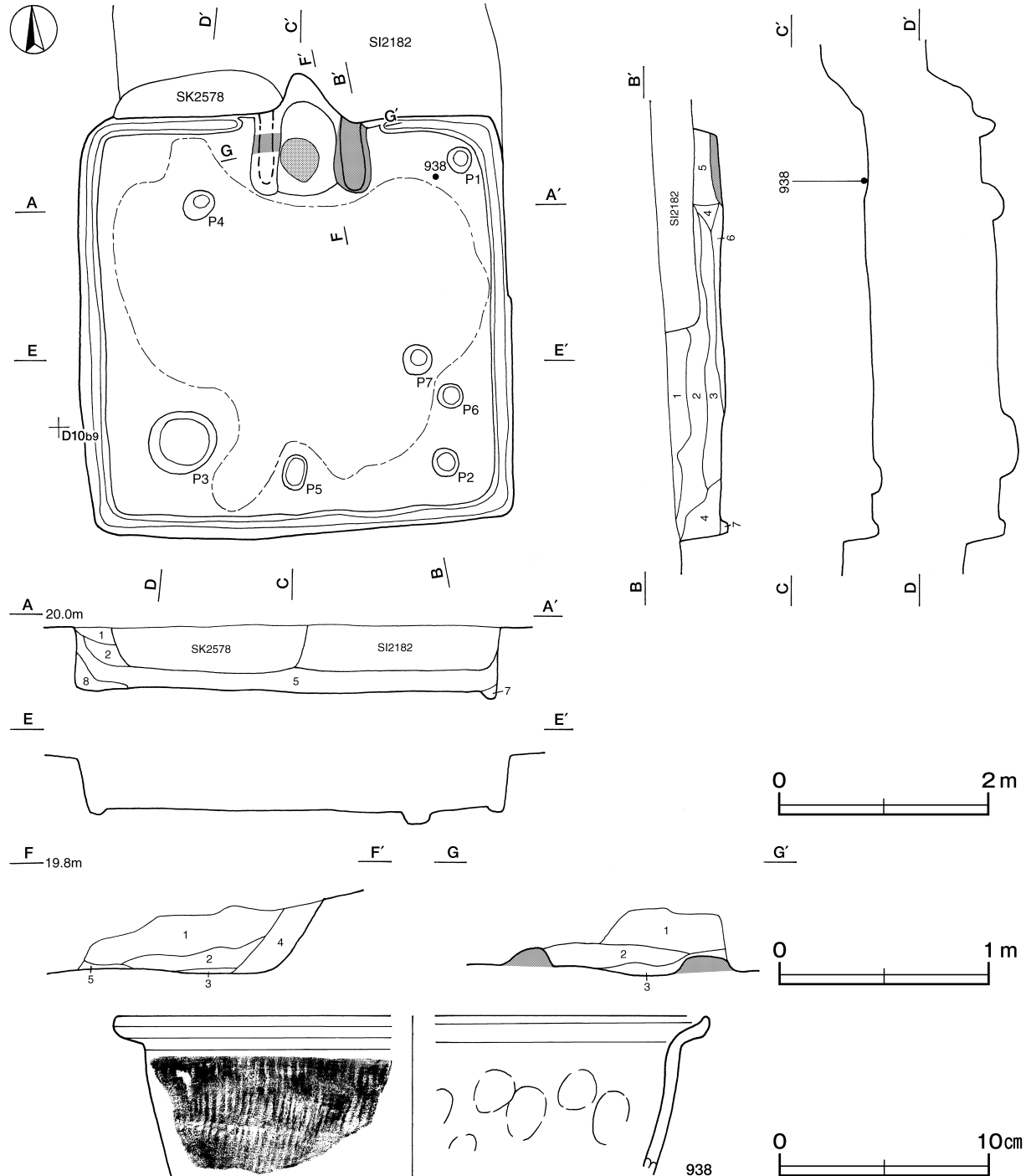
覆土 8層に分けられる。不規則な堆積状況を呈する人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量,砂質粘土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量,焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量,焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量,焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片768点(坏18, 甕類750), 須恵器片234点(坏93, 高台付坏6, 蓋6, 高盤1, 長頸壺3, 甕類108, 甌17)が出土している。938は北壁寄りの床面から出土し, 廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



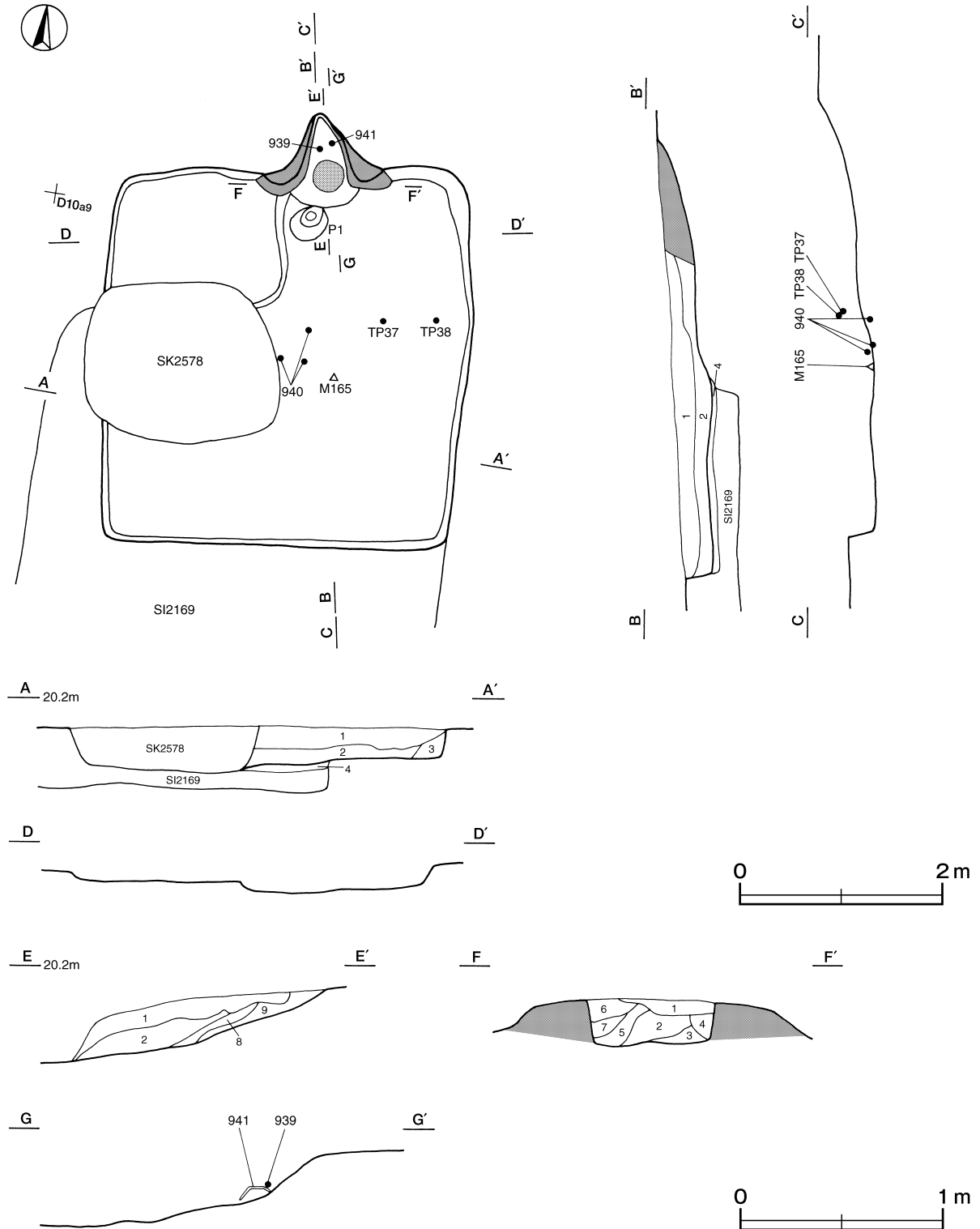
第582図 第2169号住居跡・出土遺物実測図

第2169号住居跡出土遺物観察表（第582図）

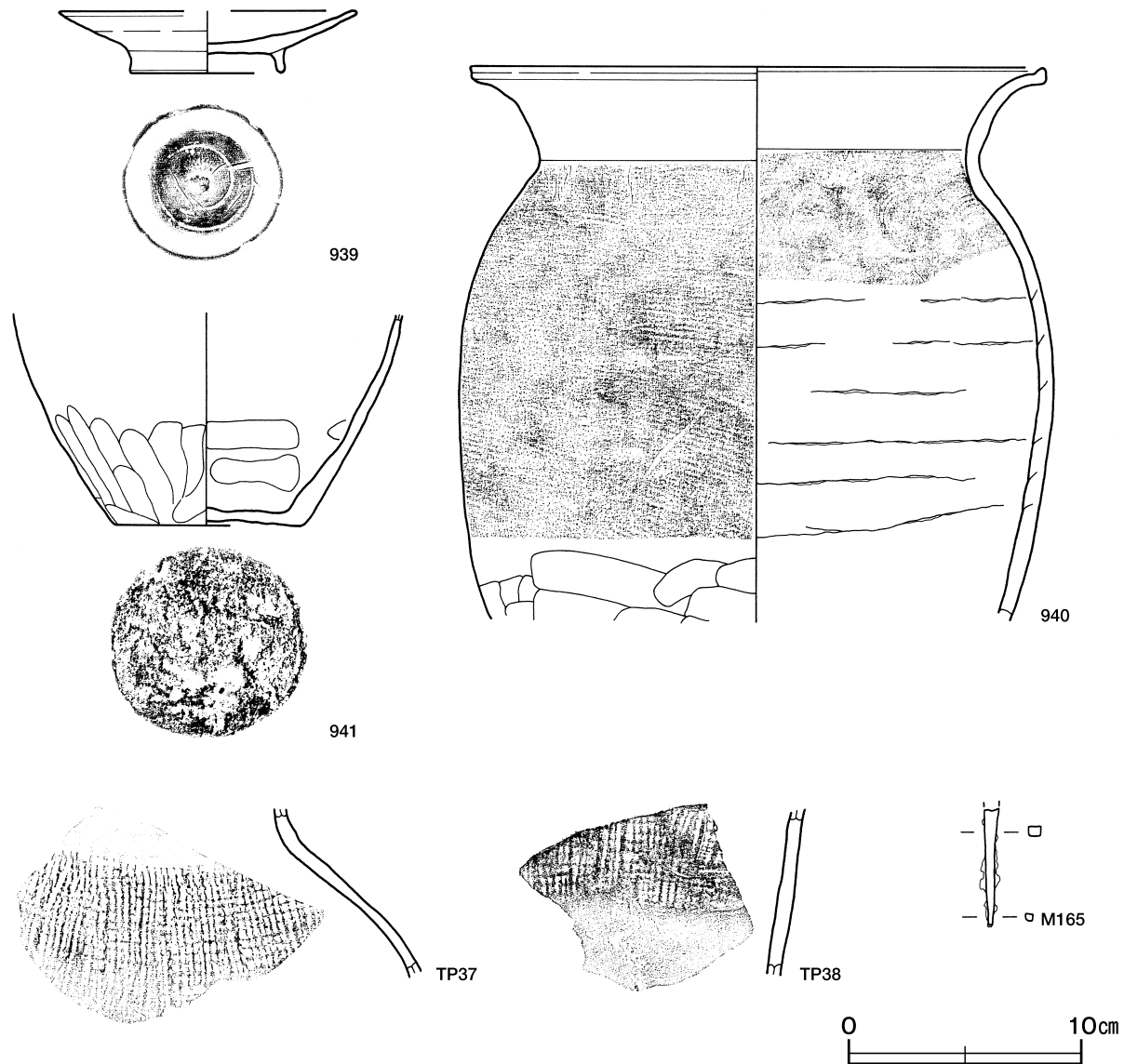
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
938	須恵器	鉢	[28.0]	(7.4)	-	石英・雲母	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面当て具痕	床面	5%

第2182号住居跡（第583・584図）

位置 調査区南西部のD10a9区、標高20mほどの南への緩斜面に位置している。



第583図 第2182号住居跡実測図



第584図 第2182号住居跡出土遺物実測図

重複関係 第2169号住居跡を掘り込み，第2578号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.65m，短軸3.60mの方形で，主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は5～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，厚さ4～6cmの貼り床が確認されている。北西部は8cm高まっている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで91cm，袖部幅135cmである。竈煙道部に土師器甕を転用した支脚があり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ56cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾した後，急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化材微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量，砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック微量 | | |
| 6 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット P1は，竈の焚口前に位置し，深さは20cmであるが，性格は不明である。

覆土 4層に分けられる。第2層に炭化物と焼土粒子が中量含まれていることから、人為堆積である。また、第4層はロームブロックを主体とした貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・焼土粒子中量, ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片214点(坏2, 甕類211, 甑1), 須恵器片69点(坏21, 蓋5, 甕類43)のほか, 混入した古墳時代の土師器片35点も出土している。竈の煙道部から支脚として転用された941が出土しており, 隣接して939も出土している。940は中央部の覆土下層から床面にかけて破損した状態で出土していることから, 廃絶後に廃棄されたと考えられる。M165は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2182号住居跡出土遺物観察表(第584図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
939	土師器	高台付皿	[12.5]	2.7	6.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	竈覆土内	70%
940	土師器	甕	24.7	(23.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面横位の平行叩き 体部下端ヘラ削り 体部内面ナデ・同心円状の当て具痕・輪積痕有り	床面	40%
941	土師器	甕	-	(9.1)	8.0	石英・雲母	橙	普通	体部下端ヘラ削り・ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ 底部ナデ	竈煙道部	10% 支脚
TP37	須恵器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面擬格子状平行叩き	覆土中層	
TP38	須恵器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	体部外面擬格子状平行叩き 体部下端ヘラ削り	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M165	鏝	(5.0)	0.7	0.4	(3.3)	鉄	断面方形 熱を受けている	床面	

第2183号住居跡(第585・586図)

位置 調査区南西部のE10a1区, 標高19.5mほどの南東への緩斜面に位置している。

規模と形状 一辺3.79mの方形で, 主軸方向はN-24°-Wである。また, 中央部から南部にかけての壁は, 削平によって壊されているため, 確認することはできなかった。壁高は42~64cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には, 幅10~18cm, 深さ3~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで135cm, 袖部幅は119cmで, 火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ69cm掘り込まれ, 火床部から直立している。第7層は天井部の崩落土層, 第9~11層は袖部の構築土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 灰褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤灰色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 5 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 | 12 極暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 13 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 7 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土ブロック中量 | 14 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |

ピット 6か所。P1~P4は主柱穴で, 深さは11~51cmである。P5は深さ20cmで, 竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

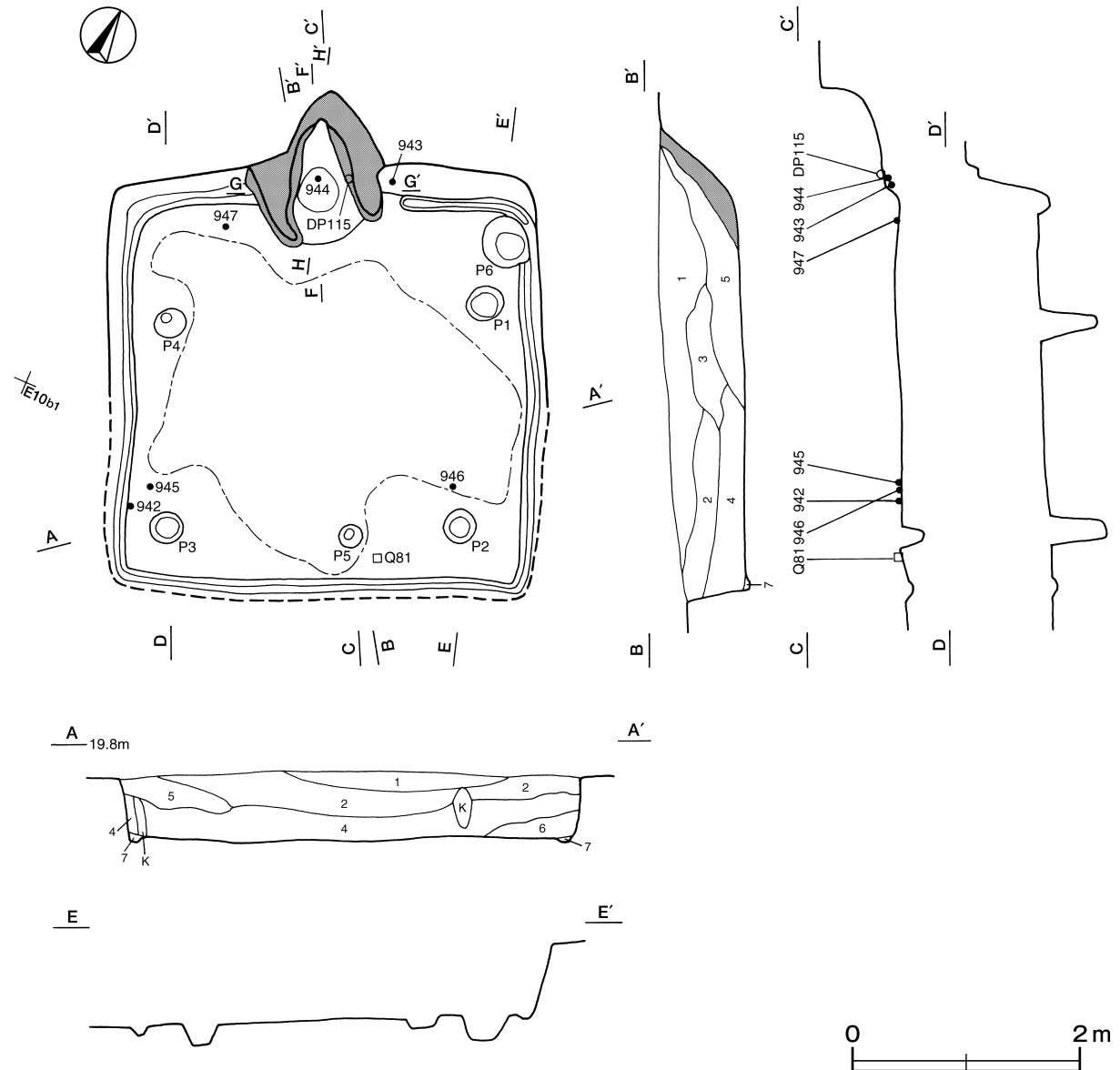
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

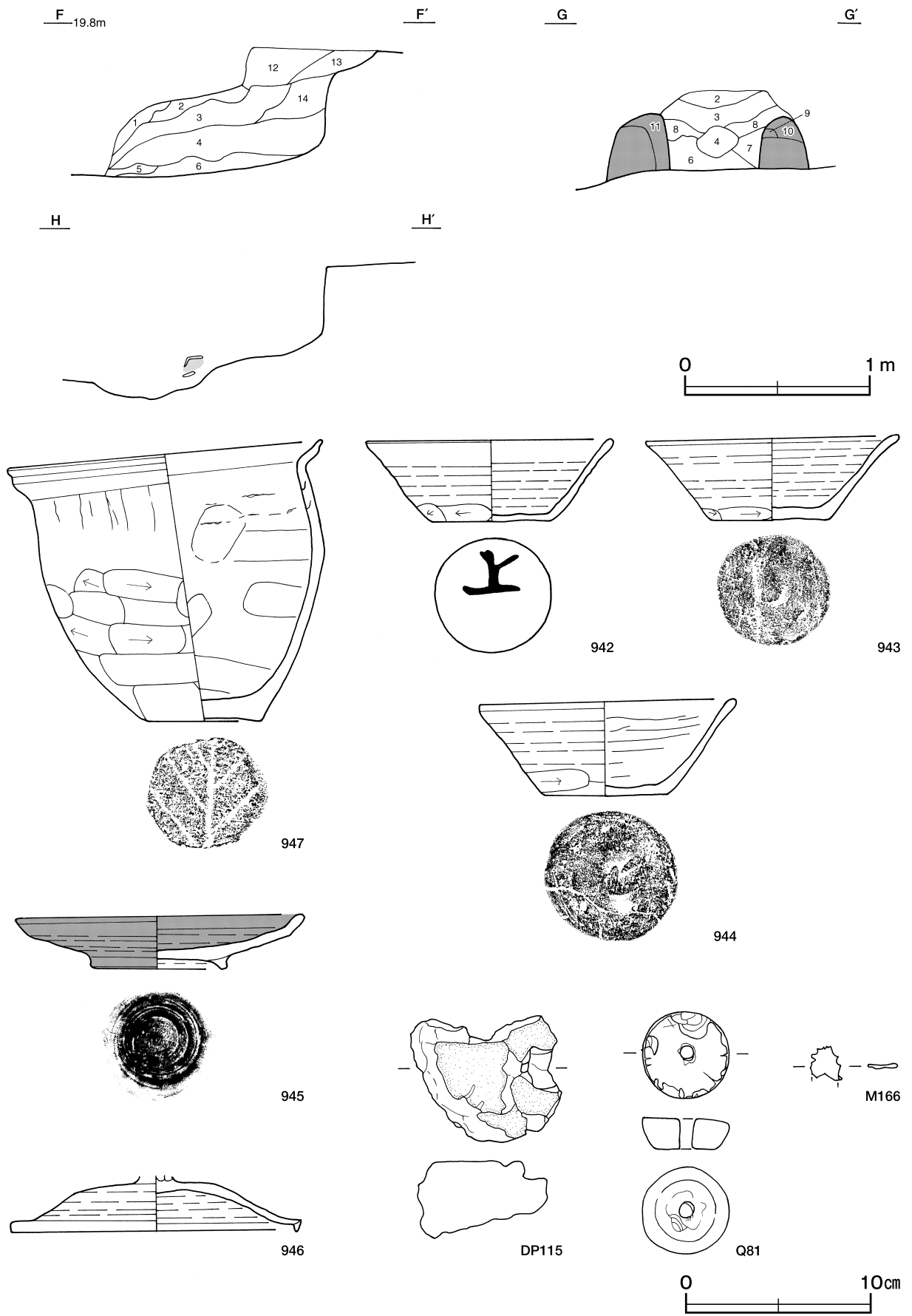
- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片901点(坏4, 甕類896, 甑1), 須恵器片171点(坏106, 高台付坏2, 盤1, 蓋13, 甗2, 壺類3, 甕類42, 甑2), 土製品5点(支脚3, 紡錘車1, 不明1), 鉄器1点(刀子), 粘土塊1点, 鉄滓4点, 種子1点のほか, 混入した古墳時代の土師器片197点も出土している。944は竈内から出土しており, 熱を受けていることから支脚として使用されていたと考えられる。竈周辺には, 947が竈左袖脇の床面, 943が右袖部脇の覆土下層から出土している。942が南西コーナー部壁溝際の床面, 945がP3北側の床面からそれぞれ出土している。946はP2北側の床面から出土している。DP115は竈右袖部の内側から破損した状態で出土し, 944と共に, 袖部材の一部として使用されていたと考えられる。また, Q81は南壁際の床面, M166は竈の覆土からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第585図 第2183号住居跡実測図



第586图 第2183号住居跡・出土遺物実測図

第2183号住居跡出土遺物観察表（第586図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
942	須恵器	坏	13.0	4.4	6.3	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部下端手持ヘラ削り 底部多方向ヘラ削り	床面	85% 墨書「上」 PL188
943	須恵器	坏	13.4	4.5	6.2	長石・石英・雲母・礫	灰褐	普通	体部下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	壁溝覆土内	85%
944	須恵器	坏	13.5	5.1	6.7	長石・石英・雲母・赤鉄子	灰白	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 底部内面中央ナデ	竈覆土内	60% 支脚
945	須恵器	盤	15.0	2.9	7.1	長石・石英・雲母	黒	普通	底部回転ヘラ切り	床面	90% 油煙付着
946	須恵器	蓋	15.2	(2.9)	-	長石・石英・雲母・赤鉄子	にぶい褐	普通	天井部回転ヘラ削り・ヘラ削り	床面	95%
947	土師器	小形甕	16.7	15.0	6.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	不良	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面	90%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP115	支脚カ	(6.8)	(8.1)	(4.2)	(128.6)	土(長石)	ナデ 半円形の凹み有り 外面焼土化した部分有り	右袖部内	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q81	紡錘車	4.7	1.7	0.8	53.0	粘板岩	円錐台形	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M166	鏃	(1.9)	(1.7)	0.3	(2.3)	鉄	頭部及び脚部欠損 脚部曲っている 断面方形	竈覆土	

第2186号住居跡（第587・588図）

位置 調査区南西部のD10g8区、標高19mほどの南東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸5.02m、短軸4.66mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は34~64cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北西部を除いた壁下には、幅11~19cm、深さ6~14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで137cm、袖部幅は147cmで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ45cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐 色 焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 4 暗赤褐 色 焼土粒子中量,ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐 色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化物微量 | 5 黒褐 色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 3 暗褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量 | |

ピット 5か所。P1~P4は支柱穴で、深さは8~36cmである。P5は深さ13cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

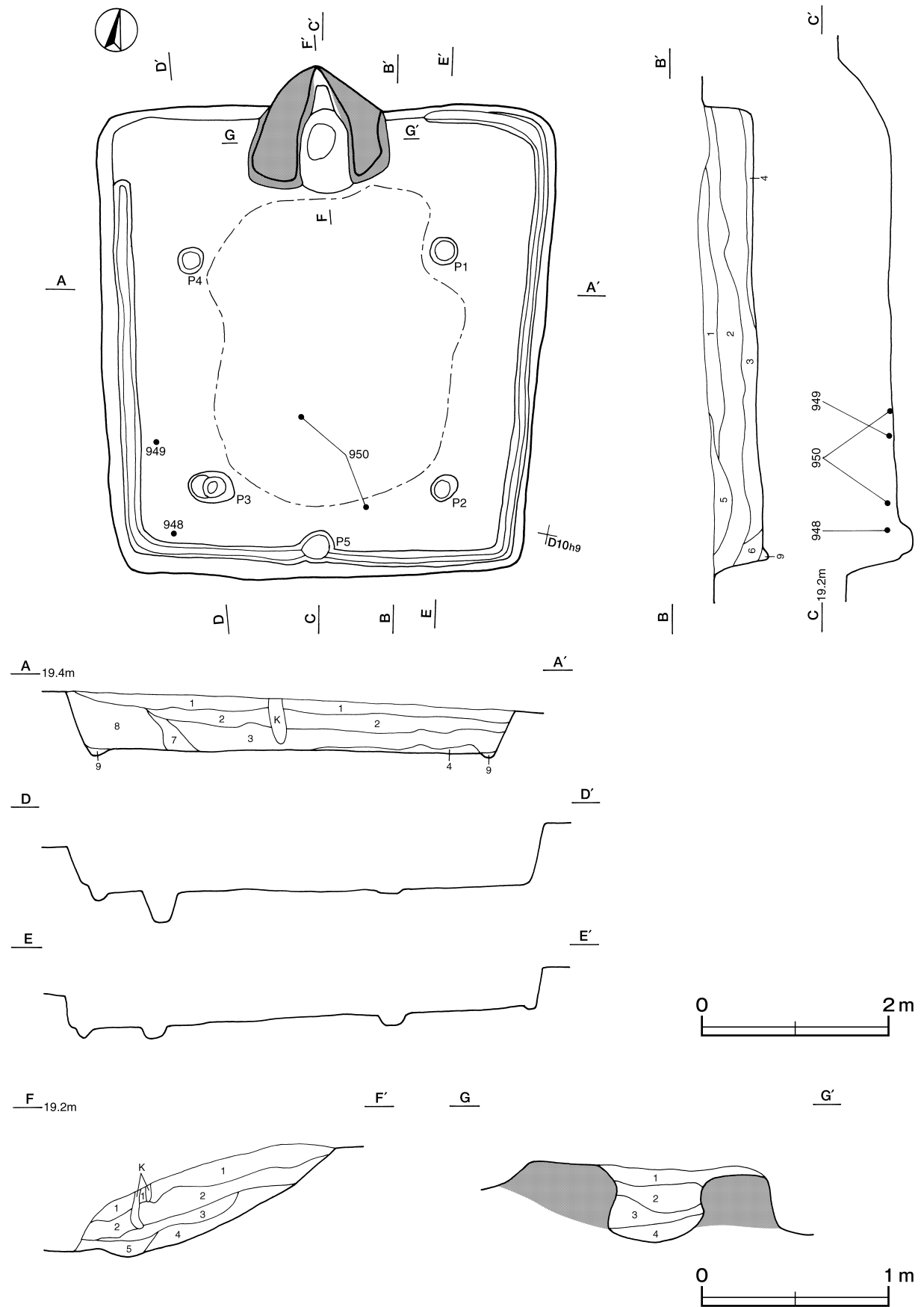
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

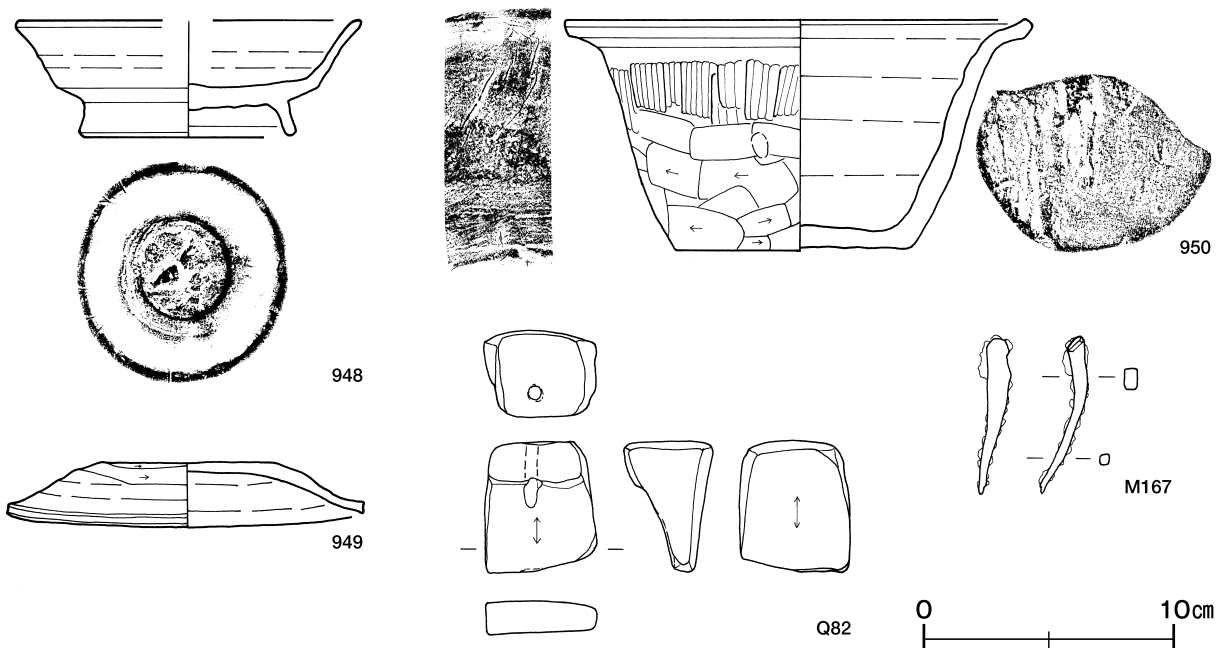
- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化物微量 | 6 暗褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化物微量 | 7 黒褐 色 ロームブロック少量,砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化物微量 | 8 黒褐 色 ロームブロック少量,焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 4 灰褐 色 砂質粘土ブロック中量,ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 褐 色 ローム粒子少量 |
| 5 黒褐 色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片1080点(坏3,蓋3,甕類1072,甌2),須恵器片584点(坏214,高台付坏20,蓋32,高盤2,甌1,壺類4,瓶類15,甕類293,甌3),鉄製品2点(釘,不明)のほか、混入した古墳時代の土師器片67点も出土している。948は南西コーナー部の床面,949は完形の状態で西壁際の床面から出土しており、それぞれ遺棄されたと考えられる。950は中央南部の覆土下層から出土した破片が接合しており、投棄されたと考えられる。また、覆土下層からQ82とM167がそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第587図 第2186号住居跡実測図



第588図 第2186号住居跡出土遺物実測図

第2186号住居跡出土遺物観察表（第588図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
948	須恵器	高台付杯	[13.5]	4.6	8.2	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向ヘラ削り	床面	70%
949	須恵器	蓋	14.1	3.2	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 天井部回転ヘラ削り	床面	100%
950	須恵器	小形鉢	18.0	9.2	9.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部縦位の平行叩き後スリ消し 体部中央部指ナデ 体部下端ヘラ削り 指頭痕 内面ナデ ヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土下層	40% PL178

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q82	砥石	(5.3)	4.5	3.5	(81.3)	凝灰岩	提砥石 一方向からの穿孔 砥面2面 他は破断面	覆土下層	PL195

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M167	釘カ	(6.3)	1.1	0.6	(5.3)	鉄	断面長方形 下端部曲がっている	覆土下層	

第2189号住居跡（第589図）

位置 調査区南西部のE 9 c0区，標高19.5mほどの南東への傾斜面に位置している。

規模と形状 長軸4.28m，短軸3.24mの長方形で，主軸方向はN - 65° - Eである。壁高は5～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北壁コーナー部を除いた壁下には，幅8～16cm，深さ4～9cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 東部コーナー部に付設されている。天井部，焚口部，南袖部は遺存していない。煙道部は壁外へ不定形に44cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 灰黄色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | |

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で，深さは12～50cmである。P5は深さ15cmで，竈と向かい合う西壁際中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

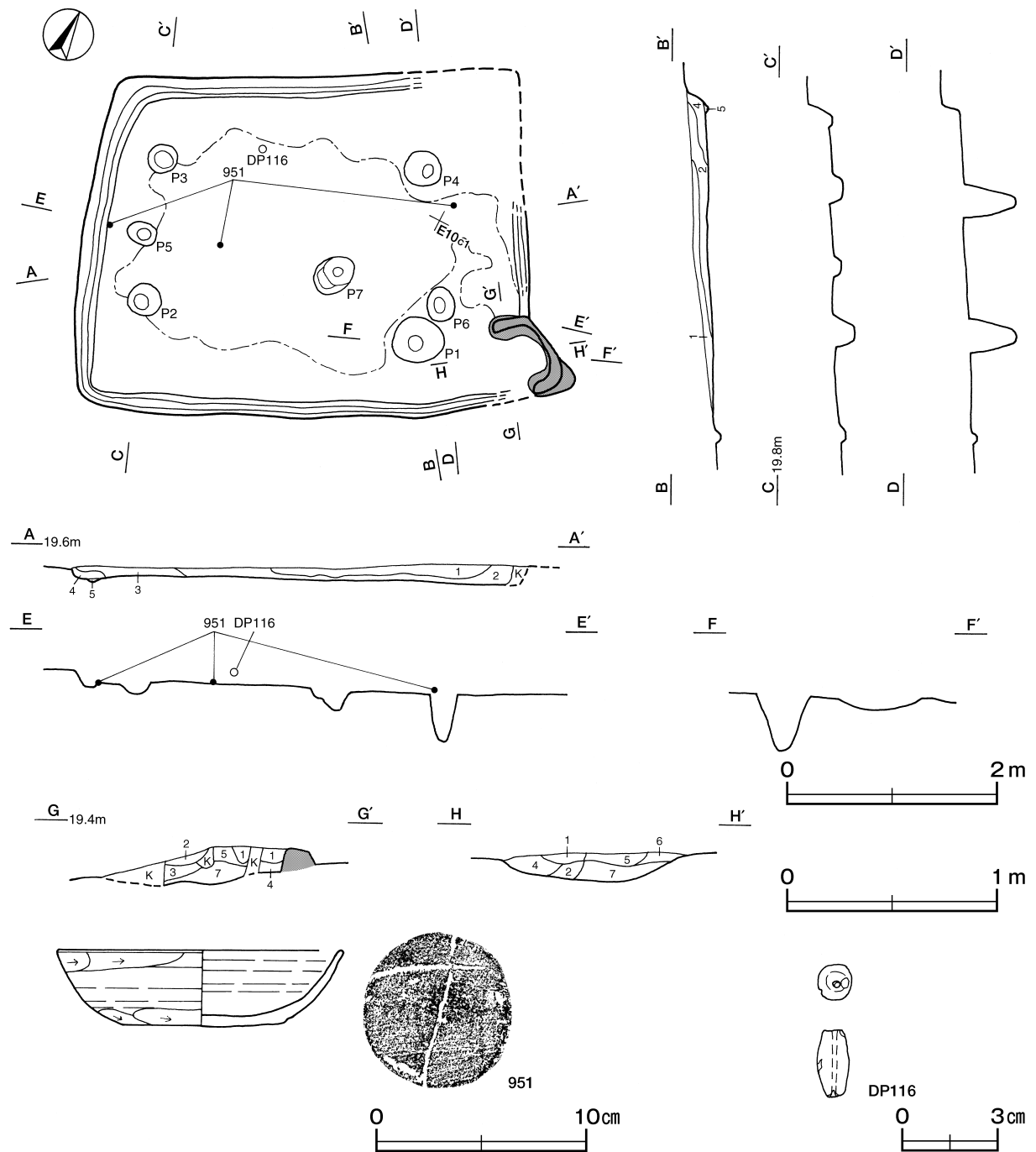
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示しているが、覆土が薄いため詳細は不明である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|------|---------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片169点(坏32, 蓋20, 鉢1, 甕類116), 須恵器片9点(坏5, 甕類4), 土製品1点(管状土錘), 粘土塊4点のほか, 混入した古墳時代の土師器片28点も出土している。951は東西の床面から出土した破片が接合したものであることから, 住居廃絶後まもなく廃棄されたものと考えられる。DP116は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前半と考えられる。



第589図 第2189号住居跡・出土遺物実測図

第2189号住居跡出土遺物観察表（第589図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
951	土師器	坏	13.4	3.7	7.3	石英・雲母	橙	普通	口辺部一部へら削り 体部内外面口ロナデ 体部下端 手持ちへら削り 底部回転へら切り後へら削り 指頭痕	床面	60%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP116	管状土錘	1.1	2.0	0.2	2.5	土（長石）	ナデ 黒褐色を呈する	覆土上層	PL189

第2201号住居跡（第590～592図）

位置 調査区南部のA11h2区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.65m、短軸4.50mの方形で、主軸方向はN - 13° - Eである。壁高は20～35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から南壁際にかけて踏み固められている。壁下には、幅7～16cm、深さ2～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。掘り方は東部のみ調査しており、四隅を掘り込んでいる状況が確認されている。また、掘り方内からP6～P9が確認されている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、袖部幅は130cmで、袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を11cm不整形に掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ44cm掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子微量	7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 極暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量	8 赤褐色 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
3 赤褐色 焼土ブロック多量	9 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子中量	10 灰褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
5 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量	11 暗褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
6 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	12 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 9か所。P1～P4は支柱穴で、深さは40～70cmである。P5は深さ25cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は掘り方内から確認された柱穴で、性格は不明である。

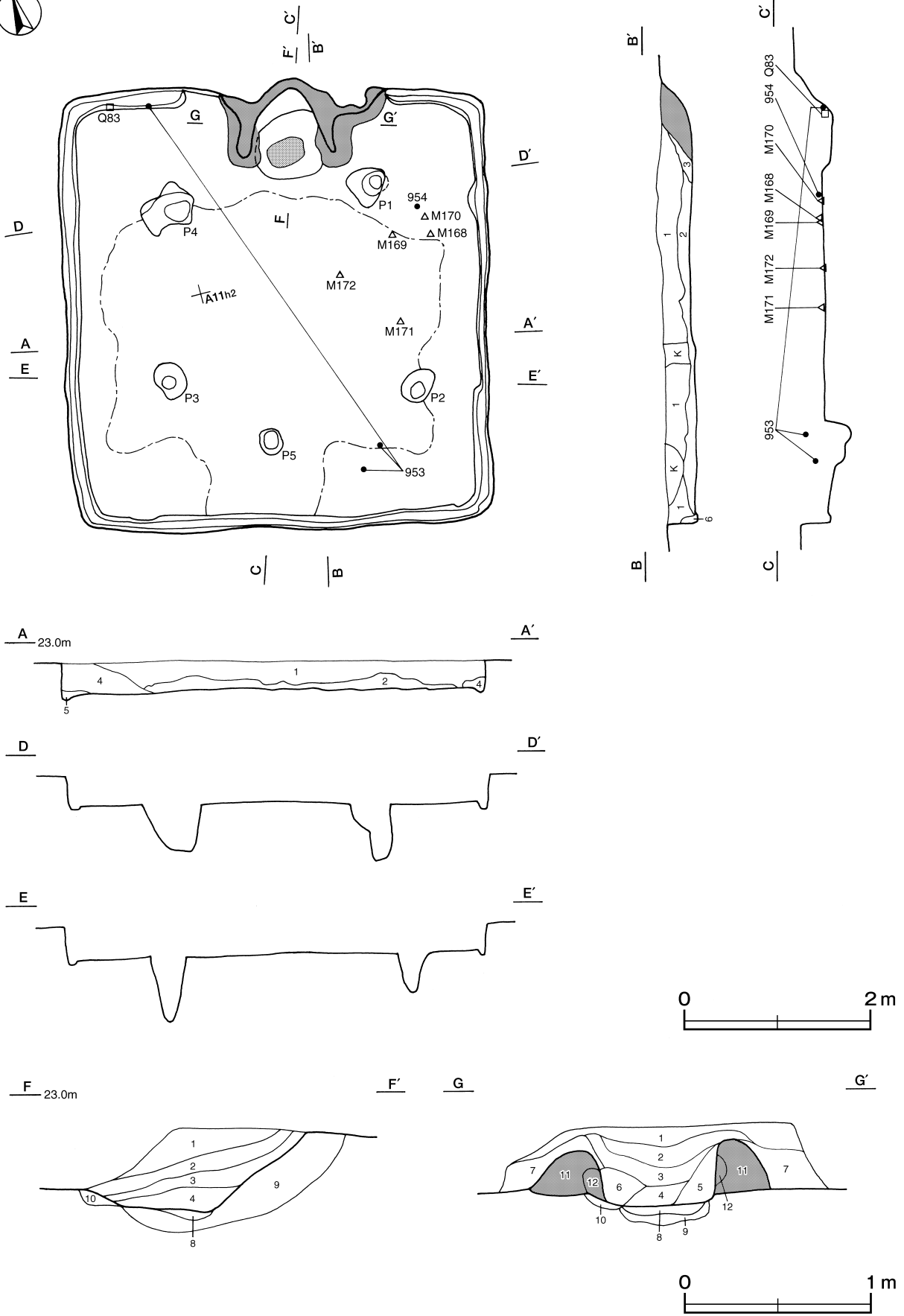
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

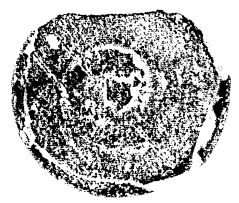
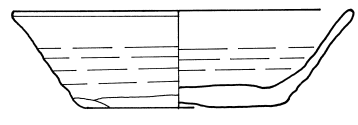
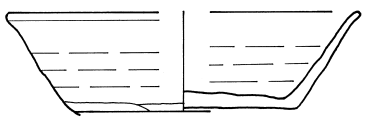
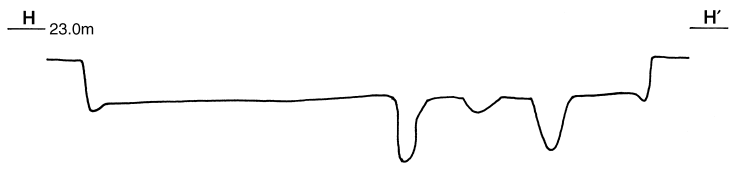
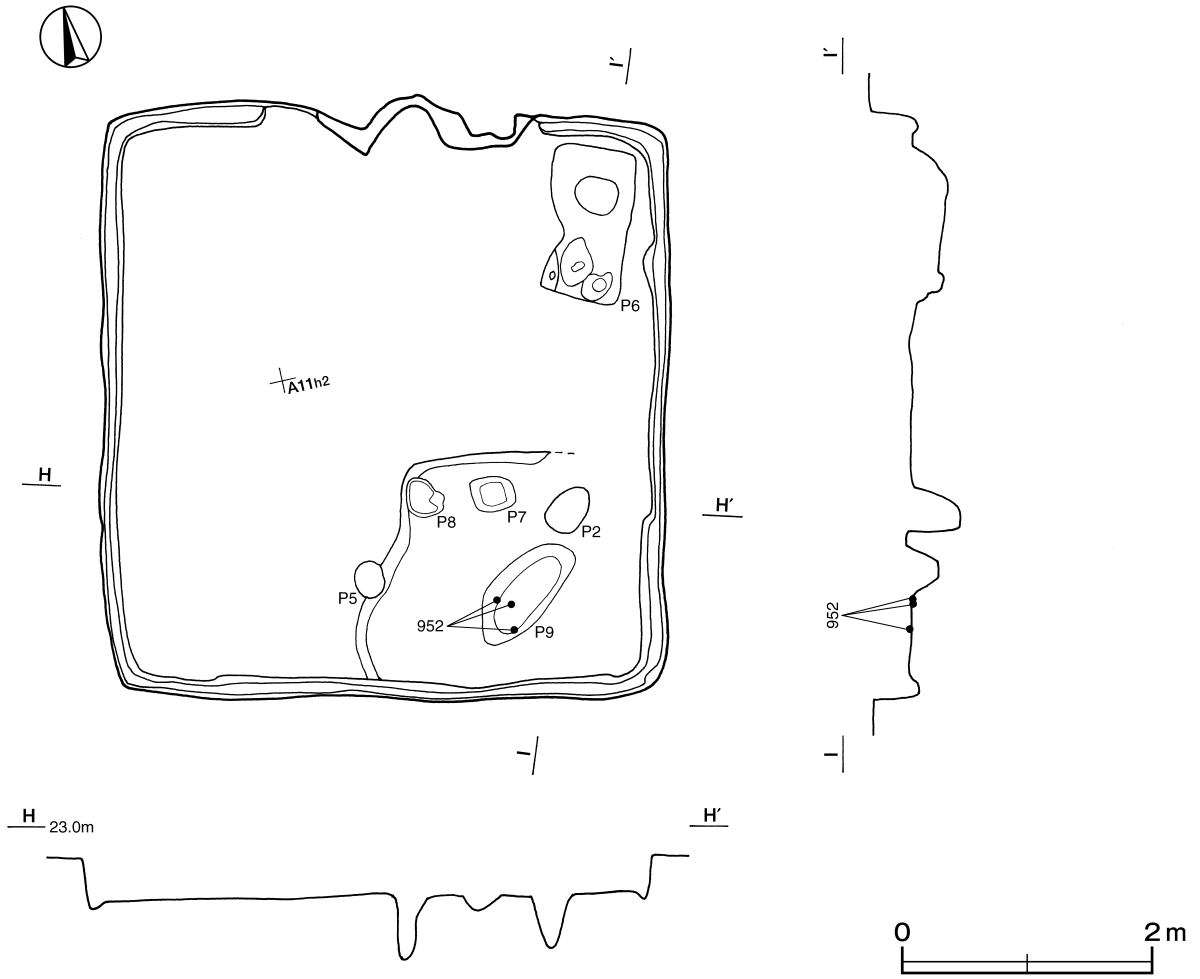
1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	4 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	5 褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量	6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片648点（甕類646、甌2）、須恵器片148点（坏128、高台付坏1、蓋6、瓶類1、甕類12）、石製品4点（勾玉3、紡錘車1）、鉄器6点（刀子1、鋸2、鎌3）のほか、混入した古墳時代の土師器片39点も出土している。952は掘り方内から破損した状態で出土している。953は散在して出土していることから、廃絶後に投棄されたと考えられる。鉄製品は東部に集中する分布状況を示しており、その中でもM168・M170は床面からほぼ完形の状態で出土していることから、廃絶時に遺棄されたと考えられる。また、Q83は壁溝内から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



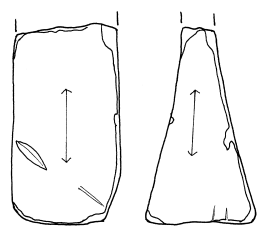
第590图 第2201号住居跡実測図



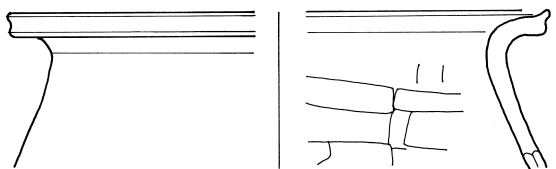
952



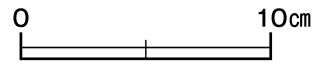
953



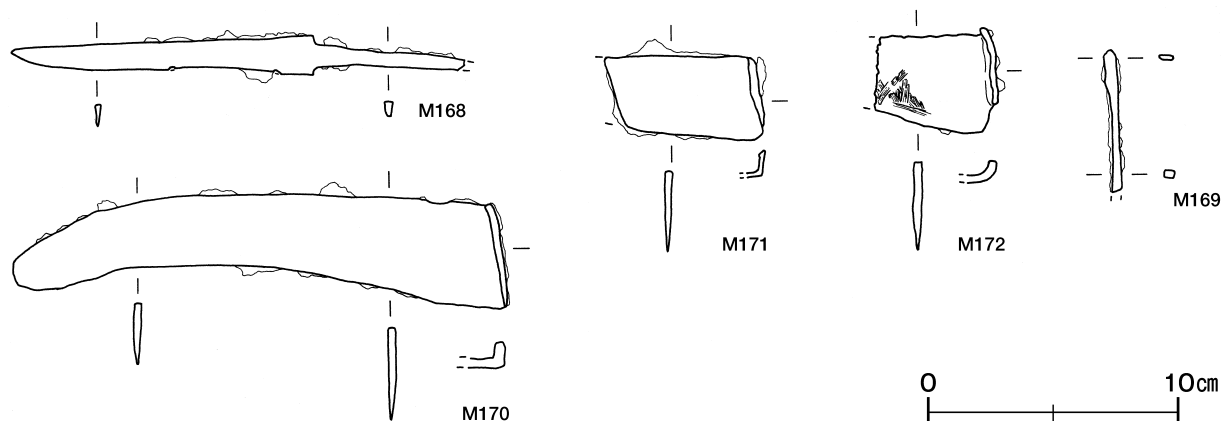
Q83



954



第591图 第2201号住居跡・出土遺物実測図



第592図 第2201号住居跡出土遺物実測図

第2201号住居跡出土遺物観察表（第591・592図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
952	須恵器	坏	[13.8]	3.9	[8.2]	長石・石英	浅黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	堀り方部	60%
953	須恵器	坏	13.3	3.8	7.6	長石	褐灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土上～下層	70% PL165
954	土師器	甗	[21.2]	(6.2)	-	長石・雲母・礫	赤褐	普通	体部内外面ヘラナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q83	砥石	(8.0)	4.3	4.2	(172.9)	凝灰岩	砥面六面 他は破断面	壁溝覆土	PL195

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M168	刀子	(18.0)	1.3	0.4	(29.1)	鉄	ほぼ完形 茎部に木質部附着	床面	PL198
M169	鏃	(5.7)	0.5	0.3	(2.4)	鉄	茎部残存 断面方形	床面	
M170	鎌	19.6	4.3	0.3	93.7	鉄	完形 端部折り曲げ 根刈り鎌	床面	PL196
M171	鎌	(6.5)	3.9	0.3	(23.1)	鉄	基部残存 端部上端折り返し	床面	
M172	鎌	(5.2)	4.0	0.3	(22.5)	鉄	基部残存 端部上端折り返し 木質部附着	床面	

第2211号住居跡（第593・594図）

位置 調査区北部のB12e5区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2173号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.50m，短軸4.48mの方形で，主軸方向はN-7°-Eである。壁高は15～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。北西部を除いた壁下には，幅14～19cm，深さ6～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，袖部幅は125cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部とし，その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ49cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第1層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1 灰白色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量 | 4 赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 褐灰色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量 | 6 赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| | 7 灰白色 砂質粘土粒子多量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは15～75cmである。P5は深さ28cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

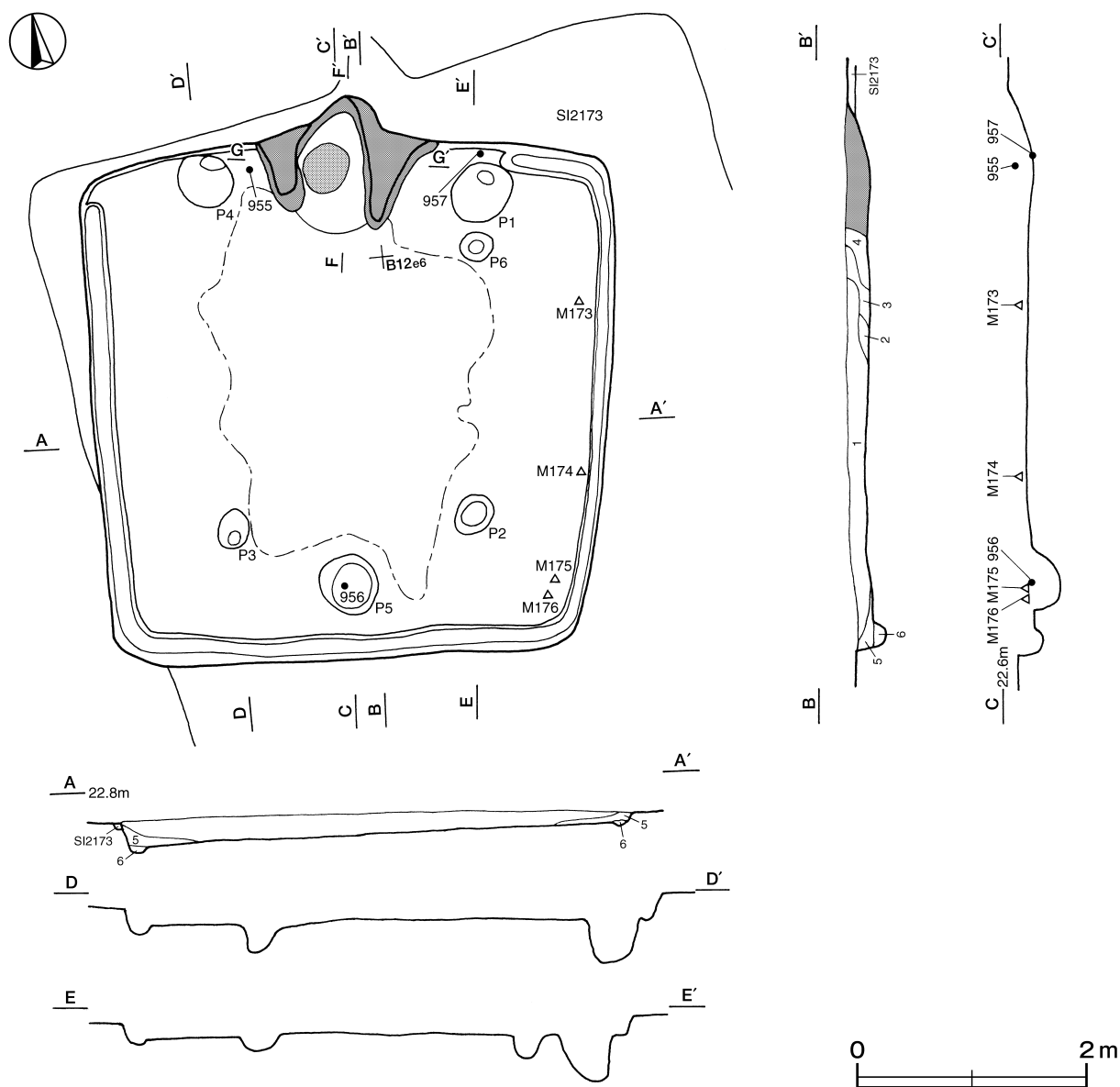
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

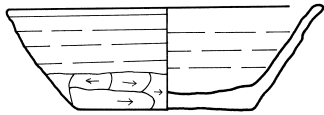
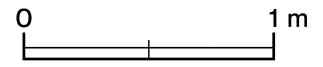
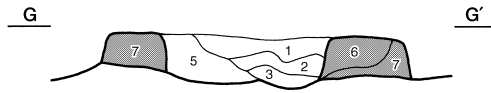
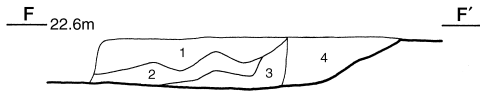
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片188点(甕類), 須恵器片155点(坏89, 蓋8, 鉢29, 甗1, 瓶類1, 甕類23, 甑4), 鉄器・鉄製品5点(刀子1, 鎌1, 釘1, 足金物2)のほか, 混入した縄文土器片2点, 古墳時代の土師器片102点も出土している。955は北西壁際の覆土中層, 956はP5の覆土上層から出土していることから, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。957は北東壁際の床面, M175・M176は南東コーナー部の床面から破損した状態で出土しており, 廃絶時に伴い廃棄されたと考えられる。

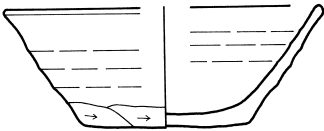
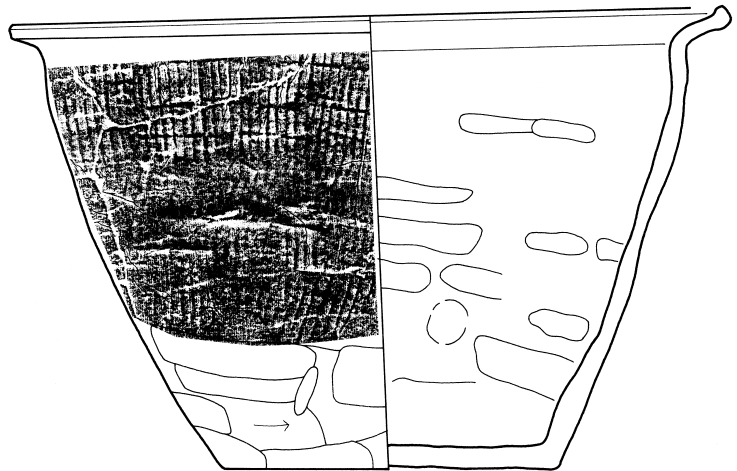
所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第593図 第2211号住居跡実測図



955



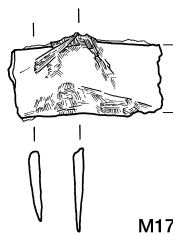
956



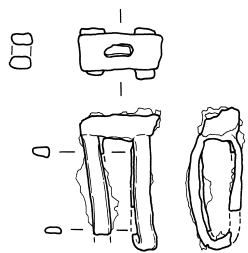
957



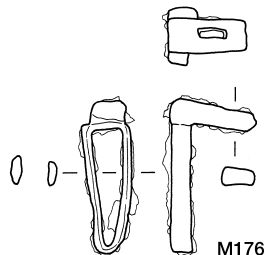
M173



M174



M175



M176



第594图 第2211号住居跡・出土遺物実測図

第2211号住居跡出土遺物観察表（第594図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
955	須恵器	坏	12.2	4.2	6.8	長石・石英・雲母	オリブ黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	90% PL165
956	須恵器	坏	[12.4]	4.8	[6.6]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り・ナデ	P 5 覆土	45%
957	須恵器	鉢	28.2	18.5	13.3	長石・雲母	灰	普通	体部外面平行擬格子状叩き 内面ナデ 体部下端ヘラ削り 底部ヘラナデ	床面	70% PL178

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M173	刀子	(11.7)	1.4	0.4	(15.3)	鉄	刃部欠損 茎部に木質部残存	覆土下層	PL198
M174	鎌	(6.0)	2.6	0.4	(22.1)	鉄	刃部のみ残存 両面に木質部残存	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M175	足金物	5.5	(3.2)	2.2	(27.8)	鉄	双脚足金物 内一脚欠損 緒通し穴一か所	床面	PL198
M176	足金物	6.3	(3.5)	1.9	(23.1)	鉄	双脚足金物 内一脚欠損 脚部外面に木質部付着 緒通し穴一か所	床面	PL198

第2212号住居跡（第595図）

位置 調査区南部のD11h4区，標高18mほどの南東への傾斜面に位置している。

規模と形状 長軸3.12m，短軸2.92mの方形で，主軸方向はN - 80° - Eである。壁高は34～73cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，粘土混じりの貼り床である。硬化面や壁溝は認められない。

竈 南東コーナー部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cmであり，袖部は遺存していない。竈の構築方法は竈土層断面から，住居の掘り方に床面から10cmまで粘土を混ぜたローム土を貼り付けていた（第3・4層）と考えられる。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ79cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第1層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|---------------|
| 1 黄褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子中量 | 4 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子多量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子多量，炭化粒子少量 | | |
| 3 明黄褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子多量，炭化物中量 | | |

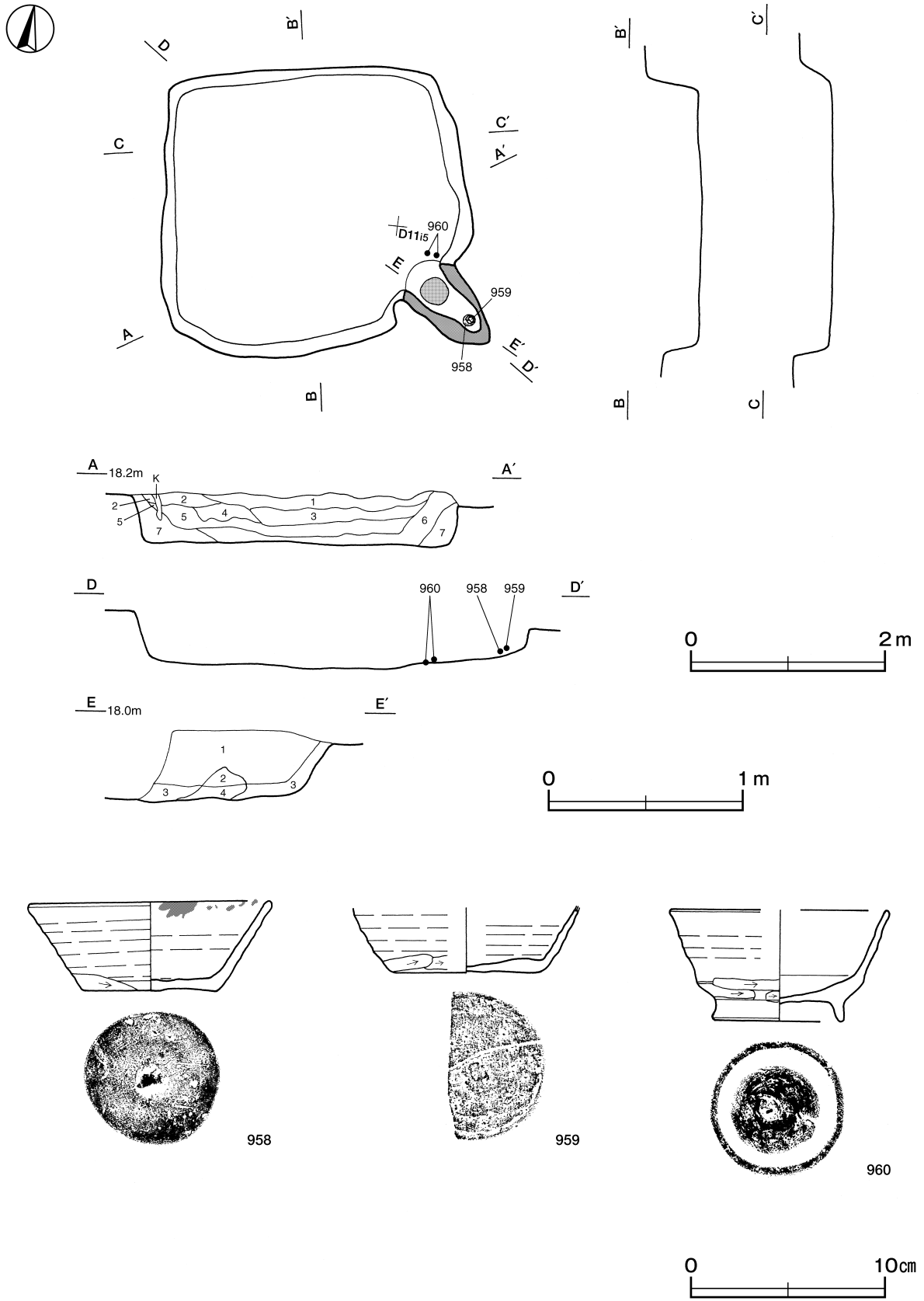
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 褐色 | 粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 褐色 | 粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片138点（坏4，甕類133，甌1），須恵器片102点（坏80，蓋7，甕類9，甌5，平瓶1），鉄滓1点のほか，混入した古墳時代の土師器片16点，中世以降の陶器片1点，磁器片1点も出土している。960は竈左袖部手前の床面から正位で口辺部がつぶれた状態で出土している。また，958の上に959が重なった状態で竈の煙道部から出土しているが，火を受けた痕跡は見受けられない。これら3点の土器は，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



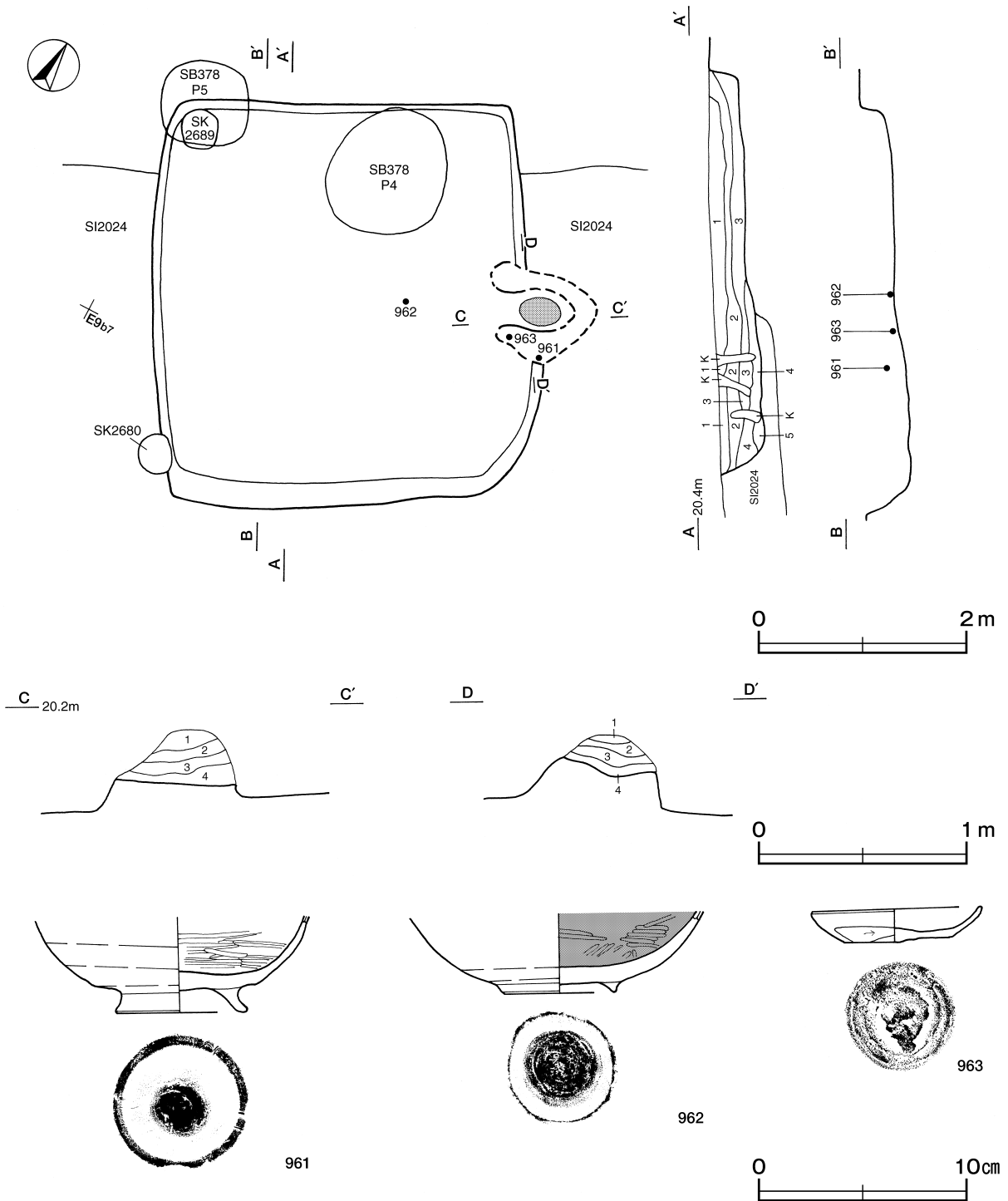
第595图 第2212号住居跡・出土遺物実測図

第2212号住居跡出土遺物観察表（第595図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
958	須恵器	坏	12.5	4.5	6.9	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	煙道部上	100% 油煙付着 PL165
959	須恵器	坏	-	(3.3)	7.6	石英・雲母	にぶい黄	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	煙道部上	40%
960	須恵器	高台付坏	[11.1]	5.7	6.6	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端ヘラ削り後一部ナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	45%

第2242号住居跡（第596図）

位置 調査区南西部の E 9 a 7 区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。



第596図 第2242号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第2024号住居跡，第378号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，第2680・2689号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.79m，短軸3.63mの方形で，主軸方向はN - 61° - Eである。壁高は28cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，硬化面や壁溝は認められない。

竈 東壁中央部に付設されている。遺存状態は非常に悪く，火床部のみ確認されている。火床部は幅27cmで，火床面は火を受けて赤変硬化している。また，竈内から雲母片岩が確認されており，火を受けていることから竈構築材として使用されたと考えられる。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|------|-----------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 3 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量 |
| 2 | 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 | 4 | 暗褐色 | 炭化物中量，焼土ブロック・ローム粒子少量 |

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック少量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 土師器片32点（高台付椀12，小皿1，甕類19），雲母片岩1点のほか，混入した古墳時代の土師器片11点，須恵器片3点（坏）も出土している。961と963は崩落した竈の右袖部上から出土しており，廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。

第2242号住居跡出土遺物観察表（第596図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
961	土師器	高台付椀	-	(4.5)	6.0	石英・雲母	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ 内外面ナデ 底部ヘラ切り後高台貼り付け 内面磨き	竈右袖部上	60%
962	土師器	高台付椀	-	3.3	5.3	石英・雲母	淡黄	普通	体部内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り後高台貼り付け 内面磨き	覆土下層	40%
963	土師器	小皿	8.0	1.7	5.1	石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面ヘラナデ 体部ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 内底左回転ヘラナデ	竈右袖部上	100%

第2255号住居跡（第597・598図）

位置 調査区北西部のA10i3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.70m，短軸3.65mの方形で，主軸方向はN - 9° - Eである。壁高は41～49cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅12～19cm，深さ3～5cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，袖部幅114cmである。袖部は地山を浅く掘り込み，砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を15cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ50cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第3層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------------|---|------|------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | | |
| 3 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子炭化粒子微量 |

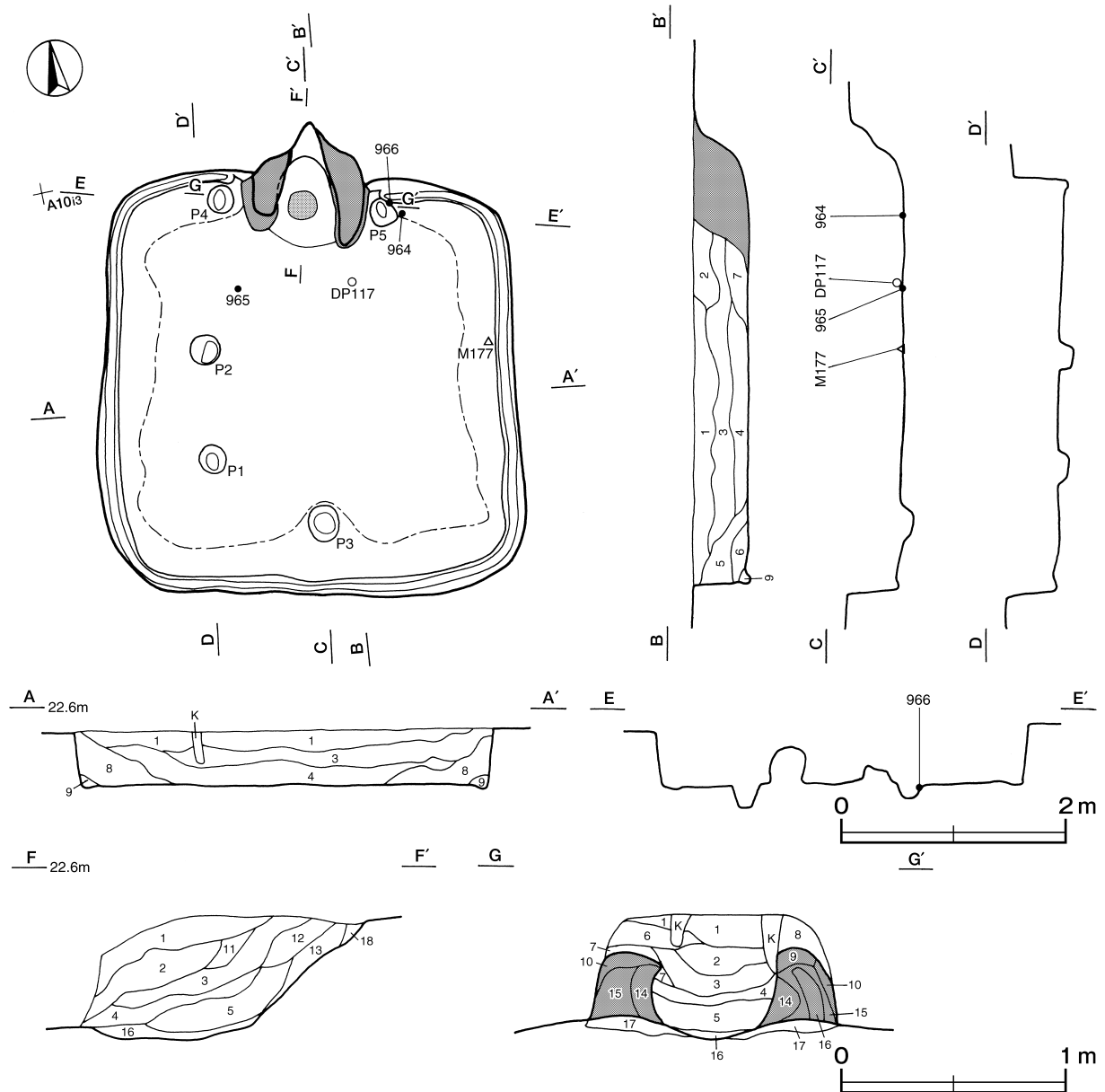
- | | | | |
|----------|------------------------------|---------|------------------------------|
| 8 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量,炭化物・焼土粒子微量, | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 |
| 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 褐色 | ローム粒子中量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量 | 18 暗褐色 | ローム粒子中量,砂質粘土粒子微量 |
| 13 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | | |

ピット 5か所。支柱穴はP1・P2が相当し、深さは13cmと14cmである。P3は深さ13cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4・P5は21cmと12cmの深さで、竈の袖部を挟むように位置しており、竈上の棚などの施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

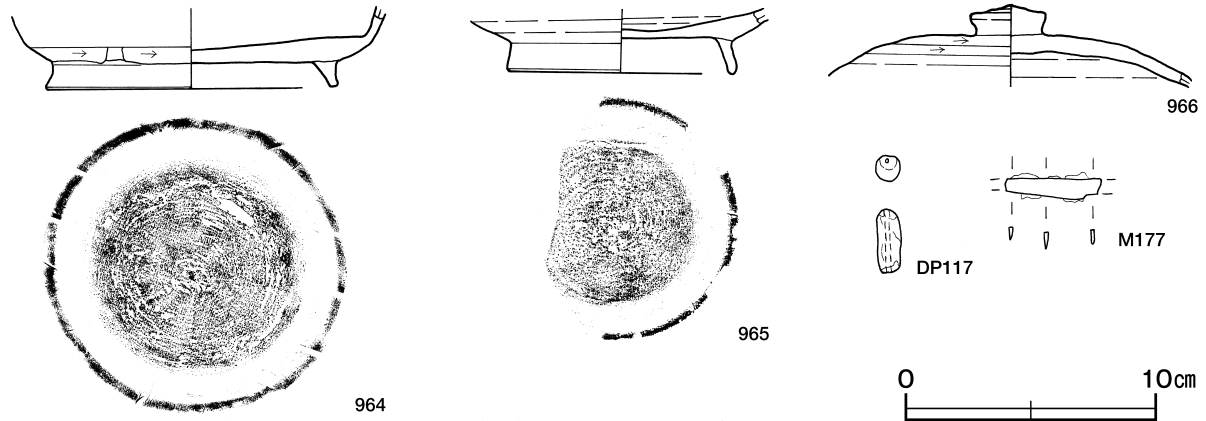
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |



第597図 第2255号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片465点（坏28，甕類437），須恵器片85点（坏類52，高台付坏5，蓋6，甕類22），土製品1点（管状土錘），鉄器1点（刀子），石2点（瑪瑙剥片，礫）のほか，混入した縄文土器片1点，古墳時代の土師器片1点，中世以降の陶器片1点も出土している。965は中央部の床面と覆土下層から出土した土器片が接合したもので，投棄されたものと考えられる。また，966はP5付近の床面から，966は床面からやや浮いた状態で出土し，DP117は右袖部手前の床面，M177は東壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第598図 第2255号住居跡出土遺物実測図

第2255号住居跡出土遺物観察表（第598図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
964	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	11.4	石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部下端へら削り 底部回転へら削り後高台貼り付け	床面	55%
965	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	9.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転へら削り後高台貼り付け 底部ナデ	床面	45%
966	須恵器	蓋	-	29.9	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部右回りへら削り後つまみ貼り付け つまみ径3.1cm つまみ高1.3cm	覆土下層	60%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP117	管状土錘	1.0	2.6	0.2	1.9	土(長石・石英・礫)	ナデ 明赤褐色 一方向からの穿孔	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M177	刀子	(3.9)	(0.80)	0.3	(2.0)	鉄	茎部・刃先欠損	床面	

第2259号住居跡（第599・600図）

位置 調査区北部のA11h3区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第21号ピット群に掘り込まれている。

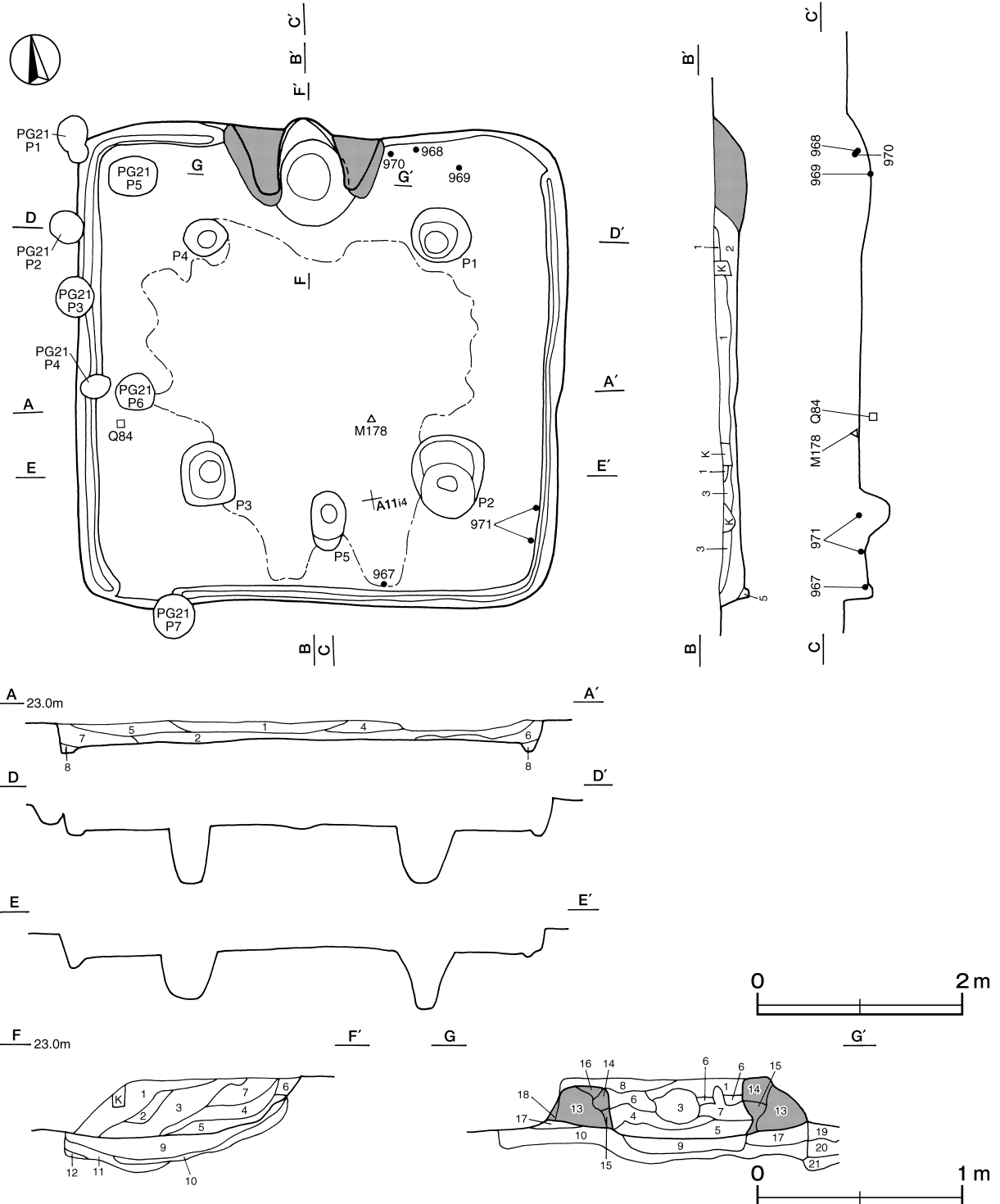
規模と形状 長軸4.69m，短軸4.54mの方形で，主軸方向はN - 9° - Eである。壁高は22～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北東部及び南西部の一部を除いた壁下には，幅5～10cm，深さ9～14cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

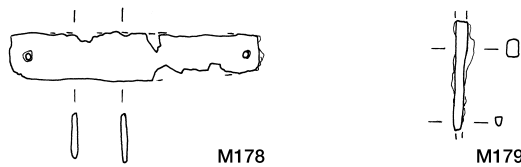
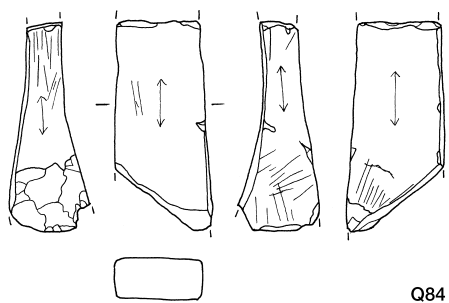
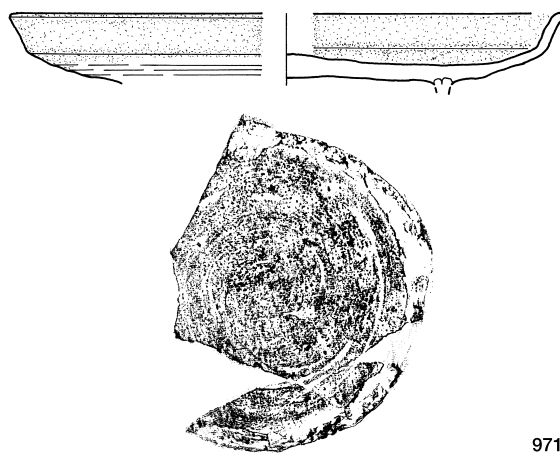
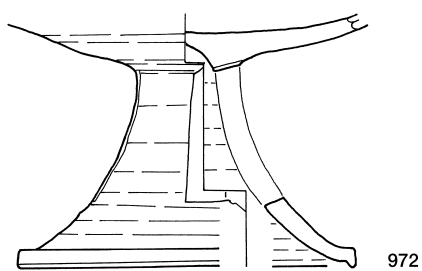
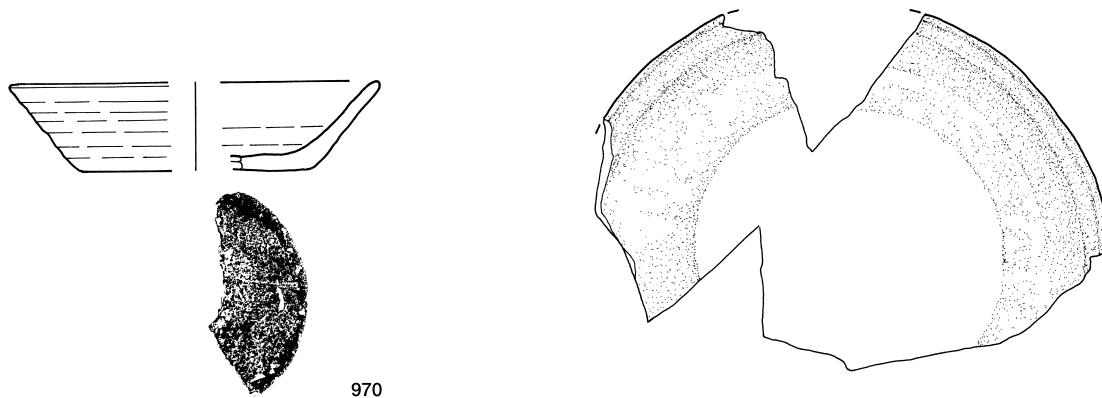
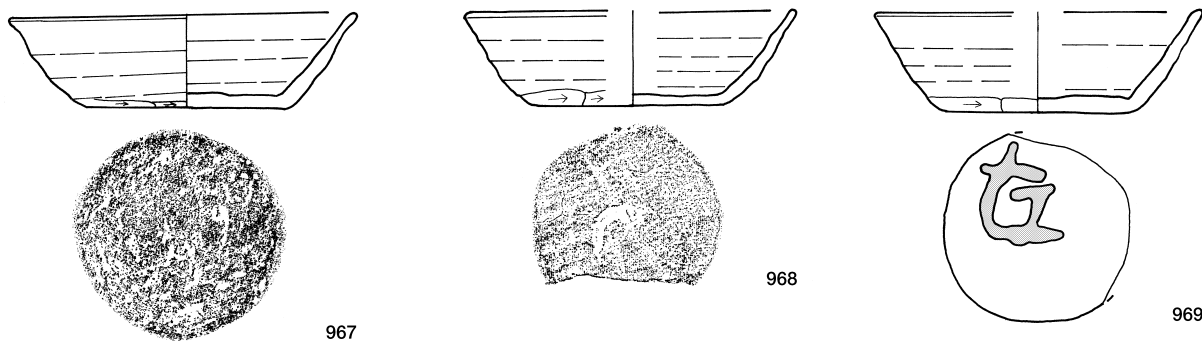
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで106cm，袖部幅154cmである。袖部は，地山を掘り込んでローム土を埋め込んだ上に構築されている。火床部は床面を20cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ17cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾した後，急な傾斜で立ち上がっている。第4層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 明褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 | 15 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 16 灰褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 17 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 18 灰褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 19 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | 20 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 10 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 21 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | |



第599図 第2259号住居跡実測図



第600图 第2259号住居跡出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは54～56cmである。P5は深さ30cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片462点(坏16, 甕類439, 甑7), 須恵器片194点(坏137, 高台付坏3, 盤6, 蓋8, 高盤10, 甕類30), 灰釉陶器片3点(椀), 石器1点(砥石), 鉄器・鉄製品2点(刀子, 釘)が出土しており, 覆土下層を中心にほぼ全域に散在した状態で出土している。970は竈右脇の覆土下層から, 968は床面から出土している。969は北壁際の床面から出土し, 底部外面に朱墨で文字が書かれている。967と971は南東壁の覆土下層から出土している。972は四方に散在した破片を接合したもので, 内一片は北壁際の床面から出土している。M178は中央部の床面, M179は覆土中, Q84は西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2259号住居跡出土遺物観察表(第600図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
967	須恵器	坏	13.6	3.9	8.0	石英・雲母	灰黄	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土下層	95% PL165
968	須恵器	坏	[13.0]	3.9	7.6	石英・雲母	灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	60%
969	須恵器	坏	[12.9]	4.0	7.3	石英・雲母	褐灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	50% 朱書 「在」カ PL165
970	須恵器	坏	[14.5]	3.5	[9.1]	石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土下層	35%
971	須恵器	盤	[22.0]	(2.8)	-	長石・石英	灰	普通	内面自然釉付着 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	55%
972	須恵器	高盤	-	(10.0)	[13.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	脚部内外面口クロナデ 透かし孔 ヘラ切り	覆土	45%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q84	砥石	(8.3)	3.7	1.7	(96.9)	凝灰岩	砥面4面 他は破断面	床面	PL195

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M178	鎌	(10.0)	1.9	0.2	(9.5)	鉄	手鎌 左端に径0.3cm右端に径0.2cmの目釘穴あり	床面	PL196
M179	釘	(4.4)	(0.5)	(0.7)	(4.4)	鉄	頭部一部・下端部先端欠損 下端部彎曲	覆土	

第2266号住居跡(第601・602図)

位置 調査区南西部のA10c9区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第57号井戸に掘り込まれている。

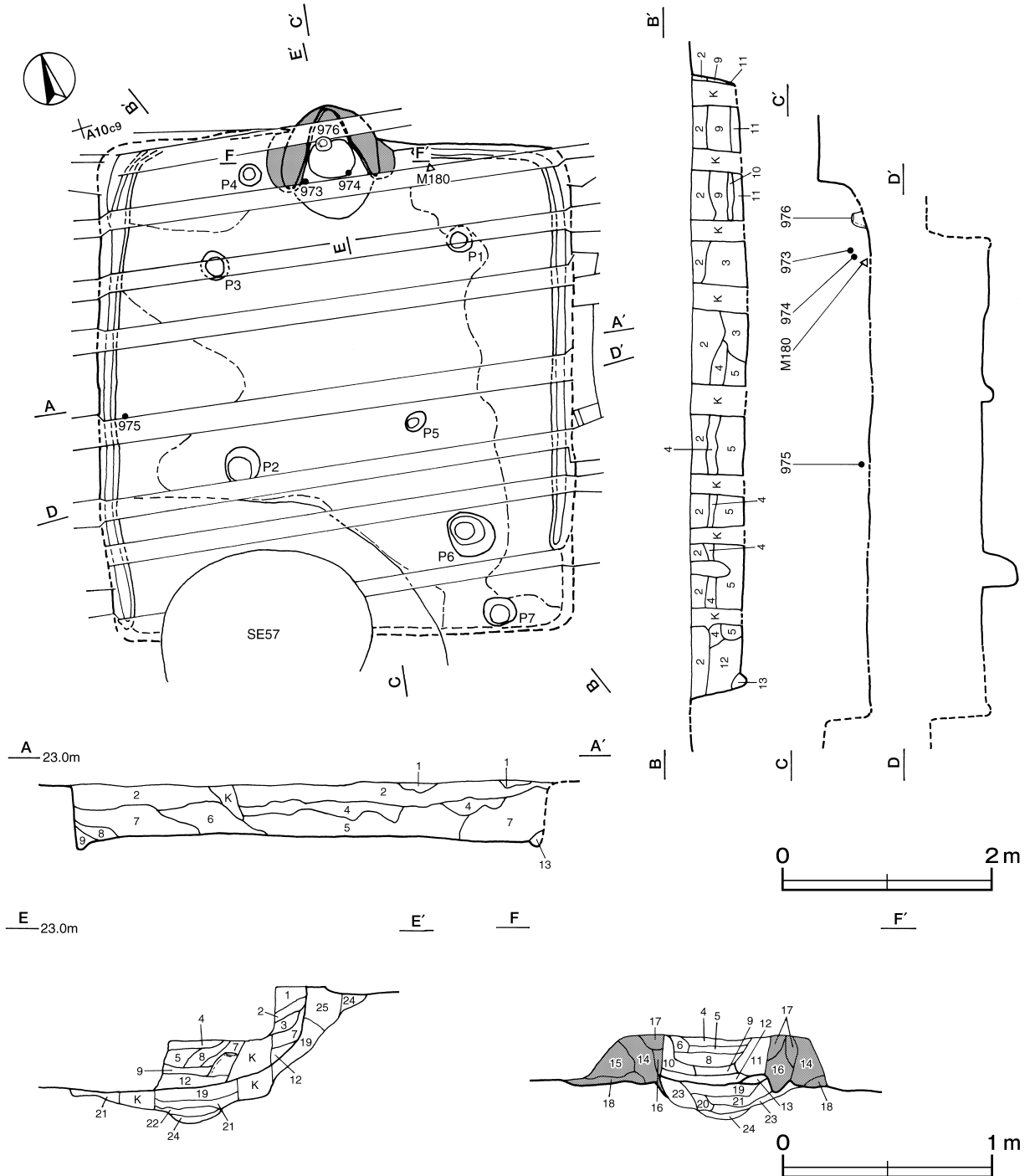
規模と形状 長軸4.80m, 短軸4.47mの方形で, 主軸方向はN-15°-Eである。壁高は40～56cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅9～13cm, 深さ3～6cmで, U字状の断面を呈する壁溝が南部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅120cmである。左袖部は地山をわずかに掘り込んで構築され, 右袖部は掘り方上に構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめてローム土を埋め戻して使用され, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっており, 立ち上がり部に土師器小形甕が支脚として据えられている。第2層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 灰黄褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 17 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 18 暗褐色 | 炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 19 黒褐色 | 焼土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 20 褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 | 21 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | 22 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 23 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 24 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 25 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 13 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |



第601図 第2266号住居跡実測図

ピット 7か所。P1～P3は支柱穴で、深さは11～32cmである。P4～P7の性格は不明である。

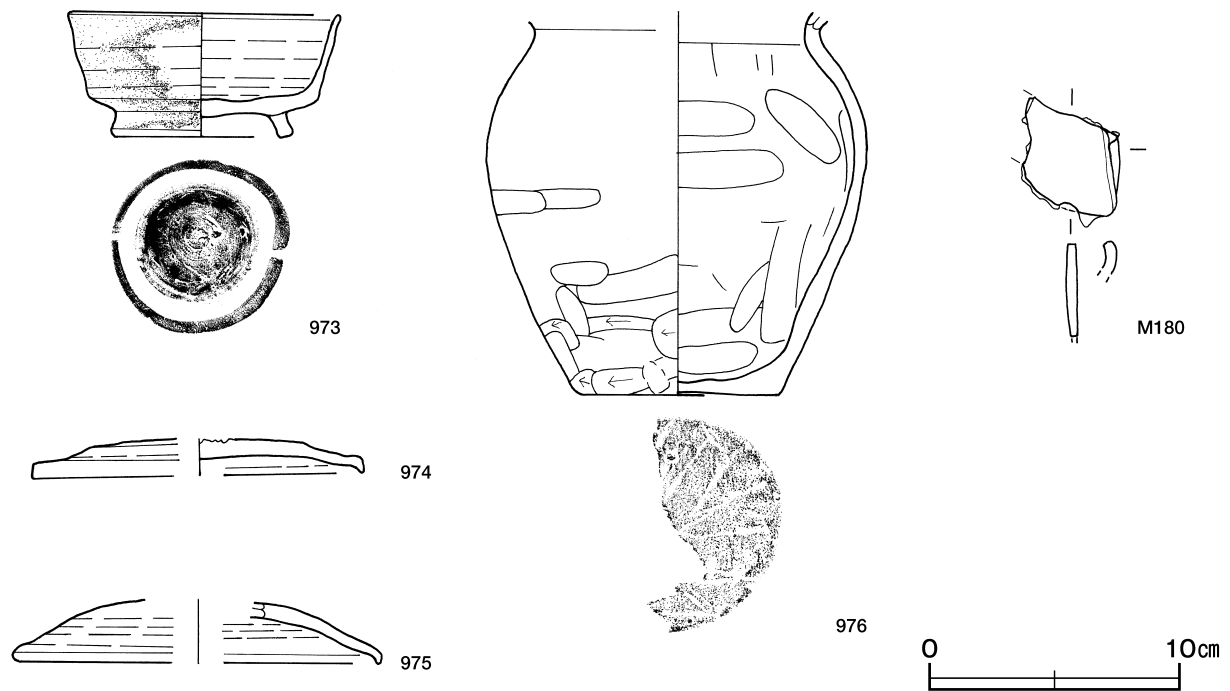
覆土 13層に分けられる。ブロック状に堆積していることから、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック微量 | 10 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片175点（坏3，甕類171，甑1），須恵器片49点（坏27，蓋8，高台付坏3，甕類11），鉄器1点（鎌），鉄滓5点，粘土塊1点のほか，混入した古墳時代の土師器片25点も出土している。975は西壁際の覆土下層から出土し，住居廃絶後まもなく廃棄されたものと考えられる。973と974は竈の覆土から出土しており，それぞれ熱を受けた痕跡がないことから，住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また，支脚として使用されていた976は，遺棄されたものと考えられる。M180は，北壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



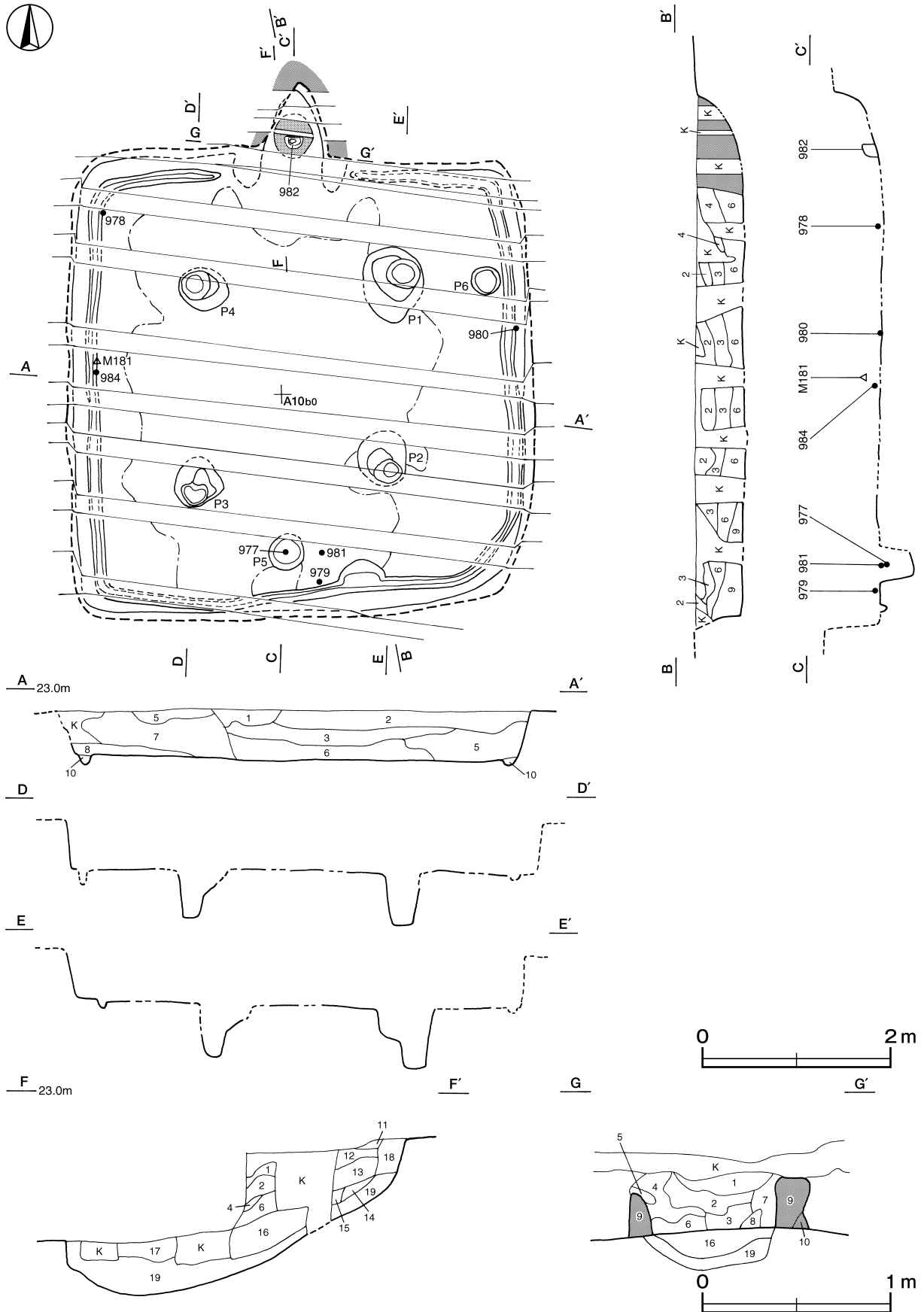
第602図 第2266号住居跡出土遺物実測図

第2266号住居跡出土遺物観察表（第602図）

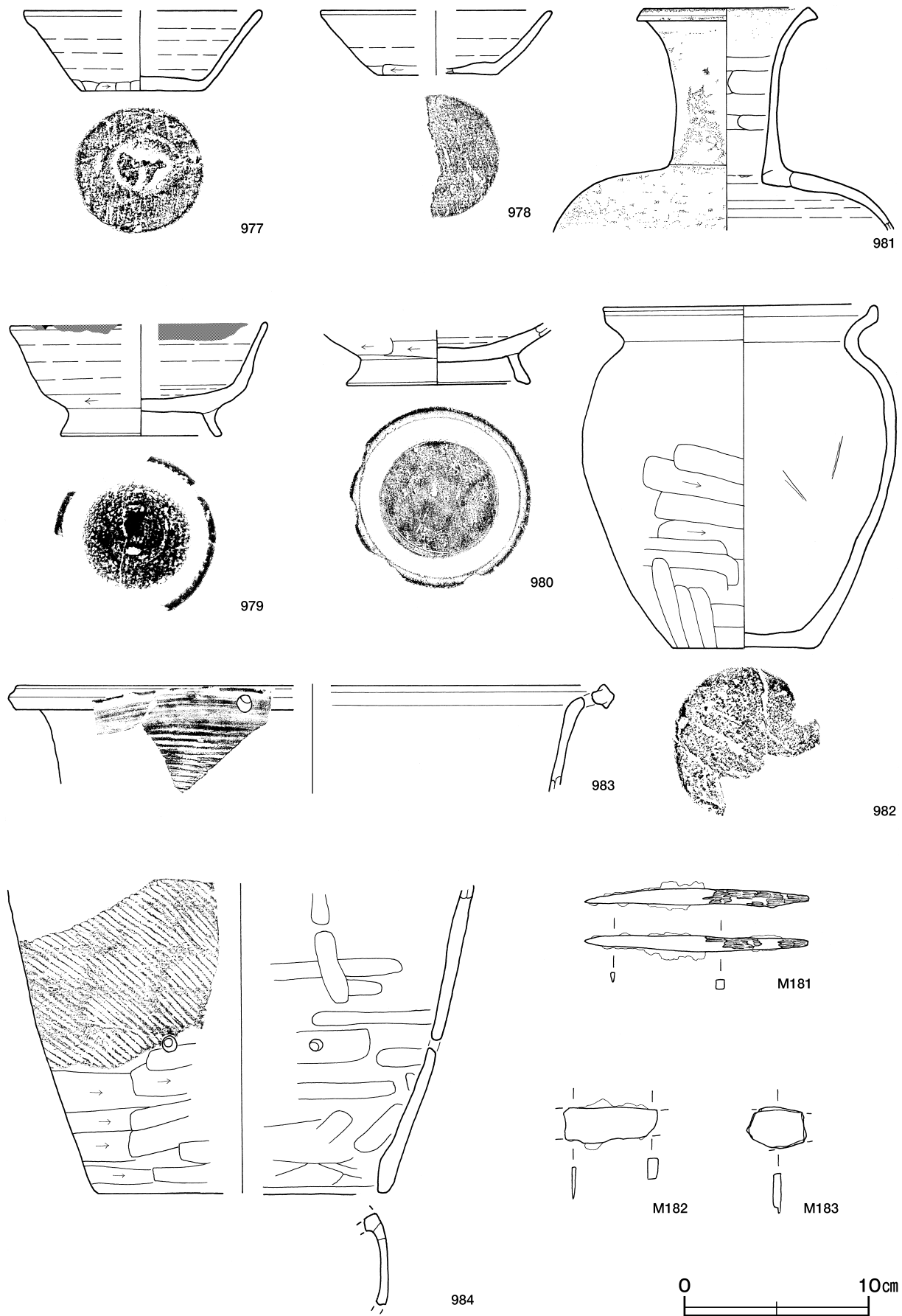
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
973	須恵器	高台付坏	10.7	4.9	7.0	長石・雲母	灰	良好	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈覆土	90% PL166
974	須恵器	蓋	[12.9]	(1.4)	-	石英・雲母	灰	普通	天井部左回転ヘラ削り後つまみ接合	竈覆土	50%
975	須恵器	蓋	[14.1]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部左回転ヘラ削り	覆土下層	40%
976	土師器	甕	-	(15.1)	[7.9]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ ヘラナデ 体部外面指頭痕 体部下端ヘラ削り 底部木葉痕	火床部	45% 支脚転用
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M180	鎌	(3.9)	(5.0)	1.1	(23.5)	鉄	基部残存 端部上端折り返し		覆土下層		

第2267号住居跡 (第603・604図)

位置 調査区北西部のA10a0区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。



第603図 第2267号住居跡実測図



第604图 第2267号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 一辺4.90mの方形で、主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は50～58cmで、外傾して立ち上がっている。東西の耕作による攪乱で、壁・床・竈を掘り込まれている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅8～10cm、深さ6～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため遺存状態は非常に悪い。遺存している袖部は幅95cmで、床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を26cm掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化しており、支脚として使用していた土師器甕が出土している。煙道部は壁外へ75cm掘り込まれ、立ち上がりは攪乱を受けているため不明である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック微量 | 15 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 9 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 18 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| | | 19 暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 |

ピット 6か所。P1～4は主柱穴で、深さは51～68cmである。P5は深さ40cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 10層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片574点（高台付椀7、甕類567）、須恵器片479点（坏282、高台付坏18、皿1、蓋47、高盤1、甗1、壺類16、瓶類1、甕類101、甌11）、石器1点（砥石）、土製品2点（不明）、鉄器3点（刀子、鎌、鑿）のほか、混入した縄文土器片1点、古墳時代の土師器片36点、中世以降の陶器片7点、磁器片1点も出土している。982は竈の火床面から攪乱を受けた状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたと考えられる。977はP5の覆土上層、984は西壁際の床面、979は北東部の覆土上層から南壁際の床面にかけてそれぞれ出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。また、M181が西壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2267号住居跡出土遺物観察表（第604図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
977	須恵器	坏	[12.9]	4.4	6.6	長石・石英・雲母・小礫	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ドーナツ状に一方ヘラ削り	P5覆土	55%
978	須恵器	坏	[12.5]	3.5	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	不良	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	30%
979	土師器	高台付坏	13.5	6.0	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 高台貼付	覆土上～床面	60% 油煙付着
980	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	9.8	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 高台貼付	床面	30%
981	須恵器	長頸壺	8.8	(12.0)	-	長石・黒色粒子	褐灰	普通	頸部から体部にかけて自然釉付着 頸部・体部内外面口口ロナデ	覆土上～下層	15%
982	土師器	甕	14.8	18.5	7.9	長石・石英・雲母	にぶい褐灰	普通	体部中央から下端にかけて横位のヘラ削り 体部下端ナデ 内面ヘラナデ ナデ	竈覆土	60% 支脚転用
983	須恵器	甕	[31.5]	(6.0)	-	長石・雲母	灰	普通	口辺部外面から内面への穿孔有り 体部横位平行叩き	覆土下～床面	5%
984	須恵器	甌	-	(16.5)	[15.3]	長石・雲母	黄灰	普通	体部斜位平行叩き 体部下端ヘラ削り 外面から内面への穿孔有り 内面ナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M181	刀子	(12.2)	0.8	0.7	(14.2)	鉄	ほぼ完形 茎部木質部付着	覆土中層	PL198
M182	鎌	(5.1)	1.8	0.5	(8.6)	鉄	刃部のみ残存	覆土上層	
M183	鑿カ	(3.2)	2.3	0.4	(11.1)	鉄	刀身部のみ残存	覆土上層	

第2269 A号住居跡 (第605図)

位置 調査区北部のA11i5区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 本住居から第2269 B・C号住居へと建て替えられ, 第308号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸3.96m, 南北軸は推定3.30mの長方形で, 主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は9 ~ 19cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は確認できない。

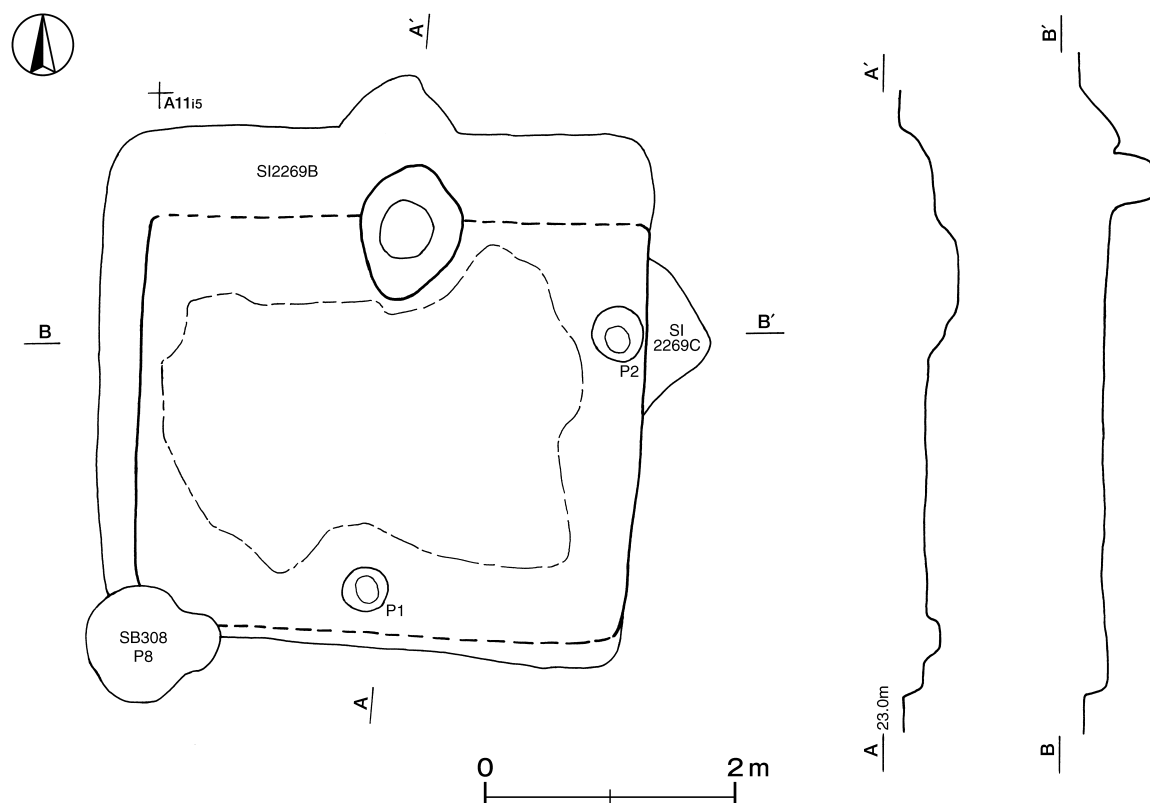
竈 北壁中央部に位置し, 第2269 B号住居の床面下から竈の掘り方が確認された。竈掘り方の覆土には焼土粒子や砂質粘土粒子が少量含まれている。

ピット 2か所。P1は深さ9cmで, 竈の掘り方と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットであると考えられる。P2の性格は不明である。最も新しい第2269 C号住居で機能していた竈の掘り方より低い位置から確認されている。

覆土 確認された覆土はすべて第2269 B・C号住居に帰属するものである。

遺物出土状況 竈掘り方の覆土中から土師器片10点(甕類)が出土しているが, すべて細片であり図化できない。

所見 本跡は北壁・西壁部分を拡張する以前の住居であり, P2がローム土で埋められている。時期は出土土器が少なく明確にし得ないが, 第2269 B号住居の年代観から見て, ほぼ同時期の9世紀前葉と考えられる。

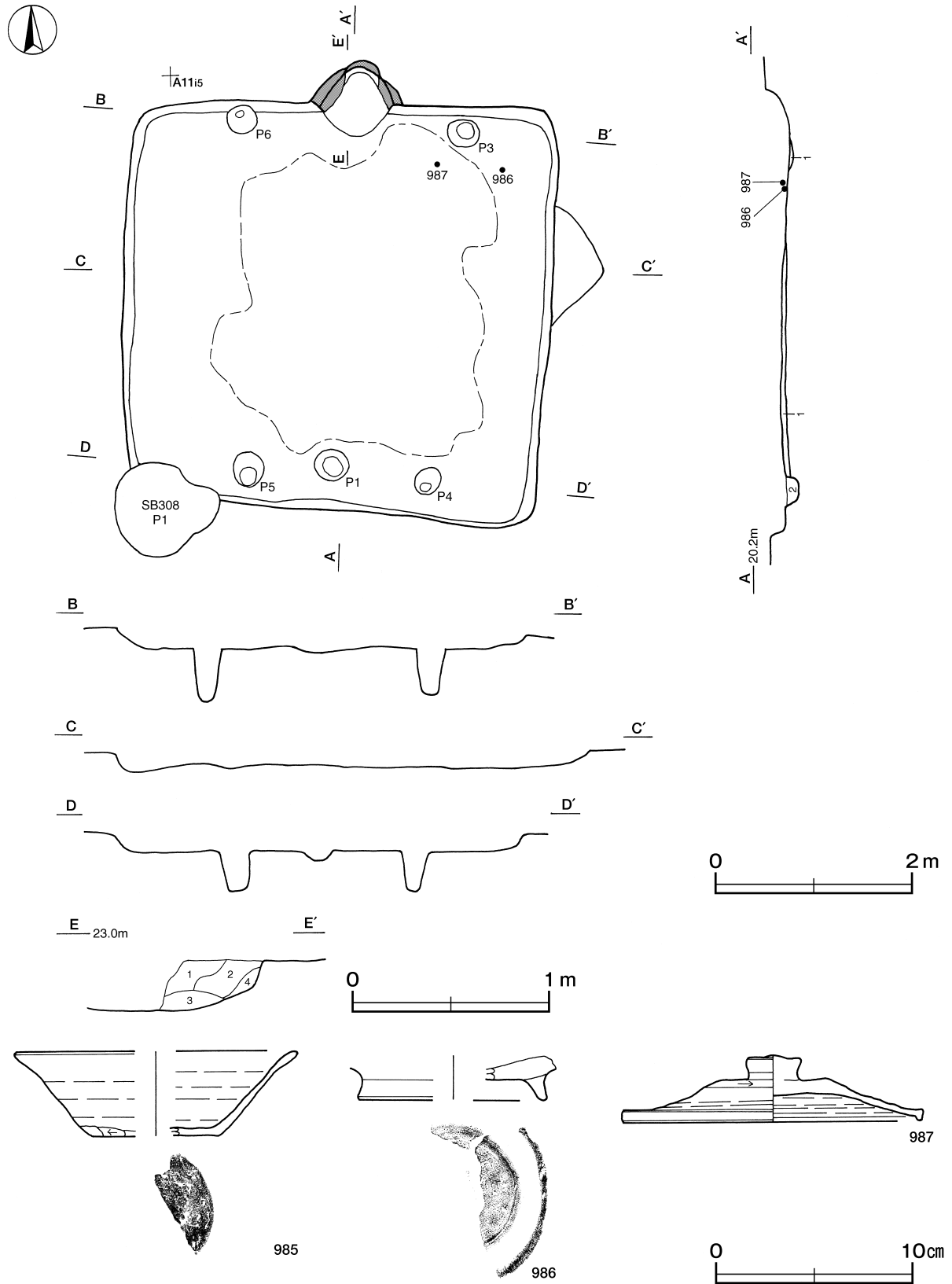


第605図 第2269 A号住居跡実測図

第2269 B号住居跡 (第606図)

位置 調査区北部のA11 i 5区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2269 A号住居が建て替えられた住居であり, 第308号掘立柱建物に掘り込まれている。



第606図 第2269 B号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸4.30m，短軸4.10mの方形で，主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は9～19cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認できない。

竈 北壁の中央部に付設されている。第2269C号住居への建て替えの際に埋め戻されているため，袖部や焚口部は遺存していない。煙道部は壁外へ半円状に31cm掘り込まれ，床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|----------------------------------|---|------|----------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，
ローム粒子微量 | 3 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 | 赤褐色 | 焼土粒子中量，炭化物・砂質粘土粒子少量 | 4 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P3～P6は支柱穴で，深さは40～53cmである。P1は出入口施設に伴うピットと考えられ，建て替え前と同じピットが使用されたと考えられる。

覆土 2層に分けられる。第1層はローム粒子を主体とした貼床の構築土に相当し，第2層はP1の覆土である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|----|---------------------|---|-----|----------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
|---|----|---------------------|---|-----|----------------|

遺物出土状況 土師器片49点（蓋2，甕類47），須恵器片37点（坏17，高台付坏2，蓋10，甕類8）のほか，混入した古墳時代の土師器片2点も出土している。985は竈の覆土内と覆土下層から出土した破片が接合し，986は北東部の床面と貼床から出土した破片が接合し，987は北東部中央寄りの床面から出土している。3点の遺物は出土状況から，第2269C号住居への拡張時に埋められ，廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2269B号住居跡出土遺物観察表（第606図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
985	須恵器	坏	[14.2]	4.3	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	竈覆土下層	25%
986	須恵器	高台付坏	-	(2.3)	[9.6]	長石・石英・雲母	オリブ黒	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面～貼床	5%
987	須恵器	蓋	15.2	3.4	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部左方向ヘラ削り後つまみ接合 つまみ径2.7cm つまみ高1.1cm	床面	60% PL167

第2269C号住居跡（第607・608図）

位置 調査区北部のA11i5区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2269B号住居が建て替えられた住居であり，第308号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m，短軸4.10mの方形で，主軸方向はN - 94° - Eである。壁高は9～19cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認できない。

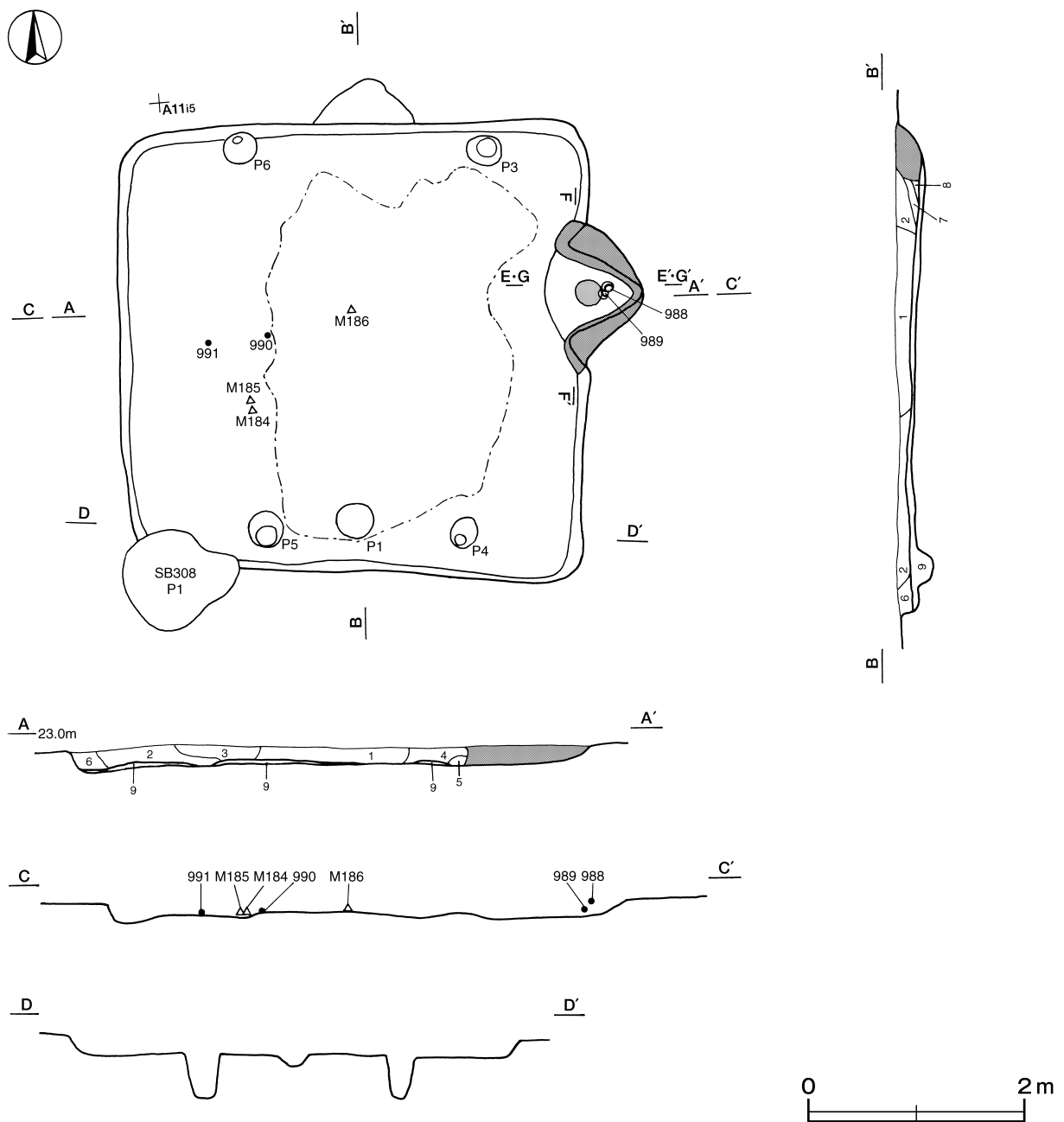
竈 東壁のやや北寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで91cm，袖部幅142cmである。袖部は床面より若干高い位置まで埋土したローム土を中心として，その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。竈内から須恵器坏が重なった状態で出土し，火を受けていることから，支脚として使用されていたと考えられる。火床部は床面を7cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ56cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

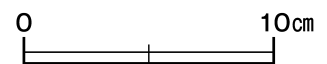
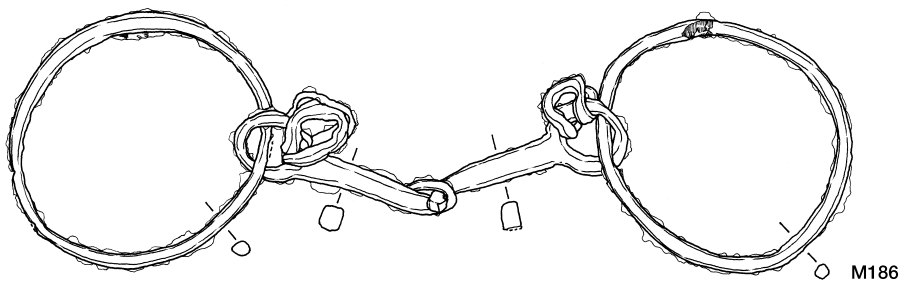
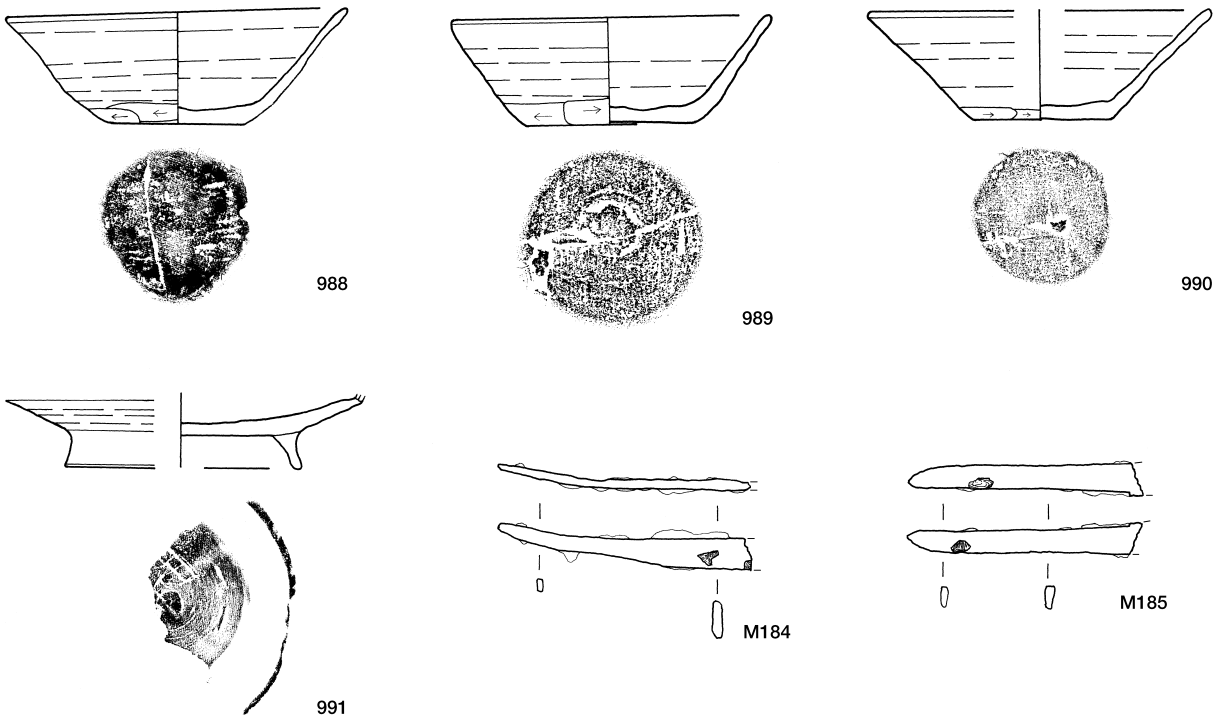
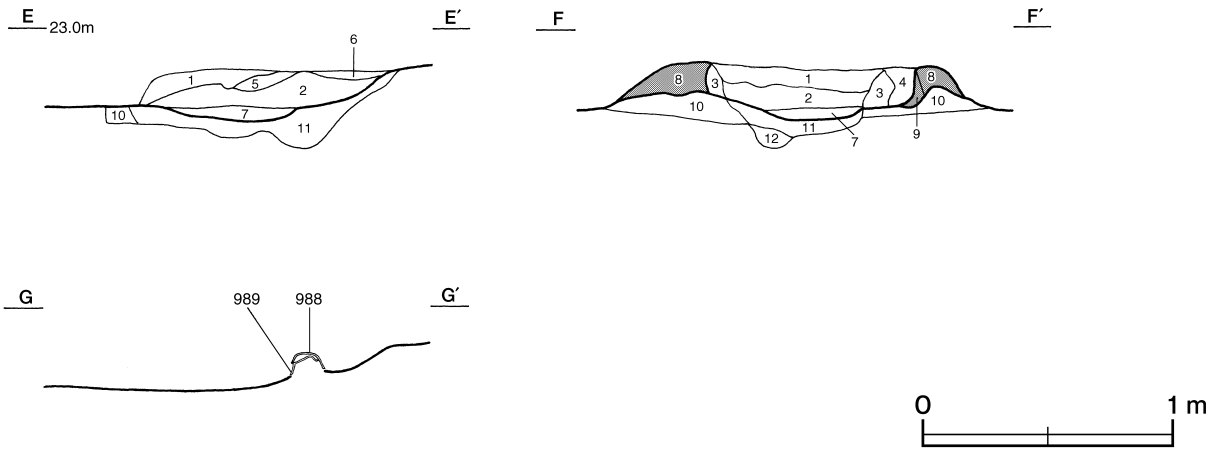
- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量,焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量,焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量,ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 11 暗褐色 | ローム粒子少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |

ピット 4か所。第2269 B号住居跡で機能していたP3～P6を、主柱穴として利用していたと考えられる。また、P1は上面に床が貼られていることから、機能していない柱穴として判断した。

覆土 9層に分けられる。レンズ状に堆積している状況を示しているが、覆土が薄いため詳細は不明である。なお、第9層はローム粒子を主体とした貼床の構築土である。



第607図 第2269 C号住居跡実測図



第608图 第2269 C号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片414点(坏9, 甕類403, 甑2), 須恵器片325点(坏198, 高台付坏4, 盤1, 蓋11, 長頸壺1, 甕類107, 甑3), 鉄器・鉄製品4点(刀子3, 馬具1), 竈構築材として使用されていた礫12点, 粘土塊10点のほか, 混入した古墳時代の土師器片44点が出土している。竈の覆土内からは989の上に988が重なった状態で出土している。988は熱を受けている痕跡があり, 989も一部分が黒色化していることから, 支脚として使用されていたと考えられる。990・991は中央部西側の床面から出土しており, 廃絶後に廃棄されたと考えられる。M184・M185は中央部南西付近の床からやや浮いて出土し, M186は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 支脚として使用していた須恵器坏から, 9世紀中葉と考えられる。また, 県内の住居跡から馬具が出土した例としては, つくば市柴崎遺跡Ⅱ区第64号住居跡, 岩瀬町加茂遺跡第35号住居跡などがある。

第2269C号住居跡出土遺物観察表(第608図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
988	須恵器	坏	13.4	4.6	5.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	煙道部	75% 支脚 転用 PL165
989	須恵器	坏	12.7	4.3	6.7	石英・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	煙道部	60% 支脚 転用 PL165
990	須恵器	坏	[13.5]	4.4	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	50%
991	土師器	高台付坏	-	(3.0)	[9.1]	石英・雲母	橙	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	20% 刻書「正」

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M184	刀子	(10.0)	(1.2)	0.4	(12.3)	鉄	刃先・茎部欠損 茎部木質部附着	覆土下層	
M185	刀子	(9.3)	(1.2)	0.3	(10.2)	鉄	茎部欠損	覆土下層	

番号	器種	装具	鏡板環径	銜の長さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M186	馬具	轡	左33.6 右31.4	左8.8 右8.2	207.5	鉄	環状鏡板付轡 鏡板に残存した皮が錆付いている 脚金欠損	床面	PL197

第2270号住居跡(第609・610図)

位置 調査区北部のA11i8区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.28m, 短軸3.02mの方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁高は21~30cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には, 幅5~12cm, 深さ11~23cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで102cm, 袖部幅は105cmである。袖部は地山を掘り込み, 砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を23cm掘りくぼめており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ50cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。第6層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

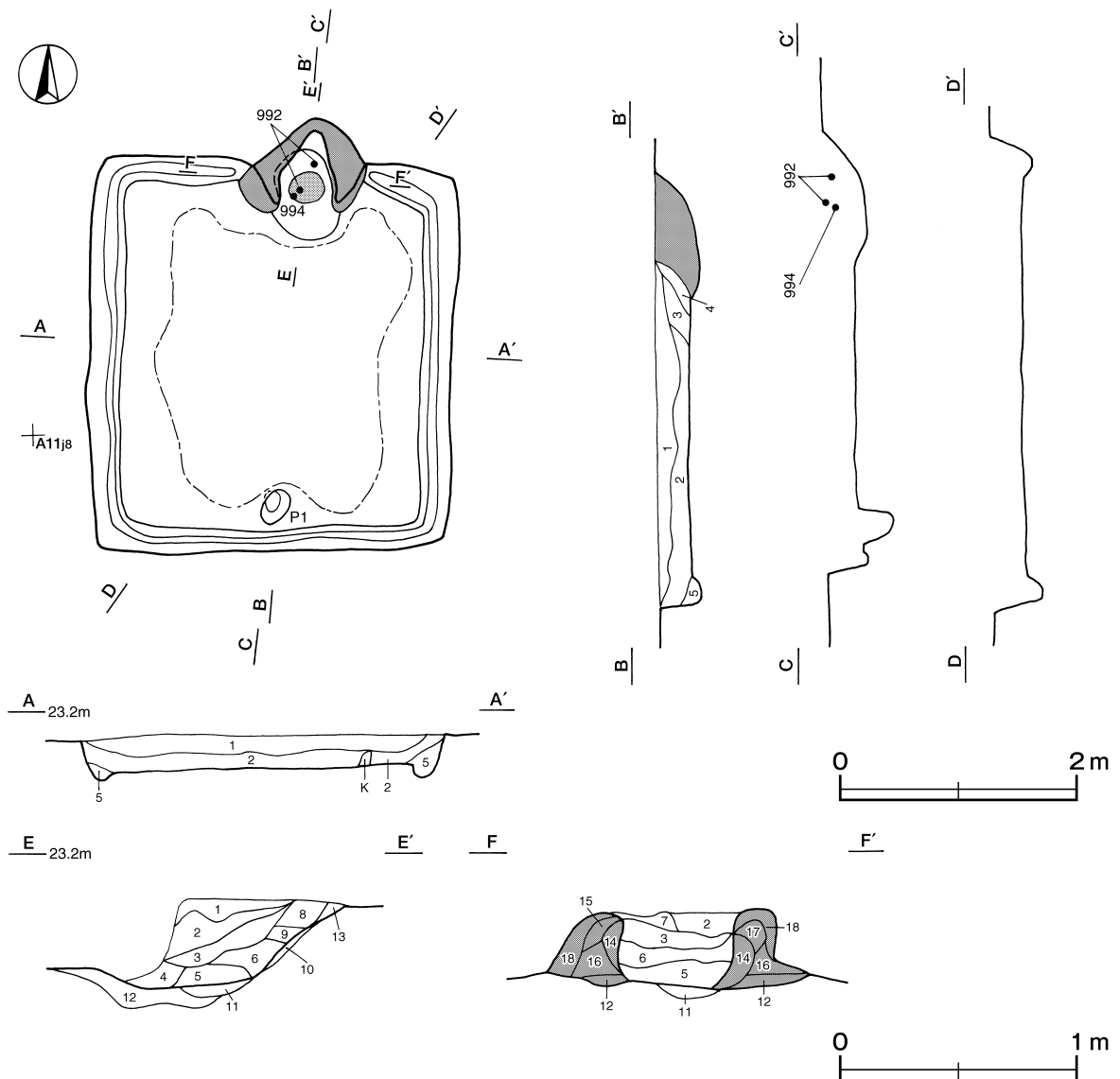
- | | | | |
|----------|---------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 明赤褐色 | 灰中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 極暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 15 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 16 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| | | 17 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| | | 18 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |

ピット 深さ30cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

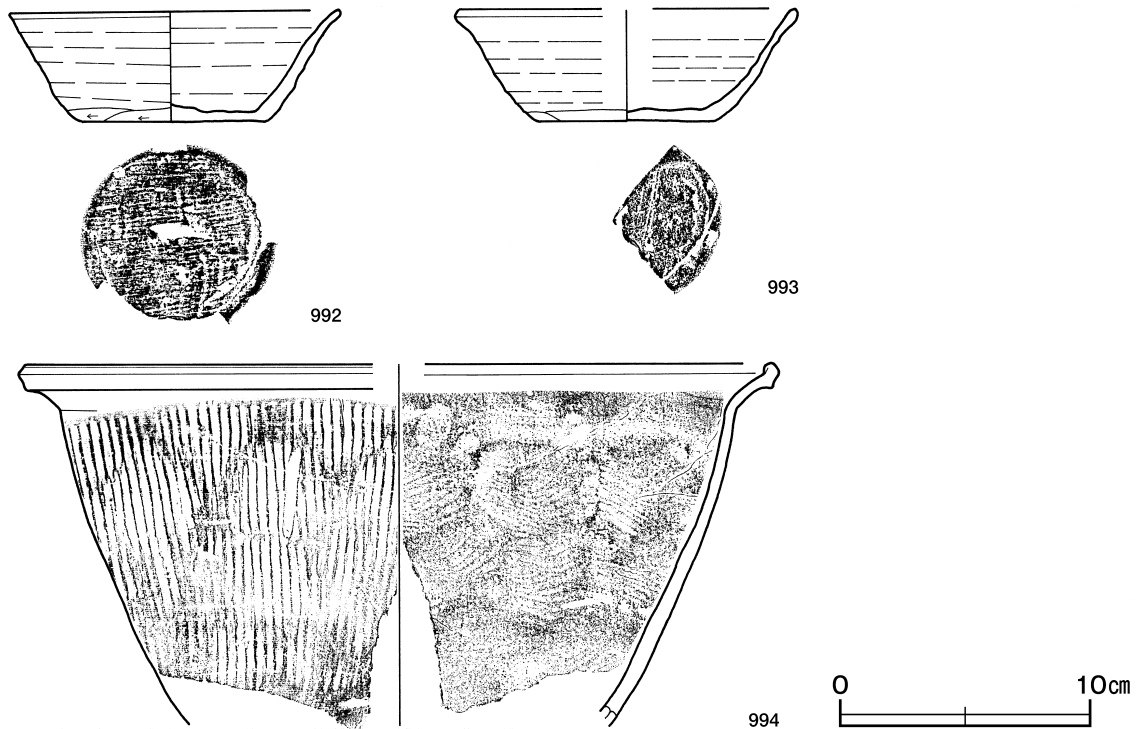
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |



第609図 第2270号住居跡実測図



第610図 第2270号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片217点（甕類215，甑2），須恵器片107点（坏62，高台付坏5，高台付皿2，蓋4，甕類33，甑1）のほか，混入した古墳時代の土師器片18点，中世以降の陶器片3点も出土している。992・994は竈の第6層上，993は北東部の覆土下層から出土しており，それぞれ廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2270号住居跡出土遺物観察表（第610図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
992	須恵器	坏	12.9	4.4	7.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	竈覆土	50%
993	須恵器	坏	13.4	4.4	[7.0]	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	25%
994	須恵器	甕	[30.0]	[14.2]	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面縦位平行叩き 内面ヘラナデ 当て具痕 指頭痕	竈覆土	10%

第2271A号住居跡（第611図）

位置 調査区北部のB11a7区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2271B号住居の建て替え前の住居であり，北壁と西壁は第2271B号住居の拡張により遺存していない。

規模と形状 北壁と西壁は拡張，南壁は攪乱を受けているため遺存していないが，長軸3.5m，短軸2.9mの長方形と推定され，主軸方向はN - 3° - Wである。遺存する壁の壁高は42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 凹凸であるが，壁際を除いて踏み固められており，厚さ1～4cmの貼床が確認されている。中央部から北部にかけた壁下には，幅8～14cm，深さ6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

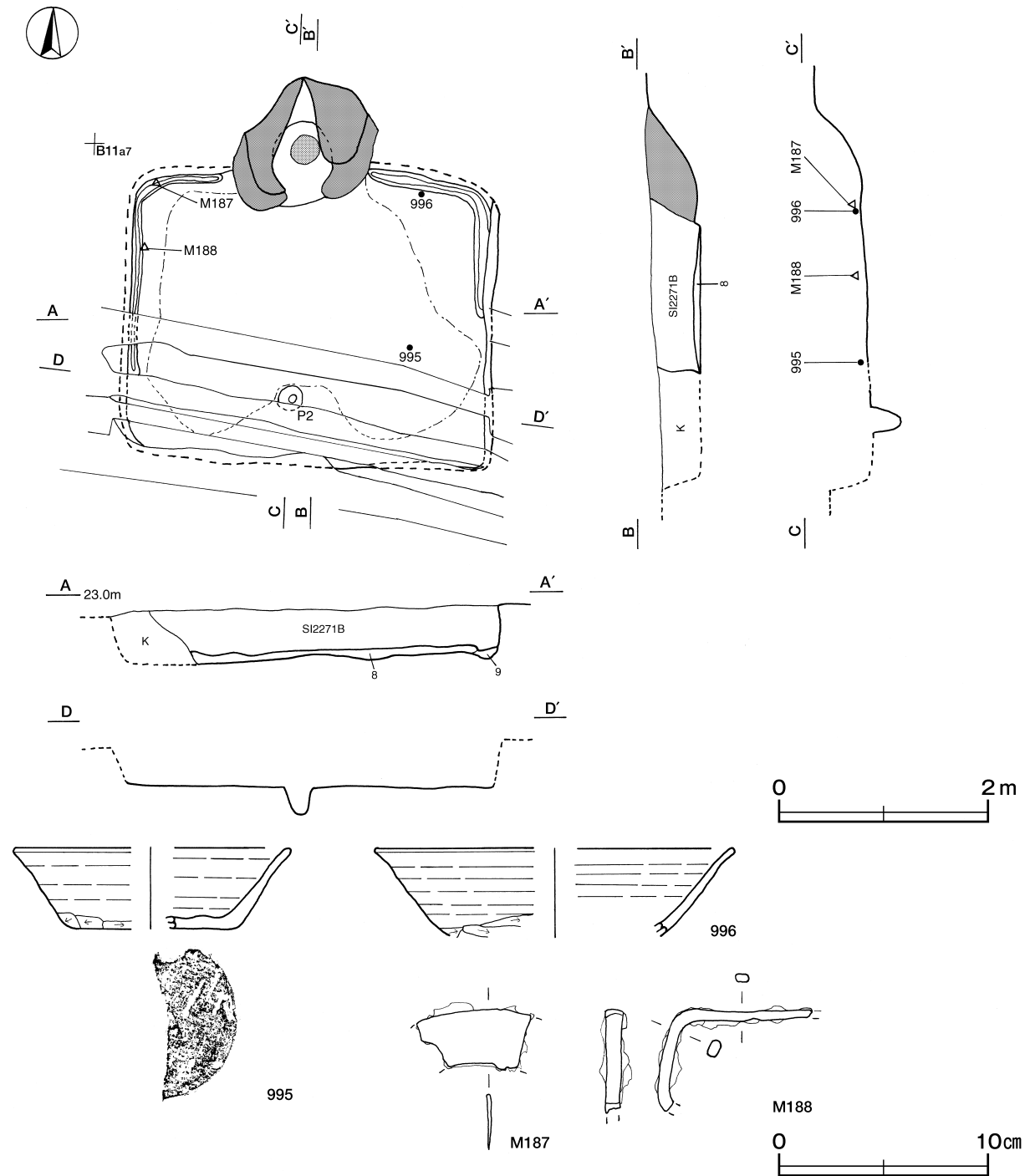
竈 北壁中央部に付設されている。確認されたものは修復されており，それ以前の竈は貼床の高さから，第14・15層が火床部，第17～20層が袖部の構築土層である。規模は，焚口部から煙道部まで123cm，袖部幅は128cm

である。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を4cm掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ49cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|---------|------------------------------|
| 14 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 15 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 19 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 17 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 20 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |

ピット P2は深さ25cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第611図 第2271 A号住居跡・出土遺物実測図

覆土 2層に分けられる。第8層はローム粒子を主体とした貼床の構築土で、第9層は壁溝の覆土である。

土層解説

8 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 9 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 第2271B号住居の第7層より下層から出土している遺物は、須恵器2点(坏), 鉄器・鉄製品2点(鎌, 釘)である。995は中央部東寄りの床面, 996は北東部の床面からそれぞれ破損した状態で出土しており, 第2271B号住居の床が貼られる際に混入したと考えられる。また, M187は北壁際の覆土下層, M188は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器が少なく明確ではないが, 第2271B号住居の年代観から見て, ほぼ同時期の9世紀中葉と考えられる。

第2271A号住居跡出土遺物観察表(第611図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
995	須恵器	坏	[12.7]	3.9	[8.0]	長石・石英・礫	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	35%
996	須恵器	坏	[16.8]	(4.2)	-	長石・石英・礫	褐灰	普通	体部内外面口ロナデ 体部下端手持ちヘラ削り	床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M187	鎌	(5.5)	2.5	0.2	(13.1)	鉄	刃部のみ残存 外面焼土付着 熱を受けている	覆土下層	
M188	釘	(7.3)	(0.7)	0.8	(21.2)	鉄	頭部・下端部欠損 断面長方形 下端部やや曲がっている	床面	金具の可能性あり

第2271B号住居跡(第612・613図)

位置 調査区北部のB11a7区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2271A号住居が建て替えられた住居である。

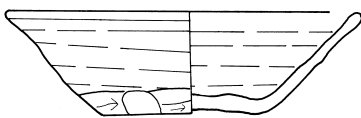
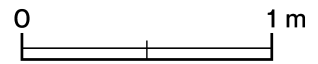
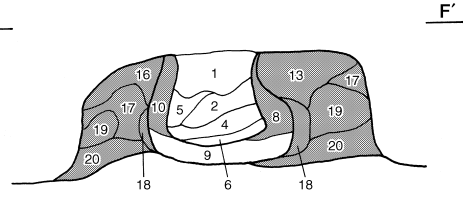
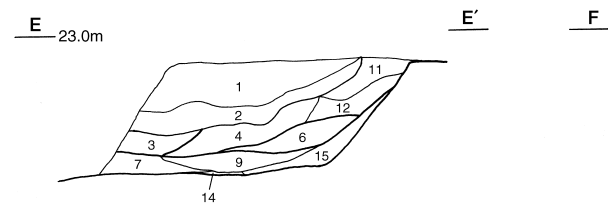
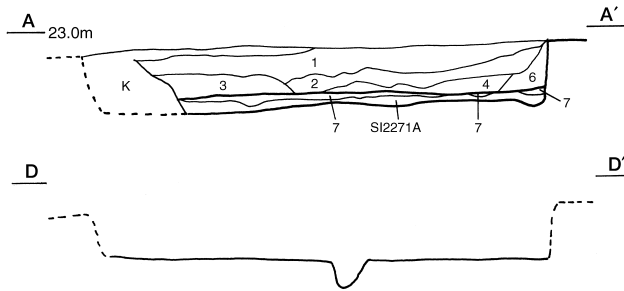
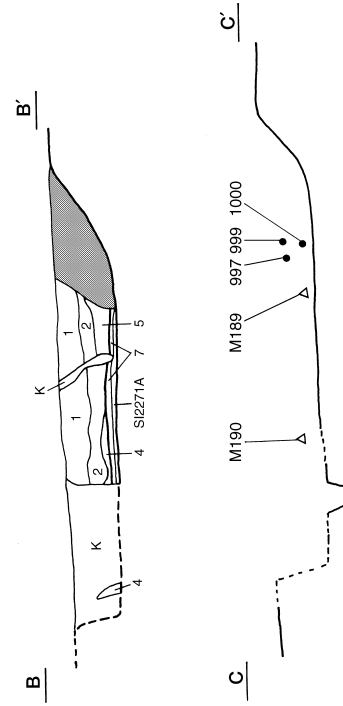
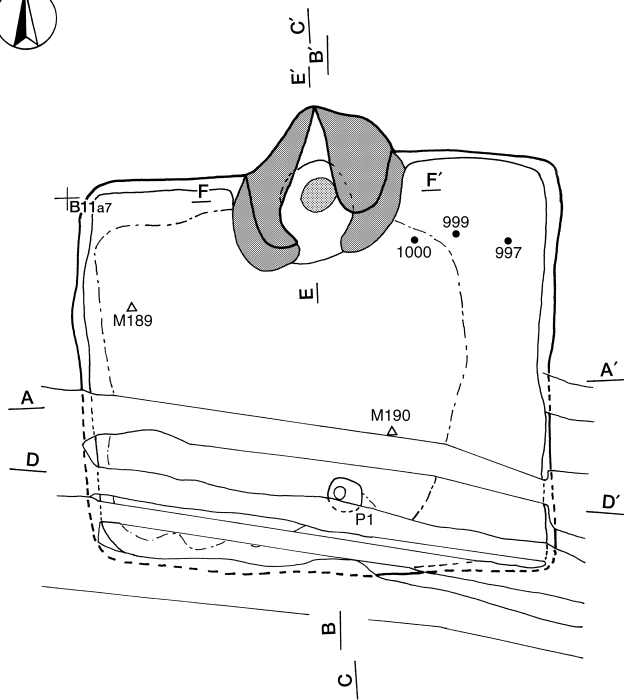
規模と形状 長軸3.75m, 短軸3.24mの長方形で, 主軸方向はN-3°-Wである。壁高は34~45cmで, 外傾して立ち上がっている。第2271A号住居跡の東壁と南壁はそのまま利用し, 北壁と西壁を拡張している。中央部から南部にかけて耕作による攪乱を受けているため壁や床の遺存状態は悪い。

床 ほぼ平坦で, 中央部から西側にかけて踏み固められている。また, 第2271A号住居跡のP2と壁溝は, 厚さ1~4cmの床が貼られた際に埋められている。

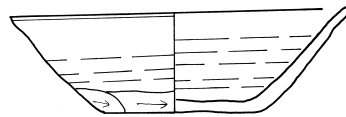
竈 北壁中央部に付設されている。第2271A号住居跡が機能していた時期の竈を利用しているため, 規模は拡張以前の竈と同一であり, 改修された部分は袖部と火床部である。袖部は天井部付近に第13層, 内壁に8・10層が充填されている。火床部は, 貼床の高さまで埋め戻した第7層を9cm掘りくぼめた第9層上に形成されており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。第2層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

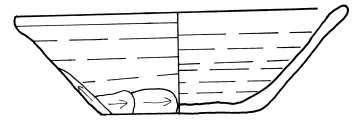
1 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 暗 赤 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
2 暗 赤 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化物微量	10 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	11 黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
4 暗 赤 褐 色	焼土粒子・灰中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12 暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量
5 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
6 にぶい赤褐色	灰中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量		
7 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量		
8 暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量		



997



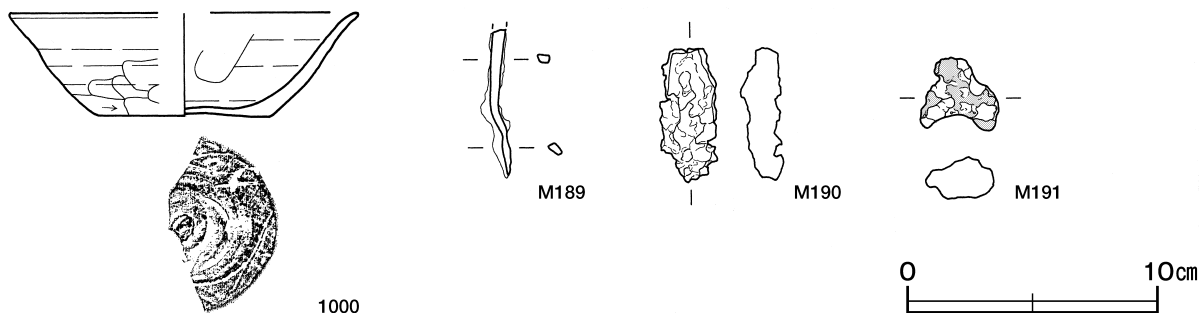
998



999



第612图 第2271 B号住居跡・出土遺物実測図



第613図 第2271 B号住居跡出土遺物実測図

ピット P1は深さ18cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第7層はロームブロックを主体とした貼り床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片442点（坏11，高台付椀1，甕類429，甌1），須恵器片276点（坏146，高台付坏5，蓋3，瓶類15，甕類107），鉄器・鉄製品3点（鎌1，釘2），鉄滓2点のほか、混入した古墳時代の土師器片24点，中世以降の磁器片1点も出土している。1000は竈右袖部の東側床面から出土し、廃絶に伴い廃棄されたと考えられる。北東部より997・999が覆土中層，998が覆土下層からそれぞれ出土し、廃絶後に廃棄されたと考えられる。また，M189は西壁際の覆土下層，M190は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2271 B号住居跡出土遺物観察表（第612・613図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
997	須恵器	坏	13.8	4.3	6.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	90% PL165
998	須恵器	坏	13.6	4.1	6.3	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	90% PL166
999	須恵器	坏	13.0	4.1	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	60%
1000	須恵器	坏	[13.5]	4.1	[6.8]	長石・石英・燐	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 内面ナデ	床面	40%

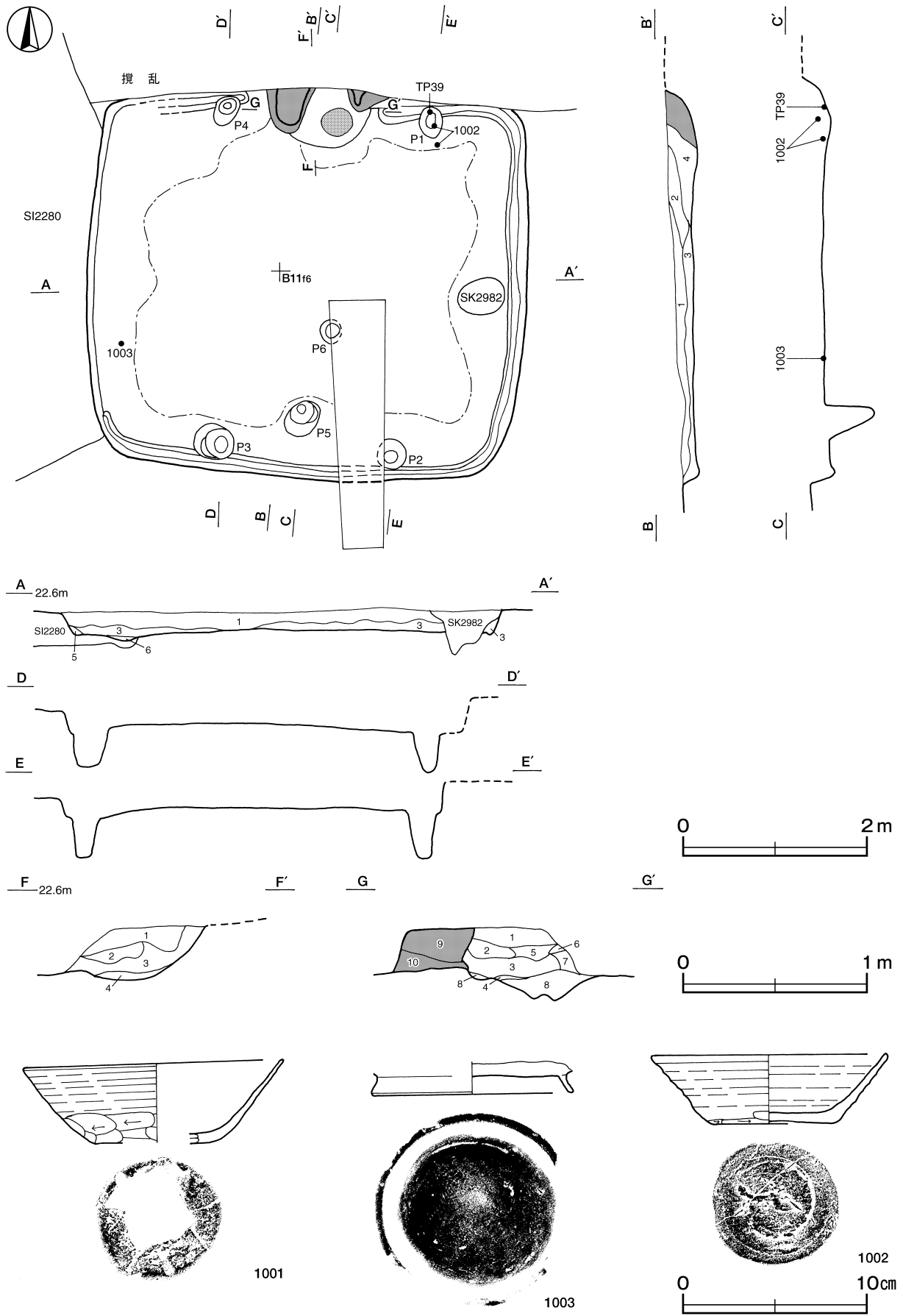
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M189	釘	(5.9)	0.6	0.3	(3.3)	鉄	頭部欠損 断面長方形 下端部ねじ曲がっている	覆土下層	
M190	鉄滓	5.3	2.3	1.6	20.3	鉄	外面焼土付着	覆土下層	
M191	鉄滓	2.9	3.1	1.7	12.8	鉄	椀状滓 外面焼土付着	覆土下層	

第2281号住居跡（第614・615図）

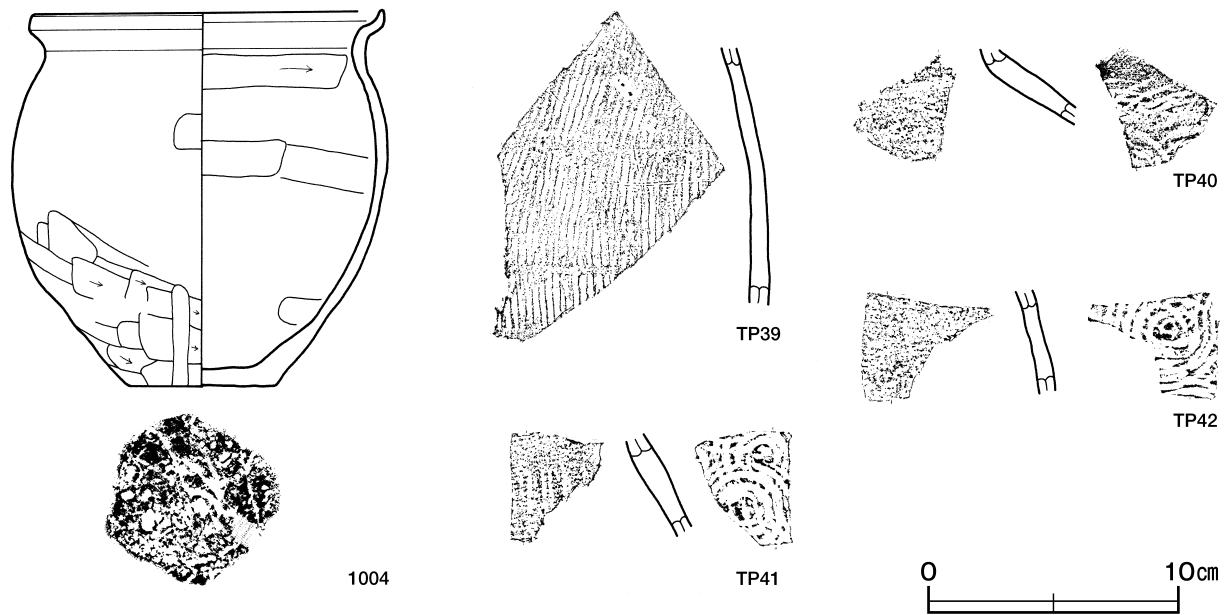
位置 調査区中央部のB11f6区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2280号住居跡を掘り込み，第2982号土坑に掘り込まれている。また，北壁と竈煙道部が，東西の耕作による攪乱によって壊されている。

規模と形状 長軸4.72m，短軸4.22mの長方形で，主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は20～37cmで，外傾して立ち上がっている。



第614图 第2281号住居跡・出土遺物実測図



第615図 第2281号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、西部の一部から厚さ4cmの貼床が確認されている。西部を除いた壁下には、幅10~17cm、深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、煙道部が攪乱によって壊されている。袖部は、幅130cmで、床面より若干高く掘り残した地山を基部とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 にぶい褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック微量
2 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化物少量、ローム粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10 灰褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量

ピット 6か所。P1~P4は支柱穴で、深さは42~52cmである。P5は深さ52cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第6層はローム粒子を主体とした貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片589点（坏29，蓋1，甕類559），須恵器片246点（坏83，高台付坏4，蓋2，瓶類2，甕類155），灰釉陶器片1点（壺類），石器2点（砥石）のほか、混入した古墳時代の土師器片53点、中世以降の陶器片6点、磁器片1点も出土している。1001・1004は竈覆土から破損した状態で出土しており、廃絶時に廃棄されたと考えられる。1002は床面とP1覆土から出土した破片が接合し、TP39はP1覆土から出土しており、廃絶後に廃棄されたものと考えられる。1003は西壁中央部付近の床面から出土し、底部と内底が研磨されて墨痕が若干残されていることから、硯として転用されていたと考えられる。また、TP40~TP42は、北東部の覆土上層から下層にかけて破片の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2281号住居跡出土遺物観察表（第614・615図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1001	須恵器	坏	13.9	4.5	6.4	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部下端へら削り 底部端に沿ってナデ 火を受けている	竈覆土	85% 支脚 転用 PL166
1002	須恵器	坏	12.7	3.8	6.7	長石・雲母	灰白	普通	体部下端へら削り 底部回転へら切り後一方のへら削り 体部内面一部へら削り	床面 P1覆土	85% PL166
1003	須恵器	高台付坏	-	1.7	10.8	長石・石英・雲母	灰	良好	回転へら切り後高台貼り付け 底部はよく研磨され内底の一部も研磨されている 底部・内底墨付着	床面	10% 転用硯
1004	土師器	小形甕	13.9	14.9	6.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面へらナデ 下端横方向のへら削り後一部ナデ 外面火を受けており粘土付着	竈覆土	85% 支脚転用
TP39	須恵器	甕	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位平行叩き 内面ナデ	P1覆土	へら記号「x」
TP40	須恵器	甕	-	(3.1)	-	長石・黒色粒子・小礫	暗灰黄	普通	体部外面力キ目調整 自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土上層	
TP41	須恵器	甕	-	(4.5)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面力キ目調整 格子状叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	
TP42	須恵器	甕	-	(4.1)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土下層・壁溝覆土	

第2282号住居跡（第616図）

位置 調査区北部のA11b5区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2283号住居に掘り込まれている。また、東西の耕作による攪乱によって、南壁や竈中央部などが壊されている。

規模と形状 西壁中央部から南壁が遺存していないため、南北軸は推定で3.61m、東西軸3.30mの方形で、主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は34~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。西壁中央部から南壁を除く壁下には、幅10~20cm、深さ2~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設され、攪乱によって両袖部の一部と火床部の大部分が壊されている。規模は、焚口部から煙道部まで98cm、遺存している袖部幅は100cmである。袖部は床面より、14~18cm高く掘り残した地山を基部とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。煙道部は壁外へ35cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック微量 |
| | 7 暗褐色 ロームブロック微量 |

ピット 深さ32cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

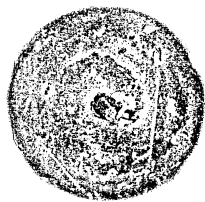
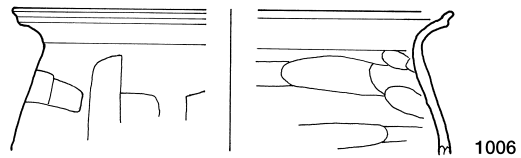
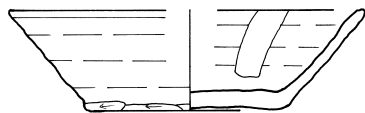
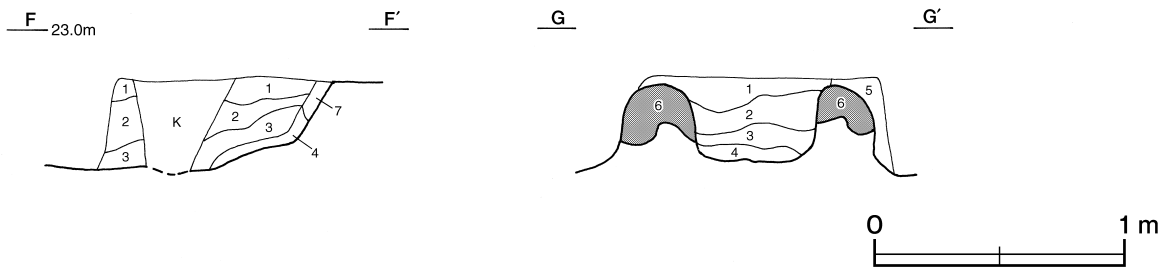
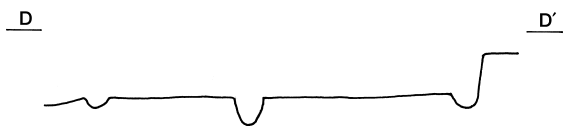
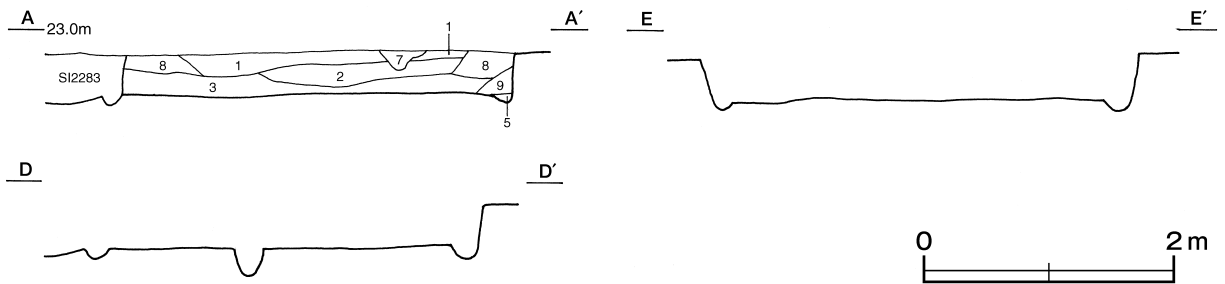
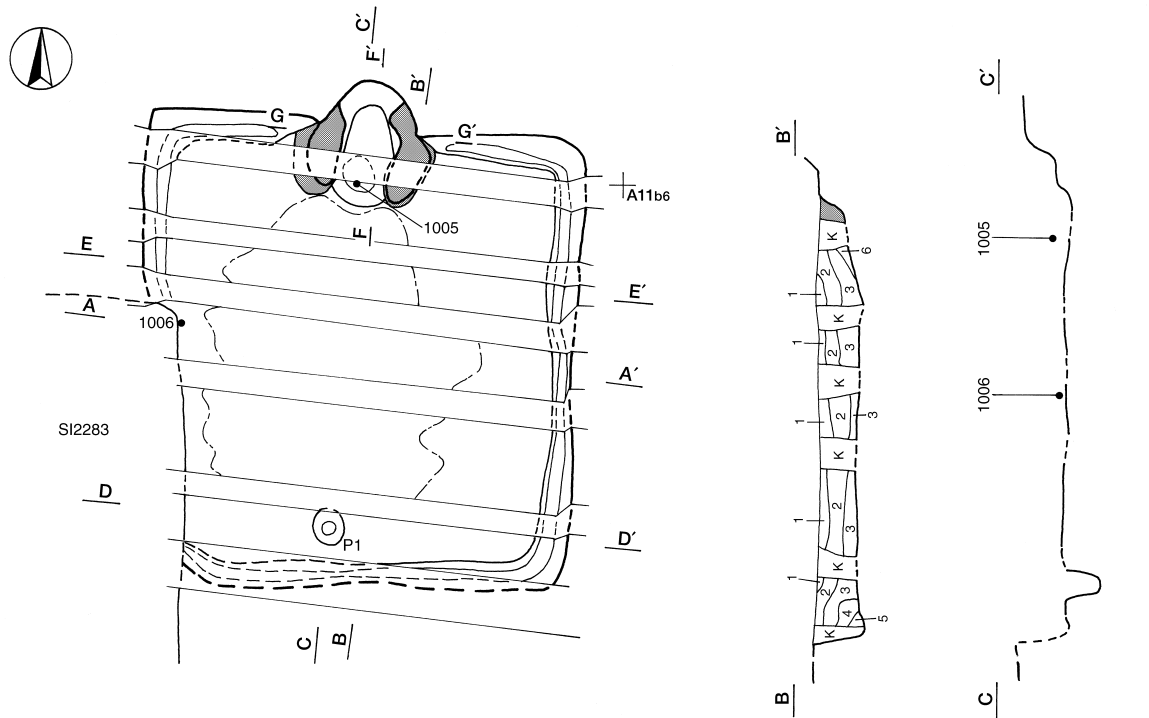
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 9 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片50点（甕類）、須恵器片67点（坏28、蓋2、瓶類2、甕類35）のほか、混入した古墳時代の土師器片7点も出土している。1005は竈覆土の第3層から逆位の状態で出土している。熱を受けていないため、廃絶時に廃棄されたと考えられる。1006は西壁際の床面から出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



1005



第616图 第2282号住居跡・出土遺物実測図

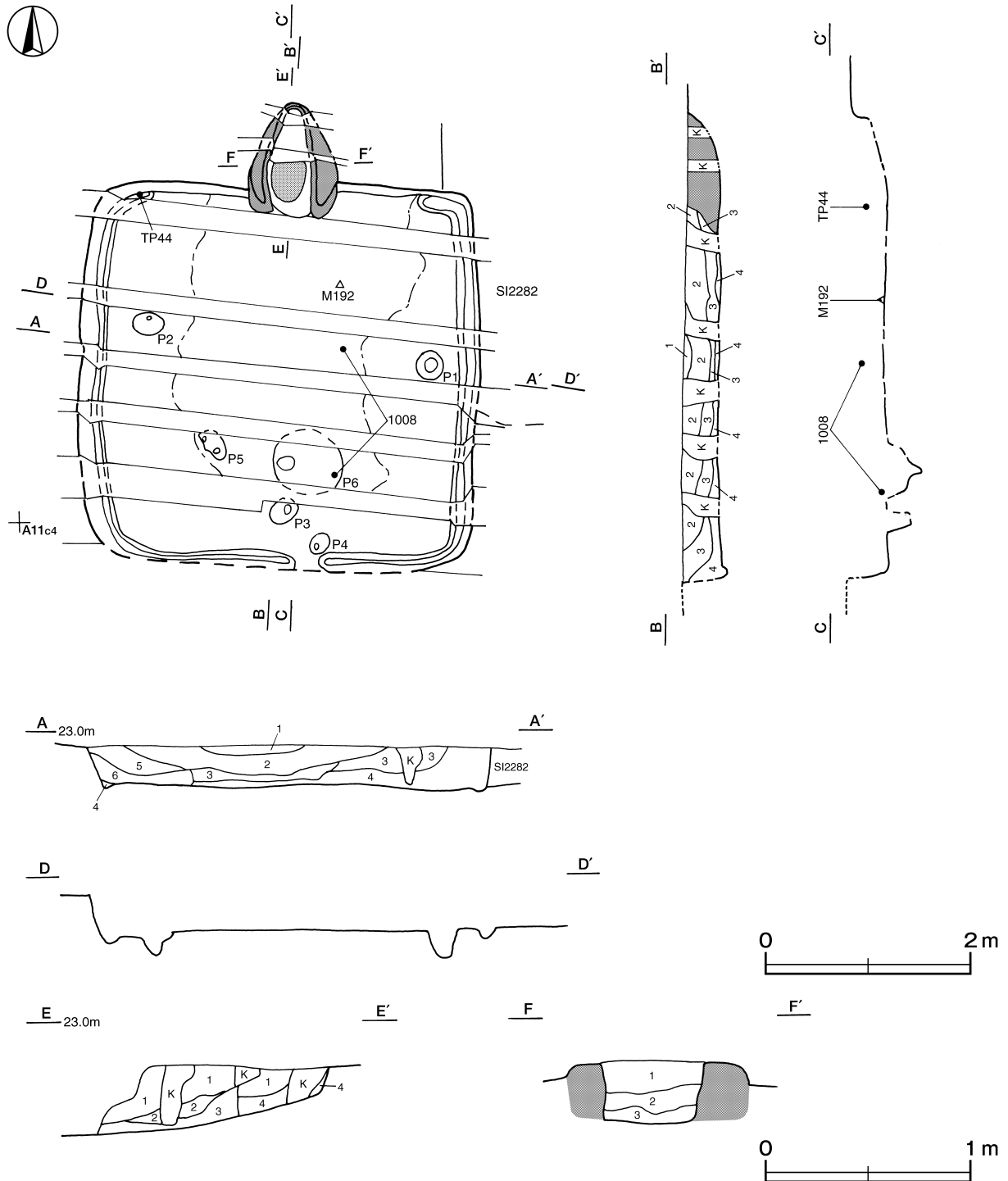
第2282号住居跡出土遺物観察表（第616図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1005	須恵器	坏	[13.8]	4.0	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端へら削り 内面口クロナデ後一部縦方向のナデ 底部回転へら切り後二方向のへら削り 底部指頭痕	竈覆土下層	50%
1006	土師器	甕	[17.4]	(5.7)	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面へらナデ	床面	10%

第2283号住居跡（第617・618図）

位置 調査区北部のA11b4区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2282号住居跡を掘り込んでいる。また，東西の耕作による攪乱を受けている。



第617図 第2283号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.82m，短軸3.72mの方形で，主軸方向はN - 3 ° - Eである。壁高は29～42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。攪乱を受けた部分を除いた壁下には，幅10～12cm，深さ3～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており，煙道部や中央部などが攪乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，袖部幅は86cmである。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ78cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第2層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |

ピット 6か所。P1とP2は主柱穴と考えられ，深さはそれぞれ29cm，23cmである。P3は深さ26cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P4～P6の性格は不明である。

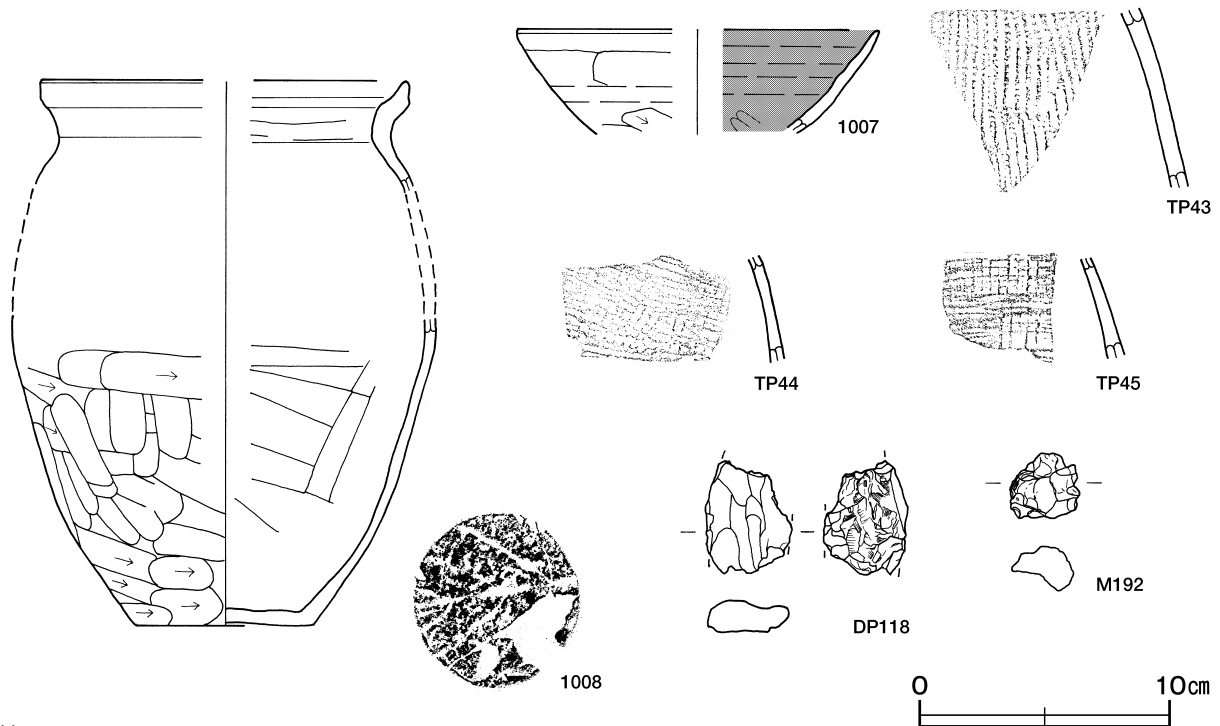
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片263点(坏8，甕類255)，須恵器片109点(坏27，高台付坏3，蓋1，壺類1，甕類77)，土製品1点(不明)，鉄製品1点(不明)，鉄滓1点のほか，混入した古墳時代の土師器片35点，中世以降の陶器片3点，磁器片3点も出土している。1007は南東部の覆土上層，1008は中央部や南東部の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したもので，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また，TP43は南西部の覆土下層，TP45は南西部の覆土中層，TP44は北西コーナー部の覆土中層，M192は中央部の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第618図 第2283号住居跡出土遺物実測図

第2283号住居跡出土遺物観察表（第618図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1007	土師器	坏	[14.4]	(4.1)	-	雲母	にぶい黄褐	普通	体部内外面口ロナデ 体部下端ヘラ削り 内面磨き	覆土上層	10%
1008	土師器	甗	[14.1]	[21.7]	7.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部中央部から下端にかけてヘラ削り 内面ナデ	覆土上～下層	25%
TP43	須恵器	甗	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面擬格子状叩き 内面ナデ	覆土下層	
TP44	須恵器	甗	-	(4.0)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面格子状叩き後ナデ 内面横ナデ	覆土中層	TP45と同一個体
TP45	須恵器	甗	-	(4.0)	-	長石・雲母	灰黄褐	普通	体部外面格子状叩き後ナデ 内面横ナデ	覆土中層	TP44と同一個体

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP118	不明	(4.5)	(3.5)	1.2	(16.4)	土（長石）	表面ヘラナデ 裏面火を受けており炭化物付着 多方向のヘラナデ 硬質	竈覆土内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M192	鉄滓	2.8	2.6	1.8	14.1	鉄	湾状滓 外面焼土付着	床面	

第2287号住居跡（第619図）

位置 調査区北部のA11c6区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 東西の耕作による攪乱によって，北壁が全壊し，竈中央部と北部以外の壁が一部壊されている。

規模と形状 推定長軸3.35m，短軸3.30mの方形で，主軸方向はN - 7° - Wである。壁高は8～15cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，厚さ10～16cmの貼り床が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されており，火床部と袖部が攪乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部まで84cm，袖部幅は93cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体に構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。また，第11層は貼床の構築土である層である。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 灰褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 灰褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量	10 暗褐色	焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化物微量	13 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
7 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	14 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
		15 灰黄褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 深さ58cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。また，第9～12層は貼り床の構築土である。

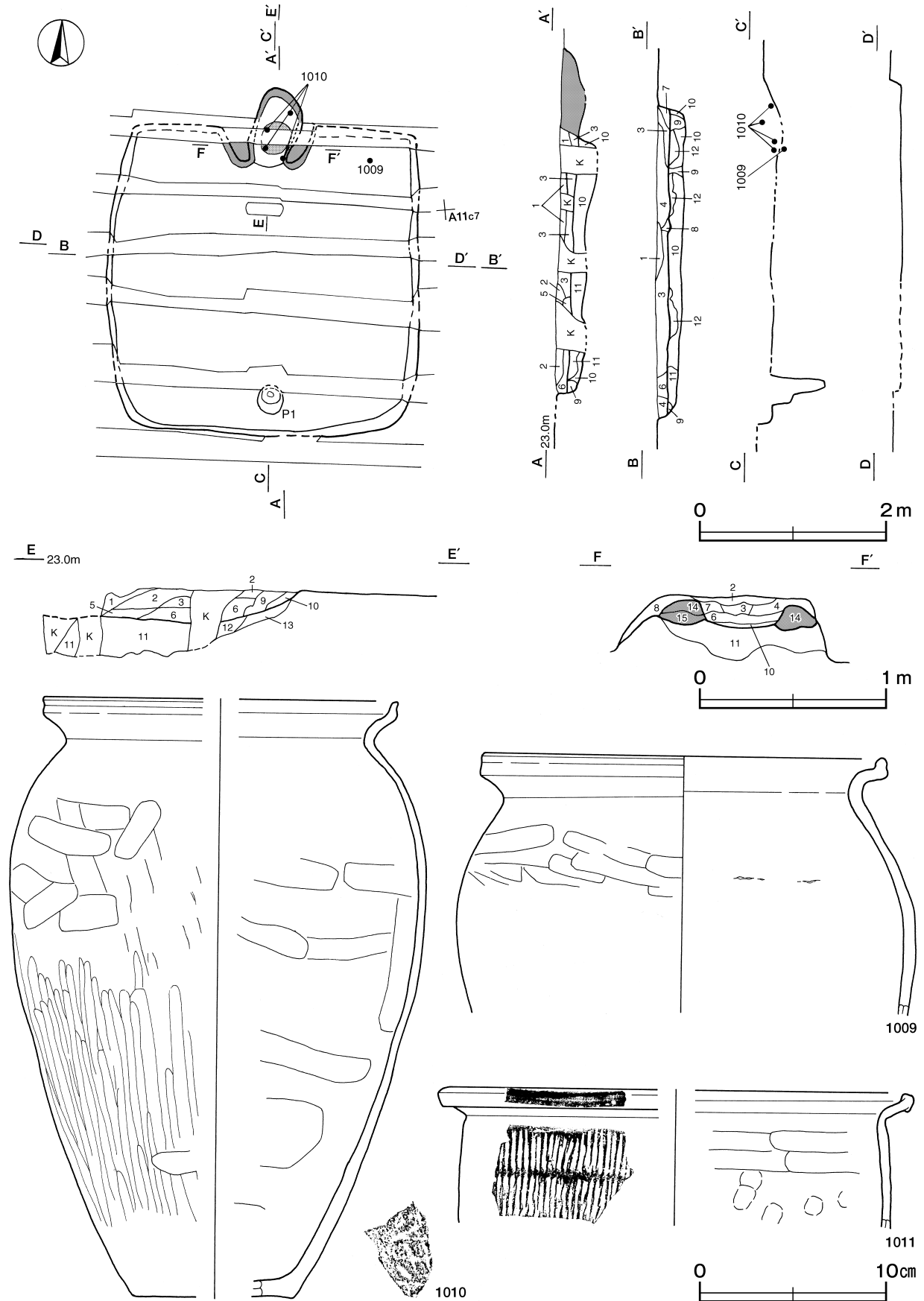
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量
5 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	12 褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片137点（坏1，甗類136），須恵器片40点（坏19，瓶類4，甗類17）のほか，混入した古墳時代の土師器片3点，磁器片1点も出土している。1009は北東部の床面から逆位の状態で出土しており，体部中央から底部にかけては攪乱によって壊されているが，出土状況から遺棄されたと考えられる。1010は竈内で破損していた破片が接合した遺物で，廃絶時に遺棄されたと考えられる。また，1011は南東部の覆土下層

から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第619図 第2287号住居跡・出土遺物実測図

第2287号住居跡出土遺物観察表（第619図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1009	土師器	甕	21.4	(13.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラナデ	床面	20%
1010	土師器	甕	[19.0]	31.9	[8.5]	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内外面ナデ ヘラ磨き後一部ナデ	竈覆土内	30%
1011	須恵器	甕	[24.5]	(7.2)	-	長石・雲母	にぶい黄灰	普通	体部外面縦位平行叩き後横ナデ 内面ナデ 指頭痕	覆土下層	5%

第2288号住居跡（第620図）

位置 調査区北西部のA11c8区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 大部分が調査区域外のため，確認できた範囲は南部のみである。

規模と形状 確認されている部分での東西軸は6.80m，南北軸は2.00mであり，主軸方向はN - 18° - Eである。壁高は17～22cmで，外傾して立ち上がっている。

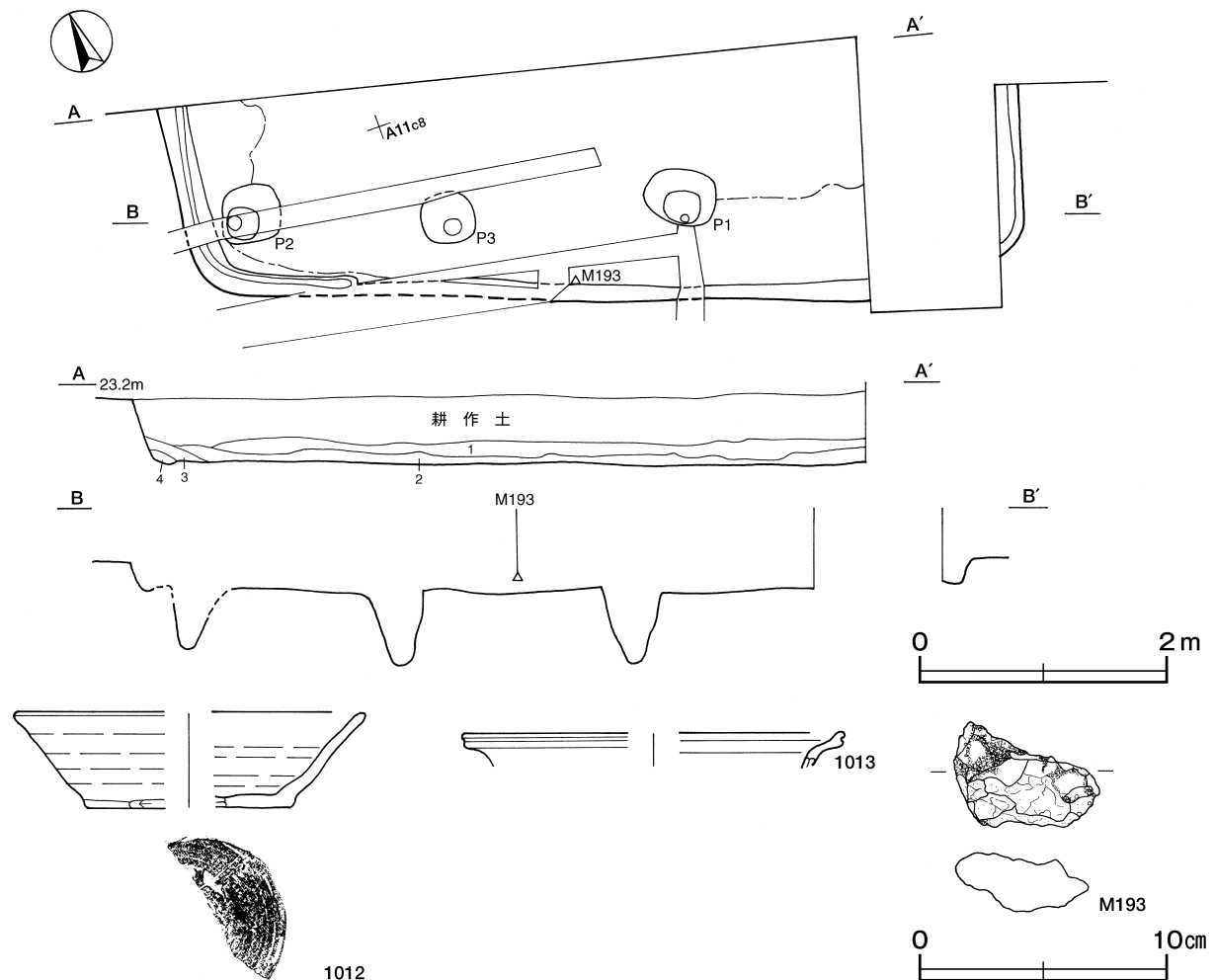
床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で，深さはそれぞれ55cmと49cmである。P3は深さ56cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物中量，ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量



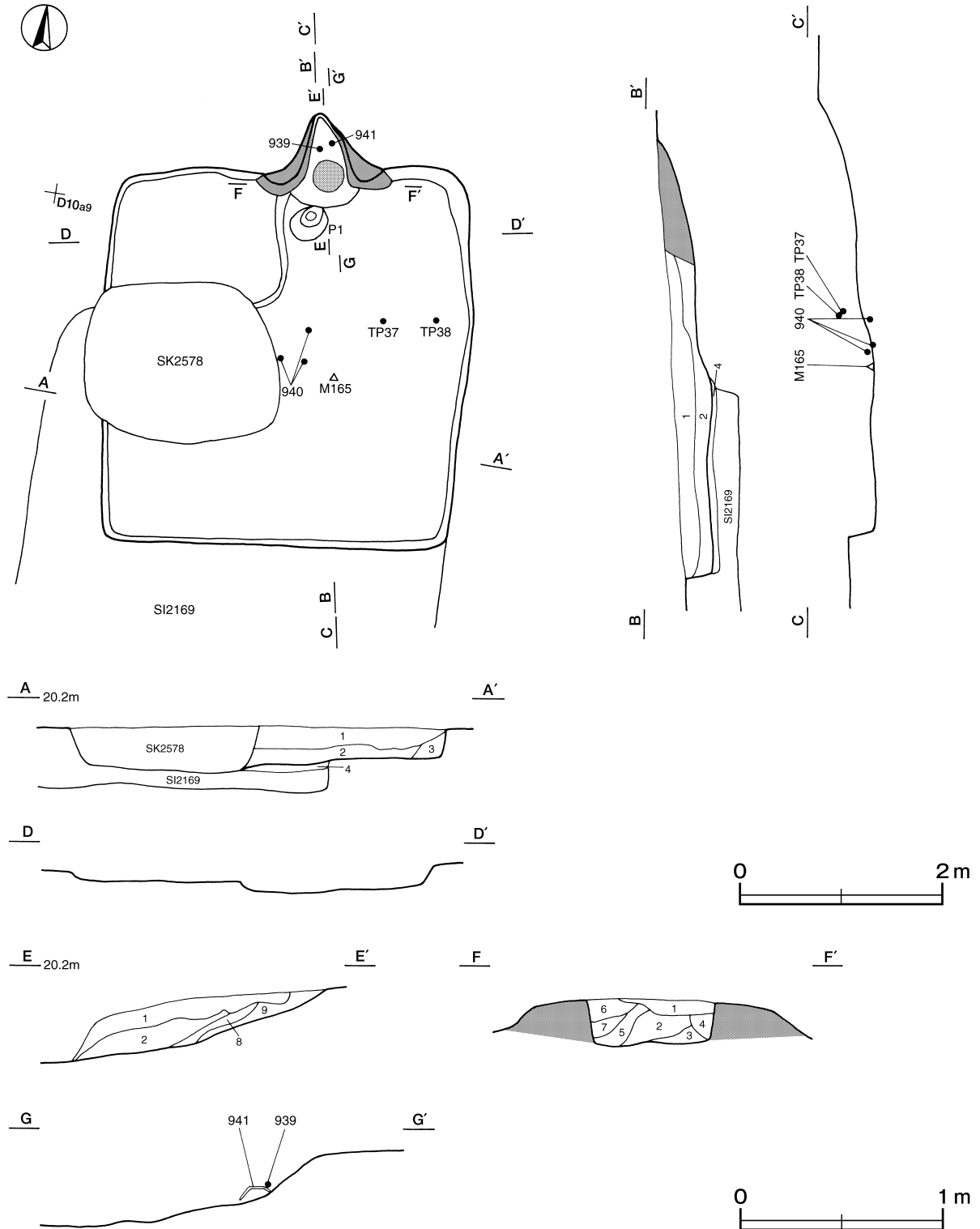
第620図 第2288号住居跡・出土遺物実測図

第2169号住居跡出土遺物観察表（第582図）

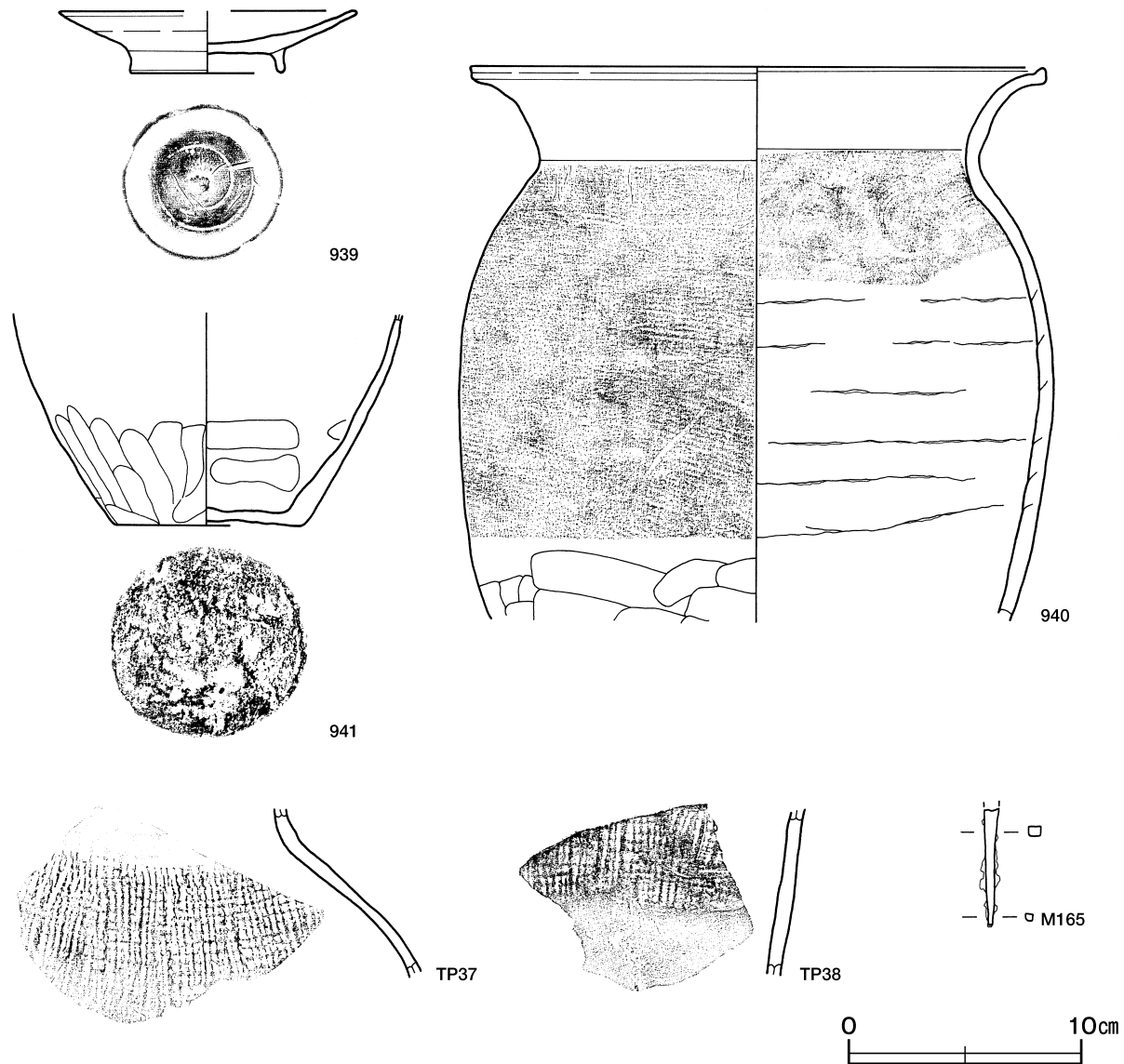
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
938	須恵器	鉢	[28.0]	(7.4)	-	石英・雲母	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面当て具痕	床面	5%

第2182号住居跡（第583・584図）

位置 調査区南西部のD10a9区、標高20mほどの南への緩斜面に位置している。



第583図 第2182号住居跡実測図



第584図 第2182号住居跡出土遺物実測図

重複関係 第2169号住居跡を掘り込み，第2578号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.65m，短軸3.60mの方形で，主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は5～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，厚さ4～6cmの貼り床が確認されている。北西部は8cm高まっている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで91cm，袖部幅135cmである。竈煙道部に土師器甕を転用した支脚があり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ56cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾した後，急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化材微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量，砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック微量 | | |
| 6 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット P1は，竈の焚口前に位置し，深さは20cmであるが，性格は不明である。

覆土 4層に分けられる。第2層に炭化物と焼土粒子が中量含まれていることから、人為堆積である。また、第4層はロームブロックを主体とした貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・焼土粒子中量, ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片214点(坏2, 甕類211, 甑1), 須恵器片69点(坏21, 蓋5, 甕類43)のほか, 混入した古墳時代の土師器片35点も出土している。竈の煙道部から支脚として転用された941が出土しており, 隣接して939も出土している。940は中央部の覆土下層から床面にかけて破損した状態で出土していることから, 廃絶後に廃棄されたと考えられる。M165は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2182号住居跡出土遺物観察表(第584図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
939	土師器	高台付皿	[12.5]	2.7	6.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	竈覆土内	70%
940	土師器	甕	24.7	(23.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面横位の平行叩き 体部内面ナデ・同心円状の当て具痕・輪積痕有り	床面	40%
941	土師器	甕	-	(9.1)	8.0	石英・雲母	橙	普通	体部下端ヘラ削り・ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ 底部ナデ	竈煙道部	10% 支脚
TP37	須恵器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面擬格子状平行叩き	覆土中層	
TP38	須恵器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	体部外面擬格子状平行叩き 体部下端ヘラ削り	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M165	鏝	(5.0)	0.7	0.4	(3.3)	鉄	断面方形 熱を受けている	床面	

第2183号住居跡(第585・586図)

位置 調査区南西部のE10a1区, 標高19.5mほどの南東への緩斜面に位置している。

規模と形状 一辺3.79mの方形で, 主軸方向はN-24°-Wである。また, 中央部から南部にかけての壁は, 削平によって壊されているため, 確認することはできなかった。壁高は42~64cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には, 幅10~18cm, 深さ3~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで135cm, 袖部幅は119cmで, 火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ69cm掘り込まれ, 火床部から直立している。第7層は天井部の崩落土層, 第9~11層は袖部の構築土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 灰褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤灰色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 5 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 | 12 極暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 13 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 7 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土ブロック中量 | 14 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |

ピット 6か所。P1~P4は主柱穴で, 深さは11~51cmである。P5は深さ20cmで, 竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

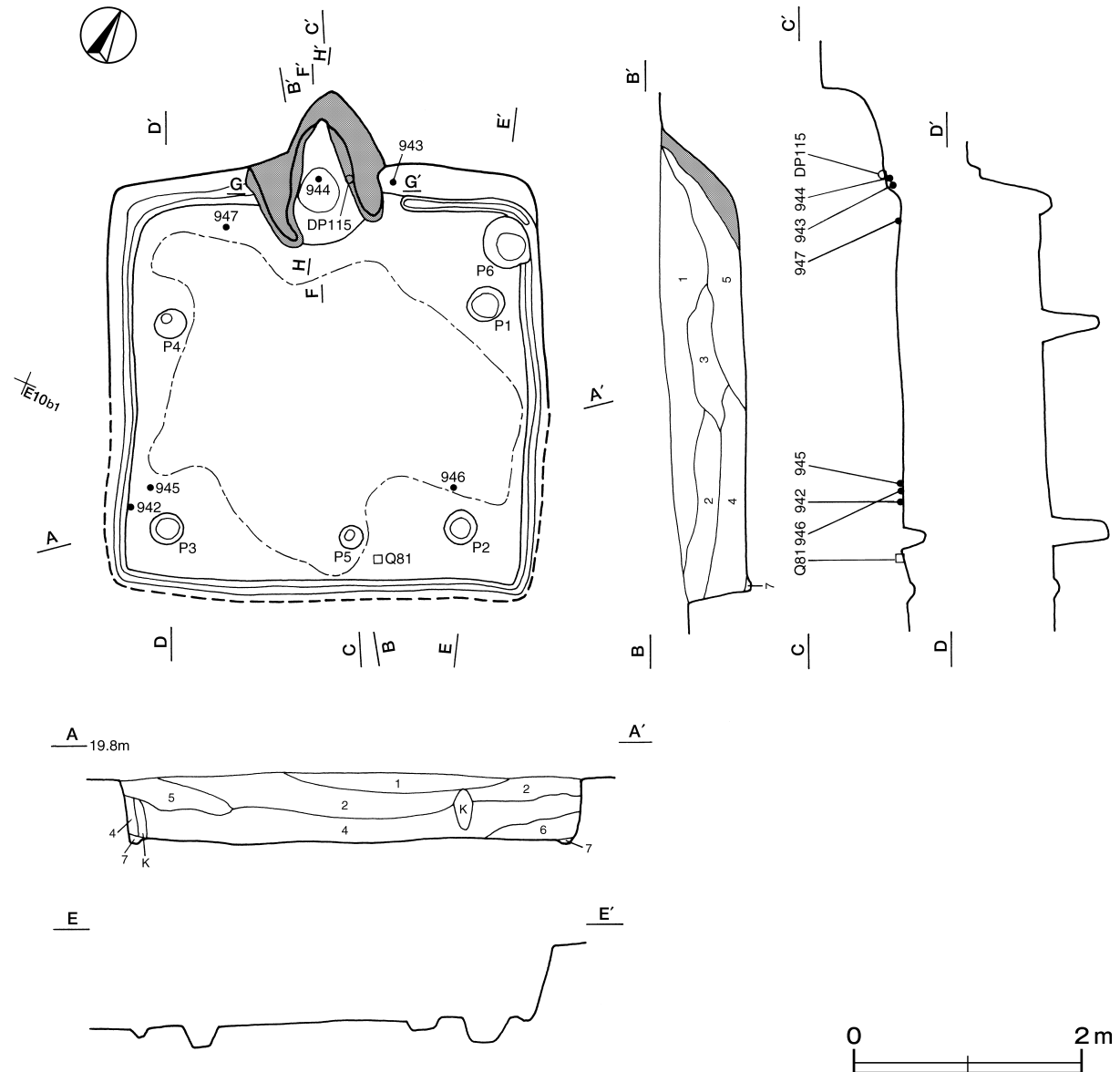
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

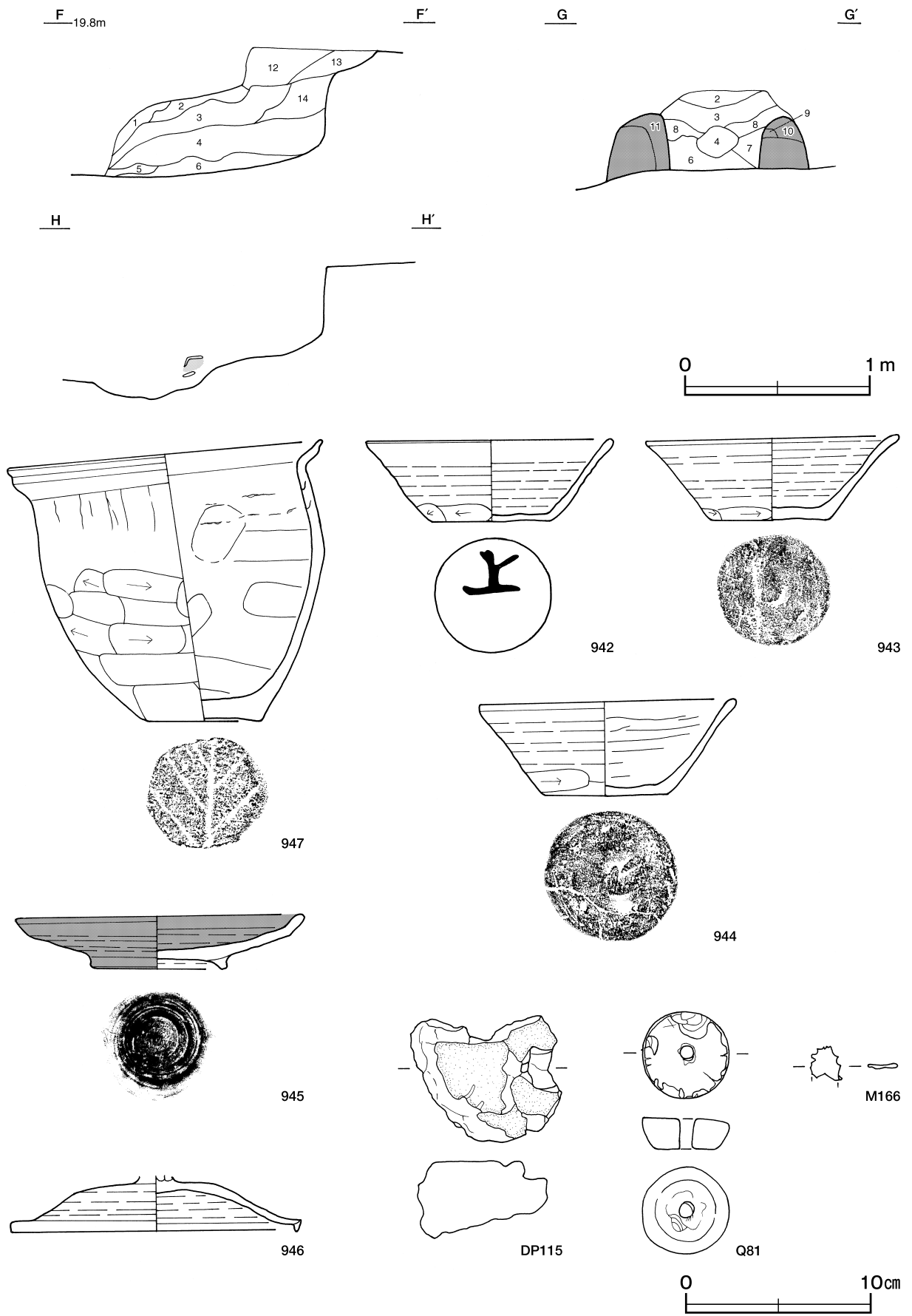
- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片901点(坏4, 甕類896, 甑1), 須恵器片171点(坏106, 高台付坏2, 盤1, 蓋13, 甗2, 壺類3, 甕類42, 甑2), 土製品5点(支脚3, 紡錘車1, 不明1), 鉄器1点(刀子), 粘土塊1点, 鉄滓4点, 種子1点のほか, 混入した古墳時代の土師器片197点も出土している。944は竈内から出土しており, 熱を受けていることから支脚として使用されていたと考えられる。竈周辺には, 947が竈左袖脇の床面, 943が右袖部脇の覆土下層から出土している。942が南西コーナー部壁溝際の床面, 945がP3北側の床面からそれぞれ出土している。946はP2北側の床面から出土している。DP115は竈右袖部の内側から破損した状態で出土し, 944と共に, 袖部材の一部として使用されていたと考えられる。また, Q81は南壁際の床面, M166は竈の覆土からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第585図 第2183号住居跡実測図



第586图 第2183号住居跡・出土遺物実測図

第2183号住居跡出土遺物観察表（第586図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
942	須恵器	坏	13.0	4.4	6.3	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部下端手持ヘラ削り 底部多方向ヘラ削り	床面	85% 墨書「上」 PL188
943	須恵器	坏	13.4	4.5	6.2	長石・石英・雲母・礫	灰褐	普通	体部下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	壁溝覆土内	85%
944	須恵器	坏	13.5	5.1	6.7	長石・石英・雲母・赤鉄子	灰白	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 底部内面中央ナデ	竈覆土内	60% 支脚
945	須恵器	盤	15.0	2.9	7.1	長石・石英・雲母	黒	普通	底部回転ヘラ切り	床面	90% 油煙付着
946	須恵器	蓋	15.2	(2.9)	-	長石・石英・雲母・赤鉄子	にぶい褐	普通	天井部回転ヘラ削り・ヘラ削り	床面	95%
947	土師器	小形甕	16.7	15.0	6.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	不良	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面	90%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP115	支脚カ	(6.8)	(8.1)	(4.2)	(128.6)	土(長石)	ナデ 半円形の凹み有り 外面焼土化した部分有り	右袖部内	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q81	紡錘車	4.7	1.7	0.8	53.0	粘板岩	円錐台形	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M166	鏃	(1.9)	(1.7)	0.3	(2.3)	鉄	頭部及び脚部欠損 脚部曲っている 断面方形	竈覆土	

第2186号住居跡（第587・588図）

位置 調査区南西部のD10g8区、標高19mほどの南東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸5.02m、短軸4.66mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は34~64cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北西部を除いた壁下には、幅11~19cm、深さ6~14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで137cm、袖部幅は147cmで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ45cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐 色 焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 4 暗赤褐 色 焼土粒子中量,ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐 色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化物微量 | 5 黒褐 色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 3 暗褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量 | |

ピット 5か所。P1~P4は支柱穴で、深さは8~36cmである。P5は深さ13cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

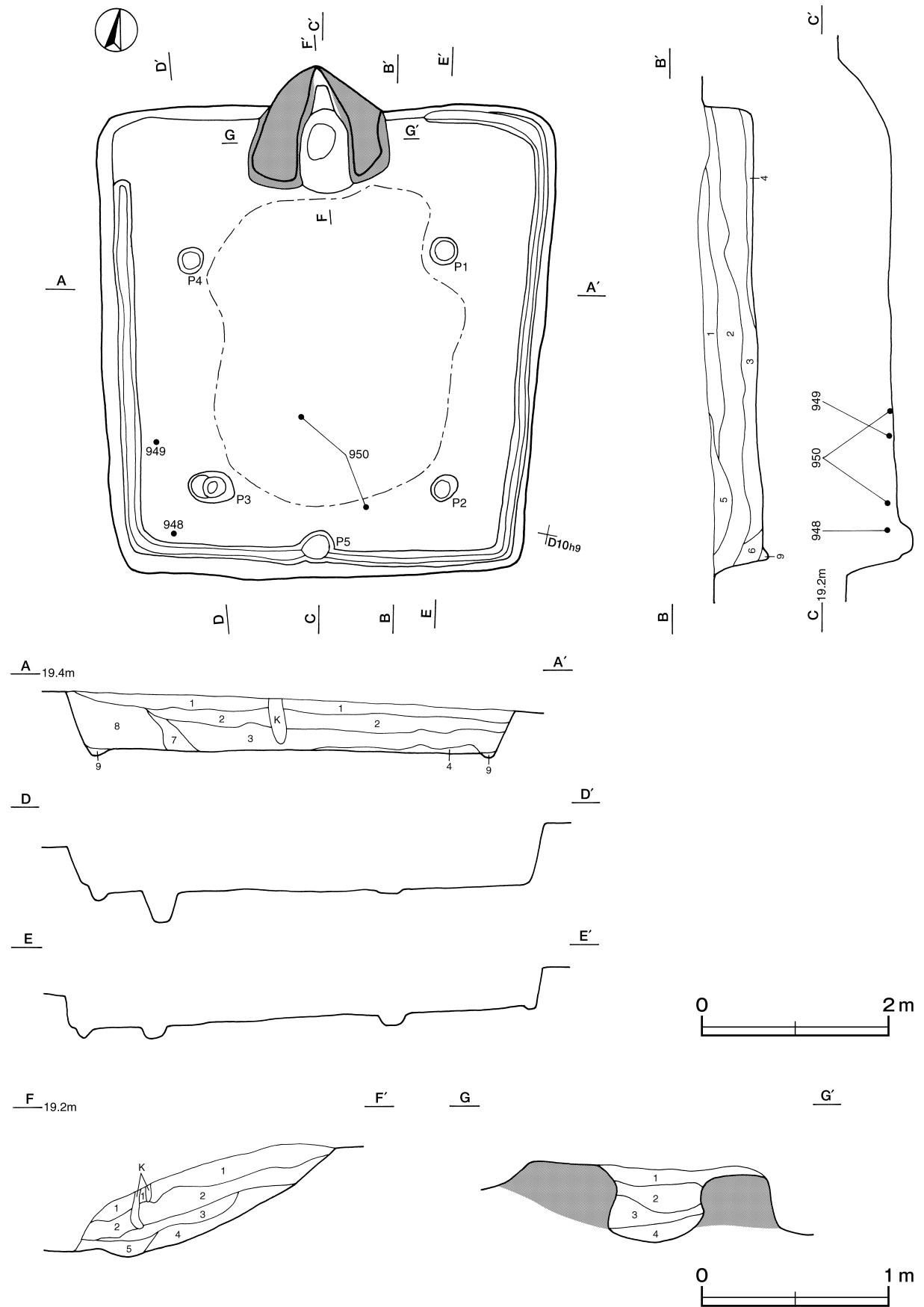
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

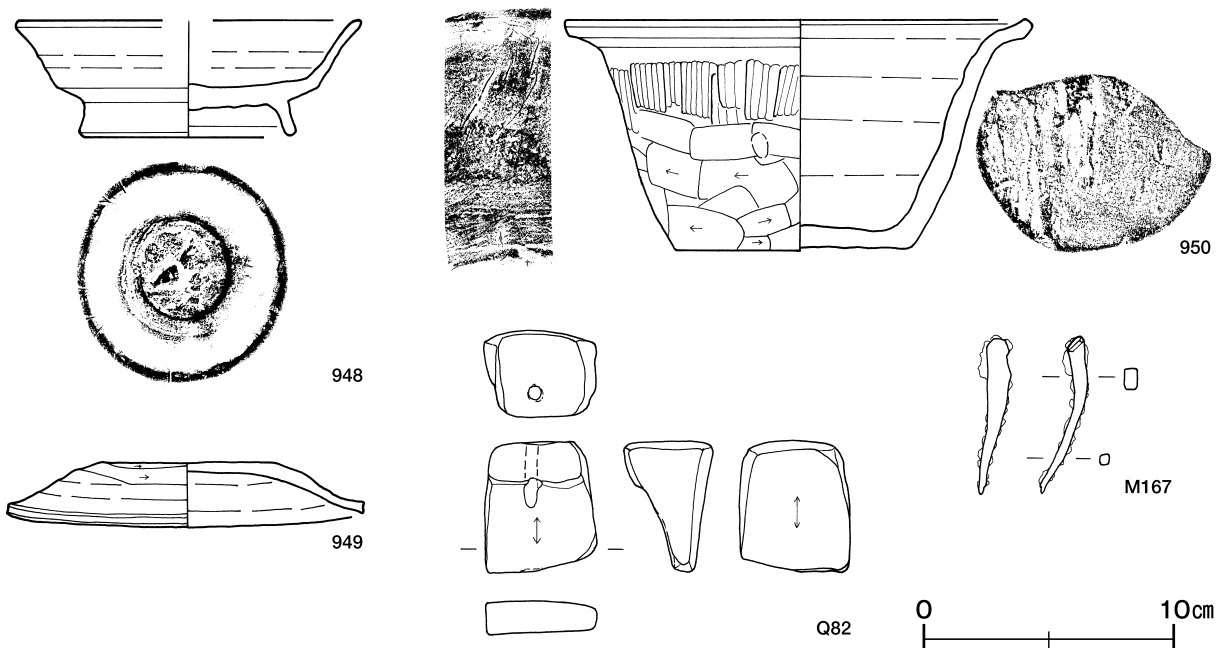
- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化物微量 | 6 暗褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化物微量 | 7 黒褐 色 ロームブロック少量,砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化物微量 | 8 黒褐 色 ロームブロック少量,焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 4 灰褐 色 砂質粘土ブロック中量,ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 褐 色 ローム粒子少量 |
| 5 黒褐 色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片1080点(坏3,蓋3,甕類1072,甌2),須恵器片584点(坏214,高台付坏20,蓋32,高盤2,甌1,壺類4,瓶類15,甕類293,甌3),鉄製品2点(釘,不明)のほか、混入した古墳時代の土師器片67点も出土している。948は南西コーナー部の床面,949は完形の状態で西壁際の床面から出土しており、それぞれ遺棄されたと考えられる。950は中央南部の覆土下層から出土した破片が接合しており、投棄されたと考えられる。また、覆土下層からQ82とM167がそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第587図 第2186号住居跡実測図



第588図 第2186号住居跡出土遺物実測図

第2186号住居跡出土遺物観察表（第588図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
948	須恵器	高台付杯	[13.5]	4.6	8.2	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向ヘラ削り	床面	70%
949	須恵器	蓋	14.1	3.2	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 天井部回転ヘラ削り	床面	100%
950	須恵器	小形鉢	18.0	9.2	9.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部縦位の平行叩き後スリ消し 体部中央部指ナデ 体部下端ヘラ削り 指頭痕 内面ナデ ヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土下層	40% PL178

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q82	砥石	(5.3)	4.5	3.5	(81.3)	凝灰岩	提砥石 一方向からの穿孔 砥面2面 他は破断面	覆土下層	PL195

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M167	釘カ	(6.3)	1.1	0.6	(5.3)	鉄	断面長方形 下端部曲がっている	覆土下層	

第2189号住居跡（第589図）

位置 調査区南西部のE 9 c0区，標高19.5mほどの南東への傾斜面に位置している。

規模と形状 長軸4.28m，短軸3.24mの長方形で，主軸方向はN - 65° - Eである。壁高は5～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北壁コーナー部を除いた壁下には，幅8～16cm，深さ4～9cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 東部コーナー部に付設されている。天井部，焚口部，南袖部は遺存していない。煙道部は壁外へ不定形に44cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 灰黄色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | |

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で，深さは12～50cmである。P5は深さ15cmで，竈と向かい合う西壁際中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7の性格は不明である。

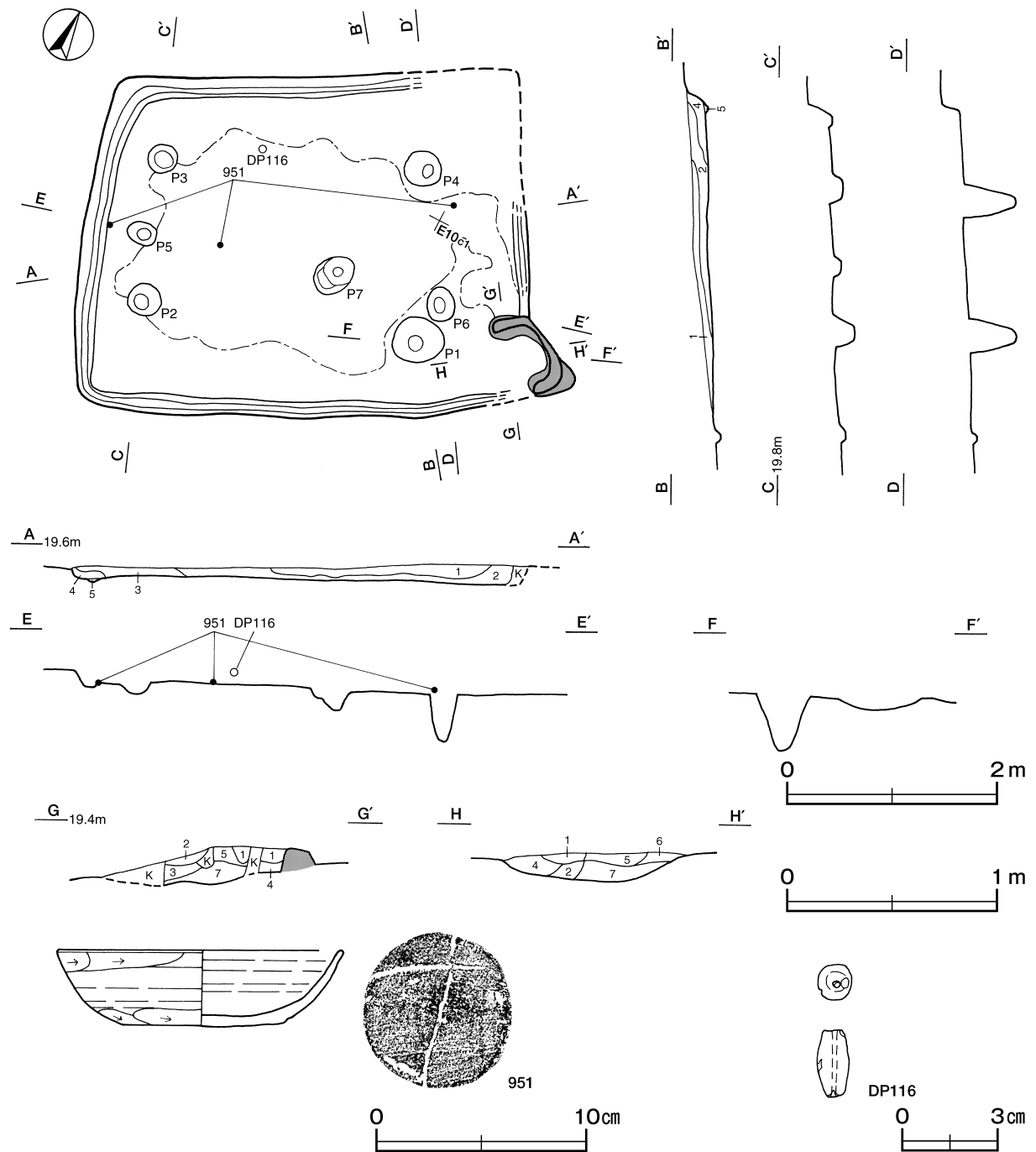
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示しているが、覆土が薄いため詳細は不明である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|------|---------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片169点(坏32, 蓋20, 鉢1, 甕類116), 須恵器片9点(坏5, 甕類4), 土製品1点(管状土錘), 粘土塊4点のほか, 混入した古墳時代の土師器片28点も出土している。951は東西の床面から出土した破片が接合したものであることから, 住居廃絶後まもなく廃棄されたものと考えられる。DP116は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前半と考えられる。



第589図 第2189号住居跡・出土遺物実測図

第2189号住居跡出土遺物観察表（第589図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
951	土師器	坏	13.4	3.7	7.3	石英・雲母	橙	普通	口辺部一部へら削り 体部内外面口ロナデ 体部下端 手持ちへら削り 底部回転へら切り後へら削り 指頭痕	床面	60%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP116	管状土錘	1.1	2.0	0.2	2.5	土（長石）	ナデ 黒褐色を呈する	覆土上層	PL189

第2201号住居跡（第590～592図）

位置 調査区南部のA11h2区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.65m、短軸4.50mの方形で、主軸方向はN - 13° - Eである。壁高は20～35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から南壁際にかけて踏み固められている。壁下には、幅7～16cm、深さ2～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。掘り方は東部のみ調査しており、四隅を掘り込んでいる状況が確認されている。また、掘り方内からP6～P9が確認されている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、袖部幅は130cmで、袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を11cm不整形に掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ44cm掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子微量	7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 極暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量	8 赤褐色 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
3 赤褐色 焼土ブロック多量	9 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子中量	10 灰褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
5 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量	11 暗褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
6 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	12 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 9か所。P1～P4は支柱穴で、深さは40～70cmである。P5は深さ25cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は掘り方内から確認された柱穴で、性格は不明である。

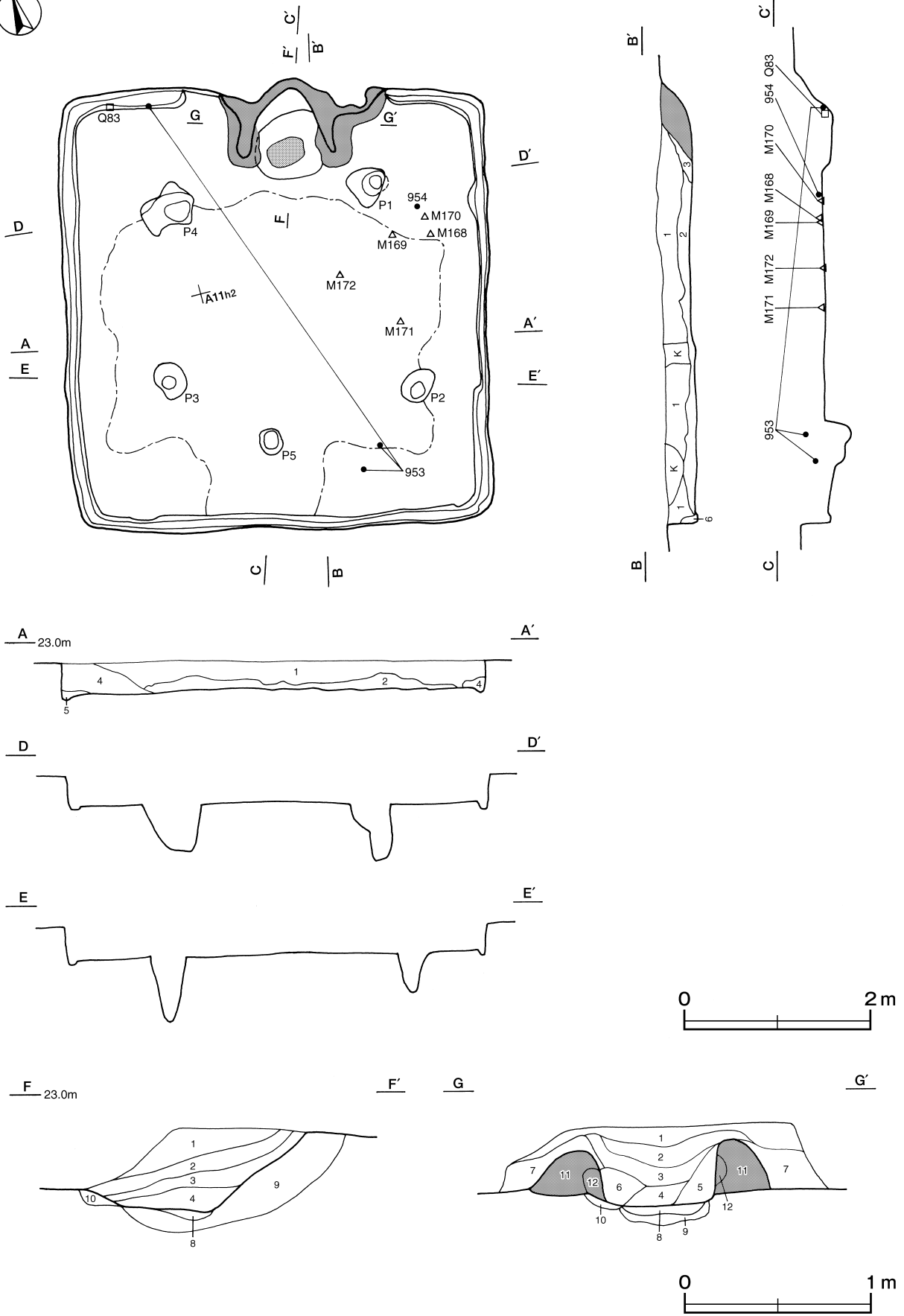
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

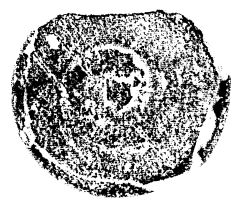
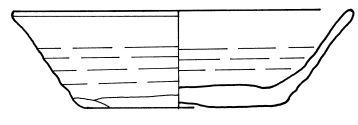
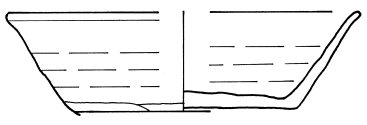
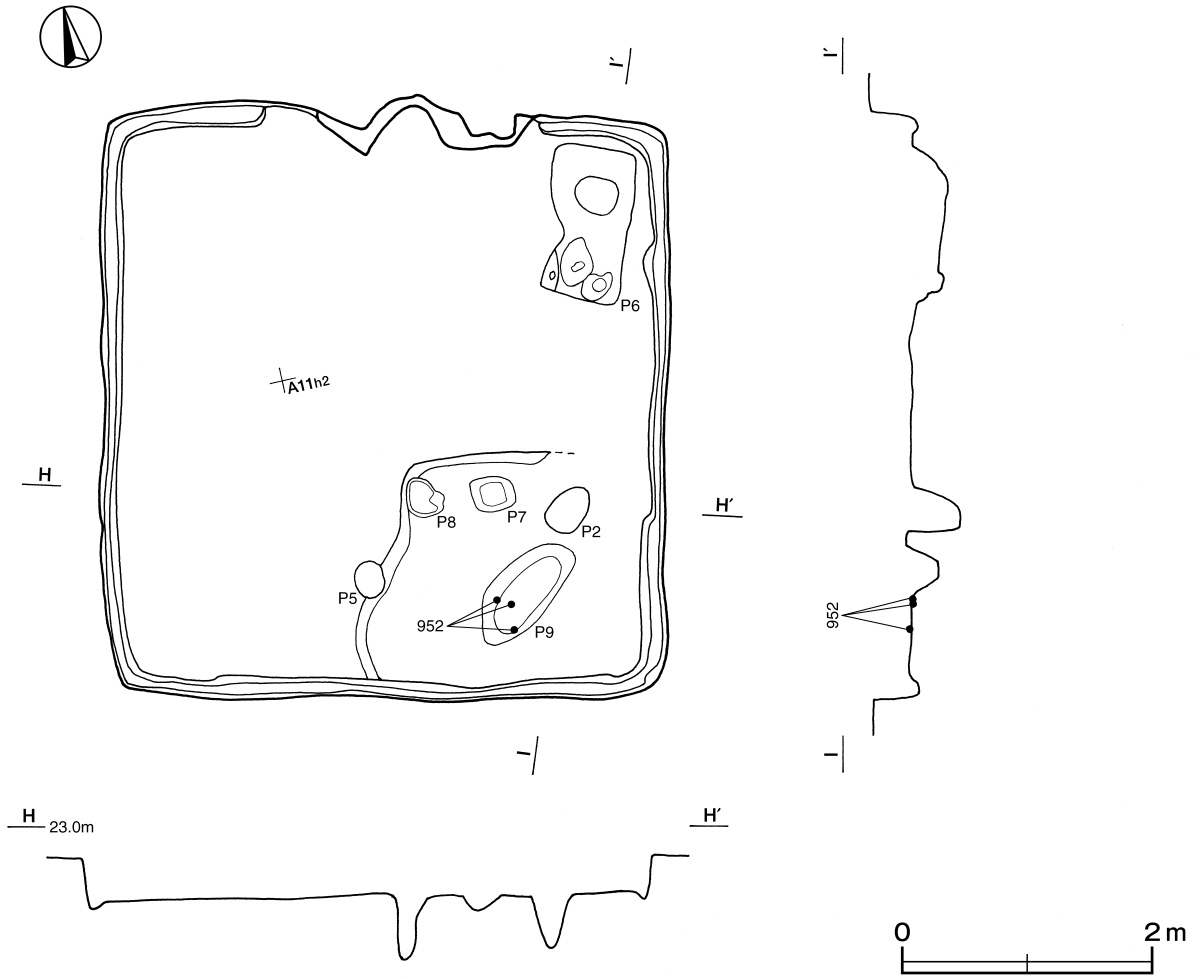
1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	4 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	5 褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量	6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片648点（甕類646、甌2）、須恵器片148点（坏128、高台付坏1、蓋6、瓶類1、甕類12）、石製品4点（勾玉3、紡錘車1）、鉄器6点（刀子1、鋸2、鎌3）のほか、混入した古墳時代の土師器片39点も出土している。952は掘り方内から破損した状態で出土している。953は散在して出土していることから、廃絶後に投棄されたと考えられる。鉄製品は東部に集中する分布状況を示しており、その中でもM168・M170は床面からほぼ完形の状態で出土していることから、廃絶時に遺棄されたと考えられる。また、Q83は壁溝内から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



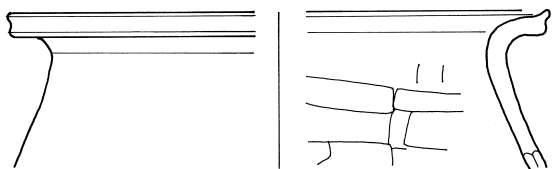
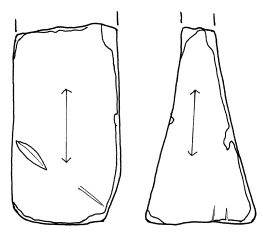
第590图 第2201号住居跡実測图



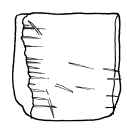
952



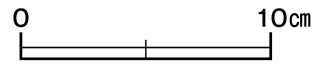
953



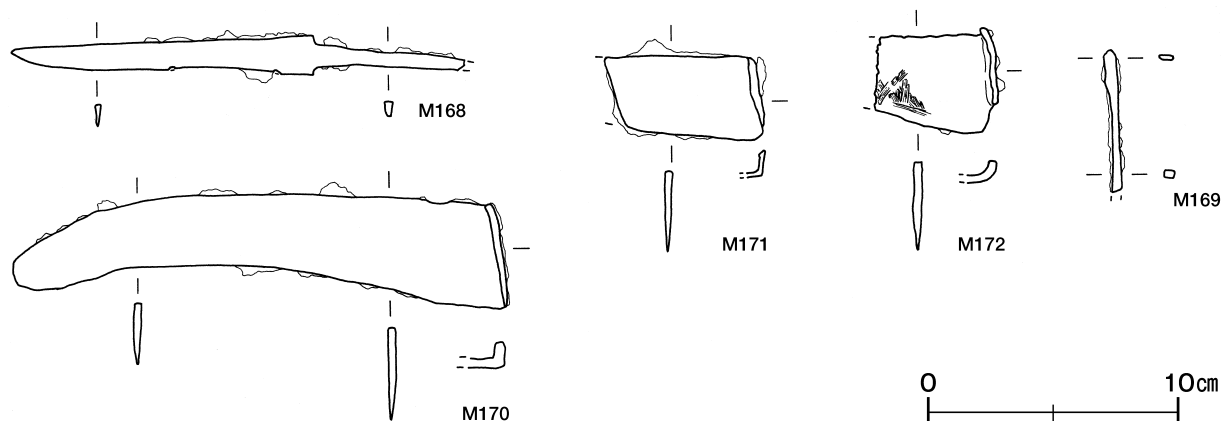
954



Q83



第591图 第2201号住居跡・出土遺物実測図



第592図 第2201号住居跡出土遺物実測図

第2201号住居跡出土遺物観察表 (第591・592図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
952	須恵器	坏	[13.8]	3.9	[8.2]	長石・石英	浅黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	堀り方部	60%
953	須恵器	坏	13.3	3.8	7.6	長石	褐灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土上～下層	70% PL165
954	土師器	甗	[21.2]	(6.2)	-	長石・雲母・礫	赤褐	普通	体部内外面ヘラナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q83	砥石	(8.0)	4.3	4.2	(172.9)	凝灰岩	砥面六面 他は破断面	壁溝覆土	PL195

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M168	刀子	(18.0)	1.3	0.4	(29.1)	鉄	ほぼ完形 茎部に木質部附着	床面	PL198
M169	鏃	(5.7)	0.5	0.3	(2.4)	鉄	茎部残存 断面方形	床面	
M170	鎌	19.6	4.3	0.3	93.7	鉄	完形 端部折り曲げ 根刈り鎌	床面	PL196
M171	鎌	(6.5)	3.9	0.3	(23.1)	鉄	基部残存 端部上端折り返し	床面	
M172	鎌	(5.2)	4.0	0.3	(22.5)	鉄	基部残存 端部上端折り返し 木質部附着	床面	

第2211号住居跡 (第593・594図)

位置 調査区北部のB12e5区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2173号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.50m、短軸4.48mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は15～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西部を除いた壁下には、幅14～19cm、深さ6～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅は125cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ49cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第1層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1 灰白色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 | 4 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 褐灰色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量、砂質粘土粒子微量 | 6 赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| | 7 灰白色 砂質粘土粒子多量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは15～75cmである。P5は深さ28cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

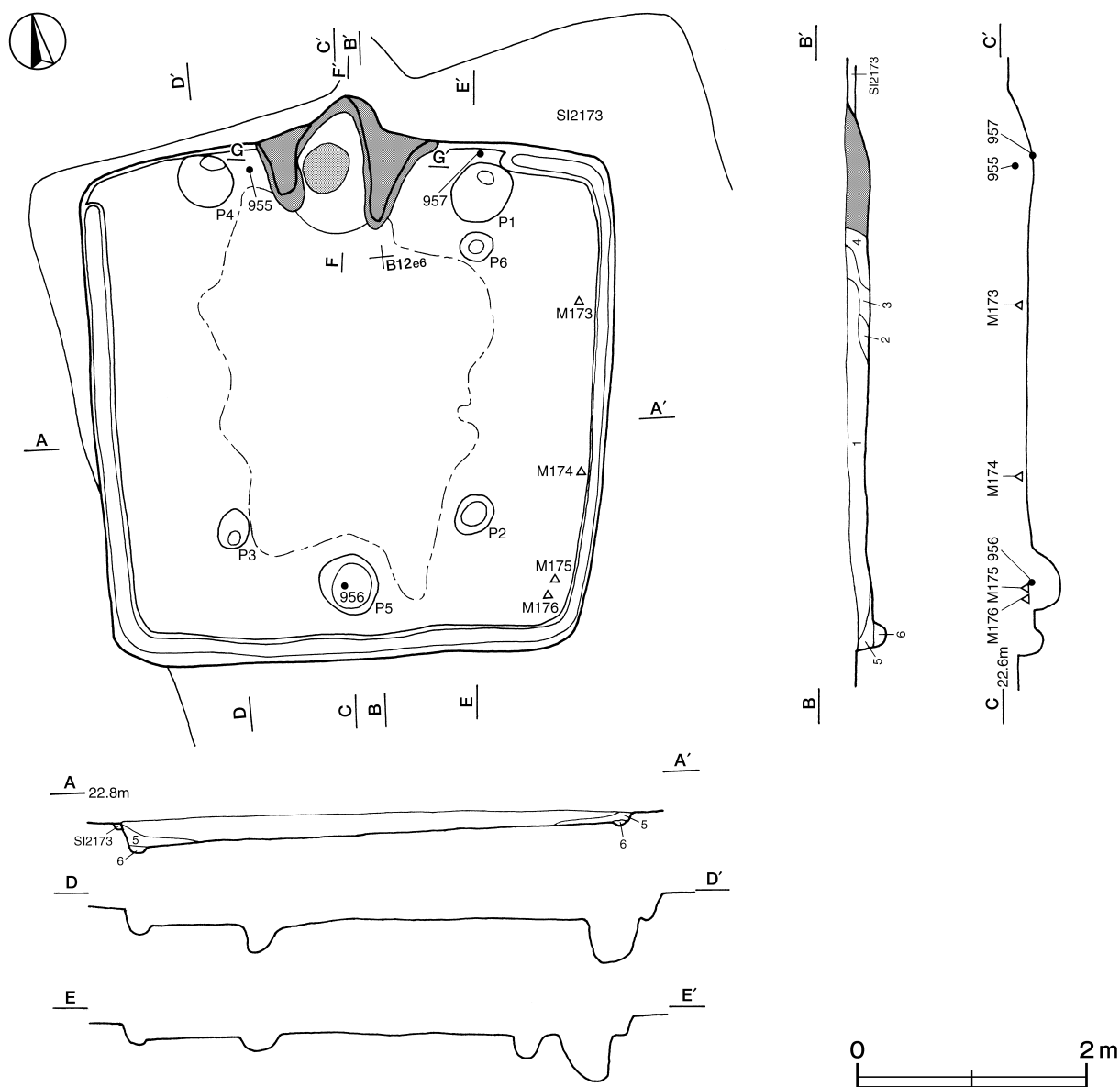
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

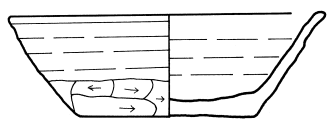
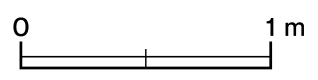
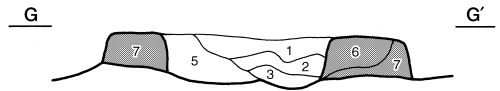
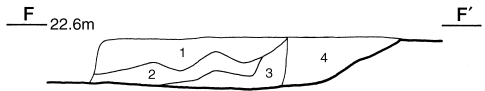
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 にぶい褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片188点(甕類), 須恵器片155点(坏89, 蓋8, 鉢29, 甗1, 瓶類1, 甕類23, 甑4), 鉄器・鉄製品5点(刀子1, 鎌1, 釘1, 足金物2)のほか, 混入した縄文土器片2点, 古墳時代の土師器片102点も出土している。955は北西壁際の覆土中層, 956はP5の覆土上層から出土していることから, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。957は北東壁際の床面, M175・M176は南東コーナー部の床面から破損した状態で出土しており, 廃絶時に伴い廃棄されたと考えられる。

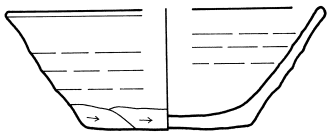
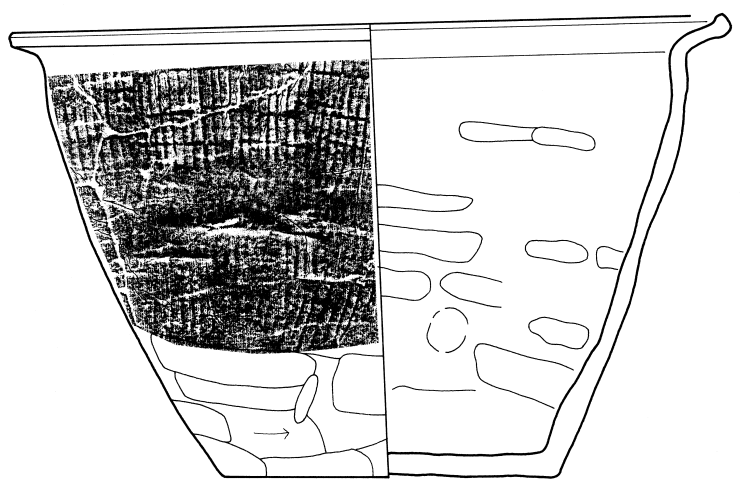
所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第593図 第2211号住居跡実測図



955



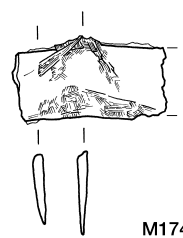
956



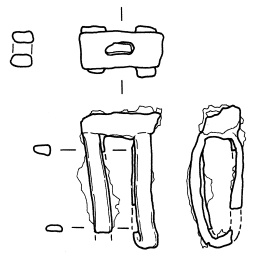
957



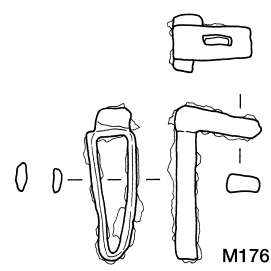
M173



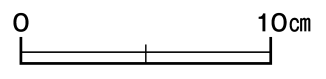
M174



M175



M176



第594图 第2211号住居跡・出土遺物実測図

第2211号住居跡出土遺物観察表（第594図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
955	須恵器	坏	12.2	4.2	6.8	長石・石英・雲母	オリブ黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	90% PL165
956	須恵器	坏	[12.4]	4.8	[6.6]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り・ナデ	P 5 覆土	45%
957	須恵器	鉢	28.2	18.5	13.3	長石・雲母	灰	普通	体部外面平行擬格子状叩き 内面ナデ 体部下端ヘラ削り 底部ヘラナデ	床面	70% PL178

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M173	刀子	(11.7)	1.4	0.4	(15.3)	鉄	刃部欠損 茎部に木質部残存	覆土下層	PL198
M174	鎌	(6.0)	2.6	0.4	(22.1)	鉄	刃部のみ残存 両面に木質部残存	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M175	足金物	5.5	(3.2)	2.2	(27.8)	鉄	双脚足金物 内一脚欠損 緒通し穴一か所	床面	PL198
M176	足金物	6.3	(3.5)	1.9	(23.1)	鉄	双脚足金物 内一脚欠損 脚部外面に木質部付着 緒通し穴一か所	床面	PL198

第2212号住居跡（第595図）

位置 調査区南部のD11h4区，標高18mほどの南東への傾斜面に位置している。

規模と形状 長軸3.12m，短軸2.92mの方形で，主軸方向はN - 80° - Eである。壁高は34～73cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，粘土混じりの貼り床である。硬化面や壁溝は認められない。

竈 南東コーナー部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cmであり，袖部は遺存していない。竈の構築方法は竈土層断面から，住居の掘り方に床面から10cmまで粘土を混ぜたローム土を貼り付けていた（第3・4層）と考えられる。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ79cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第1層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|---------------|
| 1 黄褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子中量 | 4 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子多量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子多量，炭化粒子少量 | | |
| 3 明黄褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子多量，炭化物中量 | | |

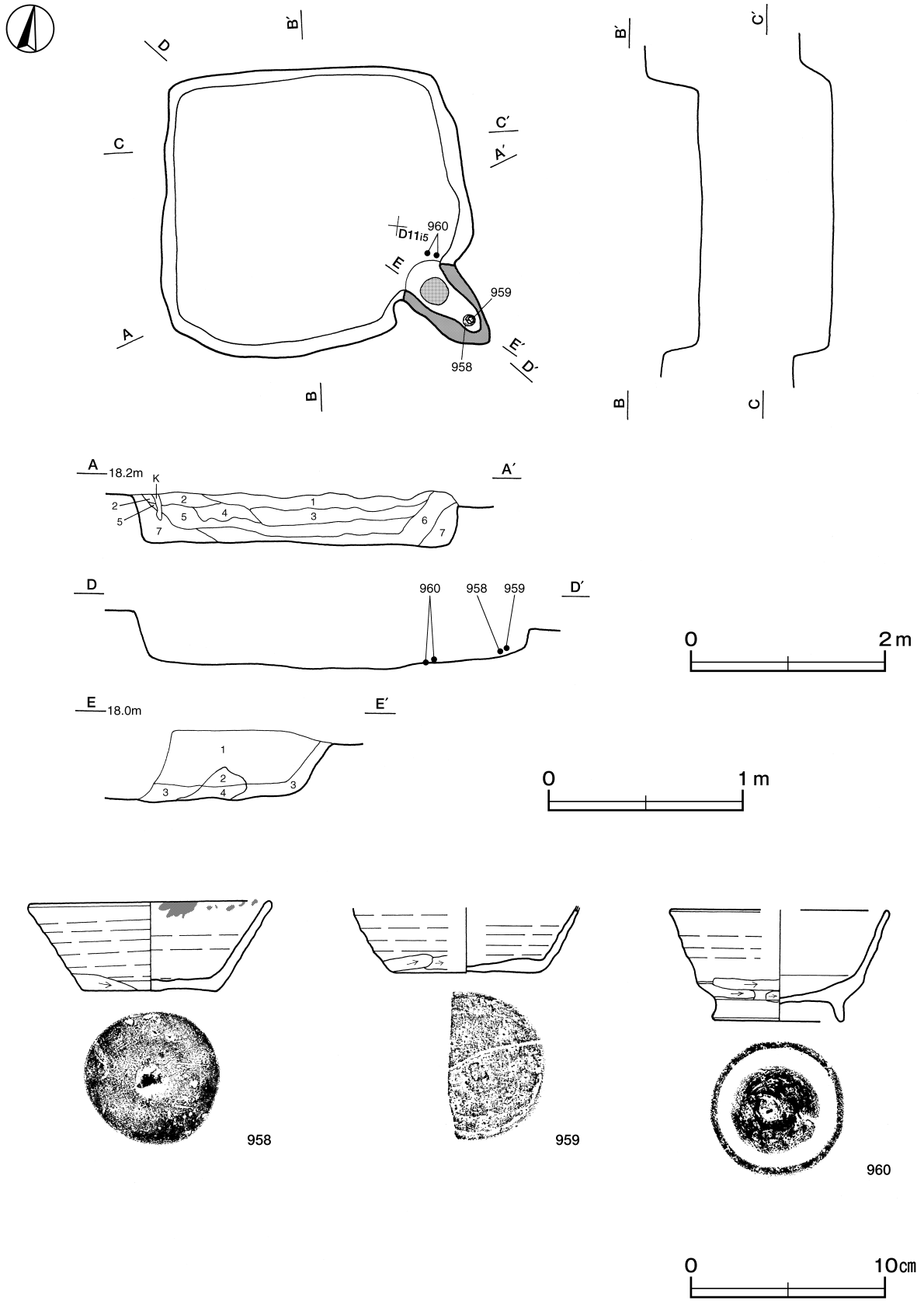
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 褐色 | 粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 褐色 | 粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片138点（坏4，甕類133，甌1），須恵器片102点（坏80，蓋7，甕類9，甌5，平瓶1），鉄滓1点のほか，混入した古墳時代の土師器片16点，中世以降の陶器片1点，磁器片1点も出土している。960は竈左袖部手前の床面から正位で口辺部がつぶれた状態で出土している。また，958の上に959が重なった状態で竈の煙道部から出土しているが，火を受けた痕跡は見受けられない。これら3点の土器は，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



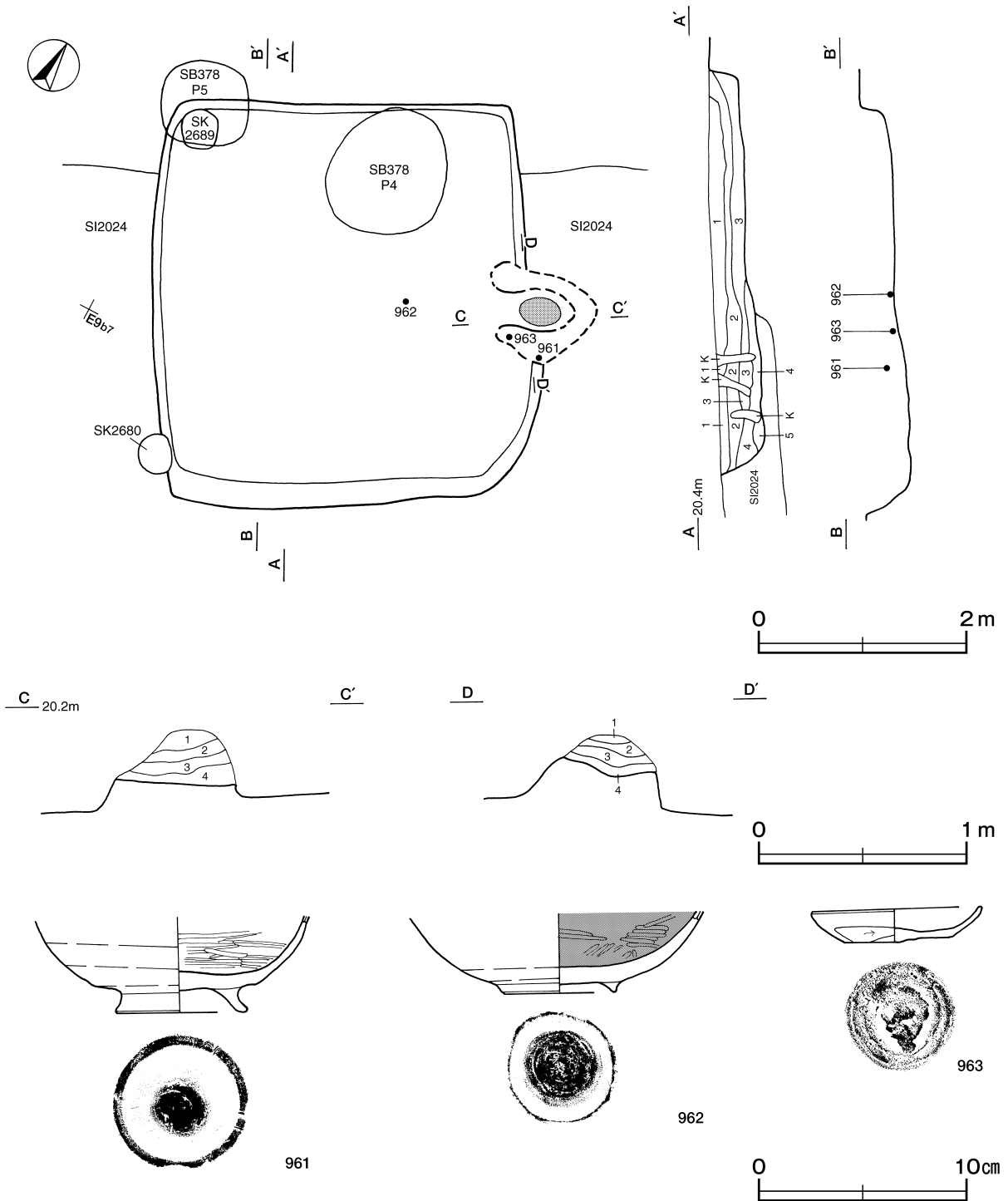
第595图 第2212号住居跡・出土遺物実測図

第2212号住居跡出土遺物観察表（第595図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
958	須恵器	坏	12.5	4.5	6.9	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	煙道部上	100% 油煙付着 PL165
959	須恵器	坏	-	(3.3)	7.6	石英・雲母	にぶい黄	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	煙道部上	40%
960	須恵器	高台付坏	[11.1]	5.7	6.6	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端ヘラ削り後一部ナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	45%

第2242号住居跡（第596図）

位置 調査区南西部の E 9 a 7 区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。



第596図 第2242号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第2024号住居跡，第378号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，第2680・2689号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.79m，短軸3.63mの方形で，主軸方向はN - 61° - Eである。壁高は28cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，硬化面や壁溝は認められない。

竈 東壁中央部に付設されている。遺存状態は非常に悪く，火床部のみ確認されている。火床部は幅27cmで，火床面は火を受けて赤変硬化している。また，竈内から雲母片岩が確認されており，火を受けていることから竈構築材として使用されたと考えられる。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|------|-----------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 3 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量 |
| 2 | 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 | 4 | 暗褐色 | 炭化物中量，焼土ブロック・ローム粒子少量 |

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック少量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 土師器片32点（高台付椀12，小皿1，甕類19），雲母片岩1点のほか，混入した古墳時代の土師器片11点，須恵器片3点（坏）も出土している。961と963は崩落した竈の右袖部上から出土しており，廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。

第2242号住居跡出土遺物観察表（第596図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
961	土師器	高台付椀	-	(4.5)	6.0	石英・雲母	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ 内外面ナデ 底部ヘラ切り後高台貼り付け 内面磨き	竈右袖部上	60%
962	土師器	高台付椀	-	3.3	5.3	石英・雲母	淡黄	普通	体部内外面ロクロナデ 底部ヘラ切り後高台貼り付け 内面磨き	覆土下層	40%
963	土師器	小皿	8.0	1.7	5.1	石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面ヘラナデ 体部ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 内底左回転ヘラナデ	竈右袖部上	100%

第2255号住居跡（第597・598図）

位置 調査区北西部のA10i3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.70m，短軸3.65mの方形で，主軸方向はN - 9° - Eである。壁高は41～49cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅12～19cm，深さ3～5cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，袖部幅114cmである。袖部は地山を浅く掘り込み，砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を15cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ50cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第3層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------------|---|------|------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | | |
| 3 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子炭化粒子微量 |

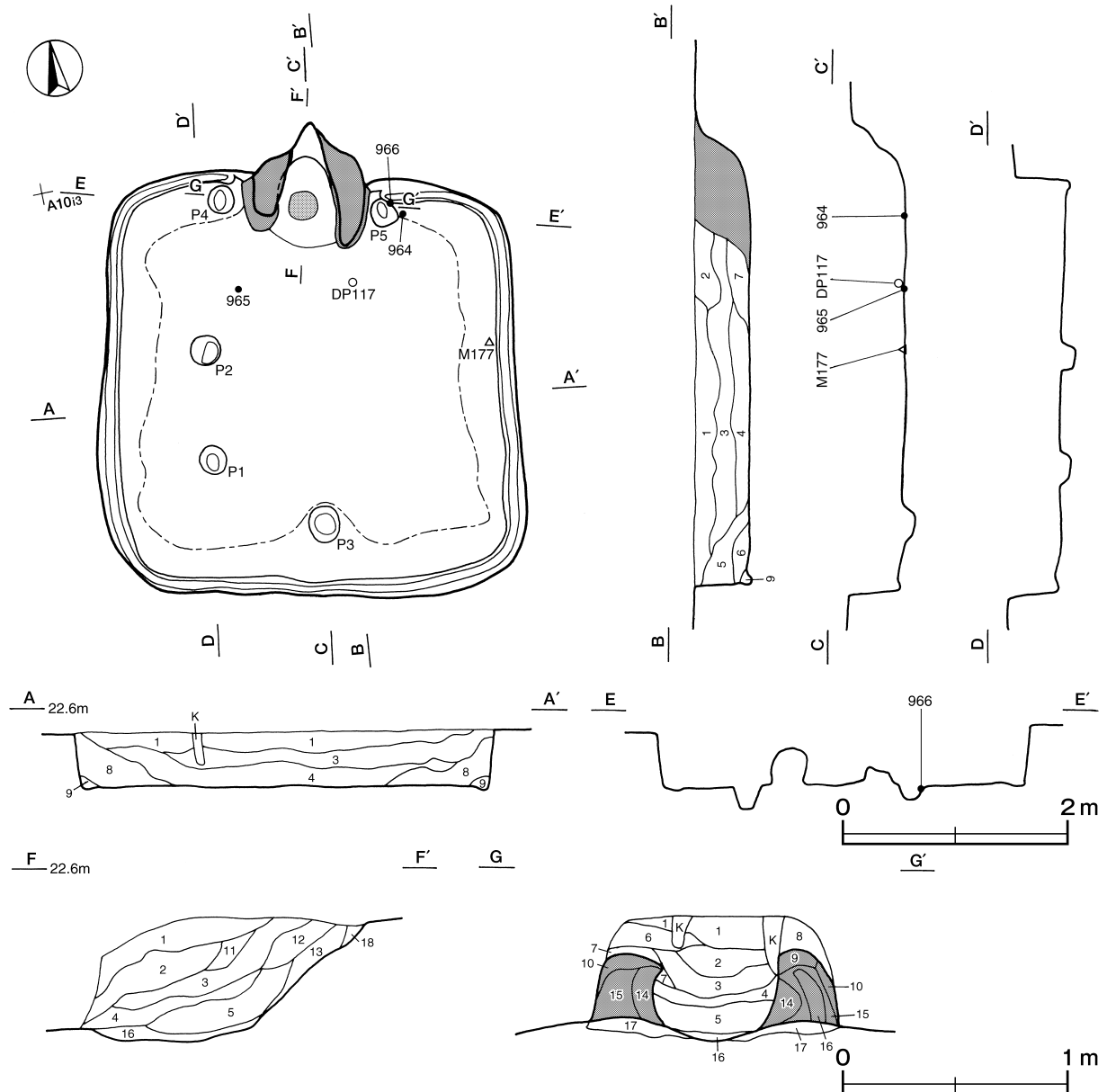
- | | | | |
|----------|------------------------------|---------|------------------------------|
| 8 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量,炭化物・焼土粒子微量, | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 |
| 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 褐色 | ローム粒子中量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量 | 18 暗褐色 | ローム粒子中量,砂質粘土粒子微量 |
| 13 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | | |

ピット 5か所。支柱穴はP1・P2が相当し、深さは13cmと14cmである。P3は深さ13cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4・P5は21cmと12cmの深さで、竈の袖部を挟むように位置しており、竈上の棚などの施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

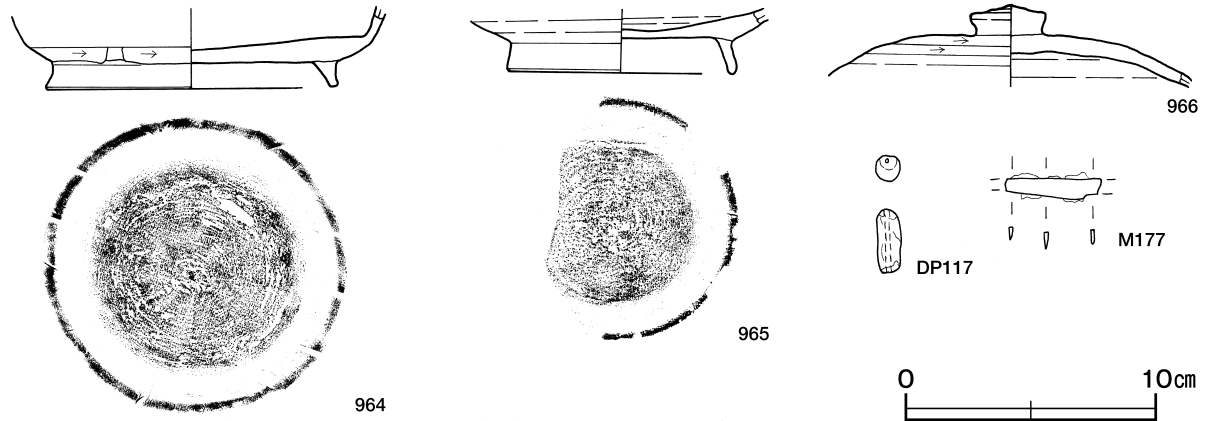
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |



第597図 第2255号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片465点（坏28，甕類437），須恵器片85点（坏類52，高台付坏5，蓋6，甕類22），土製品1点（管状土錘），鉄器1点（刀子），石2点（瑪瑙剥片，礫）のほか，混入した縄文土器片1点，古墳時代の土師器片1点，中世以降の陶器片1点も出土している。965は中央部の床面と覆土下層から出土した土器片が接合したもので，投棄されたものと考えられる。また，964はP5付近の床面から，966は床面からやや浮いた状態で出土し，DP117は右袖部手前の床面，M177は東壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第598図 第2255号住居跡出土遺物実測図

第2255号住居跡出土遺物観察表（第598図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
964	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	11.4	石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部下端へら削り 底部回転へら削り後高台貼り付け	床面	55%
965	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	9.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転へら削り後高台貼り付け 底部ナデ	床面	45%
966	須恵器	蓋	-	29.9	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部右回りへら削り後つまみ貼り付け つまみ径3.1cm つまみ高1.3cm	覆土下層	60%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP117	管状土錘	1.0	2.6	0.2	1.9	土(長石・石英・礫)	ナデ 明赤褐色 一方向からの穿孔	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M177	刀子	(3.9)	(0.80)	0.3	(2.0)	鉄	茎部・刃先欠損	床面	

第2259号住居跡（第599・600図）

位置 調査区北部のA11h3区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第21号ピット群に掘り込まれている。

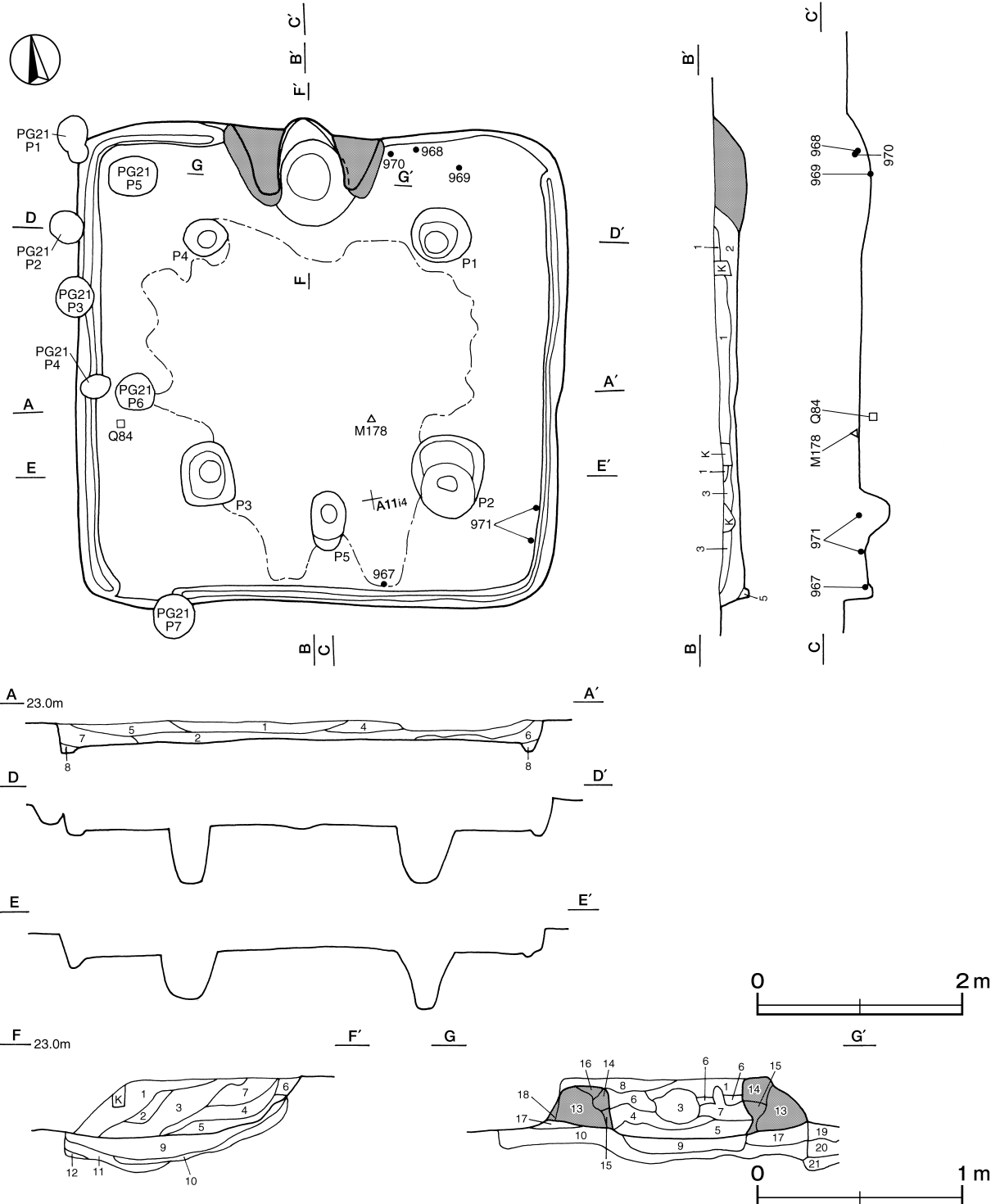
規模と形状 長軸4.69m，短軸4.54mの方形で，主軸方向はN - 9° - Eである。壁高は22～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北東部及び南西部の一部を除いた壁下には，幅5～10cm，深さ9～14cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

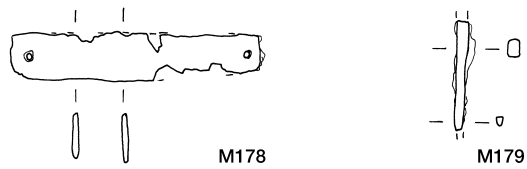
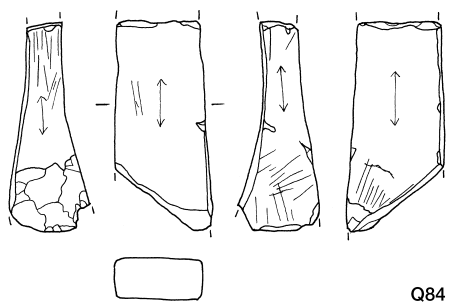
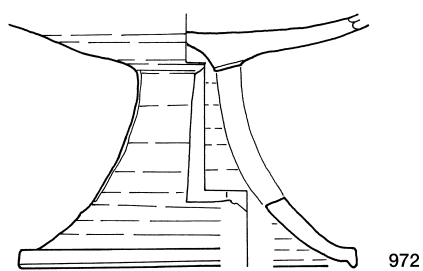
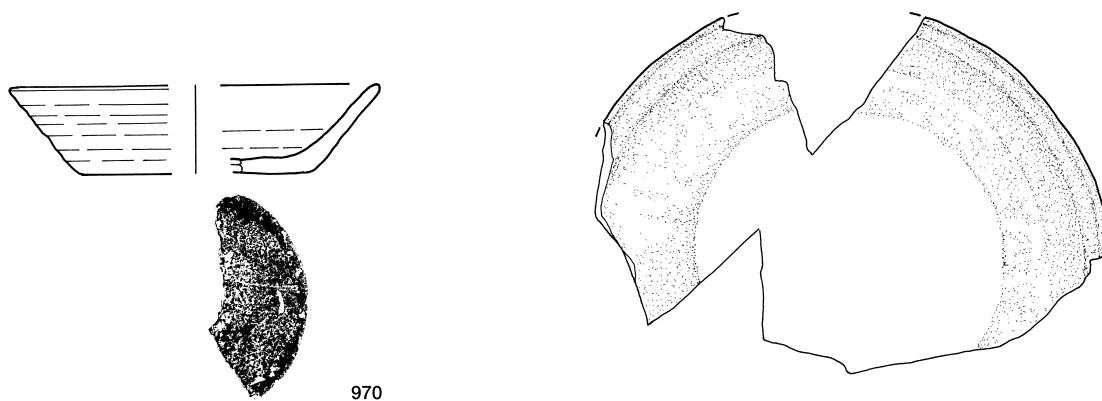
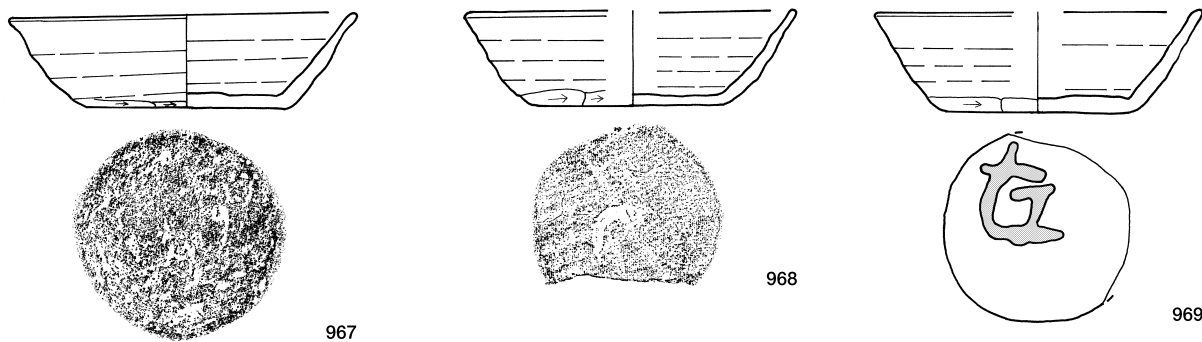
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで106cm，袖部幅154cmである。袖部は，地山を掘り込んでローム土を埋め込んだ上に構築されている。火床部は床面を20cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ17cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾した後，急な傾斜で立ち上がっている。第4層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 明褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 | 15 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 16 灰褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 17 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 18 灰褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 19 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | 20 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 10 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 21 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | |



第599図 第2259号住居跡実測図



第600图 第2259号住居跡出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは54～56cmである。P5は深さ30cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片462点(坏16, 甕類439, 甗7), 須恵器片194点(坏137, 高台付坏3, 盤6, 蓋8, 高盤10, 甕類30), 灰釉陶器片3点(椀), 石器1点(砥石), 鉄器・鉄製品2点(刀子, 釘)が出土しており, 覆土下層を中心にほぼ全域に散在した状態で出土している。970は竈右脇の覆土下層から, 968は床面から出土している。969は北壁際の床面から出土し, 底部外面に朱墨で文字が書かれている。967と971は南東壁の覆土下層から出土している。972は四方に散在した破片を接合したもので, 内一片は北壁際の床面から出土している。M178は中央部の床面, M179は覆土中, Q84は西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2259号住居跡出土遺物観察表(第600図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
967	須恵器	坏	13.6	3.9	8.0	石英・雲母	灰黄	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土下層	95% PL165
968	須恵器	坏	[13.0]	3.9	7.6	石英・雲母	灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	60%
969	須恵器	坏	[12.9]	4.0	7.3	石英・雲母	褐灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	50% 朱書「在」カ PL165
970	須恵器	坏	[14.5]	3.5	[9.1]	石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り・ナデ	覆土下層	35%
971	須恵器	盤	[22.0]	(2.8)	-	長石・石英	灰	普通	内面自然釉付着 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	55%
972	須恵器	高盤	-	(10.0)	[13.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	脚部内外面口クロナデ 透かし孔 ヘラ切り	覆土	45%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q84	砥石	(8.3)	3.7	1.7	(96.9)	凝灰岩	砥面4面 他は破断面	床面	PL195

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M178	鎌	(10.0)	1.9	0.2	(9.5)	鉄	手鎌 左端に径0.3cm右端に径0.2cmの目釘穴あり	床面	PL196
M179	釘	(4.4)	(0.5)	(0.7)	(4.4)	鉄	頭部一部・下端部先端欠損 下端部彎曲	覆土	

第2266号住居跡(第601・602図)

位置 調査区南西部のA10c9区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第57号井戸に掘り込まれている。

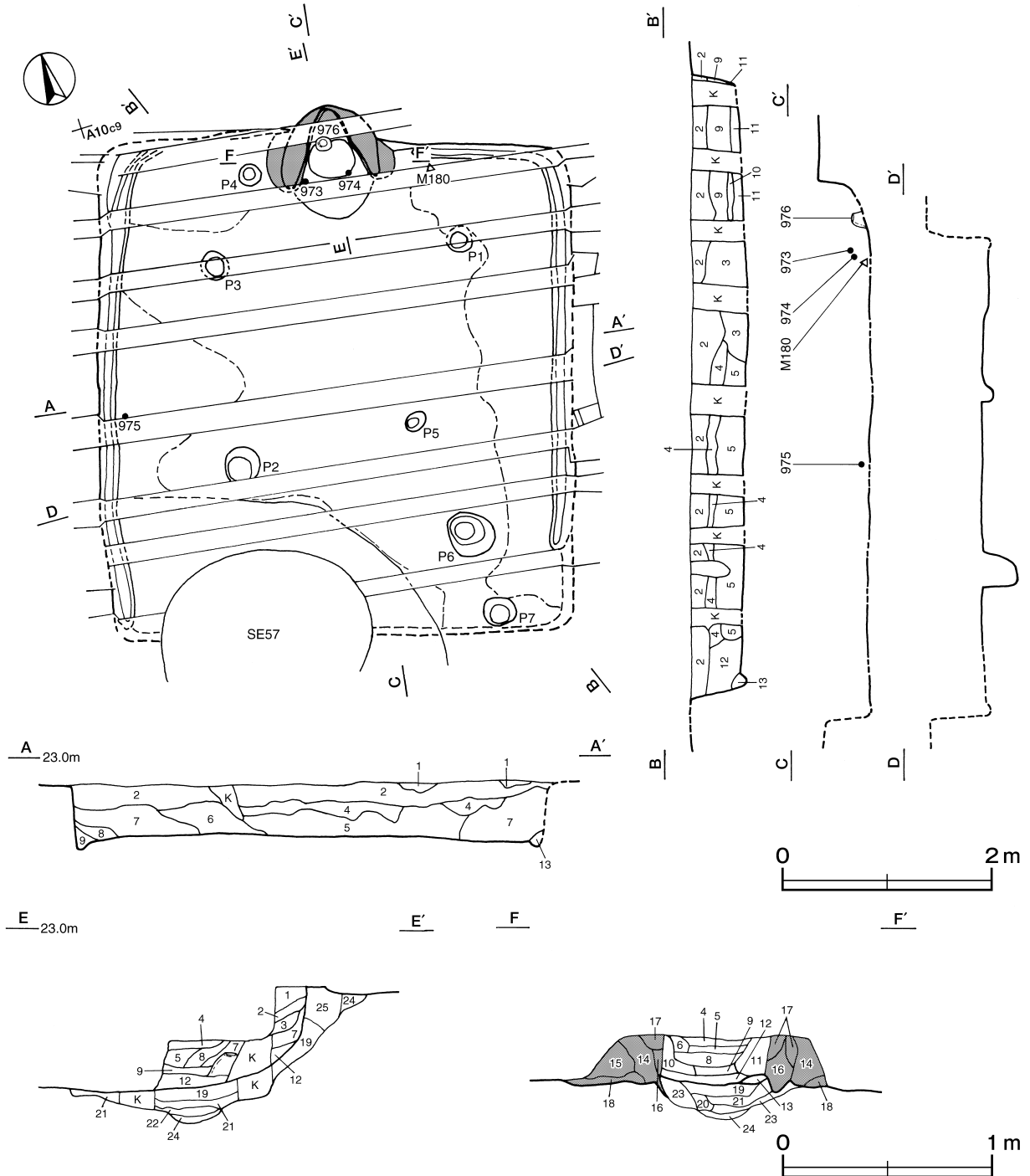
規模と形状 長軸4.80m, 短軸4.47mの方形で, 主軸方向はN-15°-Eである。壁高は40～56cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅9～13cm, 深さ3～6cmで, U字状の断面を呈する壁溝が南部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅120cmである。左袖部は地山をわずかに掘り込んで構築され, 右袖部は掘り方上に構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめてローム土を埋め戻して使用され, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっており, 立ち上がり部に土師器小形甕が支脚として据えられている。第2層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 灰黄褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 17 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 18 暗褐色 | 炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 19 黒褐色 | 焼土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 20 褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 | 21 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | 22 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 23 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 24 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 25 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 13 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |



第601図 第2266号住居跡実測図

ピット 7か所。P1～P3は支柱穴で、深さは11～32cmである。P4～P7の性格は不明である。

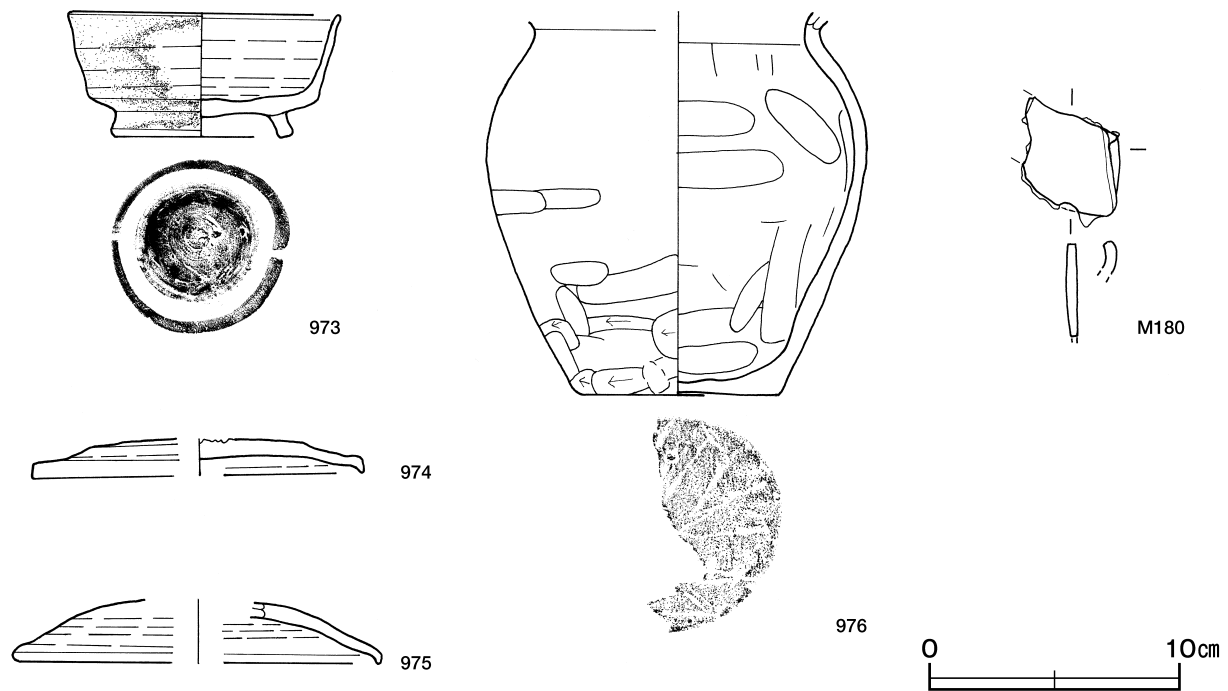
覆土 13層に分けられる。ブロック状に堆積していることから、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック微量 | 10 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片175点（坏3，甕類171，甑1），須恵器片49点（坏27，蓋8，高台付坏3，甕類11），鉄器1点（鎌），鉄滓5点，粘土塊1点のほか，混入した古墳時代の土師器片25点も出土している。975は西壁際の覆土下層から出土し，住居廃絶後まもなく廃棄されたものと考えられる。973と974は竈の覆土から出土しており，それぞれ熱を受けた痕跡がないことから，住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また，支脚として使用されていた976は，遺棄されたものと考えられる。M180は，北壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



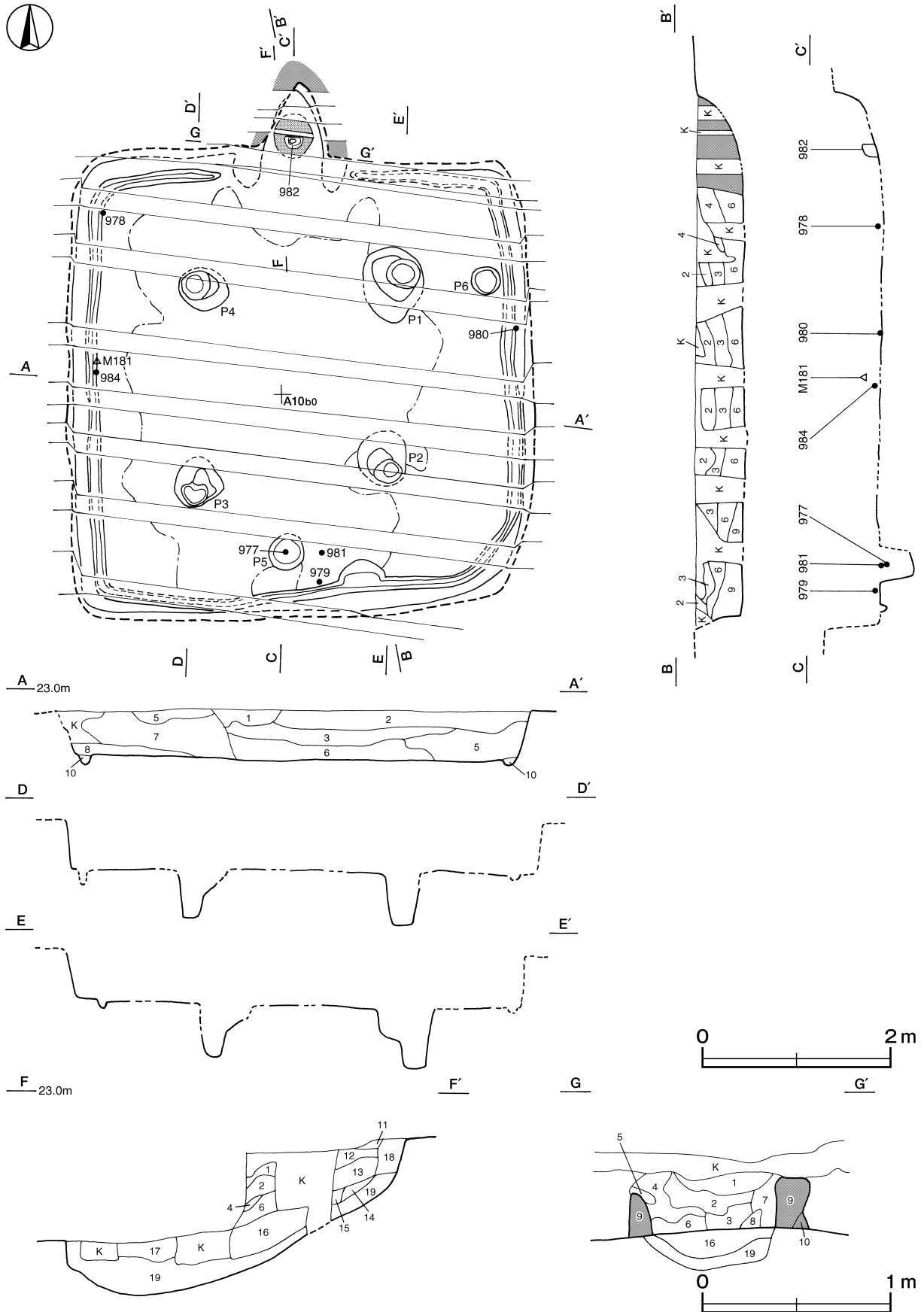
第602図 第2266号住居跡出土遺物実測図

第2266号住居跡出土遺物観察表（第602図）

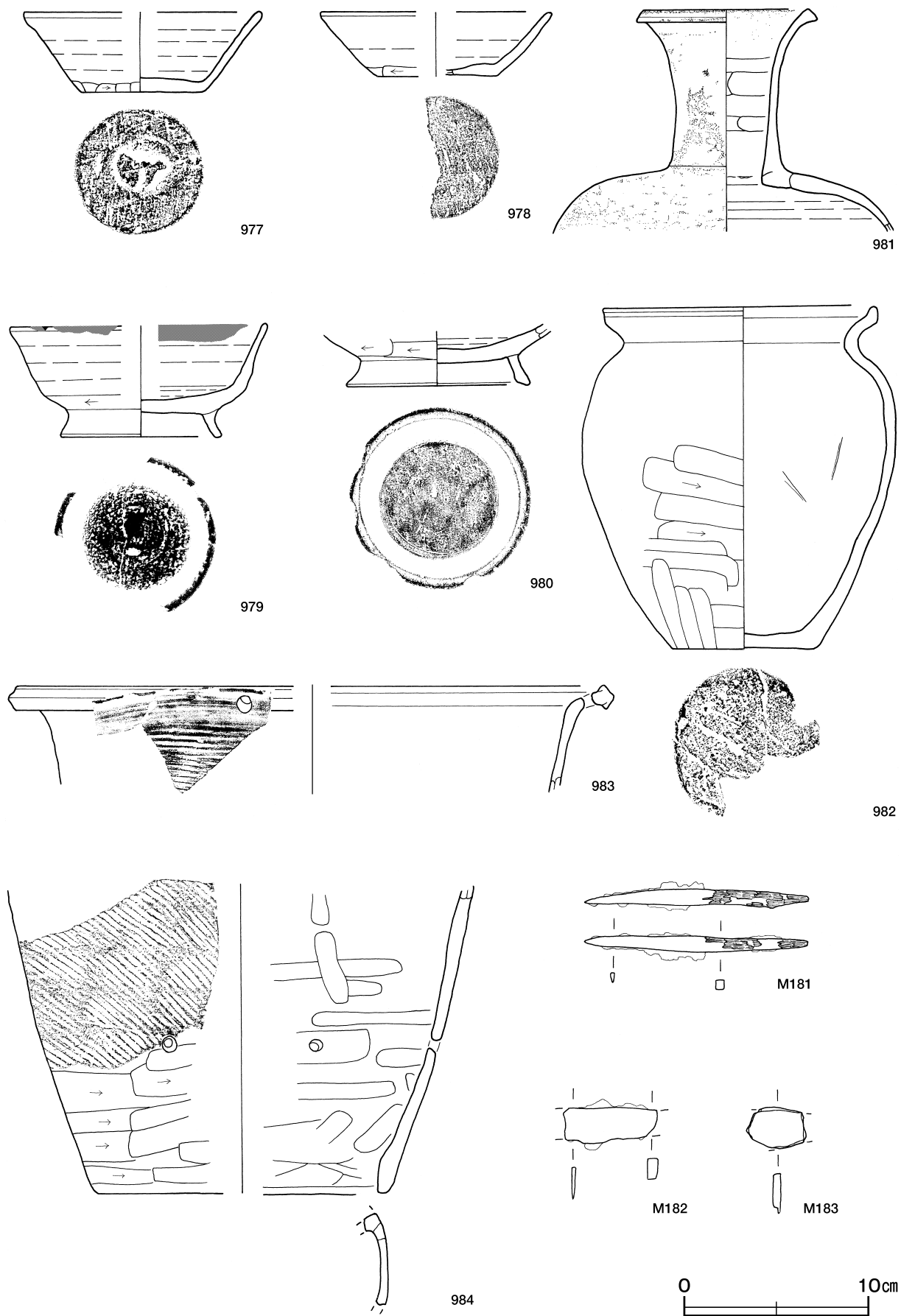
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
973	須恵器	高台付坏	10.7	4.9	7.0	長石・雲母	灰	良好	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈覆土	90% PL166
974	須恵器	蓋	[12.9]	(1.4)	-	石英・雲母	灰	普通	天井部左回転ヘラ削り後つまみ接合	竈覆土	50%
975	須恵器	蓋	[14.1]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部左回転ヘラ削り	覆土下層	40%
976	土師器	甕	-	(15.1)	[7.9]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ ヘラナデ 体部外面指頭痕 体部下端ヘラ削り 底部木葉痕	火床部	45% 支脚転用
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M180	鎌	(3.9)	(5.0)	1.1	(23.5)	鉄	基部残存 端部上端折り返し		覆土下層		

第2267号住居跡 (第603・604図)

位置 調査区北西部のA10a0区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。



第603図 第2267号住居跡実測図



第604图 第2267号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 一辺4.90mの方形で、主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は50～58cmで、外傾して立ち上がっている。東西の耕作による攪乱で、壁・床・竈を掘り込まれている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅8～10cm、深さ6～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため遺存状態は非常に悪い。遺存している袖部は幅95cmで、床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を26cm掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化しており、支脚として使用していた土師器甕が出土している。煙道部は壁外へ75cm掘り込まれ、立ち上がりは攪乱を受けているため不明である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック微量 | 15 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 9 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 18 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| | | 19 暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 |

ピット 6か所。P1～4は主柱穴で、深さは51～68cmである。P5は深さ40cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 10層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片574点（高台付椀7、甕類567）、須恵器片479点（坏282、高台付坏18、皿1、蓋47、高盤1、甗1、壺類16、瓶類1、甕類101、甌11）、石器1点（砥石）、土製品2点（不明）、鉄器3点（刀子、鎌、鑿）のほか、混入した縄文土器片1点、古墳時代の土師器片36点、中世以降の陶器片7点、磁器片1点も出土している。982は竈の火床面から攪乱を受けた状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたと考えられる。977はP5の覆土上層、984は西壁際の床面、979は北東部の覆土上層から南壁際の床面にかけてそれぞれ出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。また、M181が西壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2267号住居跡出土遺物観察表（第604図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
977	須恵器	坏	[12.9]	4.4	6.6	長石・石英・雲母・小礫	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ドーナツ状に一方ヘラ削り	P5覆土	55%
978	須恵器	坏	[12.5]	3.5	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	不良	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	30%
979	土師器	高台付坏	13.5	6.0	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 高台貼付	覆土上～床面	60% 油煙付着
980	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	9.8	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 高台貼付	床面	30%
981	須恵器	長頸壺	8.8	(12.0)	-	長石・黒色粒子	褐灰	普通	頸部から体部にかけて自然釉付着 頸部・体部内外面口口ロナデ	覆土上～下層	15%
982	土師器	甕	14.8	18.5	7.9	長石・石英・雲母	にぶい褐灰	普通	体部中央から下端にかけて横位のヘラ削り 体部下端ナデ 内面ヘラナデ ナデ	竈覆土	60% 支脚転用
983	須恵器	甕	[31.5]	(6.0)	-	長石・雲母	灰	普通	口辺部外面から内面への穿孔有り 体部横位平行叩き	覆土下～床面	5%
984	須恵器	甌	-	(16.5)	[15.3]	長石・雲母	黄灰	普通	体部斜位平行叩き 体部下端ヘラ削り 外面から内面への穿孔有り 内面ナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M181	刀子	(12.2)	0.8	0.7	(14.2)	鉄	ほぼ完形 茎部木質部付着	覆土中層	PL198
M182	鎌	(5.1)	1.8	0.5	(8.6)	鉄	刃部のみ残存	覆土上層	
M183	鑿カ	(3.2)	2.3	0.4	(11.1)	鉄	刀身部のみ残存	覆土上層	

第2269 A号住居跡 (第605図)

位置 調査区北部のA11i5区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 本住居から第2269 B・C号住居へと建て替えられ, 第308号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸3.96m, 南北軸は推定3.30mの長方形で, 主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は9 ~ 19cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は確認できない。

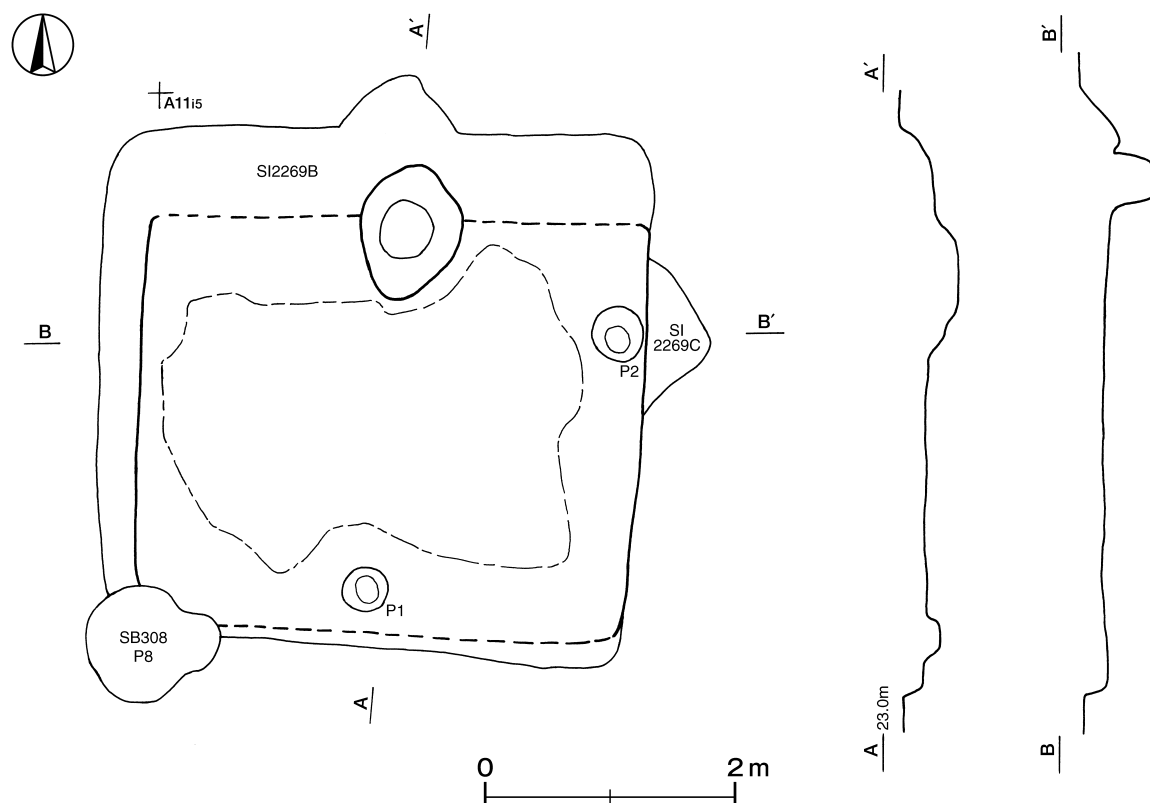
竈 北壁中央部に位置し, 第2269 B号住居の床面下から竈の掘り方が確認された。竈掘り方の覆土には焼土粒子や砂質粘土粒子が少量含まれている。

ピット 2か所。P1は深さ9cmで, 竈の掘り方と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットであると考えられる。P2の性格は不明である。最も新しい第2269 C号住居で機能していた竈の掘り方より低い位置から確認されている。

覆土 確認された覆土はすべて第2269 B・C号住居に帰属するものである。

遺物出土状況 竈掘り方の覆土中から土師器片10点(甕類)が出土しているが, すべて細片であり図化できない。

所見 本跡は北壁・西壁部分を拡張する以前の住居であり, P2がローム土で埋められている。時期は出土土器が少なく明確にし得ないが, 第2269 B号住居の年代観から見て, ほぼ同時期の9世紀前葉と考えられる。

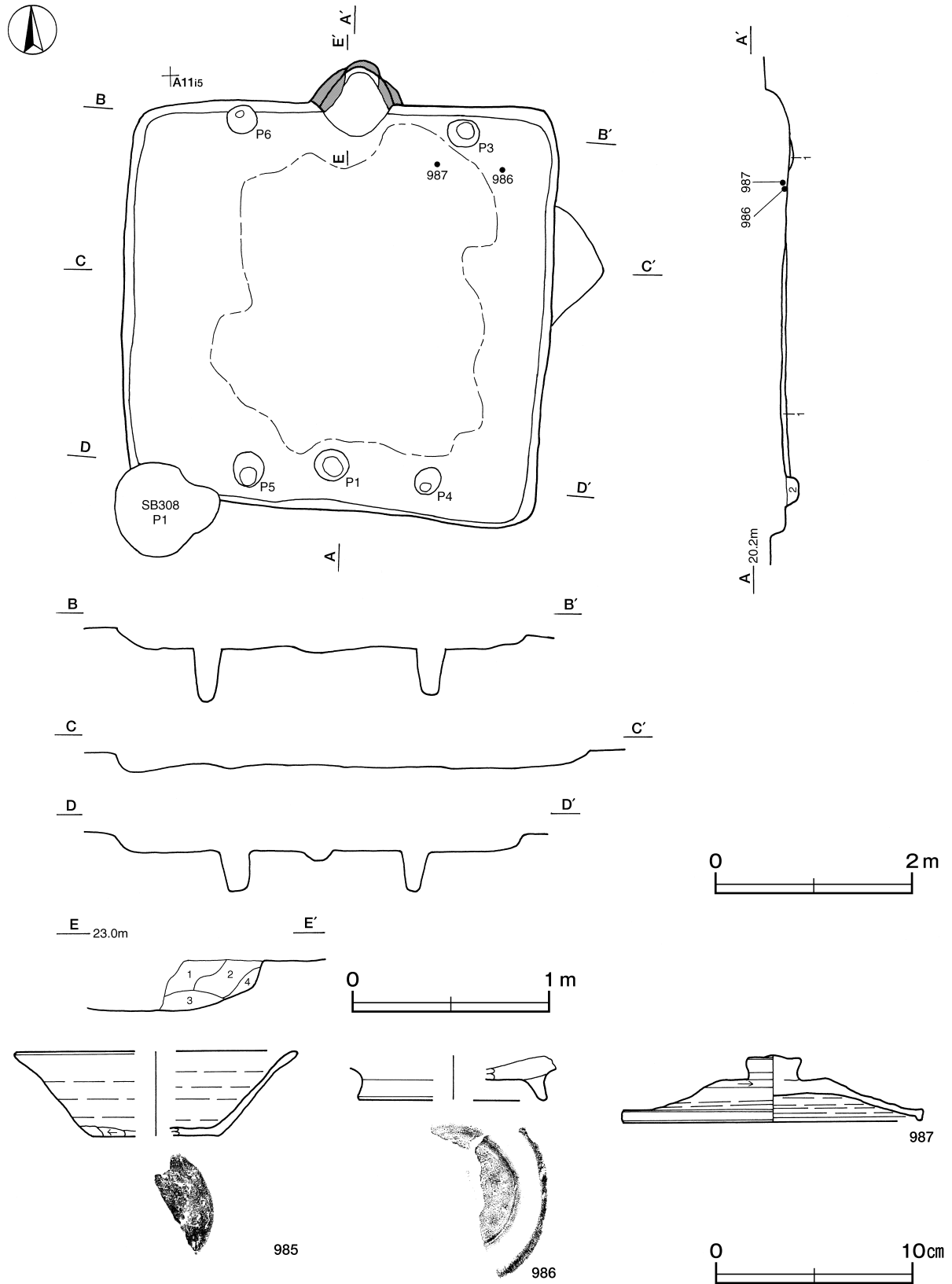


第605図 第2269 A号住居跡実測図

第2269 B号住居跡 (第606図)

位置 調査区北部のA11 i 5区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2269 A号住居が建て替えられた住居であり, 第308号掘立柱建物に掘り込まれている。



第606図 第2269 B号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸4.30m，短軸4.10mの方形で，主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は9～19cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認できない。

竈 北壁の中央部に付設されている。第2269C号住居への建て替えの際に埋め戻されているため，袖部や焚口部は遺存していない。煙道部は壁外へ半円状に31cm掘り込まれ，床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|----------------------------------|---|------|----------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，
ローム粒子微量 | 3 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 | 赤褐色 | 焼土粒子中量，炭化物・砂質粘土粒子少量 | 4 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P3～P6は支柱穴で，深さは40～53cmである。P1は出入口施設に伴うピットと考えられ，建て替え前と同じピットが使用されたと考えられる。

覆土 2層に分けられる。第1層はローム粒子を主体とした貼床の構築土に相当し，第2層はP1の覆土である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|----|---------------------|---|-----|----------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
|---|----|---------------------|---|-----|----------------|

遺物出土状況 土師器片49点（蓋2，甕類47），須恵器片37点（坏17，高台付坏2，蓋10，甕類8）のほか，混入した古墳時代の土師器片2点も出土している。985は竈の覆土内と覆土下層から出土した破片が接合し，986は北東部の床面と貼床から出土した破片が接合し，987は北東部中央寄りの床面から出土している。3点の遺物は出土状況から，第2269C号住居への拡張時に埋められ，廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2269B号住居跡出土遺物観察表（第606図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
985	須恵器	坏	[14.2]	4.3	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	竈覆土下層	25%
986	須恵器	高台付坏	-	(2.3)	[9.6]	長石・石英・雲母	オリブ黒	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面～貼床	5%
987	須恵器	蓋	15.2	3.4	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部左方向ヘラ削り後つまみ接合 つまみ径2.7cm つまみ高1.1cm	床面	60% PL167

第2269C号住居跡（第607・608図）

位置 調査区北部のA11i5区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2269B号住居が建て替えられた住居であり，第308号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m，短軸4.10mの方形で，主軸方向はN - 94° - Eである。壁高は9～19cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認できない。

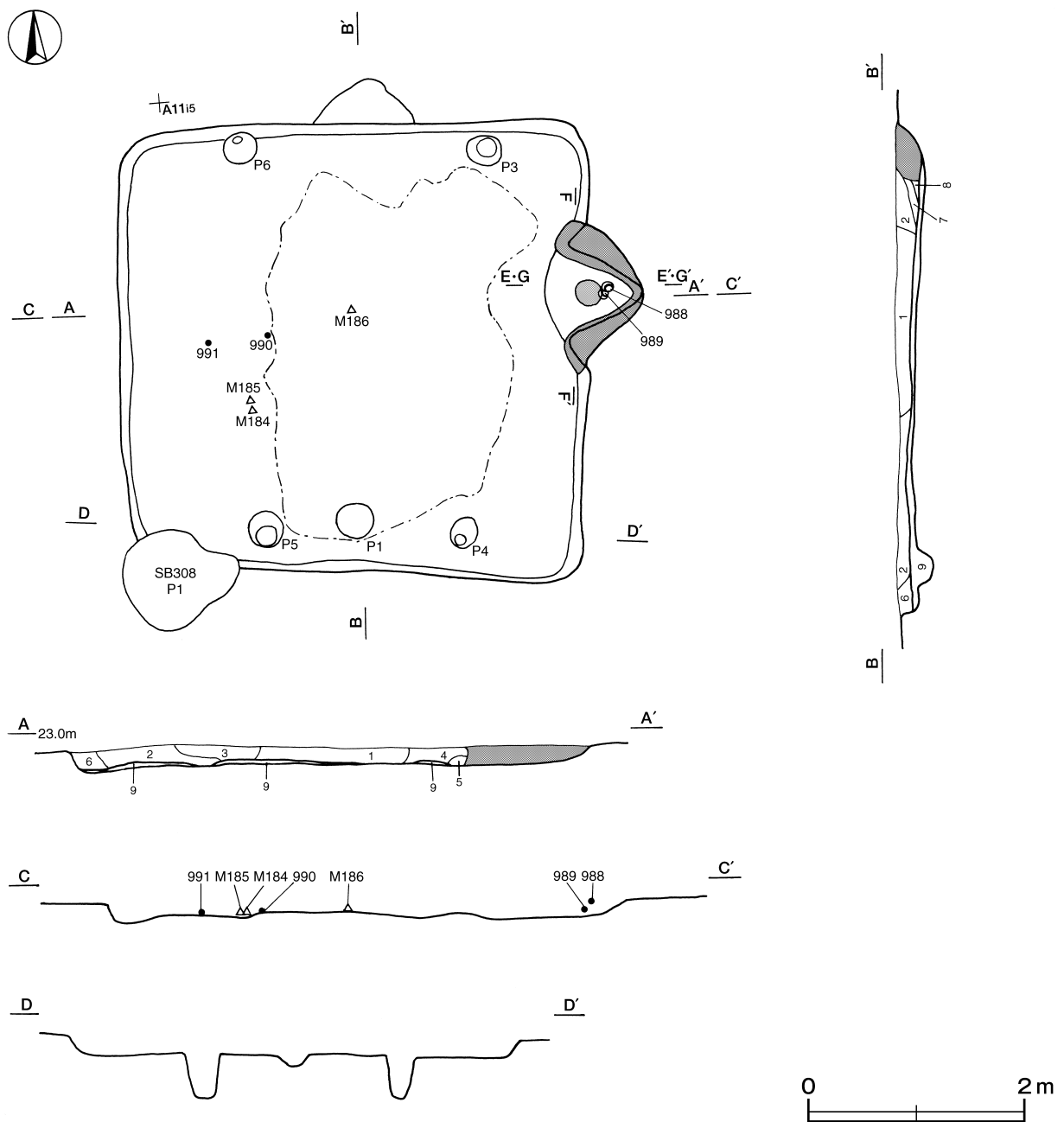
竈 東壁のやや北寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで91cm，袖部幅142cmである。袖部は床面より若干高い位置まで埋土したローム土を中心として，その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。竈内から須恵器坏が重なった状態で出土し，火を受けていることから，支脚として使用されていたと考えられる。火床部は床面を7cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ56cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

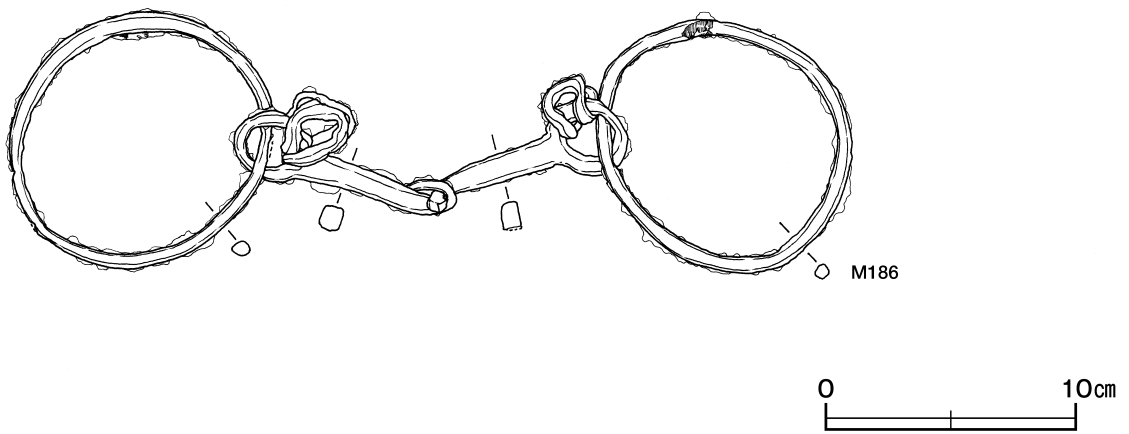
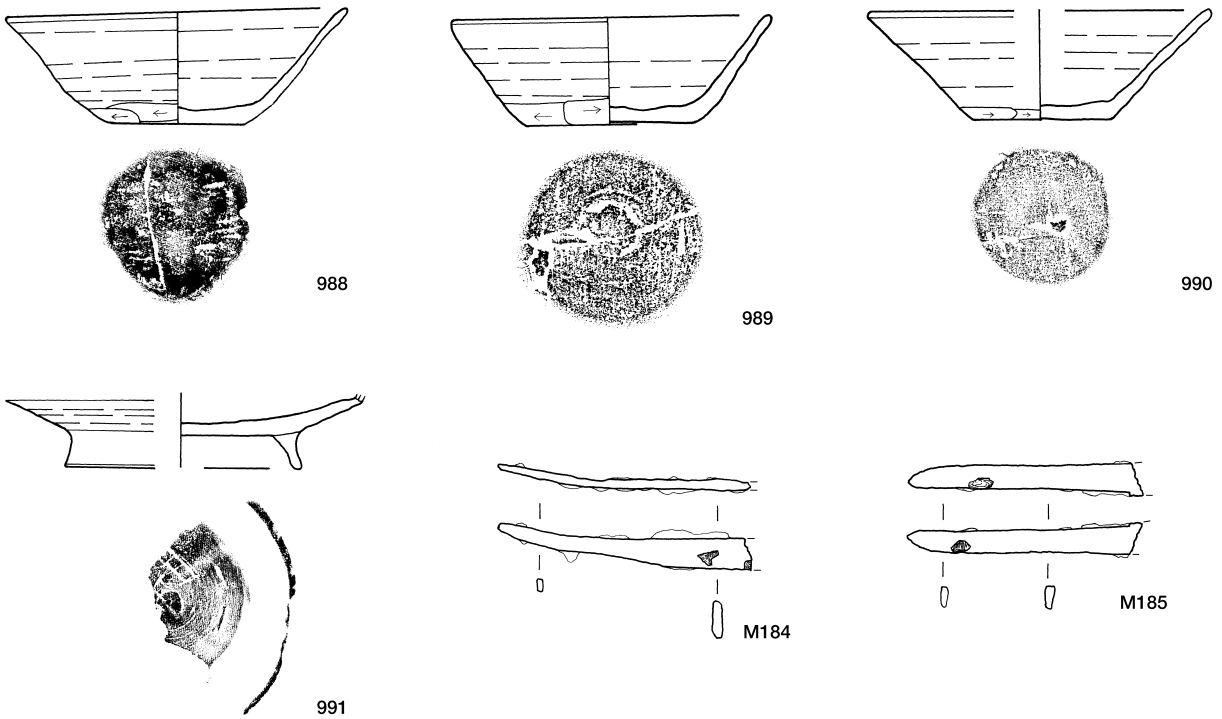
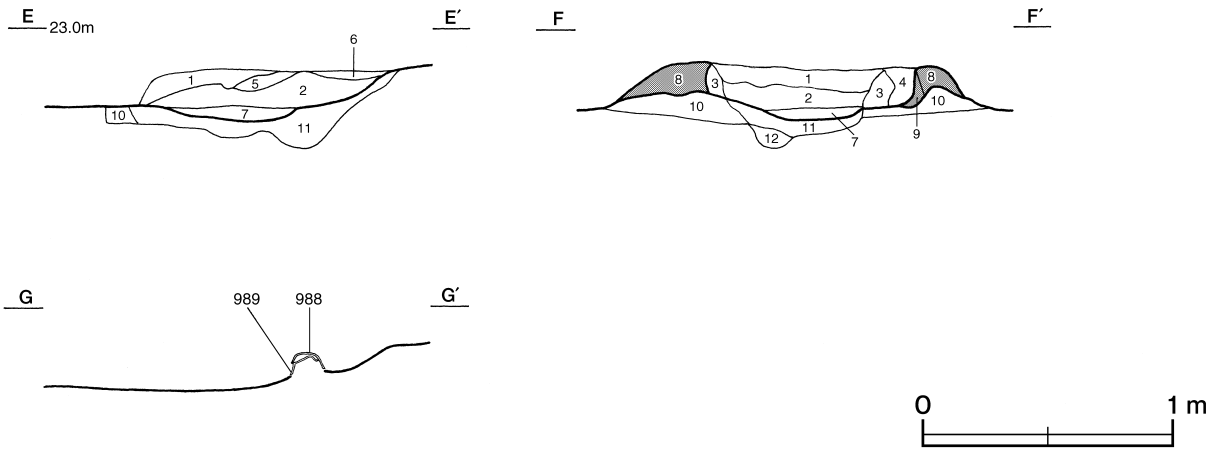
- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量,焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量,焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量,ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 11 暗褐色 | ローム粒子少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |

ピット 4か所。第2269 B号住居跡で機能していたP3～P6を、主柱穴として利用していたと考えられる。また、P1は上面に床が貼られていることから、機能していない柱穴として判断した。

覆土 9層に分けられる。レンズ状に堆積している状況を示しているが、覆土が薄いため詳細は不明である。なお、第9層はローム粒子を主体とした貼床の構築土である。



第607図 第2269 C号住居跡実測図



第608图 第2269 C号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片414点(坏9, 甕類403, 甑2), 須恵器片325点(坏198, 高台付坏4, 盤1, 蓋11, 長頸壺1, 甕類107, 甑3), 鉄器・鉄製品4点(刀子3, 馬具1), 竈構築材として使用されていた礫12点, 粘土塊10点のほか, 混入した古墳時代の土師器片44点が出土している。竈の覆土内からは989の上に988が重なった状態で出土している。988は熱を受けている痕跡があり, 989も一部分が黒色化していることから, 支脚として使用されていたと考えられる。990・991は中央部西側の床面から出土しており, 廃絶後に廃棄されたと考えられる。M184・M185は中央部南西付近の床からやや浮いて出土し, M186は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 支脚として使用していた須恵器坏から, 9世紀中葉と考えられる。また, 県内の住居跡から馬具が出土した例としては, つくば市柴崎遺跡Ⅱ区第64号住居跡, 岩瀬町加茂遺跡第35号住居跡などがある。

第2269C号住居跡出土遺物観察表(第608図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
988	須恵器	坏	13.4	4.6	5.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	煙道部	75% 支脚 転用 PL165
989	須恵器	坏	12.7	4.3	6.7	石英・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	煙道部	60% 支脚 転用 PL165
990	須恵器	坏	[13.5]	4.4	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	50%
991	土師器	高台付坏	-	(3.0)	[9.1]	石英・雲母	橙	普通	体部内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	20% 刻書「正」

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M184	刀子	(10.0)	(1.2)	0.4	(12.3)	鉄	刃先・茎部欠損 茎部木質部付着	覆土下層	
M185	刀子	(9.3)	(1.2)	0.3	(10.2)	鉄	茎部欠損	覆土下層	

番号	器種	装具	鏡板環径	銜の長さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M186	馬具	轡	左33.6 右31.4	左8.8 右8.2	207.5	鉄	環状鏡板付轡 鏡板に残存した皮が錆付いている 脚金欠損	床面	PL197

第2270号住居跡(第609・610図)

位置 調査区北部のA11i8区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.28m, 短軸3.02mの方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁高は21~30cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には, 幅5~12cm, 深さ11~23cmで, U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで102cm, 袖部幅は105cmである。袖部は地山を掘り込み, 砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を23cm掘りくぼめており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ50cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。第6層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

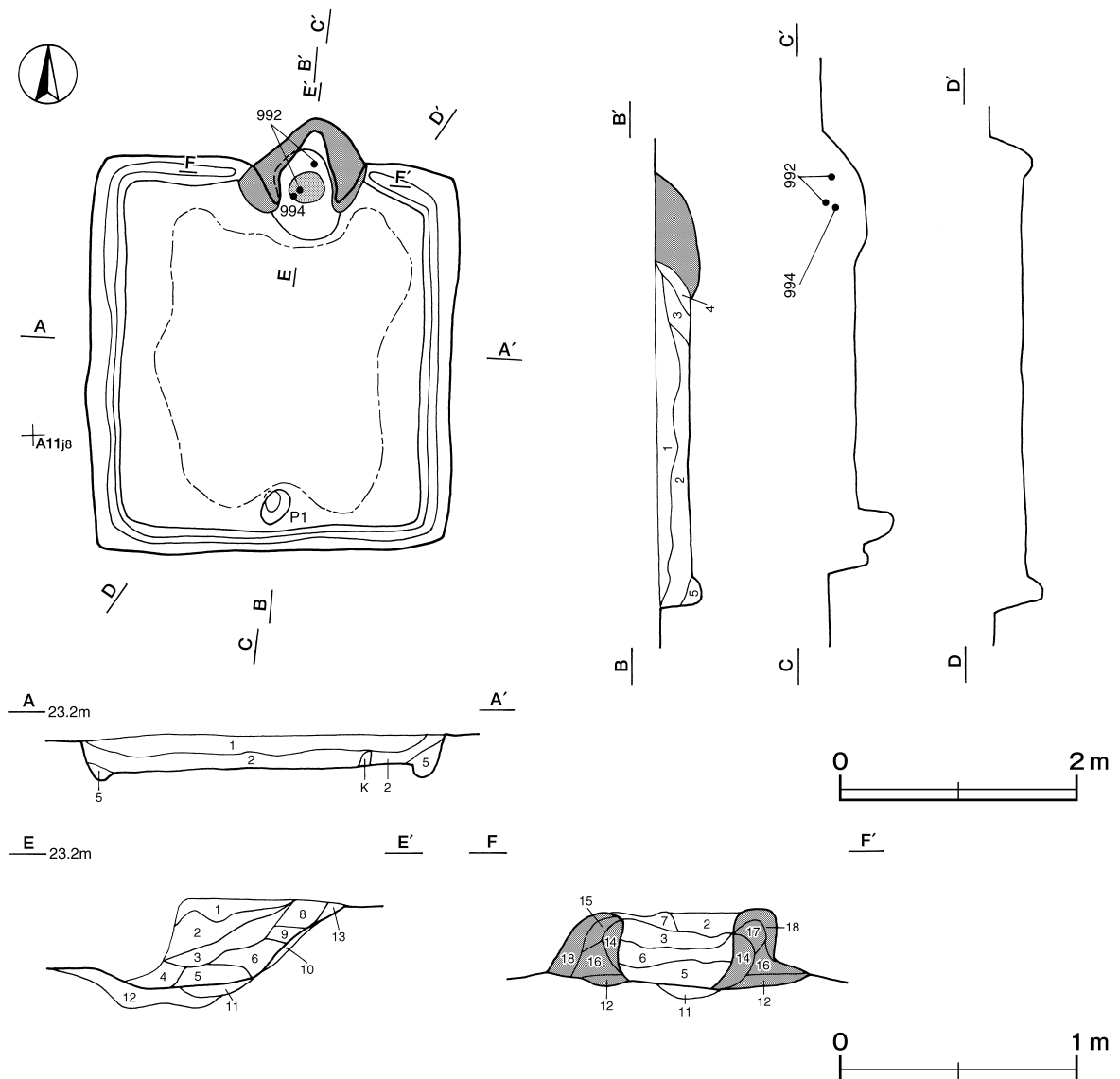
- | | | | |
|----------|---------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 明赤褐色 | 灰中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 極暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 15 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 16 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| | | 17 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| | | 18 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |

ピット 深さ30cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

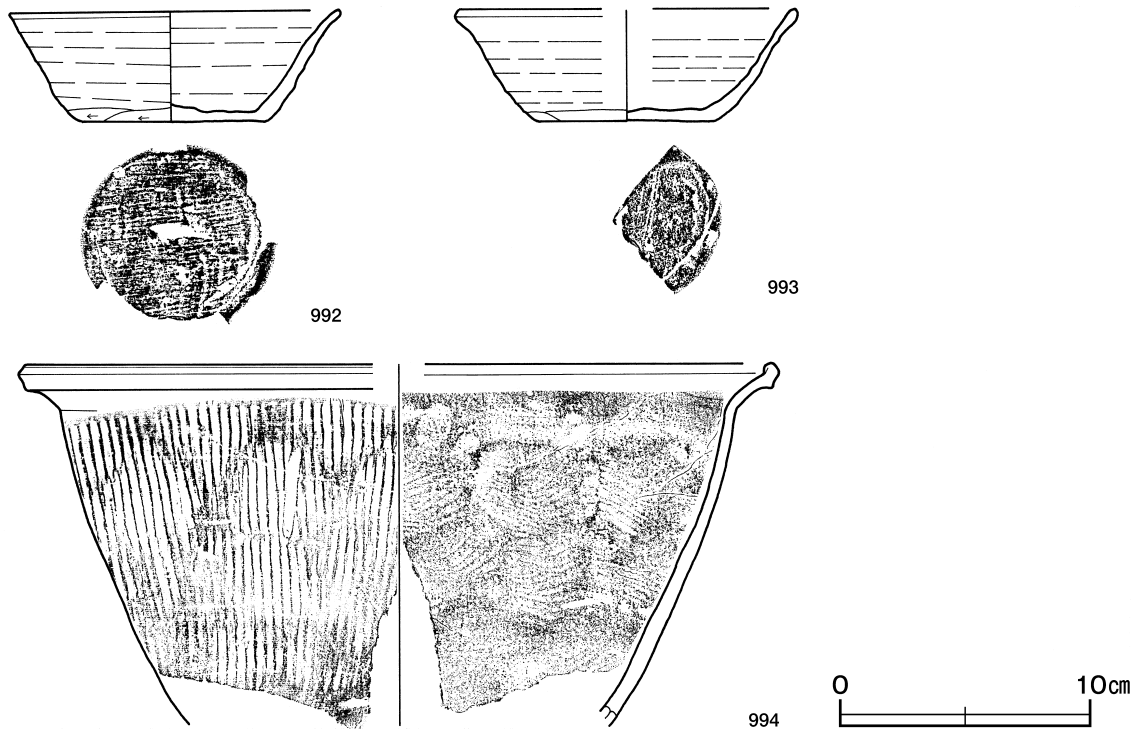
覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |



第609図 第2270号住居跡実測図



第610図 第2270号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片217点（甕類215，甑2），須恵器片107点（坏62，高台付坏5，高台付皿2，蓋4，甕類33，甑1）のほか，混入した古墳時代の土師器片18点，中世以降の陶器片3点も出土している。992・994は竈の第6層上，993は北東部の覆土下層から出土しており，それぞれ廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2270号住居跡出土遺物観察表（第610図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
992	須恵器	坏	12.9	4.4	7.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	竈覆土	50%
993	須恵器	坏	13.4	4.4	[7.0]	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	25%
994	須恵器	甕	[30.0]	[14.2]	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面縦位平行叩き 内面ヘラナデ 当て具痕 指頭痕	竈覆土	10%

第2271A号住居跡（第611図）

位置 調査区北部のB11a7区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2271B号住居の建て替え前の住居であり，北壁と西壁は第2271B号住居の拡張により遺存していない。

規模と形状 北壁と西壁は拡張，南壁は攪乱を受けているため遺存していないが，長軸3.5m，短軸2.9mの長方形と推定され，主軸方向はN - 3° - Wである。遺存する壁の壁高は42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 凹凸であるが，壁際を除いて踏み固められており，厚さ1～4cmの貼床が確認されている。中央部から北部にかけた壁下には，幅8～14cm，深さ6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

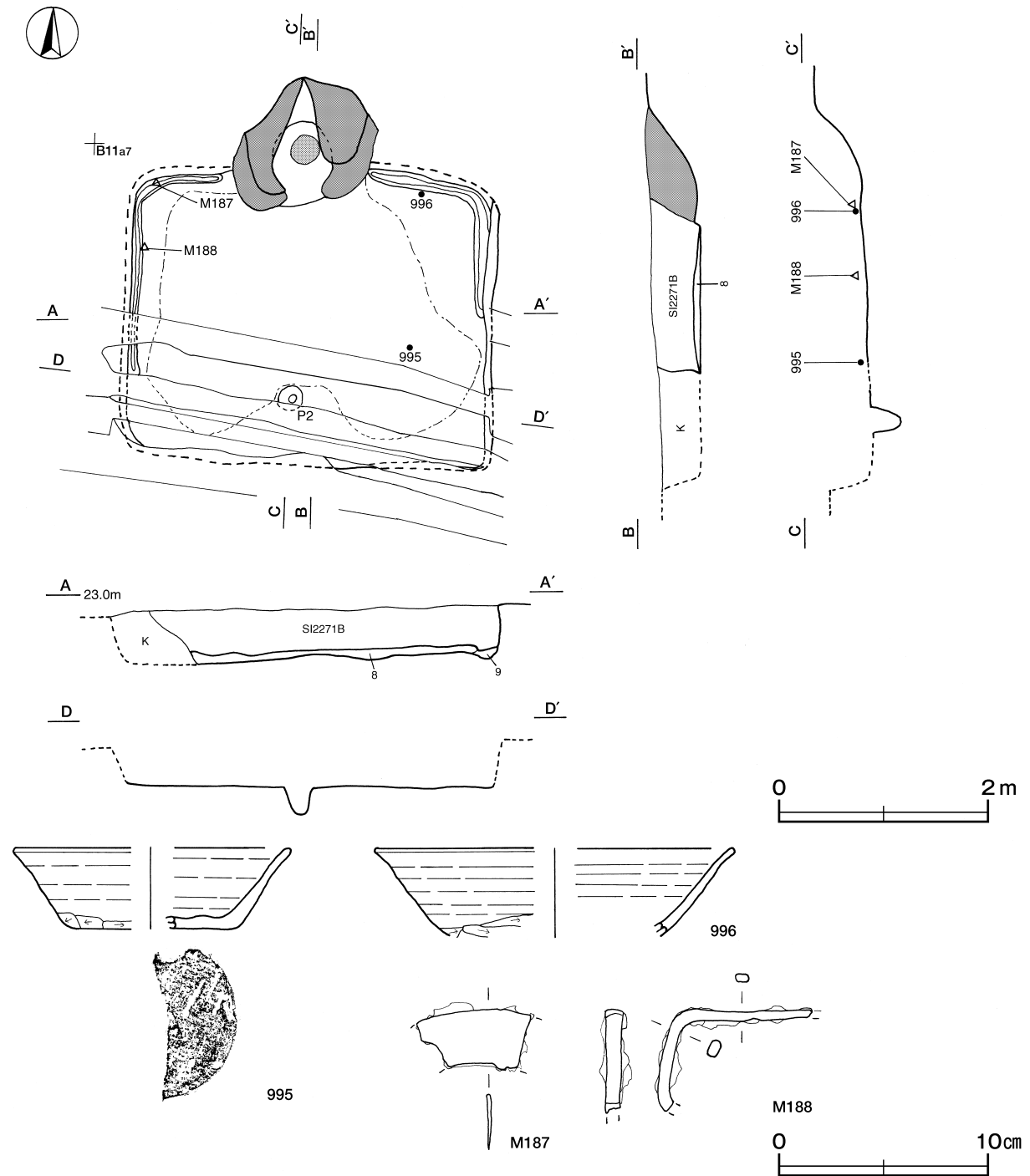
竈 北壁中央部に付設されている。確認されたものは修復されており，それ以前の竈は貼床の高さから，第14・15層が火床部，第17～20層が袖部の構築土層である。規模は，焚口部から煙道部まで123cm，袖部幅は128cm

である。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を4cm掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ49cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|---------|------------------------------|
| 14 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 15 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 19 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 17 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 20 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |

ピット P2は深さ25cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第611図 第2271 A号住居跡・出土遺物実測図

覆土 2層に分けられる。第8層はローム粒子を主体とした貼床の構築土で、第9層は壁溝の覆土である。

土層解説

8 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 9 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 第2271B号住居の第7層より下層から出土している遺物は、須恵器2点(坏), 鉄器・鉄製品2点(鎌, 釘)である。995は中央部東寄りの床面, 996は北東部の床面からそれぞれ破損した状態で出土しており, 第2271B号住居の床が貼られる際に混入したと考えられる。また, M187は北壁際の覆土下層, M188は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器が少なく明確ではないが, 第2271B号住居の年代観から見て, ほぼ同時期の9世紀中葉と考えられる。

第2271A号住居跡出土遺物観察表(第611図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
995	須恵器	坏	[12.7]	3.9	[8.0]	長石・石英・礫	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	35%
996	須恵器	坏	[16.8]	(4.2)	-	長石・石英・礫	褐灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り	床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M187	鎌	(5.5)	2.5	0.2	(13.1)	鉄	刃部のみ残存 外面焼土付着 熱を受けている	覆土下層	
M188	釘	(7.3)	(0.7)	0.8	(21.2)	鉄	頭部・下端部欠損 断面長方形 下端部やや曲がっている	床面	金具の可能性あり

第2271B号住居跡(第612・613図)

位置 調査区北部のB11a7区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2271A号住居が建て替えられた住居である。

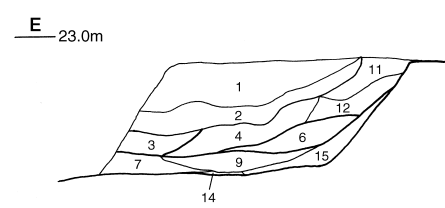
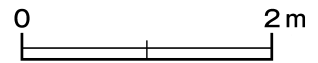
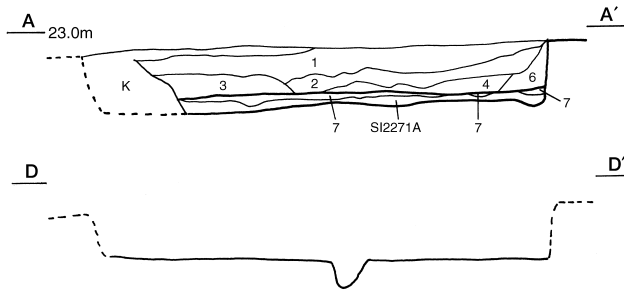
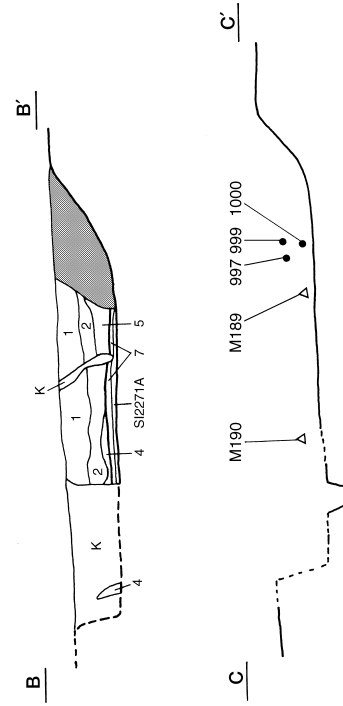
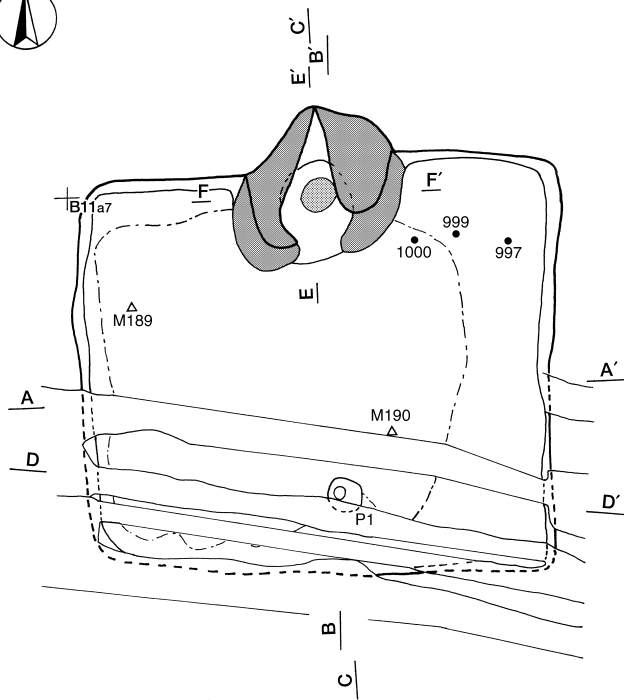
規模と形状 長軸3.75m, 短軸3.24mの長方形で, 主軸方向はN-3°-Wである。壁高は34~45cmで, 外傾して立ち上がっている。第2271A号住居跡の東壁と南壁はそのまま利用し, 北壁と西壁を拡張している。中央部から南部にかけて耕作による攪乱を受けているため壁や床の遺存状態は悪い。

床 ほぼ平坦で, 中央部から西側にかけて踏み固められている。また, 第2271A号住居跡のP2と壁溝は, 厚さ1~4cmの床が貼られた際に埋められている。

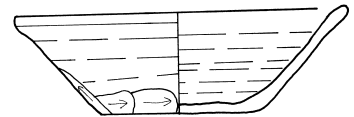
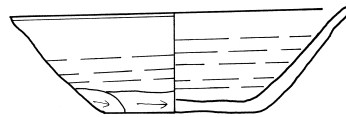
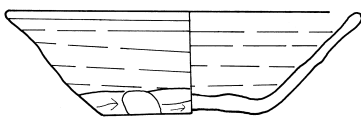
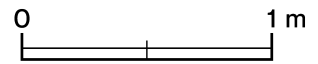
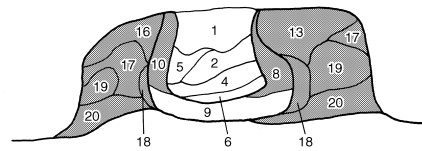
竈 北壁中央部に付設されている。第2271A号住居跡が機能していた時期の竈を利用しているため, 規模は拡張以前の竈と同一であり, 改修された部分は袖部と火床部である。袖部は天井部付近に第13層, 内壁に8・10層が充填されている。火床部は, 貼床の高さまで埋め戻した第7層を9cm掘りくぼめた第9層上に形成されており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。第2層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 暗 赤 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
2 暗 赤 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化物微量	10 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	11 黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
4 暗 赤 褐 色	焼土粒子・灰中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12 暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量
5 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
6 にぶい赤褐色	灰中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量		
7 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量		
8 暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量		



E' F



997



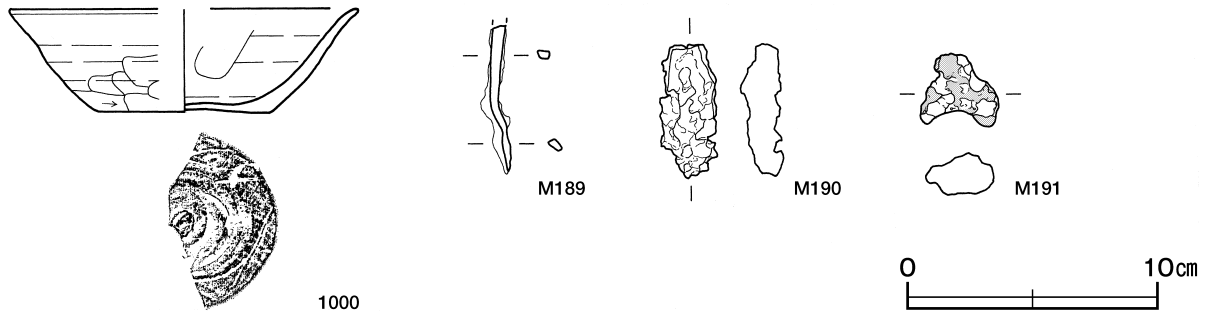
998



999



第612图 第2271 B号住居跡・出土遺物実測図



第613図 第2271 B号住居跡出土遺物実測図

ピット P1は深さ18cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第7層はロームブロックを主体とした貼り床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片442点（坏11，高台付椀1，甕類429，甑1），須恵器片276点（坏146，高台付坏5，蓋3，瓶類15，甕類107），鉄器・鉄製品3点（鎌1，釘2），鉄滓2点のほか、混入した古墳時代の土師器片24点，中世以降の磁器片1点も出土している。1000は竈右袖部の東側床面から出土し、廃絶に伴い廃棄されたと考えられる。北東部より997・999が覆土中層，998が覆土下層からそれぞれ出土し、廃絶後に廃棄されたと考えられる。また，M189は西壁際の覆土下層，M190は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2271 B号住居跡出土遺物観察表（第612・613図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
997	須恵器	坏	13.8	4.3	6.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	90% PL165
998	須恵器	坏	13.6	4.1	6.3	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	90% PL166
999	須恵器	坏	13.0	4.1	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	60%
1000	須恵器	坏	[13.5]	4.1	[6.8]	長石・石英・燐	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 内面ナデ	床面	40%

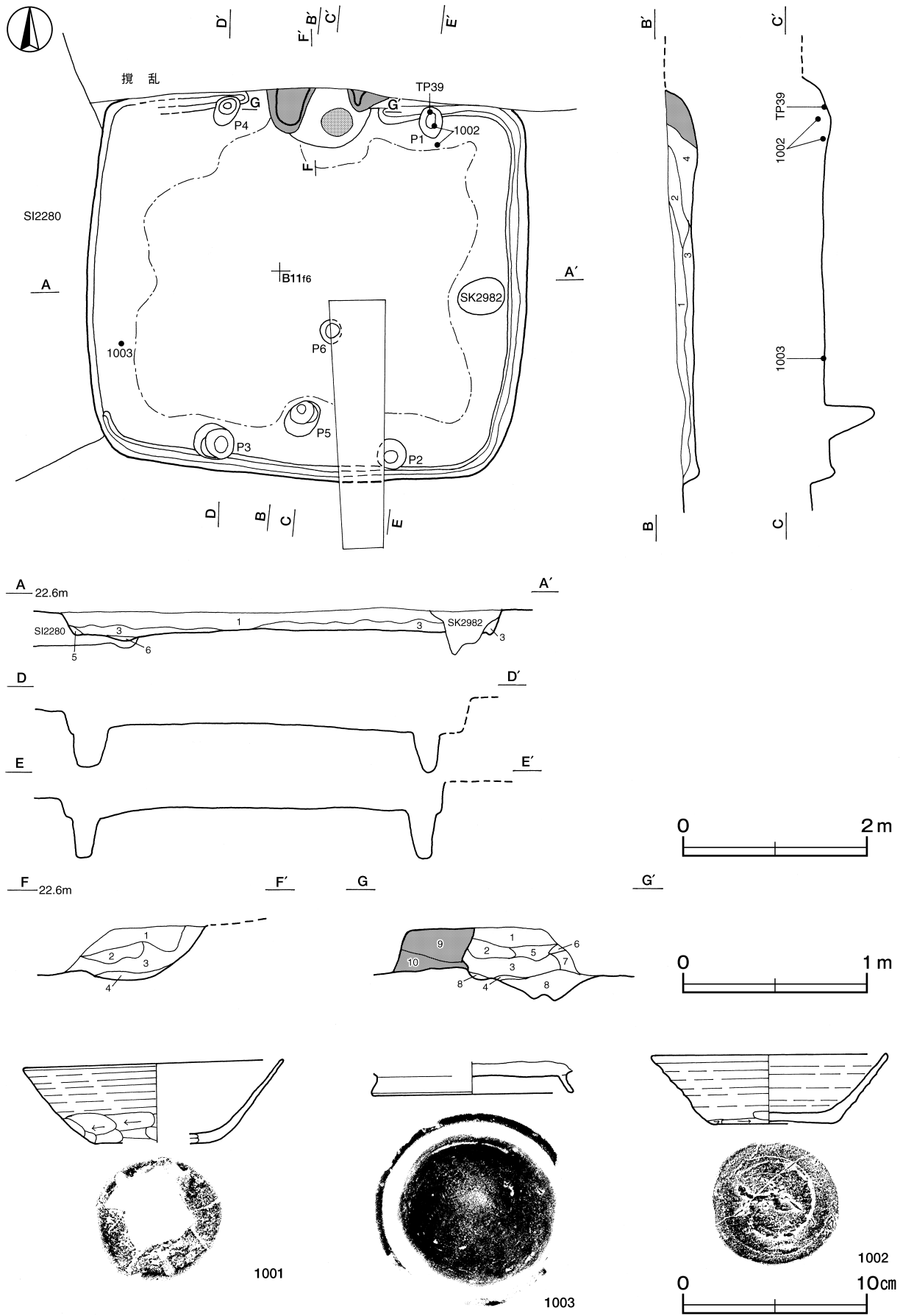
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M189	釘	(5.9)	0.6	0.3	(3.3)	鉄	頭部欠損 断面長方形 下端部ねじ曲がっている	覆土下層	
M190	鉄滓	5.3	2.3	1.6	20.3	鉄	外面焼土付着	覆土下層	
M191	鉄滓	2.9	3.1	1.7	12.8	鉄	椀状滓 外面焼土付着	覆土下層	

第2281号住居跡（第614・615図）

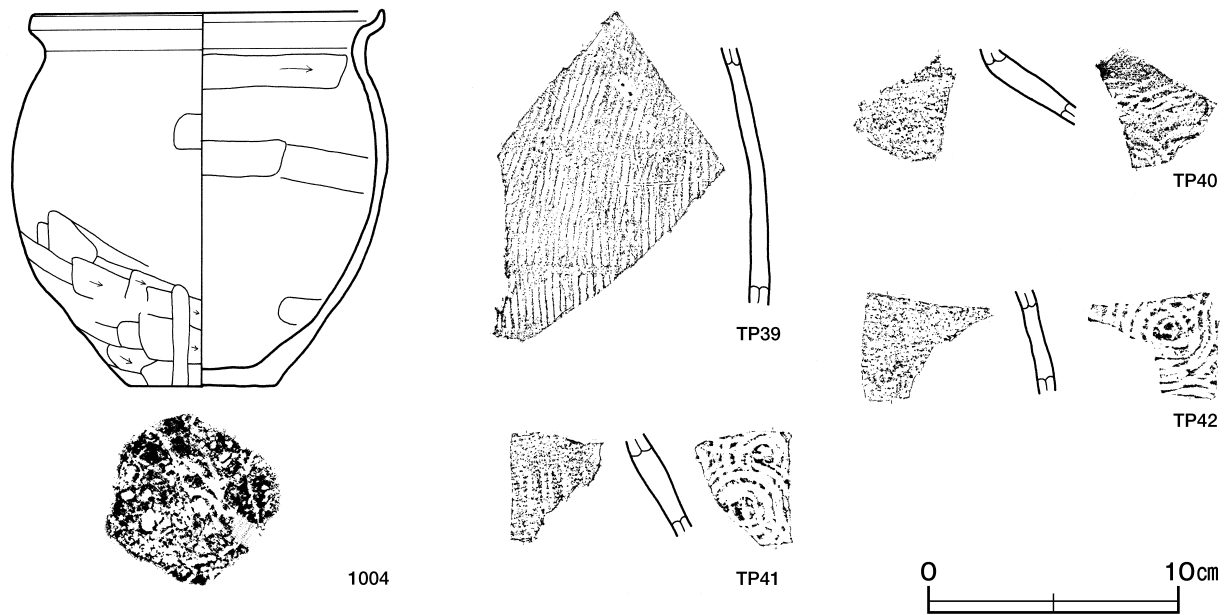
位置 調査区中央部のB11f6区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2280号住居跡を掘り込み，第2982号土坑に掘り込まれている。また，北壁と竈煙道部が，東西の耕作による攪乱によって壊されている。

規模と形状 長軸4.72m，短軸4.22mの長方形で，主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は20～37cmで，外傾して立ち上がっている。



第614图 第2281号住居跡・出土遺物実測図



第615図 第2281号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、西部の一部から厚さ4cmの貼床が確認されている。西部を除いた壁下には、幅10~17cm、深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、煙道部が攪乱によって壊されている。袖部は、幅130cmで、床面より若干高く掘り残した地山を基部とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 にぶい褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック微量
2 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化物少量、ローム粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10 灰褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量

ピット 6か所。P1~P4は支柱穴で、深さは42~52cmである。P5は深さ52cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。

覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第6層はローム粒子を主体とした貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片589点(坏29, 蓋1, 甕類559), 須恵器片246点(坏83, 高台付坏4, 蓋2, 瓶類2, 甕類155), 灰釉陶器片1点(壺類), 石器2点(砥石)のほか、混入した古墳時代の土師器片53点, 中世以降の陶器片6点, 磁器片1点も出土している。1001・1004は竈覆土から破損した状態で出土しており、廃絶時に廃棄されたと考えられる。1002は床面とP1覆土から出土した破片が接合し、TP39はP1覆土から出土しており、廃絶後に廃棄されたものと考えられる。1003は西壁中央部付近の床面から出土し、底部と内底が研磨されて墨痕が若干残されていることから、硯として転用されていたと考えられる。また、TP40~TP42は、北東部の覆土上層から下層にかけて破片の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2281号住居跡出土遺物観察表（第614・615図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1001	須恵器	坏	13.9	4.5	6.4	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部下端へら削り 底部端に沿ってナデ 火を受けている	竈覆土	85% 支脚 転用 PL166
1002	須恵器	坏	12.7	3.8	6.7	長石・雲母	灰白	普通	体部下端へら削り 底部回転へら切り後一方のへら削り 体部内面一部へら削り	床面 P1覆土	85% PL166
1003	須恵器	高台付坏	-	1.7	10.8	長石・石英・雲母	灰	良好	回転へら切り後高台貼り付け 底部はよく研磨され内底の一部も研磨されている 底部・内底墨付着	床面	10% 転用硯
1004	土師器	小形甕	13.9	14.9	6.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面へらナデ 下端横方向のへら削り後一部ナデ 外面火を受けており粘土付着	竈覆土	85% 支脚転用
TP39	須恵器	甕	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位平行叩き 内面ナデ	P1覆土	へら記号「x」
TP40	須恵器	甕	-	(3.1)	-	長石・黒色粒子・小礫	暗灰黄	普通	体部外面力キ目調整 自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土上層	
TP41	須恵器	甕	-	(4.5)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面力キ目調整 格子状叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	
TP42	須恵器	甕	-	(4.1)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土下層・壁溝覆土	

第2282号住居跡（第616図）

位置 調査区北部のA11b5区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2283号住居に掘り込まれている。また、東西の耕作による攪乱によって、南壁や竈中央部などが壊されている。

規模と形状 西壁中央部から南壁が遺存していないため、南北軸は推定で3.61m、東西軸3.30mの方形で、主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は34~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。西壁中央部から南壁を除く壁下には、幅10~20cm、深さ2~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設され、攪乱によって両袖部の一部と火床部の大部分が壊されている。規模は、焚口部から煙道部まで98cm、遺存している袖部幅は100cmである。袖部は床面より、14~18cm高く掘り残した地山を基部とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。煙道部は壁外へ35cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック微量 |
| | 7 暗褐色 ロームブロック微量 |

ピット 深さ32cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

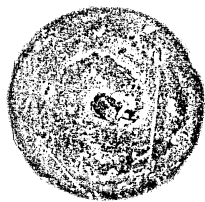
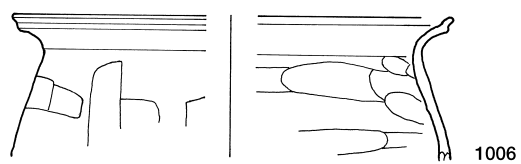
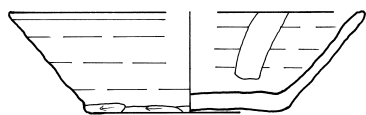
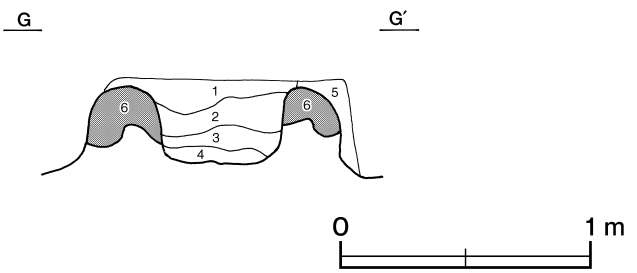
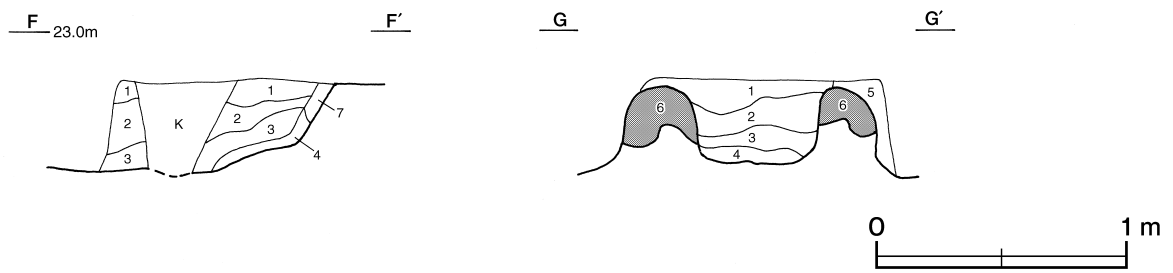
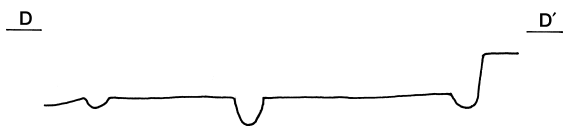
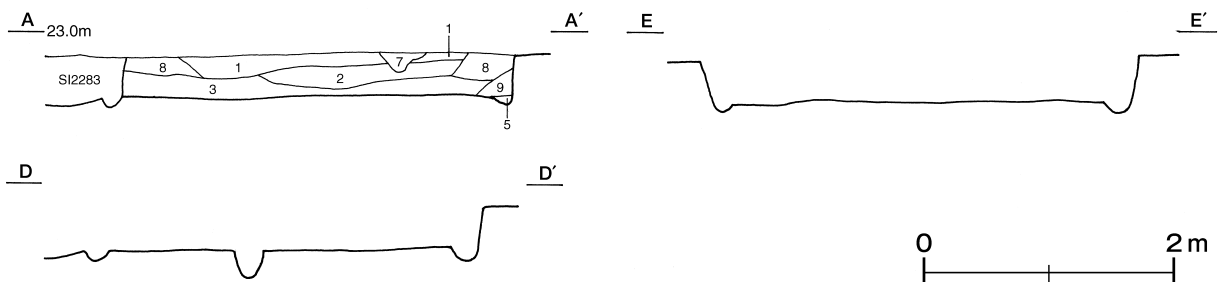
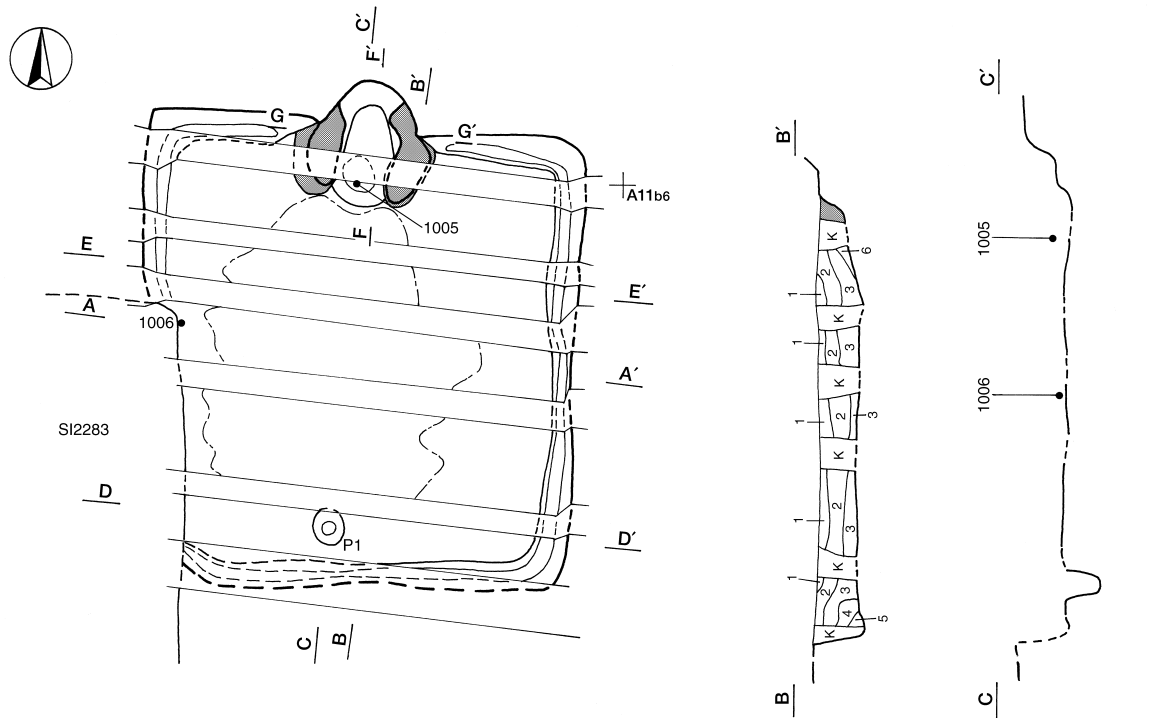
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 9 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片50点（甕類）、須恵器片67点（坏28、蓋2、瓶類2、甕類35）のほか、混入した古墳時代の土師器片7点も出土している。1005は竈覆土の第3層から逆位の状態で出土している。熱を受けていないため、廃絶時に廃棄されたと考えられる。1006は西壁際の床面から出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



1005



第616图 第2282号住居跡・出土遺物実測図

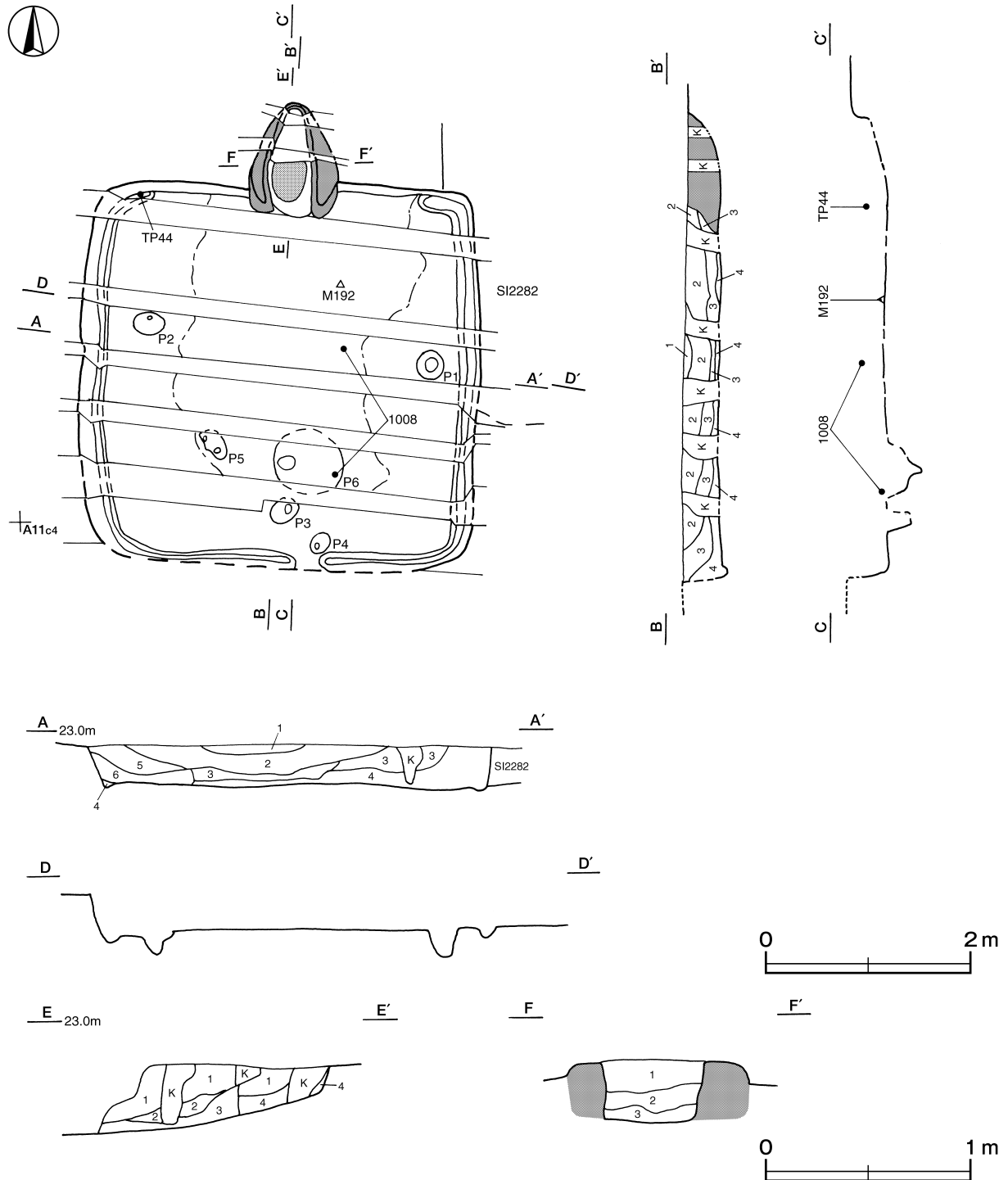
第2282号住居跡出土遺物観察表（第616図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1005	須恵器	坏	[13.8]	4.0	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端へら削り 内面口クロナデ後一部縦方向のナデ 底部回転へら切り後二方向のへら削り 底部指頭痕	竈覆土下層	50%
1006	土師器	甕	[17.4](5.7)	-	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面へらナデ	床面	10%

第2283号住居跡（第617・618図）

位置 調査区北部のA11b4区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2282号住居跡を掘り込んでいる。また，東西の耕作による攪乱を受けている。



第617図 第2283号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.82m，短軸3.72mの方形で，主軸方向はN - 3 ° - Eである。壁高は29～42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。攪乱を受けた部分を除いた壁下には，幅10～12cm，深さ3～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており，煙道部や中央部などが攪乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，袖部幅は86cmである。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ78cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第2層は，天井部の崩落土層である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |

ピット 6か所。P1とP2は主柱穴と考えられ，深さはそれぞれ29cm，23cmである。P3は深さ26cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P4～P6の性格は不明である。

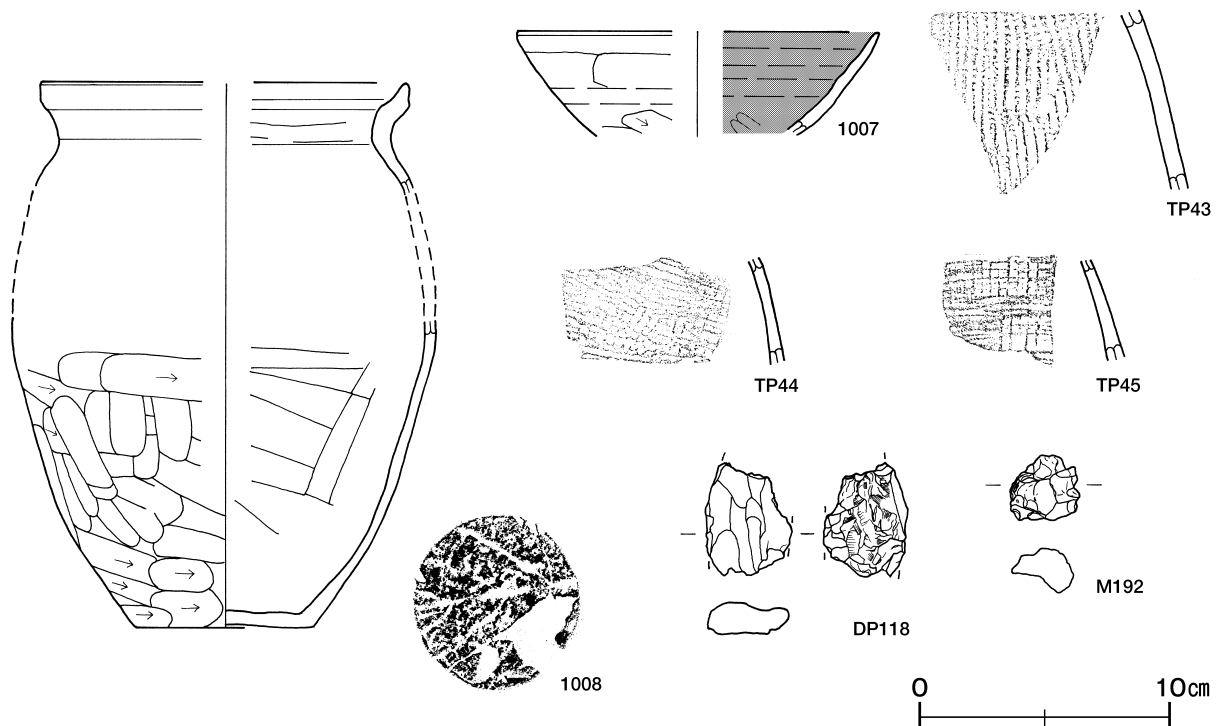
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片263点(坏8，甕類255)，須恵器片109点(坏27，高台付坏3，蓋1，壺類1，甕類77)，土製品1点(不明)，鉄製品1点(不明)，鉄滓1点のほか，混入した古墳時代の土師器片35点，中世以降の陶器片3点，磁器片3点も出土している。1007は南東部の覆土上層，1008は中央部や南東部の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したもので，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また，TP43は南西部の覆土下層，TP45は南西部の覆土中層，TP44は北西コーナー部の覆土中層，M192は中央部の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第618図 第2283号住居跡出土遺物実測図

第2283号住居跡出土遺物観察表（第618図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1007	土師器	坏	[14.4]	(4.1)	-	雲母	にぶい黄褐	普通	体部内外面口ロナデ 体部下端ヘラ削り 内面磨き	覆土上層	10%
1008	土師器	甗	[14.1]	[21.7]	7.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部中央部から下端にかけてヘラ削り 内面ナデ	覆土上～下層	25%
TP43	須恵器	甗	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面擬格子状叩き 内面ナデ	覆土下層	
TP44	須恵器	甗	-	(4.0)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面格子状叩き後ナデ 内面横ナデ	覆土中層	TP45と同一個体
TP45	須恵器	甗	-	(4.0)	-	長石・雲母	灰黄褐	普通	体部外面格子状叩き後ナデ 内面横ナデ	覆土中層	TP44と同一個体

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP118	不明	(4.5)	(3.5)	1.2	(16.4)	土（長石）	表面ヘラナデ 裏面火を受けており炭化物付着 多方向のヘラナデ 硬質	竈覆土内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M192	鉄滓	2.8	2.6	1.8	14.1	鉄	湾状滓 外面焼土付着	床面	

第2287号住居跡（第619図）

位置 調査区北部のA11c6区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 東西の耕作による攪乱によって，北壁が全壊し，竈中央部と北部以外の壁が一部壊されている。

規模と形状 推定長軸3.35m，短軸3.30mの方形で，主軸方向はN - 7° - Wである。壁高は8～15cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，厚さ10～16cmの貼り床が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されており，火床部と袖部が攪乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部まで84cm，袖部幅は93cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体に構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。また，第11層は貼床の構築土である層である。

竈土層解説

1 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 灰褐色 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 灰褐色 砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量	10 暗褐色 焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色 焼土ブロック少量，炭化物微量	13 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
7 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	14 灰褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
	15 灰黄褐色 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 深さ58cmで，竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。また，第9～12層は貼り床の構築土である。

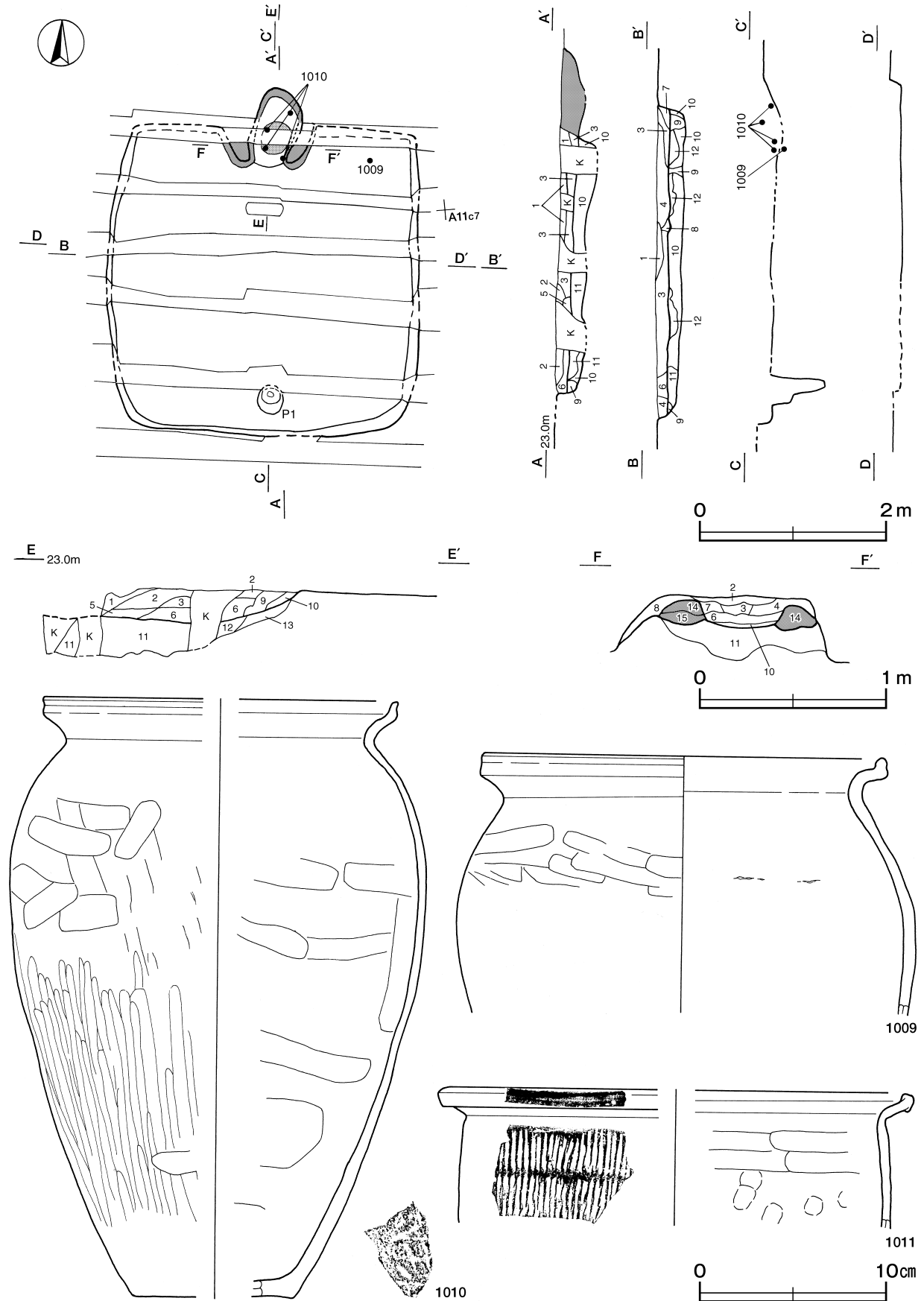
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量	7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量	8 褐色 ローム粒子少量
3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量	9 暗褐色 ローム粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量	10 褐色 ロームブロック中量
5 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量	11 暗褐色 ローム粒子少量
6 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量	12 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片137点（坏1，甗類136），須恵器片40点（坏19，瓶類4，甗類17）のほか，混入した古墳時代の土師器片3点，磁器片1点も出土している。1009は北東部の床面から逆位の状態で出土しており，体部中央から底部にかけては攪乱によって壊されているが，出土状況から遺棄されたと考えられる。1010は竈内で破損していた破片が接合した遺物で，廃絶時に遺棄されたと考えられる。また，1011は南東部の覆土下層

から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第619図 第2287号住居跡・出土遺物実測図

第2287号住居跡出土遺物観察表（第619図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1009	土師器	甕	21.4	(13.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラナデ	床面	20%
1010	土師器	甕	[19.0]	31.9	[8.5]	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内外面ナデ ヘラ磨き後一部ナデ	竈覆土内	30%
1011	須恵器	甕	[24.5]	(7.2)	-	長石・雲母	にぶい黄灰	普通	体部外面縦位平行叩き後横ナデ 内面ナデ 指頭痕	覆土下層	5%

第2288号住居跡（第620図）

位置 調査区北西部のA11c8区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 大部分が調査区域外のため，確認できた範囲は南部のみである。

規模と形状 確認されている部分での東西軸は6.80m，南北軸は2.00mであり，主軸方向はN - 18° - Eである。壁高は17～22cmで，外傾して立ち上がっている。

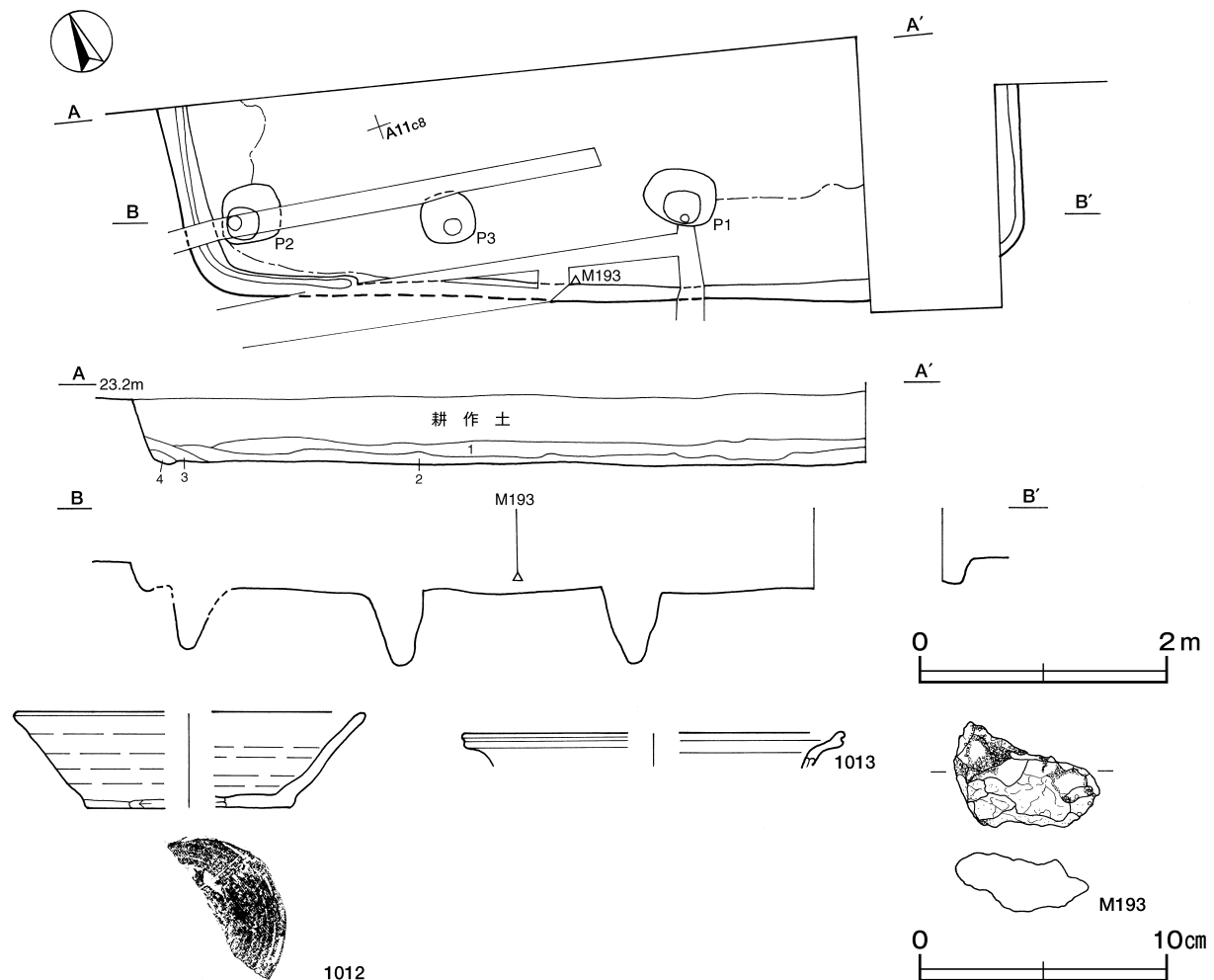
床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で，深さはそれぞれ55cmと49cmである。P3は深さ56cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物中量，ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第620図 第2288号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片68点(甕類), 須恵器片43点(坏23, 壺1, 甕類18, 甌1), 鉄滓1点のほか, 混入した古墳時代の土師器片4点, 中世以降の陶器片10点, 磁器片6点も出土している。1012は西部の覆土上層, 1013は覆土下層からそれぞれ出土しており, 廃絶後に廃棄されたと考えられる。また, M193は, 南壁際の覆土上層から出土している。

所見 南部のみの調査で遺構の全容は不明であるが, 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2288号住居跡出土遺物観察表(第620図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1012	須恵器	坏	[14.0]	3.9	[8.0]	長石・雲母	灰	普通	体部下端へら削り 底部回転へら切り	覆土上層	20% 底部へら記号「-」
1013	土師器	甕	[15.0]	(1.5)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M193	鉄滓	4.2	5.8	2.4	46.9	鉄	外面一部融解した後固まっている 炭化した痕跡有り 焼土付着	覆土上層	

第2292号住居跡(第621・622図)

位置 調査区北部のB11e9区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2293・2306号住居跡を掘り込み, 第3005号土坑に掘り込まれている。また, 左袖部と南壁の一部が耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸6.38m, 短軸4.86mの長方形で, 主軸方向はN-10°-Eである。壁高は41~47cmで, 外傾して立ち上がっている。

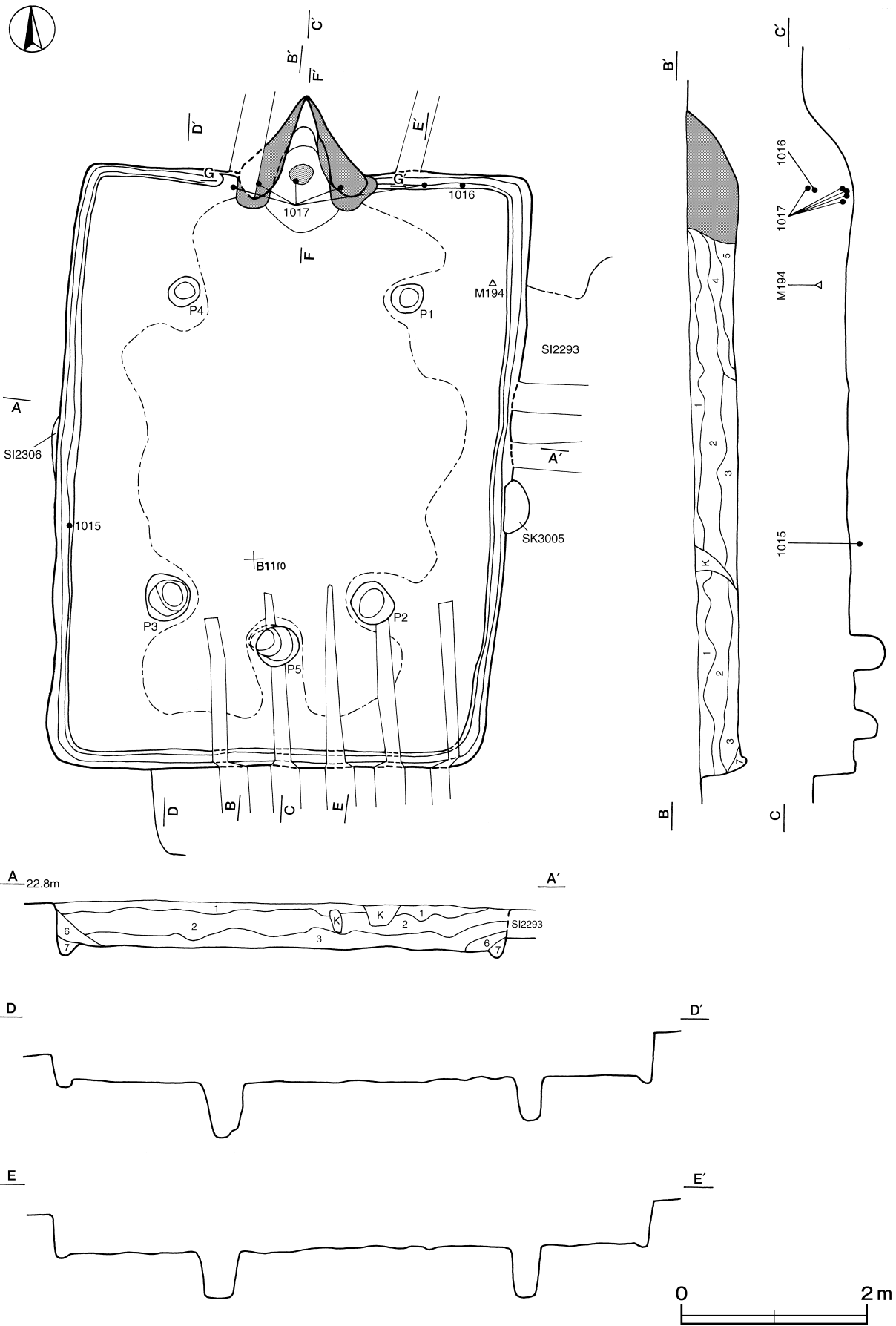
床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅10~17cm, 深さ2~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで145cm, 袖部幅は149cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部とし, その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を18cm掘りくぼめ, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ84cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。第4・8・9層は, 天井部の崩落土層である。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13	灰褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化物微量	15	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	16	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6	灰褐色	灰中量, 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量	17	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	18	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
8	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	19	暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
9	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量			
10	暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量			
11	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量			

ピット 5か所。P1~P4は支柱穴で, 深さは48~67cmである。P5は深さ53cmで, 竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。



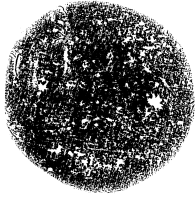
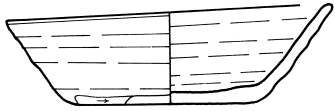
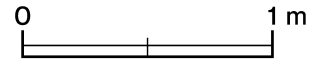
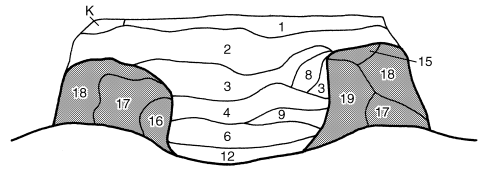
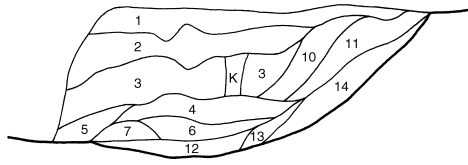
第621图 第2292号住居跡実測图

F 22.8m

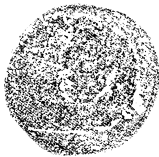
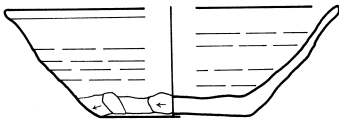
F'

G

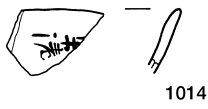
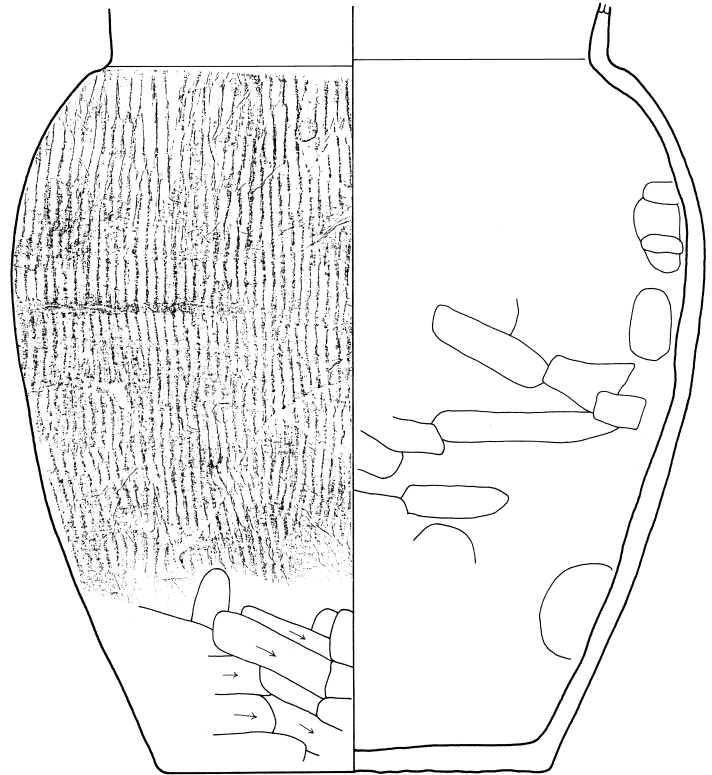
G'



1015



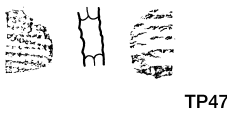
1016



1014



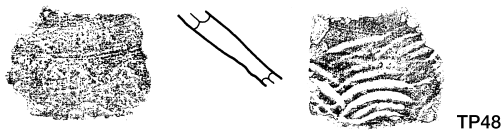
TP46



TP47



TP49



TP48



1017



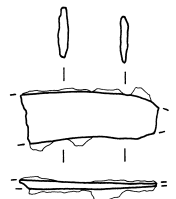
TP50



TP51



TP52



M194



第622图 第2292号住居跡・出土遺物実測図

覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片893点（坏25，高台付椀2，皿1，甕類864，甑1），須恵器片398点（坏173，高台付坏3，高台付皿1，蓋7，瓶類3，甕類200，甑11），鉄器・鉄製品3点（鎌1，不明2），鉄滓1点のほか，混入した古墳時代の土師器片226点，中世以降の瓦質土器片12点，陶器片15点，磁器片11点も出土している。1015は西部の壁溝底からほぼ完形の状態で，1017は竈周辺で出土した破片が接合したもので，それぞれ廃絶時に廃棄されたと考えられる。1014は覆土下層から破損した状態で出土し，体部外面に墨書が認められる。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2292号住居跡出土遺物観察表（第622図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1014	土師器	坏	-	(2.6)	-	長石・雲母	橙	普通	内面黒色処理	覆土下層	5% 墨書「田部口」カ PL188
1015	須恵器	坏	12.6	4.4	7.3	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部下端へら削り 底部多方向へら削り	壁溝底	90% PL166
1016	須恵器	坏	[13.1]	4.3	6.2	長石・雲母・黒色粒子・礫	灰白	普通	体部下端へら削り 底部回転へら切り後二方向へら削り	覆土上層	60%
1017	須恵器	甕	-	(30.4)	15.3	長石・雲母	褐灰	普通	体部外面斜位平行叩き 内面ナデ・当て具痕	竈覆土内 覆土上層-壁溝覆土内	55%
TP46	須恵器	甕	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面同心円状叩き 内面ナデ	覆土上層	
TP47	須恵器	甕	-	(2.3)	-	長石	暗灰黄	普通	体部外面格子状叩き 内面同心円状の当て具痕	P5 覆土内	
TP48	須恵器	甕	-	(3.1)	-	長石	にぶい黄	普通	体部外面力キ目調整 自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	
TP49	須恵器	甕	-	(4.7)	-	長石・黒色粒子	褐灰	不良	体部外面同心円状叩き 内面ナデ	覆土下層	
TP50	須恵器	甕	-	(3.5)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面格子状叩き後力キ目調整 内面同心円状の当て具痕	覆土上層	
TP51	須恵器	甕	-	(3.4)	-	長石・黒色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面格子状叩き 自然釉付着 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	
TP52	須恵器	甕	-	(2.7)	-	長石・黒色粒子	褐灰	普通	体部内面同心円状の当て具痕	竈覆土内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M194	鎌	(5.4)	1.9	0.4	(9.7)	鉄	左鎌 端部に若干の折り返し	覆土上層	

第2294号住居跡（第623・624図）

位置 調査区北部のA11g7区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第120号溝，第2981号土坑に南壁が掘り込まれている。また，北部が耕作による攪乱によって壊れている。

規模と形状 南壁部が遺存していないが，東西軸3.72m，南北軸は2.90m以上の長方形と推定され，主軸方向はN-10°-Eである。壁高は9~17cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。南壁や攪乱を受けた部分を除いた壁下には，幅13~18cm，深さ2~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱によって各部が壊されているため，遺存状態は悪い。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，袖部幅は106cmである。左袖部は床面より若干高く掘り残した上に構築され，右袖部は掘り方上に構築されている。火床部は床面を12~22cm掘りくぼめてローム土を埋め戻しており，一部遺存している火床面は火を受けて赤変硬化している。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さは10～14cmである。P5～P8の性格は不明である。

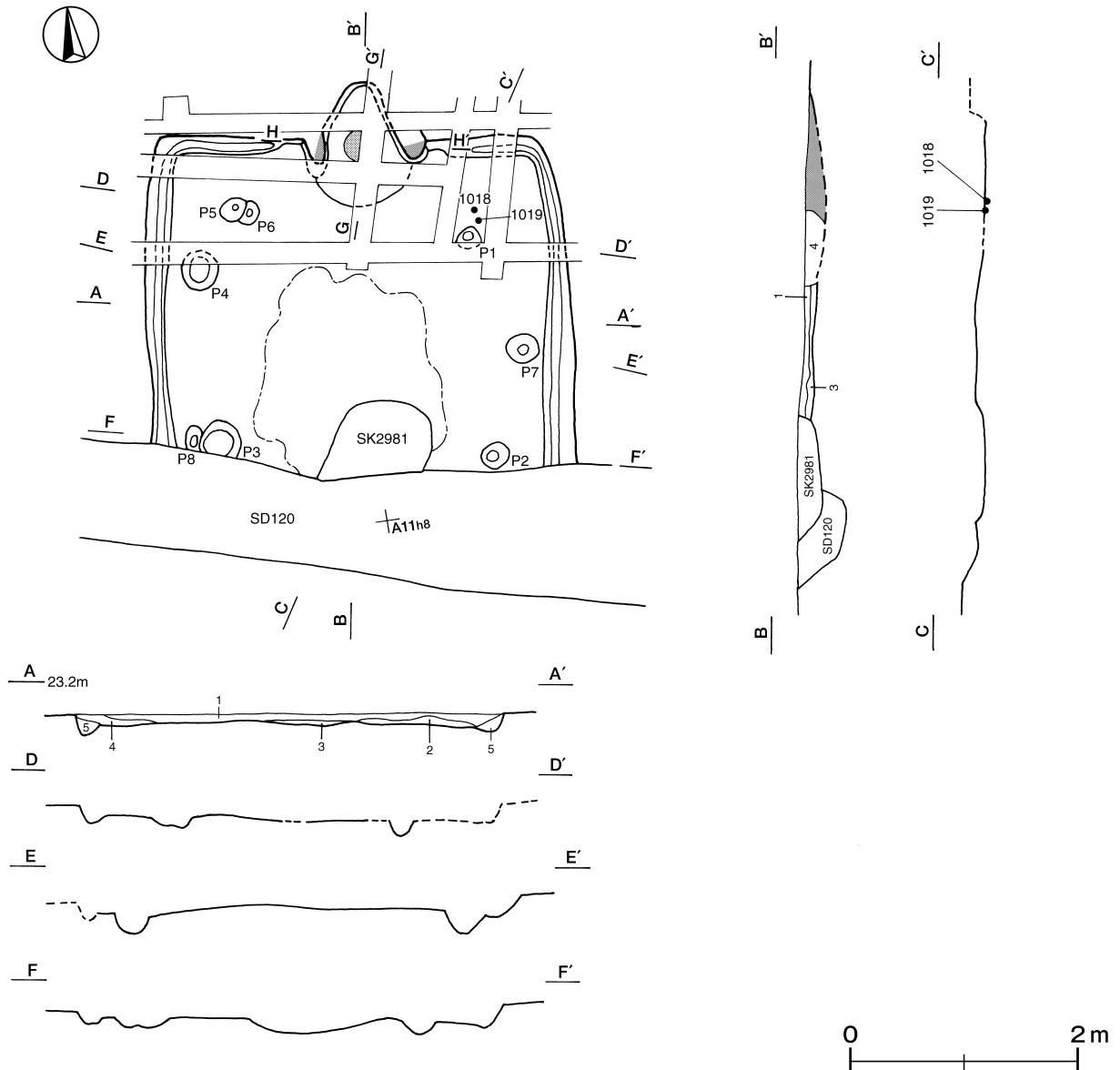
覆土 5層に分けられる。堆積が薄いため詳細は不明である。

土層解説

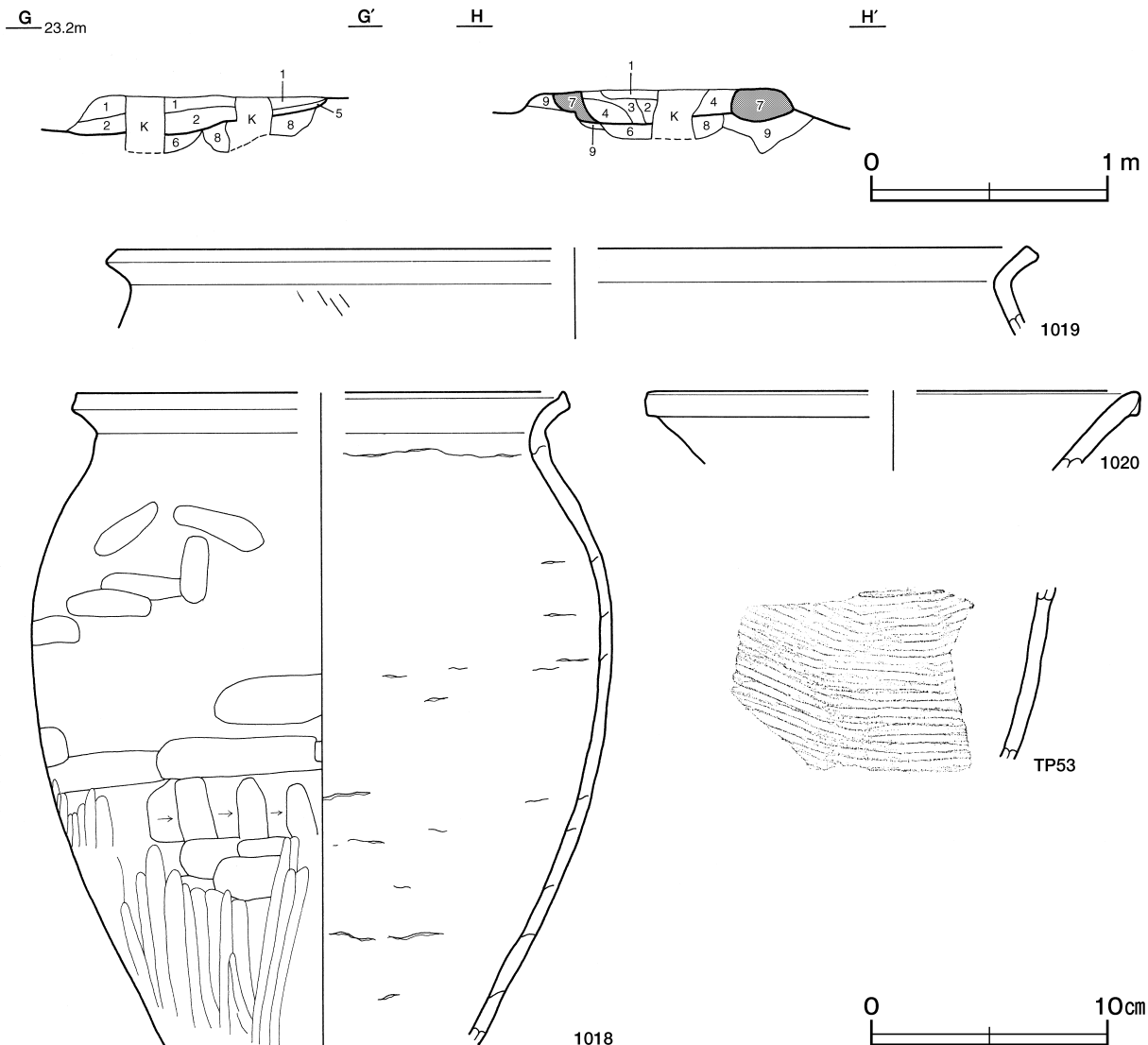
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片302点(甕類), 須恵器片53点(坏17, 蓋1, 瓶類1, 甕類34)のほか, 混入した古墳時代の土師器片9点, 中世以降の陶器片1点も出土している。北東部のP1付近の床面から, 1018・1019が見つぶれた状態で出土しており, 廃絶時に遺棄されたと考えられる。1020・TP53は, P7の覆土内から出土しており, 廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第623図 第2294号住居跡実測図



第624図 第2294号住居跡・出土遺物実測図

第2294号住居跡出土遺物観察表（第624図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1018	土師器	甕	[20.3](27.5)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ・ヘラ磨き 内面ナデ 輪積痕	床面	60%
1019	須恵器	甕	[38.2](3.7)	-	-	長石・雲母	黄灰	普通	口辺部四本筋の叩き目二ヶ所 内面口クロナデ	床面	5%
1020	須恵器	甕	[20.2](3.3)	-	-	長石・石英	明褐	普通	体部外面口クロナデ 内面ナデ	P7覆土内	5%
TP53	須恵器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母・小礫	黄灰	普通	体部外面横位・斜位の叩き 内面当て具痕	P7覆土内	

第2296号住居跡（第625・626図）

位置 調査区北部のA12f2区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2297号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.95m，短軸3.48mの長方形で，主軸方向はN-14°-Eである。壁高は12～15cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。東部を除いた壁下には，幅7～15cm，深さ4～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

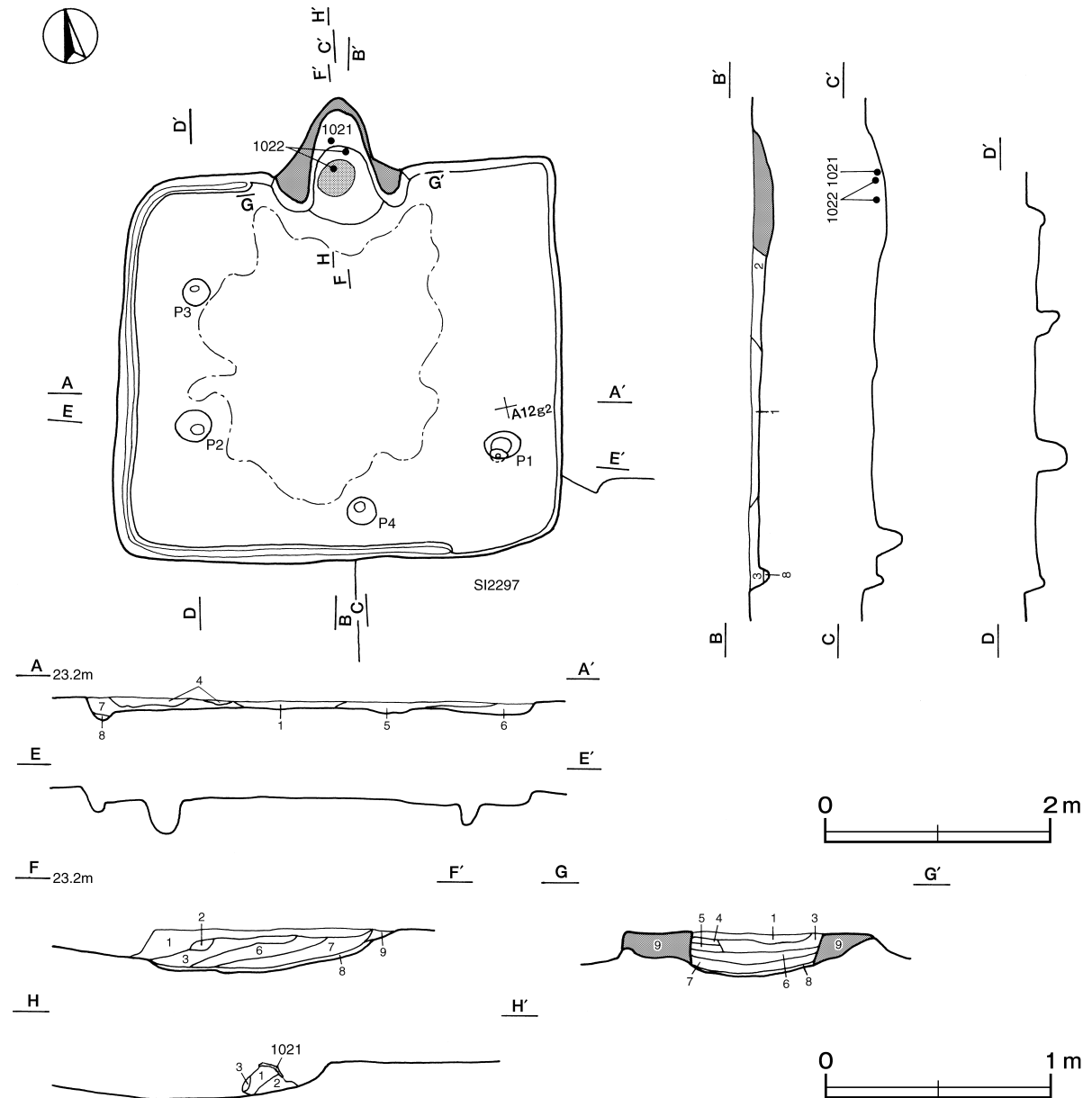
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、袖部幅は110cmである。袖部は床面より高く掘り残した地山を中心として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ58cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。また、煙道部上から須恵器の坏が欠けた部分が焚口部側に逆位の状態で出土している。外面に火を受けていないことから、坏全体を土で覆い、支脚の芯材として使用されていたと考えられる。第2・4・5層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説 (F-F', G-G')

- | | | | |
|----------|--------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 9 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 | | |

竈土層解説 (H-H')

- | | | | |
|-------|------------------|--------|----------|
| 1 赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物中量 | 3 明赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |



第625図 第2296号住居跡実測図

ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは19～29cmである。P4は深さ24cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

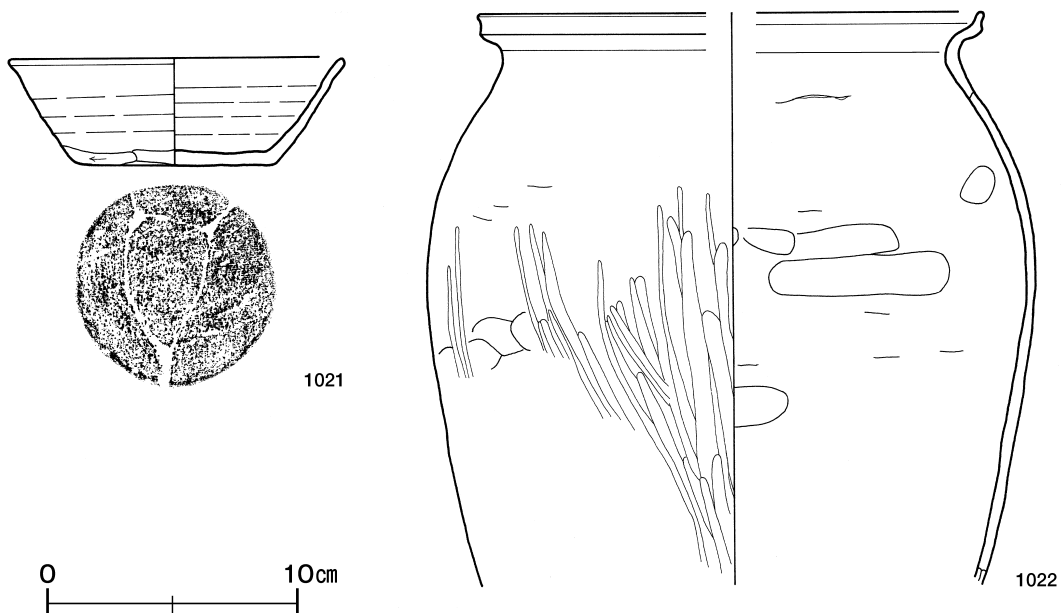
覆土 8層に分けられる。堆積が薄いため詳細は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片40点（甕類37，甌3），須恵器片51点（坏39，鉢6，甕類6）のほか、混入した古墳時代の土師器片3点も出土している。1021は煙道部から逆位の状態で出土しており、支脚の芯材として使用されていたと考えられる。1022は火床部からやや浮いて破損した状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第626図 第2296号住居跡出土遺物実測図

第2296号住居跡出土遺物観察表（第626図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1021	須恵器	坏	13.1	4.3	7.8	長石・雲母	灰黄	普通	体部下端ヘラ削り 底部ヘラ削り後底辺部に沿ってナデ	竈覆土内	60% PL166
1022	土師器	甕	[20.0][22.8]	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部ヘラ磨き・ヘラナデ 内面ナデ 輪積痕	竈覆土内	20%

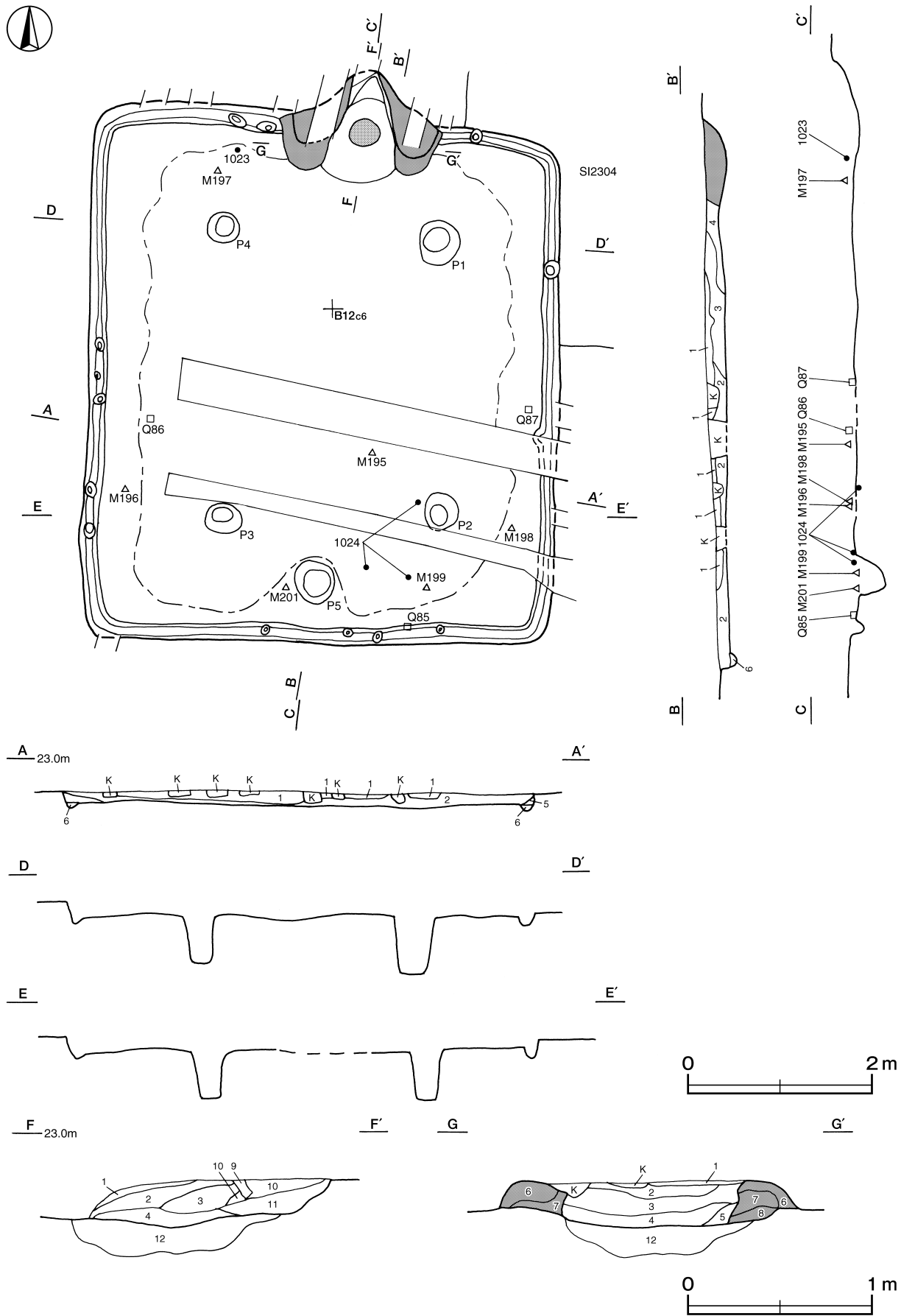
第2303号住居跡（第627・628図）

位置 調査区南西部のB12c5区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

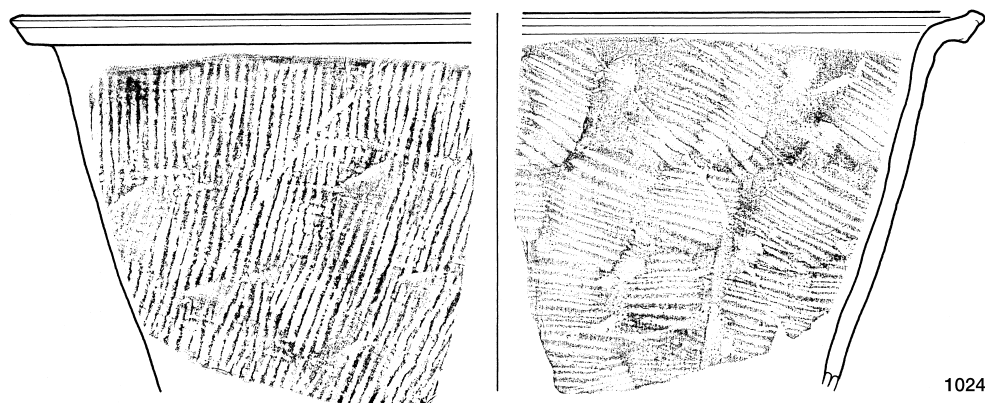
重複関係 第2304号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.72m，短軸5.07mの長方形で，主軸方向はN-7°-Eである。壁高は15～23cmで，外傾して立ち上がっている。

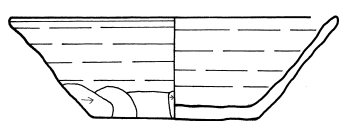
床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅6～8cm，深さ3～5cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



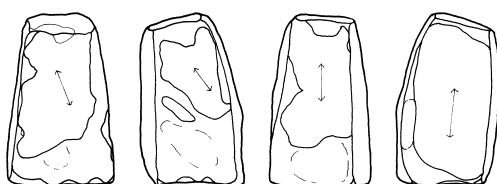
第627图 第2303号住居跡実测图



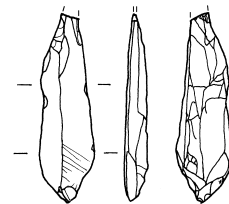
1024



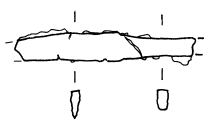
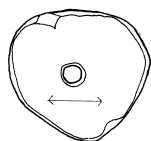
1023



Q85



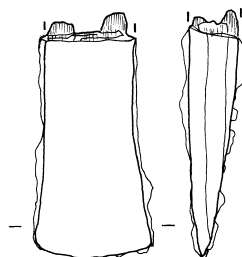
Q88



M195



M196



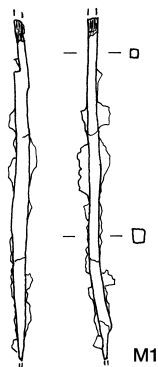
M197



Q86



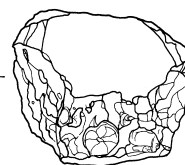
Q87



M198



M200



M199



M201



M202



第628图 第2303号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで122cm、袖部幅180cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部として、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を16cm掘りくぼめてローム土を埋め戻しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ53cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。第3層は、天井部の崩落土層である。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	7	灰黄褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量	8	黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
3	灰褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量	9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック微量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量	10	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
6	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは55～61cmである。P5は深さ28cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。また、壁溝内から深さ6～11cmの小ピット14か所が検出されており、壁柱穴と考えられる。

覆土 6層に分けられる。レンズ状に堆積しているが、堆積が薄いため詳細は不明である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	4	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
3	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片428点(坏2, 高台付椀1, 蓋1, 甕類424), 須恵器片205点(坏92, 蓋21, 盤1, 甕類87, 甌4), 石器1点(砥石), 石製品3点(紡錘車2, 模造品1), 鉄器・鉄製品6点(刀子1, 鎌1, 手斧1, 不明鉄製品3), 鉄滓3点のほか、混入した古墳時代の土師器片27点も出土している。1023は左袖部脇の床面から出土し、1024は東部壁際の床面から散在して出土した破片が接合している。M197は竈左脇の床面から出土し、袋部内に木片が残存している。また、M195は中央部の覆土下層, M196は西壁際の覆土下層, M198は東壁際の床面からそれぞれ出土している。Q85は南壁の壁溝内, Q86は西壁際の床面, Q87は東壁際の床面からそれぞれ出土している。M200・202の鉄滓はいずれも覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2303号住居跡出土遺物観察表(第628図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1023	須恵器	坏	12.9	4.1	6.5	長石・石英	灰	普通	体部内外面口クロナデ 体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	60%
1024	須恵器	甕	[38.6]	(15.1)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位格子状平行叩き 内面ヘラナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q85	砥石	6.7	4.3	3.9	164.1	凝灰岩	砥面5面 他は破断面	壁溝内	
Q86	紡錘車	4.8	4.7	2.3	63.5	粘板岩	円錐台形	床面	刻書「大」 「*」 PL193
Q87	紡錘車	5.2	5.5	1.6	42.7	凝灰岩	砥面2面 他は破断面	床面	砥石を転用 PL193
Q88	石製模造品	(7.5)	2.1	0.9	(13.5)	滑石	先端部欠損 表面研磨 裏面未調整	覆土上層	

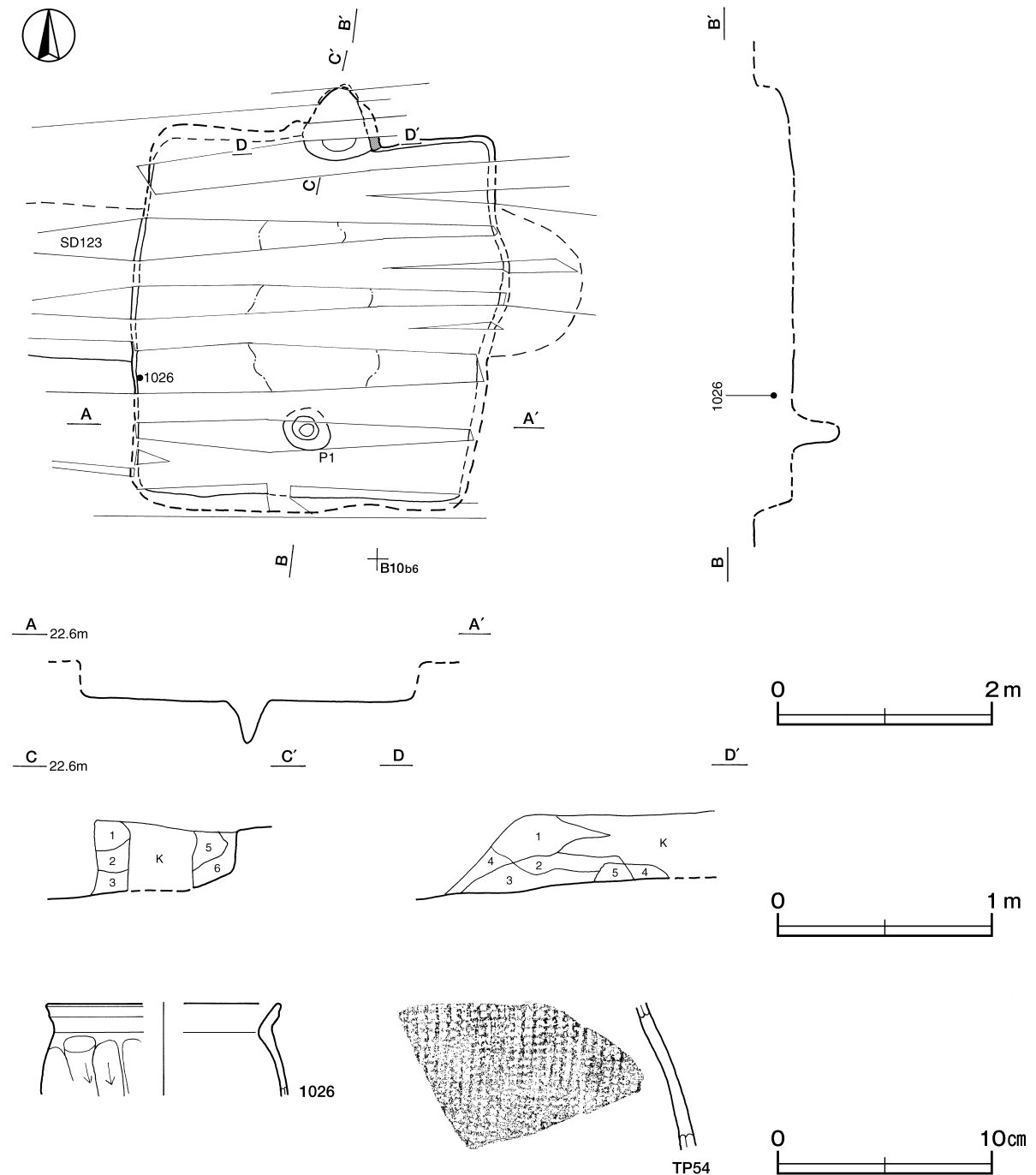
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M195	刀子	(7.1)	1.2	0.5	(7.6)	鉄	刃部・茎部欠損 茎部木質部付着	覆土下層	
M196	鎌	(3.8)	1.6	0.3	(3.1)	鉄	手鎌 左部・右部上端欠損 右部に径0.35cmの目釘孔あり	覆土下層	
M197	手斧	9.0	4.8	2.5	162.6	鉄	完形 方形の袋部を有し、内部に木片が付着する	床面	PL197

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M198	不明	(13.5)	(0.6)	(0.6)	(15.9)	鉄	鉄製紡錘車の棒軸か 上部に木質部附着	床面	
M199	鉄滓	6.2	6.9	4.5	301.8	鉄	椀状滓 外面焼土附着	床面	
M200	鉄滓	5.5	5.8	3.2	98.7	鉄	椀状滓 外面焼土附着	覆土上層	
M201	鉄滓	4.3	4.4	2.5	60.5	鉄	椀状滓 外面焼土附着	床面	
M202	鉄滓	3.6	5.3	3.3	38.9	鉄	形状は不定形 外面焼土附着	覆土上層	

第2307号住居跡 (第629図)

位置 調査区北西部のB10a5区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第123号溝に中央部を掘り込まれている。また, 東西の耕作による攪乱を受けており, 遺存状態は非常に悪い。



第629図 第2307号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 攪乱によって壁が壊されているため、長軸3.50m前後、短軸3.45m前後の方形と考えられ、主軸方向はN - 4° - Eである。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けており、火床部の一部と焚口部のみ遺存している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |

ピット 深さ44cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片281点(坏8, 甕類273), 須恵器片74点(坏30, 蓋1, 瓶1, 甕類42)のほか、混入した古墳時代の土師器片18点, 中世以降の陶器片4点, 磁器片2点も出土している。1026は西壁際の覆土下層から出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。また, TP54は竈の覆土内から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀後半と考えられる。

第2307号住居跡出土遺物観察表(第629図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1026	土師器	甕	[10.6]	(4.3)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう削り 内面ナデ	覆土下層	5%
TP54	須恵器	甕	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	不良	体部外面擬格子状の叩き 内面当て具痕 輪種痕	竈覆土内	

(2) 掘立柱建物跡

第302号掘立柱建物跡(第630図)

位置 調査区西部のC10h1区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2008号住居跡を掘り込み, 第371号掘立柱建物, 第61・62号方形竪穴遺構, 第44号井戸に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 85° - Eの東西棟である。規模は、桁行5.4m, 梁行3.6mで、面積は19.44m²である。柱間寸法は1.8m(6尺)を基調とし、均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

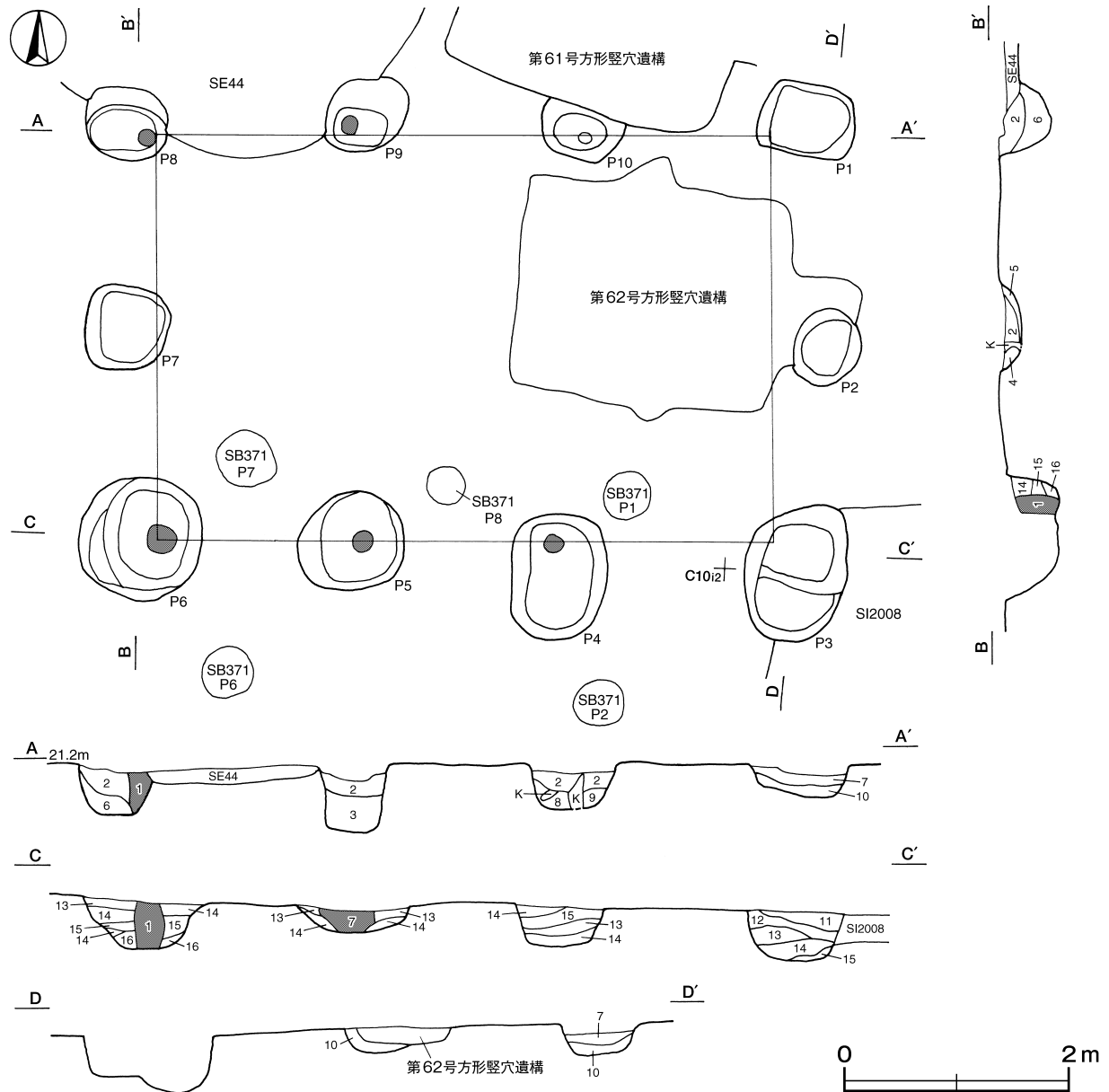
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で、規模は長軸70~117cm, 短軸60~108cmである。深さは15~60cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・7層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土である。P6・P8の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20cm以上である。また、P4~P6, P8・P9の底面からは柱のあたりが確認されている。第12層は柱抜き取り後の覆土であり、その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説(各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|---------------------|---------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化材少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 11 極暗褐色 | 炭化材中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量 | | |
| 9 褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片40点（坏8，甕類32），須恵器片5点（坏3，甕2）のほか，混入した時期の異なる土師器片33点，須恵器片7点も各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は，出土土器と重複関係から9世紀代と考えられる。



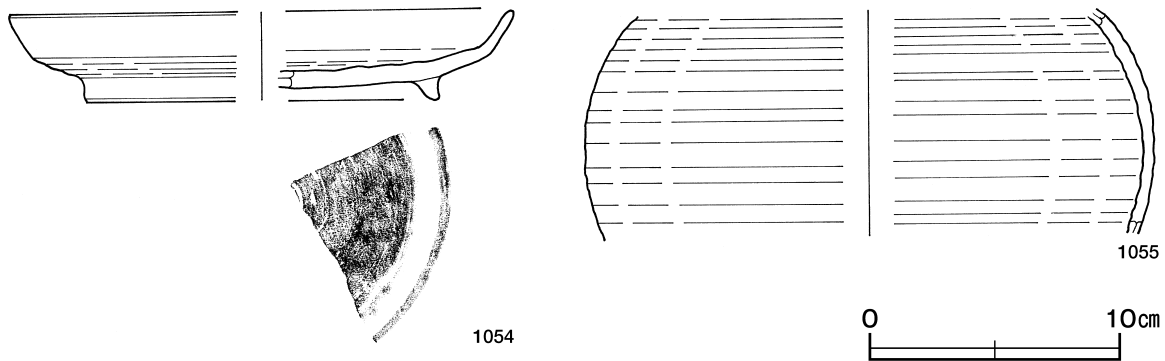
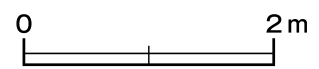
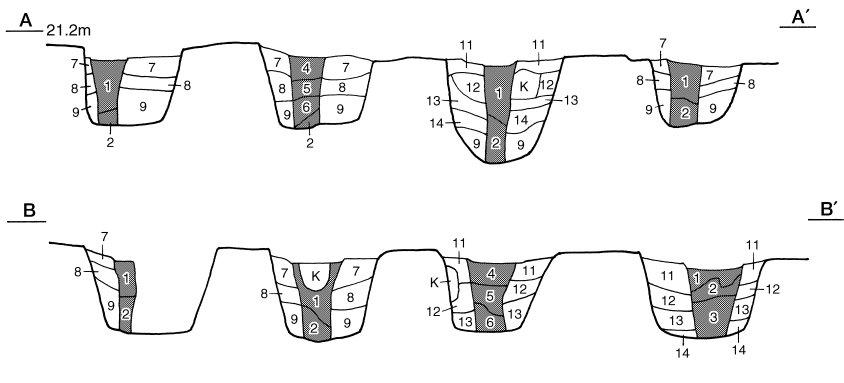
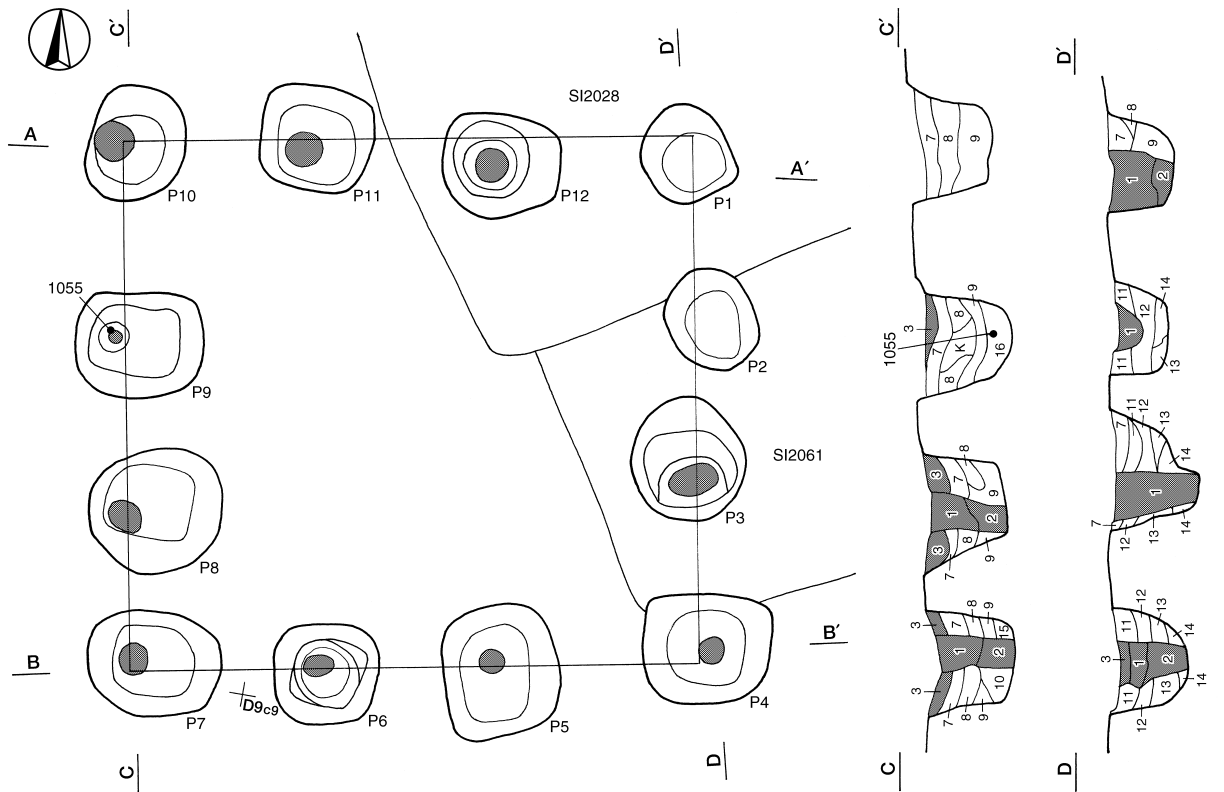
第630図 第302号掘立柱建物跡実測図

第303号掘立柱建物跡（第631図）

位置 調査区南西部のD9 b9区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2028・2061号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行，梁行ともに3間の側柱式建物跡で，桁行方向はN - 89° - Eの東西棟である。規模は，桁行4.5m，梁行4.2mで，面積は18.90m²である。柱間寸法は桁行1.5m（5尺），梁行1.2m（4尺）を基調とし，均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。



第631图 第303号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 12か所。平面形は、楕円形である。規模は長径76～104cm，短径68～100cmで，深さは63～84cmであり，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1～6層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い黒褐色土や暗褐色土，褐色土である。また，P1・P2以外の底面から，柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした暗褐色土・褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | 炭化物中量，ロームブロック少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 15 褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 16 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片547点（坏77，壺1，甕類468，甑1），須恵器片62点（坏9，盤1，蓋3，甕類49），灰釉陶器片2点（瓶），陶器片1点，土製品2点（管玉，支脚）が各柱穴から出土している。1054はP5の柱抜き取り痕，1055はP9の覆土からそれぞれ出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の南には第376号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えて直列していることから，同時期に機能していたものと推測される。廃絶時期は，出土土器から9世紀代と考えられる。

第303号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第631図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1054	須恵器	盤	[19.8]	3.5	[14.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	P5柱抜き取り痕	20%
1055	灰釉陶器	壺	-	(9.0)	-	長石	灰黄・灰オリーフ	普通	体部内外面ロクロ成形 外面施釉	P9覆土	10%

第304号掘立柱建物跡（第632図）

位置 調査区南西部のD9f9区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2031～2033号住居跡，第305号掘立柱建物跡，第2620号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-5°-Wの南北棟である。規模は，桁行5.4m，梁行で4.2mで，面積は22.68m²である。柱間寸法は，桁行が1.8m（6尺），梁行が2.1m（7尺）で，均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

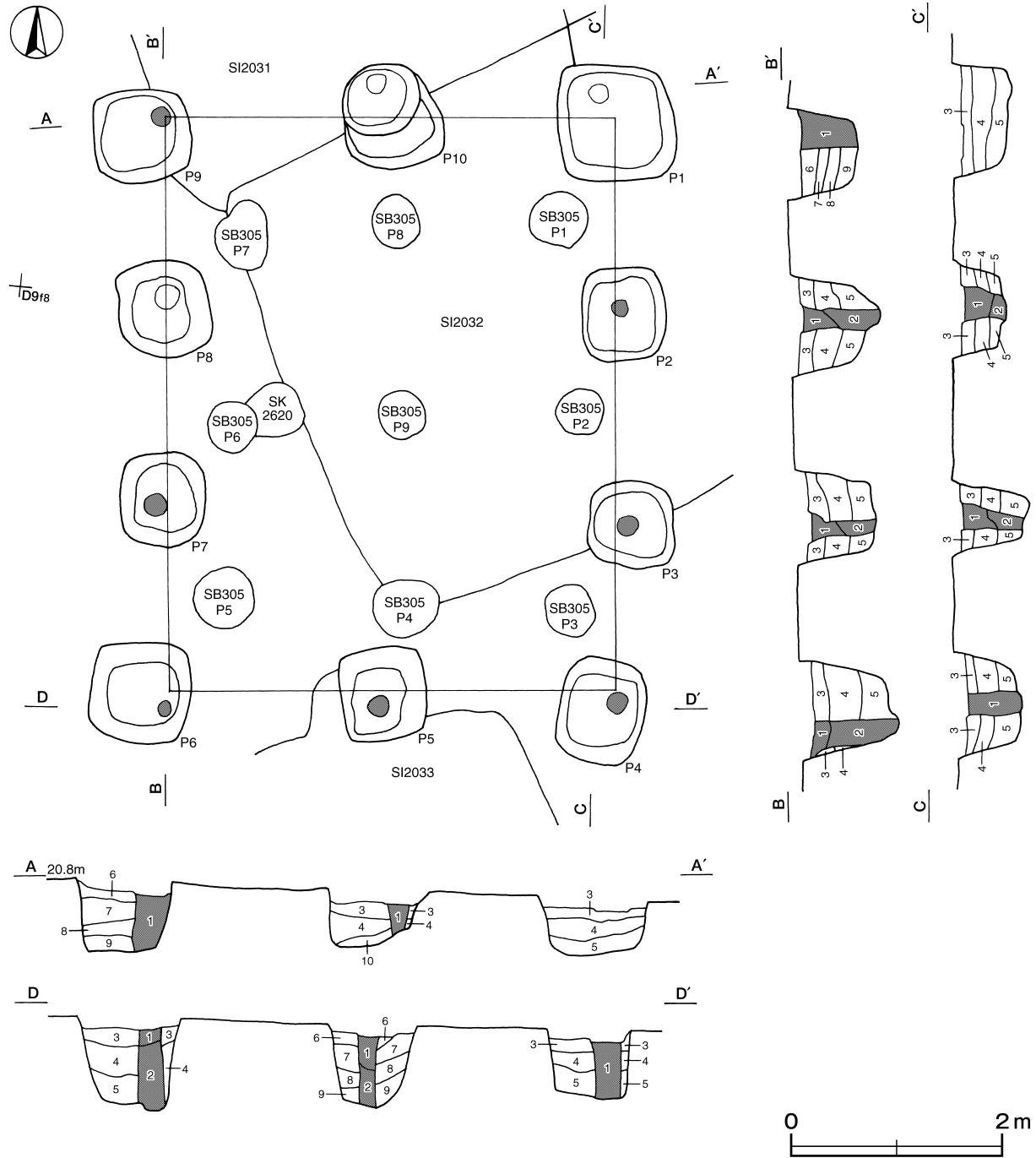
柱穴 10か所。平面形は，隅丸方形で，規模は長軸80～110cm，短軸78～108cmである。深さは65～85cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い褐色土・暗褐色土である。P1以外の土層断面からは，柱痕跡が明瞭に確認され，推定される柱の太さは20cm前後と考えられる。また，P1・P8・P10を除く，底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土などが互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片175点（坏8，甕類167），須恵器片14点（坏12，甕2），石器2点（紡錘車，砥石），土製品1点（勾玉）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、重複関係から10世紀前半以降と考えられる。



第632図 第304号掘立柱建物跡実測図

第306号掘立柱建物跡 (第633図)

位置 調査区東部のC13g4区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2066・2079・2085号住居跡、第2095土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-78°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.5m、梁行3.3mで、面積は14.85m²である。柱間寸法は1.5m(5尺)、梁行は1.65m(5尺5寸)で、均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

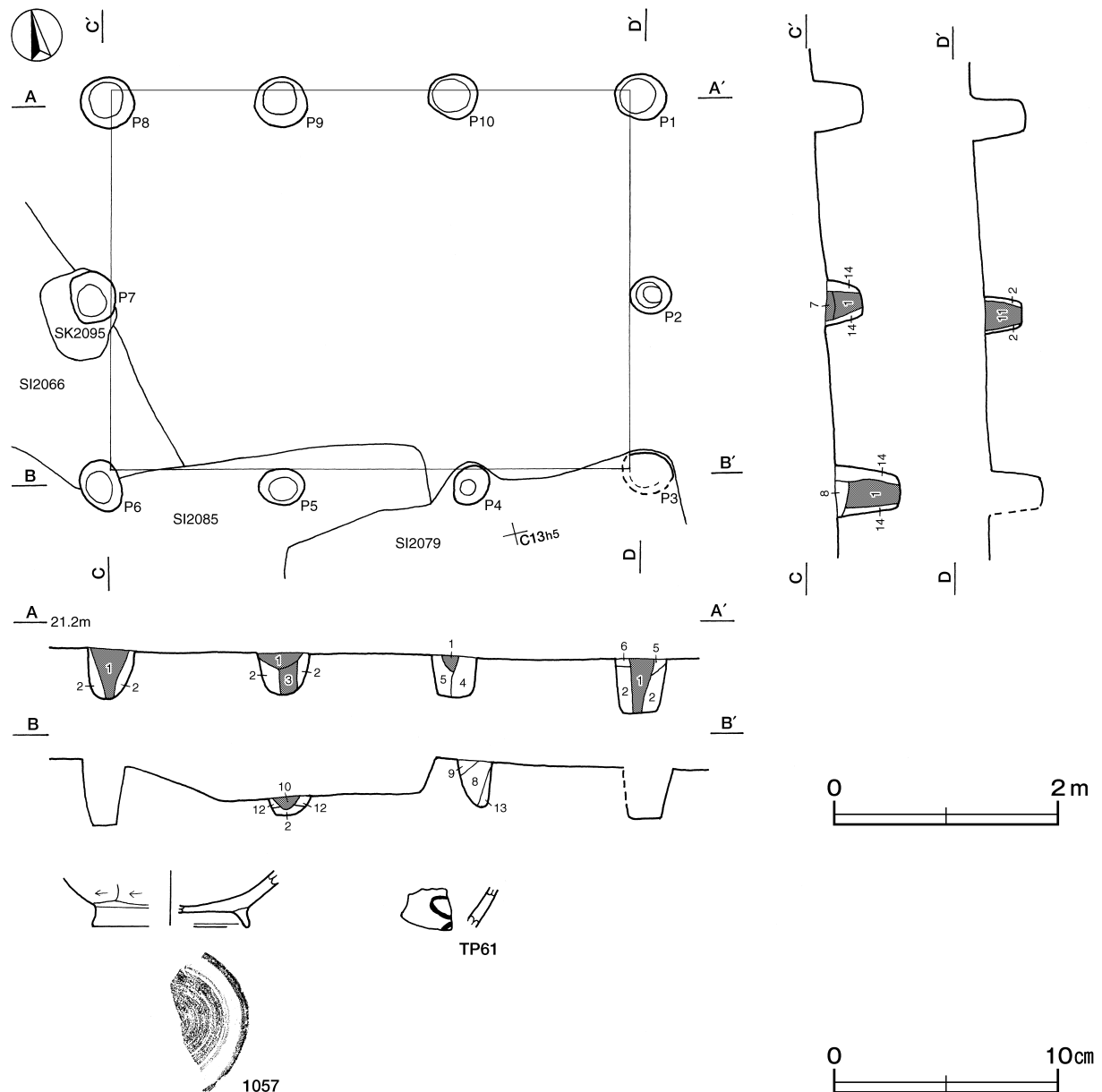
柱穴 10か所。平面形は、楕円形である。規模は長径31~46cm, 短径43~54cmである。深さは16~48cmで、断面形はU字形である。土層は第1・3・10・11層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土などである。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした暗褐色土などが互層をなし、強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 8 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック中量 | 9 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 極暗褐色 ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 灰褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 13 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック中量 | 14 灰褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片15点(坏4, 甕類11), 須恵器片3点(坏1, 甕類2)が各柱穴から出土している。1057はP3の覆土, TP61はP4の覆土から出土している。

所見 時期は, 9世紀中葉に比定される第2079号住居跡を掘り込んでいることや出土土器から, 9世紀後葉と考えられる。



第633図 第306号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第306号掘立柱竪穴跡出土遺物観察表（第633図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1057	土師器	高台付椀	-	(2.5)	[6.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 高台貼り付け 体部内面ヘラ磨き	P 4 覆土	10%
TP61	土師器	坏	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロク口成形	P 3 覆土	5% 墨書 「村」カ

第308号掘立柱建物跡（第634図）

位置 調査区北部のA11j4区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

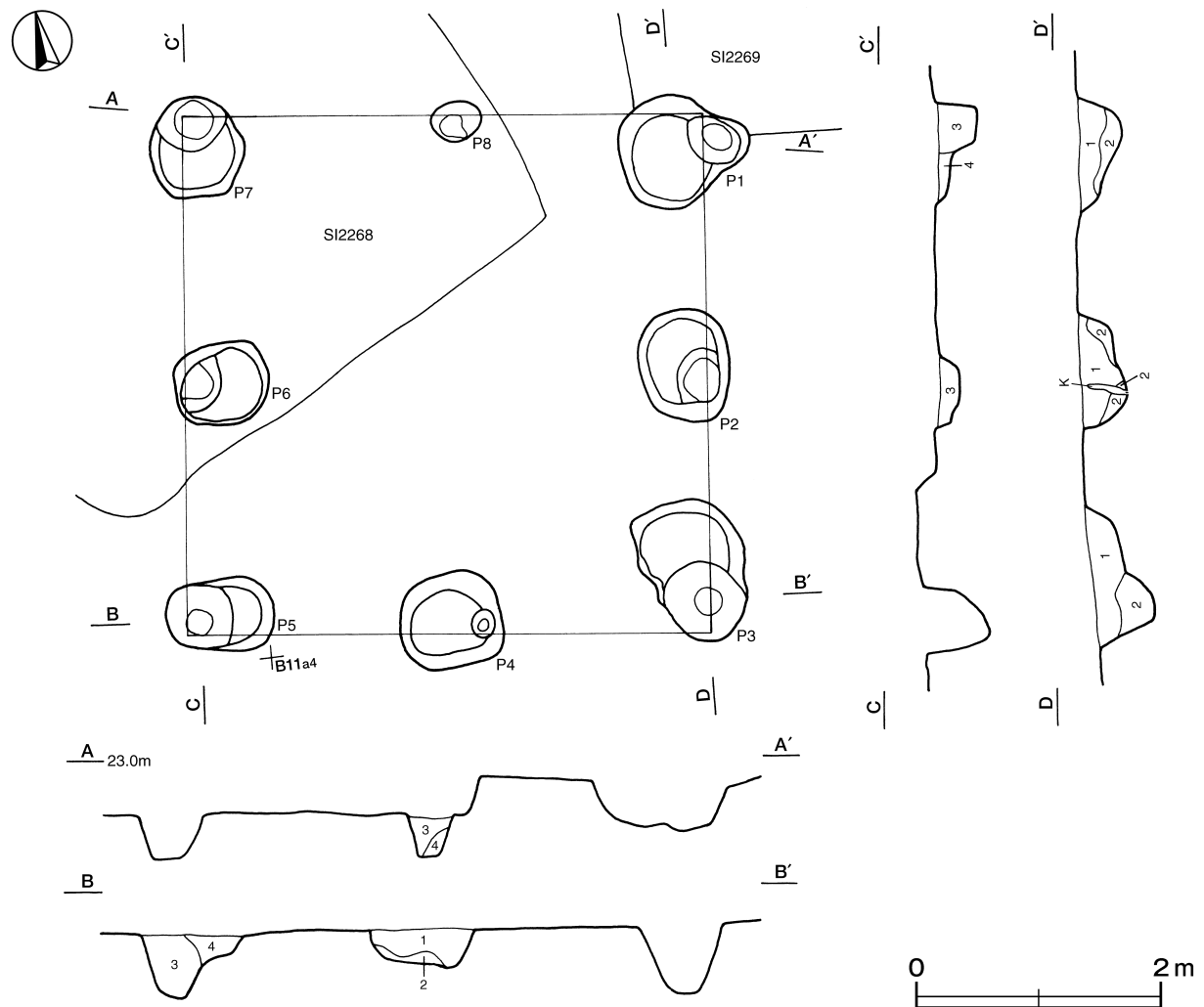
重複関係 第2268・2269号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行、梁行ともに2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 84° - Wの東西棟である。規模は、桁行梁行ともに4.2mで、面積は17.64m²である。柱間寸法は2.1m（7尺）を基調とし、均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は、楕円形である。規模は長径40～116cm、短径33～88cmで、深さは16～58cmであり、断面形はU字形である。底面に乱れがあり、土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量 | 4 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量 |



第634図 第308号掘立柱建物跡実測図

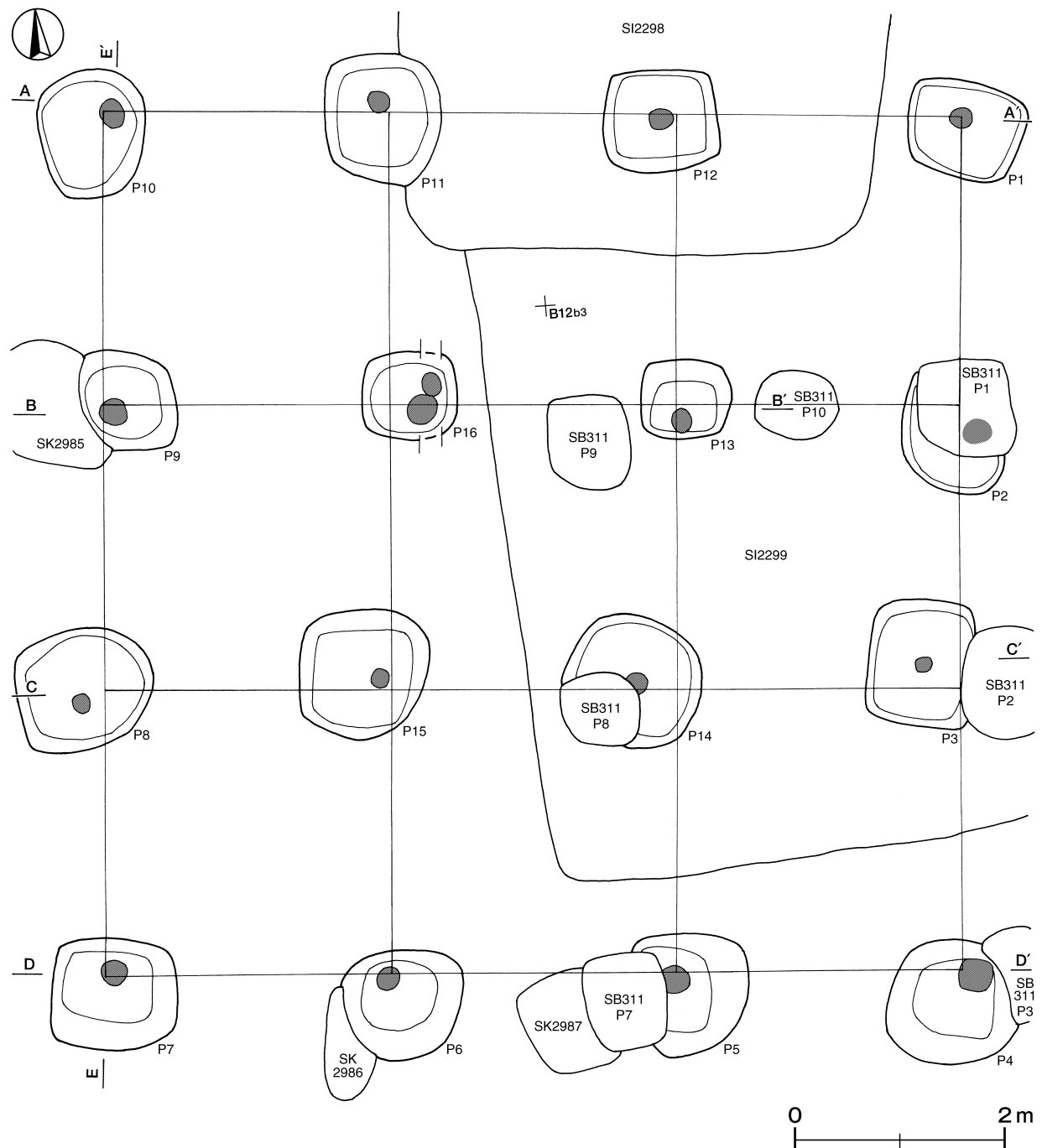
遺物出土状況 土師器片42点（坏1，甕類41），不明鉄製品1点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は，9世紀中葉に比定される2269号住居跡を掘り込んでいることから，9世紀後葉と考えられる。

第309号掘立柱建物跡（第635・636図）

位置 調査区北部のB 12b2区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2299号住居跡を掘り込み，第2298号住居，第311号掘立柱建物，第2985・2986号土坑に掘り込まれている。また，第2987号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。



第635図 第309号掘立柱建物跡実測図(1)

規模と構造 桁行、梁行ともに3間の総柱式建物跡で、桁行方向N - 95° - Eの東西棟である。規模は、桁行、梁行ともに8.1mで、面積は65.61m²である。柱間寸法は2.7m(9尺)を基調とし、均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

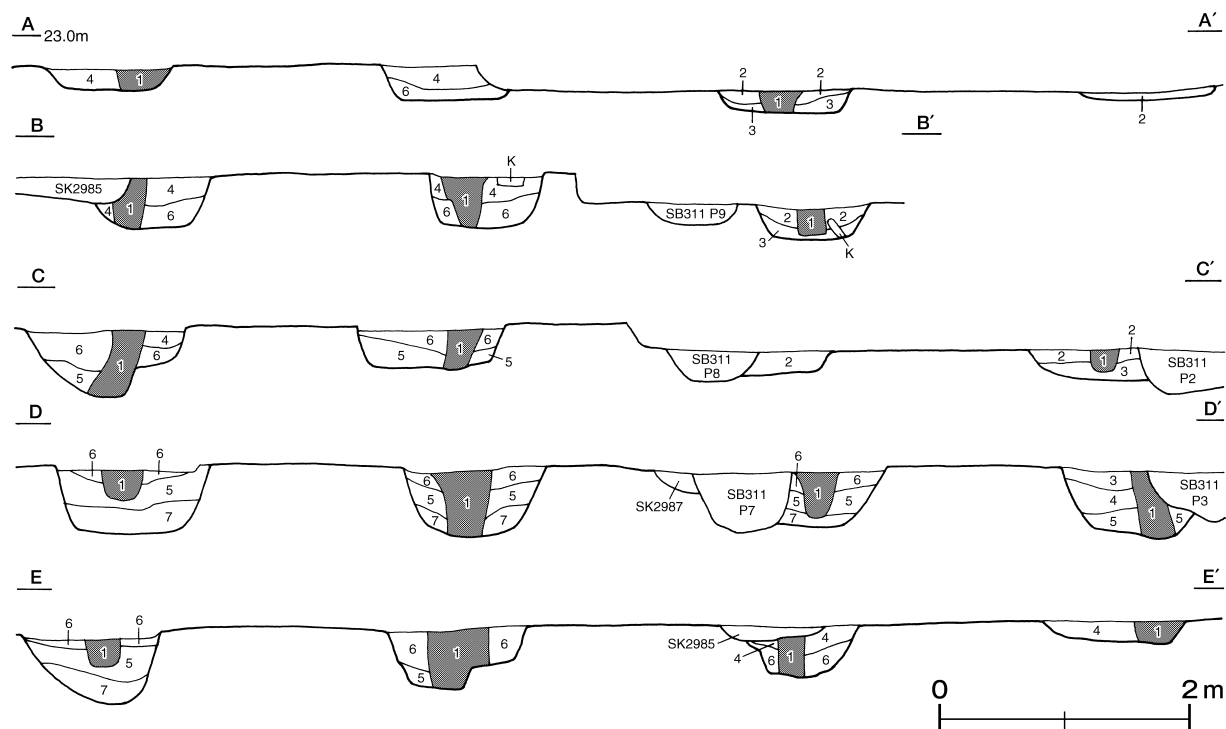
柱穴 16か所。平面形は、隅丸方形で、規模は長軸88~131cm、短軸76~114cmである。深さは10~60cmで、断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった黒褐色土である。P1・P2・P14・P11を除く土層断面からは明瞭に柱抜き取り痕が確認され、推定される柱の太さは20cm以上である。また、すべての底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土などが互層をなし、強く突き固められている。目立った掘り方の乱れはないが、P16の底面からは柱のあたりが2か所確認されていることから、柱の立て替えが行われた可能性がある。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 灰褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片120点(坏16, 高台付坏1, 甕類103), 須恵器片18点(坏12, 盤1, 蓋1, 甕4), 不明鉄製品1点, 石器1点(石核)が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 当該期の大多数を占める側柱式建物とは異なり、総柱式であることや、古墳時代後期の有力者の住居に比定される第2299号住居跡と同位置にある。また、当調査区内において最も大形であることから有力者層の存在が推測される。柱の立て替えが一部で行われた可能性があり、時期は出土土器や重複関係から8世紀後葉以降と考えられる。



第636図 第309号掘立柱建物跡実測図(2)

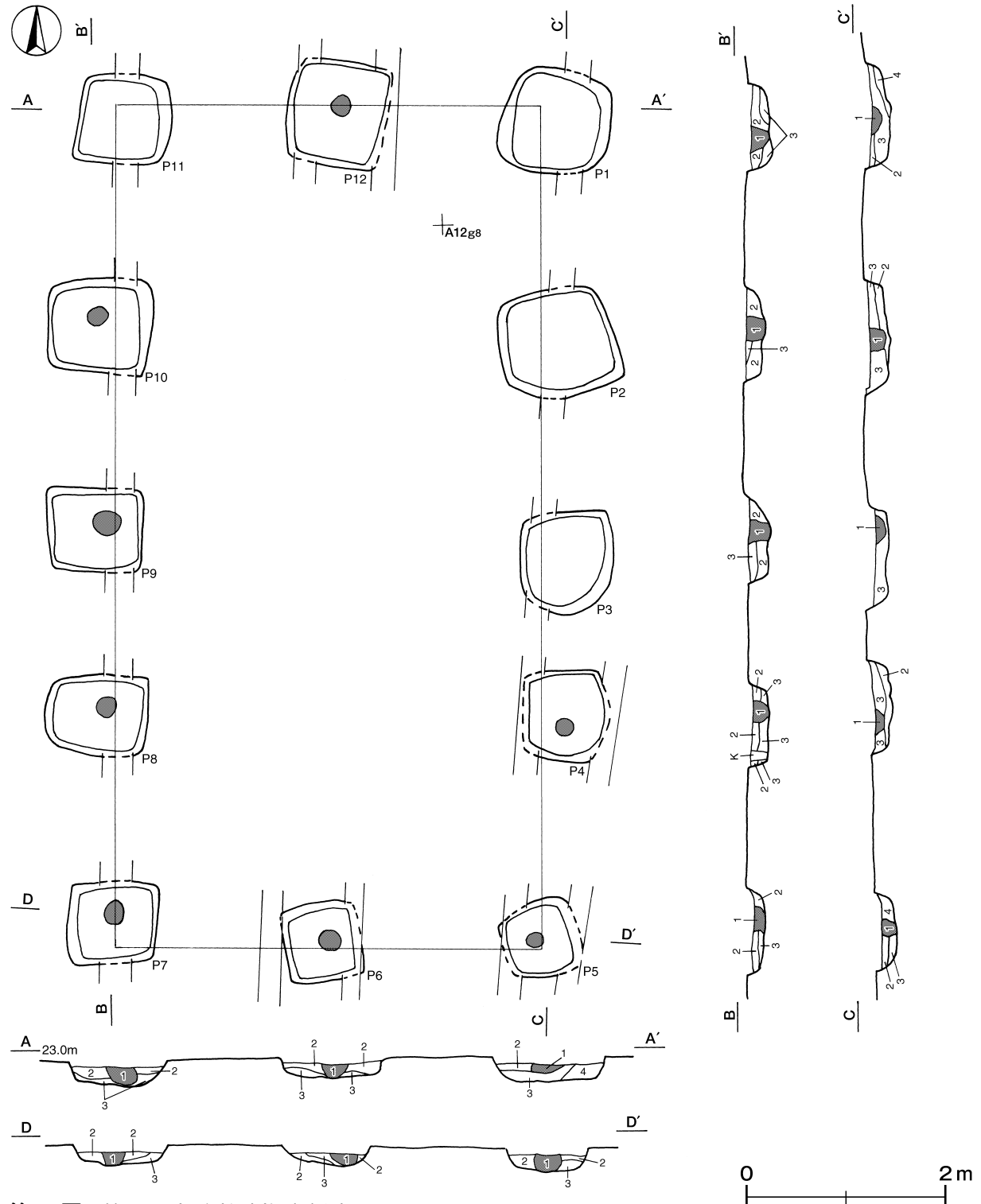
第310号掘立柱建物跡 (第637図)

位置 調査区北部のA12g7区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N - 0°の南北棟である。規模は、桁行8.4m、梁

行4.2mで、面積は35.28m²である。柱間寸法は2.1m（7尺）を基調とし、均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は、隅丸方形ないし楕円形で、規模は長軸76～117cm，短軸75～108cmである。深さは15～25cmで、断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。すべての土層断面から柱痕跡が明瞭に確認され、推定される柱の太さは15～20cmである。また、P4～P10・P12からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。



第637図 第310号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

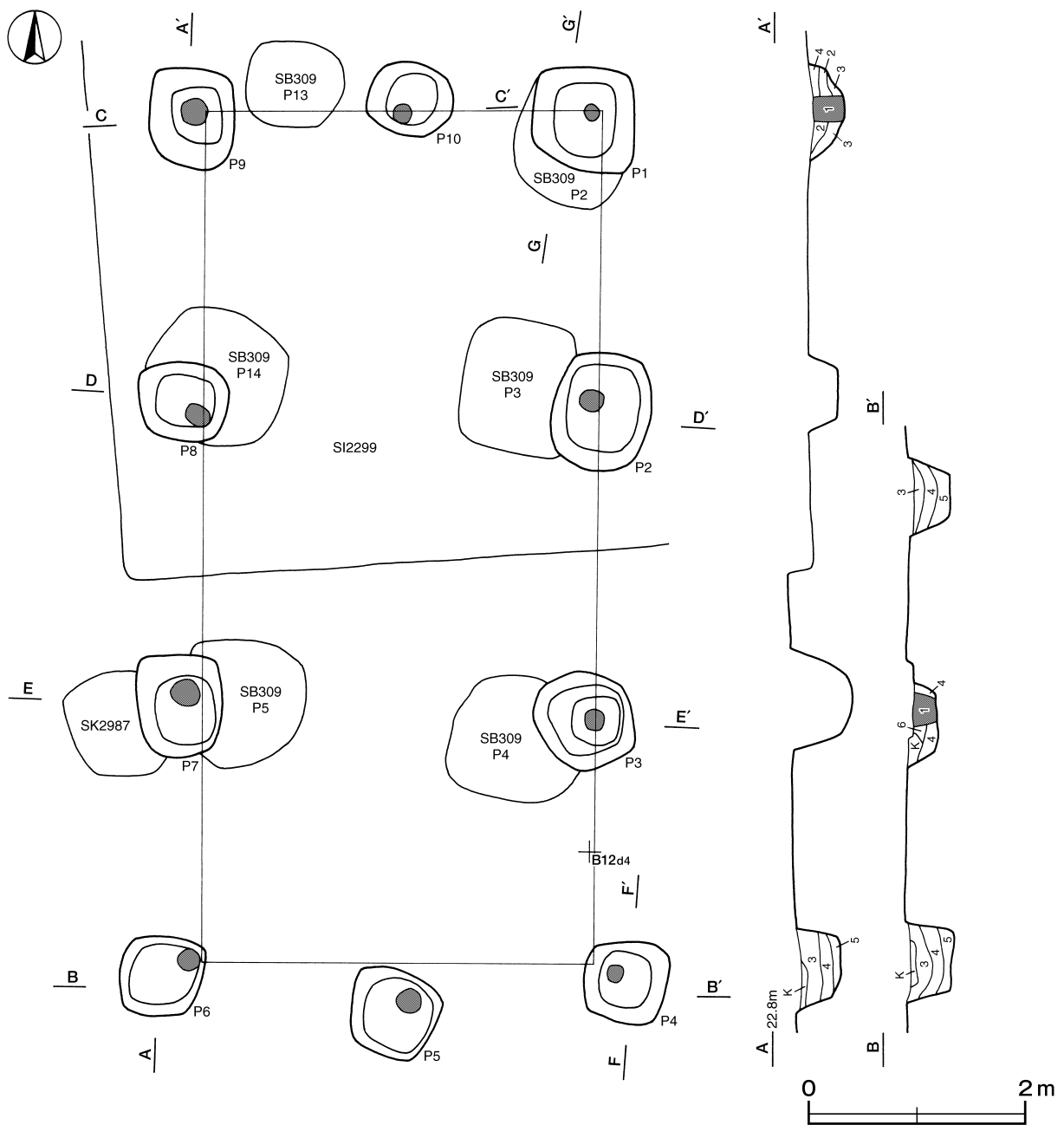
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片12点(坏1, 甕類11), 須恵器片2点(甕類)が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

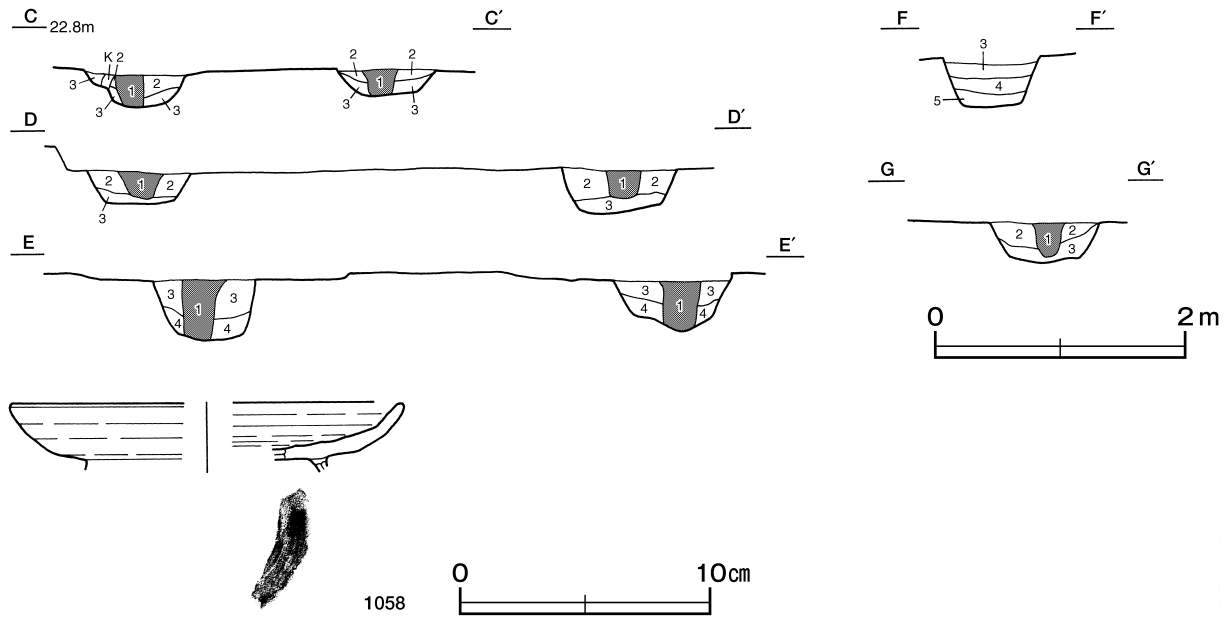
所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。南には第311号掘立柱建物跡があり、本跡と軸線を揃えて直交している。また、南東にある第312号掘立柱建物跡とは軸線を揃えて並列していることから、一連の建物群として同時期に機能していたものと推測される。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第311号掘立柱建物跡 (第638・639図)

位置 調査区北部のB12b3区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第638図 第311号掘立柱建物跡実測図



第639図 第311号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第2299号住居跡，第309号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 0°の南北棟である。規模は，桁行7.8m，梁行3.6mで，面積は28.08m²である。柱間寸法は，桁行が2.7m（9尺），梁行が1.8m（6尺）を基調とし，均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸76～109cm，短軸68～94cmである。深さは42～52cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当する黒褐色土である。P4・P6を除いた土層断面から明瞭に柱痕跡が確認され，推定される柱の太さは15～20cmである。また，すべての底面から柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片99点（坏20，甕類79），須恵器片13点（坏11，甕類2），不明鉄製品1点が各柱穴から出土している。1058はP6の覆土から出土している。

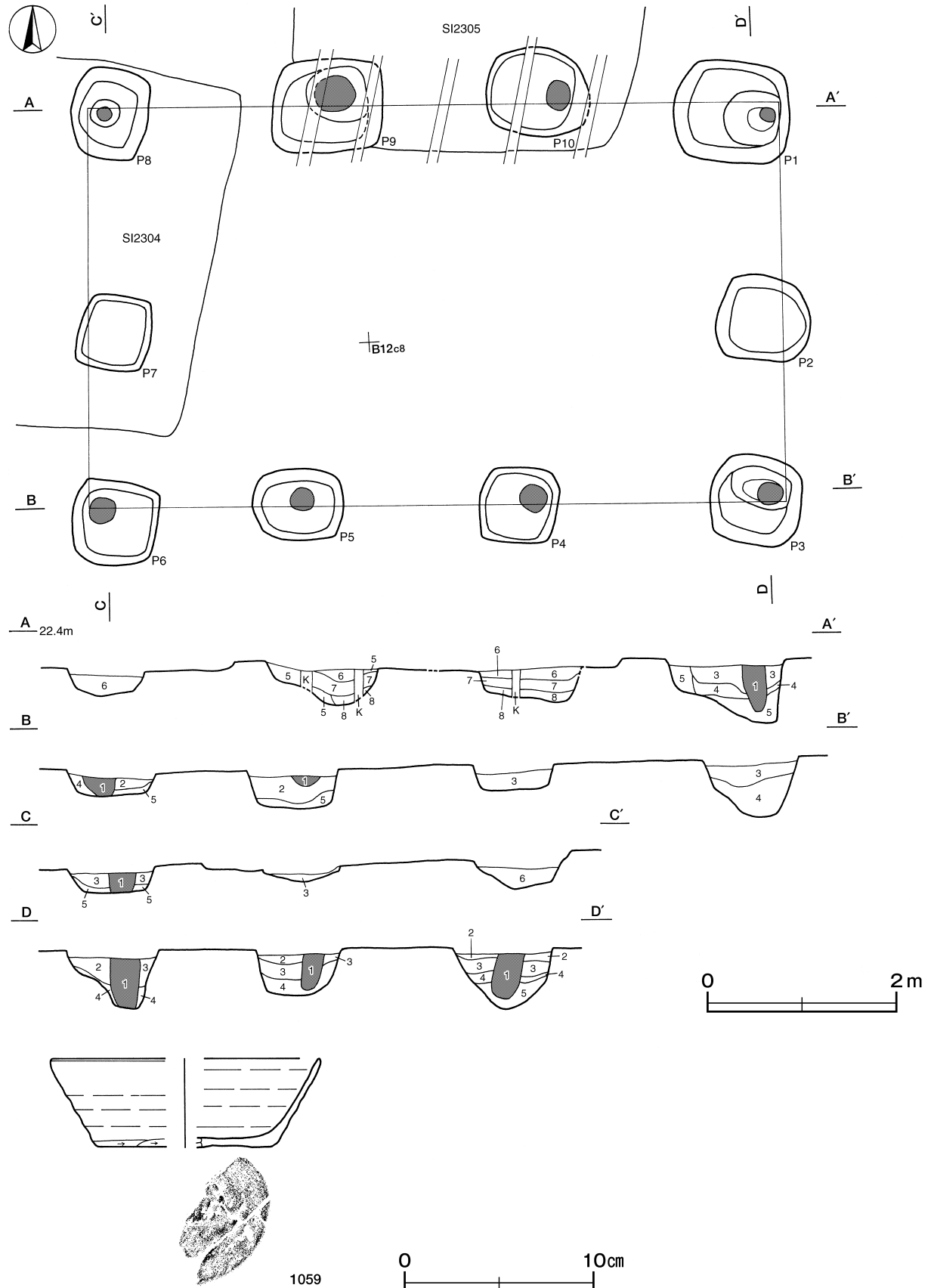
所見 規模や構造から穀物などを納めた倉庫と考えられる。北西には第310号掘立柱建物跡があり，本跡と軸線を揃えて並列している。また，東には第312号掘立柱建物跡があり，桁行方向が直交していることから，これらは同時期に機能していたものと推測される。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第311号住居跡出土遺物観察表（第639図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1058	須恵器	盤	[15.4]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	P6覆土	10%

第312号掘立柱建物跡（第640図）

位置 調査区北部のB 12b7 区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。



第640図 第312号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第2304・2305号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 87° - Wの東西棟である。規模は，桁行7.2m，梁行4.2mで，面積は30.24m²である。柱間寸法は，桁行が2.4m（8尺），梁行が2.1m（7尺）であり，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は，隅丸方形または隅丸長方形である。規模は長軸84～124cm，短軸74～104cmで，深さは19～67cmであり，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い黒褐色土である。P1～P3・P5・P6からは柱痕跡が明瞭に確認されており，推定される柱の太さは25cm以上である。また，P2・P7を除いた底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とする褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック微量	8 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片89点（坏5，甕類84），須恵器片17点（坏7，甕類10）が各柱穴から出土している。1059はP2の覆土から出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。北には第310号掘立柱建物跡が位置し，本跡と軸線を揃えている。また，西の第311号掘立柱建物跡とは，北桁行方向が北妻と並列していることから，同時期に機能していたものと推測される。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第312号住居跡出土遺物観察表（第640図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1059	須恵器	坏	[14.0]	4.6	[9.2]	長石・石英・雲母	浅黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	P2覆土	30%

第333号掘立柱建物跡（第641図）

位置 調査区中央部のC12a8区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2127号住居跡，第2330号土坑を掘り込み，第2126号住居，第2391号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 南側の大部分を住居に掘り込まれているが，ピット5か所が確認されている。桁行方向N - 0°の南北棟と推定される。確認された範囲では，規模は桁行，梁行ともに4.2mで，柱間寸法は2.1m（7尺）を基調としている。

柱穴 5か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸85～100cm，短軸58～70cmである。深さは16～36cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第3層が柱抜き取り痕に相当し，やや締まった暗褐色土である。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

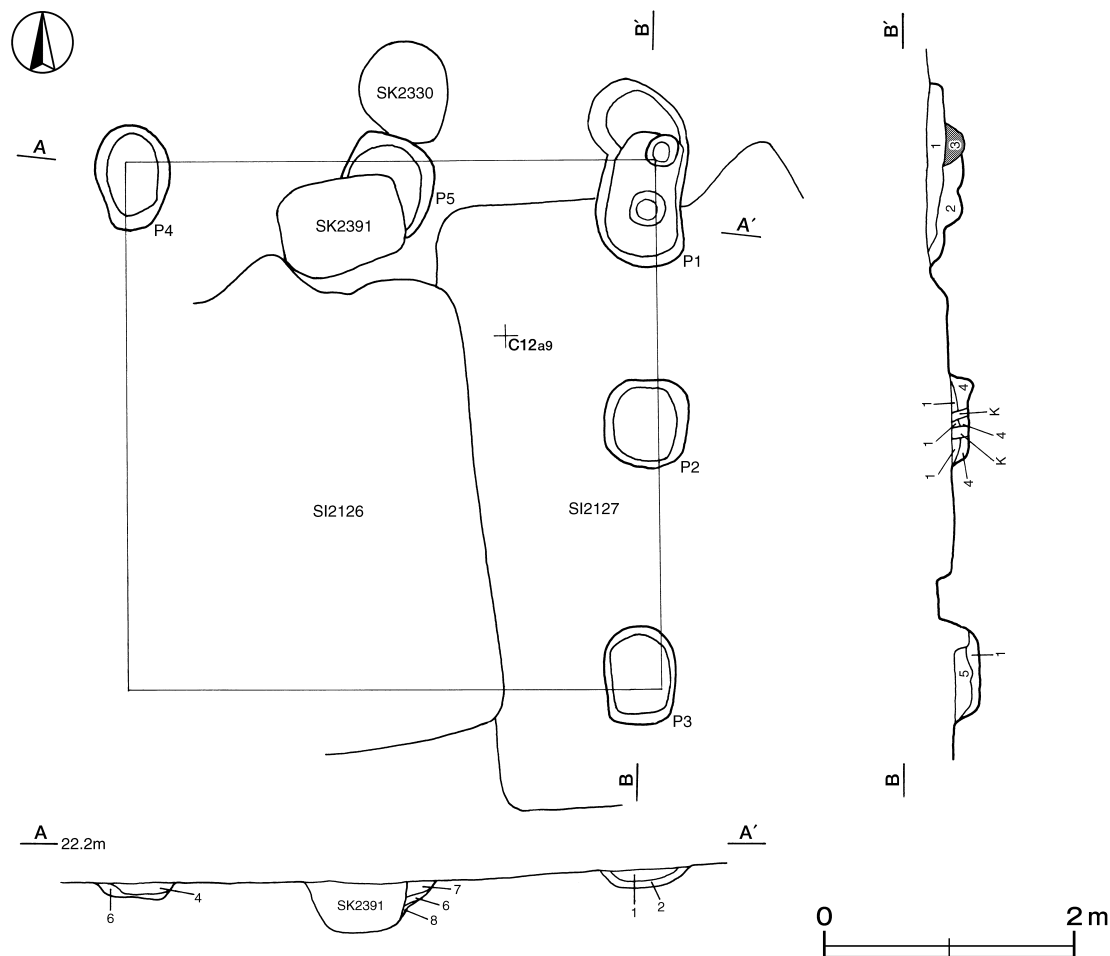
土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量 焼土ブロック・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック微量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	8 灰褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片5点（坏2，甕3）がP1・P2から出土している。いずれも第2127号住居跡から流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，9世紀前葉に比定される第2126号住居に掘り込まれていることから，9世紀前葉以前と考えら

れる。



第641図 第333号掘立柱建物跡実測図

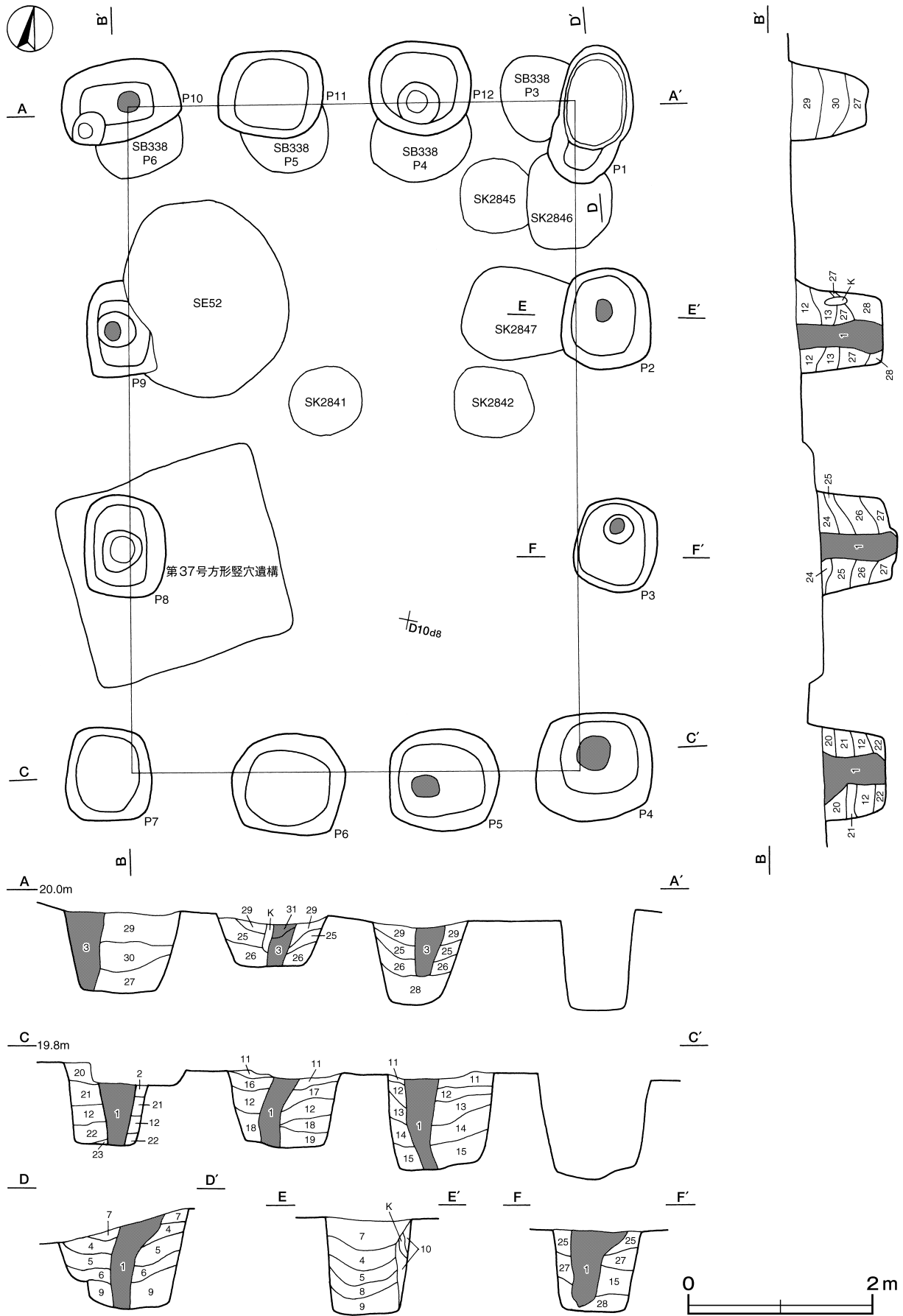
第337号掘立柱建物跡 (第642・643図)

位置 調査区南西部のD10c7区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第338号掘立柱建物跡、第2847号土坑を掘り込み、第37号方形竪穴遺構、第52号井戸に掘り込まれている。また、第2841・2842・2845・2846号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行、梁行ともに3間の側柱式建物跡で、桁行方向N-12°-Wの南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行5.1mで、面積は36.72m²である。柱間寸法は、桁行が2.4m(8尺)、梁行が1.5~1.8m(5~6尺)を基調とし、北妻梁行では東から1.8m(6尺)、1.8m(6尺)、1.5m(5尺)である。柱筋はP2・P3を除いてほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、規模は長軸100~150cm、短軸70~117cmである。深さは65~102cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・3・31層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い褐色土・黒褐色土である。また、P2~P5・P9・P10の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。



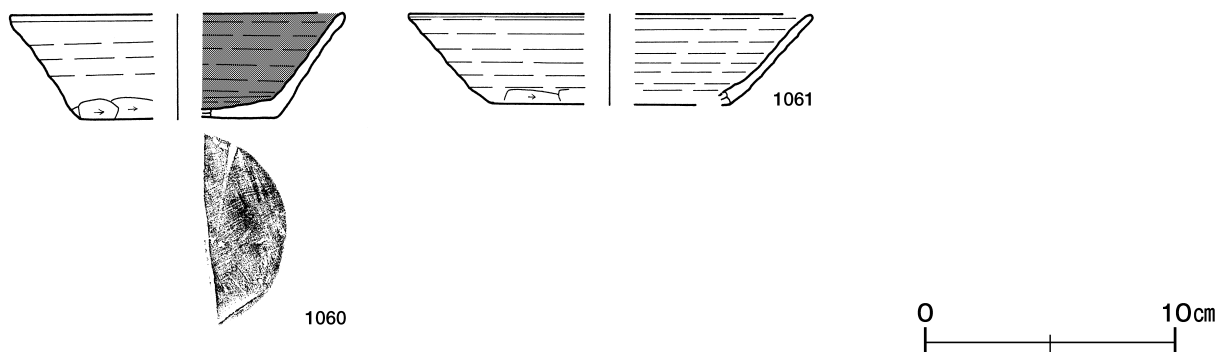
第642图 第337号掘立柱建物跡実測图

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量 | 17 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 18 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 炭化物中量，ローム粒子少量 | 19 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 21 暗褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 22 褐色 ローム粒子中量 |
| 7 黒褐色 炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 23 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 8 黒褐色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量 | 24 褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 9 暗褐色 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 25 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 10 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 26 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 11 褐色 ロームブロック少量 | 27 暗褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 28 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 13 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 29 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| 14 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 30 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |
| 15 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 31 褐色 ローム粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 16 暗褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片379点（坏13，高台付椀1，甕類362，甑3），須恵器片69点（坏33，蓋1，高盤1，鉢8，甕類26），縄文土器片1点が各柱穴から出土している。1060はP10，1061はP7の覆土からそれぞれ出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第643図 第337号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第337号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第643図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1060	須恵器	坏	[13.2]	4.2	[7.8]	長石・石英・雲母	灰白	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	P10覆土	40% 内面煤付着
1061	須恵器	坏	[16.0]	3.6	[9.5]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	P7覆土	10%

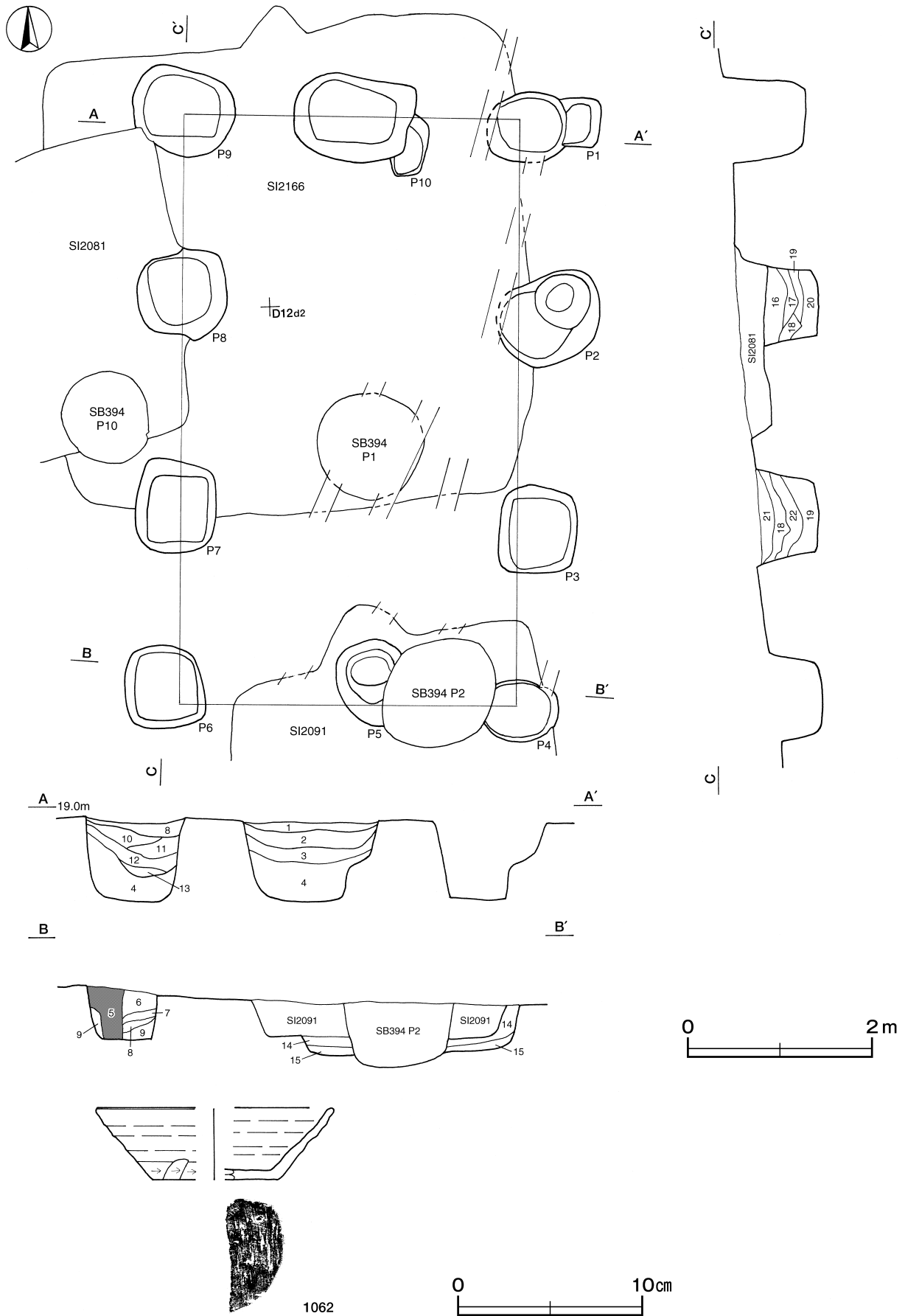
第350号掘立柱建物跡（第644図）

位置 調査区南部のD12d2区，標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2166号住居跡を掘り込み，第2081・2091号住居，第394号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-1°-Eの南北棟である。規模は，桁行6.3m，梁行3.6mで，面積は22.68m²である。柱間寸法は，桁行が2.1m（7尺），梁行が1.8m（6尺）を基調とし，均等に配されている。

柱穴 10か所。平面形は，隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸89～130cm，短軸64～93cmである。深さは50～95cmで，断面形は逆台形である。土層は第5層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土である。P6の土層断面からは柱痕跡が明瞭に確認され，推定される柱の太さは20cm以上である。第4・6～22層は埋



第644图 第350号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土で、ローム土と粘土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土が互層をなし、強く突き固められている。第1～3層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 灰褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐灰色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 6 褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量 |
| 7 褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 8 褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子微量 | 17 暗褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 9 褐色 | 粘土ブロック少量 | 18 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 焼土粒子微量 |
| | | 19 褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| | | 20 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| | | 21 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| | | 22 暗褐色 | 粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片203点（坏12，甕類191），須恵器片79点（坏48，蓋3，壺1，甕類27）が各柱穴から出土している。1062はP1の覆土から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、9世紀後葉に比定される第2081号住居に掘り込まれていることや、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第350号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第644図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1062	須恵器	坏	[12.6]	3.9	[6.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方の手持ちヘラ削り	P1覆土	15%

第356号掘立柱建物跡（第645図）

位置 調査区南部のD11f5区、標高18.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第363号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-80°-Eの東西棟である。規模は、桁行6.3m、梁行4.2mで、面積は26.46m²である。柱間寸法は2.1m（7尺）を基調とし、均等に配されている。

柱穴 10か所。平面形は、隅丸方形または隅丸長方形で、規模は長軸98～146cm、短軸84～110cmである。深さは50～75cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・8・23・27層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。P2・P3以外の柱穴の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20cm以上である。また、P1の底面から柱のあたりが確認されている。第16～18層は柱抜き取り後の覆土である。その他の層は埋土で、ローム土と粘土を主体とした褐色土・灰黄褐色土・にぶい黄褐色・極暗褐色土・暗褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

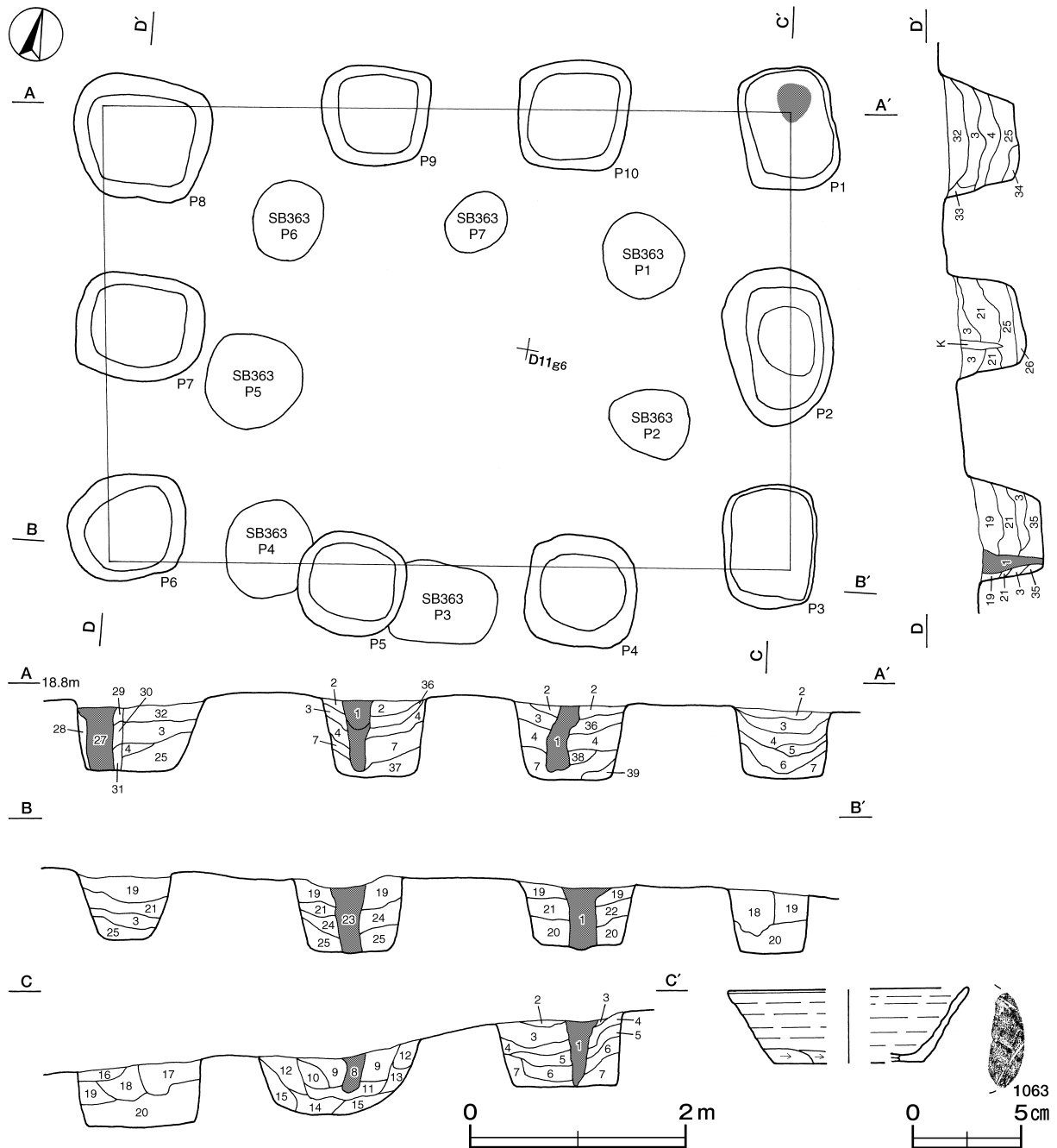
- | | | | |
|---------|----------------------------|-----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 14 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 15 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 7 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック微量 | 17 灰黄褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 18 暗褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 極暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 19 褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 極暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 | 20 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量 |
| | | 21 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| | | 22 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| | | 23 暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| | | 24 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 |

- 25 暗 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 26 灰 黄 褐 色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 27 褐 色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量
- 28 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 29 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 30 褐 色 粘土粒子少量
- 31 褐 色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 32 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

- 33 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 34 明 褐 色 ローム粒子多量
- 35 褐 色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 36 褐 色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 37 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 38 に ぶ い 黄 褐 色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 39 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片48点(坏8, 甕類40), 須恵器片8点(坏)が各柱穴から出土している。1063はP9の埋土から出土している。

所見 規模や形状から穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は, 埋土から出土した土器から9世紀前葉と考えられる。



第645図 第356号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

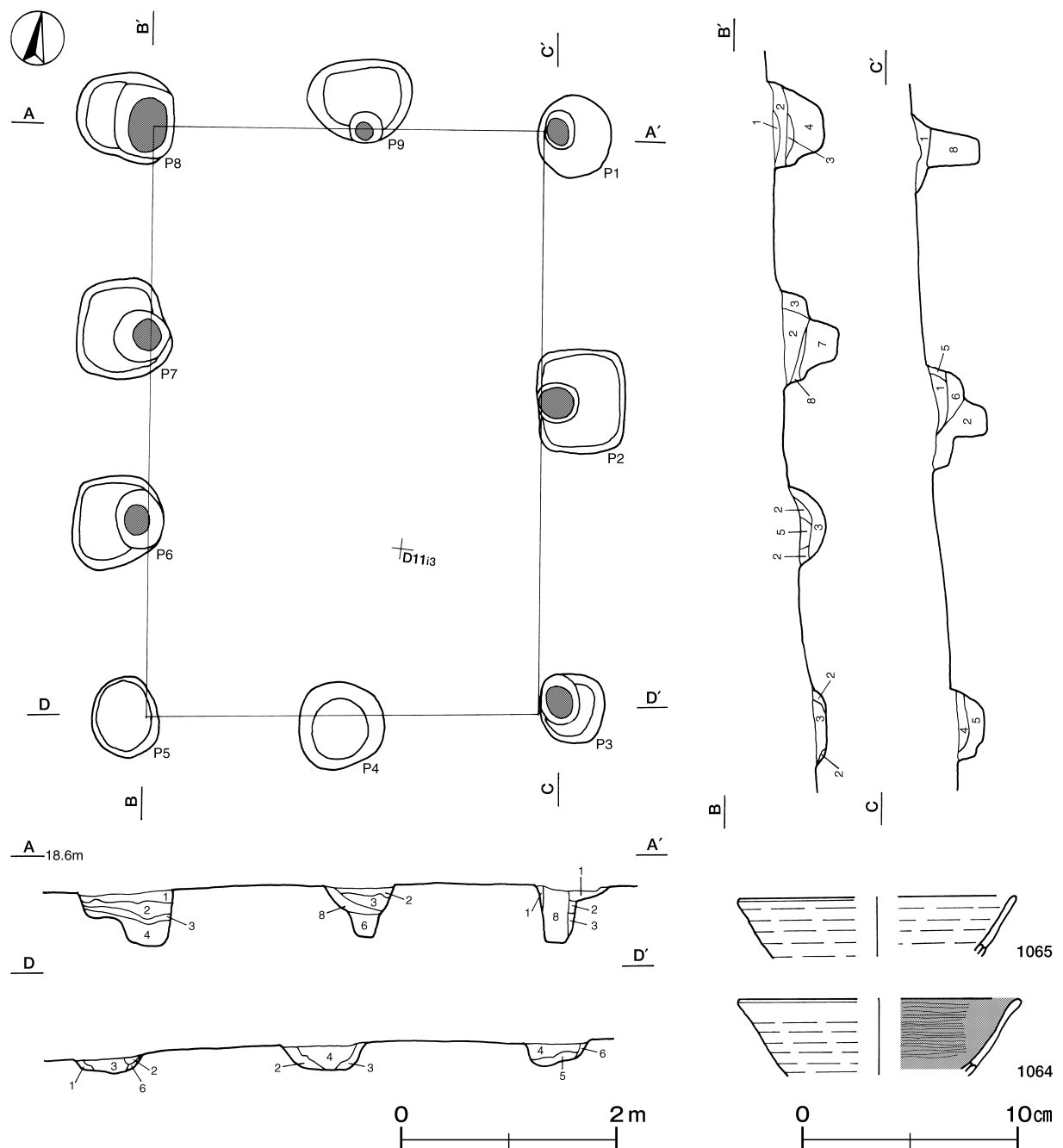
第356号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第645図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1063	須恵器	坏	[11.0]	3.4	[7.0]	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後 手持ちへら削り	P 9 埋土	10%

第359号掘立柱建物跡（第646図）

位置 調査区南部のD11h2区、標高18.5mほどの南への緩斜面に位置している。

規模と構造 桁行は西側で3間、東側で2間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 7° - Wの南北棟である。規模は、桁行5.4m、梁行3.6mで、面積は19.44m²である。柱間寸法は、桁行が1.8~3.0m(6~10尺)、梁行が1.8m(6尺)を基調とし、西側桁行は1.8m(6尺)の均等に対し、東側桁行では北から2.4m(8尺)、3.0m(10尺)とばらつきがあるが、柱筋はほぼ揃っている。



第646図 第359号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 9か所。平面形は、楕円形である。規模は長径64～96cm，短径58～84cmである。深さは12～56cmで，断面形はU字形，逆台形，二段掘り込みなど様々である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。また，P4・P5を除く底面からは柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|--------------------|---------|--------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量 | 6 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量 | 7 にぶい橙色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック微量 | 8 黒色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片49点（坏12，甕類37），須恵器片11点（坏5，短頸壺1，甕類5）が各柱穴から出土している。1065はP9，1064はP5の覆土からそれぞれ出土している。

所見 桁行の柱間が異なる不規則な構造を持っていることから，倉庫以外の機能も推測されるが明確ではない。時期は，出土土器から9世紀中葉以降と考えられる。

第359号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第646図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1064	土師器	坏	[13.0]	(3.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面へら磨き	P5覆土	5%
1065	須恵器	坏	[12.8]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロウ口整形	P9覆土	5%

第361号掘立柱建物跡（第647・648図）

位置 調査区南東部のD13c6区，標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

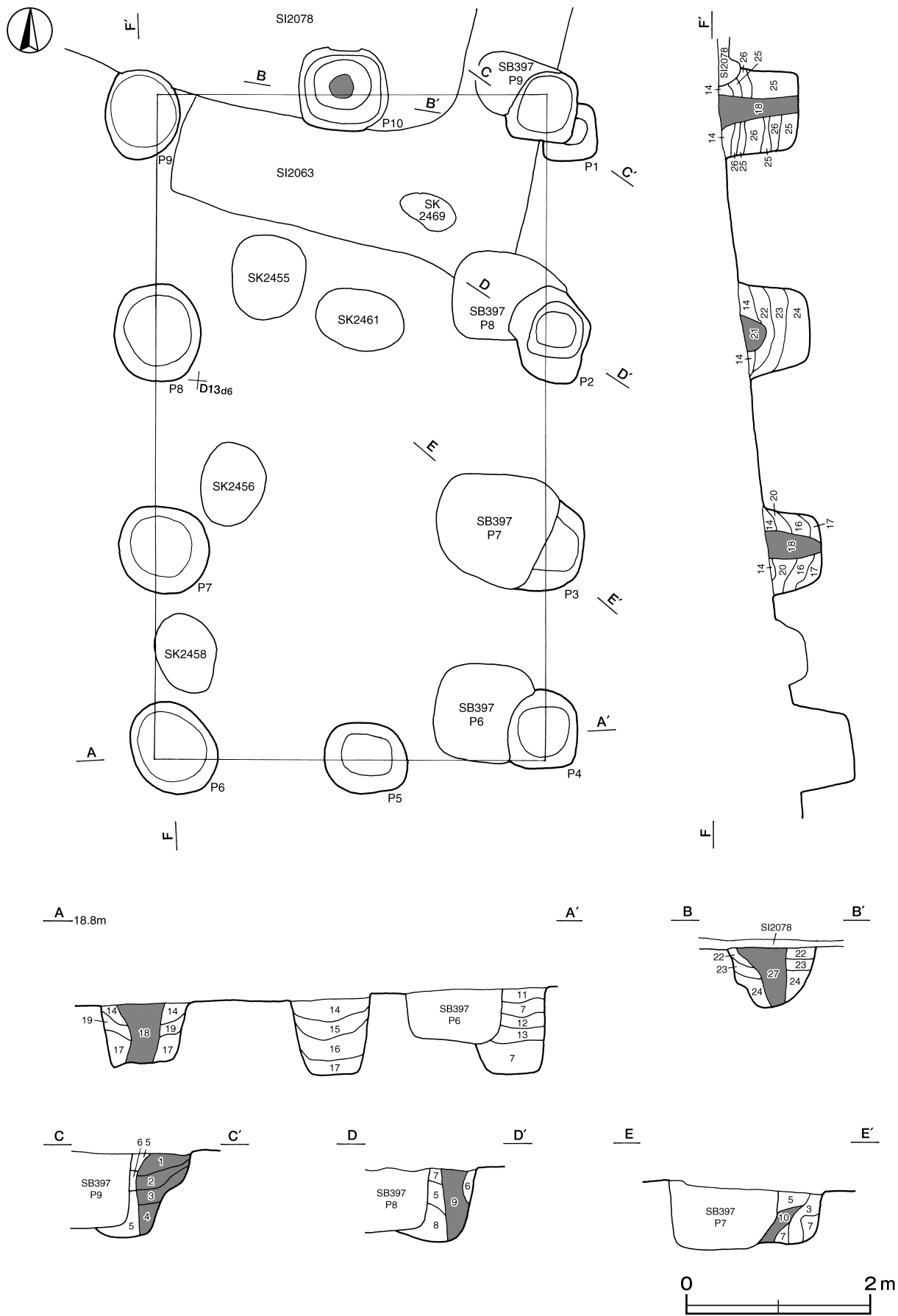
重複関係 第2063号住居跡を掘り込み，第2078号住居，第397号掘立柱建物に掘り込まれている。また，第2455・2456・2458・2461・2469号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-7°-Wの南北棟である。規模は，桁行7.2m，梁行4.2mで，面積は30.24m²である。柱間寸法は，桁行が2.4m（8尺），梁行が2.1m（7尺）を基調とし，均等に配されている。

柱穴 10か所。平面形は，隅丸方形ないし楕円形で，規模は長軸76～108cm，短軸72～92cmである。深さは55～93cmで，断面形は逆台形である。土層は第1～4・9・10・18・21・27層が柱抜き取り痕に相当し，やや締まりのある黒褐色土・灰褐色土などである。また，P10の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした粘土混じりの暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

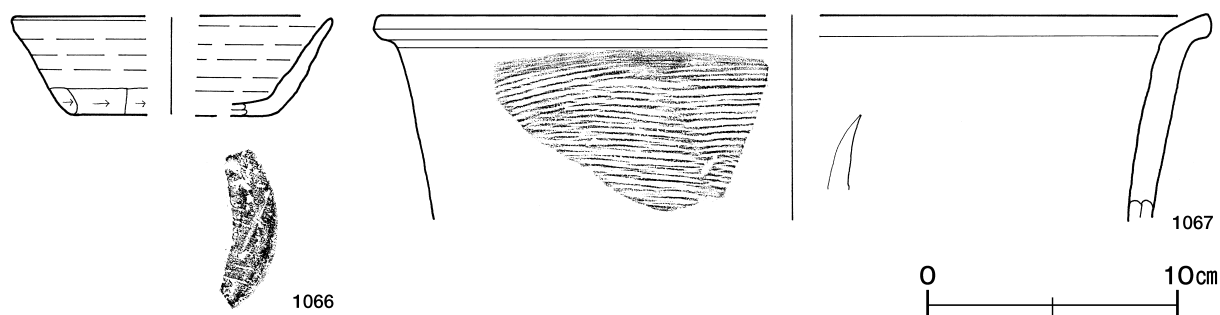
- | | | | |
|---------|-------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量 | 13 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物・粘土ブロック微量 |
| 2 灰黄色 | 粘土ブロック多量，ローム粒子少量 | 14 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 6 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 18 暗褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量，ロームブロック微量 | 19 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 8 褐灰色 | 粘土ブロック多量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 20 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 9 灰褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック微量 | 21 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 10 黒褐色 | 粘土ブロック少量 | 22 灰褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 11 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 23 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 12 浅黄色 | 粘土粒子多量，ローム粒子少量 | 24 明褐灰色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量 |
| | | 25 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| | | 26 明褐灰色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック少量 |
| | | 27 暗褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量 |



第647图 第361号掘立柱建物跡実測图

遺物出土状況 土師器片136点（坏7，蓋1，甕類128），須恵器片34点（坏12，蓋2，甕類19，甑1）が各柱穴から出土している。1066はP10の柱抜き取り痕，1067はP1の覆土から出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。廃絶時期は，9世紀中葉に比定される第397号掘立柱建物に掘り込まれていることや，柱抜き取り痕から出土した土器から9世紀前葉と考えられる。



第648図 第361号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第361号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第648図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1066	須恵器	坏	[12.6]	3.9	[8.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 手持ちヘラ削り	P10柱抜き取り痕	10%
1067	須恵器	鉢	[33.0]	(8.1)	-	長石・雲母	灰白	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き	P1覆土	5%

第362号掘立柱建物跡（第649図）

位置 調査区南部のD11f2区，標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

規模と構造 桁行，梁行ともに2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-85°-Eの東西棟である。規模は，桁行4.2m，梁行3.6mで，面積は15.12m²である。柱間寸法は，桁行が2.1m（7尺），梁行が1.8m（6尺）を基調とし，均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

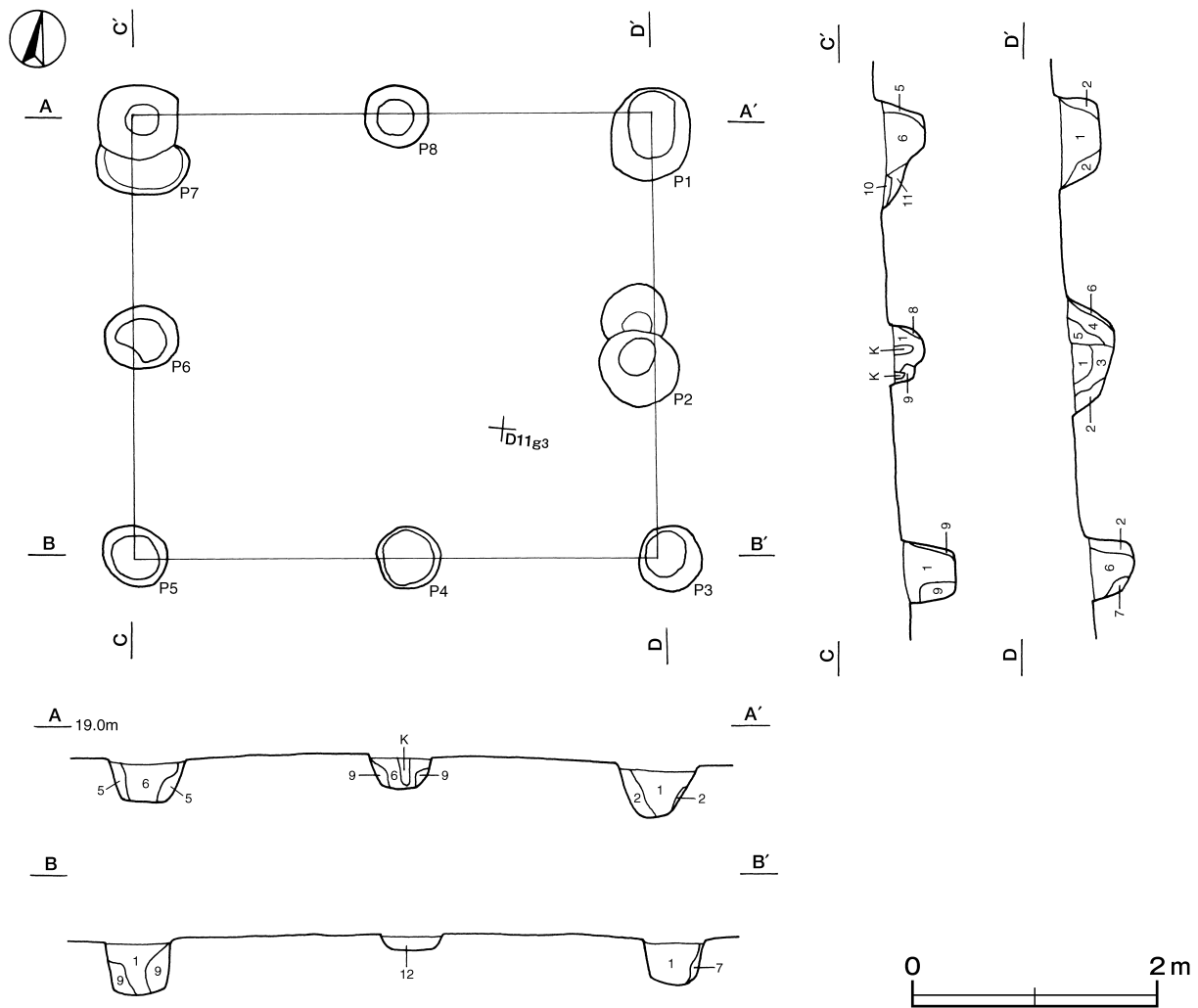
柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径51～98cm，短径50～64cmで，深さは16～45cmで，掘り込みは浅く，断面形はU字形や逆台形である。土層は第2・5・7～9層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	8	褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，粘土粒子微量	9	暗褐色	炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
5	暗褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量	11	暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	12	褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片48点（坏6，甕類42），須恵器片6点（坏1，蓋1，甕類4），縄文土器片1点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，比較的軽量なものを保管した倉庫と考えられる。時期は，出土土器から9世紀代と考えられる。



第649図 第362号掘立柱建物跡実測図

第366号掘立柱建物跡（第650図）

位置 調査区東部のC13h6区，標高20.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第368号掘立柱建物跡を掘り込み，第2080号住居，第391号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 4° - Wの南北棟である。規模は，桁行7.5m，梁行4.2mで，面積は31.5m²である。柱間寸法は，桁行が2.1~2.7m（7~9尺），梁行が2.1m（7尺）を基調とし，東側桁行では北から2.7m（9尺），2.7m（9尺），2.1m（7尺）である。

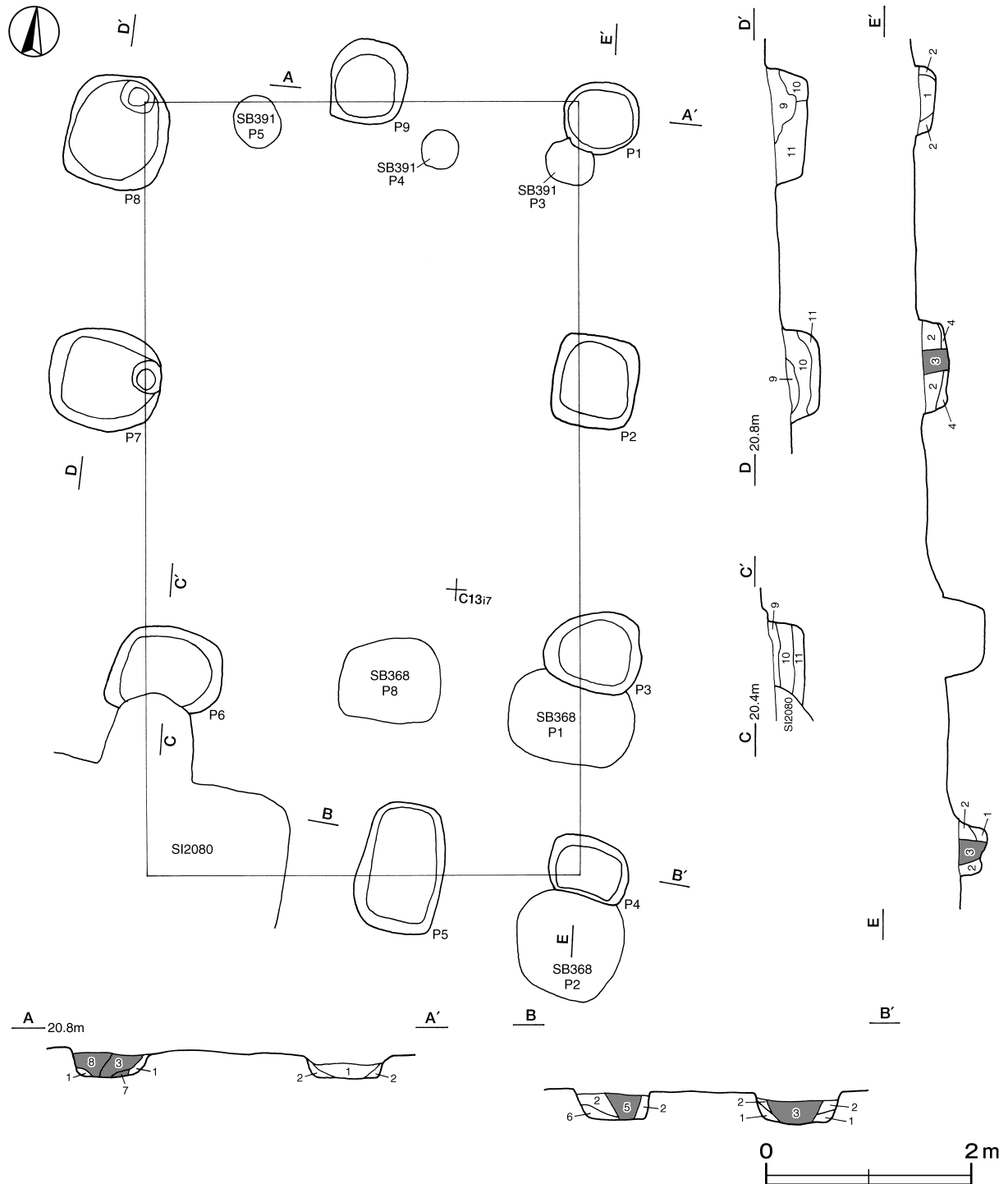
柱穴 9か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸76~122cm，短軸67~88cmである。深さは15~32cmで，断面形は逆台形である。土層は第3・5・7・8層が柱抜き取り痕に相当し，締めりの弱い極暗褐色土と黒褐色土である。第1・2・4・6層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 にぶい褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 8 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 10 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量 | 11 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 6 にぶい褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片29点（坏1，甕類28），須恵器片13点（坏4，盤2，甕類7），土製品1点（支脚）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、9世紀後葉に比定される第2080号住居跡に掘り込まれていることや、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第650図 第366号掘立柱建物跡実測図

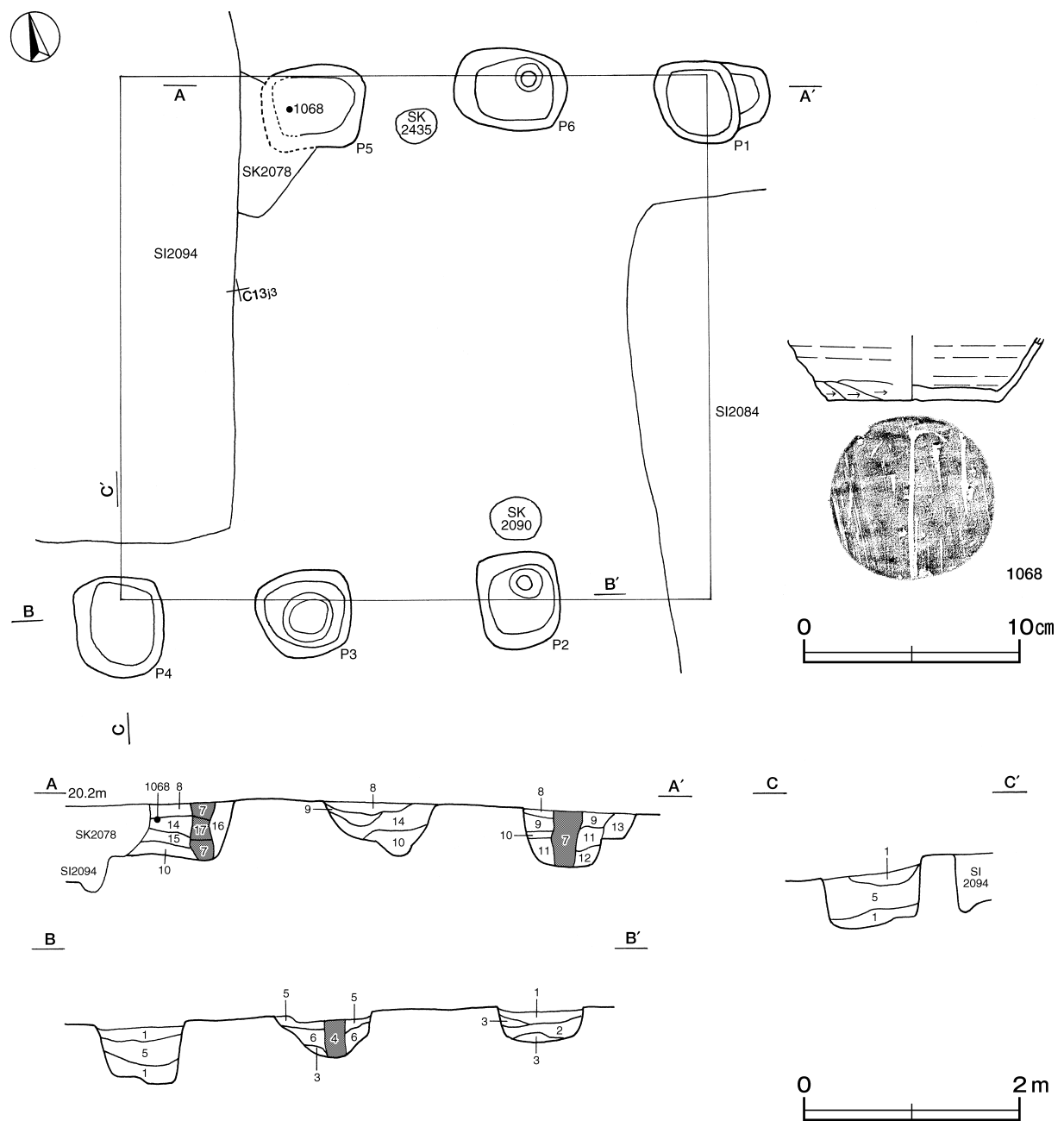
第367号掘立柱建物跡（第651図）

位置 調査区東部のC13j3区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2084・2094号住居，第2078土坑に掘り込まれている。また，第2090・2435号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 東西両方向が住居により掘り込まれているため，全体の規模は不明であるが，桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 80° - Wの東西棟と推定される。規模は，桁行5.4m，梁行4.8mで，面積は25.92m²と推定される。確認された範囲では，柱間寸法は桁行が1.8m（6尺），梁行が2.4m（8尺）である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は，隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸76～103cm，短軸67～80cmである。深さは34～52cmで，断面形は逆台形である。土層は第4・7・17層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土・極暗褐色土・黒褐色土である。第5・6・8～16層は埋土で，ローム土と粘土を主体とした褐色土・灰褐色土などが互層をなし，強く突き固められている。



第651図 第367号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック少量	10 灰褐色	粘土粒子少量，ロームブロック微量
2 にぶい褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量	11 灰褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック少量	12 褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック微量
4 極暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	13 にぶい褐色	粘土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
5 にぶい褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	14 にぶい褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック少量
6 褐色	ロームブロック少量	15 にぶい褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
7 黒褐色	粘土ブロック少量，ロームブロック微量	16 にぶい褐色	ロームブロック中量
8 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量	17 暗褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量
9 灰褐色	粘土ブロック少量，ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片46点（坏6，甕類40），須恵器片12点（坏9，高台付坏1，甕類2）が各柱穴から出土している。1068はP5の埋土から出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。構築時期は，重複関係と埋土から出土した土器から9世紀前葉と考えられる。

第367号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第651図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
1068	須恵器	坏	-	(2.9)	7.8	長石・石英・雲母・微礫	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 一方向の手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り後	P5埋土	40%

第376号掘立柱建物跡（第652図）

位置 調査区南西部のD9c9区，標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2007・2029・2030・2031号住居跡，第370号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行3間の側柱建物跡で，桁行方向N-12°-Wの南北棟である。規模は，桁行6.6m，梁行4.5mで，面積は29.7m²である。柱間寸法は，桁行が2.1~2.4m（7~8尺），梁行が1.5（5尺）を基調とし，東側桁行は北から2.1m（7尺），2.4m（8尺），2.1m（7尺）である。梁行は1.5m（5尺）ずつ均等に配されている。

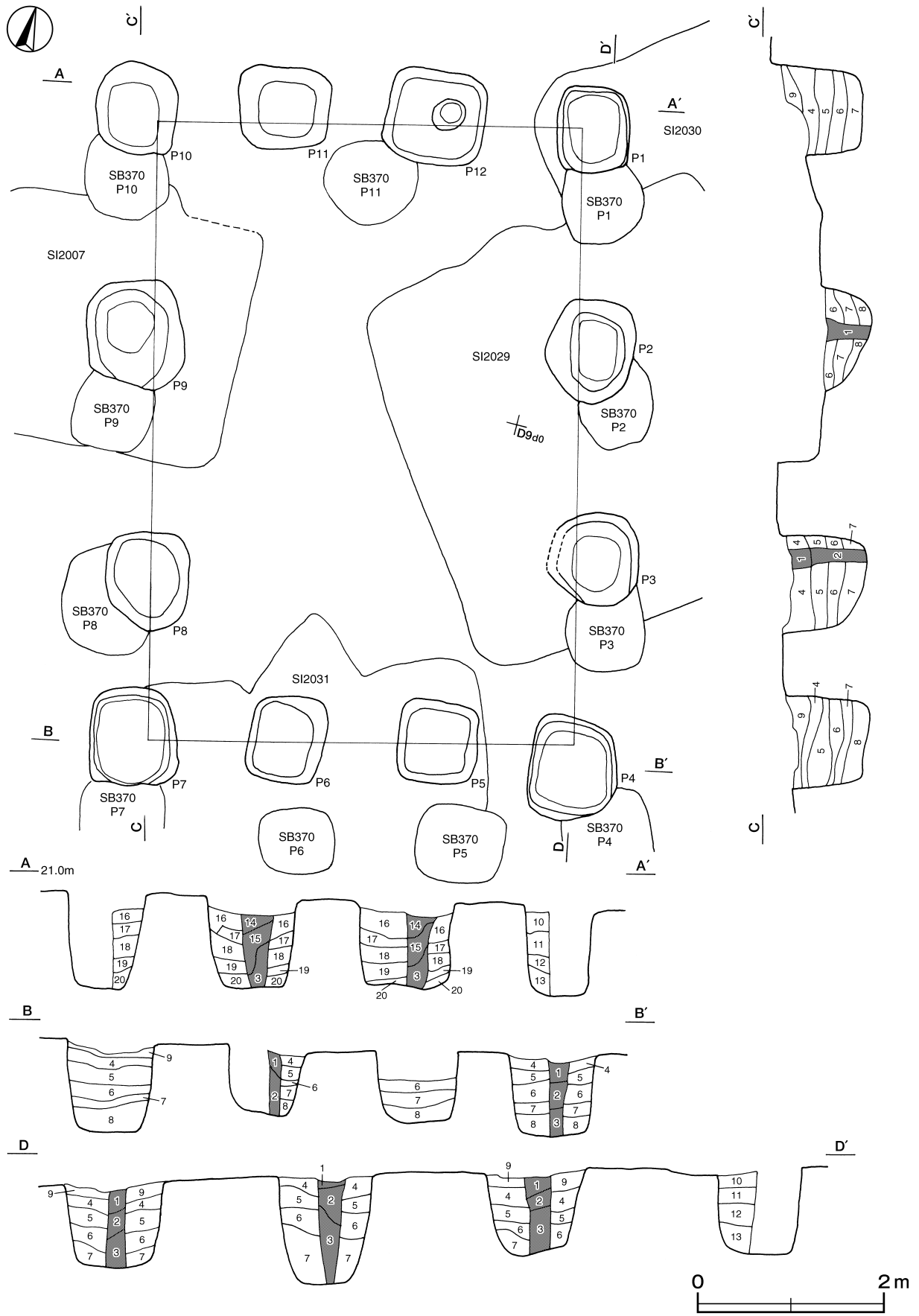
柱穴 12か所。平面形は，隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸90~117cm，短軸76~105cmである。深さは70~115cmで，断面形は逆台形である。土層は第1~3・14・15層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。また，P12の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	11 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	13 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック・炭化材少量
5 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量	15 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック中量	16 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
7 褐色	ロームブロック多量，炭化粒子微量	17 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	18 暗褐色	ローム粒子少量
9 褐色	ロームブロック少量	19 暗褐色	ロームブロック少量
10 暗褐色	炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量	20 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片152点（坏18，甕類133，甗1），須恵器片19点（坏6，甗1，甕類12）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北には第303号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えて直列していることから，同時期に機能していたものと推測される。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



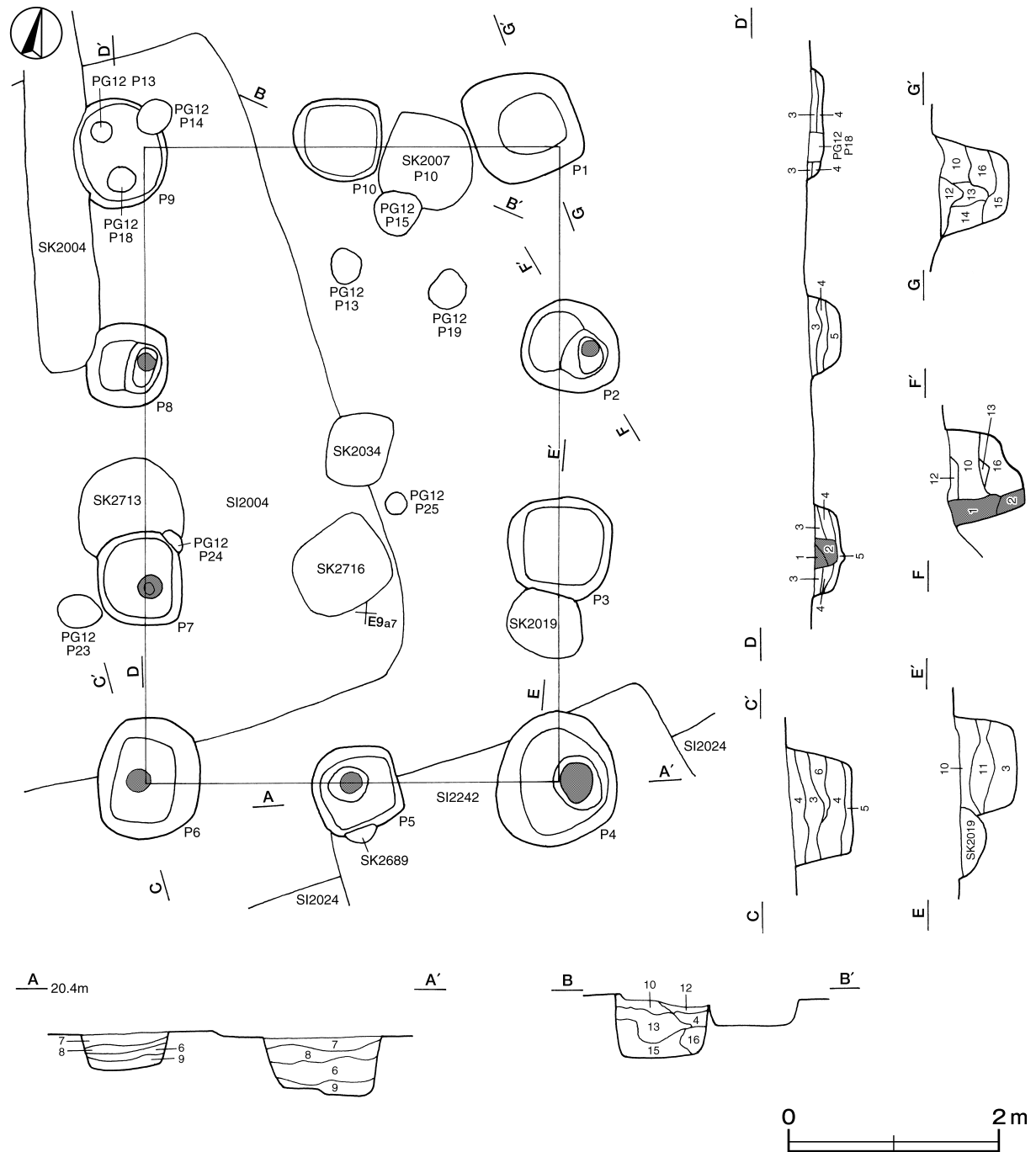
第652图 第376号掘立柱建物跡実測图

第378号掘立柱建物跡（第653図）

位置 調査区南西部のD9j6区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2004・2024・2242号住居跡を掘り込み，第12号ピット群，第2004・2019・2689・2713号土坑に掘り込まれている。また，第2007・2034・2716号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 5° - Wの南北棟である。規模は，桁行6.0m，梁行3.9mで，面積は23.4m²である。柱間寸法は1.8~2.1m（6~7尺）を基調とし，東側桁行は北から2.1m（7尺），2.1m（7尺），1.8m（6尺），北妻梁行は東から2.1m（7尺），1.8m（6尺）である。



第653図 第378号掘立柱建物跡実測図

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で、規模は長軸82～129cm、短軸77～114cmである。深さは12～68cmで、断面形は逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった黒褐色土である。また、P1・P3・P9・P10以外の底面からは柱のあたりが確認されている。第3～9層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土などが互層をなし、強く突き固められている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	10 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	ロームブロック少量	12 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック中量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	14 明褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	16 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片189点（坏45，甕類144），須恵器片7点（坏2，甕類5），不明鉄製品1点が各柱穴か出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、10世紀後半に比定される第2242号住居跡を掘り込んでいることや、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

第392号掘立柱建物跡（第654図）

位置 調査区中央部のC12i0区、標高20mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2094号住居，第411号掘立柱建物，第203号溝に掘り込まれている。

規模と構造 北東部を住居跡に掘り込まれているため、全体の規模は不明であるが、桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-88°-Wの東西棟と推定される。確認された範囲では、規模は桁行7.5m、梁行4.8mで、面積は36.0m²と推定される。柱間寸法は、桁行が2.4～2.7m（8～9尺）、梁行が2.4m（8尺）を基調とし、南側桁行では東から2.4m（8尺）、2.4m（8尺）、2.7m（9尺）である。西妻梁行は2.4m（8尺）ずつ均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

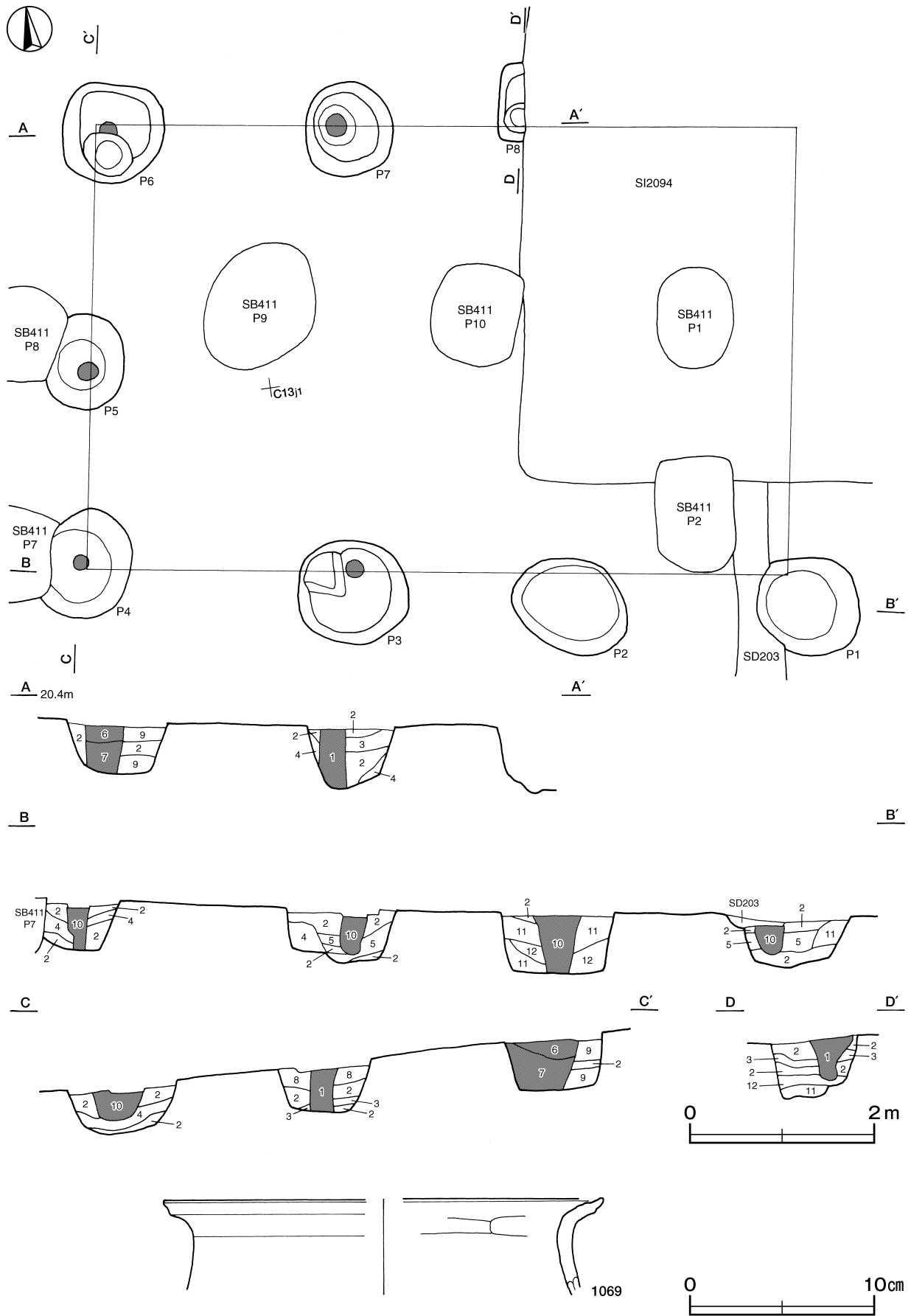
柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径100～128cm、短径93～104cmである。深さは52～64cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・6・7・10層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土・褐灰色土である。また、P3～P7の底面からは柱のあたりが確認されている。第2～4・5・8・9・11・12層は埋土で、ローム土を主体とした粘土混じりの褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。第4層は、粘土ブロックを多量に含むことから、根固めの層と考えられる。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	7 黒褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	8 褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
3 にぶい褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量	9 にぶい褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量
4 にぶい褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック微量	10 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	11 暗褐色	ロームブロック少量
6 褐灰色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量	12 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片66点（坏6，甕類60），須恵器片24点（坏14，瓶1，甕類8，甌1），剥片1点が各柱穴から出土している。1069はP9の柱抜き取り痕から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。廃絶時期は、9世紀後葉に比定される第2094号住居に掘り込まれていることや、柱抜き取り痕から出土した土器から9世紀中葉と考えられる。



第654图 第392号掘立柱建物跡実測图・出土実测图

第392号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第654図）

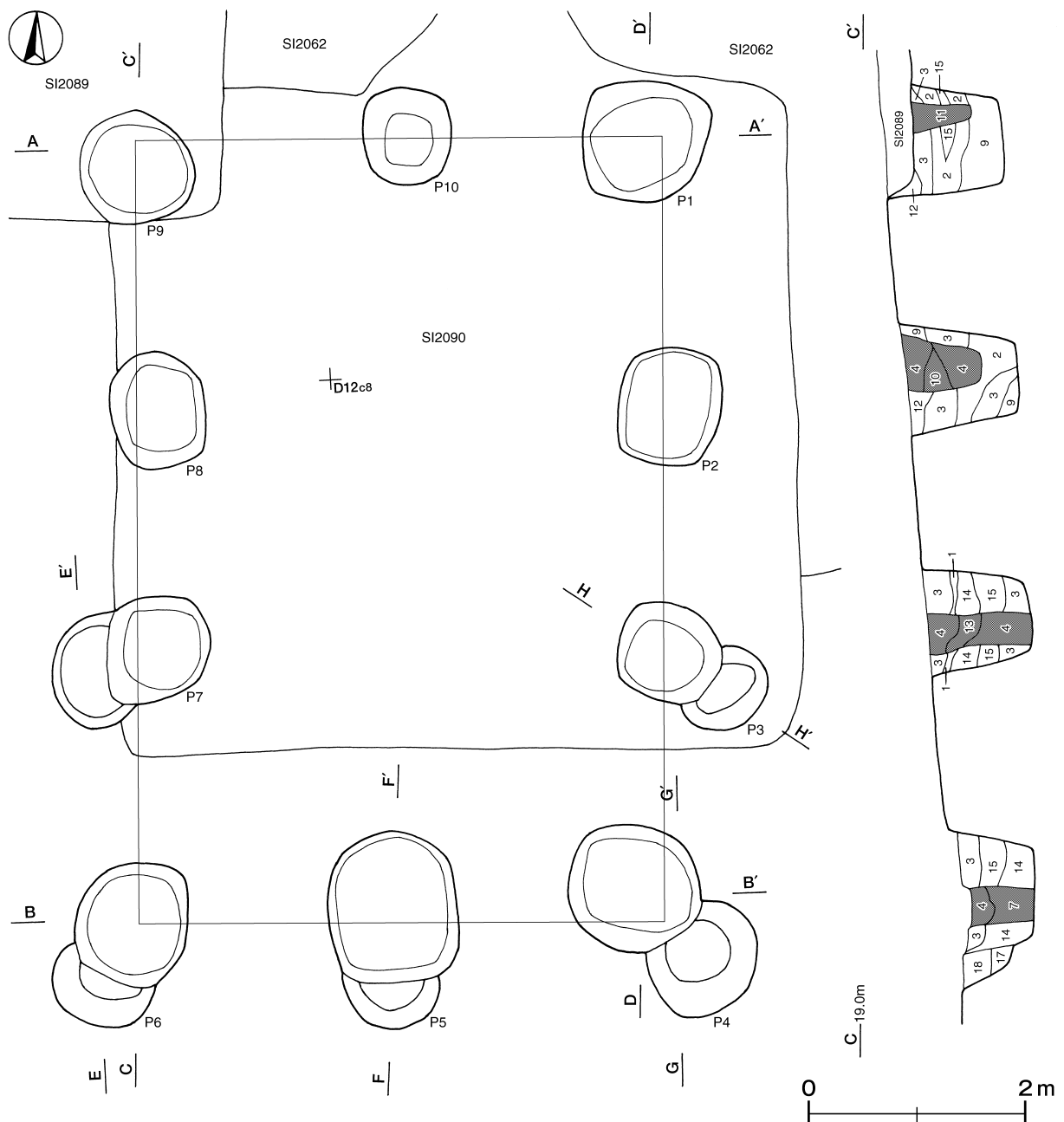
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1069	土師器	甕	[23.4]	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	P9柱抜き取り痕	5%

第393号掘立柱建物跡（第655・656図）

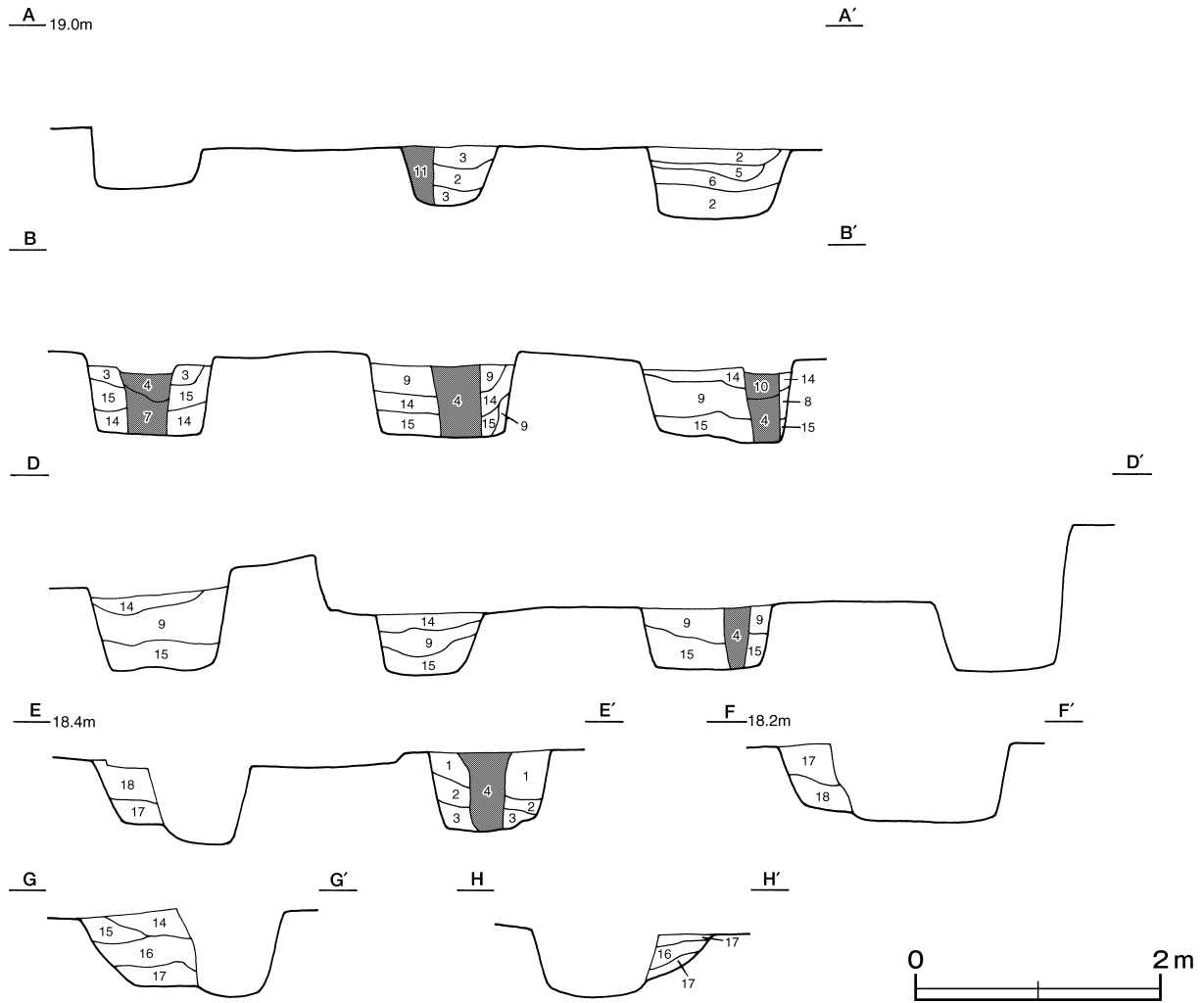
位置 調査区南部のD12c8区、標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2062・2090号住居跡を掘り込み、第2089号住居に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 2° - Eの南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行4.8mで、面積は34.56m²である。柱間寸法は2.4m（8尺）を基調としている。



第655図 第393号掘立柱建物跡実測図(1)



第656図 第393号掘立柱建物跡実測図(2)

柱穴 10か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径88～200cm、短径80～116cmである。深さは45～100cmで、断面形は逆台形である。土層は第4・7・10・11・13層が柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い明黄褐色土・暗褐色土・極暗褐色土である。P1・P3・P10以外の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20～25cmである。その他の層は埋土で、ローム土と粘土を主体とした褐色土・極暗褐色土・黒褐色土・灰褐色土などが互層をなし、強く突き固められている。

土層解説(各柱穴共通)

- | | | | |
|----------|----------------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 にぶい黄橙色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量 | 13 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 6 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 7 明黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化物微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 8 暗褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| | | 17 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| | | 18 灰褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片285点(坏14, 甕類271), 須恵器片126点(坏33, 高台付坏2, 蓋9, 盤3, 鉢1, 甕類78)が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。また, P1・P4・P6～P8から炭化米と炭化物が出土している。

所見 規模や形状, 柱穴内から炭化米が出土していることから, 穀物を納めた倉庫と考えられ, 焼失した可能

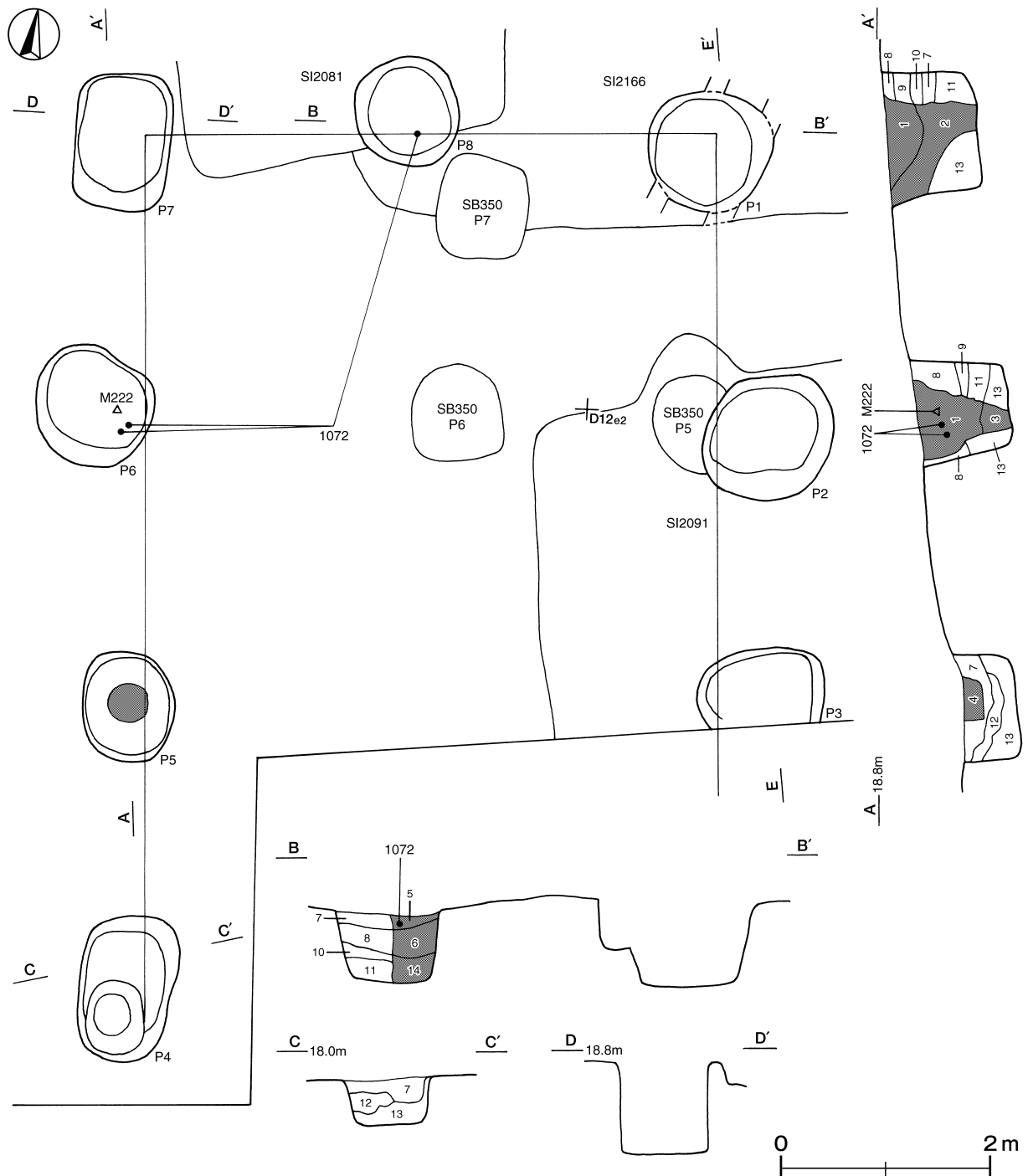
性がある。本跡の北東には第412号掘立柱建物跡が隣接し、南桁が本跡の北妻と合っており、同時期に機能していたものと推測される。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第394号掘立柱建物跡（第657・658図）

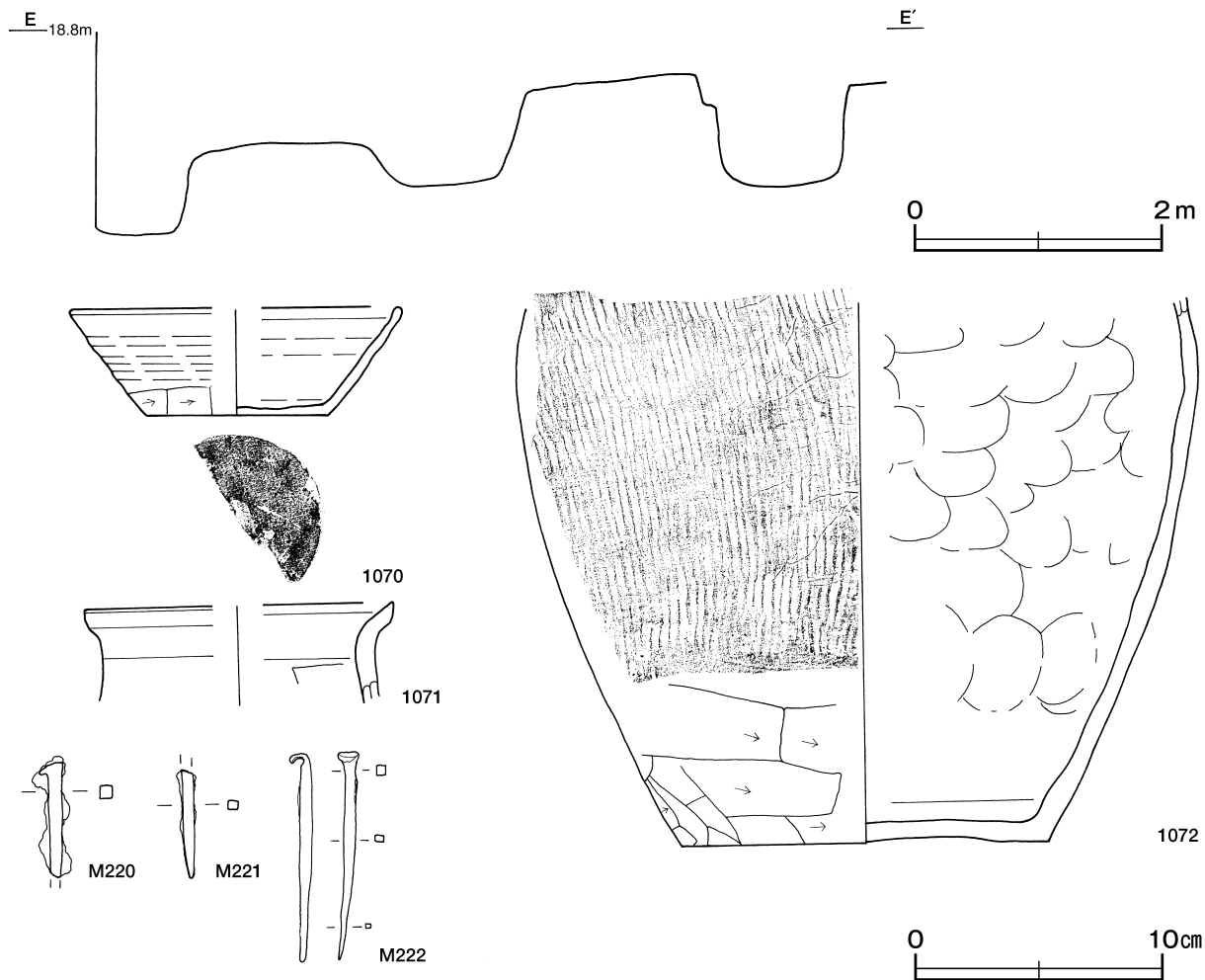
位置 調査区南部のD12d1区、標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2081・2091・2166号住居跡、第350号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 南側が調査区域外に伸びているため全体の規模は不明であるが、桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 2° - Wの南北棟と推定される。規模は、確認された範囲では桁行6.1m以上、梁行5.4mである。柱間寸法は、桁行、梁行ともに2.7m（9尺）を基調としている。



第657図 第394号掘立柱建物跡実測図



第658図 第394号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 8か所。平面形は楕円形で、規模は長径103～130cm，短径86～116cmである。深さは50～122cmで，断面形は逆台形である。土層は第1～6・14層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い褐色土・黄褐色土・黒色土である。また，P5の底面からは柱のあたりが確認されている。第7～13層は埋土で，ローム土と粘土を主体とした褐色土・褐灰色土・暗褐色土・黒褐色土などが互層をなし，強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 黄褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量 | 9 黒褐色 | 炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒色 | 炭化物中量，ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化材少量 |
| 4 明黄褐色 | 粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 | 14 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | | |
| 8 褐灰色 | 粘土ブロック多量，ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片85点(坏5，皿5，甕類75)，須恵器片101点(坏34，高台付坏14，高台付皿5，蓋14，甕類34)のほか，炭化米が各柱穴から出土している。1072はP6とP8の柱抜き取り痕，1071はP3の覆土，1070・M221はP7の覆土，M220はP8の覆土，M222はP6の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 規模や形状と炭化米の出土したことから，穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は，9世紀後葉に比定される第2081号住居跡を掘り込んでいることや，出土土器から9世紀後葉以降と考えられる。

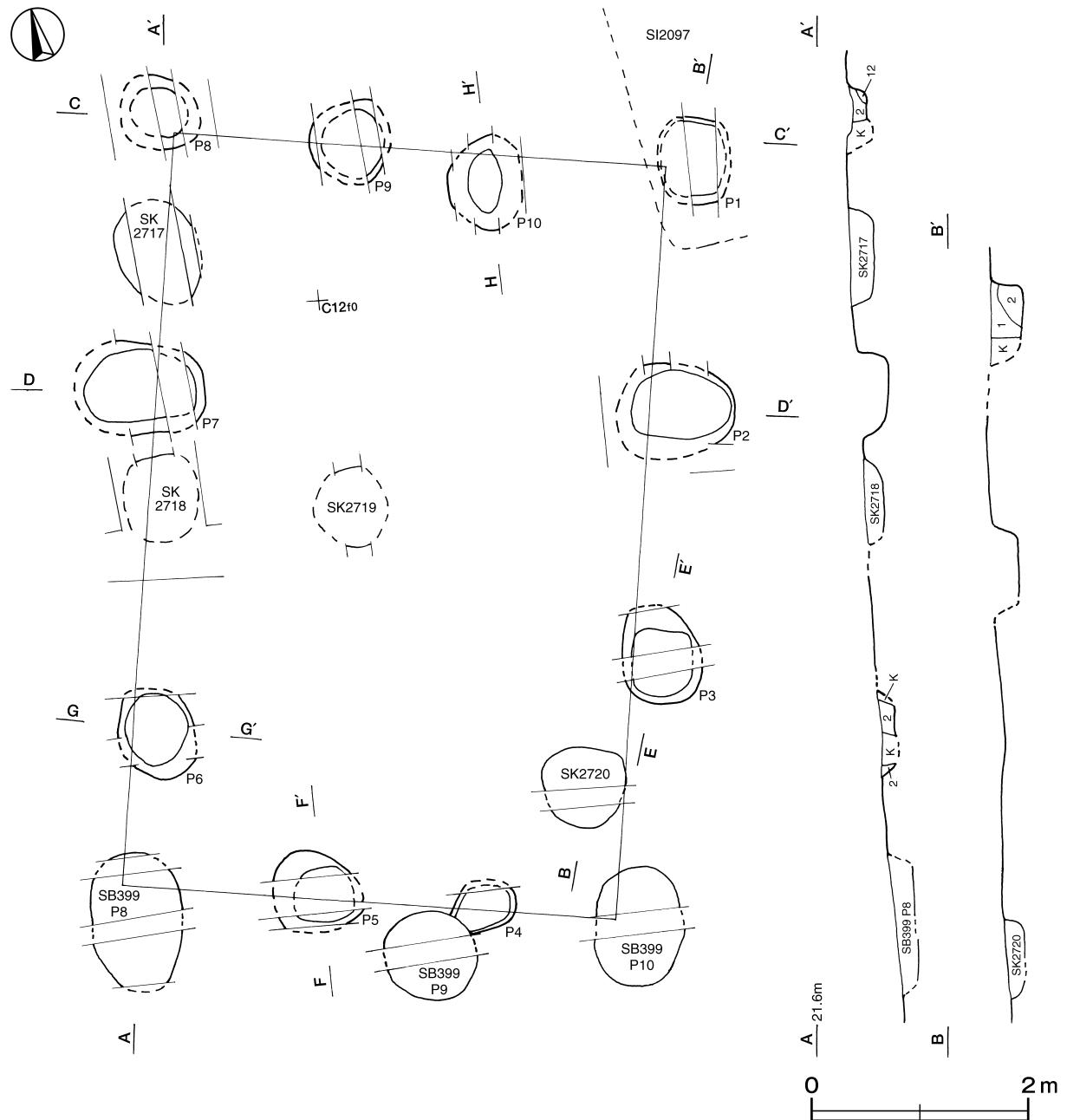
第394号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第658図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1070	須恵器	坏	[13.0]	4.3	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り後 一方向の手持ちへら削り	P 7 覆土	25%
1071	土師器	甕	[12.2]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ内面へらナデ	P 3 覆土	5%
1072	須恵器	甕	-	(21.7)	14.8	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き下位手持ちへら削り内 面当て具痕 底部外縁へら削り	P 6・P 8 柱抜き取り痕	25%

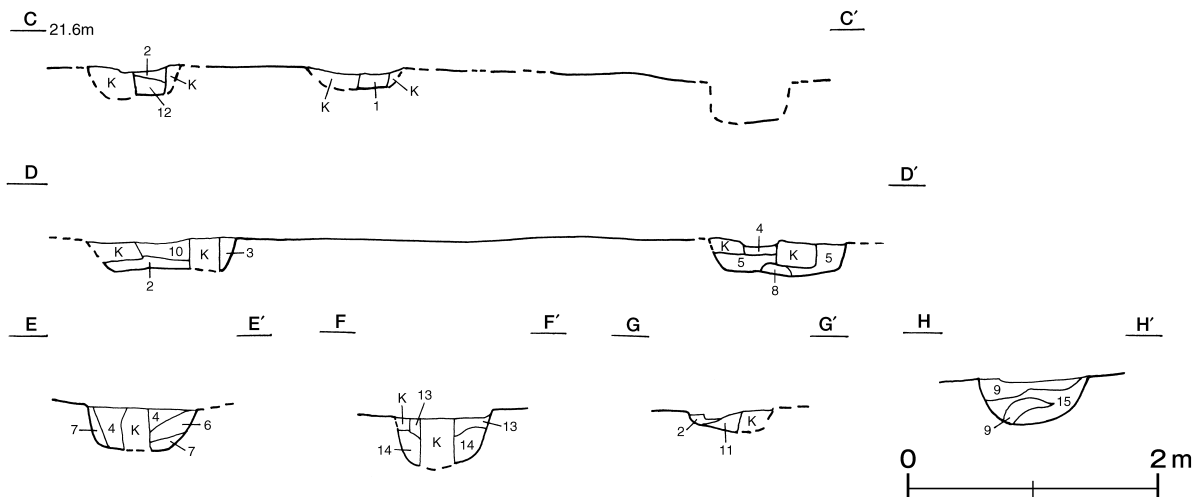
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M220	釘	(4.7)	1.0	0.6	(6.1)	鉄	角釘 断面長方形 一部欠損	P 8 覆土	
M221	釘	(4.4)	0.4	0.4	(1.3)	鉄	角釘 断面長方形 先端部残存	P 7 覆土	
M222	釘	8.3	0.8	0.8	8.1	鉄	角釘 断面長方形 光沢有り	P 6 柱抜き 取り痕	完形

第396号掘立柱建物跡（第659・660図）

位置 調査区中央部のC12f0区，標高21.5mほどの南への緩斜面に位置している。



第659図 第396号掘立柱建物跡実測図(1)



第660図 第396号掘立柱建物跡実測図(2)

重複関係 第2097号住居跡を掘り込み、第399号掘立柱建物に掘り込まれている。また、第2717～2720号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行、梁行とともに3間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 10° - Eの南北棟である。規模は、桁行6.9m、梁行4.5mで、面積は31.05m²である。柱間寸法は、桁行が1.5～3.0m(5～10尺)、梁行が1.5m(5尺)を基調とし、東側桁行は北から2.4m(8尺)、2.1m(7尺)、2.4m(8尺)であるのに対して、西側桁行では2.4m(8尺)、3.0m(10尺)、1.5m(5尺)とばらつきがある。梁行は1.5m(5尺)で均等に配されている。

柱穴 10か所。平面形は楕円形で、規模は長径62～110cm、短径53～86cmである。深さは14～50cmで、断面形は逆台形である。土層はすべて埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・灰褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|--------|------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック少量 | 11 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 12 灰褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 14 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量 | 15 灰褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 8 灰褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片69点(坏4, 甕類65), 須恵器片12点(坏3, 高台付坏1, 蓋1, 甕類7)のほか、混入した陶器片2点、瓦片1点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第397号掘立柱建物跡 (第661・662図)

位置 調査区南東部のD13e7区、標高19mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2063・2088号住居跡、第361号掘立柱建物跡、第2500号土坑を掘り込んでいる。また、第2902号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 4° - Wの南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行3.6mで、面積は25.92m²である。柱間寸法は、桁行が2.4m(8尺)、梁行が1.8m(6尺)を基調としている。

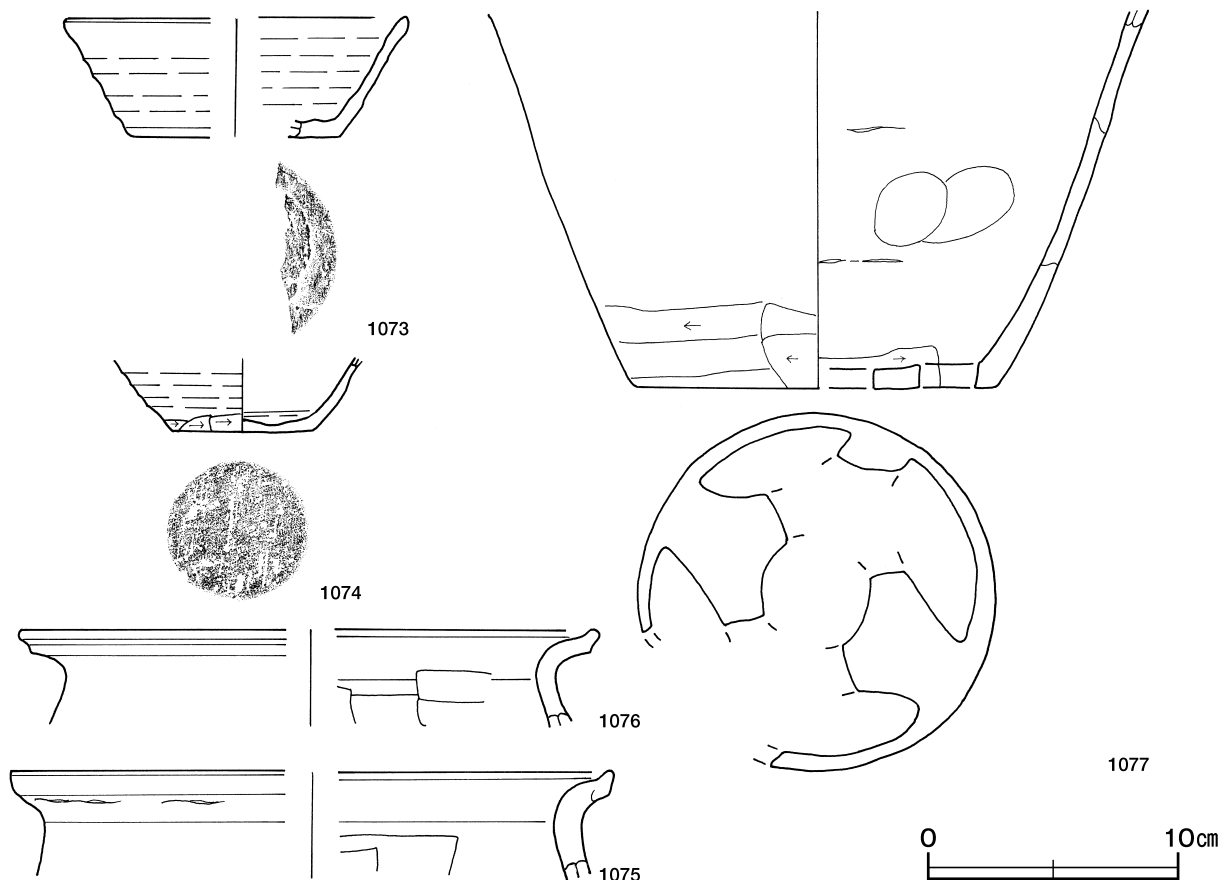
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は長軸84～122cm、短軸68～118cmである。深さは44～102cmで、断面形はU字形や逆台形を呈している。土層は第1・12～14・20～23層は柱抜き取り痕に相当し、締めりの弱い黒褐色土・黒色土である。第2～9・15～19・24層は埋土で、ローム土を主体とした黒褐色土・灰褐色土などが互層をなし、強く突き固められている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

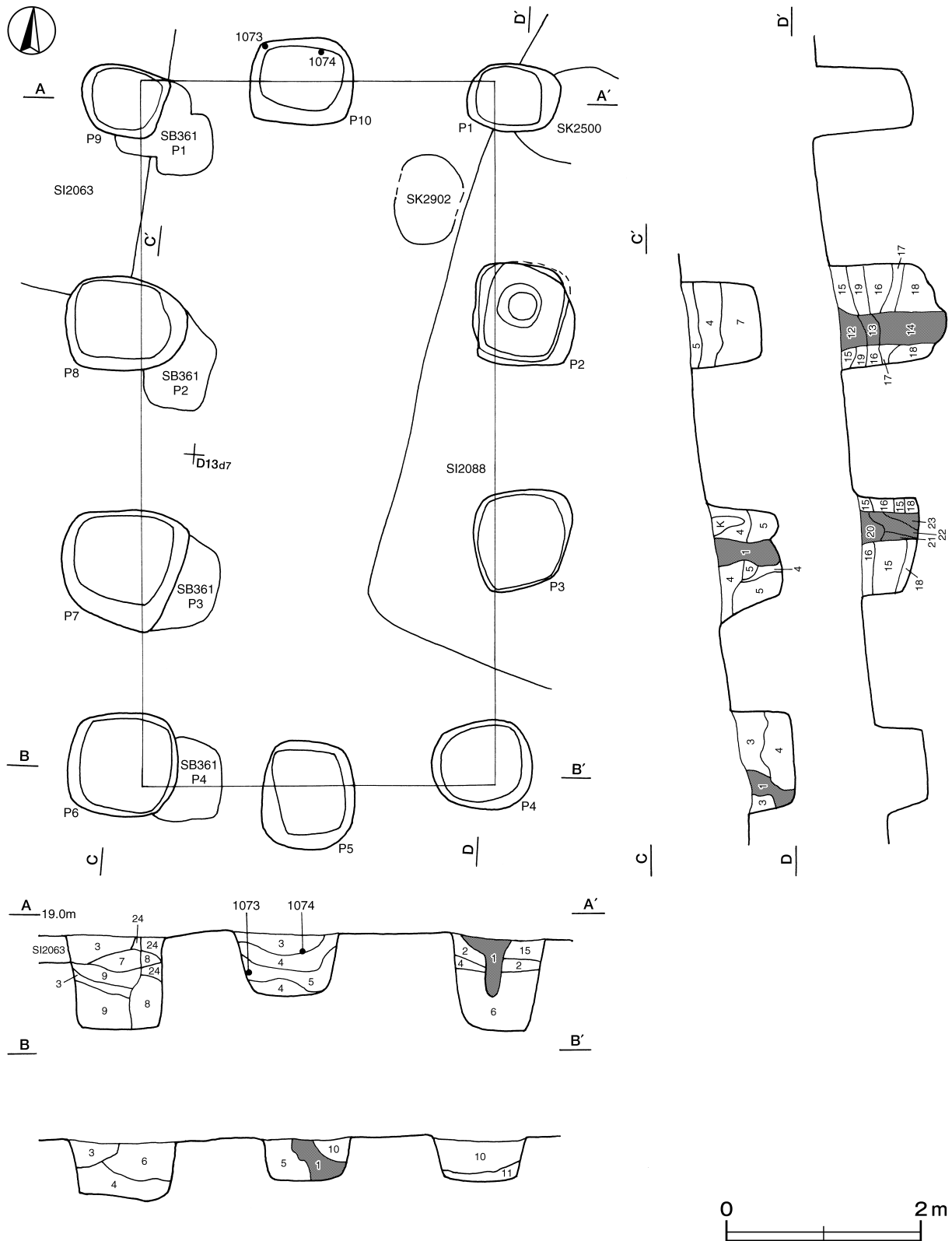
1 黒褐色 粘土ブロック少量,ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	13 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
2 灰白色 粘土ブロック多量,ローム粒子微量	14 黒色 ロームブロック・粘土ブロック微量
3 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量,ローム粒子微量	15 極暗褐色 ロームブロック中量 焼土ブロック・粘土ブロック少量 炭化物微量
4 灰褐色 粘土ブロック中量 焼土ブロック・ローム粒子少量 炭化物微量	16 灰褐色 粘土ブロック中量,炭化物微量
5 褐灰色 粘土ブロック多量 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	17 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
6 黒褐色 粘土ブロック少量	18 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
7 灰黄色 粘土ブロック多量,ローム粒子少量	19 黒褐色 ロームブロック少量
8 暗赤褐色 焼土ブロック中量,ローム粒子・炭化粒子少量	20 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量,ロームブロック微量
9 灰黄色 粘土ブロック中量	21 黒褐色 粘土ブロック少量,ロームブロック・焼土ブロック微量
10 黒褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量	22 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 焼土ブロック・炭化物微量
11 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	23 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量
12 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量	24 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片641点（坏25，蓋1，甕類615），須恵器片181点（坏76，盤6，鉢1，甕類86，甌12）のほか、混入した土師器片20点，須恵器片1点が出土している。1073・1074はP10の埋土，1076はP9の埋土からそれぞれ出土し，1077はP1・P2・P9・P10の埋土から出土した破片が接合したものである。また，1075はP2の覆土から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。構築時期は、埋土から出土した土器から9世紀中葉と考えられる。



第661図 第397号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第662図 第397号掘立柱建物跡実測図

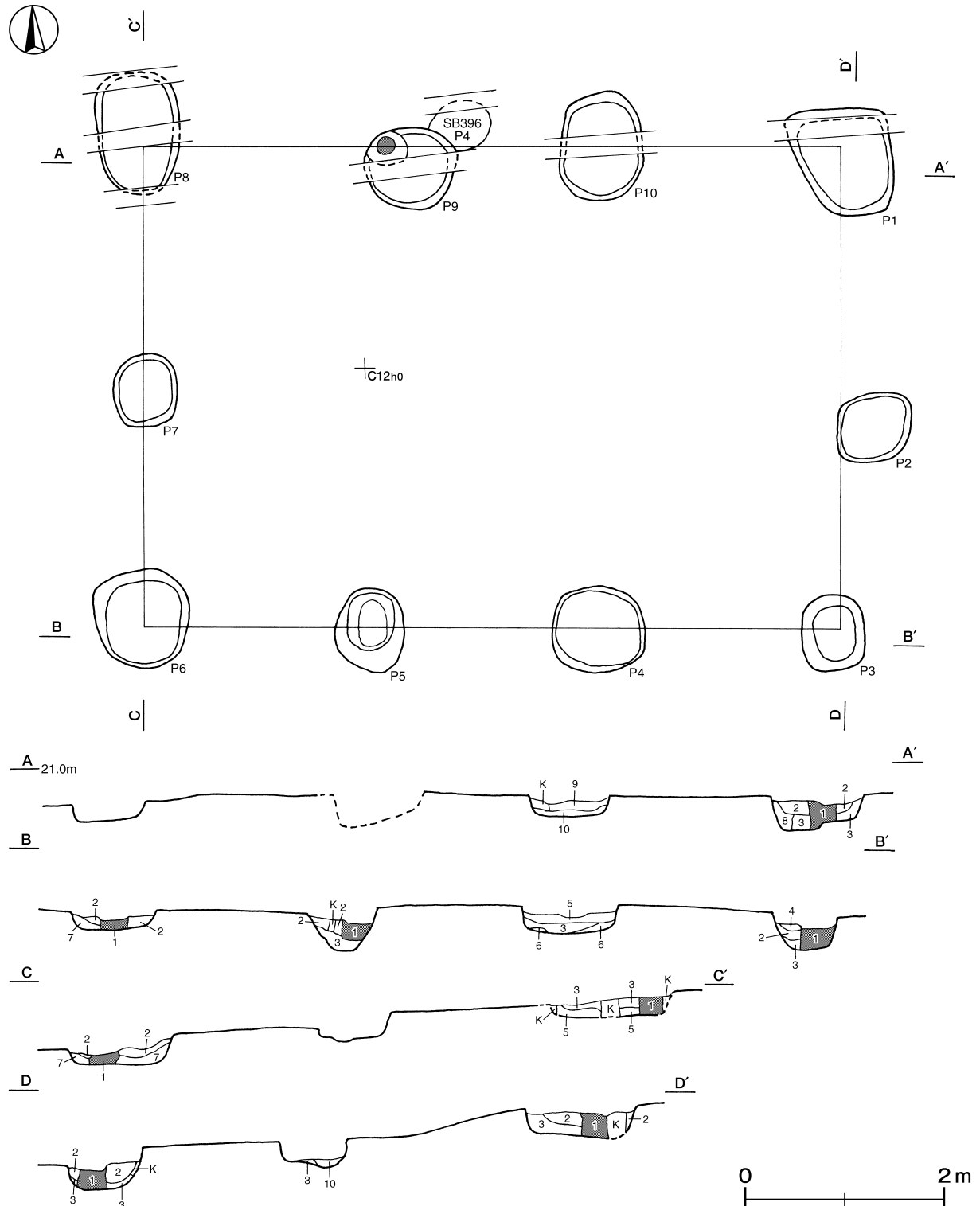
第397号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第661図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1073	須恵器	坏	[13.4]	4.7	[8.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方の手持ちヘラ削り	P 10埋土	15%
1074	須恵器	坏	-	(3.0)	5.4	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方の手持ちヘラ削り	P 10埋土	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1075	土師器	甕	[23.8]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	P 2 覆土	5%
1076	土師器	甕	[22.8]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	P 9 埋土	5%
1077	須恵器	甌	-	(15.1)	14.2	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き下端手持ちヘラ削り 内面当て具痕・輪積痕 5孔式	P1・P2・P9 ・P10埋土	30%

第399号掘立柱建物跡（第663図）

位置 調査区中央部のC12g0区、標高21mほどの南への緩斜面に位置している。



第663図 第399号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第396号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 87° - Wの東西棟である。規模は、桁行6.9m、梁行4.8mで、面積は33.12m²である。柱間寸法は、桁行が2.1~2.4m(7尺~8尺)、梁行は2.1~2.7m(7~9尺)を基調とし、桁行は東から2.4m(8尺)、2.1m(7尺)、2.4m(8尺)である。東妻梁行は北から2.7m(9尺)、2.1m(7尺)であるのに対し、西妻梁行は2.4m(8尺)で均等に配され、ばらつきがある。

柱穴 10か所。平面形は楕円形で、規模は長径70~134cm、短径63~88cmである。深さは19~45cmで、掘り込みは浅い。断面形はU字形や逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった黒褐色土である。また、P9の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした粘土混じりの褐色土・灰褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・粘土粒子少量、粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	8 灰褐色	ロームブロック少量
4 にぶい褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック中量
5 灰褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	10 灰褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片51点(坏3, 壺1, 甕類47), 須恵器片24点(坏2, 蓋3, 甕類19), 陶器片3点が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、第396号掘立柱建物跡を掘り込んでいることや、出土土器から9世紀前葉以降と考えられる。

第400号掘立柱建物跡(第664図)

位置 調査区中央部のC12c6区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 耕作による削平で、北側の柱穴が確認できなかったが、桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 86° - Eの東西棟と推定される。規模は、桁行7.2m、梁行4.8mで、面積は34.56m²である。柱間寸法は2.4m(8尺)を基調とし、均等に配されて柱筋はほぼ揃っている。

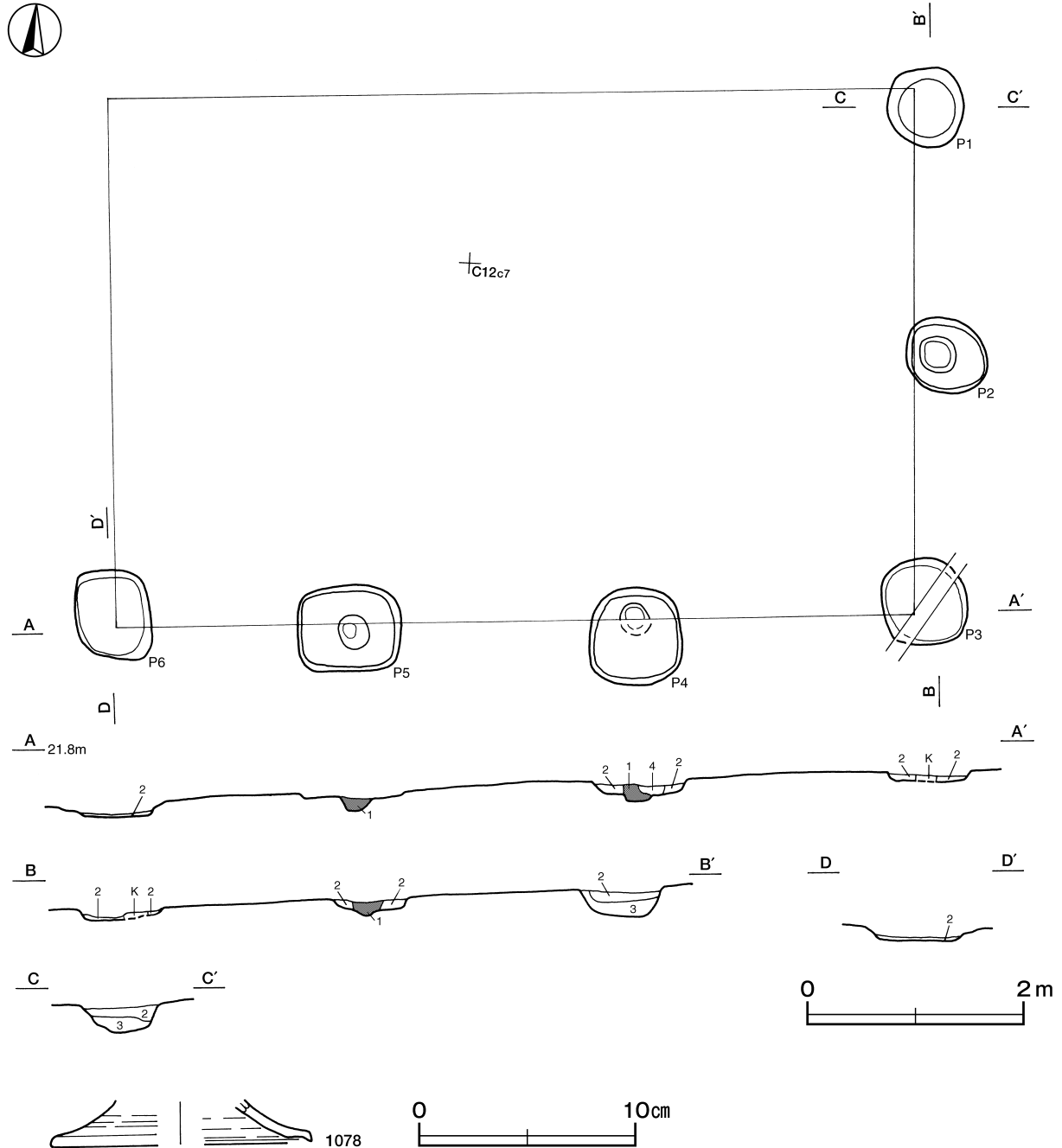
柱穴 6か所。平面形は、円形または楕円形で、規模は長径72~92cm、短径66~84cmである。深さは10~28cmで、断面形は逆台形である。土層は第1・4層が柱抜き取り痕に相当し、よく締まった褐色土である。その他の層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が強く突き固められている。

土層解説(各柱穴共通)

1 褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片9点(甕類), 須恵器片10点(坏7, 甕類3), 炭化材1点のほか、混入した陶器片1点、磁器片1点が各柱穴から出土している。1078はP4の覆土から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、出土した土器から9世紀代と考えられる。



第664図 第400号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第400号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第664図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1078	須恵器	高盤	-	(2.0)	[12.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部内外面ロクロナデ	P 4 覆土	5%

第401号掘立柱建物跡（第665図）

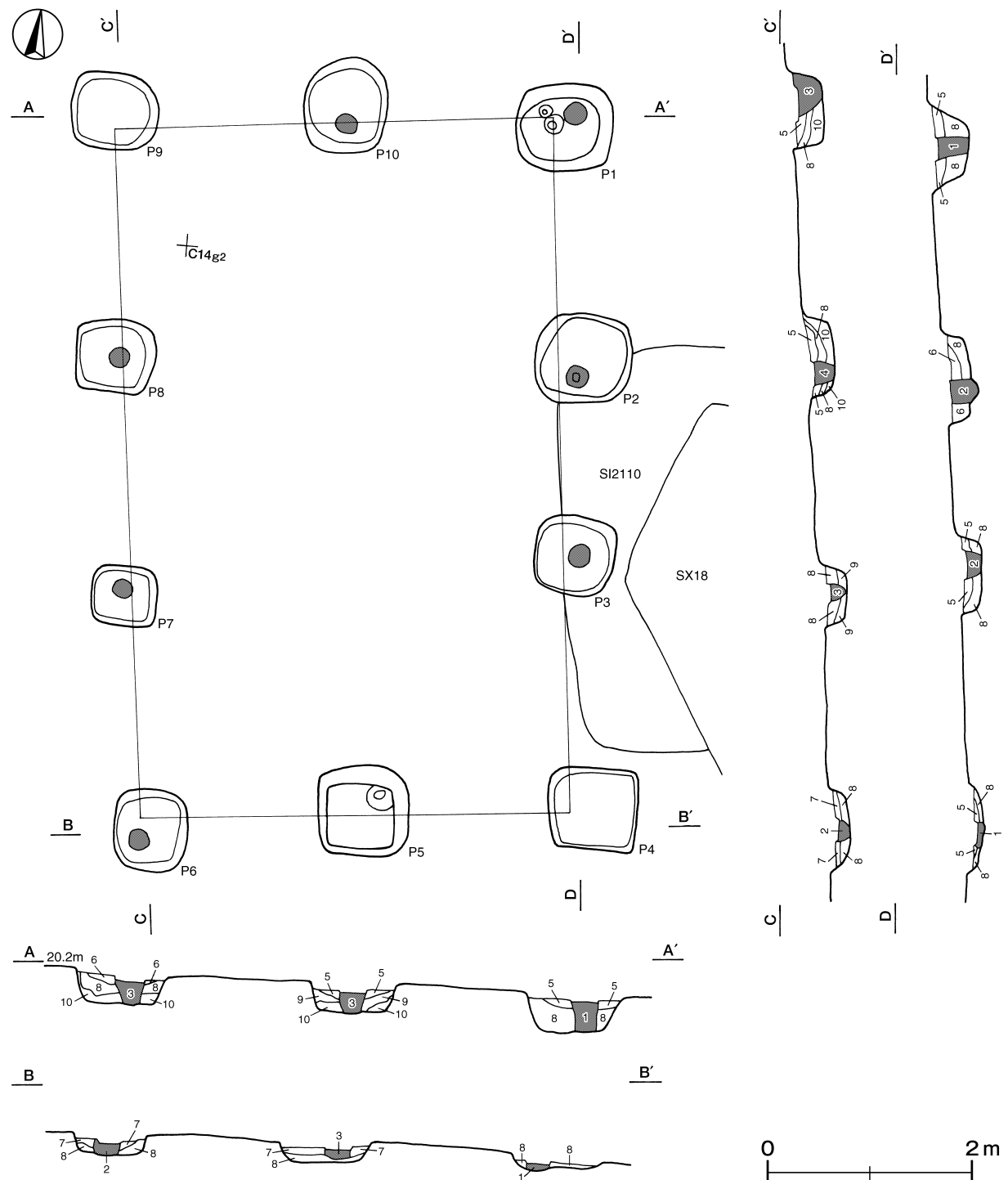
位置 調査区東部のC 14 g 2 区，標高20mほどの南への緩斜面部に位置している。

重複関係 第2110号住居跡を掘り込んでいる

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 7° - Wの南北棟である。規模は，桁行6.6m，梁行4.2mで，面積は27.72m²である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに2.1m(7尺)を基調としているが，

東桁の南間と西桁の中央間が2.4m（8尺）となっている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、規模は長軸64～89cm，短軸57～86cmである。深さは12～45cmで，断面形は逆台形である。土層は第1～4層が柱抜き取り痕に相当し，やや締まった黒褐色土である。すべての土層断面から柱痕跡が明瞭に確認され，推定される柱の太さは20cm前後である。また，P4・P5・P9を除いた底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした粘土混じりの暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。



第665図 第401号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 8 黒褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 10 黒褐色 ローム粒子少量 |

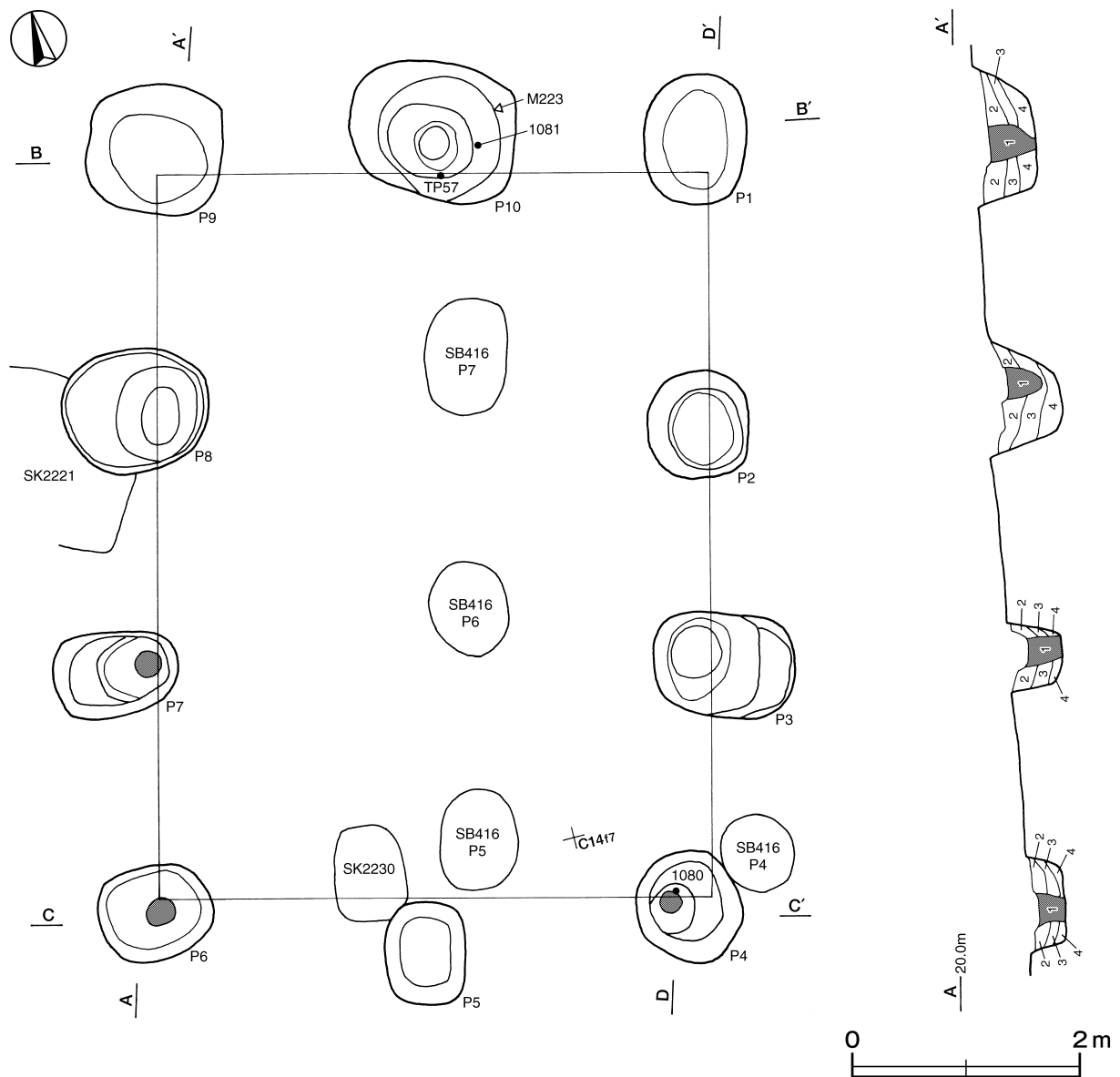
遺物出土状況 土師器片51点（坏9，甕類42），須恵器片20点（坏9，蓋1，甕類10）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は，出土土器から9世紀後半と考えられる。

第404号掘立柱建物跡（第666・667図）

位置 調査区東部のC14d6区，標高19.5mほどの南への緩斜面部に位置している。

重複関係 第2221号土坑を掘り込み，第416号掘立柱建物に掘り込まれている。また，第2230号土坑と重複するが新旧関係は不明である。



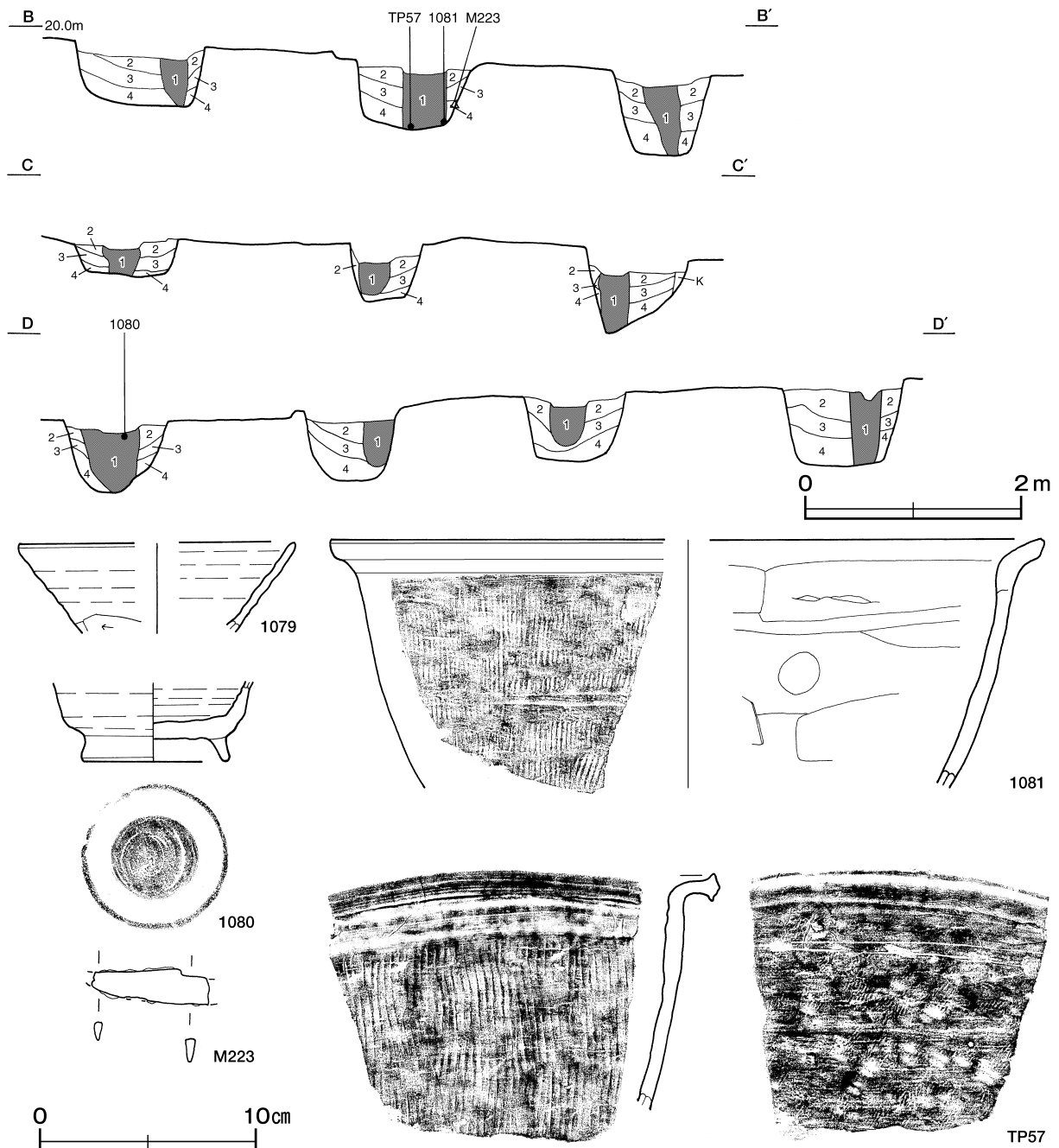
第666図 第404号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 15° - Eの南北棟である。規模は，桁行6.3m，梁行4.8mで，面積は30.24m²である。柱間寸法は，桁行が2.1m（7尺），梁行が2.4m（8尺）を基調とし，均等に配されている。

柱穴 10か所。平面形は，隅丸方形または隅丸長方形である。規模は長軸90～145cm，短軸70～118cmであり，深さは32～72cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い黒褐色土である。すべての土層断面から明瞭に柱痕跡が確認され，推定される柱の太さは20cm以上である。また，P4・P6・P7の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は掘り方の埋土で，ローム土を主体とした暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化材・ロームブロック・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |



第667図 第404号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片140点(坏 1 , 甕類139), 須恵器片87点(坏52 , 蓋 6 , 高盤 2 , 鉢 2 , 甕類22 , 甑 3) , 鉄滓 1点が各柱穴から出土している。1081・TP57はP 10 の柱抜き取り痕, 1080はP 4 , M223はP 10 の埋土からそれぞれ出土し, 1079はP 7 の覆土から出土している。

所見 規模や形状から, 穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は, 埋土から出土した土器から 9 世紀中葉と考えられる。

第404号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第667図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1079	須恵器	坏	[12.6]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	P 7 覆土	
1080	須恵器	高台付坏	-	(3.6)	6.6	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	P 4 埋土	40%
1081	須恵器	鉢	[32.8]	(11.4)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	口辺部内外面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ・当て具痕	P 10 柱抜き 取り痕	10%
TP57	須恵器	鉢	[33.4]	(10.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き 内面当て具痕	P 10 柱抜き 取り痕	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M223	刀子	(5.4)	(1.6)	0.4	(10.3)	鉄	棟区有り 切先・茎一部欠損	P 10 埋土	

第405号掘立柱建物跡 (第668図)

位置 調査区東部の B 14 j 8 区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2243号土坑に掘り込まれている。また, 第2244号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行, 梁行ともに 2 間の側柱式建物跡で, 桁行方向 N - 21 ° - E の南北棟である。規模は, 桁行 5.4m, 梁行4.2mで, 面積は22.68m²である。柱間寸法は, 桁行が2.7m (9 尺), 梁行が2.1m (7 尺) を基調とし, 均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。

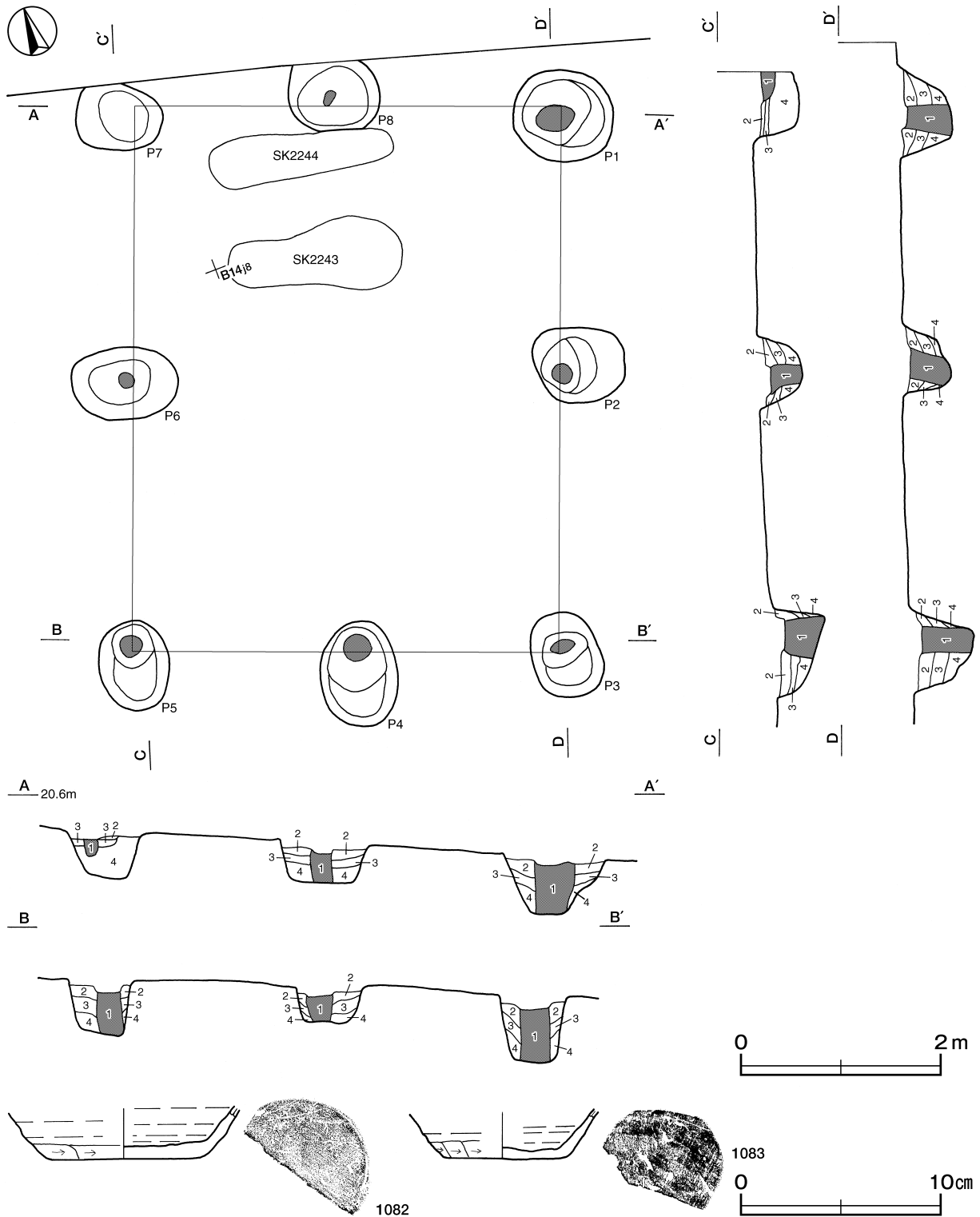
柱穴 8 か所。平面形は楕円形で, 規模は長径85 ~ 103cm, 短径67 ~ 88cmである。深さは42 ~ 67cmで, 断面形はU字形, 逆台形, 二段掘り込みである。土層は第 1 層が柱抜き取り痕に相当し, やや締まった黒褐色土である。すべての土層断面から明瞭に柱痕跡が確認され, 推定される柱の太さは20 ~ 30cm以上である。また, P 7 を除く底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で, ローム土を主体とした暗褐色土・黒褐色土が互層をなし, 強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片62点 (坏 1 , 甕類61), 須恵器片26点 (坏24 , 蓋 1 , 甕 1) が各柱穴から出土している。1082はP 6 の埋土, 1083はP 7 の埋土からそれぞれ出土している。

所見 規模や形状から, 穀物などを納めた倉庫と考えられる。西には第2102号住居跡が隣接し, 本跡と軸線を揃えて並列している。また, 南には第417号掘立柱建物跡があり, 軸線を揃えて並列していることから, これらは同時期に機能していたと推測される。構築時期は, 埋土から出土した土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第668図 第405号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第405号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第668図）

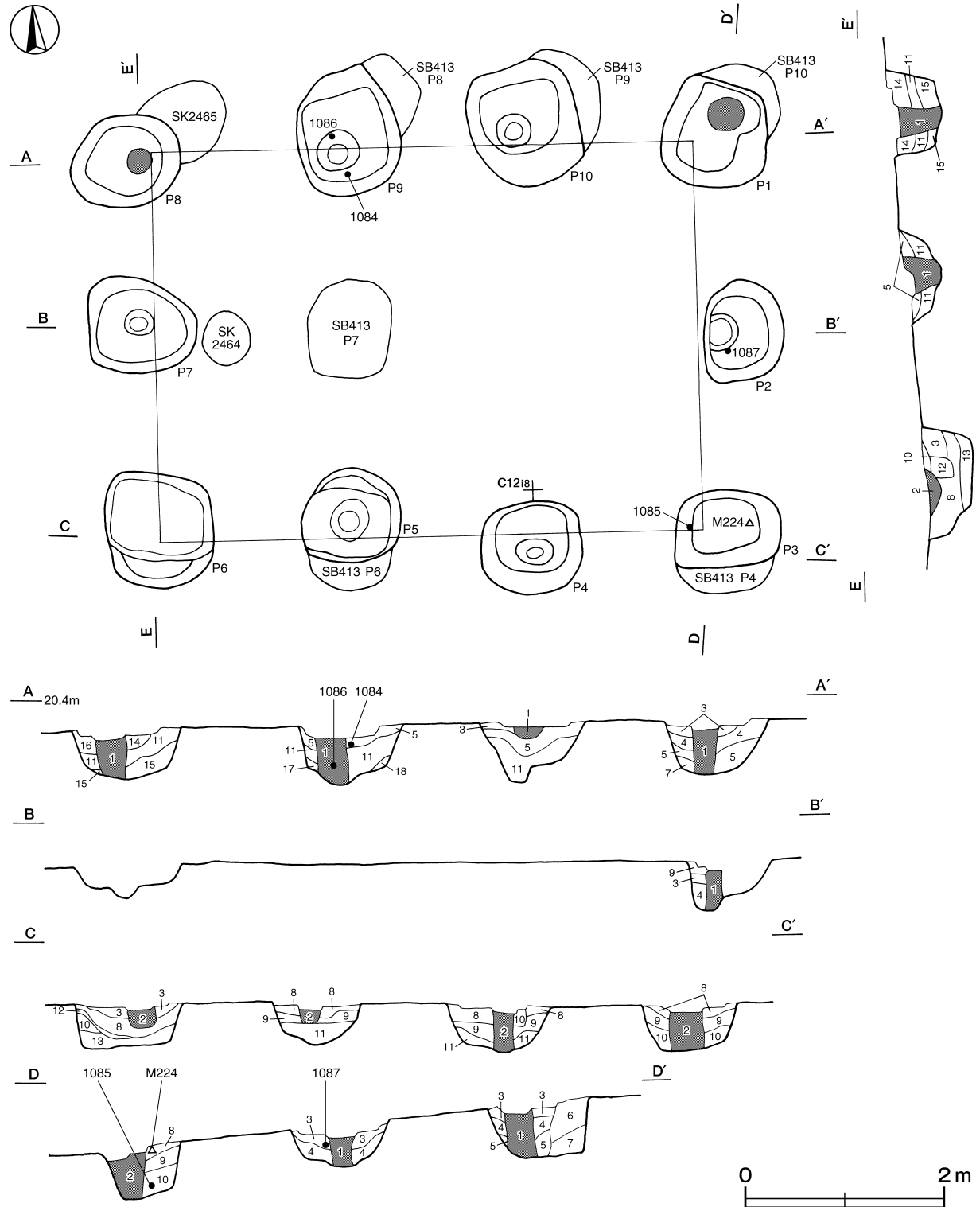
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1082	須恵器	坏	-	(2.6)	7.4	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	P 6 埋土	20%
1083	須恵器	坏	-	(2.4)	6.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向の手持ちヘラ削り	P 7 埋土	15%

第406号掘立柱建物跡 (第669・670図)

位置 調査区中央部のC12i8区、標高20mほどの南への緩斜面部に位置している。

重複関係 第413号掘立柱建物跡、第2465号土坑を掘り込んでいる。また、第2464号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-90°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.4m、梁行3.6mで、面積は19.44m²である。柱間寸法は1.8m(6尺)である。



第669図 第406号掘立柱建物跡実測図

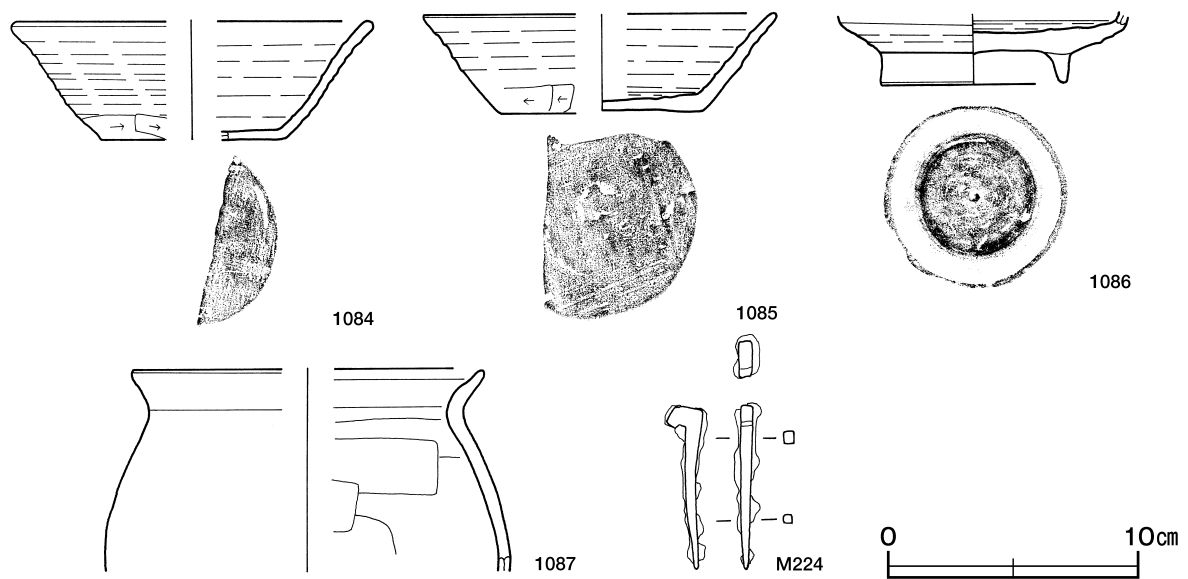
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で、規模は長軸77～122cm，短軸78～110cmである。深さは30～60cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった暗褐色土である。また、P1・P8の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|----------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子少量，炭化物・焼土粒子微量 | 12 極暗褐色 | 粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | 炭化物・粘土粒子微量 |
| 5 褐色 | 粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量 | 15 褐色 | 粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子微量 | 16 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 17 褐色 | 粘土粒子中量 |
| 9 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 | 18 黒褐色 | 粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片85点（坏4，甕類81），須恵器片101点（坏18，蓋7，壺3，甕類72，甑1）が各柱穴から出土している。1084・1086はP9，1085・M224はP3，1087はP2の埋土からそれぞれ出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の南東には第412号掘立柱建物跡があり、軸線を揃えて並列している。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第670図 第406号掘立柱建物跡出土遺物実測図

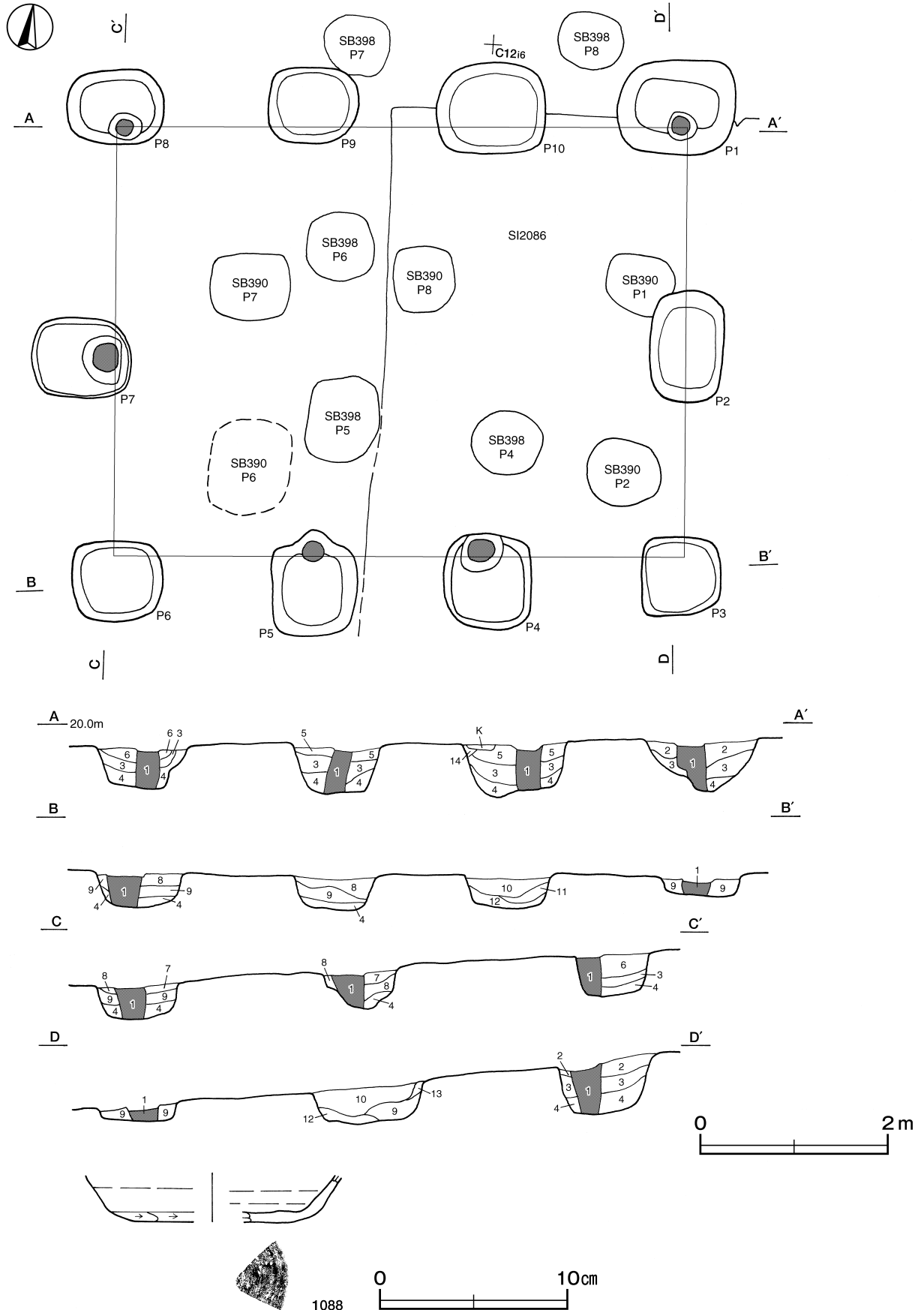
第406号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第670図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1084	須恵器	坏	[14.0]	4.7	[7.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	P 9 埋土	40%
1085	須恵器	坏	[13.8]	3.9	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	不良	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	P 3 埋土	40%
1086	須恵器	高台付坏	-	(2.8)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	不良	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	P 9 埋土	25%
1087	土師器	甕	[13.8]	(8.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	P 2 埋土	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M224	釘	6.5	1.4	0.5	8.1	鉄	角釘 断面長方形	P 3 埋土	

第408号掘立柱建物跡（第671図）

位置 調査区中央部のC12i5区，標高20mほどの南への緩斜面部に位置している。



第671図 第408号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第2086号住居跡，第390・398号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 87° - Eの東西棟である。規模は，桁行6.0m，梁行4.5mで，面積は27.0m²である。柱間寸法は，桁行が1.8~2.1m(6~7尺)，梁行が2.1~2.4m(7~8尺)を基調としている。北側桁行では東から2.1m(7尺)，1.8m(6尺)，2.1m(7尺)，東妻梁行では北から2.4m(8尺)，2.1m(7尺)で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は，隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸82~122cm，短軸78~100cmである。深さは28~54cmで，断面形は逆台形である。土層は第1層が柱痕跡に相当し，やや締まった暗褐色土である。P2・P4・P5を除く土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され，推定される柱の太さは20cm以上である。また，P1・P4・P5・P7・P8の底面からは柱のあたりが確認されている。第10層は，柱抜き取り後の覆土である。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	8	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3	暗褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量，粘土ブロック微量	11	極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	暗褐色	粘土ブロック少量，ローム粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
6	褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	13	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
7	褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片107点(坏8，甕類99)，須恵器片5点(坏1，高台付坏1，甕類3)が各柱穴から出土している。1088はP1の柱抜き取り痕から出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の南には第2098号住居跡が隣接し，軸線を揃えて並列していることから，同時期に機能していたと推測される。廃絶時期は，8世紀後葉に比定されている第398号掘立柱建物跡を掘り込んでいることや，柱抜き取り痕から出土した土器から9世紀前葉と考えられる。

第408号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第671図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1088	須恵器	坏	-	(2.6)	[8.4]	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部下端へラ削り 底部回転へラ切り	P1柱抜き取り痕	15%

第409号掘立柱建物跡 (第672図)

位置 調査区東部のC14b9区，標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 東側が調査区域外にのびており，全体の規模は不明であるが，桁行1間以上，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 18° - Eの東西棟と推定される。確認された範囲では，規模は桁行2.8m，梁行5.4mで，柱間寸法は，桁行2.4m(8尺)，梁行2.7m(9尺)で，柱筋はほぼ揃っている。

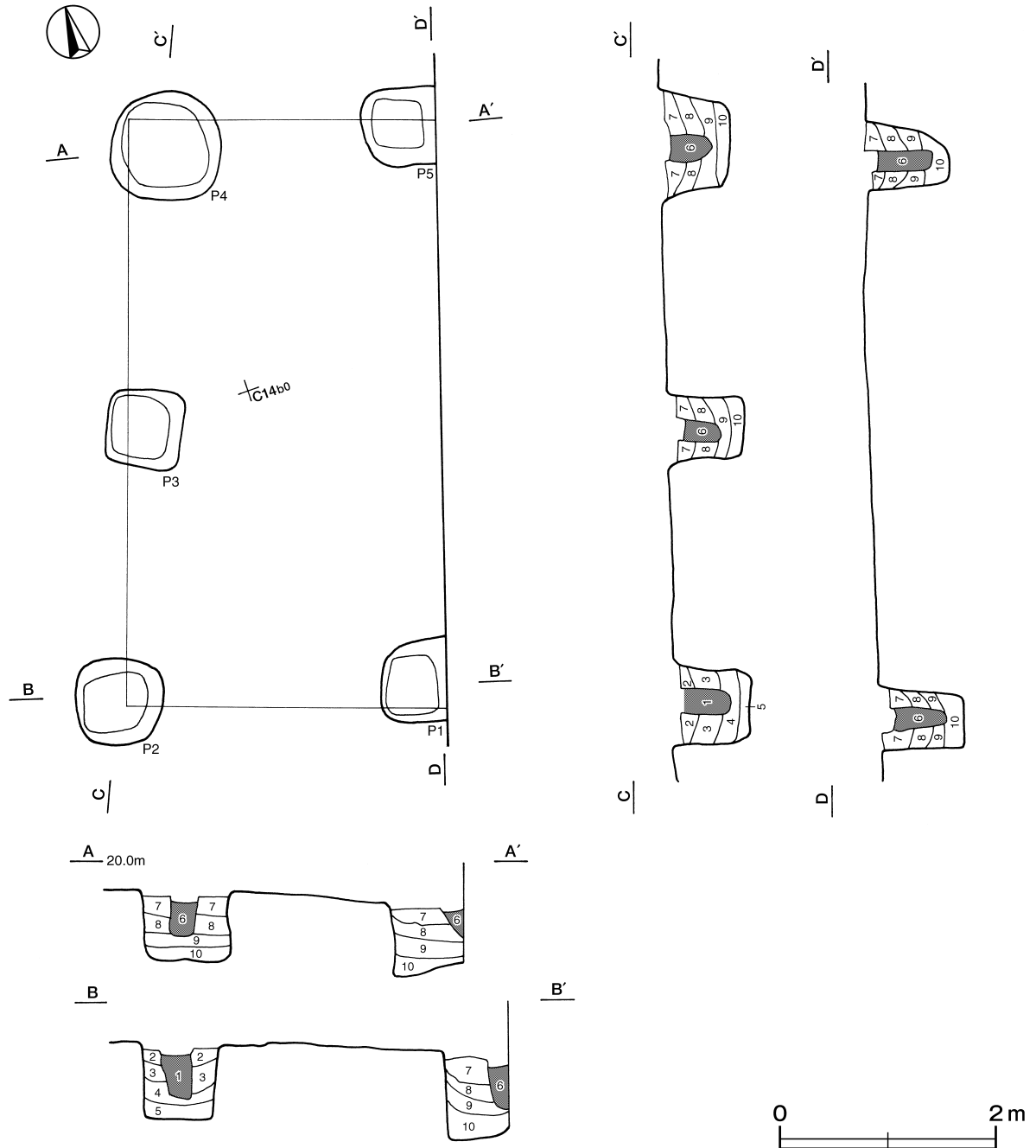
柱穴 5か所。平面形は隅丸方形で，規模は長軸71~102cm，短軸70~100cmである。深さは68~80cmで，断面形はU字形や逆台形である。土層は第1・6層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い黒色土・黒褐色土である。すべての土層断面からは柱痕跡が明瞭に確認され，推定される柱の太さは20cm以上である。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした焼土混じりの暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

1	黒色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量	6	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2	黒褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3	黒褐色	焼土ブロック少量	8	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
4	黒褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	焼土粒子少量	10	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片64点（坏5，甕類59），須恵器片52点（坏29，蓋1，甕類22）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



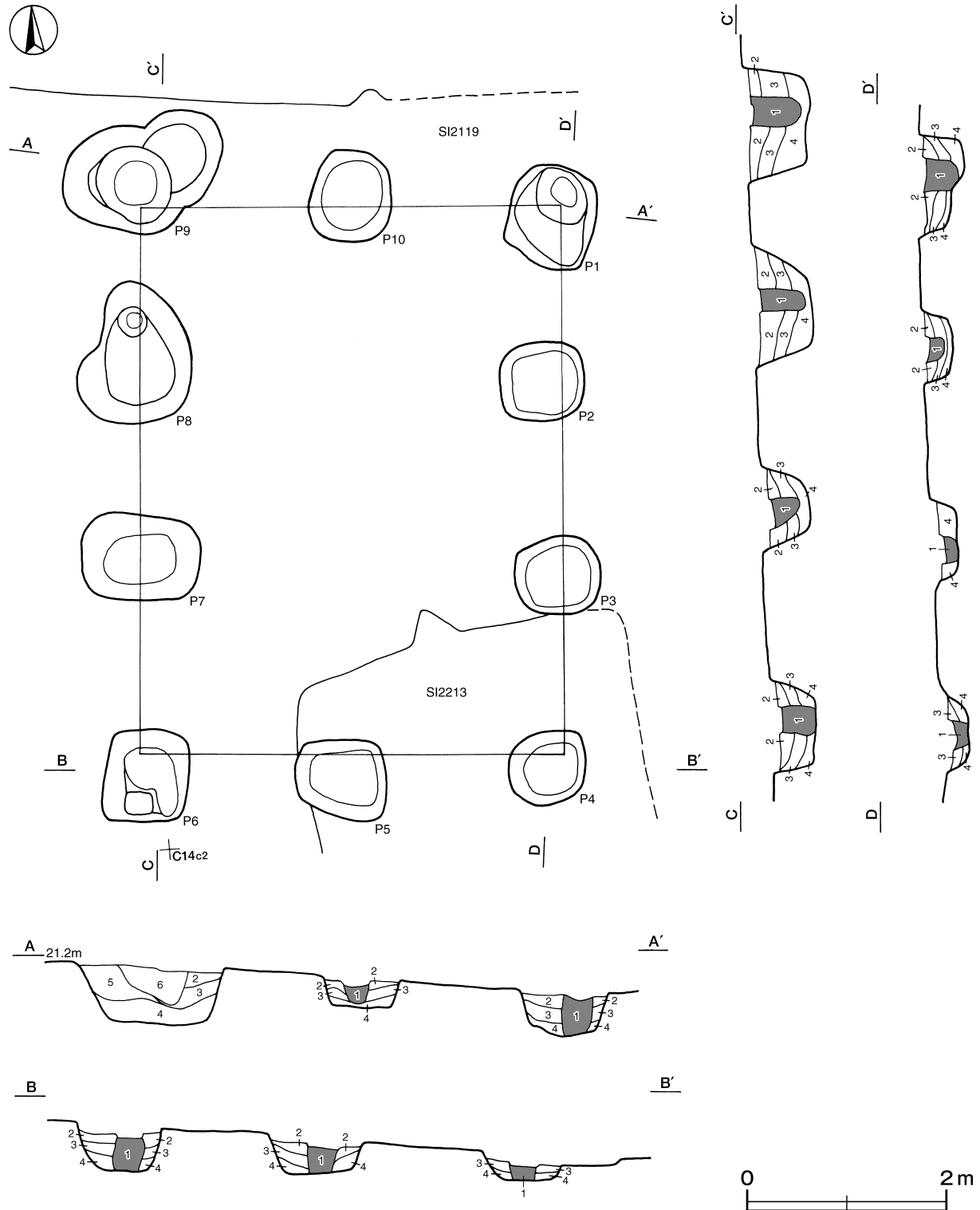
第672図 第409号掘立柱建物跡実測図

第410号掘立柱建物跡（第673図）

位置 調査区東部のC14a2区，標高21mほどの南への緩斜面部に位置している。

重複関係 第2113・2119号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 4° - Eの南北棟である。規模は，桁行5.4m，梁行4.2mで，面積は22.68m²である。柱間寸法は，桁行が1.8m（6尺），梁行が2.1m（7尺）を基調とし，均等に配されている。



第673図 第410号掘立柱建物跡実測図

柱穴 10か所。平面形は、隅丸方形ないし楕円形で、規模は長軸（径）76～168cm、短軸（径）71～107cmである。深さは22～65cmで、断面形は逆台形である。土層は第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。P9以外の土層断面から明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20cm前後である。第2～4層は埋土で、ローム土を主体とした暗褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。第5・6層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片100点（坏5，甕類95），須恵器片14点（坏7，甕類6，甌1）が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫的な建物と考えられる。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第411号掘立柱建物跡（第674・675図）

位置 調査区東部のC12j0区、標高20mほどの南への緩斜面部に位置している。

重複関係 第2094号住居跡，第392号掘立柱建物跡を掘り込み，第115号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-83°-Wの東西棟である。規模は，桁行7.2m，梁行4.8mで，面積は34.56m²である。柱間寸法は2.4m（8尺）を基調としている。

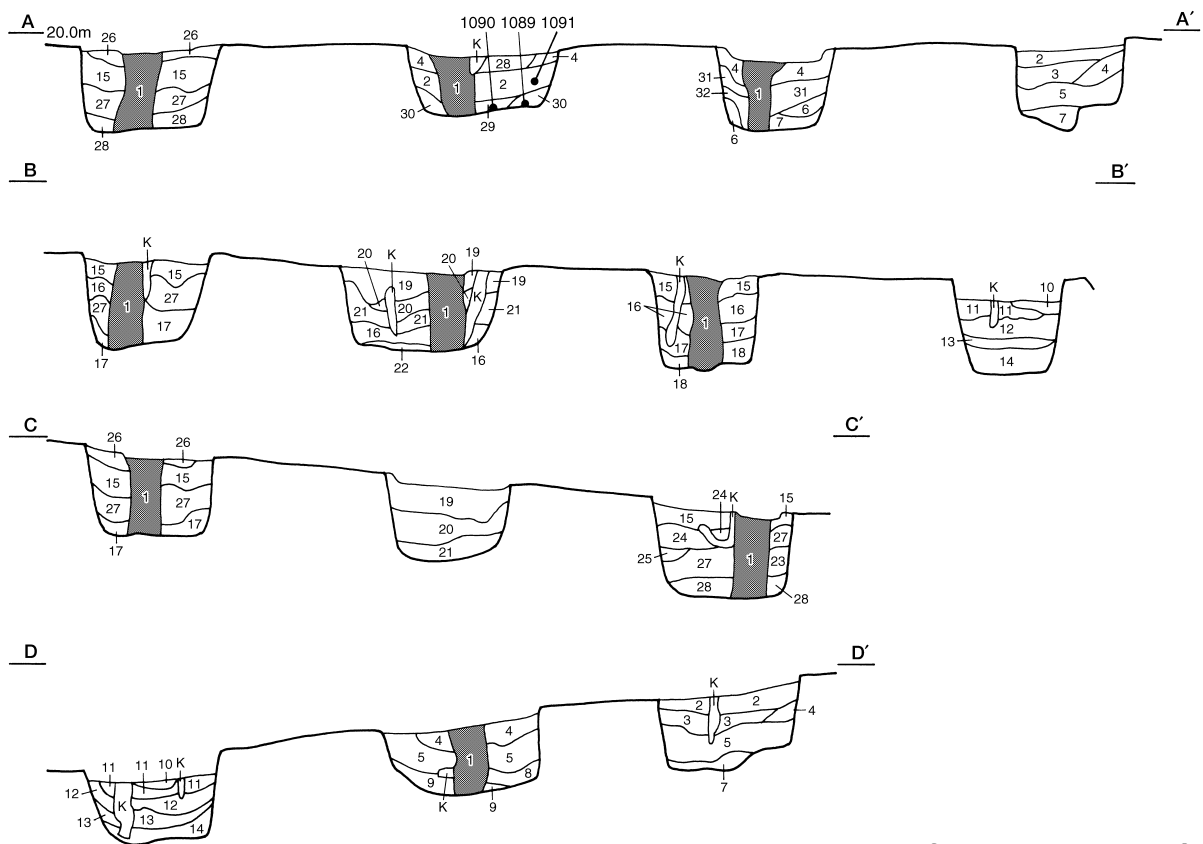
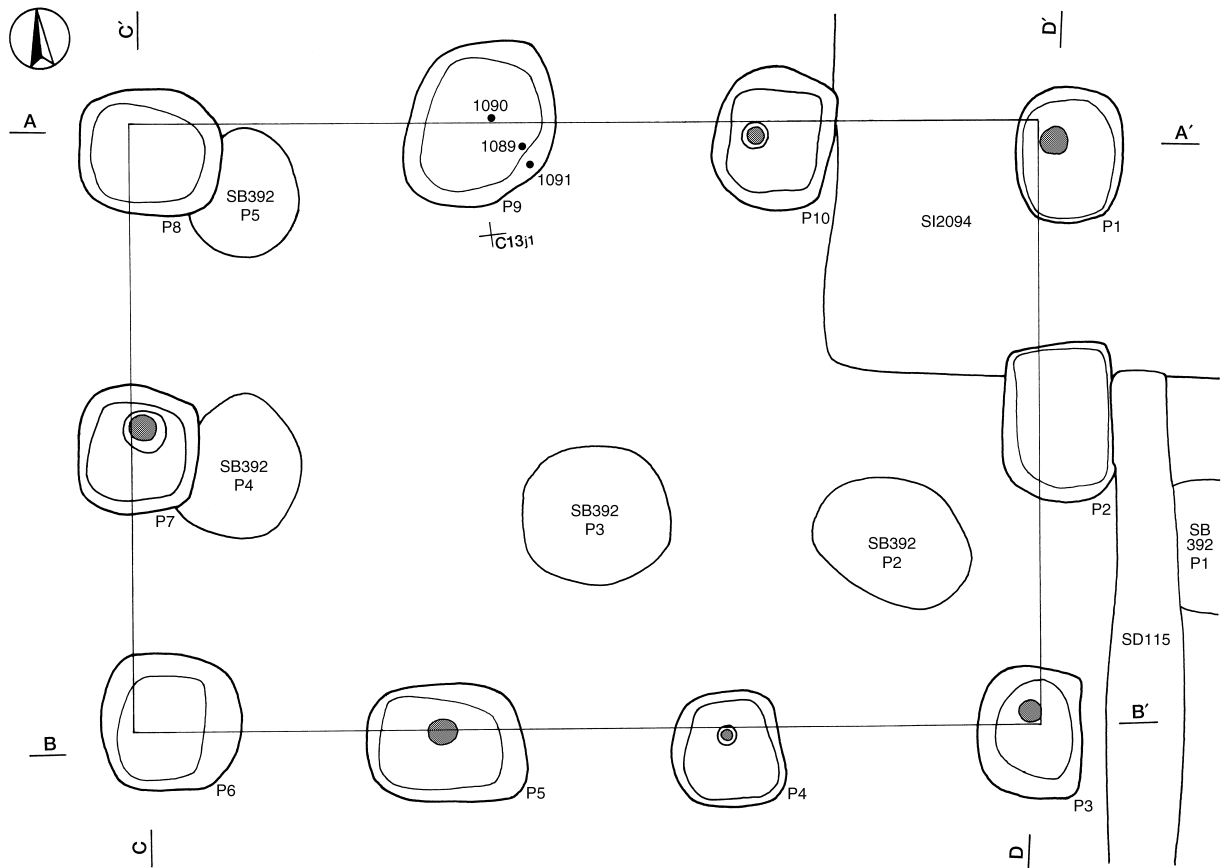
柱穴 10か所。平面形は，隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸94～140cm，短軸84～116cmである。深さは50～84cmで，断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土である。P2・4～6・8～10の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され，推定される柱の太さは20cm以上である。また，P1・P3～5・P7・P10の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土と粘土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

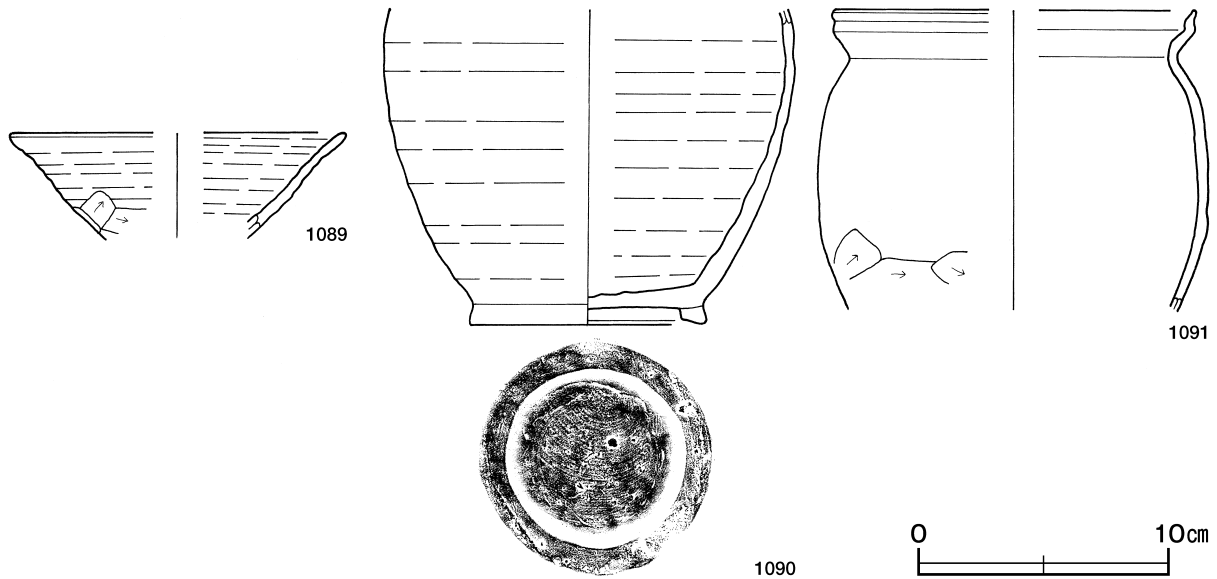
- | | | | |
|---------|------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 18 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 19 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子微量 | 20 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 21 暗褐色 | 粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 22 暗褐色 | 粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 23 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 24 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 25 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 26 褐色 | 粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 27 暗褐色 | 粘土ブロック微量 |
| 11 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 28 暗褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 12 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 29 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 13 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 30 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 14 黒褐色 | ローム粒子少量 | 31 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物・粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 15 暗褐色 | 粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 32 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 16 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 17 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片200点（坏15，甕類185），須恵器片88点（坏27，蓋5，盤1，甕類54，甌1）のほか，混入した須恵器片1点，石器2点（剥片，石核）も各柱穴から出土している。1089～1091はP9の埋土から出土している。

所見 規模や形状から，穀物などを納めた倉庫と考えられる。構築時期は，9世紀後葉に比定される第2094号住居跡を掘り込んでいることや，埋土から出土した土器から9世紀後葉以降と考えられる。



第674图 第411号掘立柱建物跡実测图



第675図 第411号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第411号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第675図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1089	須恵器	坏	[13.2]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	P 9 埋土	10%
1090	須恵器	長径瓶	-	(12.5)	9.3	長石・白色粒子	黄灰	良好	体部外面・底部内面自然釉附着 底部回転糸切り後高台貼り付け	P 9 埋土	20%
1091	土師器	甕	[14.4]	(12.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面ナデ 体部外面ナデ下位手持ちヘラ削り内面ナデ	P 9 埋土	25%

第412号掘立柱建物跡（第676図）

位置 調査区南部のD12a0区，標高19mほどの南への緩斜面部に位置している。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，N - 88° - Wの東西棟である。規模は，桁行6.0m，梁行4.2mで，面積は25.2m²である。柱間寸法は，桁行が1.8~2.4m（6~8尺），梁行が2.1m（7尺）を基調とし，北側桁行では，東から2.1m（7尺），2.1m（7尺），1.8m（6尺）である。柱筋はP4・P7を除いてほぼ揃っている。

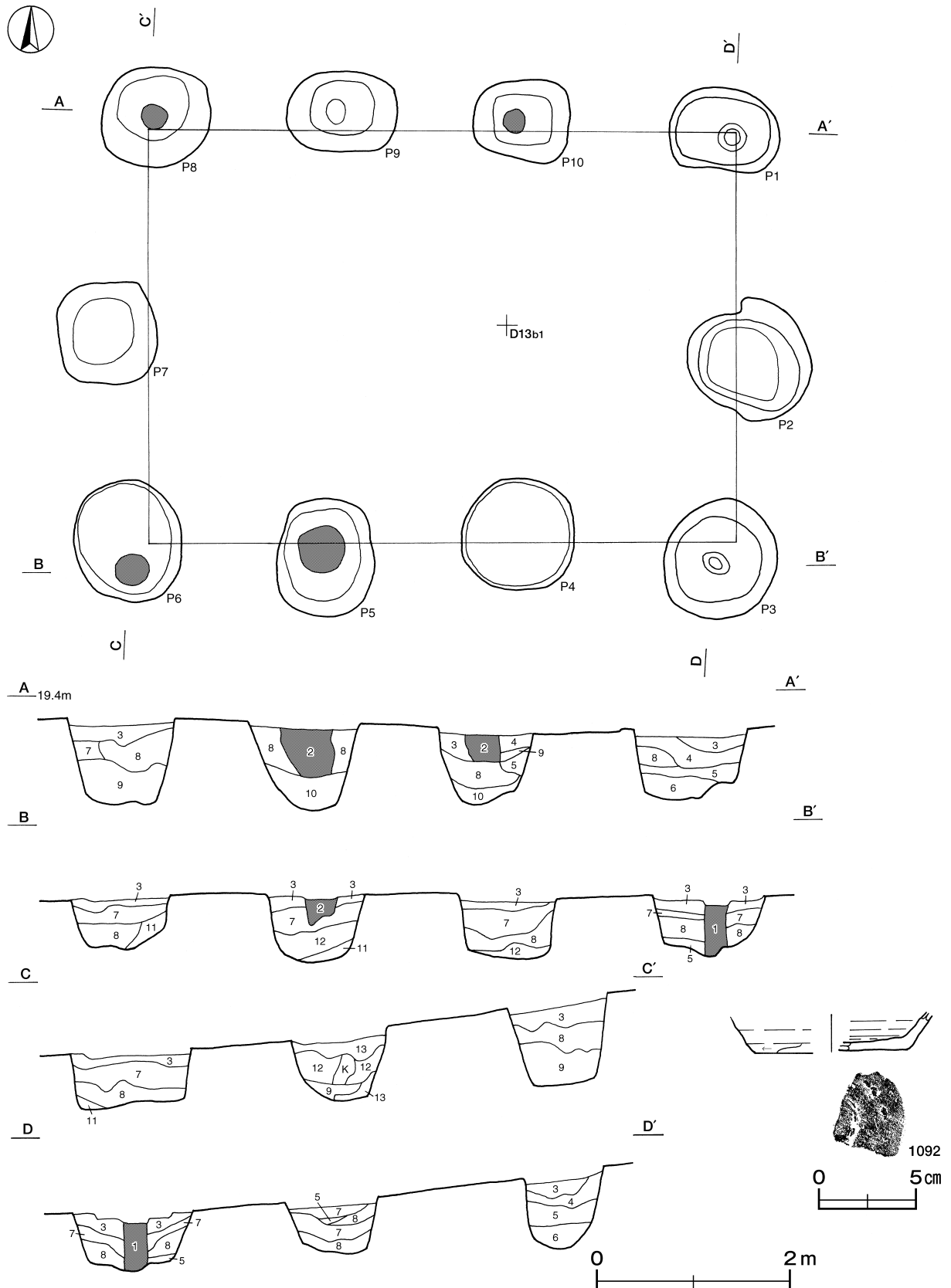
柱穴 10か所。平面形は楕円形を呈しており，規模は長径97~130cm，短径81~116cmである。深さは45~90cmで，断面形はU字形や逆台形を呈している。土層は第1・2層が柱抜き取り痕に相当し，ローム土を主体とした締まりの弱い黒褐色土である。また，P5・P6・P8・P10の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・灰褐色土・極暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色	ローム粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック少量，炭化物・粘土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	9 灰褐色	ロームブロック中量，粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 にぶい褐色	ロームブロック中量
4 灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	11 黒褐色	ロームブロック少量
5 極暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	12 黒褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	13 黒色	ロームブロック微量
7 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片199点（坏12，甕類187），須恵器片25点（坏11，盤1，甕類13），石器1点（石鏃）が各柱穴から出土している。1092はP9の埋土から出土している。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北西には第406号掘立柱建物跡，南西には第393号掘立柱建物跡が隣接し，本跡の南桁と第393号掘立柱建物跡の北妻が直交しており，同時期に機能していたものと推測される。時期は，埋土から出土した土器から9世紀後葉に構築されたものと考えられる。



第676図 第412号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第412号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第676図)

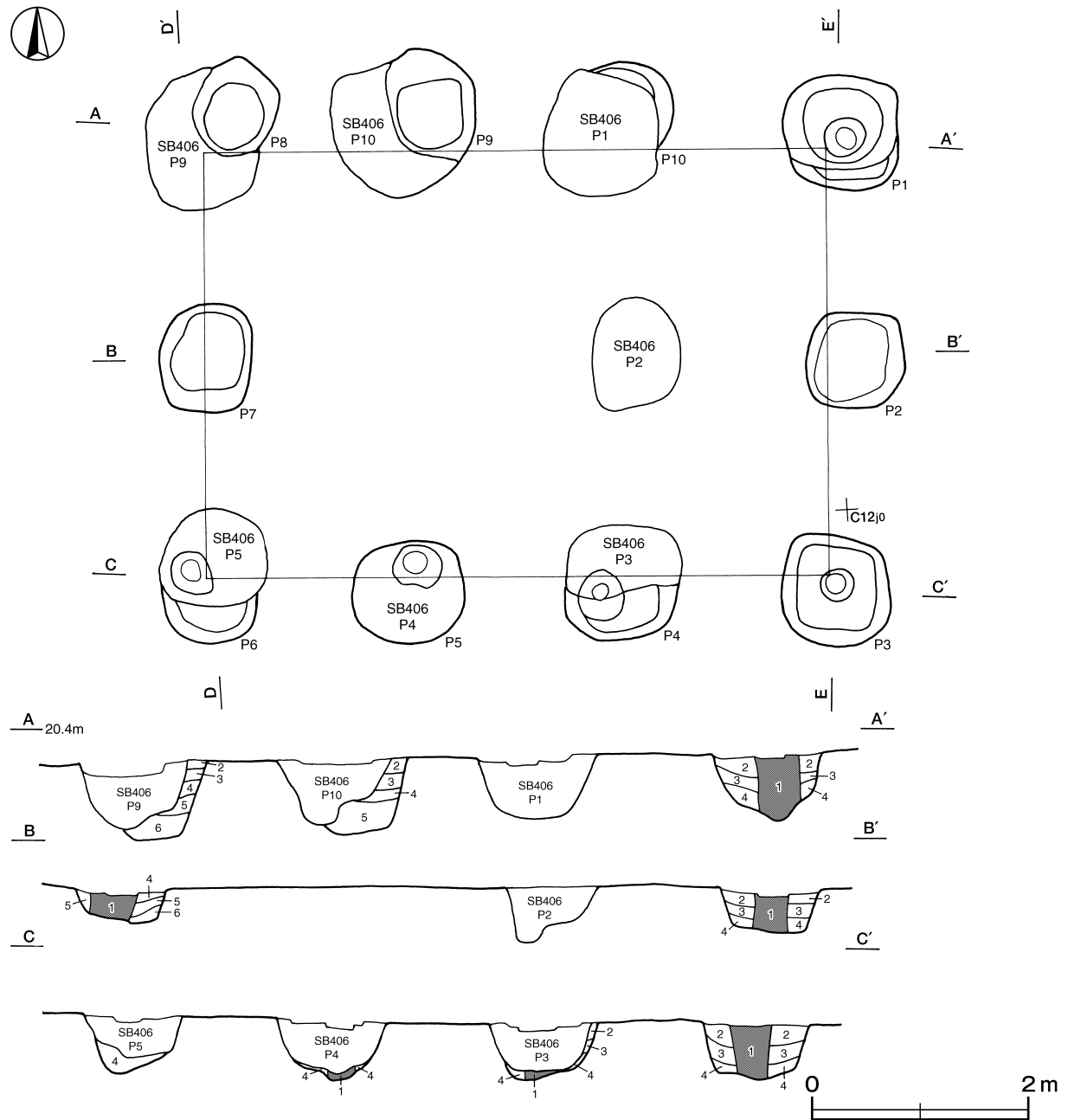
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1092	須恵器	坏	-	(2.0)	[8.0]	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	P 9 埋土	5 %

第413号掘立柱建物跡 (第677・678図)

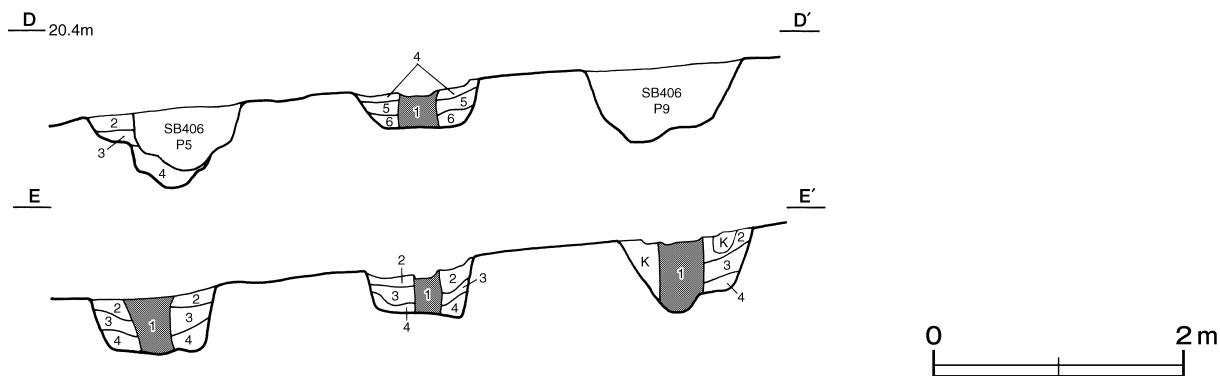
位置 調査区中央部のC12i8区、標高20mほどの南への緩斜面部に位置している。

重複関係 第406号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-88°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.7m、梁行3.9mで、面積は22.23m²である。柱間寸法は1.8~2.1m(6~7尺)を基調とし、桁行は東から1.8m(6尺)、2.1m(7尺)、1.8m(6尺)、東側梁行は北から2.1m(7尺)、1.8m(6尺)である。柱筋はほぼ揃っている。



第677図 第413号掘立柱建物跡実測図(1)



第678図 第413号掘立柱建物跡実測図(2)

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で、規模は長軸91～122cm、短軸83～104cmである。深さは30～62cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し、やや締まった暗褐色土である。また、P10の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で、粘土を主体とした褐色土・暗褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色 粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化物・焼土粒子微量 | 5 褐色 粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 褐色 粘土粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片55点(坏2, 甕類53), 須恵器片26点(坏2, 蓋2, 甕類22)が各柱穴から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。

第414号掘立柱建物跡 (第679図)

位置 調査区東部のC14c5区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 桁行、梁行ともに2間の側柱式建物跡で、桁行方向N-30°-Eの南北棟である。規模は、桁行4.5m、梁行3.6mで、面積は16.2m²である。柱間寸法は、桁行が2.1～2.4m(7～8尺)、梁行が1.8m(6尺)を基調とし、東側桁行では北から2.4m(8尺)、2.1m(7尺)であり、西側桁行は不揃いでP2・P6・P7がずれている。

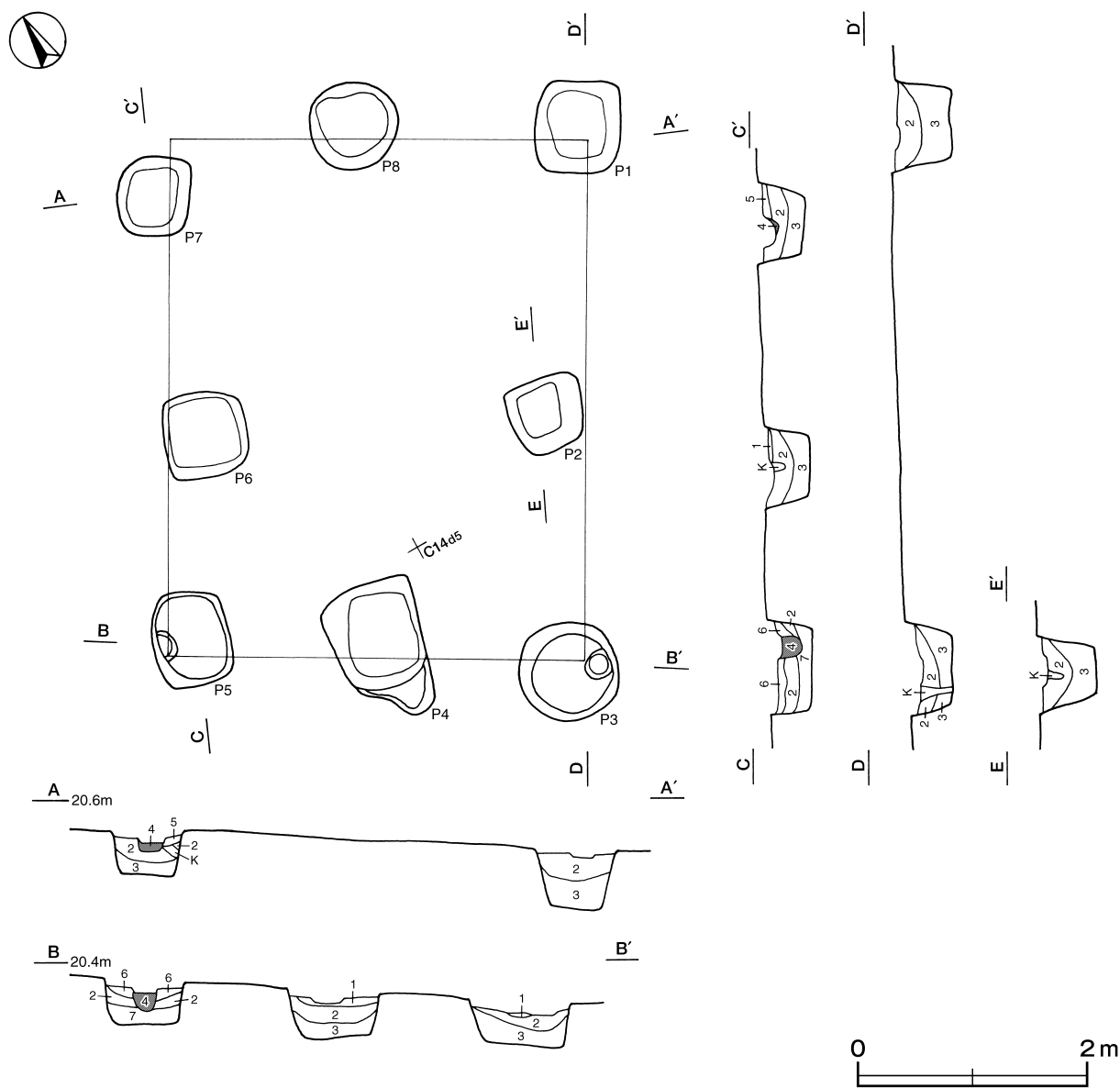
柱穴 8か所。平面形は隅丸方形ないし楕円形で、規模は長軸66～120cm、短軸62～85cmである。深さは37～48cmで、断面形は逆台形である。土層は第4層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。P5・P7の土層断面からは柱痕跡が確認されている。その他の層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量,粘土ブロック少量 | 7 褐色 ロームブロック中量,粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片5点(坏1, 甕類4)がP4・P5から出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から、穀物などを納めた小規模の倉庫と考えられる。本跡の南には第2103号住居跡があり、軸線を揃えて並列していることから、同時期に機能していたものと考えられる。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第679図 第414号掘立柱建物跡実測図

第416号掘立柱建物跡 (第680図)

位置 調査区東部のC14e7区、標高19.5mほどの南への緩斜面部に位置している。

重複関係 第404号掘立柱建物跡、第2268号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行、梁行ともに2間の側柱式建物跡で、桁行方向N - 16° - Eの東西棟である。規模は、桁行4.8m、梁行4.2mで、面積は20.16m²である。柱間寸法は、桁行が2.4m (7尺)、梁行が2.1m (7尺)を基調とし、均等に配されている。

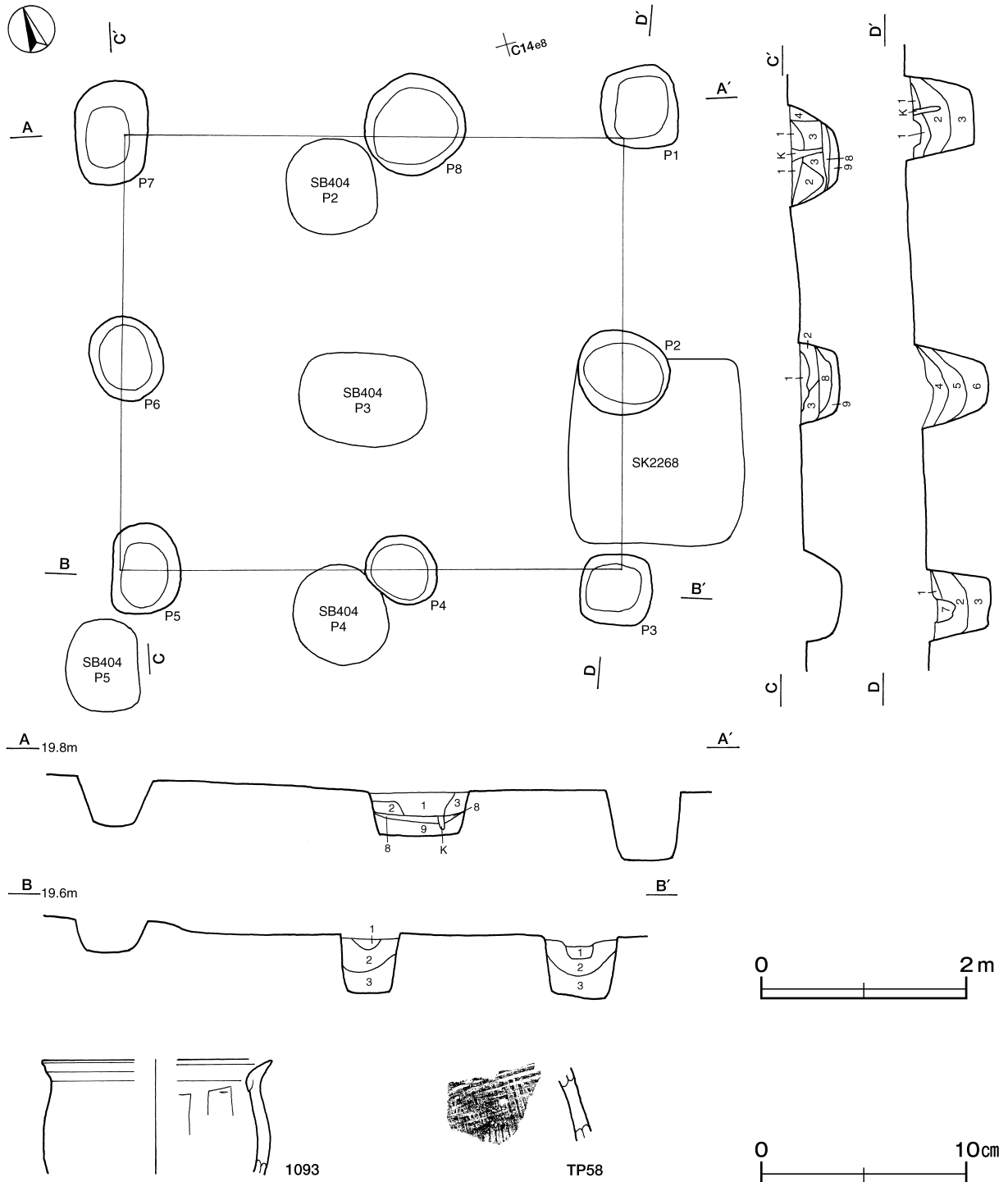
柱穴 8か所。平面形は、楕円形で、規模は長径64~106cm、短径63~102cmである。深さは35~68cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第8・9層が埋土で、ローム土を主体とした暗褐色土・黒褐色土が強く突き固められている。その他の層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | 炭化材・ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化材少量 | | |

遺物出土状況 土師器片16点(坏3, 甕類13), 須恵器片7点(坏4, 甕類3)がP2・P7から出土している。1093・TP58はP2の覆土から出土している。

所見 規模や形状から, 穀物などを納めた倉庫と考えられる。時期は, 9世紀後葉に比定される第404号掘立柱建物跡に掘り込まれていることや, 出土土器から9世紀後葉で第404号掘立柱建物跡よりも新しい時期と考えられる。



第680図 第416号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第416号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第680図）

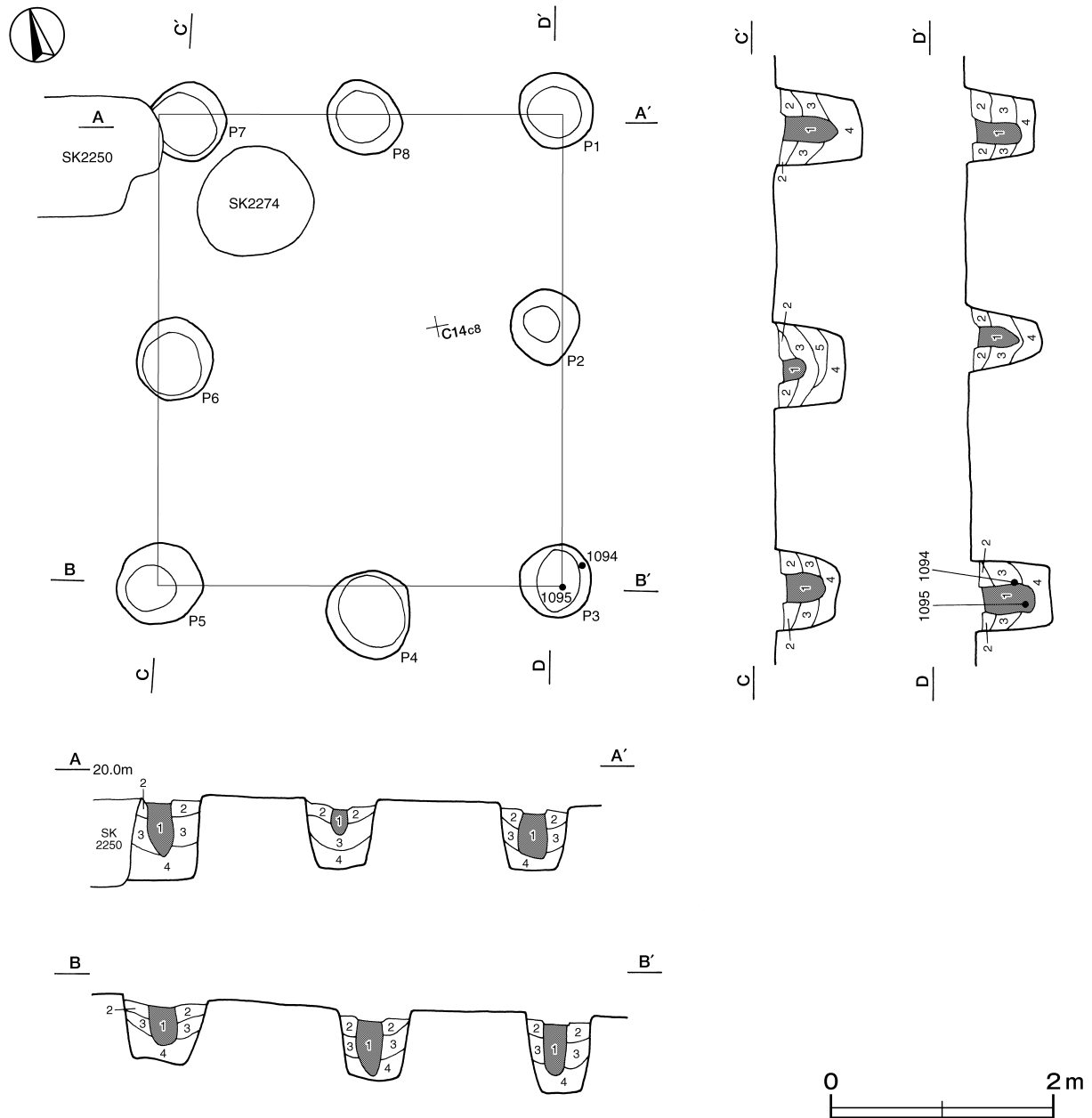
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1093	土師器	小型甕	[11.0]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	P 2 埋土	5 %
TP58	須恵器	甕	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面格子状の叩き 内面当て具痕	P 2 埋土	5 %

第417号掘立柱建物跡（第681・682図）

位置 調査区東部のC14b7区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2250号土坑にを掘り込まれている。また，第2274号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行，梁行とともに2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 14° - Eの南北棟である。規模は，桁行4.2m，梁行3.6mで，面積は15.12m²である。柱間寸法は，桁行2.1m（7尺），梁行1.8m（6尺）を基調とし，均等に配されている。柱筋はほぼ揃っている。



第681図 第417号掘立柱建物跡実測図

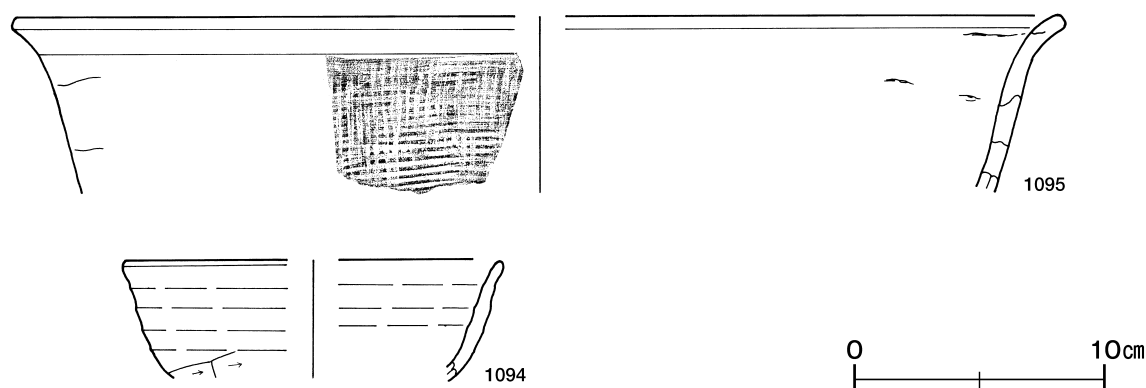
柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径66～78cm，短径62～72cmである。深さは60～85cmで、断面形はU字形や逆台形である。土層は第1層が柱痕跡に相当し、締まりのある黒褐色土である。すべての柱穴から柱痕跡が明瞭に確認されている。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした暗褐色土や黒褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 炭化材・ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片22点（坏1，甕類21），須恵器片11点（坏7，高台付坏1，蓋1，盤2）が各柱穴から出土している。1094・1095はP3の埋土から出土している。

所見 規模や形状から穀物などを納めた倉庫と考えられる。本跡の北には第405号掘立柱建物跡があり、軸線を揃えて直列していることから、同時期に機能していたものと推測される。構築時期は、埋土から出土した土器から9世紀後葉と考えられる。



第682図 第417号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第417号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第682図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1094	須恵器	坏	[14.8]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	P3埋土	10%
1095	須恵器	鉢	[41.4]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面格子状の叩き内面輪積痕	P3埋土	5%

第419号掘立柱建物跡（第683・684図）

位置 調査区東部のB13j5区，標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2143号住居跡，第421号掘立柱建物跡を掘り込み，第2282号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N-5°-Wの南北棟である。規模は，桁行6.0m，梁行3.9mで，面積は23.4m²である。柱間寸法は1.8～2.1m（6～7尺）を基調とし，東側桁行は北から2.1m（7尺），2.1m（7尺），1.8m（6尺）であるのに対して，西側桁行では2.1m（7尺），1.8m（6尺），2.1m（7尺）とばらつきがある。北妻梁行は東から1.8m（6尺），2.1m（7尺）である。柱筋はP3を除いてほぼ揃っている。

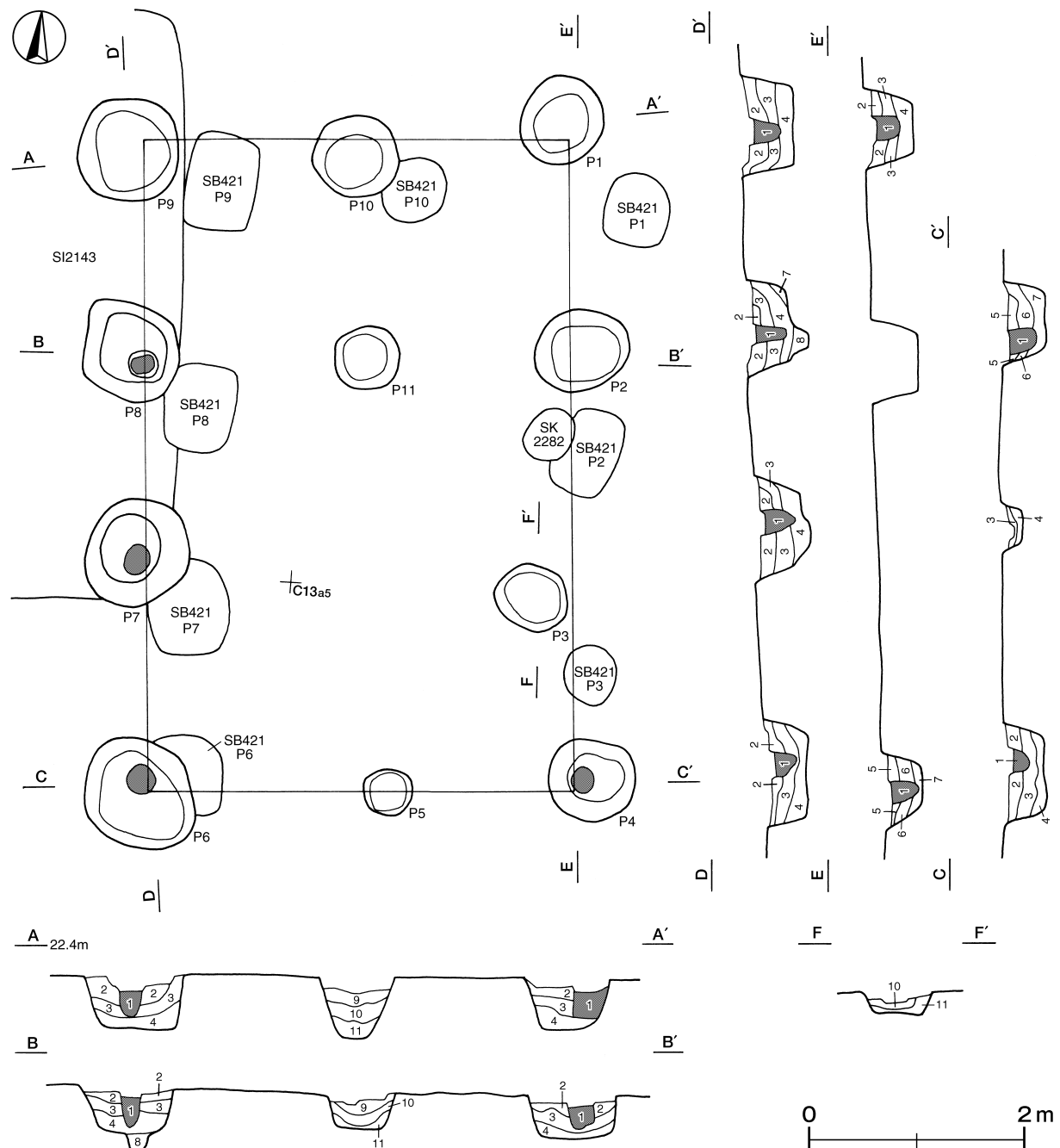
柱穴 11か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径47～105cm，短径42～99cmである。深さは18～57cmで，断面形は逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕に相当し，やや締まった黒褐色土である。また，P4・P6・P7・P8の底面からは柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

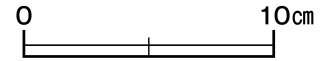
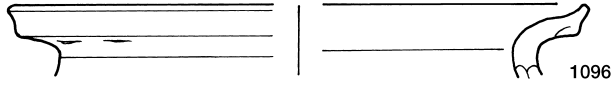
- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 炭化材・ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 | 10 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 褐色 ロームブロック少量 | 11 褐色 ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 13 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 7 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片100点(甕類), 須恵器片26点(坏20, 蓋1, 盤1, 甕類3, 甌1)が各柱穴から出土している。1096はP6の埋土から出土している。

所見 規模や形状から, 穀物などを納めた倉庫と考えられる。西側には第2118・2120号住居跡が隣接していることから, 同時期に機能していたものと推測される。構築時期は, 埋土から出土した土器から9世紀前葉~中葉と考えられる。



第683図 第419号掘立柱建物跡実測図



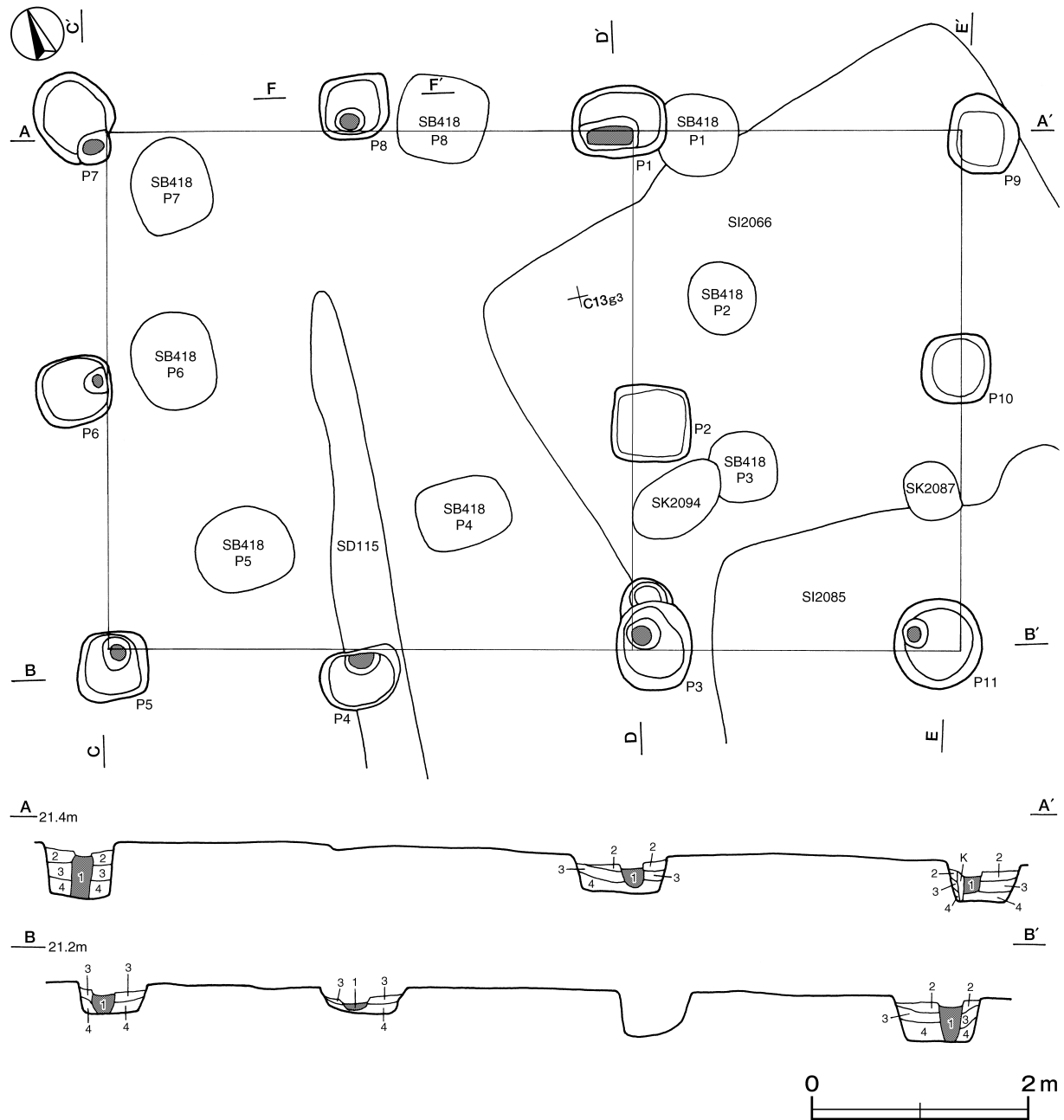
第684図 第419号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第419号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第684図)

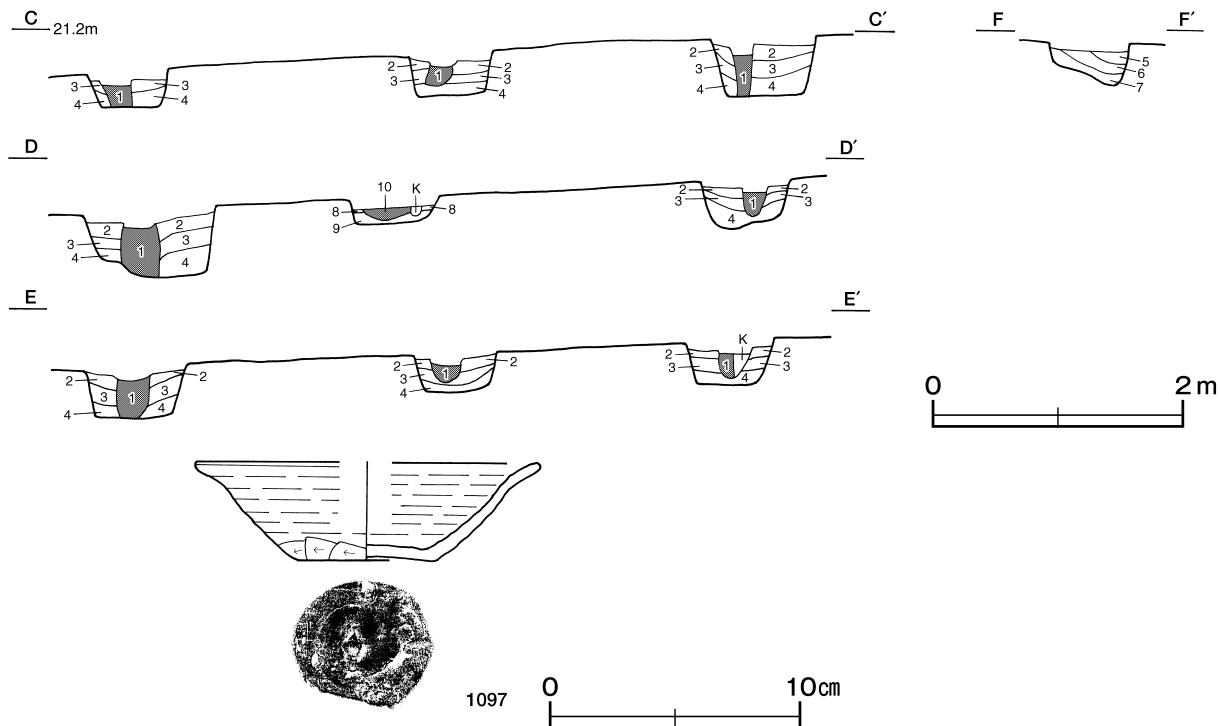
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1096	土師器	甕	[22.8]	(2.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ	P 6 埋土	5%

第420号掘立柱建物跡 (第685・686図)

位置 調査区東部のC13f2区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。



第685図 第420号掘立柱建物跡実測図



第686図 第420号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第2066・2085号住居跡，第418号掘立柱建物跡を掘り込み，第115号溝に掘り込まれている。また，第2087・2094号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱式建物跡で，桁行方向N - 77° - Wの南北棟である。桁行7.8m，梁行は4.8mで，面積は37.44m²である。柱間寸法は，桁行が2.4~3.0m（8~10尺），梁行が2.4m（8尺）を基調とし，東桁間は3.0m（10尺）である。また，東桁行1間の梁行間に掘方が検出されており，東1間と西1間の構造が異なる可能性がある。

柱穴 11か所。平面形はおおむね隅丸方形で，規模は長軸62~88cm，短軸56~80cmである。深さは20~54cmで，断面形は逆台形である。土層は第1・10層が柱抜き取り痕に相当し，やや締まった黒褐色土である。また，P2・P9・P10を除いた底面からは柱のあたりが確認されている。第2~9層は埋土で，ローム土を主体とした褐色土・暗褐色土・黒褐色土が互層をなし，強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片30点（坏3，甕類27），須恵器片9点（坏5，甕類4）が各柱穴から出土している。1097はP2とP4の埋土から出土している。

所見 当該期の大半を占めている側柱式建物と異なり，庇が付属していることから，屋として機能していた建物と考えられる。時期は，出土土器から9世紀中葉以降と考えられる。

第420号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第686図）

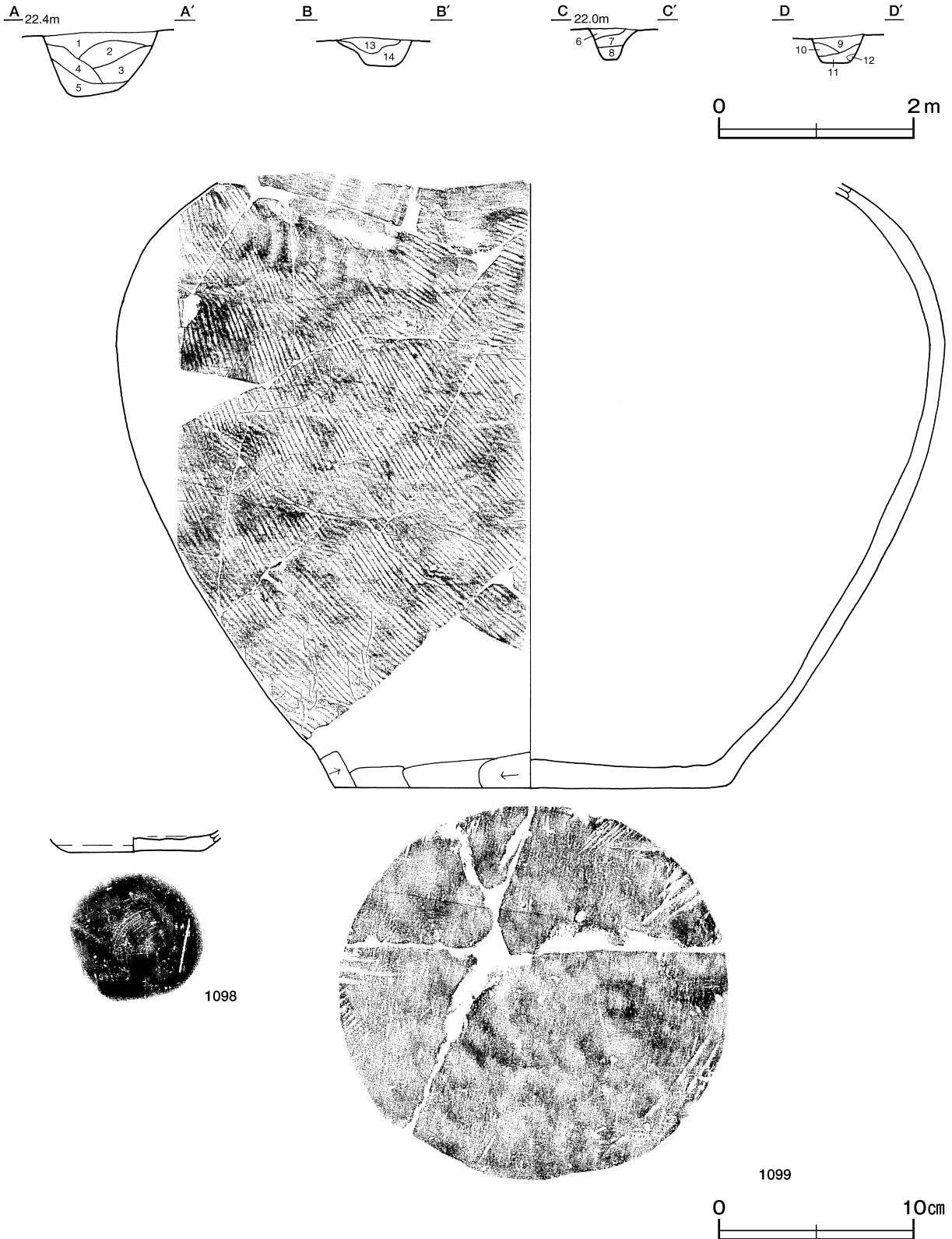
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1097	須恵器	坏	[13.6]	3.9	5.4	長石・石英・雲母・微礫	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	P4埋土	60%

(3) 溝跡

第114号溝跡 (第687図)

位置 調査区北西部から西部のA 9 h9 ~ C 9 a8 区, 標高21.5~22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2018・2056・2163号住居跡, 第3073号土坑を掘り込んでいる。



第687図 第114号溝跡・出土遺物実測図

規模と形状 本跡の南北は調査区域外に延びているため、全容は不明である。N - 4° - Eの方向に直線的に延び、確認できた長さは51.02m、上幅22～122cm、下幅12～60cm、深さ12～68cmである。断面は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 14層に分けられる。第13・14層はレンズ状に堆積する自然堆積であるが、その他はブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	8 黒褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ローム粒子少量	10 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	11 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック少量	12 黒褐色	ローム粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子少量	14 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片201点(坏18, 甕類183), 須恵器片77点(坏2, 短頸壺57, 長頸壺1, 甕類17), 鉄製品1点(不明), 灰釉陶器片1点が出土している。その他, 混入した陶器片1点, 磁器片1点も出土している。1099は覆土中層, 1098は覆土からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器と重複関係から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。第120号溝跡と規模や形状が近似しており, 同じ時期に区画的な機能を有していたと想定される。

第114号溝跡出土遺物観察表(第687図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1098	須恵器	坏	-	(1.1)	6.6	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	覆土	10%
1099	須恵器	短頸壺	-	(30.8)	20.0	長石・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 下端ヘラ削り 内面当て具痕	覆土中層	50%

第120号溝跡(第688図)

位置 調査区北西部から北東部のA10c5～B14a3区, 標高22m～23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2145・2146・2294・2301・2302号住居跡を掘り込み, 第2981号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 N - 70° - Wの方向に直線的に延び, A12j0区で一端途切れ, 再びA13j1区からN - 87° - Wの方向に直線的に延びている。本跡の東西は調査区域外に延びているため、全容は不明である。確認できた長さは150.79m、上幅58～128cm、下幅22～72cm、深さ10～79cmである。断面は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

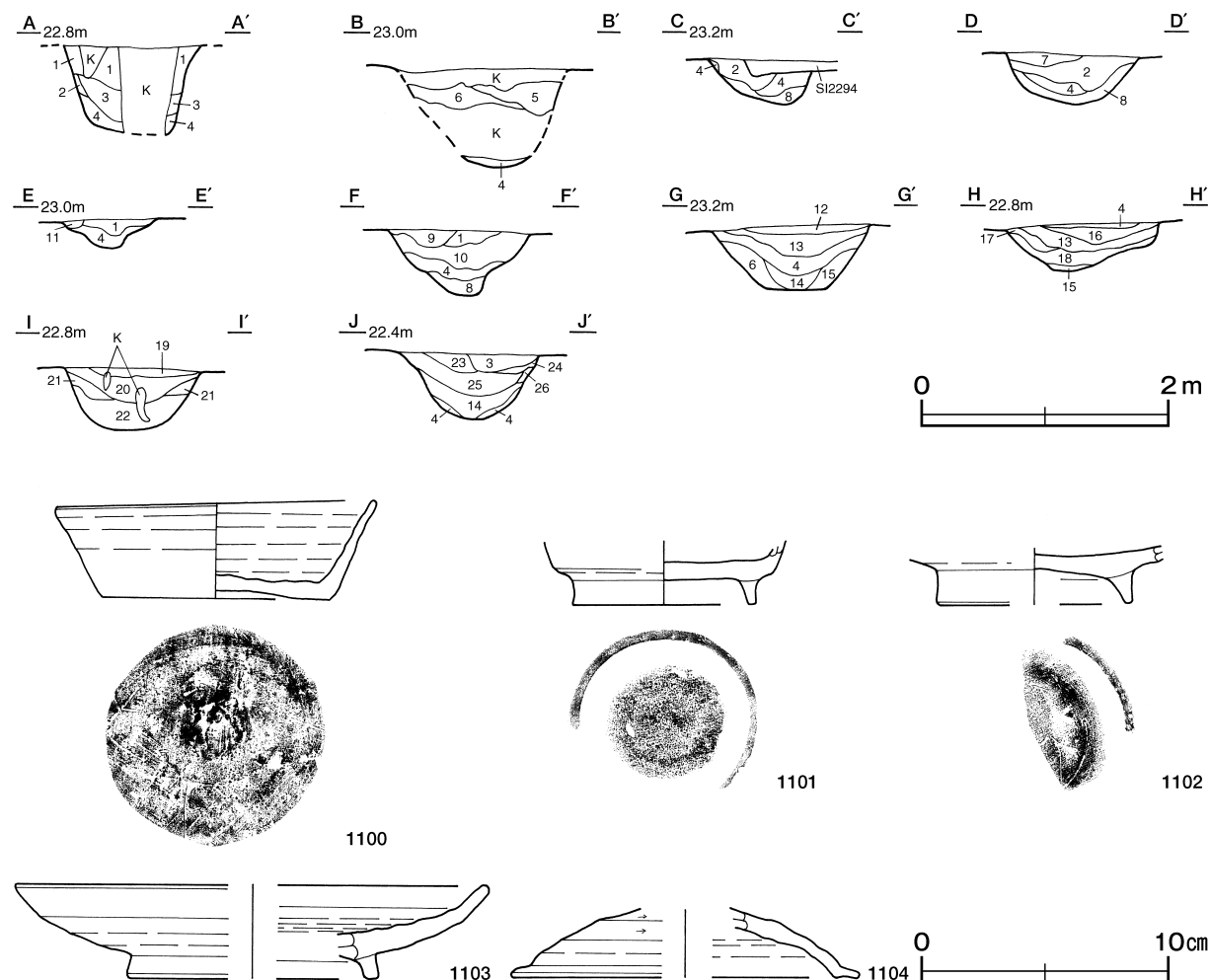
覆土 26層に分かれる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	15 褐色	ローム粒子多量
3 黒褐色	ロームブロック微量	16 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	17 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
6 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量	19 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
7 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	20 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8 褐色	ロームブロック中量	21 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
9 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	22 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
10 暗褐色	ローム粒子少量	23 褐色	ローム粒子中量
11 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	24 黒褐色	ローム粒子少量
12 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	25 暗褐色	ロームブロック微量
13 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	26 灰褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片1588点（坏122，高坏7，壺1，甕類1456，ミニチュア土器1，手捏土器1），須恵器片181点（坏57，高台付坏3，盤2，蓋2，鉢3，甕類114），粘土塊1点，土製品1点（支脚），石器1点（砥石）が出土している。その他，混入した陶器片3点，磁器片5点も出土している。1100は覆土上層，1104は覆土下層，1101・1102・1103は覆土からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器と重複関係から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。第114号溝跡と規模や形状が近似しており，同じ時期に区画的な機能を有していたと想定される。



第688図 第120号溝跡・出土遺物実測図

第120号溝跡出土遺物観察表（第688図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1100	須恵器	坏	12.7	4.0	9.0	長石・石英	灰	良好	体内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	覆土上層	80%
1101	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	7.3	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土	30%
1102	須恵器	高台付坏	-	(2.3)	[7.8]	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土	20%
1103	須恵器	盤	[18.8]	3.8	[9.8]	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体内外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土	10%
1104	須恵器	蓋	[13.8]	(2.8)	-	石英・長石・雲母	灰白	良好	天井部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	10%

(4) 井戸跡

第57号井戸跡（第689図）

位置 調査区北西部のA10d9区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2266号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.03m, 短径1.72mの楕円形である。第2266号住居跡の床面から円筒状に掘り下げている。深さ0.80mほどに達した時点で水が湧出したため, 下部の調査を断念した。また, 井戸の周辺は深さ10cm掘りくぼめられており, 井戸を掘る際に足場として利用された可能性がある。

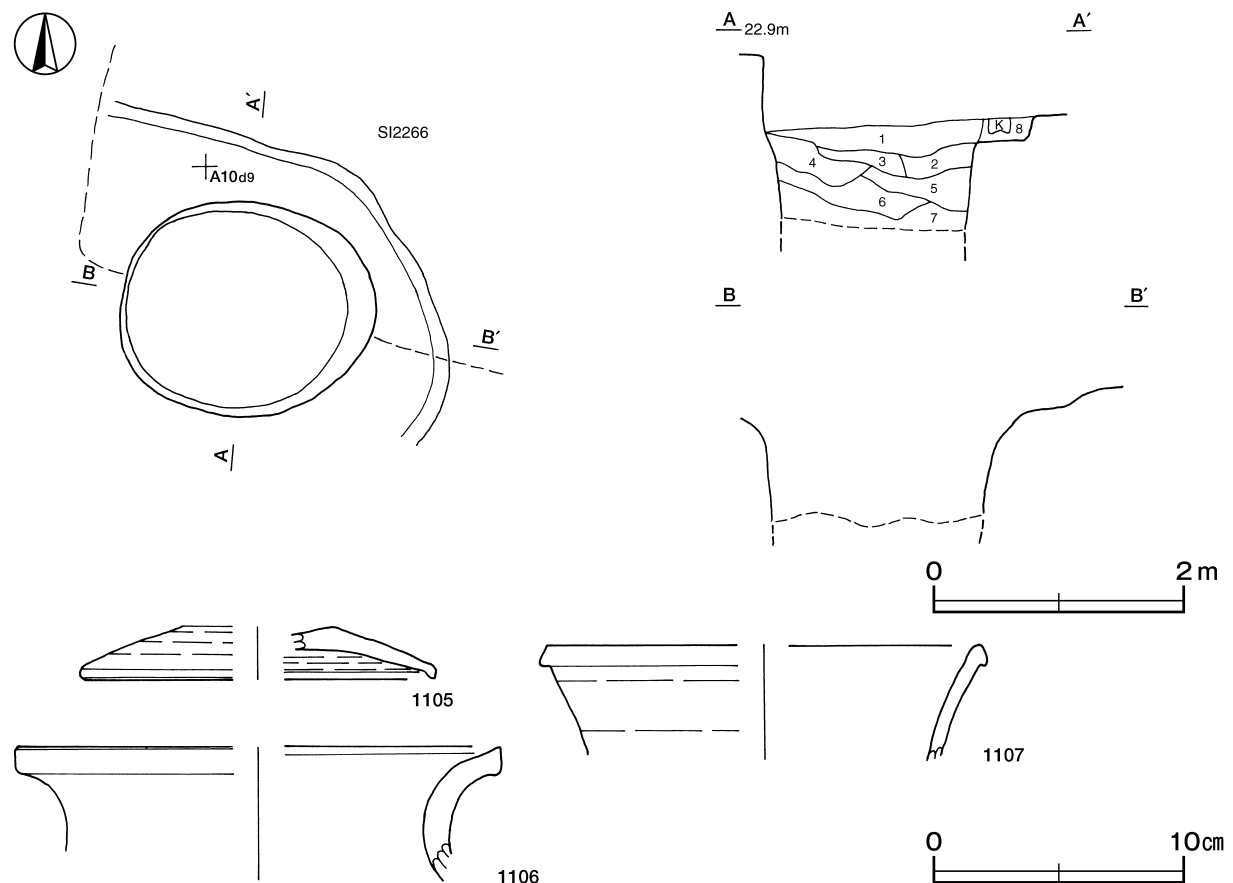
覆土 8層に分けられる。各層にロームブロックが含まれ, ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 6 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片20点(坏2, 甕類18), 須恵器片15点(坏10, 蓋1, 甕類4)が出土している。1105~1107は, いずれも覆土中から出土しており, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 素掘りの構造である。廃絶時期は重複関係や出土土器から, 9世紀後半と考えられ, 比較的短い期間で廃棄された井戸と想定される。



第689図 第57号井戸跡・出土遺物実測図

第57号井戸跡出土遺物観察表 (第689図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1105	須恵器	蓋	[14.0]	(2.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	10%
1106	土師器	甕	[19.0]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内外面ヘラナデ	覆土	5%
1107	須恵器	甕	[17.0]	(4.5)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面口クロナデ 内面ナデ	覆土	5%

(5) 土坑

第2064号土坑 (第690図)

位置 調査区南部のD12d3区, 標高18mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2096号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.47m, 短径0.45mの円形で, 長径方向はN - 2° - Eである。深さは14cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

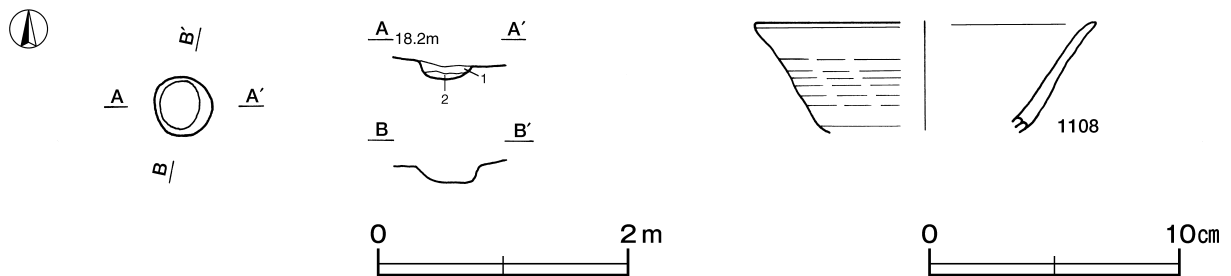
覆土 2層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片14点(坏3, 甕類11), 須恵器片1点(坏), 土師質土器片1点(小皿)が出土している。1108は覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第690図 第2064号土坑・出土遺物実測図

第2064号土坑遺物観察表 (第690図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1108	須恵器	坏	[13.4]	(4.3)	-	長石・雲母	橙	普通	体部内外面口クロナデ 体部回転ヘラ削り 体部内面ナデ	覆土	10%

第2233号土坑 (第691図)

位置 調査区南東部のD14a2区, 標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.46m, 短径0.60mの楕円形で, 長径方向はN - 31° - Eである。深さは20cmで, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。また, 南壁際の底面から炭化材が確認されている。

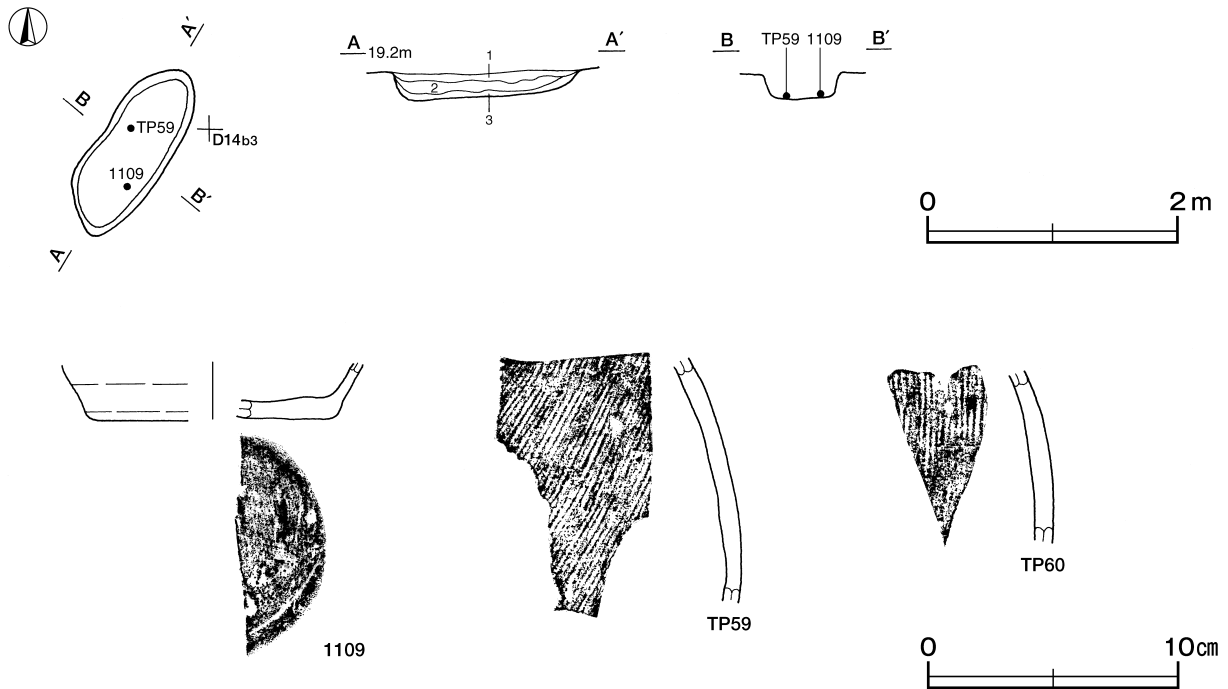
覆土 3層に分けられる。レンズ状に堆積しているが, 1・2層に炭化材が, 3層に粘土が含まれているため, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 炭化材中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片27点(甕類), 須恵器片2点(高盤, 甕類)が出土している。1109は南壁際の底面, TP59は北壁部の底面からそれぞれ破損した状態で出土している。また, TP60は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。炭化材が多く確認され, 底面付近に粘土が貼られていることから, 粘土貼り土坑と考えられる。また, 土坑内で有機物を燃やしたと想定できるが, 用途については不明である。



第691図 第2233号土坑・出土遺物実測図

第2233号土坑遺物観察表（第691図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1109	須恵器	坏	-	(2.3)	[9.2]	長石・雲母	にぶい黄	普通	体部下端へら削り 底部回転へら切り後へら削り	底面	30%
TP59	須恵器	甕	-	(9.7)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面斜位平行叩き 内面ナデ 熱を受けている	底面	
TP60	須恵器	甕	-	(6.8)	-	長石・雲母・礫	灰白	普通	体部外面縦位平行叩き 内面ナデ	覆土	

第2351号土坑（第692図）

位置 調査区北東部のA13h4区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2134号住居跡を掘り込んでおり、北部は調査区域外のため確認されていない。

規模と形状 調査区域外に延びているため、南北軸1.18m、東西軸0.80mの隅丸長方形で、長軸方向はN - 0°である。深さは48cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

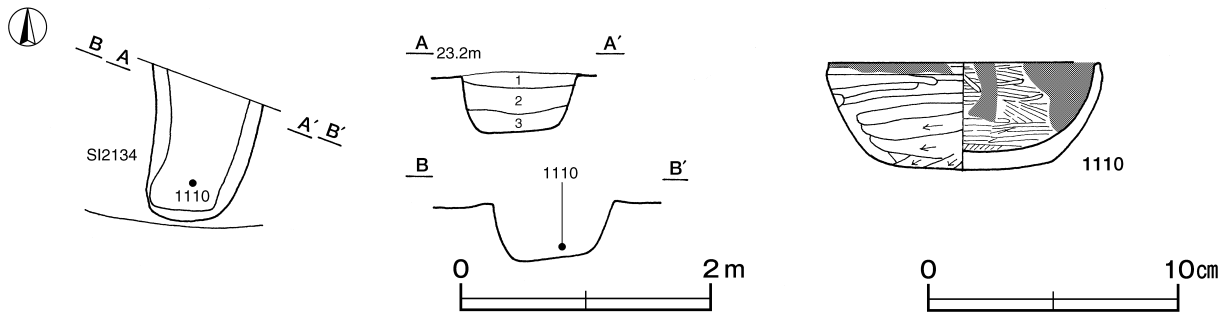
覆土 3層に分けられる。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 3 暗褐色 ローム粒子少量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 土師器（坏）1点が出土している。1110は南部の覆土第2層と第3層の境目から正位の状態で出土しており、口辺部の内外面に油煙が付着している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀後半と考えられる。性格は、土坑の形状から墓壇である可能性が考えられる。



第692図 第2351号土坑・出土遺物実測図

第2351号土坑遺物観察表（第692図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1110	土師器	坏	10.8	4.4	7.1	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面・底部へラ削り後へラ磨き 体部内面から内底までへラ磨き 口辺部外面から体部内面にかけて油煙付着	覆土下層	100%油煙付着

第2500号土坑（第693・694図）

位置 調査区南東部のD13c7区，標高18mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2088号住居跡を掘り込み，第397号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.60m，短軸1.02mの不整楕円形で，長軸方向はN - 70° - Wである。深さは66cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

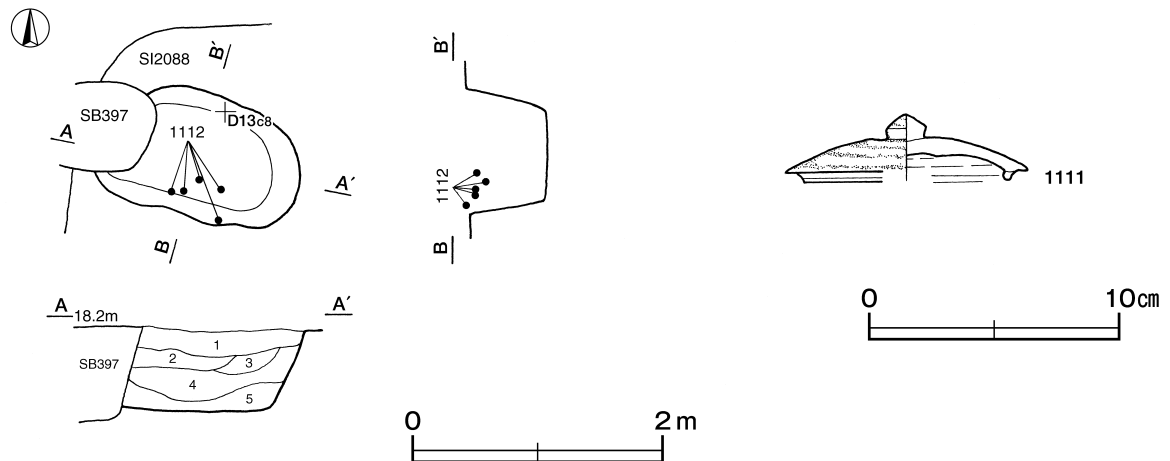
覆土 5層に分けられる。各層にロームブロックやブロック状に堆積していることから，人為堆積である。

土層解説

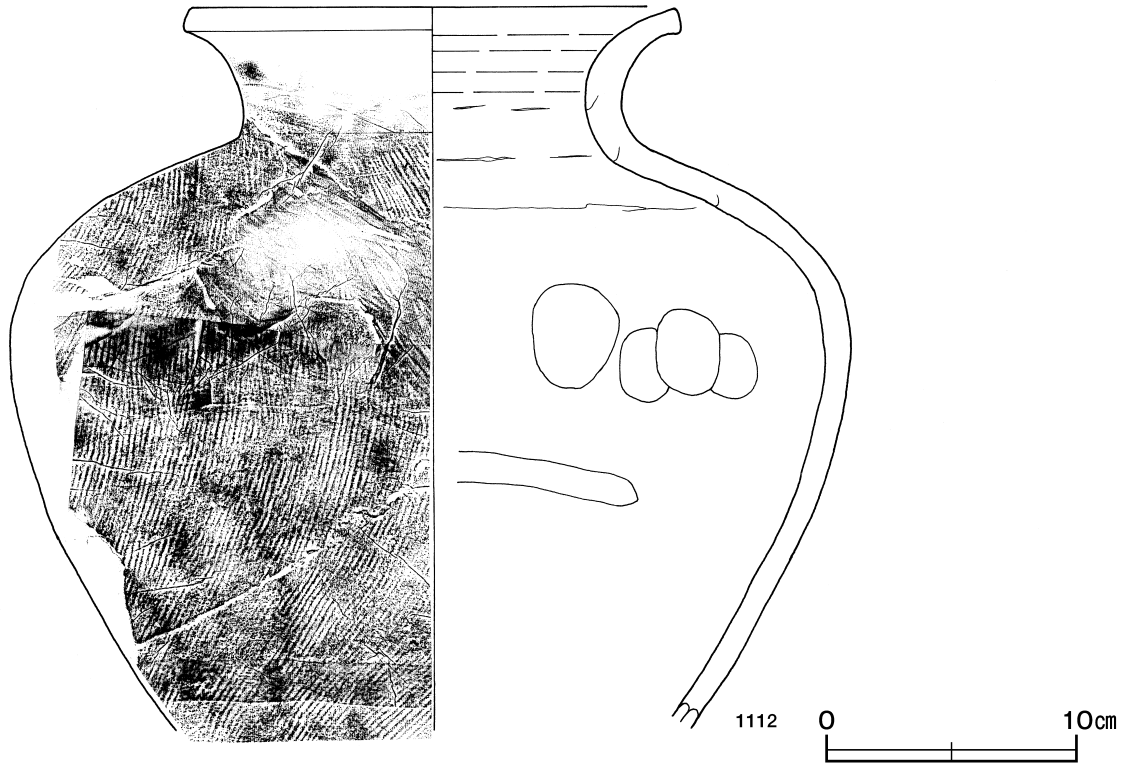
- | | | | |
|-------|--------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック微量 | 4 灰褐色 | 粘土ブロック多量，ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量 | 5 にぶい褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，粘土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片48点（坏7，高坏1，甕類39，甑1），須恵器片14点（甕類），灰釉陶器片1点（蓋）が出土している。1112は南壁際の覆土上層から破損した状態で出土し，1111は覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第693図 第2500号土坑・出土遺物実測図



第694図 第2500号土坑出土遺物実測図

第2500号土坑遺物観察表（第693・694図）

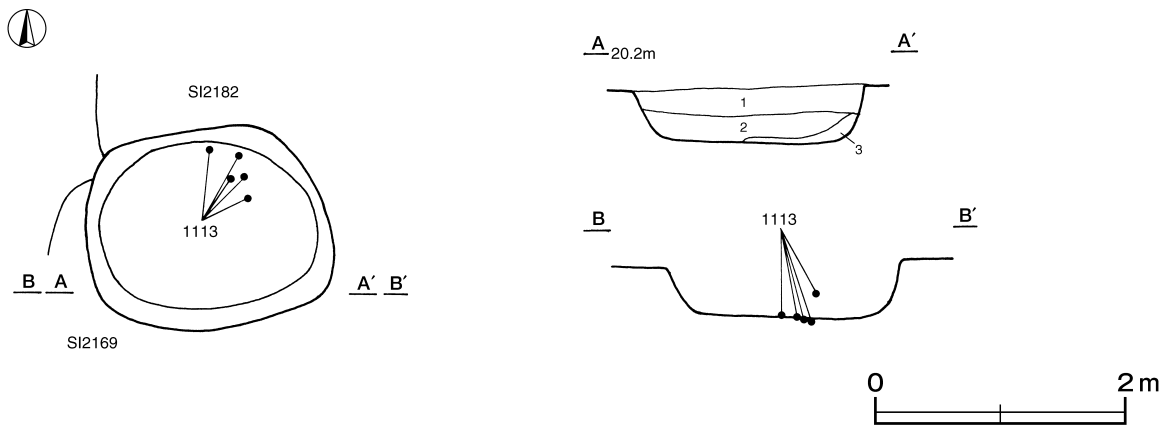
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1111	須恵器	蓋	[8.1]	2.7	-	長石	灰オリブ	普通	天井部外面自然釉附着 かえり貼り付け つまみ擬宝珠状を呈す つまみ高1.0cm つまみ径1.6cm	覆土	20%
1112	須恵器	甕	19.2	(28.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面縦位平行叩き 内面ヘラナデ 当具痕 輪積痕	覆土上層	60%

第2578号土坑（第695・696図）

位置 調査区南西部のD10a9区，標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2169・2182号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.88m，短軸1.60mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 90° - Eである。深さは42cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。



第695図 第2578号土坑実測図

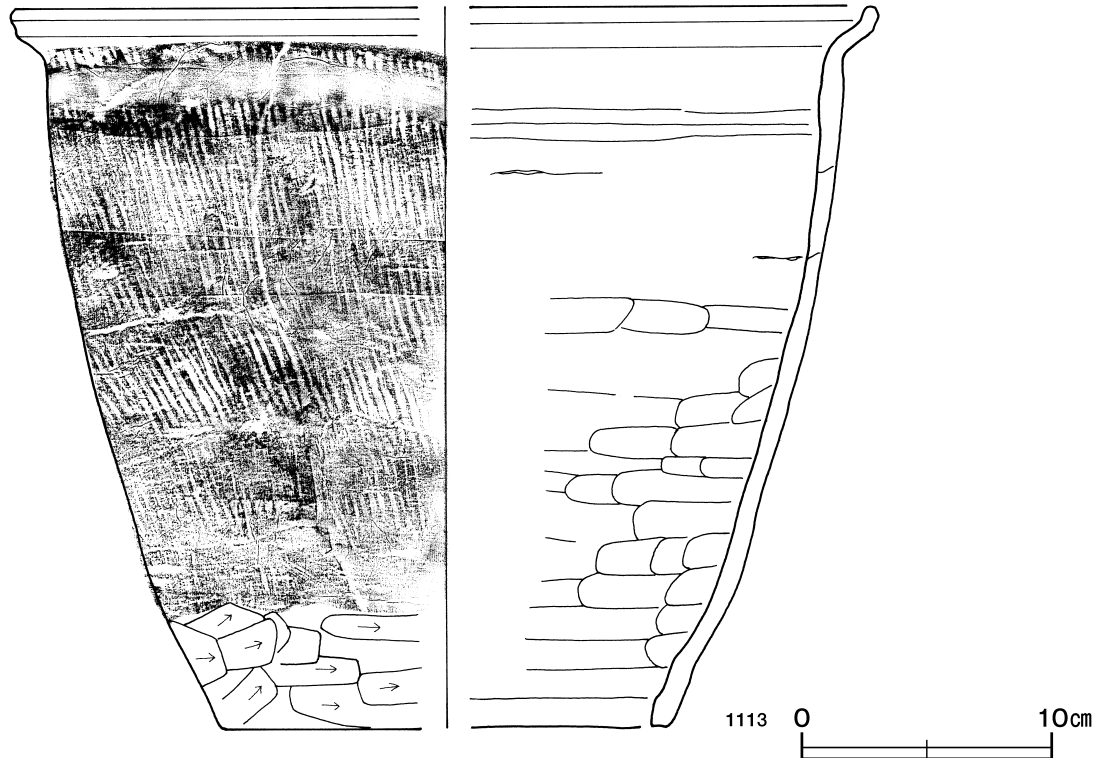
覆土 3層に分けられる。焼土や炭化物が各層に含まれていることから、人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量 3 暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片102点（坏1，甕類100，甑1），須恵器片5点（坏1，蓋2，盤1，甕1）が出土している。1113は覆土下層から底面にかけて散在した状態で出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀中葉以降と考えられる。性格は不明である。



第696図 第2578号土坑出土遺物実測図

第2578号土坑遺物観察表（第696図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1113	須恵器	甑	[34.0]	28.7	[17.6]	長石・雲母	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 体部下端へら削り 体部内面へらナデ・指ナデ 当具痕	覆土下層・底面	40%

第2758号土坑（第697図）

位置 調査区南西部のD9g9区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2033号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.18m，短径1.04mの楕円形で，長径方向はN-70°-Eである。深さは32cmで，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

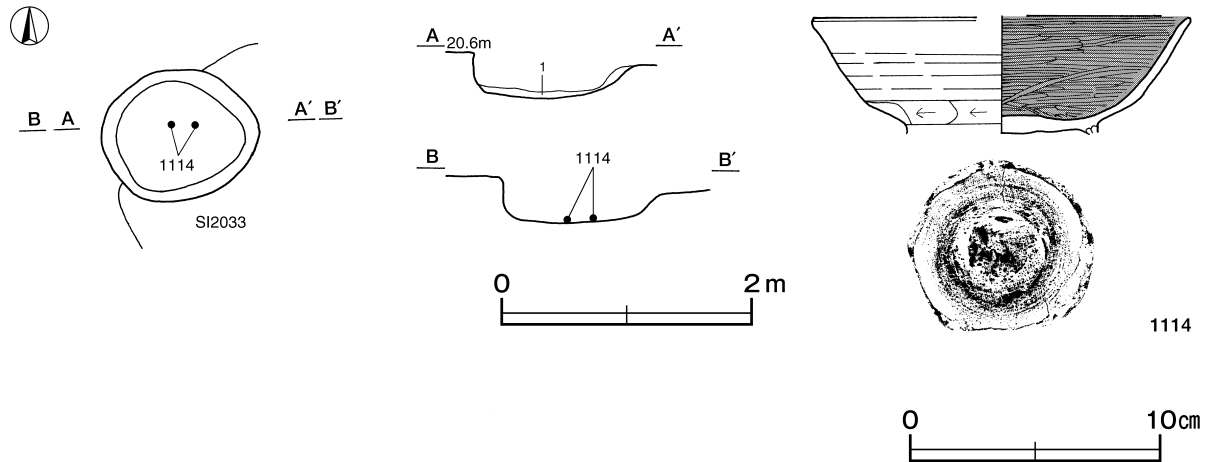
覆土 単一層であり，堆積が薄いため詳細は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片6点（坏3，高台付椀1，甕類2）が出土している。1114は中央部の底面から破損した状態で出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第697図 第2758号土坑・出土遺物実測図

第2758号土坑遺物観察表（第697図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1114	土師器	高台付椀	[15.1]	(4.3)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面口クロナデ 体部下端ヘラ削り 底部ヘラ切り後高台貼り付け 体部内面・内底ヘラ磨き 内面黒色処理	覆土下層	60%

表 8 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	出土遺物	時期
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2005	E 9 b4	N - 10° - W	方形	4.54×4.35	25~35	平坦	全周	4	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 石器, 鉄器・鉄製品	9世紀中葉	
2006	E 9 a4	N - 61° - E	長方形	3.12×2.48	12~14	平坦	-	-	-	1	竈1	-	人為	土師器片	10世紀後半~11世紀前半	
2014	E 9 c5	N - 63° - E	長方形	3.66×3.16	15~26	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 石器	11世紀後半	
2033	D 9 g0	N - 27° - W	長方形	4.13×3.33	10~15	平坦	半周	-	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	10世紀前半以前	
2043	D10e4	N - 10° - W	方形	6.27×6.10	20~55	平坦	ほぼ全周	4	2	2	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄器	9世紀前葉	
2046	B10h2	N - 5° - W	方形	3.81×3.50	5~20	平坦	-	2	1	3	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 石器, 鉄製品	9世紀代	
2054	B 9 c7	N - 8° - E	方形	3.45×3.28	37~42	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀中葉	
2055	B 9 d7	N - 19° - E	方形	2.79×2.55	18~25	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片	10世紀前半	
2058	B10g3	N - 9° - W	長方形	4.66×4.12	28~35	平坦	全周	4	1	3	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄器	9世紀前葉	
2059	B10h5	N - 1° - W	方形	4.64×4.55	4~14	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 土製品	9世紀前葉	
2060	B10j6	N - 3° - W	方形	3.78×3.64	9~14	平坦	-	-	1	3	竈1	-	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉以前	
2065	C13j5	N - 9° - W	長方形	7.80×6.36	8~68	平坦	全周	4	1	4	竈1	-	自然・人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 土製品, 石器, 鉄器・鉄製品	9世紀前葉	
2071	B12i3	N - 12° - E	方形	4.45×4.18	7~13	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 石器	9世紀中葉	
2078	D13b5	N - 5° - W	方形	4.90×4.50	20~40	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 土製品, 鉄滓	9世紀中葉~後葉	
2079	C13h4	N - 1° - E	方形	3.66×3.55	25~38	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄器	9世紀中葉	
2080	C13i6	N - 6° - E	方形	3.46×3.24	26~40	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 土製品, 石器, 鉄製品	9世紀後葉	
2081	D12c1	N - 78° - E	方形	3.24×3.22	20~44	平坦	全周	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 土製品, 石器・石製品	9世紀後葉	
2084	C13j4	N - 6° - E	方形	4.85×4.50	38~48	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 銅製品, 鉄滓	9世紀後葉	
2085	C13h3	N - 6° - E	方形	6.80×6.46	8~48	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 土製品, 石器, 鉄器・鉄製品	9世紀前葉	
2087	D13b3	N - 7° - E	方形	4.18×4.15	27~55	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 鉄製品	9世紀中葉	
2089	D12b7	N - 13° - E	方形	3.27×3.10	16~35	平坦	ほぼ全周	-	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 石器	9世紀後葉以降	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	出土遺物	時期
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2090	D12c8	N - 3 ° - E	方形	6.20×5.96	40～85	平坦	全周	4	2	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石製品, 鉄器・鉄製品	9世紀前葉	
2091	D12e2	N - 6 ° - W	-	3.44×3.42	18～22	傾斜	(全周)	-	-	-	竈1	-	自然・人為	土師器片, 須惠器片, 石製品, 鉄製品	9世紀中葉	
2094	C13i2	N - 10 ° - E	方形	5.30×5.28	40～48	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 石器・石製品	9世紀後葉	
2096	D12e3	N - 1 ° - W	[方形]	3.71×[2.92]	15	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	10世紀前半	
2098	D12b5	N - 91 ° - E	方形	6.85×6.38	35～43	平坦	半周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄器・鉄製品	9世紀前葉	
2100	D12a9	N - 7 ° - E	方形	3.03×3.00	12～18	傾斜	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉	
2101	D14b2	N - 19 ° - W	長方形	3.13×2.85	12～18	平坦	-	2	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2102	B14j5	N - 22 ° - E	方形	5.11×4.69	11～41	傾斜	半周	4	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石器	9世紀後葉	
2103	C14e4	N - 25 ° - E	長方形	3.16×2.68	5～11	平坦	-	2	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄器	9世紀後葉	
2106	B14j4	N - 20 ° - E	長方形	6.60×4.56	16～30	傾斜	-	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片	9世紀中葉	
2110	C14g3	N - 9 ° - W	方形	3.85	16～24	平坦	-	1	-	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀代	
2111	C14f4	N - 24 ° - E	方形	3.18×3.12	6～15	平坦	一部	2	1	4	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片	9世紀中葉	
2112	C14b4	N - 15 ° - E	方形	4.16×3.72	3～20	傾斜	-	-	1	3	竈1 炉2	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石製品, 鉄器	9世紀後葉	
2115	C14a4	N - 16 ° - E	-	6.06×5.76	4～31	平坦	半周	2	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2117	B13h2	N - 4 ° - W	方形	2.51×2.45	22～30	平坦	ほぼ全周	-	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄器・鉄製品	9世紀後葉	
2118	B13i3	N - 9 ° - E	方形	4.35×4.25	15～28	平坦	ほぼ全周	4	1	1	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 石器, 鉄器	9世紀前葉	
2120	B13j3	N - 5 ° - E	方形	4.46×4.44	39～48	平坦	全周	4	1	5	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石器, 鉄器・鉄製品	9世紀前葉	
2121	B12f6	N - 11 ° - E	方形	3.63	5～10	平坦	全周	4	2	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 土製品, 石器, 鉄器	9世紀前葉	
2126	C12a8	N - 4 ° - W	長方形	3.65×3.08	5～8	平坦	-	4	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2129	B13h4	N - 6 ° - E	長方形	3.66×3.21	12	平坦	半周	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片	9世紀後葉	
2135	A13i7	-	-	(3.71×1.55)	15～18	平坦	(全周)	2	1	1	-	-	自然	土師器片, 須惠器片	9世紀後半	
2136	B14d8	-	-	(2.82×0.64)	34～40	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2139	B14b2	N - 18 ° - E	-	(3.16×2.52)	28～54	平坦	全周	3	-	3	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄器	9世紀前葉	
2144	A13i6	-	長方形	(4.54×4.44)	-	平坦	半周	-	1	1	-	-	不明		9世紀後半以前	
2148	B12h0	-	方形	[4.68×4.68]	-	平坦	-	1	-	4	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	9世紀代	
2150	C12b1	N - 1 ° - W	長方形	7.12×6.40	17～55	平坦	一部	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 鉄器・鉄製品, 貨幣	9世紀前葉	
2155	B12j3	N - 7 ° - E	方形	3.50×3.49	18～21	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2169	D10a9	N - 2 ° - W	方形	4.10×4.04	26～50	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2182	D10a9	N - 10 ° - W	[方形]	[3.65]×3.60	5～18	平坦	-	-	-	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉	
2183	E10a1	N - 24 ° - E	方形	3.79	42～64	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄器, 鉄滓	9世紀中葉	
2186	D10g8	N - 9 ° - W	方形	5.02×4.66	34～64	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	9世紀前葉	
2189	E9c0	N - 65 ° - E	長方形	4.28×3.24	5～20	平坦	(全周)	4	1	2	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 土製品	10世紀前半	
2201	A11h2	N - 13 ° - E	方形	4.65×4.50	20～35	平坦	全周	4	1	4	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 石製品, 鉄器	9世紀前葉	
2211	B12e5	N - 7 ° - E	方形	4.50×4.48	15～18	平坦	ほぼ全周	4	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄器・鉄製品	9世紀中葉	
2212	D11i4	N - 80 ° - E	方形	3.12×2.92	34～73	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉	
2242	E9a7	N - 61 ° - E	方形	3.79×3.63	28	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片	10世紀後半	
2255	A10i3	N - 9 ° - E	方形	3.70×3.65	41～49	平坦	全周	2	1	2	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄器	9世紀前葉	
2259	A11h3	N - 9 ° - E	方形	4.69×4.54	22～30	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 石器, 鉄器・鉄製品	9世紀前葉	
2266	A10c9	N - 15 ° - E	方形	4.80×4.47	40～56	平坦	ほぼ全周	3	-	4	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄器, 鉄滓	9世紀前葉	
2267	A10a0	N - 1 ° - W	方形	4.90	50～58	平坦	全周	4	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品, 鉄器	9世紀中葉	
2269A	A11i5	N - 4 ° - E	方形	3.96×3.30	9～19	平坦	-	-	1	1	竈1	-	不明	土師器片	9世紀前葉	
2269B	A11i5	N - 4 ° - E	方形	4.30×4.10	9～19	平坦	-	4	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2269C	A11i5	N - 94 ° - E	方形	4.30×4.10	9～19	平坦	-	4	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 鉄器・鉄製品	9世紀中葉	
2270	A11i8	N - 4 ° - E	方形	3.28×3.02	21～30	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉	
2271A	B11a7	N - 3 ° - W	[長方形]	[3.50×2.80]	34～45	平坦	一部	-	1	-	竈1	-	不明	須惠器片, 鉄器・鉄製品	9世紀中葉	
2271B	B11a7	N - 3 ° - W	長方形	3.75×3.24	34～45	平坦	-	-	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄器・鉄製品, 鉄滓	9世紀中葉	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	出土遺物	時期
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2281	B11f6	N - 4 ° - E	長方形	4.72×4.22	20~37	平坦	ほぼ全周	4	1	1	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 石器	9世紀中葉	
2282	A11b5	N - 2 ° - E	[方形]	3.61]×3.30	34~37	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2283	A11b4	N - 3 ° - E	方形	3.82×(3.72)	29~42	平坦	ほぼ全周	2	1	3	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄製品, 鉄滓	9世紀後葉	
2287	A11c6	N - 7 ° - E	方形	[3.35]×3.30	8~15	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2288	A11c8	N - 18 ° - E	-	[6.80]×(2.00)	17~22	平坦	一部	2	1	-	-	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	9世紀前葉	
2292	B11e9	N - 10 ° - E	長方形	6.38×4.86	41~47	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄器・鉄製品, 鉄滓	9世紀中葉	
2294	A11g7	N - 10 ° - E	[長方形]	3.72×[2.90]	9~17	平坦	全周	4	-	4	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉	
2296	A12f2	N - 14 ° - E	長方形	3.95×3.48	12~15	平坦	半周	3	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2303	B12c5	N - 7 ° - E	長方形	5.72×5.07	15~23	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片, 石器・石製品, 鉄器, 鉄製品, 鉄滓	9世紀中葉	
2307	B10a5	N - 4 ° - E	[方形]	[3.50]×[3.45]	-	平坦	-	-	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠器片	9世紀後半	

表9 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (m ²)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱 穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
302	C10h1	N - 85 ° - E	3×2	5.40×3.60	19.44	1.80	1.80	側柱	10	隅丸方形	15~60	土師器片, 須惠器片	9世紀代
303	D9b9	N - 89 ° - E	3×3	4.50×4.20	18.90	1.50	1.50	総柱	12	楕円形	63~84	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器, 土製品	9世紀代
304	D9f9	N - 5 ° - W	3×2	5.40×4.20	22.68	2.10	2.10	側柱	10	隅丸方形	65~85	土師器片, 須惠器片, 石器, 土製品	10世紀前半以降
306	C13g4	N - 78 ° - W	3×2	4.50×3.00	13.50	1.50	1.50	側柱	10	楕円形	16~48	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉
308	A11j4	N - 84 ° - W	2×2	4.20×4.20	17.64	2.10	2.10	側柱	8	楕円形	16~58	土師器片, 鉄製品	9世紀後葉
309	B12b2	N - 95 ° - E	3×3	8.10×8.10	65.61	2.70	2.70	側柱	16	隅丸方形	10~60	土師器片, 須惠器片, 石器, 鉄製品	8世紀後葉以降
310	A12g7	N - 0 °	4×2	2.10×2.10	35.28	2.10	2.10	側柱	12	隅丸方形 楕円形	15~25	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
311	B12b3	N - 0 °	3×2	7.80×3.60	28.08	1.80	2.70	側柱	10	隅丸方形	42~52	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	9世紀前葉
312	B12b7	N - 87 ° - W	3×2	7.20×4.20	30.24	2.10	2.10	側柱	10	隅丸方形	19~67	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
333	C12a8	N - 0 °	(3×2)	4.20×4.20	-	4.20	4.20	-	5	隅丸方形	16~33	土師器片	9世紀前葉以前
337	D10c7	N - 12 ° - W	3×3	7.20×5.10	34.56	2.40	1.5~1.8	側柱	12	隅丸方形	70~117	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉
350	D12d2	N - 1 ° - E	3×2	6.30×3.60	22.68	2.10	1.80	側柱	10	隅丸方形	50~95	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
356	D11f5	N - 80 ° - E	3×2	6.30×4.20	26.46	2.10	2.10	側柱	10	隅丸方形	84~110	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
359	D11h2	N - 7 ° - W	$\frac{3}{2} \times \frac{2}{2}$	5.40×3.60	19.44	1.8~3.0	1.8	側柱	9	楕円形	12~56	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉以降
361	D13c6	N - 7 ° - W	3×2	7.20×4.20	30.24	2.40	2.10	側柱	10	隅丸方形 楕円形	55~93	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
362	D11f2	N - 85 ° - E	2×2	4.20×3.60	15.12	2.10	1.80	側柱	8	楕円形	16~45	土師器片, 須惠器片	9世紀代
366	C13h6	N - 4 ° - W	3×2	7.50×4.20	31.50	2.1~2.7	2.1	側柱	9	隅丸方形	15~32	土師器片, 須惠器片, 土製品	9世紀前葉
367	C13j3	N - 80 ° - W	[3×2]	5.40×4.80	25.92	1.80	2.40	[側柱]	6	隅丸方形	34~52	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
376	D9c9	N - 12 ° - W	3×3	6.60×4.50	29.70	2.1~2.4	1.5	側柱	12	隅丸長方形	70~115	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
378	D9j6	N - 5 ° - W	3×2	6.00×3.90	23.40	1.8~2.1	1.8~2.1	側柱	10	隅丸方形	12~68	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	10世紀後半以降
392	C12i0	N - 88 ° - W	[3×2]	7.50×4.80	40.50	2.4~2.7	2.7	[側柱]	8	楕円形	52~64	土師器片, 須惠器片, 石器	9世紀中葉
393	D12c8	N - 2 ° - E	3×2	7.20×4.80	34.56	2.40	2.40	側柱	10	楕円形	45~100	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉
394	D12d1	N - 2 ° - W	[3×2]	(6.10)×5.40	-	2.70	2.70	[側柱]	8	楕円形	50~122	土師器片, 須惠器片, 炭化米	9世紀後葉以降
396	C12f0	N - 10 ° - E	3×3	6.90×4.50	31.05	1.50~3.00	1.50	側柱	10	楕円形	14~50	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
397	D13e7	N - 4 ° - W	3×2	7.20×3.60	25.92	2.40	2.40	側柱	10	隅丸方形	44~102	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉
399	C12g0	N - 87 ° - W	3×2	6.90×4.80	33.12	2.1~2.4	2.1~2.7	側柱	10	楕円形	63~88	土師器片, 須惠器片, 陶器片	9世紀前葉以降
400	C12c6	N - 86 ° - E	[3×2]	7.20×4.80	34.56	2.40	2.40	[側柱]	6	楕円形	10~28	土師器片, 須惠器片	9世紀代
401	C14g2	N - 7 ° - W	3×2	6.60×4.20	27.72	2.10	2.10	側柱	10	隅丸方形	12~45	土師器片, 須惠器片	9世紀後半
404	C14d6	N - 15 ° - E	3×2	6.30×4.80	30.24	2.10	2.40	側柱	10	隅丸方形	32~72	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	9世紀中葉
405	B14j8	N - 21 ° - E	2×2	5.40×4.20	22.68	2.70	2.10	側柱	8	楕円形	42~67	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉
406	C12i8	N - 90 ° - E	3×2	5.40×3.60	21.06	1.80	1.80	側柱	10	隅丸方形	30~60	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規 模 桁×梁 (m)	面積 (m ²)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱 穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
408	C12i5	N - 87° - E	3 × 2	6.00 × 4.50	27.00	1.8~2.1	2.1~2.4	側柱	10	隅丸方形	28~54	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
409	C14b9	N - 18° - E	(1) × 2	2.80 × 5.40	-	2.40	2.70	[側柱]	5	隅丸方形	68~80	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
410	C14a2	N - 4° - E	3 × 2	5.40 × 4.20	22.68	1.80	2.10	側柱	10	隅丸方形 楕円形	22~65	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉
411	C12j0	N - 83° - W	3 × 2	7.20 × 4.80	34.56	2.40	2.40	側柱	10	隅丸方形	50~84	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉以降
412	D12a0	N - 88° - W	3 × 2	6.00 × 4.20	25.20	1.8~2.4	2.1	側柱	10	楕円形	45~90	土師器片, 須惠器片, 石器	9世紀後葉
413	C12i8	N - 88° - W	3 × 2	5.70 × 3.90	22.23	1.8~2.1	1.8~2.1	側柱	10	隅丸方形	30~62	土師器片, 須惠器片	9世紀前半
414	C14c5	N - 30° - E	2 × 2	4.50 × 3.60	16.20	2.1~2.4	1.8	側柱	8	隅丸方形 楕円形	37~48	土師器片	9世紀後葉
416	C14e7	N - 16° - E	2 × 2	4.80 × 4.20	20.16	2.40	2.10	側柱	8	楕円形	35~68	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉
417	C14b7	N - 14° - E	2 × 2	4.20 × 3.60	15.12	2.10	1.80	側柱	8	楕円形	60~85	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉
419	B13j5	N - 5° - W	3 × 2	6.00 × 3.90	23.40	1.8~2.1	1.8~2.1	側柱	11	楕円形	42~99	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉 - 中葉
420	C13f2	N - 77° - W	3 × 2	7.80 × 4.80	37.44 (14.4)	2.4~3.0	2.4	総柱 (一面庇)	11	隅丸方形	56~80	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉以降

表10 平安時代溝跡一覽表

番号	位置	方向	形状	規 模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
114	A9h9~ C9a8	N - 4° - E	直線状	51.02	22~122	12~60	12~68	逆台形	人為 自然	外傾	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 陶器片, 磁器片, 鉄製品	8世紀後葉~ 9世紀前葉
120	A10c5~ B14a3	N - 70° - W N - 87° - W	直線状	150.79	58~128	22~72	10~79	逆台形	自然	外傾	土師器片, 須惠器片, 陶器片, 磁器片, 土製品, 石器, 粘土塊	8世紀後葉~ 9世紀前葉

表11 平安時代土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 (時期・性格)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
2064	D12d3	N - 2° - E	円形	0.47 × 0.45	14	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片, 土師質土器	9世紀中葉
2233	D14a2	N - 31° - E	楕円形	1.46 × 0.60	20	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉 粘土貼り土坑
2351	A13h4	N - 0°	[隅丸長方形]	1.18 × 0.80	48	人為	平坦	外傾	土師器片	10世紀後半 墓壇力
2500	D13c7	N - 70° - W	不整楕円形	1.60 × 1.02	66	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片	9世紀前葉
2578	D10a9	N - 90° - E	隅丸長方形	1.88 × 1.60	42	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉以降
2758	D9g9	N - 70° - E	楕円形	1.18 × 0.92	32	人為	皿状	外傾	土師器片	10世紀後半

茨城県教育財団文化財調査報告第264集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ

中 巻

平成18(2006)年3月20日 印刷
平成18(2006)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有)川田プリント
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53
TEL 029-253-5551